

付表 I

考古遺跡

凡例

遺跡一覧表 A	1～162
遺跡一覧表 A-1：出典など	1～ 30
遺跡一覧表 A-2：洪水痕跡の詳細	31～138
遺跡一覧表 A-3：遺跡の概要・洪水痕跡の絶対年代	139～162
遺跡一覧表 B	163～325
遺跡一覧表 B-1：出典など	163～197
遺跡一覧表 B-2：洪水痕跡の詳細	198～325
洪水痕跡集計表	326～377
その 1：山形県，群馬県，新潟県，山梨県，長野県，静岡県，愛知県	326～351
その 2：京都府，大阪府，兵庫県，奈良県，岡山県，福岡県，全国	352～377

凡例

1. 遺跡一覧表はA・Bの2種類からなる。

(1) 遺跡一覧表A

1991年以降に刊行された発掘調査報告書から作成。紀元後1年以降に形成され、形成の年代幅が200年以内に収まると推定される洪水痕跡が検出された遺跡を対象とする。本稿で年代ごとの集計対象とした洪水痕跡を示した。

(2) 遺跡一覧表B

遺跡一覧表A以外の洪水痕跡で、Aと同じ遺跡・調査区で検出されたもの、洪水痕跡の形成年代幅がおおむね300年以内（紀元前1年以前はおおむね500年以内）に収まるもの、洪水が大規模であることが当該発掘調査報告書に明記されているもの、洪水により遺跡が大きな影響を受けたことが当該発掘調査報告書に明記されているもの、1990年以前に発掘調査報告書が刊行されたもので年代が200年以内に収まるもの、その他筆者が特異と判断したものを示した。

2. 遺跡一覧表に記載した項目は次のとおりである。

(1) 遺跡一覧表Aには以下の⑬項目を記載した。

- ①全体の番号
- ②遺跡番号
- ③遺跡名
- ④遺跡名のふりがな
- ⑤遺跡がある都道府県
- ⑥遺跡がある市町村
- ⑦出典（該当する発掘調査報告書）
- ⑧洪水痕跡検出箇所（遺跡の地区・層）
- ⑨発掘調査報告書における記載内容・報告書における該当ページ
- ⑩発掘調査報告書における洪水痕跡の年代
- ⑪発掘調査報告書をもとにした本稿における年代
- ⑫遺跡の概要
- ⑬洪水痕跡の上限・下限となる絶対年代と年代幅

(2) 遺跡一覧表Aは次の3セットからなる。

- A-1: ①～⑥
A-2: ①～③・⑤・⑧～⑩・⑪
A-3: ①～③・⑫・⑬

(3) 遺跡一覧表Bには上記(2)のうち、①～③、⑤～⑩のみを示し、③についてはふりがなを割愛した。一覧表Bは次の2セットからなる。

- B-1: ①～③・⑤・⑦
B-2: ①～③・⑤・⑧～⑩

(4) 各項目について

- ①全体の番号は順不同である。遺跡一覧表Aでは当初五十音順に番号を割り振ったが、その後に修正したものについて901から再度番号を付けた。遺跡一覧表Bでは発掘調査報告書の編集・発行機関をベースとした通し番号を用いていた。
- ②遺跡番号は4桁で示し、五十音順に番号を付けた。遺跡番号が同じものは集計において同じ遺跡とみなしたものである。なお、番号のうち上2桁は都道府県ごとに番号を割り振った（例：上2桁が03のものは岩手県内、同27のものは大阪府内の遺跡）。
- ④について、②と同じふりがなを付けたものは集計において同じ遺跡とみなしたものである。
- ⑨発掘調査報告書の記載内容は原則として該当箇所からの直接引用であるが、一部、明らかな誤字を修正したり、簡略化したりした部分もある。また、他のページをもとに簡略化したものについては（ ）を付した。また、[]を付した部分は、報告書内の自然科学分析によるものであるが、報告書内における考察なども含む。
- ⑩で用いた記号の意味は下の通りである。ただし、年代について直接的・間接的記載がないものについては空欄とした。
 - ★ 発掘調査報告書に記されている洪水痕跡の形成年代。
 - ▼ 発掘調査報告書に記された洪水痕跡の上限となる年代。洪水痕跡直下の遺構など。
 - 発掘調査報告書に記された洪水痕跡（主として洪水による堆積物）中に含まれる遺物の年代。
 - △ 発掘調査報告書に記された洪水痕跡の下限となる年代。洪水痕跡直上の遺構など。
- ⑪の土器型式は本来「～様式」「～式」「～型式併行期」と表記するが、考古学で広く知られているものについては、本稿の付表では記載を簡潔にするため、「～式」「～式併行期」といった文言を省略し、単に「畿内V-1」「布留3」「TK43」などと表記した。
- ⑬洪水痕跡の絶対年代はすべて西暦（年）、形成年代幅の単位は年である。年代幅が“0”のものは洪水痕跡が形成された年が判明しているものであるが、単に1650年ごろなどとある場合には“1”とした。

3. 遺跡集計表は、形成年代幅が200年以内に収まるとみられる洪水痕跡が検出された遺跡の数を当該年と当該年の前後25年とを含む51年間の平均値として、府県ごとに示したものである。表示したのは遺跡数が10以上となった、山形県、群馬県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、岡山県、福岡県の13府県における遺跡数、および全国合計した遺跡数である。紙面の都合上、山形県～愛知県と、京都府～福岡県・全国合計遺跡数に分けて表示した。表には以下の各形成年代幅について横3列で遺跡数を示した。

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 50 | 形成年代幅が50年以内になるとみられる洪水痕跡が見つかった遺跡の数。 |
| 100 | 形成年代幅が51～100年になるとみられる洪水痕跡が見つかった遺跡の数。 |
| 200 | 形成年代幅が101～200年になるとみられる洪水痕跡が見つかった遺跡の数。 |

詳細は本文の第II章第1節、図化したものは第IV章第2節を参照されたい。

遺跡一覽表 A-1

出典

遺跡一覧表A-1

総	番号	遺跡名	よみがな	都道府県	市町村	出典					
						書名・論文名	シリーズ名	番号	編集・発行機関	発行年月	
	003	0101	H513遺跡	H513いせき	北海道	札幌市東区	H513遺跡	札幌市文化財調査報告書	72	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200403
	004	0101	H513遺跡	H513いせき	北海道	札幌市東区	H513遺跡	札幌市文化財調査報告書	72	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200403
	002	0102	K435遺跡	K435いせき	北海道	札幌市北区	K435遺跡	札幌市文化財調査報告書	X・L・II	札幌市教育委員会	199303
	005	0103	K523遺跡	K523いせき	北海道	札幌市北区	K523遺跡	札幌市文化財調査報告書	81	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603
	001	0104	柏木川4遺跡	かしわぎがわ4いせき	北海道	恵庭市	柏木川4遺跡(4)	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	264	(財)北海道埋蔵文化財センター	201002
	009	0301	押切遺跡	おつきりいせき	岩手県	奥州市	押切遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	493	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200703
	010	0301	押切遺跡	おつきりいせき	岩手県	奥州市	押切遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	493	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200703
	013	0302	中村城跡	なかむらじょうあと	岩手県	一関市	中村城跡第4次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	560	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	201002
	011	0303	穂貫田遺跡	ほぬきだいせき	岩手県	花巻市	穂貫田・駒板・山口遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	517	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200812
	007	0304	本町Ⅱ遺跡第2次	もともちⅡいせき	岩手県	平泉町	本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	410	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200303
	008	0304	本町Ⅱ遺跡第2次	もともちⅡいせき	岩手県	平泉町	本町Ⅱ遺跡第二次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	410	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200303
	927	0305	柳之御所遺跡第69次	やなぎのごしよいせき	岩手県	平泉町	平泉遺跡群発掘調査報告書 柳之御所遺跡	岩手県文化財調査報告書	130	岩手県教育委員会	201003
	017	0401	市川橋遺跡	いちかわばしいせき	宮城県	多賀城市	市川橋遺跡	宮城県文化財調査報告書	184	宮城県教育委員会	200003
	016	0402	一里塚遺跡第44次・第47次	いちりづかいせき	宮城県	大和町	一里塚遺跡—第44・47次発掘調査報告書—	宮城県文化財調査報告書	179	宮城県教育委員会	199903
	021	0403	鴻ノ巣遺跡第7次	こうのすいせき	宮城県	仙台市青葉区	鴻ノ巣遺跡	仙台市文化財調査報告書	280	仙台市教育委員会	200412
	018	0404	中野高柳遺跡第1次・第2次	なかのたかやなぎいせき	宮城県	仙台市宮城野区	中野高柳遺跡Ⅰ	宮城県文化財調査報告書	194	宮城県教育委員会	200303
	019	0404	中野高柳遺跡第8次	なかのたかやなぎいせき	宮城県	仙台市宮城野区	中野高柳遺跡Ⅳ	宮城県文化財調査報告書	204	宮城県教育委員会	200603
	020	0404	中野高柳遺跡第8次	なかのたかやなぎいせき	宮城県	仙台市宮城野区	中野高柳遺跡Ⅳ	宮城県文化財調査報告書	204	宮城県教育委員会	200603
	014	0405	上代遺跡	わだいいいせき	宮城県	大崎市	上代遺跡	宮城県文化財調査報告書	173	宮城県教育委員会	199703
	015	0405	上代遺跡	わだいいいせき	宮城県	大崎市	上代遺跡	宮城県文化財調査報告書	173	宮城県教育委員会	199703
	023	0501	厨川谷地遺跡	くりやがわやちいせき	秋田県	美郷町	厨川谷地遺跡	秋田県文化財調査報告書	383	秋田県埋蔵文化財センター	200503
	022	0502	払田柵跡第93次	ほったのさくあと	秋田県	大仙市	払田柵跡—第92・93次調査概要—	秋田県文化財調査報告書	238	秋田県教育委員会・秋田県教育庁払田柵跡調査事務所	199303
	025	0502	払田柵跡第139次	ほったのさくあと	秋田県	大仙市	払田柵跡—第139次・第140次調査— 関連遺跡の調査—	秋田県文化財調査報告書	457	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所	201003
	026	0502	払田柵跡第140次	ほったのさくあと	秋田県	大仙市	払田柵跡—第139次・第140次調査— 関連遺跡の調査—	秋田県文化財調査報告書	457	秋田県教育庁払田柵跡調査事務所	201003
	024	0503	堀ノ内遺跡	ほりのうちいせき	秋田県	湯沢市	堀ノ内遺跡	秋田県文化財調査報告書	432	秋田県埋蔵文化財センター	200803
	029	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	あらかわ2いせき	山形県	米沢市	荒川2遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	43	(財)山形県埋蔵文化財センター	199703
	030	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	あらかわ2いせき	山形県	米沢市	荒川2遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	43	(財)山形県埋蔵文化財センター	199703

034	0602	一ノ坪遺跡	いちのつぼいせき	山形県	山形市	一ノ坪遺跡・梅ノ木遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	78	(財)山形県埋蔵文化財センター	200003
033	0603	漆山長表遺跡	うるしやまながおもていせき	山形県	山形市	漆山長表遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	58	(財)山形県埋蔵文化財センター	199803
039	0604	庚壇遺跡	かのえだんいせき	山形県	南陽市	庚壇遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	161	(財)山形県埋蔵文化財センター	200703
032	0605	上高田遺跡第2次・第3次	かみたかだいせき	山形県	遊佐町	上高田遺跡第2・3次調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	57	(財)山形県埋蔵文化財センター	199803
027	0606	木原遺跡	きはらいせき	山形県	遊佐町	木原遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財調査報告書	186	山形県教育委員会	199303
037	0607	三条遺跡第2次・第3次	さんじょういせき	山形県	寒河江市	三条遺跡第2・3次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	93	(財)山形県埋蔵文化財センター	200110
028	0608	筋田遺跡	すじたいせき	山形県	遊佐町	筋田遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財調査報告書	187	山形県教育委員会	199303
036	0609	長表遺跡	ながおもていせき	山形県	山形市	長表遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	87	(財)山形県埋蔵文化財センター	200103
031	0610	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次	ひらのやまこようあとぐん	山形県	寒河江市	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	52	(財)山形県埋蔵文化財センター	199802
038	0611	向河原遺跡第4次	むかひがわらいせき	山形県	山形市	向河原遺跡第4次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	107	(財)山形県埋蔵文化財センター	200203
035	0612	山田遺跡	やまだいせき	山形県	鶴岡市	山田遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	83	(財)山形県埋蔵文化財センター	200103
043	0701	荒田目条里制遺構・砂畑遺跡	あつためじょうりせいこう・すなはたいせき	福島県	いわき市	荒田目条里制遺構・砂畑遺跡—古代陸奥国磐城郡官衙関連遺跡の調査—(第2分冊)	いわき市埋蔵文化財調査報告	84	(財)いわき市教育文化事業団	200203
042	0702	荒屋敷遺跡	あらかしきいせき	福島県	喜多方市	会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告2	福島県文化財調査報告書	405	(財)福島県文化振興事業団	200303
041	0703	北ノ脇遺跡	きたのわきいせき	福島県	本宮市	阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告2(第2分冊)	福島県文化財調査報告書	401	(財)福島県文化振興事業団	200211
040	0704	白山D遺跡	はくさんDいせき	福島県	矢吹町	福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告6	福島県文化財調査報告書	367	(財)福島県文化振興事業団	199912
044	0801	大堀東遺跡Ⅱ区	おおぼりひがしいせき	茨城県	下妻市	大堀東遺跡	茨城県教育財団文化財調査報告	269	(財)茨城県教育財団	200703
045	0901	立野遺跡5区	たてのいせき	栃木県	宇都宮市	東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡	栃木県埋蔵文化財調査報告	290	(財)とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター	200503
055	1001	石関西田Ⅱ遺跡	いしげきにしだⅡいせき	群馬県	前橋市	石関西田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	306	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200209
091	1002	井手地区遺跡群	いでちくいせきぐん	群馬県	前橋市	井出地区遺跡群	群馬県埋蔵文化財調査報告	34	群馬町教育委員会	199203
068	1003	小野地区水田址遺跡(社宮司B地点)	おのちくすいでんしいせき	群馬県	藤岡市	小野地区水田址遺跡(社宮司B地点) 谷地遺跡F	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	378	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200607
089	1004	鹿島浦遺跡	かしまうらいせき	群馬県	太田市	鹿島浦遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	496	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	201003
046	1005	上栗須寺前遺跡群	かみくりすてらまえいせきぐん	群馬県	藤岡市	上栗須寺前遺跡群Ⅰ 篠塚狐穴(4A)・篠塚四反歩(4B) 第1分冊<<本文編>>	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	141	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199403
048	1005	上栗須寺前遺跡群1区(上栗須薬師裏)	かみくりすてらまえいせきぐん	群馬県	藤岡市	上栗須寺前遺跡群Ⅱ	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告	185	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199503
079	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	443	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
080	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	443	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803

081	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	443	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
082	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	443	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
083	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	443	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
085	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	453	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200901
086	1006	上強戸遺跡群	かみごうどいせきぐん	群馬県	太田市	上強戸遺跡群(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	453	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200901
052	1007	上滝榎町北遺跡	かみたきえのきまきたいせき	群馬県	高崎市	上滝榎町北遺跡・上滝Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	289	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
053	1007	上滝榎町北遺跡	かみたきえのきまきたいせき	群馬県	高崎市	上滝榎町北遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	290	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200210
060	1008	上福島中町遺跡	かみふくしななかまちいせき	群馬県	玉村町	上福島中町遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	318	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
061	1008	上福島中町遺跡	かみふくしななかまちいせき	群馬県	玉村町	上福島中町遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	318	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
051	1009	神戸岩下遺跡	ごうどいわしいせき	群馬県	安中市	高浜向原遺跡・神戸宮山遺跡・神戸岩下遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	262	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200002
087	1010	齊田中耕地遺跡	さいだなかこうちいせき	群馬県	玉村町	齊田中耕地遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	484	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	201002
064	1011	下滝天水遺跡	しもたきてんすいせいせき	群馬県	高崎市	下滝天水遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	329	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200403
065	1011	下滝天水遺跡	しもたきてんすいせいせき	群馬県	高崎市	下滝天水遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	329	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200403
069	1012	下原遺跡	しもはらいせき	群馬県	長野原町	下原遺跡Ⅱ	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	389	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200611
057	1013	菅谷石塚遺跡	すがやいしづかいせき	群馬県	前橋市	菅谷石塚遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	313	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
074	1014	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	そうじゃかんせんみょうじんきたⅣいせき・もとそうじゃしげがわいせき・もとそうじゃきたがわいせき・もとそうじゃおみうちⅤいせき	群馬県	前橋市	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	407	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
075	1014	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	そうじゃかんせんみょうじんきたⅣいせき・もとそうじゃしげがわいせき・もとそうじゃきたがわいせき・もとそうじゃおみうちⅤいせき	群馬県	前橋市	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	407	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
076	1014	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	そうじゃかんせんみょうじんきたⅣいせき・もとそうじゃしげがわいせき・もとそうじゃきたがわいせき・もとそうじゃおみうちⅤいせき	群馬県	前橋市	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	407	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703

077	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	そうじゃかんせんみょうじんきたIVいせき・もとそうじゃうしげがわいせき・もとそうじゃきたがわいせき・もとそうじゃおみうちVいせき	群馬県	前橋市	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	407	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
078	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	そうじゃかんせんみょうじんきたIVいせき・もとそうじゃうしげがわいせき・もとそうじゃきたがわいせき・もとそうじゃおみうちVいせき	群馬県	前橋市	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	407	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
062	1015	中棚II遺跡	なかだなIIいせき	群馬県	長野原町	久々戸遺跡・中棚II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	319	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200308
063	1015	中棚II遺跡	なかだなIIいせき	群馬県	長野原町	久々戸遺跡・中棚II遺跡・下原遺跡・横壁中村遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	319	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200308
088	1016	西野原遺跡	にしのはらいせき	群馬県	太田市	西野原遺跡(5)(7)第2分冊—飛鳥・平安時代以降編—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	489	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	201003
049	1017	櫛島川端遺跡	ぬでしまかわばたいせき	群馬県	前橋市	櫛島川端遺跡・公田東遺跡・公田池尻遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	225	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199703
054	1018	波志江中屋敷東遺跡	はしえなかわしきひがしいせき	群馬県	伊勢崎市	波志江中屋敷東遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	291	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
072	1019	東今泉鹿島遺跡	ひがしいまいずみかしまいせき	群馬県	太田市	東今泉鹿島遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	403	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
073	1019	東今泉鹿島遺跡	ひがしいまいずみかしまいせき	群馬県	太田市	東今泉鹿島遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	403	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
050	1020	東長岡戸井口遺跡	ひがしながおかといぐちいせき	群馬県	太田市	東長岡戸井口遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	257	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199912
084	1021	福島飯玉遺跡	ふくしまいいだまいせき	群馬県	玉村町	福島飯玉遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	446	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200810
070	1022	福島飯塚遺跡	ふくしまいいづかいせき	群馬県	玉村町	福島飯塚遺跡(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	400	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
071	1022	福島飯塚遺跡	ふくしまいいづかいせき	群馬県	玉村町	福島飯塚遺跡(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	400	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200703
058	1023	福島久保田遺跡	ふくしまくぼたいせき	群馬県	玉村町	福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	317	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
059	1024	福島大光坊遺跡	ふくしまだいこうぼういせき	群馬県	玉村町	福島久保田遺跡・福島大光坊遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	317	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
056	1025	福島曲戸遺跡	ふくしままがりどいせき	群馬県	玉村町	福島曲戸遺跡・上福島遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	309	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200209
066	1026	前田遺跡	まえだいせき	群馬県	前橋市	前田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	335	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200409
090	1027	南大類東沖遺跡	みなみおおるいひがしおきいせき	群馬県	高崎市	南大類東沖・稻荷遺跡	高崎市文化財調査報告書	148	高崎市教育委員会	199703
047	1028	元総社寺田遺跡	もとそうじゃてらだいせき	群馬県	前橋市	元総社寺田遺跡I 溝・井戸・土坑・水田の調査《遺構・遺物編》	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	156	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199303
067	1029	矢部遺跡	やべいせき	群馬県	太田市	矢部遺跡・新島遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	374	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200603

遺跡一覧表A-1

902	1030	横手南川端遺跡	よこてみなみかわばたいせき	群馬県	前橋市	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
903	1031	横手早稲田遺跡	よこてわせいせき	群馬県	前橋市	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
100	1101	飯積遺跡第3次・第4次	いづみいせき	埼玉県	加須市	飯積遺跡Ⅱ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	334	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200703
092	1102	今井条里遺跡	いまいじょうりいせき	埼玉県	本庄市	今井条里遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	192	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199803
097	1103	北島遺跡第19地点	きたじまいせき	埼玉県	熊谷市	北島Ⅷ/田谷	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	292	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200403
098	1103	北島遺跡第17・19・21地点	きたじまいせき	埼玉県	熊谷市	北島遺跡 X I	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	303	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200503
099	1103	北島遺跡第17・18地点	きたじまいせき	埼玉県	熊谷市	北島遺跡 X II	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	304	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200503
918	1104	久下前遺跡B1地点	くげまえいせき	埼玉県	本庄市	北堀下塚北遺跡Ⅱ(B地点)・久下東遺跡Ⅳ(C1・D1・E1地点)・久下前遺跡Ⅱ(A1・B1地点)	本庄市埋蔵文化財調査報告書	19	本庄市教育委員会	201003
096	1105	田谷遺跡	たやいせき	埼玉県	熊谷市	北島Ⅷ/田谷	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	292	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200403
093	1106	築道下遺跡	つきみちしいせき	埼玉県	行田市	築道下遺跡Ⅱ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	199	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199803
094	1107	堂地遺跡	どうちいせき	埼玉県	川島町	堂地遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	266	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200011
095	1107	堂地遺跡	どうちいせき	埼玉県	川島町	堂地遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	266	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200011
102	1201	国府関遺跡	こうせきいせき	千葉県	茂原市	国府関連遺跡群	(財)長生郡市文化財センター調査報告	15	(財)長生郡市文化財センター	199305
106	1301	落川・一の宮遺跡	おちかわ・いちのみやいせき	東京都	多摩市	落川・一の宮遺跡Ⅳ—自然科学編—			落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会・調査団	199911
103	1302	上千葉遺跡西亀有1-12地点	かみちばいせき	東京都	葛飾区	上千葉遺跡	葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書	35	葛飾区遺跡調査会	199603
104	1303	九段南一丁目遺跡	くだんみなみちようめいせき	東京都	千代田区	東京都千代田区九段南一丁目遺跡			千代田区九段南一丁目遺跡調査会(千代田区教育委員会)	200506
105	1304	染地遺跡第51地点	そめぢいせき	東京都	調布市	東京都調布市染地遺跡	調布市埋蔵文化財報告集刊	2	調布市遺跡調査会	200703
108	1401	沢狭遺跡	さわざまいせき	神奈川県	平塚市	沢狭遺跡発掘調査報告書			金目郵便局建設用地内遺跡発掘調査団	199803
107	1402	山角町遺跡第Ⅳ地点	やまかくちょういせき	神奈川県	小田原市	山角町遺跡第Ⅳ地点発掘調査報告書			玉川文化財研究所	200611
112	1501	青田遺跡	あおたいせき	新潟県	新発田市	青田遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	133	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200403
110	1502	岩倉遺跡	いわくらいせき	新潟県	糸魚川市	岩倉遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	114	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200303
109	1503	江内遺跡	えうちいせき	新潟県	新潟市秋葉区	江内遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	76	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	199603
119	1504	延命寺遺跡	えんめいじいせき	新潟県	上越市	延命寺遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	201	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200810

遺跡一覧表A-1

111	1505	蔵ノ坪遺跡	くらのつばいせき	新潟県	胎内市	蔵ノ坪遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	115	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200208
120	1506	田伏山崎遺跡	たぶせやまいせき	新潟県	糸魚川市	田伏山崎遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	205	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200912
118	1507	姫御前遺跡	ひめごぜいせき	新潟県	糸魚川市	姫御前遺跡 I	新潟県埋蔵文化財調査報告書	184	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200801
113	1508	細田遺跡	ほそだいせき	新潟県	上越市	下馬場遺跡・細田遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	152	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200508
114	1509	三角田遺跡	みつまたいせき	新潟県	上越市	三角田遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	154	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200603
115	1510	用言寺遺跡	ようごんじいせき	新潟県	上越市	用言寺遺跡 I	新潟県埋蔵文化財調査報告書	159	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200603
116	1510	用言寺遺跡	ようごんじいせき	新潟県	上越市	用言寺遺跡 II	新潟県埋蔵文化財調査報告書	183	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200707
117	1510	用言寺遺跡	ようごんじいせき	新潟県	上越市	用言寺遺跡 II	新潟県埋蔵文化財調査報告書	183	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200707
125	1601	岩坪岡田島遺跡	いわつぼおかだじまいせき	富山県	高岡市	岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	35	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	200703
122	1602	五社遺跡	ごしゃいせき	富山県	小矢部市	五社遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	9	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	199803
123	1602	五社遺跡	ごしゃいせき	富山県	小矢部市	五社遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	9	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	199803
128	1603	舌山遺跡	したやまいせき	富山県	黒部市	若栗中村遺跡・舌山遺跡・宮沢釈迦遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	46	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	201003
127	1604	竹ノ内Ⅱ遺跡	たけのうちⅡいせき	富山県	朝日町	竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	42	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	200903
126	1605	手洗野赤浦遺跡	たらいのあかうらいせき	富山県	高岡市	岩坪岡田島遺跡・手洗野赤浦遺跡・近世北陸道遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	35	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	200703
121	1606	任海宮田遺跡	とうみみやたいせき	富山県	富山市	任海宮田遺跡発掘調査報告書Ⅱ			富山県埋蔵文化財センター	199703
124	1607	中名Ⅴ遺跡	なかのみようⅤいせき	富山県	富山市	中名Ⅴ・Ⅵ遺跡、砂子田Ⅰ遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	26	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	200503
129	1608	中富居遺跡	なかふごういせき	富山県	富山市	富山市中富居遺跡発掘調査報告書			富山市教育委員会	199901
132	1701	梅田B遺跡第4次調査(1・2区)	うめだBいせき	石川県	金沢市	金沢市梅田B遺跡Ⅲ			(財)石川県埋蔵文化財センター	200603
130	1702	四柳白山下遺跡	よつやなぎはくさんしたいせき	石川県	羽咋市	羽咋市四柳白山下遺跡Ⅰ			(財)石川県埋蔵文化財センター	200503
131	1702	四柳白山下遺跡	よつやなぎはくさんしたいせき	石川県	羽咋市	羽咋市四柳白山下遺跡Ⅰ			(財)石川県埋蔵文化財センター	200503
133	1702	四柳白山下遺跡	よつやなぎはくさんしたいせき	石川県	羽咋市	羽咋市四柳白山下遺跡Ⅱ			(財)石川県埋蔵文化財センター	200603
168	1901	秋山氏館跡	あきやましやかたあと	山梨県	甲府市	秋山氏館跡	甲府市文化財調査報告書	16	甲府市遺跡調査会	200103
169	1901	秋山氏館跡	あきやましやかたあと	山梨県	甲府市	秋山氏館跡	甲府市文化財調査報告書	16	甲府市遺跡調査会	200103
170	1901	秋山氏館跡	あきやましやかたあと	山梨県	甲府市	秋山氏館跡	甲府市文化財調査報告書	16	甲府市遺跡調査会	200103
145	1902	壱番下堤跡	いちばんしたつつみあと	山梨県	南アルプス市	壱番下遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	190	山梨県埋蔵文化財センター	200103

138	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	148	山梨県埋蔵文化 財センター	199803
139	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	148	山梨県埋蔵文化 財センター	199803
150	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅱ(第 1分冊)	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	224	山梨県埋蔵文化 財センター	200503
151	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅲ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	235	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
152	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅲ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	235	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
153	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅲ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	235	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
154	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅲ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	235	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
156	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅳ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	238	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
157	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅳ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	238	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
158	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅳ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	238	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
159	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅳ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	238	山梨県埋蔵文化 財センター	200603
161	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅴ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	245	山梨県埋蔵文化 財センター	200703
162	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅴ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	245	山梨県埋蔵文化 財センター	200703
163	1903	鰻沢河岸跡	かじかざわか しあと	山梨県	富士川町	鰻沢河岸跡Ⅴ	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	245	山梨県埋蔵文化 財センター	200703
166	1904	北田中遺跡	きたななかい せき	山梨県	甲州市	西畑B遺跡・北田 中遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	252	山梨県埋蔵文化 財センター	200803
167	1904	北田中遺跡	きたななかい せき	山梨県	甲州市	西畑B遺跡・北田 中遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	252	山梨県埋蔵文化 財センター	200803
134	1905	狐原遺跡	きつねっぱら いせき	山梨県	笛吹市	狐原遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	120	山梨県埋蔵文化 財センター	199603
137	1906	古婦毛遺跡	こぶけいせき	山梨県	甲州市	古婦毛遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	142	山梨県埋蔵文化 財センター	199703
136	1907	大師東丹保遺 跡Ⅰ区	だいしひがし たんぼいせき	山梨県	南アルプス 市	大師東丹保遺跡 Ⅰ区	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	131	山梨県埋蔵文化 財センター	199703
146	1908	百々遺跡	どうどういせき	山梨県	南アルプス 市	百々遺跡2・4	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	212	山梨県埋蔵文化 財センター	200402
147	1908	百々遺跡	どうどういせき	山梨県	南アルプス 市	百々遺跡2・4	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	212	山梨県埋蔵文化 財センター	200402
148	1908	百々遺跡	どうどういせき	山梨県	南アルプス 市	百々遺跡2・4	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	212	山梨県埋蔵文化 財センター	200402
149	1908	百々遺跡	どうどういせき	山梨県	南アルプス 市	百々遺跡2・4	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	212	山梨県埋蔵文化 財センター	200402
144	1909	仲田遺跡	なかたいせき	山梨県	南アルプス 市	仲田遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	187	山梨県埋蔵文化 財センター	200103
164	1910	西畑B遺跡	にしはたBい せき	山梨県	甲州市	西畑B遺跡・北田 中遺跡	山梨県埋蔵文化 財センター調査報 告	252	山梨県埋蔵文化 財センター	200803

遺跡一覧表A-1

165	1910	西畑B遺跡	にしはたBいせき	山梨県	甲州市	西畑B遺跡・北田中遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	252	山梨県埋蔵文化財センター	200803
160	1911	平田宮第2遺跡	ひらたみやだいいせき	山梨県	中央市	平田宮第2遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	244	山梨県埋蔵文化財センター	200703
140	1912	町屋口遺跡	まちやぐちいせき	山梨県	富士川町	町屋口遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	177	山梨県埋蔵文化財センター	200003
171	1913	松本塚ノ越遺跡 ホテルやまなみ地点	まつもとつかのこしいせき	山梨県	笛吹市	松本塚ノ越遺跡 [ホテルやまなみ地点]	石和町埋蔵文化財調査報告	8	石和町遺跡調査会・石和町教育委員会	200310
141	1914	宮沢中村遺跡	みやざわなかむらいせき	山梨県	南アルプス市	宮沢中村遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	181	山梨県埋蔵文化財センター	200003
142	1914	宮沢中村遺跡	みやざわなかむらいせき	山梨県	南アルプス市	宮沢中村遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	181	山梨県埋蔵文化財センター	200003
143	1914	宮沢中村遺跡	みやざわなかむらいせき	山梨県	南アルプス市	宮沢中村遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	181	山梨県埋蔵文化財センター	200003
135	1915	向河原遺跡	むかがわらいせき	山梨県	南アルプス市	向河原遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	129	山梨県埋蔵文化財センター	199709
155	1916	四ノ側遺跡	よんのがわいせき	山梨県	都留市	四ノ側遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	236	山梨県埋蔵文化財センター	200603
172	2001	石川条里遺跡	いしかわじょうりいせき	長野県	長野市	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	26	(財)長野県埋蔵文化財センター	199703
173	2001	石川条里遺跡	いしかわじょうりいせき	長野県	長野市	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	26	(財)長野県埋蔵文化財センター	199703
176	2002	牛出遺跡	うしいでいせき	長野県	中野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	28	(財)長野県埋蔵文化財センター	199703
183	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
184	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
185	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
186	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
187	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
188	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
189	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
190	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
191	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
192	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
193	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
194	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
195	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003

遺跡一覧表A-1

196	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
197	2003	川田条里遺跡	かわだじょうりいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	47	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
174	2004	屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡)—古代I編—	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	26	(財)長野県埋蔵文化財センター	199903
175	2004	屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡)—古代I編—	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	26	(財)長野県埋蔵文化財センター	199903
177	2004	屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	更埴条里遺跡・屋代遺跡群(含む大境遺跡・窪河原遺跡)—弥生・古墳時代編—	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	29	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
179	2004	更埴条里遺跡	こうしょくじょうりいせき	長野県	千曲市	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	32	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
180	2004	屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	32	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
198	2004	更埴条里遺跡	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	50	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
199	2004	更埴条里遺跡	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	50	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
201	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
202	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
203	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
204	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
205	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
206	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
207	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
208	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	こうしょくじょうりいせき・やしらいせきぐん	長野県	千曲市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
200	2005	郷土遺跡	ごうどいせき	長野県	小諸市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	52	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
178	2006	国分寺周辺遺跡群	こくぶんじしゅうへんいせきぐん	長野県	上田市	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	31	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
209	2007	離山遺跡	はなれやまいせき	長野県	佐久市	国補緊急地方道路整備B業務(主)川上佐久線発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	66	(財)長野県埋蔵文化財センター	200403
182	2008	春山・春山B遺跡	はるやま・はるやまBいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	45	(財)長野県埋蔵文化財センター	199911
211	2009	松代城跡	まつしろじょうあと	長野県	長野市	松代城跡	長野市の文化財	73	長野市教育委員会埋蔵文化財センター	199503
212	2010	松代城下町跡(中木町・西木町・紺屋町)	まつしろじょうかまちあと	長野県	長野市	松代城下町跡～中木町・西木町・紺屋町～	長野市の文化財	109	長野市教育委員会・長野市埋蔵文化財センター	200503
213	2010	松代城下町跡(中木町・西木町・紺屋町)	まつしろじょうかまちあと	長野県	長野市	松代城下町跡～中木町・西木町・紺屋町～	長野市の文化財	109	長野市教育委員会・長野市埋蔵文化財センター	200503

遺跡一覧表A-1

181	2011	松原遺跡	まつばらいせき	長野県	長野市	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	36	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
210	2012	御社宮司遺跡	みしゃぐうじいせき	長野県	茅野市	御社宮司遺跡 中村・外垣外遺跡	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	88	(財)長野県埋蔵文化財センター	200903
214	2101	今宿遺跡	いまじゅくいせき	岐阜県	大垣市	今宿遺跡	岐阜県文化財保護センター調査報告書	37	(財)岐阜県文化財保護センター	199803
215	2101	今宿遺跡	いまじゅくいせき	岐阜県	大垣市	今宿遺跡	岐阜県文化財保護センター調査報告書	37	(財)岐阜県文化財保護センター	199803
216	2101	今宿遺跡	いまじゅくいせき	岐阜県	大垣市	今宿遺跡	岐阜県文化財保護センター調査報告書	37	(財)岐阜県文化財保護センター	199803
217	2102	城之内遺跡	しろのうちいせき	岐阜県	岐阜市	堀田・城之内			岐阜市遺跡調査会	199603
234	2201	上土遺跡立石地区	あげつちいせき	静岡県	静岡市駿河区	上土遺跡(立石地区)I(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	77	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199603
235	2201	上土遺跡立石地区	あげつちいせき	静岡県	静岡市駿河区	上土遺跡(立石地区)I(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	77	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199603
218	2202	池ヶ谷遺跡	いけがやいせき	静岡県	静岡市駿河区	池ヶ谷遺跡I(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	38	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
246	2203	有東遺跡第14次	うとういせき	静岡県	静岡市駿河区	有東遺跡	静岡市埋蔵文化財発掘調査報告	43	静岡市教育委員会	199709
230	2204	上反方遺跡	かみたんぼいせき	静岡県	島田市	上反方遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	58	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199503
231	2204	上反方遺跡	かみたんぼいせき	静岡県	島田市	上反方遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	58	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199503
236	2205	川合遺跡志保田地区	かわいいせき	静岡県	静岡市駿河区	川合遺跡志保田地区	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	102	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
247	2206	ケイセイ遺跡第7次	けいせいいせき	静岡県	静岡市駿河区	ケイセイ遺跡			静岡市教育委員会	200902
244	2207	小瀬戸遺跡	こせといせき	静岡県	静岡市葵区	小瀬戸遺跡・栗ヶ沢遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	176	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200703
245	2207	小瀬戸遺跡	こせといせき	静岡県	静岡市葵区	小瀬戸遺跡・栗ヶ沢遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	176	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200703
248	2207	小瀬戸遺跡	こせといせき	静岡県	静岡市葵区	小瀬戸遺跡	静岡市埋蔵文化財調査報告		静岡市教育委員会	200903
219	2208	瀬名遺跡	せないせき	静岡県	静岡市駿河区	瀬名遺跡I(遺構編I)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
220	2208	瀬名遺跡	せないせき	静岡県	静岡市駿河区	瀬名遺跡I(遺構編I)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
221	2208	瀬名遺跡	せないせき	静岡県	静岡市駿河区	瀬名遺跡I(遺構編I)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
242	2209	恒武東覚遺跡	つねたけとうかくいせき	静岡県	浜松市東区	恒武東覚遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	148	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200403
243	2209	恒武東覚遺跡	つねたけとうかくいせき	静岡県	浜松市東区	恒武東覚遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	148	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200403
249	2210	恒武西宮遺跡第3次・第6次・第7次	つねたけにしみやいせき	静岡県	浜松市東区	恒武西宮遺跡			(財)浜松市文化協会	200202
241	2211	藤守遺跡	ふじもりいせき	静岡県	焼津市	藤守遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	131	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200203
233	2212	曲金北遺跡	まがりかねきたいせき	静岡県	静岡市駿河区	曲金北遺跡(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	68	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199603
222	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
915	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403

916	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
223	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
224	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
225	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
226	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
227	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
228	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
229	2213	箕輪遺跡	みのわいせき	静岡県	浜松市東区	箕輪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	53	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
237	2214	元島遺跡	もとじまいせき	静岡県	磐田市	元島遺跡 I (遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
238	2214	元島遺跡	もとじまいせき	静岡県	磐田市	元島遺跡 I (遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
239	2214	元島遺跡	もとじまいせき	静岡県	磐田市	元島遺跡 I (遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
240	2214	元島遺跡	もとじまいせき	静岡県	磐田市	元島遺跡 I (遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
264	2301	朝日遺跡	あさひいせき	愛知県	名古屋市西区・清洲市	朝日遺跡Ⅷ	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	154	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200903
250	2302	伊保遺跡	いぼいせき	愛知県	豊田市	伊保遺跡・根川3号墳・坂口遺跡・高樋遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	46	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199303
262	2303	今町遺跡	いまちよういせき	愛知県	豊田市	今町遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	105	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200208
263	2303	今町遺跡	いまちよういせき	愛知県	豊田市	今町遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	105	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200208
253	2304	大毛沖遺跡	おおけおきいせき	愛知県	一宮市	大毛沖遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	66	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199608
254	2304	大毛沖遺跡	おおけおきいせき	愛知県	一宮市	大毛沖遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	66	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199608
255	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
256	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
257	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
258	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
259	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
260	2305	門間沼遺跡	かどまぬまいせき	愛知県	一宮市	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
690	2306	川原遺跡	かわはらいせき	愛知県	豊田市	川原遺跡 第二分冊	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	91	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200108

遺跡一覧表A-1

251	2307	清洲城下町遺跡	きよすじょうか まちいせき	愛知県	清州市	清洲城下町遺跡 Ⅲ・外町遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	50	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	199403
252	2307	清洲城下町遺跡	きよすじょうか まちいせき	愛知県	清州市	清洲城下町遺跡 Ⅲ・外町遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	50	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	199403
691	2308	天神前遺跡	てんじんまえ いせき	愛知県	豊田市	天神前遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	96	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	200108
261	2309	八王子遺跡	はちおうじい せき	愛知県	一宮市	八王子遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	92	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	200203
265	2310	法圓寺中世墓	ほうえんじちゆ うせいぼ	愛知県	一宮市	法圓寺中世墓遺 跡発掘調査報告 書	一宮市埋蔵文化 財調査報告	1	一宮市教育委員 会	199503
266	2311	万加田遺跡	まんかだいせ き	愛知県	豊田市	花本・万加田遺跡	豊田市埋蔵文化 財発掘調査報告 書	20	豊田市教育委員 会	200203
692	2312	水入遺跡	みずいりいせ き	愛知県	豊田市	水入遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	108	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	200508
689	2313	室遺跡	むろいせき	愛知県	西尾市	室遺跡	(財)愛知県埋蔵 文化財センター報 告書	49	(財)愛知県埋蔵 文化財センター	199403
267	2401	位田遺跡	いんでんいせ き	三重県	津市	一般国道23号中 勢道路建設事業 に伴う位田遺跡発 掘調査報告	三重県埋蔵文化 財調査報告	115- 12	三重県埋蔵文化 財センター	199903
274	2501	浅小井城跡第2 次	あさごいじょう いせき	滋賀県	近江八幡 市	浅小井城跡2次調 査	近江八幡市埋蔵 文化財発掘調査 報告書	32	近江八幡市教育 委員会	199603
273	2502	井戸遺跡	いどいせき	滋賀県	湖南市	井戸遺跡	県営経営体育育 成整備事業に伴 う発掘調査報告 書	37-3	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	201003
275	2503	草津宿場町遺 跡第7次	くさつしゆくば まちいせき	滋賀県	草津市	草津宿場町遺跡 (第7次)発掘調査 報告書	草津市文化財調 査報告書	83	草津市教育委員 会	201003
276	2503	草津宿場町遺 跡第7次	くさつしゆくば まちいせき	滋賀県	草津市	草津宿場町遺跡 (第7次)発掘調査 報告書	草津市文化財調 査報告書	83	草津市教育委員 会	201003
277	2503	草津宿場町遺 跡第7次	くさつしゆくば まちいせき	滋賀県	草津市	草津宿場町遺跡 (第7次)発掘調査 報告書	草津市文化財調 査報告書	83	草津市教育委員 会	201003
268	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅲ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	10	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200603
269	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅲ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	10	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200603
270	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅲ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	10	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200603
271	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅲ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	10	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200603
272	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅲ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	10	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200603
929	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅳ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	11	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200803

遺跡一覧表A-1

930	2504	柳遺跡	やなぎいせき	滋賀県	草津市	柳遺跡Ⅳ	草津川改修事業 ならびに草津川 放水路建設事業 に伴う発掘調査 報告書	11	滋賀県教育委員 会・(財)滋賀県文 化財保護協会	200803
688	2601	嵐山	あらしやま	京都府	京都市西 京区	史跡・名勝 嵐山	京都市埋蔵文化 財研究所発掘調 査報告書	2008- 14	(財)京都市埋蔵 文化財研究所	200903
296	2602	宇治川太閤堤 跡	うじがわたい こうつつみあ と	京都府	宇治市	宇治川太閤堤跡 発掘調査報告書	宇治市埋蔵文化 財発掘調査報告 書	73	宇治市教育委員 会	200901
297	2602	宇治川太閤堤 跡	うじがわたい こうつつみあ と	京都府	宇治市	宇治川太閤堤跡 発掘調査報告書	宇治市埋蔵文化 財発掘調査報告 書	73	宇治市教育委員 会	200901
286	2603	内里八丁遺跡A 地区・B地区	うちさとはっ ちよういせき	京都府	八幡市	内里八丁遺跡	京都府遺跡調査 報告書	26	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	199912
287	2603	内里八丁遺跡C 地区～F地区	うちさとはっ ちよういせき	京都府	八幡市	内里八丁遺跡Ⅱ	京都府遺跡調査 報告書	30	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	200303
304	2604	京都大学北部 構内遺跡BF34 区	きょうとだいが くこうないいせ き	京都府	京都市左 京区	京都大学北部構 内BF34区の発掘 調査	京都大学構内遺 跡調査研究年報 調査	1994 年度	京都大学埋蔵文 化財研究センター	199803
305	2604	京都大学北部 構内遺跡BD28 区	きょうとだいが くこうないいせ き	京都府	京都市左 京区	京都大学北部構 内BD28区の発掘 調査	京都大学構内遺 跡調査研究年報 調査	2002 年度	京都大学埋蔵文 化財研究センター	200703
306	2604	京都大学西部 構内遺跡	きょうとだいが くこうないいせ き	京都府	京都市左 京区	京都工芸繊維大 学構内遺跡発掘 調査報告書			京都工芸繊維大 学吉田団地遺跡 調査委員会	199309
278	2605	蔵ヶ崎遺跡	くらがさきい せき	京都府	与謝野町	蔵ヶ崎遺跡	京都府遺跡調査 概報	54	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	199303
281	2606	桑原口第6次	くわはらぐち いせき	京都府	宮津市	桑原口遺跡第6次	京都府遺跡調査 概報	104	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	200203
280	2607	上津屋遺跡第4 次	こうづやいせ き	京都府	八幡市	上津屋遺跡第4次	京都府遺跡調査 概報	101	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	200111
279	2608	佐山遺跡	さやまいせき	京都府	久御山町	佐山遺跡	京都府遺跡調査 概報	101	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	200111
288	2608	佐山遺跡	さやまいせき	京都府	久御山町	佐山遺跡	京都府遺跡調査 報告書	33	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	200312
295	2609	慈照寺(銀閣 寺)旧境内	じしょうじ(ぎん かくじ)きゅう けいだい	京都府	京都市左 京区	史跡 慈照寺(銀 閣寺)旧境内	京都市埋蔵文化 財研究所調査報 告	2007- 16	(財)京都市埋蔵 文化財研究所	200803
285	2610	下植野南遺跡	しもうえのみな みいせき	京都府	大山崎町	下植野南遺跡	京都府遺跡調査 報告書	25	(財)京都府埋蔵 文化財調査研究 センター	199903
917	2611	水垂遺跡・長岡 京左京六・七条 三坊	ながおかきよ うさきょうあと (みずたれい せき・ながお かきょうさきよ うあと)	京都府	京都市伏 見区	水垂遺跡 長岡 京左京六・七条 三坊	京都市埋蔵文化 財研究所調査報 告	17	(財)京都市埋蔵 文化財研究所	199803
298	2611	長岡京左京第 293次	ながおかきよ うさきょうあと	京都府	向日市	長岡京左京第293 次(7ANFMM-3 地区)～左京三 条一坊三町(三 条一坊一町)・ 三条条間小路 (二条大路)～ 発掘調査概要	向日市埋蔵文化 財調査報告書	36	(財)向日市埋蔵 文化財センター・ 向日市教育委員 会	199303
299	2611	長岡京左京第 370次	ながおかきよ うさきょうあと	京都府	向日市	長岡京左京第370 次(7ANEKZ-9 地区)～左京三 条二坊二町(二 条三坊四～五 町),東三坊坊 間西小路(東三 坊第一小路), 鶏冠井清水遺跡, 乙訓郡九条弓弦 羽里三十六坪～ 発掘調査概要	向日市埋蔵文化 財調査報告書	43	(財)向日市埋蔵 文化財センター	199603

遺跡一覧表A-1

300	2611	長岡京左京第438次	ながおかきょうさきょうあと	京都府	向日市	長岡京跡左京第438次(7ANFMI-7地区~左京五条二坊九町・東二坊坊間小路, 鴨田遺跡~発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	61	(財)向日市埋蔵文化財センター	200311
301	2611	長岡京左京第438次	ながおかきょうさきょうあと	京都府	向日市	長岡京跡左京第438次(7ANFMI-7地区~左京五条二坊九町・東二坊坊間小路, 鴨田遺跡~発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	61	(財)向日市埋蔵文化財センター	200311
302	2611	長岡京左京第465次・474次	ながおかきょうさきょうあと	京都府	向日市	長岡京跡左京第465・474次(7ANFGI-1・2地区~三条大路・東一坊大路交差点, 左京三条二坊四町・四条二坊一町~発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	61	(財)向日市埋蔵文化財センター	200311
303	2611	長岡京跡左京第308次	ながおかきょうさきょうあと	京都府	向日市	長岡京跡左京第308次(7ANFHD-6地区)~左京五条二坊十町, 東二坊坊間小路, 鴨田遺跡~発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	69	(財)向日市埋蔵文化財センター	200905
284	2612	西ノ口遺跡	にしのかちいせき	京都府	山城町	西ノ口遺跡発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	111	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200403
307	2613	平等院境内	びょうどういんけいけだい	京都府	宇治市	平等院境内発掘調査報告書			宗教法人 平等院	200006
283	2614	福知山城跡	ふくちやまじょうあと	京都府	福知山市	福知山城跡発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	107	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200303
282	2615	古屋敷遺跡	ふるやしきいせき	京都府	京田辺市	古屋敷遺跡発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	104	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200203
289	2616	平安京右京三条二坊十六町第3次	へいあんきょううきょうあと	京都府	京都市中京区	平安京右京三条二坊十五・十六町	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	21	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200212
290	2617	平安京左京北辺四坊	へいあんきょうさきょうあと	京都府	京都市上京区	平安京左京北辺四坊—第1分冊(公家町形成前)	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	22	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200401
291	2617	平安京左京北辺四坊	へいあんきょうさきょうあと	京都府	京都市上京区	平安京左京北辺四坊—第1分冊(公家町形成前)	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	22	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200401
292	2617	平安京左京北辺四坊	へいあんきょうさきょうあと	京都府	京都市上京区	平安京左京北辺四坊—第1分冊(公家町形成前)	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	22	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200401
293	2617	平安京左京北辺四坊	へいあんきょうさきょうあと	京都府	京都市上京区	平安京左京北辺四坊—第1分冊(公家町形成前)	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	22	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200401
294	2617	平安京左京六条三坊五町跡	へいあんきょううきょうあと	京都府	京都市下京区	平安京左京六条三坊五町跡	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	2005-8	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200512
342	2701	有池遺跡	ありいけいせき	大阪府	交野市	有池遺跡 I	(財)大阪府文化財センター調査報告書	152	(財)大阪府文化財センター	200702
343	2701	有池遺跡	ありいけいせき	大阪府	交野市	有池遺跡 I	(財)大阪府文化財センター調査報告書	152	(財)大阪府文化財センター	200702
349	2702	池島・福万寺遺跡 I 期地区(総括)	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	東大阪市	池島・福万寺遺跡 3	(財)大阪府文化財センター調査報告書	158	(財)大阪府文化財センター	200703
353	2702	池島・福万寺遺跡 II 期地区03-1調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	八尾市	池島・福万寺遺跡 4	(財)大阪府文化財センター調査報告書	168	(財)大阪府文化財センター	200802
354	2702	池島・福万寺遺跡 II 期地区03-1調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	八尾市	池島・福万寺遺跡 4	(財)大阪府文化財センター調査報告書	168	(財)大阪府文化財センター	200802
363	2702	池島・福万寺遺跡 II 期地区05-1調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	八尾市	池島・福万寺遺跡 6	(財)大阪府文化財センター調査報告書	185	(財)大阪府文化財センター	200812

364	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	東大阪市	池島・福万寺遺跡7	(財)大阪府文化財センター調査報告書	186	(財)大阪府文化財センター	200812
919	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	八尾市	池島・福万寺遺跡8	(財)大阪府文化財センター調査報告書	195	(財)大阪府文化財センター	200912
920	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	八尾市	池島・福万寺遺跡8	(財)大阪府文化財センター調査報告書	195	(財)大阪府文化財センター	200912
921	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1・06-2調査	いけじま・ふくまんじいせき	大阪府	東大阪市	池島・福万寺遺跡9	(財)大阪府文化財センター調査報告書	196	(財)大阪府文化財センター	200912
310	2703	池田西遺跡	いけだにしいせき	大阪府	寝屋川市	池田西遺跡発掘調査概要・I			大阪府教育委員会	199403
344	2704	上の山遺跡	うえのやまいせき	大阪府	交野市・枚方市	上の山遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	155	(財)大阪府文化財センター	200703
345	2704	上の山遺跡	うえのやまいせき	大阪府	交野市・枚方市	上の山遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	155	(財)大阪府文化財センター	200703
389	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200203
390	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200203
391	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200203
392	2705	瓜破遺跡西地区00-11・01-17	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅲ			(財)大阪市文化財協会	200303
393	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅳ			(財)大阪市文化財協会	200503
394	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	うりわりいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅳ			(財)大阪市文化財協会	200503
395	2706	瓜破北遺跡04-1・2・3次	うりわりきたいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破北遺跡発掘調査報告Ⅲ			(財)大阪市文化財協会	200603
396	2706	瓜破北遺跡04-1・2・3次	うりわりきたいせき	大阪府	大阪市平野区	瓜破北遺跡発掘調査報告Ⅲ			(財)大阪市文化財協会	200603
387	2707	大坂城下町跡	おおさかじょうまちあと	大阪府	大阪市中央区	大坂城下町跡Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200409
316	2708	男里遺跡	おのさといせき	大阪府	泉南市	男里遺跡発掘調査概要・I			大阪府教育委員会・泉南市教育委員会	199704
397	2709	遠里小野遺跡	おりおのいせき	大阪府	大阪市住吉区	遠里小野遺跡発掘調査報告Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200903
339	2710	勝部遺跡	かつべいせき	大阪府	豊中市	勝部遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	100	(財)大阪府文化財センター	200309
382	2711	加美遺跡	かみいせき	大阪府	大阪市平野区	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
383	2711	加美遺跡	かみいせき	大阪府	大阪市平野区	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
384	2711	加美遺跡	かみいせき	大阪府	大阪市平野区	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
351	2712	上私部遺跡05-1区	かみきさべいせき	大阪府	交野市	上私部遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	165	(財)大阪府文化財センター	200709
385	2713	亀井北遺跡01-2次・02-1次・03-1次	かめいきたいせき	大阪府	大阪市平野区	亀井北遺跡発掘調査報告			(財)大阪市文化財協会	200403
386	2713	亀井北遺跡01-2次・02-1次・03-1次	かめいきたいせき	大阪府	大阪市平野区	亀井北遺跡発掘調査報告			(財)大阪市文化財協会	200403
308	2714	萱振遺跡第1次	かやふりいせき	大阪府	八尾市	萱振遺跡	大阪府文化財調査報告書	39	大阪府教育委員会	199203
400	2715	鬼虎川遺跡第38次	きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	鬼虎川遺跡北部の歴史時代耕作地跡と地震層序			(財)東大阪市文化財協会	199706
346	2716	久宝寺遺跡竜華地区	きゅうほうじいせき	大阪府	八尾市	久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書	(財)大阪府文化財センター調査報告書	156	(財)大阪府文化財センター	200703
347	2716	久宝寺遺跡竜華地区	きゅうほうじいせき	大阪府	八尾市	久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書	(財)大阪府文化財センター調査報告書	156	(財)大阪府文化財センター	200703
348	2716	久宝寺遺跡竜華地区	きゅうほうじいせき	大阪府	八尾市	久宝寺遺跡・竜華地区発掘調査報告書	(財)大阪府文化財センター調査報告書	156	(財)大阪府文化財センター	200703
904	2717	蔵人遺跡第17次	くろうどいせき	大阪府	吹田市	蔵人遺跡発掘調査報告書Ⅱ			吹田市教育委員会	200903

369	2718	上津島遺跡第5次	こうづしまいせき	大阪府	豊中市	上津島遺跡 第5次発掘調査報告	豊中市文化財調査報告	41	豊中市教育委員会	199703
324	2719	小阪遺跡	こさかいせき	大阪府	堺市中央区	小阪遺跡			(財)大阪文化財センター	199203
325	2719	小阪遺跡	こさかいせき	大阪府	堺市中央区	小阪遺跡			(財)大阪文化財センター	199203
340	2720	讃良郡条里遺跡03-3区	さらぐんじょうりいせき	大阪府	寝屋川市	讃良郡条里遺跡IV	(財)大阪府文化財センター調査報告書	138	(財)大阪府文化財センター	200602
357	2720	讃良郡条里遺跡03-1区	さらぐんじょうりいせき	大阪府	寝屋川市	讃良郡条里遺跡VI	(財)大阪府文化財センター調査報告書	173	(財)大阪府文化財センター	200803
365	2720	讃良郡条里遺跡03-4調査区	さらぐんじょうりいせき	大阪府	寝屋川市	讃良郡条里遺跡VIII	(財)大阪府文化財センター調査報告書	187	(財)大阪府文化財センター	200901
309	2721	志紀遺跡第6次	しきいせき	大阪府	八尾市	志紀遺跡発掘調査概要・II			大阪府教育委員会	199203
312	2721	志紀遺跡第5次	しきいせき	大阪府	八尾市	志紀遺跡発掘調査概要・IV			大阪府教育委員会	199503
313	2721	志紀遺跡第5次	しきいせき	大阪府	八尾市	志紀遺跡発掘調査概要・IV			大阪府教育委員会	199503
329	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
330	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
331	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
332	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
333	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
334	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
335	2722	尺度遺跡	しゃくどいせき	大阪府	羽曳野市	尺度遺跡 I	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
352	2723	新上小阪遺跡	しんかみこさかいせき	大阪府	東大阪市	新上小阪遺跡II	(財)大阪府文化財センター調査報告書	166	(財)大阪府文化財センター	200712
314	2724	新庄遺跡	しんじょういせき	大阪府	茨木市	新庄遺跡			大阪府教育委員会	199603
338	2725	吹田操車場遺跡	すいたそうしゃじょういせき	大阪府	吹田市	吹田操車場遺跡・吹田操車場遺跡B地点	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	66	(財)大阪府文化財調査研究センター	200110
360	2726	巢本遺跡03-2・06-1	すもといせき	大阪府	門真市	巢本遺跡II	(財)大阪府文化財センター調査報告書	183	(財)大阪府文化財センター	200812
318	2727	高柳遺跡	たかやなぎいせき	大阪府	寝屋川市	高柳遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	1999-3	大阪府教育委員会	200003
319	2727	高柳遺跡	たかやなぎいせき	大阪府	寝屋川市	高柳遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	1999-3	大阪府教育委員会	200003
327	2728	玉櫛遺跡	たまぐしいせき	大阪府	茨木市	玉櫛遺跡	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	31	(財)大阪府文化財調査研究センター	199803
328	2728	玉櫛遺跡	たまぐしいせき	大阪府	茨木市	玉櫛遺跡	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	31	(財)大阪府文化財調査研究センター	199803
361	2728	玉櫛遺跡06-1	たまぐしいせき	大阪府	茨木市	玉櫛遺跡III	(財)大阪府文化財センター調査報告書	184	(財)大阪府文化財センター	200812
362	2728	玉櫛遺跡06-1	たまぐしいせき	大阪府	茨木市	玉櫛遺跡III	(財)大阪府文化財センター調査報告書	184	(財)大阪府文化財センター	200812
373	2729	垂水遺跡第24次	たるみいせき	大阪府	吹田市	垂水遺跡発掘調査報告書 I			吹田市教育委員会	200503
359	2730	津田遺跡	つだいせき	大阪府	枚方市	津田遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	175	(財)大阪府文化財センター	200803
374	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103

375	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
376	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
377	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
378	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
379	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
380	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
381	2731	長原遺跡	ながはらいせき	大阪府	大阪市平野区	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
358	2732	茄子作遺跡	なすづくりいせき	大阪府	枚方市	茄子作遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	174	(財)大阪府文化財センター	200803
371	2733	南郷目代今西氏屋敷	なんごうもくだいいまにししやしき	大阪府	豊中市	大阪府指定史跡／春日大社南郷目代今西氏屋敷	豊中市文化財調査報告	57	豊中市教育委員会	200503
372	2733	南郷目代今西氏屋敷	なんごうもくだいいまにししやしき	大阪府	豊中市	大阪府指定史跡／春日大社南郷目代今西氏屋敷	豊中市文化財調査報告	57	豊中市教育委員会	200503
311	2734	西大井遺跡	にしおおいいせき	大阪府	藤井寺市	西大井遺跡発掘調査概要1992年度―'92-1区の調査―			大阪府教育委員会	199403
320	2734	西大井遺跡	にしおおいいせき	大阪府	藤井寺市	西大井遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	2002-2	大阪府教育委員会	200303
321	2734	西大井遺跡	にしおおいいせき	大阪府	藤井寺市	西大井遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	2002-2	大阪府教育委員会	200303
322	2734	西大井遺跡	にしおおいいせき	大阪府	藤井寺市	西大井遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	2002-2	大阪府教育委員会	200303
323	2734	西大井遺跡	にしおおいいせき	大阪府	藤井寺市	西大井遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告	2006-4	大阪府教育委員会	200703
326	2735	野々井遺跡	ののいいせき	大阪府	堺市南区	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
350	2736	花屋敷遺跡06-1区	はなやしきいせき	大阪府	東大阪市	花屋敷遺跡Ⅰ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	161	(財)大阪府文化財センター	200703
341	2737	東倉治遺跡04-1区	ひがしくらいいせき	大阪府	交野市	東倉治遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	146	(財)大阪府文化財センター	200609
315	2738	東奈良遺跡	ひがしならいせき	大阪府	茨木市	東奈良Ⅲ・郡遺跡発掘調査概要			大阪府教育委員会	199603
317	2739	平石遺跡	ひらいしいせき	大阪府	河南町	平石遺跡発掘調査概要・Ⅰ			大阪府教育委員会	200703
370	2740	穂積遺跡第14次・第15次	ほづみいせき	大阪府	豊中市	穂積遺跡 第14次・15次発掘調査報告	豊中市文化財調査報告	46	豊中市教育委員会	199903
416	2741	真上遺跡	まかみいせき	大阪府	高槻市	大蔵司遺跡・真上遺跡発掘調査報告書			名神高速道路内遺跡調査会	199807
398	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	199203
399	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	199203
401	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
402	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
403	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
404	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
405	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803

遺跡一覧表A-1

406	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
407	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	みずはいいせき・きとらがわいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
408	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
409	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
410	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
411	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
412	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
413	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
414	2742	水走遺跡第4次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第4次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200011
415	2742	水走遺跡第11次	みずはいいせき	大阪府	東大阪市	水走遺跡第11次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200208
355	2743	湊遺跡	みなといせき	大阪府	泉佐野市	湊遺跡他Ⅲ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	170	(財)大阪府文化財センター	200802
356	2743	湊遺跡	みなといせき	大阪府	泉佐野市	湊遺跡他Ⅲ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	170	(財)大阪府文化財センター	200802
366	2744	三宅西遺跡	みやけにしせき	大阪府	松原市	三宅西遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	189	(財)大阪府文化財センター	200903
388	2745	森小路遺跡94-13次	もりしょうじせき	大阪府	大阪市旭区	森小路遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200107
368	2746	山賀遺跡08-1・2区	やまがいせき	大阪府	八尾市	山賀遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財センター調査報告書	194	(財)大阪府文化財センター	200908
336	2747	大和川今池遺跡	やまとがわいまいけいせき	大阪府	松原市	大和川今池遺跡(その3・その4)	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	65	(財)大阪府文化財調査研究センター	200109
337	2747	大和川今池遺跡	やまとがわいまいけいせき	大阪府	松原市	大和川今池遺跡(その3・その4)	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	65	(財)大阪府文化財調査研究センター	200109
367	2747	大和川今池遺跡07-1区	やまとがわいまいけいせき	大阪府	堺市北区、松原市	大和川今池遺跡Ⅰ — 難波大道の調査—	(財)大阪府文化財センター調査報告書	191	(財)大阪府文化財センター	200907
448	2801	鵜石田遺跡	いかるがいでいせき	兵庫県	太子町	鵜石田遺跡	兵庫県文化財調査報告書	363	兵庫県教育委員会	200903
422	2802	伊丹郷町	いたみごうちょういせき	兵庫県	伊丹市	伊丹郷町発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	123	兵庫県教育委員会	199303
441	2803	一品野田遺跡	いっぽうのだいせき	兵庫県	朝来市	粟鹿遺跡	兵庫県文化財調査報告書	323	兵庫県教育委員会	200703
901	2804	今池尻遺跡第2次	いまいけじりいせき	兵庫県	神戸市西区	今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200303
442	2805	加都遺跡	かついせき	兵庫県	朝来市	加都遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	324	兵庫県教育委員会	200703
443	2805	加都遺跡	かついせき	兵庫県	朝来市	加都遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	324	兵庫県教育委員会	200703
444	2805	加都遺跡	かついせき	兵庫県	朝来市	加都遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	324	兵庫県教育委員会	200703
465	2806	上沢遺跡第38・46・50次	かみさわいせき	兵庫県	神戸市兵庫区	上沢遺跡Ⅲ 第38・46・50次調査			神戸市教育委員会	200403
421	2807	上ノ島遺跡	かみのしまいせき	兵庫県	尼崎市	上ノ島遺跡	兵庫県文化財調査報告書	105	兵庫県教育委員会	199203
468	2808	郡家遺跡第70次	ぐんげいせき	兵庫県	神戸市東灘区	平成13年度神戸市埋蔵文化財年報			神戸市教育委員会	200403
471	2808	郡家遺跡第83次	ぐんげいせき	兵庫県	神戸市東灘区	郡家遺跡発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200803
472	2808	郡家遺跡第83次	ぐんげいせき	兵庫県	神戸市東灘区	郡家遺跡発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200803
473	2808	郡家遺跡第83次	ぐんげいせき	兵庫県	神戸市東灘区	郡家遺跡発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200803
474	2808	郡家遺跡第83次	ぐんげいせき	兵庫県	神戸市東灘区	郡家遺跡発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200803
453	2809	坂元遺跡	さかもといせき	兵庫県	加古川市	坂元遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	366	兵庫県教育委員会	200903

遺跡一覧表A-1

454	2809	坂元遺跡	さかもといせき	兵庫県	加古川市	坂元遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	366	兵庫県教育委員会	200903
447	2810	柴遺跡	しばいせき	兵庫県	朝来市	柴遺跡	兵庫県文化財調査報告書	360	兵庫県教育委員会	200903
457	2811	白水遺跡第3次	しらみずいせき	兵庫県	神戸市西区	白水遺跡第3・6・7次 高津橋大塚遺跡第1・2次発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200003
426	2812	砂入遺跡	すないりいせき	兵庫県	豊岡市	砂入遺跡	兵庫県文化財調査報告書	161	兵庫県教育委員会	199703
427	2812	砂入遺跡	すないりいせき	兵庫県	豊岡市	砂入遺跡	兵庫県文化財調査報告書	161	兵庫県教育委員会	199703
417	2813	住吉宮町遺跡	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	83	兵庫県教育委員会	199101
418	2813	住吉宮町遺跡	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	83	兵庫県教育委員会	199101
419	2813	住吉宮町遺跡	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	83	兵庫県教育委員会	199101
435	2813	住吉宮町遺跡第33次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡第33次調査	兵庫県文化財調査報告書	226	兵庫県教育委員会	200203
436	2813	住吉宮町遺跡第33次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡第33次調査	兵庫県文化財調査報告書	226	兵庫県教育委員会	200203
455	2813	住吉宮町遺跡第17次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡(第17次・18次)			神戸市教育委員会	199801
456	2813	住吉宮町遺跡第17次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡(第17次・18次)			神戸市教育委員会	199801
460	2813	住吉宮町遺跡第24次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡第24次・第32次 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200103
461	2813	住吉宮町遺跡第32次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	住吉宮町遺跡第24次・第32次 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200103
466	2813	住吉宮町遺跡第35次	すみよしみやまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	平成13年度神戸市埋蔵文化財年報			神戸市教育委員会	200403
467	2814	大開遺跡第10次	だいかいいせき	兵庫県	神戸市兵庫区	平成13年度神戸市埋蔵文化財年報			神戸市教育委員会	200403
434	2815	高松町遺跡	たかまつちよういせき	兵庫県	西宮市	高松町遺跡	兵庫県文化財調査報告書	213	兵庫県教育委員会	200103
423	2816	玉津田中遺跡辻ヶ内地区	たまつたなかいせき	兵庫県	神戸市西区	玉津田中遺跡—第4分冊(辻ヶ内・居住の調査)—	兵庫県文化財調査報告書	135-4	兵庫県教育委員会	199503
496	2817	月若遺跡第89地点	つきわかいせき	兵庫県	芦屋市	月若遺跡発掘調査報告書 第89地点	芦屋市文化財調査報告	69	神戸市教育委員会	200803
477	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
478	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
479	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
480	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
481	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
482	2818	津知遺跡第17地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡第17地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	34	芦屋市教育委員会	199903
493	2818	津知遺跡第222地点	つじいせき	兵庫県	芦屋市	津知遺跡(第198・222地点)発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	55	芦屋市教育委員会	200403
476	2819	寺田遺跡第95地点	てらだいせき	兵庫県	芦屋市	寺田遺跡第95地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	32	芦屋市教育委員会	199909
489	2819	寺田遺跡第120～122地点	てらだいせき	兵庫県	芦屋市	寺田遺跡発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	39	芦屋市教育委員会	200103
490	2819	寺田遺跡第117～124地点	てらだいせき	兵庫県	芦屋市	寺田遺跡発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	39	芦屋市教育委員会	200103
491	2819	寺田遺跡第117～124地点	てらだいせき	兵庫県	芦屋市	寺田遺跡発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	39	芦屋市教育委員会	200103

494	2819	寺田遺跡第167地点	てらだいせき	兵庫県	芦屋市	兵庫県芦屋市寺田遺跡発掘調査報告書 第150~153・157~160・166~168地点	芦屋市文化財調査報告	59	芦屋市教育委員会	200503
445	2820	伝平等寺跡遺跡	でんびょうどうじあといせき	兵庫県	丹波市	伝平等寺跡遺跡	兵庫県文化財調査報告書	352	兵庫県教育委員会	200903
446	2820	伝平等寺跡遺跡	でんびょうどうじあといせき	兵庫県	丹波市	伝平等寺跡遺跡	兵庫県文化財調査報告書	352	兵庫県教育委員会	200903
438	2821	中山手西遺跡	なかやまてにしせいせき	兵庫県	神戸市中央区	中山手西遺跡	兵庫県文化財調査報告書	276	兵庫県教育委員会	200503
420	2822	西岡本1丁目遺跡	にしおかもと1ちょうめいせき	兵庫県	神戸市東灘区	本庄町遺跡	兵庫県文化財調査報告書	92	兵庫県教育委員会	199103
425	2823	西ヶ原遺跡	にしがはらいせき	兵庫県	三木市	西ヶ原遺跡	兵庫県文化財調査報告書	151	兵庫県教育委員会	199603
470	2824	西郷古酒蔵群第4次・大石東遺跡	にしごうこさかぐらぐん・おおいしひがしいせき	兵庫県	神戸市灘区	西郷古酒蔵群／大石東遺跡発掘調査報告書—第4次調査—			神戸市教育委員会	200703
429	2825	袴狭遺跡	はかざいいせき	兵庫県	豊岡市	袴狭遺跡(本文編)	兵庫県文化財調査報告書	197	兵庫県教育委員会	200003
430	2825	袴狭遺跡	はかざいいせき	兵庫県	豊岡市	袴狭遺跡(本文編)	兵庫県文化財調査報告書	197	兵庫県教育委員会	200003
431	2825	袴狭遺跡	はかざいいせき	兵庫県	豊岡市	袴狭遺跡(本文編)	兵庫県文化財調査報告書	197	兵庫県教育委員会	200003
432	2825	袴狭遺跡	はかざいいせき	兵庫県	豊岡市	袴狭遺跡(本文編)	兵庫県文化財調査報告書	197	兵庫県教育委員会	200003
424	2826	東武庫遺跡	ひがしむこいせき	兵庫県	尼崎市	東武庫遺跡	兵庫県文化財調査報告書	150	兵庫県教育委員会	199503
437	2827	兵庫津遺跡浜崎地区・七宮地区	ひょうごついでいせき	兵庫県	神戸市兵庫区	兵庫津遺跡Ⅱ(浜崎・七宮地区の調査)	兵庫県文化財調査報告書	270	兵庫県教育委員会	200403
469	2828	兵庫松本遺跡第2~4・12・17・19次	ひょうごまつもといせき	兵庫県	神戸市兵庫区	兵庫松本遺跡 第2~4・12・17・19次発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200503
464	2829	深江北町遺跡第9次	ふかえきたまちいせき	兵庫県	神戸市東灘区	深江北町遺跡 第9次 埋蔵文化財発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200203
433	2830	丸塚遺跡	まるづかいせき	兵庫県	神戸市西区	丸塚遺跡発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	206	兵庫県教育委員会	200003
462	2831	御蔵遺跡	みくらいせき	兵庫県	神戸市長田区	御蔵遺跡 第4・6・14・32次 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200103
463	2831	御蔵遺跡	みくらいせき	兵庫県	神戸市長田区	御蔵遺跡 第4・6・14・32次 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200103
440	2832	溝之口遺跡	みぞのくちいせき	兵庫県	加古川市	溝之口遺跡	兵庫県文化財調査報告書	309	兵庫県教育委員会	200612
449	2833	宮内堀脇遺跡	みやうちほりわきいせき	兵庫県	豊岡市	宮内堀脇遺跡	兵庫県文化財調査報告書	365	兵庫県教育委員会	200903
450	2833	宮内堀脇遺跡	みやうちほりわきいせき	兵庫県	豊岡市	宮内堀脇遺跡	兵庫県文化財調査報告書	365	兵庫県教育委員会	200903
451	2833	宮内堀脇遺跡	みやうちほりわきいせき	兵庫県	豊岡市	宮内堀脇遺跡	兵庫県文化財調査報告書	365	兵庫県教育委員会	200903
452	2833	宮内堀脇遺跡	みやうちほりわきいせき	兵庫県	豊岡市	宮内堀脇遺跡	兵庫県文化財調査報告書	365	兵庫県教育委員会	200903
475	2834	本山中野遺跡第3次	もとやまなかのいせき	兵庫県	神戸市東灘区	本山中野遺跡第三次発掘調査報告			神戸市教育委員会	200902
428	2835	山本北垣内遺跡	やまもときたかいちいせき	兵庫県	宝塚市	山本北垣内遺跡	兵庫県文化財調査報告書	170	兵庫県教育委員会	199803
439	2836	横田遺跡	よこたいせき	兵庫県	丹波市	横田遺跡・横田北古墳群発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	303	兵庫県教育委員会	200603
492	2837	六条遺跡第18地点	ろくじょういせき	兵庫県	芦屋市	六条遺跡発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	41	芦屋市教育委員会	200202
495	2837	六条遺跡第13地点	ろくじょういせき	兵庫県	芦屋市	六条遺跡(第13地点)	芦屋市文化財調査報告	65	芦屋市教育委員会	200703
458	2838	若松町遺跡	わかまつちょういせき	兵庫県	神戸市長田区	若松町遺跡			神戸市教育委員会	200003
459	2838	若松町遺跡	わかまつちょういせき	兵庫県	神戸市長田区	若松町遺跡			神戸市教育委員会	200003
483	2839	若宮遺跡第10-1地点	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203

遺跡一覧表A-1

484	2839	若宮遺跡第10-1地点	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
485	2839	若宮遺跡第10-2地点	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
486	2839	若宮遺跡第16-3地点	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
487	2839	若宮遺跡第34地点	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
488	2839	若宮遺跡	わかみやいせき	兵庫県	芦屋市	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
499	2901	大野南池遺跡	おおのいけみなみいせき	奈良県	広陵町	大野南池遺跡	奈良県遺跡調査概報 2008年(第三分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200912
926	2902	鴨都波遺跡第22次	かもつばいせき	奈良県	御所市	鴨都波遺跡第22次	奈良県遺跡調査概報 2004年(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200503
511	2903	下永東城遺跡	しもながひがしんじょいせき	奈良県	川西町	下永東城遺跡	奈良県文化財調査報告書	103	奈良県立橿原考古学研究所	200303
924	2904	シロカイト遺跡	しろかいといせき	奈良県	明日香村	シロカイト遺跡	奈良県遺跡調査概報 2006年(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200703
500	2905	十六面・薬王寺遺跡第25次	じゅうろくめん・やくおうじいせき	奈良県	田原本町	十六面・薬王寺遺跡第25次調査	奈良県遺跡調査概報 2008年(第三分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200912
498	2906	東大寺旧境内第122次	とうだいじきゅうけいだい	奈良県	奈良市	史跡東大寺旧境内第122次調査	奈良県遺跡調査概報 2007年(第一分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200803
693	2907	南郷遺跡群(南郷角田遺跡)	なんごういせきぐん	奈良県	御所市	南郷遺跡群 I	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	61	奈良県立橿原考古学研究所	199608
510	2908	西坊城遺跡第2次・第3次	にしぼうじょういせき	奈良県	大和高田市	西坊城遺跡	奈良県文化財調査報告書	83	奈良県立橿原考古学研究所	199903
497	2909	箸尾遺跡第14次	はしおいせき	奈良県	広陵町		奈良県遺跡調査概報 1993年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	199403
502	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	箸尾遺跡 I	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
503	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	箸尾遺跡 I	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
504	2909	箸尾遺跡第7次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第7次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
505	2909	箸尾遺跡第7次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第7次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
506	2909	箸尾遺跡第14次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第14次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
507	2909	箸尾遺跡第14次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第14次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
508	2909	箸尾遺跡第14次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第14次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
509	2909	箸尾遺跡第16次	はしおいせき	奈良県	広陵町・河合町	第16次調査	奈良県立橿原考古学研究所調査報告	97	奈良県立橿原考古学研究所	200603
513	2910	布留遺跡	ふるいせき	奈良県	天理市	布留遺跡三島(里中)地区発掘調査報告書			埋蔵文化財天理教調査団	199512

遺跡一覧表A-1

512	2911	平城京朱雀大路・下ツ道	へいじょうきょうあと	奈良県	奈良市	平城京朱雀大路・下ツ道	奈良県文化財調査報告書	136	奈良県立橿原考古学研究所	201003
925	2912	南国栖遺跡	みなみくずいせき	奈良県	吉野町	南国栖遺跡2004年	奈良県遺跡調査概報 2004年(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	200503
501	2913	能峠中島遺跡	ゆきとうげいせき	奈良県	宇陀市	能峠遺跡群Ⅲ	奈良県史跡名勝天然記念物調査報告	60	奈良県立橿原考古学研究所	199903
923	3001	田井・西川遺跡	たいにしかわいせき	和歌山県	美浜町	田井・西川遺跡			(財)和歌山県文化財センター	200712
514	3002	鳴神V遺跡	なるかみVいせき	和歌山県	和歌山市	鳴神V遺跡 発掘調査概要報告書	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	8	(財)和歌山市文化体育振興事業団	199403
922	3003	野田地区遺跡	のだちくいせき	和歌山県	有田川町	野田地区遺跡			(財)和歌山県文化財センター	200910
515	3101	青谷上寺地遺跡第7次(G調査区)	あおやかみぢちいせき	鳥取県	鳥取市	青谷上寺地遺跡8	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	10	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200603
519	3102	坪田遺跡	つばたいせき	鳥取県	大山町	鳥取県西伯郡大山町坪田遺跡発掘調査報告書	大山町文化財調査報告書	3	大山町教育委員会・フジテクノ有限公司	200707
520	3102	坪田遺跡	つばたいせき	鳥取県	大山町	鳥取県西伯郡大山町坪田遺跡発掘調査報告書	大山町文化財調査報告書	3	大山町教育委員会・フジテクノ有限公司	200707
518	3103	目久美遺跡第15次	めぐみいせき	鳥取県	米子市	目久美遺跡(第15次調査)	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	60	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200903
517	3104	米子城跡第29次	よなごじょうあと	鳥取県	米子市	米子城跡 第29次調査	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	36	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200003
531	3201	出雲大社境内遺跡	いずもたいしゃけいだいいいせき	島根県	出雲市	出雲大社境内遺跡			大社町教育委員会	200403
532	3201	出雲大社境内遺跡	いずもたいしゃけいだいいいせき	島根県	出雲市	出雲大社境内遺跡			大社町教育委員会	200403
524	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	ざんもちいせき	島根県	出雲市	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	Ⅲ	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200703
525	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	ざんもちいせき	島根県	出雲市	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	Ⅲ	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200703
526	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	ざんもちいせき	島根県	出雲市	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	Ⅲ	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200703
533	3203	島根大学構内遺跡橋本地区	しまねだいがくこうないいせき	島根県	松江市	島根大学構内遺跡第10次調査(橋本地区3)	島根大学埋蔵文化財調査研究報告	6	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	200012
527	3204	タテチョウ遺跡	たてちょういせき	島根県	松江市	タテチョウ遺跡発掘調査報告書			松江市教育委員会	199203
523	3205	中野清水遺跡	なかのしみずいせき	島根県	出雲市	中野清水遺跡(3)・白枝本郷遺跡	一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200603
522	3206	原の前遺跡	はらのまえいせき	島根県	松江市	原の前遺跡			島根県埋蔵文化財調査センター	199503
521	3207	本庄川流域条里遺跡	ほんじょうがわじょうりいせき	島根県	松江市	本庄川流域条里遺跡			島根県教育委員会	199703
528	3208	横路遺跡土器土地区	よころいせき	島根県	浜田市	横路遺跡(土器土地区)			浜田市教育委員会	199710
529	3208	横路遺跡土器土地区	よころいせき	島根県	浜田市	横路遺跡(土器土地区)			浜田市教育委員会	199710
530	3208	横路遺跡土器土地区	よころいせき	島根県	浜田市	横路遺跡(土器土地区)			浜田市教育委員会	199710
539	3301	足守川加茂A遺跡	あしもりがわかもあいせき	岡山県	岡山市北区	足守川河川改修工事に伴う発掘調査 足守川加茂A遺跡・足守川加茂B遺跡・足守川矢部南遺跡(本文)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	94	岡山県古代吉備文化財センター	199503

540	3302	足守川矢部南向遺跡	あしもりがわやべみなみむかいせき	岡山県	岡山市北区	足守川河川改修工事に伴う発掘調査 足守川矢部南向遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	94	岡山県古代吉備文化財センター	199503
564	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	あませいせき・おかやまじょうそとぼりあと	岡山県	岡山市北区	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	154	岡山県古代吉備文化財センター	200102
565	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	あませいせき・おかやまじょうそとぼりあと	岡山県	岡山市北区	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	154	岡山県古代吉備文化財センター	200102
588	3304	岡山城跡本丸下の段	おかやまじょうあと	岡山県	岡山市北区	史跡保存整備事業 史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告			岡山市教育委員会	200103
589	3304	岡山城三曲輪跡	おかやまじょうあと	岡山県	岡山市北区	岡山城三曲輪跡			岡山市教育委員会	200203
591	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	おかやまじょうあと・きゅうおかやまはんはんがくあと	岡山県	岡山市北区	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡			岡山市教育委員会	200803
592	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	おかやまじょうあと・きゅうおかやまはんはんがくあと	岡山県	岡山市北区	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡			岡山市教育委員会	200803
597	3304	岡山城二の丸跡	おかやまじょうあと	岡山県	岡山市北区	岡山城二の丸跡			中国電力内山下変電所建設事業埋蔵文化財調査委員会	199803
556	3305	北方地藏遺跡	きたかたじぞういせき	岡山県	岡山市北区	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地藏遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
574	3306	久田原遺跡	くたばらいせき	岡山県	鏡野町	久田原遺跡・久田原古墳群(第1分冊)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	184	岡山県古代吉備文化財センター	200403
575	3307	久田堀ノ内遺跡	くたほりのうちいせき	岡山県	鏡野町	久田堀ノ内遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	192	岡山県古代吉備文化財センター	200503
571	3308	郷ノ溝遺跡	ごうのみぞいせき	岡山県	岡山市北区	新邸遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	182	岡山県古代吉備文化財センター	200403
585	3309	国長遺跡	こくちょういせき	岡山県	岡山市中区	中島遺跡・宮南遺跡・国長遺跡・天神河原遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	221	岡山県古代吉備文化財センター	200903
596	3310	鹿田遺跡第7次	しかたいせき	岡山県	岡山市北区	鹿田遺跡5—第7次・8次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	23	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200703
586	3311	上東中嶋遺跡	じょうとうなかしまいせき	岡山県	倉敷市	上東中嶋遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	226	岡山県古代吉備文化財センター	201003
550	3312	田益新田遺跡	たますしんでいせき	岡山県	岡山市北区	田益新田遺跡・西上古墳群	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	109	岡山県古代吉備文化財センター	199603
558	3313	段林遺跡・段林古墳	だんばやしいせき・だんばやしこふん	岡山県	浅口市	段林遺跡・段林古墳	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	132	岡山県古代吉備文化財センター	199803
577	3314	津島遺跡	つしまいせき	岡山県	岡山市北区	津島遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	206	岡山県古代吉備文化財センター	200702
594	3315	津島岡大遺跡第6次	つしまおかだいいせき	岡山県	岡山市北区	津島岡大遺跡6—第6・7次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199512
595	3315	津島岡大遺跡第9次	つしまおかだいいせき	岡山県	岡山市北区	津島岡大遺跡10—第9次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	14	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199803
544	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	98	岡山県古代吉備文化財センター	199503
545	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	98	岡山県古代吉備文化財センター	199503
546	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	98	岡山県古代吉備文化財センター	199503
553	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	116	岡山県古代吉備文化財センター	199703
554	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	116	岡山県古代吉備文化財センター	199703

557	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	津寺遺跡5	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	127	岡山県古代吉備文化財センター	199803
560	3316	津寺遺跡	つでらいせき	岡山県	岡山市北区	立田遺跡2・高松原古才遺跡2・加茂政所遺跡2・津寺遺跡6	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	143	岡山県古代吉備文化財センター	199903
584	3317	中島遺跡	なかしまいせき	岡山県	岡山市中区	中島遺跡・宮南遺跡・国長遺跡・天神河原遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	221	岡山県古代吉備文化財センター	200903
576	3318	中撫川遺跡4区	なかなつかわいせき	岡山県	岡山市北区	仏生田遺跡2・中撫川遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	202	岡山県古代吉備文化財センター	200603
555	3319	服部遺跡	はっとりいせき	岡山県	総社市	藪田古墳群 金黒池東遺跡 奥ヶ谷窯跡 中山遺跡・中山古墳群 西山遺跡・西山古墳 服部遺跡 北溝手遺跡 窪木遺跡 高松田中遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	121	岡山県古代吉備文化財センター	199703
593	3320	備前原遺跡	びぜんはらいせき	岡山県	岡山市北区	備前原遺跡	御津町埋蔵文化財発掘調査報告	10	御津町教育委員会	200203
534	3321	百間川沢田遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわさわだいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川沢田遺跡3	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	84	岡山県古代吉備文化財センター	199303
535	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡3	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	88	岡山県古代吉備文化財センター	199403
536	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡3	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	88	岡山県古代吉備文化財センター	199403
537	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡3	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	88	岡山県古代吉備文化財センター	199403
541	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	97	岡山県古代吉備文化財センター	199503
542	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	97	岡山県古代吉備文化財センター	199503
543	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	97	岡山県古代吉備文化財センター	199503
547	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡5	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	106	岡山県古代吉備文化財センター	199603
548	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡5	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	106	岡山県古代吉備文化財センター	199603
549	3321	百間川原尾島遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわはらおじまいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川原尾島遺跡5	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	106	岡山県古代吉備文化財センター	199603
551	3321	百間川兼基遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわかねもといせき)	岡山県	岡山市中区	百間川兼基遺跡2 百間川今谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	114	岡山県古代吉備文化財センター	199603

遺跡一覧表A-1

552	3321	百間川兼基遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わかねもとい せき)	岡山県	岡山市中 区	百間川兼基遺跡2 百間川今谷遺跡2	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	114	岡山県古代吉備 文化財センター	199603
559	3321	原尾島遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わはらおじま いせき)	岡山県	岡山市中 区	原尾島遺跡(藤原 光町3丁目地区)	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	139	岡山県古代吉備 文化財センター	199903
561	3321	原尾島遺跡(百 間川以東)	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わはらおじま いせき)	岡山県	岡山市中 区	原尾島遺跡・沢田 遺跡	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	153	岡山県古代吉備 文化財センター	200012
562	3321	沢田遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (さわだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	原尾島遺跡・沢田 遺跡	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	153	岡山県古代吉備 文化財センター	200012
563	3321	沢田遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (さわだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	原尾島遺跡・沢田 遺跡	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	153	岡山県古代吉備 文化財センター	200012
566	3321	百間川米田遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わよねだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	百間川米田遺跡4	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	164	岡山県古代吉備 文化財センター	200203
567	3321	百間川米田遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わよねだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	百間川米田遺跡4	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	164	岡山県古代吉備 文化財センター	200203
568	3321	百間川米田遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わよねだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	百間川米田遺跡4	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	164	岡山県古代吉備 文化財センター	200203
569	3321	百間川米田遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わよねだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	百間川米田遺跡4	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	164	岡山県古代吉備 文化財センター	200203
570	3321	百間川原尾島 遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わはらおじま いせき)	岡山県	岡山市中 区	百間川原尾島遺 跡6	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	179	岡山県古代吉備 文化財センター	200402
578	3321	百間川兼基遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わかねもとい せき)	岡山県	岡山市中 区	百間川兼基遺跡 4・百間川沢田遺 跡5	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	208	岡山県古代吉備 文化財センター	200703
579	3321	百間川沢田遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わさわだいせ き)	岡山県	岡山市中 区	百間川兼基遺跡 4・百間川沢田遺 跡5	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	208	岡山県古代吉備 文化財センター	200703
580	3321	百間川原尾島 遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わはらおじま いせき)	岡山県	岡山市中 区	百間川兼基遺跡7 百間川二の荒手 遺跡	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	215	岡山県古代吉備 文化財センター	200803
581	3321	百間川二の荒 手遺跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わにのあらて いせき)	岡山県	岡山市中 区	百間川兼基遺跡7 百間川二の荒手 遺跡	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	215	岡山県古代吉備 文化財センター	200803
582	3321	百間川今谷遺 跡	ひやつけんが わいせきぐん (ひやつけんが わいまだにい せき)	岡山県	岡山市中 区	百間川今谷遺跡4	岡山県埋蔵文化 財発掘調査報告	217	岡山県古代吉備 文化財センター	200903

遺跡一覧表A-1

583	3321	百間川今谷遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわいまだにいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川今谷遺跡4	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	217	岡山県古代吉備文化財センター	200903
587	3321	百間川沢田(市道)遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわさわだいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川沢田(市道)遺跡発掘調査報告			岡山市教育委員会	199203
590	3321	百間川沢田遺跡	ひやつけんがわいせきぐん(ひやつけんがわさわだいせき)	岡山県	岡山市中区	百間川沢田遺跡			岡山市教育委員会	200403
572	3322	仏生田遺跡	ぶしょうでんいせき	岡山県	岡山市北区	新邸遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	182	岡山県古代吉備文化財センター	200403
573	3322	仏生田遺跡	ぶしょうでんいせき	岡山県	岡山市北区	新邸遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	182	岡山県古代吉備文化財センター	200403
538	3323	三手遺跡	みていせき	岡山県	岡山市北区	山陽自動車道建設に伴う発掘調査9(本文)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	90	岡山県古代吉備文化財センター	199403
928	3401	広島城跡上八丁堀地点	ひろしまじょうあと	広島県	広島市中区	広島城跡上八丁堀地点			(株)パスコ	201003
599	3501	下右田遺跡神里地区	しもみぎたいせき	山口県	防府市	下右田遺跡(神里地区)	山口県埋蔵文化財センター調査報告	53	(財)山口県ひとつくり財団山口県埋蔵文化財センター	200603
600	3502	神郷大塚遺跡第8次	じんごうおおつかいせき	山口県	山口市	神郷大塚遺跡IV	山口市埋蔵文化財調査報告	96	山口市教育委員会	200703
601	3503	延行条里遺跡砂子多地区	のぶゆきじょうりいせき	山口県	下関市	延行条里遺跡	下関市埋蔵文化財調査報告書	56	下関市教育委員会	199603
602	3503	延行条里遺跡砂子多地区	のぶゆきじょうりいせき	山口県	下関市	延行条里遺跡	下関市埋蔵文化財調査報告書	56	下関市教育委員会	199603
611	3701	一角遺跡第1次・第2次	いっかくいせき	香川県	高松市	一角遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	44	高松市教育委員会	200003
606	3702	川津東山田遺跡I区	かわつひがしやまだいせき	香川県	坂出市	川津東山田遺跡I区	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	38	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200110
609	3703	川南・西遺跡	かわみなみにしいせき	香川県	高松市	川南・西遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	38	高松市教育委員会	199903
610	3703	川南・西遺跡	かわみなみにしいせき	香川県	高松市	川南・西遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	38	高松市教育委員会	199903
607	3704	北内遺跡	きたうちいせき	香川県	丸亀市	住吉遺跡 渡池跡 北内遺跡 池下遺跡			(財)香川県埋蔵文化財センター	200802
608	3705	弘福寺領山田郡田園比定地ほか	ぐふくじりょう	香川県	高松市	讃岐国弘福寺領の調査	高松市埋蔵文化財調査報告	37	高松市教育委員会	199903
604	3706	金毘羅山遺跡	こんびらやまいせき	香川県	東かがわ市	金毘羅山遺跡I 塔の山南遺跡 庵の谷遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	36	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200008
605	3706	金毘羅山遺跡	こんびらやまいせき	香川県	東かがわ市	金毘羅山遺跡I 塔の山南遺跡 庵の谷遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	36	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200008
603	3707	龍川五条遺跡	たつかわごじょういせき	香川県	善通寺市	龍川五条遺跡II 飯野東分山崎南遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	39	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199810
612	3708	農学部遺跡	のうがくぶいせき	香川県	三木町	農学部遺跡1	香川大学埋蔵文化財発掘調査報告	1	香川大学埋蔵文化財調査室	200203
619	3801	岩崎遺跡	いわさきいせき	愛媛県	松山市	岩崎遺跡	松山市文化財調査報告書	71	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199903

遺跡一覧表A-1

620	3802	大湫遺跡第3次	おおぶちいせき	愛媛県	松山市	大湫遺跡—第3次調査—	松山市文化財調査報告書	78	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	200003
621	3802	大湫遺跡第3次	おおぶちいせき	愛媛県	松山市	大湫遺跡—第3次調査—	松山市文化財調査報告書	78	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	200003
622	3802	大湫遺跡第3次	おおぶちいせき	愛媛県	松山市	大湫遺跡—第3次調査—	松山市文化財調査報告書	78	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	200003
613	3803	県民館跡地	けんみんかんあとち	愛媛県	松山市	史跡「松山城跡」内 県民館跡地	埋蔵文化財発掘調査報告書	81	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	200002
614	3803	県民館跡地	けんみんかんあとち	愛媛県	松山市	史跡「松山城跡」内 県民館跡地	埋蔵文化財発掘調査報告書	81	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	200002
615	3804	古照遺跡第6次	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	35	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199303
616	3804	古照遺跡第6次	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	35	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199303
618	3804	古照遺跡第7次	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	38	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199403
905	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
906	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
907	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
908	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
909	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
910	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	こでらいせき	愛媛県	松山市	古照遺跡	松山市文化財調査報告書	53	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199603
623	3805	樽味遺跡第4次	たるみいせき	愛媛県	松山市	樽味遺跡Ⅳ	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	IX	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200303
617	3806	道後今市遺跡第9次	どうごいまいちいせき	愛媛県	松山市	道後城北遺跡群Ⅱ 道後今市9次・道後鷺谷・祝谷大地ヶ田	松山市文化財調査報告書	37	松山市教育委員会・(財)松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター	199709
624	3807	文京遺跡第18次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡Ⅴ	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XVI	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200704

遺跡一覧表A-1

625	3807	文京遺跡第18次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡V	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XVI	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200704
626	3807	文京遺跡第18次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡V	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XVI	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200704
627	3807	文京遺跡第18次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡V	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XVI	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200704
628	3807	文京遺跡第25次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡VI	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XX	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200903
629	3807	文京遺跡第25次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡VI	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XX	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200903
630	3807	文京遺跡第25次	ぶんきょういせき	愛媛県	松山市	文京遺跡VI	愛媛大学埋蔵文化財調査報告	XX	愛媛大学埋蔵文化財調査室	200903
631	3901	不破遺跡	ふばいせき	高知県	中村市	不破遺跡	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	90	(財)高知県埋蔵文化財センター	200403
632	3901	不破遺跡	ふばいせき	高知県	中村市	不破遺跡	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	90	(財)高知県埋蔵文化財センター	200403
633	3901	不破遺跡	ふばいせき	高知県	中村市	不破遺跡	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	90	(財)高知県埋蔵文化財センター	200403
658	4001	碓遺跡第1次	いかりいせき	福岡県	久留米市	碓遺跡	久留米市文化財調査報告書	190	久留米市教育委員会	200303
639	4002	井相田D遺跡第2次	いそうだDいせき	福岡県	福岡市博多区	井相田D遺跡第2次調査	福岡市埋蔵文化財調査報告書	610	福岡市教育委員会	199903
640	4002	井相田D遺跡第1次	いそうだDいせき	福岡県	福岡市博多区	井相田D遺跡—第1・3次調査—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	701	福岡市教育委員会	200203
635	4003	岩本遺跡	いわもといせき	福岡県	福岡市西区	岩本遺跡—岩本遺跡群第3次調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	342	福岡市教育委員会	199303
656	4004	小郡川原田遺跡	おごおりかわらだいせき	福岡県	小郡市	小郡川原田遺跡II	小郡市文化財調査報告書	163	小郡市教育委員会	200203
648	4005	金山遺跡V区	かなやまいせき	福岡県	北九州市小倉南区	金山遺跡I・V区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	223	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199903
644	4006	上広瀬遺跡第1次	かみひろせいせき	福岡県	福岡市早良区	広瀬遺跡2・上広瀬遺跡1	福岡市埋蔵文化財調査報告書	901	福岡市教育委員会	200603
645	4006	上広瀬遺跡第2次	かみひろせいせき	福岡県	福岡市早良区	上広瀬遺跡2	福岡市埋蔵文化財調査報告書	928	福岡市教育委員会	200703
652	4007	蒲生大畔遺跡	がもうおぐろいせき	福岡県	北九州市小倉南区	蒲生大畔遺跡1(1区・2区・7区の調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	308	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200403
653	4007	蒲生大畔遺跡	がもうおぐろいせき	福岡県	北九州市小倉南区	蒲生大畔遺跡1(1区・2区・7区の調査)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	308	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200403
651	4008	蒲生寺中遺跡	がもうてらなかいせき	福岡県	北九州市小倉南区	蒲生寺中遺跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書	307	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200403
649	4009	黒崎遺跡	くろさきいせき	福岡県	北九州市八幡西区	黒崎遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書	280	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200202
637	4010	雀居遺跡第3次・第6次・第8次	ささいいせき	福岡県	福岡市博多区	雀居遺跡4	福岡市埋蔵文化財調査報告書	565	福岡市教育委員会	199803
641	4010	雀居遺跡第12次	ささいいせき	福岡県	福岡市博多区	雀居遺跡8	福岡市埋蔵文化財調査報告書	747	福岡市教育委員会	200303
638	4011	下月隈C遺跡第2次	しもつきぐまCいせき	福岡県	福岡市博多区	下月隈C遺跡2—下月隈C遺跡2次・3次調査—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	566	福岡市教育委員会	199803
642	4011	下月隈C遺跡第6次	しもつきぐまCいせき	福岡県	福岡市博多区	下月隈C遺跡V	福岡市埋蔵文化財調査報告書	839	福岡市教育委員会	200503
643	4011	下月隈C遺跡第7次	しもつきぐまCいせき	福岡県	福岡市博多区	下月隈C遺跡VI(本文編)	福岡市埋蔵文化財調査報告書	881	福岡市教育委員会	200603
636	4012	次郎丸高石遺跡第3次	じろうまるたかいせき	福岡県	福岡市早良区	福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告2	福岡市埋蔵文化財調査報告書	536	福岡市教育委員会	199703
657	4013	大宰府条坊跡第230次	だざいふじょうぼうあと	福岡県	太宰府市	大宰府条坊跡25	太宰府市の文化財	75	大宰府市教育委員会・玉川文化財研究所	200403
650	4014	長野尾登遺跡第2地点E~H区	ながのおのぼりいせき	福岡県	北九州市小倉南区	長野尾登遺跡第2地点E~H区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	286	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200203

遺跡一覧表A-1

655	4014	長野尾登遺跡第2地点	ながのおのぼりいせき	福岡県	北九州市小倉南区	長野尾登遺跡第2地点(L区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	396	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200803
654	4015	長野フンデ遺跡	ながのふんδειせき	福岡県	北九州市小倉南区	長野フンデ遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書	348	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200603
647	4016	中伏遺跡Ⅱ区・Ⅳ区	なかぶせいせき	福岡県	北九州市八幡西区	中伏遺跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書	135	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199303
911	4017	東比恵三丁目遺跡第1次	ひがしひえさんちようめいせき	福岡県	福岡市博多区	東比恵三丁目遺跡	福岡市埋蔵文化財調査報告書	636	福岡市教育委員会	200003
646	4017	東比恵三丁目遺跡第2次	ひがしひえさんちようめいせき	福岡県	福岡市博多区	東比恵三丁目遺跡2	福岡市埋蔵文化財調査報告書	1051	福岡市教育委員会	200903
634	4018	屋舗内遺跡	やしきうちいせき	福岡県	うきは市	流川地区遺跡群	福岡県文化財調査報告書	171	福岡県教育委員会	200203
664	4101	快万遺跡1区・2区	かいまんいせき	佐賀県	佐賀市	快万遺跡1区・2区	久保田町文化財調査報告書	5	久保田町教育委員会	200203
663	4102	蔵上遺跡	くらのうえいせき	佐賀県	鳥栖市	蔵上遺跡Ⅱ	鳥栖市文化財調査報告書	60	鳥栖市教育委員会	200003
659	4103	坪の上遺跡	つぼのうえいせき	佐賀県	佐賀市	坪の上遺跡Ⅰ	佐賀市文化財調査報告書	93	佐賀市教育委員会	199803
660	4104	徳永遺跡21区	とくながいせき	佐賀県	佐賀市	徳永遺跡群Ⅶ 徳永遺跡21区	佐賀市文化財調査報告書	128	佐賀市教育委員会	200109
662	4104	徳永遺跡13区・19区	とくながいせき	佐賀県	佐賀市	徳永遺跡群Ⅹ 徳永遺跡13区・19区	佐賀市文化財調査報告書	138	佐賀市教育委員会	200203
912	4105	中原遺跡5区	なかばるいせき	佐賀県	唐津市	中原遺跡Ⅲ 5区の調査	佐賀県文化財調査報告書	179	佐賀県教育委員会	200903
913	4105	中原遺跡5区	なかばるいせき	佐賀県	唐津市	中原遺跡Ⅲ 5区の調査	佐賀県文化財調査報告書	179	佐賀県教育委員会	200903
914	4105	中原遺跡5区	なかばるいせき	佐賀県	唐津市	中原遺跡Ⅲ 5区の調査	佐賀県文化財調査報告書	179	佐賀県教育委員会	200903
661	4106	増田遺跡5区	ますだいせき	佐賀県	佐賀市	増田遺跡群Ⅵ	佐賀市文化財調査報告書	130	佐賀市教育委員会	200203
666	4301	大江遺跡群第106次	おおえいせきぐん	熊本県	熊本市	大江遺跡群Ⅵ			熊本市教育委員会	200703
668	4302	黒髪町遺跡本荘北地区9601調査地点	くろかみちよういせき	熊本県	熊本市	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	Ⅳ	熊本大学埋蔵文化財調査室	200803
669	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9603調査地点	くろかみちよういせき	熊本県	熊本市	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	Ⅳ	熊本大学埋蔵文化財調査室	200803
670	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9704調査地点	くろかみちよういせき	熊本県	熊本市	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	熊本大学構内遺跡発掘調査報告Ⅳ	Ⅳ	熊本大学埋蔵文化財調査室	200803
667	4303	山王遺跡第1次	さんのういせき	熊本県	熊本市	山王遺跡			熊本市教育委員会	200803
665	4304	西片町遺跡	にしかたまちいせき	熊本県	八代市	西片町遺跡	熊本県文化財調査報告	153	熊本県教育委員会	199603
675	4401	大肥吉竹遺跡	おおひよしたけいせき	大分県	日田市	大肥吉竹遺跡	日田市埋蔵文化財調査報告書	48	日田市教育委員会	200403
671	4402	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡	こうちたにおちやあと・こうちたにばばあと	大分県	竹田市	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡			大分県教育委員会	199503
674	4403	玉沢地区条里跡第3次	たまざわちくじょうりあと	大分県	大分市	玉沢地区条里跡第3次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	59	大分市教育委員会	200503
672	4404	八坂久保田遺跡	やさかくぼたいせき	大分県	杵築市	八坂の遺跡Ⅰ 総説・八坂久保田遺跡・八坂本庄遺跡	大分県文化財調査報告書	150	大分県教育委員会	200303
673	4405	八坂本庄遺跡	やさかほんじょういせき	大分県	杵築市	八坂の遺跡Ⅰ 総説・八坂久保田遺跡・八坂本庄遺跡	大分県文化財調査報告書	150	大分県教育委員会	200303
681	4501	草刈田遺跡	くさかりたいせき	宮崎県	えびの市	草刈田遺跡	えびの市埋蔵文化財調査報告書	39	えびの市教育委員会	200403
682	4502	坂元A遺跡	さかもとAいせき	宮崎県	都城市	坂元A遺跡 坂元B遺跡	都城市文化財調査報告書	71	都城市教育委員会	200603
683	4502	坂元A遺跡	さかもとAいせき	宮崎県	都城市	坂元A遺跡 坂元B遺跡	都城市文化財調査報告書	71	都城市教育委員会	200603
679	4503	昌明寺遺跡	しょうみょうじいせき	宮崎県	えびの市	昌明寺遺跡	えびの市埋蔵文化財調査報告書	30	えびの市教育委員会	200102

遺跡一覧表A-1

680	4503	昌明寺遺跡	しょうみょうじ いせき	宮崎県	えびの市	昌明寺遺跡	えびの市埋蔵文化財調査報告書	30	えびの市教育委員会	200102
684	4504	中尾下遺跡	なかおしたい せき	宮崎県	都城市	中尾下遺跡	都城市文化財調査報告書	98	都城市教育委員会	200903
676	4505	母智丘谷遺跡	もちおだにい せき	宮崎県	都城市	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
677	4505	母智丘谷遺跡	もちおだにい せき	宮崎県	都城市	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
685	4601	鍛冶屋馬場遺跡	かじやばばい せき	鹿児島県	薩摩川内市	鍛冶屋馬場遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	39	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200203
686	4602	京田遺跡	きょうでんい せき	鹿児島県	薩摩川内市	京田遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	81	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200503
687	4603	橋牟礼川遺跡	はしむれがわ いせき	鹿児島県	指宿市	橋牟礼川遺跡Ⅲ	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書	10	指宿市教育委員会	199203

遺跡一覽表 A-2

洪水痕跡検出位置
発掘調査報告書記載内容
相对年代

遺跡一覧表A-2

番号 総	遺跡名	遺跡名	検出位置		報告書記載内容・該当ページ	年代		備考
			検出区	層など		報告書	本稿	
003	0101	H513遺跡		2層群	p34: (2層群は)埋没河川中の一部で確認。砂・シルト主体で、小礫を含む層もある。3a層の腐植土を含む層の上位で確認されることから、3層堆積後に河川の氾濫があった可能性を示すものである。(中略)(直下の3層群は)腐植土の発達する3a層及び3c層、その間層となるTa-aを基本とし、(中略)近世から近代に堆積したと見られる。	▼近世～近代。	近代～現代。	
004	0101	H513遺跡		4層群	p34: (前略)堆積状況から見ると、下位の5層群堆積後、3層群堆積までの間に数次にわたる大規模な河川の氾濫があったことが理解できる。(中略)(直下の3層群は)中世から近世に堆積したと思われるが、年代観を明確にしうることではできなかった。	▼中世～近世。△1739年。	17世紀～1739年?	
002	0102	K435遺跡	(D1地点)	4c～4h	(上野秀一「環境変遷と遺構群」Jpp449-451)p450: 5a, 5'層が堆積しその上面で人々が居住した直後には、D1地点第14・15号竪穴住居跡の覆土堆積物やその上にある4c～4h層の砂～砂質土が堆積する状況からも判断されるように、再び大量の河川堆積物が供給される環境(中略)この激しい河道の動くに呼応する形で、D1地点をはじめとしてかつての氾濫原などの低い部分はほとんど埋積され、一旦は平坦化する結果となった。(中略)この後、はじめに居を構えたのはD2～3地点の4b1層面段階である。(中略)この時期は出土遺物から見て擦文前期段階である。p450(4～7行目): (5a層面は)時期的には、A地点例は各種時期の資料が混在している可能性もあるが、少なくとも今次調査資料中では比較的古い擦文早期前半まで遡り得る可能性がある資料も含む。C地点は(中略)擦文早期後半の中の8世紀初頭から前半のもの、D1地点は同期後半の8世紀後半のものである。	▼擦文早期後半(8世紀初頭～後半)。△擦文前期。	擦文早期末葉～前期初め(8世紀末葉～9世紀初め)。	
005	0103	K523遺跡			p18: 分層出来た層の総数は全部で64層あり、堆積環境から大きく12の層群に分けて理解することが出来る。p19: (3層群は)Ta-aと見られる粗粒火山灰を起源とする層。(中略)(4層群について)埋没河川内に確認された土層で、堆積状況から35層に分類される。時期的には埋没河川内に水が流れていた時代から樽前a火山灰降下直前までの堆積層である。全体を概観した結果、今回の調査では埋没河川の川幅及び川底は確認できなかったが、調査区西側に向かって河床部が深く落ち込む地形が確認された。また、河川内の埋没過程に7つの画期が確認され、第12～14画期において、4c, 4f, 4j, 4k-5, 4l-0, 4l-2, 4l-4層の下面を太線で示している部分である。河川堆積物が徐々に蓄積し、河床の位置が西から東へ移動していることが確認できる。特に4f層は微高地が河川によって削られた直後に堆積した状況が観察され、河川が埋没する過程において、流路が徐々に東側にずれたことを示すものである。また、4k層並びに4l層は全部で20の層に細分したが、流木などの関係で中州状に堆積したもので、比較的大型の流木が多量に出土していることが観察できる。この中州が形成されたことにより、河川の流路が東側に広がり、微高地面が削られたことが推察される。河川内からは、擦文土器、黒曜石製削片、木製品などの遺物が4g, 4m, 4q層から出土しているが、これらの遺物は河川流路が変わった際に微高地面とともに遺物包含層も削られたため、2次的に混入したものと思われる。なお、遺物が主体的に混入するのが4m, 4q層であることから、中州形成以前から微高地面は河川に削られており、それだけの規模を誇る河川の氾濫が遺跡形成以後に発生し、その際、大量の堆積物や流木などの混入物によって中州が形成された可能性が高い。(中略)(7層群について)堆積状況及び出土遺物から中世から近世に堆積したと思われる。	▼中世～近世。△1739年(Ta-a)。	17世紀～1739年?	
001	0104	柏木川4遺跡			p177: 近現代流路は、B地区の調査時に確認したもので、B-76・77区付近にみられるTa-aを切る流れである。堆積状況は、5～10cm程度の礫とシルト質粘土の互層で、急激な氾濫の堆積を示す。現柏木川は、明治から現在にかけて多くの氾濫を繰り返してきており、その一端を示している。	★明治～近代。	近代～現代。	

遺跡一覧表A-2

009	0301	押切遺跡	基本層序	I	p10: (前略)表土を除去したところ、3箇所のコンクリートのタタキ面が検出され、近似するレベルに礫の散布もみられた。この面を「第I面」とした畑の耕作土にはぶい黄褐色砂質土(基本土層I層)で洪水起源の砂と推測される。第I面出土の陶磁器、ガラス瓶の年代観、コンクリートの使用年代観から、基本土層のI層は、昭和22年のアイオン台風、昭和23年のカザリン台風の洪水の所産による砂層と推測される。水害による砂の堆積で第I層が被覆されたと解釈される。p64: 遺跡地内調査地内には昭和23年頃まで2つの屋敷が所在していたという。(中略)屋敷開始年代は明治初頭頃が妥当と考える。	★1947年。 ▼昭和。	1947年。	
010	0301	押切遺跡	基本層序	I	同上。	★1948年。 ▼昭和。	1948年。	
013	0302	中村城跡	1~7号堀跡		p144: (中世について)遺構の廃絶についてであるが、1~7号堀跡の断面にはいずれも水成堆積した状況が認められる。1号堀跡は2層以下、2号堀跡は2a層以下、3・4号堀跡は1層以下、5号堀跡は7層以下、6号堀跡は2層以下、7号堀跡は3層以下にほぼ同じ堆積状況が観察され、水成堆積後は人為的に一括土で埋め戻されている。このように大規模な水成堆積はおそらく金流川の氾濫による洪水堆積と推定される。この洪水後まもなく、人為的な埋め立てが行われ廃絶したものと考えられる。これらの中世に係わる出土遺物と各遺構の堆積状況から、城館として機能していた時期幅は13世紀中葉~17世紀初頭までと捉えられる。その中でも15世紀半ば~16世紀代が中心時期と考えられる。	▼13世紀中葉~17世紀初頭(とくに15世紀中葉~16世紀)。	16世紀~17世紀初め?	
011	0303	穂貴田遺跡	基本層序	IV	pp67-68: (前略)(遺跡周辺の地形について)ほぼ平らになったのは、穂貴田遺跡では、IV層上面かIII層下部辺りで縄文時代中期の終わり~後期初めころと推測されるが、駒板遺跡ではII層で中~近世と推測される。III層下部から縄文時代後期前葉の土器、上部から平安時代の土器が多く出土するためである。IV層もII層も基本的には洪水堆積層である。IV層は、柳之御所遺跡付近のL2面を形成する堆積層に相当するのであろう。そして、「奥州藤原氏滅亡後、鎌倉時代後期になると洪水頻度が高く」なったとされており、II層はおそらくこの時によるものと推測される。	★鎌倉後期? △中世~近世。	鎌倉後期。	参考:野中奈津子 2005「柳之御所付近の沖積地の河川氾濫と河道痕跡の検出—地形学的手法を用いて—」『平泉文化研究年報』5 岩手県教育委員会 pp37-43
007	0304	本町II遺跡第2次	S10	II	p347: S10上層の第II層にみられる厚い堆積は、昭和20年代の大洪水(カザリン、アイオン台風)による堆積であることが、聞き取り調査から確認されている。	★1947年。	1947年。	
008	0304	本町II遺跡第2次	S10	II	同上。	★1948年。	1948年。	
927	0305	柳之御所遺跡第69次	21SD2		p17: V層は灰褐色~黒褐色を呈する粘質土・粘土である。下位ほど粘土になる傾向がある。層中にはラミナが確認され、完形のかわけも多数包含する。このため、この層は12世紀代に自然に水性堆積した層と考えられる。したがって、この層で21SD2付近は覆われており、洪水等により冠水したと想定できる。p65: 21SD2の出土遺物は、出土状況から廃絶の時期に近いものが多く、その構築時期を示すと考えられる遺物は少なく判断が難しい。21SD2の構築時期については、より構築の時期に近いと想定できる旧期の堀の堆積層出土遺物が、器高の高い椀型の器形で口径が15cm前後のロクロかわらけ大皿で、12世紀前半代の遺物に多くみられる特徴をもつことは注目される。	★12世紀。 ○12世紀(とくに前半?)。	12世紀。	
017	0401	市川橋遺跡	SD516 3・ 5164・ 5166河 川跡		p102: (SD5163・5164・5166河川跡は)小規模な支流、もしくは洪水等による一時的な水流の痕跡とみられる。(中略)平安時代でも新しい時期の河道であるSD5162・5163・5164・5166河川跡は、(後略)。p283: (南北大路廃絶以降(10世紀後葉以降)について)この段階と考えられる遺構は、G区のSD5214やSD5218など南北大路を斜行する溝跡やSD5162~5166河川跡にすぎない。	★平安後半(10世紀後葉以降)。	11世紀~12世紀?	

016	0402	一里塚遺跡第47次		⑥～ ⑧	p13:(⑤層について)Ⅲ区とⅠ区西部の北半に部分的に認められる灰白色火山灰層である。(中略)⑥層について:褐灰色のシルトで、調査区全域に分布しているが、西部では薄い。黄色味が強く、やや砂質で、上部が風化して黒味を帯びる部分もある。河川の氾濫によって一度に堆積した土の可能性がある。(⑦層について)にぶい黄褐色のシルトで、Ⅰ区中央より西側に厚く分布している。非常に黄色味が強く、やや砂質で、河川の氾濫によって一度に堆積した土の可能性が高い。(⑧層について)灰黄褐色のシルトで、調査区全域で認められる。黄色味が強く、やや砂質で、河川の氾濫によって一度に堆積した土の可能性がある。この層の上面で、小溝状遺構群の掘り込みを確認している。上面の標高は15.3～16.0mで、緩やかに東側へ傾斜し、東端部で低くなる。(⑨層について)Ⅰ区の東部からⅡ区の西半にかけて分布する褐色の砂質シルトで、調査区ほぼ中央を南北に縦走する旧河道の堆積土最上層である。この層の上面では、古墳時代末期の竪穴住居跡などの遺構の掘り込みが確認されており、少なくともこれ以前に埋まりきっていたものと考えられる。p114:検出された遺構には掘立柱建物跡、柱穴列、材木堀跡、溝跡、小溝状遺構群、土坑などがある。p132:(第47次調査区について)(前略)遺構確認面の直上にあたる基本層序⑥～⑧層は河川の氾濫によって一度に堆積した可能性が強く、上部にある灰白色火山灰との関係からその堆積は比較的遺構期に近い時期と考えられる。p146:(第44次調査区)の建物群は出土遺物の年代観を加味すると、8世紀後葉から9世紀中葉頃の間で、比較的短期間利用された官衙に関連する施設と考えられる。	▼8世紀後葉～9世紀前葉。△10世紀前葉(灰白色火山灰)。	9世紀～915年(灰白色火山灰)?	
021	0403	鴻ノ巣遺跡第7次		3a	p9:(2b層について)上面で中世、平安時代、奈良時代の遺構が検出された。(3a層は)黄褐色砂。遺構や3b層上面の凹地に沿うように部分的に分布する。河川の氾濫によって運ばれたと考えられる自然堆積層(河川氾濫堆積物)。上面で古墳時代終末期から奈良時代前葉にかけての遺構が検出された。(3b層は)暗褐色シルト質砂。調査区の南部を中心に分布する。成因は不明である。層厚は10～30cm。上面で古墳時代後期の遺構が検出されたほか、層中から同期の遺物がまとまって出土している。p280:SR3a溝跡では、3a層が堆積する直前の2層上面からⅣ期2段階の6世紀中葉の土師器がまとまって出土していることから、形成年代は6世紀中葉ごろと考えられる。その後、6世紀中葉から7世紀中葉頃までの空白期間を経て、7世紀後葉以降に再び遺構が形成されるようになる。	★6世紀中葉。▼古墳後期。○6世紀中葉。△7世紀後葉。	6世紀中葉。	
018	0404	中野高柳遺跡第1次・第2次	基本層序	Ⅳ	p9:(第Ⅲ層は)中世以降の旧表土である。(中略)(第Ⅳ層は)にぶい黄褐色砂質シルトを主体としており、河川の氾濫を起源とする層である。SD1100河川跡を中心に認められる。氾濫によってSF1303・1333畑耕作痕やSD1151区画溝跡は東端部が壊されている。厚さは河川跡の最も深い部分で260cmあり、層の細分も可能で砂質シルトのほか、砂やシルト、粘土が認められる。p70:(前略)遺構期を大別7期設定した。p71:(第Ⅰ期について)(前略)(第Ⅱ期について)基本層序第Ⅴ層で確認したSF1303畑跡、SF1333畑跡の時期である。(中略)SD1151と河川の接続部は土坑状に大きく壊されており(SX1154)、河川の氾濫が畑の廃絶原因と考えられる。年代は上限が灰白色火山灰の降灰年代で、下限はSX1154に廃棄された土器の年代が10世紀前半であることから、10世紀前葉以降の10世紀前半代と考えられる。	★10世紀前半。▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。△中世以降。	10世紀前半(915年(灰白色火山灰)以降)。	

019	0404	中野高柳遺跡 第8次	基本層 序	IV	<p>p22:(第Ⅲ層は)中世以降の旧表土である。(中略)(第Ⅳ層は)にぶい黄褐色の砂質シルトもしくはシルトを主体としており、河川の氾濫を起源とする層である。SD1100河川跡を中心に認められる。氾濫によって、畑や水田とその区画溝は、河川と接する部分などが壊されている。住宅地区のSD1100では、厚さが260cmあった。層の細分が可能で、砂や粘土も認められる。p23:(前略)(古代の遺構について)これらの遺構は、10世紀前葉に降灰した灰白色火山灰とその後の氾濫によって埋没する。第Ⅴ層の畑は、5区北東部で検出された。一方、B区は調査区のほとんどが河川や河川敷となっているため、遺構は確認できなかった。p302:(第Ⅲ期について)遺跡北東部に屋敷がつくられる。年代は12世紀と考えられ、第Ⅲ期の終末とは1世紀半以上のブランクがある。第Ⅲ期以降は遺跡内に様々な屋敷が構えられるようになり、古代とは土地利用のあり方が全く異なる。p303:第Ⅰ～Ⅱ期の河川は、10世紀中葉の洪水によって埋没し、中央部分が湿地化する。湿地跡左岸北部には幅1mほどの溝で画された屋敷L～Nがつくられる。</p>	<p>★10世紀中葉。▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。△中世以降。</p>	10世紀中葉。	
020	0404	中野高柳遺跡 第8次	基本層 序	V	<p>pp22-23:(第Ⅴ層は)にぶい黄褐色シルトを主体としており、河川の氾濫を起源とする層と考えられる。遺跡全体で認められ、(中略)層の厚さは自然堤防上で10～20cm、その縁辺部では30～40cmある。p23:(第Ⅵ層は)灰白色火山灰である。(中略)古代の遺構は、5・D区の第Ⅶ層上面で検出した畑跡や水田跡、5区第Ⅴ層で検出した畑跡である。第Ⅶ層の畑は5区とD区の西半部にひろがり、遺跡中央を南北に流れる河川(SD1100)と接続する溝で南と東を画されている。水田は5区北東部で検出され、溝で三方(北・西・南)を囲まれている。これらの遺構は、10世紀前葉に降灰した灰白色火山灰とその後の氾濫によって埋没する。第Ⅴ層の畑は、5区北東部で検出された。一方、B区は調査区のほとんどが河川や河川敷となっているため、遺構は確認できなかった。p302:(第Ⅲ期について)遺跡北東部に屋敷がつくられる。年代は12世紀と考えられ、第Ⅲ期の終末とは1世紀半以上のブランクがある。第Ⅲ期以降は遺跡内に様々な屋敷が構えられるようになり、古代とは土地利用のあり方が全く異なる。p303:第Ⅰ～Ⅱ期の河川は、10世紀中葉の洪水によって埋没し、中央部分が湿地化する。湿地跡左岸北部には幅1mほどの溝で画された屋敷L～Nがつくられる。</p>	<p>★10世紀中葉。▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。△中世以降。</p>	10世紀中葉。	
014	0405	上代遺跡		7	<p>p94:(6層は)しまりのある黄灰色の砂質シルト。6区以北のほぼ全域に分布し、段丘に近い2a・5・6a区では軽石および白色砂礫(径2～3mm)を多く含む。水田もしくは畑の耕作土の可能性もある。7層暗灰黄色の中砂と黄灰色の砂質シルトからなるしまりのない水成堆積層。短期間に供給されたような堆積状況にあり、層厚が5～25cm程で調査区のほぼ全域を覆っている。(8層は)古代の水田耕作土で、黒褐色の砂質シルトからなる。p109:(8層上面の遺構について)(前略)9層堆積後の復旧が間層を挟まずほぼ同位置・同規模で行われていることや、9層の堆積が認められない6区では10層水田跡を直接7層が覆っていることなどからみて、両者の間に時間的な隔たりはほとんどないものと思われる。(7層上面の遺構について)層上面で検出したSD9溝跡とSD10河川跡については、出土遺物がほとんどなく明らかではないが、7層が短期間に供給された水成堆積層で、灰白色火山灰層(5層)との間に水田もしくは畑耕作土の可能性のある堆積土(6層)を5～15cm程の厚さで介在していることを考慮すれば、灰白色火山灰が降下する10世紀前葉よりもある程度の時間幅をもって古いと考えられる。概ね9世紀後半頃と推定される。</p>	<p>▼9世紀前半。△9世紀後半。</p>	9世紀中葉?	p111に「洪水等の2度にわたる大規模な自然災害」と記載あり。

015	0405	上代遺跡		9	p94: (8層は)古代の水田耕作土で、黒褐色の砂質シルトからなる。9層の堆積後に鋤き込まれているためか、10ab層に比べて全体的に砂っぽい。9層が確認された5区以北に分布する。(9層は)暗灰黄色の中砂と黒褐色の粘質シルトからなるしまりのない水成堆積層。7層と同様の堆積で、5区以北に分布する。(10層は)古代の堆積層で、9層に覆われる。p109: (10層の遺構について)(前略)年代は概ね9世紀前半頃と考えられる。p111: (上代遺跡全般について)水田跡は、9世紀前半頃に段丘縁辺の基礎整地や430m以上にわたる基幹水路の掘削などの大規模な造成工事を伴って、広大な範囲に新規開田されたもので、洪水等の2度にわたる大規模な自然災害を経て、9世紀後半頃に廃絶されている。本遺跡周辺において、玉造郡家による在地支配がどの程度およんでいたかは明らかではないが、今回の調査区域における大規模な新田開発および災害後の復旧などは一集落単位で成し得る事業とは考え難く、律令支配の下で遂行された可能性が高いものと思われる。	▼9世紀前半。△9世紀後半。	9世紀中葉?	p111に「洪水等の2度にわたる大規模な自然災害」と記載あり。
023	0501	厨川谷地遺跡	基本層序	Ⅲ	p14: Ⅲ層(河川堆積物)は微高地上で厚さ30cmに及び、その上部に十和田aを包含するため、上面の遺構は概ね10世紀前葉、Ⅲ層中に埋没した遺構は9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。微高地を囲う旧河道内では前記堆積物が1m以上もの厚さとなっており、河川の運搬・堆積作用により大型の炭化物を多量に含む粘土鉱物が集中的に運ばれたことを確認した。p237: (前略)本遺跡でⅢ層と呼称する河川堆積物には大型の炭化物が多量に含まれており、それらは東～北東方の丘陵域(奥羽山脈西麓)から河川により運搬され、堆積したものと考えられる。そこで行われた森林の伐採を伴う大規模な開発行為は、土師器焼成に係る大規模な生産活動と無関係ではなかったのではないだろう。	▼9世紀後葉～10世紀初頭。△10世紀前葉。	10世紀前葉。	
022	0502	払田柵跡第93次	河川跡SL1035	河川跡SL1035埋土	p44・48: 河川跡SL1035に伴う砂礫層は、20センチでは厚さ80cmになる。その上には火山灰と砂が相互に細かい層理をなす。p78: 河川は9世紀初頭には存在し、9世紀末～10世紀前半に大きな氾濫があったり、川下の河道が変わるなどして、多くの砂礫層を堆積させる状況に変化し、最終段階も古代の範囲内と推定される。	★9世紀末～10世紀前半。	9世紀末葉～10世紀前半。	
025	0502	払田柵跡第139次	A区	Ⅲ	p10: A区では比較的厚く地山粘土層(第Ⅳ層)が堆積しているが、第Ⅳ層の上位には多量の炭化物が混じる洪水堆積物(第Ⅲ層)が第Ⅳ層上面の凹凸を補整するように20cm程度堆積し、少量ではあるが土器・木製品などの遺物も包含していた。第Ⅲ層の上位に二次堆積の白色火山灰層(第Ⅱb層)を確認し、第Ⅲ層の堆積時期は火山灰の降灰期が下限とすることを確認した。この点では厨川谷地遺跡の堆積状況に類似し、第Ⅲ層の上限は9世紀後半代と想定される。また、第Ⅳ層にもごく少量の炭化物及び遺物が包含されることから、第Ⅳ～Ⅲ層は河川による連続的な洪水堆積物で構成され、第Ⅳ層から第Ⅲ層への変化は包含する炭化物の状況から河川上流の奥羽山麓における大規模開発に伴う焼き払い等が活発化した画期を示すと考えられる。	▼9世紀後半。△915年。	9世紀後半～915年。	
026	0502	払田柵跡第140次	基本層序	Ⅲ'	p14: 第Ⅲ層 暗オリーブ灰色粘土炭中粒中量含む。創建期外柵造営の際の盛土。造成土。第Ⅲ'層 灰オリーブ色シルト層炭小粒中量含む、河川により洪水堆積物層。第Ⅲ'下層 オリーブ褐色シルト層炭小粒中量含む、Ⅲ'層同様の河川堆積層、河川により第Ⅲ(～Ⅳ層)が浸食された後に堆積した層準で調査区東半部に分布。第Ⅳ層 黒色粘質シルト層創建期の旧表土、Ⅳ～Ⅴ層は漸移的。	▼9世紀後半。△915年。	9世紀後半～915年。	139次調査と同位置のもの?
024	0503	堀ノ内遺跡		I b	p19: I b層は層厚約70～180cmの混土砂礫層である。調査区西側に確認された旧河川流路を埋めている。調査時の聞き取りで、昭和20年代ごろに集中豪雨による大規模な山崩れが発生し、調査区域内に土砂が厚く堆積したと聞いた。本土層はこの際の土砂と推察される。	★昭和20年代。	1945年～1954年。	

029	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	SG25・435河川跡	F4	p25:(SG25・435河川跡覆土の)F4は(中略)洪水によって上流や周囲より多量の遺物が流れ込んだものと考えられる。p29:出土土器に当てはまる年代は、F6層が8世紀第1四半期後半から第2四半期を中心とする頃、F5層は8世紀第2四半期後半から第4四半期にかけて、F4層が8世紀第4四半期末～9世紀第3四半期初頭にかかる頃、F3がやや重複するが9世紀第2四半期から第3四半期を中心とする頃、(後略)。p103:SG435はF1～7の層序毎に多量の土器を包含する覆土が堆積しており、F4・6は洪水が原因したと考えられる砂の堆積層である。	▼8世紀第2四半期後半～第4四半期。○8世紀第4四半期末～9世紀第3四半期初頭。△9世紀第2四半期～第3四半期。	9世紀第3四半期。
030	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	SG25・435河川跡	F6	p25:(SG25・435河川跡覆土の)F6は(中略)F4同様に洪水により流入して堆積したものと思われる。p29:出土土器に当てはまる年代は、F6層が8世紀第1四半期後半から第2四半期を中心とする頃、F5層は8世紀第2四半期後半から第4四半期にかけて、F4層が8世紀第4四半期末～9世紀第3四半期初頭にかかる頃、F3がやや重複するが9世紀第2四半期から第3四半期を中心とする頃、(後略)。p103:SG435はF1～7の層序毎に多量の土器を包含する覆土が堆積しており、F4・6は洪水が原因したと考えられる砂の堆積層である。	○8世紀第1四半期後半～第2四半期。△8世紀第2四半期後半～第4四半期。	8世紀第2四半期。
034	0602	一ノ坪遺跡	河川跡SG17	2	p5:(一ノ坪遺跡について)遺構覆土は若干砂を含むものもあることから、遺構の埋没にも河川の氾濫が作用し、廃絶の一つの要因とも推測される。p10:(SG17河川跡について)調査区北部A～E-13～15グリッドに位置する東西に延びる河川跡である。幅約5.5m前後、検出面からの深さは76～190cmを測る。西側にかけて急激に深くなり、平面でも西端で北側に強く屈曲し、土砂が厚く堆積する。覆土は、全体で3層に大別され、2層目に砂礫の洪水層を挟み、上層では浅い窪地状の流路に変遷する。出土遺物は本遺跡の出土土器の半分程の割合で最も出土している。覆土2層より糸切の須恵器坏や高台付坏、内黒土師器坏、赤焼土器坏等を主に9世紀中～後半代の土器群が出土し、覆土3層からは上層より古相の小形でやや身の深い9世紀前半頃の赤焼土器坏等が出土し、他に古墳時代前期の土師器壺片や、縄文時代後期末葉の瘤付土器の深鉢片が出土している。	▼9世紀前半。○9世紀中葉～後半。	9世紀後半。
033	0603	漆山長表遺跡		Ⅲ	p7:基本層序はⅠ層が黒褐色の耕作土、Ⅱ層が黒褐色粘質シルト層、Ⅲ層が暗褐色微砂層(地山)、Ⅳ層が黒褐色粘質シルト～粘土層である。Ⅱ層下部から遺物の包蔵が認められ、遺構の検出面はⅢ層直上面であった。柱穴等遺構の壁面状況や南区南西縁のトレンチ調査からⅢ層の微砂層は総じて薄く広がる分布を示し一律の厚さでは堆積していない。これは自然堤防形成以前の低湿地(Ⅳ層の泥炭層)の凹部に河川の氾濫により土砂が運ばれ、Ⅲ層を作り上げた結果といえよう。南区南西縁では検出面が削平を受けているが、Ⅲ層直下のⅣ層泥炭層がほぼ遺構確認面と同レベルに表れ、遺跡等の立地に適さない状況を示している。遺構覆土は砂を含み遺構の埋没にも河川の氾濫が作用し、廃絶の一つの要因とも推測される。p29:調査区の主体である奈良・平安時代の遺構・遺物からは概ね8世紀後半が主体をなし、10世紀前半代で廃絶し、9世紀後半段階での土器相が希薄である。これは高瀬川等が氾濫の要因の一つとして考えられ、集落が一時期移転、廃棄された結果と推測される。	★9世紀後半～10世紀前半?	9世紀後半～10世紀前半?
039	0604	庚壇遺跡	河川跡SG2		[須賀井明子「庚壇遺跡の成立過程について」pp118-120]p118:(奈良・平安時代について)p119:(前略)上記SD11溝跡とはやや主軸の異なるSD54・76溝跡からも、9世紀前半から半ば過ぎの遺物が多く出土している。そして、これら2つの溝跡を切って、SG2川跡が流れ下っている。覆土や遺物の様相から、SG2川跡は常に流れていた河川ではなく、9世紀後半頃に発生した洪水時の流路跡と推定される。古代で1軒だけ見つかったST1竪穴住居跡も、このSG2川跡とほぼ同時期のものと考えられる。古代が過ぎると、近世に至るまでしばらく遺構が検出されない時期がある。(後略)	★9世紀後半。	9世紀後半。

032	0605	上高田遺跡第2次・第3次	SG1・1300・1301河川跡	p15: (SG1301河川跡について)3区のD~I-59~65Gに位置する河川跡である。検出面ではSG1300と直接繋がらないが、河川の向きや包含遺物の時期を検討すると、SG1300と関連が非常に強く、洪水などによる非継続的な流路変更により形成された可能性が非常に高い。土層を観察すると、概ね灰褐色系の砂質シルトであるが、中間に十和田aテフラを含む層を確認できる。各層とも包含遺物は9~10世紀の須恵器、赤焼土器の細片で、実測可能な大きさに復元できたものではなく、割れ口も摩耗しており、流れ込みであることを如実に物語っている。	○9世紀~10世紀。	9世紀~10世紀?	
027	0606	木原遺跡		p4: 遺跡域での基本層序は、以下に記す4層から構成される。I層:暗褐色粘質シルト(耕作土)、II層:褐色粘質シルト、III層:暗褐色粘質シルト(遺物包含層)、IV層:にぶい黄褐色シルト(遺構検出面)である。 p37: (前略)主だった遺構の変遷と遺物群の各年代観は、I期:SK304・540・393(9世紀1/4~2/4期)、II期:SK302・SX617(10世紀1/4期)、III期:SE30・SX938・977・SK7(10世紀2/4期)等に比定される。これらは火山灰を鍵層とする各遺構の新旧と各々の遺物群の年代ともほぼ合致する。本遺跡の遺構・遺物は上記の概ねII期とIII期が主体をなし、9世紀後半段階での土器相を欠落する。すなわち、I期とII期の間の約半世紀近い空白期が指摘できる。恐らく、月光川や高瀬川など河川の大规模な氾濫などが一つの要因と考えられ、その結果一時的にしろ集落の停廃が生じたと推測される。	★9世紀後半。▼9世紀第1四半期~第2四半期。△10世紀第1四半期。	9世紀後半。	
037	0607	三条遺跡第2次・第3次	河川跡SG134	pp16-17: (B~G・K調査区の河川について)SG134・323が検出された。両河川は流路がほぼ同位置69~74-49~72Gにあり、同一の河川であるが、覆土の状態から上位のSG134と下位のSG323に分けて登録した。SG134は灰色の細砂層、SG323は黒色~黒褐色の粘土質シルトが主体を占める。(中略)SG134はかなりの勢いの短期的な流水とみられる。また、水田を覆う砂がSG134の覆土と一致する。SG134は洪水のような現象で埋没したものと考えられる。SG134の氾濫が、水田と足跡の検出を可能にしている。p448: 河川は、SG134・323・516・3001・8062を登録したが、(中略)河川は、奈良・平安時代の居住域を取り囲むように流れていたことが推定される。SG3001F1・2から出土する遺物は、Ia期~III期まで混在する。一方、SG323は、Ia~Ib期が主体を占め、II期の遺物が若干混入する。また、SG134は、III期が主体で、II期が混入する状況にある。SG323から「大伴」の文字が記された木簡が出土した。(中略)木簡は、9世紀前葉は下らないと考えられる。	▼9世紀後半~末。○9世紀後半~末。	9世紀末葉?	p447: (前略)Ia期は8世紀中葉~後半、Ib期は8世紀末、II期は9世紀中葉、III期は9世紀後半~末と考えられる。
028	0608	筋田遺跡		p4: (前略)遺構の検出面はIII層直上面であった。また、遺構覆土は黒褐色シルトを基調とするが、一部には基盤層と覆土との識別が困難なものがあり、わずかな汚れや土質の違いから辛うじて区別できたものがある。河川の氾濫と急激な埋積作用によると推測される。すなわち河川の氾濫が遺跡の存続に大きく作用したと考えられ、集落の廃絶もこのことに起因したと判断される。p32: 遺物では河川跡外から多くの土器類が検出されたが、特にSG19での様相は本遺跡の継続期間全般を包括すると判断される。時期は概ね8世紀後半~9世紀後半に掛かり、主体は9世紀前半期と推測された。	▼8世紀後半~9世紀後半。	9世紀後半?	
036	0609	長表遺跡	C区のSG34河川跡	p11: (SG34河川跡について)C区北部A~E-44~49グリッドで、北西から南東に延びる河川跡である。幅約5.5m、検出面からの深さは76~190cmを測り、西から東へ急激に深くなる。覆土は下層が自然木や有機物を含む粘質土層で、下層を稿状に含む間層を挟み、上層は洪水等が要因の粗砂層が厚く堆積する。 p61: (前略)主な遺構の変遷は、I期:ST27b・SB300・301(前期前葉)、(中略)V期:SG34(前期後葉~中期)に比定されよう。上記から概観されるのは、「当初、河川に囲まれた集落は特異な棟持柱建物や大型の堅穴住居を主として展開し、前期全般を通じて存続する大型の堅穴住居を中心的建物とし、その周辺に主軸等をほぼ合わせた小・中型の堅穴住居群が概ね数棟単位のブロックで建て替えを行いながら、集落を構成する」様相が看取られる。集落の最終段階は判然としないが、集落を区画する旧河川上層の洪水層等が集落の廃絶や移転の要因の一つであろう。	▼古墳前期後葉~中期。	古墳中期?	

031	0610	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次		IV-1	p8: IV層は標高約112m以下の低い部分に広がる水成堆積の黒色泥質粘土で、形成当時は湿地であったと見られる。奈良～平安時代の遺物を包含する。このIV層はシダ類らしき植物遺存体や風倒木が挟まった間層(洪水で一気に埋ったもの)2枚によってさらに3層に細分することが出来る。最も古いIV-3層中には遺物はほとんど見られない。IV-2層は8世紀中葉～9世紀後半の須恵器・土師器を大量に含む。灰原の覆土はこの層中にあるため、窯が操業していたのはこのIV-2層が形成されつつあった時期と考えられる。IV-1層は南区のSG31の洪水に関連するものとみられ、遺物から見て9世紀後半頃と思われる。(中略)洪水に見舞われたのは、窯の操業前と終わりに近い時期にあたるものと思われる。Ⅲ層は砂層で、遺構は認められない。	★9世紀後半。▼8世紀中葉～9世紀後半。	9世紀後半。	
038	0611	向河原遺跡第4次		IV	p7: (IV層について)B区北端に旧河川跡と考えられる厚い砂の層が確認されており、この砂の層のI層と同じ堆積物である。p59: 河川跡SG171は砂が100cm堆積。竪穴住居(9世紀後半～10世紀初頭)はSG171に切るものと切られるものがある。p59: 竪穴住居は全て、9世紀後半～10世紀初頭のものと考えられる。SG171河川跡に切られるもの、SG171を切るものが存在することから、河川跡埋没前から埋没後にかけて営まれた集落といえる。	▼9世紀後半～10世紀初頭。△9世紀後半～10世紀初頭。	9世紀末葉～10世紀初め。	
035	0612	山田遺跡	SG172 河川跡	中層	p13: (SG172河川跡について)堆積土は概略的に見て、上層(F1)のシルト質土層、中層(F2)の腐植粘土層、下層(F3)の川砂層の3層準に区分される。ただし堆積土の在り方は、各地点により間層の有無・薄厚・偏在等から異なった分布を示し、場所による埋積過程の差異と理解された。下層は河川としての機能を有していた時期の堆積層で、その拡範状況から検出面で捉えた川岸より広い川幅であったと推定される。中層は洪水や氾濫によって流水量が低下し、湿地状の様相を呈していた時期の土層と考えられ、上層は河川としての機能を失い、埋没していった時期の堆積層と理解される。(中略)下層から上層までの埋積期間は8世紀中葉から9世紀中葉までの概ね100年間と捉えられる。	★8世紀中葉～9世紀中葉。	8世紀中葉～9世紀中葉。	
043	0701	荒田目条里制遺構・砂畑遺跡	第3水田跡	第3水田跡直上	p413: 第1～3水田跡は洪水砂などによって被覆された遺構と判断され、畦畔は砂を除去する過程で盛り上がりとして検出されたものが多い。p414: (第1水田の)年代を推定し得る遺物の出土状況はみられなかった。p414: (第2水田は)第3水田が洪水により被覆された後に、復旧された水田と考えられる。p431: (第3水田跡の時期は)10Cでも後半周辺に降下する可能性を考えている。第2水田跡は(中略)10C後葉～11Cの年代を考えている。第1水田跡は、それ以降の年代となる。	▼10世紀後半。△10世紀後葉～11世紀。	10世紀後葉?	
042	0702	荒屋敷遺跡	21号溝跡		p113: (21号溝跡の)機能時期については、出土遺物等から判断して平安時代、9世紀～10世紀前半に位置づけられる。9世紀後半を主体とし、僅かにその前後期で河川氾濫を繰り返しながら機能していたものと考えられる。	★9世紀～10世紀前半。	9世紀～10世紀前半。	

041	0703	北ノ脇遺跡	35号住居跡	35号住居跡埋土	p110: (35号住居跡の埋土として) 全体的にみると均質な砂層が厚く堆積しており、1段階と2段階のあいだにやや時間差が感じられるが、洪水砂のようなもので短時間に埋没したものと推察される。(中略)(中略)(35号住居跡の時期について) 栗園式期の年代幅におさまるとみている。p204: (前略) II～IV期の集落の膨張は、自然堤防一帯に大規模な移住が行われた結果と考えられ、住居跡や出土遺物の中には他地域の影響が認められるものもある。(中略) 関東地方の人々が何らかの形で関わっていたことが想定され、右岸地区への移住計画は広範に影響力を持つ畿内政権の存在がなければならぬ。自然堤防の一帯は必ずしも居住に適してはならず、集落は度々完遂して洪水砂で埋まりながらも長期にわたって営まれており、それなりの強制力があつたものとみられる。p192: (前略)(土師器と須恵器の共存関係について) TK43型式と考えた須恵器がII B～IV群土器と共伴し、TK209～48型式と考えた須恵器がIV群土器と共伴しているといえる。p197: (遺跡の時期区分について) ①I期…I群土器(舞台式期・住社式古段階)。②II期…II A・B群土器(住社式新段階)。③III期…III群土器(栗園式期前葉)。④IV期…IV群土器(栗園式期中葉～後葉)。⑤V期…V群土器(国分寺下層式期)。⑥VI期…VI群土器(表杉ノ入式期)。⑦VII期…VII群土器(10世紀代)。	★栗園式。 ▼7世紀(栗園式)。	580年代～ 690年代。	栗園式をTK43～TK48に併行するものとした。
040	0704	白山D遺跡	基本層序(沢部の土層)	Vc	p17: (LVcについて) 調査区東側にのみ堆積している。上位に奈良～平安初頭の遺物を多量に含んでいる。また、樹木を押し倒しており、部分的な土砂崩れによる堆積層と考えられる。下位のLVb層では7世紀の遺物が流れ込んだ状態で出土する。p17: (上方のLVbでは) 平安時代の水田耕作土で踏みみよると考えられる細かな乱れが見られる。(中略)(下方のVIb層では) 7世紀代の遺物が流れ込んだ状態で出土する。p98: 奈良時代頃、本遺跡は自然災害を受けたと思われるが、土砂流入による谷底の上昇によって谷幅が広がり、平安時代には谷奥へと開墾が進んだようである。	★奈良。▼7世紀。	奈良。	
044	0801	大堀東遺跡II区	第60号・第75号住居跡		p295: (前略)(平安時代について) 当遺跡の時期を5段階に分け、それぞれの段階に年代をあてはめているが、今回の調査だけでは、明確な時期決定はできず、遺跡全体の発掘調査終了後の十分な検討を待ちたい。(中略) 第3段階は、(中略) 10世紀後半と考えられる。また、小皿と区別しにくい杯や置き甕も出土している。第1・2・5・7・10(調査I区)・17・20・25・40～42・46・51・53・54・57～59・70・73～75・77号住居跡が該当する。p296: 第4段階は、(中略) 10世紀後葉から11世紀前葉と考えられる。第18・21・23・35・36・45・47・48・55・56・60・61・64・69号住居跡が該当するものと考えられる。(中略) 第60号住居跡と第75号住居跡の関係には、洪水の影響をうけた痕跡されている。第75号住居跡が下、第60号住居跡は上に確認されており、当然第60号住居跡の方が新しい。土層を観察すると、第60号住居跡が第75号住居跡を掘り込んでおらず、両住居跡の間に、立ち上がりの見られない層が確認されている。この層は氾濫による堆積層と考えられ、洪水の後に、新たに住居が作られたことが確認できる事例と考えられる。	▼10世紀後半。 △10世紀後葉～11世紀前葉。	10世紀後半～ 11世紀前半。	
045	0901	立野遺跡5区	5区低地部	8～11	p28: 短期間に堆積したと思われる洪水層群(古墳前期相当の無遺物層および自然流木包含層)。(中略)(9層の) 上部に黄色軽石粒(浅間C軽石)を多く含む。(中略) 7層～11層にかけて浅間C軽石(As-C、4世紀中葉)を含み、9層最上部～上部に特に多い。	★古墳前期。 ○4世紀中葉(As-C)。	古墳前期(4世紀中葉以降)。	
055	1001	石関西田II遺跡	A1区低地部基本土層	V	p5: (Vは) 黄褐色洪水砂。キャサリン台風の洪水砂に比定。	★1947年9月。	1947年9月。	
091	1002	井手地区遺跡群	A・Bライン	7	p4: 5層は榛名一伊香保テフラ(Hr-I・6世紀中葉)の混在する灰褐色土でやや粘質である。(中略) 7層は黄色を呈する洪水層で、砂粒主体となっておりA・Bラインで認められる。8層は榛名一洪川テフラ(Hr-S・6世紀初頭)で北側は依存度が悪く部分的にしか認められない。	▼6世紀初頭(Hr-S)。 △6世紀中葉(Hr-I)。	6世紀前葉～ 中葉。	

068	1003	小野地区水田址遺跡(社宮司B地点)	10号溝	pp18-19:10号溝は、I～Ⅲ区を東西に貫いて検出されている。(中略)調査区間の未調査部分を含めた溝の総延長は、約166.6mである。検出面における上幅は、約1.50～3.27mまでのばらつきがあるが、底部幅は30cm前後で一定している。(後略)p19:(10号溝について)当溝は砂と砂礫で埋没しており、テラス状部分と溝状部分も同様の埋没状態であった。これは、当溝が西から流入した洪水などで運ばれた砂礫によって一気に埋められ、さらにオーバーフローした砂礫を含む流れが周辺をも削り取り、テラス状の部分と枝分かかれた溝状部分を形成した状況が想定できる。p24:(10号溝の遺物について)(前略)概ね9世紀代中頃以降と見られるもので、10世紀代に入る資料は認められない。したがって、当溝の埋没時期は9世紀代の中頃以降と考えられる。	★9世紀中頃以降。△10世紀。	9世紀中葉～末葉。
089	1004	鹿島浦遺跡		p276:7区東端部から6区西端部にかけて、ほぼ東西方向の帯状に検出された水流の痕跡は、調査時に大溝跡として調査された。その幅員や深度は検出箇所により大きく異なり、特に7区東端部と6区西端部において、水流による底面の狭れ(ポッド)が認められた。また、隣接する5区のトレンチ調査結果においても、同様の水流によると考えられる落ち込みが検出されており、この水流痕は、5～7区の広範囲にかけて全体に不定形に蛇行し認められることから、溝跡のような人為的な遺構ではなく、河道若しくは大規模な河川の決壊による自然災害の痕跡と判断された。遺跡地は、渡良瀬川右岸1.7kmほどの所に位置し、水害は渡良瀬川増水に起因するものと考えられるが、川よりの直接的な氾濫ではなく、恐らくは調査区東側に接して矢場堰より取水の休泊堀用水経由の流入と推察される。この氾濫跡の時期については、最も新しい出土遺物としてカルピス瓶・各種薬瓶があり、昭和20年代のものと推定される。この時期の波良瀬川水系の決壊・氾濫事例として、昭和22年9月のキャサリン(カスリン)台風・翌23年のアイオン台風・24年のキティー台風による未曾有の水害が記録されている。中でもキャサリン台風時には、葉鹿橋より上流側600mで堤防を越流し、床下浸水などの被害をもたらした。5・6・7区検出の氾濫跡もこの水害によるものと推察される。	★1947年。	1947年。
046	1005	上栗須寺前遺跡群	(基本層序) IV	(第1分冊)p16:(前略)(標準的な層序について)(IV層は)25Y5/4。黄褐色。シルト質土で下部に鉄分の凝集が見られる(洪水の影響か)。[岸田治男「遺構」(第3分冊)pp27-37]p36:上栗須寺前遺跡群は前述したように、扇状地の扇端部を東西に横切るために、微高地と小谷とが繰り返し立ち現れる地形的特徴をもっている。7世紀の初頭に扇状地上に営まれ始めた8世紀前半人々の生活を竪穴住居地の推移からおおまかに概観すると、8世紀前半に微高地上に爆発的に増加した奈良時代のムラは、後半になると小谷の沖積地にも広がりを見せる。この傾向は9世紀前半紀初頭にも見られるが、9世紀前半に洪水に舞われた影響からか、その後は極端な竪穴住居の減少をもたらした。一応の回復が確認されるのは9世紀末葉になってしまう。しかしながら、小谷の集落は9世紀後半になってもその打撃から立ち直れず、微高地に居を移して10世紀を迎える。6区の集落変遷から窺えることは、洪水を画期に竪穴住居から掘立柱建物への主屋の役割変換が行われた可能性が高い。	★9世紀前半。△1108年(As-B)。	9世紀前半。
048	1005	上栗須寺前遺跡群1区(上栗須薬師裏)	1区2号河道	p159:2区の台地上を南から1区の低地部分に1号河道、2号河道が走る。両河道中の埋土から浅間B軽石の堆積が認められることから、この河道をめぐる河川の氾濫は11世紀以前と考えることができる。p200:縄文時代と8世紀、9世紀の遺構分布の状態と、鍵層になる火山灰の存在から、この河道は平安時代後期の氾濫によるものと考えてよい。	★平安後期。△1108年(As-B)。	11世紀～1108年?

遺跡一覧表A-2

079	1006	上強戸遺跡群	Ⅱ期河道	11	〔坂口一・小高哲茂「K・L区の河道、洪水及び水田について」pp131-134〕p131: (河道について)L区西側で全幅が約5mほどの河道1条、K区ではほぼ同規模の河道2条を確認した。これらは、L区の西側から県道足利線に出て北側に大きく蛇行し、K区東側の河道に接続して北上し、さらにK区調査区域の北側で南側に蛇行して、K区中央部の河道に北側から接続する同一の河道である。この一連の河道は、おそらく遺跡の北側約10kmに位置する鳳凰ゴルフ場内に谷頭をもち、地形の最も低い部分を流下していることから、人為的な改修が加えられた可能性は否定できないものの、基本的には自然河道である。この河道は、堆積した洪水層の違いによってⅠ～Ⅴ期の5時期の河道に分けられる。但し、Ⅴ期の河道は、河道というより一連の河道の最後の窪みである。p133: Ⅱ期河道は11層洪水に覆われた河道であり、4～5世紀代、Ⅰ期はそれ以前と推定される。Ⅲ期河道は8層洪水に覆われた河道であり、8世紀中葉と推定される。したがって、7層洪水に覆われた河道であるⅣ期河道は、8世紀後半から9世紀前半で、9世紀前半であるとすれば被覆する洪水層(7層)は、弘仁9(818)年の可能性もある。Ⅴ期河道は6層洪水で覆われた河道であり、9世紀後半と推定される。第3面の水田面及び畦畔(9層が耕土)は8層洪水に覆われているため、8世紀中葉と推定される。	★4世紀～5世紀。	4世紀～5世紀。	
080	1006	上強戸遺跡群	Ⅲ期河道	8	同上。	★8世紀中葉。	8世紀中葉。	
081	1006	上強戸遺跡群	Ⅴ期河道	6	同上。	★9世紀後半。	9世紀後半。	
082	1006	上強戸遺跡群		8	〔坂口一・小高哲茂「K・L区の河道、洪水及び水田について」pp131-134〕pp131-132: 8層洪水は、9層を耕土とした水田面(上強戸遺跡群第3面)を直接被覆する洪水層である。この洪水層の下面は、Ⅲ期河道の底面に相当する。つまり、この洪水層はこの河道を給水源としている。K区では、8層洪水は大きく2回発生している。水田面直上を覆うのはシルトで、この上位に洪水砂が乗る。つまり、洪水の初期の段階は水位が上がり、その後鉄砲水が来たものと考えられる。L区では、8層洪水は洪水砂の上位にシルトが堆積するパターンを大きく2回繰り返していることから、いわゆる鉄砲水と滞水とを2回繰り返したものと考えられる。また、Ⅲ期河道より東側で、最初の洪水の後に礫を含む洪水砂がレンズ状に認められることから、河道が洪水層で自ら埋没して河床が上がったため、この河道の上流から供給された土砂が東側に流れたものと考えられる。p132: 8・6層洪水ともに洪水層としては厚く堆積しているが、その大部分はシルト質である。これは、谷からの鉄砲水を下流で呑むことができなくなったため、この低地一帯が長い間滞水した可能性を示している。	★8世紀中葉。	8世紀中葉。	Ⅲ期河道の項目を参照。080と同一のもののみなし。
083	1006	上強戸遺跡群		6	〔坂口一・小高哲茂「K・L区の河道、洪水及び水田について」pp131-134〕p132: 6層洪水は河道としてはⅤ期河道が相当する。この洪水層は、洪水砂の上位にシルトが堆積することから、いわゆる鉄砲水と滞水による洪水と考えられる。なお、この洪水層の上位にはHr-FAと考えられる白色軽石が均質に混じることから、Hr-FA以降に耕作土化した可能性が高い。L区ではこの洪水層は東側ほど層厚を増すことと、東端部付近では下位に洪水砂を伴うことから、おそらくL区より東側に別水系の河道が存在し、その河道を給水源としている可能性が高い。これは、8層洪水及び7層洪水によって、一連の河道はほぼ埋没して河床が上がったため、河道がL区より東側と西側に移動したのと考えられる。8・6層洪水ともに洪水層としては厚く堆積しているが、その大部分はシルト質である。これは、谷からの鉄砲水を下流で呑むことができなくなったため、この低地一帯が長い間滞水した可能性を示している。	★9世紀後半。	9世紀後半。	Ⅴ期河道の項目を参照。081と同一のもののみなし。

085	1006	上強戸遺跡群	VII区	III, IV (第2面直上)	p86・88: (VII区第2面の8号溝について) 溝の掘り込み面は第2面水田跡を覆う洪水III層で捉えられる。水田跡被覆の大別上・下2枚の洪水層のうち下位層である。洪水III層の下位層には水田耕土の直上を覆うIV層silt層が見られるが洪水層としては同時発生のものであろう。埋土はやはり全体が洪水起源と考えられるsilt・砂層などである。埋土の一部には複数回の洪水状況を思わせる土層堆積状況が見られるが、土質が著しく似通ったもので、土砂流出時の複雑さあるいは激しさが織りなす現象の可能性が高い。埋没後の被覆土はsilt質の洪水層で、この上面は第1面の水田耕土である。p88: (8号溝の出土遺物について) 土器類は土師器・壺、須恵器・椀類など8世紀中頃の遺物である。その他小片土器類は多いが8世紀代のものが大半を占める。p90: (前略)8号溝(河道)は第2面検出の水田跡が洪水層によって被覆された後に形成されたと考えられる。8号溝が人為的な開削か、自然流水路(河道)かは不明である。当調査区北方で大きく蛇行をくり返す状況とは異なり比較的緩やかな軌跡を保っている。p102: (VII区第2面の)水田跡は第1面水田跡下に堆積する2度にわたる洪水層に被覆されている。(中略) 廃絶は5~6月頃に起きた水害によると考えられている。	▼8世紀中葉。△奈良~平安。	8世紀後半?	
086	1006	上強戸遺跡群	VII区	VI	p12: (VII区基本層序について) (0層は) 現耕作土及び圃場整備盛土。(I層は) 黒色土。第1面水田耕土(As-B混土または現耕作土及び圃場整備盛土下)。(II層は) 暗灰褐色土。silt質(洪水層)。(III層は) 明褐色砂層。砂・siltが縞状に堆積(洪水層)。(IV層は) 褐灰色silt層(第2面水田直上被覆の洪水層) 薄層で部分的に存在。(V層は) 暗灰色土。第2面水田耕土。Hr-FA軽石混入。(VI層は) 褐灰色silt質土(第3面水田直上被覆の洪水層)。薄層で部分的に存在。(VII層は) 黒色土。第3面水田耕土。白色軽石(As-C)混入。	▼4世紀初頭(As-C)。△6世紀初頭(Hr-FA)。	4世紀~5世紀?	079と同一のものとなした。
052	1007	上滝榎町北遺跡	上滝榎町北遺跡・上滝II遺跡の基本土層	X I	p15: (第IX層は) Hr-FA層あるいはHr-FA起源の泥流(洪水)層と考えられ、遺跡全体を覆っている。p16: (第X I層は) 軽石に近い砂状の堆積層であり、地形的に低い部分に堆積している。層相から、分層される状況もある。おそらく、洪水等による堆積と考えられる。もちろん、第6面水田以前で、第7・8面水田以降の形成(堆積)である。p233: (上滝榎町北遺跡の) 第7面は、基本土層のX II層となるAs-C軽石を混在させる黒色粘質土上面を確認面とし、検出された遺構を扱った。このAs-C軽石は、浅間山を給源とする4世紀初頭の降下火山灰とされていることから、As-C混土層の形成は4世紀以降であることは明らかであるが、明確な時期は確定できていない。また、As-C混土層である基本土層X II層の上層には、洪水による堆積と考えられる粒子の粗い砂質土が、部分的に覆っていることが確認されている。	▼4世紀初頭(As-C)。△6世紀初頭(Hr-FA)。	4世紀~5世紀。	
053	1007	上滝榎町北遺跡			p692: (As-C混土上面について) 基本土層のX'層のAs-C混土層が、水田耕作土である。基本土層X層(Hr-FA水田耕作土)を剥いだ段階で検出された。つまり、As-C混土層の上面で検出された遺構面である。当該遺跡においては、As-C軽石の一次堆積層は確認されなかった。つまり、AD300年前後とされる浅間山の噴火に伴うAs-C軽石降下以後、軽石を鋤込むような形での開発が行われたことが想定される。As-C混土上面で検出された遺構面であることから、この調査面の時期としては、As-C軽石降下(AD300年前後)以降、Hr-FA降下(6世紀初頭)以前の、約200年間の時期が想定できる。且つ、遺物から見ると、4~5世紀代とされる遺物が混在することから、大まかに、古墳時代前・中期(4~5世紀頃)の調査面として考えていきたい。p738: 水田跡は、As-C混土層の上面で検出された。すべての調査区では検出できずに、A-3・Aランプ・B区だけからの検出となった。(中略) このAs-C混土層を耕土とする、通称「As-C混水田」の時期は、当遺跡ではAs-C降下(AD300年前後)以後、Hr-FA降下(6世紀初頭)以前間の、ある時期と考えられるが、より詳細な時期決定が出来ないのが現状である。現状では、4~5世紀代の洪水層下の水田跡として考えている。	★4世紀~5世紀。▼4世紀初頭(As-C)。○4世紀~5世紀。△6世紀初頭(Hr-FA)。	4世紀~5世紀。	052と同一のものとなした。
060	1008	上福島中町遺跡	基本土層	II	p4(第3図): 近現代の洪水層と考えられる。	★近代~現代。	近代~現代。	

061	1008	上福島中町遺跡	基本土層	VI	p4: VI層は砂粒の目立つ洪水砂層で、この層に覆われた建物跡、畑跡、道などが検出されており、江戸時代中期の寛保2年(1741)の大洪水による洪水堆積土の可能性はある。	★1742年?	1742年。	
051	1009	神戸岩下遺跡	近現代の畠		p148: 5区の東半で検出された。烏川の洪水層によって埋没しており、(中略)畠状遺構の面からは19世紀の陶磁器類が出土しており、この畠の時期を表すものと思われる。	▼19世紀。	19世紀以降。	
087	1010	齊田中耕地遺跡	標準土層	IV下層	p13: IV中層: 黒色粘質土: As-B下水田耕作土。IV下層: 灰色系シルト: 洪水層。V: 灰黄褐色軽石土: 水田耕土及び床土。As-B攪拌層。p71: 5面では出土遺物から9世紀末の所産と認識される洪水層で埋没、被覆された水田址を調査し、当該期前後の遺構も確認、調査した。p374: (前略)(遺跡全般について)最下面の8面に於いては旧河道や風倒木痕、7面ではAs-C泥土を覆土とする疑似畦畔水田跡、6面では溝やHr-FA下水田跡など、5面では大型水路や9世紀末の洪水層で被覆され、多量のヒトの足跡や牛の蹄跡を伴う水田址など、4面ではAs-Bで被覆された水田や溝など、3面では溝や柵列、そして屋敷跡やこれに伴う、堀、掘立柱建物、井戸、土坑やピットなど、2面では溝や土坑、畠など、1面では溝や降下As-A軽石災害からの復旧作業に伴う復旧溝群など、多くの遺構を記録し、これらの遺構に伴う土師器、須恵器、陶磁器の類や、石器、石製品、木製品、金属製品等多くの出土遺物を得たのである。	★9世紀末。	9世紀末葉。	
064	1011	下滝天水遺跡	b地点		p5: (b地点について)付近は自然堤防状の微高地と低地との境にあたる。集落はあまり見られなくなる。As-B層下では水田耕作を行っている。B区以北で行なった洪水層に関連した調査では、上層で畠状の耕作溝群が確認されるが、下層の古墳時代の小区画水田は確認できない。B区以南で確認できる洪水層は、出土する遺物から8~9世紀頃に形成された可能性があり、C区以北と同一の層が確認できていない。	★8世紀~9世紀。△1108年(As-B)。	8世紀~9世紀。	
065	1011	下滝天水遺跡	取付道A区7号溝南側		p471: 取付道A区7号溝より南側で、洪水堆積物と推定される灰黄褐色砂の直下で水田を検出した。この砂層はHr-FA下の水田耕作土の下位にあり、厚さ3~5cm堆積していた。7号溝より北側にはこの洪水砂の堆積は見られなかった。洪水砂の下面は、As-C軽石を含む異色土を覆っている。(中略)洪水層の時期は、層序からAs-C降下以降Hr-FA降下以前となる。洪水層直下で出土したこの埴形土器は4世紀末葉から5世紀前葉のものと考えられ、層位とも合致している。したがって、洪水層および水田埋没時期は4世紀後葉から5世紀前葉と考えている。	★4世紀後葉~5世紀前葉。	4世紀後葉~5世紀前葉。	
069	1012	下原遺跡	基本層序	V	p12: (第V層は)土砂崩れ堆積層であり、3層に細分される。1742(寛保2)年の洪水による可能性はある。	★1742年?	1742年。	
057	1013	菅谷石塚遺跡	基本的土層	Ⅲ・Ⅳ間	p7: 洪水層はⅢ層とⅣ層の間で確認された。色調は褐色を呈し、最下位や中間に薄く粗い砂層が確認されたため洪水による堆積層と判断した。この洪水の発生した時期については上限が7区や8区の洪水層下部で出土した土器群から8世紀後半以降、下限が洪水層上位に位置するⅢ層であるAs-Bの堆積が1108年の浅間山の噴火が起きる前までの11世紀後半までの間に起きたと想定した。その後平成13年度に県教育委員会文化財保護課が7区調査区の西300m地点隣接地を試掘調査した時、この洪水層上面で竪穴住居を確認した。この竪穴住居確認時には第7図に示した須恵器杯碗、羽釜、甕などの土器群が出土している。この土器群は10世紀前半代に比定され、9世紀末から10世紀初頭には比較的安定していたと見られる。こうした成果から洪水の起きた年代は8世紀後半から9世紀後半までの約100年間に想定される。	★8世紀後半~9世紀後半。	8世紀後半~9世紀後半。	
074	1014	総社関泉神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	微高地部	X Ⅲ	p8(図5): 黄褐色洪水砂。	▼3世紀後半。△6世紀初頭。	4世紀~5世紀?	

075	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	微高地部	X V	p8(図5):黄褐色洪水砂。	▼3世紀後半。△6世紀初頭。	4世紀~5世紀?	
076	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	河道部	②	p8(図5):褐色粗粒洪水砂。As-C軽石含む。5世紀中葉~後半。	★5世紀中葉~後半。	5世紀中葉~後葉。	
077	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	河道部	③	p8(図5):黒泥土。細粒洪水砂をラミナ状に含む。4世紀末~5世紀前半。	★4世紀末~5世紀前半。	4世紀末葉~5世紀前葉。	
078	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	河道部	④	p8(図5):粗粒洪水砂。多量のAs-C軽石を含む。4世紀。	★4世紀。	4世紀。	
062	1015	中棚II遺跡			p70:(第II層は)暗褐色土(天明泥流堆積物)。(中略)(第IVa層は)灰暗褐色土。泥流畑作土。IVb層を基層として耕作により形成された作土。Ⅲ区及びV区の一部で見つかっている土砂崩れ上の作土で継続して耕作がおこなわれたVa層(N37(2)号畑, 38N(2)号畑)にも対応する。(第IVb層は)灰褐色土。2~3cm大の亜角礫を多く含む不均質層。締まりやや弱い。発掘調査時に、寛保年間の土砂崩れを想定した。その後、関連する史料の集約や遺物の年代から、子の歳の水害の可能性を指摘できる。確認できるのはⅢ区とV区の北西端のみである。p152:(前略)子歳の記述を基にすれば、表中に示す水害のいずれかの可能性を指摘できる。また、この面を覆う土砂崩れの年代決定に繋がる遺物として、18世紀後半の片口鉢などがその年代を決定する。これらについて泥流面以外の遺物の項で記述したので併せて参照頂きたい。このこと、この土砂崩れの年代について安永九年(1780)子歳の荒れの可能性を指摘しておきたい。p152(表Ⅲ.11「利根川子歳水害年表抜粋」):(子歳の水害は1624年, 1660年, 1696年, 1732年, 1780年に発生。)	★1780年? △As-A (1783年)。	1780年。	洪水イベントは、和暦6月または7月に起こったとされるが、『徳川実紀』には和暦6月に「此月なかばより雨ふりつゞきて。武蔵。上総。下野。上野。下野。常陸の国々に水あふれ。(後略)」とある。『武江年表』には「六月、大雨降り続き、二十六日より江戸近在、利根川荒川戸田川洪水。(後略)」とあり、和暦6月はグレゴリオ暦7月2~31日、6月26日は同7月27日に該当する。したがって、イベントは7月27日ごろに発生した可能性が高い。
063	1015	中棚II遺跡			p152:昭和10年9月25日の水害は、県内に明治43年の大水害以来の大被害をもたらした。(中略)Ⅲ区表土掘削時には、層序をたどると、石垣や不変な石が片づけられた状態の「ヤックラ」の下から、この山津波に該当する跡が見つかっている。特にⅢ区では、2面目の土砂崩れ層・天明泥流・昭和10年の山津波層の上位に今日の耕作地の石垣やヤックラが築かれていることが判った。	★1935年9月25日。	1935年9月25日。	p45:ヤックラ:不要な礫を片づけておいた場所であり、現在この地方で見られる畑地景観の特徴でもある。

088	1016	西野原遺跡			p412: (7) - 2区での製鉄本体部分の調査で、排滓場1・2群の直上面を覆った砂質土を主体とした洪水層であるが、先述したように国家座標X=38290, Y=45.210地点で25cmの堆積が確認されている。周辺地域でのこの種の洪水層が確認されている遺跡には、本遺跡の東側約5kmに位置する上強戸遺跡群がある。この上強戸遺跡群は、本遺跡の(7) - 2区がある低地帯の東進した延長上にあたる。上強戸遺跡群での洪水層は、数時期の水田遺構面の間にあり、7世紀後半に位置づけられる須恵器の小型罎を畦内に出土させた水田面を厚く覆った洪水層であることから、8世紀以前(7世紀後半の時間幅内)の洪水層と想定されている。本遺跡での洪水層と、上強戸遺跡群での洪水層を同一の洪水層とするには、中間地点での洪水層の有無が必要となるが、明確に検出された遺跡はない。しかし、僅かではあるが中間に位置する菅塩遺跡群において確認されている。また、同じ低地帯にあって、本遺跡の方が標高的に高く、東進するに従って低くなる状況等を含めた地形的な点からしても、両者の洪水層がほぼ同時期のものと考えられる。	★7世紀後半。	7世紀後半。	
049	1017	礪島川端遺跡	第1洪水層(利根川の瀬替えに伴う洪水層)		p67: 本節で中世として扱うのは、浅間B軽石(As-B)降下後から利根川の瀬替え(流路変更)までの時期である。浅間B軽石の降下は天仁元年(1108)とされており、利根川の瀬替えは15世紀後半頃に推定されている。(中略)本地区ではこの間に浅間B軽石を多量に含む土壌(以下はB混土層と呼ぶ)が厚く堆積しており、その上面は利根川の瀬替えに伴う洪水層で覆われている。B混土層は、下層: 浅間B軽石と灰褐色土がブロック状に混じったもの、中層: 軽石を含む灰褐色土、上層: 軽石を含む灰色シルト質土の3層に分層できる。(中略)上層は利根川瀬替えに伴う洪水層で覆われた田畑の耕土で、層厚は10~15cmほどである。この田畑を覆う洪水層は黄白色のシルト砂層で、層厚は厚いところで20cm以上の堆積が認められた。洪水後の復旧による削平を考慮すれば、相当大規模な災害であったと言えよう。この洪水層を利根川瀬替えに伴うものとするのは、下層のB混土層中に近世の遺物が認められないこと、この層を境に上部層はすべて洪水堆積物(シルトあるいは砂)の土質に変化すること、などによる。	★15世紀後半。	15世紀後半。	
054	1018	波志江中屋敷東遺跡	基本層序	VI	p7: VI層は洪水層で、砂礫層である。C-D区の低地のみで確認された。(中略)この層の直下を第3面として発掘調査をおこなった。p116: C区の低地はこの1号溝と11号溝を通して、洪水層が流れ込んで埋没している。p330: 波志江中屋敷東遺跡の水田の開削時期は、As-Cの降下の時期を弥生時代末から古墳時代初頭とすると、このころに水田の開削が始まったと考えられる。(中略)4世紀後半~5世紀前半と推定される時期に、1号溝と11号溝を通して、局地的な洪水がおこった。(中略)この洪水で、As-C降下後に作られた水田は廃棄される。	★4世紀後半~5世紀前半。▼4世紀初頭(As-C)。	4世紀後半~5世紀前半。	参考: 桂雄三「波志江中屋敷遺跡の水田遺構(4~5C)上の洪水堆積物」pp326-329
072	1019	東今泉鹿島遺跡			p4: 渡良瀬川の氾濫は遺跡の覆土からも確認でき、縄文包含層・古墳前期集落・古墳後期~7世紀の水田は洪水による砂層やシルト層によって埋没し、水田を覆った洪水層の上に奈良~平安の集落が立地している。p348: 水田は2面検出されている。(中略)下面の水田は4区・18区・19区から検出された。洪水砂層直下の水田である。p485: 洪水層下の水田は、18区で住居跡と重複している。住居跡の年代は、8世紀後半から9世紀であり、竪穴住居住居の掘り込みは、洪水層上面から掘り込まれ、洪水層下の水田面を破壊している。(中略)洪水層下の水田は(中略)6世紀~7世紀の水田と推定することができる。本遺跡の17・18区付近は、5世紀代の集落が立地し、その後水田になり、洪水で埋没した跡は、再び集落が立地し、平安時代末には再度水田が立地する変遷をたどる。	▼6世紀~7世紀。△8世紀後半~9世紀。	7世紀~8世紀?	

073	1019	東今泉鹿島遺跡			p4: 渡良瀬川の氾濫は遺跡の覆土からも確認でき、縄文包含層・古墳前期集落・古墳後期～7世紀の水田は洪水による砂層やシルト層によって埋没し、水田を覆った洪水層の上に奈良～平安の集落が立地している。p348: 水田は2面検出されている。(中略) 下面の水田は4区・18区・19区から検出された。洪水砂層直下の水田である。(中略) (下面水田について) 本水田の時代は4世紀後半以後、8世紀中葉～後半以前の遺跡となる。pp144-145・181-190: (古墳時代の住居跡(66・67・98～106号住居跡)の年代は5世紀前半。) p485: 本遺跡の17・18区付近は、5世紀代の集落が立地し、その後水田になり、洪水で埋没した跡は、再び集落が立地し、平安時代末には再度水田が立地する変遷をたどる。	▼5世紀前半。△6世紀～7世紀。	5世紀中葉～6世紀?
050	1020	東長岡戸井口遺跡	第9号溝状遺構		p19: 第9号溝状遺構は、調査区中央を縦断する1号堀に併走する状態から南方に走行して調査区外に延びている。(中略) (第9号溝状遺構は) 調査区中央より北側では、灰黄褐色シルトにより埋没していたが、状況的に洪水に原因すると判断され、溝が半ば埋没しかけた段階で、シルトが一気に流入したものと考えられる。これは1号堀の古期の段階で起きている洪水に原因している。出土した須恵器杯からは(シルト直上層中より出土) 8世紀末頃に洪水が発生していることが推定される。この第9号溝状遺構は、走行経路から、当初1号堀の水を引き込む目的の小規模用水路として開削され、東南方向の谷地を受益地として開削されたものと考えられる。この場合、この谷地の小規模開発程度の状態であったであろうと考えられる。又、前述した硬化面等の状況から、洪水により埋没後溝状遺構を利用した道として利用されていたことが推定される。	★8世紀末。	8世紀末葉。
084	1021	福島飯玉遺跡		第2面直上	p24: (第2面について) 洪水による堆積層に覆われた面で、浅間A軽石降下以前、江戸時代の遺構を3区で検出した。他の調査区では、その後の連続した土地利用の関係のためか遺構の検出はなかった。調査時には第1面と同一確認面として認識されていた面である。(第1面について) この面では、1783(天明3)年の浅間山噴火以降の遺構を確認した。	▼江戸。△1783年(As-A)。	17世紀～1783年?
070	1022	福島飯塚遺跡	基本層2序		p12: 暗褐色シルト質層。極めて軟弱な層で、河川の氾濫により堆積した洪水層。表土下のこの層上面で、第1面の遺構が検出される。p13(第6図)直下の3-a層上面は第2面。p16: (第1面には) 基本的に1783(天明3)年浅間山噴火による被災地復旧のための火山灰埋設溝(復旧溝)が認められる。(中略) (直下の第2面は) 洪水による氾濫層に覆われた面で、時期は江戸時代であると考えられる。	▼江戸。△1783年(As-A)。	17世紀～1783年?
071	1022	福島飯塚遺跡	基本層3-a序		p12: 褐色シルト質層。やや粘性を持つ洪水層。2層が残存しない地点では、この層の上でも第1面が確認できる。p16: (直下の第2面は) 洪水による氾濫層に覆われた面で、時期は江戸時代であると考えられる。(直下の第3面は) As-Bを多く含むいわゆる「As-B混土」の上面で検出される遺構面で、洪水層により被覆される。	▼江戸。△江戸。1783年(As-A)。	17世紀～1783年?
058	1023	福島久保田遺跡			p42: 中世に相当する遺構面は発掘調査による遺構確認面では、第2面および第3面が相当する。(中略) (第2・3面は) As-B降下以降、中世を通じて形成、堆積した土層となっており、応永年間と想定される利根川の変流に伴う洪水により埋没したものと理解されている。今回の発掘調査では、洪水層に埋没する水田が検出され(第2面)、その下層に北側および南側を区画する構内に掘立柱建物、井戸、各種土坑により構成されるいわゆる「館」遺構が確認されている。	★応永年間。	1394年～1427年。
059	1024	福島大光坊遺跡			p159: 第2面として検出した遺構は2区および10区において認められたものである。(中略) この面で検出された遺構は、土坑、溝、水田、畑である。基本的に洪水層に埋没するが、その時期について有効な情報は得られていない。しかし、北接する福島曲戸遺跡において、寛保2(1742)年と推定される洪水砂を埋設する復旧溝が検出されている。(中略) (第2面直上の洪水層について) 有力な候補として寛保2年を想定しておきたい。	★1742年?	1742年。
056	1025	福島曲戸遺跡	基本土層	V	p11: 黄褐色土。出土遺物、文献史料から寛保2(1742)年の大洪水と推定される洪水層。(中略) Vbの上面から洪水を復旧したと考えられる溝群がD区で検出された。また、この洪水層に覆われた近世水田が検出された。	★1742年。 ▼近世。	1742年。

066	1026	前田遺跡	基本層 序	2	p4: 第1層は耕作土。(中略)第2層は、古代末期と推定される洪水によって形成された層。この洪水による層は、天仁元年、浅間山噴火のAs-B軽石を含み、赤褐色を呈しザラザラしている。尚、B区からは確認されなかった。第3層はAs-B軽石の純層。C区のみ確認した。	★古代末期。○1108年。	12世紀(1108年以降)?	
090	1027	南大類東沖遺跡	基本土層	V	p2: V層は(中略)洪水起源の可能性が高い。p2:(V層直上のIV層は)浅間B軽石に埋没した水田土壌である。(中略)(V層直下のVI層は)浅間C軽石(As-C)を含んでいる。p5:(第2面の)溝SD3・4の覆土も水田面を覆う土に通っており、また洪水起源の様相を呈した堆積であった。水路と水田が同時に存在し、この水路から溢れた洪水砂が水田を覆ったと考えられる。なお、土層中及び水田からは8~9世紀の土器が出土している。p26:これらの遺構(古代の遺構)の上は、洪水起源と推定されるV層に埋没した水田の土壌である。V層で水田が埋没したのは9世紀でも、水田化はそれより以前である。	★9世紀。○8世紀~9世紀。△1108年(As-B)。	9世紀。	
047	1028	元総社寺田遺跡		4面直上	p137:(4面について)Ⅱ区からⅤ区にかけて、FA下黒色粘質土からAs-C直上までの土層中より、4面に相当する遺構・遺物を検出した。(中略)溝以外からも多量の木製品が出土している状況からみて、かなりの流木が本調査区内に及び、それは洪水的な氾濫から流水が消滅するまでの一連の過程を物語っている。(中略)(調査区では)FA下黒色粘質土が3面の水田耕土として安定するまでの間に、幾度かの流水の影響を受け、流路に従って溝筋を形成し、氾濫により漂流した木製品が流水の消滅に伴って埋没していったものと考えられる。その期間は4世紀初頭のAs-C降下、堆積以降、6世紀初頭以前のFA下黒色粘質土(水田耕土)が安定するまでの間と考えられ、砂層の堆積が氾濫の証とも言える。	★4世紀初頭(As-C)~6世紀初頭(Hr-FA)。	4世紀~5世紀。	
067	1029	矢部遺跡	2号溝	No.(4~)6	[坂口一「矢部遺跡1区3号溝の洪水層について」pp109-110]p109:矢部遺跡では、北西から南東の方向に走行する複数の溝を確認した。これらはいずれも近似した方向に走行し、確認した範囲では平面形が直線的で、複数の洪水に由来するシルト層及び洪水に由来する砂層で埋没している。p110:2号溝は(中略)複数の洪水に由来するシルト層及び砂層で埋没している。特徴的なのは黄褐色のシルトを主体とするNo.4・5層である。これらはおそらく一連の洪水に由来する堆積物と想定され、特にNo.5層には多量の褐色軽石を含んでいる。一方、この軽石を含む洪水層の下位にあたるNo.6層の洪水層中からは、土器の坏・高坏の破片が出土している。(中略)したがって、この洪水層の年代は7世紀台の可能性があり、No.4・5層の洪水層はその直上に位置することから、おそらく7世紀からそう長い年月を経た年代である可能性は低い。	★7世紀。	7世紀。	
902	1030	横手南川端遺跡	基本土層	V	p304: 第V層(第7面) 黒褐色年度の水田耕作土であるVa層と下層の緑がかった灰白色粘土Vb層に分けた。粘性に富む均一な土質であり、洪水堆積層である。p306: 第7面は、第6面耕作土と基本土層Vb層の緑がかった灰白色粘土層を除去し、Hr-FPを含む明黄褐色洪水層下で溝及び竪穴状遺構・土坑等を検出した。(中略)(竪穴状遺構について)調査時には不定形であるが、遺物が多量に出土する掘り込みであり、住居跡として記録されている。(中略)出土遺物は、須恵器皿・坏・埴類の破片が大半であり、壺類はない。出土遺物から9世紀代の遺構と考えられる。[齋藤利昭「洪水層について」pp373-376]p373:(亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡全体について)第V層灰白色粘土層は、横手南川端遺跡の竪穴状遺構を覆うことから10世紀前半代と考えられる。	★10世紀前半。▼9世紀。	10世紀前半。	同様の層は亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡全体で見つかったが、ここでは年代・遺構との対応が明瞭な横手南川端遺跡の分を挙げた。
903	1031	横手早稲田遺跡	基本土層	I	p96: 第I層 現在の耕作土であるが、I区においては現在の耕作土下には、As-A泥流やAs-Aを鋤き込む耕作痕が見られた。また部分的に近現代の洪水層(明治期か)等も含まれる。	★明治。	明治。	

100	1101	飯積遺跡第3次・第4次	流路跡	流路跡2次堆積土	<p>[加藤隆則「自然堤防と集落」pp406-424]p412: (6世紀第Ⅰ四半期について)住居跡は28件と前時期について増加し、飯積遺跡最大のピークを迎える。p414: (6世紀第Ⅱ四半期について)洪水による流路跡の完全埋没が起こる。洪水以前の流路跡には黄褐色粘質土が安定して堆積していたが、突如洪水に見舞われ、褐色粗粒砂に完全に覆われ埋没した。分厚く堆積した粗粒砂の間層には、黄褐色粘質土の薄層を挟んでおり、洪水は複数回あったと見られる。斜面地には、洪水の間際にピットや土坑が掘りこまれている。住居軒数は16軒と前時期の半数近くまで減少する。その分布は前時期と対照的で、より流路跡に近い西側に営まれた。特に第113・171・193号住居跡は、流路跡にもっとも近い自然堤防の際に等間隔に立地する。住居は西側に偏って作られたため、前時期の住居跡とはほとんど重複しない。それだけでなく、本時期は前時期から一転し、真北からやや西に触れた主軸をもつ住居跡が多数作られた。これらの変更は、集落規模で行われているようである。(中略)(6世紀第Ⅲ四半期について)住居跡は16軒を数え、前時期と横ばいである。流路跡からやや離れ、自然堤防の中心よりやや北にまとまる。この分布は、洪水に対するリアクションと捉えられる。p421: 今回の調査では、6世紀中頃の洪水によって埋まった流路跡を確認できた意義は深い。この成果は、周辺地域における古墳時代の流路を明らかにできる可能性をもつであろう。</p>	★6世紀第2四半期(6世紀中頃)。	6世紀第2四半期。	
092	1102	今井条里遺跡	基本層序	VI	<p>p145: 第3遺構面は、基本層序Ⅶ層をなす洪水砂層を取り除くことによって検出した。p155: 水田跡の時期は、主要な灌漑用水路跡SD54出土の土師器杯、古墳時代末から奈良時代初頭の出土遺物をもつ第33～34号坪型区画跡によって構成される条里型地割が形成されていないこと、第4遺構面における7世紀前半の土器を出すSD94・SD95の一部の地割をSD54が踏襲していることからみて、古墳時代後期のうちに求めるのが妥当である。小区画水田跡の特徴も、条里型地割にともなう水田跡より、古墳時代の様相に符合している。[岩田明広「調査の成果 今井条里遺跡における地割の変遷—条里地割の成立と崩壊過程—」pp254-260]p254: (第3遺構面の)洪水砂は女堀川・SD54Iによってもたらされていた。SD54中のⅥ層には古墳時代末の遺物が含まれていた。上層のAs-B、下層のHr-FAからみて、遺物の年代は支持できる。埋没水田の年代は古墳時代後期のうちとしてよいだろう。</p>	★古墳後期。▼7世紀前半。○古墳末期。△1108年(As-B)。	古墳後期末葉。	
097	1103	北島遺跡第19地点	基本層序	IX	<p>p245: 今回の北島遺跡第19地点の調査によって、調査区を西から南東へ縦断する中央河川跡を境に、その東側に広がる微高地上に8基の古墳跡が比較的狭い範囲に分布することが明らかとなった。古墳群をのせる微高地は、古墳時代前期の中頃におきたと想定される大規模な洪水堆積によって陸化した部分であり、古墳群の下層には前期前半を中心に営まれた方形周溝墓群が埋没していた。つまり、時期的な断絶があるにもかかわらず、前代の墓域を踏襲する形で古墳群が形成されていたのである。また、中央河川跡の西側に広がる微高地上には古墳がまったく造られず、居住域(生産域)と墓域が載然と空間分割されていたことも、集落構造の変遷を考える上で重要である。</p>	★古墳前期中頃。	古墳前期中葉。	田谷遺跡(097)と北島遺跡第19地点(096)の洪水痕跡は接続しているものとみなした。
098	1103	北島遺跡第17・19・21地点	第17地点の基本土層	13, 14	<p>p14(第4図): (12層は)褐灰色土。水田土壌。(13層は)黄灰色土。洪水層。弥生時代中期～後期包含層。(14層は)灰色土。洪水層。弥生時代中期包含層。(15層は)灰色土。弥生時代中期水田土壌(上面)。p88: 水田跡は、A区のAO～AS40～43グリッドを中心に検出された。(中略)水田面は基本土層の第12層で検出された。上層の第11層では古墳時代初頭乃至中期に降灰したとされる、浅間C火山灰が認められる。すでに報告された第15・16層の弥生時代中期後半の水田跡とは第13・14層をはさみ明確に区別できる。第13・14層は洪水層と考えられ、弥生時代中期後半から後期の土器片を若干含む。これらのことから水田跡の大まかな時期を捉えることができる。すなわち弥生時代後期から古墳時代前期にかけての水田跡である。水田跡の地形は、北東側から南西側に向かい緩やかに傾斜している。エレベーションB-B'のラインで見ると約35mで18cm低くなっている。南東及び南西の一部で水田跡の一部を確認できなかった。これは洪水により畦畔が流失したことによると考えられる。</p>	▼弥生中期後半。○弥生中期後半～後期。△弥生後期～古墳前期。	弥生後期前葉?	

099	1103	北島遺跡第17・18地点	第18地点	3面直上	p350:(第18地点)の発掘調査は、平安時代の1108(天仁元)年に降った浅間山起源の火山灰(As-B)を被った面(本報告書では一面と呼称、以下同じ)、この調査面を取り除いた面(二面)、古墳時代前期初頭の洪水砂層を取り除いた面(三面)、そして弥生時代中期の洪水砂層を取り除いた面(四面)の、4層界で行った。	★古墳前期初頭。	古墳前期初め。	
918	1104	久下前遺跡B1地点	第4号溝跡		p158:(第4号溝跡について)溝の西端付近には、砂利や細砂を充填した不整形の土坑状に映れた窪みが連続して見られ、一時的な大水による濁流などもあったことが窺える。(中略)本溝跡の時期は、出土遺物の時期から、おそらく7世紀後半に掘削され、8世紀代～9世紀前半のうちにはほとんど埋没して機能しなくなったものと思われる。	★7世紀後半～9世紀前半。	7世紀後半～9世紀前半。	
096	1105	田谷遺跡	基本層序	Ⅹ	pp141-142:(基本層序について)(前略)西暦500年頃の噴火とされる様名ニツ岳火山灰(Hr-FA)層(Ⅶ層)、古墳時代後期の遺構が掘り込まれた細砂層(Ⅷ層)、古墳時代前期の遺構掘り込み面を上面にもつ古墳時代前期の洪水砂層(Ⅸ層)、古墳時代前期の遺構掘り込み面を上面にもつ弥生時代後期の遺物包含層となっていたシルト層(Ⅹ層)、弥生時代後期から古墳時代前期初頭の遺構掘り込み面を上面にもつシルト層(ⅩⅠ層)に区分された。	★古墳前期。▼古墳前期。△Hr-FAテフラ(500年ごろ)。	古墳前期中葉。	田谷遺跡(097)と北島遺跡第19地点(096)の洪水痕跡は接続しているものとみなした。
093	1106	築道下遺跡			[劔持和夫「中世の墓域について」(第2分冊)pp634-645]p642:(中世)の墓域は厚い氾濫土に覆われていたので、遺存状態はきわめて良好であった。p643:第Ⅱ次周堀は溝底がわずかに埋まった後、洪水による氾濫土の堆積を繰り返す。第Ⅱ次周堀にこれを浚渫した様子はなく、埋まるに任せていたようである。あるいは、洪水の頻度があまりに高かったからかもしれない。やがて墓地は氾濫土で覆い尽くされ、結果的に廃絶してしまう。おそらく、集落全体も命運をともにしたと考えられる。その後も氾濫は長く続き、築道下遺跡は歴史の中に埋もれてしまう。p644:現時点で墓地の消長を推測するならば、それは13世紀後葉に造成され、同末～14世紀中葉を盛期として同末まで造営される。そして、15世紀に入って間もない頃、度重なる元荒川の氾濫によって放棄、廃絶するということになる。	★15世紀初頭。(以降に継続)	15世紀初め。	
094	1107	堂地遺跡			[若松良一「堂地遺跡の変遷」pp200-209]p200:(古代について)A・B両区を合わせて律令時代の竪穴住居跡が11軒検出されており、本格的定住生活の確認ができる。出土遺物によって3期に分期が可能である。(中略)(第Ⅰ期(8世紀中葉から後半について)集落の開始時期は7世紀末ないし8世紀初頭まで遡る可能性が高からう。(中略)(第Ⅲ期(9世紀前半から中葉)について)A1区第6号住居跡、A2区第1号住居跡、A3区第4号住居跡、A4区第7号住居跡、B区第8号住居跡の5軒が該期に属す。一定の間隔をおいて広く分布する傾向が窺われる。(中略)古代の竪穴住居は例外なく覆土と地山が同質で、有機質土の発達を見ない。このことは、再三の洪水での被害状況を示すものであろう。9世紀後葉を最後に集落は廃村となる。p201:堂地遺跡に再び住人が登場したのは12世紀後半代のことであった。	★9世紀後葉。▼9世紀前半～中葉。△12世紀後半。	9世紀中葉～後葉。	複数回?
095	1107	堂地遺跡			[若松良一「堂地遺跡の変遷」pp200-209]p201:(13世紀前葉について)中心建物の整備と大規模な長方形区画溝の新設によって、居館の体裁が整えられる。(中略)(13世紀中葉について)洪水に見舞われ、居館は壊滅的な被害を受けた。このため、水はけ口のなかった区画溝の最低部に排水路第78号溝が設けられると共に、旧第1号溝に添うように第35号溝が掘削された。この第35号溝は上流で区画溝と連絡しているようである。中心建物は潰滅し、調査区外の北西方面に規模を縮小して建て直しが行われたものと推測される。(13世紀後半から14世紀初頭について)再び治水が安定し、低地部への進出が認められるが、分散居住形態が存続する。	★13世紀中葉。	13世紀中葉。	
102	1201	国府関遺跡	自然流路	自然流路埋土	p9:自然流路は青灰色砂質土を開析し、自然流路から出土した土器から、砂質土の堆積が終了したのは弥生末～古墳初頭と判断される。p15:自然流路は激しく蛇行し、弥生末～古墳初頭まで集落が谷奥側から移動しなかったとしたとき、流路埋没にかかわる洪水によって集落が被害を被ったことは確実である。	★弥生後期末葉～古墳前期初頭。	弥生後期末葉～古墳前期初め。	

106	1301	落川・一の宮遺跡	第14地点	落川Ⅲ層	参考[高野繁昭・増淵和夫「遺跡とその周辺の自然史」pp5-53]p25: 落川・一の宮遺跡周辺に分布する沖積層を落川層と呼ぶこととする。p26: (落川)Ⅲ層は層厚3m以上の砂礫層からなり、第12調査地点以北に分布する。(中略)Ⅲ層は河床堆積物と考えられる。第14・15調査地点では本層から古墳時代前期および中期の土器が出土する。(中略)Ⅲ層は古墳時代中期の堆積物と考えられる。	★古墳中期。	古墳中期。	
103	1302	上千葉遺跡西亀有1-12地点	(調査区南部の水田)	Ⅶ-2a・2b	p17: V層上面で検出した遺構をI期とした。(中略)I期は16世紀後半になろうかと思われる。p44: (I期の水田は)はおそらく洪水によって埋没したものと思われる。[江上智恵「遺構の変遷」pp320-322]p322: I期の遺構は耕作域として機能していた時期にあたり、文禄年間以前であるものと思われる。水田は数度にわたる洪水によって被害を受けており、砂の堆積が顕著である。	▼16世紀後半(文禄年間以前)。△16世紀末~17世紀前半。	16世紀末葉?	
104	1303	九段南一丁目遺跡		Ⅳ	p12: (Ⅳ層は)調査区中央あたりのD-1地点で観察された。本層は、自然堆積の状態を呈していることから、土留構築後に発生した洪水等により一時的に冠水し、水位の後退により土砂沈殿物が堆積したもの、および護岸外の河床堆積物と推定される。(中略)時期的には近世初期から前葉の早い段階までと推定される。	★近世初期~前葉の早い段階。△近世前葉。	17世紀~18世紀前葉。	
105	1304	染地遺跡第51地点		V・VI間	p12: (第V層の)上面は平安時代の遺構面。(中略)(第VI層の)上面は奈良・平安時代の遺構面。p110: 2枚の古代地表面のうち、旧地表面では8世紀初頭から9世紀初頭の廃絶と考えられる遺構群が、新地表面では9世紀中葉の廃絶と考えられる遺構群が検出されており、旧地表面と新地表面の時間的な幅は非常に短く、連続していると言っても差し支えない。そして旧地表面で確認された遺構の中に、第VI層ときわめてよく似ているもののまだらで不均質な土を覆土としているものがあることや、短時間でいっきに埋没しているものがおおくあるといったような状況証拠から、旧地表面(第VI層)は人為的に整地されて新し地表面が形成された可能性が高いものと判断された。そしてこの新地表面(第V層)は多量に遺物を含む「遺物包含層」であることから考えて、基本的に洪水による堆積土層を主体とする整地層であり、洪水後の復旧作業によって形成されたものであろうという結論に達した。	▼8世紀初頭~9世紀初頭。△9世紀中葉以前。	8世紀~9世紀中葉?	
108	1401	沢狭遺跡		氾濫層(宝永火山灰・Ic間)	p7: 宝永火山灰下の氾濫層。近世前半の金目川の氾濫に起因するものと考えられる。	★近世前半。△1707年(宝永火山灰)。	近世(1707年以前)。	
107	1402	山角町遺跡第IV地点	95号遺構	遺構覆土	p59: 堀80号遺構開口時に、洪水などに起因する流水が南側から及んで比較的短期間に形成されたものと考えられる。流入土が処理されていない現象から、堀80号は本流の形成をきっかけに廃絶した可能性が指摘できる。p60: (95号遺構の)形成時期は、出土遺物から16世紀第2四半期頃の所産と考えられる。	★16世紀第2四半期。	16世紀第2四半期。	
112	1501	青田遺跡		Ⅵ	p28: Ⅵ層は薄い砂層であり、調査半地全域で確認できる。(中略)9世紀末葉に洪水などによって短期間のうちに形成されたものと考えられる。[高濱信行・ト部厚志「青田遺跡の立地環境と紫雲寺地域の沖積低地の発達過程」pp1-18]p17: 青田遺跡での観察から、9世紀頃の遺物を含む洪水起源の砂層(Ⅵ層)以後急速に沈水し紫雲寺湯が形成されたことが明らかである。また、青田遺跡内では複数回の液状化が観察できるが、Ⅵ層の堆積直前にも液状化が発達することから地震活動に密接に関連して紫雲寺湯が形成された可能性が非常に高い。	★9世紀末。	9世紀末葉。	

110	1502	岩倉遺跡		V	p12:(V層)灰色砂層(洪水堆積土)3層に分層される。p13:今回検出された方形区画遺構は、当遺跡最下層であり、出土している遺物から15世紀代が考えられる。p14:(方形区画遺構の)覆土はV層の灰色砂層(洪水堆積土)である。p15:遺跡の中には、現川床で見られるような角の取れた砂礫(Vb層)が広く帯状に分布している。p22:出土した遺物はほとんど包含層のⅢ・Ⅳ層が圧倒的に多く、遺構から出土したものは少ない。p23:出土土器を見ると、15世紀後半～16世紀前半と17世紀前半の大きく2時期を設定することができる。検出遺構と対比すると、下層の方形区画遺構が遺物包含層の下部で確認されていることからこの方形区画遺構が15世紀後半～16世紀前半またはそれ以前、礎石建物跡が17世紀前半とすることができよう。	▼15世紀後半～16世紀前半またはそれ以前。△17世紀前半。	16世紀?	
109	1503	江内遺跡	基本層序	Ⅱb	p9:I層は表土層。Ⅱ層は2つに細分され、ともに洪水性堆積層。茶褐色シルト。Ⅱa層は東側(B区)で厚い。Ⅱb層は全体に堆積し、厚さ40cm。上面から掘りこまれる遺構には18世紀末～19世紀のものがある。寛政8年(1796)の洪水の際に堆積した可能性が高い。	★1796年。△18世紀末葉～19世紀。	1796年。	中央気象台・海洋気象台(1939)等にこれに対応するとみられる記載はないが、児玉(1988:241)によると、新潟県内では和暦4月と5月にそれぞれ妙高市、三条市で洪水があったが、遺跡に最も近いものとして7月7～9日(和暦6月3～5日)に「大雨洪水、沢海・上下木津(横越村)(現新潟市)など破堤、新発田藩領水損高2万3000石」とあり、これに該当するものと解釈される。
119	1504	延命寺遺跡	基本層序	Ⅵ,Ⅶ	p13:(Ⅵ層)暗緑灰色シルト。粘性ややあり。しまりややあり。洪水堆積層。(中略)(Ⅶ層)暗緑灰色細砂。粘性なし。しまりなし。暗緑灰色シルトを少量含む。洪水堆積層。(中略)遺跡の西側約500mには三角田遺跡が隣接する。延命寺遺跡と三角田遺跡の基本層序の対応を第3表に示す。三角田遺跡では洪水堆積層(延命寺遺跡Ⅵ～Ⅶ層)を挟んで、包含層が2層確認できる。このうち上層(延命寺遺跡Ⅲ～Ⅳ下層)は8世紀中葉以降、下層(延命寺遺跡Ⅶ～Ⅷ下層相当)は8世紀初頭～中葉の遺物包含層である。延命寺遺跡Ⅷ層は古墳時代、7世紀前半、8世紀前葉～中葉の遺物包含層で、三角田遺跡下層の年代(下限)と齟齬はない。このことから、延命寺遺跡の洪水堆積層(Ⅵ～Ⅶ層)は8世紀中葉頃に堆積したことが判明し、Ⅷ層の年代の下限は8世紀後葉に降ることはない。またⅧ層からは「天平八年」(736)の紀年銘木簡、Ⅷ層からは「天平七年」(735)の紀年銘木簡が出土し、遺跡の下限を示すと考えられる。p122:(前略)SD11は基本層序のⅥ層から、SD707はⅦ層から掘り込まれており、8世紀中葉に掘削されたと推測される。集落の様相は洪水層の堆積により大きく変化し、居住域としては使われていない。延命寺遺跡の西側に隣接する三角田遺跡では洪水後も集落が形成されている。	★8世紀中葉。	8世紀中葉。	参考:p13「第3表基本層序対応表」
111	1505	蔵ノ坪遺跡	川跡		p62:SD808とSD265の2本の川跡は橈形山脈西麓の小谷を源流に、北西側の沖積地方向に流れていたと思われる。SD808からは8世紀後半から9世紀前葉の土器が多く出土し、少量であるが8世紀中葉の遺物も含まれていた。埋没するまで、断面を観察する限り3回は流路変遷していた。遺物は2回目の河床面から多く出土した。SD265は9世紀後葉の土器が多く出土した。埋没するまでやはり2回の流路変遷が確認された。そのうち最終段階の流路をSD264とした。SD265とSD264の出土土器は同時期に近く、SD265(264)のあるⅡ区は遺構が2小期(Ⅱa,Ⅱb)あるので、9世紀後葉の短期間に流路が変化する氾濫があったものと考えられる。また、SD808とSD265の関係についてはSD808が9世紀後葉の遺物を含まないことからSD808が氾濫などで埋没し、SD265に流路が変化したと考えられている。	★9世紀後葉。	9世紀後半。	遺跡は古代の津に関連したものの。

120	1506	田伏山崎遺跡	沢地区北	VIIIb・VIIIc間	p22:調査区東側ではVIIIb層とVIIIc層の間に土石流が認められ、VIIIc層からは、土師器・須恵器・緑軸陶器・灰釉陶器など古代に所属する遺物が出土した。p23:(SD1077について)(前略)北西-南東方向に延びる川跡で、幅340~915cm、深さ89~156cmである。土層断面の観察から、流路の移動・川幅の増減を繰り返したことが推定される。土層の堆積は地点によって異なるが、川跡の中央から最深部にかけては砂礫層、川岸側の下層は黄灰色シルト、川岸側の上層はVIIIc層の土を含むオリブ黒~黒褐色シルトが堆積する。遺物は中央部上位の砂礫層からの出土が多く、また、この層にはVIIIc層起源と思われる土が含まれる。このことから、SD1077はVIIIc層の時期には流路として存在したことが推定され、その後、土石流の堆積により埋没したものと考えられる。p53:沢地区北では10世紀前葉前後~11世紀前葉前後の遺構・遺物が出土した。春日編年のVII期・VIII期の段階に位置付けられる。p54:(春日編年VII2-3~VIII期について)SD1077が継続して存在した時期である。その後、土石流によりSD1077が埋没し、VIIIb層が堆積する。この一連の動きは遺物の出土状況から、比較的短期間であったものと考えられる。	★春日編年VII2-3~VIII期。	11世紀前葉(春日編年VII2-3~VIII期)。	春日真実(1999)『土器編年と地域性』『新潟県の考古学』pp301-310 p305:VII期は10世紀前葉~11世紀前葉、VIII期は11世紀前葉。
118	1507	姫御前遺跡	基本層序	IIa	p10:(IIa層は)暗黄灰色細砂。粒子の粗い細砂を基調とすることから、洪水性の堆積物と考えられる。花粉分析・植物珪酸体分析の結果からは、IIa層段階において水田稲作が行われていたことが明らかになっており、比較的水の影響を受けやすい環境にあったことが窺える。p11:IIa層には17世紀を主体とする遺物が含まれており、近世に形成された土層と考えられる。層厚は20~30cmほどである。	★17世紀。 ○17世紀。	17世紀。	
113	1508	細田遺跡		IV	p65:低地部分では部分的に存在するIV層(灰色シルト:洪水層か)を間層として、III層(暗褐色土:古代遺物包含層)とV層(黒褐色土:弥生~古墳遺物包含層)の2時期の遺物包含層が存在する。p69:(出土遺物の)主体となるのは古代および弥生終末期~古墳前期で、(後略)。p74:遺物によっては、小破片レベルでの古墳前期の土器群との識別は困難である。したがって、弥生末から古墳前期とした土器群の口縁部残存率の数値中に古墳後期の土器群が含まれている可能性は高い。(明確に図化できた11点は)古墳後期(6~7世紀)に比定される。p91:(古代の土器について)細田遺跡では春日編年のIV~VI期(8世紀後半~9世紀後半)を中心とする土器が出土した。	▼弥生終末期~古墳前期、古墳後期(6世紀~7世紀)。△古代(主として8世紀後半~9世紀後半)。	7世紀~8世紀?	
114	1509	三角田遺跡		V・VI	p10:V・VI層は砂・シルトの混じった無遺物層で洪水堆積物と考えられる。p41:(C区上層出土の)226は須恵器杯蓋のB類で、器形は山笠状となる。9世紀前葉頃のものであろう。p73:C区下層遺跡は洪水性堆積物に覆われていた。土器の年代は8世紀初頭から前葉に限定され、基本的に新しい遺物の混入が確認できないことから、遺構もこの時期に限定できる。ただし、遺構検出状況や包含層の堆積からは、洪水が遺跡廃絶の契機である証拠は確認できなかった。C区上層からは9世紀代の土器が出土しており、洪水層は集落廃絶後9世紀頃の間の比較的短期間に堆積したと考えられる。洪水層の観察からは、複数回の洪水による可能性が指摘されている。	▼8世紀初頭~前葉。△9世紀前葉。	8世紀中葉~9世紀初め。	
115	1510	用言寺遺跡	溝		p71:古代(II期)の遺構は、多数の溝が並列するように検出された。切り合い関係を把握し、主軸方向を整理する過程から、これらが概ね3時期に掘削されていることが明らかになった。また、溝の覆土上層には、3時期とも細砂が厚く堆積していることから、洪水により埋積したものとみられる。検出された多数の溝は、洪水で埋積するたびに溝を掘削した結果を反映しているものと考えられた。なお、覆土の最上層から9世紀末~10世紀初頭に位置付けられる土師器が、ほぼ完形の状態出土することがあった。この出土状況は、溝の埋没年代を反映するとともに、土地を鎮めるための祭祀行為を意味する可能性がある。	○9世紀末~10世紀初頭。	9世紀末葉~10世紀初め。	
116	1510	用言寺遺跡	段丘下における基本層序	IIe	p17:(IIe層は)灰色砂質シルト。細砂に近い土質である。9世紀~10世紀後半の遺物が混在しているが、洪水堆積物と考えられる土質であり、遺物は混入によるものと考えられる。(中略)(IIg層は)10世紀後半の遺物を多量に含み、他の時期の遺物の混在がほとんどない。p16:IIc層には焼山火山起源の高谷池火山灰層グループCが多量に含まれていることが明らかとなった。(中略)(高谷池火山灰層グループC)は989年の噴出物と判断することができる。	▼10世紀後半。○9世紀~10世紀後半。△989年。	10世紀後半(989年以前)。	

117	1510	用言寺遺跡	段丘上の溝	覆土	[加藤学「用言寺遺跡周辺における災害の履歴」pp81-90]p88:平安時代に入ると、段丘上には多数の溝が掘られる。(中略)(溝は)いずれも洪水性の堆積物によって短期間に埋積しており、そのたびに掘り直しがおこなわれたものと考えられた。p89(第10表):9世紀後半~10世紀初頭に度重なる洪水の被害。)p90:(溝は)遺物の年代観から、9世紀末~10世紀前半頃には排水路の機能が失われたと見られる。	★9世紀後半~10世紀初め。	9世紀後半~10世紀初め。	参考:高野武男,2004:『古代の地形』『上越市史通史編1/自然・原始・古代』上越市。電刻書第10表は遺跡全体を包括したもので、当該洪水痕跡を115と同一のものとなした。
125	1601	岩坪岡田島遺跡			p31:(中世について)河川は大規模なものとみられるが、本体は調査区外にあり、出土した種実・花粉・珪藻等の自然科学分析から、12~13世紀には周辺の低地部には湿地帯が形成され、時折洪水などによって河川の水が溢れる湿地的環境であったとされる。	★12世紀~13世紀。	12世紀~13世紀。	
122	1602	五社遺跡		Ⅲ(洪水A)	p15:五社遺跡の一角は、古くから小矢部川・庄川の氾濫の被害を受けてきたことが知られている。調査により、第4図のように三回の洪水堆積物を分離することができる。洪水AはⅢ層で、黄褐色の砂質シルトと砂が互層を成しており、最下部はⅣ層をバックするように粘質土が薄く堆積している。堆積期間は11世紀~12世紀末頃と推定され、この堆積によってほぼ平坦な地形が出来上がったと思われる。p404:五社遺跡の集落を見ると、11世紀末~12世紀後半の間に襲った庄川の洪水で荒廃した田野に、12世紀後半にはA群・E群などで集落が創建されて再開発が始まる。	★11世紀末~12世紀後半。	11世紀末葉~12世紀。	参考:河西健二,1993「五社遺跡調査で思ったこと1自然災害と五社遺跡」『埋蔵文化財年報4』(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
123	1602	五社遺跡		V(洪水B)	p15:五社遺跡の一角は、古くから小矢部川・庄川の氾濫の被害を受けてきたことが知られている。調査により、第4図のように三回の洪水堆積物を分離することができる。(中略)洪水BはV層で黄褐色及び青灰色の砂質土から成り、互層を成している。細かくは薄い粘質土と砂の層が繰り返し堆積したもので、場所によってその差が大きい。堆積期間は9世紀後半~10世紀頃と推定される。	★9世紀後半~10世紀。	9世紀後半~10世紀。	
128	1603	舌山遺跡	基本層序	I b	p58:粘土と砂の互層であるI b層はA1地区及びA2地区の北半でみられ、昭和9年の黒部川代洪水の所産と考えられる洪水堆積層である。	★昭和9年。	1934年。	
127	1604	竹ノ内Ⅱ遺跡	B1地区	古代下層・上層間	p101:B1地区では上下2面の遺構面が検出され、それぞれ出土遺物から9世紀(下層)、9世紀末~10世紀代(上層)の集落跡と考えられる。下層では建物4棟があり、畠と考えられる溝群との切り合いや、建物の主軸方向からSB2と畠→SB3・SB4→SB1という3時期の変遷が想定できるが、柱穴の埋土がほぼ同一であることから、極めて短期間の変遷であろう。またSB2の西側には柱痕の残る穴が複数あり、建物域はさらに北西側に広がる可能性がある。下層と上層との間に大きな時期差はなく、恐らくは河川の氾濫等により一気に埋まったものと推測できる。上層の遺構は下層の集落とほぼ同位置に営まれるが、再び河川の氾濫等により廃絶したものとみられる。その後集落は北東側のC1・C2地区へ移動し中世集落へ移行したものと考えられる。	▼9世紀。△9世紀末~10世紀。	9世紀中葉~後葉。	
126	1605	手洗野赤浦遺跡			p269:調査区の西側は中央の微高地より一段低い谷状地となっており、埋土の下から中世中頃~後半の掘立柱建物・溝・井戸・土坑が検出された。(中略)谷状地盤土下では14世紀から15世紀頃にかけての遺構の変遷がみられるが、15世紀後半~16世紀のある時期に洪水等により埋まったと推定される。その後、埋土上に掘立柱建物と井戸が構築されるが、軟質の石材と曲物を使用する井戸の構築方法が埋土下の井戸と同じであることから、上下層で期間の隔たりはあまりないものと考えられる。p405(第216図「手洗野赤浦主要遺構変遷図」:(洪水等により低地部が埋没するのは15世紀第三四半期ごろ。)	★15世紀後半~16世紀(15世紀第三四半期ごろ)。▼14世紀~15世紀。	15世紀第三四半期。	
121	1606	任海宮田遺跡	I地区		p9:旧河川(SD06)部の堆積土は(中略)斜交ラミナが発達し典型的な流水堆積の様相を呈する。(中略)この河川は奈良時代の集落が形成された時期に既に存在し、平安時代に比較的短期間に埋没したことが伺える。p12:(SD06)は奈良時代(8世紀前半)には既に形成されており、最終的に平安時代(9世紀末頃)に埋没したことが明らかである。(中略)(SD07)は調査区北側で北西から南東方向に流れた、いわゆる鉄砲水の流路である。	★9世紀末。	9世紀末葉。	

124	1607	中名V遺跡	E1地区	I・II間	p15: E1地区のI層とII層の間に淘汰の良い黄褐色シルト層が狭在し、約0.05~0.10mの厚さで堆積している。遺物などは含まれていないのだが、洪水によってもたらされた堆積物が、近世から近代にかけてと考えられる耕作関連遺構を被覆している。	▼近代。	19世紀後半以降。	
129	1608	中富居遺跡	第1区B群溝		p7: 下層の溝は大別して主軸方向が東西に伸びるA群と、南北に伸びるB群に分けられる。(中略)A群・B群とも出土遺物の年代観にあまり差はなく、ほぼ9世紀代に属する。検出状態・切り合い等から規則性を持って沼肩に作られたA群溝が埋没した後、その堆積を削る形でB群溝が形成され、更に河川氾濫により短期間で埋没したと考えられる。p11: 1区下層は9世紀初~中頃(という時期が与えられる。)	▼9世紀初頭~中頃。○9世紀。	9世紀?	
132	1701	梅田B遺跡第4次調査(1・2区)	1区基本層序	20	p8: 16層は20~30cm程度で、ほぼ全面で検出できた。(中略)(16層について)この層が検出できる谷奥に向けては、古代後半期の集落跡が検出されている。この層が検出できないところでは古代の遺構が削平されている可能性もある。20層が中層面で検出した水田に被る細砂であり、厚いところで20cm程度堆積していた。21・II2層は水田耕土で20~30cm程度ある。p151: 田面には無数の足跡が残されており、(中略)(洪水の時期は)現在の梅雨の時期ではないかと考えられ、(中略)古墳時代前期初頭には廃棄されたと考えられる。	★古墳前期初頭。▼古墳前期初頭。△古代後半。	古墳前期初め。	
130	1702	四柳白山下遺跡			pp12-13: 下面生活面の標高は、B地区北西で14m弱、A地区南東で約11.8mと、約2m強もの標高差をもち、扇状地形成時の土砂堆積の影響を大きく受けやすい地勢にある。そのため、9世紀中頃のある短時期にB地区7区以南の約200m ² に土砂の堆積をみたと考えられる。(後略)	★9世紀中葉。	9世紀中葉。	
131	1702	四柳白山下遺跡	C地区	④	p16: ④河川の氾濫層。(中略)河川の氾濫に伴う土層④・⑦は、1mを超える円礫を最大に10~30cm大の円礫が多量に混ざる。(中略)この河川氾濫層は14世紀中葉に堆積したことが、第2次調査により判明している。	★14世紀中葉。	14世紀中葉。	
133	1702	四柳白山下遺跡	C地区の基本土層序	③	p9: ③II面覆土。(河川の氾濫層。)(中略)(各層は)粗砂層が多く、いずれも洪水等により上流よりもたらされた土砂とみられるが、現大谷川に沿う北東断面ハ・ニでは礫を多量に含み層厚100cmを超える③層がII面水田を覆い、南東壁の断面へトでは層厚90cmを測る⑥層がV面を厚く覆う。p9(第4表): (II面の時期は)14世紀中頃。(第II面は)14世紀中頃に発生した大規模な土石流土砂により一時に埋没したものである。(中略)厚さ50~150cmを測る水田覆土(I面ベース土)は、最大1mを超える山石を含んでおり、洪水のよりもたらされた土石流砂層である。	★14世紀中葉。	14世紀中葉。	131と同一のもののみとした。
168	1901	秋山氏館跡			p1: 基本層位は、表土から約60cm前後のレベルで暗褐色砂質土が覆い、直下に洪水によると考えられる粗粒砂層が5~10cm程度堆積している。[佐々木満「近世・近代」pp98-102]p99: (前略)明治40・43年に県下を襲った大洪水の砂層が調査区に堆積していたことから、畑の機能もこの段階で一時終了している。	★1907年。	1907年。	8月下旬の大雨に起因するとみられ、甲府では8月23~25日に合計314.3mmの降水が記録されている。(参考: 株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993: 11))
169	1901	秋山氏館跡			同上。	★1910年。	1910年。	8月上旬の大雨に起因するとみられる。甲府では8月10日には222.5mmの降水(気象庁のデータより)。「気象庁天気図」からは台風と前線による大雨といえる。

170	1901	秋山氏館跡			p12: (15号溝跡は)E9・F9・G9グリッドを中心に検出され、主軸は南北方向で長さ約14.70m、最大幅約2.50mである。(後略)p13: (15号溝の時期は)17世紀～18世紀初頭か。[佐々木満「近世・近代」pp98-102] p98: (近世・近代について)本遺跡の名称にもなっている秋山氏の館跡に関連する遺構群であり、17世紀初頭から近現代まで継続した土地利用が認められた。p101: (前略)15号溝跡出土陶磁器の年代は、柳沢氏在城の宝永7年(1710)から享保9年(1724)に設定できる。更に限定すれば、15号溝上層には洪水によると考えられる粗粒砂層が堆積していた。享保13年(1728)に大洪水の記録があり、15号溝跡は最終的にこの段階には埋没したと考えられる。	★1728年。	1728年。	①「15号溝上層には洪水によると考えられる粗粒砂層」を1728年のイベントによるものと解釈した。②報告書等にイベントの起こった月日は記されていないが、日下部(1975b: 132)には「甲斐は六月二十七日(8.2)から七月八日まで大雨で、笛吹川などが大洪水となる」とある。
145	1902	壱番下堤跡	各トレンチ	D	[保坂康夫「考察」pp39-42]p39: (まとめの4として)護岸施設は形成後、砂、シルト、粘土と言った細粒堆積物に覆われた。(中略)(まとめの6として)護岸施設は4の堆積物も含め、洪水流によって削剥された。p40: 本遺跡の調査成果から検討すると、護岸施設の年代については、出土陶磁器、出土木材の放射性炭素年代測定が検討材料である。(中略)洪水層は木根以前すなわち16世紀後半以前で、層中の遺物の最も新しい年代の16世紀前半以降、すなわち16世紀中頃に成立したことになる。	★16世紀中頃。	16世紀中葉。	
138	1903	鰻沢河岸跡		第Ⅱ面直上	p11: I面下50～60cmにはⅡ面の堅い層がある。この面には建物礎石が載っているが、さらに礎石を覆うように細かく薄い砂層が堆積しており、洪水を受けたことが分かる。Ⅱ面下20～50cmにⅢ面の堅い面が広がっている。やはりこのⅢ面上にも細かい砂層が堆積している。(後略)p96: 富士川運輸会社が設立された明治初期から20年代後半をⅡ面の機能した時期とし更に、拡張が進み最も広い敷地となったのがⅠ面であったとしておきたい。p97: I面は明治30年代初頭から大正末ないし昭和初期までの生活面とすることができようか。	▼明治初期～20年代後半。△明治30年代初頭～大正末。	1890年代?	
139	1903	鰻沢河岸跡		第Ⅲ面直上	p11: I面下50～60cmにはⅡ面の堅い層がある。この面には建物礎石が載っているが、さらに礎石を覆うように細かく薄い砂層が堆積しており、洪水を受けたことが分かる。Ⅱ面下20～50cmにⅢ面の堅い面が広がっている。やはりこのⅢ面上にも細かい砂層が堆積している。(後略)p96: Ⅲ面は18世紀後半～19世紀中頃まで、たびたび洪水に悩まされながらも修復されつつ機能していたものと考えたい。	★18世紀後半～19世紀中頃。	18世紀後半～19世紀中葉。	
150	1903	鰻沢河岸跡	御蔵台地区	6～12	p426: 御米蔵西側の土層堆積を米蔵西ベルト南壁からみると、焼土・炭化粒が散布する面が連続するのが16層であり、これが文政大火直後の面と考えられる。これを切り込む15層が矢来を設置するための掘り込み層である。13層が赤瓦や薄板を短期間に廃棄した厚い堆積層であり、屋根だけの可能性もあるが、この段階で御米蔵が解体されたと考えられる。12層と10層の灰白シルト層は、層厚が薄く葉理が確認できなかったので溢流洪水堆積物の二次堆積と考えられる。これらと6層の溢流洪水堆積層である灰白シルト層を合わせて判断すると、12層から6層までは溢流洪水などで徐々に堆積したものと考えられる。この上の4層から2層の大角礫層もしくは角礫質土は盛土であり、人為的に短期間で堆積されたものと考えられる。	▼1821年(文政大火)。	19世紀(1821年以降)?	文政大火は1821年に発生。
151	1903	鰻沢河岸跡	問屋街地区の土手1	土手1覆土	p75: 土手1の最上部平坦面は、調査直前まで現存していたコンクリート舗装路の直下にあたる。(中略)北側の法面については、洪水などによって護壁が崩され法面が崩された状態で洪水砂を一気に被った可能性がある。この土手1の最上面の時期は昭和初期と考えられる。	▼昭和初期。	昭和以降。	
152	1903	鰻沢河岸跡	御蔵台地区御米蔵西側	6～12	p209: (御米蔵西側の米蔵西ベルト南壁において)12層と10層の灰白色シルト層は、層厚が確認できなかったので溢流洪水堆積物の二次堆積と考えられる。これらと6層の溢流洪水堆積層である灰白色シルト層を合わせて判断すると、12層から6層までは溢流洪水などで徐々に堆積したものと考えられる。	▼1821年。△近世?	19世紀中葉?	

153	1903	鯉沢河岸跡	御蔵台地区御米蔵内部	15~16	p209:御米蔵基礎石垣の内部については、(中略)三段階のレベルでこの土地が利用されていると考えられる。(中略)(下段について)トレンチ最下部の18層は厚い堆積層であり、この上に土壌化は明瞭でないが生活面の可能性のあるほぼ水平な17層があり(標高241.9m)、さらに上には溢流洪水に由来する可能性が高い15・16層が覆っている。(中段について)この上には、厚く傾斜をもった12~14層があり、この上は溢流洪水に遭った痕跡のある生活面であった11層の小礫混じりのにぶい黄褐色粘質土がある(標高242.6m)。(上段について)さらに7~10層は厚く傾斜をもち焼土粒や炭化粒を多く含む堆積層であり、この上の1~5層は土間漆喰層(上面は標高約243.44m)に関連する層である。p210:溢流洪水に襲われた痕跡が2段階あり、御米蔵の内部の土地を二度嵩上げされたことを示すものと考えられる。これに関連する文献としては、(寛政11年(1799)、文政5年(1822)のものがある。)(中略)このトレンチの土層堆積の観察と文献上の記録はほぼ合致すると考えられる。	★1799年?	1799年。	報告書にイベントのあった月日は明記されていないが、中央気象台・海洋気象台(1939:180)には9月18日に「讃岐、摂津諸国並江戸大風雨」とあり、日下部(1975c:168)にも同様の記載があることから、これに対応するとされる。
154	1903	鯉沢河岸跡	御蔵台地区御米蔵内部	11	同上。	★1821年?	1821年。	報告書にイベントのあった月日は明記されていないが、中央気象台・海洋気象台(1939:194)、日下部(1975c:170-171)はともに8月31日に中部・近畿地方で暴風雨や洪水があったと記し、他に洪水の記載がないことなどから、これに対応するとみられる。
156	1903	鯉沢河岸跡	南北セクション	9	p12:南北セクション3層、北部東西セクション8層は砂礫層であり、洪水により口留番所広場が砂礫で覆われたことを示している。第2章で述べた慶応3、明治元両年の水害で形成された可能性がある。さらにその面は平坦にされ、使用が継続されている。これらの土層も遺物を含まない。	★1867年。	1867年。	
157	1903	鯉沢河岸跡	南北セクション	9	同上	★1868年。	1868年。	
158	1903	鯉沢河岸跡	南北セクション	9	p15:南北セクション9層は明治年間に形成したものと思われるが、出土近代銭貨は明治24年までがほとんどであり、1894年の日清戦争頃までに廃止直後の造成面を性格したものと思われる。9層上面、15層上面のレベルから方形木枠遺構が掘り込まれ、砂層が中を埋積していることから、明治40・43年の水害以前に機能していたものと思われる。木枠内出土の色銅版皿からもこの年代が指示される。南北セクション12層の細砂層が第2章で述べた明治40・43年洪水層と思われる。明治40・43年の洪水で周囲が砂で埋積され、地形がかなり変更されたものと思われる。	★1907年。	1907年。	8月下旬の大雨に起因するとみられ、甲府では8月23~25日に合計314.3mmの降水が記録されている。(参考:株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993:11))
159	1903	鯉沢河岸跡	南北セクション	9	同上	★1910年。	1910年。	8月上旬の大雨に起因するとみられる。甲府では8月10日には222.5mmの降水(気象庁のデータより)。
161	1903	鯉沢河岸跡			[保坂康夫「発掘成果から推定される歴史」p1091区南西隅には文政11年(1828)洪水層と思われる砂礫層が残されている。南川の氾濫層である。この焼土面や洪水層を覆い2期遺物群が形成されている。幕末期にあたる3期遺物群が形成された後、慶応3年(1867)ないしは明治元年(1868)の洪水層が形成され、その層を基盤として4・11・12石垣の上段が構築される。この頃、1号建物址が罹災し、シルト層で埋積され、その上に家が嵩上げされる。さらに、4期の遺物群が形成されて後、明治15年の洪水層が形成され、それを基盤に15・17・18号石垣の上段が構築される。1・2区は明治15年洪水層で埋積されて1筆となるが、旧地籍図には8筆の地番が記載されており、洪水以前の筆数を示すものと思われる。	★1828年。 1867年か 1868年。 1882年。(3回)	1828年。	焼土面は文政大火(1821年)のもの。日下部(1975c:171)に「このころ甲斐では笛吹川の水門が破れ、甲府城下まで大洪水が押し寄せた」とまとめられていることから、これに対応すると解釈される。

162	1903	鰻沢河岸跡			[保坂康夫「発掘成果から推定される歴史」p1091区 南西隅には文政11年(1828)洪水層と思われる砂礫層が残されている。南川の氾濫層である。この焼土面や洪水層を覆い2期遺物群が形成されている。幕末期にあたる3期遺物群が形成された後、慶応3年(1867)ないしは明治元年(1868)の洪水層が形成され、その層を基盤として4・11・12石垣の上段が構築される。この頃、1号建物址が罹災し、シルト層で埋積され、その上に家が嵩上げされる。さらに、4期の遺物群が形成されて後、明治15年の洪水層が形成され、それを基盤に15・17・18号石垣の上段が構築される。1・2区は明治15年洪水層で埋積されて1筆となるが、旧地籍図には8筆の地番が記載されており、洪水以前の筆数を示すものと思われる。	★1828年。 1867年か 1868年。 1882年。(3回)	1867年か 1868年。	156、157のうちいずれかと同一のものとなした。
163	1903	鰻沢河岸跡			同上。	★1828年。 1867年か 1868年。 1882年。(3回)	1882年。	
166	1904	北田中遺跡	基本層序	II	p59:(II層は)明治40年水害の洪水堆積層。(中略)(III層は)明治40年以前の旧耕作土。	★明治40年。	1907年。	8月下旬の大雨に起因するとみられ、甲府では8月23~25日に合計314.3mmの降水が記録されている。(参考:株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993:11))
167	1904	北田中遺跡	基本層序	IV	p59:(III層は)明治40年以前の旧耕作土。(中略)(IV層は)薄い洪水砂層。(中略)(V層は)近世から近代の落込みの覆土。	▼近世~近代。△明治40年。	近代。	
134	1905	狐原遺跡			p6:調査区北側の3号住居址は北東側の一部が砂礫により消失していることから砂・砂礫層の堆積は、本遺跡での居住期間中から期間終了後の短い期間の間に発生した自然災害的堆積であると認識している。p8:(3号住居は)9世紀第2~第3四半期頃(甲斐型土器編年Ⅶ~Ⅷ期)の所産が考えられる。住居北東側の一部は洪水災害等に起因する砂礫層により削り取られていることが土層観察により確認された。砂礫層は南東から北西方向に流れたと推測され、遺跡東側を北流する金川からの影響を考えるのが妥当であろう。洪水災害等の時期確定はできないが、調査区内の砂礫層中からは平安時代(9世紀)の遺物のみが発見されており、「住居」として機能していた時期に被災した可能性も強ち比定できない。	▼9世紀第2~第3四半期。○9世紀。	9世紀第3四半期後半~第4四半期前半?	
137	1906	古婦毛遺跡	8区	VIII	[パリノ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp81-95]pp81-82:(VIII層は)調査区の広範囲に渡って堆積する泥流堆積物。下部は灰色の斜行ラミナの発達する淘汰の良い細粒~微粒砂からなる。その上位を淘汰の悪いにぶい黄褐~灰色の砂礫が覆う。(中略)本層から数は少ないものの16世紀代の遺物が出土する。p90:本泥流の発生は、調査域の環境を一変させたものと思われ、当時行われていた稲作は壊滅的な被害を受けたことが想像に難くない。	○16世紀。	16世紀。	
136	1907	大師東丹保遺跡I区	I区	③(第1面直上)	[新津健「遺構遺物の検討 第1節 鎌倉時代」pp70-75]p70:(第1面の)各列の杭の中には地上に出ている頭の部分が南西方向に傾きながらばだっているものも含まれることから、第一面を襲った洪水により損傷を受け、埋没していったものとみられる。(中略)第一面の遺構群は13世紀後半から14世紀前半といった鎌倉時代後半期に位置付けられるものである。(後略)	★13世紀後半~14世紀前半。▼13世紀後半~14世紀前半。(複数回)	13世紀後半~14世紀前半。	

146	1908	百々遺跡	基本層序	Ⅲ	p16: (Ⅱ層)の砂礫層の下にはやや厚く白褐色のシルト質土が広く覆う。厚さは場所によって異なるが20~40cm程である。(中略)平安時代を覆う最下部では砂層やシルト質砂層、砂利層と漸位的に変化するところがある。[今福利恵「遺跡の立地」pp433-437] p437: 百々遺跡において平安時代を覆っている基本層序の新时期シルト層(Ⅲ層)、礫層(Ⅱ層)については明らかに平安時代以降であり、この平安期の洪水よりもさらに大規模な水害と思われる。この水害の発生時期については考古学的な知見は得られていないが、(中略)「勝山記」では文明7年(1475)から永書3年(1560)の85年間に24回の災害が記されており、15世紀後半から16世紀前半にかけて特に雨が多かったことがわかる。正確ではないがおそらくこの頃の大規模な洪水堆積物と思われる。	★15世紀後半~16世紀前半。	15世紀後半~16世紀前半。	
147	1908	百々遺跡	百々遺跡2;6号・7号住居跡	6号・7号住居跡覆土	[今福利恵「遺跡の立地」pp433-437]p433: 百々遺跡2の被災住居は(中略)6号住居跡と7号住居跡である。6号住居跡と7号住居跡は近接しており、出土した遺物から10世紀前半に位置づけられるものである。7号住居跡は覆土中に暗褐色土の間層をはさんで砂礫層がみられ、二度にわたる洪水を受けている。(中略)洪水の時期はXⅡ期(920~960年ごろ)となる。(後略)pp436-437: 百々遺跡2・4の中で被災した住居の検討からおよそ二回の洪水を受けていることがわかる。一回目は百々遺跡4にみられるⅩ期(840~860年)、Ⅹ期(860~880年)にグリッド85~90付近におこったものである。(中略)二回目は(中略)XⅡ期(920~960年頃)に2回被災しているが1回目ものは局所的である。XⅡ期の2回目の被災は比較的規模が大きかったようでシルトが広く厚く流入した痕跡がある。これ以後このあたりに住居が構築されていないことから、かなりの被害を被ったものと思われる。	★920年~960年。	920年~960年。	
148	1908	百々遺跡	百々遺跡4;36号~38号住居跡	住居跡覆土	[今福利恵「遺跡の立地」pp433-437]p436: 百々遺跡4の被災住居は(中略)36号住居跡と37号住居跡、38号住居跡である。(中略)Ⅹ期(840~860年)に泥流を受けて埋没し、その後屋根材の崩落があり、さらにⅩ期(860~880年)の遺物が廃棄される場所に砂粒が覆い土が流れ込んだものと思われる。(中略)百々遺跡4におけるグリッドL~M、85~90付近にある住居群はおよそⅩ期(840~860年)にシルトの流入があり、また直後のⅩ期(860~880年)に砂礫を伴う洪水を受けたものと判断できる。いずれも南方からの被災であるが、これらの住居群の南側およそ20mに旧河道があり、ここからの氾濫と思われる。(後略)pp436-437: 百々遺跡2・4の中で被災した住居の検討からおよそ二回の洪水を受けていることがわかる。一回目は百々遺跡4にみられるⅩ期(840~860年)、Ⅹ期(860~880年)にグリッド85~90付近におこったものである。(後略)	★840~860年。	840~860年。	
149	1908	百々遺跡	百々遺跡4;36号~38号住居跡	住居跡覆土	同上。	★860年~880年。	860年~880年。	
144	1909	仲田遺跡			[山本茂樹「仲田遺跡の水田について」pp43-45] p43: 本遺跡は、御勅使川によって形成された扇状地上に立地し、度重なる水害を受けた土地でもある。水田の床面上には40cm以上の砂や砂利が堆積していた。このことから、畦は洪水等による水害によって壊されたものと考えていたが、このことは必ずしも洪水によるためだけではないようである。(後略)p44: 本遺跡の洪水による氾濫の時期としては、稲刈りが終わった後と想定される。また、水田が機能していた頃の時期は中世で、遺物の時期からすると16世紀後半頃に比定される。(中略)特にこの時期、中世において山梨県内では、出水による洪水が広範囲に認められている。	★16世紀後半。▼16世紀後半。	16世紀後半。	
164	1910	西畑B遺跡	基本層序	I	p10: (Ⅰ層について)部分的に北区第4トレンチ東壁1b層のようなラミナ構造が部分的に認められる洪水堆積が存在する。	▼明治40年。	1907年以降。	

165	1910	西畑B遺跡	基本層序	II	p10: (II層は)明治40年水害の洪水堆積砂層。西区第4トレンチ西壁 3: 灰シルト混じり黄褐細砂層 ラミナが顕著に認められる。	★明治40年。	1907年。	8月下旬の大雨に起因するとみられ、甲府では8月23～25日に合計314.3mmの降水が記録されている。(参考: 株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト (1993: 11))
160	1911	平田宮第2遺跡	基本層序	X I	p9(第2表): 灰白色砂層。細砂により構成される。(第X層直上は第Ⅲ面(平安中頃), 第XⅡ層は第Ⅳ面(平安時代中頃)。) p24: まず、平田宮第2遺跡が位置する下河東周辺であるが、弥生時代後期から平安時代にかけて微高地化したと想定される。最下層の遺構面である第Ⅳ面に伴う遺物は山梨県史編年による第Ⅵ期(10世紀前半)に位置づけられることから、第Ⅳ面下にある灰色砂層が弥生時代後期から9世紀段階までに相当すると考えられるが、浸食と堆積繰り返しているため、限定するのは困難である。第Ⅳ面が畑であることから、居住地として適さないため生産域として最初に開発した可能性がある。第Ⅳ面と第Ⅲ面の間には灰色砂層があるが、溢流氾濫に伴う細粒土壌の堆積と考えられる。(中略)第Ⅲ面からは、第Ⅳ面と同じく第Ⅵ期(10世紀前半)に位置づけられる遺物が遺構の覆土中などから出土している。(後略)	▼10世紀前半。△10世紀前半。	10世紀前半。	
140	1912	町屋口遺跡	2区		p24: 1区から5区までの第1面の水田面は、明治時代につくられたもので、時期的には明治23年の5銭銅貨が出土していることから、水田面はこの時期に近い年代代と考えられます。(中略) (第1面の水田面は)明治時代の20年代の後半から30年代の時期に大洪水があったと思われます。	★明治20年代後半～30年代。	1892年～1906年。	明治25年～明治39年とした。
171	1913	松本塚ノ越遺跡ホテルやまなみ地点		2	p10: 灰色砂層。明治40年の大洪水の跡。(後略)。 p10(図6): (層厚は西区・東区ともに30cm。)	★1907年。	1907年。	8月下旬の大雨に起因するとみられ、甲府では8月23～25日に合計314.3mmの降水が記録されている。(参考: 株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト (1993: 11))
141	1914	宮沢中村遺跡		第2面直上	p9: 第2面で確認できた3号建物面には逆流による薄い洪水砂が被っており、この面も水害を受けたことが分かる。p55: (3号建物)は逆流による水害を受けたことが分かる。この時期は出土陶磁器からみてまだ江戸時代のものである。その際の水害を契機に土盛りがなされ、1面の1号建物へと移行し、その後明治30年代になって他所への移転になったものと考えられる。p56: (第2面)は19世紀半ばの磁器も多く出土していることから、幕末を含む時期の面とすることができる。	▼幕末(19世紀半ば)。△明治30年代。	19世紀後半。	
142	1914	宮沢中村遺跡		第4面直上	p9: 第3面下は洪水による自然礫層が堆積していたが、(中略) (第4面の柱根)は16世紀末から17世紀初頭の建物とみなした。第4面はほかに一部が確認できただけで発掘区の大半は砂利層であったことから、大規模な洪水により流出してしまった面と思われる。p56: (第3面)は江戸時代後半の時期とすることができる。	▼16世紀末～17世紀初頭。△江戸後半。	17世紀～18世紀。	
143	1914	宮沢中村遺跡		第6面直上	p27: 3面以下6面直上までは厚い砂利層で覆われており、何度も洪水が押し寄せてきたことが分かるが、6面の粘土層は厚いことから、この形成時は安定した気象条件下にあったことが推測できる。p28: 水田は洪水砂に覆われる。p27: (第6面の時期)は平安～鎌倉期ではないかと考えている。	▼平安～鎌倉。△鎌倉。	鎌倉?	
135	1915	向河原遺跡	1区中央		p11: 1区調査区のほぼ中央で、上記の層序の堆積を大きくは解している礫層が確認された。この礫層は調査区を東西に横断しているが、これは明治34年の滝沢川の氾濫によるものではないかと思われる。	★1901年。	(1901年。)	明治43年または昭和34年の誤記? 集計しない。
155	1916	四ノ側遺跡	旧河道		p13: 調査区の中央部第1・2号住居跡をそれぞれ押し流すように東側より流れ込む2条の旧河道が検出された。ほぼすべてに小型の砂礫が充填されており、上流部から勢いよく流下した土石流が平坦において収束する端部であることが想定できる状況にある。遺物の出土はみられなかったが、住居跡の構築想定年代が10世紀中葉であることから、その直後に発生した土石流の可能性が高い。	▼10世紀中葉。	10世紀中葉～後葉。	

172	2001	石川条里遺跡	西側低地	I	p38: I層は砂質であり表土と間層に洪水性の砂が堆積した地点が見うけられるなど、山麓からの小河川もしくは千曲川の土砂堆積の影響を多分に受けている。p553: (前略)近世面と捉えた遺構を覆う砂層は文政七年(1824)か弘化二年(1845)のいずれかの洪水に対比されよう。なお、弘化二年の洪水は遺跡に近い長谷で山抜けを伴ったとされる。	★1824年または1845年?	1824年または1845年。	
173	2001	石川条里遺跡	東側低地	I上	p39: I層とII層の土質の違いが不明瞭であり、両層とも砂質のシルトである。⑫-2区ではI層が洪水砂層に覆われ、近世水田が検出された。近世洪水砂層は調査面が保持された地点には普遍的に観察される。p553: 近世面と捉えた遺構を覆う砂層は文政七年(1824)か弘化二年(1845)のいずれかの洪水に対比されよう。なお、弘化二年の洪水は遺跡に近い長谷で山抜けを伴ったとされる。	★1824年または1845年?	1824年または1845年。	173と同一のものとみなした。
176	2002	牛出遺跡	第1地点		p20: (前略)井戸が同じ透水層を利用するために同じ位置に繰返し掘り直されたのは、おそらく崩壊あるいは洪水等によって使用不能となっても、屋敷地そのものは維持される必要があったからであろう。井戸の埋没状況は、強い流れをとまなわない溢水による洪水を推測させる。このタイプの洪水は家屋を流失させるようなことはない。(中略)出土遺物から推定すると、これら建物址群と井戸址はおもに14世紀末から15世紀代の年代が与えられる。	○14世紀末～15世紀。	14世紀末～15世紀。	
183	2003	川田条里遺跡	A地区		(第3分冊)〔河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58〕p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」): (A地区では近世(18世紀;第1水田), 古代II期後半～III期前半(第2水田), 古代II期(第3水田), 古墳時代III期(第4水田), 古墳時代II期(第5水田), 弥生時代III期～IV期(第6水田), 弥生時代II期?(第7水田)で洪水砂層がある。)	★弥生中期後半。弥生後期。古墳前期。古墳中期。古代(8世紀)。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	古墳中期。	
184	2003	川田条里遺跡	A地区		同上。	★弥生中期後半。弥生後期。古墳前期。古墳中期。古代(8世紀)。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	8世紀。	
185	2003	川田条里遺跡	A地区		同上。	★弥生中期後半。弥生後期。古墳前期。古墳中期。古代(8世紀)。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	8世紀後半～9世紀前半。	
186	2003	川田条里遺跡	A地区		同上。	★弥生中期後半。弥生後期。古墳前期。古墳中期。古代(8世紀)。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	18世紀。	191, 192のいずれかと同一のものとみなした。
187	2003	川田条里遺跡	B2地区		(第3分冊)〔河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58〕p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」): (B2地区では古代II期後半～III期前半(第1水田), 古代II期後半～III期前半(第2水田), 古代II期(第3水田), 古墳時代IV期(第4水田), 古墳時代IV期(第5水田), 弥生時代III期～IV期(第7水田), 弥生時代III期(第8水田)で洪水砂層がある。)	★弥生後期(前半?)。弥生後期。古墳後期。古代(8世紀後半)。古代(9世紀前半)。	弥生後期前半?	

188	2003	川田条里遺跡	B2地区		(第3分冊)[河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58]p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」):(B2地区では古代Ⅱ期後半～Ⅲ期前半(第1水田), 古代Ⅱ期後半～Ⅲ期前半(第2水田), 古代Ⅱ期(第3水田), 古墳時代Ⅳ期(第4水田), 古墳時代Ⅳ期(第5水田), 弥生時代Ⅲ期～Ⅳ期(第7水田), 弥生時代Ⅲ期(第8水田)で洪水砂層がある。)	★弥生後期(前半?)。弥生後期。古墳後期。古代(8世紀後半)。古代(9世紀前半)。	8世紀後半。	
189	2003	川田条里遺跡	B2地区		同上。	★弥生後期(前半?)。弥生後期。古墳後期。古代(8世紀後半)。古代(9世紀前半)。	9世紀前半。	
190	2003	川田条里遺跡	C地区		(第3分冊)[河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58]p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」):(C地区では近世(18世紀)(第1水田), 近世(18世紀)(第2水田), 中世(第3水田), 古代Ⅱ期後半～Ⅲ期前半(第4水田), 古墳時代Ⅳ期(第5水田), 古墳時代Ⅱ期(第6調査面), 古墳時代Ⅱ期(第6水田)で洪水砂層がある。)	★古墳前期。古墳後期。古代(8世紀後半～9世紀前半)。中世。近世(18世紀)に2回。	8世紀後半～9世紀前半。	185と同一のもののみなした。
191	2003	川田条里遺跡	C地区		同上。	★古墳前期。古墳後期。古代(8世紀後半～9世紀前半)。中世。近世(18世紀)に2回。	18世紀。(2回)	
192	2003	川田条里遺跡	C地区		同上。	★古墳前期。古墳後期。古代(8世紀後半～9世紀前半)。中世。近世(18世紀)に2回。	18世紀。(2回)	
193	2003	川田条里遺跡	D地区		(第3分冊)[河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58]p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」):(C地区では近世(18世紀)(第1水田), 古代Ⅱ期後半～Ⅲ期前半(第3水田), 弥生時代Ⅲ～Ⅳ期(第6水田)で洪水砂層がある。)	★弥生後期。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	8世紀後半～9世紀前半。	185と同一のもののみなした。
194	2003	川田条里遺跡	D地区		同上。	★弥生後期。古代(8世紀後半～9世紀前半)。近世(18世紀)。	18世紀。	191, 192のいずれかと同一のもののみなした。
195	2003	川田条里遺跡	E1地区		(第3分冊)[河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58]p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」):(E1地区では弥生時代Ⅲ～Ⅳ期(第2水田)で洪水砂層がある。)	★弥生後期前半。	弥生後期前半。	187と同一のもののみなした。
196	2003	川田条里遺跡	E2地区		(第3分冊)[河西克造「川田条里遺跡における自然災害痕跡と水田の消長」pp55-58]p55(第2表「川田条里遺跡で確認された洪水砂層・泥炭層一覧」):(E2地区では近世(18世紀), 弥生時代Ⅲ～Ⅳ期(第4水田)で洪水砂層がある。)	★弥生後期前半。近世(18世紀)。	弥生後期前半。	187と同一のもののみなした。
197	2003	川田条里遺跡	E2地区		同上。	★弥生後期前半。近世(18世紀)。	18世紀。	191, 192のいずれかと同一のもののみなした。
174	2004	屋代遺跡群	⑥区旧河道内	IV-Y6-4b・4c	p117など:第5水田面を覆う洪水砂。p111:第5水田は土器編年1期。和銅7年(698?)の木簡を伴う。	▼7世紀末～8世紀初頭。 △7世紀後半(第4水田)。	7世紀末葉。	
175	2004	屋代遺跡群	⑥区旧河道内	IV-Y6-3c	p121:第4水田を覆う洪水砂。かなり大規模な洪水によって廃絶。p111:第4水田は土器編年1期末～2期初頭。	▼7世紀後半。 △8世紀前半(第3水田)。	7世紀末葉～8世紀初め。	

177	2004	屋代遺跡群	SD258・236溝群	p75:(屋代遺跡群SD258・236溝群について)初源:SD258溝底出土遺物から少なくとも古墳3期には掘削が完了していたと考えられる。(中略)上層水路:水田土壌に類似した堆積土が覆土中ほどに見られ、その後、同時期の洪水砂を被っている。この洪水砂堆積以後にSD258に代わって掘削されたのがSD235である。溝底から多量の勾玉などが出土している。この溝は遺物から5世紀代に比定されており、基幹水路が掘削し直されていたことがわかる。	▼4世紀後半。△5世紀。	5世紀?	付図2「屋代遺跡群古墳時代の土器編年表」:古墳3期は4世紀後半。
179	2004	更埴条里遺跡	1区・2区	p21:今回報告する更埴条里遺跡では現耕作土である川は除いて、いずれの地区にも普遍的に分布する標準的な層がない。周辺の遺跡でキー層とされる9世紀末の洪水砂は条里水田を整っていることで知られるが、1区から5区まで堆積はみられない。3~5区は、8~10世紀に集落適地として選地されているように後背湿地内の微高地であり、洪水が及んでいない。5区と70m程度しか離れているが、屋代遺跡群の1区では、60cm前後の洪水砂が堆積している。(後略)	★9世紀末。	9世紀末葉。	
180	2004	屋代遺跡群		III p113:Ⅲ層:褐~明黄褐色砂。洪水砂層。(中略)Ⅲ層上面は、洪水埋没後の土地利用や再開発を探る目的で行った。遺構は僅少で中世に至ってもほとんど遺物は散見されない。Ⅲ層下面は、洪水直前の土地利用が明確にパックされており、9世紀後半の水田や廃絶された集落跡が確認されている。	★9世紀末。 ▼9世紀後半。	9世紀末葉。	180と同一のもの とみなした。
198	2004	更埴条里遺跡		II(13~14世紀代の砂層) 〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp185-190〕p185:Ⅱ層に含まれる洪水砂は、自然堤防Ⅰ群から後背湿地Ⅰ群では明確でなくなり、もっぱら旧河道(屋代遺跡群⑥区~窪河原遺跡)と自然堤防Ⅱ群(窪河原遺跡)で見られる。窪河原遺跡H6区水的域の断面では、砂の堆積後に新たな畦畔や水路、耕作面を再整備した跡が4面認められる。また、畦畔脇にだけ砂層が残存する面が1面存在する。明確に砂層と耕土層が分離できなかった層を含めると、耕地となったⅢ-1,8層上面(13~14世紀)~Ⅱ-3層上面(19世紀後半)の堆積は約2.1mに達している。	★13世紀~14世紀。	13世紀~14世紀。	
199	2004	更埴条里遺跡		II(19世紀中葉以降の砂層) 〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp185-190〕p185:Ⅱ層に含まれる洪水砂は、自然堤防Ⅰ群から後背湿地Ⅰ群では明確でなくなり、もっぱら旧河道(屋代遺跡群⑥区~窪河原遺跡)と自然堤防Ⅱ群(窪河原遺跡)で見られる。窪河原遺跡H6区水的域の断面では、砂の堆積後に新たな畦畔や水路、耕作面を再整備した跡が4面認められる。また、畦畔脇にだけ砂層が残存する面が1面存在する。明確に砂層と耕土層が分離できなかった層を含めると、耕地となったⅢ-1,8層上面(13~14世紀)~Ⅱ-3層上面(19世紀後半)の堆積は約2.1mに達している。p189:(前略)d.19世紀中葉以降の砂層 屋代遺跡群⑥区から窪河原遺跡の全域でⅡ-3層とした砂層が確認されている。善光寺地震によると推定される砂脈を削っており、19世紀中葉以降と考えられる。上層より明治時代の焼き物が出土しており、それ以前の可能性が高い。(後略)	★19世紀中葉(善光寺地震;1847年)以降。	1847年以降。	
201	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	基本層序	II-3 p54:9世紀第4四半期の洪水砂(Ⅲ層)の上部に堆積し、現代のカクランを受けていない層をⅡ層とした。(中略)屋代遺跡群⑥区以北で共通のⅡ-3層の砂は19世紀後半の洪水砂と推定される。	★19世紀後半。	19世紀後半。	
202	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	更埴条里遺跡	III-2 〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」):(洪水は基本層位Ⅲ-2;9世紀後半,Ⅶ;縄文時代晩期,Ⅸ~ⅩⅠ;縄文時代後期(たびたび)で発生。)	★縄文後期。縄文晩期。9世紀後半。	9世紀後半。	
203	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	屋代遺跡群	IV 〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」):(洪水は基本層位Ⅲ-2;9世紀後半,Ⅳ;7世紀後半(水路氾濫・蛇行),Ⅵ上面;古墳後期,Ⅶ;縄文時代晩期,Ⅸ~ⅩⅠ;縄文時代後期(たびたび),ⅩⅡ~ⅩⅢ;縄文中期中葉~後葉,ⅩⅣ・ⅩⅤ;縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。	7世紀後半。	

204	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	屋代遺跡群	Ⅲ-2	[寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194]p191(表17「災害痕跡一覧」):(洪水は基本層位Ⅲ-2;9世紀後半,Ⅳ;7世紀後半(水路氾濫・蛇行),Ⅵ上面;古墳後期,Ⅶ;縄文時代晩期,Ⅸ~ⅩⅠ;縄文時代後期(たびたび),ⅩⅡ~ⅩⅢ;縄文中期中葉~後葉,ⅩⅣ・ⅩⅤ;縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。	9世紀後半。	202と同一のものとみなした。
205	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	旧河道A/屋代⑥区	Ⅳ	[寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194]p191(表17「災害痕跡一覧」):(洪水は基本層位Ⅱ-3;19世紀後半;善光寺地震(1847年)の水害か?,Ⅱ-5;近世(16世紀以降),Ⅲ-2;9世紀後半,Ⅳ;8世紀前半;第3水田被覆,Ⅳ;7世紀末~8世紀初頭;第4水田被覆,Ⅳ;7世紀後半;第5水田被覆で発生。)	★7世紀後半。7世紀末~8世紀初頭。8世紀前半。9世紀後半。16世紀以降。1847年?	7世紀後半。	203と同一のものとみなした。
206	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	旧河道A/屋代⑥区	Ⅳ	同上。	★7世紀後半。7世紀末~8世紀初頭。8世紀前半。9世紀後半。16世紀以降。1847年?	7世紀末~8世紀初め。	175と同一のものとみなした。
207	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	旧河道A/屋代⑥区	Ⅳ	同上。	★7世紀後半。7世紀末~8世紀初頭。8世紀前半。9世紀後半。16世紀以降。1847年?	8世紀前半。	
208	2004	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	旧河道A/屋代⑥区	Ⅲ-2	同上。	★7世紀後半。7世紀末~8世紀初頭。8世紀前半。9世紀後半。16世紀以降。1847年?	9世紀後半。	202と同一のものとみなした。
200	2005	郷土遺跡	1号溝		p420:(1号溝は)調査区内をほぼ北から南へと流れる流路である。調査段階では「溝」という名称を用いたため、1号溝と呼称するが、人工構造物ではない。おそらく大雨などによる大水発生に伴い、形成された流路であるのだろう。深さは約20cm~約2mまでさまざまであり、この点からも自然形成であることがわかる。覆土は基本的に4層にわけられる。(中略)4層から平安時代の土器が少なからず出土したことから平安時代以降に形成されたものと判断した。1回のみ的大水によって形成されたものとは考えにくく、おそらく複数回に及んだものでないかと理解できる。第110図-1・2が9世紀後半頃に比定できるため、おおむねこの頃に最終的に形成されたものと考えられよう。	★平安以降(9世紀後半以前)。	9世紀。	p422;第110図「古代の土器(1)」

178	2006	国分寺周辺遺跡群	基本土層	Ⅲa	p29:Ⅲ層は、上下2層に分けられている。上位Ⅲa層は粘土質シルトに円礫を多く含み、強い流水作用で堆積したといえ、一方、下位のⅢb層は比較的安定した黒褐色か黒色の粘土質シルトであり、2層は全く堆積成因が違うが、2つの層相を混在させた部分が多く確認されていたため、調査段階から大きくⅢ層として括られていた。混乱を避けるため、本報告まで層名を振り替えずに用いている。Ⅲa層は粘土質シルトに5mc以下の円礫を多く含む性状で、特に北側の⑤・⑥区に安定して確認され、南側の③区では礫の密度が薄くなる。礫は烏帽子岳山塊の安山岩に酷似していて、走行は確認できていないものの、同じ安山岩主体の円礫によって埋没した501溝が南東から北西に傾斜していることから、千曲川だけでなく、神川起源の堆積である可能性を持っている。また、その堆積成因は極めて短時間に流出した洪水のような状態であると推定される。更に本層は平安時代後半の511住の覆土に入り込んでいることが確認されていることから、平安の集落の廃絶の1つの要因であるか、或いは集落が廃絶された後、余り時間差を持たない時点で堆積したものといえる。(中略)例外的に前述したⅢa層を覆土とした平安時代後半の遺構もあるが、Ⅲ層内では遺構が把握できないため、弥生時代後期から平安時代までをⅣ層上面で検出する結果となっている。[柳澤亮「まとめ」pp375-380]p379:(前略)11世紀代の住居の状況を見ると、501溝を中心に広く遺跡上部を流下して埋積したと考えられるⅢa層は、11世紀後半の住居覆土を構成し、11世紀後半の住居を切っていることから、その埋積時期は11世紀後半頃に求められるだろう。ただ、その時期に11世紀後半の住居が機能していたかどうかは不明であり、直接の「災害」として住居廃絶の要因となつたははつきりしていない。しかし、この時期以降、調査地区では中世に関わるような遺物や遺構は全く見つかっていない。	★11世紀後半。	11世紀後半。
209	2007	離山遺跡		6	p23:(第5調査面/6層について)6層は砂礫層からなるが、本層からは砂礫に混じって相当量の遺物が検出された。本層は北区の中でも部分的な堆積であり、これは洪水等で押し出されたものと考えられる。遺構は確認できなかったが、遺物を包含することから第5調査面とした。p29:出土遺物から判断すると、縄文時代・弥生時代の遺物もみられるが、古墳時代5世紀中葉から6世紀中葉の土器が主体を占める。これらの遺物が6層砂礫に混じって出土していることからすれば、6世紀中葉頃に洪水等で押し出されたものと考えられる。	★6世紀中葉。○5世紀中葉～6世紀中葉。	6世紀中葉。
182	2008	春山・春山B遺跡	基本土層	2	p10:2層は、洪水砂と認識される細粒砂でほぼ遺跡一帯で確認された。隣接する川田条里遺跡E-2調査区全域でも30cm前後の堆積厚で検出され、本遺跡B・C地点同様に水田跡を覆う状況であった。(中略)文献から18世紀中頃に地域一帯を襲った河川氾濫が該当する(寛保2-1742年、戊の満水)。	★1742年。	1742年。
211	2009	松代城跡	花の丸御殿跡地点の13号溝址	上層	p10・12:(13号溝址は)平面的には百間堀の内部を巡る位置から検出された。堀の堆積土層は下層に茶褐色を呈し植物遺体を多量に含む粘質土層と、上層に黄褐色を呈し微粒砂層に大別される。前者が通常の堆積で、後者が洪水時の堆積と判断される。さらに、洪水層の上部は花の丸造成と期の整地層が覆い、意図的に堀を埋め平坦化している。寛保2年の洪水後花の丸を築いたという文献記録と合致する。	★寛保2年。	1742年。
212	2010	松代城下町跡(中木町・西木町・紺屋町)		第1砂礫層	p18:確認できた基本土層序は、大火被災の痕跡と考えられる焼土整地層が3層とその被熱面4面、洪水堆積の痕跡と考えられる砂礫層2層である。(中略)(第1砂礫層上方の)第1焼土整地層は明治初期までの陶磁器が多く含まれる。(第1砂礫層下方/第2砂礫層上方の)第2焼土整地層は18世紀後半～19世紀代、(第2砂礫層下方の)第3焼土整地層は17世紀後半～18世紀前半の遺物が多く含まれ、それぞれ大火による一括遺物として認識できよう。	▼18世紀後半～19世紀。△明治初期(下限)。	19世紀前葉～中葉?

213	2010	松代城下町跡 (中木町・西木町・紺屋町)		第2砂礫層	p18:確認できた基本土層序は、大火被災の痕跡と考えられる焼土整地層が3層とその被熱面4面、洪水堆積の痕跡と考えられる砂礫層2層である。(中略)(第1砂礫層上方の)第1焼土整地層は明治初期までの陶磁器が多く含まれる。(第1砂礫層下方/第2砂礫層上方の)第2焼土整地層は18世紀後半～19世紀代、(第2砂礫層下方の)第3焼土整地層は17世紀後半～18世紀前半の遺物が多く含まれ、それぞれ大火による一括遺物として認識できよう。p254(第3表): (松代城下町(木町通り)では、1712年に「亥の大満水」、1742年に「戊の大満水」がある。大火は1717年、1733年、1739年、1788年、1800年に発生している。)	▼17世紀後半～18世紀前半。△18世紀後半～19世紀。	18世紀中葉?	
181	2011	松原遺跡	基本土層	V	p14:基本土層V層は地表下1m前後に堆積する黄褐色系の砂混じりシルト層で、その上位には基本土層IV層黒褐色砂質シルト層が乗る。p15:V層前後の松原集落は、土器型式で設定されるところの1段階分の時間帯に位置する集落が確認できない。このことから、(弥生時代)中期後葉に拠点的集落として拡大した松原のムラは、中期終末から後期初頭にかけて規模の縮小が認められ、その後移動していることが理解される。洪水砂堆積後の後期中葉に至っては、新たに小規模集落が成立している。p16:(旧河道SD101の覆土について)(3層は)SD101内で唯一、遺物を出土しない厚い堆積層で、集落内基本土層V層に対応するものと思われる。同層は千曲川の洪水砂層と想定され、集落および河道部に厚い堆積が認められる。河道内上下層から出土する遺物および、集落址における検討から、同洪水砂は弥生時代後期前葉に堆積したものと理解することができる。	★弥生後期前葉。▼弥生中期後葉～後期初頭。△弥生後期中葉。	弥生後期前葉。	
210	2012	御社宮司遺跡	基本土層	II	p26:(II層について)10YR4/6。褐。砂層。細粒砂主体で小礫とシルト混入。近世水田(SL01)を被覆する。IIIa層上面に堆積し、IIIa層を掘り込む豎穴最上部にも堆積する。宮川の氾濫による洪水砂と考えられる。p109:(前略)(近世以降の遺構について)御社宮司遺跡ではSL02・03を被覆するシルト層の母材となる洪水砂が確認されていないことから、耕作痕跡と考えることとした。したがって、約30年前の中央道調査で発見された畦畔状遺構は、今回の調査成果から18～19世紀の耕作痕跡と判断することができる。	▼18世紀～19世紀。	19世紀以降。	江浦洋「大名・庶民の時代と自然」『考古学による日本歴史16 自然環境と文化』
214	2101	今宿遺跡	基本層序	X I	p12:水田域—2.5Y3/1～5Y4/1黒褐色～灰色シルト質粘土。層厚5cm～12cm。(中略)下から灰色—黒褐色—灰色—黒褐色と色調は変化しているが、洪水により堆積した一連のものであると判断した。p17:(第4面)(X II層上面で)古墳時代前期の水田遺構を検出した。この水田遺構は、洪水によると思われる粘質シルト層により覆われ、非常に良好な状態で残されていた。(第2分冊)pp87-88:(第3面の水田遺構の時期について)上層のVII層からX層で出土した土器が、赤塚編年の廻間II式後半から廻間III式の前半にあたると思われる、下層のX II層から出土した土器が、廻間I式の新しい段階から廻間II式前半のものと考えられることから、3世紀後半頃を想定している。また、X II層を覆うX I層は洪水によるものであり、第3面の水田遺構が第4面の大畦畔を踏襲していることから、X II層の時期に近いと考えられる。(第2分冊)p88:(第4面の水田遺構について)出土した土器はあまり多くないが、おおむね廻間I式の新しい段階から廻間II式前半のものと考えられることから、3世紀頃のものと思われる。	▼古墳前期(廻間I(新)～II(前))。△3世紀後半(廻間I(新)～II(前))。	廻間I式期の新段階～II式期の前半。	廻間式土器について、赤塚次郎、1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10、pp50-109の第7表(p106:編年対照表)を参考にした。
215	2101	今宿遺跡	基本層序	X II	p12:水田域—10GY4/1～10Y4/1暗緑灰色～灰色粘質シルト。層厚5cm～12cm。p17:(第5面)(X III層上面で)古墳時代前期の水田遺構を検出した。p80:X II層を除去し、X III層上面において小区画水田を検出した。部分的に洪水による粘質シルト層に覆われた部分では、小畦畔の検出は比較的容易であったが、大部分ではX II層とX III層との識別が困難であった。(第2分冊)p88:第5面から第7面において検出した水田遺構の時期は、出土した土器から第5面が廻間I式後半から廻間II式の古い段階、第6面が廻間I式頃、第7面が山中式と思われる。	▼古墳前期(廻間I(後)～II(古))。△古墳前期(廻間I(新)～II(前))。	廻間I式期の後半。	廻間式土器について、赤塚次郎、1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10、pp50-109の第7表(p106:編年対照表)を参考にした。

216	2101	今宿遺跡	基本層序	XIV	p12:水田域では部分的に残存するだけである。5Y3/2~5Y4/1オリーブ黒色~灰色粘質シルト。層厚3cm~10cm。微高地—7.5Y3/1オリーブ黒色粘土。層厚8cm~15cm。p17:(第5面)(XV層上面)で弥生時代末期から古墳時代前期初頭の水田遺構を検出した。p139:XIV層を除去し、XV層上面において小區画水田を検出した。部分的に洪水による粘質シルト層が水田面を覆っており、これを目安に第6面とした。(後略)	▼弥生末期~古墳前期初頭。△古墳前期。	古墳前期(廻間I式期の後半~II式期の古段階以前)(190年代後半~3世紀初め)。	廻間式土器について、赤塚次郎、1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10、pp50-109の第7表(p106:編年対照表)を参考にした。
217	2102	城之内遺跡		II	p9:灰褐色砂質土~茶褐色土~暗茶褐色粘質土。氾濫原堆積物と思われ調査区全体にわたって存在しており、場所により上・下あるいは上・中・下と分けられる。層厚は20~60cmと場所に依って差があり、均質な状況ではないが一括してII層とした。p109:(区画溝について)いずれの溝の埋土にも黄色砂層が含まれる。(中略)広範囲に厚く砂が堆積していることから、長良川の氾濫により一気に押し流されてきたものであると考えられる。p257:区画溝の年代については、(中略)第11型式=生田2号窯期から大窯I期(p254;第144図;15世紀後葉~16世紀前葉)の遺物が中心で、大窯II期開始以前に廃棄・埋没している。p258:(土岐氏の居館である)「枝広館」の存続期間は短く、天文4年(1535)長良川大洪水により廃棄され、守護所は北方の大桑城へ移ったと考えられている。居館堀跡には洪水堆積物と思われる砂層が認められたが、各区画溝埋土もこれと同じであって、静水堆積や人為的な埋設の状況にはない。15世紀の第11型式=生田2号窯期以前の遺物はこの時溝中に落ち込んだ可能性がある。区画溝の建設・廃絶はともに枝広館と密接に関連しており、大窯I期のうちに収まるものであったと考えられる。かわっていると見られる。	▼16世紀前葉(1535年?)。	1535年。	
234	2201	上土遺跡立石地区		13	p19:(E層は古墳時代中期洪水堆積層:13層。)	★古墳中期。	古墳中期。	
235	2201	上土遺跡立石地区		11b	p24:DII層(11・10層)・DI層(9~7層)…(平安時代の湿地性堆積物層)(中略)(11層について)自然堆積層:b層~一部でa層?(洪水堆積)。p52:(12層水田について)12層水田を覆う11層黄灰色粘土(腐植質)の上に、厚さ20~25cmの泥炭層(10~7層)が堆積しているが、この内、10層上面からは、838年伊豆神津島天上山噴出の火山灰(Iz-Kt)が一様に検出できた。そこで、この12層水田の時期は、わずかな出土土器と火山灰から古墳時代中期~平安時代初頭と考えられる。(中略)12層の上に厚さ数cmの11層、その上に厚さ数cmの10層が乗り、この上面に838年火山灰が位置していることから、12層上面が埋没したのは、8世紀代にまで遡る可能性もある。	▼古墳中期~8世紀または平安初頭。△838ね(Iz-Ktテフラ)。	8世紀~838年?	
218	2202	池ヶ谷遺跡		E-IV	p27:河川の氾濫等によって堆積した碎屑物によって生成されたと考えられるラミナの発達した灰色の色調で、(中略)1/2区~7区の調査区全域に広がっている。層厚30~40cmで、平均35cmを測る。(後略) p103:DIII層の下位に属するE層は、静清平野の他遺跡の土層堆積状況との比較検討から5世紀頃と推定されるものである。	★5世紀。	5世紀。	
246	2203	有東遺跡第14次	SD09	SD09埋土	p12:(溝状遺構SD09は)調査区北隅で検出した。(中略)覆土は砂礫層を主体とする。機能している最中に洪水で埋没したのと考えられる。この砂礫は、上層水田耕作土(III層)の供給源になっていると思われる。洪水に伴う自然流路とも考えられるが、方向性等を考えると人為的な溝と見たほうがよからう。出土土器から埋没時期は弥生時代後期初頭と考えられる。	★弥生後期初頭。	弥生後期初め。	
230	2204	上反方遺跡	基本層序	5, 6	p22:5層(砂礫層)、6層(砂層)は洪水堆積によるものと推測され、40cm程の砂礫が堆積していたものである。p38:(文献も含めた)残存記録から可能性が見出せるのは1507年(永正4年)の洪水である。とすると、7層水田が洪水に襲われた時期は16世紀初頭と考えられる。	★16世紀初頭(1507年?)。	16世紀初め(1507年?)。	
231	2204	上反方遺跡	基本層序	12	p38:12層の砂礫はかなり厚い洪水堆積の跡である。上反方の南方に位置する矢崎遺跡の基本層序14層に相当し、また石成遺跡でも同様な層が確認されている。鎌倉時代を前後する時期に起こった大洪水痕跡であると考えられるが、残念ながら文献では10~12世紀にかけて空白部分が多く、(後略)。	★鎌倉。	鎌倉。	

236	2205	川合遺跡志保田地区	基本層序	7	p10:6層と8層の水田耕作土に挟まれる青灰色細砂層。(後略)。p12:(第6面は)8層の上面で確認された。(中略)(第6面の)時期については遺物が少なく明確にはできないが下の9層が5世紀代の遺物包含層と判断されている。p115:調査第5面と6面は、上下を厚さ1.1m~1.8mを測る洪水堆積の砂礫に挟まれている。5面は水田、6面は方形周溝墓からなり、弥生時代中期から古墳時代中期の間は、大きな洪水に遭うことなく、低地ではあるが比較的安定した環境が類推される。p119:(第6面について)ここからは洪水により運ばれた、青灰色細砂に覆われた10枚の水田を検出した。	▼5世紀。△古墳後期(第5面水田)。	5世紀~6世紀?	
247	2206	ケイセイ遺跡第7次	基本土層序	II	p6: I 盛土 旧社宅(官舎)造成土。上面(現地表面)の標高は、西区、東区とも10.5~10.6m。II 砂礫層 III層上面を覆う。近代以降の洪水層。	★近代以降。	近代以降。	
244	2207	小瀬戸遺跡	SD10		p42:SD10はE区の北側に位置する。p43:(SD10の時期は)12世紀から13世紀と思われる。p163:E区の南西から南東にかけての建物群と流路や溝を検討すると、9世紀後半~10世紀代には建物群に対して南東部から北側の低地を流れていた大きな流路のSR8があったと思われる。その後12世紀前半から12世紀後半になると、南側の丘陵部や発掘区外西側から流れてくるSD10などの河川の氾濫があったと考えられる。この水害から建物群を守るような構造に整えられていたと思われる。	★12世紀。	12世紀。	
245	2207	小瀬戸遺跡	E区など	2・4・7	p26:(前略)(A区では)I層~VI層は粘土を主体とする層位で、5~25cm程度の厚さをもち灰色~褐色を呈する、このなかで最下位にあたる6層で戦国時代~近世の水田を検出している。(以下、B・C・D区も同様。)p27:(前略)(E区は)他の地点に比べ河川の影響が大きかったことが知られる。また、不整合がみられる2・4・7層も粘土でありながら水性堆積によるものと考えられる。(後略)p166:(前略)近世の洪水で記録に残るものとしては、文政11年(1827)の藁科川の氾濫がある。(中略)今回調査を行った水田からは19世紀前半までの遺物が出土しているため、調査によって検出された水田はあるいは文政11年の水害によって埋没したものとも想定される。しかし、水が引いた後は洪水堆積物の上面を利用して、再度水田を営んでいる。(後略)	★1827年? ▼戦国~近世。	1827年。	日下部(1975:171)には7月16日に「遠江・美濃洪水☆天竜川破堤」とあり、静岡県編(1996:62)にも同日に「大井川・天竜川満水、所々堤切れ、(後略)」とあるため、これに対応すると解釈される。
248	2207	小瀬戸遺跡			[原田直浩「自然災害について」pp200-201]pp200-201:73-3地点は既刊「小瀬戸遺跡・粟ヶ沢遺跡」によれば、水性堆積が随所で確認されており、文政11年(1827)に藁科川が氾濫して広い範囲で川成となったことから、「調査によって検出された水田はあるいは文政11年の水害によって埋没したものとも推定される」とされている(静岡県埋蔵文化財調査研究所2007,166頁)。しかし、文政11年の水害以外にも小瀬戸村は度々藁科川の水害や山崩に悩まされている。例えば、宝暦6年(1756)の「田方荒所引高小前嵐(戸崎家88号)には「谷川地」の名が見え、また、文化9年(1812)の「田畑損地書上」(戸崎家96割)には、「当月(6月)四日・五日大雨出水にて所々山崩仕、村中江石砂等押出し」とあり、6月4日・5日の大雨洪水で山崩が起き、田畑が石や砂に埋もれたことが記されている。この時被害にあった出畑の場所には「谷川地」や「ひのくま」の名が見られ、発掘調査地周辺で被害があったことがうかがえる。これらのことから、一概に文政11年の水害によって埋没したと推測することはできず、小瀬戸村は何度も被害にあっていることが窺える。	★18世紀~19世紀(文政11年など)。	18世紀~19世紀。	
219	2208	瀬名遺跡	2/3区	10	p68(第19表):(10層の時期は古墳中期。)p92:10層は上下を黒泥質の層に挟まれた砂礫層で、12層上の杭列水田が放棄され湿地化した期間の一時期に、流路や洪水によって堆積したものである。(後略)	★古墳中期。	古墳中期。	

220	2208	瀬名遺跡	6区	17	p176: (18層水田について)被覆層である17層(水性堆積砂礫層)と18層との境界は波状明瞭である。(中略)(出土)土器については、(中略)弥生時代後期前半くらいとした。p179: 16層水田は全域を15層(砂礫)に被覆される。この6区15層は杭列水田を被覆廃絶させた砂礫層(2区~6区に広がる。確認範囲約300m)の一部である。(後略)p183: 完形に近い土器として調査区南西部の畦畔交点から小型の埴が検出されたことにより、弥生時代後期後半~古墳時代初頭くらいとした。p189: (14層水田の)基盤層は精査面全域において砂礫層(15層)である。(中略)(6区15層は)5区9層、2/3区10層に約300mの範囲にわたって対応する。	▼弥生後期前半。△弥生後期後半~古墳初頭(16層水田)。	弥生後期中葉?
221	2208	瀬名遺跡	9区	3, 4	p372: 1層と2層は近代以降の客土で、現地表面では畑が営まれていた。3層, 4層としたのは、洪水により堆積したと思われる砂・砂礫で、これを掘り下げると5層上面の遺構が現われた。(中略)(5層上面の遺構の時期は)近世~近代であることにまちがいないであろう。	▼近世~近代。△近代以降。	近代?
242	2209	恒武東覚遺跡	自然流路 SR215 ・216		p16: (SR216は)本来はSR215の一部であり、洪水の跡と思われる。SR215は、断面の観察から、さらに上下2本の流路に分けることができる。いずれも埋土は砂層と粘土層の互層になっており、ラミナの発達が見られることから、複数回の洪水跡を示している。(中略)SR215の上部とSR216からは、6世紀後半から7世紀前半の遺物が主体で、下部からは、5世紀後半の遺物が出土しており、時期差を示している。p65(表2): (SR215・216の時期は)6世紀末~7世紀後半。	★6世紀末~7世紀後半。 ▼5世紀後半。△6世紀後半~7世紀前半。	6世紀末葉~7世紀後葉。
243	2209	恒武東覚遺跡	自然流路 SR213		p38: (前略)埋土は小礫を含んだ砂を主体として、所々に粘土層をはさんでおり、複数回の洪水跡を示している。(中略)この流路の中層から下層にかけて、8世紀中葉~9世紀初頭の遺物が多く出土した。p65(表2): (SR213の時期は)8世紀後葉~9世紀初頭。	★8世紀後葉~9世紀初頭。▼8世紀中葉~9世紀初頭。	8世紀後半~9世紀初め。
249	2210	恒武西宮遺跡 第3次・第6次・ 第7次		II b・ III	p11(Tab.3): (II b層: 黄褐色細砂。年代: 4世紀。特記事項: 洪水堆積。)(III層: 明褐色~灰黄褐色粘土。年代: 4世紀。特記事項: 洪水堆積。) p12(Fig.13): III層は全域に堆積。	★4世紀。	4世紀。
241	2211	藤守遺跡			p15: 11層レベルでは7世紀後半の竪穴住居が構築され、7世紀後半には14層のSR6以外は一旦埋没する。住居は8世紀前後の侵食により形状がほとんどわからなくなったものと考えられる。洪水が頻発していたことを考えると、寒冷な気候にあった可能性が高い。	★7世紀後半~8世紀。	7世紀後半~8世紀。
233	2212	曲金北遺跡	基本層 序	IV	p9: (IV層は)灰色シルトと粘土の細かな互層なら成る。水平ラミナの発達した自然堆積層である。洪水による堆積層と考えられるが、砂利層などはみられない。(後略)p80: (前略)静清平野の各遺跡の発掘調査結果などにより、このIV層を供給したのは古墳時代中期頃の安倍川の氾濫であると推測されている。	★古墳中期。	古墳中期。
222	2213	箕輪遺跡		19	p37: 年代観: 弥生後期前半。19層水田作土(平面・断面で検出。下層水田に所属)。20層水田の被覆土。洪水堆積土が、耕作され、19層水田の作土となっている。20層上面の多くの地点で炭化物の薄層が見つかっている。20層水田の耕作をしていたが、雑草が繁茂しすぎたためか、野焼きをしたようである。その後洪水が襲いかかり、水田が廃絶されたようである。	★弥生後期前半。	弥生後期前半。
915	2213	箕輪遺跡		18'	p37: (19層について)年代観: 弥生時代後期前半。 p38: 19層水田の廃絶の原因としては、18'層さらに18層が洪水によって調査区にもたらされ、19層の田面が覆われてしまったことによると考えられる。p39: 砂(18'層)さらに粘土質シルト(18層)が洪水によってもたらされても、19層水田から18層水田へと、途切れることなく継続していたと推定できる。(中略)(16層について)年代観: 弥生後期後葉。	▼弥生後期前半(19層)。△弥生後期後葉(16層)。	弥生後期前葉~中葉。
916	2213	箕輪遺跡		18	p37: (19層について)年代観: 弥生時代後期前半。 p38: 19層水田の廃絶の原因としては、18'層さらに18層が洪水によって調査区にもたらされ、19層の田面が覆われてしまったことによると考えられる。p39: 砂(18'層)さらに粘土質シルト(18層)が洪水によってもたらされても、19層水田から18層水田へと、途切れることなく継続していたと推定できる。(中略)(16層について)年代観: 弥生後期後葉。	▼弥生後期前半(19層)。△弥生後期後葉(16層)。	弥生後期前葉~中葉。

223	2213	箕輪遺跡		15-2	p40:16層水田の廃絶は、砂質シルトの堆積物(15層)の被覆によるものである。(中略)(D層群;15~12層の年代観は弥生後期後葉~古墳前期。)p42:(15-2層の年代観は古墳時代前期後葉。(3世紀後半?))(中略)15-2層は、16層水田の被覆土。p43:(前略)以下のような洪水堆積と水田構築の順序が推定できる。第1に、15-2層の砂質シルトが調査区の全面で厚さ10cmほど堆積する。第2に、ここに15-2層水田が構築され、この堆積土の上半部もしくは大部分が耕作される。しばらくすると、第3に、15-1層の砂質シルトが調査区中央部の東西大畦畔付近の北側と南北大畦畔付近の西側部分に洪水堆積する。この洪水が引いた後に、第4に、復旧水田の15-1層水田の造成が始まる。(後略)	★古墳前期後葉(3世紀後半)。	3世紀後半。	古墳時代前期後葉の年代幅が広く、絶対年代は今後検討をする?
224	2213	箕輪遺跡		15-1	同上。	★古墳前期後葉(3世紀後半)。	3世紀後半。	古墳時代前期後葉の年代幅が広く、絶対年代は今後検討をする?
225	2213	箕輪遺跡		14	p40:(D層群;15~12層の年代観は弥生後期後葉~古墳前期。)p44:15-1層水田の被覆土。田面を覆う砂層の14層砂は、調査区中央部の東西大畦畔付近よりも北東部のみ厚く1cmほど偏在し、他の部分では薄かった。(中略)(12層の年代観は古墳時代前期後葉?(3世紀後半?))	▼3世紀後半?△3世紀後半?	3世紀後半。	古墳時代前期後葉の年代幅が広く、絶対年代は今後検討をする?
226	2213	箕輪遺跡		11	p46:(11層の年代観は古墳時代前期後葉。(4世紀末。))p47:5回目の洪水供給土は、16層以来の粘土であり、しかも12層までの堆積土によって田面は上昇し、南北大畦畔の高さの2/3以上がすでに埋没していた。	★古墳前期後葉(4世紀末)。	4世紀末葉。	古墳時代前期後葉の年代幅が広く、絶対年代は今後検討をする?
227	2213	箕輪遺跡		4~6	p51:B層群(4~6層)は、古墳後期前半(6世紀)の80cm程の堆積砂である。初期の6層と5層はそれぞれ砂層でありながら、水田作土として利用されている。全国でも作土が砂層となっている埋没水田の発見はあまり類例がなく貴重である。また、砂の粒径は東から西に行くほど粗粒から細粒に変化しており、同一層でありながら、土性が違っている。また、短期間での厚い洪水砂の堆積は、供給河川が調査区に接近していることを示している。さらに6世紀の気候の冷涼化との関連もあるかもしれない。	★6世紀。	6世紀。	228, 229のいずれかと同一とみなした。
228	2213	箕輪遺跡		6層被膜層	p51:6-1層水田に襲来した最初の洪水堆積物。(後略)	★6世紀。	6世紀。	
229	2213	箕輪遺跡		4	p52:自然堆積の砂層である。(中略)洪水の初期堆積物である微砂の薄層の次に、厚い粗砂の堆積が行われている。	★6世紀。	6世紀。	
237	2214	元島遺跡	基本層序	I	p7:近代の太田川の氾濫によって、床土と耕作土の間に、薄い砂層が堆積している箇所も見られた。	★近代。	近代。	
238	2214	元島遺跡	基本層序	II	p7:褐色砂質土。細かな砂粒を主体に、若干の炭化物、植物繊維を含む層で、近代の太田川の氾濫層である。調査区全域にわたって分布するが、東南域では確認できない。(中略)平均20~30cmほどである。	★近代。	近代。	
239	2214	元島遺跡	8区	(第Ⅲ遺構面)直上	p193:第Ⅲ遺構面を、13世紀代の遺構として捉えた。(中略)(8区では)遺構面として捉えきれなかった14世紀代と考えられる土坑も存在する。このことは、14世紀の遺構面が何らかの原因で、削平されてしまい、深い土坑状の遺構のみが残されたということも推定させる。また、確認面は確実にⅢ面でありながら、遺物は14世紀代のものが混在している状況も確認された。このことも、14世紀代の自然災害を裏付ける事実と考えられる。	★14世紀。 ▼14世紀。 △15世紀。	14世紀。	
240	2214	元島遺跡	8区	第Ⅳ遺構面基盤層	p212:(第Ⅳ遺構面について)第Ⅲ遺構面より下層であることは確かだが、出土遺物に極端な差は認められない。基盤層となっている洪水堆積物に含まれる遺物は、12世紀代のものに限定されるため、それ以降ということは確実である。(後略)	○12世紀。 △13世紀(第Ⅳ遺構面)。	12世紀~13世紀前半?	

264	2301	朝日遺跡		朝日U層	p28:朝日M層は粘土が堆積する層で、複数の炭化物のラミナ状の地層が見られる場合が多い。朝日M層は比較的識別が容易であり、朝日遺跡全域においての鍵層的な存在となる。灰白色を呈する場合が多く、一般的には無遺物層となる。おおむね古墳時代前期の松河戸式期を中心とした時期と想定できる。朝日遺跡では広範囲に止水域が広がる環境であった。朝日M層上位に堆積する朝日U層は、砂を挟むシルト層である場合が多く、朝日M層との間に不整合面が見られる。やはり無遺物層であるが、谷Bなどでは朝日M層が厚く堆積し、その下位には宇田式期の遺物が、上位には奈良時代の遺物の包含が認められる。ところで濃尾平野での発掘調査において古墳時代中期に大量の砂層の堆積が見られる場合が各地域で報告されている。最も著名なものが一宮市大毛池田遺跡の古墳時代水田を覆い尽くした砂層である。松河戸Ⅱ式末葉段階の良好な遺物がその下位で検出されており、宇田Ⅰ式期内での出来事と想定されている。この宇田期大洪水が朝日U層に関係する砂層であると想定したい。今後の調査成果をまたねばならないが、比較的広域的な現象と思われ、葉栗・中島・海部郡を巻き込んだ大災害の可能性も指摘できる。したがってまた鍵層として位置づけが可能でありここであらためて大毛池田層と仮称しておきたい。所属時期を古墳時代中期前葉段階と考え、おおむね西暦400年前後を想定しておきたい。	★古墳中期前葉(宇田Ⅰ式期:400年ごろ)。	4世紀末葉～5世紀初め(400年ごろ)。	①400年ごろを4世紀末葉～5世紀初めとした。②ただし、赤塚次郎・早野浩二(2001)「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2 pp.13-32のp.31「表1 編年対照表」およびp.32によると、宇田Ⅰ式は陶邑のTK73型式に併行する5世紀初め～中葉に位置づけられている。本稿では刊行年の新しい方を採った。
250	2302	伊保遺跡	NR01付近		p6:(前略)NR01とした砂礫の堆積範囲は幅50mにも及んでおり、その上流部での弥生時代後期～古墳時代の集落の展開が推定でき、それらの遺構群を襲った小河川の氾濫が、NR01における土器堆積と推定できよう。p14:(前略)NR01・SK06を含めて廻間Ⅰ式前半期の中で捉えておいて大きな誤りはない。	○廻間Ⅰ前半(3世紀前半)。	廻間Ⅰ前半(2世紀末葉～3世紀初め:近畿地方の庄内期と併行)?	廻間式土器について、赤塚次郎、1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10、pp50-109の第7表(p106:編年対照表)を参考にした。
262	2303	今町遺跡	基本層序	Ⅱ・Ⅲ間	p12:第Ⅱ層と第Ⅲ層の間に灰黄色粗粒砂やにぶい黄褐色中粒砂の層が一部のみられ、明治以降に起こった水害により堆積したものと想定される。	★明治以降。	明治以降。	
263	2303	今町遺跡	基本層序	Ⅲ・Ⅳ間	p12:第Ⅲ層と第Ⅳ層の間にも砂の層が確認されており、江戸時代中期頃にも水害があった可能性が想定される。p220:(遺跡は)18世紀前半までは戦国時代と同様の様相を呈していたと思われるが、18世紀中期以降、洪水などの被害により大規模な土木事業(整地)が行われたようで、これによってこの地域の様相が大きく変わったものと思われる。本遺跡の南西に位置する郷上遺跡では、18世紀代に頻発する洪水を避けて現在の台地上の鴛鴦集落に移動していることが確認されており、時期的にも符合しているように思われる。	★江戸中期。	江戸中期。	18世紀における洪水の増加について、上流域での農業にともなう伐採に起因するという見方もある(愛知県12「志賀公園遺跡Ⅱ」)
253	2304	大毛沖遺跡		Ⅰ・Ⅱ期間	p17:(遺跡は)遺構の変遷から4期に大別、さらに8小期の細別を加える。Ⅰ期は7世紀後半を中心とする時期。(中略)Ⅰ期とⅡ期の間には30～40cmの洪水性の堆積が見られる。これをもってⅠ期とⅡ期の大別とした。Ⅱ期は8世紀前葉～中葉を中心とする時期。	▼7世紀後半。△8世紀前葉～中葉。	7世紀末葉～8世紀初め。	
254	2304	大毛沖遺跡		Ⅱ・Ⅲ期間	p17:(前略)Ⅱ期とⅢ期の区別は、窠様式で示す鳴海32号窠式の遺物がほとんど見られないことから区分した。洪水性の堆積は確認できなかったものの、『続日本紀』の記事には「鵜沼川(木曾川)大水。葉栗中嶋海部の3郡水に浸る。」と見え、遺構・遺物の断絶との関連性からも示唆できる。Ⅲ期は8世紀後半～9世紀代までを中心とする時期。	▼8世紀前葉～中葉。△8世紀後半～9世紀。	8世紀中葉～後葉?	
255	2305	門間沼遺跡			[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198、「古代の様相」pp199-211、「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」): (古墳時代Ⅰ-Ⅰ期/廻間Ⅰ・Ⅱ式間。洪水。)	▼3世紀前半(廻間Ⅰ式)。△3世紀後半～4世紀初頭(廻間Ⅱ式)。	廻間Ⅰ～Ⅱ期。	廻間式土器について、当該報告書および赤塚次郎、1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10、pp50-109の第7表(p106:編年対照表)も参考にした。

256	2305	門間沼遺跡		[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198,「古代の様相」pp199-211,「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」):(古墳時代Ⅰ-Ⅱ・Ⅲ期/廻間Ⅱ・Ⅲ式間。洪水?)	▼3世紀後半～4世紀初頭(廻間Ⅱ式)。△4世紀前半～中葉(廻間Ⅲ式)。	廻間Ⅱ～Ⅲ期。	廻間式土器について、当該報告書および赤塚次郎,1990「廻間式土器」『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書10, pp50-109の第7表(p106:編年対照表)も参考にした。
257	2305	門間沼遺跡		[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198,「古代の様相」pp199-211,「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」):(古墳時代Ⅰ-Ⅳ期・古墳時代Ⅱ-V期/松河戸Ⅰ・Ⅱ式間。洪水。)	▼4世紀後半(松河戸Ⅰ式)。△4世紀末葉～5世紀初頭(松河戸Ⅱ式)。	松河戸Ⅰ～Ⅱ期。	松河戸Ⅰ式土器について、赤塚次郎,1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書49, pp84-103によると、畿内の「布留式土器の中で盛行する特徴的なヨコミガキ調整が欠落し始めるこの段階がおおよそ松河戸Ⅰ式前半期と基本的に併行する」。ただし、松河戸式は廻間式の基本的に後続であるから、本稿では松河戸式の上限を廻間式の下限とした。松河戸式の下限については赤塚次郎・早野浩二,2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2 pp.13-32から、420年とした。
258	2305	門間沼遺跡		[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198,「古代の様相」pp199-211,「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」):(古墳時代Ⅱ-V・Ⅵ期/松河戸Ⅱ式・城山2号窯間。洪水。)	▼4世紀末葉～5世紀初頭(松河戸Ⅱ式)。△5世紀後半(城山2号窯)。	松河戸Ⅱ期～城山2号窯期。	赤塚次郎・早野浩二,2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2 pp.13-32を参照。城山2号窯期は陶邑のTK208型式期に併行するとされる。
259	2305	門間沼遺跡		[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198,「古代の様相」pp199-211,「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」):(古墳時代Ⅱ期-VI・Ⅶ期/H-11号窯・H-61号窯間。洪水。)	▼5世紀末葉(H-11号窯)。△6世紀前半(H-61号窯)。	H-11号～H-61号窯期。	赤塚次郎・早野浩二,2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2 pp.13-32を参照。H-11号窯期は陶邑のTK23型式後半～TK217型式前半、H-61号窯期はTK10型式期に併行するとされる。
260	2305	門間沼遺跡		[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198,「古代の様相」pp199-211,「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」):(古墳時代Ⅱ-VⅦ期・古代Ⅰ-a期/H-44号窯期。洪水。)	★7世紀初頭(H-44号窯期)。	H-44号窯期。	齊藤孝正,1991「愛知」『古墳時代の研究6』pp174-181によると、東山44号(H-44号)窯期は中村編年の陶邑Ⅱ型式4段階(田辺編年ではTK43型式期)に対比される。

690	2306	川原遺跡	水田		p57: (古代・中世について) 遺構の検出状況から、水田は、「下層水田」と「上層水田」の2時期に分かれることが確認できた。これにより、Ⅷ期はa期とb期の2つの小期に細分することができる。p58: これらの水田からの出土遺物は、いずれも15世紀後半～16世紀前半に属するものであった。また、「a期の水田」と「b期の水田」の間には、極細粒な砂の堆積層が見られたことから、この地に造られた水田は、一度洪水砂によって埋没した後、さほど時間を経ることなく、旧の規格をほぼ踏襲した形で、再度造成されたと考えられる。これらの水田が営まれた時期は、川原遺跡の北西約0.3kmに位置していたとされる鶯鴨城の伝承記録(応仁2(1468)年～永祿年間)ともほぼ一致しており、興味深い。その後、戦国～江戸期に起きた洪水によると思われる土砂に覆われ、埋没したようである。	▼15世紀後半～16世紀前半。 △15世紀後半～16世紀前半。	15世紀後半～16世紀前半。	
251	2307	清洲城下町遺跡	基本層序	2	p6: 第2層は城下町期の遺物を多く含んでおり、この上面で宿場町期の遺構が多く掘り込まれている。92A区の西端では、第2層中にラミナが見られ、この層は五条川の増水によって形成された堆積物と考えられる。(中略) 第3層にも城下町期の遺物が含まれる。p4: (城下町期は15世紀末～17世紀前葉。)	○15世紀末～17世紀前葉。 △近世。	15世紀末～17世紀前葉。	
252	2307	清洲城下町遺跡	基本層序	5	p8: 第5層は五条川の河道の堆積物である。(中略) 第5層の五条川の河道の堆積物はその出土遺物から城下町期に堆積したと考えられ、おおよそ約200年で2m以上の地層が五条川により堆積している。また、93A区では、自然堤防の堆積物の上に河道の堆積物が乗り、河道の堆積物の上に五条川の増水による堆積物が乗っていることが確認された。このことから、92A区以西は自然堤防の高さが低く、五条川の推移が上昇する度に堆積を繰り返していたと考えられる。p4: (城下町期は15世紀末～17世紀前葉。)	★15世紀末～17世紀前葉。	15世紀末～17世紀前葉。	251と同一のもの とみなした。
691	2308	天神前遺跡	SB1001		p9: 竪穴状遺構は98B区で1基確認された。SB1001は98B区南端中央部で検出された竪穴状遺構である。(中略) SB1001は5世紀前半に位置付けられよう。pp9-10: なお、SB1001付近では古墳時代の土器が若干出土しており、出土層位が明瞭に把握された資料も存在する。高杯と小型壺はSB1001が埋没した後に堆積したオリブ褐色砂質シルトの上位から出土した。甕はSB1001が掘り込むオリブ褐色砂質シルト中から出土している。これらの土器はSB1001とそれほど時期的に差が認められないことから、土器が出土した経緯に若干の問題が残るものの、SB1001が機能した前後の比較的短期間に洪水による堆積が頻繁に起こっていたことが想像される。pp49-50: 天神前遺跡の古墳時代中期の土器は3段階に分けられる。SD1006やSD1008は水田状遺構を切ることから、天神前遺跡で確認された水田状遺構や竪穴状遺構の所属時期は1段階(5世紀前半古相前後)に位置付けられ、少なくとも3段階(神明式: 5世紀後半)には廃絶されたと考えられよう。	★5世紀前半。 △5世紀後半(神明式期)。	5世紀前半。	
261	2309	八王子遺跡	p11: 図4	29・30・46・47 (p11: 図4)	p7: 一宮市北部の大毛池田遺跡から門間沼遺跡にかけて、総延長3kmを超える大規模な水田遺構が確認されている。この水田遺構は3世紀前半頃に形成され、5世紀前半頃には分厚い洪水層によって埋没している。八王子遺跡においても、2世紀後半頃に掘削された大溝(Ba・O区NR01)が同じく5世紀前半頃の洪水層で埋没しており、木曾川下流域でこの時期かなり大規模な洪水が頻発していたようで、尾張平野低地部の多くの集落がその影響をうけていた可能性が高い。p266: 廻間Ⅲ～松河戸Ⅰ式期には、北側の溝内に、再度土器の大量廃棄が認められる。南側の居住域では、Lc区に竪穴住居群が展開するが、8棟程度と集落規模は依然として小さい。その後は、木曾川下流域一帯を襲ったとみられる大規模な洪水によって大溝は埋没し、集落は弥生時代後期以来の集落は廃絶する。(後略)	★5世紀前半。	5世紀前半。	
265	2310	法圓寺中世墓	基本層序	Ⅱ	p3: Ⅱ層下面は整然とした堆積で、洪水等で一気にⅡ層が堆積し、積石墓頂部を残して埋没した感を呈している。p27: 『妙興寺文書』には宝徳4(1452)年の「坂井某書状」の中に、洪水で材木が佐千原に漂着したという記録があり、そのところに日光川流域に洪水があったことが知られる。この中世墓の第一次埋没はこの頃と考えられる。	★15世紀中葉 (1452?)。	1452年ごろ。	

266	2311	万加田遺跡	基本層5 序	5	p76:第5層は酸化鉄の層で、堅穴住居SB04~11等の遺構より新しく、SB12、SD08~10などの遺構より古く、この集落が一時期水没した可能性を示している。(中略)(第6層について)下層から9世紀中頃の遺物が出土し、上層でSD09・10が検出されることから、その間に堆積したと考えられる。p168:(SB12は)9世紀初~中頃の堅穴住居と推定される。p194:(SD08の時期は)9世紀後半~10世紀初頃と想定される。p195:(SD09は)8世紀前半~10世紀初頭の溝と考えられる。(中略)(SD10は)9世紀初~末の溝と想定される。	▼9世紀~10世紀初頭。 △8世紀前半~10世紀初頭。	9世紀~10世紀初め?	
692	2312	水入遺跡	大溝	6	(第1分冊)p76:(古墳時代の大溝について)矢作川およびそれに面する段丘崖とほぼ平行に北東から南西方向へのびる、段丘面を掘削して築造された直線的な溝である。(後略)(第1分冊)p83:大溝掘形内の堆積土層を大きく第1~第9層に区分した。このうち9層は上述したように大溝底部を完成させるための人為的な埋め戻し層である。残る第1~第8層は完成後~近世の堆積層で、時期を概略を示すと次のようになる。第1層は戦国時代~江戸時代中期、第2層は鎌倉・室町時代、第3層は平安時代、第4層は奈良時代、第5層は古墳時代中期後半~後期、第6~8層は古墳時代中期前半である。(中略)(大溝の第6層について)黒褐色シルトを主体とする層である。ラミナ構造はみられないが、水が澱んだ状態であった可能性は残される。植物質を多く含み、自然状態の樹木や木製品の遺存が顕著である。(後略)p84:(第6層について)矢作川の洪水によってもたらされたと考えられる粗粒砂のレンズ状堆積である。(中略)(第5層について)窯式表示のできない6世紀後半の須恵器も含まれており、およそ5~6世紀代の堆積層とみてよいであろう。	★古墳中期前半。▼古墳中期。△古墳中期後半~後期(5~6世紀)。	古墳中期前半。	
689	2313	室遺跡	基本層 序	(IV)	p15:(IV)黄褐色シルト層...下部ではグライ化して青灰色を呈しているが、ほとんど均一で洪水で一気に堆積した厚さ1m以上の土層である。(中略)この層は室遺跡の中世の基盤となる層であるが、この層が堆積した結果、この地域に自然堤防が形成され、中世以降の生活域となったということができよう。p242:(木樋Bについて)木樋Bが機能していた時期は、SK01から出土した土器群が黒笹90号窯式から折戸53窯式に属することから、9世紀から10世紀後半の200年近い期間であったと考えられる。廃絶時期は、洪水によってもたらされた黄褐色シルト層に含まれる土器が折戸53窯式に比定されることから、10世紀後半としてよい。	★10世紀後半。	10世紀後半。	
267	2401	位田遺跡			p11:A地区南西部では昭和12年の洪水で堤防が決壊した場所であり、部分的に砂層が遺構を破壊していた。	★1937年。	1937年。	9月の台風に伴う洪水よるとみられる(「気象庁天気図」を参照)。津では9月10~11日に計152.6mmの降水量が記録されている。
274	2501	浅小井城跡第2次		3	pp17-18:(p17:「挿図17」中)3の砂層は粗砂が主体である。洪水によりたまつたものと考ええる。4の土層は若干の腐植土が混ざっていることなどから水田耕作土と考えられる。近世後期~近代の遺物が確認できた。4の土層が洪水により使えなくなり、新たに土を入れて水田としたのであろうか。	▼近世後期~近代。	近代以降。	
273	2502	井戸遺跡	3区、4区		p58:3区と4区では、10世紀~11世紀の遺物包含層を検出した。この包含層は厚さ30cmほどで、河原石も多く包含しており、土器の破片が石に巻き込まれたような出土状況を示していた。よって、洪水ないしそれに類する現象が発生し、集落がその被害を受けた結果堆積したものではないかと考えられる。p60:3区~4区の遺物包含層については、古くは7世紀前半の遺物を含むが、中心は10世紀後半~11世紀前半の遺物である。また、年代を示す資料として皇朝十二銭である「富寿神宝」も出土しているが、これが鑄造されたのは9世紀前半である。これらのことから、井戸遺跡に関わる集落の中心はもう少し離れた場所に、おそらく7世紀以降11世紀前半まで存続しており、それが幾度となく繰り返された洪水や土石流のような現象で押し流されて形成されたのが3区~4区の遺物包含層ではないかと考えられる。	★10世紀~11世紀。○10世紀~11世紀。	10世紀~11世紀。	断続的?

275	2503	草津宿場町遺跡第7次		14	p3:各遺構構面の所属時期については、後述する各種遺構並びに整地層中より出土した遺物により概ね比定でき、レンガ・コンクリート・漆喰・瓦・ガラス片等を含む近現代の攪乱並びに整地層である第1層より下層で、第1面(19世紀前半以降)、第2面(18世紀中葉～後葉)、第3面(18世紀前葉～中葉)、第4面(17世紀中葉前後)、第5面(16世紀末葉～17世紀前葉)と推定される。p5:第3面～第4面の間には第13層～第14層の都合2層を認める。第13層は灰色砂質粘土で、18世紀前葉のある段階で火災を受けた町屋建物内に設けられた土間三和土である。第14層は生活面である第3面の基盤層で、厚さ12cm～15cmを測る均質な明黄褐灰色の砂層で、洪水による堆積砂をならした土層と推測する。p31:(前略)当該調査地における層位を概観すると、旧草津川の天井川化が顕在化する18世紀中葉の時期は当該調査地の第2面に当たることになり、当該面下には少なくとも2回に及ぶ厚い洪水砂層を基盤とする生活面(第4面・第3面)が存在する一方、第2面の形成以降の地盤変化は比較的安定したものであることが認められ、とりわけ、16世紀末～17世紀代の宿場内の生活は、旧草津川の氾濫(洪水)に大きく左右されたものであったことが窺われるものとなった。	▼17世紀中葉。△18世紀前葉。	17世紀中葉～18世紀前葉。
276	2503	草津宿場町遺跡第7次		19, 20	p3:各遺構構面の所属時期については、後述する各種遺構並びに整地層中より出土した遺物により概ね比定でき、レンガ・コンクリート・漆喰・瓦・ガラス片等を含む近現代の攪乱並びに整地層である第1層より下層で、第1面(19世紀前半以降)、第2面(18世紀中葉～後葉)、第3面(18世紀前葉～中葉)、第4面(17世紀中葉前後)、第5面(16世紀末葉～17世紀前葉)と推定される。p5:第4面から第5-a面までの間には第16層～第21層の層位を認める。第16層(暗灰色粘質土)は比較的固く締った土層で、当層上面よりSD06が掘りこまれる状況から、第4面の形成時に敷詰められた整地層と考えられる。第17層・第18層は、第4面に伴う落込み埋土である。第19層・第20層は第5-a面上に厚く堆積した明灰色粗砂層で、16世紀末葉以降、17世紀中葉までの間のある段階で形成された洪水砂層と捉えられた。第21層は第5-a層直上に堆積する有機物を多く含む局所的な堆積層である。	★16世紀末葉～17世紀中葉。△17世紀中葉。	16世紀末葉～17世紀中葉。
277	2503	草津宿場町遺跡第7次		25	p3:各遺構構面の所属時期については、後述する各種遺構並びに整地層中より出土した遺物により概ね比定でき、レンガ・コンクリート・漆喰・瓦・ガラス片等を含む近現代の攪乱並びに整地層である第1層より下層で、第1面(19世紀前半以降)、第2面(18世紀中葉～後葉)、第3面(18世紀前葉～中葉)、第4面(17世紀中葉前後)、第5面(16世紀末葉～17世紀前葉)と推定される。p5:第25層は第5-b面と第5-a面の間に堆積した灰色シルト層と有機物層の互層で、上記した第19層・第20層と同様、洪水等の水害に関連した堆積土である可能性が高いものである。p31:(前略)当該調査地における層位を概観すると、旧草津川の天井川化が顕在化する18世紀中葉の時期は当該調査地の第2面に当たることになり、当該面下には少なくとも2回に及ぶ厚い洪水砂層を基盤とする生活面(第4面・第3面)が存在する一方、第2面の形成以降の地盤変化は比較的安定したものであることが認められ、とりわけ、16世紀末～17世紀代の宿場内の生活は、旧草津川の氾濫(洪水)に大きく左右されたものであったことが窺われるものとなった。	○16世紀末葉～17世紀前葉。	16世紀末葉～17世紀前葉。
268	2504	柳遺跡	T4(③断面)	第1面直上	p23(図8):(洪水砂。直下は第1面。)p54:(第1面の)水田1Aは16世紀初頭頃に洪水を被り廃絶する。水田1Aの耕作期間は15世紀中頃～16世紀初頭頃までの概ね半世紀間であったと考えられる。	★16世紀初頭。▼15世紀中頃～16世紀初頭。	16世紀初め。
269	2504	柳遺跡	T4(③断面)	第2面直上	p23(図8):(洪水砂。直下は第2面。)p41:(第2面の)水田1Bの耕作期間は、13世紀後半から15世紀中頃の洪水を被るまでの概ね170～180年くらいに推定している。p44:洪水罹災の時期は15世紀中頃と考えられる。	★15世紀中頃。▼13世紀後半～15世紀中頃。	15世紀中葉。

270	2504	柳遺跡	T15 (⑧断面)	第2-II面 直上	p23(図8):(洪水砂。直下は水田1B-I古。)p106:T15調査区は全域が水田1Bに該当し、T14調査区は調査区北東隅に位置する沼沢地ないし自然河川のSR1401以外は水田1Bが広がる。水田1BはT15調査区北西部では、さらに水田1B-II・1B-I古・1B-I新の3段階の耕土層に分かれ、水田1B-I古・1B-I新段階には洪水に罹災している。p107:水田1Bは最終段階の15世紀中頃に洪水を被る。この洪水は柳川を起源とすると見られ、標高が低い筆11・10・24・15・20の田面は洪水砂に覆われる。(中略)(水田の時期は)水田1B-IIが13世紀後半~14世紀前葉、水田1B-I古が14世紀前葉~14世紀末、水田1B-I新が14世紀末~15世紀中頃といった年代観となる。	▼14世紀前葉~末葉。 △14世紀末葉~15世紀中頃。	14世紀末葉。	
271	2504	柳遺跡	T15 (⑧断面)	第2-I面 直上	p23(図8):(洪水砂。直下は水田1B-I新。)p106:T15調査区は全域が水田1Bに該当し、T14調査区は調査区北東隅に位置する沼沢地ないし自然河川のSR1401以外は水田1Bが広がる。水田1BはT15調査区北西部では、さらに水田1B-II・1B-I古・1B-I新の3段階の耕土層に分かれ、水田1B-I古・1B-I新段階には洪水に罹災している。p107:水田1Bは最終段階の15世紀中頃に洪水を被る。この洪水は柳川を起源とすると見られ、標高が低い筆11・10・24・15・20の田面は洪水砂に覆われる。(中略)(水田の時期は)水田1B-IIが13世紀後半~14世紀前葉、水田1B-I古が14世紀前葉~14世紀末、水田1B-I新が14世紀末~15世紀中頃といった年代観となる。	★15世紀中頃。▼14世紀末葉~15世紀中葉。	15世紀中葉。	269と同一のもの とみなした。
272	2504	柳遺跡	T15 (⑦⑧断面)	第1面 直上	p23(図8):(洪水砂。直下は第1面。)p120:(第1面の)水田1Aは15世紀中頃から約半世紀間耕作され、16世紀初頭頃に洪水に罹災するが、水田1Bの洪水時と同様に標高が低い田面には洪水砂が堆積する。	★16世紀初頭。▼15世紀中頃~16世紀初頭。	16世紀初め。	268と同一のもの とみなした。
929	2504	柳遺跡	第1段階 堰		p71:堰1の周辺から出土した土器は弥生時代後期後半期のものを主体とする。なかでも広口壺、直口蓋、受口状口縁甕、甕、鉢は第1段階堰の堰き止め部構造材直下の標高97.9~98.0m付近から出土しており、検出された第1段階堰の設営時期の上限を示すものである。これらの年代観についても弥生時代後期後半の範疇に比定できる。すなわち、第1段階堰は弥生時代後期後半期に設営され、さほど時間を経ないうちに洪水被害を蒙って遺棄されたものと考えられる。なお、先述したように、検出された第1段階堰は幾度もものつくり替えを経て最終的に遺棄された遺構と考えられるものである。当地に最初に堰が設けられた時期の詳細は不明であるものの、弥生時代後期後半を遡ることはないと思われる。p73:(第2段階堰について):遺物は第1段階堰の項で記述したように、堰周辺の洪水砂層から壺、甕が出土しており、これらの主体は弥生時代後期後半のものである。	▼弥生後期後半。○弥生後期後半。△弥生後期後半。	弥生後期後半(庄内期を含まない)。	当該報告書では庄内式併行期が古墳時代初頭に含まれる。
930	2504	柳遺跡	第2段階 堰		p73:(第2段階堰について):遺物は第1段階堰の項で記述したように、堰周辺の洪水砂層から壺、甕が出土しており、これらの主体は弥生時代後期後半のものである。p74:(第2段階堰について)堰周辺から出土した土器の様相から、第2段階堰の設営から廃絶までが弥生時代後期後半の範疇に収まるを考えると、当堰は第1段階堰堤が遺棄されてからほどなく構築され、さほど時間を経ないうちに洪水で破壊され埋没したと思われる。p75:分水溝SX1-III 第2段階堰の設営に伴って、T10SD4と重複する位置に掘りなおされた分水溝である。p76:(分水溝SX1-IIIの)溝内は砂が充満しており、洪水によって短時間のうちに埋没した状況が窺えた。出土した土器は弥生時代後期後半期のものを主体とするが、高杯のように明らかに古墳時代に時期が降るものもみられる。当溝と、重複するSX1-VIの埋土の境が極めて不明瞭であったため、遺物取り上げ時に双方の遺物が若干混入したと思われることから、これらについてはSX1-VIに帰属する可能性が高い。	★(弥生後期後半からさほど時期を経ない時期。)▼弥生後期後半。○弥生後期後半。	弥生後期後半(庄内期を含まない)。	当該報告書では庄内式併行期が古墳時代初頭に含まれる。
688	2601	嵐山	川1など		p7:(川1は)調査区のほぼ全域で検出した、北西から南東へ直線的に流れの方向をもつ自然流路である。(中略)この川は、恒常的に流れを維持していたのではなく、桂川が氾濫した時に水が一気に流れ過ぎた痕跡であると考えられる。p19:調査により、近代の耕作土の下から、江戸時代の土坑・耕作地造成の跡、室町時代末期の洪水に伴うと考えられる自然流路、鎌倉時代から室町時代の耕作関連遺構を検出した。(中略)室町時代末期に大規模な洪水にあつて耕作地が大きな被害を蒙ったと考えられる。	★室町末期。	室町末期。	

296	2602	宇治川太閤堤跡	河川堆積層	A	p16: A0701トレンチでは、上から30cmほどのところに厚さ10cmほどの細粒砂が挟まれる。砂は北側ほど明瞭であるが、南側では欠如することもある。これは昭和28年9月水害による氾濫砂と推定される。	★昭和28年9月。	1953年9月。	
297	2602	宇治川太閤堤跡	河川堆積層	E	p16: 宇治川の洪水により、河岸の微高地の形成された堆積物である。(中略)この層の上から50cmほどのところには、文化年間の瓦が含まれる。(中略)A0701トレンチでは15枚の氾濫堆積層が確認できる。p17: (直下のF層)下位の河床礫との間に厚さ20~30cmの元禄から正徳期の瓦の層が挟まれる。	▼元禄~正徳。○文化。	1716年~1804年。	
286	2603	内里八丁遺跡 A地区・B地区		A地区 第4遺構面 直上・ B地区 水田跡 直上	p12: (A地区の第4遺構面について)調査区の西部域から、洪水砂によって埋没した水田と畦畔を検出した。p14: (B地区について)調査区南部域から洪水砂(淡黄灰色細砂)の堆積によって埋没した水田畦畔を検出した。p54: (今回の調査で)弥生時代後期末~古墳時代初頭の水田跡を検出することができた。水田跡は、20~30cmの洪水砂層をはさみ、上下2面の水田跡が存在した。(中略)内里八丁遺跡で検出した洪水砂は木津川の氾濫に伴うものと判断する。(中略)水田跡を検出したA・B地区は、現地形に残る田畑の形状や畦畔の動きから、古くは木津川の河道部分に含まれていたことが読みとれる。p62: (A地区の)下層の水田跡が庄内期でも古相の時期に埋没したものであり、上層の水田跡は庄内期でも新相の時期から布留式期初頭頃のものとして判断される。なお、B地区水田跡に関しては、(中略)A地区下層水田に対応するものと判断しておきたい。	★弥生後期末葉(庄内(古))。	庄内期前半。	参考:森岡・西村(2006)。
287	2603	内里八丁遺跡 C地区~F地区	F区など		p88: 流路跡に見られた洪水砂層とその東側で検出した水田跡との関係であるが、土層断面の検討の結果、NR96224下層に相当する洪水砂によって水田跡とが一緒に覆われており、このF地区第6遺構面で検出した水田跡の廃絶期がI期に相当するものと判断される。(後略)p90: 今回出土した資料と、A・B地区出土資料の対比を行うと、(弥生時代後期末~古墳時代初頭)の古相をなす一群は今回のI・II期に、新相をなすものはIII期に相当するものとする。	★弥生後期末葉(庄内(古))。	庄内期前半。	参考:森岡・西村(2006)。
304	2604	京都大学北部 構内遺跡 BF34区	BF34区 の SF1		p8: 道路SF1は、逆台形に地面を掘削し幅約4mの路面を造成している。2枚の路面が確認でき、最初は掘削面を叩きしめ、次の段階で砂礫を敷きつめた一種の舗装をおこなっている。最初の段階では、東側に側溝を設けている。路面を覆うように、流路SR1が堆積しており、洪水により道路としての機能が維持できなくなったことを考えさせる。(中略)出土遺物の下限の年代から判断して、SF2は14世紀後半にさかのぼりSF1は16世紀以降、灰色土2上面で検出した溝群は17世紀の遺構と考えられる。	▼16世紀以降。△17世紀。	16世紀~17世紀。	
305	2604	京都大学北部 構内遺跡 BD28区	BD28区		p234: 道路SF1は、調査区北辺を東西方向にはしり、方位を真北から約7度東へ振る。路面は、黄色砂に掘り込まれた明灰色砂質土の硬化層で、路面直上の明灰色砂質土との判別は容易だった。調査区西半では攪乱が著しいので構造は不明瞭だが、東半では、造成の痕跡や側溝を確認でき、黒褐色土の堆積中のある時点で地面を逆台形に掘削して、幅2mを超える路面を造成していることがわかった。まず、当時の地表面から土石流堆積層である黄色シルトないし黄色砂に達するまで地面を掘削する。(後略)pp261-262: 道路SF1の敷設の背景について考えてみよう。10世紀中ごろには機能していることから、成立が10世紀前半に遡ることを否定できないので、ここでは、遠因として、9世紀前半の鴨川氾濫にともなう比叡山地からの河川の川筋の変化を想定してみたい。(後略)	★9世紀前半。	9世紀前半。	
306	2604	京都大学西部 構内遺跡		砂礫層	p5: 調査地は京大西部構内の西にあり高低差はない。室町後期の大溝の下に厚さ80cmの砂礫層があり、北東からの土石流で一気に堆積したもののようである。岩石の包含状態は極めて密で、岩石の上下で平安後期の土器が層をなして堆積している。p6: 平安後期に相当の土量を伴う土石流が発生したものである。p23: 調査地においては平安末期に土石流の跡がある。	★平安末期。	平安末期。	
278	2605	蔵ヶ崎遺跡	No.2ト レンチ 以北		p5: (前略)No.2においては表土下に黒褐色粘質土その下に暗青灰色砂質土が厚く堆積している。この暗青灰色砂質土はこれより以北の各地点においても確認できる。また、Bトレンチにおいて確認した上層水田面を覆っており、出土した土器から見ても、奈良時代の中で堆積した洪水層と見られる。	★奈良。	奈良。	

281	2606	桑原口第6次	A地区 など		p11:表土下30~70cmほどの盛土が見られ、この下層に暗灰褐色系のシルト質細砂~中粒砂で構成される厚さ10~40cmの旧耕作土層、その下層に厚さ10cm前後の黒褐色中粒砂の包含層、その下層の灰褐色粗砂の洪水砂層(厚さ30cm)、黒褐色シルト質細砂の包含層(厚さ10~20cm)によって構成され、この下層に遺構検出面である青灰色極細砂層が堆積している。p11:表土下の盛土下には厚さ30cmの洪水砂層がある。p12:トレンチ西半の掘立柱建物建物群と、東西方向の溝は灰褐色粗砂の洪水砂層の上面から掘削されており、洪水砂が古墳時代後期までに流れ始めた流路群に切られ、弥生時代~古墳時代中期の遺構はこの洪水砂を除去しなければ検出できないことから、この洪水は古墳時代後期のものであることが限定できる。p21:自然流路群は古墳時代後期ごろに、まずNR02が流れ、これによって堆積した洪水砂を切ってNR01が流れ、(後略)。p24:(NR01からは)TK43~209型式に比定される須恵器などが出土した。したがって、この流路群の中で最も古いと見られるNR01も、古墳時代後期以降に堆積したと考えられる。	★古墳後期。△古墳後期(TK43~TK209)。	TK43~TK209(580~620年代)。	
280	2607	上津屋遺跡第4次	第2トレンチ	4上	p62(第43図):洪水砂。3層は表土。4層より下方からは溝SD01の埋土が検出される。)p64:(SD01の)上面に18世紀後半から19世紀の陶磁器類が放棄されていた。	▼18世紀後半~19世紀。△現代。	19世紀以降。	
279	2608	佐山遺跡	B-1地区 SD05	SD05埋土	p45:(SD05は)調査区東部を南北に貫く溝である。pp46-47:Ⅲ層下半の出土遺物は13世紀中葉までに納まる。Ⅳ層(19層)は粗砂と礫からなる層で、粗砂の間に直径5cm程度以下の垂円礫を含んでおり、洪水などで一時期に堆積したものと思われる。p47:SD05が最初に掘削された時期については、Ⅴ層の出土遺物に11世紀後葉の遺物が目立つことから、この頃に遡る可能性が高い。また、いったん埋没する時期はⅣ層の出土遺物から13世紀前半と考えられ、機能を終える時期はⅢ層下半の遺物から13世紀中葉頃とみられる。	★13世紀前半。▼11世紀後葉。△13世紀中葉。	13世紀前半。	
288	2608	佐山遺跡	B-1地区 SD05	SD05埋土 第Ⅳ層	p63:(溝SD5は)調査区東部を南北に貫く溝である。(中略)埋土は5層に分けることができる。(中略)Ⅲ層の出土遺物は13世紀中葉までに納まる。Ⅳ層は粗砂と礫からなる層で、粗砂の間に直径5cm程度以下の垂円礫を含んでおり、洪水などで一時期に堆積したものと思われる。(中略)SD5は、当初に掘削されてから洪水によっていったん埋没したが、再び掘削され、(中略)一旦埋没する時期はⅣ層の出土遺物から13世紀前半と考えられ、(後略)	★13世紀前半。	13世紀前半。	279と同一のものとみなした。
295	2609	慈照寺(銀閣寺)旧境内	基本層序	6	p6:(1区の基本層序について)第6層 水成のシルト~極粗砂である。砂層はいずれもアルコーズ質で一連の地層に見えるが、土壌化部分や堆積状況の観察から、第6A~6L層の12層に細分できる。(中略)第6層は全体的に16世紀後半から17世紀前半にかけての地層である。p42:堤30は防御用土塁によく似た規模と形状だが、2度の改修を経て大型化した結果であり、1区西壁で観察できる当初の規模は極めて小さい。また、通常防御用土塁に付随する堀を持たない。(中略)堤30は、I期の段階から北側斜面に洪水砂のすりつきが見られること、改修のたびごとに規模を大きくしていること、最終的に数度にわたる洪水砂層である第6層で北側斜面が完全に埋没していること、堀30南側の慈照寺主要伽藍域に顕著な洪水砂を及ぼしていないこと、などから水防と砂防の機能を有した堤防であることが明らかである。(後略)	★16世紀後半~17世紀前半。	16世紀後半~17世紀前半。	1~3区の基本層序は互いに対応。
285	2610	下植野南遺跡	A地区 (1992年度調査)		p15:(古墳時代I期の)遺構面はSR395333を起源とする洪水性の堆積物によって短期間に埋没したため、遺構面の残りが比較的良好であった。p93:(6世紀について)A地区ではTK10・MT15型式の時期の遺構が上下で検出されているが、土器型式に顕著な差は認められない。(中略)下植野南遺跡は、古墳時代全般を通じて存在しているが、6世紀に最も住居跡の分布密度が高くなることからわかる。A地区の6世紀と考えられる遺構面を覆うSR395333を形成した洪水以後、A地区では住居が営まれなくなる。7世紀の住居域の変化と集落戸数の減少は、A地区での現象と関連するのかも知れない。	★6世紀。▼6世紀前葉~中葉(TK10・MT15)。○古墳後期。	6世紀(530年代(TK10)以降)。	

917	2611	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	河川	河川埋土9～12	p33:調査区内の北東部を蛇行しながら、北西から南東方向に延びる河川である。(中略)(埋土の基本層序うち)1～8層は洪水以後7世紀前半までの堆積層、9～12層は砂礫を主体とした6世紀前半の洪水による堆積層、13～25層は布留期から洪水までの堆積層である。p98:(古墳時代のうち)4期(p96:(3・4期は布留期の土器を伴う。))と5期(p96:(MT15～TK10型式の須恵器を伴う。))の間にも時間的空白が存在する。5期の堅穴住居は4棟と激減する。この時期に洪水がおこったと思われる。流路に沿って砂礫流がいつき流れ込んで、流路を大きく削り込んでいる。	★6世紀前半。▼布留期以降。△7世紀前半。MT15～TK10。	6世紀前半(MT15:530年代後半よりも前)。	MT15は500年代～530年代前半であり、530年代前半を洪水の下限とした。
298	2611	長岡京左京第293次	基本層序	4	p221:(第4層は)赤褐色砂礫層である。後述の第5層:長岡京期整地土層を刻んで堆積する。淘汰が悪い粗粒堆積物であり、層相から土石流堆積物と判断された。厚さは0.3mである。基質は壤土質である。トレンチ南半に分布している。上面では土坑状の掘り込み(SK29301)を確認した。p226:土石流の発生は長岡京期もしくはその直後頃と推察される。	★長岡京期もしくはその直後頃。▼長岡京期。	長岡京期～平安初期?	
299	2611	長岡京左京第370次		3	p172:(第3層は)灰色砂質シルト・シルト壤土(上部)～砂礫・4層系混じり(下部)。(中略)第3層は、下位の第4層の上に弱い下方侵食を伴って堆積する洪水性の薄層である。(中略)第3層及び第4a層上面では中世段階(14世紀前半下限)の素掘り溝群が検出された。p175:第3層及び第2c層下部に下部に伴う遺物の下限年代は、後述するようにおよそ14世紀前半代であり、(後略)	○14世紀前半。△14世紀前半。	14世紀前半。	
300	2611	長岡京左京第438次	基本層序	3b	p129:淡緑灰～潮黄褐色シルト質砂・砂礫(中略)近隣河川からの溢流氾濫製の堆積物に相当する。p159:遺跡の変遷過程を時系列的に整理すれば、(中略)Ⅰ期:湿田の農地利用段階(第4b層準:9世紀後半代以降)、Ⅱ期:乾田もしくは半乾田的「棚田」状小区画水田の構築・利用・埋没過程(第4a層準:10世紀前半～中葉の埋没年代観)、Ⅲ期:扇状地面(第3b層の溢流氾濫に伴って形成された微高地面)上における建物配置等が示す集落的土地利用段階(第3a層準・下部:10世紀前半～中葉上限)、Ⅳ期:農地利用への再転換段階(第3a層準・上部～第2層準:10世紀代以降13世紀代)。	▼10世紀前半～中葉。△10世紀前葉～中葉(上限)。	10世紀中葉。	
301	2611	長岡京左京第438次	基本層序	4a	p129:褐灰色砂質シルト～シルト質砂、(中略)弱い溢流に伴う葉理状の構造が一部で観察される。動水的条件下において形成された埋没条里水田土壌である。(直下の4b層では)9世紀後半代の土器資料が確認された。p159:遺跡の変遷過程を時系列的に整理すれば、(中略)Ⅰ期:湿田の農地利用段階(第4b層準:9世紀後半代以降)、Ⅱ期:乾田もしくは半乾田的「棚田」状小区画水田の構築・利用・埋没過程(第4a層準:10世紀前半～中葉の埋没年代観)、Ⅲ期:扇状地面(第3b層の溢流氾濫に伴って形成された微高地面)上における建物配置等が示す集落的土地利用段階(第3a層準・下部:10世紀前半～中葉上限)、Ⅳ期:農地利用への再転換段階(第3a層準・上部～第2層準:10世紀代以降13世紀代)。	★10世紀前半～中葉。	10世紀前葉～中葉。	
302	2611	長岡京左京第465次・474次	SD46511・46512・47420	SD46511・46512・47420埋土	p178:(SD46511・46512について)両溝とも埋土はシルト・砂～砂礫層の互層で構成され、動水的な条件下における埋没過程が確認された。後出の左京第474次検出の三条大路北側溝SD47420内部における堆積構造との比較、洪水堆積物に相当するものと推察される。p185:(SD47420の時期は長岡京期。)p196:(SD47420の)堆積面では小形のピットP01が検出された。長岡京期以降、中世以前の土地利用痕跡と位置付けうる。後述の包含層資料では、平安期Ⅱ期(9世紀中葉～10世紀前半)に属する土器類が確認されており、当該期の利用の可能性が示唆される。	▼長岡京期。△9世紀中葉～10世紀前半。	長岡京期～9世紀前半。	

303	2611	長岡京跡左京第308次	基本層序	5	p179:(第4層は)灰色系砂礫～シルトである。小畑川系の氾濫堆積物および土壌帯(上部:第3/4層界土壌化層,古墳時代中期下限か)である。調査地周辺の扇状地面を構成するとみられる。調査地北部が砂礫質(4b層),南半に向けシルト～シルト質砂層(4b・4a層)に移行する。層界面が東ないし南東に延びる。礫硬質の調査地北部が微高地状を呈す。本流から縁辺流路ないし湿地に移行する堆積相を示すと見られる。下位の埋没水田遺構を逆級化状に直接被覆する。庄内式～布留式土器片を極微量包含する。(第5層は)淡灰～緑灰色シルト,シルト質壤土である。埋没水田遺構面を構成する。層厚0.4m程度である。上部が土壌層と微弱な氾濫相を示す砂～砂礫の薄層の互層をなす。(後略)p226:(前略)(水田について)水田面に伴う資料(庄内式)からみて弥生時代後期頃に稲作を開始したと推測するが,耕作地維持の年限は不詳である。遺構遺存状況からみて,畦の水口が開け放たれ田面に稲株が残されるシーズンであろうか,大水が出る。本流位置は明らかにしがたいが古墳時代小畑川の氾濫である。シルト細かい砂を含む濁水が田面をシート状に覆う。さらに拳大の礫を伴う砂礫層が調査地北半部を覆っていく。洪水流が南東に向けて走る。小区画水田景観が終焉をむかえた。しかし埋没面には少なくとも古墳時代前期,布留式古相の段階に水田区画配列軸に沿うかのように水路状の施設SD30832が構築される。	★古墳。▼庄内～布留(古)。○庄内～布留。△古墳中期。	古墳前期(布留)。
284	2612	西ノ口遺跡	北半部	3	pp90-91:(1953年の水害)についてこの災害時の災害記念塔が,当調査地の東方約120mのところに位置しており,現在は水田に囲まれた綺原神社跡地に建てられている。この碑文には「昭和二十八年八月十五日の未明南山城地方を襲った未曾有の大豪雨により天神川・不動川の堤防は崩壊し,田畑は砂礫泥濘棒の惨たる荒原と化す。同年十月これが復旧に立ち,住民不屈の協力により,同三十四年五月工事全く成る。同年八月十五日これを立つ。耕地二七八反。水路七〇九五米。道路三二四七米。」とあり,碑文の上に「ないと思ふな不時災難」と横書きされている(参考「山城町史編さん委員会『山城町史』本文編,1987年)。p91::昭和28年の水害による洪水層は北半部で見られたものの,調査地南部までは及んでおらず明確には確認できなかった。	★1953年8月14・15日。	1953年8月14・15日。
307	2613	平等院境内	防災施設工事に伴う調査の北部調査地区	にぶい 橙 色 砂 層	p97:今回の土層観察からは,かつては北に向けて傾斜する地形であったことが分かった。当地区の土層は全体的にみて単純堆積であり,上層から順に説明していくことにする。土層は,各地点とも現地表面下に近代盛土である約50cmの褐灰色砂質土,その下に約40cmのにぶい橙色砂層が堆積している。にぶい橙色砂層は近世末頃の河川氾濫層であるとみられる。	★近世末ごろ。△近代。	近世末期。
283	2614	福知山城跡	整地層1・2間	pp62-63:(前略)2層の整地層の間には,洪水などによるものとみられる厚さ15～20cmの暗青灰色粘質土が堆積しており,その中から18世紀後半～末頃の遺物が出土した。このことから,整地層1は18世紀末頃以後,整地層2は18世紀末頃以前のもと考えられる。p66:整地層1は,上記のとおり18世紀末頃の洪水堆積層とみられる層の上に盛土されており,それ以後の盛土とみられる。(後略)	★18世紀末。○18世紀後半～末。	18世紀末葉。	
282	2615	古屋敷遺跡	旧河川SR01	p60:調査地東端では,河川堆積に伴う濁淡灰黄色極細砂などの詰まった旧河川SR01が検出された。東側の木津川の氾濫による堆積であろう。17世紀に形成されたものである。	★17世紀。	17世紀。	
289	2616	平安京右京三条二坊十六町第3次	2区西端	耕作土Ⅱ下	p19:(耕作土Ⅱの時期は江戸時代。)p20:2区西端では,耕作土層Ⅱの下層で流路もしくは氾濫を示すと考えられる灰黄褐色から黒褐色を呈する礫混じりの砂泥層が堆積し,18世紀～19世紀前半代の陶磁器類が出土した。8区の西半部でも氾濫を示すと考えられる土層を検出している。	○18世紀～19世紀前半。△江戸。	江戸(19世紀前半以降)?
290	2617	平安京左京北辺四坊	W区・X区	洪水層Ⅰ	p35:洪水層ⅠはW区,X区などで確認されている水成砂礫層で,層厚0.05～0.1mある。(中略)18世紀中頃～後半の洪水層である。(中略)洪水層の分布が調査区南半に集中するのは,この地域が地層の残存状態が良好であることに加え,北半に比べ,鴨川氾濫原に近い低地であり,水害による被害を受けやすかったことによるであろう。また,いずれの洪水層も砂礫からなることは,山地の土砂崩れによる比重の高い泥流による被害であったことを伺わせる。	★18世紀中頃～後半。	18世紀中葉～後葉。

291	2617	平安京左京北 辺四坊	T区・W 区	洪水 層Ⅱ	p35:洪水層Ⅱは調査区南半のT区、W区などで確認されている水成砂礫層で、層厚0.1m以下である。(中略)17世紀後半～18世紀前半の洪水層である。中略)洪水層の分布が調査区南半に集中するのは、この地域が地層の残存状態が良好であることに加え、北半に比べ、鴨川氾濫原に近い低地であり、水害による被害を受けやすかったことによるであろう。また、いずれの洪水層も砂礫からなることは、山地の土砂崩れによる比重の高い泥流による被害であったことを伺わせる。	★17世紀後半～18世紀前半。	17世紀後半～18世紀前半。	
292	2617	平安京左京北 辺四坊	S区	洪水 層Ⅲ	p35:洪水層Ⅲは調査区南半のS区のみで確認されている水成砂礫層で、層厚0.2m以下である。(中略)17世紀中頃の洪水層である。中略)洪水層の分布が調査区南半に集中するのは、この地域が地層の残存状態が良好であることに加え、北半に比べ、鴨川氾濫原に近い低地であり、水害による被害を受けやすかったことによるであろう。また、いずれの洪水層も砂礫からなることは、山地の土砂崩れによる比重の高い泥流による被害であったことを伺わせる。	★17世紀中葉	17世紀中葉	
293	2617	平安京左京北 辺四坊	S区・T 区・U 区・W 区	洪水 層Ⅳ	p35:洪水層ⅣはS区、T区、U区、W区で確認できる水成砂礫層で、層厚0.6m以上に及ぶ部分がある。17世紀前半の洪水層であろう。中略)洪水層の分布が調査区南半に集中するのは、この地域が地層の残存状態が良好であることに加え、北半に比べ、鴨川氾濫原に近い低地であり、水害による被害を受けやすかったことによるであろう。また、いずれの洪水層も砂礫からなることは、山地の土砂崩れによる比重の高い泥流による被害であったことを伺わせる。	★17世紀前半。	17世紀前半。	
294	2617	平安京左京六 条三坊五町跡	轍	轍覆 土	p17:(楊梅小路路面は)全域で東西にわたり検出した。路面形成層は厚さ0.6～0.95mあり、厚い箇所では10数層、平均で8層程度重なっている。下から2層目の上面で、轍の痕跡を検出した。轍の上部には砂礫層が覆う。(中略)(轍とみられる窪み)上には洪水起源とみられる粗砂が覆う。轍はこの粗砂・礫に覆われたため、保存された。土坑3300は(轍を覆う粗砂・礫)を掘り込み、(中略)(この上にも路面を挟んでさらに粗砂・礫が堆積。)(中略)轍を覆う粗砂・礫は、11世紀代の遺物に混じって12世紀代の遺物も含まれる。p18:(土坑3300からは)11世紀代の遺物が出土した。	○11世紀～12世紀。△11世紀。	11世紀～12世紀?	
342	2701	有池遺跡	03-1-4 調査区		p70:生産域では近世の耕土・床土とその下層の近世初頭の洪水砂層を除去した段階で、中世の水田面を検出した。	★近世初頭。	近世初め。	
343	2701	有池遺跡	03-2-3 8 調査区 の2流 路		p429:(2流路は)南辺に沿って約22mにわたり北肩部を検出した。(中略)上層(2～12層は)ほぼ水平堆積であり、12世紀末～13世紀初頭前後の耕土とみられ、1調査区でみられた成果同様、南側へ向かって下降する谷を棚田として利用したものと考えられる(中略)2～12層のうち、8層は砂層で洪水砂とみられ、10層はブロック土で整地層、12層は青灰色シルト層で床土とみられる他は、灰色粘土を主体とする耕土層が連続する。11層までは陶器片が目立ち、12世紀末～13世紀初頭頃の遺物が主体であるが、12層では11世紀末～12世紀前半の瓦器類が混在する。	★12世紀末～13世紀初頭。○12世紀末～13世紀初頭。	12世紀末葉～13世紀初め。	
349	2702	池島・福万寺 遺跡Ⅰ期地区 (総括)	池島Ⅰ 期地区 基本層 序	1b	p20:第1b層は氾濫堆積層である。後述する第2-1m面の上部の層で、ほぼ調査区全域にわたって恩智川方向よりの氾濫堆積物で構成されている。文献資料との対比などから、享和2年(1802年)の北河内一帯を襲った大洪水が最も有力な候補とされている。	★1802年。	1802年。	(参考:門真町史 編纂委員会(1962: 776))
353	2702	池島・福万寺 遺跡Ⅱ期地区 03-1調査区		1b	p12:第1b層は最下部がシルトで上方粗粒化する自然堆積層である。1802年の洪水砂とする意見がある。	★1802年。	1802年。	349と同一のもの とみなした。
354	2702	池島・福万寺 遺跡Ⅱ期地区 03-1調査区		3b	p12:第3層は15世紀後半から16世紀までの層である。起源となる第3b層は調査区北・西部にのみ残存していた。p13:第3b層は上方粗粒化し、下部がシルトから細砂、上部は中砂から礫となる。第3b層は島島の芯にのみ残っている。	★15世紀後半～16世紀。△15世紀後半～16世紀。	15世紀後半～16世紀。	
363	2702	池島・福万寺 遺跡Ⅱ期地区 05-1調査区		1-2	p9:(第1-2層は)池島第1b層に相当する水成層で、調査地北部の島島間の凹部を埋積する。最下部に灰色シルトが薄く堆積し、その上を灰白色細粒砂～中粒砂が覆っている。層厚は最大で40cmあり、上方に粗粒化する。18世紀後半～19世紀初頭の陶磁器を包含しており、池島第1b層が享和2(1802)年の大洪水に比定されていることと矛盾しない。	★1802年。 ○18世紀後半～19世紀初頭。	1802年。	349と同一のもの とみなした。

364	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区		1b	p12:(第1b層は)極粗粒砂～中粒砂を主体とする砂質礫層である。調査区の全域に分布しており、江浦洋は福万寺地区の調査において、第1b層を1802年(享和二年)の洪水によって堆積した氾濫堆積物とする見解を示す。	★1802年。	1802年。	349と同一のものとみなした。
919	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区		1-1b	p12:第1層は3層に細分した。近世から近代の耕作土層である。第1-1層は浅黄色細砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.14mである。起源となる第1-1b層は細砂から粗砂の水成堆積層で調査区中央部でのみ確認できた。第1-2層はにぶい黄橙色細砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.12mである。起源となるのは厚い第1-3b層であるが、この層の直上は、攪乱の弱い灰白色極細砂から中砂の層があり第1-3層とした。いわゆる1b土坑の埋土も含み、層厚0.12-0.56mである。第1-3b層は灰白色シルトから中砂の水成堆積層で、最下部がシルトで上方粗粒化し、層厚0.05～0.56mである。1802年に堆積したと考えられるいわゆる1b層である。	★近世～近代。▼1802年。	近世～近代(1802年以降)。	
920	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区		1-3b	同上。	★1802年。	1802年。	349と同一のものとみなした。
921	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1・06-2調査区		1b	p10:[第1層]近・現代の作土層で、下部の第1b層を攪拌したオリーブ褐色2.5Y4/3の粗砂を含む砂質シルトのa層と、色調が部分により異なる橙色5YR6/8～黄褐色10YR7/8の極細砂～極粗砂からなるb層である。遺跡全域で確認されるが、部分により層厚は異なり、厚いところではb層が50cmを超える。	★近代～現代。	近代～現代。	
310	2703	池田西遺跡	基本層2序		p6:(2層について)T.P.2.0mからT.P.2.5mまでの灰色粘土を厚く覆う灰白色粗砂～砂礫層③は近世後期以降の洪水堆積である。遺物をほとんど含まない。p10:(第Ⅰ以降面について)この遺構を覆う洪水砂は遺物をほとんど含んでいないため、洪水の時期を特定できないが、砂層が厚く均質であること、遺物や植物遺体もほとんど含まれていないことから淀川の決壊箇所にかわめて近いと考えられる。淀川の洪水では大阪市内まで冠水した。新淀川を開削する契機となった1885年(明治18年)の洪水が考えられるが、この時の最大の決壊箇所は、枚方市の三矢で、調査地からは6km近く離れている。調査地に近い箇所の洪水としては、1802年(享和2年)の仁和寺・点野切がある。決壊箇所が調査地のほぼ北で1km程度しか離れていない。洪水砂の状況から享和の洪水と考えている。	★1802年?	1802年。	
344	2704	上の山遺跡	7区・8区	7	p25:7・8区は、本遺跡が立地する中位段丘と茄子作遺跡が立地する中位段丘の間を解析して形成された、東西幅約100mの開析谷内にあたる。p31:第28層は黄灰色シルト(粗砂・細砂混じり)の弱い土壌化層で、調査区北半部にのみ残る。当該層の直上には第27層灰白色極粗砂の洪水砂が堆積しており、上面には踏み込みが多くみられる。当該層の時期は出土遺物などから、16世紀後半と考えられる。層厚は約0.1mを測る。7層として遺物を取り上げた。	★16世紀後半。	16世紀後半。	
345	2704	上の山遺跡	7区・8区	8	p31:(8層洪水砂について)当該層は平安時代の洪水砂で、下層の平安時代水田面を覆うものである。第46層の灰白色極粗砂～極細砂を中心に第43～49層が重複的に累積する。洪水砂は平安時代水田面の標高が低い調査区北側では厚く堆積し、標高の高い南側では薄くなる傾向がある。また、中位段丘裾部にあたる調査区東側には洪水砂の堆積はおよばない。層厚は0.2～0.8mを測るが、7・8区境の西寄り付近では最も厚く堆積し、調査区北側は0.1mと薄くなる。このことは、調査区の西側をはする小河川が調査区外の南西部あたりで破壊した結果、洪水砂がもたらされたものと考えられる。pp31-32:(平安時代の水田耕作土層について)水田面の時期は10世紀後半～11世紀前半に比定される。耕作土層を9層、洪水砂層を10層として遺物の取り上げを行った。	★平安。▼10世紀後半～11世紀前半。	11世紀～12世紀?	
389	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次		8a下	p8:(第8a層について)下部は細礫～中粒砂からなる氾濫堆積層で、斜交フミナが観察される。(中略)(第8層について)本層からは飛鳥Ⅱに属する土師器や、MT85型式～TK217型式を中心とする須恵器のほか、木製品・刀子・動物遺体などが出土した。p13(表1):(NG6A層に相当。)	○MT85～TK217。飛鳥Ⅱ。	7世紀末葉。	趙(2001):NG6A層は7世紀末葉。
390	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次		8b	p8:(第8b層は)褐灰色ないし黄灰色の細礫～シルトからなる氾濫堆積層で、層厚は5～30cm(平均15cm)で、(中略)本層からTK10型式～TK43型式を中心とする須恵器のほか、土師器・円筒埴輪・木製品・動物遺体などが出土した。p13(表1):(NG7A層に相当。)	○TK10～TK43。	6世紀末葉～7世紀。	趙(2001):NG7A層は上限が6世紀末～7世紀初頭、下限が7世紀後半。

391	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	8c i	p9:(第8c i 層は)西壁と北壁の角部付近ではさらに上・中・下部に細分される。(中略)(中部は)きわめて局所的な分布を示す粗粒の氾濫堆積層である。(中略)第8c i 層からはTK47型式~TK10型式を中心とする須恵器が出土した。p13(表1):(NG7B i ~ ii 層に相当。)	○TK47~TK10。	5世紀末葉~6世紀中葉。	趙(2001):NG7B i 層は5世紀末~6世紀中頃, NG7B ii 層は5世紀後半。
392	2705	瓜破遺跡西地区00-11-01-17次	1 i 上	p9(表1):(最上位に1998年の洪水による堆積物がのる。)	★1998年。	1998年。	報告書にイベントのあった月日は明記されていない。国土交通省の水文水質データベースによると、遺跡の下流にあたる堺市遠里小野の水位観測所では6月20日午前3時と22日午前3時をピークに水位が通常より2.5m程度上昇している。これに前後する6月19~22日にはアメダス観測点の堺で144mmの降水が記録されていることから、洪水はこの時の大雨に対応するとみられる。
393	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	11a	p10:(第11層は)砂礫の氾濫堆積層とこれに挟在する粘土層である。(中略)第11a層はラミナが発達した砂礫層であるが、(中略)下部層の基底付近で多量の加工木とともに7世紀前半の須恵器が出土したことから飛鳥時代に位置づけられる。UR00-8次調査の第8a層は洪水層ではないが、下部層に対比される。p11:(第11b層の)上部層はTK43型式の須恵器を下限とし、UR00-8次の第8b層に対比される。中・下部層は同じく第8c層に対比される。	★7世紀前半。▼TK43。	7世紀前半。	
394	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	11b上	p10:(第11層は)砂礫の氾濫堆積層とこれに挟在する粘土層である。(中略)第11a層はラミナが発達した砂礫層であるが、(中略)下部層の基底付近で多量の加工木とともに7世紀前半の須恵器が出土したことから飛鳥時代に位置づけられる。UR00-8次調査の第8a層は洪水層ではないが、下部層に対比される。p11:(第11b層の)上部層はTK43型式の須恵器を下限とし、UR00-8次の第8b層に対比される。中・下部層は同じく第8c層に対比される。	★7世紀前半。△TK43。	6世紀末葉~7世紀前半。	
395	2706	瓜破北遺跡04-1・2・3次	3B	p11:(第3・4層は)西区では、SD301・401~403からオーバーフローした氾濫堆積物が比較的厚く供給され、2層に大別することができた。さらに各層は、氾濫堆積物である第3B・4B層と、およびそれぞれを耕起した第3A・4A層に細分することができる。(p13(表3):3B層は長原4A層, 4B層は長原4C層に対応。)	★14世紀初頭(NG4A)。	14世紀初め。	趙(2001):NG4A層は14世紀初頭。
396	2706	瓜破北遺跡04-1・2・3次	4B	p11:(第3・4層は)西区では、SD301・401~403からオーバーフローした氾濫堆積物が比較的厚く供給され、2層に大別することができた。さらに各層は、氾濫堆積物である第3B・4B層と、およびそれぞれを耕起した第3A・4A層に細分することができる。(p13(表3):3B層は長原4A層, 4B層は長原4C層に対応。)	(★長原4C層に対応。)	9世紀~10世紀?	趙(2001):NG4B iii 層は10世紀~12世紀後半が主たる形成時期, NG5A層は8世紀後半~9世紀初頭に相当。
387	2707	大坂城下町跡		[趙哲済「大坂城下町跡の自然地理的背景について」pp347-350]p349:鎌倉時代には、汀線は遺跡地からはかなり後退していたとみられる。満潮時、海水は道修町の入り江までは侵入することができたが、沿岸トラフには届かなかったようで、トラフの淡水には泥層が堆積している。(中略)大川はこの時期にもしばしば氾濫し、左岸の州を嵩上げし成長させるとともに、一部は州を乗り越えて入り江にも砂層を堆積した。	★鎌倉	鎌倉。	

316	2708	男里遺跡		IV	pp3-4: III層の年代は、出土した土器から、7世紀後半から8世紀初頭のものと考えられる。(IV層は) III層と同じ河道2の埋土である。灰褐色から青灰色の砂礫からなり、上層の埋土とは異なり、その殆どが砂礫で構成されていることから、急激な流れによって形成されたものと考えられる。また、その堆積状況は一樣ではなく、調査区内の地点によって若干異なることから、複数の流れにより形成されたものと見ることができ。III層と同じく多量の土器、木製品が出土しており、その年代は出土した土器からおおよそ7世紀代のものと考えられる。p9: (前略) (河道2は) ある程度の急激な流れ、たとえば氾濫などにより形成されたと考えられる。この下層からは、7世紀代を中心とした遺物が出土した。	★7世紀。△7世紀後半～8世紀初頭。	7世紀。	
397	2709	遠里小野遺跡		6	p12: 明治元年の大和川決壊によるものである可能性がある。p13: 黄褐色中礫質粗粒砂からなる洪水砂層で、層厚は最大150cmで、人頭大～直径1m以上の大きな偽礫を含む。	★1868年間4月13日。	1866年。	
339	2710	勝部遺跡	4地点	2-2	p11: 第2-2層は砂、シルトを主体とした堆積層で、第2面で検出した流路1、流路2を埋没させる砂礫～シルトと連続する。[森本徹「調査のまとめ」pp211-214] p211: 今回の調査範囲に限れば縄文時代を含め、第2面までの土地利用も活発であったとはいいたい。第2面において水田としての土地利用がみられるわけであるが、これも廃絶は弥生時代後期末～古墳時代初頭という時期であり、(中略)活発な堆積環境の中で耕地の拡大が進行する状況がみられなかったと推測する。弥生時代末～古墳時代初頭の洪水により第2面は廃絶し、第1面が形成される。(後略)	★弥生末～古墳初頭。	弥生後期末葉～古墳前期初め。	
382	2711	加美遺跡	基本層序	4A	p19: (加美4A層は) 砂・礫を主体とし、シルト質細粒砂層、細粒砂質シルト～シルト層を挟み、顕著なトラフ型斜交ラミナが見られる河川の埋積層である。最大層厚部は河道内にあり140～300cmである。本層が埋積した河道は遺跡北・中部にあって、ほぼ南南東から北北西へ流下する。平城宮Ⅲ～Ⅴに属する土師器や須恵器のほか、人面墨書土器、絵馬、大量の木製品、鉄製品、牛や馬の骨などが包含される。また、南縁部でも河道および河道から氾濫した砂～砂質シルト層が分布する。	○平城宮Ⅲ～Ⅳ。	平城宮Ⅲ～Ⅳ(8世紀中葉～後葉)?	
383	2711	加美遺跡	基本層序	6A ii	p22: (加美6A ii層は) 灰褐色ないし灰色を呈する粘土質ないし砂質シルトと砂層からなる河川の氾濫堆積層である。遺跡北部を模式地とし、平均層厚は30cm、最大層厚90cmである。下位の加美6A iii層を覆って中・南部に広く分布する。布留式土器、庄内式土器が包含される。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、加美9A層の直上の8B層から畿内第Ⅰ～Ⅱ様式の弥生土器が出土していることにより、9A層が弥生時代中期初頭以前でこれより大きく遡らない時期、加美8A i・iii層が弥生時代中期、加美7A i・iii層が弥生時代後期前半、加美6A iii層が弥生時代後期後半、加美6A i層が古墳時代前期と考えている。従って、加美9A層は長原9A層に、加美8A i・iii層は長原8B層に、加美7A iii～6A i層の暗色帯は長原7B iii層にそれぞれ対比されると考えられる。	▼弥生後期後半。○庄内・布留。△古墳前期。	古墳前期(布留)。	
384	2711	加美遺跡	基本層序	7A ii	p23: (加美7A ii層は) 灰色ないし灰褐色を呈する粘土～シルトないし砂で、氾濫堆積層と考えられる。層厚は10cm以下である。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、加美9A層の直上の8B層から畿内第Ⅰ～Ⅱ様式の弥生土器が出土していることにより、9A層が弥生時代中期初頭以前でこれより大きく遡らない時期、加美8A i・iii層が弥生時代中期、加美7A i・iii層が弥生時代後期前半、加美6A iii層が弥生時代後期後半、加美6A i層が古墳時代前期と考えている。従って、加美9A層は長原9A層に、加美8A i・iii層は長原8B層に、加美7A iii～6A i層の暗色帯は長原7B iii層にそれぞれ対比されると考えられる。	★弥生後期前半。▼弥生中期。△弥生後期前半。	弥生後期前半。	
351	2712	上私部遺跡05-1区	2区の地点①など		p10: 最も西の地点①では、近・現代耕作土層の下層にはラミナが発達した洪水砂層(にぶい黄褐色粗粒砂)が厚く堆積しており、層内から17世紀後半から18世紀初めと考えられる唐津椀底部や肥前系磁器の網目文碗片が出土している。この洪水砂層は地点②・③だけでなく7区にも広がっており、近世初頭にこの地域で耕作面を覆い尽くす山津波があったことを示している。先述した元禄4年の大雨との関連を示唆する興味深い層である。	★近世初頭(1691年?)。○17世紀後半～18世紀初頭。	17世紀後半～18世紀初め。	元禄4年は1691年。

385	2713	亀井北遺跡 01-2次・02-1次・03-1次		4	p9: (01-2次調査区の第4層は) 東区・西区東部で確認した自然流路, およびその周囲にあふれ出した氾濫性堆積層である。灰色砂礫を主体とし, 第5層起源の偽礫を多く含む。p9(表5): (層厚50cm以上。亀井北4層, (p6(表3): (加美3~4A層, 長原4~5層に対応する。))p13: 第4層の年代は11世紀代と判断できる。p17: (02-1次調査区の第4層は) 調査区の北部に分布する水成層で, (後略)。p17(表6): (灰色シルト質中粒砂~中粒砂。層厚20cm以上。氾濫性堆積層。亀井北4層に相当。)p21(表7): (03-1次調査区の第4層・第5層は亀井北4~6層に相当。)	★11世紀。	11世紀。	
386	2713	亀井北遺跡 01-2次・02-1次・03-1次		6	p17: (02-1次調査区の第6層は) 上方に向かって細粒化する水成層で, (中略)第6層はおそらく, 周辺調査で確認されている古墳時代中~後期前半の生活面を覆う一連の氾濫堆積層(=亀井北6層)と考えられる。p27: (前略)亀井北(その2)調査では, 河成層の上から幅が約7.0~8.0m, 深さが約0.3~0.5mの弧を描くSD01と, 幅が約4.6~4.8m, 深さが約0.3~0.4mの直線的に延びるSD02が検出され, 埋土からは図25-Aで提示したTK209型式に比定できる須恵器の杯やはそのうが出土している。今回の調査では, II区について河成層の上で作土と畦畔SR501・502を確認し, SR501の脇からは飛鳥IIに相当する土師器の杯C67がほぼ形を保った状態で出土した。これまで, NR4401による洪水砂が1帯を覆ってから, 調査地近辺で再び開発が進むのは奈良時代以降という考えもあった。しかし, 亀井北(その2)や今回の結果を見るかぎり, ほどなく生産域として再利用されていたと思われる。実際, 当該期の地層(I・II区の第5層)は, 中世以降の耕作や平安時代中期の洪水砂で削られて残存しないところも多くみられたことから, 本来の遺構面が失われた可能性が高いのではないだろうか。	★古墳後期。▼古墳中期~後期前半。○TK209。△飛鳥II。	TK209~飛鳥II期(600~660年)?	参考:奥和之・山上弘編, 1986『亀井北(その2)』(財)大阪文化財センター pp.38-42, 150-152など。
308	2714	萱振遺跡第1次	基本層序	7	p15: (第7層は)「黄灰色シルト」庄内期の遺構面を形成する層で調査区全域に堆積するが, 無遺物層である。上面の水準高は4.6~5.0m, 層厚10~20cm。p53: NR3002AはD区で検出した南北方向の大規模な自然流路, NR3002BはA, B, D区にかけて検出したNR3002Aから分流する南東から北西方向の自然流路である。(中略)NR3002Bは幅約15m, 深さ4~5mで, 弥生時代後期の遺構面を押し流すように流れている。埋土はほとんどが淘汰の良い粗砂で, 最上層のみがシルトまたは粘質土になる。埋土からは弥生時代中・後期から古墳時代初頭の完形品を含む少量の土器が出土した。NR3002A・Bが完全に埋没したのち第7層が堆積し, その上面が庄内期の遺構面になっていくことから, これらの自然流路は弥生時代後期後半以降, 終末, あるいは古墳時代のくははじめごろまできわめて短い期間にのみ流れていたもので, これほど大規模な河川としては驚くほど短命なものである。	▼弥生後期末葉(庄内)。△弥生後期末葉(庄内)。	庄内期。	
400	2715	鬼虎川遺跡第38次			p12: (14世紀について)耕作土層直下で耕作地のベースメントをなす室町時代泥層は調査区全体に分布していたと考えられるが, その下位の砂礫層はおもに調査区中央部を南東→北西方向にのび, 帯状に分布していた。(中略)河川本流からの逸流が一時的に通過していた時期に, 堆積したものと考えられる。	★14世紀。	14世紀。	
346	2716	久宝寺遺跡竜華地区	02-1調査区基本層序	5-2b	p30: (第5層は)場所によっては層厚1.0m以上に達する基盤層と, 2から5層に分化する土壌化層から構成される。(後略)p157: 下面では, 調査区内における明確な水田遺構はみられなかったものの, 高まりや微高地上の水路の存在, イネ花粉や植物珪酸体の分析等により, 当地を含む近隣地域での水田耕作を想定するに至った。しかし, 弥生時代後期後半頃に発生した大規模な洪水により, 調査区全域が厚い氾濫堆積物に覆われることとなり, 当地周辺の地形環境は大きく変化した。(後略)	★弥生後期後半。	弥生後期後半。	

347	2716	久宝寺遺跡竜華地区	02-1調査区基本層序	4-2b	p33:(第4層は)灰色の細砂混シルトを基調とし、T.P.+6.0m付近にて検出した。自然堆積層と土壌化層の組み合わせが上下に重なっており、いずれの土壌化層も上面に水田遺構を検出することから、氾濫後に耕地化されていたことが明らかである。(後略) p492:第5面では、古墳時代初頭頃の墳墓の築造を前後する遺構面の変遷を明らかにしたが、それらは弥生時代後期に発生した洪水の収束を契機としたものであった。第4面は、下面において遺構面に変化をもたらした流路が、再び発生した氾濫によって埋没し、同時に周辺一帯を襲った土砂が形成した新たな地形を基盤とする遺構面である。この氾濫は古墳時代前期前半頃に発生したと考えられ、本遺構面も自然現象を契機に再形成されたことが明らかである。しかし、第5面と比較しても、基本的な土地利用の状況に違いは認められず、土砂の堆積による地形の平坦化に伴い、耕地の拡大が進むようである。第4面の基盤となった第4-2b層は、調査区東半の下面における低地部と調査区西部一帯に厚く堆積しており、第5面において墳墓が盛んに築造された中央部付近では、周溝等を除くとほとんど検出されなかった。(後略) p495:(第4-2面の堤について)出土土器の全体的な様相としては、布留式期中段階に比定する。	★古墳前期前半(庄内期を含む)。▼古墳初頭(庄内期を含む)。△布留中段階。	古墳前期前半(庄内期を含む)。
348	2716	久宝寺遺跡竜華地区	02-1調査区基本層序	3-3b	p33:(第3層は)灰白色の中粗砂を主体とする自然堆積層とその土壌化層であり、T.P.+6.4m前後において検出した。p519:第4面では、墳墓の築造を停止した後に発生した氾濫を契機とし、本調査区一帯を水田域へと変化させた状況が明らかとなった。しかし、古墳時代中期頃に新たな氾濫が発生し、調査区内全体は再び土砂の下に埋没することになる。この氾濫堆積物を基盤として形成された遺構面が第3面であり、下面までの状況とは一変した景観となる。(中略)(第3遺構面について)本遺構面を形成する第3層は、場所によって異なる段階の基盤層となる氾濫堆積物を検出し、これらを間層として最大3つの細分が可能な土壌化層によって構成される。(中略)第3-3b層は、調査区東半の低所を中心に厚く堆積しており、西に向かって次第に薄くなる様子が看取される。(中略)第3-2b層と第3-1b層については、調査区内の局所に検出されたのみであり、上記の層のような氾濫堆積物の供給源も確認できなかった。各段階においては、本調査区内は安定した環境にあったことがわかっており、調査区外で発生した氾濫の影響を受けたものと推測する。	★古墳中期。	古墳中期。
904	2717	蔵人遺跡第17次		第11面直上	p43:(第11面について)B区内に設定した確認グリッドにおいて、畦畔1条を検出した。調査範囲内は、水田面と考えられる。遺構面の標高は概ねT.P.+1.8mとなる。[水田畦畔]SN2は東西方向に走向し、上幅20cm前後×下幅40cm前後、高さ6cmを測る。畦畔盛土内からは遺物の出土は見られなかった。ただし覆土層中からTK43型式の須恵器杯身、ベース層中から弥生時代後期後半の弥生土器壺などが少量出土している。当遺構面は、遅くとも古墳時代後期(6世紀後半)頃に埋没したのであろう。p61:第11面SN2は、発掘調査範囲が僅か3m四方での検出であるが、この範囲で見える限りやはり東西方向を意識している。年代を示す良好な出土状態の遺物が少ないが、古墳時代後期(6世紀代)頃には洪水で埋没したとみられるので、その直前ないしはそれ以前の所産と考えられる。	★古墳後期(6世紀後半)。△TK43、奈良~平安初頭(8~9世紀)(第10面ベース層)。	6世紀後半。
369	2718	上津島遺跡第5次	基本層序	7	p14:(第7層は)第8層上面を覆うように堆積する厚さ15cm以下の暗緑灰色粘土層である。この層は調査区南側の流路付近で最も厚く、地形的に低い調査区南半部を中心に広がりをもつ。有機質の土質と堆積状況から見る限り、古墳時代集落の廃絶後、猪名川主流路の移動もしくは周辺地形の変化に伴い、当地点付近は一定の滞水を伴う湿地状の環境に変化したものと推定される。(中略)なお第7層には古墳時代中期以外の遺物を全く含まないことから、古墳中期集落の廃絶から第7層の堆積までは、比較的短期間のことであったとみなされる。	▼古墳中期。○古墳中期。	古墳中期。

324	2719	小阪遺跡	河川5		p213:河川5はF地区の中央部を北東から南西方向に貫流してE地区に至っている。(中略)遺物からは、形成時期を確定することができなかった。しかし、河川5の埋没直後、その上部に後述する溝24が形成されている。このことから、溝24の遺物から推定される時期、すなわち布留期の前半代以前に河川5が流れていたことが類推される。換言すれば、河川5の形成時期は古墳時代の初頭に求められるということである。(中略)河川5は比較的短期間に、15Fトレンチに破堤堆積物を供給して自らの流れを止める。	★古墳初頭(庄内期を含む)。	古墳前期前葉。	
325	2719	小阪遺跡	I地区水田		p430:(I地区水田は)完新世段丘面で検出された水田で、東→西に流れる河川8の両岸に広がる。p432:河川8は、埋没最終段階で両岸に溢流し、水田面を砂層で覆ってしまうが、この時期が河川内の出土遺物から8世紀末頃と想定されている。(中略)この水田は、河川8が両岸への浸食作用を強めたため、その都度畦畔を修正しながら耕作が継続されたが、8世紀末の大洪水で砂に埋没したために放棄されたであろう。(後略)	★8世紀末。	8世紀末葉。	
340	2720	讃良郡条里遺跡03-3区	基本層序	4-2b	p14:第4-2b層は5区と4区の北部では細砂～粗砂で細礫が混じる淘汰の悪い土石流堆積である。時期を示す遺物は出土していないが、第4-2a層は讃良郡条里遺跡03-1調査の古墳時代初頭の層準と同じと考えられるため、この時期を想定している。	★古墳初頭。	古墳前期初め。	
357	2720	讃良郡条里遺跡03-1区	基本層序	4-1b	p41:第4-1b層の堆積時期に関しては、後述する第4-2a層上面の溝・流路出土土器も合わせて考えると、古墳時代前期と考えられる。(中略)第4-1b層や第3b層は、668流路から供給された砂である可能性がきわめて高い。p45:(第4-2a層上面の)489溝は3区北端で検出された。(中略)この溝はトラフ型斜交層理のみられる砂で埋没していたが、この砂は第4-1b層に含まれるのである。この溝は讃良郡条里遺跡(その3)の「溝23・24」、小路遺跡(その2)の「27溝」に連続するもので、200m以上にわたって直線的にのびていることが判明した。(中略)今回はこの溝から遺物は出土しなかったが、小路遺跡(その2)では庄内式新段階～布留式古段階に属する土器が出土しており、古墳時代初頭のものとする。p47:第4-2a層上面段階の流路が埋没したのは、古墳時代前期後半頃であった可能性が高い。	★古墳前期。▼古墳前期後半。	古墳前期後半。	
365	2720	讃良郡条里遺跡03-4調査区		1b	p18:(第1b層(近代)について)調査地の東端と西端で厚い砂礫の堆積が見られる。特に調査地東側の6区においては、第2a面上において、第1b層による著しい浸食痕跡が確認された。この浸食はその中心地の東側では検出されず、第1b層の供給が中心地の南西側に向けて広がっていることから、讃良川が6区北側地点で破堤した可能性が高いことを物語る。	★近代。	近代。	
309	2721	志紀遺跡第6次		(15)	p7:(第5a層(13～14)について)志紀遺跡では、この層で6世紀後半の水田域が広範囲で検出され、上層のシルトでバックされているため、その残存状態も極めて良好である。p10:(第5b層(16～19))は緑灰色、暗緑灰色シルト質粘土。本層の上面は踏み荒らされており、洪水砂(15)で覆われ、面が存在したと思われる。(中略)(第5c層について)上面は第3遺構面(5世紀後半)のベースとなる。	▼5世紀後半。△6世紀後半。	5世紀後半～6世紀後半?	『長原遺跡調査報告書Ⅲ』1983年(財)大阪市文化財協会も参照。
312	2721	志紀遺跡第5次	基本層序	22～25	p4:(第22～25層は)志紀遺跡の広範囲で検出できる粗砂、砂、微砂、シルトで構成される厚い洪水層である。本層中には弥生時代から奈良時代前半程度の遺物を含んでおり、後者の時期の洪水層と考えられる。なお、この層をはさんで上部は条里地割に沿った水田、畑等、下部は自然地形に沿った弥生～古墳時代の水田になる。p48:奈良時代初頭頃の洪水層。志紀遺跡の広域で確認できる洪水層である。(後略)	★奈良初頭。	奈良初め。	
313	2721	志紀遺跡第5次	基本層序	68・83～85	p4:(第68・83～85層は)部分によって様々な色調を呈する砂、粗砂、小礫で構成される洪水層であり、第9遺構面を覆う。p26:(第8遺構面について)本来布留2式に水田が造営(第8a面)され、その後I型式3段階の時期に前代の大畦畔1を踏襲して再度盛土を行った(第8b面)と考えることができる。p32:(第9遺構面について)遺物は庄内併行期に位置付けられ、本遺構面の時期を示している。	▼庄内。△布留2。	庄内期～布留2期。	参考:寺沢(1986)、森岡・西村(2006:551(表7))。

329	2722	尺度遺跡	230溝 埋土 下層	p31: (230溝について)旧表土が溝内に人為的に客土される前段階に、下層の砂礫層が堆積しており、その中に大礫が含まれていることから、大きな洪水があったことを示している。p34: また、溝の底の洪水砂中から、11世紀末から12世紀初頭にかけての古い時期の瓦器椀が出土している。遺物が洪水のあった時期を示していると考えれば、その時期は11世紀末から12世紀初頭に位置すると考えられる。	★11世紀末～12世紀初頭。	11世紀末葉～12世紀初め。	
330	2722	尺度遺跡	4-2面; 227流 路	p46: 227流路新と呼称しているのはほぼ227流路古よりやや蛇行を弱めている。流路は幅3m、深さは1.5mである。断面形はほぼV字形を呈す。最下層に常時の流水堆積と思われる砂層を残すが、大部分は洪水堆積物で埋没し、その後、一部凹地として残ったところはブロック土で埋められている。流路内の出土遺物は弥生時代第V様式の土器や布留IIの時期の遺物もあるが、基本的には6世紀代の遺物を中心としている。下限の土器が飛鳥IIの時期であり、おそらくこのころには埋没したと考えられる。	★6世紀～飛鳥II。	飛鳥II (640年代後半～650年代)。	
331	2722	尺度遺跡	4-2面; 溝集中 区015・ 016溝	p67: (溝集中区の溝について)基本的にどれも廃絶するときは洪水砂で埋没するようだが、015溝の南側が特に埋没時の浸食や肩のくずれが激しいのが注目できる。(中略)おそらく溝を埋没させる洪水毎に取水施設も被害を受け、その取水地点での試行錯誤が流路にちかい部分での溝のコースに反映されたのであろう。p68: 遺物から見れば、飛鳥時代に下るものではなく、(中略)一連の溝の変遷は、大体6世紀前半の中で起こった事として良いように思える。	★6世紀前半。	6世紀前半。	
332	2722	尺度遺跡	4-2面; 029溝	p68: (029溝は)溝集中区の中では下層に位置する溝である。(中略)かなり激しい洪水で埋没した形跡があり、浸食を受けた可能性がある。(中略)遺物からは6世紀前半までしか限定できないが、015溝古より古いので、廃絶はその中でも早い時期に求められるであろう。	★6世紀前半の早い段階。	6世紀初め。	
333	2722	尺度遺跡	5面古; 528・ 921流 路	p207: (528・921流路について)遺構名は二つに分けたが、本来一つの流路である。pp207-208: 埋土はほとんどが粗砂で、激しい洪水で一気に埋没した状況が見て取れる。またその形成も下層に大きな土礫が見られる箇所もあり、かなり激しい水流によるものだった事が分かる。洪水時に扇状地扇頂部から、通常の流路より破堤し、扇状地を流下する流路だったようで、通常は水流はなかったと思われる。p208: 形成は6面時点であった可能性が高く、5層自体が、この流路を水流が走るような洪水時に堆積したものである可能性が高い。最終的には庄内期集落成立以前に激しい洪水で一挙に埋没し、そのときのこの流路からの破堤の痕跡やそのときの砂層の堆積が10tre北側などに見られた。p210: 遺物群は大体、弥生時代の河内II様式後半～III様式前半と、V様式のものに分かれる。(中略)この二つの時期は、流路の形成時期と埋没時期を各々示していると考えられる。	★河内V様式。○河内II様式後半～III様式前半。△庄内。	弥生後期前葉～中葉(河内V様式)。	河内V様式の位置付けは、寺沢薫、1989「各地域の併行関係・解説」『弥生土器の様式と編年—近畿編I—』pp322-327の様式編年対称表に準拠した。
334	2722	尺度遺跡	1期の 溝	p232: (古墳時代後期から飛鳥時代の)溝群を切り合いと、出土遺物から時期分けすると、大体3期に分けられる。以下、その状況を述べる。1期は北から伸びてくる溝群に限られる。(中略)扇状地を灌漑する体系の排水路と思われる。(中略)埋没時期は6世紀前半～中葉で、掘削時期は5世紀に入る可能性もある。この溝群の体系は洪水で破壊されたようで、粗砂で埋まるものも多く、029溝の南側などはかなり侵食を受けている。ただし、316落ち込みはブロック土で埋められる。2期は229・002溝などからなる扇状地の灌漑体系も存続している事が知られるが、新たな動きとして5tre.Dの南側外で227流路から取水する溝群が出現する。(中略)(2期の)廃絶時期は6世紀中葉で、1期からあまり期間が認められない。埋没状況は定かではないが大部分が人為的に埋められた可能性が高い。pp232-233: 3期は009・010溝が227流路から取水し、それと直角の関係にある291・808溝が存在する。(中略)出土遺物は飛鳥III式を示し、7世紀後半に洪水で埋没したと思われる。しかし、掘削時期を確定できる資料がないため、2期の溝群の廃絶からどの程度の空白期があったのかが分からない。(中略)227流路内の遺物も6世紀後半から7世紀初頭の遺物がほとんど見られず、そこに断絶があったのは間違いないと思われる。	★6世紀前半～中葉。	6世紀前半～中葉。	全体を包括したもので、331・332のいずれかと同じものとみなした。

335	2722	尺度遺跡	3期の溝 (009・010溝)		p232: (古墳時代後期から飛鳥時代の)溝群を切り合いと、出土遺物から時期分けすると、大体3期に分別できる。以下、その状況を述べる。1期は北から伸びてくる溝群に限られる。(中略)扇状地を灌漑する体系の排水路と思われる。(中略)埋没時期は6世紀前半～中葉で、掘削時期は5世紀に入る可能性もある。この溝群の体系は洪水で破壊されたようで、粗砂で埋まるものも多く、029溝の南側などはかなり侵食を受けている。ただし、316落ち込みはブロック土で埋められる。2期は229・002溝などからなる扇状地の灌漑体系も存続している事が知られるが、新たな動きとして5tre.Dの南側外で227流路から取水する溝群が出現する。(中略)(2期の)廃絶時期は6世紀中葉で、1期からあまり期間が認められない。埋没状況は定かではないが大部分が人為的に埋められた可能性が高い。pp232-233:3期は009・010溝が227流路から取水し、それと直角の関係にある291・808溝が存在する。(中略)出土遺物は飛鳥Ⅲ式を示し、7世紀後半に洪水で埋没したと思われる。しかし、掘削時期を確定できる資料がないため、2期の溝群の廃絶からどの程度の空白期があったのかが分からない。(中略)227流路内の遺物も6世紀後半から7世紀初頭の遺物がほとんど見られず、そこに断絶があったのは間違いないと思われる。	★7世紀後半 (飛鳥Ⅲ)。	飛鳥Ⅲ(660～680年代)。
352	2723	新上小阪遺跡	基本層序	4b	p14:4a層はその母材となる4b層(洪水堆積層)の土壌化層であるが、4b層は調査地の一部、1調査区中央付近、2調査区北西コーナー付近でしか確認できなかった。(後略)p45:(第4面は古代～中世前半に相当。)p58:(1調査区第5面について)調査区中央で4b層(洪水砂)で埋没した水田を検出した。p64:(第5面の時期は)6世紀末～7世紀初頭と考えられる。	▼6世紀末～7世紀初頭。 △古代～中世。	6世紀末葉～7世紀前半?
314	2724	新庄遺跡	基本層序	Ⅱ	p2:第Ⅱ層は第2面(近世前半～中頃)から、第3-a面(中世後半)を覆う15～30cmの堆積で、2回の画期が認められる。第3-a面を覆う細砂の堆積がその1つで、5～10cmの層は、厚さ1cm前後の盤状構造を呈する堆積で、小規模な冠水が繰り返された結果と考えられている。p21:第3-a面の時期は室町中頃～後半。	▼室町中頃～後半。△近世前半。	室町後半?
338	2725	吹田操車場遺跡	C地区基本層序	5・6間	p19:第5層は調査区の北東端に堆積する。調査区の北東部分で、第6層との間に洪水砂が覆ったと考えられている。p90:第5層は6世紀後半の古墳時代後期の遺物を包含している。(中略)第6層は6世紀後半の古墳時代後期の遺物を包含している。	▼6世紀後半。△6世紀後半。	6世紀後半。
360	2726	巢本遺跡03-2・06-1			p234:(平安時代後期について)この頃からようやく巢本遺跡内の土地利用が始まる。(中略)開発に伴い、まず寝屋川の治水対策として、遺跡内に幹線水路が通される。(中略)12世紀前半頃までにはその開削工事も終わり、寝屋川からの水害にもある程度対応可能な水路が完備する。(中略)しかしこの状況は長くはつづかず、寝屋川の氾濫によって耕作地は埋没する。それは4区の耕作溝が砂層に覆われていることから判明する。水害後、7区には直ちに溜池状の大型の土坑(1009土坑)を設けるなど対応し、人々は復興に努める。(中略)完全に復興するのは13世紀に入ってからのことであったと考えられる。(後略)	▼12世紀前半。△13世紀。	12世紀。
318	2727	高柳遺跡	A区・B区の基本層序	1	p7:(A区の1層は)洪水砂層。厚さは5～7cm。近世遺物を出土。p9:(直下の)検出した耕作溝は上層を厚い洪水砂によって埋められているため、洪水以降はかつての土地区画が踏襲されなかったものと思われる。近世における大洪水の記録として、享和2年(1802年)の「点野・仁和寺切れ」が知られている。耕作溝の上層を覆う厚い洪水砂はこの大洪水の跡を推定できる。p23:(B区の1層は)洪水砂層。厚さは8～10cm。近世陶磁器等の遺物を検出。	★1802年?	1802年。
319	2727	高柳遺跡	C区基本層序	0下	p35:(0は)盛土および現在の耕作土層。下層に洪水砂層が見られる。	▼1802年?	1802年以降。

327	2728	玉櫛遺跡	1995年度調査区基本層序	IV上(第5遺構面直上)	p11:IV層の上層に部分的だが、ところどころにラミナのみられる洪水堆積砂が残っているが全体には続かない。p12(第4図):(IV層は2A区・4A区で確認。IV層の直上は第5遺構面。)p43:(2A区第4遺構面について)この遺構面の時期を14世紀前半代とする。p45:(2A区第5遺構面について)この遺構面の時期を14世紀前半代と比定する。p56:(2A区第6遺構面について)時的にも第5遺構面とほとんど変わらなくなり、14世紀前半から中葉の年代を示す。p101:(4A区第5遺構面は)主に13世紀代の遺構面と考える。第5遺構面は4A区では耕作地から集落域に変わる最後の遺構面と言えるが、第5遺構面の水田が廃絶した後、洪水砂を挟むものの、さほど時期を隔てずして集落が形成されたと見られる。	▼13世紀。 △14世紀前半。	13世紀中葉 ～14世紀?	
328	2728	玉櫛遺跡	1995年度/1997年度調査基本層序	V/7	p11:(1995年度調査V層は)水田耕土層を覆う洪水堆積層だが、各トレンチの広い範囲に堆積するためV層とした。(後略)pp183:(1997年度調査第7層は)平安時代の水田を埋めた洪水による砂礫層である。ラミナが見られる。部分的に攪拌され乱れる。緑灰色、灰色の砂礫層でシルト状の部分から粗砂、礫までの含む。厚さ5～20cmである。瓦器碗、白磁皿などが出土している。1995年度調査のV層である。p200:(1997年度調査の第5遺構面について)直接の時期は決められないが、第7層中から和泉型Ⅰ-Ⅲ型式の瓦器碗が出土しているため、11世紀後半頃の洪水で埋まったものであろう。	★11世紀後半。	11世紀後半。	
361	2728	玉櫛遺跡06-1	基本層序	11	p11:(第11層は)調査区東部で約1.2m、西部で約0.2mの厚みを持つ。洪水堆積層である。大部分が細砂～粗砂で、最下部は約0.2mのシルト層である。特に第11層が厚く堆積している調査区東部では、第11層が第12層、第15層を挟んでいる状況がみられる。10世紀後葉を中心とする時期の遺物を含む。p172:(第12面;10世紀後葉について)調査区全域で、条里型水田を検出した。(中略)第11層中に含まれる遺物の時期から、10世紀後葉を中心とする時期に埋没したと考えられる。p175:遺跡全域に、条里型水田が営まれる。水田面を覆う洪水堆積層の出土遺物から、10世紀後葉を中心とする時期に埋没したと考えられる。ただし、遺跡南部では古手の瓦器碗が洪水堆積層から出土しており、11世紀中・後葉まで水田面が存続した可能性もある。	★10世紀後葉。 ▼10世紀後葉(～11世紀後葉?) ○10世紀後葉。	10世紀後半 ～11世紀?	
362	2728	玉櫛遺跡06-1	基本層序	5b	p11:(第5層は)原則として、調査区西半中央部に認められる細砂～粗砂の堆積層(層厚0.4m、第5b層と呼称)を母材としてと考えられる土壌化層である。p169:第5面は、調査区西半中央部のみに認められる洪水堆積層(第5b層)を母材とする土壌化層(第5層)の上面であり、遺構は、第5層上面および層中、下面で検出した。第5b層は、少量ではあるが13世紀代の遺物が出土していること、層上で14世紀前葉の遺構群を検出していること、第7面で13世紀前葉の遺構を検出していることから、13世紀中～後葉頃に堆積したと考えられる。(後略)	★13世紀中～後葉。 ▼13世紀前葉。 ○13世紀。 △14世紀前葉。	13世紀中葉 ～後葉。	
373	2729	垂水遺跡第24次	基本層序	2-2	p5:(第2層は)第1面覆土層。(中略)(第2-2層は)シルト～砂～細礫互層。層厚75～90cm。平行ラミナや一部に斜交ラミナなど、水流に起因する堆積構造が観察できる。落ち込みを充填する、河床構造堆積物のような水成堆積層で、侵食と堆積を順次繰り返しながら埋没していった様子が看取できる。調査地が丘陵であることを考えると、埋没河川などは想定しがたく、背後の山側から雨水によって流出した土砂によって、谷地形が埋没したものであろうか。p9:(下方の)第1面の時期は江戸時代中・後期(18世紀後半～19世紀初頭)と考えられる。	▼18世紀後半～19世紀初頭。	19世紀以降。	
359	2730	津田遺跡	1区	6	p9:第6層は13世紀の耕作土と洪水砂層が交互に堆積する。厚さ約0.2mの2～3層の耕作土が確認されており、13世紀代の瓦器が出土する。これより下では遺構・遺物は確認されなかった。第2層から第6層の堆積によって、13世紀以降調査区背後の山地から度重なる土砂流出が存在した事が分かる。p15:(第2面・第3面の)耕作土の上面では、それぞれ洪水による粗砂の堆積が確認されており、そのたびに水田を復旧した事が分かる。第2面で検出した258水田上面の洪水砂より上層には、泥状の細砂及びシルトが堆積しており、258水田を最後にこの場所での水田耕作を放棄している。(後略)	★13世紀。	13世紀。	

374	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	4A	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p8: (長原4層は) 暗灰褐色礫混じり砂ないしシルトからなり、後述する長原5A層上に形成された淘汰不良の古土壌である。層厚は10~45cmで、下限は不明瞭である。(後略) p9: (長原4A層は) 細礫混じり黄灰色中粒砂ないし砂質シルト層で、層厚は8~15cmある。瓦器、土師器が特徴的に包含される。遺跡東南地区を模式地とし、東・東北地区などの遺跡の平野部で厚く、下位層上面の人工河川を埋積している。p23: 長原4A層は河川の氾濫堆積層であるので、包含される遺物は下位の長原4B i 層上面以下に由来するものと考えられる。本層出土遺物の中で最新のものIV期の瓦器碗であり、14世紀初頭と考えられる。	★14世紀初頭。△14世紀後半(～17世紀)。	14世紀初め。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
375	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	4B ii	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p8: (長原4層は) 暗灰褐色礫混じり砂ないしシルトからなり、後述する長原5A層上に形成された淘汰不良の古土壌である。層厚は10~45cmで、下限は不明瞭である。(後略) p9: (長原4B ii 層は) 河道および河道から氾濫した細礫混じり黄灰色中粒砂層であり、平均層厚は5cmである。遺跡東南地区に断続的に分布するほか、西地区にも分布する。p23: (前略)(包含される瓦器碗からみて、長原4B i 層には) 鎌倉時代の13世紀を中心とする年代が与えられる。その下限は上述の長原4A層中の遺物の年代をあてることができる。pp23-24: (長原4B iii 層について) 10世紀～12世紀後半が主たる形成時期と推定される。	▼10世紀～12世紀後半。△13世紀～14世紀初頭。	12世紀後半～13世紀。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
376	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	5A	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p9: (長原5A層は) 砂・礫を主体とし、シルト質細粒砂の薄そうを挟み、顕著なトラフ斜交ラミナが見られる河成層である。層厚は10~80cmである。平城宮V～VIに属する土師器や須恵器のほか、下位層に由来する弥生土器などを二次的に包含する。模式地は遺跡南地区にあり、後述する長原6A i 層上面の人工河川群を埋積し、これらを中心に中央地区から西・東南地区まで広く分布する。2時期の氾濫により形成された可能性がある。p24: (前略) 本層は8世紀後半～9世紀初頭に発生した洪水による堆積層と考えることができる。(中略) 長原5A・5B層は奈良時代末～平安時代初頭(8世紀後半～9世紀初頭)のある時期に洪水で堆積した地層と考えられる。	★8世紀後半～9世紀初頭。▼8世紀後半～9世紀初頭。△10世紀～12世紀後半。	8世紀後半～9世紀初め。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
377	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	5B	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p9: (長原5B層は) 青灰色細粒ないし極細粒からなる氾濫堆積砂層で、層厚は2~8cmである。上面にヒトの足跡や蹴跡が検出される。遺跡東南地区を模式地とする。p24: 長原5B層は5A層と同様に水成層であり、内部構造の変化は少なく、上面の遺構も希薄であるので、5A層の堆積直前に堆積したものと考えられる。水田の作土層である長原6A i 層に包含される遺物には平城宮土器Ⅲの土器があるが、下限は上位の長原5A層の遺物に求められ、8世紀末～9世紀初頭ということになる。	★8世紀後半～9世紀初頭。▼7世紀末葉。△8世紀後半～9世紀初頭。	8世紀後半～9世紀初め。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
378	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	6A ii	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p12: (長原6A ii 層は) 上部は河成の灰色中粒ないし細粒砂層で、層厚は50cm以下である。(中略) 下部は河成の粘土質シルト層と極細粒砂層の互層である。層厚は平均10cmで、またその直下でラミナの変形・破壊が認められる。中央地区で本層上部の下位に認められた。p24: 水田の作土層である長原6A i 層に包含される遺物には平城宮土器Ⅲの土器があるが、下限は上位の長原5A層の遺物に求められ、8世紀末～9世紀初頭ということになる。6A i 層は淘汰が不良であるため、耕作時期は6B i 層に比べて短かったと考えられる。長原6B i 層に包含される遺物には飛鳥Ⅲ～Ⅳの7世紀後半～末の土器がある。本層上面を覆う長原6A ii 層の出土遺物には飛鳥Ⅳと考えられる土器があることから、長原6B i 層上面の水田遺構は飛鳥Ⅳの段階、すなわち7世紀末葉に長原6A ii 層で埋没したと考えられる。	★7世紀末葉。▼7世紀後半。△7世紀末葉。	飛鳥Ⅳ(680～700年代)。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。

379	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	6B ii	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p12: (長原6B ii層は)灰色を呈する河成の粘土・シルト・細礫質粗粒砂層で、層厚は10cm以下である。東南地区を模式地とし、遺跡全域に断続的に分布する。分布の縁辺部では下位層上面の微小な凹部に残存する。飛鳥Ⅲに属する土器が包含されている。p24: 長原7A層ないし長原7層から出土した遺物は、飛鳥Ⅰの土器が最新のものであるが、本層上面の水田遺構を被覆する長原6B ii層から飛鳥Ⅲの土器が出土しているため、下限は7世紀後半まで下るものと思われる。また、本層の上限はTK209型式の須恵器より、6世紀末～7世紀初頭と推定される。	▼6世紀末～7世紀初頭。 ○7世紀後半。 △7世紀末葉。	飛鳥Ⅱ(640年代後半～650年代)。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
380	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	7B0	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p13: (長原7B0層は)明黄褐色砂礫～暗オリブ灰色粘土質シルトからなる河成層であり、層厚は最大250cmである。本層は遺跡東北地区を模式地とし、南・東方向から流下して下位層上面の沖積低地を埋め尽くした地層であり、模式地から北側に分布する。下位層に由来する多時期の遺物を包含するが、TK10型式の須恵器が最新のものである。p25: 長原7B0層は河川の氾濫堆積層であり、下底付近に含まれる最新の土器であるTK10型式の須恵器は、直下にある6世紀前半～中ごろの7B i層の生活面から二次的に堆積したものと考えられる。	▼6世紀中ごろ。 △6世紀末～7世紀初頭。	TK10～TK209(530～610年代)。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
381	2731	長原遺跡	長原遺跡標準層序	7B ii	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p13: (長原7B ii層は)河成の褐色極粗粒砂ないし粘土質シルト層であり、上方に細粒化する。遺跡東南地区を模式地とし、層厚は20cm以下で、遺跡の東側に広がる。東北地区では本層に対比される河成層中にTK216型式の須恵器が包含される。p25: 長原7B ii層に対比される東北地区の地層からはTK216型式の須恵器が出土しており、古墳時代中期の5世紀後半の年代が与えられる。	★5世紀後半(TK216)。 ○5世紀後半(TK216)。 △5世紀末～6世紀中頃。	TK216(5世紀後半)。	長原遺跡の発掘調査報告書は複数あるが、本稿では趙(2001)が整理した基本層序を用いた。
358	2732	茄子作遺跡	第2調査区2-1区基本層序	4-2	p27: 4-2層は、灰黄色細砂～粗砂を主体とする洪水砂層である。2-1区東半部に堆積が認められる。2-1区東壁では、0.1m程度の層厚が認められる。4-1層および4-2層から出土した遺物は、13世紀までの遺物が出土した。	○13世紀。 △14世紀。	13世紀?	
371	2733	南郷目代今西氏屋敷	今西氏屋敷居宅部分(主屋部分)基本層序	2	p10: (第2層は)中～粗粒砂からなる層厚2～10cmの水成層で、主屋南壁面土層28がこれにあたる。整地層としての可能性も残る。p11: 同層は複数回の洪水により堆積した可能性があるものの、上下層の時期関係から19世紀後半頃に堆積したものと考えられ、本報告では同層上面を第Ⅱ-3期として扱った。	★19世紀後半。	19世紀後半。	
372	2733	南郷目代今西氏屋敷	今西氏屋敷居宅部周辺基本層序	Ⅲ	p15: (第Ⅲ層は)青灰色細粒砂からなる水成層で、層厚10～15cmをはかる。第Ⅳ層との層境は明瞭ではない。今西氏屋敷西側一帯に分布し、周辺における基盤層となる。同層上面から、内堀2など近世以降の遺構が検出された。p16: 第Ⅲ層から出土した遺物をみると、17世紀前半代のものを下限とすることから、おおむね17世紀中頃までに堆積した可能性が考えられる。p17: 第Ⅳ ₂ -1層は16世紀前半代、第Ⅳ ₂ -2層は15世紀頃までに堆積した可能性が考えられる。	★17世紀中頃以前。 ▼16世紀前半。 ○17世紀前半。	16世紀中葉～17世紀中葉。	
311	2734	西大井遺跡	基本層序	1・2	p6: (第1・2層は)灰色系の中～細砂層。明治時代の洪水堆積層。第2層と同じ砂層は12.2m付近にも堆積している。	★明治。	明治。	320と同一のものとみなした。
320	2734	西大井遺跡	基本層序	I	p7: (第Ⅰ層は)粘質土のブロックを含む黄褐色の細砂層で、厚さ約50cmを測り、第1遺構面で検出された短冊形の土坑群の埋土と一体になる。明治時代前期の洪水堆積物で、攪拌されている。	★明治前期。	明治前期。	
321	2734	西大井遺跡	基本層序	Ⅱ	p7: (第Ⅱ層は)にぶい黄褐色細砂層でラミナが明瞭。厚さ約10cmと薄い。短冊形土坑の及ばない部分に残る。江戸時代末ごろの洪水堆積層である。	★江戸末期。	江戸末期。	
322	2734	西大井遺跡	基本層序	Ⅷ	p7: (第Ⅷ層は)オリブ灰色粗砂～細砂層でラミナが明瞭である。厚さ約10～20cm。平安時代中期の洪水堆積層である。p9: (第Ⅷ層直上の第4b面)の時期は平安時代(11世紀)である。(中略)(第Ⅷ層直下の第5面では)平安時代中期(11世紀後半)の水田を検出した。	★平安中期。 ▼11世紀後半。 △11世紀。	11世紀後半。	

323	2734	西大井遺跡		9	p7:(第2遺構面直上砂層(第9層))は植物堆積層を除去すると認められた砂層である。第1遺構面直上砂層と異なり、地山が高くなるI区西側より以西では確認されなかった。層厚も第1遺構面直上砂層に比べ薄く、西側は約0.2m、東側で約0.4mである。(中略)(第2遺構面は)第2洪水砂層を除去すると現れる水田面である。p14:(第2遺構面について)この遺構面は、後の洪水が大規模であったためか、凹凸が目立つ状況であった。さらに、洪水により生じたと思われる流路(自然流路)がI区北東部分で畦畔6を寸断した状況で検出された。p18:(前略)第2遺構面の上限は10世紀ごろと考えることができる。そうすると、瓦器を含んだ自然流路が11世紀末ごろに形成され、第2遺構面が廃絶したと考える。	★11世紀末。	11世紀末葉。	
326	2735	野々井遺跡		5BⅢ	p8:(第5B層は)水成層に覆われた2層の作土層からなる。p8・11:5BⅢ層は灰白色ないし黄白色の細～中粒砂の水成層である。ほとんど層をなさず、下位の踏み込み内に依存するのみである。なお、上面で検出した53-OSを埋める水成層は本層に属すると考えられ、飛鳥Ⅱの土器が出土しており、本層の時期を示唆している。p11:(第5BⅣ層について)本層中からはTK23型式またはTK47型式の須恵器などが出土した。	★飛鳥Ⅱ。 ▼TK23～TK47。	飛鳥Ⅱ(640年代後半～650年代)。	OS:溝。西(1986)、宮崎(2006)参照。
350	2736	花屋敷遺跡 06-1区	第1調査区; 15溝など	15溝埋土	p14:第2層および第3面直上の遺物は、その大半が中世の遺物で占められるが、(中略)(第3面の15溝は)調査区の南端を東西に直線で延びる溝である。(中略)当溝は洪水などの営力により、一気に埋没したと考えられる。(中略)土師器皿、瓦質土器など中世の遺物が出土しているが、(中略)下位の層や以降から出土する遺物と類似するものが多い。p17:(17溝は)15溝ほどではないが17溝は砂粒の含む割合が高く、水流の強い形で堆積が行われたものと思われる。p59:(第1～3面の)溝や窪地から出土する遺物は下位の層から発見されるものと同様のものが多い。これは遺構が砂で一挙に埋まった形跡が認められることから、洪水などにより周辺の下位の層や面を破壊し、古い遺物が混入したものと考えられる。よって当該期と思われる遺物は少なく、遺構の時期を明確にすることは難しいが、16世紀以降に耕作関係に使用された用水路として機能した溝群であろうと考えられる。	▼16世紀以降。○中世。	16世紀?	
341	2737	東倉治遺跡 04-1区	15落ち込み		[バリノ・サーヴェイ(株)(辻康男・辻本裕也)「軟X線写真による堆積物の層相観察」pp48-52」pp51-52:15落ち込み内では、弥生時代後期から中世頃まで土壌が発達するような好氣的な地表面付近の環境が形成されていたことが推定された。中世には、次第に落ち込み内の水位が上昇するような堆積・土壌環境下において耕作土が形成される。層相や微化石分析結果をふまえると、耕作土の地表面付近は、湿性ないし多湿の土壌環境下であったことが推測される。その後、落ち込み内の堆積環境が不安定なり、洪水堆積物が連続的に累重するようになる。落ち込み内で耕作土や洪水堆積物が累重する時期は、出土遺物の相対年代から、鎌倉時代頃と推定されている。この時期、遺跡周辺では、人間による植生干渉の影響が大きく及んでいた可能性が花粉分析結果から示唆される。	★鎌倉。	鎌倉。	
315	2738	東奈良遺跡	93・94区		p9:I a層上面には灰白色砂が調査区全体にわたって覆っていた。この灰白色砂を堆積させた流路は南北方向に延びるもので、調査区東半では検出面から1.4mまで下がったII層上面まで削り込まれていた。p73:(前略)この付近は10世紀頃から13世紀後葉にかけては耕作地であり、13世紀後葉～14世紀前葉に洪水に見舞われたといえよう。	★13世紀後葉～14世紀前葉。	13世紀後半～14世紀前半。	
317	2739	平石遺跡	第43区・第44-A区		p34:第43区は平石川が大きく北に張り出す蛇行部右岸に設定した幅5.0m、長さ8.0mのトレンチである。標高はT.P.164.6mを測る。現耕土を取り除く、0.1～1.0mの石を多く含む砂質土が露呈する。この上にはブルーシートの破片が含まれていた。地元の話では昭和57年(1982)8月2日の台風10号による大雨のため平石川が氾濫し、同地点一帯が冠水したため町当局により応急の措置が取られたので、この付近の地味は悪いとのことである。(中略)(第44-A区も同様。)	★1982年8月。	1982年8月。	

370	2740	穂積遺跡第14次・第15次	第14次調査基本層序	Ⅲ	p33: (第Ⅱ層は)中世後期～近世頃の耕作土層とため池状遺構の埋土である。(中略)(第Ⅲ層は)黄灰色～暗灰色系のほぼ均質な粗粒砂層で構成された、洪水堆積層である。最新の遺物としては中世後期～戦国頃のものを含む。(中略)層厚は約20～40cmを測り、単層中に北から南方向へ斜行したラミナが複数観察される。p37: (第15次調査の)9～11層等は基本層序第Ⅲ層に相当する洪水堆積層で、第15次調査地点にまで分布が広がっていることが確認できた。	○中世後期～戦国。△中世後期～近世。	戦国?	
416	2741	真上遺跡	基本層序	V	p23: V層は灰色の砂混じり粘土、にぶい黄橙色の砂、青灰色の砂で、それぞれはラミナーを形成している。河川氾濫によって堆積した層である。(後略)。p60: 中世の耕作土が洪水層に覆われていることを確認した調査区は、大蔵司遺跡の第4調査地区と真上遺跡の第6・7・10・11・12調査地区である。これは真如寺川から東側約200mと西側約50mの範囲である。このことから真如寺川は中世の洪水で左岸側へ大きく氾濫したことがわかるとともに、同じ左岸側でも第3面(古代の遺構面)がある第4・8調査地区は、冠水していないことも理解できる。pp60-61: (前略)おおよそ洪水の発生時期を13世紀後半から14世紀前半の間に絞り込むことができる。	★13世紀後半～14世紀前半。▼13世紀前半。	13世紀後半～14世紀前半。	
398	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	No.1トレンチ	3	p6: No.1トレンチでは、第3層がシルト質粘土と極細粒砂の互層、第7a～7c、9層がシルト質粘土と細粒砂の互層、及び細～中粒砂で、これらの層はNo.4トレンチ付近から検出している旧玉櫛川の氾濫による堆積と考えられる。堆積時期については今回の調査では確認できなかったが、上層は近代以降と考えられる。	★近代以降。	近代以降。	
399	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	No.5トレンチ		p44: 堤防はNo.5トレンチの西側を集落、或は生産地域として利用するために堤防を築き、埋め立てを行ったと考えられる。その途中で河川の氾濫から堤防の一部が決壊し、補修工事として行われたのがNo.5トレンチの部分であったと考えられる。p143: (前略)No.5トレンチの範囲内は洪水によって決壊した部分にあたると思われ、決壊部分の補修に木杭、葦束を使用したと推定できる。また、堤防内の出土遺物から12世紀前半頃であると考えられる。この時期は、水走付近を領地としていた在地領主である「水走氏」が開発を開始した時期にあたる。	★12世紀前半頃。	12世紀前半。	
401	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Pピット	5～7	p137: 第5g～8b層は近世前半の洪水等による自然堆積層である。	★近世前半。	近世前半。	
402	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Qピット	5e～7b	p143: 第5e～7b層は近世前半の洪水等により自然堆積層であり、(後略)。	★近世前半。	近世前半。	401と同一のものとみなした。
403	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Rピット	6b～8f	p148: 第6b～8f層は近世前半の洪水等による自然堆積層であるが、遺物は出土しなかった。	★近世前半。	近世前半。	401と同一のものとみなした。
404	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Sピット	5a～8d	p149: 第5a～8d層は近世前半の洪水等に伴う自然堆積層で、(後略)。	★近世前半。	近世前半。	401と同一のものとみなした。
405	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Tピット	6～8f	p153: 第6～8f層は近世前半の洪水等に伴う自然堆積層である。	★近世前半。	近世前半。	401と同一のものとみなした。
406	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Vピット	6～8e	p159: 第6～8e層は近世前半の洪水等に伴う堆積層である。	★近世前半。	近世前半。	401と同一のものとみなした。
407	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	Wピット	5f～h、6～8	p162: (前略)第5f～h層は自然堆積の砂・シルト層である。このことは近世初頭から前半、洪水により砂などが堆積し(第8～6層および第5f～h層)、その後開発されたもので、第1～4層は周辺地域からもたらされた土である。	★近世初頭～前半。	近世初め～前半。	401と同一のものとみなした。
408	2742	水走遺跡第4次		整地2・3間	p37: 調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。(中略)(整地2の時期は12世紀末～13世紀初頭。)	▼12世紀末～13世紀初頭。△13世紀前半。	13世紀前葉。	

409	2742	水走遺跡第4次	整地 3・4-1 間	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。(中略)(整地3の時期は13世紀前半。)	▼13世紀前半。△13世紀後半。	13世紀中葉。	
410	2742	水走遺跡第4次	整地 4-1・ 4-2間	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。p38:(整地4-1の時期は13世紀後半。河川9・8の氾濫をうけて行われた整地。河川7および6対応。)	▼13世紀後半。△13世紀末~14世紀初頭。	13世紀後葉。	
411	2742	水走遺跡第4次	整地 4-2・5 間	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。p38:(整地4-2の時期は13世紀末~14世紀初頭。河川7・6の氾濫をうけて行われた整地。河川5対応。)	▼13世紀末~14世紀初頭。△14世紀前~中半。	14世紀前葉。	
412	2742	水走遺跡第4次	整地 5・6 間。	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。p38:(整地5の時期は14世紀前~中半。河川5の氾濫をうけて行われた整地。河川4対応。)	▼14世紀前~中半。△14世紀後半~15世紀。	14世紀中葉~後葉。	
413	2742	水走遺跡第4次	整地 6・7 間。	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。p38:(整地6の時期は14世紀後半~15世紀。河川4の氾濫をうけて行われた整地。河川3対応。)	▼14世紀後半~15世紀。△16世紀。	15世紀~16世紀前葉?	
414	2742	水走遺跡第4次	整地 7・8 間。	p37:調査地全域にわたっておおがかりな整地がおこなわれ、とくにB地区周辺において集落形成が行われていった時期である。東側-A地区-は先の事業(堰および堤防と盛土・整地)によってある程度安定したようであるが、B地区での集落形成には特に西側をほぼ南北に流れていた旧吉田川(以下、河川と記す)の氾濫が大きく影響していたと考えられる。それは主に氾濫=河川に砂などの急激な堆積=が起こった後に盛土・整地をおこなっていたことが確認されたからである。p38:(整地7の時期は16世紀。河川3の氾濫をうけて行われた整地など。河川2対応。整地8の時期は17世紀前半。)	▼16世紀。△17世紀前半。	16世紀後葉?	
415	2742	水走遺跡第11次		p18:調査地南部では14世紀以前の耕作地が、粗粒の氾濫堆積物に覆われたのち、同堆積物を材料とした盛土の上に建物群が作られたと考えられる。(中略)この氾濫堆積物の層厚は最大約1mと推定される。(中略)13世紀末~14世紀前半までのある時期に速やかに堆積したと考えられる。	★13世紀末~14世紀前半。▼14世紀以前。	13世紀末葉~14世紀前半。	

355	2743	湊遺跡	基本層 序	2	pp104-105:第2層が耕土として成立した最初の段階では、3tr.の北西側から調査区外にかけては、南東より一段下がった耕地区画が存在していた。元々は324流路と326流路の合流点の低地に由来する、より低い区画であった。その区画で第2層古が耕土であった時期である。ある時期、洪水が起こり、近辺で砂粒を中心とした洪水堆積物で覆われる事態になったと考えられる。近世前半期頃の事か。その洪水被害を復旧し、洪水堆積物を処理するのに使われたのがこの区画である。p105:近世に入って、第2層以降の耕土が第3層に比べて砂質化しているのは、これほどにないしる洪水によりしばしば砂などの堆積物が供給されていたからと考えられる。近世には上流に溜池を持っていたであろう湊川水系の洪水は考えにくく、上部の開発が進み、川筋が固定された佐野川の洪水が考えられる。低位段丘上でもわずかに確認された洪水砂らしき砂層がそれを示唆する。p106:(第2層は)3tr.では新古に分かれて構造も複雑だが、多くの部分では第1層の下で鉄分に染まっているのが目立つ層である。	★近世前半。	近世前半。	
356	2743	湊遺跡	基本層 序	4	pp106-107:(第4層は)主に第5面で形成された後背湿地を埋積していく層で、第1~3黒色層とした三つの暗色帯とその間にはさまるシルト~細砂を中心とした層からなる。(中略)黒色層間の層は細砂~シルトを中心として粘土~中砂までを主体とした、ほとんど有機分を含まない層で、堆積後酸化状態にあるものは黄褐色系に、地下水により還元状態にあるものは青灰色系になる。部分的にラミナが見られ、溢流的な洪水により後背湿地に流れ込んだ堆積層と考えられる。第4面に接した部分以外は土壌化の痕跡はほとんどない。単層で最大厚のものは約40cmほどのものもある。p191:(今回の調査で最も古い時期の包含層は)弥生時代中期後葉の330流路である。(中略)その時期は開析谷内には安定した平坦面は存在せず、(中略)堆積が進行する中、二つの流路は調査地点では合流して147流路になったものと思われる。それが調査区北東側の第4層の堆積を進行させたのであろう。それが1・2tr.第4層土器群1・2の示す、弥生時代後期後半、和泉V-3・4から庄内式併行期初頭頃と考えられる。p192:庄内式併行期以降、布留式期の古墳時代前期から後期まで、遺跡内で遺物が極端に少ない時期がある。再び遺物が増加し、遺構も見られるようになるのは飛鳥時代である。その間に、古墳時代後期に326流路は後背湿地化し、その流れは再び324流路と、調査区より上流側で合流する形になったと思われる。そして、南西側の後背湿地の堆積もほぼ完了する。	★弥生後期後半(和泉V-3・4)~庄内初頭。	弥生後期後半(和泉V-3・4~庄内初め)。	①和泉の弥生土器は森岡秀人(1990)「各地域の併行関係・解説」『弥生土器の様式と編年—近畿編II—』木耳社、pp.421-436の様式編年対照表を参考にした。②庄内初めは庄内1期とした。
366	2744	三宅西遺跡	基本層 序	5	p24:三宅西5層(第5層)は、灰黄色ないし灰色シルト質砂~砂からなる氾濫原堆積層である。上位層の耕作による攪拌を受けており、部分的にしか残されていない。層厚は20cm以下である。本層及び上位の三宅西4層からは12~13世紀ごろの瓦器が出土している。p27:(三宅西4層(第4層)の年代は中世。三宅西5層(第5層)の年代は中世。三宅西6層(第6層)の年代は飛鳥時代~平安時代。)	★中世。▼飛鳥~平安。○12~13世紀。△12~13世紀。	12世紀~13世紀。	
388	2745	森小路遺跡 94-13次	94-13 次調査 区	2	p187:(第2層は)暗灰黄色細礫混じり細粒砂を主体とする水成層で、層厚は20cm前後ある。明治時代以降の陶磁器や瓦片をはじめ、大正~昭和初期のガラス瓶などを含むことから、当地域が浸水したとされる昭和9(1934)年の室戸台風時の洪水による堆積物と考えられる。	★1934年。	1934年。	
368	2746	山賀遺跡08-1・2区	08-1-1・2区 基本層 序	4	p9:(第4層は)調査区のほぼ全域に認められる氾濫堆積物であり、層厚は0.6mから1.0mを測る。土質は灰黄褐色から暗オリーブ灰色を呈する細砂から細礫を主とする。ラミナが顕著であることから流水性の強い堆積と判断するが、原因になったと考えられる流路等は本調査区や周辺では確認できない。また、同層の除去面に侵食の痕跡があまり認められないことから、当地は本流から離れた溢流堆積部分と考える。同層より出土した遺物から、弥生時代後期末頃に発生した氾濫(洪水)によるものと推測する。	★弥生後期末。	弥生後期末葉。	
336	2747	大和川今池遺跡	その3 調査区 基本層 序	0	p14:(第0層は)現代の表土・盛土・攪乱・および現代の大和川の洪水砂層である。	★現代。	現代。	

337	2747	大和川今池遺跡	その3 調査区 基本層 序	3	p14:(第3層は)暗灰黄色砂混じりシルトが主を成す。鉄分沈着による褐色化したシルトと粘質シルトが互層を成す。20~30cmの厚さを測る。(中略)この層を掘削した面が第3面で、南北方向の溝や建物ピットなどを検出した。p21:第3層は調査区の西側で厚く堆積している。複数回の洪水堆積層で細分することが可能である。p22:(第3層・第3面)の出土遺物は12世紀~15世紀代の様相を示している。	▼12世紀~15世紀。△15世紀~17世紀。	15世紀?	
367	2747	大和川今池遺跡07-1区	基本層 序	3	p14:(第3層について)5Y5/1灰色、シルト~細砂、Mn粒・管状Feわずかにあり。(中略)調査区内の基本層序では主体的粒子が最も粗い層である。層厚平均10cm程度。(中略)この層は耕土とは考えにくい。水成堆積であるならば、緩やかな洪水で、混濁した泥土状の土砂が供給され、そのまま堆積したものと考えられる。しかし、水成堆積層と考えると凹凸のある第4面上で広い範囲に均等に堆積し、水成堆積層であるのが確実な第4層との間に堆積当時の古土壌が残存していない事が不自然である。(中略)第3層が堆積、もしくは耕作が停止した時期は飛鳥I期後半、7世紀前半頃と考えられ、「難波大道」の作られたのはそれ以降という事になる。p88:第3層は水成堆積層か旧耕土か結論の出ない層であるが、大道盛土残存部の下から検出された207畦畔を畦畔と認めうるならば、「難波大道」以前は、第3層を耕土として、正方位を指向しない耕地区画が存在した可能性がある。	★飛鳥I期前半(7世紀前半葉ごろ)。	7世紀第1四半期。	耕作土の可能性もある。
448	2801	鵜石田遺跡			p12:(平成14年度調査で流路は)調査区南半部で検出した。南側の平成13年度調査区へ続くもので、南北方向にのびる。中央付近で北東側へ蛇行し調査区外へ続いている。埋土は粗砂が堆積し、最終埋土はラミナ状の堆積をみせる。以上から常時流水があり最終的に洪水により埋没したものと推定する。埋土上層の粗砂内からは弥生時代末から古墳時代初頭の土器片を多く包含していた。これらの土器はローリングの度合いが少なく、比較的近い場所から流れてきたものと思われる。p44:今回の調査では溝だけを確認し、多量の弥生時代末から古墳時代初頭の土器が出土しているが、残存状態に大きな差があった。摩滅していることから、やや離れた地点から流されてきたか、非常に大きな洪水によって堆積したかと思われた。それに対して古墳時代初頭の一群にはほとんど流されてきたような摩滅痕はなく、非常に近いところに本他の集落があったと想定される。	○弥生時代末~古墳時代初頭。	古墳前期初め?	
422	2802	伊丹郷町		22	p12:23層上面(第5遺構面)が生活面として利用された後、洪水等の要因により、北から南に傾斜をもつ22層(シルト質極細砂)が堆積する。22層上面は、生活面として使用され、(後略)。p22:土砂の堆積は17世紀前半。p21:第5遺構検出面の機能停止後その上への土砂の堆積は、遅くとも17世紀前半代には完了していたと考えられる。p22:(22層直下の第5遺構面は)基本的には、第4遺構検出面を形成する土砂の堆積によって、その機能を停止する遺構検出面である。本遺構検出面を覆うように堆積する土砂の堆積時期は、前述のとおり、17世紀前半代と考えられるので、本遺構面の存続期間は、17世紀前半以前に比定できる。	★17世紀前半。	17世紀前半。	
441	2803	一品野田遺跡		洪水 砂礫 層II	p497:調査区の層序は上層から、表土、床土、洪水砂礫層I、その下から第1面を構成する暗灰黄色砂混じり細砂が出現する。第2面は第1面との間に洪水砂礫層IIを挟む。第2面より下層からは礫層が出現する。(中略)第1面は13世紀代と考えられる時期の遺構面である。p506:(第2面について)検出した水田遺構の時期は、第2面より下層の旧河道を埋める洪水砂の中から奈良時代の須恵器が出土している他、第2面の水田耕土からは10世紀代と考えられる土師器皿片が出土していること、第1面の時期が13世紀と考えられることから11世紀~12世紀にかけてと考えられる。p511:(遺跡の)段丘化の時期は11~12世紀以降と考えられ、13世紀に至って調査地点は安定し、集落として利用されるようになったものと考えられる。	▼11世紀~12世紀(第2面)。△13世紀(第1面)。	12世紀~13世紀?	

901	2804	今池尻遺跡第2次	第2遺構面の水田跡		p72: 第2遺構面を覆う明灰白色極細砂層と乳白色極細砂層を取り除くと第2遺構面の北半部のみで畦畔が数条確認された。(後略)p73: 水田耕土と考えられる淡灰色シルト層と、その上を覆う洪水砂である乳白色～灰白色細砂層から出土した遺物と、水田下層で検出されたSX201から出土した遺物から、これらの水田の時期は6世紀後半と考えられる。p74: 226はSX201出土の須恵器坏蓋である。外面約1/2に回転ヘラ削りを施し、口縁部内に沈線を有す。陶邑編年のTK10型式にあたり、6世紀中ごろのものである。227・228・229は水田201・204の耕土層である淡灰色シルト層出土の須恵器である。TK10型式からTK43型式のもので6世紀後半のものと考えられる。〔山本雅和「まとめ」pp251-263〕p253: (遺跡は)再び、古墳時代後期には大洪水に見舞われる。この氾濫は想像以上の規模で、その傷跡として今池尻遺跡第3次調査のSR101や今池尻遺跡第2次調査のSR202あるいは新方遺跡第4次調査のSR202などの遺構が挙げられる。いずれも6世紀初めには流下し始め、遅くとも6世紀後半には埋没が始まり、7世紀前半までには完全に埋没してしまった流路である。この洪水で埋没したのが今池尻遺跡第2次調査地点の水田址で、洪水が終息してしまった時期に営まれたのが今池尻遺跡第3次調査の竪穴住居群である。	★古墳後期。▼6世紀後半(TK10～TK43)。	古墳後期(TK43:580年代以降)。	参考:p74(fig.85)「古墳時代後期～飛鳥時代の遺物」
442	2805	加都遺跡	新水北地区基本層序	②	p42: (新水北地区について)調査区の東半部を占める微高地は、扇状地の旧中洲上にあたる部分である。(中略)西半部は円山川本流もしくはそれと同程度の規模の分流が埋没し、低湿地化した旧河道跡部分にあたる。(中略)西半部では江戸時代後期以前の堆積が良好に残っている。局地的に残存するものも含めた概略は以下の通りである。①近現代の水田土壌。②江戸時代後期の洪水砂。③江戸時代水田土壌。④江戸時代初期の洪水砂。⑤中世後期～中世末期(16世紀末)前後の水田土壌。⑥中世前期の洪水砂。⑦中世前期の水田土壌。⑧6世紀前半～9世紀の水田土壌。⑨5世紀後半の水田土壌及びその母層である洪水砂。⑩5世紀前半を中心とする水田土壌。p43: ⑪4世紀代に対応する土壌。⑫弥生時代前期～後期に対応する土壌。⑬弥生時代以前の堆積と考えられ、旧河道を埋めるシルト。p49: ⑭旧河道の基盤・東半の微高地を形成する礫層。	★江戸後期。▼江戸。△近代～現代。	江戸後期。	
443	2805	加都遺跡	新水北地区基本層序	④	同上。	★江戸初期。▼中世後期～末期(16世紀末)。△江戸。	江戸初め。	
444	2805	加都遺跡	新水北地区基本層序	⑨	同上。	▼5世紀前半。△5世紀後半。	5世紀中葉?	
465	2806	上沢遺跡第38・46・50次	西半部		p82: 遺跡の西半部では、平安時代前期と後期の間に、砂礫層が堆積しているところが確認され、規模は不明ながら、洪水によるダメージを受けている(おそらく10世紀頃)。この洪水が、集落に与えた影響は不明であるが、平安時代後期以降、前代の中心的な拠点としての様相は影を失い、漸次、中世的な散村の景観というべきものに変化し、広範囲に遺跡、遺構が分布するようになっていく。これは、当該時期の八部郡における他の遺跡の状況と同様である。	★10世紀? ▼平安前期。△平安後期。	10世紀。	
421	2807	上ノ島遺跡	南区	3	p10: (第2層は)黒灰色細砂、旧耕作土。(第3層は)黄色細砂(厚さ平均10cm)洪水砂。(第4層は)灰色シルト質粗砂、近世水田。p54: (近世について)この時期にも武庫川が氾濫をくりかえし、水田洪水に襲われたとみえ、遺構は洪水砂に覆われていた。洪水砂から出土した陶磁器の年代を推定すれば、18世紀はじめと考えられ、文献資料にいう正徳2年(1712)の大洪水にあたるのではないかと推測している。	★1712年?	1712年。	中央気象台・海洋気象台(1939:121)には8月3日付けで「京都並備前、摂津諸国 大風雨、洪水」とあり、これに対応した洪水痕跡とみられる。(参考:森岡秀人『古代学研究』94, 1980年)
468	2808	郡家遺跡第70次	床土層下		p116: 床土層下に洪水砂層。奈良～中世の遺構が切り込む。p118: 古墳中期に水田を埋没させる。	★古墳中期。	古墳中期。	472～474と同一のもののみなした。

471	2808	郡家遺跡第83次		<p>p18: (第2遺構面の)水田址は南流する水路の西側に位置し、約700m²ほどの範囲を確認した。(中略)水田層全体が水路最上層と同じ洪水砂層で覆われており、洪水災害によって水田が埋没し、集落が放棄されたと考えられるが、洪水砂層から出土する土器の時期から、水田が放棄されるきっかけとなった洪水が起こったのは6世紀末段階と考えられる。〔石島三和「集落の変遷—水田、植生、自然災害—」pp138-140〕</p> <p>p140: 本調査区ではTK47型式を超える時期を示す建物址は確認されておらず、放棄された建物の上には良好な包含層が堆積していく。包含層上にMT85型式併行期頃と思われる古墳状の方形区画が残されており、29次調査でも6世紀後半の住居址などが確認されていることから、この時期まで集落は中期より規模を縮小しつつ存続していたと考えられる。しかし6世紀末、郡家のみならず隣の住吉宮町遺跡一帯でも痕跡が認められるほどの規模で大洪水がおこり、水田は完全に埋没した。それまでの度重なる災害に何とか持ちこたえた集落も、この大洪水で壊滅的な被害を受けたのではないかと考えられる。</p>	<p>★6世紀末。 ▼6世紀後半(MT85期を含む)。</p>	6世紀末葉。	
472	2808	郡家遺跡第83次		<p>〔石島三和「集落の変遷—水田、植生、自然災害—」pp138-140〕p138: (古墳時代中期について)この時代2~3回以上の洪水災害に見舞われ、洪水の度に水路の水深が浅くなり続ける。南端まで拡大していた居住域は50年程度で別の場所に移動したと見られ、放棄された南端部の住居の上にはやがて遺物包含層が堆積しはじめるが、南での水田経営は継続していた可能性が高い。地震痕跡が多数残されていることから、この時期大型地震にみまわれたとみられ、あるいは居住区の移動および集落縮小の原因とも考えられる。(古墳時代後期について)集落はじまって以来最大の洪水災害にみまわれ、水田埋没。生産基盤を失い一旦集落としての機能は大幅に縮小したか、停止した可能性が高い。p139: (前略)古墳時代中期の集落を頻繁におそった災害は、単なる自然災害ではなく、あるいは大規模な伐採によるものとも考えられる。p140: 本調査区で確認した建物址はどれも洪水砂ではなく、包含層により埋没していることから見て、洪水→洪水(→洪水)→地震・洪水→大洪水といった災害プロセス(5世紀後半~6世紀初頭の50年程度に繰り返されたものである)のうち、地震が起こったあたりで御影中町付近まで拡大していた居住区は放棄され、これを契機に集落の小規模化が始まったのではないかと考えられる。ただし水田を覆う洪水砂層から出土する土器から見て、水田そのものが埋没して放棄されるのは6世紀後半と考えられる。(中略)包含層上にMT85型式併行期頃と思われる古墳状の方形区画が残されており、29次調査でも6世紀後半の住居址などが確認されていることから、この時期まで集落は中期より規模を縮小しつつ存続していたと考えられる。</p>	<p>★古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回以上))。△6世紀後半(MT85)。</p>	古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回))。	洪水が3回あったとして集計。p14も参照。
473	2808	郡家遺跡第83次		同上。	<p>★古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回以上))。△6世紀後半</p>	古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回))。	洪水が3回あったとして集計。p14も参照。
474	2808	郡家遺跡第83次		同上。	<p>★古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回以上))。△6世紀後半</p>	古墳中期(5世紀後半~6世紀初め(3回))。	洪水が3回あったとして集計。p14も参照。
453	2809	坂元遺跡		<p>〔青木哲哉「坂元遺跡における地形環境」p99~114〕114: 現氾濫原は、白ヶ池川流域で扇状地、別府川沿いで旧河道が埋没する過程で生産域に利用された。これらの埋没がなされていた8世紀の現氾濫原は、洪水が多発する低湿な環境であった。そのため、洪水に伴うシルトを土壌に水田稲作が営まれた。(中略)その後洪水は繰り返され、白ヶ池川流域では中世後期までと江戸時代にも砂やシルト質砂が堆積した。</p>	★8世紀。	8世紀。	

454	2809	坂元遺跡			[西口圭介「条里型地割の復元と集落の考察」pp146-152]p146:坂元遺跡における正方位の方格地割を条里型地割プランA、北東に軸をもつ方格地割を条里型地割プランBとしておく。p147:(条里型地割プランBについて)(前略)坂元遺跡では32区・33区・40区において検出された畦畔の側溝は、何れも9世紀代と考えられる黄白色洪水砂礫によって埋没あるいは被覆されている。(中略)条里型地割プランBの方格は、少なくとも坂元遺跡においては8世紀後半には成立し、一部が9世紀入って埋没したことが明らかである。	★9世紀。▼8世紀後半～9世紀。	9世紀。	
447	2810	柴遺跡	基本層序	Ⅲ	p13:埋没した谷の凹部には黒褐色の湿地性堆積物が堆積しており(Ⅲ層)、上半部がA地区では生活面、B地区では洪水砂が入り、水田土壌として人為的に攪乱されている。(中略)柴遺跡が存続している8世紀から11世紀の間、9世紀代までの遺構・遺物はこのⅢ層、主にⅢ-1層中より検出されており、(後略)。	★8世紀～9世紀。▼8世紀～9世紀。	8世紀～9世紀。	
457	2811	白水遺跡第3次		第2遺構面の上	p54:第2遺構面では、水田17面と溝1条が検出された。(中略)水田耕土層を覆う洪水砂層からは、TK209型式の須恵器が出土しており、水田の時期は古墳時代後期後半の6世紀末頃と考えられる。	▼6世紀末。○TK209。	TK209(600～610年代)。	
426	2812	砂入遺跡	Ⅱ区	下層2期	p20:砂入Ⅱ区では洪水堆積物によって大きく分けられた上下2面の遺構面を検出した。[渡辺昇「第5章:まとめ/第1節:遺構について/砂入Ⅱ区の遺構について」pp61-63]p61:(砂入Ⅱ区の遺構は)大きく上層と下層の2時期に分けられる。その中でさらに小分類することができる。p62:下層2期は砂入Ⅱ区で最も祭祀が行われた盛期を示している。今まで溝を対象として祭祀遺物を流していたのに加えて道が利用されるようになったのが、最も大きな祭祀の変化である。祭祀のお壊れた場所も当然拡大したことになる。SD18以外に北側のSD17やSD18の両岸が拡大された場所である。洪水砂の間層があることから、数度となく祭祀が繰り返されていたことが明確で、遺物の単位も把握できる資料である。(中略)上層1期の時期は洪水砂が大きく入り込み、自然堤防が形成されていく時期でⅡ区では明確に祭祀は行われておらず、遺構も検出されていない。(中略)上層2期は再度、Ⅱ区に遺構が築かれる時期である。(中略)上層3期はⅡ区で再度洪水砂に覆われ、遺構が認められない時期である。p63:(前略)下層1期はSD18最下層やSD19の底面出土遺物から7世紀前半でも古い時期(初頭)になるものと思われる。下層2期は、砂入地区で最も祭祀行為が盛んだった時期で、飛鳥Ⅳ期を前後する時期と考えられる。そして全く遺構のない上層1期を経て様相が一変する人形などの祭祀遺物も大型化し墨書のものが一括出土するようになる。上層の遺構からは平城宮期の土器が見られ、袴狭遺跡の延暦16(797)年の紀年銘の木簡が出土しており、8世紀末前後に相当することが想定される。その上層には厚く洪水堆積物が存在し遺構が認められないことから、10世紀初頭の禁制木簡の時期まではくたらないことが確実である。すなわち砂入Ⅱ区の遺構は7世紀初頭から9世紀初頭の約2世紀に渡って営まれた祭祀遺跡と考えられる。	★飛鳥Ⅳ期。	飛鳥Ⅳ(680年代～700年代前半)。	
427	2812	砂入遺跡	Ⅱ区	上層1期	同上。	★8世紀末。	8世紀末葉。	
417	2813	住吉宮町遺跡	平成元年度調査	Ⅲ	p17:Ⅱ層は、旧地表及び塵芥を含む近現代～戦前期を中心とした堆積である。Ⅲ層は土石流の堆積である。標高24.00mを中心にⅠ～Ⅳ区にかけて出現する。Ⅳ層は近代の水田土壌である。	▼近代。△昭和戦前期。	近代。	
418	2813	住吉宮町遺跡	平成元年度調査	Ⅵ	p17:Ⅴ層は、標高22.50mにある18世紀以降の畑である。(中略)Ⅵ層はⅢ区を分断している土石流である。p18:Ⅶ層は近世の水田土壌である。	▼近世。△18世紀以降。	17世紀～18世紀?	
419	2813	住吉宮町遺跡	平成元年度調査	XⅡ	p18:XⅠ層はⅡ～Ⅳ区の標高22.0mを中心に出現する奈良～鎌倉時代にいたる水田土壌層である。p19:XⅡ層は6世紀末の洪水砂である。古墳を被覆する洪水砂として周辺地で広範囲に確認されているが、本調査区では、Ⅱ区の3・4号墳・土坑3を埋没させる層として遺構内でのみ検出されている。	★6世紀末。△奈良。	6世紀末葉。	
435	2813	住吉宮町遺跡第33次	基本層序	10	p16:(基本層序の形成は全12段階に分かれる。)p17:(第6段階について)洪水起源の堆積物(第10層)が堆積する。第4段階で形成された中央部の微高地の東側でのみ確認され、この堆積により微高地は東側へ拡大する。(第7段階について)土壌層(第7～9層)が形成される。古墳時代前期の遺物を包含する。(後略)	▼弥生中期～終末期。△古墳前期。	弥生後期末葉～古墳前期前半?	

436	2813	住吉宮町遺跡第33次	基本層序	6	p16:(基本層序の形成は全12段階に分かれる。) p17:(第8段階について)洪水起源の堆積物(第6層)が堆積し、微高地はさらに東側へ拡大する。(第9段階について)土壌層(第5層)が形成される。	▼古墳前期。	古墳中期?	
455	2813	住吉宮町遺跡第17次		Ic	p17・19:第Ic層の灰青色砂層は遺物を含まず、(中略)昭和13年の阪神大水害時に堆積した砂の層と考えられる。	★1938年。	1938年。	
456	2813	住吉宮町遺跡第17次		IVの下	p52:(古墳時代後期(第5遺構面について)第4遺構面の基盤となっていた第IV層の下には、純粋な黄色砂層が厚く堆積している。この砂層は洪水によって運ばれてきたものであり、土層断面からは墳丘の断面形に沿って堆積していることがわかる。これにより、古墳の周溝だけでなく、古墳自体も埋没していたことがわかる。p62:本古墳群の存続時期は、TK208~MT15期と考えられる。これは、第5遺構面より上位で出土する遺物も最も古いものが、MT85期であることからいえることである。	▼TK208~MT15。△MT85。	6世紀(MT15~MT85)。	
460	2813	住吉宮町遺跡第24次	古墳群		p19:(2号墳の周溝について)上層では洪水による淡黄色細砂が堆積している。この洪水砂は1号墳と4号墳の周溝でも見られる。このことから、古墳が造られた後、ある程度の時間は古墳の形が顕れていたが、暫くして洪水で一気に埋まったものと考えられる。p38:(古墳群の古墳は)4基同時に洪水によって埋まったものと考えられる。その時期は確定できないが、2号墳の造られた時期からさほど降らない時期で、6世紀の初頭前後と考えられる。	★6世紀初頭。	6世紀初め。	
461	2813	住吉宮町遺跡第32次		(1号墳周溝)	p133:住吉宮町遺跡でこれまでに見つかった古墳の多くは、周溝内を洪水砂で覆われており、このことから、洪水により埋没した古墳群であると考えられてきた。(中略)(調査区(古墳群)の)造営期間は、TK208型式からTK10型式併行期の間にわたり、その間には幾度か河川の氾濫による洪水に遭い、なかでもTK47型式以降MT15型式併行期の間に起こった大洪水で、それ以前の古墳はわずかに墳丘の高まりを残す程度まで埋没してしまふ。	★TK47~MT15型式併行期。	TK47~MT15(480年代~530年代前半)。	
466	2813	住吉宮町遺跡第35次	1号墳周溝		pp24-26:1号墳周溝を埋める洪水砂。6世紀初頭の洪水痕跡と考えられているが、今回の洪水砂が第24次調査のものと同かどうかは不明。	★6世紀初頭。	6世紀初め。	460と同一のものとみなした。
467	2814	大開遺跡第10次	西壁	3c(p48:fig.37)	p48(fig.37):1938年阪神大水害の際の洪水砂。	★1938年。	1938年。	
434	2815	高松町遺跡	基本層序	IV	p13:(IV層は)厚い洪水砂層。(中略)IV層は、調査区のほぼ全域にわたり、厚さ20~100cmで堆積している。砂質層が、弥生時代の水田面である粘土層を直接覆い、かつ堆積が厚い点から、弥生時代の水田耕作がまだ営まれていたときに大きな洪水が当地で起き、砂の堆積が形成されたと考えられる。弥生時代の水田土壌がV層以外に上方で見られないことから、洪水砂の堆積数十cmを再開せず、そのまま当地の水田は放棄されたものと考えられる。p18:IV・V層から、弥生時代後期~終末期頃のものと思われる土器の細片が少数出土したことが、水田の時期の特定根拠であるが、(後略)。	▼弥生。○弥生後期~終末期。	弥生後期末葉。	
423	2816	玉津田中遺跡辻ヶ内地区			p11:辻ヶ内地区では土層堆積を、おおよそ10の段階に分類した。(第I段階は)近現代の盛土・耕土・洪水砂である。洪水砂は地区を広く覆っており、坪境の水路を一気に埋積している。特に地区の西北部の堆積が厚く、本来旧河道のために低かったはずの水田面が、現状では一段高くなっている。地元の方の話では、この洪水砂は昭和13年の阪神大水害によるもので、それ以来水路は埋もれたままのことである。	★1938年。	1938年。	
496	2817	月若遺跡第89地点			p9:調査区中央から東にかけては、厚い盛土層下に旧河道埋没後の近世以降の耕作土壌と阪神大水害のものと思われる洪水砂で覆われている。	★1938年。	1938年。	
477	2818	津知遺跡第17地点	基本層序	5	p19:当地点で観察された土層は、大きくみて、上層から現表土・攪乱土層(第1層)、(中略)、近世水田耕作土層(第4層)、中世洪水砂層(第5層)、古代遺物包含層(第6層)、(中略)、無遺物層(第19・20層)に分けることができる。p19:(第5層に)包含される遺物の時期は11~13世紀までの幅をもつ。[佐藤隆春「津知遺跡第17地点の地質」pp53-54]p54:(前略)13世紀に洪水によって細粒~中粒砂が流入し、第5層が堆積する。(後略)	★13世紀。▼古代。○11世紀~13世紀。	13世紀。	

478	2818	津知遺跡第17地点	基本層8序	p19:当地点で観察された土層は、大きくみて、上層から現表土・攪乱土層(第1層)、(中略)、古代整地層(第7層)、古代洪水砂層(第8層)、古代水田耕作土層(第9層)、(中略)、無遺物層(第19・20層)に分けることができる。p21:(第7層上面の第2遺構面)の形成時期を厳密には10世紀代と推測する。(中略)第8層には6~9世紀の土器が含まれている。(中略)(第8層に覆われた)第3遺構面は8世紀~9世紀の水田面と考える。	▼8世紀~9世紀。○8世紀~9世紀。△10世紀。	9世紀~10世紀。
479	2818	津知遺跡第17地点	基本層10序	p21:第9層以下は、水田耕作土である粘土層と洪水砂層の互層堆積となる。(中略)第10層は砂礫層で、直径5~15cmの礫を含んでいる。洪水砂層で、当層に覆われた面が第4遺構面である。p29:(第IV遺構面)は第10層に含まれる土器から、飛鳥時代(7世紀)の水田面であることがわかる。	▼7世紀。△8世紀~9世紀(第3遺構面)。	7世紀~8世紀。
480	2818	津知遺跡第17地点	基本層12序	p21:第9層以下は、水田耕作土である粘土層と洪水砂層の互層堆積となる。(中略)第12層は、細砂~粗砂で形成される洪水砂層である。6~7世紀の土器を包含していた。p32:第5遺構面は洪水砂層(第12層)に覆われ、(中略)古墳時代後期~飛鳥時代(6~7世紀)の水田跡であることがわかる。	▼6世紀~7世紀。△7世紀(第4遺構面)。	7世紀。
481	2818	津知遺跡第17地点	基本層14序	p21:第9層以下は、水田耕作土である粘土層と洪水砂層の互層堆積となる。(中略)第14層は細砂~粗砂で構成される砂層で、第6遺構面を覆っている。当層は須恵器を含んでおらず、土器の小片が出土したのみである。p33:(第6遺構面)は古墳時代前・中期(4~5世紀前半)の水田である可能性が高い。	▼4世紀~5世紀前半。△6世紀~7世紀(第5遺構面)。	5世紀~6世紀。
482	2818	津知遺跡第17地点	基本層17序	p21:第9層以下は、水田耕作土である粘土層と洪水砂層の互層堆積となる。(中略)(第7遺構面)は4世紀に形成されたものである。第17層は細砂~中砂層で、第7遺構面を覆う洪水砂である。当層からは、3世紀代の土器が出土した。(中略)第4~7遺構面の水田面を覆う砂層が細砂であり、層厚も薄いことから、規模の小さな洪水が頻繁に起こっていたことが推測される。	▼4世紀。△4世紀~5世紀前半(第6遺構面)。	4世紀。
493	2818	津知遺跡第222地点	基本土層1b	p19:(1b層)は灰黄色~淡黄色粗砂。調査区西壁において観察した層厚20cm程度のしまりの悪い洪水砂層。昭和13年の阪神大水害によるものと推定。	★1938年。	1938年。
476	2819	寺田遺跡第95地点	基本層8序	p6:(第7面直下の第2面では)庄内式併行期~古墳時代後期の竅穴住居などを検出した。(中略)第8層は淡黄色砂層で、洪水砂である。下部が極細砂、上部が細砂~粗砂から構成されており、流水の勢いが次第に増していったことがわかる。この洪水砂が谷とSR02両遺構を完全に埋めていた。庄内式併行期の土器を含む第9a層、第9b層はSR02と谷が形成された後、土壌化した層である。p25:谷とSR02・03は基本土層との関係や埋土から、弥生時代後期後半から庄内式併行期に形成され、布留式古段階に埋没したと考えられる。(中略)当調査区では、最深部の遺構面である第5面(弥生時代中期初頭)から、第3面(古墳時代前期)までに少なくとも3回の土石流または洪水(第8・10・12層)があったことが確認された。特に、第5面を覆う第12層は層厚1.4~2.8mにも達し、それまでの微地形を完全に埋めてしまっている。	★布留(古)。▼弥生後期後半~庄内。	布留(古)。
489	2819	寺田遺跡第120~122地点	15	p82(第87図):(第15層は黒褐。シルト混じり細砂~粗砂。SD15埋土。)p86:(SD15は)調査区南端に位置する。p87:当溝は一度に埋没したものではなく、埋没→再掘削→掘削のパターンを繰り返して埋没している。今回の調査した範囲の中では、断面観察によると上記のパターンが少なくとも5回認められた。(埋没1として)洪水により第8層(p86:第91図)が埋没する。(中略)次の洪水により第7層が堆積し、(後略)。p88:(SD15の時期は)弥生時代後期後半と考えられる。	○弥生後期後半。	弥生後期後半。
490	2819	寺田遺跡第117~124地点		[山田清朝「地形環境の変化と遺構の変遷」pp110-117]p110:(遺跡では)今回の調査で検出した遺構のなかで最も古く遡るのは、弥生時代後期中葉の第120~122地点第2面SD15である。以後、中世後期まで10段階におよぶ断続的な遺構の変遷をおうことができる。p111:(第5段階(布留式初頭)について)第117・118地点(第3面)に限られる。洪水により、前段階までに形成された集落が一旦廃絶する。(後略)	★布留式初頭。△12世紀(第6段階)。	布留(初)。 布留古段階と同一に扱った。

491	2819	寺田遺跡第117~124地点	第119地点		〔山田清朝「地形環境の変化と遺構の変遷」pp110-117〕p110: 今回の町で検出した以降のなかで最も古く遡るのは、弥生時代後期中葉の第120~122地点第2面SD15である。以後、中世後期まで10段階におよぶ断続的な遺構の変遷をおうことができる。p111: (第6段階(12世紀)について)第5段階以降洪水砂が堆積し、土壌層Aの上層が形成される。第117・118地点第2面。第119地点第2面・第120~122地点第2面と、範囲がひろがる。柱穴(第119地点第3面)に代表されるように集落として利用される。また、その周縁的要素として、土坑・落ち込みなども形成される。p115: (第7段階(12世紀)について)第119地点において、前段階の上層に洪水砂の堆積が認められる。ただし、第117・118地点と第120~122地点においては、土層的には変化は認められないことから、小規模な洪水と考えられる。また、土器の分析においては、第6段階と明確な時期を認めることはできなかった。このため、前段階とその時期差はわずかなものと考えられる。(第8段階(13世紀)について)前段階と変化は認められない。	★12世紀。 ▼12世紀。 △13世紀。	12世紀。	
494	2819	寺田遺跡第167地点	1区第2遺構面SD201		p104: (SD201は)調査区の東半部を被覆する洪水砂、淡灰茶色極細砂を除去した下面から検出した溝である。p105: SD201からは多くの遺物が出土した。これらの出土遺物は概ね平安時代後半(11世紀後半~12世紀前半)の時期のものと考えられ、調査区北東部に当該時期の集落域が示唆され、この時期に発生した洪水により流入したものと推定される。	○11世紀後半~12世紀前半。	12世紀前半?	
445	2820	伝平等寺跡遺跡			p8: (0~2段階のうち1段階について)出土遺物から伝承による安政期の山崩れによって退転した平等寺の段階と推定される。p12: 伝平等寺跡では上段地区と下段平坦面の2地区を調査した。(中略)下段平坦面では12世紀中頃に平坦面が形成されるが、13世紀初頭と近世の2度にわたって土砂崩れが発生している。この土砂崩れによって、13世紀前半(礎石建物段階)と近世(平等寺段階)に堂舎(寺院)の破壊ないし損壊を蒙っており、少なくとも近世段階には移転を余儀なくされたことは前述のとおりである。	▼13世紀前半。★13世紀初頭。	13世紀初め。	
446	2820	伝平等寺跡遺跡			同上。	★近世(安政期)。▼近世。	1854年~1859年(安政)。	
438	2821	中山手西遺跡		I d~I h	p8: 洪水性堆積物と考えられる I d層~I h層は、昭和13年の阪神大水害時に流入した可能性がある。	★1938年?	1938年。	
420	2822	西岡本1丁目遺跡		Aの上	p5: 調査地点では、旧中州と旧河道の一部を検出した。北東端の旧河道部には住吉川の氾濫堆積物(H層)と湿地性堆積物(G層)が互層をなしており、(中略)その上面のF層は洪水砂と思われ無遺物層である。E層は粗砂とシルトで構成されており上面に足跡が見られることから水田の可能性もある。D層は中~粗砂の洪水砂である。その上のC層は更に3層以上に分層できるが不明瞭である。中世以降のおそらく16世紀までの水田土壌層と考えられる。その上面を洪水砂であるB層が覆っている。A層は土壌化しており、畝状の凹凸が見られることから近代の畑であろう。調査区内で最高40cmの石垣を伴う段差を持って4枚に分けることができる。その近代の畑を最高2.2mの厚さで覆っている洪水砂は、おそらく昭和13年にこの地方を襲い、特にこの住吉川周辺に多大な被害を与えた「阪神大水害」に伴うものと考えられる。	★1938年。 ▼近代。	1938年。	
425	2823	西ヶ原遺跡	C地区	13b	p21: C地区は毛谷から供給された土砂による土石流タイプの扇状地の先端部分にあたる。(中略)毛谷から供給された土石流は4b層と13b層の2層認められ、少なくとも2回の土石流が発生したことが確認された。特に13bのものは、弥生時代末のSD02を埋没させていることから比較的近い時期に発生したものと思われる。4bのものは、中世の遺物を包含していることからこの時期以降のものであろう。	★弥生末期に近い時期。 ▼弥生末期。	弥生後期末葉?	

470	2824	西郷古酒蔵群 第4次・大石東 遺跡	近世水 路遺構			p36:近世遺構はこの自然堤防上に築かれた遺構で、遺構埋土内の出土遺物からみて、18世紀ごろを中心とした江戸時代の水路遺構であることがわかる。水路は江戸時代のうちに洪水等で埋没し機能を失ったと見られるが、水路して機能していた間に少なくとも3度、改修された痕跡を確認している。p57:近世水路以降に関しては、3回の補修、改築などをへた痕跡を確認しており、時期的には水路1期～4期にわけることができる。水路は洪水で埋没するたびに作り直されたと見られ、埋没のたびに新しく石を組みなおしている。最終段階の埋没は出土遺物から18世紀後半から末と考えられるが、この埋没後に再建されることはなかったようである。p58:(近世の水路について)水路遺構は、埋土土質からみて、度重なる洪水で埋没するたび3度にわたり改修・改築を施された果てに、洪水によって最終埋没したものと判明している。水路内から出土した肥前系磁器によって、水路が洪水で最終埋没したのは18世紀末の出来事と判断できる。しかし下層の水路からの出土遺物が少ないため、最初に水路が築造された年代は正確に判定できない。(後略)p59:(水路から)栽培植物(商品作物)の炭化物が出土した点については、単なる裏作物である小麦の収穫時期に、大石村が洪水に見舞われその結果として作物が土砂内に多く混入した可能性も否定できない。とすれば洪水が起こった時期は収穫期である春ころであろうか。	★18世紀後半。	18世紀後半。	
429	2825	袴狭遺跡	衛下地 区	19	p34:衛下地区では、奈良時代から中世にかけて継続的に営まれた水田を確認した。いずれの土壤層の上面を礫混じりの洪水砂が厚く覆い、廃絶と生成を繰り返していた状況が窺える。調査区内の堆積は全部で21層を数える。p35:(第1水田面は)最も下層に存在する。(中略)田面は直上に堆積する第19層:褐色礫混じり粗砂の影響による起伏が顕著で、水田造営当時の状況は検出できなかった。(中略)水田の営まれていた時期は、出土土器から8世紀中頃と考えられる。	▼8世紀中頃。△8世紀中頃?(第2水田面)	8世紀中葉。		
430	2825	袴狭遺跡	衛下地 区	15	p34:衛下地区では、奈良時代から中世にかけて継続的に営まれた水田を確認した。いずれの土壤層の上面を礫混じりの洪水砂が厚く覆い、廃絶と生成を繰り返していた状況が窺える。調査区内の堆積は全部で21層を数える。p36:(第2水田面は)水田土壤層は、調査区東半部に分布する。上層は洪水砂礫と考えられる第15層:灰褐色中～小礫混じり粗砂が20cmの厚さで堆積しており、洪水によって畦畔や水田に関する施設は消失したと考えられる。(中略)出土遺物の示す年代感には、第1水田面と大きな違いがない。洪水による第1水田面の廃絶後、直ちに造営されたと考えられる。	▼8世紀中頃。△8世紀末～9世紀初頭(第3水田面)。	8世紀後半?		
431	2825	袴狭遺跡	衛下地 区	11	p34:衛下地区では、奈良時代から中世にかけて継続的に営まれた水田を確認した。いずれの土壤層の上面を礫混じりの洪水砂が厚く覆い、廃絶と生成を繰り返していた状況が窺える。調査区内の堆積は全部で21層を数える。p36:(第3水田面は)水田土壤層は、調査区の西端付近を除く全面で確認された。(中略)土壤層の上面は、第11層:黒褐色礫混じりシルトが堆積する。円礫が含まれ、速い流れによって形成された様子も見て取れるが、畦畔を押し流すほど強いものではない。遺物は、水田面直上および土壤層中から土器・木器が出土した。これらの年代感から、水田は8世紀末～9世紀初頭に営まれたと考えられる。	▼8世紀末～9世紀初頭。△9世紀前半(第4水田面)。	9世紀前葉。		
432	2825	袴狭遺跡	下坂地 区基本 層序	(9)、 (10)	p39:腐植土層(11)層・(12)層の上には厚く洪水砂が堆積している。(中略)(9)層には19世紀代の出石焼片が多く混入しており、江戸時代後期の洪水に起因した可能性が高い層である。	★江戸後期。○19世紀。	江戸後期(19世紀以降)。		
424	2826	東武庫遺跡		V	p17:(第V層は)調査区東側以外のほぼ全面に認められ、第Ⅲ・Ⅳ層と同様に安定した堆積である。p20:第V層は比較的厚く、また中砂～極細砂で比較的粗い砂粒から成っていることから、この時期に広範囲に洪水砂が供給されたことが考えられる。この状況を武庫川が形成した完新世段丘Ⅱ面を覆う洪水砂とすると、第V層が鎌倉時代以降に相当し、第Ⅳ層が奈良～平安時代に比定することができる。また、同地域に立地する上ノ島遺跡の調査成果では1712年の大水害時に供給されたと考えられる黄色細砂が確認されており、この層に第V層が対応するとすれば、時期は全体に新しくなる可能性がある。	★1712年?	1712年?	中央気象台・海洋気象台(1939:121)には8月3日付けで「京都並備前、摂津諸国 大風雨、洪水」とあり、これに対応した洪水痕跡とみられる。	

437	2827	兵庫津遺跡浜崎地区・七宮地区	浜崎地区11区	第II面直上	p28: 第II面は昭和13年の阪神大水害時の洪水砂にパックされた面である。(中略)時期は不明だが、遺構面の埋没状況を考えると近世以前に遡ることはないと考ええる。	★1938年。 ▼近世以降。	1938年。	
469	2828	兵庫松本遺跡第2～4・12・17・19次	第17次-2調査区	第1遺構面	p79: (第1遺構面は)現地表面下1.1～1.3m(標高8.1～8.3m)で検出した。出土遺物から、弥生時代末～古墳時代初頭頃の遺構面と考えられるが、河道あるいは洪水の痕跡と考えられる溝状の窪みを数ヶ所検出したのみで、その他に明確な遺構は検出されなかった。	★弥生末期～古墳初頭。	弥生後期末葉～古墳前期初め。	
464	2829	深江北町遺跡第9次	4～5区		p11: (第2遺構面の)下層には淡灰色砂礫など古墳時代後期以降と考えられる洪水砂が堆積しており、須恵器・土師器・弥生土器が出土している。(後略) p149: (前略)深江北町遺跡では弥生時代中期に集落の形成が始まり、弥生時代末～古墳時代初めに砂堆上が墓地として利用され、この周辺の後背湿地には水田域が広がっていた。しかし、古墳時代後期前半には洪水砂によって、すっかり埋没してしまう。	★古墳後期前半。	古墳後期前半。	
433	2830	丸塚遺跡	97年度調査区		p17: (A地区について)本地区では現地表面下約1.2mで小区画水田跡を8筆検出した。水田土壌は非常に粘質の灰色シルトで、その上層には明褐色・黄褐色・黄灰色の細粒砂～中礫の砂礫層が0.8～1mの厚さで堆積していた。この砂礫層は洪水による堆積と考えられる。p18: (B地区について)水田土壌はA地区同様灰色シルトで、非常に粘質である。水田面上層には洪水による砂礫層が堆積していたが、それらは調査区中央部西寄りの最も厚いところで約80cm、東側は約30cmであるが、東端付近で徐々に薄くなり、その上に黄褐色の粘質土等が堆積している。p20: C地区で確認した水田は、砂礫が堆積している調査区北西部に限られ、(後略)。p20: 今回検出した水田跡は出土土器より弥生時代後期末～庄内併行期と思われる。p32: 弥生時代後期末の水田が廃絶された要因は、この、榎谷川の氾濫による洪水砂の多量の堆積であり、この砂礫をもたらした自然堤防決壊部分が図で示した攻撃面であることは疑う余地がなかろう。大洪水のあと、部分的に水田を再構築したようであるが、大半は放棄されたものと思われる。	▼弥生後期末～庄内。	弥生後期末葉。	
462	2831	御蔵遺跡	5丁目南地区の第1調査区	5b～5d	p78: (基本層序は上から)1.表土、2.3.近・現代の耕作土、4.淡灰褐色粘質砂、5-b～5-d.乳灰色粗砂～細砂、黄灰色シルト、灰色砂質粘土(庄内式併行期の土器を含む。この時期の洪水堆積物と考えられる)、5.黄灰色シルト質粘土(無遺物の堆積層。庄内水田層の可能性が高い)。p78: 砂層。庄内期の土器を含み、この時期の洪水性堆積物と考えられる。p80: 第5-b～5-d層となる洪水性の堆積層は、低地部分にだけ堆積していて、東端の高い部分には見られない。p82: (前略)5丁目南地区でもっとも北西に位置する第1調査区は、弥生時代後期末(庄内式併行期)には、人間の活動に適さない低湿地と微高地の境界地点であったと考えられる。洪水性堆積物はこの低地部分にだけ堆積していたが、これは低湿地が庄内式併行期に洪水などの自然作用で急速に埋没したことを示している。p108: (6丁目南地区について)灰色粘質シルト層の直下には、庄内式併行期の遺物を出土する洪水性の堆積層が見られる。これは5丁目南地区第1調査区で確認した洪水砂と同じものであると考えられる。(後略)p129: (前略)(弥生時代後期末の水田を覆う)洪水砂は当遺跡の西半に一樣に見られ、この水田域をほぼ同時に覆ったものと考えられる。	★庄内期。 ○庄内期。	庄内期。	
463	2831	御蔵遺跡			p129: (弥生時代後期末の)遺構に続く時期の遺物を含む遺構は5丁目南地区第2調査区SX301や5丁目北地区第4調査区SP302等、かなり少なくなる。この集落は、弥生時代後期末に始まるが、存続期間は短く、古墳時代前期の初頭には急速に衰えたものと考えられる。その理由としては、前記した水田層を覆う洪水砂が見られるように、頻繁に起こったであろう洪水によるものと考えられる。	★古墳前期初頭。▼弥生後期末～古墳前期初頭。	古墳前期初め。	

440	2832	溝之口遺跡	H地区		p31(SR006H)は加古川あるいはその支流による氾濫によって形成された落ち込みである。落ち込みは湿地化の後、水田として利用されたと考えられる。なお湿地化した時期にはゴミ捨て場として利用されており、13世紀後半から15世紀前半にかけての土器・瓦や鉄鏃など多くの遺物が出土している。p33:(H地区について)(前略)本格的に集落として開発されるのは12世紀後半頃からである。以後、掘立柱建物跡は13世紀前半までのうちに4時期の建て替えが認められる。13世紀には河川の大きな氾濫があったようで、地山面が抉られ、湿地が形成されている。(後略)p65:(中世V期について)H地区では洪水により西側が抉られている。この影響により、集落は一度断絶する。洪水により、まず13世紀中頃に北側のSR080Hの部分が削られており、さらに南側のSR006Hの部分が削り取られ、窪みとして残ったと考えられる。嘉禄年間(1225~1227)に大洪水が起こったと伝えられるように、この時期に洪水が相次いだのかもしれない。	★13世紀(中頃)。	13世紀中葉。	
449	2833	宮内堀脇遺跡		1	p13:幕末洪水砂層。p192:近世I面は畠状遺構を検出している。上面に被覆する洪水砂層中に19世紀代の出石焼を含んでいることから19世紀代の畠である可能性が高い。各年度において確認できる。この時期の洪水砂は袴狭地区においても確認・報告されており、沖積地を広い範囲に覆う洪水が発生したことが明らかである。	★幕末。▼19世紀。○19世紀。	江戸末期。	
450	2833	宮内堀脇遺跡			[青木哲哉「宮内堀脇遺跡における地形環境と土地改変」p155~162p157:(ステージ2:出石川の洪水に伴うシルトが次々に堆積し、後背湿地が発達した。そこでは奈良時代と平安時代後期に水田が作られた。ステージ3:引き続きシルトが堆積した後、鎌倉時代にはまず水田稲作が行われた。次に入佐川の洪水によって砂礫がもたらされ、支流性扇状地の扇端地が調査区付近まで発達した。ステージ6:慶長年間(1596~1615年)になると、入佐川と出石川の洪水が各1度及び、砂礫とシルトが堆積した。ステージ7:江戸時代中~後期にも、砂礫とシルトが洪水に伴ってもたらされた。)	★慶長年間。(2回)	1596年~1615年。(2回)	
451	2833	宮内堀脇遺跡			同上。	★慶長年間。(2回)	1596年~1615年。(2回)	
452	2833	宮内堀脇遺跡			[青木哲哉「宮内堀脇遺跡における地形環境と土地改変」p155~162p157:(ステージ2:出石川の洪水に伴うシルトが次々に堆積し、後背湿地が発達した。そこでは奈良時代と平安時代後期に水田が作られた。ステージ3:引き続きシルトが堆積した後、鎌倉時代にはまず水田稲作が行われた。次に入佐川の洪水によって砂礫がもたらされ、支流性扇状地の扇端地が調査区付近まで発達した。ステージ6:慶長年間(1596~1615年)になると、入佐川と出石川の洪水が各1度及び、砂礫とシルトが堆積した。ステージ7:江戸時代中~後期にも、砂礫とシルトが洪水に伴ってもたらされた。)	★江戸中~後期。	江戸中期~後期。	
475	2834	本山中野遺跡第3次		3c	p8:3c:奈良時代?洪水砂。	★奈良?	奈良。	
428	2835	山本北垣内遺跡	4トレンチSD04		p18:(前略)上層の遺構は、SD04の東側では3トレンチ同様に中世の遺構で、SD04の西側では奈良時代末~平安時代はじめ頃の遺構と考えている。下層の遺構では、SD04は3トレンチと同じ状況で検出されている。西側は洪水で肩上部が削られており、その上に上層の遺構である溝SD05が築かれている。(中略)平面的には明確に調査で判断できなかったが、数回の洪水を受けていることは確実である。その際に溝幅を大きく西側から減少させている可能性が高い。最も大きな洪水だけ礫層の範囲が明確である。角礫の混ざった洪水堆積物が北西方向から溝内に入り込んでおり、その際に溝の西肩は大きく損傷したようである。新しい段階は、東肩はそのまま、西側は大洪水によって生じた砂礫層を掘り下げて、改めて幅を小さくした溝を築いている。最大幅で4.5m、深さ1.8mを測る。p19:遺物は奈良時代後期の遺物に限られている。	○奈良後期。△奈良末~平安初め。	奈良後葉(末葉を除く)。	奈良時代末葉は本稿では「760~800年」と定義している。本件はその中間を採り、780年を下限年代とした。
439	2836	横田遺跡			[青木哲哉「横田遺跡の地形環境」pp74-85)p84:12~13世紀には、古加古川の洪水によって砂質シルトやシルトがA地区西部の旧河道上に堆積し、旧河道は浅く埋没した。(中略)その後12~13世紀の間に、洪水が数度発生し、特にA地区の埋没旧河道上と支流性扇状地の扇端付近で主に砂質シルトの堆積がみられた。(後略)	★12世紀~13世紀。	12世紀~13世紀。	

492	2837	六条遺跡第18地点	第18地点	5	p48:(第5層は)調査区の大半で確認できた。河道中心は調査区より東にあり、当層はその右岸縁辺部にあたる。【遺構面Ⅱ】黄色礫混じり粗粒砂。3mm大の礫を多量に含み、東壁の中位と下位では10cm大の礫が帯状に観察できた。p53:(遺構面Ⅱは)第5層上面で精査し、(中略)(出土遺物の)下限時期は12世紀末であり、第Ⅲ遺構面に後続すると考える。(中略)(遺構面Ⅲについて)第6層上面、調査区全域で溝4本、土坑5基を検出した。(中略)(遺構面Ⅲの土坑1~5について)遺構埋土は、第5層の単一層で、まさにオーバーフローした洪水砂が遺構面をバックしたかの感がある。p56:(遺構面Ⅲの井戸について)出土遺物の下限年代では12世紀中頃に比定される。	▼12世紀中頃。△12世紀末。	12世紀後半?	
495	2837	六条遺跡第13地点	基本土層	6	p30:淡黄灰色粘質土層。(中略)洪水砂が土壌化したものである。第1遺構面の基盤層である。当層が第2遺構面を覆っている。p32:第6層からは、11世紀後半~12世紀代の須恵器・土師器など、古代末~中世の土器が出土している。p33:第1遺構面は13世紀、第2遺構面は11世紀後半から12世紀に比定される。	▼11世紀後半~12世紀。○11世紀後半~12世紀。△13世紀。	12世紀。	
458	2838	若松町遺跡	基本層序	6・10	p13:第5層は畠土壌である。つまり、下層の第6層・第10層とともに洪水に起因して堆積し、畠作に伴い土壌化した層が第5層と考えている。p14:(第6・10層直上の第1面は)弥生時代後期後半を中心とした時期と考えられる。(中略)(第6・10層直下の第2面の時期は)弥生時代後期と考えられる。	▼弥生後期。△弥生後期後半。	弥生後期中葉?	
459	2838	若松町遺跡	基本層序	3	p15:(第3層は)基本的には調査区全域で認められた。洪水により堆積した層を水田土壌化したもので、極細砂~粗砂からなる。(中略)当土壌層は12世紀以降に形成されたものと考えられる。この洪水砂上面から1の小型丸底壺が出土している。p45:畠5の東側に部分的に第4層が認められない箇所がある。この部分でわずかに第4層の下層にあたる洪水砂の堆積(第13図第5層上面)が認められ、この洪水砂上面から弥生時代後期末~古墳時代初頭にかけたの土器が出土している。[山田清朝「地形環境の変化と土地利用」pp49-50]p49(第5表):(弥生時代後期に2度、弥生時代末~古墳時代初頭の直前(第2面直上)に1度、洪水に伴う後背湿地の埋没が起こる。)	★弥生末期~古墳初頭の直前。	弥生後期後葉?	
483	2839	若宮遺跡第10-1地点	第10-1地点	1	p84:(第1層は)表土および白黄色細砂層(近代の洪水砂層)。	★近代。	近代。	
484	2839	若宮遺跡第10-1地点	第10-1地点	7	p81:第2遺構面のベース層となる第7層は洪水砂で、当遺構面では南北方向にのびる耕作溝が検出された。覆土である第6層には16世紀代の遺物が含まれており、ベース層である第7層には14~15世紀代の遺物が含まれていることから、第2遺構面は室町時代(16世紀代)の畠耕作面と考えられる。第2遺構面のベース層である第7層は、同時に第3遺構面を覆っている。(中略)第3遺構面は室町時代(15世紀代)の水田面と考えられる。p84:(第7層は)白黄色砂層、シルト~粗砂。(後略)	▼15世紀。△16世紀。	15世紀~16世紀?	
485	2839	若宮遺跡第10-2地点	第10-2地点	7	p103:第1遺構面は室町時代後半(16世紀以降)の水田耕作面と考えられる。第7層は第2遺構面を覆っている。細砂~粗砂からなる砂層で、洪水砂であると考えられる。(中略)第2遺構面は室町時代(15世紀代)の水田耕作面と考えられる。	▼15世紀。△16世紀以降。	15世紀~16世紀?	484と同一のもの とみなした。
486	2839	若宮遺跡第16-3地点	第16-2(2)・16-3地点	4	p131:(第4層は)中世末期と推定される氾濫堆積物。本層は16-3地点でのみ見られる。第16-2(2)地点では、畑地耕作土層の第3層形成時に削平され、残存していない。明瞭な逆級化を示しており、下部は水平葉理をなすオリーブ灰色シルト~極細粒砂、上部はプラナー型斜交葉理をなす極粗粒砂~細礫で構成される。(後略)p143:(第5・6層の上には)16世紀前後とみてよい氾濫堆積物がのっており(第4層)、(後略)。	★16世紀。	16世紀。	
487	2839	若宮遺跡第34地点	第34地点	7	p180:(第7層は)中世後半の氾濫堆積物および流路充填堆積物。灰白色中粒砂~細礫。(後略)p188:第8層は、出土遺物から15世紀末~16世紀前半に形成されたことが推定される。	★中世後半。▼15世紀末~16世紀前半。	16世紀。	486と同一のもの とみなした。
488	2839	若宮遺跡		1b	[佐藤隆春「若宮遺跡の地質」pp220-229]p224:(第1b層は)礫混じり粗粒砂である。層厚は第16-2地点で5cm、第10-1地点で10~40cmである。p226:(前略)洪水によって流路が充填し、その際の溢流によって第1b層が堆積した時期は19世紀末~20世紀初頭と思われる。	★19世紀末~20世紀初頭。	19世紀末葉~20世紀初め。	

499	2901	大野南池遺跡	東区	4	p158: (東区)のトレンチ東側では、3層の下位に灰色砂質土が堆積する(4層)。この4層は、平坦面を広げるための整地土と考えられる。土師器、瓦器、須恵器などの遺物を含み、およそ中世前期頃と考える。基盤層となる5層は、黄褐色シルトを主体とし、灰色砂質土を多く含む。深掘りをして確認したところ、標高44.6m付近で粗砂層の堆積に至った。高田川に由来する洪水砂と考えられる。5層上面、標高約45.4m付近で遺構検出をおこなった。(中略)4層中の遺物は12~13世紀のものが主体で、下層の溝はおおむねこの時期に埋没したと考える。	○12世紀~13世紀。	13世紀?	
926	2902	鴨都波遺跡第22次	2201区 の SX02		p286: SX02 トレンチの北寄りの位置で検出された北から南へかけての落ち込み。調査区内では南端肩を確認できなかったため、規模は20m以上ある。北端では深さ約0.3mを測るが、弥生時代中~後期頃の包含層を切っている。落ち込みの堆積は洪水に起因する粗砂層で、遺物には古墳時代後期頃の須恵器が含まれていることから、堆積の時期はおおよそ6世紀前半ごろと考えられる。このSX02の堆積もトレンチの南ではさらに後世の洪水砂に削平されている。	★6世紀前半。	6世紀前半。	
511	2903	下永東城遺跡	第1次・ 第2次 調査区 整地層		p75: (整地層)2条平行して掘られている第4・5号溝のうち、西側に位置する第5号溝をちょうど覆い隠すように、第5号溝をちょうど覆い隠すように、第5号溝の東岸から西側の調査区ほぼ全体に整地が行われていた。p78: (前略)古墳時代中期頃に起こる大きな氾濫によって、調査区の東側は遺構が消失するほどの削平があったようであるが、地形的に高ければ当然氾濫による削平を受けやすいはずである。こうした環境の違いが西と東の遺構の残存状況、そして整地事業を行わなければならない原因であったことが想定できる。	★古墳中期。	古墳中期。	
924	2904	シロカイト遺跡		VII	p312: VII層は東区に存在する旧河川(飛鳥川の本流)の堆積で、埋没年代は12世紀代と考えられる。 p315: 東区の北において、旧河川の粗砂堆積が認められた。これは12世紀代に埋没した飛鳥川の本流である。走向は現在の飛鳥川の走向に近い。底面の標高は約226.5mであり、現在の飛鳥川河床約223.5mより3mほど高い。底部付近は岩盤である。下から約1mは40cm大の巨礫を含む洪水堆積と考えられる。 p322: 12世紀以降の中世前半期にはこの埋没河道上に石敷郁夫が構築された。その性格の解明は今後の課題である。「世の中になにか常なるあすか川昨日の淵ぞ今日瀬になる(古今・巻18・933)」と古今和歌集に詠まれた飛鳥川であるが、12世紀という限定された時期における洪水災害、それに対応した周辺住民の諸活動を解明する手がかりが得られたことが最大の成果である。	★12世紀。	12世紀。	
500	2905	十六面・薬王寺遺跡第25次			p215: 1a・1b・2a区で検出した水田遺構(条里型水田)は、その堆積状況、水田面の標高などからみて、すべて同時期の水田とみて大過ない。2a区において、水田を覆う洪水砂中から川越編年II-B期にあたる比較的大きな瓦器椀片2点が出土している。これが洪水砂に覆われる時期を反映するものとすれば、ここにおいて検出した条里型水田は12世紀中頃に埋没したこととなる。この時期は田原本町多遺跡や広陵町・河合町箸尾遺跡における水田遺構では0期に該当するものである。	★12世紀中頃(川越編年II-B期)。	12世紀中葉。	川越俊一, 1983『文化財論叢』(奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集)
498	2906	東大寺旧境内第122次			p112: 古代の状況は明確に確認できず、鎌倉時代頃には河川の氾濫を受けている可能性があり、室町~江戸時代には東西溝が機能していたこと確認した。	★鎌倉。	鎌倉。	
693	2907	南郷遺跡群(南郷角田遺跡)	南郷角田遺跡の SX06		p299: 2期の段階には、「工房」は廃絶して、通常の集落として機能していたと考えられる。しかし、その期間も短く、その後5期に入ってその南側に川SX02が流れるほか、そのさらに南側には川(土石流)SX06が、集落を押し流すような形で、大きく流れる。SX06は、第2・第4トレンチの調査結果から、幅60m以上・深さ3m以上に及ぶ。それに含まれている土器は、2期~6期、さらに飛鳥時代に亘っておりその存続期間は長い。p304: (南郷角田遺跡について)(前略)集落の南端から西の縁辺部を横切る形で、大きな川(土石流)SX06が流れる。これは金剛山の土砂崩れに関係するものである可能性もあり、あるいは集落の廃絶理由と関わるかもしれない。当麻町太田遺跡で検出された地震痕跡と関わって、興味深い。	▼南郷5期(陶器II型式3・4段階)。 ○陶器I型式3段階~飛鳥。	陶器II型式3段階~飛鳥時代(560年代後半~690年代)。	南郷2期は須恵器の中村編年I型式3段階、南郷5期は同II型式3・4段階、南郷6期は同II型式5・6段階に相当(p298)。

510	2908	西坊城遺跡第2次・第3次	第3次調査区など	IV	p16: (中世包含層の)下はIV層灰白色粗砂で古墳時代の遺物が少し入り、中世の遺物はみられない。この灰白色粗砂層は古墳時代後期の洪水層と考えられ、これを除去したところのV層褐色粘質土上面で水田が検出された。p23: 水田の時期であるが、洪水砂層及び水田耕土からの出土遺物は非常に少なく全て細片である。それらの時期は古墳時代中期から後期前半のものであり、飛鳥時代以降の土器は全くみられない。また、下層に古墳時代前期の遺物を含む層がみられること、第2次調査区のSR01、02埋土の砂層と同一層である可能性が高く、ここからも土器が豊的に出土したにもかかわらず飛鳥時代以降の土器が全くみられないこと、第1トレンチにおいて洪水砂層の上に中世遺構面が形成されることから、水田の時期を古墳時代中期から後期前半と考えておきたい。p60: 第2次SR01、02、第3次SR03は壁土、埋没の時期から一連の流路であることが考えられる。また水田遺構を覆う洪水砂層も同様な白色粗砂であり、相互に対応する層位と考えられる。この白色粗砂層からの出土遺物は布留3式からTK47までの時期幅が考えられ、水田遺構の時期もTK47以前といえる。また、周辺の遺構、遺物の出土状況から布留式の後半からその直後の時期を中心とする集落が周辺に存在したことが指摘できる。また、検出された水田もこの集落の生産域であったことが考えられる。年代としては5世紀を中心とするものであろう。	★古墳後期。▼古墳中期～後期前半。○古墳中期～後期前半/布留3～TK47。△飛鳥。	古墳後期(飛鳥時代を除く)。	
497	2909	箸尾遺跡第14次	調査区西部		p7: 現代の洪水砂。	★現代。	現代。	
502	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	基本層序	VI	p23: (VI層は)灰褐色粗砂層。VII層を覆う洪水砂層で1～2mmの微細礫を含む灰褐色の粗砂を一般とするが、色調は灰色、黄灰色など多様である。砂層の下部では細砂、微砂を呈することが多い。とくに田面の足跡や耕作痕跡内には微砂が嵌入する。遺物はきわめて少ないが共伴する瓦器片などから13世紀中頃の洪水堆積物と考えることができる。	★13世紀中葉。	13世紀中葉。	
503	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	基本層序	VI'	p23: (VI'層は)灰褐色細砂層。地点によってはVII'層を覆う洪水砂がVI層よりも顕著にみられる場合があり、VII'層上面での耕作遺構を良好な状態で温存する要因となっている。色調や砂粒の大きさなどに明瞭な差は認められないが、経験的にはVI層よりも微細な砂層であるとの感触があり、なかには水流が反映した砂紋がみられる部分もある。伴出する瓦器片などから14世紀後半の洪水堆積物と考えられる。	★14世紀後半。	14世紀後半。	
504	2909	箸尾遺跡第7次			p85: Ⅲ期の耕作遺構を埋没させていた灰褐色洪水粗砂には、唐津灰釉天目茶碗、瓦質播鉢・火鉢などが出土していることから、埋没時期は江戸時代初頭であると考えられる。	★江戸初頭。	江戸初期。	
505	2909	箸尾遺跡第7次	SE301		p98: (SE-301について)堆積土は3層に大別され、最下層に厚さ1mに及び暗黄灰色の粘土が堆積し、以上は灰色の洪水砂らしい砂層を介在させて、中層の粘土層、上層の砂質土層となる。0期水田がこうむったと考えられる12世紀後半の洪水砂であろうか。いずれにせよ、0期水田に伴って築造された井戸である。(中略)井戸の掘削は10世紀中葉、埋没は12世紀後半～13世紀初頭と考えておきたい。	★12世紀後半。	12世紀後半。	
506	2909	箸尾遺跡第14次	S区		p157: (前略)西端でも現代の洪水砂、Ⅲ期水田面を覆う洪水砂(17世紀初頭)、Ⅱ期水田面を覆う洪水砂(14世紀後半)の累積によって水田面の確定に難航したが、(後略)。	★現代。	現代。	
507	2909	箸尾遺跡第14次	S区		p157: (前略)西端でも現代の洪水砂、Ⅲ期水田面を覆う洪水砂(17世紀初頭)、Ⅱ期水田面を覆う洪水砂(14世紀後半)の累積によって水田面の確定に難航したが、(後略)。	★17世紀初頭。	17世紀初め。	
508	2909	箸尾遺跡第14次	S区		p157: (前略)西端でも現代の洪水砂、Ⅲ期水田面を覆う洪水砂(17世紀初頭)、Ⅱ期水田面を覆う洪水砂(14世紀後半)の累積によって水田面の確定に難航したが、(後略)。	★14世紀後半。	14世紀後半。	503と同一のもの とみなした。
509	2909	箸尾遺跡第16次	第16次調査下層水田		p187: (下層耕作遺構は)一連のVII層より下位、下層河道の堆積面上に形成され、上面を0期水田造成前の洪水砂に覆われた水田遺構を検出した。(中略)下層水田遺構は第14次調査S区で発掘されたものの一連のものと考えられ、10世紀後半代に形成され、10世紀末～11世紀初めに洪水砂で埋没したのと考えられる。	★10世紀末～11世紀初め。▼10世紀後半以降。	10世紀末葉～11世紀初め。	

513	2910	布留遺跡		[金原正明「第6章 考察・研究 1 布留遺跡周辺の地形分類」pp385-386]p386:三島(里中)地区では、古墳時代中期の薄い白色砂層がほぼ全面に分布し、この時期にも洪水があったことを示す。以後の時期では、別所(三反田)地区では下刻した谷地形が中世の砂礫で埋積し、近世には水田化されている。以上からみて、布留川扇状地は縄紋時代には形成されており、以後、何度からの比較的規模の大きい洪水や埋積は、縄紋時代後期前半、縄紋時代晩期、古墳時代中期、奈良時代後半から平安時代前半、中世の5時期がある。これらは湿潤化や温暖化の気候の変化に関係すると考えられる。	★古墳中期。	古墳中期。
512	2911	平城京朱雀大路・下ツ道	I区のSD104	p69:今回の調査では、I区、II区、VII区で下ツ道側溝を確認した。このうち東側にあたるI区SD104では溝底部から1点ではあるが、須恵器杯蓋の完形品が出土している。その他の出土遺物はわずかしくなく、いずれも細片で、器面の摩滅が激しい。しかし、この須恵器の器面は摩滅しておらず、他の遺物とは異なる様相を示す。またこの須恵器の上には約40cmの厚い砂層が堆積していたが、堆積状況から短期間に形成された層と考えられる。出土した須恵器杯蓋は、TK43型式に相当するもので、6世紀後葉頃に位置づけられる。(後略)p72:(前略)現状では、SD104出土須恵器が時期の異なる混入品である可能性は低く、溝の開削から下位砂層堆積までの年代は、この須恵器の年代に近いものと判断される。	★6世紀後葉(TK43)。	TK43(580~590年代)。
925	2912	南国栖遺跡	左岸地区第1トレンチなど	p423:トレンチを5m四方の大きさに再設定し掘削を継続した結果、造成土の下で洪水による砂層に到達した。洪水砂層は昭和34年の伊勢湾台風時の堆積と考えられる。	★1959年(伊勢湾台風)。	1959年。
501	2913	能峠中島遺跡	竪穴住居跡SI-01、自然河道SD-01	p17:(竪穴住居跡SI-01について)微丘陵地の上位部中央に位置する古墳時代前期の竪穴住居跡である。pp17-18:覆土は暗褐色土・暗褐色砂質土を基本とし、上層には10~50cm大の礫を多量に含んでいる。p30:(前略)(調査地では)布留式(布留2式)になり再び集落が営まれる(SI-01)が、洪水により集落は放棄され、弥生時代後期に再掘削されたSD-01も埋もれてしまう。その後、6世紀前半まで徐々に埋積が進行し(II層)、6世紀前半の洪水(I層)によりSD-01は完全に埋没する。p29:(自然河道SD-01について)能峠中島遺跡の所在する微丘陵地の南西側を北流する自然河道である。幅10~20cm、深さ約2mを測り、長さ約70mに亘って検出した。(中略)河道そのものは、6世紀前半の突発的な洪水で埋没している。	★6世紀前半。	6世紀前半。
923	3001	田井・西川遺跡	基本層序	p6:基本層序は、上から盛土(厚さ約60cm、上部は耕土)、1953年7月の大水害による堆積土(約20cm)、大水害直前の耕土(5~20cm、東西方向の畝が南北に並行)、近世以後の旧耕土(約6cm)、縄文時代の遺物を包含する黒褐色土(4~15cm)、地山(にぶい黄褐色土)の順である。地山面の標高は約1.5mである。	★1953年7月。	1953年7月。
514	3002	鳴神V遺跡	SD-20	p17:(SD-20は)II区の南部に検出されたN-65°-Wの方向性をもつ溝である。(中略)土層観察から少なくとも3回は洪水によるとみられる砂層堆積により埋没していったことが考えられる。それぞれの層に瓦器碗を含むことから、鎌倉時代に埋没したものと考えられる。	★鎌倉。	鎌倉。
922	3003	野田地区遺跡	II区	p8:(前略)II区では昭和28年の7.18水害の時に堆積したシルトが線路わきに盛り上げられていた。	★1953年7月18日。	1953年7月18日。
515	3101	青谷上寺地遺跡第7次(G調査区)	南西区(第7次調査(G調査区))	p114:①~③層は近現代~古墳時代の堆積層である。①層は3~4cmの厚さの黄灰色細砂で、ラミナが明瞭に認められることから、小規模な洪水層であると考えられる。③層では断面で近世~近代のものと考えられる溝が確認できた。	▼近世~近代。	近代以降。
519	3102	坪田遺跡	SX02	第4面 p8:(第4面では)調査区南側では砂礫を主体土とするSX03とSX02が検出された。SX02は位置から判断して河川の氾濫にともなうものと思われる。(中略)(第4面の時期は)14世紀代の可能性がある。	★14世紀。	14世紀。
520	3102	坪田遺跡		第5面 p8:(第5面について)調査区南側には、SD06・07の砂礫を多く含む溝状遺構、SX03の砂・シルト主体の落ち込み、SK10の暗褐色のシルト・砂・礫の混合土、SX04の砂礫を多く含む不整形な落ち込み、SK11・SK12の土坑、SK13の小穴などが分布する。ほとんどが東から西へ長く延びる落ち込みで、東谷川の流路ライン上にあることから、かつての川の氾濫によって形成されたものと思われる。(中略)(第5面の時期は)14世紀代の可能性がある。	▼14世紀。 △14世紀。	14世紀。

518	3103	目久美遺跡第15次	弥生後期水路1		p26: 弥生時代後期の水路1は(中略)総延長は600mを超える規模となり、弥生時代後期の水路遺構としては、全国的に見ても例のない大規模なものとなる。この水路の構築は、弥生時代中期の水田が洪水により埋没した後に掘削されており、災害によって被災した生活域を復活される意図があったものと考えられるが、(中略)水路の堆積土は粗砂1層のみであり、掘削後、短期間に埋没したものと考えられることから、水路の掘削後に余時間をあけずに、再び洪水砂以外にあったものと推測される。なお、水路1が掘削された年代については、弥生時代後期初頭頃と想定している。	▼弥生後期初頭。	弥生後期前葉?	
517	3104	米子城跡第29次	C-Cライン 堤防状遺構1の直上		p8: (前略)堤防状遺構1の北側では近代の耕作によって削平されているために残存していないが、C-Cラインでは堤防状遺構1の直上を洪水堆積によると思われる砂層が覆い、さらに全体的に杭痕跡内に砂が流入していることから堤防状遺構1は洪水によって埋没、損壊したものと思われる。(中略)堤防状遺構2は調査区のほぼ中央で調査区を中心軸に沿うように検出され、北側は堤防状遺構1と重複する。堤防状遺構2は堤防状遺構1が洪水によって埋没、損壊したため、これを補修、再整備したものと思われる。p48: 堤防状遺構1, 2は近世末の米子湊の再整備と為替蔵の設置を目的として、中海を埋め立てる際に堤防として構築されたものと考えられる。堤防状遺構1と堤防状遺構2は部分的に重複しており、その時期差は堤防状遺構1から遺物が出土していないため不明であるが、堤防状遺構2からは18世紀後半～19世紀の遺物が出土している。	▼近世末期。△18世紀後半～19世紀。	18世紀後半～19世紀前半?	
531	3201	出雲大社境内遺跡	彰古館北	1	p239: (1面下層について)洪水層である。厚さは、20cmから30cmに堆積している。出土土器からは、この層の形成年代は、17世紀中～後半代と考えられる。地質学的な見解では、この層は、一部に砂の堆積やマトリックスの少ない礫の集積などから造成土ではなく、自然堆積である可能性が高い。周囲で発生した大規模な洪水の影響を受けている地層であるとの見解がある。文献史料の佐草自清「御造営日記」には、慶安元年(1648)の洪水の記事があり、この洪水に対応する層であると考えられる。	★1648年。	1648年。	
532	3201	出雲大社境内遺跡	拝殿南	5	p271: 5層は、青灰色砂質土で洪水により短期間に形成された堆積層と考えられる。(中略)16世紀前半代から17世紀代に発生した洪水により、3, 4, 5層が短期間に形成されたと考えられる。	★16世紀前半～17世紀。	16世紀～17世紀。	
524	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	Ⅱ区・Ⅲ区基本層位	Ⅱ	p15(第9図): (Ⅱ区Ⅱ層はⅢ区Ⅱ層に相当。)pp15-16: Ⅰ層は現水田の耕作土及び床土で、その下に厚さ20cm程度の青灰色細砂層が存在した。出雲平野の斐伊川西岸では明治以降の洪水の記録はないため、それ以前の洪水砂と想定され、出土した陶磁器の年代から江戸中期の洪水によって形成された層と考えられる。p188: (前略)現段階では上層水田遺構は元禄15年の水害により埋没した水田に相当する可能性が高いと考えている。	★1702年?	1702年。	洪水痕跡は、日下部(1978: 38)から7月21～26日のイベントに対応するとみられる。
525	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	Ⅱ区・Ⅲ区基本層位	Ⅳ	p15(第9図): (Ⅱ区Ⅳ層はⅢ区Ⅳ層に相当。)pp16: Ⅲ層は茶褐色粘質土で畦畔の存在から近世水田耕作土と考えられる。Ⅳ層はⅡ層と同じく青灰色細砂でやはり斐伊川の氾濫による洪水砂である。Ⅴ層は茶褐色粘質土でⅢ層と同じく水田耕作土である。出土遺物が僅少なため正確な年代は不明であるが、上下の層位関係から16～17世紀前半を中心とする時期と考えられる。p188: 中層水田遺構の年代は耕作土中出土遺物が示す16世紀を上限とし、上層水田遺構耕作土出土遺物が示す17世紀第2四半期を下限とする。これに関連する洪水記録としては、武志土手が決壊した寛永10年(1633年)の大洪水や斐伊川東流の契機となった寛永12年(1635年)の大洪水が想定されようが、その特定は不可能である。	★1633年または1635年? ▼16世紀～17世紀前半。△17世紀第2四半期。	17世紀前半。	
526	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	Ⅱ区基本層位	Ⅶ	p16: Ⅶ層は灰褐色系砂礫で奈良時代の土石流層だが、この層はⅡ-2区でしか確認できていない。Ⅲ区では腐植土層であるⅦ層の下に弥生時代後期遺構面とほぼ同レベルで古墳時代後期～奈良時代遺構面が認められる。	★奈良。▼古墳後期～奈良。	奈良。	
533	3203	島根大学構内遺跡橋本地区	基本層序	2	p20・23: (第2層下位砂層は)淘汰の悪い河川性の砂礫層。D区自然流路01・01埋土上位を中心にB～C・26グリッド以東で検出。層厚4～20cm程度、標高0～+0.4mで堆積。p23: 第7次調査Ⅱ区・自然流路02埋土上位の本層からは、山本Ⅲ期須恵器蓋杯が出土しており、6世紀後半頃の堆積と推定される。	★6世紀後半。	6世紀後半。	

527	3204	タテチヨウ遺跡	34街区		p23:(34街区)は朝酌川河川敷のすぐ西側に隣接する街区である。(中略)水田下の土層はおおむね耕作土層、灰色粘土層、砂礫層、シルト質細砂層またはシルト土層となっている。砂層は場所によって上部が粗砂、下部が細砂となっている。遺物包含層は、この内砂層及び砂礫層である。(中略)土器片など、時期的にへだだりがあるものが混在して同じ土層から出土しており、摩滅した破片が多く含まれていることなどから、出土土器の示す最も新しい時期である西暦9世紀代に朝酌川流域が大規模な洪水に見舞われ、中流の河川周辺集落が流出し河口付近に砂礫とともに堆積したのではないかと考えられる。	★9世紀。	9世紀。	
523	3205	中野清水遺跡	4区など	5	p35:(4区)の7層上面は水田面で、洪水砂と見られる灰白色粗砂(5層)・明灰色粗砂(6層)に厚いところで20cm程度覆われており、畦畔3条と耕作の際に残された人や牛馬の足跡も見られた。p72:(7区)の7層上面は水田面で、洪水砂と見られる青灰色砂(5層)と暗灰色粗砂(6層)に厚いところで20cm程度覆われている。pp138-139:(前略)(水田について)少なくとも室町時代から江戸時代初めにかけて水稲稲作が行われていたことは確かだろう。水田は上面を厚いところで60cm程度の洪水砂で覆われており、江戸時代初めに付近が大規模な水害に見舞われたことが想定できる。(後略)	★江戸初期。▼室町～江戸初期。	江戸初め。	
522	3206	原の前遺跡	I区の北区		p40:北区南半F6・F5・E4・E5区の標高-0.6～-1.3m付近で、南南東に向かって緩やかに傾斜していく洪水跡を検出した。この洪水跡の層は2～3cm大の青灰色の礫を主体にした比較的薄い層で、細かく破壊された多くの土器片や自然木の破片を含んでいた。p41:この層からは、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器など各種の土器片が出土したが、古墳時代後期の須恵器が時期的には下限であった。従って、この洪水跡は古墳時代後期のもので、洪水後は比較的流速の遅い状況で水位が上昇し、急速に堆積が進んだものであろう。p42:(須恵器は)山陰須恵器編年Ⅲ期に属し、後期の前半にあたる。	★古墳後期。○古墳後期前半(山陰須恵器編年Ⅲ期)。	6世紀末葉(山陰須恵器編年Ⅲ期/TK43)。	絶対年代は、大谷晃二、1994「出雲地域の須恵器の編年の地域色」『島根考古学会誌』11, pp.39-82による。Ⅲ期は畿内のTK43に併行。
521	3207	本庄川流域条里遺跡			[中村唯史・徳岡隆夫「松江市本庄町本庄川流域条里遺跡の立地と環境」pp57-82]p67:本庄川遺跡は本庄川扇状地の扇状部に立地する。地下水を利用することで生活用水の確保は容易と考えられるが、土石流をとまなう洪水が発生したときはその被害を受けやすい位置にあり、今回の調査では古墳時代前～中期の地表面を覆う土石堆積物が発見された。しかし、その堆積物の上には古墳時代中～後期の住居が作られており、土地利用されたことがうかがわれる。	▼古墳前～中期。△古墳中～後期。	古墳中期?	
528	3208	横路遺跡土器土地区			[山内靖喜・中村唯史「V. 自然理化学分析 横路遺跡の地質学的検討」pp48-53]p50:(前略)8世紀頃まで本発掘地点周辺には下府川の主流路が流れていたが、8世紀前半のある時代に大洪水が起き、流路が南方に移動した。その結果、これまで主流路が流れていた部分は、蛇行部内部の流路近くの川岸となり、ポントバーが形成された。しかし、その後、自然堤防が成長し始め、本発掘地点は自然堤防から後背湿地にかけての環境へと変わっていった。このような状態が11世紀前半まで続き、本発掘地点の大半は次第に沼沢地から乾いた土地へと変わり、11世紀末頃から人間が住みつき出し、13世紀のある時期まで宅地として利用されていた。なお、この時期には、本発掘地点の南西部には本流路から分岐してきた小流路が流れていた。しかし、13世紀のある時期に洪水が発生し、本発掘地点周辺は再び湿地ないしは沼沢地になったと推定される。洪水が発生したとする根拠は、遺構面の上に円礫が散在していることである。(後略)	★8世紀前半。	8世紀前半。	

529	3208	横路遺跡土器土地区			[山内靖喜・中村唯史「V. 自然理化学分析 横路遺跡の地質学的検討」pp48-53]p50: (前略)8世紀頃まで本発掘地点周辺には下府川の主流路が流れているが、8世紀前半のある時代に大洪水が起き、流路が南方に移動した。その結果、これまで主流路が流れていた部分は、蛇行部内部の流路近くの川岸となり、ポイントバーが形成された。しかし、その後、自然堤防が成長し始め、本発掘地点は自然堤防から後背湿地にかけての環境へと変わっていった。このような状態が11世紀前半まで続き、本発掘地点の大半は次第に沼沢地から乾いた土地へと変わり、11世紀末頃から人間が住みつき出し、13世紀のある時期まで宅地として利用されていた。なお、この時期には、本発掘地点の南西部には主流路から分岐してきた小流路が流れていた。しかし、13世紀のある時期に洪水が発生し、本発掘地点周辺は再び湿地ないしは沼沢地になったと推定される。洪水が発生したとする根拠は、遺構面の上に円礫が散在していることである。p51:さらに、本遺跡から約900m上流の古市遺跡においては、第2遺構面では13世紀中頃を中心とする遺物が報告され、14世紀にはほとんど衰退したと考えられていることから大洪水は13世紀末ないし14世紀初頭に発生した可能性が大きい。13世紀末の洪水によって本発掘地点は再び自然堤防内側の湿地帯となり、土地は利用されないまま江戸時代に至った。しかし、次第に湿地帯が埋積され、耕地として利用できる状態になったか、開墾が盛んになったことかによって、17世紀のある時期から耕作地として利用され出し、現在に至った。その間にも本発掘調査地点周辺は幾度か洪水に襲われたと考えられるが、その明瞭な痕跡は18世紀の遺物を含む砂礫層が土器土地区と原井ヶ市地区の間に認められることから、少なくとも18世紀に洪水が発生している。	★13世紀末葉～14世紀初頭。	13世紀末葉～14世紀初め。	
530	3208	横路遺跡土器土地区			同上。	★18世紀。	18世紀。	
539	3301	足守川加茂A遺跡	第1調査区		p33: (前略)弥生時代後期後半になると、竪穴住居の検出面は若干高位で検出され、第1調査区で海拔3.20m、第2調査区で2.70mを計測する。注目されるのは、古墳時代初頭段階における洪水砂の堆積であろう。洪水砂は、中でも亀川上層段階の遺構を中心として比較的厚い堆積を見せており、集落全体を広く覆っていたものと推測される。	★古墳初頭(亀川上層期)。	古墳前期(亀川上層期)。	亀川上層期は布留式古段階に併行(参考:入倉徳裕, 1996『亀川上層式土器』『日本土器事典』, 雄山閣, p608)。あるいは布留1式に併行(赤塚次郎, 2002『総説 土器様式の偏差と古墳文化』『考古資料大観2』pp33-40の「弥生時代後期から古墳時代前期の編年表」)。
540	3302	足守川矢部南向遺跡	微高地北斜面	5~7	pp653-654: 堆積層は3つに大別された。微高地基盤上に堆積する第9~11層を挟み取るように、洪水砂と思われる第5~7層が堆積していた。これら砂層からの遺物の出土はなかったが、基盤斜面に流れ込む第8層からは水漉粘土で作られた高杯片がみられ、弥生時代後期後半以降に埋没したものと考えられる。	★弥生後期後半。	弥生後期後半。	
564	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	平成10年度調査区2区・3区		p18: (平成10年度調査)2区から3区の調査区土層断面で水田畦畔と推察される高まりを確認した。(中略)この上層に堆積した砂層の状況と合わせて検討すると、百間川遺跡群で検出される弥生時代後期末の洪水砂で埋没した水田と同様な状況を呈しており、(後略)。p69: (平成8年度調査)海拔80cm程において弥生時代後期末の洪水砂(第13層)に覆われた水田層(第14層)が、調査区全域において確認された。p82: (前略)旭川東岸域の百間川遺跡群では後期末の洪水砂が著名だが、本調査区で検出した砂層がこれと同時期かどうかは、西岸域の調査例が希少なため断定はできない。古墳時代の遺構には、前期の土坑1があるのみで、遺物の調査区全体でみても後期の須恵器片が数点みられるのみである。	★弥生後期末葉。△古墳前期。	弥生後期末葉。	

565	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	平成10年度調査区外堀		p39: (外堀は)9区全域に位置する。(中略)(埋土について)第Ⅳ・Ⅴ層よりも下位には砂と粘質土の互層が確認できることから、洪水による堆積物と推察される。(中略)外堀は1601年に築かれた後に、17世紀後半の洪水で埋没したのを契機に大きく改修され、明治8年に埋め戻されるまで外堀として機能し、更に土橋の存在から郭内から郭外を結ぶ出入り口として利用されていたと判断できる。	★17世紀後半。▼1601年以降。	17世紀後半。	
588	3304	岡山城跡本丸下の段	基本層序	D	p24: D層は、16世紀末から17世紀初頭までの瓦ほかを多く含む、花崗岩パイラン土～暗褐色微砂の造成土で、一部はその間に起きた旭川の洪水による堆積砂を含んでいる。場所によって厚さや内容がずいぶん異なるが、下面のほか、層中にも複数の遺構面・生活面が確認できる場合が多い。(後略)	★16世紀末～17世紀初頭。○16世紀末～17世紀初頭。	16世紀末葉～17世紀初め。	
589	3304	岡山城三曲輪跡		内堀埋土	p16: 内堀埋土は最下層から上層まで4層に分けられる。下・中層は砂粒が粗く、洪水時の堆積としての側面が強い。17世紀初頭～18世紀の陶磁器が大量に含まれるが、19世紀のものも含まれる。堆積年代は江戸後期～明治まで下る。	★江戸後期～明治。○17世紀初頭～19世紀。	江戸後期～明治。	
591	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	第2次調査(体育館・特別教室棟調査区)	V-①	p82: 第Ⅴ層は下層に瓦片を多く含む部分や下面に瓦だまりを伴っており、周辺に武家屋敷地の解体や旧岡山藩藩学閉鎖以降の近代の土層とみられる。V-①層は部分的にしか認められないが、洪水に伴う砂層であり、女子師範学校、師範学校の基礎に切られることから明治25年、26年の水害に伴うものである可能性が高い。(後略)	★明治25年。明治26年。	1892年。	足守川の決壊などによるもので、7月23日の大雨に起因するとみられる(例えば、中央気象台編 1949)。
592	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	第2次調査(体育館・特別教室棟調査区)	V-①	同上。	★明治25年。明治26年。	1893年。	株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993: 10)から、10月13～16日の台風によるものと思われる。
597	3304	岡山城二の丸跡		2	p9: 第2次大戦後の造成土下に広がる「灰黄色の砂層」は調査区全体を覆い尽くしており、特に調査区の北東から南西方向にむけて砂の厚い堆積が認められた。この砂層を除去すると、A-1区では幅10～15mの大きな挟り込みとなって表れ、旭川の氾濫による激流の状態をみる事ができた。この挟り込みには洪水砂とともに大量の遺物で埋まっていた。広範囲にしかも厚く堆積した上部は削平されているが、現存するだけでも北東壁面で約1mの厚さを測り、挟り込まれた南西では約2m厚の洪水砂が堆積しており、遺構の時期決定において1つのメルクマールになった。p10: この洪水砂は承応3年の洪水砂に対応させたのは、市教委によって実施された岡山城周辺の調査成果にもとづいている。(後略)p117: 発掘調査の結果、遺構は層序による時期区分で大きく5時期に大別することができた。(中略)Ⅲ期は17世紀中葉までの遺構であり、承応3年の大洪水によって被害を受けた家老池田伊賀守の屋敷遺構の実態を示すものといえる。	★承応3年(1654年)。▼17世紀中葉以前。	1654年。	洪水のあった月日について報告書に記載はないが、日下部(1978: 35)によると、洪水は8月31日と10月9日にあり、ともに岡山城が浸水していることから、このいずれか、あるいは両方のイベントの痕跡と解釈できる。両者とも中国地方の広範囲が被害を受けたとみられる(日下部 1978: 35)。
556	3305	北方地藏遺跡			p143: 弥生時代後期後半には1・2区のほぼ全面で水田遺構が検出された。北方下沼遺跡から連続して検出された水田遺構で、同時期に洪水によって砂層に覆われた、きわめて明瞭な水田遺構である。p178: (弥生時代後期水田について)出土した土器は、旭川東岸の百間川遺跡群などで確認されている水田と同時期と考えられ、今回検出された洪水層で覆われた水田の状況も酷似しており、共通の洪水によって埋没した可能性が高い。	★弥生後期末葉? ▼弥生後期後半。	弥生後期末葉。	
574	3306	久田原遺跡		9	p17: この遺跡を特徴づけるのは、大洪水砂層(9層)で、ところによって厚さ2m余りにも及んだ。出土物の時期から、弥生時代末葉～古墳時代初頭のできごとであった。	★弥生後期末葉～古墳前期初頭。	弥生後期末葉～古墳前期初め。	
575	3307	久田堀ノ内遺跡			p20: 久田堀ノ内遺跡の基本層序は構成の洪水等で削平を受けている地点が多いことを除けば久田原遺跡と大差ない。弥生時代後期から古墳時代初頭の洪水砂層の下層に上から暗褐色土・明褐色土・暗褐色土の堆積がみられ、(後略)。p210: (前略)洪水の時期は弥生時代終末期～古墳時代初頭、中でも後者に入ってから起こったものと考えられるが、古墳時代の土器が弥生時代終末期のものに比べて少ないことや時期的に古墳時代初頭以降の土器を含まないことなどから、古墳時代に入ってからまもなく大洪水が発生したと考えられる。	★古墳初頭。	古墳前期初め。	

571	3308	郷ノ溝遺跡	たわみ1・溝11		p54: (たわみ1)は2区の北西端に位置する。これは、北東から流走してきた溝11がその方向をやや西寄りに変える地点にあたり、溝の南側に接して南北6m、東西4mの範囲がたわみとなる。底面は数段に落ち込み、検出面からの深さは30cm前後を測る。これは溝11の底面のレベルとほぼ等しい。埋土は砂と粘土で、底面は鉄分とマンガンの沈着が著しく、激しい流水と滞水が繰り返されたものと考えられる。(中略)たわみは、検出状況から溝11の氾濫部と考えられる。p56: (溝11について)埋没時期については、土師器高台椀の示す時期(p56: 10世紀後半から11世紀前半代)と推定され、存続時期はやや長期に亘るものと考えたい。	★10世紀後半～11世紀前半。	10世紀後半～11世紀前半。	
585	3309	国長遺跡			p542: (前略)(近世の耕作痕跡について)耕作痕跡は近世の前半に2区の一部と3区を覆ったと考えられる洪水砂で埋もれた状況であった。	★近世前半。▼近世。	近世前半。	
596	3310	鹿田遺跡第7次		2	p17: (2層(近代)は)灰色系の粘土層であるが、場所によって暗灰色粘土、青灰色粘土、黄灰色粘土、黄灰白色粘土などの変化が認められる。(中略)土層の厚さは20cm前後を測る。〈3層〉上面に形成された畦畔・溝などの遺構を覆い尽くしている状況から、洪水に係わる堆積土の可能性が想定される。(中略)(3層は近代に相当する。)	★近代。▼近代。	近代。	
586	3311	上東中嶋遺跡			p8: 2区では中・近世耕作痕を切る土坑群が見つかった。(中略)2区で見つかった土坑群に入る粗砂からは19世紀前半代の陶磁器類が多く出土しており、その時期の洪水砂の可能性が考えられる。	★19世紀前半?	19世紀前半。	
550	3312	田益新田遺跡			[内藤善史「小結」pp87-89]p87: 河道-4の底には、灰色細砂が70cm程堆積していた。特に、底に近い方には粗砂が堆積し、この堆積層が上流からの土砂によりかなり短時間のうちに埋まっていることを推測させる。pp87-88: 田益新田遺跡では、河道-1あるいは河道-2の埋没後の弥生時代後期末から古墳時代初頭にかけて集落が営まれたとみられ、この集落が洪水に見舞われ、土器などが土砂とともにこの河道に埋没したものではないかと推定される。このような状況から河道-4は、弥生時代後期頃に生じ、古墳時代初頭には埋没したと考えられる。p88: 田益新田遺跡では、弥生時代前期に河道-1があったものの、次第に埋まりはじめ、弥生時代中期には河道-2が新たにでき、河道-1は完全に埋没する。弥生時代後期末に至り、河道-2は洪水により一度に埋没し、新たに河道-3ができるが、古墳時代初頭にはこれも埋没している。その後の河道は、今回の田益新田遺跡の調査では明らかにされていない。	▼弥生後期末～古墳初頭。	古墳前期初め?	
558	3313	段林遺跡・段林古墳	2トレンチ	2, 3	p6: 2トレンチでは1トレンチで確認された古墳時代以降の土砂崩れ跡のほか、他にもいくつかの土砂崩れ跡が発見された。2・3層は現代と思われる土砂崩れ跡である。6～9層は、中世以降の土砂崩れ跡である。50cm～100cmの礫が多量に含まれている。	★現代。	現代。	
577	3314	津島遺跡		A-9・B-11	p11: 弥生時代後期の水田層は厚さ20～30cmの洪水砂層(A-9層、B-10層)に覆われている。この直上には、古墳時代前期と考えられる水田層があり、畦畔が検出された。p17: (調査地では)弥生時代の末頃、付近一帯は洪水に見舞われたようで、微高地部分を除き、厚さ20～30cmの砂が堆積している。百間川遺跡群などで認められる洪水砂層と同時期のもの可能性が考えられる。	★弥生末期。▼弥生後期。△古墳前期。	弥生後期末葉。	
594	3315	津島岡大遺跡第6次		4	p15: (4層は)洪水層である。主に微砂で形成されており、鉄分とマンガンの沈着が認められる。調査区の北東部を中心に部分的に認められる。時期決定可能な遺物はほとんど出土していないが、17世紀後半以前と思われる。p17: (5層について)層中には中世後半～近世の遺物を含んでおり、近世に属すると考えられる。	★17世紀後半以前。▼近世。	17世紀?	
595	3315	津島岡大遺跡第9次		8a	p11: (8層は)土質により、2層に細分し、上層を8a層、下層を8bとする。調査区南側では8層は確認されなかった。古代に帰属する大溝を検出している。8a層は灰褐色砂～灰黄色粘質土で、鉄分が多く、マンガンは少ない。上面高は3.3m前後である。層厚も薄く、堆積の状況から洪水砂と考えられる。p67: (前略)溝25は8a層上面から、溝29は9層上面から掘削されていることが確認されている。p75: (溝22～29に伴う)遺物のうち一部には奈良時代のものを含んでいるが、ほぼ平安時代後半(10世紀後半～11世紀初頭)のものである。	▼10世紀後半～11世紀初頭(溝29)。△10世紀後半～11世紀初頭(溝25)。	10世紀後半～11世紀初め。	

544	3316	津寺遺跡	西川調査区の基本層序	3	p129: 低位部では、洪水砂(第3層)が認められる。この洪水砂は、明治25・26年の足守川の氾濫によるものと判断された。第4層は、この洪水砂に覆われた水田層である。	★明治25年。明治26年。	1892年。	足守川の決壊などによるもので、7月23日の大雨に起因するとみられる(例えば、中央気象台編1949)。
545	3316	津寺遺跡	西川調査区の基本層序	3	同上。	★明治25年。明治26年。	1893年。	株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993: 10)から、10月13~16日の台風によるものと思われる。
546	3316	津寺遺跡	中屋調査区南部		(その2)p462: (第671図の)断面西端の遺構は河道-1で17世紀前後の時期の足守川が氾濫した時の堆積層である。	★17世紀。	17世紀。	p464: 第671図「調査区南側断面」
553	3316	津寺遺跡	中屋調査区		p215: (水田-4は)水田-3の10cmほど上層で検出したもので、(中略)水田に至る微高地斜面や、水田を覆う洪水砂からは3912~3919の土器が出土している。p216: (土器3912~3919について)これらの土器は古・前・Ⅱ期の特徴を備えており、水田が放棄された時期を示すものと思われる。	▼古墳前期Ⅱ期。○古墳前期Ⅱ期。	古墳前期中葉。	土器3912~3919はp216(第196図)・p217(第197図)を参照。p22(表2: 岡山県の土器編年対比表): (古・前・Ⅱ期は古墳時代前期中葉~後葉に対応。)
554	3316	津寺遺跡	高田調査区		p371: (前略)(調査地では)古墳時代初頭段階には、比較的安定した微高地と水田といった景観が想像される。7・9層で示すように少なくとも2段階の水田層が確認されている。これ以降、激しい洪水、土砂の堆積が認められる。5層は水田を被覆する洪水砂層である。これによって水田は放棄され、遺構・遺物もほとんど見られず、荒廃した状況が看取できる。また、絶え間ないこうした土砂の堆積の進行によって、大幅な地形の変化がもたらされ、かつて水田が広がった低位部は埋没し、微高地へと変化していったものと思われる。こうして、安定して居住地が営まれたのは、古墳時代後半6世紀後半からである。p382: 古墳時代前期末になると、この地の地形状況は一変する。水田経営は厳しい気象環境のもと、絶え間ない洪水による土砂の流入、堆積によって放棄される。この状況は隣接する中屋調査区においても同様であり、古墳時代前期前半に爆発的な拡大をみせた集落が急速に解体した様相を暗示するものと思われる。古墳時代中期段階には明確な遺構は確認しておらず、この段階には荒廃した湿地の状況が広がっていたことが推測される。	★古墳前期末葉。▼古墳前期前半。	古墳前期末葉。	
557	3316	津寺遺跡			[亀山行雄「古墳時代前期の津寺遺跡」(第2分冊)pp712-717]pp716-717: 古墳前期を通して300軒近くの竪穴住居が営まれた津寺遺跡も、古・前・Ⅱに至って解体に向かう。その原因は判然としないが、下流に位置する足守川遺跡群ではこの時期の遺構が厚い洪水砂で覆われていることからすれば、この一帯が大規模な水害に見舞われたものと推測される。津寺遺跡においても東の低位部に洪水の痕跡をとどめており、その生産基盤に壊滅的な打撃を被ったことも容易に想像される。しかし、居住域が冠水した様子が窺われず、中期には再び集落の展開が見られることからすれば、あるいはそうした災害によって、この集落の担っていた機能の減退ないし喪失を招いたことが、集落解体の主たる要因として働いたとも考えられる。これはまた、中山茶臼山古墳から車塚古墳へと続いた首長系譜の終焉とも時期的に一致する可能性があり、政治的な動向とも深く関わっていたとも考えられる。	★古墳前期Ⅱ期。	古墳前期中葉。	

560	3316	津寺遺跡	高田町調査区		p149: 高田調査区のうち、1区から5区にかけては北から南へ下がる微高地の傾斜面にあたっていたようで、(中略)5区の微高地は弥生時代にはかなり堆積が進んでいたようで、古墳時代の前期には、その斜面に水田が作られている。水田の東端は確認できなかったが、1区から3区まではまだ低湿地の状態にあったと思われる。やがて水田は洪水によるとみられる砂層で埋没し、新たに高くなった地盤に古墳時代後期の竪穴住居が掘られ、集落が形成される。p152: 高田6区から8区の中央付近までは低位部で、やはり古墳時代前期の水田が広がっていた。8区の中央部から水田が広がっていた。(中略)水田は洪水の砂層で厚く埋められ、その上面に古墳時代後期の竪穴住居が掘られることになるのは4・5区の状況と同じである。	★古墳前期Ⅱ期。▼古墳前期。△古墳後期。	古墳前期中葉。	
584	3317	中島遺跡			p370: 集落は、13世紀前半頃にそれまで何もなかった地に忽然と現れた。遺構の広がりには、5区を除いて全ての調査区で粗密はあるものの当該期の存在が確認された。(中略)周辺にはこれを棟方向を同じくする建物と井戸・墓・土坑等も存在する。調査区が分断されて外郭線を示す溝の存在は不明であるが、比較的大きな空間を持った館であることが推測される。さらに館は東側に存在した規模こそ縮小するが配石された同様の建物に14世紀中葉頃のものも認められることから、館はその頃まで存続していたことが窺われる。内容的に考えてこれら大形建物・井戸等の施設は中世後期において南僅か30mの地点に築造される中島城の全段階の館である可能性が高いと考える。中島城の上限が判然としないなか、この推測が首肯されるなら館の下限である15世紀中葉頃に直接繋がりはしないものの、中島城の構築が周辺一体が洪水で埋没した後の集落を被覆した土砂の地盤が安定した後の早ければ15世紀後半頃への位置づけが考えられる。	▼14世紀中葉～15世紀中葉。△15世紀後半。	14世紀中葉～15世紀?	
576	3318	中撫川遺跡4区	4区の大溝	13	p43: 幅6mと推定される大溝の東肩部を調査区の北西隅角で検出した。第30図に示すように、溝の大半は洪水砂をみられる細砂(13層)で埋没し、溝が機能していた時の堆積層(14・15層)も薄く2層みられた。(中略)(大溝が)洪水砂に埋没したのは古墳時代前期の後葉と考えられる。	★古墳前期後葉。	古墳前期後葉。	参考)p29: 第30図「中撫川遺跡4区中央トレンチ土層断面図」
555	3319	服部遺跡	溝29		p274: (溝29について)溝内は砂層が堆積しており、洪水等により埋没したと思われる。出土遺物は少量検出でき、鎌倉時代前半期の特徴を示していた。(中略)(溝30について)洪水時に溝29から派生した溝と考えられる。溝の幅は約30cm、深さは約15cmを測る。時期は溝29と同様であろう。	★鎌倉前半。	鎌倉前半。	
593	3320	備前原遺跡		2	p16: 第2層下層であるが、均質な細砂が0.4mもの厚さで均等に堆積している。また、出土遺物も少なく、摩滅している。これらのことから、この細砂は洪水によってもたらされたものと想定される。第2遺構面は第2層とした細砂層を除いた面である。p50: (弥生時代後期終末期について)河道は埋没したとは言え、不安定であったようで、第2遺構面の水田は第2層下層の細砂層を形成する洪水に襲われている。	★弥生後期末葉。△古墳前期初頭。	弥生後期末葉。	第1遺構面の年代は記載なし。
534	3321	百間川沢田遺跡	横田調査区	11	p21(第7図): 洪水砂。p22: 弥生時代終末に発生したと考えられている洪水による堆積層。洪水砂層上面から出土した土器の年代は百間川古墳時代Ⅰ期のもので、東側微高地における洪水後の集落開始時期を示すとともに、洪水の時期がこの年代から層隔たっていないことも暗示している。巻頭(編年対比表): 百間川古墳時代Ⅰ期は古墳前期初頭。	★弥生後期末葉。△古墳前期初頭。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190～265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。

535	3321	百間川原尾島遺跡	三股・丸田調査区	p18: (9・10AB区では)古墳時代の包含層の土質は弥生後期末の洪水堆積によく似ており、それが再堆積ないし攪乱を受けたものと思われる。東端の9・10Z区では弥生後期末の洪水堆積層が微高地上に堆積しており、耕土下は洪水堆積層、その下は弥生後期遺構の密集(層)となり、古墳時代以降の遺構は洪水堆積層上面で検出された。(後略)p289: (7~11A~D区を中心に)弥生時代後期末の大洪水後、最初に形成されたI期の集落は、大形住居をもつ大集落であった可能性が強く最も活況を呈していたといえる。	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
536	3321	百間川原尾島遺跡	川内調査区	p257: 層位は、標高3.5m前後を測る現地表下に現代水田耕土、鉄分・マンガンを多く含む淡黄褐色砂層、そして灰色粘土層(中世)、灰黒色土層(古墳時代)と続き、その下は弥生時代後期末の洪水砂層となるが、島状高まりの頂部は淡黄褐色砂層に接している。洪水砂層は厚さ50~60cmを測り、その直下は弥生時代後期の水田層となる。(後略)	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
537	3321	百間川原尾島遺跡	左岸用水調査区	p285: (本調査区の基本的な層位は)現水田耕土の下には厚さ10cm前後の近世から忠清の層がほぼ水平に堆積し、その下には古墳時代の層、さらに下に弥生時代後期末の洪水砂層、そして弥生時代後期水田層と続く。	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
541	3321	百間川原尾島遺跡	丸田調査地区	p14: 低位部となる14・15C・D区では表土の下に中世の遺物を含む灰色土やオリーブ灰色土層があり、その下は古代と推定される灰黄色微砂層、そして古墳時代と考えられる暗灰黄色粘質微砂層と暗灰黄色粘土層へ続く。さらにこの下は弥生時代後期末の洪水砂であるオリーブ黄色微砂層になるが、14ライン付近では古代から古墳時代と考えられる層は無いが、あっても極めて薄い。洪水砂の直下には弥生時代後期の水田層があるが、同じような灰色粘土層が14ライン付近では二層、14ラインから東へ10m付近では三~四層認められ、これらも水田層と考えられる。	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
542	3321	百間川原尾島遺跡	従来下調査区	p185: 低位部では洪水砂で埋没した弥生時代後期の水田、および水田層下で検出した後期の溝などを中心に、古墳時代や中世の遺構がわずかに検出されている。	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。

543	3321	百間川原尾島遺跡	川内・三ノ坪調査区	p194:5層が百間川遺跡群の鍵層となる砂層で、弥生時代末期に発生した大洪水の堆積層である。この堆積層によって地形の起伏がならされ、以後は水平堆積層が続く。	★弥生末期。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
547	3321	百間川原尾島遺跡	三股ヶ丸田地区(4地区)	p17:旧河道内の堆積の状態は、最下層に縄文時代晩期および弥生時代前期の土器を包含し、その上層の層は前期の段階で堆積したとみられ、さらにその上層には中期土器を含む洪水砂、後期末水田層、後期末洪水砂、古墳時代包含層と続く。いっぽう、微高地上には弥生時代前期から中世にかけて、ほぼ南北方向の用水路などの溝が数条存在し、そのうち3本の溝が低位部の水田を覆った砂と同じ砂によって埋没している事実が両者の同時存在を証明し、少なくとも後期末の段階では低位部(水田面)と微高地上との比高差が約80cm以上あったことがわかる。	★弥生後期末。▼弥生後期。△古墳。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
548	3321	百間川原尾島遺跡	三ノ坪・横田調査区	p171:古墳時代包含層の下層には、弥生時代後期末(百・後・Ⅳ)と考えられている洪水砂層が調査区の多くの部分に堆積していた。この洪水砂層に覆られるかたちで検出されたのは、調査区西半部と南東部隅に存在していた水田2・3と水田3に伴う水路4のみであった。	★弥生後期末。▼弥生後期末。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
549	3321	百間川原尾島遺跡		[岡本寛久「第4章 百間川原尾島遺跡のまとめ 第4節 中世の村落」pp276-280]p280:(中世後期について)(前略)16世紀に入って、不幸にも、この原尾島村落を突然に洪水が襲うこととなる。人々は安全を求めて移住を余儀なくされたようである。室町時代、15世紀の遺物を出土した井戸10・16・17・18・11・30のすべてが板や石の枠材や曲物を留めていなかったことは印象的である。	★16世紀。 ▼15世紀。	16世紀。	
551	3321	百間川兼基遺跡	大上田調査区	p51:百・後・Ⅳ期に周辺一帯を襲った洪水による堆積砂は、水田域は言うに及ばず、用水路を含み周辺の微高地上にも及んでいた。	★弥生後期末。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
552	3321	百間川兼基遺跡	東苗代調査区	p91:第4・5層は百・後・Ⅳの洪水砂で、この層を除去した地形が後述する「高まり」などの起伏として観察される。第5層の下面が弥生時代後期の遺構検出面に当たる。	★弥生後期末。▼弥生後期。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。

559	3321	原尾島遺跡	溝2、水田2など		p15:(溝2は)溝1の東側で検出した幅1.64m、深さ1.07mの溝で、断面はV字形である。(中略)埋積土のうち2・3層は粘質土、1層は砂質土である。1層は弥生時代後期末の洪水堆積層の可能性があり、溝の機能が失われてのち浅いくぼみとなり、最終的に洪水によって埋没した可能性が考えられる。p17:(溝4は)調査区の東部で検出した溝で、上幅1.87m、深さ88cm、底面幅40cmを測る。(中略)水田2とともに弥生時代後期末の洪水で埋没した遺構とみてよい。(水田2は)調査区東端で検出した水田で、検出範囲は東西6.4m、南北13.8m、田面高3.60mである。出土土器17や洪水砂の特徴から弥生時代後期末に洪水によって埋没した百間川遺跡群などの水田と一連のものとして判断される。	★弥生後期末。▼弥生後期末末葉。	弥生後期末末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190～265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
561	3321	原尾島遺跡(百間川以東)	3区西壁	14(第44図)	p27:全域で弥生後期末の洪水砂に覆われた水田が認められた。洪水砂は平均して約25cmと厚く、場所によっては2層に分かれ堆積している。その以降は粘質土の水平堆積が確認され、古墳時代から現代までも水田に利用されていることが判明した。	★弥生後期末末葉。	弥生後期末末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190～265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
562	3321	沢田遺跡			p41:調査は、現代の造成土と近世以降の洪水砂を除去した近世の水田面から行い、(中略)海拔約3.3mで、調査区の西端と中央に島状高まりを残し、弥生時代後期末の洪水砂で埋没した水田面と溝多数を検出した。	★弥生後期末末葉。	弥生後期末末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190～265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
563	3321	沢田遺跡	溝24～26		p47:(溝24～26は)1区で南北に流路方向をとって検出した。p8:いずれの溝も洪水砂で埋没しているが、(中略)溝は平安時代末の洪水で埋没するまでの平安時代を中心に機能していたと推測される。	★平安末。▼平安。	平安末期。	
566	3321	百間川米田遺跡	当麻調査区の井戸315		p72:(井戸315について)埋土から、井桁内部に堆積した土がほぼ同じことであることで、洪水のような一度に埋没したものと考えられる。p73:遺構の時期は、出土した土器から13世紀の中頃には洪水等で廃絶したものと考えられる。	★13世紀中頃。	13世紀中葉。	
567	3321	百間川米田遺跡	岩間下調査区	洪水1	p206:堤防は河道3の西岸に約55mに渡って検出された。構造は、木杭を多数打ち込み、柵を多用し、草本類や小枝を敷き詰めながら盛土するものである。立地の違いにより便宜上、先端部、中央部、復旧部と仮称する。先端部は堤防北東端部が河道内に乗り出すように落ち込んで終わっている部分、中央部は岸辺上面に構築された部分、復旧部は堤防が決壊したと考えられる南西半分を指す。p215:今回検出された復旧部は、河道3の左岸側に検出されたもので、先述した堤防の上流部にあたる。(中略)堤防を破壊した洪水、復旧施設3を破壊した洪水「洪水1」、さらに復旧施設1・2・4を破壊した洪水「洪水2」と大きく3回の大洪水に見舞われている。(中略)検出された復旧部は、「洪水1・2」によって大きく破壊させられた堤防の復旧施設で、復旧施設は構築時の現状をとどめているものはほとんどない。p221:(洪水1・2について)復旧施設を覆う砂層と灰色弱粘質微砂とが交互に堆積し、パームクーヘン状を呈していた。これは洪水後の再堆積層と理解されるが、切り合いが見られ、少なくとも2度の洪水があったと考えられる。古い方の砂堆積を洪水1、新しい方の砂堆積を洪水2とする。p223:(前略)洪水1の時期は10世紀末～11世紀初頭と考えられる。(中略)洪水2の時期は、洪水1の土器と差はなく、期間をおかずして相次いで洪水に見舞われたものと解釈する。	★10世紀末～11世紀初頭。	10世紀末葉～11世紀初め。	
568	3321	百間川米田遺跡	岩間下調査区	洪水2	同上	★10世紀末～11世紀初頭?	10世紀末葉～11世紀初め。	

569	3321	百間川米田遺跡	岩間下調査区		p252:河道を東西に渡る橋梁施設を検出した。(中略)このうち基盤施設は、東側が近世の用水路によって削平されているが全長39m, 最大幅10m以上を測る大規模な以降で、東西両端にのびる杭列を含めた長さは46mに達する。(後略)p255:橋の構築は13世紀前半、廃絶は17世紀前半と推定され、約400年間にわたって使用されたとみられる。p265:(前略)基盤施設を覆う砂礫層の遺物は17世紀前半に位置づけられ、IV期の橋は1654(承応3)年の大洪水によって廃絶した可能性が考えられる。	★1654年?	1654年。	日下部(1978: 35)によると、洪水は8月31日と10月9日にあり、ともに岡山城が浸水していることから、このいずれか、あるいは両方のイベントの痕跡と解釈できる。両者とも中国地方の広範囲が被害を受けたとみられる(日下部 1978: 35)。
570	3321	百間川原尾島遺跡			p16:(前略)(弥生時代後期中葉にかけて)両微高地間の低地部(海拔2.8m前後)が水田に開発され、後期末になって水田面が大洪水による25~40cmの厚さの砂で埋没したと看取できる。	★弥生後期末葉。▼弥生後期中葉以降。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
578	3321	百間川兼基遺跡		10(第5図)	p16(第5図): 弥生後期末葉の洪水砂を確認。	★弥生後期末葉。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
579	3321	百間川沢田遺跡	横手・高縄手地区	7	p219: 第7層は弥生後期末の洪水砂層。	★弥生後期末。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
580	3321	百間川原尾島遺跡			p15: 調査区の4/5を占める微高地は、6~8A~C区部分である。調査区内では西側の低位部際が高く、その東側の7・8A区付近が若干低くなっている。微高地の南東壁断面を示した第5図によると、この低い部分には第9層で示す薄い砂層が見られる。この砂層は、弥生時代後期末の洪水砂層と考えられ、遺構の中には同砂で埋没したのが見られる。この地区の古墳時代以降の遺構は、基本的に洪水砂層上面で検出しているが、古墳時代初頭の遺構には、酷似した砂で埋没したのがあり、一部は洪水砂下面で検出している。基盤層は南東壁断面の第12層以下であり、この付近での海拔高は365cm前後を測る。低位部際の高い部分では、洪水砂は見られず、現代耕作土直下で古墳時代以降の遺構や、一部弥生時代後期の遺構を検出した。(中略)調査区の1/5を占める5・6BC区の低位部では、幅14~15mの旧河道が南北方向にやや弧を描いて存在する。(中略)その後、拓かれた弥生時代後期の水田は、最終的に洪水砂で埋没するもので「田」字状の畦畔で区画され、典型的な低位部の水田の様相を呈する。	★弥生後期末葉。	弥生後期末葉。	百間川後期IVは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。

581	3321	百間川二の荒手遺跡	右岸導流堤の断面 T3	p158: 今回の調査は、二の荒手右岸袖部と右岸導流堤を対象とした。この付近は昭和9年9月の室戸台風により堤防が決壊し、甚大な被害を受けた場所と周知されており、岡山県風水害史や荒手本体、右岸袖部付近の石積み等から堤防決壊以降に修復された場所と捉えられていた。p160: T3の北側断面では昭和9年の洪水による決壊跡の、石組み残存部と復旧盛り土部分との境が明瞭に確認できた。p162: (前略)昭和9年の堤防決壊時に下部がどのあたりまで削平されたかは断面観察では不明瞭であった。	★1934年。 ▼近代。	1934年。	遺構は近代のもの。	
582	3321	百間川今谷遺跡	基本層序	3	p13: 第3層は百・後・Ⅳ期の洪水砂。	★百間川弥生後期Ⅳ期。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
583	3321	百間川今谷遺跡	低位部	8	p13: (低位部にあたるハ地点では)百・後・Ⅳ期の洪水砂(第8層)の上に、古墳時代前期の土器を含む第7層が厚く堆積している。洪水砂の下には、2枚の弥生時代後期水田層(第9・10層)が連続し、第11層を挟んで弥生時代中期以前の水田層(第12層)がある。	▼弥生後期。△古墳前期。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
587	3321	百間川沢田(市道)遺跡			p5: (前略)E, F, G層は中世~古墳時代の時期に求められる。G層の下には幅が30cm程のI層を埋める洪水砂があり、百間川遺跡群の調査で広範囲に確認されている弥生時代末の洪水砂に対応するものと思われる。I層の下にはJ層と部分的にJ層上にO層があり、O層が存在する部分にのみJ層の水田畦畔がとらえられた。J層はさらに下層に存在する河道の遺物などから弥生時代中期~後期の時期に推定される。	★弥生末。 ▼弥生中期~後期。△古墳~中世。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
590	3321	百間川沢田遺跡			p34: 弥生時代後期水田遺構は、本体部分、配管部分、および道路部分東調査区、中調査区において、弥生時代後期末の洪水砂に埋没した状態で確認された。(後略)	★弥生後期末葉。▼弥生後期。	弥生後期末葉。	百間川後期Ⅳは酒津式土器に併行する。『考古資料大観』などから、庄内式(190~265年)前半に併行するものとして集計した。百間川遺跡群の「弥生時代後期末葉」の洪水砂はまとめて1遺跡における1回の洪水として集計した。
572	3322	仏生田遺跡	3区		pp95-96: 現地表は調査区のほぼ中央E調査区が最も高い。表土下には厚さ50~70cmの洪水砂が存在した。この洪水砂は、後述する遺物などにより、近世~近代に堆積した可能性が高い。p97: トレンチ調査の範囲は近世まで低位部で、近世になって耕作地となったことがわかった。その上に堆積した砂層は一気に堆積している。遺物が少ないためはっきりといえないが、明治になって岡山県を襲った洪水のうち、最も大規模な明治25・26年の洪水による可能性が高い。	★明治25年。明治26年。	1892年。	足守川の決壊などによるもので、7月23日の大雨に起因するとみられる(例えば、中央気象台編 1949)。
573	3322	仏生田遺跡	3区		同上。	★明治25年。明治26年。	1893年。	株式会社テクノバ・災害研究プロジェクト(1993: 10)から、10月13~16日の台風によるものと思われる。

538	3323	三手遺跡	向原Ⅲ・沼・丸川調査区の基本層序	2~5	p64:1層は現在の水田層である。これより下位, 2~5層は, 基本的に層位が乱れた砂礫層であり, 明治段階以降の複数回の洪水によって形成されたと判断している。	★明治以降。	明治以降。	
928	3401	広島城跡上八丁堀地点	南壁土層断面		p341:(前略)南壁土層断面の20・21層は創建当時の土塁の盛土と考えられる。このとき掘られた溝は, 中堀と溝(B-SD015)であると考えられる。南壁土層断面図からは, 明治期に洪水を受けて土塁は浸食されたことが確認され, その後西面の石垣は修復された。しかし, 近世の時期に土塁が洪水で流され氾濫堆積物で覆われた痕跡は確認できなかった。(後略)	★明治。	明治。	
599	3501	下右田遺跡神里地区		第2面砂礫堆積層	p25:(第2面について)出土した遺物から12世紀末~13世紀前半代のものが大半を占めるとみられ, 層位的には先行するものの, 第1面との時期差はあまりないものと思われる。p36:第2面では, 調査区東西端に砂礫堆積層が確認された。とりわけ, II地区で確認された砂礫堆積層1は, 幅約5mにわたってII地区を東西に横断し, 深さは2m近くに達する。両端は調査区外へと延び, 河川の様相を呈する。底面は起伏に富み, 流れが一樣でなかったことをうかがわせる。河川等の氾濫によってできた流路に砂が堆積したものと考えられる。埋土は基本的に砂であるが, 粒の大きさが異なる砂が幾層にも重なりを見せる。	○12世紀末~13世紀前半。	12世紀末葉~13世紀前半。	
600	3502	神郷大塚遺跡第8次			p23:(調査区では)遺構は一面で確認されたが, 時期は弥生時代後期, 古墳時代終末~7世紀, 中世と大きく3つの時期が存在する。また, 調査区東端で確認された旧河川からは, 水辺の祭祀に使用したと思われる土師器も出土している。現在東脇を流れる大塚川との関係は不明であるが, 古墳時代以降の土器が埋土中に含まれていないことから, 7世紀のある時期に洪水により一気に埋まりその機能が失ったと思われる。	★7世紀。▼古墳終末~7世紀。	7世紀。	
601	3503	延行条里遺跡砂子多地区	基本層序	II 3	p7:II層は, 19世紀代の堆積である。3層に細分される。II 1層には上面から水田暗渠の排水溝が掘削されていた。II 2層とII 3層との間に, 瓦や精錬滓を投棄した土坑が検出された。II 3層は, 黄灰色の砂壤土で自然堆積である。p8(表1):II 3層は自然堆積(氾濫堆積の形跡か。)	★19世紀。	19世紀。	
602	3503	延行条里遺跡砂子多地区	基本層序	IV	p7:III層は, 3層に細分される。III 1層は, 17~18世紀頃にIV層の堆積した旧河道部分を水田基盤として造成している。III 3層は, 灰色を帯びた砂壤土の自然堆積である。IV層は, 花崗岩・安山岩の細礫を含む粗い砂層で3層に細分できる。砂子多川の氾濫堆積物の上部にあたる。(中略)(V層は)15~16世紀の自然堆積層で, 中世の遺構面を被覆する。	▼15世紀~16世紀。△17世紀~18世紀。	16世紀~17世紀?	
611	3701	一角遺跡第1次・第2次	第2調査区	6	p85:西壁では全部で28層の堆積が見られたが, 大別して第1~第9の9層に分層できる。(中略)第5層は8層にあたり, 灰色のシルト質極細砂層である。陸軍による空港造成面と考えられる。9~24層のシルト~礫層は洪水による堆積と考えられ, 第6層とした。第7層は25~26層にあたり, 灰色粘質シルト層である。この上面で溝を検出していることから, 第7層上面を第1遺構面とした。(中略)第1遺構面については出土遺物から江戸時代後半の18世紀後半~19世紀前半と考えられる。	▼18世紀後半~19世紀前半。△昭和戦前期。	19世紀~20世紀初め。	
606	3702	川津東山田遺跡I区			p274:(中世について)再び集落の規模は小さくなる。掘立柱建物9棟, 土坑1基, 現地割に沿う溝を数条検出したが, 遺構密度は低い。遺構は微高地の中でも平野に近い方で検出した。その他, SR01東側の流路で13世紀台の土器が多量に出土した。これらは摩滅度が少なく, 破片も大きい。13世紀頃に土石流が起こり, 集落域が一気に流されたとも考えられよう。	★13世紀。	13世紀。	
609	3703	川南・西遺跡	噴砂検出区		p11:現耕作土直下に層厚10cm弱の灰黄色シルト混じり極粗砂層がみられる。前年試掘時所見も考慮すると春日川及び新川堤防が決壊した大正元年(1912)9月21日の水害による堆積するとみられる。	★1912年9月21日。	1912年9月21日。	
610	3703	川南・西遺跡	噴砂検出区	II・II'	p11:II, II'層は, 近世後半の堆積と考えられるが, 新川堤防3カ所が決壊という慶応2年(1866)8月7日「寅年の大水」が伝えられる。p16・19:II~II'層が堆積したとみられる時期については, 文献記録等からは以下の例が考えられる。a. 宝永7年(1710)(中略)b. 享保7年(1722), (中略)がみられる。p19:本遺跡が宝永~享保年間に規模の大きい地震と水害に遭遇したのは確実だろう。	★1866年?	1866年?	

607	3704	北内遺跡	SD001		p79: I区SD001はI区中南部で検出した溝である。SD001は西から東へ流れ、幅260~268cm、深さ76~90cmを測る。埋土は最下層が緑灰色砂・暗緑灰色砂・暗灰色砂等の砂層により堆積し、短時間で埋没したことがわかる。上層は黒色粘土・粘質土等で、礫やクサリ礫を多量に含み、徐々に堆積したと考えられる。p86: SD001は概ね弥生時代終末期頃洪水砂を受けて1/3程度が埋没したと考えられる。	★弥生終末。	弥生後期末葉。	
608	3705	弘福寺領山田郡田岡比定地ほか	田岡南地区比定地B調査区西区画の南側	5	p57: 層序は上位から、第1層現耕作土、第2、3層現代の堆積層、第4層遺構掘り込み面形成層、第5層洪水砂礫層、第6層地山層、第7層近現代溝状遺構埋土となっている。	▼近代~現代。△現代。	現代。	
604	3706	金毘羅山遺跡	SR01		p18: 表土直下で、基盤層の黄色系粘質土が現れる。調査地西から東へかけて、この基盤層は低くなっていくが、これは、川跡SR01によって調査地北東の半分の基盤層が大きく削られ、その後川跡が埋まっていくことによって生じたものと考えられる。SR01は、弥生時代後期の遺物を出土することから、弥生時代後期頃には埋没したものと考えられる。(中略)SR01は、その後埋没が進み、6世紀末頃には、一度、洪水による堆積と考えられる粗砂層に覆われる。そして、7世紀後半頃の川跡SR03の検出面が、現耕作土下40cmで検出できるまでになっている。さらにこの後、この上には鎌倉時代末頃の砂層(SR05)が覆い、ほぼ現在の地表面と同じ様な状況になったものと考えられる。	★6世紀末。 △7世紀後半(SR03)。	6世紀末葉。	
605	3706	金毘羅山遺跡	SR05		同上。	★鎌倉末	鎌倉末期。	
603	3707	龍川五条遺跡	SR07		p363: 中世後半の14世紀代になると、前池地区の居住域や東低地部の基幹水路に変化がみられる。(中略)基幹水路のSD60・61もその時期には完全に埋没して、SR06の後背湿地を開析して流れる河川SR07が新たに出現する。その契機については、(中略)ある段階で一気にSR06後背湿地側にオーバーフローした状況を確認するに留めておきたい。	★14世紀。	14世紀。	
612	3708	農学部遺跡	遺伝子実験施設地区	中世層	p10: 中世層は鎌倉時代に位置づけられる。赤褐色粗砂(洪水堆積層)が属する。地表下約1.4mから始まり、標高18.8mから18.6mの間にある。p17: (前略)この砂層は河川の氾濫によるものと推測されるが、最も堆積の激しかった遺伝子地区では奈良時代に始まる水田は少なくとも中世初期には放棄されたものと考えられる。電気室地区では平安・奈良時代の水田層上の砂層に中世の水田層と判断される地層群が後続する。これは砂層の堆積が顕著ではないことに原因したのと考えられるのである。	★鎌倉。	鎌倉。	
619	3801	岩崎遺跡	水田3・畝跡		[宮内庁「集落の変遷」pp460-464]p463: (中世の第1エリアについて)水田址は少なくとも3面(水田1・水田2・水田3)を確認した。畦畔と水路は平面調査で検出できなかったことで、水田区画や形状は明確ではない。水田は、灰~灰白色の粗砂や微砂などの洪水砂で埋没し、人間や牛と思われる足跡と鋤跡を多数検出した。特に、牛の足跡は鋤跡とほぼ同じ方向で検出されたことから、水田は開墾時に埋没したものと推測される。最も古い水田3は12~13世紀、水田2と水田1は13世紀以降、15世紀後半以降に埋没したものと判断した。(中略)畑址は、調査地南端I区第1地区にあり、東西方向の畝溝を30条検出した。畝は、平面調査及び土層断面観察においても検出されなかった。畝溝は水田址と同様、洪水砂で埋没している。時期は、畑址を覆う土壌内から13世紀代の遺物が出土していることより、水田3と同様に、12~13世紀頃に埋没したものとみられる。	★12世紀~13世紀。○13世紀。	12世紀~13世紀。	
620	3802	大淵遺跡第3次	基本層位	Ⅲ	p8: (第Ⅱ層は)灰(白)色~暗青灰色シルト。近現代水田耕作土。堆積厚2~40cm。(第Ⅲ層は)褐色粗砂~黄灰色粗砂。洪水堆積層で、互層堆積をなす。堆積厚2~60cm。(第Ⅳ層は)灰色シルト(褐色混)。中世水田耕作土。堆積厚10~40cm。p114: (第Ⅲ層直下の水田は)中世後期(15世紀中頃~16世紀後半)に属する。p131: (前略)水田遺構は近世初期に発生した洪水砂(第Ⅲ層)によって埋没しており、当地域が古墳時代前期初頭以来幾度となく水による被害を受けた地域であることが判明したのも大きな成果である。	★近世初期。▼15世紀中頃~16世紀後半。	近世初期。	

621	3802	大淵遺跡第3次	基本層位	VI2	p8:(第VI2層は)洪水(土石流)堆積層である。さらに大きく2層に分層可能で、上層が暗灰色粗砂=第VI2a層、下層は黒色粘質土(褐色混)=第VI2b層。堆積厚2~30cmを測る。p102:(SR5は)調査区北西部において検出した。他の流路と同様、南から北北東に向かって流れていたと考えられる。規模は検出長約16m、幅55cm~1.8m、深さ4~20cmを測り、断面形態は皿状を呈する。SB3と切り合っており、その関係からSB3より新しい。SR6と同様、流路中には暗灰色粗砂と共に4cm程度の小石から拳大、人頭大の礫が堆積しており、“巨大な流れ”の最下層部分である可能性が高い。特に、暗灰色粗砂で構成される第VI2層を上層に伴うことより、SR5は第VI2層に伴って上流から流れてきた最下流路である可能性が最も高いといえる。従ってSR5および第VI2層全体を“土石流”として捉え、SR5を最下流路の痕跡として理解する。(中略)SR5は古代(8~9世紀)期に発生した土石流の可能性が高い。	★8世紀~9世紀。△中世。	8世紀~9世紀。	p104も参照。
622	3802	大淵遺跡第3次	自然流路SR7		p15:(自然流路SR7について)この流路からは古墳時代前期初頭に比定される土器がまとまった状態で出土した。流路の規模は検出長34.3m、幅0.34~3m、深さ22~40cmを測る。調査区南西部に端を発し、蛇行しながら北東方向に流れている。(中略)本流路は6層に細分可能である。しかし、流路内に堆積する土層のほとんどが「砂」で構成されており、かなり不安定な土層であるといえる。p60:(前略)SR7は古墳時代前期初頭段階の段期間中に機能し、廃絶した流路であると考えられる。p130:(古墳時代前期について)自然流路(SR7)を中心として竪穴式住居址が周辺に配置される状況が確認され、古墳時代前期初頭(庄内IV式期)に属する集落構造の一端を垣間見ることができた。(中略)また、集落の存続期間が短く、布留I式新段階の土器出現以前に廃絶するという特徴は宮前川北斎院遺跡群と共通しており、当時汎松山平野的に発生した自然災害の存在を予感させるものである。	▼庄内IV。△布留I。	弥生後期末葉(庄内新)~古墳前期初め(布留1)。	
613	3803	県民館跡地		中世水田層2-中世水田層1間	p18(表3):(時代区分について、江戸Ⅲ期は17世紀代(江戸時代前期)、中世1期は13世紀中葉~16世紀代(中世後半期)、中世2期は11世紀末~13世紀初頭頃(中世前半期)。)p20:今回の調査で認定した遺構面は、古いものから地山相当層、黄褐色砂質土(シルト)上面に堆積した中世水田層2、この上に洪水性堆積の間層を挟み、中世水田層1が展開する。さらに、この上に薄い洪水性堆積の間層を挟む。その上層が江戸Ⅲ期遺構面に相当する。	▼11世紀末~13世紀初頭(中世水田層2)。△13世紀中葉~16世紀(中世水田層1)。	13世紀前半?	
614	3803	県民館跡地		中世水田層2-江戸Ⅲ期遺構面間	p18(表3):(時代区分について、江戸Ⅲ期は17世紀代(江戸時代前期)、中世1期は13世紀中葉~16世紀代(中世後半期)、中世2期は11世紀末~13世紀初頭頃(中世前半期)。)p20:今回の調査で認定した遺構面は、古いものから地山相当層、黄褐色砂質土(シルト)上面に堆積した中世水田層2、この上に洪水性堆積の間層を挟み、中世水田層1が展開する。さらに、この上に薄い洪水性堆積の間層を挟む。その上層が江戸Ⅲ期遺構面に相当する。	▼13世紀中葉~16世紀(中世水田層1)。△17世紀(江戸Ⅲ期遺構面)。	16世紀~17世紀?	
615	3804	古照遺跡第6次	基本土層		p14:先ず遺構基底層たる上部互層-Iの上面はその遺構の年代から推して古墳期には安定したものである。それ以後に、上部互層-IIたる層厚約2~4mの砂礫層が河川の特徴を有して観察される。この層序は、中世には安定期に入り水田等が形成され、以降はこの中世期及び江戸期の水田を被覆する洪水流による最低2回(或いは江戸期と現代旧耕作土の間野水田を被覆す砂層の堆積を数えると3回)の砂層の被覆を観察しつつ現代に至るものと思われる。(中略)この砂層の堆積時期は、砂層から唐津焼碗、伊万里系皿、瀬戸・美濃系天目碗等出土しており、遅くとも18世紀前半に起こった洪水の堆積砂層と考えられる。本遺跡と関連の深い石手川の氾濫について『松山叢談』にその記述を読みとることができる。(中略)この砂層は、おそらく享保六年(1721年)の大洪水のものと考えられる。	★1721年など。	1721年。	中央気象台・海洋気象台(1939:129-131)には、9月1日に「近畿諸国 大風雨」、9月6日に「諸国 大風雨、洪水」の見出しがあり、前者は対象地域が近畿地方と岡山市周辺のための0.5ページほどの記載であるが、後者には『松山叢談』から「石手川洪水」という文言も引用され、全体では2ページ近くにわたって史料が掲載されている。そのため、遺跡でのイベントは9月6日の台風に伴う大雨による可能性が高い。

616	3804	古照遺跡第6次	下層調査		p130: 古代以降の土器は、10世紀後半の溢流堆積物からの出土である。p131: (前略)このことから須恵器を含む時期の河川或いは洪水等は、黒褐色粘土No.2より西側にあったものと考えられる。また、10世紀後半の土器を含む溢流堆積の状況では西から東への堆積流として観察されているため、この時期の河川が調査地西側を流れていたものと考えられる。	★10世紀後半など。	10世紀後半。	下層にも遺構があるが時期記載なし。
618	3804	古照遺跡第7次	A地区	V	p15: 洪水による堆積。VI層は13世紀の埋没水田。 p161: 洪水砂は古照遺跡の既往調査や松環古照遺跡でも確認されている。本調査区の中世洪水は江戸中期の洪水と同様に大規模。洪水後、14世紀～16世紀の土坑が形成される。	★中世。▼13世紀。△14世紀～16世紀。	13世紀～14世紀。	
905	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)			p78・80: (弥生時代後期～古墳時代初頭について)西部と北西部には後背湿地(黒褐色粘土等)が広がっていたと思われる。年代測定及び植物珪酸体分析から、おおよそ3世紀頃よりこの後後背湿地を水田として利用し始めたと思われる。p80: この時期、河川の氾濫や洪水が頻繁にあったようである。特に大規模な氾濫が北部と東部と南西域にあり自然堤防が砂礫に埋没してしまう。いずれの自然堤防も同時期に埋没した可能性もある。氾濫の中で溢流堆積物において、意図的な土器の廃棄(祭祀?)が行われている(第8次調査エアタン区東肩)。また、一時期ではあるが河川の安定する段階に小自然堤防が北部に形成されている(第8次エアタン区西側)。	★3世紀。	3世紀。	
906	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)			p80: (古墳時代前期(4世紀)について)北東部・東部の自然堤防を被覆する砂礫層の上部層が徐々に土壌化し安定している。4世紀後半、洪水・氾濫などにより「第1・2堰」が埋没してしまう。この埋没時期と同時期、北東部では溝(SD1)に土師器を意図的に投棄している。西部の後背湿地にはSD21(第6次調査)も同時期に存在している。この時期、北東部における地形は、「井堰」に比べて高い地表レベルにありほぼ平坦面であった。しかし、西側に高まり(自然堤防状?)がみられ、その高まりは南西にむけて徐々に傾斜している(第6・8次調査)。西部・北西部の後背湿地では、何度も氾濫によって湛水しながらも水田を営んでいる。「井堰」が機能している段階の河川には、南東から「第2・3堰」へ向かう河川、東部あるいは北東部から「第1・2堰」へ向かう河川、北部から「第1・2堰」へ向かう河川の3条が考えられる。「井堰」を埋没させた洪水・氾濫と同じ時期またはやや新しい時期、東部の後背湿地が洪水・氾濫によって厚く砂礫が堆積し埋没してしまう。この砂礫層の上部も徐々に土壌化し安定していく。「井堰」の埋没後、「井堰」を被覆する砂礫層の上部は徐々に土壌化し安定し、水田が営まれる。この土壌(黒色泥層)で水田が営まれているが時期は不明である(第1次調査)。	★4世紀後半。	4世紀後半。	
907	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	東部		p80: (古墳時代中期(5世紀)について)前半には、東部の土壌化した土層と北東部もあわせた地域で水田が営まれている。この時期の河川としては、東部において確認できる。それは、南西から北東方向へ1条流れている(第99次調査)。その河川に対して土師器を並べて祭祀が行われている。祭祀行為の後、氾濫による溢流堆積によって水田・祭祀遺物が埋没してしまう。後半以降、北東部に河川(2条)がみられ、前半の堆積層を削り批している(第8次調査初沈区南壁)。西部・北西部の後背湿地では、4世紀と同様に氾濫によって湛水しながらも水田を営んでいる。	★5世紀後半。	5世紀後半。	
908	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	西部・北西部		同上。	★5世紀。	5世紀。	断続的にすく数回?
909	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)			p83: (古照遺跡全体について)6世紀初頭には、西部・北西部の後背湿地が洪水・氾濫による砂礫によって埋没してしまう(第6・8次調査終沈区)。その同じ時期またはやや新しい時期、後背湿地の東側に河川が存在しており、この河川の蛇行が顕著となり後背湿地の東面が浸食され削り取られている。	★6世紀初頭。	6世紀初め。	
910	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)			p83: (古照遺跡全体について)10世紀後半頃に西部・北西部に、河川の洪水・氾濫による溢流堆積がみられる。この河川は浄化センターの西側にあったものと思われ、現在の宮前川とほぼ同じ河道であったと思われる。	★10世紀後半。	10世紀後半。	616と同じもののみなした。

623	3805	樽味遺跡第4次	SD2	SD2埋土	p24:(SD-2について)暗褐色シルト質土除去後、調査区北半で東西方向に確認された溝である。(中略)上層と下層に分離が可能である。(中略)上層溝は、検出面から最深で約20cmを測る。溝の埋土下半は、径1mm未満の砂粒を伴う砂質土が堆積しており、底面にそって鉄分の沈着層が認められる。粘性を帯びた土の堆積が見られないことなどから、溝の機能低下は洪水砂によるものと考えられる。(中略)下層溝は、調査区の西端から調査区の東端へとほぼ東西方向に続く。溝の深さは、検出面から約50cm。埋土は、砂礫混じりの黄褐色もしくは黄灰色系の砂質土である。流水があったことが明らかであるとともに、幾たびかに及ぶ砂礫を伴った洪水によって溝が機能しなくなったと考えられる。p38・40:SD-2の機能した時代であるが、上層出土の遺物には11~12世紀に下る例が存在した。出土遺物からは、SD-2下層も上層の時期まで下がるのか、あるいはSD-2の上層・下層の間に大きな時間差が存在したのか、両者の可能性がある。ただし、遺構の検出状況からすれば、上層・下層の間に300年近い時間差を想定するには、やや無理があり、下層の埋没も本来は11・12世紀に下る可能性を考えておきたい。	★11世紀~12世紀。	11世紀~12世紀。	
617	3806	道後今市遺跡第9次		IX	p12:(前略)V~Ⅷ層は中世の耕作面と考えられ13世紀後半~14世紀代の遺物が多数出土している。IX層(明灰褐色砂)は、中世の洪水に伴う砂層でX層上面で検出された牛と人間の足跡を覆っている。	★中世。△13世紀後半~14世紀。	中世(13世紀前半以前)?	
624	3807	文京遺跡第18次	A区		p16:A区は、城北団地南部の弥生時代~古墳時代の集落遺跡が営まれる微高地が団地北部の東西にのびる谷状の窪地へ落ち込む自然地形の変換点付近に位置する。窪地は、基本層序のIV層を切り込む自然流路(SR-400)で形成され、その上位をII層が覆う。(中略)II-2層は、II-1層と比べて硬めの土質で、土色もやや暗い。II-2-①~II-2-⑥層に分層でき、II-2-②・④・⑥層は水田層、II-2-①・③・⑤層は緩やかな氾濫で形成された砂礫が非常に多く混じる堆積土層である。調査時には、II-2-②層を上層水田、II-2-④層を中層水田、II-2-⑥層を下層水田と呼称した。[田崎博之「VI まとめ 1 古代~中世」pp180-193]p191:(前略)11世紀に経営された下層水田と建物群は、II-2-⑤層が堆積することで廃絶される。II-2-⑤層は、砂礫を多く混じる黄褐色砂質シルトや灰黄色砂質シルト、砂礫混じりの黄褐色砂質土で構成される堆積物である。また、部分的にラミナが確認されるので、河川氾濫に伴う比較的緩やかな増水で堆積したものである。河川氾濫の分流がA区の谷状の窪地に流れ込み、下層水田が廃絶したものと考える。II-2-⑤層の堆積時期は出土遺物から11世紀代としか比定できないが、II-2-⑤層を切り込んで12世紀初頭を上限とするSD-208・209が開削されているので、11世紀後半期と考える。	★11世紀後半。▼11世紀。△12世紀初頭以降(SD-208・209)。	11世紀後半。	
625	3807	文京遺跡第18次	SD-208・209		[田崎博之「VI まとめ 1 古代~中世」pp180-193]p191:12世紀初頭には、谷状窪地内にSD-208・209が開削される。周囲には水田域がひろがっていたと考えられるが、水田層は上層のII-2-④(中層水田)層の耕作で削平されている。(中略)pp191-192:SD-208・209の埋土には、砂礫が多く混じり、上部にはラミナ層がみられる。下層水田と同様に、洪水によってSD-208・209のそれぞれに伴う水田とともに廃絶したものと推定できる。SD-208・209を覆うII-2-④(中層水田)層からは、12世紀中頃に比定できる遺物までが出土している。SD-208に伴う水田が廃絶した後、ほとんど時間を置かずII-2-④層の中層水田が開田されたことになる。	▼12世紀初頭以降(SD-208・209)。△12世紀中頃。	12世紀前半?	25次調査(628)と対応するものとみなした。

626	3807	文京遺跡第18次	A区	II-2-③	p16:A区は、城北団地南部の弥生時代～古墳時代の集落遺跡が営まれる微高地が団地北部の東西にのびる谷状の窪地へ落ち込む自然地形の変換点付近に位置する。窪地は、基本層序のIV層を切り込む自然流路(SR-400)で形成され、その上位をII層が覆う。(中略)II-2層は、II-1層と比べて硬めの土質で、土色もやや暗い。II-2-①～II-2-⑥層に分層でき、II-2-②・④・⑥層は水田層、II-2-①・③・⑤層は緩やかな氾濫で形成された砂礫が非常に多く混じる堆積土層である。調査時には、II-2-②層を上層水田、II-2-④層を中層水田、II-2-⑥層を下層水田と呼称した。〔田崎博之「VI まとめ 1 古代～中世」pp180-193〕p192:II-2-④層の中層水田は、洪水層であるII-2-③層が堆積することで廃絶する。II-2-③層から出土した遺物でもっとも新しいものは12世紀後半に比定できる。中層水田を廃絶させたII-2-③層の洪水層の上層には、II-2-②層の上層水田が拓かれる。	▼12世紀中頃。○12世紀後半。△12世紀末～13世紀前葉(II-2-②層)。	12世紀後半。	25次調査(629)と対応。
627	3807	文京遺跡第18次	A区	II-2-①	p16:A区は、城北団地南部の弥生時代～古墳時代の集落遺跡が営まれる微高地が団地北部の東西にのびる谷状の窪地へ落ち込む自然地形の変換点付近に位置する。窪地は、基本層序のIV層を切り込む自然流路(SR-400)で形成され、その上位をII層が覆う。(中略)II-2層は、II-1層と比べて硬めの土質で、土色もやや暗い。II-2-①～II-2-⑥層に分層でき、II-2-②・④・⑥層は水田層、II-2-①・③・⑤層は緩やかな氾濫で形成された砂礫が非常に多く混じる堆積土層である。調査時には、II-2-②層を上層水田、II-2-④層を中層水田、II-2-⑥層を下層水田と呼称した。〔田崎博之「VI まとめ 1 古代～中世」pp180-193〕p192:II-2-②(上層水田)層の調査では、12世紀末～13世紀前葉、道後城北遺跡群が位置する扇状地の扇央において、それまで谷状の窪地に限られていた水田域が微高地上まで拡大することを明らかにできた。こうした水田域の拡大は、松山平野を構成する扇状地の各所で見出せる。12世紀末～13世紀における土地開発の画期として捉えることができる。この上層水田が廃絶するのは、これを覆う洪水層であるII-2-①層から出土した遺物の年代比定から、13世紀前半である。さらに、II-2-①層の上層のII-1層も水田層で、その後も水田経営が継続されている。	★13世紀前半。▼12世紀末～13世紀前葉(II-2-②層)。	13世紀前半。	25次調査(630)と対応。

628	3807	文京遺跡第25次	II-2-⑤	<p>[吉田広「遺構の変遷」pp194-199]p196: (自然流路について)25次調査区全面が自然流路内に位置し、18次調査区南半が微高地にあたり、掘立柱建物など、若干の遺構が微高地面上に出土している。自然流路は、北東方向から南西に流れ込み、18次調査北東部で北西方向に転じる。最深部未掘ながら、南側微高地から深さ15m以上を測る。北側へは、約50mで一度IV層が高まり北岸をなすが、さらに北側に深い流路が控え、より幅広の流路帯を呈する。流水による砂礫・砂層の堆積が進行した後、恒常的な流水が停止した窪地にシルト質土の堆積が進み、開田条件が整う。(中略)自然流路埋没以降、水田の開田・埋没を繰り返しながら、水田域が南へと広がる。下層水田・中層水田では、旧自然流路の微地形に規制された、あるいは利用した水田配列・配水であったのが、上層水田では、真北方位に沿って縦横に直線的な水路が配されるようになる。また、南北の水田面標高差は、下層水田の20cm前後、中層水田の30cm前後から、上層水田で50cm前後に増大し、より高位への水田拡張が窺える。北側低位部の25次調査においても、18次調査で指摘されていた上層水田開田の画期を、平面的に、そして垂直方向に確認できたことになる。p199: (前略)現時点での各層・遺構の年代比定は、以下のようにまとめることができる。(自然流路の埋没)流水の停止:10世紀後半。窪地の埋没:11世紀中頃～後半。II-2-⑥層の下層水田開田:(11世紀後半)。II-2-⑤層による下層水田埋没:(12世紀前半)。中一下層水田間の水田耕作:(12世紀前半～中頃)。II-2-④層の中層水田開田:12世紀末葉。II-2-③層による中層水田埋没:12世紀末葉。II-2-②層の上層水田開田:13世紀前葉。II-2-①層による上層水田埋没:13世紀前半。この結果、11世紀後半から12世紀中頃にかけて、下層水田から中一下層水田間の耕作が、ほぼ水田配列を踏襲しながら続くのに対し、12世紀末葉以降、中層水田から上層水田へと短時間で変遷し、その中に上層水田開田の画期が見いさだされることになる。</p>	<p>★12世紀前半。▼11世紀後半以降。△12世紀前半～中頃。</p>	12世紀前半。	
629	3807	文京遺跡第25次	II-2-③	同上。	<p>★12世紀末葉。▼12世紀末葉。△13世紀前</p>	12世紀末葉。	
630	3807	文京遺跡第25次	II-2-①	同上。	<p>★13世紀前半。▼13世紀前葉。</p>	13世紀前半。	
631	3901	不破遺跡	第1耕作土の上	<p>[廣田佳久「まとめ」pp45-48]p45: 不破遺跡で確認された遺構は、最終的に昭和の初めに行われた掘削工事の後にできた畝状地形を利用した耕作跡との結論に至った。p46: 不破の掘削工事は、昭和4年から14年継続工事として着工された渡川(四万十川)改修工事の一環として昭和8年から始まり、遺跡範囲が掘削工事に着手されたのは昭和9年からで、昭和11年にⅢ区付近、昭和17年にⅡ区付近が竣工している。Ⅲ区にⅡ区より2枚多い耕作面が認められたのは、6年竣工時期が早かったためと考えられ、Ⅲ区の第ⅩⅩⅧ層(第1耕作土)と第ⅩⅩⅠ層(第2耕作土)は昭和12年から昭和17年間の耕作面と言えよう。この間の洪水の状況をみても、(中略)第2耕作土が埋まったのは昭和17年の洪水ではなかろうか。第1耕作土との間に多い所で5層の間層がみられることから第1耕作土は昭和12年からの耕作面で、遅くとも昭和16年には埋もれたものとみられる。これらからすると第1耕作土の耕作期間は長くとも4年間、第2耕作土は2年間程度ではなかろうか。p47: (前略)第3耕作土は他の2層に比べ幅が厚く、耕作期間がいちばん長いようにみられるものの昭和21年頃には洪水で埋まっていたのではなかろうか。換言すれば、第3耕作土の耕作期間は長くとも4年間程度ではなかろうか。</p>	<p>★昭和12年～16年。昭和17年9月21日。昭和21年ごろ?</p>	1937年～1941年。	遺構は近代のもの。
632	3901	不破遺跡	第2耕作土の上	同上	<p>★昭和12年～16年。昭和17年9月21日。昭和21年ごろ?</p>	1942年9月21日。	遺構は近代のもの。
633	3901	不破遺跡	第3耕作土の上	同上	<p>★昭和12年～16年。昭和17年9月21日。昭和21年ごろ?</p>	1946年ごろ。	遺構は近代のもの。

658	4001	碓遺跡第1次	1SE4 など		p50: (近世の遺構について) 1SE4が唯一の井戸であり、出土遺物から幕末に比定できる。また、この時期の井戸までもが河川の浸食によって埋没している事実は、近代以降の水害の凄まじさを物語っている。	★近代以降。 ▼幕末。	近代以降。	
639	4002	井相田D遺跡第2次	II区の池状遺構 SG01・02		p49: (池状遺構(SG))は調査区の全体に分布しており、特に南半分には大型の遺構が存在する。分布状況や遺構底面の状態から河川の氾濫又は、蛇行によって形成された掘り込みが三日月湖的に遺存したものと考えられる。p108: 池SG01は、池SG02と同様に弥生時代後期初頭の河川氾濫によってできた池であるが、(後略)。	★弥生後期初頭。	弥生後期初め	
640	4002	井相田D遺跡第1次		第2水田面直上	p8: 第1水田面下層の灰褐色土層には酸化鉄やマンガンが沈着している。その下層には洪水砂の白色砂・灰褐色砂の互層がひろがり、第2水田面を覆っている。畦畔の残存は良好でなく、その高まりはいずれも低い。p11: (第2面について) III区東側では洪水による土砂の堆積は確認されず、東端では遺物包含層を確認した。包含層下面では溝、土坑、柱穴・ピット状遺構を検出した。遺構からは11世紀前後の土師器小皿・黒色土器碗片の他、ピット状遺構土器碗片が少量出土した。(後略)	▼11世紀。 △12世紀後半～13世紀前半(第1水田面)。	11世紀～12世紀中葉?	
635	4003	岩本遺跡		第2層群(3～4層)	p7: 堆積層は5層群に区分される。第1層群(1～2層)は最上部層であり、現水田耕土、床土類である。微高地の上部を含め調査区全域に堆積し、層厚は20～60cmである。第2層群(3～4層)は谷部の上部埋土である。規模の大きい洪水砂とみられ、下半部は未風化のままである。上部は土壌化し、黒褐色を呈する。層厚は30～50cmである。本層群が第2面の水田を覆う。また、上面は第1面である。(後略) pp32-33: 2面の水田の時期は出土遺物が少なく明確ではないが、2面は中間に洪水砂を介して畦畔の位置が重複し、水路や水口の位置が共通するものが多い。また、水田を覆う埋土中に弥生時代中期後半から後期初頭に比定される土器片が認められることから、両者の時期幅は少なく、連続した水田経営が予測される。第2面の最終的な埋没時期は弥生時代後期初頭と考えられる。	★弥生後期初頭。 ▼弥生中期後葉～後期初頭。	弥生後期初め。	
656	4004	小郡川原田遺跡	自然流路	自然流路の埋土	p37: Cトレンチの下層より弥生時代中期前半に比定される甕口縁片が見られることから、この時期に河川の氾濫による堆積がこの調査地点まで及び始めたことが分かる。(中略) Cトレンチの上層からは、後期後半の土器が少なからず認められる。土層観察から層位間に大きな時間の隔たりが認められないことから、この堆積は後期後半まで何度も繰り返されているようである。この頃には河床が上昇し川幅が狭まり自然流路が形成される。そして、この自然流路は後期後半から終末にかけて堰状遺構や杭列などが形成され、人の手が増えらるようになると考えられる。しかしながら、この自然流路も終末から古墳時代初頭にかけやが河川の氾濫によって埋没してしまうのである。	★弥生終末～古墳初頭。	弥生後期末葉～古墳前初期め。	
648	4005	金山遺跡V区	V区	7, 8	p141: (3号溝以下、4号～6号溝、6層～8層は弥生時代終末～古墳時代初頭に相当する。) p142: 本遺跡の7～8層はジャリ層、砂層からなり、厚いところでは60cmをこえる箇所もある。それらに埋もれてみつかった利水施設はたび重なる洪水により決壊、倒壊したことを物語っており、その都度、水路の復旧と補修がなされたものと思われる。そうした作業の際に幾度も繰り返す祭祀行為を行ったであろうことは、まとまって出土する壺や高坏、器台などの完形土器が示している。	★弥生終末～古墳初頭。	弥生後期末葉～古墳前初期め。	
644	4006	上広瀬遺跡第1次			p113: (中世について) 遺物の出土量から長期間居住した状況ではなく、短期間で廃絶したものとおもわれる。要因としては広瀬遺跡同様、13世紀初めの水害が考えられ、13世紀以降拠点集落は東丘陵上の峯遺跡に移行する。	★13世紀初頭。	13世紀初め。	

645	4006	上広瀬遺跡第2次	1区など		p8:(1区は)幅7m程の2面の旧水田面からなり、全面を昭和38年福岡大水害の土石流が、東西両側を中世の大規模な土石流が厚く覆う。p15:(4区では)(前略)検出面は表土及び昭和38年土石流下の赤褐～黄褐色混礫粘質土上面。1区同様東西両側を中世土石流が深く決る。(後略)(他調査区も同様。)	★1963年。	1963年。	洪水痕跡の形成月日について、報告書中に明記されていないが、6月29日～7月5日に九州北部で降った大雨(国立天文台編 2007: 335)に対応すると思われる。福岡では6月29日に229.3mmの降水があった。
652	4007	蒲生大畔遺跡	1区・2区	3	p16:遺物包含層は4層からなり、遺構面は3層上面と、3層が欠落する部分での4層上面とにある。4枚の遺物包含層はいずれも礫混じりのシルト、及び粘土であって、洪水による堆積層である。4層は弥生土器片から奈良平安時代の須恵器、13～14世紀の青磁までごく少量含まれており、1区、2区、7区の全面に分布している。3層は1区の北半部を中心にして南西～北東の局所的に広がっており、7区には全く存在していない。2層は3層が厚く分布するところでは、逆に存在しないかあっても薄い。(後略)p40:(前略)3層は13～14世紀の堆積であり、集落遺構の上面をなし、遺構からの出土遺物は同時期で、氾濫原的な堆積の直後に集落が形成されたと考えて、齟齬はない。(中略)3層と4層は堆積物の相違はあるが、同時期の堆積である。	★13世紀～14世紀。	13世紀～14世紀。	
653	4007	蒲生大畔遺跡	1区・2区	4	p16:遺物包含層は4層からなり、遺構面は3層上面と、3層が欠落する部分での4層上面とにある。4枚の遺物包含層はいずれも礫混じりのシルト、及び粘土であって、洪水による堆積層である。4層は弥生土器片から奈良平安時代の須恵器、13～14世紀の青磁までごく少量含まれており、1区、2区、7区の全面に分布している。3層は1区の北半部を中心にして南西～北東の局所的に広がっており、7区には全く存在していない。2層は3層が厚く分布するところでは、逆に存在しないかあっても薄い。1層は旧耕作土とその床土であり、畦畔と溝以外は平坦面が2～3枚からなる水田面をなす。(後略)p40:(前略)4層からは青白磁合子、青磁碗、瓦器椀が最も新しい遺物であり、青白合子をもって14世紀に属すると考えられる。即ち、3層と4層は堆積物の相違はあるが、同時期の堆積である。	★14世紀。	14世紀。	
651	4008	蒲生寺中遺跡	1区	4号溝	p45:(1区の1期は)2層上面の遺構・14世紀後半～15世紀前半に相当。)p52:(1区の4号溝は)調査区の南壁とほぼ平行にのびる溝である。幅は西側が狭くて185cm、東側が広くて400cm、深さは西側が浅くて98cm、中央部で最も深くて170cm、東側がやや浅くて135cmで、断面形は「V」字形をなす。覆土にはぶい黄褐色粘質土で、小礫を多く含む。この4号溝は2区にも続き、自然流路となっている。p117:4号溝は中世に生じた自然の流路であり、4層が堆積していたところに、中世末期にさらに大雨による山水によって溝底が決られて、最終的に3層が堆積したものと考えられる。	★中世末期。	中世末期。	
649	4009	黒崎遺跡	1トレンチ	4	p8:(1トレンチについて)4層は暗灰色礫層で、上位と下位には中礫、中位と最下位には小礫が互層をなして堆積している。厚さは25～90cmをはかり、地山の地形に沿って堆積している。マトリックスにシルトを含まないことから、ある時期の洪水による堆積層であろう古墳時代の遺物が出土している。5層は黒褐色腐蝕質砂層で東側のみに存在し、その堆積状況から、4層堆積時の基盤層をなしていたようである。(中略)4層中には7世紀代の須恵器や土師器が出土することから、同時期の堆積層であろう。	★7世紀。○7世紀。	7世紀。	
637	4010	雀居遺跡第3次・第6次・第8次			p60:(前略)水田跡は30cmを越える洪水砂で全体が覆われ大規模な洪水が予想される。水田跡はこの地区全体に展開していたものであろうが洪水により畦畔が消失した部分が大半を占めていたものであろう。(中略)第2、3次調査ではこの水田が9世紀前後に大規模な洪水により埋没した後、洪水砂が比較的高くなった部分に集落が営まれる。この集落は10～11世紀代の短い期間の小規模なものである。越州窯系青磁や木簡等の出土遺物から官衛的施設の可能性も考えられているが、少なくとも空港西側地区においては水田が埋没した後、度々の洪水があり不安定な地形であったことが窺われ、その可能性は少ないと考えられる。(後略)	★9世紀。▼9世紀以前。△10世紀～11世紀。	9世紀。	

641	4010	雀居遺跡第12次	1区西端		p223: 古代、9世紀前後には条里制の地割りで整然と水田が区画される。墨書土器、木簡、斎串、人形などの遺物が出土していることから、太宰府に通じる官道や官衛的な施設が近くにあった可能性が高い。しかしこの水田も大規模な洪水で厚く砂層に覆われ、完全に埋没する。10～11世紀になってI地点の砂層が盛り上がった場所に小集落が営まれているが、火災にあったのか消滅し、その後は洪水に幾度となく覆われたようである。	▼9世紀前後。△10～11世紀。	9世紀。	既往の調査における「9世紀」の洪水と同一のものともみなした。
638	4011	下月隈C遺跡第2次		下層水田の上	p107: 2次調査地点の下層水田はほぼ標高8.2～8.7m程の高さに展開する。(中略)水田の時期は2次、3次両地点とも奈良時代を下限とすると考えられ、上限については古墳時代にさかのぼる可能性も残されている。基盤層の黒色粘土中には遺物も包含されており、おそらくその下限は古墳時代前期と考えられるからである。この水田はおそらく奈良時代のうちに洪水によって埋没し、その後ある程度シルト層の堆積が進み、安定した微高地を形成した後、第1期の集落が営まれるようになるのであろう。	★奈良。▼古墳～奈良。	奈良。	第7次調査の第II面直上の洪水痕跡と同一?
642	4011	下月隈C遺跡第6次			p41: (第II面の水田について)水田面から出土した遺物は、当然ではあるが非常に少なく細片がほとんどである。(中略)水田面の北西側には畦畔と斜交する方向に護岸杭列SX395が築かれている。このことは、河川流路を検出した調査区北西部にも、元来水田が続いていたことを暗示している。その水田がある時期に河川により削られてしまい、それを防ぐために護岸施設を築造したと考えられる。水田の廃絶はたった一度起こった大規模な河川の氾濫によってもたらされたものではない。p42: 水田面出土の遺物は8世紀代のものを主体とするが、水田の廃絶時期は護岸施設SX395出土遺物が示す9世紀ごろと考えられる。水田廃絶後は第I面に見るように、早くも9世紀のうちに井戸が掘られ、その後は集落が形成されている。p44: 護岸杭列の築造は9世紀頃と考えている。	★9世紀。▼9世紀。△9世紀。	9世紀。	
643	4011	下月隈C遺跡第7次		第II面直上	p39: (第II面について)第I面を約80cm下げ、古墳時代後期(6世紀後半)から奈良時代(8世紀後半)を中心とする時期の遺構を検出した。地形的に第I面で確認されたように北西方向に傾斜し、北半部を中心に水田の畦畔等の施設が洪水砂に覆われた状態で良好に残る。南側ではこの検出面の下限となる8世紀後半に洪水砂で埋もれたSD735が検出された。	★8世紀後半。	8世紀後半。	
636	4012	次郎丸高石遺跡第3次	第3号溝		p66: (第3号溝について)本溝はV～VII区の北端部に位置し、第1号溝を切り、VII区からVI区にかけて東西方向の流路で、VI区北東端でほぼ直角に折れ調査対象地外へ延びている。標高8.5～8.85mの黒色～黒灰色シルトの面で検出した。検出面では幅6m前後を測り、溝底は凹凸はあるものの1.6m前後遺存している。横断面形は逆台形を呈し、粗砂を基調とし、粘土・シルトをレンズ状に挟むものの粗砂と砂を埋土としており、一気に埋没したと考えられる。p73: 本溝は自然流路というより人工的な逆台形溝で、水稲耕作用水と考えられ、6世紀後半頃掘削され、8世紀前半頃洪水によって埋没し、廃棄されたものといえよう。	★8世紀前半。▼6世紀後半以降。	8世紀前半。	
657	4013	大宰府条坊跡第230次		28	p7: (前略)整地層が調査区の大半で観察され、この面が遺構検出面の第I面である。さらに整地層を剥がすと鷺田川の氾濫に起因すると推定される灰褐色土(28層)・暗灰色土(30層)・黒色土(31層)・褐色土が観察され、中央部には黄褐色砂(36層)が堆積する。この面が遺構検出面の第II面である。p50: 第I面では奈良時代後期から平安時代の遺構群が検出され、整地層を挟んだ第II面では古墳時代後期から奈良時代前半までの遺構が発見された。	▼古墳後期～奈良前半(第II面)。△奈良後半(第I面)。	奈良。	
650	4014	長野尾登遺跡第2地点E～H区	1・5号溝		p29: (溝(自然流路)について)E区で5条、F区で3条の合計8条を検出した。E区では土石流跡と考えられる自然流路が3条並んで見つかった。特に2号溝は弥生時代の土石流跡で規模も大きく、南西から北東に向かってE区を貫くように流れている。流路内からは、前期末から後期にかけての土器や石器が多量に出土した。他の土石流跡の時期は室町時代に比定される。(1号溝について)E区の南東部に検出した自然流路で、土石流跡と考えられる。(中略)流路の時期は14世紀前半に比定される。p33: (5号溝について)(前略)遺物は覆土の中位以上から、14世紀初頭～中頃の土師器坏を中心に出土した。(中略)5号溝は1号溝が埋没しつつあった段階に発生した土石流跡と考えられる。	★14世紀前半。○14世紀初頭～中頃。	14世紀前半。	

655	4014	長野尾登遺跡第2地点			p76:(長野尾登遺跡の弥生時代について)中期には前期末の中心であったK区から西側のE・F区と東のM区に居住区を拡大している。中期末～後期前半に集落は全域に拡大するが、大雨による災害により集落は衰退し、その後、弥生時代終末期まで存続するが、古墳時代には集落を廃棄している。p77:(弥生時代)後期前半には土石流が起こり、B区2号溝やE区・L区自然流路、K区1号溝にその痕が顕著に遺存する。後期中葉には集落は衰退を始めており、(中略)中葉後半から後葉になると丘陵全域で1・2基をみる過疎的点在状況となる。	★弥生後期前半。	弥生後期前半。
654	4015	長野フンデ遺跡	5区	5b	p135:長野フンデ遺跡の5区から検出された水田関連の遺構には、立杭列群5列と、1対の立杭列によって土留めされた畦畔3列、水田面3枚、水路2条がある。以上の水田遺構の所属時期は、弥生時代前期後半から中期後半にかけてであり、その埋没時期は5b層の弥生時代後期前半である。(中略)5層と6層とは水田耕作土として解釈して可であろうが、5層は保水できない程度に粘性を有してなく、マトリックスが粗砂である。恐らく洪水時の自然堆積によって6層の水田耕作土を被覆した堆積層と考えられる。p136・139:水田の経営期間は弥生時代前期後半から、中期後半までである。水田の廃絶は5層出土土器によると、弥生時代後期前半であり、5層の堆積土壌からすると洪水による埋没である。(後略)	★弥生後期前半。▼弥生前期後半～中期後半。	弥生後期前半。
647	4016	中伏遺跡Ⅱ区・Ⅳ区	ⅣB区	2B	p8:2層は江戸時代後期に属し二分できたが、2A層が東西方向の河岸を示しており、護岸の小杭が並んで検出され、シルトと砂礫の互層からなる。2B層は4枚の均一なシルト層からなり、各分層は20～80cmの層厚である。2A層、2B層の時期細別はできなかったが、2B層の時期には大規模な氾濫のため、他処へ河道が移動していたと思われる。2B層は北側のⅣA区まで至ってなく、下底は狭く、直接中世の砂礫層である3層に接している、主流の河道ではないと判断される。	★江戸後期。	江戸後期。
911	4017	東比恵三丁目遺跡第1次		褐色粗砂層(上層水田の上)	p10:東比恵遺跡の各水田面を覆う粗砂層は御笠川の氾濫によって堆積したもので、(中略)地表面から1m～1.20mの厚さで、ラス等で構成される近代から現代の整地層が堆積する。その下の標高3.80m付近に中世末から近世の時期と考えられる灰褐色土の耕作土が堆積し、断面では畝などが観察される。この耕作土は厚さ20cm～30cmを測る。その下の層は褐色粗砂層で御笠川の氾濫による堆積層である。上方は褐色粗砂と暗褐色粘質土が混ざり合った状態で20cm～50cmほど堆積する。上層水田埋没後にも数回の氾濫があり、その濁流が攪乱したものと考えられる。下方には黄褐色から褐色の粗砂層が20cm前後の厚さで堆積する。(中略)この層の下に粗砂が混入する暗褐色粘質土の上層水田が広がる。水田面直上には厚さ5cm程の灰色細砂が堆積する。p16:(上層)水田面では稲株痕が全く検出されず、足跡が多量に検出されていることから、水田を湛水し田拵えを行った後の、田植え直前に洪水によって埋没してしまったことが考えられるが、水田の存続期間は、水田床土にも鉄分・酸化物の沈着がほとんど検出されないことから、比較的短かったものと考えられる。(中略)(上層水田について)弥生時代後期初頭から前半の時期を考えることができ、調査地点に近接する同時期の集落が存在したことを示している。	★弥生後期初頭～前半。▼弥生後期初頭～前半。	弥生後期前半。
646	4017	東比恵三丁目遺跡第2次	1区	木組み護岸の上	p11:(1区)明瞭な遺構は下から、12世紀初頭～前半期の木組み護岸で、殆どが洪水で削られ露出するか流されており、北東部1～3区の一部に幅7m弱、高さ60cm程の盛土された土堤として残っている。上面では1-1～1-3区北東端部で検出された水田面と大畦畔の土留め工事で、12世紀前半から中頃と考えられる。これも12世紀中～後半には大規模な洪水で流されている。p16:(前略)1次調査区上層水田埋没後の粗砂層は数回の氾濫が確認され、また、3層中には拳大の暗褐色粘質土混入が確認されており、以上の状況から推測して、1次調査区では本調査区より上層洪水砂の削平が著しく、田面を根こそぎ流し去り、その残土がブロックとなって3層中に混在すると思われる。	★12世紀中頃～後半。▼12世紀前半～中頃。	12世紀中葉～後葉。

634	4018	屋舗内遺跡	(Ⅱ-1号溝状遺構)	p15:(Ⅱ-1号溝状遺構Ⅱ-cTr地点について)ここでは上端幅4.2m,下端幅約3.4mと、より床面が幅広くなっている。その分、立ち上がりの傾斜はきつい。また、深さはやはり1mを測る。(中略)砂礫が多く堆積することから洪水によって埋没したことを思わせる。その場合は自然流路に連結していた可能性が高い。もっとも、滞水させるためにも不可欠な装置であろう。そして、堀の管理が手薄になった頃に一気に洪水あるいは土石流が襲ったものと考えられる。p35:上層出土の国産陶磁器類が17世紀後半頃の年代を示すことから、土石流の時期はその直前であったと思われる。	△17世紀後半。	17世紀?	
664	4101	快万遺跡1区・2区	SX2051	p11:(SX2051自然流路は)調査区北側、C・B-2・3区に位置する。平面は不整形を呈し、埋土は細砂・粗砂が厚く堆積し、深さは最大で0.78mを測る。北側からの河川氾濫等に伴う流路と考えられる。(中略)遺物は主に4・5層から出土しており、18世紀後半～19世紀代を主体とする近世の陶磁器類が多量に出土している。p20: SX2051自然流路からは18世紀後半～19世紀代を主体とする肥前陶磁器類が出土していることから、これが19世紀代に起こった洪水等によって形成されたことが窺える。(後略)	★19世紀。 ○18世紀後半～19世紀。	19世紀。	
663	4102	蔵上遺跡	北側部分	p150:調査区一帯は、縄文時代後期後半～晩期初頭の時期に集落が営まれて以降、古墳時代後期に集落が展開するまでの約1000年もの期間、全く生活の痕跡が認められない。(中略)7世紀初頭頃、幾度目かの安良川の大規模な氾濫が調査区近辺を襲ったであろうことが、この時期前後の住居跡が大小の礫に埋没した状況で検出されることから想定される。そして、この影響が一部の土地利用の状況変化、あるいは生活空間としての連続性断絶として現れていることは、遺構数の減少が如実に物語っている。ただし、このことは調査区周辺のみならず限定されるものであり、やがて古代の律令体制下の地方末端支配機構が整備されていく過程で、蔵上地区周辺が依然として鳥栖地域の中核部として機能し続けたものと考えてよい。	★7世紀初頭。	7世紀初め。	7世紀初頭。
659	4103	坪の上遺跡	谷地形	p107:(2区について)調査区の2/3以上が谷地形と考えられ、Fig.110に示した範囲(弥生時代の遺構が存在する以外の部分)で確認した。谷地形としたが、河川(氾濫)跡もしくは、もともと谷の部分の部分が氾濫によって大きく削られた跡の可能性がある。出土遺物から大きな氾濫があったとすれば、古墳時代初頭頃と考えられ、同時期のこのような河川(氾濫)跡は、1・3区でも確認している。当該期に、この地域(高木瀬町)において地形を改変するような大規模な氾濫(嘉瀬川)があった可能性がある。p128:谷部の堆積状況及び出土遺物等から高木瀬地区を襲う大規模な氾濫が、古墳時代初頭前後に発生した可能性がある。その後、この谷が完全に埋没してしまうまで遺構は存在せず、氾濫等により集落が廃絶された可能性がある。	★古墳初頭。	古墳前期初め。	参考)p108: Fig.110「谷美測図②」
660	4104	徳永遺跡21区	溝群	p16:(SD21053溝は)調査区西側CE～CR-95～99グリッドで検出した。(中略)SD21053の埋土は底部付近に黒色の不純物をほとんど含まない粘土と地山ブロックを主体とする層が存在し、最上層の一部に灰褐色の砂質土が存在する他は粒子1～5mm程度の粗砂が主体で、堆積状況も不規則であることから、強い流水を伴う短期間の埋没が想定できる。堰2の埋没状況も、部材直下には粘土層が存在し、散在する部材のほとんどが粗砂によって埋没することから、洪水等による破壊を伴って廃絶したことが窺える。これらの粗砂はSD21057と全く同じものであり、またSD21057が21053に切り込んで存在することから、両者は同一の流水を有するものであり、堰との位置関係よりSD21053からSD21057が取水していた可能性が考えられる。p55:古墳時代後期になると調査区西側にSD21052・21053・21057が開削される。(中略)(SD21052・21053・21057を含む)一連の溝群が機能した年代を6世紀後半以降、最終埋没は7世紀前半の洪水による短期間の埋没と考える。	★7世紀前半。 ▼6世紀後半以降。	7世紀前半。	

662	4104	徳永遺跡13区・19区	13/19区	p13・17: (SD13004溝は)調査区の東端で、DI~ED-81~91グリッドで検出した。p17: 基本的に南北方向に走行する溝だが、DW-82グリッド付近でやや屈曲する。全長113m以上・溝幅2.6~8.2m・深さ0.9~1.9mをはかる。(中略)明らかな河川起源の砂を埋土とし、部分的に粘土や黒色土が挟み込まれている。明確な掘り返しの痕跡はなく、埋土の切り合いから最低3回の大規模な流水(洪水?)によって多量の砂が運び込まれた事がわかる。DS-87グリッド付近では、この溝に伴う取水溝らしきものを検出している。本体溝と同じ砂で埋没していた。(中略)埋土の状況からは、1回の洪水で用水路としての機能は停止し、その後複数回の洪水で次第に浅い凹地になっていたものと判断できる。明瞭な修復や掘り返しの痕跡は確認できず、掘削から用水路としての機能が停止するまでの存続期間は、短いものであった可能性が高い。p115: SD13004の掘削は6世紀後半代を大きくは遡らない時期であり、大部分は7世紀前半代までに埋没し、埋没の完了が7世紀末前後と思われる。古代後期に属する遺構との切り合い関係から、9世紀には完全に埋没していたことは確実である。	○6世紀後半~7世紀末。	6世紀後半~7世紀。		
912	4105	中原遺跡5区	SD501	p44: (SD501について)7区と接する調査区西側にあり、直線的な流路。埋土は粗砂が目立ち、道路を挟んでSD701とつながる。人工的に掘削された溝と判断した。(中略)東側のSD550では粗砂がほとんど見られない。SD501は流路の上場と下場も直線的だが、SD550は蛇行している部分が東側を中心に見られる。流路を埋めた洪水が違う可能性もあるが、掘り返しの跡は確認できなかった。p266: D期(大宰府編年VI期について)SD501, 550がある。(後略)	★大宰府編年VI期。	大宰府編年VI期(800~830年代)。	山本信夫(1996)「北部九州の土器」『日本土器事典』pp742-746のp746「表1 北部九州土器標式の並行関係」によると、大宰府I期は7世紀後半、IV期は760~780年代ごろ、V期は780年代~800年代前半ごろ、VI期は800~830年代ごろ。	
913	4105	中原遺跡5区	SD550	p265: B期(大宰府編年I~V期について)SD550からはSD256と同時期の遺物が流路東側を中心に出土しており、B期に流路としての形成していた可能性がある。しかしSD256と550の関係は判断が困難である。SD550のI-17以東は激しく蛇行し枝流路も幾条も流れており、自然流路の形状を示す。自然流路ならば流路が途切れることも十分考えられる状況である。そのため両流路がつながっていたかは結論を出すことができない。pp265-266: C期(大宰府編年V~VI期について)SD551は出土遺物が少なくはっきりしないが、C期には埋没していると考えている。SD550はB期と同じく、出土遺物からみると蛇行しているI-17以東は流路として機能していた可能性(I-20付近までか。)がある。SD501(SD701も含めている。)との関係はD期で触れる。また洪水時の氾濫流路と思われるSD512, 513, 514はSD501に切られていることからB~C期の流路である。p266: D期(大宰府編年VI期について)SD501, 550がある。(後略)	★大宰府編年VI期。	大宰府編年VI期(800~830年代)。	山本信夫(1996)「北部九州の土器」『日本土器事典』pp742-746のp746「表1 北部九州土器標式の並行関係」によると、大宰府I期は7世紀後半、IV期は760~780年代ごろ、V期は780年代~800年代前半ごろ、VI期は800~830年代ごろ。	
914	4105	中原遺跡5区	SD551	pp265-266: C期(大宰府編年V~VI期について)SD551は出土遺物が少なくはっきりしないが、C期には埋没していると考えている。SD550はB期と同じく、出土遺物からみると蛇行しているI-17以東は流路として機能していた可能性(I-20付近までか。)がある。SD501(SD701も含めている。)との関係はD期で触れる。また洪水時の氾濫流路と思われるSD512, 513, 514はSD501に切られていることからB~C期の流路である。	★大宰府編年V~VI期。	大宰府編年V~VI期(780~830年代)。	山本信夫(1996)「北部九州の土器」『日本土器事典』pp742-746のp746「表1 北部九州土器標式の並行関係」によると、大宰府I期は7世紀後半、IV期は760~780年代ごろ、V期は780年代~800年代前半ごろ、VI期は800~830年代ごろ。	
661	4106	増田遺跡5区	基本土層	2・3	p10: 第1層は畑地耕作土で、その下の2・3層は恐らく昭和28年の水害時の堆積土、第4層はそれ以前の耕作土である。	★1953年。	1953年。	
666	4301	大江遺跡群第106次	基本土層	II	p89: (II層は)暗褐色砂質土層。炭・焼土を多く含む。昭和期の水害による堆積層。	★昭和。	昭和。	
668	4302	黒髪町遺跡本荘北地区9601調査地点	9601調査地点の基本層序	2	p17: 2層一青灰色砂層(昭和28年の白川洪水の層、厚さ10cm。)	★1953年。	1953年。	

669	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9603調査地点	9603調査地点		p75:(前略)遺構検出面の上は、鉄分の沈殿した運動場の硬く締まった層。その上を昭和28年の洪水による青灰色砂層(厚さ30cm)が直接被覆していた。その上部は泥炭質の暗褐色の埋土で、洪水によって運動場が埋没し、その後埋立て造成された様子がわかる。	★1953年。	1953年。	他の調査区における1953年洪水痕跡と同一。
670	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9704調査地点	9704調査地点の基本層序	4	p86:(前略)遺構検出面の上は、鉄分の沈殿した運動場の硬く締まった層が堆積している状況であった。さらにその上を昭和28年の洪水による青灰色砂層(第4層、厚さ30cm)が直接被覆している。その上部は泥炭質の暗褐色の埋土で、洪水によって運動場が埋没し、その後埋立て造成されたという旧聞を裏付けている。	★1953年。	1953年。	他の調査区における1953年洪水痕跡と同一。
667	4303	山王遺跡第1次	流路6・7・8		〔岩谷史記「総括」pp258-262〕p258:(古墳時代について)古墳時代前期の遺構は確認していないが、中期の遺構にはⅧSE-1・2およびⅩSE-1・2の井戸、ⅧSOP-5・6およびⅩSP-2等の小穴がある。古墳時代中期の集落形成の一端を示すものとする。その後、流路6・7・8が中期段階に本調査区を覆い、堆積したと考える。後期以降、遺構が認められなくなることから、流路の堆積により、集落は廃絶された可能性を考える。	★古墳中期。▼古墳中期。	古墳中期。	
665	4304	西片町遺跡			〔高谷和生「遺跡の各期の様子」pp56-57〕pp56-57:(西片町Ⅱ期:古墳時代前期中頃について)弥生時代後期以降に、資料上からは一時集落は断絶し、この地に改めて集落が営まれるのは古墳時代前期中頃である。そしてこの時期に集落が洪水を襲った。(中略)調査区ではC区が最も顕著で、このように遺跡の中心部から北側に向かって、洪水の痕跡が見られる。その勢いはかなりの土砂とともに、前時代の遺物類も併せて流れ込み、一気に古墳時代の集落を押し流したことが容易に想定される。(西片町Ⅲ期:古墳時代中期前半について)A区では洪水の結果、一段下がった微高地の落ち込み状の箇所に、集落の生活用具等とともに多数の大形木材や流木を堆積させた。この地点では洪水後に、損害を受けた集落の復旧が時期をあげずに行われたと考えられる。	★古墳前期中頃。▼古墳前期中頃。	古墳前期中葉。	
675	4401	大肥吉竹遺跡			〔渡邊隆行「考察」pp123-133〕p125:10号溝などは流路と考えられ、遺物包含層グリッドには陶器編年MT85~TK209や山本編年ⅠB期の範疇に収まる須恵器などの遺物が多数含まれることなどから、10号溝周辺から28~31号住居跡周辺はやや窪んだ地形を呈し、吉竹1~2期以降、大肥川の氾濫により埋没していった可能性が考えられる。これらを示すように、6~9号溝などはそのほとんどが古墳時代の遺構を切って流れ、その上面に古代の遺構が形成されていることなどからも、6世紀末~7世紀後半の間に大肥川が氾濫した可能性が考えられる。p129:7世紀に至る3期において大肥川の氾濫により遺跡一帯が流され、氾濫が安定するにしたがって、7世紀の末の4期に再び集落が営まれるようになる。	★6世紀末~7世紀後半。▼古墳。△7世紀末。	6世紀末葉~7世紀。	
671	4402	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡	基本層序	表土	p9:遺跡の基本層序は地点によって小異があるが、表土は1993年8月の台風13号による河川氾濫に起因する砂質土であり、層厚30cm以上の堆積が認められる地点も存在する。その下位は遺跡の廃絶後に(近代以降)に形成された水田の旧耕作土と床土である。	★1993年8月。	1993年9月。	報告書では8月となっているが、9月3日に九州地方を縦断した台風13号に起因するとみられる。大分では同日に414.0mmの降水(最大1時間降水量81.5mm)記録されている。遺跡に近いアメダス観測点の竹田では同日に261mmの降水が観測されている。

674	4403	玉沢地区条里跡第3次	1区	洪水層S50	p30: (洪水層S050について)S010水田層・大畦畔・用水路を覆っている洪水層である。下層の大畦畔北側部分とS010水田層上面に僅かに堆積が見られるシルト質土と一連の洪水層と判断される。大畦畔・用水路を完全に覆っているため、非常に大規模な洪水であったことが窺える。また、洪水層の上層に若干の土壌化が見られることから水田開発に至るまで一定期間間隔があった可能性が示唆される。p42:1区の変遷の中で注目されるのはまず、自然地形に規制された小区画の水田の地割が9世紀前半まで確実に踏襲され、9世紀中頃には踏襲されていない可能性が指摘できる所見である。(中略)9世紀中頃を画期に、水田の改変・拡張・水掛りの変更が行なわれた事を行なわれた事を示唆する重要な所見であると考えている。9世紀中頃に起きたと考えられる洪水の影響で平坦化し、水掛りのための畦畔を形成しなくても水田開発が可能となったと考えられる。1区における現状の条里状地割は土地管理上の畦畔の可能性が高い。	★9世紀中頃。▼9世紀前半。	9世紀中葉。	
672	4404	八坂久保田遺跡		(遺跡変遷過程の中の第Ⅲ段階)	p71: (第Ⅰ段階は)本遺跡で最初に水田が作られた段階である。(中略)古代の中で考えられよう。(第Ⅱ段階は)引き続き水田として利用されており、4~6層、15~17層がこの段階に相当する。地形的に前段階同様に、南から北に向かい緩傾斜を呈するもので、洪水堆積が進行しこの段階の地表面は標高1mほどになる。(中略)水田の規模から考えて、河川灌漑などの用水システムを整えたものであったと推定される。溝3は若干の掘り直しが認められるが、最終的に埋没したのは12世紀初頃前後と思われる。(第Ⅲ段階は)大規模な洪水堆積があり、地形が大きく変わる。(中略)周辺でも大きな地形的な変化が生じたと考えられ、第Ⅱ段階の水田に大きな打撃を与えたものと思われる。微高地上の集落は12世紀前半に短期間存続したのみであるが、荒廃した水田の再開発を担ったと理解される。同様な時期に、八坂川の対岸にある八坂中遺跡でも、条里水田が放棄されて大規模な集落が進出する。河床低下などにより、用水供給システムに支障が生じたためと推定される。本遺跡の第Ⅲ段階にみられる大規模洪水が、その要因であった可能性が高い。12世紀初頃前後から前半の時期である。(第Ⅳ段階は)集落が撤退し、再び全面的に水田化する。(中略)この段階は現在にいたるまで約1mの堆積をみるが、その大部分の層は数cmほどの薄いものである。第Ⅲ段階までの層が0.2mほどの厚い堆積であるの対照的である。これは、何度となく洪水にみまわれたが、水田層を完全に覆ってしまうような大規模な堆積は伴わないことを物語っている。すなわち、水はかぶるが、多量の土砂を運ばない洪水へと変化したものである。	★12世紀初頭~前半。▼12世紀初頭。	12世紀前半。	
673	4405	八坂本庄遺跡	B区	第Ⅱ面	p259: (第Ⅱ面について)第Ⅱ面の微高地上で検出された遺構の大部分は12世紀前半代を中心とするもので、この段階では現状に比べ、まだ土地の微起伏が顕著であったことが分かる。(中略)集落が展開する微高地の南側に広がる低地は、古い段階の河道にその起源をもつものである。微高地に展開する集落に伴う水田は3面が確認された。このなかで最も古い水田面はⅡ-1面で、Ⅱ-2面、Ⅱ-3面と新しくなるにつれ、集落のある北方向に水田が拡張する。その拡張は5~8mにも及ぶが、これは水田が営まれる旧河道の埋積が著しく進行したことにもよる。すなわち、Ⅱ-1面の上面からⅡ-3面の上面までで約0.4mを測り、この間に数十cm単位の土砂堆積を残す洪水被害を少なくとも2度受けたことが分かる。	○12世紀前半。	12世紀前半。	
681	4501	草刈田遺跡			[中野和浩「総括」pp144-148]p144: (Ⅰ期~Ⅵ期とした遺跡の変遷のうちのⅢ期について)8世紀末か9世紀に入って施工されたと推定される官道は、9世紀後半に埋没する。(中略)官道は市内を一直線に通ったと推定するルート①と、長江川右岸から南へ折れて灰塚の台地を東へ抜けるルート②が考えられる。p148: (前略)9世紀後半には集落は段丘上に殆ど移動したと推定されることから、この時期に川の大氾濫が発生し、段丘下の官道はルート②へ移設しなければならなくなったことは容易に推定される。	★9世紀後半。▼8世紀末~9世紀。	9世紀後半。	

682	4502	坂元A遺跡		6a・6b 間	p31: (6a・b層(弥生時代終末～古墳時代前期)の遺構について)(水田である)G-7区とG-8区にまたがる1区画は、不確定な部分を含んでいるが、南北辺の長い方が約4m、東西約7.4mである。北側の擬似畦畔Bの幅はおおむね20～40cmである。なお、この付近においては、6b層を耕作土とする段階の6d層単独からなる擬似畦畔Bと、6a層を耕作土とする段階の6d層に6b層が混じり込んだ層からなる擬似畦畔Bとが、わずかのずれは認められるもの、ほぼ同じ走向で重なり合って検出している。先述したように6a層と6b層には、大きな時間的な断絶はなかったことと、小規模な洪水によって薄い砂に覆われながらも、小畦畔が維持されるとともに、おおまかな水田区画に変更はなかったと考えられる。	○弥生終末～古墳前期。	弥生後期末葉～古墳前期初め。	
683	4502	坂元A遺跡		軽石粒混じりの砂の薄層(5b上)	p33: (5b層(中世前期)の遺構について)5b層出土の貿易陶磁器をみると、12世紀から14世紀前半にかけての時期幅がある。他方、遺物の中で最も多く出土した土師器の杯・小皿は13世紀後半のものが大半を占めるものと思われる。p36: (前略)西ブロックのJ・K-3・4区付近では、5a層の直下の5b層上面を、洪水に伴うものと思われる軽石粒混じりの砂の薄層が部分的に覆っており、その砂層が落ち込んだ小ピットを多数検出した。(中略)4層は灰白色軽石層であり、15世紀後半(文明年間)と推定される桜島起源のテフラである。	○12世紀～14世紀前半。△15世紀後半(桜島文明軽石)。	14世紀～1471年。	
679	4503	昌明寺遺跡	II区のSR01・SD01南側		p29: SR-01・SD01の南側は、中世末前後の氾濫土壌である。	★中世末期。	中世末期。	SR: 盛土畦畔。 SD: 溝状遺構。
680	4503	昌明寺遺跡	II区のSX01		p31: (SX-01は)I区にまたがる、幅8m前後の流路跡で、砂礫層と暗青灰色粘土層との互層・混層を主とする。基底面は未確認であるが、突発的な土石流と思われる。覆土には17～18世紀代の陶磁器類が多く、(中世)概ね18世紀後半の土石流跡と解釈したい。	★18世紀後半。○17世紀～18世紀。	18世紀後半。	
684	4504	中尾下遺跡		氾濫A2層	p5: 本調査区は扇状地縁辺の開析谷と河川氾濫原との境界に立地している。この立地要件から複数回にわたる河川氾濫起源の砂・砂利層等が見られ、また旧地形の高低差もあり、地点毎に異なる堆積状況となっていた。そのため基本的な層序の把握については、通常の堆積層(I～XⅢ層)、河川氾濫起源の堆積層(A1～4層)、河川流路・溝状遺構等(B1～5層)に分類した上で、出土遺物による時期判別・自然科学分析結果も加え、総合的に再構成を行った。 p62: (近世の遺構について)VI・VIc層を検出面とした水田跡で氾濫A2層に被覆される。氾濫A2層は直上IV層(18世紀後半)とほぼ同時期と考えられる。土層観察からは、状況不明の西部微高地と中央低地や河川流路を除く調査区内から、南の開析谷への面的展開が想定された。pp62-63: VI-SW01耕作面で実施したプラント・オパール分析からは、田植え直後の「初夏」埋没との推定がなされた。18世紀代後半前後6・7月(旧暦7・8月)の洪水災害記録には、幕末の都城島津家家老安山松巖が編纂した「年代実録」からは宝暦3年(1753)・明和2年(1764)・寛政8年(1796)・文化13(1816)・文政11(1818)が抽出される。損害高では宝暦3年(1753)・明和2年(1764)・寛政8年(1796)が大きく、氾濫A2層はいずれかに該当する可能性もある。また寛政8年(1796)の記述には「諸所大破砂入洗祿過分夫数十一萬人余御加勢夫御願二成」とあり、大規模な災害復旧の様子がわかる。本調査で確認された災害復旧層は、一部に砂が混じる層(IVb層)もあるが、大部分は新形成の耕作土層(IV層)であった。IVd層のプラント・オパール分析では稲作が存在した可能性は低く、一連の災害復旧と捉えられる。50cmを超える大量の砂の堆積が、復旧方法を変更させた要因と考えられる。	★18世紀後半(1764年または1796年?)	18世紀後半(1764年か1796年?)	
676	4505	母智丘谷遺跡	基本層序	III	p7: 第II層は、様々な土質がブロック状で構成される暗灰褐色土層である。洪水等の後に施された近年の造成土だと考えられる。第III層は明褐色～明灰褐色砂質土である。全体的に細互層のように堆積している。氾濫等による洪水砂の堆積だと考えることができる。(中略)(第IV層は)中世から現代にかけて連続した水田跡面であると考えられる。	▼中世～現代。○現代。	現代。	

677	4505	母智丘谷遺跡	基本層 序	V	p7:(第IV層は)中世から現代にかけて連続した水田跡面であると考えられる。第V層は暗青灰色土である。全体的に細互層のように堆積している。氾濫等による洪水砂の堆積だと考えられる。(中略)(第VIII層は)桜島文明軽石(桜島起源-15世紀後半噴出)層であると考えられる。	▼15世紀後半(桜島文明軽石)。△中世~現代。	1471年~16世紀?	桜島文明軽石は1471年噴出。
685	4601	鍛冶屋馬場遺跡		Va	p14: Va層明黄褐色シルト。小石・砂粒・炭化物の混入が見られず、完形の土師器を所々に含む。粘性が無く、IVb・Vb層と明らかに色調・土質が異なる。洪水層と考えられる。(中略)鍛冶屋馬場遺跡においては、IIIa層~VI層までが弥生~近世にかけての遺物包含層である。遺跡が自然堤防上に立地し、堆積環境がほとんど同じであるために、各層位の土質に大きな違いは見られない。洪水層に関しては、Va層を除き明確に認めることはできなかった。Va層は土壌化が進んでいないことから、短期間に埋没したと考えられ、調査区の南端にいくに従って次第に層厚が薄くなりやがて見られなくなる。Va層には、砂礫が含まれないことから氾濫の際にも強い水の作用を受けない立地であったことが考えられる。p23(掘立柱建物跡1号計測表):(VI層上面の掘立柱建物2号は10世紀中葉に相当。)pp23-29:(VI層上面の掘立柱建物跡2~4号は10世紀中葉に相当。)p77(竪穴住居跡計測表):(Va層上面の竪穴住居跡は10世紀中頃に相当。)p80(掘立柱建物跡5号計測表):(Va層上面の掘立柱建物跡は10世紀中葉に相当。)p193: 古代の遺跡はVa層を挟んでVb期とIVb期の2期に分かたえる。(中略)Vb層とIVb層出土の土師器の型式差がみられないことから、Va層堆積後短期間のうちに遺構の形成が始まっている。	▼10世紀中葉。△10世紀中葉。	10世紀中葉。	
686	4602	京田遺跡	基本層 序	III	p19:(III層は)灰色のシルトからなる河川の氾濫堆積層である。調査区全域に分布し、IVa層を覆っている。(中略)(IVa層からは)9世紀から10世紀の遺構・遺物が出土している。p238:(前略)水田跡4の時期はIVa層で出土している土師器をもとに9~10世紀に比定できる。水田跡4は河川の氾濫堆積層であるIII層の堆積によって廃絶する。このIII層は調査区全域にみられることから、規模の大きな氾濫によって堆積している。ほぼ同時期の氾濫堆積層は、川内市鍛冶屋馬場遺跡に川内川起源のVa層(10世紀中頃)がある。両者の対応関係については明らかでないが、川内川起源の氾濫堆積物は川内平野に広く分布しており、その分析が進めば鍵層として大いに活用できるものと考えられる。	▼9世紀~10世紀。	10世紀?	
687	4603	橋牟礼川遺跡	標準層 位	9	p11:(第9層は)暗褐色土層。小礫や池田湖降下軽石を若干含む。やや粘質であり、厚さは50cm~1m程度である。(中略)第9層の形成は、基本的に扇状地堆積物であるものの、出土須恵器から判断すれば、5世紀~6世紀代の集落形成による地層の攪乱と複数回の河川氾濫などの要因が複合していると見なければならぬ。	★5世紀~6世紀。	5世紀~6世紀。	

遺跡一覧表 A-3

遺跡の概要

洪水痕跡の形成年代（絶対年代）

番号	遺跡名	遺跡の概要	絶対年代					
			上限	下限	幅			
003	0101	H513遺跡	中世～近代の集落跡。			1860	2000	141
004	0101	H513遺跡	同上。			1601	1739	139
002	0102	K435遺跡	擦文時代早期後半(8世紀前半)～後期を中心とした集落跡(竪穴住居跡など)。			771	830	60
005	0103	K523遺跡	①擦文時代前期～中期の遺物包含層。②中世～近世の遺物包含層と住居跡の可能性が高い炉跡。			1601	1739	139
001	0104	柏木川4遺跡	縄文時代後期中葉～擦文時代に形成された河道が検出され、河道からは多数の木製品と繊維製品、漆製品が検出された。			1860	2000	141
009	0301	押切遺跡	現地表4mの下の洪水砂層から12世紀の手づくねかわらけ出土。近代の鍛冶場遺構、屋敷跡を検出。			1947	1947	0
010	0301	押切遺跡	同上。			1948	1948	0
013	0302	中村城跡	平安時代・中世・近世以降の遺構・遺物が確認された。調査区北側を中心に平安時代の集落が広がっていると考えられ、竪穴住居跡や河川跡に形成された土器捨て場、To-aテラが被覆した水田跡が確認された。調査区南側には主に中世の遺構が集中し、中村城の一部と考えられる堀跡などの遺構群が確認された。城館が機能していた時期は13世紀中葉～17世紀初頭で、15世紀半ば～16世紀が中心。			1501	1630	130
011	0303	穂貫田遺跡	平安時代(9世紀半ば～10世紀初めごろ)の集落跡。穂貫田遺跡では、住居の数や鉄製品の出土から、この時期に限れば周囲の集落と何ら遜色なかったと推測される。また、近接する駒板遺跡は、いまだ地形の凹凸が顕著であったためか、あまり住居は作られなかったようである。(近世末以降について)この間に起こった洪水によって、駒板遺跡も、穂貫田遺跡と同様に平らに埋まり、今と同様に水田が作られ、集落が営まれていたと思われる。			1240	1350	111
007	0304	本町Ⅱ遺跡第2次	今回の調査で検出された主な遺構は、9世紀後半～11世紀頃の竪穴住居跡26棟、10世紀初頭の畝跡約12356㎡、合口甕棺2基、堀跡1条、溝址17条、焼土遺構10基、墓坑56基(11～15世紀46基、近世墓坑10基)、周溝2条、道路状遺構1基、建物跡27棟、柱穴7基、土坑類36基、柱状土坑2462基である。周辺遺跡を含めたこれまでの調査では、遺跡一帯は9世紀後半以降の開拓に始まり、現代に至ったものと考えられる。			1947	1947	0
008	0304	本町Ⅱ遺跡第2次	同上。			1948	1948	0
927	0305	柳之御所遺跡第69次	平安時代、奥州藤原氏に関連した遺構群。今回は遺跡の南端部の調査。			1101	1200	100
017	0401	市川橋遺跡	多賀城に関連した官衙施設を中心とした遺跡。今回の調査地区は、多賀城の外郭から南へ約200mと近い位置にあり、多賀城外郭にほぼ並行するように東西に細長く延びている。また、縄文時代、古墳時代、中世以降の遺構・遺物も認められる。遺跡の主体である古代について、多賀城外郭南門から南へまっすぐ延びる南北大路(SX5230)は、当初は路幅約18mであったが、後に約23mに拡幅されていることが確認できた。それぞれの年代は、8世紀中葉～末、8世紀末～10世紀後葉と推定されるので、構築年代はさらに遡る可能性もある。			1001	1200	200
016	0402	一里塚遺跡第44次・第47次	遺跡の範囲は東西約1.1km、南北約0.9km。8世紀後半～9世紀初頭頃の郡衙に付随する「倉庫院」と考えられる官衙施設や外郭に区画施設を伴う集落の存在などが判明している。第44次調査区は遺跡の東端部、第47次調査区は遺跡の南端部に位置し、直線距離にして600m程離れており、遺跡内でも遺構の性格や出土遺物の年代観が異なる区域である。①第44次調査区：8世紀後葉～9世紀中葉頃の官衙関連施設。②第47次調査区：7世紀後葉～8世紀初頭頃の環濠集落跡。			801	915	115
021	0403	鴻ノ巣遺跡第7次	古墳時代中期～中世の畑跡・集落跡など。①5b-7層上面では、15軒の竪穴住居跡と大型の柱穴からなる2方向・2時期の区画施設・祭祀遺構など検出された。5b-7層上面検出遺構からは出土した遺構、3期5段階の変遷が考えられ、氏家と典が提唱した南小泉式と引田式の区分が可能であることが確認された。②5a層は、古墳時代後期前半ないし古墳時代中期後半頃の畑耕作土層で、畑の耕作を反映して下面で小溝状遺構群が検出された。③3b層では古墳時代後期の溝跡と大型の土坑が検出された。④2b層上面では、中世・平安時代・奈良時代の遺構が検出された。			531	570	40
018	0404	中野高柳遺跡第1次・第2次	今回報告した遺構は、基本層序第Ⅷ層のものと第Ⅴ層のもの、第Ⅲ層～第Ⅴ層で検出したものがある。第Ⅷ層は中世以降の旧表土であるが、残りが悪い。中世～近世の遺構の大部分は、第Ⅳ層・第Ⅴ層で確認した。第Ⅷ層の検出遺構は水田跡と畑跡で、これらは第Ⅶ層である灰白色火山灰に覆われている。(参考:pp71-73:(第Ⅰ期は9世紀末から10世紀前葉。第Ⅱ期は10世紀前葉以降の10世紀前半。第Ⅲ期は下層が12世紀前半、上層は12世紀中頃から後半。第Ⅳ～Ⅶ期は中世、第Ⅶ期は17世紀以降。))			915	950	36
019	0404	中野高柳遺跡第8次	遺跡の利用は平安時代中頃に始まる。この時期は遺跡の北部から中央部に畑や水田が営まれた。畑の面積は、第Ⅰ期が12300㎡以上、第Ⅱ期は8900㎡以上あり、一般集落に伴う畑と考えるには規模が大きすぎる。また、両時期とも耕作を行った人々の居住域が確認できず、周辺でも同時期の遺跡は確認されていない。このことから、本遺跡の畑は大規模な農地経営にかかわるものの可能性が想定されよう。平安時代末期以降はほぼ継続して集落が営まれ、各時期の集落の空間構成＝有力者とその家臣・従者といった人々の屋敷から成る集合体について、ある程度具体的に提示できたのが最大の成果といえる。			931	970	40
020	0404	中野高柳遺跡第8次	同上。			931	970	40
014	0405	上代遺跡	上代遺跡は、大崎平野の西北端に位置し、江合川右岸の河岸段丘に立地する奈良・平安時代の遺跡である。今回の調査区は、遺跡東側の段丘縁辺から沖積地に移行する地点にあたる。調査の結果、基礎地業、水田跡およびそれに伴う水路跡、溝跡、河川跡などが検出され、今回の調査区域がおもに耕作域として利用されていたことが明らかになった。水田跡は、9世紀前半頃に段丘縁辺の基礎整地や430m以上にわたる基幹水路の掘削などの大規模な造成工事を伴って、広大な範囲に新規開田されたもので、洪水等の2度にわたる大規模な自然災害を経て、9世紀後半頃に廃絶されている。本遺跡周辺において、玉造郡家による在地支配がどの程度およんでいたかは明らかではないが、今回の調査区域における大規模な新田開発および災害後の復旧などは集落単位で成し得る事業とは考え難く、律令支配の下で遂行された可能性が高いものと思われる。			831	870	40
015	0405	上代遺跡	同上。			831	870	40

023	0501	厨川谷地遺跡	厨川谷地遺跡は9世紀後半～10世紀前半の祭祀遺構群。竪穴住居跡などの生活に関連する遺構は皆無。北西200mには弘田柵跡の外柵が隣接し、遺跡東方の丘陵上には内村遺跡が立地する。弘田柵跡の外柵は9世紀中頃には廃絶し、その南辺部は幾条川の河川流路が存在する氾濫原であったことが知られている。本遺跡も調査区全体が氾濫原に収まり、複数の流路とそれにはさまれた微高地上に立地している。今回の厨川谷地遺跡の発掘調査により、9世紀後半代～10世紀前半代にかけて本遺跡が弘田柵の祭祀域として機能したことが明らかとなった。	901	950	50
022	0502	弘田柵跡第93次	9世紀～10世紀後半の城柵跡。沖積地と丘陵部からなる。	871	950	80
025	0502	弘田柵跡第139次	同上。	851	915	65
026	0502	弘田柵跡第140次	同上。	851	915	65
024	0503	堀ノ内遺跡	①縄文時代後期中葉から晩期中葉にかけて営まれた墓域および遺物包含層。②古代～中世の集落跡。	1945	1954	10
029	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	①縄文時代中期末頃の狩猟場、②奈良・平安時代の集落跡、③室町～安土・桃山時代の館跡。奈良・平安時代では、集落跡の主体となるべき建物跡が検出されなかった。建物に付随する井戸跡の存在や、河川跡に流れ込んだ多量の土器群の在り方等から、調査区の東西において集落域が展開するものと推察される。井戸跡や土塀の遺構内出土および包含層出土土器等の帰属時期は、8世紀中葉から9世紀後半に位置付けられる。	851	875	25
030	0601	荒川2遺跡第1次・第2次	同上。	726	750	25
034	0602	一ノ坪遺跡	一ノ坪遺跡は梅ノ木遺跡と直線距離で約300mと近接し、共に西流する立谷川左岸の自然堤防(微高地)上に立地し、広義の馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に位置する。遺跡が分布する自然堤防(微高地)の成立は不明であるが、一ノ坪遺跡のSG17河川跡や調査区両端の河床礫層、梅ノ木遺跡の調査区中央部で認められた河床礫層は旧立谷川の支流等と考えられ旧河川が蛇行や氾濫を繰り返しながら両遺跡の立地する複雑な自然堤防(微高地)を形成していったと推定される。時期的にも縄文や弥生時代、古墳時代の遺物が散見され奈良～平安時代の集落を主体とする点など遺跡の成立や成因には密接な時速があった事が推測される。	851	900	50
033	0603	漆山長表遺跡	①古墳時代前～中期には自然堤防(微高地)が整い集落が断続的に営まれる。②調査区の主体である奈良・平安時代の遺構・遺物からは概ね8世紀後半が主体をなし、10世紀前半代で廃絶し、9世紀後半段階での土器相が希薄である。これは高瀬川等が氾濫の要因の一つとして考えられ、集落が一時期移転、廃棄された結果と推測される。	851	950	100
039	0604	庚壇遺跡	庚壇遺跡は、山形県南陽市の宮内扇状地にある織機川の自然堤防上に立地する、縄文時代～近世にわたって断続的に営まれた遺跡。織機川の流路は東から西へと変わっていったが、その自然堤防を追うように、時代と共に遺構の分布域も東から西へと移動している。①縄文時代では、住居跡は確認されていないが、性格不明遺構とした2基からは、底面からそれぞれ大木8a式と大木10式の遺物が出土している。当該期の竪穴住居跡である可能性をもつ。②古代について、織機川が川上から運んで来る大量の土砂により、C区以西が徐々に形成されていった。奈良時代以降になると、湿潤となったC区近辺は使用されなくなり、新しくできた自然堤防上を利用するようになっていったと考えられる。調査区ではA区・B区とした地域である。しかし、古代には9世紀後半頃のST1竪穴住居跡のほかには生活の痕跡が認められない。③近世に至るまでしばらく遺構が検出されない時期がある。平面的には、A区の平安時代の溝跡群から西方約30m間は遺構がなく、西端部に近世の溝跡が1条だけ検出された。平坦な底面と断面形から、箱堀が水路と推測される。遺物は少なく、用途不明である。	851	900	50
032	0605	上高田遺跡第2次・第3次	p113: 今回の調査で出土した遺物の年代は、1次調査と変わらない。8世紀後半から10世紀後半まで及びものと見られる。また、1次調査を含め、上高田遺跡では特に木製品の出土量が多く、平安期の遺跡としては県内でも最多級の出土量である。(中略)みる。遺物から判断する限り公的な祭祀場としての性格が非常に強く伺われる。	801	1000	200
027	0606	木原遺跡	建物跡・井戸跡・土坑・畝状溝跡群・落ち込み遺構が検出された。遺物は土坑や落ち込み遺構に係わって多量の土器他が出土し、幾つかの遺構では広域火山灰(十和田a)との直接的関連が窺えた。一方、遺物相の特徴からは本遺跡の時期的主体が火山灰降下の前後から身の浅い杯や皿類が若干出現しはじめる段階の10世紀中葉頃までと考定された。なお、A区中央部やB区を中心として認められた9世紀前半代の須恵器類は、建物跡として積極的に認定できなかった柱根、柱穴群などのより先行する遺構に付随した一群と推察される。これらを基として以下に主だった遺構の変遷と遺物群の各年代観は、I期:SK304・540・393(9世紀1/4～2/4期)、II期:SK302・SX617(10世紀1/4期)、III期:SE30・SX938, 977・SK7(10世紀2/4期)等に比定される。	851	900	50
037	0607	三条遺跡第2次・第3次	今回の調査では、縄文時代・奈良時代～近世の遺構と遺物、弥生・古墳時代の遺物が出土した。三条遺跡は、縄文時代前期は高瀬山遺跡の、後・晩期は石田遺跡の縁辺部として位置付けられる。その後、古墳時代になると高瀬山には古墳が造営され、三条遺跡は、古墳から見下ろされることになる。この時期、三条遺跡では生活の様子は伺えない。奈良時代8世紀中葉から急に集落が姿を現し、10世紀初まで継続され突然姿を消す。それは、北西に展開する高瀬山遺跡・平野山窯跡群の継続期間に等しく、地域が計画的に発展し、地域全体に関係する理由で衰退したことが考えられる。その中で三条遺跡は、稲作が盛んに行われた水田に面して位置し、墨書土器・刻書土器が多量に出土する特色を有する。墨書土器が多量に出土する状況は、周辺の遺跡にはみられず、現在のところ三条遺跡に限られている。10世紀後半～12世紀半ばは空白となる。12世紀後半古墳の周辺に経塚が造営される。三条遺跡でも関連する遺物が出土しており、経塚造営と関係した空間であったことが考えられる。13世紀に入り、溝に区画された屋敷が営まれる。その後、区画施設の溝は規模を拡大し、近世まで機能したと考えられる。祐林寺跡の伝承が残るが、それを裏付ける遺物は出土していない。区画内には、大規模な建物・溝が廻る土坑が検出されている。所属時期性格については検討を要するが、中世以降、継続して使われた空間であったことがわかる。	871	900	30
028	0608	筋田遺跡	掘立柱建物跡・井戸跡・土坑・畝状溝跡群等が検出された。遺物では河川跡外から多くの土器類が検出されたが、特にSG19での様相は本遺跡の継続期間全般を包括すると判断される。時期は概ね8世紀後半～9世紀後半に掛かり、主体は9世紀前半期と推測された。	851	900	50

遺跡一覧表A-3

036	0609	長表遺跡	遺跡範囲を縦断するように設定された調査区の中央部C区の旧河川跡を境に、北側A・B区では古墳時代前期を主とする棟持柱建物跡2棟、竪穴住居跡41棟が確認され、南側のC・D・E区では鎌倉～室町時代の堀跡1条、掘立柱建物跡1棟、柱穴列4列、溝跡17条、土坑や井戸跡17基、周溝跡1基、多数のピット等が検出される複合遺跡である事が分かった。遺物は、古墳時代が竪穴住居跡を主に古墳時代前期を中心とした土師器や管玉、磁石、礎板等が出土し、中世では溝跡や土坑からかわらけや珠洲系陶器、青磁等の中世陶磁器、漆器や磁石、茶目等が散見された。	370	530	161
031	0610	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次	本遺跡は、縄文時代と奈良～平安時代との2時期に分かれる。奈良～平安時代は土器の生産跡で、須恵器の窯跡(SQと表記)が12基と窯関連の遺構が検出された。SQ1はA群窯=8世紀第3四半期、SQ5はB群窯=8世紀第4四半期、SQ33がC群窯=9世紀第2四半期となる。	851	900	50
038	0611	向河原遺跡第4次	今年度の調査では、17棟に及び竪穴住居跡をはじめとして、井戸跡、溝跡等総数430基に及び遺構が検出された。竪穴住居は全て、9世紀後半～10世紀初頭のもの。このほか、古墳時代の溝跡が1条、平安時代の溝跡が6条検出された。古墳時代の溝跡がやや湾曲しながら南北方向に走るのに対して、平安時代の溝跡はいずれも東西方向に走る。本遺跡の南方2.5kmに、役所的な機能を備えた集落、あるいは祭祀関連の集落と想定される今塚遺跡がある。今回の調査では、祭祀に関連する遺構や遺物は確認されていないため断定はできないが、距離的に近いこと、9世紀という時代観が一致すること、朱墨痕のある転用硯や絵のように見える文字資料が出土していることなどから、今塚遺跡との間に何らかの関連があるのだろうか、今後の資料の増加を待ちたい。	871	930	60
035	0612	山田遺跡	山田遺跡は、大山川や湯尻川によって形成された自然堤防の微高地上に立地する。出土土器の年代は6世紀後半と8・9世紀代に帰属するものの2種に大別され、後者が圧倒的多数。これまでの成果では、平安時代に限って見れば遺物の充実に伴うだけの遺構が確認されていないと言わざるを得ない。これは当該期の遺物の多くは河川跡から出土したものであり、上流域からの流れ込みが推測される一方、遺跡範囲における調査区域の制約もあろう。いずれにせよ、田川郡域の駅家が本遺跡周辺に存在していたと同時に、飽海駅への連絡道も付近を通過していた可能性は高いと考える。	731	870	140
043	0701	荒田目条里制遺構・砂畑遺跡	①縄文時代では、倒木跡や群跡に混入した状態で前期前葉～後期中葉の土器が出土するが、遺構は確認されていない。海退期にあたり、居住できる環境ではなかったと考えられる。②弥生時代には、第1浜堤の形成がすでに終了しており、中・後期の土器もまた浜堤上からの出土率が圧倒的に多いことから、この頃には本格的に浜堤上での人々の生活が開始されたものと判断される。③古墳時代は、古墳群や竪穴住居跡・土坑・溝跡などが確認された。古墳は全て埋没古墳であり、今回の調査で存在が判明したものである。古墳の年代は、前期初頭に調査区の西端に円墳が1基出現し、後期には浜堤上に円筒埴輪が伴う群集墳が出現する。④奈良時代になっても、当初は古墳時代同様に竪穴住居跡を中心とした集落が営まれるが、8世紀後半になると突然、方形区画に囲まれた掘立柱建物群が出現し、平安時代まで継続される。⑤平安時代後期になると豪族住宅は姿を消すが、その後、浜堤上に大型建物群が出現し、中世まで継続することが確認された。遺物では輸入された中国産磁器が認められ、平安時代末には、中世につながる新たな勢力が出現したものと考えられる。⑥近世には、西側は水田域になっていたと考えられ、浜堤上には土族の屋敷や畑が存在していた。幕末には坂下門外の変に関わった高沢氏の屋敷があったとされ、「高沢」の名の入った肥前産磁器も出土している。	951	1000	50
042	0702	荒屋敷遺跡	今回の調査で検出された遺構・遺物は、平安時代～中世が主体で、平安時代の土師器・須恵器類と、古代末から中世前半期にかけてのかわらけ・陶磁器類の2時期に大別される。遺物は縄文後・晩期の土器や弥生土器、古式土師器等も僅かに出土しているが、該期の遺構は認められず、本遺跡における画期は平安時代から中世前半期である。第1の画期である平安時代(9世紀頃～10世紀前半)には、該期に相当する住居跡や建物跡は認められなかったが、21号溝跡を中心とする流路跡から多量の一土器類(土師器杯主体)が確認され、隣接地に遺構群の存在が窺われる。その後、10世紀後半から11世紀代の遺構・遺物は認められず、本遺跡では空白期となる。12世紀に至ると、建物跡や区画溝状土坑群等の遺構をはじめ、該期の遺物が飛躍的に認められるようになり、第2の画期が訪れる。12世紀後半には最盛期を迎え、13世紀頃まで継続するが、以後遺構・遺物は希薄となり、近世まで生活空間としての機能は途絶える。	801	950	150
041	0703	北ノ脇遺跡	当地区に古墳時代の遺構が認められるのは、塩釜式期からである。少数の住居跡が確認され遺物も少量が広い範囲に散発的に認められる。次に続く南小泉式期の資料も塩釜式期と同様の傾向があるが、住居跡などは確認されていない。古墳時代後期になると当地区において新たな集落の展開が見られ、住居跡も継続的に営まれるようになる。その開始は6世紀中葉頃と考えられ、7世紀いっぱいまで規模の大きさを保っている。奈良時代になると軒数は減少する傾向になるものの、北ノ脇遺跡側に中心を持ちつつ集落が継続しているように見受けられる。平安時代の住居跡は調査区内に点在するあり方となる。調査されている平安時代の阿武隈川左岸西側の低地に位置する遺跡が多いが、すべて小規模の調査であり全貌は不明。	580	700	121
040	0704	白山D遺跡	出土遺物からすると本遺跡の始まりは縄文時代早期に遡る。ただ該期の検出遺構は丘陵斜面の薄い包含層のみであり、丘陵の西端部に遺物の出土が集中している。縄文時代の次にみられるに時期は古墳時代中期から後期にかけてのものであり、その遺構は竪穴住居跡1軒と土坑1基が検出されている。古墳時代後期から奈良時代までの遺物は沢部の水田跡下層から出土している。丘陵上位から洗れ込んだものと考えられる。この時期の沢幅は4～5mであり、調査区内では古墳時代以前の水田跡の存在は認められない。下流では低地の広がる部分がある。平安時代前期の遺構は住居跡と水田跡であり、本遺跡の主体をなすもので、景観としては沢水田を経営する小規模な集落跡というものである。中世以降について調査された遺構はない。	700	800	101
044	0801	大堀東遺跡Ⅱ区	平安時代の集落跡を中心とする、縄文時代から中・近世にかけての複合遺跡。遺跡内に堆積した層は、川の氾濫の影響を受けて形成され、遺構確認面が何層にも分かれている。上部のシルト・砂・粘土層からは、平安時代の竪穴住居跡、中・近世の堀、溝跡、下部の黄褐色土層からは、縄文時代の遺構が確認されている。また、小貝川沿いからは旧河道路が確認され、土師器、灰釉陶器、木製品などが出土している。	951	1050	100

045	0901	立野遺跡5区	立野遺跡全体は縄文時代～近世の集落跡。5区からは①縄文時代早期の遺物、②古墳時代中期～後期の集落と円筒土坑、③7世紀の小方墳、④中世(14～15世紀)の方形区画溝、⑤19世紀ごろの区画溝などが検出された。	331	430	100
055	1001	石関西田Ⅱ遺跡	6世紀の可能性のある踏みわけ道、9～10世紀の畠跡・竪穴住居跡などかなる。竪穴住居跡は9世紀後半に遡り、浅間Bテフラ(1108年降下)によって埋没。浅間Bテフラ降下以降の状況は不明。	1947	1947	0
091	1002	井手地区遺跡群	榛名一洪川テフラ(Hr-S:6世紀初めごろに降下)下の水田跡、浅間Bテフラ(As-B:1108年降下)下の水田跡、中世後半の堀跡、近世の水路跡を検出した。	501	570	70
068	1003	小野地区水田址遺跡(社宮司B地点)	①縄文時代後期の遺物包含層、②9世紀の東西方向の用水路が検出された。	831	900	70
089	1004	鹿島浦遺跡	古代の東山道の駅路跡、基幹用水路及び集落跡、中世以降の畠跡を検出。	1947	1947	0
046	1005	上栗須寺前遺跡群	p36:上栗須寺前遺跡群は前述したように、扇状地の扇端部を東西に横切るために、微高地と小谷とが繰り返し立ち現れる地形的特徴をもっている。7世紀の初頭に扇状地上に営まれ始めた人々の生活を竪穴住居地の推移からおおまかに概観すると、8世紀前半に微高地上に爆発的に増加した奈良時代のムラは、後半になると小谷の沖積地にも広がりをみせる。この傾向は9世紀初頭にも見られるが、9世紀前半に洪水に舞われた影響からか、その後は極端な竪穴住居の減少をもたらし、一応の回復が確認されるのは9世紀末葉になってしまう。しかしながら、小谷の集落は9世紀後半になってもその打撃から立ち直れず、微高地に居を移して10世紀を迎える。6区の集落変遷から窺えることは、洪水を画期に竪穴住居から掘立柱建物への主屋の役割変換が行われた可能性が高い。そして徐々に竪穴住居はその役割を終え、掘立柱建物を中心とした建物構成が主流となり中世を迎えるものと思われる。6区の中世は土層断面の観察から推測すると、浅い小谷全体に水田耕作が開始され、徐々に耕作域を拡大していった様相が窺える。	801	850	50
048	1005	上栗須寺前遺跡群1区(上栗須薬師裏)	①縄文時代の住居址、②古墳時代後期の土墳墓、③8世紀の土器溜まり、④8～10世紀の住居址などを検出。住居址は8世紀が圧倒的に多い。	1001	1108	108
079	1006	上強戸遺跡群	上強戸遺跡群では、洪水層テフラを混入する黒色土が重層して存在することから、調査面が複数に及んだ。そのうち、調査区内の低地部では、8世紀紀代に発生したと想定される洪水層直下より、明瞭な畦畔をもつ水田遺構が検出された。また、調査区内の微高地部では、中世以降の時期が想定されるピット群や土坑群などが多数検出された。	301	500	200
080	1006	上強戸遺跡群	同上。	731	770	40
081	1006	上強戸遺跡群	同上。	851	900	50
082	1006	上強戸遺跡群	同上。	731	770	40
083	1006	上強戸遺跡群	同上。	851	900	50
085	1006	上強戸遺跡群	同上。	751	800	50
086	1006	上強戸遺跡群	同上。	301	500	200
052	1007	上滝榎町北遺跡	4世紀以降の古墳時代の水田面4面を含め、浅間Aテフラ(1783年降下)下の近世まで、計8面の水田面を検出。4世紀の農耕祭祀跡や、6世紀の大用水路、奈良・平安時代の牛耕が確認された。	301	500	200
053	1007	上滝榎町北遺跡	同上。	301	500	200
060	1008	上福島中町遺跡	本遺跡において検出された遺構は古墳時代から近代にわたっている。調査面は7面で、古墳時代前半以前の水田面、平安時代、中世、江戸時代～近代である。	1860	2000	141
061	1008	上福島中町遺跡	同上。	1742	1742	0
051	1009	神戸岩下遺跡	本遺跡では、のべ4面の調査が行われている。第1面は近現代の畠、第2面は平安時代の水田、第3面は古墳時代から平安時代の水田、第4面は古墳時代の水田である。	1801	2000	200
087	1010	齊田中耕地遺跡	古墳時代～江戸時代の8面の遺構面が検出された。遺跡では、古墳時代(5世紀)に水田耕作が始まり、洪水層(9世紀末)、浅間Bテフラ(1108年降下)などで水田が繰り返し覆われた。第1面では浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧作業に伴う溝群などが検出された。	871	900	30
064	1011	下滝天水遺跡	①縄文時代前期の遺物。②古墳時代(4世紀中葉以降)の集落、古墳時代後期に最も拡大。低地部では古墳時代初頭から水田域として現代まで継続し、C区では8世紀ごろに集落が展開された。浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧痕跡も残されている。	701	900	200
065	1011	下滝天水遺跡	同上。	351	450	100
069	1012	下原遺跡	①縄文時代晩期～弥生時代前期の土器集中部、②古墳時代(5世紀末～6世紀中葉)の竪穴住居跡・祭祀遺物、③平安時代(9世紀後半～10世紀)の竪穴住居跡、④中世の墓、⑤中世～近世の畑跡、洪水、浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧痕跡などが検出された。	1742	1742	0
057	1013	菅谷石塚遺跡	①古墳時代中期以前(6世紀初頭以前)について、浅間Cが混入した層の下から水田・水路が検出された。②古墳時代後期(6世紀)～平安時代後期(11世紀前半)について、Hr-FA上面とHr-FP下で水田が見つかり、一部は9世紀に起きた洪水で埋没したことが判明した。③平安時代末期(11世紀後半)～中世の水田跡が確認され、平安時代末期以降では浅間Bテフラ(1108年降下)で埋没した水田が大半を占める。④中世～近世の畠跡が検出された。	751	900	150
074	1014	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	①縄文時代晩期の土器が出土。②弥生時代中期後半(竜見町式)の土器が出土。③古墳時代前期～後期の遺構面7枚が火山灰層を挟んで検出された。④平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・畠跡などが検出された。⑤中世以降の掘立柱建物跡・水田跡・畠跡などが検出された。	301	500	200
075	1014	総社閑泉明神北Ⅳ遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内Ⅴ遺跡	同上。	301	500	200

076	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	①縄文時代晩期の土器が出土。②弥生時代中期後半(竜見町式)の土器が出土。③古墳時代前期～後期の遺構面7枚が火山灰層を挟んで検出された。④平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・畠跡などが検出された。⑤中世以降の掘立柱建物跡・水田跡・畠跡などが検出された。	431	500	70
077	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	同上。	371	450	80
078	1014	総社閑泉明神北IV遺跡・元総社牛池川遺跡・元総社北川遺跡・元総社小見内V遺跡	同上。	301	400	100
062	1015	中棚II遺跡	近世の畠跡。洪水、浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧痕跡も検出された。	1780	1780	0
063	1015	中棚II遺跡	同上。	1935	1935	0
088	1016	西野原遺跡	①飛鳥時代(7世紀後半)の製鉄遺構、②平安時代(9世紀)の住居跡55軒と土器集中部、③中世以降の掘立柱建物と跡・井戸・溝が検出された。	651	700	50
049	1017	櫛島川端遺跡	①弥生時代後期の竪穴住居跡5軒、②古墳時代前期の竪穴住居跡23軒・方形周溝墓・水田3面・畠1面、③奈良時代～平安時代の竪穴住居跡2軒・水田跡・畠跡、④中世の環濠集落・火葬所・利根川の変流で埋没した水田、⑤近世(19世紀前半から中頃)の廃棄遺物が検出された。	1451	1500	50
054	1018	波志江中屋敷東遺跡	①縄文時代前期～中期の土坑と遺物包含層、②弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め(浅間Cテフラ降下後)の水田跡、③古代の水田跡、④近世の溝・土坑などが検出された。	351	450	100
072	1019	東今泉鹿島遺跡	①縄文時代早期・前期・中期・後期・晩期の土器・石器、②古墳時代前期末～中期初めの住居跡11軒、③奈良時代～平安時代(8～10世紀)の集落跡、④中世～近世の溝2条などが検出された。遺跡の中心は8世紀後半～9世紀で、隣接遺跡と合わせ一大集落を形成していたとみられ、漆紙文書が見つかったことから古代山田郡の郡家が遺跡の近くにあったと推定された。	601	800	200
073	1019	東今泉鹿島遺跡	同上。	431	600	170
050	1020	東長岡戸井口遺跡	①旧石器時代のブロック・配石、②縄文時代の住居跡、③古墳時代の竪穴状遺構・土坑、④奈良時代の住居跡、⑤平安時代の住居跡・土師器窯・大規模水路、⑥鎌倉時代の竪穴状遺構・井戸跡、⑦室町時代の竪穴状遺構・土墳墓・館跡、⑧江戸時代の屋敷跡などが検出された。遺跡の中心は奈良～平安時代(8世紀中頃～10世紀末)の住居跡119軒で、特に9世紀に最も多く(59軒)、官衙を伴う可能性もある。	771	800	30
084	1021	福島飯玉遺跡	①古墳時代(6世紀中頃)の洪水層(Hr-PA泥流)下から発見された溝跡・竪穴状遺構・土坑・水田跡、②平安時代の浅間Bテフラ(1108年降下)で埋没し復旧した水田跡、③中世の屋敷跡、④中世～近世の水田跡・用水路跡などが検出された。	1601	1783	183
070	1022	福島飯塚遺跡	古墳時代前期(3世紀末～4世紀の浅間Cテフラを含む)～平安時代、江戸時代の水田跡。平安時代の大溝から墨書土器(6世紀後半～12世紀)が大量に出土した。	1601	1783	183
071	1022	福島飯塚遺跡	同上。	1601	1783	183
058	1023	福島久保田遺跡	古墳時代後期、平安時代～近代の水田跡。調査地北端の微高地部分では9世紀の竪穴住居5軒が検出され、小規模な集落が営まれていたが、浅間Bテフラ降下(1108年)前後に大規模な水田開発が行われ、集落が移動したとみられる。中世の館跡、浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧痕跡も確認された。	1394	1427	34
059	1024	福島大光坊遺跡	古墳時代前期～後期、平安時代～近代の水田跡。調査地北端の微高地部分では9世紀の竪穴住居5軒が検出され、小規模な集落が営まれていたが、浅間Bテフラ降下(1108年)前後に大規模な水田開発が行われ、集落が移動したとみられる。中世の館跡、浅間Aテフラ(1783年降下)からの復旧痕跡も確認された。	1742	1742	0
056	1025	福島曲戸遺跡	①4世紀初め～半ばの集落跡、②榛名ニツ岳洪川テフラ(Hr-FA;6世紀初めに降下)による埋没水田、③平安時代の集落跡と官衙関連遺構・遺物、④中世の水田跡、⑤近世～近代の水田跡が検出された。	1742	1742	0
066	1026	前田遺跡	8～10世紀の集落跡(A・B区)、中世の掘立柱建物跡・溝(A区)、中世(15世紀ごろ)の屋敷跡(B・C区)、近世の灌漑用井戸(B・C区)、近現代の溝(全域)が検出された。	1108	1200	93
090	1027	南大類東沖遺跡	①弥生時代の方形周溝墓1基、②古代(9世紀以前と1108年以前)の水田跡、③近世～現代の溝跡などが検出された。	801	900	100
047	1028	元総社寺田遺跡	縄文～弥生時代、古墳時代前期～後期、奈良～平安時代、中世～近世の水田跡・集落跡。遺跡の主体は古墳時代の水田跡で、古墳時代前期～後期に継続的に水田経営がなされていたとみられる。	301	500	200
067	1029	矢部遺跡	古墳時代後期(7世紀)、平安時代(9世紀後半～10世紀前半)の住居跡2軒・水田1面・畠6面以上、中世以降の井戸などが確認された。遺跡の特色として、古代において洪水による埋没が複数回あったことが挙げられる。	601	700	100
902	1030	横手南川端遺跡	古墳時代以降の水田跡など。遺跡は利根川近傍に位置し、水田跡が洪水による堆積層や火山灰層に繰り返し覆われている状況が観察された。	901	950	50
903	1031	横手早稲田遺跡	①縄文時代中期の土坑、②古墳時代以降の水田跡などが検出された。古墳時代以降の水田が洪水による堆積層や火山灰層に繰り返し覆われている状況が観察された。	1868	1912	45
100	1101	飯積遺跡第3次・第4次	5世紀後半～10世紀(ピークは6世紀第I四半期)の集落跡、中世～近世の区画溝・土坑などが検出された。	526	550	25
092	1102	今井条里遺跡	①弥生時代中期、古墳時代前期の集落跡。②古墳時代前期、古墳時代後期末葉～奈良時代、平安時代、中世～近世の水田跡。	630	730	101

097	1103	北島遺跡第19地点	古墳時代前期前半の方形周溝墓群、これを埋没させた洪水堆積、その上に古墳8基が存在するのが確認された。古墳の築造時期は古墳時代前期後葉～末葉および5世紀後葉～6世紀前半?	300	400	101
098	1103	北島遺跡第17・19・21地点	①第17地点:古墳時代前期の集落跡。②第19地点:古墳時代前期～後期の生産跡、水利施設を検出。③第21地点:古墳時代前期～平安時代の集落跡・生産跡、古墳時代前期の畠跡を検出。	1	140	140
099	1103	北島遺跡第17・18地点	奈良時代～近世の集落跡・水田跡。	190	330	141
918	1104	久下前遺跡B1地点	①旧石器時代のナイフ形石器、②縄文時代の打製石斧・縄文時代中期の土器、③古墳時代前期～後期の集落跡(竪穴住居跡など)、④奈良～平安時代の溝跡、⑤中世の井戸などが検出された。	651	850	200
096	1105	田谷遺跡	古墳時代前期前半の方形周溝墓群、これを埋没させた洪水堆積、その上に古墳8基が存在するのが確認された。古墳の築造時期は古墳時代前期後葉～末葉および5世紀後葉～6世紀前半?	300	400	101
093	1106	築道下遺跡	古墳時代～中世の集落跡。古墳時代後期～奈良時代の竪穴住居跡、古墳時代後期～中世の掘立柱建物跡・土坑、奈良時代～中世の溝跡、中世の墓跡などを検出。	1401	1430	30
094	1107	堂地遺跡	①奈良～平安時代(8世紀中葉～9世紀中葉)の集落跡、②中世～近世(12世紀後半～13世紀、15世紀初め～18世紀後半)の集落跡、③中世(13世紀前葉)の居館跡、④中世(13世紀末～16世紀中葉)の板碑群、⑤中世後期～近世の屋敷跡。	831	900	70
095	1107	堂地遺跡	同上。	1231	1270	40
102	1201	国府関遺跡	①弥生時代後期～古墳時代の遺物を多量に含む河道跡、②古墳時代前期の小規模な集落跡が検出された。	150	330	181
106	1301	落川・一の宮遺跡	縄文時代晩期末葉の膨大な土器・石器、奈良時代後半の大型方形柱穴・祭祀遺物、平安時代末期～中世の大型掘立柱建物群などに特筆される、縄文時代晩期末葉～近世の複合遺跡。	370	530	161
103	1302	上千葉遺跡西亀有1-12地点	中世(16世紀以前)～近世の集落跡・水田跡。	1571	1600	30
104	1303	九段南一丁目遺跡	①中世の水田跡、②近世(17世紀前半～19世紀)の屋敷跡などが検出された。遺跡は江戸城内郭の清水門前に位置し、内堀と外堀に挟まれた地域で、近世は幕府御用地や旗本屋敷地であった。	1601	1750	150
105	1304	染地遺跡第51地点	染地遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡。今回の調査では、奈良～平安時代(8～10世紀が主体)の集落跡が確認され、遺構面が2面検出された(竪穴住居跡13・掘立柱建物跡2など)。	701	870	170
108	1401	沢狭遺跡	①古墳時代前期・中期・後期の遺物集中部、②奈良～平安時代の道状遺構、③近世の杭列などが検出された。古墳時代中期の祭祀遺構が特筆される。	1600	1707	108
107	1402	山角町遺跡第IV地点	山角町遺跡全体では縄文以降の遺構・遺物が見つかった。今回の調査でも縄文時代～近代の遺物が見つかった。遺構として、①中世(小田原北条期)の礫集積遺構、②近世(小田原藩政期)の井戸跡・竪穴・土坑などが高い密度で検出された。	1526	1550	25
112	1501	青田遺跡	青田遺跡からは縄文時代晩期末の大規模な集落跡と平安時代の遺構・遺物が検出された。平安時代の遺構は足跡が多数検出された。また、遺物は洪水により運ばれてきた多量の木製品がある。これらの遺物から紫雲寺淵は9世紀末～10世紀初頭に形成されたことが明らかになった。	871	900	30
110	1502	岩倉遺跡	岩倉遺跡は、早川の左岸、海岸から約300m、標高約10mに所在する。遺物は15～17世紀のものが検出された。遺構としては、15世紀ごろの一辺10m前後の水田跡と考えられる方形区画遺構がある。礎石建物は、2×3間で小さく、寺院や神社跡の可能性はある。	1501	1600	100
109	1503	江内遺跡	①中世(14世紀)の掘立柱建物跡・製鉄関連遺物、②近世(17～19世紀)の掘立柱建物跡などが検出された。	1796	1796	0
119	1504	延命寺遺跡	古墳・飛鳥・奈良時代の遺跡。①古墳時代の遺構は溝2条、土坑1基、性格不明遺構2基と少なく、出土土器から前期後半～中期初頭の所産と考えられる。②飛鳥時代の遺構は竪穴建物4棟、平地建物4棟、掘立柱建物4棟、井戸4基、溝1条、土坑・ピット多数、整地層、性格不明遺構。③奈良時代の遺跡は古代額城郡(役所)の出先機関の可能性が高まった。	731	770	40
111	1505	蔵ノ坪遺跡	縄文時代の遺物、平安時代の遺構・遺物、中世の遺物が検出された。中心となる時期は平安時代である。平安時代の川跡2本と掘立柱建物16棟、土坑36基、溝139条、畝状遺構1群、道路跡3、杭列3、ピット524基、その他(焼土など)42基の遺構が検出された。これらの遺構は8世紀後葉～9世紀前葉(I期)と、9世紀中葉～後葉(Ⅲ期)に分かれる。	851	900	50
120	1506	田伏山崎遺跡	沢地区南・北では上下2層で遺構・遺物が検出された。沢地区南では上層で中世、下層で弥生時代後期、古墳時代前期・後期、沢地区北では上層で古代～中世(とくに12～15世紀)、下層で古墳時代前期の遺構・遺物が検出された。沢地区北野古代の自然流路では祭祀が行われていたとみられる。	1001	1050	50
118	1507	姫御前遺跡	古墳時代と中世の遺構・遺物が検出された。①古墳時代の土器は、前期～後期のものが認められるが、その多くが古墳時代前期後半の資料である。古墳時代と判断した側柱の掘立柱建物1棟・溝3条・土坑2基・板杭1列は、前期後半に帰属する可能性が高い。②中世の遺構は、総柱の掘立柱建物1棟と杭列1列のみであり、集落の縁辺を調査したものと考えられる。③中世後期～近世前半に断続的に土地利用されたことが理解される。	1601	1700	100
113	1508	細田遺跡	弥生時代終末期～古墳時代前期、奈良～平安時代を中心に、縄文時代(中・後・晩期)、古墳時代後期、中世、近世の遺物が出土した。遺跡西方の丘陵上から斜面部には周知の黒田古墳群が隣接する。	601	800	200
114	1509	三角田遺跡	三角田遺跡は上層・下層からなり、古代を中心として近世までの長期にわたる。上層遺跡は調査区全域に存在し、下層遺跡は調査区東側に限定される。上層と下層の間には洪水性堆積物と考えられる無遺物層が存在した。調査結果を総合すると、三角田遺跡ではまず8世紀初頭にC区に集落が営まれ、この集落は洪水層堆積以前の8世紀中葉に廃絶された。その後、遺跡中央北側に8世紀後半を中心に集落と大規模な畑跡が残され、さらにその西側を中心に古代～中世の遺跡が形成されたと考えられる。こうした状況から、三角田遺跡では自然堤防とその周縁において断続的に居住・生産活動が行われたと推定される。	731	830	100

115	1510	用言寺遺跡	今回の調査では3面にわたって遺跡が存在することが明らかになった。①下層からは縄文時代後期の遺物、②中層からは古墳時代の遺構・遺物、③上層からは古代・中世の遺構・遺物が検出された。	871	930	60
116	1510	用言寺遺跡	用言寺遺跡は、矢代川左岸の段丘上(高田面、標高約19m)～段丘下の低地(標高約17m)に立地する。今回の調査で、段丘上において、4面の遺跡が存在することが明らかになった。①下層2からは縄文時代中期後葉～後期初頭の遺物が検出された。②下層1からは縄文時代後期中葉の遺物、段丘下の調査区において、焼山が約1000年前に噴火した際に降下した高谷池火山灰層群Cの堆積層が検出された。その下位からは10世紀後半と10世紀中頃の遺物が層位的に出土しており、文献による記録との照合から火山灰の年代が989年に比定された。③中層からは古墳時代(前期・後期)・古代(7世紀前半～8世紀初頭)の遺構・遺物、④上層からは古代(9世紀末葉～10世紀初頭)・中世(11世紀後半～15世紀)の遺構・遺物が検出された。	951	989	40
117	1510	用言寺遺跡	同上。	851	930	80
125	1601	岩坪岡田島遺跡	遺跡では、縄文時代前期後～末葉・7世紀・9世紀・12～14世紀を主体とする集落跡を検出した。①縄文時代面では、自然河川の付近で前期後～末葉の蛸ヶ森式・朝日下層式土器が出土した。②7世紀には溝が開削され、9世紀には掘立柱建物が見られるようになる。③12世紀中頃には低地部の河川近くに村落が形成され、12世紀後半には台地上に道路が敷設されて村落は台地上に移り、14世紀頃まで存続する。④大規模な地震痕跡(天正地震・飛越地震)が検出された。	1101	1300	200
122	1602	五社遺跡	①古墳時代中期(5世紀中頃)の堅穴住居跡、②古代前期(9世紀後半～10世紀初め)の掘立柱建物跡、③古代後期(10世紀末～11世紀後半)の掘立柱建物跡・畠跡・土器埋納土坑、④中世(12世紀後半～14世紀)、⑤明治時代のゴミ穴などが検出された。	1071	1200	130
123	1602	五社遺跡	同上。	851	1000	150
128	1603	古山遺跡	縄文時代中期後葉～後期の集落跡。	1934	1934	0
127	1604	竹ノ内Ⅱ遺跡	9～10世紀、12～15世紀の集落跡で、13～14世紀に最も栄えていたとみられる。	831	900	70
126	1605	手洗野赤浦遺跡	14～15世紀の集落跡。井戸から呪符木筒が出土するなど、祭祀の跡も見られる。大規模な地震痕跡(飛越地震)が検出された。	1451	1475	25
121	1606	任海宮田遺跡	古代(9世紀が主体)、中世(13世紀が主体)の大規模な集落跡。江戸時代以降の用水路、土坑なども検出された。	871	900	30
124	1607	中名Ⅴ遺跡	①古代の集落跡、7世紀前半に形成され、8世紀～9世紀前半に最盛期を迎える。②中世の溝跡。近接する中名Ⅵ遺跡では11～12世紀の遺構が皆無で、13世紀に集落が形成される。	1851	2000	150
129	1608	中富居遺跡	①平安時代の溝跡・土坑。集落の外縁部と考えられる。遺物は9世紀のものが主体。②中世の溝跡・土坑。	801	900	100
132	1701	梅田B遺跡第4次調査(1・2区)	①弥生時代後期後半の集落跡。地震により短期間で廃絶したとみられる。②弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の水田跡。③11世紀の集落跡。④中世～近世の用水路跡。	195	330	136
130	1702	四柳白山下遺跡	①縄文時代、②弥生～古墳時代、③奈良～平安時代、④鎌倉～戦国時代の集落跡・水田跡などを中心とした複合遺跡。山地から度重なる土砂供給を受け、各時代の遺構面が累重して確認された。	831	870	40
131	1702	四柳白山下遺跡	同上。	1331	1370	40
133	1702	四柳白山下遺跡	同上。	1331	1370	40
168	1901	秋山氏館跡	①甲斐型Ⅹ・Ⅹ期(9～10世紀)を主体とする集落に関連すると思われる溝跡。②中世(15～16世紀)の墓跡・火葬場。③近世の屋敷跡。	1907	1907	0
169	1901	秋山氏館跡	同上。	1910	1910	0
170	1901	秋山氏館跡	同上。	1728	1728	0
145	1902	壱番下堤跡	中世～近世の護岸施設。16世紀後半～17世紀後半に成立したとみられる。	1531	1570	40
138	1903	鵜沢河岸跡	江戸時代初めに富士川の開削によって開かれた富士川水運の船着場を中心とした遺跡。1928年の富士身延鉄道の開通まで機能した。	1890	1899	10
139	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1751	1870	120
150	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1821	1900	80
151	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1926	2000	75
152	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1831	1870	40
153	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1799	1799	0
154	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1821	1821	0
156	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1867	1867	0
157	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1868	1868	0
158	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1907	1907	0
159	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1910	1910	0
161	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1828	1828	0
162	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1867	1868	1
163	1903	鵜沢河岸跡	同上。	1882	1882	0
166	1904	北田中遺跡	古墳時代後期の河川堆積層から土器が集中して検出されたが、顕著な遺構はない。	1907	1907	0
167	1904	北田中遺跡	同上。	1860	1950	91
134	1905	狐原遺跡	①9世紀第2～第4四半期(甲斐編年Ⅷ～Ⅹ期)の集落跡と、②10世紀第3～第4四半期の炭化物集中部。(参考:甲斐型土器研究グループ・山梨県考古学会、1992『甲斐型土器—その編年と年代』など)	863	888	25
137	1906	古婦毛遺跡	①縄文時代中期後半(曾根Ⅱ)の埋竈。②古墳時代中期初頭の住居跡。③古代(8世紀後半、11世紀後半～12世紀前半)の住居跡。④中世～近世初頭の水田跡。	1501	1600	100
136	1907	大師東丹保遺跡Ⅰ区	①弥生時代中期後半の小河川・建築用材・土器・石器。②弥生時代後期の水田跡と噴砂。③鎌倉時代の杭列。④近世以降の杭列。	1251	1350	100
146	1908	百々遺跡	①弥生時代中期の遺物包含層。②古墳時代前期の遺物包含層。③平安時代の集落跡。9世紀に出現し、2度の洪水により廃絶するが、北半部では中世まで集落が継続したとみられる。④鎌倉時代以降の館跡?	1451	1550	100
147	1908	百々遺跡	同上。	920	960	41
148	1908	百々遺跡	同上。	840	860	21
149	1908	百々遺跡	同上。	860	880	21
144	1909	仲田遺跡	16世紀後半ごろの水田跡。遺跡の南には同時期の集落があったとみられる。	1551	1600	50
164	1910	西畑B遺跡	①縄文時代～近世の遺物、②江戸時代末以降のものとみられる石垣が検出された。	1907	2000	94

165	1910	西畑B遺跡	①縄文時代～近世の遺物。②江戸時代末以降のもののみられる石垣が検出された。	1907	1907	0
160	1911	平田宮第2遺跡	平安～鎌倉時代(10世紀前半～14世紀)の集落跡・水田跡・畑跡。(参考:保坂康夫,1997「山梨県下の遺跡・住居址数変動の通史的理解」『研究紀要』13 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター)	901	950	50
140	1912	町屋口遺跡	①江戸時代中頃～明治時代の水路跡。②江戸時代末期～明治時代の水田跡。	1892	1906	15
171	1913	松本塚ノ越遺跡 ホテルやまなみ 地点	古墳時代後期～平安時代の集落跡。竪穴住居跡の総数は古墳時代後期が47軒,奈良時代が14軒,平安時代のうち9世紀が53軒,10世紀が24軒。	1907	1907	0
141	1914	宮沢中村遺跡	①鎌倉時代の護岸・水田跡。②16世紀後半～17世紀の集落跡。③江戸時代後期(18世紀以降)の民家・寺院跡。	1851	1900	50
142	1914	宮沢中村遺跡	同上。	1601	1800	200
143	1914	宮沢中村遺跡	同上。	1180	1350	171
135	1915	向河原遺跡	①弥生時代中期後半の水田跡。②中世～近世の水田跡。	1901	1901	0
155	1916	四ノ側遺跡	平安時代の住居跡2軒(10世紀中葉～後葉),土坑などが検出された。	931	1000	70
172	2001	石川条里遺跡	①縄文時代前期の集落跡。②弥生時代中期の水田跡。③弥生時代後期の集落跡・水田跡。④古墳時代前期の祭祀跡・水田跡。⑤古墳時代後期の水田跡。⑥平安時代の集落跡。⑦中世の集落跡・屋敷跡・水田跡。⑧近世の水田跡。	1824	1845	22
173	2001	石川条里遺跡	同上。	1824	1845	22
176	2002	牛出遺跡	古墳時代前期,平安時代,中世の集落跡。	1371	1500	130
183	2003	川田条里遺跡	①弥生時代中期～近世の水田跡。②縄文時代晩期の焼土址・土器集中部。③弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓。④中世の集落跡。⑤近世の墓跡。	370	530	161
184	2003	川田条里遺跡	同上。	701	800	100
185	2003	川田条里遺跡	同上。	751	850	100
186	2003	川田条里遺跡	同上。	1701	1800	100
187	2003	川田条里遺跡	同上。	1	140	140
188	2003	川田条里遺跡	同上。	751	800	50
189	2003	川田条里遺跡	同上。	801	850	50
190	2003	川田条里遺跡	同上。	751	850	100
191	2003	川田条里遺跡	同上。	1701	1800	100
192	2003	川田条里遺跡	同上。	1701	1800	100
193	2003	川田条里遺跡	同上。	751	850	100
194	2003	川田条里遺跡	同上。	1701	1800	100
195	2003	川田条里遺跡	同上。	1	140	140
196	2003	川田条里遺跡	同上。	1	140	140
197	2003	川田条里遺跡	同上。	1701	1800	100
174	2004	屋代遺跡群	縄文時代中期～近世の集落跡・水田跡・畠跡・祭祀跡。古代～中世の継続的な集落跡・条里地割が特筆される。	671	700	30
175	2004	屋代遺跡群	同上。	671	730	60
177	2004	屋代遺跡群	同上。	401	500	100
179	2004	更埴条里遺跡	同上。	871	900	30
180	2004	屋代遺跡群	同上。	871	900	30
198	2004	更埴条里遺跡	同上。	1201	1400	200
199	2004	更埴条里遺跡	同上。	1847	2000	154
201	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	1851	1900	50
202	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	851	900	50
203	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	651	700	50
204	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	851	900	50
205	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	651	700	50
206	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	671	730	60
207	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	701	750	50
208	2004	更埴条里遺跡・ 屋代遺跡群	同上。	851	900	50
200	2005	郷土遺跡	①縄文時代早期末葉～後期初めの集落跡で,加曾利EⅡ～Ⅲ期に最盛期を迎える。②8世紀ごろの古墳。③平安時代の集落跡で,竪穴住居跡2軒が検出された。住居跡はともに10世紀前半ごろのもの。	801	900	100
178	2006	国分寺周辺遺跡 群	①弥生時代後期(箱清水期)の集落跡。②古墳時代前期の溝跡。③古墳時代中期～後期(5世紀後半～7世紀)の集落跡で,6世紀後葉～末葉は住居数が減少,7世紀初めから増加。④奈良～平安時代(8～11世紀)の集落跡,8世紀後葉にピーク。遺跡全体では5世紀後半～6世紀の遺構密度が特に高い。	1051	1100	50
209	2007	離山遺跡	①古墳時代中期～後期の集落跡。②平安時代～中世(9世紀後半～15世紀後半)の集落跡・水田跡。③中世の石積状遺構2など。	531	570	40
182	2008	春山・春山B遺 跡	①縄文時代晩期の土坑・土器集中部。②弥生時代中期～後期の集落跡。③弥生時代後期・古墳時代前期の周溝墓。④古墳時代後期の溝跡。⑤平安時代の溝跡。⑥近世の水田跡。	1742	1742	0
211	2009	松代城跡	戦国～江戸時代の城跡。武田信玄により築かれた,明治時代に解体された。	1742	1742	0
212	2010	松代城下町跡 (中木町・西木 町・紺屋町)	戦国末期～明治時代の城下町跡。主に17世紀前半～明治時代前半の町屋と侍屋敷と考えられる遺構が確認された。	1801	1870	70
213	2010	松代城下町跡 (中木町・西木 町・紺屋町)	同上。	1731	1770	40

181	2011	松原遺跡	縄文時代前期～後期前葉、弥生時代中期後葉(栗林期)～近世の集落跡。弥生時代中期後葉(栗林期)～後期は長野盆地における拠点集落。古代集落は7～12世紀に継続し、10世紀の住居跡が最も多い。また、7世紀の古墳群や、11世紀の製鉄・鑄造遺構もある。	1	140	140
210	2012	御社宮司遺跡	①中世(13～16世紀)の御射山道沿い厩を中心とした集落跡。②近世以降の水田跡。水田は宮川の洪水で覆われ、復旧作業が広範囲で行われた。	1801	2000	200
214	2101	今宿遺跡	①弥生時代後期末葉～古墳時代前期(山中式～廻間Ⅰ式後半またはⅡ式前半;3世紀前半～5世紀前半)の水田跡。②中世(13～14世紀)以降の水田跡・集落跡。5世紀後半～12世紀は顕著な遺構・遺物なし。	210	230	21
215	2101	今宿遺跡	同上。	210	230	21
216	2101	今宿遺跡	同上。	195	230	36
217	2102	城之内遺跡	台地上に立地する弥生時代後期(欠山期)～9世紀の大規模な集落跡、平安時代後期以降の集落跡、戦国時代の区画溝(屋敷跡?)などで構成される。弥生時代後期～古墳時代には多数の住居跡が検出されているが、奈良時代以降は比較的住居跡が少ない。9世紀後半～10世紀は遺跡が空白期の様相を呈するが、11世紀前半には集落が再び形成された。	1535	1535	0
234	2201	上土遺跡立石地区	①弥生時代中期後葉～古墳時代前期の水田跡。②奈良時代～平安時代初めの条里水田跡。③平安時代～中世の河道・溝状遺構。④中世の水田跡・祭祀遺構・地割跡。⑤近世～近代の水路跡・畦畔痕跡・河道。	400	500	101
235	2201	上土遺跡立石地区	同上。	701	838	138
218	2202	池ヶ谷遺跡	①弥生時代中期～古墳時代前期初めの水田跡。②平安時代の条里型水田跡。③近世の水田跡。	401	500	100
246	2203	有東遺跡第14次	①弥生時代中期～後期の溝跡・土坑・柱穴(建物跡)。②弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡、弥生土器・古式土師器を伴う。	1	70	70
230	2204	上反方遺跡	鎌倉～室町時代?の水田跡。	1501	1530	30
231	2204	上反方遺跡	同上。	1180	1350	171
236	2205	川合遺跡志保田地区	①弥生時代中期の方形周溝墓?②古墳時代(5世紀)の水田跡。③奈良時代の祭祀遺構・官衙関連集落跡。④江戸時代の水田跡。全体では奈良時代の祭祀遺構が特筆される。	401	600	200
247	2206	ケイセイ遺跡第7次	①古墳時代後期(7世紀)の集落跡。②奈良～平安時代の官衙に関連した集落跡、祭祀場。出土土器は8世紀中葉～9世紀前葉が最も多く、10世紀以降のものはあまりみられない。	1860	2000	141
244	2207	小瀬戸遺跡	①奈良～鎌倉時代の集落跡。②中世(とくに戦国)～江戸時代の集落跡・水田跡。江戸時代の水田は洪水により一旦廃絶される。	1101	1200	100
245	2207	小瀬戸遺跡	同上。	1827	1827	0
248	2207	小瀬戸遺跡	同上。	1701	1900	200
219	2208	瀬名遺跡	弥生時代中期～近世の水田跡。弥生時代後期～古墳時代前期について、多数の杭を打ち込んだ水田跡が全調査区で確認された。平安時代について、条里型地割を示す水田区画が確認された。	370	530	161
220	2208	瀬名遺跡	同上。	50	150	101
221	2208	瀬名遺跡	同上。	1860	1950	91
242	2209	恒武東覚遺跡	①古墳時代後期(7世紀後半～8世紀初め)の官衙関連施設(竪穴住居跡4など)、墨書土器を伴う。②奈良～平安時代の集落跡(掘立柱建物跡2・竪穴住居跡4など)、祭祀遺物を伴う。③鎌倉時代以降の井戸など。全体では奈良～平安時代が主体。	571	700	130
243	2209	恒武東覚遺跡	同上。	751	830	80
249	2210	恒武西宮遺跡第3次・第6次・第7次	①古墳時代前期の方形周溝墓、土器集積(元屋敷式の一括資料が出土)。②古墳時代中期～後期(5～7世紀)の大規模な集落跡、掘立柱建物を伴う。③鎌倉時代の井戸。④戦国時代の井戸、区画溝。大塚期の良好な資料が出土。	301	400	100
241	2211	藤守遺跡	①古墳時代後期末葉～奈良時代(7世紀後半～8世紀)の集落跡、祭祀遺構。②平安時代末期～鎌倉時代中期の集落跡、条里制遺構、屋敷跡。	651	800	150
233	2212	曲金北遺跡	①弥生時代中期後半～平安時代の水田跡など。②古代東海道駅路跡。	370	530	161
222	2213	箕輪遺跡	①弥生時代中期の土坑。②弥生時代後期～平安時代の水田跡、河道。	1	140	140
915	2213	箕輪遺跡	同上。	1	150	150
916	2213	箕輪遺跡	同上。	1	150	150
223	2213	箕輪遺跡	同上。	251	300	50
224	2213	箕輪遺跡	同上。	251	300	50
225	2213	箕輪遺跡	同上。	251	300	50
226	2213	箕輪遺跡	同上。	371	400	30
227	2213	箕輪遺跡	同上。	501	600	100
228	2213	箕輪遺跡	同上。	501	600	100
229	2213	箕輪遺跡	同上。	501	600	100
237	2214	元島遺跡	①弥生時代中期後半の方形周溝墓。②古墳時代前期の集落跡(掘立柱建物跡)。土器は廻間Ⅱ～松河戸式のものが出土しているが、廻間Ⅱ～Ⅲ期が最も多い。③古墳時代中期の墳墓。④古墳時代後期～奈良時代前半の集落跡。⑤平安時代末期～戦国時代の集落跡。14世紀は遺構がなく、遺物も少ない。15世紀は遺跡全体が最も繁栄した時期とされる。	1860	1950	91
238	2214	元島遺跡	同上。	1860	1950	91
239	2214	元島遺跡	同上。	1301	1400	100
240	2214	元島遺跡	同上。	1101	1250	150
264	2301	朝日遺跡	①弥生時代前期～古墳時代前期の環壕集落跡・方形周溝墓。②平安～江戸時代の水田跡。	371	430	60
250	2302	伊保遺跡	①弥生時代後期(山中式後期)～古墳時代前期初め(廻間式Ⅰ・Ⅱ)の遺物。②室町時代(14世紀後半)の集落跡。	190	210	21
262	2303	今町遺跡	①縄文時代中期中葉～後葉の土坑、縄文時代晩期中葉の竪穴住居跡。②飛鳥時代後半～奈良時代の集落跡。③鎌倉～江戸時代の集落跡・水田跡・墓域、戦国時代～江戸時代前期は城館跡?	1860	2000	141
263	2303	今町遺跡	同上。	1700	1800	101
253	2304	大毛沖遺跡	古代～中世(8～13世紀)の集落跡。13世紀後半には居住域が放棄され、近接する大毛池田遺跡への移住が推定される。	671	730	60
254	2304	大毛沖遺跡	同上。	731	800	70

255	2305	門間沼遺跡	①古墳時代の集落跡・水田跡(廻間Ⅰ～松河戸Ⅰ期), 水田跡(松河戸Ⅱ期), 墳墓・集落跡?(城山2号窯期～H-44号窯期)。②奈良～平安時代の集落跡(H-44号窯期～K-90号窯期)。③鎌倉時代(12世紀後半～13世紀)の集落跡・畠跡・方形土坑群。	190	250	61
256	2305	門間沼遺跡	同上。	210	270	61
257	2305	門間沼遺跡	同上。	270	420	151
258	2305	門間沼遺跡	同上。	370	465	96
259	2305	門間沼遺跡	同上。	470	530	61
260	2305	門間沼遺跡	同上。	580	600	21
690	2306	川原遺跡	①弥生時代中期の集落跡・墓域, ②弥生時代後期～古墳時代初めの墓域, ③古墳時代中期の集落跡, ④古代の集落跡, ⑤中世～戦国時代の水田遺構などが検出された。とくに, 弥生時代中期後葉の古井式後半期には膨大な堅穴住居跡(300軒)が確認された。	1451	1550	100
251	2307	清洲城下町遺跡	①古墳時代後期(7世紀)の溝跡。②古代(8～9世紀)の集落跡。③戦国～江戸時代初めの城下町跡。	1471	1650	180
252	2307	清洲城下町遺跡	同上。	1471	1650	180
691	2308	天神前遺跡	①古墳時代中期の堅穴状遺構・水田跡, ②古墳時代後期～江戸時代の水田跡・集落跡などが検出された。とくに, 鎌倉～戦国時代(12～16世紀)は居住地として継続的に利用された。	401	450	50
261	2309	八王子遺跡	①弥生時代前期～中期の集落跡・墓域。②弥生時代後期前葉(八王子古式)～古墳時代中期(松河戸Ⅰ期)の集落跡。5世紀には顕著な遺構がない。③古墳時代後期(6世紀中葉～7世紀後半)の群集墳。④古墳時代後期～古代(7世紀後半～9世紀前半)の集落跡(8世紀後半～9世紀前半), 祭祀跡(10世紀初め)。⑤中世～近世(12世紀中葉～17世紀初め)の集落跡・屋敷跡。⑥近世以降の水田跡・島畠跡。	401	450	50
265	2310	法圓寺中世墓	鎌倉～室町時代(13～15世紀)の墓。	1452	1452	1
266	2311	万加田遺跡	①縄文時代中期後葉の集落跡。②奈良～平安時代(7世紀後半～9世紀中頃)の集落跡, 8世紀中頃の土器はない。	801	930	130
692	2312	水入遺跡	後期旧石器時代以降の集落跡・耕作地など。①後期旧石器は流れ込みであったが付近に生活空間があったことが考えられる。②縄文時代草創期～早期には焼土坑群があり, 同中期末に堅穴建物からなる集落が出現する。③弥生時代末期に集落が展開するが, 格別のな段丘面の開発が始まるのは古墳時代中期である。大屋敷地区に下流への灌漑を目的にしたと思われる全長200m以上の大溝が掘削され, 大溝機能停止後も集落が展開され, 7世紀後半には下槽目地区も開発され, 集落域が拡大する。④古代集落は9世紀代に急激な縮小を経て, 11世紀代にはほぼ廃絶する。⑤鎌倉時代に土坑墓からなる墓地として利用される。墓地は14世紀代には廃絶。⑥15世紀代からは再び集落地となる。特に16世紀代の大屋敷地区は大溝の最掘削や土塁構築, 大型掘立柱建物が造られ, 一種の川湊として機能していた可能性が考えられる。⑦17世紀以降は矢作川の洪水が増え, 18世紀代には当該地での集落経営は断絶する。	370	470	101
689	2313	室遺跡	①古代(8～12世紀)の水田跡・大型木樋を伴った導水施設。②中世(12世紀後半～16世紀)の集落跡・屋敷跡などが検出された。近世は耕作地として利用されたとみられる。	951	1000	50
267	2401	位田遺跡	①弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めの方形周溝墓(欠山中～新段階)・河道・炉跡(元屋敷期)。②飛鳥～奈良時代の道跡。③平安時代中期～後期の官衙関連の屋敷?平安時代末期の集落跡。	1937	1937	0
274	2501	浅小井城跡第2次	遺跡全体は16世紀の城跡であるが, 今回の調査では明確な遺構は検出されなかった。	1860	2000	141
273	2502	井戸遺跡	①縄文時代の土坑。②古墳時代の溝跡・土坑など。③平安時代後半の集落跡。④室町時代の耕作痕跡。過去の調査では古墳時代(4世紀ごろ)の集落跡も見つかっている。	901	1100	200
275	2503	草津宿場町遺跡第7次	16世紀末葉～19世紀後半の宿場町・屋敷跡など。	1631	1750	120
276	2503	草津宿場町遺跡第7次	同上。	1571	1670	100
277	2503	草津宿場町遺跡第7次	同上。	1571	1650	80
268	2504	柳遺跡	①弥生時代後期の方形周溝墓。②平安時代後期～室町時代(12世紀後半～16世紀)の集落跡・水田跡・畑跡, とくに13世紀後半から条里地割に基づいて水田跡が拡大したとみられる。	1501	1530	30
269	2504	柳遺跡	同上。	1431	1470	40
270	2504	柳遺跡	同上。	1371	1400	30
271	2504	柳遺跡	同上。	1431	1470	40
272	2504	柳遺跡	同上。	1501	1530	30
929	2504	柳遺跡	同上。	120	190	71
930	2504	柳遺跡	同上。	120	190	71
688	2601	嵐山	近代の耕作土の下から, 江戸時代の土坑・耕作地造成の跡, 室町時代末期の洪水に伴うと考えられる自然流路, 鎌倉時代から室町時代の耕作関連遺構を検出した。	1470	1600	131
296	2602	宇治川太閤堤跡	豊臣秀吉が1594年(文禄3年)に築造した太閤堤の一連のものと考えられる。護岸は元禄期までは見えている状態であったが, 幕末には埋没したとみられる。	1953	1953	0
297	2602	宇治川太閤堤跡	同上。	1716	1804	89
286	2603	内里八丁遺跡A地区・B地区	①弥生後期末葉～古墳前期(庄内～布留期)の集落跡・水田跡・方形周溝墓。②古墳中期末葉～飛鳥時代の集落跡。③奈良～平安時代(7～12世紀)の道路状遺構・集落跡。⑤13世紀以降の集落跡・島畠。	190	228	39
287	2603	内里八丁遺跡C地区～F地区	同上。	190	228	39
304	2604	京都大学北部構内遺跡BF34区	京都大学構内遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡。今回の調査では平安時代前期～中期(9世紀前半～10世紀前半)の遺構・遺物が多く検出された。	1501	1700	200
305	2604	京都大学北部構内遺跡BD28区	京都大学構内遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡。今回の調査では, ①縄文時代後期～晩期のドングリ集積遺構・植物遺体層, ②平安時代の道路跡・溝跡・土坑, ③中世～近世の野壺や工作痕跡などが検出された。	801	850	50
306	2604	京都大学西部構内遺跡	京都大学構内遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡。今回の調査では, 室町～江戸時代の耕作痕跡が確認された。	1050	1200	151

278	2605	蔵ヶ崎遺跡	①弥生時代前期の土器が多数出土し、耕作土も確認された。②奈良時代について、洪水層に覆われた水田面が検出された。墨書土器を伴うことから、近隣に官衙が存在していた可能性もある。	700	800	101
281	2606	桑原口第6次	桑原口遺跡全体は弥生時代後期～古墳時代、平安時代後期～鎌倉時代初め、江戸時代の集落遺跡。今回の調査でもこれを追認するもので、古墳時代前期、奈良時代～平安時代前期、室町時代の遺構・遺物はほとんど見つからない。	580	620	41
280	2607	上津屋遺跡第4次	上津屋遺跡全体は弥生時代、古墳時代、中世、近世の集落遺跡。今回の調査ではとくに14～15世紀と16世紀の2段階で遺跡の様相が変化していることが看取された。	1801	2000	200
279	2608	佐山遺跡	弥生時代後期～江戸時代の集落跡・墓跡。存続期間は弥生時代後期中葉～古墳時代後期と、奈良～江戸時代の2時期に大きく分かれる。	1201	1250	50
288	2608	佐山遺跡	同上。	1201	1250	50
295	2609	慈照寺(銀閣寺)旧境内	①10世紀後半～11世紀初め以前に「浄土寺」に関連した何らかの施設が存在した可能性が判明した。②室町時代(15世紀後半～16世紀)の溝跡・石垣跡・堤跡、江戸時代の溝跡が検出された。	1551	1650	100
285	2610	下植野南遺跡	①縄文時代晩期の土器墓室。②弥生時代中期の土坑・方形周溝墓など。③古墳時代(庄内期～7世紀)の集落跡・埴輪棺・祭祀遺構など。④平安時代の集落跡。⑤中世(とくに13世紀と15世紀)の集落跡。⑥近世の井戸。遺跡全体では6世紀に特に住居跡の密度が高くなる。	530	600	71
917	2611	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	遺跡全体では縄文時代以降、各時代の遺構・遺物が検出されている。今回の調査では縄文～室町時代の各時代について遺構が検出された。①古墳時代各期の集落跡、②長岡京期の条坊跡・祭祀遺物が特筆される。	501	535	35
298	2611	長岡京左京第293次	遺跡全体では長岡京に伴う遺構・遺物が主体。今回の調査では長岡京期の整地層と、これを掘り込むから土石流堆積物が見つかった。	784	950	167
299	2611	長岡京左京第370次	遺跡全体では長岡京に伴う遺構・遺物が主体。今回の調査では、①長岡京期の遺構群、②中世の条里制遺構(溝群・耕作痕跡)が検出された。	1301	1350	50
300	2611	長岡京左京第438次	遺跡全体では長岡京に伴う遺構・遺物が主体。今回の調査では、古代の水田跡(9～10世紀)・集落跡(10世紀)、10～13世紀の耕作痕跡が確認された。	931	970	40
301	2611	長岡京左京第438次	同上。	901	970	70
302	2611	長岡京左京第465次・474次	遺跡全体では長岡京に伴う遺構・遺物が主体。今回の調査では、①長岡京三条大路周辺の位置・構成、②平安時代後期以降の耕作痕跡などが確認された。	784	850	67
303	2611	長岡京跡左京第308次	遺跡全体では長岡京に伴う遺構・遺物が主体。今回の調査では、①弥生時代後期～古墳時代前期の水田跡、②古墳時代中期末葉の竪穴住居状遺構、③長岡京期の条坊関連遺構、④中世以降の条里制水田跡が検出された。	260	430	171
284	2612	西ノ口遺跡	古墳時代～近世の遺物が出土したが、遺構はない。	1953	1953	0
307	2613	平等院境内	12～17世紀を中心とした寺院。下層の塔の川遺跡では縄文時代後期前葉、弥生時代中期～古墳時代後期の遺構も確認された。	1800	1870	71
283	2614	福知山城跡	17世紀初めに築かれた城。	1771	1800	30
282	2615	古屋敷遺跡	平安時代後期～安土・桃山時代の遺構・遺物が検出された。今回の調査区は遺跡の東端にあたる。	1601	1700	100
289	2616	平安京右京三条二坊十六町第3次	平安京全体では平安時代以降の遺構・遺物、条坊関連遺構が主体。今回の調査では、①平安時代中期～後期について、「齋宮」墨書土器により、齋宮が居住していたことが判明した。②室町～江戸時代について耕作溝が検出された。	1801	1870	70
290	2617	平安京左京北辺四坊	平安京全体では平安時代以降の遺構・遺物、条坊関連遺構が主体。公家町は桃山時代に形成された。今回の調査地は平安京の北東隅にあたり、平安時代後期と戦国～江戸時代の遺構・遺物が多く検出された。	1731	1800	70
291	2617	平安京左京北辺四坊	同上。	1651	1750	100
292	2617	平安京左京北辺四坊	同上。	1631	1670	40
293	2617	平安京左京北辺四坊	同上。	1601	1650	50
294	2617	平安京左京六条三坊五町跡	平安京全体では平安時代以降の遺構・遺物、条坊関連遺構が主体。今回の調査でも平安～江戸時代の遺構が多数検出された。	1001	1200	200
342	2701	有池遺跡	縄文時代、古墳時代、古代末期～中世の複合遺跡。集落の主体は古墳時代中期～飛鳥時代初め、平安時代後期～室町時代(12～14世紀)で、近世以降は耕作地として利用された。	1600	1700	101
343	2701	有池遺跡	同上。	1171	1230	60
349	2702	池島・福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	弥生時代前期中葉～近世の継続的な水田跡、古墳時代前期・中期後半～後期の集落跡などが検出されている。また、中世後半～近世は洪水砂と、洪水砂を母材にした島畠が重層的に検出されている。	1802	1802	0
353	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区03-1調査区	同上。	1802	1802	0
354	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区03-1調査区	同上。	1451	1600	150
363	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-1調査区	同上。	1802	1802	0
364	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	同上。	1802	1802	0
919	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	同上。	1802	1950	149
920	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	同上。	1802	1802	0

921	2702	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1-06-2調査区	弥生時代前期中葉～近世の継続的な水田跡、古墳時代前期・中期後半～後期の集落跡などが検出されている。また、中世後半～近世は洪水砂と、洪水砂を母材にした島島が重層的に検出されている。	1860	2000	141
310	2703	池田西遺跡	①弥生時代中期後半の土器。②古墳時代の井戸跡。③奈良～平安時代(9世紀ごろ)の集落跡。④近世後期の粘土採取地。	1802	1802	0
344	2704	上の山遺跡	弥生時代中期～中世の集落跡・水田跡。今回の調査では、①弥生時代中期前葉の大型掘立柱建物跡、②古墳時代前期・中期の竪穴住居跡、③平安時代の掘立柱建物跡などが特筆される。また、初期須恵器窯・飛鳥時代の須恵器窯が存在した可能性もある。	1551	1600	50
345	2704	上の山遺跡	同上。	1001	1200	200
389	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	瓜破遺跡全体は縄文時代～近世までの複合遺跡で、長原遺跡、瓜破北遺跡と隣接する。今回の調査では弥生時代後期の畠状遺構、古墳～飛鳥時代の溝跡・井戸跡などが検出された。	671	700	30
390	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	同上。	571	700	130
391	2705	瓜破遺跡東北地区00-8次	同上。	471	570	100
392	2705	瓜破遺跡西地区00-11-01-17次	瓜破遺跡全体は縄文時代～近世までの複合遺跡で、長原遺跡、瓜破北遺跡と隣接する。今回の調査では、①旧石器時代のナイフ形石器・剥片、②縄文時代早期～晩期の土器・石器、③弥生時代前期～中期の溝跡、④古墳時代の溝跡などが検出された。	1998	1998	0
393	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	瓜破遺跡全体は縄文時代～近世までの複合遺跡で、長原遺跡、瓜破北遺跡と隣接する。今回の調査では、①6世紀の関東系土器、②奈良時代末期～平安時代初めの瓦(寺院と関連?)、③平安～鎌倉時代の水田跡などが検出された。	601	650	50
394	2705	瓜破遺跡東北地区04-5次	同上。	571	650	80
395	2706	瓜破北遺跡04-1-2-3次	瓜破北遺跡全体は後期旧石器時代～近世までの複合遺跡で、長原遺跡、瓜破遺跡と隣接する。今回の調査では、①縄文時代中期の石器集中部(石器製作址)と縄文時代早期末葉～前期初めの条痕文土器、縄文時代中期前半の船元式土器、②弥生時代後期の集落跡と庄内期の方形周溝墓1基、③古墳時代前期の土坑1基が検出された。また、鎌倉時代以降は全面的に耕地化され、戦後に至ったとみられる。	1301	1330	30
396	2706	瓜破北遺跡04-1-2-3次	同上。	801	1000	200
387	2707	大坂城下町跡	弥生時代～近世の複合遺跡。今回の調査では、①庄内期の土器、②奈良時代～近世の遺構・遺物が検出された。中世後期(14世紀ごろ)には遺構・遺物の出土地点が増加し、近世初めには豊臣秀吉の築城に伴い、城下町が形成された。	1180	1350	171
316	2708	男里遺跡	弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め、飛鳥～奈良時代の河道と当該期の土器が多数検出された。②飛鳥Ⅱ～Ⅳ期には周辺に須恵器窯が存在していた可能性が指摘できた。	601	700	100
397	2709	遠里小野遺跡	遠里小野遺跡全体は弥生時代～近代の複合遺跡で、弥生時代～中世の遺構・遺物が広範囲で見つかっている。今回の調査では、飛鳥時代の7世紀中葉に造営されたとみられる大型掘立柱建物跡が検出されたことが特筆される。	1866	1866	0
339	2710	勝部遺跡	①弥生時代後期の水田跡。②古墳時代前期(布留新段階)の短期的な集落跡、初期須恵器(大庭寺段階;TG232段階)を伴う。③古代末期(12世紀)～中世(13世紀末～14世紀)の集落跡。集落廃絶後も条里水田として利用され、現在にいたる。	150	330	181
382	2711	加美遺跡	弥生時代～近世の複合遺跡。弥生時代中期の大型墳丘墓、弥生時代後期後半～古墳時代前期の周溝墓群と集落跡が特筆される。	731	800	70
383	2711	加美遺跡	同上。	260	430	171
384	2711	加美遺跡	同上。	1	140	140
351	2712	上私部遺跡05-1区	①古墳時代後期(田辺編年TK208以前～TK217/中村編年Ⅰ型式3段階～Ⅱ型式5・6段階;5～7世紀、とくに6世紀)の集落跡、掘立柱建物跡39棟を伴う。②平安時代後期以降の条里制地割にもとづく水田跡などが検出された。	1651	1730	80
385	2713	亀井北遺跡01-2次・02-1次・03-1次	亀井北遺跡全体は縄文時代～近代の複合遺跡。今回の調査区では、①古墳時代後期の氾濫性堆積層、②平城宮Ⅲ期の土器、③平安時代中期～鎌倉時代の作土層が検出され、室町時代以降も耕作地として利用され続けたとみられる。	1001	1100	100
386	2713	亀井北遺跡01-2次・02-1次・03-1次	同上。	600	660	61
308	2714	萱振遺跡第1次	弥生時代中期～後期の水田跡、古墳(萱振1号墳)、奈良～平安時代・中世(12世紀前半が中心)の集落跡。	190	265	76
400	2715	鬼虎川遺跡第38次	縄文時代～近世の複合遺跡で、水走遺跡、鬼塚遺跡などに隣接する。①縄文時代晩期末葉～弥生時代前期の貝塚、②弥生時代中期～古墳時代中期の集落跡・墓域・製鉄遺構など、③平安時代末期～室町時代前半の集落跡・畑跡などからなる。6～11世紀、15～17世紀には地下水位が上昇して湿地化し、居住域としては適さなかったとされる。今回の調査では特に鎌倉～室町時代、江戸時代の水田跡が確認された。(参考:別所秀高編著、2004『鬼虎川遺跡第57次発掘調査報告書』(財)東大阪市文化財協会)	1301	1400	100
346	2716	久宝寺遺跡竜筆地区	久宝寺遺跡全体は縄文時代～近代の継続的な集落遺跡。今回の調査では、弥生時代前期～後期の集落跡・水田跡、古墳時代前期初め(庄内期初段階～布留古段階)の墳墓群などが特筆される。	120	265	146
347	2716	久宝寺遺跡竜筆地区	同上。	190	350	161
348	2716	久宝寺遺跡竜筆地区	同上。	370	530	161
904	2717	蔵人遺跡第17次	弥生時代以降の複合遺跡。鎌倉～室町時代の集落跡が主体。今回の調査では古墳時代後期～安土桃山時代の11面の遺構面を確認した。条里制地割にもとづく耕作地を重層的に検出できたことが特筆される。	551	600	50

369	2718	上津島遺跡第5次	弥生時代後期、古墳時代中期、鎌倉時代の集落跡。特に、古墳時代中期の集落跡から多量の木器・滑石製模造品が出土した。古墳時代中期の集落に伴う須恵器は4世紀末葉～5世紀第3四半期のON46・TK208期のものが大半で、6世紀を待たずに廃絶した可能性が高い。	370	530	161
324	2719	小阪遺跡	旧石器時代～近世の複合遺跡(集落跡・水田跡・墓域など)。陶器遺跡群の中にある。①後期旧石器時代の国府型ナイフ・有茎尖頭器尖頭器、②縄文時代早期末葉～晩期の土器・石器と中期末葉～後期初めの土器片敷遺構、③縄文時代晩期～弥生時代前期の土坑・溝跡、④弥生時代中期の土坑、⑤古墳時代前期(庄内期・布留期)の溝跡、⑥古墳時代中期～後期の集落跡、⑦古代の集落跡、⑧中世～近世の耕作痕跡などが検出された。遺跡全体では古墳時代中期～後期の遺構の密度が最も高い。	190	350	161
325	2719	小阪遺跡	同上。	771	800	30
340	2720	讃良郡条里遺跡03-3区	縄文時代～近世の集落跡・水田跡・鳥島跡などの遺構面が氾濫堆積物などとともに重層的に検出される継続的な複合遺跡。	190	330	141
357	2720	讃良郡条里遺跡03-1区	縄文時代～近世の集落跡・水田跡・鳥島跡などの遺構面が氾濫堆積物などとともに重層的に検出される継続的な複合遺跡。今回の調査区では、①縄文時代草創期末葉～早期前半の尖頭器と前期～晩期前半の土器・石器が層位的に出土したこと、②弥生時代後期後半～古墳時代前期初め(古墳時代には庄内期を含む)の集落跡、③平安時代前期(9世紀後半～10世紀前半)の集落跡が特筆される。	320	430	111
365	2720	讃良郡条里遺跡03-4調査区	縄文時代～近世の集落跡・水田跡・鳥島跡などの遺構面が氾濫堆積物などとともに重層的に検出される継続的な複合遺跡。	1860	1950	91
309	2721	志紀遺跡第6次	弥生時代～近代の水田跡で、平安時代末期～鎌倉時代初めには居住域も形成された。	551	700	150
312	2721	志紀遺跡第5次	同上。	700	730	31
313	2721	志紀遺跡第5次	同上。	190	350	161
329	2722	尺度遺跡	後期旧石器時代、弥生時代中期～古墳時代前期初め(庄内期)、古墳時代後期～平安時代の複合遺跡で、中世以降も平安時代以前の地割が踏襲され、耕作地などとして利用されたとみられる。後期旧石器時代の石器製作址、古墳時代前期初め(庄内～布留初期)の首長居館・集落跡が特筆される。	1071	1130	60
330	2722	尺度遺跡	同上。	645	660	16
331	2722	尺度遺跡	同上。	501	550	50
332	2722	尺度遺跡	同上。	501	530	30
333	2722	尺度遺跡	同上。	1	150	150
334	2722	尺度遺跡	同上。	501	570	70
335	2722	尺度遺跡	同上。	660	690	31
352	2723	新上小阪遺跡	弥生時代中期～近代の水田跡・集落跡・鳥島跡などからなる。今回の調査では、①弥生時代中期前葉の大溝群、②弥生時代後期後半の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などからなる居住域、③古墳時代後期末葉の水田跡、④中世～近代の鳥島跡などが検出された。	571	650	80
314	2724	新庄遺跡	①弥生時代前期の集落跡、②弥生時代中期前半(畿内Ⅱ)の土坑・溝跡、③弥生時代中期後半(畿内Ⅳ)の周溝状遺構、④弥生時代後期(主体は畿内Ⅴの中ごろ)の集落跡、⑤古墳時代前期の集落跡・周溝墓、⑥古墳時代中期～後期の墓域、⑦平安時代前半～室町時代後半・水田跡、⑧江戸時代の水田跡が検出された。全体では古墳時代前期の遺構が最も広範囲に分布。	1430	1600	171
338	2725	吹田操車場遺跡	吹田操車場遺跡全体は縄文時代は内湾の海域とつながる汽水域で、弥生時代～近世の集落跡などで構成される。今回の調査では、①鬼界アカホヤ火山灰層、②古墳時代前期～後期の溝跡群、③平安時代(10世紀ごろ～)の掘立柱建物跡を条里畦畔を持つ水田跡、④古代の条里地割を踏襲した中世～近代の水田跡などが確認された。	551	600	50
360	2726	巢本遺跡03-2・06-1	古代末期(11世紀ごろ)～中世の集落跡・水田跡で、中世には寺院が存在していた可能性もある。	1101	1200	100
318	2727	高柳遺跡	①弥生時代後期の焼失した竪穴住居跡、②古墳時代後期(6世紀後半ごろ)の溝跡・土坑、③平安時代中期の掘立柱建物跡、④中世の掘立柱建物跡などが検出されたが、遺跡の主体は平安時代中期。	1802	1802	0
319	2727	高柳遺跡	同上。	1802	2000	199
327	2728	玉櫛遺跡	玉櫛遺跡全体は弥生時代～室町時代の集落跡などで構成される。今回の調査では11世紀以降、とくに鎌倉時代以降は長期間にわたり屋敷地が形成されていたことが判明した。	1231	1400	170
328	2728	玉櫛遺跡	同上。	1051	1100	50
361	2728	玉櫛遺跡06-1	玉櫛遺跡全体は弥生時代～室町時代の集落跡などで構成される。今回の調査では、①6世紀中葉の土坑に伴う木製鞍・馬骨、②10世紀後葉の条里型水田面、③11世紀後葉・12世紀前葉～13世紀前葉の掘立柱建物跡・溝跡、④13世紀中葉～15世紀前葉の大規模溝群・掘立柱建物跡などが検出され、特に14世紀前葉の溝から多種多様な遺物が出土した。また、中世末期以降も水田として利用されていた。	951	1100	150
362	2728	玉櫛遺跡06-1	同上。	1231	1300	70
373	2729	垂水遺跡第24次	垂水遺跡全体は弥生時代中期～江戸時代の集落跡。今回の調査ではこれまで遺構・遺物が少なかった弥生時代後期～古墳時代前期の遺構・遺物が検出され、弥生時代に成立した集落が古墳時代前期まで存続していたことが明らかとなった。古墳時代中期には集落が急速に衰退したとみられる。	1801	2000	200
359	2730	津田遺跡	津田遺跡全体は、後期旧石器～弥生時代の複合遺跡。今回の調査では、①縄文時代早期・中期の土器、②弥生時代中期前半の小規模な集落跡、③奈良時代の集落跡、④鎌倉～室町時代の集落跡・水田跡・堤防状遺構などが検出された。	1201	1300	100
374	2731	長原遺跡	後期旧石器時代～近代の大原平野を代表する複合遺跡で、各時代の遺物が検出されている。後期旧石器時代～縄文時代草創期の石器群と石器製作址、縄文時代晩期の土器群(長原式土器)、飛鳥～奈良時代の方格地割にもとづく水田跡などが特筆される。平安時代と室町時代以降は遺構が比較的希薄。30年以上の広範囲に及ぶ発掘調査から隣接する瓜破遺跡や加美遺跡なども含めた層序対比がなされている。	1301	1330	30
375	2731	長原遺跡	同上。	1151	1300	150
376	2731	長原遺跡	同上。	751	830	80
377	2731	長原遺跡	同上。	751	830	80
378	2731	長原遺跡	同上。	680	710	31
379	2731	長原遺跡	同上。	645	660	16

380	2731	長原遺跡	後期旧石器時代～近代の大阪平野を代表する複合遺跡で、各時代の遺物が検出されている。後期旧石器時代～縄文時代草創期の石器群と石器製作址、縄文時代晩期の土器群(長原式土器)、飛鳥～奈良時代の方格地割にもとづく水田跡などが特筆される。平安時代と室町時代以降は遺構が比較的希薄。30年以上の広範囲に及ぶ発掘調査から隣接する瓜破遺跡や加美遺跡なども含めた層序対比がなされている。	530	620	91
381	2731	長原遺跡	同上。	451	500	50
358	2732	茄子作遺跡	①縄文～弥生時代の土器・石器(サヌカイト剥片を含む)、②古墳時代前期～奈良時代の集落跡、③古代末期～中世の集落跡、④中世後期以降の水田跡(微高地に限る)などが確認された。溶着痕のある初期須恵器がまとめて出土したことが特筆される。	1201	1300	100
371	2733	南郷目代今西氏屋敷	13世紀中葉の春日神社の創建に始まり、15世紀初めには屋敷が成立し、現在に至る史跡。	1851	1900	50
372	2733	南郷目代今西氏屋敷	同上。	1531	1670	140
311	2734	西大井遺跡	後期旧石器時代～江戸時代の複合遺跡。①後期旧石器時代の石器ブロック、②古墳時代の掘立柱建物跡、③平安～江戸時代の水田跡などが特筆される。	1868	1912	45
320	2734	西大井遺跡	同上。	1868	1890	23
321	2734	西大井遺跡	同上。	1800	1870	71
322	2734	西大井遺跡	同上。	1051	1100	50
323	2734	西大井遺跡	西大井遺跡全体は後期旧石器時代～江戸時代の複合遺跡。今回の調査では、①古墳時代前期の溝跡、②古墳時代中期の掘立柱建物跡、③鎌倉時代の水田跡などが検出された。	1071	1100	30
326	2735	野々井遺跡	①弥生時代中期～後期の集落跡、大型竪穴住居跡・掘立柱建物跡などで構成され、主体は弥生時代中期初め。②古墳時代(5世紀後半)の土坑・溝跡、祭祀遺構?③飛鳥時代の溝跡。④平安時代後期の掘立柱建物跡。	645	660	16
350	2736	花屋敷遺跡06-1区	①室町時代の屋敷跡・集落跡、②江戸時代の井戸・灌漑用溝跡が検出された。	1501	1600	100
341	2737	東倉治遺跡04-1区	①弥生時代後期の竪穴住居跡・落ち込み、②古墳時代前期(布留期)の落ち込み、③平安時代の土坑、④鎌倉時代の落ち込みが検出された。周辺調査から遺跡では弥生時代後期～古墳時代前期に集落が営まれたことが判明している。	1180	1350	171
315	2738	東奈良遺跡	東奈良遺跡全体は弥生時代前期～古墳時代の継続的な集落跡・墓域、古代～中世の条里制地割にもとづく水田跡・集落跡。今回の調査では、弥生時代中期後半(畿内IV期)の方形周溝墓・住居跡が特筆される。	1251	1350	100
317	2739	平石遺跡	平石川上流の傾斜地を含む一帯に立地。平石川右岸では平安時代(9世紀)～南北朝時代の高貴寺に関連する掘立柱建物跡が検出され、集落としての利用もうかがえる。平石川左岸では中世以降の棚田跡が検出されている。	1982	1982	0
370	2740	穂積遺跡第14次・第15次	①縄文時代後期以前の海成層、②弥生時代前期初めの遺物、③中世の土坑・溜池状遺構・洪水層、④近世の水田跡・溜池状遺構などが検出された。	1450	1600	151
416	2741	真上遺跡	弥生時代後期、古墳時代後期～江戸時代の集落跡。江戸時代は主に耕作地として利用されていたとみられる。	1251	1350	100
398	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	縄文時代晩期に陸化に伴い形成された集落跡で、東接する鬼虎川遺跡とともに、縄文時代晩期～弥生時代前期の貝塚、弥生時代前期以降の各時代における遺構・遺物が検出されている。平安時代(10～11世紀ごろ)遺構には、地元豪族「水走氏」の主導によって大規模な耕地開発が開始されたとみられ、堤防跡や祭祀用木製品なども見つかっている。こうした遺跡の様子は中世の文献史料である『水走文書』とも一致する。	1860	2000	141
399	2742	水走遺跡第2次・鬼虎川遺跡第20次	同上。	1101	1150	50
401	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
402	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
403	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
404	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
405	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
406	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
407	2742	水走遺跡第9次・鬼虎川遺跡第28次	同上。	1600	1750	151
408	2742	水走遺跡第4次	同上。	1201	1250	50
409	2742	水走遺跡第4次	同上。	1231	1270	40
410	2742	水走遺跡第4次	同上。	1251	1300	50
411	2742	水走遺跡第4次	同上。	1301	1350	50
412	2742	水走遺跡第4次	同上。	1331	1400	70
413	2742	水走遺跡第4次	同上。	1401	1550	150
414	2742	水走遺跡第4次	同上。	1551	1600	50
415	2742	水走遺跡第11次	同上。	1271	1350	80

355	2743	湊遺跡	湊遺跡全体は弥生時代後期(庄内期を含む)には製塩活動を伴う集落、奈良～江戸時代に継続的に耕地として利用されていた。今回の調査では、①在地系V様式と生駒西麓産庄内甕、使用後の製塩土器の共伴、②中世(12世紀末～13世紀初め)の粘土採掘跡、③近世の洪水復旧痕跡などが特筆される。	1600	1750	151
356	2743	湊遺跡	同上。	120	225	106
366	2744	三宅西遺跡	縄文時代中期以降、各時代の複合遺跡。弥生時代中期以降は継続的に集落や耕地として利用されていたとみられる。①縄文時代後期中葉(北白川上層3期)の一括遺物、②弥生時代前期～中期前葉のサヌカイト製石器製作に関連した集落跡、③古墳～飛鳥時代の百済系土器を伴う流路と水利施設が特筆される。	1101	1300	200
388	2745	森小路遺跡94-13次	弥生時代中期前葉を中心に近世まで続く集落跡・水田跡。弥生時代後期～古墳時代前期は生活痕跡がほとんどないが、古墳時代中期～後期の溝跡・井戸跡、奈良～平安時代の土坑、鎌倉～室町時代の溝跡・土坑、江戸時代以降の畝・畦畔・溝跡などが見つかっている。	1934	1934	0
368	2746	山賀遺跡08-1・2区	山賀遺跡全体は弥生時代前期～近世の継続的な集落跡・水田跡・墓域などで構成される。今回の調査では、①弥生時代中期前半の建物跡とみられる遺構と石器製作址、②弥生時代後期末葉の氾濫堆積物におおわれて残存状態が良好な水田跡などが検出された。	150	265	116
336	2747	大和川今池遺跡	大和川今池遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡で、難波宮期の官道である「難波大道」や古代以降の条里制水田跡などからなる。今回の調査では、①古墳時代の遺物を含む整地土、②平安時代の条里制水田跡などを検出した。	1950	2000	51
337	2747	大和川今池遺跡	同上。	1401	1500	100
367	2747	大和川今池遺跡07-1区	大和川今池遺跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡で、難波宮期の官道である「難波大道」や古代以降の条里制水田跡などからなる。今回の調査では、①難波宮から南に延びる官道である「難波大道」、②古代～近世の畦畔や溝跡、③近世の旧堀川などを検出した。	601	625	25
448	2801	鶴石田遺跡	弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めの庄内式土器を多量に出土する遺跡であることが確認された。庄内式土器の中には河内からの搬入品もあるが、多くは地元で焼成されたものであることが大きな特徴である。	190	330	141
422	2802	伊丹郷町	伊丹郷町は中世末期に成立したとされ、多数の町屋からなるとされる。今回の調査では主として17世紀前半～19世紀前半の生活面を精査し、礎石建物跡や焼土層などを確認した。	1601	1650	50
441	2803	一品野田遺跡	①11～12世紀の水田跡、②13世紀の集落跡が検出された。	1101	1300	200
901	2804	今池尻遺跡第2次	今池尻遺跡全体は弥生時代中期～後期、古墳時代後期、平安時代後期の集落跡。今回の調査では弥生時代後期の竪穴住居跡、古墳時代後期の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などが検出された。	580	730	151
442	2805	加都遺跡	①弥生時代中期の溝跡、②弥生時代後期の集落跡、③古墳時代中期～後期の集落跡(竪穴住居跡・掘立柱建物跡)・水田跡、④律令期(8～9世紀)の但馬道と水田跡、⑤平安～鎌倉時代(11世紀前半～14世紀後半)の集落跡(掘立柱建物跡)・水田跡など。	1720	1870	151
443	2805	加都遺跡	同上。	1600	1700	101
444	2805	加都遺跡	同上。	431	470	40
465	2806	上沢遺跡第38・46-50次	弥生時代後期～平安時代末期の継続的な集落跡。①弥生時代後期～古墳時代前期初め(出土土器は庄内期のものが大半)、②飛鳥時代～平安時代前半は周辺地域の中で拠点集落だったとみられる。	901	1000	100
421	2807	上ノ島遺跡	弥生時代前期、弥生時代後期～古墳時代前期?、古墳時代後期(6世紀末葉)～飛鳥時代?、奈良～平安時代の集落跡。中世～近世は水田として利用されたとみられる。	1712	1712	0
468	2808	郡家遺跡第70次	縄文～鎌倉時代における六甲山南麓の代表的な複合遺跡で、古墳時代(第83次調査の報告書などからTK218型式期)に最盛期がある。今回の調査では、古墳時代中期の水田跡、奈良～平安時代の掘立柱建物跡などが検出された。	370	530	161
471	2808	郡家遺跡第83次	縄文～鎌倉時代における六甲山南麓の代表的な複合遺跡で、古墳時代(第83次調査の報告書などからTK218型式期)に最盛期がある。今回の調査では、①古墳時代前期～中期の韓式系土器を伴う建物跡、祭祀跡の可能性が高い土坑(布留1式期)・水田跡、②奈良時代の集落跡(掘立柱建物跡)が検出され、集落は平安時代以降も継続していたとみられる。	571	600	30
472	2808	郡家遺跡第83次	同上。	451	530	80
473	2808	郡家遺跡第83次	同上。	451	530	80
474	2808	郡家遺跡第83次	同上。	451	530	80
453	2809	坂元遺跡	後期旧石器時代～中世の集落跡・墳墓など。①後期旧石器時代の石器、②縄文時代の墓域、③弥生時代中期中葉～後葉の集落跡・方形周溝墓群、④弥生時代後期後半の集落跡、⑤古墳時代後期の集落跡・水田跡・古墳(TK10～TK43期)・埴輪焼成窯跡、⑥飛鳥～鎌倉時代の集落跡(奈良時代後半は駅家跡?)が検出された。	701	800	100
454	2809	坂元遺跡	同上。	801	900	100
447	2810	柴遺跡	奈良～平安時代(8～11世紀)の掘立柱建物柱跡・井戸・溝跡など。粟鹿駅関連施設。	701	900	200
457	2811	白水遺跡第3次	弥生時代中期、弥生時代後期末葉、古墳時代中期(TK73期)、奈良時代後期～平安時代中期(11世紀前半)、平安時代後期～鎌倉時代(12～13世紀)の集落跡と、古墳時代中期～後期の古墳。古墳時代集落の最盛期は5世紀中葉(TK208～TK23期)。	600	620	21
426	2812	砂入遺跡	①縄文時代前期の土坑、②古墳時代後期の水田跡、③飛鳥～平安時代の道路状遺構・祭祀土坑・河道・水田跡などが検出された。遺跡の最盛期は飛鳥～平安時代(7世紀第4四半期～10世紀前半)、遺跡南部のⅡ区は7世紀初めから9世紀初めの祭祀場とされる。	680	705	26
427	2812	砂入遺跡	同上。	771	800	30
417	2813	住吉宮町遺跡	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～近世の継続的な遺跡で、とくに古墳時代については古墳が多数見つかっている。今回の調査では、①古墳時代中期末葉の古墳4基、②古墳時代後期末葉の土坑、③奈良時代の溝跡、④鎌倉時代の溝跡・石垣状遺構、⑤中世の水田跡、⑥近世の水田跡が検出された。	1860	1950	91
418	2813	住吉宮町遺跡	同上。	1601	1800	200
419	2813	住吉宮町遺跡	同上。	571	600	30
435	2813	住吉宮町遺跡第33次	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～近世の継続的な遺跡で、とくに古墳時代については古墳が多数見つかっている。今回の調査では、①弥生時代後期末葉(庄内期)の集落跡、②古墳時代中期～後期の集落跡・墓域、③奈良時代～平安時代の集落跡・地鎮遺構、④中世前半の集落跡・採石遺構などが見つかった。	150	330	181
436	2813	住吉宮町遺跡第33次	同上。	370	530	161

455	2813	住吉宮町遺跡第17次	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～中世の継続的な複合遺跡で、古墳時代については古墳が多数見ついている。今回の調査では、①古墳8基(ON46～MT15期:5世紀後半～6世紀初め)、②飛鳥時代の集落跡(6世紀後半～7世紀初め)、③奈良時代(7世紀後半～8世紀前半)の集石遺構や溝跡、④平安時代の道路跡、⑤中世(14～15世紀)の方形区画溝跡などが検出された。	1938	1938	0
456	2813	住吉宮町遺跡第17次	同上。	501	600	100
460	2813	住吉宮町遺跡第24次	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～近世の継続的な遺跡で、古墳時代については古墳が多数見ついている。今回の調査では、弥生時代後期末葉～古墳時代中期の土器棺墓1基・方墳4基が確認された。	501	530	30
461	2813	住吉宮町遺跡第32次	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～近世の継続的な遺跡で、古墳時代については古墳が多数見ついている。今回の調査では、古墳時代中期～後期の方墳9基・円墳1基・箱式石棺9基が確認された。	480	535	56
466	2813	住吉宮町遺跡第35次	住吉宮町遺跡全体は弥生時代～近世の継続的な遺跡で、古墳時代については古墳が多数見ついている。今回の調査では、古墳1基(5世紀中頃に築造?)、平安時代～中世の土坑・ピットが確認された。	501	530	30
467	2814	大開遺跡第10次	大開遺跡全体は縄文時代晩期～近世の遺跡で、弥生時代前期の環濠集落跡が特筆される。今回の調査では、①弥生時代前期の環濠集落跡、②平安時代の掘立柱建物跡、③中世の耕作痕跡が確認された。	1938	1938	0
434	2815	高松町遺跡	①弥生時代後期末葉の水田跡、②中世末期の地震痕跡(慶長伏見地震のもの?)が検出された。	150	265	116
423	2816	玉津田中遺跡 辻ヶ内地区	玉津田中遺跡全体は平野部と傾斜地からなる、弥生時代～近世の継続的な遺跡。辻ヶ内地区は遺跡の南東側平坦地にあたる。今回の調査では①弥生時代中期～後期の集落跡・水田跡、②中世(12世紀末葉～13世紀初め)の居館跡が見つかった。	1938	1938	0
496	2817	月若遺跡第89地点	月若遺跡全体は縄文時代晩期～江戸時代の複合遺跡で、弥生時代以降は継続して生活痕跡が認められる。今回は、2面の遺構面について、①弥生時代後期後半、②古墳時代～中世の遺物を確認した。	1938	1938	0
477	2818	津知遺跡第17地点	津知遺跡全体は旧石器時代～近代の複合遺跡で、弥生時代以降は各時代について遺構が認められる。今回の調査では、①弥生時代後期末葉(庄内期:3世紀)～平安時代(9世紀)の水田跡が洪水や土石流による砂層に交互に挟まれるようにして検出され(第3～7遺構面)、②平安時代(10世紀)の坪界を示すと考えられる道状遺構や柱穴(第2遺構面)、③中世の耕作地と思われる面(第1遺構面)が確認された。	1201	1300	100
478	2818	津知遺跡第17地点	同上。	801	1000	200
479	2818	津知遺跡第17地点	同上。	601	800	200
480	2818	津知遺跡第17地点	同上。	601	700	100
481	2818	津知遺跡第17地点	同上。	401	600	200
482	2818	津知遺跡第17地点	同上。	301	400	100
493	2818	津知遺跡第222地点	津知遺跡全体は旧石器時代～近代の複合遺跡で、弥生時代以降は各時代について遺構が認められる。今回の調査では、4面の遺構面を確認し、調査区が平安時代末期～鎌倉時代に耕地化されたことが強調される。	1938	1938	0
476	2819	寺田遺跡第95地点	寺田遺跡全体は縄文時代晩期～弥生時代中期、弥生時代後期後半～近世の複合遺跡である。第95地点では、①庄内期の竪穴住居跡1棟、②古墳時代の竪穴住居跡(前期1棟/中期1棟/後期10棟)、③古墳時代後期～鎌倉時代の竪穴住居跡・多数のピットなどが検出された。	260	320	61
489	2819	寺田遺跡第120～122地点	寺田遺跡全体は縄文時代晩期～弥生時代中期、弥生時代後期後半～近世の複合遺跡である。第117～124地点では、弥生時代～中世について2～4面の遺構面を確認できた。	120	265	146
490	2819	寺田遺跡第117～124地点	同上。	260	320	61
491	2819	寺田遺跡第117～124地点	同上。	1101	1200	100
494	2819	寺田遺跡第167地点	寺田遺跡全体は縄文時代晩期～弥生時代中期、弥生時代後期後半～近世の複合遺跡である。第167地点では、①弥生時代前期後半～中期初めの貯蔵穴、②古墳時代のピット、③奈良時代の掘立柱建物1棟と溝1条、④平安時代の多量の遺物、⑤中世の多量の遺物が検出された。	1101	1150	50
445	2820	伝平等寺跡遺跡	①平安時代末期～鎌倉時代(12～13世紀)の堂舎跡、②江戸時代の寺院跡。13世紀以降は継続して維持された寺院であった可能性もあるが、遺構は検出されていない。	1201	1230	30
446	2820	伝平等寺跡遺跡	同上。	1854	1859	6
438	2821	中山手西遺跡	奈良時代(8世紀半ばごろ)の自然流路1条、平安時代末期～鎌倉時代前半の集落跡(柱穴・溝跡・土坑)が検出され、近世以降は耕作地として利用されたとみられる。	1938	1938	0
420	2822	西岡本1丁目遺跡	西岡本遺跡全体は旧石器時代～近代の複合遺跡(集落跡・墓域など)で、古墳時代中期～後期(5～7世紀)の群集墳が特筆される。今回の調査では①中世(16世紀)以降?の水田層、②近世の溝跡が確認された。	1938	1938	0
425	2823	西ヶ原遺跡	①弥生時代後期末葉の竪穴住居跡、②古墳時代(MT15～TK43期:6世紀前半～7世紀前半)の竪穴住居跡31軒からなる集落跡が検出された。	150	265	116
470	2824	西郷古酒蔵群第4次・大石東遺跡	①奈良時代以降の河道、②中世の耕作土層、③近世(18世紀後半)の水路跡、④近世(18世紀末以降)～近代の酒造遺構などが検出された。	1751	1800	50
429	2825	袴狭遺跡	弥生時代の水田跡・土坑・溝跡、弥生時代中期後半～古墳時代の井堰、およびそれ以降の水田跡・集落跡などが検出された。奈良～平安時代は掘立柱建物跡や水田跡が継続的に見られ、但馬国府移転(804年)以前の国府が遺跡周辺にあったとみられる。中世には下坂地区で礎石建物が建立されている。	731	770	40
430	2825	袴狭遺跡	同上。	751	800	50

431	2825	袴狭遺跡	弥生時代の水田跡・土坑・溝跡、弥生時代中期後半～古墳時代の井堰、およびそれ以降の水田跡・集落跡などが検出された。奈良～平安時代は掘立柱建物跡や水田跡が継続的に見られ、但馬国府移転(804年)以前の国府が遺跡周辺にあったとみられる。中世には下坂地区で礎石建物が建立されている。	801	850	50
432	2825	袴狭遺跡	同上。	1801	1870	70
424	2826	東武庫遺跡	東武庫遺跡全体は弥生時代と古代を中心とした遺跡。今回の調査では、弥生時代前期前半～中期初めの方形周溝墓22基・土坑・溝が検出された。	1712	1712	0
437	2827	兵庫津遺跡浜崎地区・七宮地区	鎌倉時代～室町時代(13世紀前半～15世紀後半)の集落跡で、貿易拠点としての機能していた。中世の兵庫津が16世紀前半を境に急速に衰退したのち、江戸時代には石垣など護岸施設が築かれた。	1938	1938	0
469	2828	兵庫松本遺跡第2～4・12・17・19次	縄文時代～近世の複合遺跡で、弥生時代中期～後期に一時縮小したのち、弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めに最盛期を迎える。今回の調査では、①弥生時代前期後半の土坑やピット(集落かどうかは不明)、②弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め(庄内期～布留中段階)の集落跡・祭祀遺構、③平安～鎌倉時代の屋敷跡・集落跡などが検出され、これ以降も耕作地として利用されたとみられる。	150	330	181
464	2829	深江北町遺跡第9次	深江北町遺跡全体は弥生時代中期以降の集落跡・耕作地で、古墳時代後期に一旦途絶えるが、古代の「芦屋廃寺」創建期には集落が遷地し、奈良時代～平安時代前期には官衙関連施設もあったとされる。今回の調査では、①弥生時代後期末葉～古墳時代前期の遺物、②奈良時代前半～平安時代前期(10世紀前半ごろ)の古代山陽道駅家と関連するとされる建物跡とこれに付随する集落跡、③平安時代後期の集落跡(掘立柱建物跡など)が検出された。奈良時代後半に最盛期が認められ、平安時代後期以降の集落は高い場所へ移動していったものと考えられる。	470	630	161
433	2830	丸塚遺跡	①弥生時代後期の集落跡と、弥生時代後期末葉～古墳時代前期初め(庄内期主体?)の水田跡、②平安時代末期～鎌倉時代初め(12世紀末～13世紀初め)の掘立柱建物群。	150	265	116
462	2831	御蔵遺跡	御蔵遺跡全体では縄文時代晩期～中世の各時代にわたる複合遺跡で、弥生時代後期末葉と飛鳥時代に集落形成の画期があり、その間の古墳時代には遺構・遺物が少ない。今回の調査では、①弥生時代後期末葉(庄内期)～古墳時代前期初めの土器溜まり・土坑・溝跡、②飛鳥時代(7世紀前半～)の集落跡、③奈良時代後半～平安時代前半の官衙関連の可能性のある多数の掘立柱建物跡、④平安時代後期～中世(11世紀末～12世紀)の条里制集落跡などが検出された。	190	265	76
463	2831	御蔵遺跡	同上。	190	330	161
440	2832	溝之口遺跡	古墳時代前期～鎌倉時代を中心とした集落遺跡。①弥生時代中期の溝跡、②古墳時代前期・中期・後期の竪穴住居跡・溝跡と古墳時代後期の掘立柱建物跡、③平安～鎌倉時代の掘立柱建物跡・溝跡、④近世の溝跡などが検出された。	1231	1270	40
449	2833	宮内堀脇遺跡	弥生時代後期～江戸時代末期の遺構面が検出された。弥生時代後期、古墳時代前期～鎌倉時代の各時代にわたる水田跡や、奈良～平安時代前期(律令期)の祭祀遺物が見つまっているが、主な遺構は但馬国守護山名氏に関連した武家屋敷以降であり、15世紀末～16世紀末の100年間に形成されている。近世以降は畠・水田として利用されていたとみられる。	1800	1870	71
450	2833	宮内堀脇遺跡	同上。	1596	1615	20
451	2833	宮内堀脇遺跡	同上。	1596	1615	20
452	2833	宮内堀脇遺跡	同上。	1700	1870	171
475	2834	本山中野遺跡第3次	本山中野遺跡全体は縄文時代晩期以降の複合遺跡。今回の調査では3面の遺構面を確認した。第3遺構面は古墳時代後期から飛鳥時代の水田?後背湿地が陸地化し、水道敷設や土留めを行い、開発が始まることを確認した。第2遺構面は飛鳥～奈良時代の水田で、これを覆う洪水砂から奈良時代の瓦が出土し、調査地の北に瓦葺き建物の存在することが推定された。第1遺構面は奈良時代末期から平安時代の居宅。10世紀前半に焼失する大型の掘立柱建物があり、この屋敷の主がこの地域を統率するクラスの人物であったと推測できる。	700	800	101
428	2835	山本北垣内遺跡	①弥生土器や古墳時代中期～後期初めの埴輪も出土しているが、同時期の遺構は確認されていない。②奈良時代は集落跡で、掘立柱建物跡や大溝跡を伴い、遺跡の中心となる。大溝は行基が築いた「昆陽上溝」と推定される。③鎌倉時代の土坑墓、④近世の溝跡・井戸状石組も検出された。	740	780	41
439	2836	横田遺跡	①弥生時代後期末葉の大規模な集落跡。庄内期を含む弥生土器が多量に出土する一方、布留期の土器は極めて少ない。②古墳時代後期の柱穴。③奈良時代～平安時代前半(8～10世紀)の掘立柱建物跡群。郡衙施設と関連している可能性もある。④平安時代末期～鎌倉時代(12～13世紀)の集落跡・木棺墓など。⑤室町時代の遺構は少なく、調査地周辺は集落の中心領域から外れていたとみられる。	1101	1300	200
492	2837	六条遺跡第18地点	六条遺跡全体は弥生時代前期～近世の複合遺跡で、12世紀ごろに最盛期を迎える。今回の調査では、古代末期～中世(11世紀末～12世紀末)の堤状遺構・井戸跡・墨書土器、近世以降の水田面などが検出された。	1151	1200	50
495	2837	六条遺跡第13地点	六条遺跡全体は弥生時代前期～近世の複合遺跡で、12世紀ごろに最盛期を迎える。今回の調査では、①11世紀後半～12世紀、②13世紀、という2面の遺構面が検出され、ともに耕作痕跡が確認された。また、11～12世紀ごろには現在と同じ方向に土地割りが行われていたと推定される。	1101	1200	100
458	2838	若松町遺跡	①弥生時代後期の水田跡・集落跡、洪水により埋没。②弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めの畠跡。③古墳時代後期の集落跡・畠跡。④奈良～平安時代の水田跡。	50	150	101
459	2838	若松町遺跡	①弥生時代後期の水田跡・集落跡、洪水により埋没。②弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めの畠跡。③古墳時代後期の集落跡・畠跡。④奈良～平安時代の水田跡。	120	265	146
483	2839	若宮遺跡第10-1地点	縄文時代晩期～近代の集落跡などを伴う複合遺跡。①縄文時代晩期に突帯文土器の出土が増加し、②弥生時代前期～中期初めの竪穴住居が構築される。③弥生時代中期中葉～後期前半には断絶がある。④弥生時代後期末葉には遺跡が弥生時代の中での最盛期を迎え、⑤古墳時代(6世紀初めまで)には墓域となる。⑥古代～中世前半(8～13世紀)の出土遺構・遺物は少ない。⑦中世後期以降は耕地開発が進み、近世も耕地として利用され続ける。	1860	1950	91
484	2839	若宮遺跡第10-1地点	同上。	1401	1600	200

485	2839	若宮遺跡第10-2地点	縄文時代晩期～近代の集落跡などを伴う複合遺跡。①縄文時代晩期に突帯文土器の出土が増加し、②弥生時代前期～中期初めの竪穴住居が構築される。③弥生時代中期中葉～後期前半には断絶がある。④弥生時代後期末葉には遺跡が弥生時代の中での最盛期を迎え、⑤古墳時代(6世紀初めまで)には墓域となる。⑥古代～中世前半(8～13世紀)の出土遺構・遺物は少ない。⑦中世後期以降は耕地開発が進み、近世も耕地として利用され続ける。	1401	1600	200
486	2839	若宮遺跡第16-3地点	同上。	1501	1600	100
487	2839	若宮遺跡第34地点	同上。	1501	1600	100
488	2839	若宮遺跡	縄文時代晩期～近代の集落跡などを伴う複合遺跡。①縄文時代晩期に突帯文土器の出土が増加し、②弥生時代前期～中期初めの竪穴住居が構築される。③弥生時代中期中葉～後期前半には断絶がある。④弥生時代後期末葉には遺跡が弥生時代の中での最盛期を迎え、⑤古墳時代(6世紀初めまで)には墓域となる。⑥古代～中世前半(8～13世紀)の出土遺構・遺物は少ない。⑦中世後期以降は耕地開発が進み、近世も耕地として利用され続ける。	1871	1930	60
499	2901	大野南池遺跡	中世以降の耕作溝が検出されたが、他に明瞭な遺構はない。中世～現代は大きな景観の変化はなかったとされる。	1201	1300	100
926	2902	鴨都波遺跡第22次	鴨都波遺跡全体は弥生時代中期以降の複合遺跡で、式内社、鴨都波神社を中心として分布するとされる。今回の調査では、弥生時代中期～後期と古墳時代の遺物、11世紀の溝跡などが検出された。	501	550	50
511	2903	下永東城遺跡	①弥生時代中期～後期の方形周溝墓・土坑・溝跡、②古墳時代前期の集落跡(掘立柱建物跡・溝跡など)、③古墳時代後期の溝跡、④奈良～平安時代の土坑・井戸・溝跡、⑤中世以降の溝跡など。遺物については古墳時代後期～平安時代に大きな断絶がなく、連続とした時期変化が確認できた。	370	530	161
924	2904	シロカイト遺跡	①縄文時代後期の土坑、②12世紀代の集落跡、③中世前期の石敷遺構が検出された。	1101	1200	100
500	2905	十六面・薬王寺遺跡第25次	十六面・薬王寺遺跡全体は弥生時代の河道、古墳時代の方形周溝墓・溝跡、古墳～奈良時代の水田跡、中世～近世の集落跡・居館跡などからなる。今回の調査では中世以前と近世の水田跡が確認された。	1131	1170	40
498	2906	東大寺旧境内第122次	奈良時代に建立された寺院。今回の調査では、室町～江戸時代の溝跡が確認された。古代の状況は確認できなかった。	1180	1350	171
693	2907	南郷遺跡群(南郷角田遺跡)	南郷遺跡群全体では古墳時代中期～後期の遺構・遺物が最も顕著。南郷角田遺跡では、①古墳時代中期の工房跡、②古墳時代中期～後期の集落跡、③中世の石垣などが検出された。	565	700	136
510	2908	西坊城遺跡第2次・第3次	古墳時代中期～後期の集落跡・水田跡。弥生時代中期の土器、古墳時代前期の古式土師器(布留3～4式)、韓式土器なども検出された。	501	600	100
497	2909	箸尾遺跡第14次	平安時代(10世紀?)以降、現代まで続く、条里地割にもとづいた水田跡。	1950	2000	51
502	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	同上。	1231	1270	40
503	2909	箸尾遺跡第5次～第33次	同上。	1351	1400	50
504	2909	箸尾遺跡第7次	同上。	1600	1700	101
505	2909	箸尾遺跡第7次	同上。	1151	1200	50
506	2909	箸尾遺跡第14次	同上。	1950	2000	51
507	2909	箸尾遺跡第14次	同上。	1601	1630	30
508	2909	箸尾遺跡第14次	同上。	1351	1400	50
509	2909	箸尾遺跡第16次	同上。	971	1030	60
513	2910	布留遺跡	旧石器時代以降、各時代にわたる複合遺跡。特に弥生時代後期末葉～古墳時代前期には奈良盆地の拠点集落として機能し、「布留式土器」の名親として知られている。今回の調査では、弥生時代～古代の自然流路と、玉類など祭祀器具などが検出された。	370	530	161
512	2911	平城京朱雀大路・下ツ道	平城京跡全体は弥生時代以降の集落跡、奈良時代以降の都城跡などからなる複合遺跡。今回の調査では、①弥生時代後期の土坑、②古墳時代の流路、③平城京のうち朱雀大路東・西側溝、三条大路北側溝、下ツ道東・西側溝を検出した。	580	600	21
925	2912	南国栖遺跡	今回の調査地はすべて、伊勢湾台風などの大洪水による堆積砂層で覆われており、岩盤層の上には新しい堆積物のみが存在する。遺構は検出されなかった。遺物は、無文土器、突帯文土器、中世土器が砂層から検出された。	1959	1959	0
501	2913	能峠中島遺跡	能峠中島遺跡全体は、奈良市東部の河川上流域の谷筋に立地する、縄文時代後期～中世の複合遺跡とされる。今回の調査では、①弥生時代後期(大和VI-2～3期で庄内期は含まない)の竪穴住居跡2・掘立柱建物跡2、②古墳時代前期(布留2期)の竪穴住居跡1が見つかった。	501	550	50
923	3001	田井・西川遺跡	縄文時代後期末の集落。他に中世・近世の土坑などが検出された。	1953	1953	0
514	3002	鳴神V遺跡	①古墳時代前期の水田跡、②古墳時代前期～中期の方形区画墓6基、③古墳時代後期の遺物を大量に伴う溝跡、④平安時代の溝跡、⑤鎌倉時代の溝跡・河道・石組井戸5基、⑥江戸時代の河道・溝跡などが検出された。	1180	1350	171
922	3003	野田地区遺跡	遺跡は沖積地から河岸段丘にかけての範囲にわたる。①弥生時代中期の土器、②弥生時代後期の竪穴住居跡、③古墳時代の高床式建物、④奈良～室町時代の溝跡などが検出された。古代～中世は祭祀遺跡としても機能した。	1953	1953	0
515	3101	青谷上寺地遺跡第7次(G調査区)	汽水域も含む低湿地に立地する、縄文時代以降の集落跡・水田跡などからなる複合遺跡。弥生時代前期～古墳時代前期は地域の拠点集落だったとみられている。	1860	2000	141
519	3102	坪田遺跡	①古墳時代中期～平安時代の水田跡・河道。②中世の道路状遺構・水田跡。道路状遺構は名和長年の墓所「長高庵」への通路である可能性もある。③近世～明治時代の長綱寺参道跡・石垣。	1301	1400	100
520	3102	坪田遺跡	同上。	1301	1400	100

518	3103	目久美遺跡第15次	目久美遺跡全体は縄文時代前期～近世の集落跡・水田跡などからなる。今回の調査では、①縄文時代前期の土坑状の遺構、②弥生時代中期後半の水田跡、③弥生時代後期初めに掘削された水路跡が検出された。水路埋没後の遺跡は、古墳時代前期まで水田・水路の構築がなく、放棄されたままであったとみられる。	1	140	140
517	3104	米子城跡第29次	米子城跡は縄文時代以降、各時代の複合遺跡。米子城は16世紀末に吉川広家によって築かれたとされる。今回の調査区は、米子城の中でも旧加茂川河口の米子湊に位置し、1858年に設置された為替蔵に伴う船入遺構と祖の東岸に位置する堤防状遺構が検出された。	1751	1850	100
531	3201	出雲大社境内遺跡	縄文時代晩期以降の各時代における複合遺跡。弥生時代後期になると遺物量が飛躍的に増加し、古墳時代前期から遺構が認められるようになる。古墳時代中期～後期には一旦衰える。飛鳥～奈良時代(7～8世紀)になると、文献史料から社殿建造物などが築かれた可能性が高いとされるが、明確な遺構は確認されていない。平安時代もこれに準ずる。鎌倉時代には掘立柱建物跡数棟が確認され、14～16世紀には出雲大社本殿に伴う遺構が認められ、現代に至る。	1648	1648	0
532	3201	出雲大社境内遺跡	同上。	1501	1700	200
524	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	山持遺跡全体は弥生時代～近世の複合遺跡。Ⅱ・Ⅲ区では、①弥生時代中期末葉～後期の自然河道から朝鮮系無文土器を含む多数の遺物が出土したこと、②奈良時代の畠状遺構、③鎌倉時代の卒塔婆が多数出土したこと、④室町～江戸時代の水田が3面検出されたことが特筆される。古墳時代前期～中期(3～5世紀)の遺構・遺物は確認されず、居住に適さない湿地となっていたとみられる。	1702	1702	0
525	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	同上。	1601	1650	50
526	3202	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	同上。	700	800	101
533	3203	島根大学構内遺跡橋本地区	島根大学構内遺跡全体は縄文時代～古代を中心とした複合遺跡で、縄文時代については海面変動や植生について重要な情報を提供している。今回の調査では、弥生土器、古墳時代の須恵器、中世の墨書土器などが検出された。	551	600	50
527	3204	タテチョウ遺跡	タテチョウ遺跡全体では縄文時代～近世の遺物が見つまっている。今回の調査でも縄文時代後期以降の遺物が検出された。遺物は流されて砂礫層中に堆積したものであり、遺構はない。	801	900	100
523	3205	中野清水遺跡	中野清水遺跡全体は弥生時代中期～近世の複合遺跡。弥生時代中期後葉～古墳時代前期初め(とくに弥生時代後期後葉～古墳時代前期前半)は石製品製作・鉄器生産などが行われる出雲平野の拠点集落だったとみられている。奈良～平安時代にも金属器生産の場として機能した。中世以降は主として耕作地として利用された。今回の調査結果もおおむねこれを追認する。	1600	1700	101
522	3206	原の前遺跡	古墳時代前期～平安時代後期の河道。古墳時代前期(4世紀ごろ)の石組護岸遺構・杭列・祭祀遺物が特筆される。	580	600	21
521	3207	本庄川流域条里遺跡	①古墳時代中期の集落跡、②奈良時代の条里制集落跡、③中世以降の道路跡が確認された。	370	530	161
528	3208	横路遺跡土器土地区	平安時代末期～鎌倉時代(11世紀後半～13世紀前半)の集落跡で、遺物の主体は11世紀後半～12世紀。	801	850	50
529	3208	横路遺跡土器土地区	同上。	1271	1330	60
530	3208	横路遺跡土器土地区	同上。	1701	1800	100
539	3301	足守川加茂A遺跡	弥生時代後期前半～古墳時代後期の集落跡で、集落として本格的に利用されていたのは弥生時代後期後半で、古墳時代前期初め～前半に遺構がピークに達する。その後、亀川上層期の大洪水によって集落が廃絶し、古墳時代後半以降は主に水田として利用された。	260	330	71
540	3302	足守川矢部南向遺跡	弥生時代中期～中世の集落跡。①弥生時代後期には堅穴住居跡46棟などが検出された。②古墳時代前半の堅穴住居は下田所併行期まで継続する。③古代の建物跡(立てな住居跡・掘立柱建物跡)は6世紀末～7世紀のもの?④中世(16世紀後半ごろ)の溝群が検出された。	120	265	146
564	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	①弥生時代の土坑・粘土探掘坑・溝跡・水田跡、②古墳時代の土師器・須恵器、③中世～明治時代の井戸跡・柵列・鍛冶関連遺構・外堀など検出された。弥生時代後期の粘土探掘坑、17世紀の城下町での鍛冶関連遺構・遺物が特筆される。	150	265	116
565	3303	天瀬遺跡・岡山城外堀跡	同上。	1651	1700	50
588	3304	岡山城跡本丸下の段	16世紀末葉に築かれた城郭。1620年代までは城郭の構造が目まぐるしく変化した。	1571	1630	60
589	3304	岡山城三曲輪跡	16世紀末葉に築かれた城郭。①明治時代に埋められた三之曲輪内の内堀石垣を江戸時代の絵図と一致する位置で検出したこと、②三之曲輪内で16世紀末～17世紀前半を中心とした屋敷地関連の遺構が検出されたこと、③膨大な量の陶磁器が検出されたことが特筆される。	1720	1912	193
591	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	①弥生～古墳時代の溝状遺構・粘土探掘坑、②古墳～平安時代の水田層群、③中世の水田耕土、④近世の岡山藩藩学跡。主体は1669年に開学した岡山藩藩学跡で、19世紀まで継続。	1892	1892	0
592	3304	岡山城三之外曲輪跡・旧岡山藩藩学跡	同上。	1893	1893	0
597	3304	岡山城二の丸跡	①中世(14世紀前半)の墳墓、②16世紀末葉に築かれた城郭跡。	1654	1654	0
556	3305	北方地蔵遺跡	①弥生時代前期の水田跡、②弥生時代中期～後期の溝跡・たわみ状遺構、③弥生時代後期後半の水田跡、④古墳～鎌倉時代の溝跡などが検出された。	150	265	116
574	3306	久田原遺跡	①縄文時代後期中葉～晩期の集落跡(後期は遺物のみ)、②弥生時代中期の集落跡・水田跡、③古墳時代中期～後期の集落跡・古墳群、④古代(7～8世紀、とくに8世紀)の集落跡・墓跡・鍛冶関連遺構、⑤中世(13～14世紀)の集落跡・墓跡・鍛冶関連遺構。16世紀以降は集落が放棄され、耕地化したとされる。	150	330	181

575	3307	久田堀ノ内遺跡	縄文時代後期～近世の継続的な遺跡であるが、古墳時代～古代は遺構・遺物とも少ない。久田原遺跡に南接。①縄文時代後期～晩期の土器・石器・火処群・土器溜まり、②弥生時代中後葉の集落跡・水田跡、③古墳時代前期の竪穴住居跡1、④古墳時代後期の土壌墓1、⑤古代末期～中世初めの経塚、⑥中世(とくに戦国時代)の屋敷跡、⑦江戸時代の屋敷跡・墓。	190	330	141
571	3308	郷ノ溝遺跡	①弥生時代前期の土器、②弥生時代後期～古墳時代の溝跡、③古墳時代後期(6世紀後半)の竪穴住居跡、④古代～中世の溝跡・柱穴。	951	1050	100
585	3309	国長遺跡	13世紀を中心とした集落跡。近世は畑、近世後半は水田として利用されていた。	1600	1750	151
596	3310	鹿田遺跡第7次	鹿田遺跡全体は弥生時代以降、各時代の集落跡・水田跡など。今回の調査では、①古墳時代前期初めの集落跡、②古代末期の集落跡、③中世前半(14世紀)の屋敷跡などが検出された。	1860	1950	91
586	3311	上東中嶋遺跡	上東中嶋遺跡は微高地の縁辺部から低位部にかけて位置する。微高地からは縄文時代晩期末の土器やサヌカイト石器、剥片が多く出土し、周辺に集落の存在が推定される。弥生時代には後期後葉の土器棺や土坑が検出され、集落縁辺部に相当すると考えられた。中世には柱穴列や井戸などが見つかり、微高地に存在の存在が想定できる。なお、低位部は古代まで利用することなく、中世以降に排作地として利用するようになった。低位部を耕作地として利用する段階には、微高地の端部に溝を掘削しており、耕作地の形成と溝掘削との関わりが考えられる。溝は現代の用水路に平行し、中・近世耕作痕は現代水田の畦や用水路に平行していた。これらのことから、遺跡周辺で認められた現代の景観は、中世段階に形成されたと推測された。	1801	1850	50
550	3312	田益新田遺跡	弥生時代前期～中世の遺構と、縄文時代後期～中世の遺物が検出された。調査区の3分の1は河道。弥生時代後期末葉～古墳時代前半には集落が営まれていたとみられる。	190	330	141
558	3313	段林遺跡・段林古墳	段林遺跡は急斜面から低地に立地する。①弥生時代後期(弥生時代後期Ⅲ期)の集落跡、②6世紀第4四半期～7世紀第1四半期の古墳が検出された。	1950	2000	51
577	3314	津島遺跡	弥生時代前期以降、各時代にわたる集落跡・水田跡など。明確に集落跡が確認されているのは弥生時代中期からで、弥生時代後期末葉に大規模な洪水を受けるものの、近代まで継続。今回の調査でも弥生時代中期～後期、古墳時代の集落跡や水田跡、中世の溝などが検出された。	150	265	116
594	3315	津島岡大遺跡第6次	津島岡大遺跡全体は縄文時代～近世の集落跡・水田跡などで構成される。今回の調査では、①縄文時代後期の貯蔵穴13、②弥生時代前期の水田跡、③平安時代後期の条里坪境の溝跡・水田跡、④中世の水田跡などが検出された。	1601	1700	100
595	3315	津島岡大遺跡第9次	津島岡大遺跡全体は縄文時代～近世の集落跡・水田跡などで構成される。今回の調査では、①縄文時代後期の貯蔵穴群、②弥生時代早期(突帯文期)～前期の溝跡、③古墳時代前半・後半の水田跡・溝跡、④古代の条里地割に伴う溝跡などが検出された。また、10世紀後半～11世紀初めの土器編年を確立した。	951	1030	80
544	3316	津寺遺跡	津寺遺跡全体は弥生時代～近世の大規模な集落跡。今回の調査でも、弥生時代中期～近世の各時代における遺構・遺物が確認された。	1892	1892	0
545	3316	津寺遺跡	同上。	1893	1893	0
546	3316	津寺遺跡	同上。	1601	1700	100
553	3316	津寺遺跡	津寺遺跡全体は弥生時代～近世の大規模な集落跡。今回の調査でも、弥生時代中期～近世の各時代における遺構・遺物が確認され、①古墳時代における多量の非在地系土器と古墳時代後期の鍛冶集落、②古代(8～10世紀)の大形建物と多量の官衙関連遺物などが特筆される。	300	390	91
554	3316	津寺遺跡	同上。	350	430	81
557	3316	津寺遺跡	同上。	300	390	91
560	3316	津寺遺跡	津寺遺跡全体は弥生時代～近世の大規模な集落跡。今回の調査では、①古墳時代前期の水田跡、②中世の堀を巡らす集落跡などが特筆される。	300	390	91
584	3317	中島遺跡	鎌倉(13世紀前半)に突如出現した集落。16世紀後半には居館が築かれ、江戸時代になると大規模な独立柱建物跡群からなる屋敷が築かれた。江戸時代の集落は耕作地と集落に分かれていたとみられ、寺堂も存在していた可能性がある。	1331	1500	170
576	3318	中撫川遺跡4区	中撫川遺跡全体は弥生時代以降の複合遺跡で、今回の調査結果もこれを追認する。今回の調査では、調査区の東半を横断している溝群が中撫川1区から続いて延長300m以上にわたることが判明し、弥生時代後期～奈良時代に同じ場所でも何度も掘りなおされ流れ継続していることから、この地域における基幹水路であることが確認された。	320	430	111
555	3319	服部遺跡	①弥生時代中期末葉～古墳時代前期初めの粘土探掘坑群、②中世～近世の溝跡・土坑などが検出された。	1180	1260	81
593	3320	備前原遺跡	縄文時代～中世の複合遺跡で、弥生時代前期以降の水田跡が主体。	150	265	116
534	3321	百間川沢田遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①縄文時代晩期後半の土器群(沢田式土器)、②弥生時代前期の環濠集落跡・墓域・水田跡、③弥生時代中期～後期の水田跡、④古墳時代の集落跡、⑤古代以降の溝跡などが検出されたが、古代～中世の遺構は少ない。	190	228	39
535	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代前期～後期初めの溝跡・水田跡、②弥生時代後期中葉～末葉の集落跡・土器棺墓、③古墳時代前期・中期・後期の集落跡、④中世(主として13世紀)の集落跡などが検出された。	190	228	39
536	3321	百間川原尾島遺跡	同上。	190	228	39
537	3321	百間川原尾島遺跡	同上。	190	228	39
541	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①縄文時代～弥生時代中期の土坑・溝跡、②弥生時代後期の集落跡、③古墳時代各時代の集落跡、④中世の屋敷跡などが検出された。	190	228	39
542	3321	百間川原尾島遺跡	同上。	190	228	39
543	3321	百間川原尾島遺跡	同上。	190	228	39

547	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①縄文時代後期の土器溜まり、②弥生時代前期～中期の集落跡、③弥生時代後期の大規模集落跡・製塩炉・水田跡、④古墳時代各期の集落跡・大溝跡、⑤奈良～平安時代の大溝跡・律令的祭祀の痕跡、⑥鎌倉時代の土壌墓、⑦室町時代の屋敷地を区画した集落跡が検出された。	190	228	39
548	3321	百間川原尾島遺跡	同上。	190	228	39
549	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①縄文時代後期の土器溜まり、②弥生時代前期～中期の集落跡、③弥生時代後期の大規模集落跡・製塩炉・水田跡、④古墳時代各期の集落跡・大溝跡、⑤奈良～平安時代の大溝跡・律令的祭祀の痕跡、⑥鎌倉時代の土壌墓、⑦室町時代の屋敷地を区画した集落跡が検出された。	1501	1600	100
551	3321	百間川兼基遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代後期～古墳時代前期初めの集落跡・水田跡、②奈良時代の大溝跡、③中世以降の大溝跡などが検出された。	190	228	39
552	3321	百間川兼基遺跡	同上。	190	228	39
559	3321	原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代の水田跡、②古墳時代(とくに中期末～後期)の集落跡・臼玉製作資料・製鉄関連遺物、③古代(8世紀後半)の備前国府に関連するとみられる建物跡、④中世の井戸などが検出された。	190	228	39
561	3321	原尾島遺跡(百間川以東)	原尾島遺跡は百間川に隣接する弥生時代前期以降の水田跡・集落跡。今回の調査では、①弥生時代前期の水田跡、②弥生時代後期の水田跡とこれを覆う洪水砂、③古墳時代～現代の水田跡などが確認された。	190	228	39
562	3321	沢田遺跡	沢田遺跡は百間川に隣接する弥生時代前期以降の水田跡・集落跡。今回の調査では、①弥生時代の溝跡、②古墳時代前期・後期の溝跡、③古代の溝跡と包含層、④中世の包含層、⑤近世以降の洪水砂などが検出された。	190	228	39
563	3321	沢田遺跡	同上。	1050	1200	151
566	3321	百間川米田遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①縄文時代晩期の貯蔵穴、②弥生～古墳時代(とくに弥生時代後期～古墳時代前期初め)の集落跡、③奈良時代の道路跡、④平安時代の堤防・埋立遺構、⑤中世の橋梁跡などがあり、橋梁は13世紀前半～17世紀に長期間維持され、主要道であった可能性もある。	1231	1270	40
567	3321	百間川米田遺跡	同上。	971	1030	60
568	3321	百間川米田遺跡	同上。	971	1030	60
569	3321	百間川米田遺跡	同上。	1654	1654	0
570	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代の集落跡・水田跡、②古墳時代の集落跡、③古代の溝跡、④中世の掘立柱建物跡・道などが検出された。古代～中世の遺構は主として11世紀後半～16世紀前半のもの。	190	228	39
578	3321	百間川兼基遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代中期(百間川・弥生時代中期Ⅱ～Ⅲ期)の集落跡が検出され、弥生時代後期初めの断絶期間を挟んで、②弥生時代後期(百・後・Ⅱ期)の集落跡、④古墳時代中期の集落跡、⑤古代(11世紀?)以降の水田跡が検出された。古墳時代の遺構は少ない。	190	228	39
579	3321	百間川沢田遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代中期の環濠集落跡・墓域・水田跡、②古墳時代前期の集落跡、③7世紀中葉～8世紀の溝跡・条里関連遺構などが検出された。	190	228	39
580	3321	百間川原尾島遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代中期以前の水田跡、②弥生時代後期の集落跡・水田跡、③古墳時代前期～後期の集落跡、④平安～鎌倉時代の集落跡・土壌墓、⑤江戸時代の土取り遺構などが検出された。	190	228	39
581	3321	百間川二の荒手遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、江戸時代の堤防跡とその補修状況が確認された。	1934	1934	0
582	3321	百間川今谷遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、①弥生時代前期の水田跡、②弥生時代中期の掘立柱建物跡を伴う集落跡・水田跡、③古墳時代前期の集落跡、④古代以降の溝跡・土坑が検出された。	190	228	39
583	3321	百間川今谷遺跡	同上。	190	228	39
587	3321	百間川沢田(市道)遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、弥生時代前期・中期・後期の集落跡が検出された。弥生時代中期後半・後期後半に断絶がある。古代～中世のピットも少数検出された。	190	228	39
590	3321	百間川沢田遺跡	百間川遺跡群は縄文時代以降の複合遺跡で、弥生時代中期～後期は岡山平野を代表する水田集落として機能。今回の調査では、弥生時代後期の水田跡と島状の高まりが確認された。	190	228	39
572	3322	仏生田遺跡	弥生時代～中世の各時代について遺構が確認された。北の1区で弥生時代中期～後期の溝群、南の5区では古墳時代の溝跡、古代(10世紀後半以前)の水田跡、中世の土坑・水田跡などが確認された。	1892	1892	0
573	3322	仏生田遺跡	同上。	1893	1893	0
538	3323	三手遺跡	①古墳時代(5世紀後半)の集落跡、②古代末期～近世の水田跡、③中世の墓群が検出された。	1868	2000	133
928	3401	広島城跡上八丁堀地点	広島城の中堀・武家屋敷の調査。戦国時代(毛利期)～近代(軍施設)にわたる4面の整地層が確認された。	1868	1912	46
599	3501	下右田遺跡神里地区	古代末期～中世初めの集落跡。12～13世紀の掘立柱建物、幅約4mの溝状遺構などが検出された。	1171	1250	80
600	3502	神郷大塚遺跡第8次	①7世紀中頃の竈を伴った竪穴住居跡、②13～14世紀の溝を伴った掘立柱建物跡、③中世の埋葬跡などが検出された。	601	700	100

601	3503	延行条里遺跡砂子多地区	①縄文～室町時代の集落跡, ②室町～江戸時代の水田跡。縄文時代晩期の遺物包含層・土坑, 弥生時代前期の溝(環壕?), 平安時代後期～室町時代前期の溝で区画された屋敷地が特筆される。	1801	1900	100
602	3503	延行条里遺跡砂子多地区	同上。	1501	1700	200
611	3701	一角遺跡第1次・第2次	①弥生時代後期後半の河道・竪穴住居跡(試掘時), ②古代の水田跡, ③幕末～明治初期の溝跡, ④明治～昭和19年の溝跡が検出された。	1801	1930	130
606	3702	川津東山田遺跡I区	川津東山田遺跡I区(今回の調査)では, ①弥生時代後期後半～末葉の集落跡, ②奈良時代の集落跡, ③平安時代の集落跡, ④中世の集落跡などが検出された。II区からは旧石器～江戸時代の遺物と, 古墳時代(7世紀前半)の集落跡, 奈良～鎌倉時代の溝跡・河川跡が検出された。	1201	1300	100
609	3703	川南・西遺跡	中世後半～近世前半の集落跡・耕作地。遺物の大半は17世紀後半までのもの。	1912	1912	0
610	3703	川南・西遺跡	同上。	1866	1866	0
607	3704	北内遺跡	①弥生時代中期の集落跡・土壙墓, ②弥生時代後期の水田跡, ③中世の掘立柱建物跡・溝状遺構などが検出された。	150	265	116
608	3705	弘福寺領山田郡田図比定地ほか	周辺は古代南海道・条里地割りがあったとされる。今回の調査では, ①弥生時代の畦畔遺構, ②古代の道路遺構(南海道かどうかは不明), ③中世の溝状遺構, ④近世の畦畔遺構・社寺参道跡などが検出された。	1950	2000	51
604	3706	金毘羅山遺跡	①縄文時代早期～晩期の土器, ②弥生時代中期の溝跡・川跡, ③弥生時代後期の集落跡(竪穴住居跡など), ④古墳時代前期の土坑, ⑤古墳時代後期～終末期の集落跡(竪穴住居跡・掘立柱建物跡など), ⑥中世の集落跡(掘立柱建物跡など), ⑦近世以降の土坑・砂糖竈・井戸などが検出された。	571	600	30
605	3706	金毘羅山遺跡	同上。	1270	1350	81
603	3707	龍川五条遺跡	弥生時代前期前半～近世の各時代にわたる集落跡。①弥生時代前期の二重環濠集落跡, ②古墳時代後半の方形椀付田下駄部材が特筆される。	1301	1400	100
612	3708	農学部遺跡	①弥生時代前期末の大溝1条, ②古墳時代の足跡, ③奈良～平安時代の条里制?水田跡などが検出された。	1180	1350	171
619	3801	岩崎遺跡	①弥生時代前期末葉～後期の断続的な集落跡, ②古墳時代後期の溝跡・土坑・自然流路, ③古代の集落跡(10世紀の掘立柱建物跡), ④中世(12～15世紀)の集落跡・水田跡, ⑤近世(18世紀)の溝跡。	1101	1300	200
620	3802	大淵遺跡第3次	①古墳時代前期初め(庄内4～布留1期)の集落跡, ②古墳時代後期(6世紀後半)の集落跡, ③中世(15～16世紀)の水田跡。	1600	1700	101
621	3802	大淵遺跡第3次	同上。	701	900	200
622	3802	大淵遺跡第3次	同上。	230	320	91
613	3803	県民館跡地	①鎌倉時代初め～室町時代の耕作痕跡, ②江戸時代各期の武家屋敷跡。	1201	1250	50
614	3803	県民館跡地	同上。	1501	1700	200
615	3804	古照遺跡第6次	①縄文時代の土器が多量に出土。②弥生時代後期～古代の各期にわたる土器。③中世(13世紀)～近世の水田跡・畑跡・洪水砂と重層的に堆積。	1721	1721	0
616	3804	古照遺跡第6次	同上。	951	1000	50
618	3804	古照遺跡第7次	A地区では, ①平安時代後半(11世紀)の鋤跡状遺構, ②中世～近世の水田跡と洪水砂の重層的な堆積, ③中世(16世紀前半)の土壙墓などが確認された。B地区の遺構は13世紀が主体で, 掘立柱建物跡などが検出された。	1201	1400	200
905	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	縄文時代以降の各時代にわたる複合遺跡。弥生時代後期末葉～古墳時代中期の井堰を伴う集落跡・水田跡, 中世(12世紀ごろ)の集落跡, 近世の水田跡などが検出されている。	201	300	100
906	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	同上。	351	400	50
907	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	同上。	451	500	50
908	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	同上。	401	500	100
909	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	同上。	501	530	30
910	3804	古照遺跡(第1次～第11次調査総括)	同上。	951	1000	50
623	3805	樽味遺跡第4次	樽味遺跡全体は弥生時代～中世を中心とした遺跡。今回の調査では, 古代～中世の自然流路・溝跡・水路跡などが検出され, 調査区東方に10～12世紀の集落があった可能性がある。	1001	1200	200
617	3806	道後今市遺跡第9次	中世(13～14世紀)の耕作痕跡が検出された。	1150	1250	101
624	3807	文京遺跡第18次	文京遺跡全体は弥生時代～近世の集落跡・水田跡。今回の調査でも各時代の住居跡・水田跡が検出された。	1051	1100	50
625	3807	文京遺跡第18次	同上。	1101	1150	50
626	3807	文京遺跡第18次	同上。	1151	1200	50
627	3807	文京遺跡第18次	同上。	1201	1250	50
628	3807	文京遺跡第25次	文京遺跡全体は弥生時代～近世の集落跡・水田跡。今回の調査では, 古代～中世(11世紀後半～13世紀前半)の水田跡3面が検出され, 洪水による埋没と復旧が繰り返されていることが確認できた。	1101	1150	50
629	3807	文京遺跡第25次	同上。	1171	1200	30
630	3807	文京遺跡第25次	同上。	1201	1250	50
631	3901	不破遺跡	昭和初めの畝状地形を利用した耕作跡が検出された。近世以前の遺構はすでに削平されているとみられる。	1937	1941	5

遺跡一覧表A-3

632	3901	不破遺跡	昭和初めの畝状地形を利用した耕作跡が検出された。近世以前の遺構はすでに削平されているとみられる。	1942	1942	0
633	3901	不破遺跡	同上。	1946	1946	1
658	4001	碓遺跡第1次	①弥生時代後期初めの井戸跡、②古墳時代(5世紀中頃)の井戸跡、③中世～近世(とくに13～16世紀)の井戸跡などが検出された。	1860	2000	141
639	4002	井相田D遺跡第2次	①縄文時代の埋没林、②弥生時代後期?の池状遺構、③古墳時代の水田痕跡、④古代～中世(11世紀後半～13世紀)の水田跡などが検出された。	1	70	70
640	4002	井相田D遺跡第1次	①11世紀の遺物を伴う掘立柱建物跡と水田跡、②12世紀後半～13世紀前半の水田跡が検出された。	1001	1170	170
635	4003	岩本遺跡	①縄文時代の土器(第4面)、②弥生時代中期後半～後期初めの水田跡2面(第3・2面)、④中世(鎌倉時代の遺物を伴う)の集落跡(第1面)が検出された。	1	70	70
656	4004	小郡川原田遺跡	弥生時代後期後半～末の井堰・自然流路。	150	330	181
648	4005	金山遺跡V区	金山遺跡は弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めに最も遺構が顕著になる。V区でも、①弥生時代後期末葉～古墳時代前期初めの大規模水利施設(矢板列・杭列など)、②奈良時代～平安時代初めの溝跡が検出された。	150	330	181
644	4006	上広瀬遺跡第1次	旧石器時代～近世の遺構・遺物が確認された。①縄文時代早期・晩期の土坑、②古代～中世(とくに12世紀)の集落跡(掘立柱建物跡29など)。遺跡の主体は古代～中世で、13世紀初めの水害により、東丘陵上の峯遺跡に集落が移転したとされる。	1201	1230	30
645	4006	上広瀬遺跡第2次	旧石器時代～近世の遺構・遺物が確認された。今回の調査では、①旧石器時代の遺物、②縄文時代晩期(黒川式)の土坑2・落穴6、③中世(13世紀以前)の炭焼き窯・炭焼き住居跡が確認された。	1963	1963	0
652	4007	蒲生大群遺跡	13～16世紀の寺院周辺に付随する集落跡(掘立柱建物跡・土坑・井戸)。	1201	1400	200
653	4007	蒲生大群遺跡	同上。	1301	1400	100
651	4008	蒲生寺中遺跡	①古墳時代の墳墓、②古代(7世紀前半～9世紀)の鍛冶工房跡、③中世(12世紀～13世紀前半)の寺院跡・集落跡、④中世(14世紀)の礎石建物跡・土坑、⑤近世の溝跡などが検出された。	1450	1600	151
649	4009	黒崎遺跡	①6世紀後半～7世紀前半の須恵器・製塩土器、②平安時代後期(11世紀後半～12世紀前半)の井堰、③室町時代の溝1条、④江戸時代の礫集積遺構・溝1条などが検出された。中世以降は遺跡はめだって利用されないが、輸入陶磁器が少量出土すること、江戸時代にはすぐ東を長崎街道が通っていたことから、全くの寒村ではなかったようで、水田経営を基本とした風景が明治時代まで広がっていた。	601	700	100
637	4010	雀居遺跡第3次・第6次・第8次	縄文時代～近世の遺跡で、①弥生時代の集落跡、②古代(9～11世紀)の条里制集落跡が特筆される。縄文時代晩期(弥生時代早期)から集落や墓域として利用された。弥生時代後期には大型の掘立柱建物を中心に感動集落跡が形成され、集落そのものは古墳時代前期まで継続したのち途絶えた。古代(9～11世紀)には条里制の地割で水田・小集落が区画され、官道や官衙的な施設が近くにあった可能性が高い。中世以降は水田として利用された。	801	900	100
641	4010	雀居遺跡第12次	同上。	801	900	100
638	4011	下月隈C遺跡第2次	弥生時代～中世後半の遺跡で、弥生時代前期初め(板付I期)から、ほぼ各時代において集落や水田として利用され、水田に伴う堆積層と洪水による堆積層が重層的に検出されている。	700	800	101
642	4011	下月隈C遺跡第6次	同上。	801	900	100
643	4011	下月隈C遺跡第7次	同上。	751	800	50
636	4012	次郎丸高石遺跡第3次	①古墳時代後期～奈良時代(6世紀後半～8世紀前半)の溝跡、②11世紀ごろの整地痕跡、③13～15世紀ごろの溝跡、④15世紀ごろの集落跡など。	701	750	50
657	4013	大幸府条坊跡第230次	奈良～平安時代を中心とした大規模官衙跡。今回の調査では、①古墳時代後期～奈良時代前半の土坑(7世紀後半に整地により埋没)、②奈良～平安時代の条坊跡などが検出された。	700	800	101
650	4014	長野尾登遺跡第2地点E～H区	長野尾登遺跡全体は弥生時代前期後半～後期末葉、奈良～室町時代の集落跡。今回の調査では、次の①②が特筆される。①弥生時代中期末葉～後期の集落跡で、とくに弥生時代後期前葉は拠点集落として機能した。②室町時代の集落跡(掘立柱建物1・溝状遺構2・土坑5・集石遺構1)。	1301	1350	50
655	4014	長野尾登遺跡第2地点	長野尾登遺跡全体は弥生時代前期後半～後期末葉、奈良～室町時代の集落跡。今回の調査では、①弥生時代中期後半の墳墓群、②中世の集石墓(13～15世紀)・居館跡(14世紀)などが検出された。	1	140	140
654	4015	長野フンデ遺跡	長野フンデ遺跡全体は弥生時代の集落跡・水田跡。今回の調査では、弥生時代前期後半～中期後半の水田跡が検出され、弥生時代後期前半には洪水により水田が埋没したことが判明した。	1	140	140
647	4016	中伏遺跡Ⅱ区・Ⅳ区	①弥生時代の木器水漬貯蔵遺構を検出した。②弥生時代前期末葉～中期中葉の土器を多数検出した。③江戸時代後期の護岸小杭を検出した。	1720	1870	151
911	4017	東比恵三丁目遺跡第1次	弥生時代中期中葉～後期前半の水田が4面以上検出された。	1	140	140
646	4017	東比恵三丁目遺跡第2次	東比恵遺跡全体は、弥生時代中期～後期の水田跡と古代末期～中世の水田跡。今回の調査では12世紀初めの護岸跡、12世紀前半～中頃の水田が検出された。	1131	1200	70
634	4018	屋舗内遺跡	①奈良～平安時代(8～9世紀ごろ)の集落跡、②12～13世紀の溝跡・遺物包含層、③17世紀(とくに後半)ごろの溝状遺構。遺跡全体の最盛期は12世紀。	1601	1700	100
664	4101	快万遺跡1区・2区	中世前半を主体とした区画溝を伴う集落跡。	1801	1900	100
663	4102	蔵上遺跡	①縄文時代後期後半～晩期初めの集落跡、②古墳時代後期(6世紀後半～7世紀前半)の集落跡、③奈良時代の掘立柱建物跡・竪穴住居跡(官衙関連施設を伴う?)などからなる。	601	630	30
659	4103	坪の上遺跡	弥生時代、古墳時代、古代前期、中世の遺構・遺物が検出された。主体は弥生時代前期～後期。	190	330	141
660	4104	徳永遺跡21区	徳永遺跡全体は古墳時代～中世を中心とした複合遺跡。今回の調査では、①弥生～古墳時代の溝群、②古墳時代後期～古代(6～10世紀)の集落跡、③中世以降の集落跡などが検出された。主体は9世紀後半～10世紀初め。	601	650	50

662	4104	徳永遺跡13区・19区	徳永遺跡全体は古墳時代～中世を中心とした複合遺跡。今回の調査では、①古墳時代後期の溝跡、②古代後期の集落跡(掘立柱建物跡など)、③中世前期(遺物は13世紀～14世紀前半)の集落跡(掘立柱建物跡など)、④中世後期(15世紀が中心)の溝跡などが検出された。	551	700	150
912	4105	中原遺跡5区	弥生時代・古墳時代の集落跡・墳墓と、古代の官衙的な遺構からなる。1～7区では大宰府編年V～VI期(8世紀末葉～9世紀初め)にあたる時期の遺物が最も多く、遺跡の中心時期とされる。	800	840	41
913	4105	中原遺跡5区	弥生時代・古墳時代の集落跡・墳墓と、古代の官衙的な遺構からなる。1～7区では大宰府編年V～VI期(8世紀末葉～9世紀初め)にあたる時期の遺物が最も多く、遺跡の中心時期とされる。	800	840	41
914	4105	中原遺跡5区	同上。	780	830	51
661	4106	増田遺跡5区	増田遺跡群全体は縄文時代～近世の遺跡。今回の調査では、①縄文時代の落穴状遺構・集石遺構、②弥生時代中期前半を中心とした大規模墳墓群・集落跡、③古墳時代前期の方形周溝墓を中心とした大規模墳墓群・集落跡、④古墳時代後期の集落跡、④古代(平安時代前期～中期が主体)の土壇墓・井戸・溝跡・土坑、⑤中世の井戸・溝跡などが検出された。	1953	1953	0
666	4301	大江遺跡群第106次	大江遺跡群全体は縄文時代～近世の複合遺跡。第106次調査区では、①古墳時代後期～奈良時代(7世紀前半～8世紀前半)の竪穴住居跡、②古代の水田跡(9世紀後半ごろ)・畑跡(10世紀ごろ?)、③近世の溝跡などが検出された。	1926	1989	64
668	4302	黒髪町遺跡本荘北地区9601調査地点	熊本大学構内の黒髪町遺跡は縄文時代以降、各時代の複合遺跡。今回の調査では①縄文時代後期前葉の深鉢土器、②古代(8世紀後半～9世紀初め)の集落跡、③19世紀後半の墓地などが検出された。	1953	1953	0
669	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9603調査地点	熊本大学構内の黒髪町遺跡は縄文時代以降、各時代の複合遺跡。今回の調査では古代(7世紀後半～9世紀前半)の集落跡(掘立柱建物跡・竪穴住居跡など)が顕著な遺構である。	1953	1953	0
670	4302	黒髪町遺跡黒髪南地区9704調査地点	熊本大学構内の黒髪町遺跡は縄文時代以降、各時代の複合遺跡。今回の調査では①古代(7世紀末～9世紀)の集落跡(掘立柱建物跡・竪穴住居跡など)、②近世前半の墓、③近世の溝跡が顕著な遺構である。	1953	1953	0
667	4303	山王遺跡第1次	①弥生時代中期の甕棺墓、②古墳時代中期の井戸跡、③中世～近世の水田跡・畑跡。このほか、縄文～古墳時代の土器が自然流路から出土した。	370	530	161
665	4304	西片町遺跡	①弥生時代後期前葉～中葉の集落跡、②古墳時代前期中葉～中期前半の杭列を伴う集落跡。	300	390	91
675	4401	大肥吉竹遺跡	①縄文時代中期(船元式)の土坑・土器、②古墳時代後期(6世紀中頃～後半)の集落跡、③古代(7世紀末～11世紀初めごろ)の集落跡。遺跡の主体は8世紀。10世紀末～11世紀初めの集落廃絶後は水田化されたとみられる。	571	700	130
671	4402	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡	河内谷御茶屋跡・河内谷馬場跡は稲葉川上流の段丘～尾根上に立地する。河内谷御茶屋跡は1702年に造営された施設。河内谷馬場跡は1834年以降に造営された屋敷に伴うもので、今回の調査以前から土塁が残存していた。今回の調査では、①縄文時代晩期の遺物を含む層、②近世の石垣・土塁・土坑・溝などが検出された。	1993	1993	0
674	4403	玉沢地区条里跡第3次	玉沢地区条里跡全体は縄文時代～近世の複合遺跡で、古墳時代前期～近世の集落跡・水田跡などからなる。今回の調査では、①弥生時代前期末葉?の水田跡、②弥生時代中期後半～後期初めの石棺墓、③古墳時代(4世紀中頃～後半)の集落跡・水田跡、④古代(8世紀～10世紀後半)の水田跡、⑤中世(12～16世紀)の水田跡などが検出された。	831	870	40
672	4404	八坂久保田遺跡	古代の条里制水田跡。12世紀が主体?	1101	1150	50
673	4405	八坂本庄遺跡	古代(9世紀以降)～近世の水田跡と、14世紀後半、16世紀、近世の集落跡が確認された。	1101	1150	50
681	4501	草刈田遺跡	①弥生時代後期～古墳時代前期(布留期)の集落跡、②8世紀末～9世紀後半の官道跡、③中世前半の集落跡(掘立柱建物跡群・区画溝)、④中世末期～近世初めの地割り、⑤近世後半の道路跡などが検出された。	851	900	50
682	4502	坂元A遺跡	①縄文時代晩期後半(弥生時代早期)の水田跡、②弥生時代前期の水田跡、③弥生時代中期末～後期の水田跡、④弥生時代後期末葉～古墳時代前期の水田跡、⑤古代～中世(9～15世紀)の水田跡(15世紀後半以降に降下した桜島・文明軽石からの復旧跡を含む)などが検出された。	150	330	181
683	4502	坂元A遺跡	同上。	1301	1471	171
679	4503	昌明寺遺跡	昌明寺遺跡全体は縄文時代以降の複合遺跡。①平安時代～中世(9世紀後半～16世紀)の集落跡(土坑・土壇墓・溝状遺構)、②中世～近世(16世紀末～19世紀?)の寺院跡(掘立柱建物跡など)が主体。	1450	1600	151
680	4503	昌明寺遺跡	同上。	1751	1800	50
684	4504	中尾下遺跡	古墳時代～近世の遺構・遺物が確認された。古墳時代は遺物のみ検出。①8世紀末～10世紀初め(9世紀第2～3四半期が主体)の集落跡・水田跡、②中世～近世の継続的な水田跡などからなる。	1751	1800	50
676	4505	母智丘谷遺跡	中世の水田跡。桜島文明軽石(15世紀後半以降)に覆われた水田跡が8区画検出された。	1950	2000	51
677	4505	母智丘谷遺跡	同上。	1471	1600	130
685	4601	鍛冶屋馬場遺跡	①古代(10世紀後半ごろ)の集落跡(掘立柱建物跡5・竪穴住居跡1・鍛冶炉6など)、②中世の土壇墓3・土坑11基・溝跡5条・井戸1基・柱穴16基、③近世(19世紀後半ごろ)の柱穴14基・溝跡4条・土坑1基などが検出された。	931	970	40
686	4602	京田遺跡	①縄文時代晩期のウケ状遺構・自然流路・入佐式土器、②弥生時代中期～後期の水田跡・杭列・黒髪式土器・中津野式土器、③古代(8～10世紀)の水田跡・杭列などが検出された。	901	1000	100
687	4603	橋牟礼川遺跡	①古墳時代(成川式土器、5世紀後半～7世紀の須恵器を含む)の集落の一部や土器集中遺棄所などが検出された。②奈良～平安時代の柵列・畑跡・道跡が、874年の開聞岳噴出物で覆われた地表面から検出された。	401	600	200

遺跡一覽表 B-1

出典

番号	遺跡	所在地 都道府県	出典		編集・発行機関	刊行年月	
			書名	シリーズ名・番号			
1	滝里4遺跡	北海道	芦別市滝里遺跡群VI 滝里4遺跡(2)	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	98	(財)北海道埋蔵文化財センター	199603
2	山崎4遺跡	北海道	八雲町 山崎4遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	162	(財)北海道埋蔵文化財センター	200103
3	上台1遺跡	北海道	森町 上台1遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	217	(財)北海道埋蔵文化財センター	200503
4	サンル4遺跡	北海道	下川町 サンル4線遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	258	(財)北海道埋蔵文化財センター	200808
5	学田三区2遺跡	北海道	富良野市 学田三区2遺跡 学田三区3遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	270	(財)北海道埋蔵文化財センター	201003
6	学田三区2遺跡	北海道	富良野市 学田三区2遺跡 学田三区3遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	270	(財)北海道埋蔵文化財センター	201003
7	学田三区3遺跡	北海道	富良野市 学田三区2遺跡 学田三区3遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書	270	(財)北海道埋蔵文化財センター	201003
8	K502遺跡	北海道	K499遺跡 K500遺跡 K501遺跡 K502遺跡 K503遺跡(第3分冊)[K502遺跡]	札幌市文化財調査報告書	61	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	199903
9	K39遺跡第8次	北海道	K39遺跡 第8次調査	札幌市文化財調査報告書	64	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200003
10	C424遺跡A地点	北海道	C424遺跡・C507遺跡	札幌市文化財調査報告書	71	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200303
11	C424遺跡A地点	北海道	C424遺跡・C507遺跡	札幌市文化財調査報告書	71	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200303
12	C424遺跡A地点	北海道	C424遺跡・C507遺跡	札幌市文化財調査報告書	71	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200303
13	C424遺跡B地点	北海道	C424遺跡・C507遺跡	札幌市文化財調査報告書	71	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200303
14	K514遺跡	北海道	K514遺跡	札幌市文化財調査報告書	73	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200403
15	K515遺跡	北海道	K515遺跡	札幌市文化財調査報告書	74	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200403
16	K445遺跡	北海道	K445遺跡	札幌市文化財調査報告書	75	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200403
17	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
18	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
19	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
20	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
21	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
22	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
23	K135遺跡第4次	北海道	K135遺跡(第4次調査)	札幌市文化財調査報告書	78	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200503
24	H519遺跡	北海道	H519遺跡	札幌市文化財調査報告書	80	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603
25	H519遺跡	北海道	H519遺跡	札幌市文化財調査報告書	80	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603
26	K523遺跡	北海道	K523遺跡	札幌市文化財調査報告書	81	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603
27	K523遺跡	北海道	K523遺跡	札幌市文化財調査報告書	84	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603

28	K523遺跡	北海道	K523遺跡	札幌市文化財調査報告書	84	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200603
29	K518遺跡第1次	北海道	K518遺跡 第1次調査	札幌市文化財調査報告書	84	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200703
30	K528遺跡	北海道	K528遺跡	札幌市文化財調査報告書	86	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200803
31	K518遺跡第2次	北海道	K518遺跡第2次調査	札幌市文化財調査報告書	88	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200903
32	K518遺跡第2次	北海道	K518遺跡第2次調査	札幌市文化財調査報告書	88	札幌市教育委員会(札幌市埋蔵文化財センター)	200903
33	雨紛2遺跡	北海道	雨紛2遺跡	旭川市埋蔵文化財発掘調査報告	14	旭川市教育委員会	199403
34	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点	北海道	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点発掘調査報告書I(遺物・遺構編)			北海道大学	200403
35	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点	北海道	K39遺跡人文・社会科学総合教育研究棟地点発掘調査報告書I(遺物・遺構編)			北海道大学	200403
36	垂柳遺跡	青森県	垂柳遺跡・五輪野遺跡	青森県埋蔵文化財調査報告書	219	青森県埋蔵文化財調査センター	199703
37	上村遺跡	岩手県	上村遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	375	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200203
38	上村遺跡	岩手県	上村遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	375	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200203
39	金館跡	岩手県	金館跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	378	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200110
40	中半入遺跡・蝦夷塚古墳	岩手県	中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	380	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200202
41	中半入遺跡・蝦夷塚古墳	岩手県	中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	380	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200202
42	小松I遺跡	岩手県	小松I遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	433	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200401
43	小松I遺跡	岩手県	小松I遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	433	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200401
44	島田II遺跡第2次～第4次	岩手県	島田II遺跡第2～4次発掘調査報告書(第1分冊:本文・遺構編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	450	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200403
45	本宮熊堂A遺跡第24次	岩手県	本宮熊堂A遺跡第24次・本宮熊堂B遺跡第25次発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	470	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
46	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第1分冊 古代・中世・近世編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
47	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第1分冊 古代・中世・近世編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
48	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第1分冊 古代・中世・近世編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
49	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第1分冊 古代・中世・近世編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
50	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第1分冊 古代・中世・近世編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
51	河崎の柵擬定地	岩手県	河崎の柵擬定地発掘調査報告書(第2分冊 縄文時代編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	474	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
52	大西遺跡	岩手県	大西遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	479	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200602
53	金附遺跡	岩手県	金附遺跡発掘調査報告書(第1分冊:本文・遺構・分析・考察編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	482	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200603

54	金附遺跡	岩手県	金附遺跡発掘調査報告書(第1分冊:本文, 遺構・分析・考察編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	482	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200603
55	金附遺跡	岩手県	金附遺跡発掘調査報告書(第1分冊:本文, 遺構・分析・考察編)	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	482	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200603
56	野里上遺跡	岩手県	野里上遺跡・野中遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	492	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200703
57	押切遺跡	岩手県	押切遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	493	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200703
58	力持遺跡	岩手県	力持遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	510	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200803
59	境遺跡	岩手県	境遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	539	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200902
60	境遺跡	岩手県	境遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	539	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200902
61	境遺跡	岩手県	境遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	539	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	200902
62	野沢Ⅰ遺跡	岩手県	野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡・戸桜遺跡・舟渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	567	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	201001
63	野沢Ⅱ遺跡	岩手県	野沢Ⅰ・Ⅱ遺跡・戸桜遺跡・舟渡Ⅰ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書	567	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	201001
64	山王遺跡	宮城県	山王遺跡Ⅱ	宮城県文化財調査報告書	167	宮城県教育委員会	199503
65	山王遺跡	宮城県	山王遺跡Ⅱ	宮城県文化財調査報告書	167	宮城県教育委員会	199503
66	市川橋遺跡	宮城県	市川橋遺跡	宮城県文化財調査報告書	184	宮城県教育委員会	200003
67	柳生台畑遺跡	宮城県	柳生台畑遺跡	仙台市文化財調査報告書	230	仙台市教育委員会	199803
68	柳生台畑遺跡	宮城県	柳生台畑遺跡	仙台市文化財調査報告書	230	仙台市教育委員会	199803
69	岩瀬遺跡	秋田県	東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書—岩瀬遺跡—	秋田県文化財調査報告書	263	秋田県埋蔵文化財センター	199603
70	横山遺跡	秋田県	横山遺跡	秋田県文化財調査報告書	363	秋田県埋蔵文化財センター	200301
71	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県文化財調査報告書	398	秋田県埋蔵文化財センター	200503
72	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県文化財調査報告書	398	秋田県埋蔵文化財センター	200503
73	平右衛門田尻遺跡	秋田県	平右衛門田尻遺跡	秋田県文化財調査報告書	455	秋田県埋蔵文化財センター	201003
74	高瀬山K遺跡第1次・第2次	山形県	高瀬山K遺跡第1・2次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財調査報告書	158	山形県教育委員会	199003
75	助作遺跡第1次	山形県	助作遺跡発掘調査報告書(1)	山形県埋蔵文化財調査報告書	162	山形県教育委員会	199009
76	山形西高敷地内遺跡第5次	山形県	山形西高敷地内遺跡第5次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財調査報告書	192	山形県教育委員会	199303
77	今塚遺跡	山形県	今塚遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	7	(財)山形県埋蔵文化財センター	199403
78	土崎遺跡	山形県	土崎遺跡・梵天塚遺跡・中谷地遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	42	(財)山形県埋蔵文化財センター	199612
79	北柳1遺跡	山形県	北柳1・2遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	48	(財)山形県埋蔵文化財センター	199703
80	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次	山形県	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	52	(財)山形県埋蔵文化財センター	199802
81	宮ノ前遺跡第3次	山形県	宮ノ前遺跡第3次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	65	(財)山形県埋蔵文化財センター	199903
82	中台4遺跡	山形県	中台4・5遺跡発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	84	(財)山形県埋蔵文化財センター	200103
83	山形西高敷地内遺跡第6次	山形県	山形西高敷地内遺跡第6次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	117	(財)山形県埋蔵文化財センター	200303
84	高瀬山遺跡HO地区	山形県	高瀬山遺跡(HO地区)発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	145	(財)山形県埋蔵文化財センター	200503
85	大在家遺跡第1次・第2次	山形県	大在家遺跡第1次・2次発掘調査報告書	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	153	(財)山形県埋蔵文化財センター	200603
86	下叶水遺跡	山形県	下叶水遺跡	山形県埋蔵文化財センター調査報告書	177	(財)山形県埋蔵文化財センター	200903
87	高木遺跡	福島県	阿武隈川右岸築堤遺跡発掘調査報告2(第1分冊)	福島県文化財調査報告書	401	(財)福島県文化振興事業団	200211
88	温井遺跡	群馬県	温井遺跡			(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	198103
89	温井遺跡	群馬県	温井遺跡			(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	198103

遺跡一覽表B-1

90	温井遺跡	群馬県	温井遺跡			(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	198103
91	田端遺跡	群馬県	田端遺跡			群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	198803
92	田端遺跡	群馬県	田端遺跡			群馬県教育委員会・(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	198803
93	飯土井二本松遺跡	群馬県	飯土井二本松遺跡 下江田前遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	113	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199101
94	飯土井二本松遺跡	群馬県	飯土井二本松遺跡 下江田前遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	113	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199101
95	箱田古市前Ⅰ遺跡	群馬県	箱田古市前Ⅰ・Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団報告	191	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199503
96	下小鳥神戸遺跡	群馬県	下小鳥神戸遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	229	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199709
97	下芝五反田遺跡	群馬県	下芝五反田遺跡—古墳時代編—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	230	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199803
98	下芝五反田遺跡	群馬県	下芝五反田遺跡—古墳時代編—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	230	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199803
99	下芝五反田遺跡	群馬県	下芝五反田遺跡—奈良・平安時代以降編—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	250	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199903
100	東長岡戸井口遺跡	群馬県	東長岡戸井口遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	257	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199912
101	上滝五反畑遺跡	群馬県	上滝五反畑遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	258	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	199912
102	高浜向原遺跡第1次	群馬県	高浜向原遺跡・神戸山山遺跡・神戸岩下遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	262	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200002
103	長久保大畑遺跡・新田入口遺跡	群馬県	長久保大畑遺跡, 新田入口遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	268	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200003
104	中里見中川遺跡	群馬県	中里見遺跡群 中里見中川遺跡・中里見根岸遺跡・中里見原遺跡・上里見井ノ下遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	271	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200003
105	下阿内前田遺跡	群馬県	下阿内町畑遺跡, 下阿内前田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告	278	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
106	亀里平塚遺跡	群馬県	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
107	横手宮田遺跡	群馬県	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
108	横手宮田遺跡	群馬県	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
109	横手宮田遺跡	群馬県	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
110	横手早稲田遺跡	群馬県	亀里平塚遺跡・横手宮田遺跡・横手早稲田遺跡・横手南川端遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	280	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200103
111	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
112	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
113	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
114	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
115	横手南川端遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
116	横手南川端遺跡	群馬県	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	292	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
117	西田遺跡	群馬県	西田遺跡・村中遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	293	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200203
118	西久保Ⅰ遺跡	群馬県	八ツ場ダム発掘調査集成(1)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	303	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200212
119	宿横手三波川遺跡	群馬県	宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	310	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
120	宿横手三波川遺跡	群馬県	宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	310	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
121	徳丸仲田遺跡	群馬県	徳丸仲田遺跡(2)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	311	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
122	徳丸仲田遺跡	群馬県	徳丸仲田遺跡(2)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	311	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200303
123	中内村前遺跡5~7区	群馬県	中内村前遺跡(2)—5~7区—	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	322	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200310

124	横壁中村遺跡	群馬県	横壁中村遺跡(2)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	355	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200503
125	鳥悉途遺跡	群馬県	鳥悉途遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	376	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200603
126	二反沢遺跡	群馬県	上郷B遺跡, 廣石A遺跡, 二反沢遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	379	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200607
127	横壁中村遺跡	群馬県	横壁中村遺跡(4)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	381	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200608
128	下原遺跡	群馬県	下原遺跡Ⅱ	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	389	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200611
129	福島飯塚遺跡	群馬県	福島飯塚遺跡(2)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	435	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
130	福島飯塚遺跡	群馬県	福島飯塚遺跡(2)	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	435	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200803
131	福島飯玉遺跡	群馬県	福島飯玉遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	446	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200810
132	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
133	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
134	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
135	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
136	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
137	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
138	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
139	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
140	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
141	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
142	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
143	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	荒砥前田Ⅱ遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	472	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	200909
144	鹿島浦遺跡	群馬県	鹿島浦遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書	496	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	201003
145	棟高遺跡群	群馬県	棟高遺跡群(棟高水窪Ⅱ棟高辻の内Ⅳ遺跡)	高崎市文化財調査報告書	224	高崎市教育委員会	200803
146	高関高根遺跡	群馬県	高関高根遺跡	高崎市文化財調査報告書	244	高崎市教育委員会	200907
147	滝前遺跡	群馬県	滝前・滝下遺跡			山武考古学研究所	198803
148	下椿遺跡	埼玉県	下椿	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	18	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	198203
149	金井遺跡	埼玉県	金井遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	86	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	198909
150	広面遺跡	埼玉県	広面遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	89	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199003
151	小敷田遺跡	埼玉県	小敷田遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	95	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199103
152	城北遺跡	埼玉県	城北遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	150	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199503
153	今井条里遺跡	埼玉県	今井条里遺跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	192	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199803
154	菖蒲城跡	埼玉県	菖蒲城跡	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	232	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	199902
155	築道下遺跡	埼玉県	築道下遺跡Ⅲ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	245	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200003
156	北島遺跡第17・19・20地点	埼玉県	北島遺跡Ⅶ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	291	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200403
157	古宮遺跡	埼玉県	古宮／中条条里／上河原	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	298	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200409
158	北島遺跡第17・19・21地点	埼玉県	北島遺跡ⅩⅠ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書	303	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	200503
159	菅生遺跡	千葉県	一般国道409号(木更津工区)埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター調査報告	337	(財)千葉県文化財センター	199803
160	芝野遺跡	千葉県	東関東自動車道(千葉・富津線)埋蔵文化財調査報告書	(財)千葉県文化財センター調査報告	409	(財)千葉県文化財センター	200103
161	常代遺跡六反免地区	千葉県	国道127号埋蔵文化財調査報告書(第2章:常代遺跡六反免地区)	千葉県文化財センター調査報告	493	(財)千葉県文化財センター	200403
162	姥田遺跡	千葉県	姥田遺跡発掘調査報告書	(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書	143	(財)君津郡市文化財センター	199803

163	姥田遺跡	千葉県	姥田遺跡発掘調査報告書	(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書	143	(財)君津都市文化財センター	199803
164	姥田遺跡	千葉県	姥田遺跡発掘調査報告書	(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書	143	(財)君津都市文化財センター	199803
165	常代遺跡	千葉県	常代遺跡Ⅱ	(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書	146	(財)君津都市文化財センター	199808
166	西原遺跡	千葉県	西原遺跡Ⅲ	(財)君津都市文化財センター発掘調査報告書	178	(財)君津都市文化財センター	200303
167	多摩ニュータウン No.753遺跡	東京都	多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター調査報告	75	(財)東京都生涯学習文化財団/東京都埋蔵文化財センター	199910
168	後楽二丁目南遺跡	東京都	後楽二丁目南遺跡	東京都埋蔵文化財センター調査報告	241	(財)東京都生涯学習文化財団/東京都埋蔵文化財センター	201003
169	柴又帝釈天遺跡	東京都	柴又帝釈天遺跡Ⅱ	葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書	11	葛飾区遺跡調査会	199001
170	立石遺跡	東京都	立石遺跡Ⅲ	葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書	27	葛飾区遺跡調査会	199312
171	柴又帝釈天遺跡	東京都	柴又帝釈天遺跡Ⅶ	葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書	36	葛飾区遺跡調査会	199603
172	柴又帝釈天遺跡	東京都	柴又帝釈天遺跡Ⅶ	葛飾区遺跡調査会発掘調査報告書	36	葛飾区遺跡調査会	199603
173	染地遺跡第51地点	東京都	東京都調布市染地遺跡	調布市埋蔵文化財報告集刊	2	調布市遺跡調査会	200703
174	落川・一の宮遺跡	東京都	落川・一の宮遺跡Ⅰ—近世編・中世編—			落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会・調査団	199911
175	落川・一の宮遺跡	東京都	落川・一の宮遺跡Ⅳ—自然科学編—			落川・一の宮遺跡(日野3・2・7号線)調査会・調査団	199911
176	千葉地東遺跡	神奈川県	千葉地東遺跡	神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告	10	神奈川県立埋蔵文化財センター	198602
177	下新町遺跡	新潟県	今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	35	新潟県教育委員会	198403
178	下新町遺跡	新潟県	今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	35	新潟県教育委員会	198403
179	子安遺跡	新潟県	今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	35	新潟県教育委員会	198403
180	馬見坂遺跡	新潟県	馬見坂遺跡・正尺A遺跡・正尺C遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	165	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200610
181	大角地遺跡	新潟県	大角地遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	173	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200612
182	野地遺跡	新潟県	野地遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	196	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200903
183	萩原遺跡	新潟県	萩原遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	204	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200811
184	田伏山崎遺跡	新潟県	田伏山崎遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	205	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200912
185	田伏山崎遺跡	新潟県	田伏山崎遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	205	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200912
186	田伏山崎遺跡	新潟県	田伏山崎遺跡	新潟県埋蔵文化財調査報告書	205	(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団	200912
187	家ノ内遺跡	新潟県	家ノ内遺跡発掘調査報告書	新潟田市埋蔵文化財調査報告	33	新潟田市教育委員会・国際航業株式会社	200607
188	竹ノ内Ⅱ遺跡	富山県	竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新東遺跡発掘調査報告	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告	42	(財)富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所	200903
189	四方荒屋遺跡	富山県	富山県四方荒屋遺跡発掘調査報告書	富山市埋蔵文化財調査報告	23	富山市教育委員会	200803
190	桜町遺跡舟岡地区	富山県	富山県小矢部市 桜町遺跡発掘調査報告書 縄文遺構編Ⅰ・弥生・古墳・古代・中世編Ⅱ 第1分冊	小矢部市埋蔵文化財調査報告書	53	小矢部市教育委員会	200403
191	鹿首モリガフチ遺跡	石川県	鹿首モリガフチ遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	198403
192	鹿首モリガフチ遺跡	石川県	鹿首モリガフチ遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	198403
193	鹿首モリガフチ遺跡	石川県	鹿首モリガフチ遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	198403
194	寺家遺跡	石川県	寺家遺跡発掘調査報告書Ⅰ			石川県立埋蔵文化財センター	198603
195	戸水C遺跡	石川県	金沢市戸水C遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	198603
196	倉部出戸遺跡	石川県	倉部			石川県立埋蔵文化財センター	199003
197	一塚イチノツカ遺跡	石川県	松任市一塚イチノツカ遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	199003

198	経念遺跡	石川県	珠洲市 経念遺跡			石川県立埋蔵文化財センター	199603
199	能登部下仲町遺跡	石川県	能登部下仲町遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	199903
200	能登部下仲町遺跡	石川県	能登部下仲町遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	199903
201	能登部下仲町遺跡	石川県	能登部下仲町遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	199903
202	高畠C遺跡	石川県	鹿島町 御祖遺跡群			(財)石川県埋蔵文化財センター	199903
203	松山C遺跡	石川県	加賀市松山C遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	200103
204	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅰ(上層編1)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200103
205	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅰ(上層編1)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200103
206	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅰ(上層編1)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200103
207	藤江C遺跡	石川県	金沢市藤江C遺跡Ⅳ・Ⅴ 第1分冊			(財)石川県埋蔵文化財センター	200203
208	藤江C遺跡	石川県	金沢市藤江C遺跡Ⅳ・Ⅴ 第1分冊			(財)石川県埋蔵文化財センター	200203
209	藤江C遺跡	石川県	金沢市藤江C遺跡Ⅳ・Ⅴ 第1分冊			(財)石川県埋蔵文化財センター	200203
210	梅田B遺跡	石川県	金沢市 梅田B遺跡・観法寺遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
211	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅲ(下層編)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
212	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅲ(下層編)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
213	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅲ(下層編)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
214	三引遺跡	石川県	田鶴浜町三引遺跡Ⅲ(下層編)			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
215	徳丸遺跡	石川県	鹿西町 徳丸遺跡			(財)石川県埋蔵文化財センター	200403
216	八日市地方遺跡	石川県	八日市地方遺跡			小松市教育委員会	200303
217	御経塚遺跡	石川県	野々市町御経塚遺跡			野々市町教育委員会	198309
218	真脇遺跡	石川県	石川県能都町真脇遺跡 2002			能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団	200203
219	林・藤島遺跡泉田地区	福井県	林・藤島遺跡泉田地区	福井県埋蔵文化財調査報告	106	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	200903
220	大島田遺跡	福井県	大島田遺跡	勝山市埋蔵文化財調査報告	9	勝山市教育委員会	199103
221	下長崎遺跡	山梨県	下長崎遺跡・両の木神社遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	44	山梨県埋蔵文化財センター	198903
222	東河原遺跡	山梨県	東河原遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	95	山梨県埋蔵文化財センター	199403
223	油田遺跡	山梨県	油田遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	130	山梨県埋蔵文化財センター	199703
224	油田遺跡	山梨県	油田遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	130	山梨県埋蔵文化財センター	199703
225	油田遺跡	山梨県	油田遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	130	山梨県埋蔵文化財センター	199703
226	油田遺跡	山梨県	油田遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	130	山梨県埋蔵文化財センター	199703
227	油田遺跡	山梨県	油田遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	130	山梨県埋蔵文化財センター	199703
228	大師東丹保遺跡Ⅰ区	山梨県	大師東丹保遺跡Ⅰ区	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	131	山梨県埋蔵文化財センター	199703
229	大師東丹保遺跡Ⅱ区・Ⅲ区	山梨県	大師東丹保遺跡Ⅱ・Ⅲ区	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	132	山梨県埋蔵文化財センター	199703
230	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	133	山梨県埋蔵文化財センター	199703
231	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	133	山梨県埋蔵文化財センター	199703
232	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	133	山梨県埋蔵文化財センター	199703
233	宮沢中村遺跡	山梨県	宮沢中村遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	181	山梨県埋蔵文化財センター	200003
234	二本柳遺跡	山梨県	二本柳遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書	183	山梨県埋蔵文化財センター	200003
235	塩瀬下原遺跡	山梨県	塩瀬下原遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	185	山梨県埋蔵文化財センター	200012
236	藤田池遺跡	山梨県	藤田池遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	204	山梨県埋蔵文化財センター	200303

237	百々遺跡	山梨県	百々遺跡2・4	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	212	山梨県埋蔵文化財センター	200402
238	足原田遺跡	山梨県	足原田遺跡 I	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	230	山梨県埋蔵文化財センター	200508
239	平田宮第2遺跡	山梨県	平田宮第2遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	244	山梨県埋蔵文化財センター	200703
240	延命寺遺跡	山梨県	延命寺遺跡	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	251	山梨県埋蔵文化財センター	200803
241	小井川遺跡	山梨県	小井川遺跡IV	山梨県埋蔵文化財センター調査報告	256	山梨県埋蔵文化財センター	200803
242	ヂクヤ遺跡	山梨県	ヂクヤ遺跡	甲府市文化財調査報告書	22	甲府市遺跡調査会	200303
243	ヂクヤ遺跡	山梨県	ヂクヤ遺跡	甲府市文化財調査報告書	22	甲府市遺跡調査会	200303
244	塩部遺跡	山梨県	塩部遺跡 I	甲府市文化財調査報告書	24	甲府市遺跡調査会	200401
245	塩部遺跡	山梨県	塩部遺跡 II	甲府市文化財調査報告書	30	甲府市遺跡調査会	200503
246	石橋条里制遺跡北砂吐地区	山梨県	石橋条里(3次)・石橋遺跡	境川村埋蔵文化財調査報告書	18	境川村教育委員会	200303
247	御社宮司遺跡	長野県	長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書			長野県教育委員会	198202
248	地之目遺跡・一丁田遺跡	長野県	中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書13	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	16	(財)長野県埋蔵文化財センター	199403
249	飯田古屋敷遺跡	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書13	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	24	(財)長野県埋蔵文化財センター	199703
250	常田居屋敷遺跡群	長野県	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書1	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	30	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
251	浅川扇状地遺跡群	長野県	北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書5	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	34	(財)長野県埋蔵文化財センター	199803
252	北之脇遺跡	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書9	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	43	(財)長野県埋蔵文化財センター	199903
253	春山・春山B遺跡	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書11	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	45	(財)長野県埋蔵文化財センター	199911
254	春山・春山B遺跡	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書11	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	45	(財)長野県埋蔵文化財センター	199911
255	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
256	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
257	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
258	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
259	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
260	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
261	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書	(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	54	(財)長野県埋蔵文化財センター	200003
262	石川条里遺跡	長野県	石川条里遺跡(6)	長野市の文化財	45	長野市教育委員会埋蔵文化財センター	199203
263	石川条里遺跡	長野県	石川条里遺跡(6)	長野市の文化財	45	長野市教育委員会埋蔵文化財センター	199203
264	石川条里遺跡	長野県	石川条里遺跡(6)	長野市の文化財	45	長野市教育委員会埋蔵文化財センター	199203
265	石川条里遺跡	長野県	石川条里遺跡(6)	長野市の文化財	45	長野市教育委員会埋蔵文化財センター	199203
266	今宿遺跡	岐阜県	今宿遺跡	岐阜県文化財保護センター調査報告書	37	(財)岐阜県文化財保護センター	199803
267	今宿遺跡	岐阜県	今宿遺跡	岐阜県文化財保護センター調査報告書	37	(財)岐阜県文化財保護センター	199803
268	堂ノ前遺跡	岐阜県	岐阜県吉城郡宮川村堂ノ前遺跡発掘調査報告書			宮川村埋蔵文化財調査室	199603
269	宮下遺跡	静岡県	宮下遺跡(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	9	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	198503
270	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
271	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
272	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
273	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
274	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
275	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003
276	川合遺跡	静岡県	川合遺跡(遺構編)本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	25	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199003

遺跡一覽表B-1

315	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
316	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
317	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
318	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
319	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
320	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
321	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
322	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
323	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
324	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
325	瀬名遺跡	静岡県	瀬名遺跡Ⅰ(遺構編Ⅰ)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	40	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199203
326	長崎遺跡	静岡県	長崎遺跡Ⅲ(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	49	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
327	長崎遺跡	静岡県	長崎遺跡Ⅲ(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	49	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
328	長崎遺跡	静岡県	長崎遺跡Ⅲ(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	49	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
329	長崎遺跡	静岡県	長崎遺跡Ⅲ(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	49	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199403
330	川合遺跡八反田地区	静岡県	川合遺跡八反田地区Ⅱ 本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	63	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199503
331	川合遺跡八反田地区	静岡県	川合遺跡八反田地区Ⅱ 本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	63	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199503
332	川合遺跡八反田地区	静岡県	川合遺跡八反田地区Ⅱ 本文編	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	63	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199503
333	曲金北遺跡	静岡県	曲金北遺跡(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	68	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199603
334	曲金北遺跡	静岡県	曲金北遺跡(遺構編)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	68	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199603
335	川合遺跡志保田地区	静岡県	川合遺跡志保田地区	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	102	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
336	元島遺跡	静岡県	元島遺跡Ⅰ(遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
337	元島遺跡	静岡県	元島遺跡Ⅰ(遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
338	元島遺跡	静岡県	元島遺跡Ⅰ(遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
339	元島遺跡	静岡県	元島遺跡Ⅰ(遺構編本文)	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	109	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	199803
340	恒武西宮遺跡	静岡県	恒武西宮・西浦遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	120	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200003
341	恒武西宮遺跡	静岡県	恒武西宮・西浦遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	120	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200003
342	矢崎遺跡	静岡県	矢崎遺跡Ⅱ	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	125	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200103
343	恒武東覚遺跡	静岡県	恒武東覚遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	148	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200403
344	本郷坪遺跡	静岡県	本郷坪遺跡	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告	164	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	200512
345	長沼遺跡第2次	静岡県	長沼遺跡	静岡市埋蔵文化財発掘調査報告	58	静岡市教育委員会	200203
346	長沼遺跡第2次	静岡県	長沼遺跡	静岡市埋蔵文化財発掘調査報告	58	静岡市教育委員会	200203
347	長沼遺跡第2次	静岡県	長沼遺跡	静岡市埋蔵文化財発掘調査報告	58	静岡市教育委員会	200203
348	長沼遺跡第2次	静岡県	長沼遺跡	静岡市埋蔵文化財発掘調査報告	58	静岡市教育委員会	200203
349	西畑屋遺跡	静岡県	西畑屋遺跡1999			(財)浜松市文化協会	199903
350	梶子遺跡	静岡県	梶子遺跡Ⅹ			(財)浜松市文化協会	200402
351	城山遺跡	静岡県	城山遺跡(2005b)			浜松市教育委員会・(財)浜松市文化振興財団	200512
352	伊場遺跡	静岡県	伊場遺跡補遺編(第8~13次調査遺構・自然遺物)			浜松市教育委員会	200703
353	御殿・二之宮遺跡第6次	静岡県	御殿・二之宮遺跡第6次発掘調査報告書			山武考古学研究所	199503

354	清洲城下町遺跡	愛知県	清洲城下町遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	17	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199003
355	清洲城下町遺跡	愛知県	清洲城下町遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	17	(財)愛知県埋蔵文化財センター	1999003
356	山中遺跡	愛知県	山中遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	40	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199203
357	大毛池田遺跡	愛知県	大毛池田遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	72	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199708
358	門間沼遺跡	愛知県	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
359	門間沼遺跡	愛知県	門間沼遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	80	(財)愛知県埋蔵文化財センター	199808
360	下津北山遺跡	愛知県	下津北山遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	88	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200008
361	猫島遺跡	愛知県	猫島遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	107	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200308
362	猫島遺跡	愛知県	猫島遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	107	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200308
363	水入遺跡	愛知県	水入遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	108	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200508
364	志賀公園遺跡	愛知県	志賀公園遺跡Ⅱ	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	121	(財)愛知県埋蔵文化財センター	200408
365	伝法寺本郷遺跡	愛知県	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	139	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200603
366	中之郷北遺跡	愛知県	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	139	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200603
367	伝法寺野田遺跡	愛知県	伝法寺野田遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	141	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200703
368	上品野蟹川遺跡	愛知県	上品野蟹川遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	142	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200803
369	惣作・鐘場遺跡Ⅱ	愛知県	惣作・鐘場遺跡Ⅱ	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	150	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200803
370	朝日遺跡	愛知県	朝日遺跡Ⅷ	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	154	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200903
371	須ヶ谷遺跡	愛知県	須ヶ谷遺跡・西海塚遺跡・山王遺跡	(財)愛知県埋蔵文化財センター報告書	156	(財)愛知県教育・スポーツ振興財団 (財)愛知県埋蔵文化財センター	200803
372	志賀公園遺跡第2次	愛知県	志賀公園遺跡第2次発掘調査概要報告書			名古屋市教育委員会	199503
373	郷上遺跡	愛知県	郷上遺跡	豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書	35	豊田市教育委員会	2009
374	森山東遺跡	三重県	一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財調査報告	115-1	三重県埋蔵文化財センター	199303
375	森山東遺跡	三重県	一般国道23号中勢道路(9工区)道路建設事業に伴う松ノ木遺跡・森山東遺跡・太田遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財調査報告	115-1	三重県埋蔵文化財センター	199303
376	筋違遺跡	三重県	筋違遺跡発掘調査報告 第1分冊	三重県埋蔵文化財調査報告	115-19	三重県埋蔵文化財センター	200403
377	筋違遺跡	三重県	筋違遺跡発掘調査報告 第1分冊	三重県埋蔵文化財調査報告	115-19	三重県埋蔵文化財センター	200403
378	筋違遺跡	三重県	筋違遺跡発掘調査報告 第1分冊	三重県埋蔵文化財調査報告	115-19	三重県埋蔵文化財センター	200403
379	筋違遺跡	三重県	筋違遺跡発掘調査報告 第1分冊	三重県埋蔵文化財調査報告	115-19	三重県埋蔵文化財センター	200403
380	舞出北遺跡	三重県	一般国道23号中勢道路(13工区)建設事業に伴う 舞出北遺跡発掘調査報告2	三重県埋蔵文化財調査報告	115-24	三重県埋蔵文化財センター	201003
381	赤部遺跡	三重県	赤部遺跡	松阪市埋蔵文化財発掘調査報告	3	松阪市教育委員会・松阪市文化財センター	200703

382	里井B遺跡	滋賀県	里井B遺跡	日野川広域河川改修工事に伴う発掘調査報告書		滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	200503
383	弘前遺跡	滋賀県	弘前遺跡Ⅰ	ほ場整備関係(水質保全対策)遺跡発掘調査報告書	35-1	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	200803
384	長島遺跡・夕日ヶ丘北遺跡	滋賀県	長島遺跡・夕日ヶ丘北遺跡	県営田園空間整備事業(野洲川下流地区)集落農園工事に伴う発掘調査報告書	2	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	201003
385	関津遺跡	滋賀県	関津遺跡Ⅲ	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書	37-4	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	201003
386	関津遺跡	滋賀県	関津遺跡Ⅲ	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書	37-4	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	201003
387	関津遺跡	滋賀県	関津遺跡Ⅲ	ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書	37-4	滋賀県教育委員会・(財)滋賀県文化財保護協会	201003
388	棕ノ木遺跡第5次	京都府	6. 棕ノ木遺跡第5次発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	105	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200212
389	棕ノ木遺跡第5次	京都府	6. 棕ノ木遺跡第5次発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	105	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200212
390	棕ノ木遺跡第5次	京都府	6. 棕ノ木遺跡第5次発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	105	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200212
391	魚田遺跡第6次・西村遺跡・門田遺跡	京都府	10. 大住地区府営ほ場整備事業関係遺跡発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	107	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200303
392	長岡京右京第825次(京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	5. 京都第二外環状道路関係遺跡平成16年度発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	118	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200603
393	長岡京右京第825次(京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	5. 京都第二外環状道路関係遺跡平成16年度発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	118	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200603
394	長岡京右京第825次(京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	5. 京都第二外環状道路関係遺跡平成16年度発掘調査概要	京都府遺跡調査概報	118	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200603
395	魚田遺跡第7次	京都府		京都府遺跡調査報告集	133	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2009
396	魚田遺跡第7次	京都府		京都府遺跡調査報告集	133	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2009
397	魚田遺跡第7次	京都府		京都府遺跡調査報告集	133	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2009
398	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
399	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
400	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
401	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
402	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
403	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
404	志高遺跡	京都府		京都府遺跡調査報告書	12	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	198903
405	下植野南遺跡	京都府	下植野南遺跡	京都府遺跡調査報告書	25	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	199903
406	下植野南遺跡	京都府	下植野南遺跡	京都府遺跡調査報告書	25	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	199903
407	内里八丁遺跡A地区・B地区	京都府	内里八丁遺跡	京都府遺跡調査報告書	26	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	199912
408	市田齊当坊遺跡	京都府	市田齊当坊遺跡	京都府遺跡調査報告書	36	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	200403
409	吉田近衛遺跡	京都府	吉田近衛町遺跡	京都文化博物館調査研究報告	4	(財)京都文化財団・京都府京都文化博物館	198903
410	平安京右京六条四坊九町・五条大路	京都府	平安京右京六条四坊九町・五条大路	京都文化博物館調査研究報告	8	京都府京都文化博物館	199109
411	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	京都府	水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	17	(財)京都市埋蔵文化財研究所	199803
412	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	京都府	水垂遺跡 長岡京左京六・七条三坊	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	17	(財)京都市埋蔵文化財研究所	199803
413	平安京右京三条二坊十四町跡	京都府	平安京右京三条二坊十四町跡	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告	2006-1	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200703

414	平安京右京三条三坊三町跡		平安京右京三条三坊三町跡	京都市埋蔵文化財研究所調査報告	2009-4	(財)京都市埋蔵文化財研究所	200910
415	長岡京右京二条三坊一・八町、上里遺跡	京都府	長岡京右京二条三坊一・八町、上里遺跡	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告	2009-9	(財)京都市埋蔵文化財研究所	201002
416	広野遺跡	京都府	広野遺跡発掘調査概要	宇治市埋蔵文化財発掘調査概報	48	宇治市教育委員会	200003
417	宇治川太閤堤跡	京都府	宇治川太閤堤跡発掘調査報告書	宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書	73	宇治市教育委員会	200901
418	宇治川太閤堤跡	京都府	宇治川太閤堤跡発掘調査報告書	宇治市埋蔵文化財発掘調査報告書	73	宇治市教育委員会	200901
419	長岡京左京第258次	京都府	長岡京跡左京第240・258次調査(7ANFOR・FOR-3地区)～東一坊大路・四条条間小路交差点・鴨田遺跡～発掘調査概要	向日市埋蔵文化財調査報告書	31	(財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会	199103
420	長岡京左京第258次	京都府	長岡京跡左京第240・258次調査(7ANFOR・FOR-3地区)～東一坊大路・四条条間小路交差点・鴨田遺跡～発掘調査概要	向日市埋蔵文化財調査報告書	31	(財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会	199103
421	長岡京左京第258次	京都府	長岡京跡左京第240・258次調査(7ANFOR・FOR-3地区)～東一坊大路・四条条間小路交差点・鴨田遺跡～発掘調査概要	向日市埋蔵文化財調査報告書	31	(財)向日市埋蔵文化財センター・向日市教育委員会	199103
422	長岡京左京第310次	京都府	長岡京跡左京第310次(7ANFMR-2地区～四条条間小路, 左京四条二坊七町～発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	57	(財)向日市埋蔵文化財センター	200212
423	長岡宮跡第422次	京都府	長岡宮跡第422次(7ANFYS-2地区)～朝堂院南方官衙～発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	66	(財)向日市埋蔵文化財センター	200503
424	修理式遺跡第12次	京都府	修理式遺跡第12次(3NSBTD-2地区)～修理式遺跡北部～発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	75	(財)向日市埋蔵文化財センター	200708
425	長岡宮第452次	京都府	長岡宮跡第452次(7ANEHJ-13地区)～朝堂院前庭, 乙訓郡衙跡～発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	81	(財)向日市埋蔵文化財センター	201001
426	長岡京跡左京第512次・第518次	京都府	長岡京跡左京第512・518次(7ANFKD-6・7地区)～四条条間北小路, 左京四条一坊十六町, 中福知遺跡～発掘調査報告	向日市埋蔵文化財調査報告書	81	(財)向日市埋蔵文化財センター	201001
427	門田遺跡	京都府	門田遺跡発掘調査概報	京田辺市埋蔵文化財調査報告書	35	京田辺市教育委員会	200503
428	京都大学構内遺跡(白河北殿第1次・第2次)	京都府		京都大学埋蔵文化財調査報告—白河北殿北辺の調査—	II	京都大学埋蔵文化財研究センター	198103
429	京都大学構内遺跡(白河北殿第1次・第2次)	京都府		京都大学埋蔵文化財調査報告—白河北殿北辺の調査—	II	京都大学埋蔵文化財研究センター	198103
430	北白川追分町遺跡	京都府		京都大学埋蔵文化財調査報告—北白川追分町縄文遺跡の調査—	III	京都大学埋蔵文化財研究センター	198503
431	京都大学北部構内遺跡BA28区	京都府	京都大学北部構内BA28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1992年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199503
432	京都大学本部構内遺跡AU30区・AV30区	京都府	京都大学本部構内AU30区・AV30区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1993年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199703
433	京都大学北部構内遺跡BB28区	京都府	京都大学北部構内BB28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1993年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199703
434	京都大学本部構内遺跡AW25区	京都府	京都大学本部構内AW25区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1993年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199703
435	京都大学北部構内遺跡BF34区	京都府	京都大学北部構内BF34区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1994年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199803
436	京都大学北部構内遺跡BF30区	京都府	京都大学北部構内BF30区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1994年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199803
437	京都大学総合人間学部構内遺跡AO22区	京都府	京都大学総合人間学部構内AO22区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1995年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199903
438	京都大学総合人間学部構内遺跡AO22区	京都府	京都大学総合人間学部構内AO22区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1995年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199903
439	京都大学本部構内遺跡AX25・AX26区	京都府	京都大学本部構内AX25・AX26区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1995年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199903
440	京都大学北部構内遺跡BA30区	京都府	北白川追分町弥生時代遺跡の展開—京都大学北部構内BA30区(追分地蔵地点)の出土資料—	京都大学構内遺跡調査研究年報(第II部/京都大学埋蔵文化財研究センター—紀要)	1995年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	199903

441	京都大学病院構内遺跡AG20区・AF20区	京都府	京都大学病院構内遺跡AG20・AF20区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1996年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200008
442	京都大学医学部構内遺跡AN20区	京都府	京都大学医学部構内遺跡AN20区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1996年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200008
443	京都大学本部構内遺跡AW26区	京都府	京都大学本部構内AW26区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1999年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200311
444	京都大学本部構内遺跡AX22区(立合い)	京都府	京都大学本部構内AX22区の立合調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	1999年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200311
445	京都大学吉田南構内遺跡AN22区	京都府	京都大学吉田南構内AN22区の調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2000年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200503
446	京都大学北部構内遺跡BC28区	京都府	京都大学北部構内BC28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2000年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200503
447	京都大学北部構内遺跡BC28区	京都府	京都大学北部構内BC28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2000年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200503
448	京都大学本部構内遺跡AT21区	京都府	京都大学本部構内AT21区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2001年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200603
449	京都大学吉田南構内遺跡AR24区	京都府	京都大学吉田南構内AR24区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2001年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200603
450	京都大学病院構内遺跡AE19区	京都府	京都大学病院構内AE19区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2002年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200703
451	京都大学本部構内遺跡AU25区	京都府	京都大学本部構内AU25区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2002年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200703
452	京都大学北部構内遺跡BD28区	京都府	京都大学北部構内BD28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2002年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200703
453	京都大学北部構内遺跡BD28区	京都府	京都大学北部構内BD28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2002年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200703
454	京都大学北部構内遺跡BD28区	京都府	京都大学北部構内BD28区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2002年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200703
455	京都大学北部構内遺跡BF32区	京都府	京都大学北部構内BF32区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2003年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200803
456	京都大学北部構内遺跡BF32区	京都府	京都大学北部構内BF32区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2003年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200803
457	京都大学北部構内遺跡BC30区	京都府	京都大学北部構内BC30区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2004～2006年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200903
458	京都大学北部構内遺跡BC30区	京都府	京都大学北部構内BC30区の発掘調査	京都大学構内遺跡調査研究年報	2004～2006年度	京都大学埋蔵文化財研究センター	200903
459	萱振遺跡第1次	大阪府	萱振遺跡	大阪府文化財調査報告書第39輯		大阪府教育委員会	199203
460	志紀遺跡第6次	大阪府	志紀遺跡発掘調査概要・Ⅱ			大阪府教育委員会	199203
461	志紀遺跡第7次	大阪府	志紀遺跡発掘調査概要・Ⅲ			大阪府教育委員会	199303
462	志紀遺跡第7次	大阪府	志紀遺跡発掘調査概要・Ⅲ			大阪府教育委員会	199303
463	志紀遺跡第7次	大阪府	志紀遺跡発掘調査概要・Ⅲ			大阪府教育委員会	199303
464	志紀遺跡第7次	大阪府	志紀遺跡発掘調査概要・Ⅲ			大阪府教育委員会	199303
465	西大井遺跡	大阪府	西大井遺跡発掘調査概要1992年度—'92-1区の調査—			大阪府教育委員会	199403
466	西大井遺跡	大阪府	西大井遺跡発掘調査概要1992年度—'92-1区の調査—			大阪府教育委員会	199403
467	七ノ坪遺跡	大阪府	七ノ坪遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2000-6	大阪府教育委員会	200103
468	跡部遺跡	大阪府	跡部遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2001-6	大阪府教育委員会	200203
469	跡部遺跡	大阪府	跡部遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2001-6	大阪府教育委員会	200203
470	跡部遺跡	大阪府	跡部遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2001-6	大阪府教育委員会	200203
471	跡部遺跡	大阪府	跡部遺跡	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2001-6	大阪府教育委員会	200203
472	萱振遺跡第2次	大阪府	萱振遺跡Ⅱ	大阪府埋蔵文化財調査報告書	2005-1	大阪府教育委員会	200512
473	亀井遺跡・城山遺跡	大阪府	亀井・城山			(財)大阪文化財センター	198012
474	瓜生堂遺跡	大阪府	瓜生堂			(財)大阪文化財センター	198003
475	瓜生堂遺跡	大阪府	瓜生堂			(財)大阪文化財センター	198003
476	巨摩庵寺遺跡	大阪府	巨摩・瓜生堂			(財)大阪文化財センター	198103
477	亀井遺跡	大阪府	亀井遺跡			(財)大阪文化財センター	198203
478	亀井遺跡	大阪府	亀井遺跡			(財)大阪文化財センター	198203
479	亀井遺跡	大阪府	亀井			(財)大阪文化財センター	198310

480	若江北遺跡	大阪府	若江北		(財)大阪文化財センター	198309
481	若江北遺跡	大阪府	若江北		(財)大阪文化財センター	198309
482	西岩田遺跡	大阪府	西岩田		(財)大阪文化財センター	198310
483	西岩田遺跡	大阪府	西岩田		(財)大阪文化財センター	198310
484	山賀遺跡	大阪府	山賀(その1)		(財)大阪文化財センター	198309
485	山賀遺跡	大阪府	山賀(その2)		(財)大阪文化財センター	198311
486	山賀遺跡	大阪府	山賀(その2)		(財)大阪文化財センター	198311
487	山賀遺跡	大阪府	山賀(その2)		(財)大阪文化財センター	198311
488	山賀遺跡	大阪府	山賀(その2)		(財)大阪文化財センター	198311
489	山賀遺跡	大阪府	山賀(その3)		(財)大阪文化財センター	198311
490	山賀遺跡	大阪府	山賀(その4)		(財)大阪文化財センター	198410
491	山賀遺跡	大阪府	山賀(その4)		(財)大阪文化財センター	198410
492	山賀遺跡	大阪府	山賀(その4)		(財)大阪文化財センター	198410
493	山賀遺跡	大阪府	山賀(その4)		(財)大阪文化財センター	198410
494	山賀遺跡	大阪府	山賀(その4)		(財)大阪文化財センター	198410
495	山賀遺跡	大阪府	山賀(その5・6)		(財)大阪文化財センター	198410
496	亀井遺跡	大阪府	亀井遺跡Ⅱ		(財)大阪文化財センター	198410
497	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
498	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
499	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
500	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
501	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
502	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その1)		(財)大阪文化財センター	198412
503	佐堂遺跡	大阪府	佐堂(その2) - I		(財)大阪文化財センター	198403
504	新家遺跡	大阪府	新家(その1)		(財)大阪文化財センター	198703
505	太平寺遺跡	大阪府	Ⅵ. 太平寺遺跡		(財)大阪文化財センター	198403
506	太平寺遺跡	大阪府	Ⅵ. 太平寺遺跡		(財)大阪文化財センター	198403
507	太平寺遺跡	大阪府	Ⅵ. 太平寺遺跡		(財)大阪文化財センター	198403
508	太平寺遺跡	大阪府	Ⅵ. 太平寺遺跡		(財)大阪文化財センター	198403
509	友井東遺跡(南側)	大阪府	友井東(その1)		(財)大阪文化財センター	198409
510	友井東遺跡(南側)	大阪府	友井東(その1)		(財)大阪文化財センター	198409
511	友井東遺跡(北側)	大阪府	友井東(その2)		(財)大阪文化財センター	198310
512	友井東遺跡(北側)	大阪府	友井東(その2)		(財)大阪文化財センター	198310
513	友井東遺跡(北側)	大阪府	友井東(その2)		(財)大阪文化財センター	198310
514	美園遺跡	大阪府	美園		(財)大阪文化財センター	198503
515	美園遺跡	大阪府	美園		(財)大阪文化財センター	198503
516	美園遺跡	大阪府	美園		(財)大阪文化財センター	198503
517	美園遺跡	大阪府	美園		(財)大阪文化財センター	198503

518	美園遺跡	大阪府	美園			(財)大阪文化財センター	198503
519	美園遺跡	大阪府	美園			(財)大阪文化財センター	198503
520	美園遺跡	大阪府	美園			(財)大阪文化財センター	198503
521	美園遺跡	大阪府	美園			(財)大阪文化財センター	198503
522	亀井遺跡	大阪府	亀井(その2)			(財)大阪文化財センター	198603
523	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
524	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
525	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
526	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
527	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その2)			(財)大阪文化財センター	198603
528	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
529	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
530	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
531	亀井北遺跡	大阪府	亀井北(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
532	久宝寺遺跡南地区	大阪府	久宝寺南(その2)			(財)大阪文化財センター	198703
533	久宝寺遺跡南地区	大阪府	久宝寺南(その2)			(財)大阪文化財センター	198703
534	城山遺跡	大阪府	城山(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
535	城山遺跡	大阪府	城山(その1)			(財)大阪文化財センター	198603
536	城山遺跡	大阪府	城山(その2)			(財)大阪文化財センター	198603
537	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
538	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
539	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
540	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
541	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
542	城山遺跡	大阪府	城山(その3)			(財)大阪文化財センター	198603
543	小阪遺跡	大阪府	小阪遺跡			(財)大阪文化財センター	199203
544	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	東大阪市所在 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書—第5次—	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	15	(財)大阪府文化財調査研究センター	199609
545	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	東大阪市所在 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書—第5次—	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	15	(財)大阪府文化財調査研究センター	199609
546	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	東大阪市所在 巨摩・若江北遺跡発掘調査報告書—第5次—	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	15	(財)大阪府文化財調査研究センター	199609
547	野々井遺跡	大阪府	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
548	野々井遺跡	大阪府	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
549	野々井遺跡	大阪府	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
550	野々井遺跡	大阪府	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
551	野々井遺跡	大阪府	野々井遺跡Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	20-2	(財)大阪府文化財調査研究センター	199703
552	尺度遺跡	大阪府	尺度遺跡Ⅰ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
553	尺度遺跡	大阪府	尺度遺跡Ⅰ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
554	尺度遺跡	大阪府	尺度遺跡Ⅰ	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	44	(財)大阪府文化財調査研究センター	199907
555	大和川今池遺跡	大阪府	大和川今池遺跡(その3・その4)	(財)大阪府文化財調査研究センター調査報告書	65	(財)大阪府文化財調査研究センター	200109

遺跡一覧表B-1

669	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
670	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
671	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
672	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
673	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
674	池内遺跡	大阪府	池内遺跡	(財)大阪府文化財センター調査報告書	198	(財)大阪府文化財センター	201003
675	橋本遺跡	大阪府	橋本遺跡発掘調査報告書	(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書	30	(財)大阪府埋蔵文化財協会	198810
676	上津島遺跡第5次	大阪府	上津島遺跡 第5次発掘調査報告	豊中市文化財調査報告	41	豊中市教育委員会	199703
677	南郷目代今西氏屋敷	大阪府	大阪府指定史跡／春日大社南郷目代今西氏屋敷	豊中市文化財調査報告	57	豊中市教育委員会	200503
678	蔵人遺跡第17次	大阪府	蔵人遺跡発掘調査報告書Ⅱ			吹田市教育委員会	200903
679	蔵人遺跡第17次	大阪府	蔵人遺跡発掘調査報告書Ⅱ			吹田市教育委員会	200903
680	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
681	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
682	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
683	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
684	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
685	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
686	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
687	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
688	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
689	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
690	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
691	長原遺跡	大阪府	長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI			(財)大阪市文化財協会	200103
692	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
693	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
694	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
695	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
696	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
697	加美遺跡	大阪府	大阪市加美遺跡の基本層序	大阪市文化財協会研究紀要	4	(財)大阪市文化財協会	200103
698	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
699	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
700	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
701	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
702	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
703	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
704	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
705	宰相山遺跡02-3次	大阪府	宰相山遺跡発掘調査報告Ⅰ			(財)大阪市文化財協会	200403
706	大坂城下町跡	大阪府	大坂城下町跡Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200409
707	瓜破遺跡00-8次	大阪府	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ			(財)大阪市文化財協会	200203

708	瓜破遺跡07-1次	大阪府	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ			(財)大阪市文化財協会	200903
709	瓜破遺跡07-1次	大阪府	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ			(財)大阪市文化財協会	200903
710	瓜破遺跡07-1次	大阪府	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ			(財)大阪市文化財協会	200903
711	瓜破遺跡07-1次	大阪府	瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ			(財)大阪市文化財協会	200903
712	瓜破北遺跡04-1・2・3次	大阪府	瓜破北遺跡発掘調査報告Ⅲ			(財)大阪市文化財協会	200603
713	瓜破北遺跡04-1・2・3次	大阪府	瓜破北遺跡発掘調査報告Ⅲ			(財)大阪市文化財協会	200603
714	瓜破北遺跡07-2次	大阪府	瓜破北遺跡発掘調査報告Ⅴ			(財)大阪市文化財協会	200903
715	若江北遺跡	大阪府	若江北遺跡			(財)東大阪市文化財協会	198503
716	若江北遺跡	大阪府	若江北遺跡			(財)東大阪市文化財協会	198503
717	吉田遺跡第1次	大阪府	吉田遺跡第1次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	198912
718	吉田遺跡第1次	大阪府	吉田遺跡第1次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	198912
719	若江遺跡第38次	大阪府	若江遺跡第38次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	199303
720	北島遺跡第1次	大阪府	北島遺跡の耕作地跡と古環境			(財)東大阪市文化財協会	199603
721	瓜生堂遺跡第42次	大阪府	瓜生堂遺跡第42次調査概報			(財)東大阪市文化財協会	199703
722	水走遺跡第3次・鬼虎川遺跡第21次	大阪府	水走遺跡第3次・鬼虎川遺跡第21次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	199703
723	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
724	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
725	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次調査の概要			(財)東大阪市文化財協会	199803
726	鬼虎川遺跡第40次	大阪府	鬼虎川遺跡第40次発掘調査報告	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	1998年度	(財)東大阪市文化財協会	199903
727	鬼虎川遺跡第40次	大阪府	鬼虎川遺跡第40次発掘調査報告	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	1998年度	(財)東大阪市文化財協会	199903
728	北島遺跡第2次	大阪府	北島遺跡第2次発掘調査報告	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	1998年度	(財)東大阪市文化財協会	199903
729	上六万寺遺跡第4次	大阪府	上六万寺遺跡第4次発掘調査報告	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	1998年度	(財)東大阪市文化財協会	199903
730	上六万寺遺跡第4次	大阪府	上六万寺遺跡第4次発掘調査報告	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告	1998年度	(財)東大阪市文化財協会	199903
731	宮ノ下遺跡第10次	大阪府	ビル建設工事に伴う宮ノ下遺跡第10次発掘調査報告書			(財)東大阪市文化財協会	199904
732	鬼虎川遺跡第43次	大阪府	鬼虎川遺跡北部の中・近世耕作地跡			(財)東大阪市文化財協会	200006
733	鬼虎川遺跡第43次	大阪府	鬼虎川遺跡北部の中・近世耕作地跡			(財)東大阪市文化財協会	200006
734	意岐部遺跡第5次	大阪府	店舗建設に伴う意岐部遺跡第5次発掘調査報告書			(財)東大阪市文化財協会	200206
735	水走遺跡第15次	大阪府	水走遺跡第15次発掘調査報告			(財)東大阪市文化財協会	200208
736	鬼虎川遺跡第57次	大阪府	送水管布設工事に伴う鬼虎川遺跡第57次発掘調査報告書			(財)東大阪市文化財協会	200403
737	鬼虎川遺跡第57次	大阪府	送水管布設工事に伴う鬼虎川遺跡第57次発掘調査報告書			(財)東大阪市文化財協会	200403
738	服部遺跡第5次	大阪府	豊中市服部遺跡—第5次調査—			六甲山麓遺跡調査会	199603
739	上板井遺跡	兵庫県	上板井遺跡発掘調査報告書	兵庫県文化財調査報告書	76	兵庫県教育委員会	199003
740	上ノ島遺跡	兵庫県	上ノ島遺跡	兵庫県文化財調査報告書	105	兵庫県教育委員会	199203
741	玉津田中遺跡辻ヶ内地区	兵庫県	玉津田中遺跡—第4分冊(辻ヶ内・居住の調査)—	兵庫県文化財調査報告書	135-4	兵庫県教育委員会	199503
742	玉津田中遺跡竹添地区	兵庫県	玉津田中遺跡—第5分冊(本文編)—竹添地区・池ノ内地区の調査	兵庫県文化財調査報告書	135-5	兵庫県教育委員会	199503
743	下内膳遺跡	兵庫県	下内膳遺跡	兵庫県文化財調査報告書	155	兵庫県教育委員会	199603
744	下内膳遺跡	兵庫県	下内膳遺跡	兵庫県文化財調査報告書	155	兵庫県教育委員会	199603
745	下内膳遺跡	兵庫県	下内膳遺跡	兵庫県文化財調査報告書	155	兵庫県教育委員会	199603
746	楠・荒田町遺跡	兵庫県	楠・荒田町遺跡	兵庫県文化財調査報告書	162	兵庫県教育委員会	199703
747	佃遺跡	兵庫県	佃遺跡	兵庫県文化財調査報告書	176	兵庫県教育委員会	199803
748	佃遺跡	兵庫県	佃遺跡	兵庫県文化財調査報告書	176	兵庫県教育委員会	199803

749	亀田遺跡	兵庫県	亀田遺跡(第1分冊)—亀田遺跡Ⅱ地点の調査—	兵庫県文化財調査報告書	210	兵庫県教育委員会	200011
750	亀田遺跡	兵庫県	亀田遺跡(第1分冊)—亀田遺跡Ⅱ地点の調査—	兵庫県文化財調査報告書	210	兵庫県教育委員会	200011
751	長坂遺跡	兵庫県	長坂遺跡	兵庫県文化財調査報告書	218	兵庫県教育委員会	200103
752	北口町遺跡	兵庫県	北口町遺跡	兵庫県文化財調査報告書	228	兵庫県教育委員会	200203
753	北口町遺跡	兵庫県	北口町遺跡	兵庫県文化財調査報告書	228	兵庫県教育委員会	200203
754	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川遺跡	兵庫県文化財調査報告書	229	兵庫県教育委員会	200203
755	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川遺跡	兵庫県文化財調査報告書	229	兵庫県教育委員会	200203
756	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川遺跡	兵庫県文化財調査報告書	229	兵庫県教育委員会	200203
757	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川遺跡	兵庫県文化財調査報告書	229	兵庫県教育委員会	200203
758	上脇遺跡	兵庫県	上脇遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	233	兵庫県教育委員会	200203
759	上脇遺跡	兵庫県	上脇遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	233	兵庫県教育委員会	200203
760	七日市遺跡	兵庫県	七日市遺跡(Ⅲ) 弥生~平安時代の調査	兵庫県文化財調査報告書	271	兵庫県教育委員会	200403
761	御船遺跡	兵庫県	御船遺跡	兵庫県文化財調査報告書	278	兵庫県教育委員会	200503
762	岩屋遺跡	兵庫県	岩屋遺跡・森本遺跡	兵庫県文化財調査報告書	300	兵庫県教育委員会	200602
763	岩屋遺跡	兵庫県	岩屋遺跡・森本遺跡	兵庫県文化財調査報告書	300	兵庫県教育委員会	200602
764	一品野田遺跡	兵庫県	粟鹿遺跡	兵庫県文化財調査報告書	323	兵庫県教育委員会	200703
765	一品野田遺跡	兵庫県	粟鹿遺跡	兵庫県文化財調査報告書	323	兵庫県教育委員会	200703
766	加都遺跡	兵庫県	加都遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	324	兵庫県教育委員会	200703
767	柴遺跡	兵庫県	柴遺跡	兵庫県文化財調査報告書	360	兵庫県教育委員会	200903
768	坂元遺跡	兵庫県	坂元遺跡Ⅱ	兵庫県文化財調査報告書	366	兵庫県教育委員会	200903
769	戎町遺跡	兵庫県	戎町遺跡 第1次調査概報			神戸市教育委員会	198903
770	戎町遺跡	兵庫県	戎町遺跡 第1次調査概報			神戸市教育委員会	198903
771	垂水・日向遺跡第1次	兵庫県	垂水・日向遺跡 第1, 3, 4次調査			神戸市教育委員会	199203
772	魚崎中町遺跡	兵庫県	神戸市東灘区魚崎中町遺跡(第3次調査)			神戸市教育委員会	199703
773	魚崎中町遺跡	兵庫県	神戸市東灘区魚崎中町遺跡(第3次調査)			神戸市教育委員会	199703
774	白水遺跡第6次	兵庫県	白水遺跡第3・6・7次 高津橋大塚遺跡第1・2次発掘調査報告			神戸市教育委員会	200003
775	玉津田中遺跡第10次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
776	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
777	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
778	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
779	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
780	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
781	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
782	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
783	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
784	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
785	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
786	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
787	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
788	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
789	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
790	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
791	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
792	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
793	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
794	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
795	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
796	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003

797	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
798	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	玉津田中遺跡発掘調査報告書第8・10・12・13・15次調査			神戸市教育委員会	200003
799	若松町遺跡	兵庫県	若松町遺跡			神戸市教育委員会	200003
800	住吉宮町遺跡第20次	兵庫県	住吉宮町遺跡(第19次・20次)			神戸市教育委員会	200103
801	今池尻遺跡第2次	兵庫県	今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200303
802	新方遺跡平松地点第3次	兵庫県	今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200303
803	新方遺跡第44次	兵庫県	今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200303
804	新方遺跡第44次	兵庫県	今池尻遺跡 新方遺跡平松地点 発掘調査報告書			神戸市教育委員会	200303
805	新方遺跡野手西方地点	兵庫県	新方遺跡 野手西方地区発掘調査報告書1			神戸市教育委員会	200303
806	新方遺跡野手西方地点	兵庫県	新方遺跡 野手西方地区発掘調査報告書1			神戸市教育委員会	200303
807	二宮遺跡第2次	兵庫県	二宮遺跡発掘調査報告書—第2次調査—			神戸市教育委員会	200311
808	二葉町遺跡第14次～第21次	兵庫県	二葉町遺跡発掘調査報告書第14次～21次調査			神戸市教育委員会	200803
809	寺田遺跡第95地点	兵庫県	寺田遺跡第95地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	32	芦屋市教育委員会	199909
810	寺田遺跡第95地点	兵庫県	寺田遺跡第95地点発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	32	芦屋市教育委員会	199909
811	若宮遺跡第3地点	兵庫県	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
812	若宮遺跡第4地点	兵庫県	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
813	若宮遺跡第4地点	兵庫県	若宮遺跡(第3・4・10・11・16・17・25・31・32・33・34地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	38	芦屋市教育委員会	200203
814	寺田遺跡第130地点	兵庫県	寺田遺跡発掘調査概要報告書第127・130・132・133地点	芦屋市文化財調査報告	43	芦屋市教育委員会	200203
815	寺田遺跡第128地点	兵庫県	寺田遺跡(第128地点)発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	47	芦屋市教育委員会	200303
816	寺田遺跡第128地点	兵庫県	寺田遺跡(第128地点)発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	47	芦屋市教育委員会	200303
817	寺田遺跡第128地点	兵庫県	寺田遺跡(第128地点)発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	47	芦屋市教育委員会	200303
818	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
819	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
820	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
821	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
822	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
823	前田遺跡第20地点	兵庫県	前田遺跡(第20地点)発掘調査概要報告書	芦屋市文化財調査報告	52	芦屋市教育委員会	200403
824	寺田遺跡第151地点	兵庫県	兵庫県芦屋市寺田遺跡発掘調査報告書 第150～153・157～160・166～168地点	芦屋市文化財調査報告	59	芦屋市教育委員会	200503
825	寺田遺跡第151地点	兵庫県	兵庫県芦屋市寺田遺跡発掘調査報告書 第150～153・157～160・166～168地点	芦屋市文化財調査報告	59	芦屋市教育委員会	200503
826	寺田遺跡第159地点	兵庫県	兵庫県芦屋市寺田遺跡発掘調査報告書 第150～153・157～160・166～168地点	芦屋市文化財調査報告	59	芦屋市教育委員会	200503
827	寺田遺跡第159地点	兵庫県	兵庫県芦屋市寺田遺跡発掘調査報告書 第150～153・157～160・166～168地点	芦屋市文化財調査報告	59	芦屋市教育委員会	200503
828	月若遺跡第96地点	兵庫県	月若遺跡第96地点発掘調査報告書	芦屋市文化財調査報告	76	芦屋市教育委員会	200903
829	思い出遺跡第14区	兵庫県	思い出遺跡群Ⅳ	中町文化財報告	27	中町教育委員会	200203
830	岩屋北町遺跡	兵庫県	岩屋北町遺跡			六甲山麓遺跡調査会	199301
831	多遺跡第10次	奈良県	多遺跡第10次	奈良県遺跡調査概報1986年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	198908
832	平城京右京六条三坊三坪	奈良県	平城京右京六条三坊三坪(薬師寺西)発掘調査報告書	奈良県遺跡調査概報1988年度(第一分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	198908
833	日之出東本町遺跡	奈良県	日之出東本町遺跡	奈良県遺跡調査概報1990年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学研究所	199103

834	城島遺跡	奈良県	城島遺跡発掘調査概報	奈良県遺跡調査概報 1994年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	199503
835	下田味原遺跡第1次	奈良県	香芝市下田味原遺跡第1次— 中和幹線道路整備地業に伴う 発掘調査概報3—	奈良県遺跡調査概報 2001年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200203
836	鴨都波遺跡第17次	奈良県	御所市鴨都波遺跡第17次発掘 調査概報	奈良県遺跡調査概報 2001年度(第三分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200203
837	本郷遺跡群2001	奈良県	大宇陀町本郷遺跡群2001—本 郷・迫間・中之庄・西山所在、遺 物散布地における県営圃場整 備事業に関わる発掘調査報告 —	奈良県遺跡調査概報 2001年度(第三分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200203
838	茗荷櫻谷遺跡	奈良県	茗荷櫻谷遺跡	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第一分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
839	櫛羅遺跡2002—1次調 査	奈良県	櫛羅—県道213号線バイパス工 事に伴う2002年度試掘調査報 告—	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
840	櫛羅遺跡2002—1次調 査	奈良県	櫛羅—県道213号線バイパス工 事に伴う2002年度試掘調査報 告—	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
841	櫛羅遺跡2002—1次調 査	奈良県	櫛羅—県道213号線バイパス工 事に伴う2002年度試掘調査報 告—	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
842	櫛羅遺跡2002—1次調 査	奈良県	櫛羅—県道213号線バイパス工 事に伴う2002年度試掘調査報 告—	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
843	本郷遺跡群2002年度	奈良県	本郷遺跡群2002年度	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
844	飛鳥京跡第150次	奈良県	第150次調査	奈良県遺跡調査概報 2002年度(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200303
845	平城京右京三条三坊 六坪	奈良県	平城京右京三条三坊六坪	奈良県遺跡調査概報 2006年(第一分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200703
846	萩之本遺跡	奈良県	萩之本遺跡(川西町5・7～9区)	奈良県遺跡調査概報 2007年(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200803
847	一町Ⅲ区・Ⅳ区	奈良県	一町Ⅲ区・Ⅳ区	奈良県遺跡調査概報 2007年(第二分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200803
848	飛鳥京跡第160次	奈良県	飛鳥京跡第160次調査	奈良県遺跡調査概報 2008年(第三分冊)		奈良県立橿原考古学 研究所	200912
849	能峠中島遺跡	奈良県	能峠遺跡群Ⅲ	奈良県史跡名勝天然記念 物調査報告	60	奈良県立橿原考古学 研究所	199903
850	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡	奈良県立橿原考古学研究 所調査報告	90	奈良県立橿原考古学 研究所	200403
851	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡	奈良県立橿原考古学研究 所調査報告	90	奈良県立橿原考古学 研究所	200403
852	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡	奈良県立橿原考古学研究 所調査報告	90	奈良県立橿原考古学 研究所	200403
853	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡	奈良県立橿原考古学研究 所調査報告	90	奈良県立橿原考古学 研究所	200403
854	下永東方遺跡	奈良県	下永東方遺跡	奈良県文化財調査報告書	86	奈良県立橿原考古学 研究所	200103
855	下永東城遺跡	奈良県	下永東城遺跡	奈良県文化財調査報告書	103	奈良県立橿原考古学 研究所	200303
856	下永東方遺跡	奈良県	下永東方遺跡Ⅱ	奈良県文化財調査報告書	124	奈良県立橿原考古学 研究所	200803
857	唐古・鍵遺跡	奈良県	唐古・鍵遺跡Ⅰ—範囲確認 調査—特殊遺物・考察編	田原本町文化財調査報告 書	5	田原本町教育委員会	200903
858	唐古・鍵遺跡	奈良県	唐古・鍵遺跡Ⅰ—範囲確認 調査—特殊遺物・考察編	田原本町文化財調査報告 書	5	田原本町教育委員会	200903
859	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡発掘調査報告書			(財)元興寺文化財研 究所	200603
860	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡発掘調査報告書			(財)元興寺文化財研 究所	200603
861	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡発掘調査報告書			(財)元興寺文化財研 究所	200603
862	曲川遺跡	奈良県	曲川遺跡発掘調査報告書			(財)元興寺文化財研 究所	200603
863	布留遺跡	奈良県	布留遺跡三島(里中)地区発掘 調査報告書			埋蔵文化財天理教調 査団	199512
864	布留遺跡	奈良県	布留遺跡三島(里中)地区発掘 調査報告書			埋蔵文化財天理教調 査団	199512
865	布留遺跡	奈良県	布留遺跡三島(里中)地区発掘 調査報告書			埋蔵文化財天理教調 査団	199512
866	布留遺跡	奈良県	布留遺跡三島(里中)地区発掘 調査報告書			埋蔵文化財天理教調 査団	199512
867	野田・藤並地区遺跡	和歌山県	野田・藤並地区遺跡発掘調査 報告書			和歌山県教育委員会	198503

868	田屋遺跡	和歌山県	田屋遺跡発掘調査報告書			(財)和歌山県文化財センター	199003
869	太田・黒田遺跡第1次	和歌山県	太田・黒田遺跡(県1次調査)			(財)和歌山県文化財センター	200703
870	太田・黒田遺跡第1次	和歌山県	太田・黒田遺跡(県1次調査)			(財)和歌山県文化財センター	200703
871	西飯降Ⅱ遺跡	和歌山県	西飯降Ⅱ遺跡, 丁ノ町・妙寺遺跡			(財)和歌山県文化財センター	201003
872	西飯降Ⅱ遺跡	和歌山県	西飯降Ⅱ遺跡, 丁ノ町・妙寺遺跡			(財)和歌山県文化財センター	201003
873	西飯降Ⅱ遺跡	和歌山県	西飯降Ⅱ遺跡, 丁ノ町・妙寺遺跡			(財)和歌山県文化財センター	201003
874	鳴神Ⅴ遺跡	和歌山県	鳴神Ⅴ遺跡 発掘調査概要報告書	和歌山市文化体育振興事業団調査報告書	8	(財)和歌山市文化体育振興事業団	199403
875	岡村遺跡第2次	和歌山県	岡村遺跡 第2次調査			和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団	199903
876	岡村遺跡第2次	和歌山県	岡村遺跡 第2次調査			和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団	199903
877	岡村遺跡第2次	和歌山県	岡村遺跡 第2次調査			和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団	199903
878	岡村遺跡第2次	和歌山県	岡村遺跡 第2次調査			和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団	199903
879	岡村遺跡第2次	和歌山県	岡村遺跡 第2次調査			和歌山市教育委員会・(財)和歌山市文化体育振興事業団	199903
880	妻木法大神遺跡	鳥取県	妻木法大神遺跡	鳥取県教育文化財団調査報告書	81	(財)鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター	200303
881	茶畑六反田遺跡0区	鳥取県	茶畑六反田遺跡(0・5区)	鳥取県教育文化財団調査報告書	94	(財)鳥取県教育文化財団 鳥取県埋蔵文化財センター	200403
882	青谷上寺地遺跡第2次～第7次	鳥取県	青谷上寺地遺跡8	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	10	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200603
883	青谷上寺地遺跡第2次～第7次	鳥取県	青谷上寺地遺跡8	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	10	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200603
884	青谷上寺地遺跡第4・6次	鳥取県	青谷上寺地遺跡8	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	10	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200603
885	青谷上寺地遺跡第7次	鳥取県	青谷上寺地遺跡8	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	10	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200603
886	青谷上寺地遺跡第8次	鳥取県	青谷上寺地遺跡9	鳥取県埋蔵文化財センター調査報告	21	(財)鳥取県埋蔵文化財センター	200803
887	目久美遺跡第5次	鳥取県	目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	25	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
888	目久美遺跡第5次	鳥取県	目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	25	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
889	目久美遺跡第6次	鳥取県	目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	25	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
890	目久美遺跡第6次	鳥取県	目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	25	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
891	目久美遺跡第8次	鳥取県	目久美遺跡Ⅷ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	44	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200303
892	目久美遺跡第10次	鳥取県	目久美遺跡Ⅸ・Ⅹ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	45	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200303
893	目久美遺跡第10次	鳥取県	目久美遺跡Ⅸ・Ⅹ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	45	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200303
894	目久美遺跡第10次	鳥取県	目久美遺跡Ⅸ・Ⅹ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	45	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200303
895	目久美遺跡第10次	鳥取県	目久美遺跡Ⅸ・Ⅹ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	45	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200303
896	目久美遺跡第12次	鳥取県	目久美遺跡ⅩⅡ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	54	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200707

897	目久美遺跡第12次	鳥取県	目久美遺跡ⅩⅡ	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	54	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200707
898	目久美遺跡第15次	鳥取県	目久美遺跡(第15次調査)	(財)米子市教育文化事業団発掘調査報告書	60	(財)米子市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200903
899	坪田遺跡	鳥取県	鳥取県西伯郡大山町坪田遺跡発掘調査報告書	大山町文化財調査報告書	3	大山町教育委員会・フジテクノ有限会社	200707
900	坪田遺跡	鳥取県	鳥取県西伯郡大山町坪田遺跡発掘調査報告書	大山町文化財調査報告書	3	大山町教育委員会・フジテクノ有限会社	200707
901	坪田遺跡	鳥取県	鳥取県西伯郡大山町坪田遺跡発掘調査報告書	大山町文化財調査報告書	3	大山町教育委員会・フジテクノ有限会社	200707
902	奈免羅・西の前遺跡1区	鳥取県	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	八頭町文化財調査報告書	5	(株)島田組	201003
903	奈免羅・西の前遺跡2区	鳥取県	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	八頭町文化財調査報告書	5	(株)島田組	201003
904	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	八頭町文化財調査報告書	5	(株)島田組	201003
905	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	八頭町文化財調査報告書	5	(株)島田組	201003
906	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	八頭町文化財調査報告書	5	(株)島田組	201003
907	富田川河床遺跡第7次	島根県	富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ			島根県教育委員会	198303
908	富田川河床遺跡第7次	島根県	富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ			島根県教育委員会	198303
909	富田川河床遺跡第7次	島根県	富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ			島根県教育委員会	198303
910	富田川河床遺跡第7次	島根県	富田川河床遺跡発掘調査報告書Ⅲ			島根県教育委員会	198303
911	西川津遺跡Ⅱ～Ⅳ区	島根県	西川津遺跡Ⅶ			島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200003
912	西川津遺跡Ⅱ～Ⅳ区	島根県	西川津遺跡Ⅶ			島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200003
913	三田谷Ⅰ遺跡	島根県	三田谷Ⅰ遺跡 vol.3	斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	9	島根県教育委員会	200003
914	古志本郷遺跡	島根県	古志本郷遺跡Ⅴ	斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	26	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200303
915	中野清水遺跡	島根県	大津町北遺跡・中野清水遺跡	一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	5	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200403
916	中野美保遺跡	島根県	中野美保遺跡	一般国道9号出雲バイパス建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	4	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200403
917	青木遺跡	島根県	青木遺跡(中近世編)	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	1	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200403
918	北原本郷遺跡	島根県	北原本郷遺跡Ⅰ	尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200503
919	北原本郷遺跡	島根県	北原本郷遺跡Ⅰ	尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200503
920	北原本郷遺跡	島根県	北原本郷遺跡Ⅰ	尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200503
921	北原本郷遺跡	島根県	北原本郷遺跡Ⅰ	尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200503
922	北原本郷遺跡	島根県	北原本郷遺跡Ⅰ	尾原ダム建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	7	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200503
923	青木遺跡	島根県	青木遺跡Ⅱ	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	Ⅲ	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200603
924	浜寄・地方遺跡	島根県	浜寄・地方遺跡	一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	2	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200603
925	浜寄・地方遺跡	島根県	浜寄・地方遺跡	一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	2	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200603
926	浜寄・地方遺跡	島根県	浜寄・地方遺跡	一般国道9号(益田道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書	2	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200603

927	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	島根県	山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区	国道431号道路改築事業(東林木バイパス)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	Ⅲ	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター	200703
928	夫手遺跡	島根県	手角地区ふるさと農道整備事業にともなう夫手遺跡発掘調査報告書	松江市文化財調査報告書	81	(財)松江市教育文化振興事業団	200003
929	築山遺跡	島根県	寿昌寺遺跡・築山遺跡発掘調査報告書			出雲市教育委員会	200410
930	小山遺跡第3地点第5次	島根県	四絡30号外1線道路改良工事地内小山遺跡第3地点発掘調査報告書			出雲市教育委員会	200503
931	出雲大社境内遺跡	島根県	出雲大社境内遺跡			大社町教育委員会	200403
932	島根大学構内遺跡橋縄手地区	島根県	島根大学構内遺跡第1次調査(橋縄手地区1)	島根大学埋蔵文化財調査研究報告	1	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	199703
933	島根大学構内遺跡京田地区・諸田地区	島根県	島根大学構内遺跡第5・9次調査(京田地区1・諸田地区4)	島根大学埋蔵文化財調査研究報告	4	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	199903
934	島根大学構内遺跡京田地区	島根県	島根大学構内遺跡第12・13次調査(京田地区2・3)	島根大学埋蔵文化財調査研究報告	8	島根大学埋蔵文化財調査研究センター	200503
935	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	39	岡山県教育委員会	198011
936	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	39	岡山県教育委員会	198011
937	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	39	岡山県教育委員会	198011
938	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡1 百間川長谷遺跡 百間川岩間遺跡 百間川当麻遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	46	岡山県教育委員会	198111
939	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡1 百間川長谷遺跡 百間川岩間遺跡 百間川当麻遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	46	岡山県教育委員会	198111
940	百間川兼基遺跡	岡山県	百間川兼基遺跡1 百間川今谷遺跡1	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	51	岡山県教育委員会	198211
941	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	56	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198403
942	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	56	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198403
943	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡2・百間川長谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	59	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198503
944	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡2・百間川長谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	59	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198503
945	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡2・百間川長谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	59	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198503
946	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡2・百間川長谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	59	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198503
947	百間川沢田遺跡	岡山県	百間川沢田遺跡2・百間川長谷遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	59	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198503
948	桑瀬遺跡ほかC散布地	岡山県	桑瀬遺跡ほか 土佐貝塚ほか 美土路遺跡ほか	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	64	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198703
949	樋本遺跡	岡山県	樋本遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	65	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198703
950	樋本遺跡	岡山県	樋本遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	65	建設省岡山河川工事事務所・岡山県教育委員会	198703
951	菅生小学校裏山遺跡	岡山県	菅生小学校裏山遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	81	岡山県古代吉備文化財センター	199303
952	窪木薬師遺跡	岡山県	窪木薬師遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	86	岡山県教育委員会	199303
953	三手遺跡	岡山県	山陽自動車道建設に伴う発掘調査9(本文)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	90	岡山県古代吉備文化財センター	199403
954	三手遺跡	岡山県	山陽自動車道建設に伴う発掘調査9(本文)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	90	岡山県古代吉備文化財センター	199403
955	足守川矢部南向遺跡	岡山県	足守川河川改修工事に伴う発掘調査 足守川矢部南向遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	94	岡山県古代吉備文化財センター	199503
956	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
957	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803

958	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
959	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
960	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
961	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
962	北方中溝遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
963	北方地蔵遺跡	岡山県	北方下沼遺跡・北方横田遺跡・北方中溝遺跡・北方地蔵遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	126	岡山県古代吉備文化財センター	199803
964	加茂政所遺跡	岡山県	加茂政所遺跡 高松原古才遺跡 立田遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	138	岡山県古代吉備文化財センター	199903
965	加茂政所遺跡	岡山県	加茂政所遺跡 高松原古才遺跡 立田遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	138	岡山県古代吉備文化財センター	199903
966	加茂政所遺跡	岡山県	加茂政所遺跡 高松原古才遺跡 立田遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	138	岡山県古代吉備文化財センター	199903
967	田益田中(国立岡山病院)遺跡	岡山県	田益田中(国立岡山病院)遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	141	岡山県古代吉備文化財センター	199903
968	津寺一軒家遺跡	岡山県	津寺三本木遺跡 津寺一軒屋遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	142	岡山県古代吉備文化財センター	199903
969	津島遺跡	岡山県	津島遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	145	岡山県古代吉備文化財センター	199903
970	北方地蔵遺跡・北方藪ノ内遺跡	岡山県	北方地蔵遺跡2・北方藪ノ内遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	149	岡山県古代吉備文化財センター	200002
971	北方地蔵遺跡・北方藪ノ内遺跡	岡山県	北方地蔵遺跡2・北方藪ノ内遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	149	岡山県古代吉備文化財センター	200002
972	百間川原尾島遺跡	岡山県	百間川原尾島遺跡6	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	179	岡山県古代吉備文化財センター	200402
973	郷ノ溝遺跡	岡山県	新邸遺跡・郷ノ溝遺跡・仏生田遺跡・掛無堂遺跡・川入遺跡・中撫川遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	182	岡山県古代吉備文化財センター	200403
974	久田原遺跡	岡山県	久田原遺跡・久田原古墳群(第1分冊)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	184	岡山県古代吉備文化財センター	200403
975	久田原遺跡	岡山県	久田原遺跡・久田原古墳群(第1分冊)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	184	岡山県古代吉備文化財センター	200403
976	久田原遺跡	岡山県	久田原遺跡・久田原古墳群(第1分冊)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	184	岡山県古代吉備文化財センター	200403
977	久田原遺跡	岡山県	久田原遺跡・久田原古墳群(第1分冊)	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	184	岡山県古代吉備文化財センター	200403
978	伊福定国前遺跡	岡山県	伊福定国前遺跡2	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	188	岡山県古代吉備文化財センター	200502
979	夏栗遺跡	岡山県	夏栗遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	194	岡山県古代吉備文化財センター	200503
980	宮南遺跡	岡山県	中島遺跡・宮南遺跡・国長遺跡・天神河原遺跡	岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	221	岡山県古代吉備文化財センター	200903
981	三手(庄内幼稚園)遺跡	岡山県	三手(庄内幼稚園)遺跡発掘調査報告			岡山市教育委員会・岡山市遺跡調査団	198103
982	三手(庄内幼稚園)遺跡	岡山県	三手(庄内幼稚園)遺跡発掘調査報告			岡山市教育委員会・岡山市遺跡調査団	198103
983	南方(国立病院)遺跡	岡山県	南方(国立病院)遺跡発掘調査報告			岡山市教育委員会・岡山市遺跡調査団	198103
984	西祖橋本(御休幼稚園)遺跡	岡山県	西祖山方前遺跡・西祖橋本(御休幼稚園)遺跡			岡山市教育委員会	199403
985	岡山城跡本丸下の段	岡山県	史跡保存整備事業 史跡岡山城跡本丸下の段発掘調査報告			岡山市教育委員会	200103
986	吉備津奥田遺跡	岡山県	吉備津杉尾西遺跡・吉備津奥田遺跡			岡山市教育委員会(岡山市埋蔵文化財センター)	201003
987	吉備津奥田遺跡	岡山県	吉備津杉尾西遺跡・吉備津奥田遺跡			岡山市教育委員会(岡山市埋蔵文化財センター)	201003
988	吉備津奥田遺跡	岡山県	吉備津杉尾西遺跡・吉備津奥田遺跡			岡山市教育委員会(岡山市埋蔵文化財センター)	201003
989	熊山田遺跡	岡山県	熊山田遺跡	邑久町埋蔵文化財発掘調査報告	1	邑久町教育委員会	200403
990	備前原遺跡	岡山県	備前原遺跡	御津町埋蔵文化財発掘調査報告	10	御津町教育委員会	200203
991	備前原遺跡	岡山県	備前原遺跡	御津町埋蔵文化財発掘調査報告	10	御津町教育委員会	200203
992	津島岡大遺跡第3次	岡山県	津島岡大遺跡3—第3次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	5	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199203
993	津島岡大遺跡第3次	岡山県	津島岡大遺跡3—第3次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	5	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199203

994	津島岡大遺跡第3次	岡山県	津島岡大遺跡3—第3次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	5	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199203
995	津島岡大遺跡第5次	岡山県	津島岡大遺跡4—第5次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	7	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199403
996	津島岡大遺跡第5次	岡山県	津島岡大遺跡4—第5次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	7	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199403
997	津島岡大遺跡第6次	岡山県	津島岡大遺跡6—第6・7次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199512
998	津島岡大遺跡第6次	岡山県	津島岡大遺跡6—第6・7次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199512
999	津島岡大遺跡第6次	岡山県	津島岡大遺跡6—第6・7次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	9	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199512
1000	津島岡大遺跡第13次	岡山県	津島岡大遺跡8—第13次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	12	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	199703
1001	津島岡大遺跡第10次	岡山県	津島岡大遺跡11—第10・12次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200303
1002	津島岡大遺跡第12次	岡山県	津島岡大遺跡11—第10・12次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200303
1003	津島岡大遺跡第12次	岡山県	津島岡大遺跡11—第10・12次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200303
1004	津島岡大遺跡第12次	岡山県	津島岡大遺跡11—第10・12次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200303
1005	津島岡大遺跡第12次	岡山県	津島岡大遺跡11—第10・12次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	16	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200303
1006	津島岡大遺跡第27次	岡山県	津島岡大遺跡13—第27次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	18	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200305
1007	津島岡大遺跡第15次	岡山県	津島岡大遺跡14—第15次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	19	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200402
1008	津島岡大遺跡第15次	岡山県	津島岡大遺跡14—第15次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	19	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200402
1009	津島岡大遺跡第15次	岡山県	津島岡大遺跡14—第15次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	19	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200402
1010	津島岡大遺跡第15次	岡山県	津島岡大遺跡14—第15次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	19	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200402
1011	津島岡大遺跡第23次・第24次	岡山県	津島岡大遺跡17—第23・24次調査—	岡山大学構内遺跡発掘調査報告	22	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	200603
1012	西東子遺跡	広島県	西東子遺跡発掘調査報告書	文化財センター調査報告書	7	(財)東広島市教育文化振興事業団文化財センター	199603
1013	御領遺跡第99-1次	広島県	神辺町内遺跡発掘調査概要1999年度	神辺町埋蔵文化財調査報告	24	神辺町教育委員会	200003
1014	上東遺跡	山口県	上東遺跡Ⅱ	山口市埋蔵文化財調査報告	83	山口市教育委員会	200303
1015	延行条里遺跡ほか	山口県	綾羅木川下流域の地域開発史			下関市教育委員会	199003
1016	延行条里遺跡ほか	山口県	綾羅木川下流域の地域開発史			下関市教育委員会	199003
1017	延行条里遺跡ほか	山口県	綾羅木川下流域の地域開発史			下関市教育委員会	199003
1018	吉田馬場遺跡	山口県	吉田馬場遺跡	下関市埋蔵文化財調査報告書	43	下関市教育委員会	199203
1019	吉田馬場遺跡	山口県	吉田馬場遺跡	下関市埋蔵文化財調査報告書	43	下関市教育委員会	199203
1020	吉田馬場遺跡	山口県	吉田馬場遺跡	下関市埋蔵文化財調査報告書	43	下関市教育委員会	199203
1021	周防国府跡第107次	山口県	第107次(HD地区)調査	防府市埋蔵文化財調査概要	9901	防府市教育委員会	199903
1022	庄・蔵本遺跡第10次	徳島県	庄・蔵本遺跡1	徳島大学埋蔵文化財調査報告書	1	徳島大学埋蔵文化財調査室	199803
1023	庄遺跡	徳島県	庄(庄・蔵本)遺跡			徳島県教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室	200503
1024	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1025	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1026	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1027	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1028	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1029	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1030	下川津遺跡	香川県	下川津遺跡—第2分冊—	瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	7	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199003
1031	東山崎・水田遺跡	香川県	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 東山崎・水田遺跡			(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199211

1032	川津一ノ又遺跡	香川県	川津一ノ又遺跡 I	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	26	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199703
1033	小山・南谷遺跡	香川県	小山・南谷遺跡 I			(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199708
1034	川津一ノ又遺跡	香川県	川津一ノ又遺跡 II	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199810
1035	川津一ノ又遺跡	香川県	川津一ノ又遺跡 II	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	30	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199810
1036	中間西井坪遺跡	香川県	中間西井坪遺跡 II 本文編	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	32	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199903
1037	川津川西遺跡	香川県	川津川西遺跡・飯山一本松遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	33	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199910
1038	川津川西遺跡	香川県	川津川西遺跡・飯山一本松遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	33	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	199910
1039	鴨部・川田遺跡	香川県	鴨部・川田遺跡 II (第1分冊)	高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	9	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200010
1040	原間遺跡	香川県	原間遺跡(第1分冊)	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	39	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200203
1041	原間遺跡	香川県	原間遺跡(第1分冊)	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	39	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200203
1042	原間遺跡	香川県	原間遺跡(第1分冊)	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	39	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200203
1043	池の奥遺跡	香川県	池の奥遺跡・金毘羅山遺跡 II	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	46	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200310
1044	善門池西遺跡	香川県	善門池西遺跡	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	50	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200403
1045	成重遺跡	香川県	成重遺跡 I 第1分冊	四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	47	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	200403
1046	原間遺跡	香川県	原間遺跡			(財)香川県埋蔵文化財センター	200503
1047	成重遺跡	香川県	成重遺跡 II 第1分冊			(財)香川県埋蔵文化財センター	200503
1048	成重遺跡	香川県	成重遺跡 II 第1分冊			(財)香川県埋蔵文化財センター	200503
1049	成重遺跡	香川県	成重遺跡 II 第1分冊			(財)香川県埋蔵文化財センター	200503
1050	竹元遺跡	香川県	竹元遺跡			(財)香川県埋蔵文化財センター	200611
1051	鹿伏・中所遺跡	香川県	鹿伏・中所遺跡 I			(財)香川県埋蔵文化財センター	200801
1052	鹿伏・中所遺跡	香川県	鹿伏・中所遺跡 I			(財)香川県埋蔵文化財センター	200801
1053	奥白方中落遺跡	香川県	中東遺跡2 奥白方中落遺跡 奥白方南原遺跡			(財)香川県埋蔵文化財センター	200802
1054	本郷遺跡	香川県	本郷遺跡 川原遺跡			(財)香川県埋蔵文化財センター	200811
1055	浴・松ノ木遺跡	香川県	浴・松ノ木遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	23	高松市教育委員会	199403
1056	浴・松ノ木遺跡	香川県	浴・松ノ木遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	23	高松市教育委員会	199403
1057	居石遺跡	香川県	居石遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	30	高松市教育委員会	199510
1058	弘福寺領山田郡田図比定地ほか	香川県	讃岐国弘福寺領の調査	高松市埋蔵文化財調査報告	37	高松市教育委員会	199903
1059	川南・西遺跡	香川県	川南・西遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	38	高松市教育委員会	199903
1060	上西原遺跡	香川県	上西原遺跡 附 汲仏遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	47	高松市教育委員会	200003
1061	凹原遺跡	香川県	凹原遺跡	高松市埋蔵文化財調査報告	56	高松市教育委員会	200112
1062	中の池遺跡第11次	香川県	中の池遺跡 11次			丸亀市教育委員会・ (財)元興寺文化財研究所	200503

1063	中の池遺跡第11次	香川県	中の池遺跡 11次			丸亀市教育委員会・ (財)元興寺文化財研 究所	200503
1064	中の池遺跡第11次	香川県	中の池遺跡 11次			丸亀市教育委員会・ (財)元興寺文化財研 究所	200503
1065	中の池遺跡第11次	香川県	中の池遺跡 11次			丸亀市教育委員会・ (財)元興寺文化財研 究所	200503
1066	福角遺跡	愛媛県	福角古墳・福角遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	50	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	199403
1067	阿方遺跡	愛媛県	阿方遺跡・矢田八反坪遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	84	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200003
1068	阿方遺跡	愛媛県	阿方遺跡・矢田八反坪遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	84	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200003
1069	矢田八反坪遺跡	愛媛県	阿方遺跡・矢田八反坪遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	84	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200003
1070	矢田八反坪遺跡	愛媛県	阿方遺跡・矢田八反坪遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	84	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200003
1071	森松遺跡	愛媛県	南高井遺跡・森松遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	85	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200010
1072	土居窪遺跡第2次	愛媛県	土居窪遺跡2次 祝谷畑中遺跡 祝谷本村遺跡2次	埋蔵文化財発掘調査報告 書	101	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200212
1073	猿川西ノ森遺跡	愛媛県	猿川西ノ森遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	147	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200803
1074	此花町遺跡	愛媛県	此花町遺跡	埋蔵文化財発掘調査報告 書	155	(財)愛媛県埋蔵文化 財調査センター	200904
1075	大淵遺跡第3次	愛媛県	大淵遺跡—第3次調査—	松山市文化財調査報告書	78	松山市教育委員会・ (財)松山市生涯学習 振興財団埋蔵文化財 センター	200003
1076	大淵遺跡第3次	愛媛県	大淵遺跡—第3次調査—	松山市文化財調査報告書	78	松山市教育委員会・ (財)松山市生涯学習 振興財団埋蔵文化財 センター	200003
1077	柳田遺跡	高知県	柳田遺跡	高知県埋蔵文化財発掘調 査報告書	17	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	199403
1078	柳田遺跡	高知県	柳田遺跡	高知県埋蔵文化財発掘調 査報告書	17	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	199403
1079	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	53	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	200007
1080	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	53	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	200007
1081	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	53	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	200007
1082	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	53	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	200007
1083	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県	具同中山遺跡群Ⅱ-2	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	53	(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター	200007
1084	田村遺跡群C2区	高知県	田村遺跡群Ⅱ 第2分冊	高知県埋蔵文化財セン ター発掘調査報告書	85	(財)高知県埋蔵文化 財センター	200403
1085	下林西田遺跡	福岡県	下林西田遺跡	福岡県文化財調査報告書	132	福岡県教育委員会	199803
1086	貝元遺跡	福岡県	貝元遺跡Ⅰ			福岡県教育委員会	199803
1087	貝元遺跡	福岡県	貝元遺跡Ⅱ(上巻)			福岡県教育委員会	199903
1088	中町裏遺跡	福岡県	中町裏遺跡	九州横断自動車道関係埋 蔵文化財調査報告	21	福岡県教育委員会	199103
1089	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	辻垣畠田・長通遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財 調査報告	2	福岡県教育委員会	199403
1090	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	辻垣畠田・長通遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財 調査報告	2	福岡県教育委員会	199403
1091	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	辻垣畠田・長通遺跡	椎田道路関係埋蔵文化財 調査報告	2	福岡県教育委員会	199403
1092	鷹取五反田遺跡	福岡県	鷹取五反田遺跡Ⅰ 稲崎A・B 遺跡	一般国道210号 浮羽バイ パス関係埋蔵文化財調査 報告	9	福岡県教育委員会	199803
1093	船越高原A遺跡	福岡県	船越高原A遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイ パス関係埋蔵文化財調査 報告	15	福岡県教育委員会	200103
1094	大的遺跡	福岡県	大的遺跡Ⅱ	一般国道210号 浮羽バイ パス関係埋蔵文化財調査 報告	21	福岡県教育委員会	200403
1095	堂畑遺跡	福岡県	堂畑遺跡Ⅲ	一般国道210号 浮羽バイ パス関係埋蔵文化財調査 報告	23	福岡県教育委員会	200503
1096	那珂君休遺跡第2次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅱ	福岡市埋蔵文化財調査報 告書	106	福岡市教育委員会	198403

1097	那珂久平遺跡	福岡県	那珂久平遺跡Ⅰ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	133	福岡市教育委員会	198603
1098	那珂久平遺跡	福岡県	那珂久平遺跡Ⅰ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	133	福岡市教育委員会	198603
1099	那珂君休遺跡第3次(那珂久平遺跡)	福岡県	那珂久平遺跡Ⅱ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	163	福岡市教育委員会	198703
1100	那珂君休遺跡第3次(那珂久平遺跡)	福岡県	那珂久平遺跡Ⅱ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	163	福岡市教育委員会	198703
1101	那珂君休遺跡第4次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅳ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	208	福岡市教育委員会	198903
1102	那珂君休遺跡第4次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅳ	福岡市埋蔵文化財調査報告書	208	福岡市教育委員会	198903
1103	岩本遺跡	福岡県	岩本遺跡—岩本遺跡群第3次調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	342	福岡市教育委員会	199303
1104	比恵遺跡群第41次	福岡県	比恵遺跡群(15)—比恵遺跡群第41次・49次発掘調査報告書	福岡市埋蔵文化財調査報告書	401	福岡市教育委員会	199503
1105	吉武遺跡群第2次V・VI区	福岡県	吉武遺跡群区	福岡市埋蔵文化財調査報告書	514	福岡市教育委員会	199703
1106	吉武遺跡群第2次区	福岡県	吉武遺跡群区	福岡市埋蔵文化財調査報告書	514	福岡市教育委員会	199703
1107	那珂君休遺跡第7次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅶ—那珂君休遺跡第7・8次発掘調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	587	福岡市教育委員会	199803
1108	那珂君休遺跡第7次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅶ—那珂君休遺跡第7・8次発掘調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	587	福岡市教育委員会	199803
1109	那珂君休遺跡第8次	福岡県	那珂君休遺跡Ⅶ—那珂君休遺跡第7・8次発掘調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	587	福岡市教育委員会	199803
1110	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1111	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1112	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1113	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1114	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1115	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1116	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1117	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第20集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	601	福岡市教育委員会	199903
1118	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県	東比恵三丁目遺跡	福岡市埋蔵文化財調査報告書	636	福岡市教育委員会	200003
1119	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県	東比恵三丁目遺跡	福岡市埋蔵文化財調査報告書	636	福岡市教育委員会	200003
1120	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県	東比恵三丁目遺跡	福岡市埋蔵文化財調査報告書	636	福岡市教育委員会	200003
1121	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第21集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	640	福岡市教育委員会	200003
1122	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第21集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	640	福岡市教育委員会	200003
1123	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第21集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	640	福岡市教育委員会	200003
1124	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第21集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	640	福岡市教育委員会	200003
1125	板付周辺遺跡G-7c区	福岡県	福岡市板付周辺遺跡調査報告書第22集	福岡市埋蔵文化財調査報告書	680	福岡市教育委員会	200103
1126	井相田D遺跡第1次	福岡県	井相田D遺跡—第1・3次調査—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	701	福岡市教育委員会	200203
1127	元岡・桑原遺跡群第2次	福岡県	元岡・桑原遺跡群1—第2次調査の報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	722	福岡市教育委員会	200203
1128	雀居遺跡第13次	福岡県	雀居遺跡9	福岡市埋蔵文化財調査報告書	748	福岡市教育委員会	200303
1129	雀居遺跡第13次	福岡県	雀居遺跡9	福岡市埋蔵文化財調査報告書	748	福岡市教育委員会	200303
1130	笠拔遺跡第1次・第2次	福岡県	笠拔遺跡—第1・2次調査報告—	福岡市埋蔵文化財調査報告書	752	福岡市教育委員会	200303
1131	金山遺跡Ⅱ区	福岡県	金山遺跡Ⅱ区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	122	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199203
1132	金山遺跡Ⅱ区	福岡県	金山遺跡Ⅱ区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	122	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199203
1133	力キ遺跡	福岡県	力キ遺跡(弥生時代編)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	161	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199503

1134	金山遺跡0区	福岡県	金山遺跡0・IV区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	212	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
1135	金山遺跡0区	福岡県	金山遺跡0・IV区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	212	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	199803
1136	長野フンデ遺跡	福岡県	長野フンデ遺跡	北九州市埋蔵文化財調査報告書	252	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200003
1137	長野小西田遺跡	福岡県	長野小西田遺跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書	262	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200103
1138	長野小西田遺跡	福岡県	長野小西田遺跡2	北九州市埋蔵文化財調査報告書	262	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200103
1139	長野尾登遺跡第2地点E～H区	福岡県	長野尾登遺跡第2地点E～H区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	286	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200203
1140	長野尾登遺跡第2地点E～H区	福岡県	長野尾登遺跡第2地点E～H区	北九州市埋蔵文化財調査報告書	286	(財)北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室	200203
1141	長野角屋敷遺跡4(第7地点)	福岡県	長野角屋敷遺跡4(第7地点)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	345	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200603
1142	長野尾登遺跡第2地点	福岡県	長野尾登遺跡第2地点(L区)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	396	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	200803
1143	長野尾登遺跡第2地点(A・B地点)	福岡県	長野尾登遺跡第2地点(A・B地点)	北九州市埋蔵文化財調査報告書	436	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	201003
1144	能行遺跡第3地点	福岡県	能行遺跡第3地点	北九州市埋蔵文化財調査報告書	443	(財)北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室	201003
1145	小郡川原田遺跡	福岡県	小郡川原田遺跡Ⅱ	小郡市文化財調査報告書	163	小郡市教育委員会	200203
1146	三沢南崎遺跡	福岡県	三沢南崎遺跡2	小郡市文化財調査報告書	241	小郡市教育委員会	200903
1147	三沢南崎遺跡	福岡県	三沢南崎遺跡2	小郡市文化財調査報告書	241	小郡市教育委員会	200903
1148	大宰府条坊跡第234次	福岡県	大宰府条坊跡29	太宰府市の文化財	83	太宰府市教育委員会・玉川文化財研究所	200505
1149	筑前国分寺跡第26次	福岡県	筑前国分寺跡3	太宰府市の文化財	106	太宰府市教育委員会	200901
1150	天田遺跡	福岡県	大荒遺跡・天田遺跡	春日市文化財調査報告書	30	春日市教育委員会	200103
1151	天田遺跡	福岡県	大荒遺跡・天田遺跡	春日市文化財調査報告書	30	春日市教育委員会	200103
1152	大坪遺跡	福岡県	大坪遺跡	春日市文化財調査報告書	31	春日市教育委員会	200103
1153	潤・巻丁田遺跡	福岡県	潤・巻丁田遺跡	前原町文化財調査報告書	41	前原町教育委員会	1992
1154	半田新田遺跡	佐賀県	半田新田遺跡	唐津市埋蔵文化財調査報告書	100	唐津市教育委員会	200103
1155	半田新田遺跡	佐賀県	半田新田遺跡	唐津市埋蔵文化財調査報告書	100	唐津市教育委員会	200103
1156	中原遺跡第6次	佐賀県	中原遺跡(2)	唐津市埋蔵文化財調査報告書	129	唐津市教育委員会	200603
1157	蔵上遺跡	佐賀県	蔵上遺跡Ⅱ	鳥栖市文化財調査報告書	60	鳥栖市教育委員会	200003
1158	蔵上遺跡	佐賀県	蔵上遺跡Ⅱ	鳥栖市文化財調査報告書	60	鳥栖市教育委員会	200003
1159	稗田原遺跡	長崎県	稗田原遺跡Ⅲ	長崎県文化財調査報告書	152	長崎県教育委員会	199903
1160	車出遺跡	長崎県	車出遺跡	原の辻遺跡調査事務所調査報告書	8	長崎県教育委員会	199803
1161	梅ノ木遺跡	熊本県	梅ノ木遺跡—熊本県菊池郡菊陽地区県営園場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告—	熊本県文化財調査報告	62	熊本県教育委員会	198303
1162	七地水田遺跡	熊本県	七地水田遺跡	熊本県文化財調査報告	101	熊本県教育委員会	198901
1163	上片町水田遺跡	熊本県	上片町水田遺跡	熊本県文化財調査報告	109	熊本県教育委員会	198910
1164	古麓能寺遺跡	熊本県	古麓能寺遺跡・古麓城下町遺跡	熊本県文化財調査報告	216	熊本県教育委員会	200309
1165	柳町遺跡第4次～第6次	熊本県	柳町遺跡Ⅱ	熊本県文化財調査報告	218	熊本県教育委員会	200403
1166	山王遺跡第1次	熊本県	山王遺跡			熊本市教育委員会	200803
1167	キリシタン寺院跡	熊本県	宮地年神遺跡 キリシタン寺院跡 宮地池尻遺跡	八代市文化財調査報告書	20	八代市教育委員会	200303
1168	宮地池尻遺跡	熊本県	宮地年神遺跡 キリシタン寺院跡 宮地池尻遺跡	八代市文化財調査報告書	20	八代市教育委員会	200303
1169	宮地年神遺跡	熊本県	宮地年神遺跡	八代市文化財調査報告書	31	八代市教育委員会	200603
1170	宮地池尻遺跡	熊本県	宮地池尻遺跡	八代市文化財調査報告書	33	八代市教育委員会	200603
1171	日田条里遺跡群	大分県	日田条里遺跡群 佐寺横穴墓群 大迫遺跡 白岩遺跡 下綾垣遺跡			大分県教育委員会	199703
1172	三和教田遺跡C地点	大分県	三和教田遺跡C地点	大分県文化財調査報告書	98	大分県教育委員会	199703
1173	龍頭遺跡	大分県	龍頭遺跡	大分県文化財調査報告書	102	大分県教育委員会	199903
1174	龍頭遺跡	大分県	龍頭遺跡	大分県文化財調査報告書	102	大分県教育委員会	199903
1175	毛井遺跡A地区	大分県	毛井遺跡A地区	大分県文化財調査報告書	121	大分県教育委員会	200103
1176	井ノ久保遺跡	大分県	井ノ久保遺跡発掘調査報告書			大分市教育委員会	200003

1177	賀来西遺跡	大分県	賀来西遺跡第1次・第2次発掘調査報告書	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	53	大分市教育委員会	200410
1178	賀来西遺跡	大分県	賀来西遺跡第1次・第2次発掘調査報告書	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	53	大分市教育委員会	200410
1179	玉沢地区条里跡第3次	大分県	玉沢地区条里跡第3次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	59	大分市教育委員会	200503
1180	玉沢地区条里跡第3次	大分県	玉沢地区条里跡第3次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	59	大分市教育委員会	200503
1181	玉沢地区条里跡第3次	大分県	玉沢地区条里跡第3次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	59	大分市教育委員会	200503
1182	玉沢地区条里跡第3次	大分県	玉沢地区条里跡第3次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	59	大分市教育委員会	200503
1183	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1184	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1185	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1186	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1187	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1188	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1189	玉沢地区条里跡第8次	大分県	玉沢地区条里跡第8次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	60	大分市教育委員会	200503
1190	下郡遺跡群第25次	大分県	下郡遺跡群Ⅲ	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	61	大分市教育委員会	200503
1191	宮苑井ノ口遺跡第2次・第3次	大分県	宮苑井ノ口遺跡第2次・第3次発掘調査報告書	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	62	大分市教育委員会	200503
1192	玉沢地区条里跡第17次	大分県	玉沢地区条里跡第17次調査報告	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	70	大分市教育委員会	200701
1193	玉沢地区条里跡第9次	大分県	玉沢地区条里跡 第9次調査報告書	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	75	大分市教育委員会	200703
1194	玉沢地区条里跡第9次	大分県	玉沢地区条里跡 第9次調査報告書	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	75	大分市教育委員会	200703
1195	大道遺跡群	大分県	大道遺跡群3	大分市埋蔵文化財発掘調査報告書	99	大分市教育委員会	201003
1196	大肥遺跡A-1区	大分県	大肥遺跡 I —A-1区の調査の記録—	日田市埋蔵文化財調査報告書	50	日田市教育委員会	200403
1197	大肥遺跡A-1区	大分県	大肥遺跡 I —A-1区の調査の記録—	日田市埋蔵文化財調査報告書	50	日田市教育委員会	200403
1198	大肥遺跡A-1区	大分県	大肥遺跡 I —A-1区の調査の記録—	日田市埋蔵文化財調査報告書	50	日田市教育委員会	200403
1199	平田迫遺跡	宮崎県	平田迫遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	29	宮崎県埋蔵文化財センター	200003
1200	町屋敷遺跡	宮崎県	町屋敷遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	39	宮崎県埋蔵文化財センター	200103
1201	町屋敷遺跡	宮崎県	町屋敷遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	39	宮崎県埋蔵文化財センター	200103
1202	嫁坂遺跡	宮崎県	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
1203	嫁坂遺跡	宮崎県	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
1204	嫁坂遺跡	宮崎県	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
1205	嫁坂遺跡	宮崎県	母智丘谷遺跡・畑田遺跡・嫁坂遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	63	宮崎県埋蔵文化財センター	200203
1206	山口遺跡第2地点	宮崎県	山口遺跡第2地点	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	99	宮崎県埋蔵文化財センター	200502
1207	旭2丁目遺跡	宮崎県	旭2丁目遺跡	宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書	183	宮崎県埋蔵文化財センター	200901
1208	古屋敷遺跡	宮崎県	東川北地区遺跡群 本文編 手仕山遺跡 古屋敷遺跡 内牧遺跡 彦山第5遺跡	えびの市埋蔵文化財調査報告書	41	えびの市教育委員会	200503
1209	江内谷遺跡	宮崎県	江内谷遺跡	都城市文化財調査報告書	59	都城市教育委員会	200303
1210	坂元A遺跡	宮崎県	坂元A遺跡 坂元B遺跡	都城市文化財調査報告書	71	都城市教育委員会	200603
1211	坂元A遺跡	宮崎県	坂元A遺跡 坂元B遺跡	都城市文化財調査報告書	71	都城市教育委員会	200603
1212	宮田遺跡第1次	宮崎県	岩吉田遺跡 宮田遺跡	都城市文化財調査報告書	74	都城市教育委員会	200603
1213	早馬遺跡	宮崎県	早馬遺跡	都城市文化財調査報告書	84	都城市教育委員会	200803
1214	早馬遺跡	宮崎県	早馬遺跡	都城市文化財調査報告書	84	都城市教育委員会	200803
1215	早馬遺跡	宮崎県	早馬遺跡	都城市文化財調査報告書	84	都城市教育委員会	200803
1216	平田遺跡C地点	宮崎県	横市地区平田遺跡群平田遺跡A地点・B地点・C地点(第2分冊C地点・自然科学分析)	都城市文化財調査報告書	87	都城市教育委員会	200803
1217	本御内遺跡	鹿児島県	本御内遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	45	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200203

遺跡一覧表B-1

1218	京田遺跡	鹿児島県	京田遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	81	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200503
1219	京田遺跡	鹿児島県	京田遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	81	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200503
1220	京田遺跡	鹿児島県	京田遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	81	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200503
1221	上水流遺跡	鹿児島県	上水流遺跡1 縄文時代中期後半から弥生時代編	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	113	鹿児島県立埋蔵文化財センター	200703
1222	上水流遺跡	鹿児島県	上水流遺跡4	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書	150	鹿児島県立埋蔵文化財センター	201003
1223	中島ノ下遺跡	鹿児島県	中島ノ下遺跡発掘調査報告書	指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書	7	指宿市教育委員会	199003
1224	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島県	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書	2	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	200603
1225	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島県	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島大学埋蔵文化財調査室調査報告書	2	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	200603

遺跡一覧表 B-2

洪水痕跡の検出位置
相対年代

番号	遺跡	都道府県	検出位置		報告書記載内容・該当ページ	洪水痕跡の 形成年代(報告書)	備考
			調査区 など	層など			
1	滝里4遺跡	北海道			p10:住居構築面となる土層は、I ₃ -568-24区沢地形の最下位にある黒色腐植帯に連続する層位である。この沢地形では2枚目の黒色腐植帯からも植物が出土するが、斜面上部からの流れ込みとみられる。この2枚の腐植帯間が遺物包含層であるが、竪穴の堀り上げ土などがあり、土層堆積は一定していない。また、竪穴上部や沢地形など2枚目の黒色腐植帯下のくぼ地に広範囲に黄色粘土などが堆積しており、これらは住居廃絶後の氾濫堆積物であり、基本的に無遺物層である。(後略)p205:本遺跡で確認した竪穴住居跡19軒は縄文時代早期中葉の時期に限定されるが、土坑、Tピットについては時期が定かでない。	▼縄文早期中葉。	
2	山崎4遺跡	北海道			p399:縄文時代中期後半の大形の竪穴住居跡であるH-3は集落の竪穴の多い地点から北側に離れた構築されていた。その覆土に埋められていた完形に近い土器は竪穴放棄後、間の無いものと考えられるが、既に覆土中位まで埋まっていた事を意味する。覆土は自然堆積を示し、沢に近いことや南側で北から南に緩斜面を流れたような多量の礫の集まった列沢が地形のうねりと一致して数条出土している。土石流や洪水が想定され、このような条件の悪い場所に大形住居が立てられたことについて検討する必要がある。	▼縄文中期後半。	
3	上台1遺跡	北海道			p4:支流に面した調査範囲両端の斜面部において土石流による堆積物が確認された。(後略)p5:(前略)今回検出されたほどの堆積物を残す土石流が、近接する地域において、後期中葉～10世紀中頃という特定の期間でのみ複数回おきたとは考えにくいことから、3遺跡から検出された土石流堆積物は、ひとつの要因によって引き起こされた自然災害である可能性が指摘できる。その場合、土石流堆積物の形成時期は、倉知川右岸の遺物の出土状況から、続縄文時代以降10世紀中頃以前である可能性がある。	★続縄文～10世紀中頃。	
4	サンル4遺跡	北海道	B地区		p17・22:(B地区は)土石流段丘部分にあたり、標高は161.5m前後である。(中略)トレンチ壁面の観察では、二度の土石流堆積物が観察された。上位の土石流は幅約5mを測り、M-36とO-37グリッド周辺に分布する。土石流の中央部はやや盛り上がりしている。下位の土石流はトレンチのほぼ全面で認められた。土石流上端の標高は160.9m前後を測り、比較的平坦な堆積であることから、この地区の地形(土石流段丘)の成因になったものと考えられる。両者の発生時期は判然としないが、下位の土石流が、腐植土であるII3層を浸食しているように見えるので、縄文時代以降に発生した可能性がある。	★縄文以降。	遺構なし。
5	学田三区2遺跡	北海道	基本土層	IV	p6:IV層 後背湿地 河川の氾濫による砂の堆積層で学田三区2遺跡のみ堆積していた。(中略)遺物はⅢ層・V層から縄文時代中期後半のモコト式期の遺物が出土している。なお、表土、盛土、表探等の遺物はI層として扱った。IV層は無遺物層である。出土した土器(モコト式)が同一型式であることからⅢ層とV層の時間差は狭く、ごく短期間にIV層が堆積したものと考えられる。縄文時代中期後半、モコト式期の氾濫堆積層である。遺構はV層から掘り込まれている。	★縄文中期後半(モコト式期)。▼縄文中期後半(モコト式期)。△縄文中期後半(モコト式期)。	
6	学田三区2遺跡	北海道	基本土層	II	p6:I層 表土、耕作土、盛土。II層 粘質土と砂質土の互層をなし、肉眼観察によりa～gに細分した。(中略)Ⅲ層 黒褐色土で遺物包含層。縄文時代中期で土器はモコト式が出土している。p81:(遺跡全般について)(前略)II層中にも、暗褐色土・粘土層・炭化物層の互層が多く認められることから、その後も冠水・洪水を繰り返す場所であったことが窺える。	▼縄文中期後半(モコト式)。	
7	学田三区3遺跡	北海道	基本土層	IV	p8:(前略)Ⅲ層からⅦ層にかけて南北方向に延びる砂礫層が調査区西側で確認された。これについては部分的に出現するのみなので層名や細分などの区分を行わなかった。この砂礫層は南北方向に水が流れた溝状の凹凸が認められた。扇状地地形による河川の氾濫堆積層と考えられる。遺物はⅢ層と砂礫層の上部から出土した。少量の縄文時代晩期の土器片とともに同後期初頭のタブコブ式土器がまとまって出土している。		
8	K502遺跡	北海道			p9:基本的には、河川部及び土壌化の良く進んだ3層、8層以外は、堆積物の顔つきから、氾濫原堆積物と一括して良いと思われる。遺構・遺物の確認された層は、その中でも、堆積中あるいは堆積完了後に比較的条件的良い時期が存在した、と言えるかもしれない。p80:遺跡の年代については、1739年に噴火したTaraテフラの下位に産出層準があること、また、放射性炭素年代の測定結果及び断片的な遺物の情報、つまり陶磁器破片や古銭などから考えて、各層とも大まかに中～近世に対比可能であろうかと考える。(後略)	★中世～近世。	

9	K39遺跡第8次	北海道			p11:7層群は、a~cの三層に区分した。7c層は、粘土~粘土質シルトの薄層と砂~砂質シルト層とが互層になって繰り返して堆積しており、層厚は1m以上にもある。土性等から十三層に細分したが、これらの各層は、河川の氾濫・沖積作用によって比較的短期間のうちに堆積したものと考えられる。(中略)7c層後半から7b層段階の沖積作用によって西側氾濫原低地の埋積が進み、次の7a層段階には、この付近は東から西へ緩やかに傾斜するより安定した地形へと変化している。この安定化を反映して、7a層からは擦文時代前期に属する多くの遺構が検出されている。p12:(前略)7a~c層は擦文時代前期の文化層(と理解することができる)。	★擦文前期。 △擦文前期。	
10	C424遺跡A地点	北海道		3b~6	p51:3b~6層は主に細砂、砂質シルトによって構成されており、河川氾濫によって堆積したと考えられる。(中略)当該層は縄文時代後半に位置づけられる可能性が高いと判断した。	★縄文後半。	
11	C424遺跡A地点	北海道		7	p58:7層段階の河川内堆積物は大半が砂でしらの切り合いも多いことから、氾濫・堆積・浸食が断続的に繰り返しながら流路を移動していたことが考えられる。(中略)遺物はすべて埋没河川の覆土で発見され、(中略)付近に当該期の集落が存在し、河川氾濫で一気に流され堆積した可能性が高い。(中略)当該基本層および埋没河川Ae~f層は縄文時代晩期に位置づけられると判断した。	★縄文晩期。	
12	C424遺跡A地点	北海道		8a-1~3	p95:(8a-1~3層)は河川氾濫に起因する細砂、砂質シルトが主体を占める当調査区の堆積土の中で最大層厚40cmに達する黒色土の堆積は特筆すべきものである。(中略)8a層群段階には同じ場所で河川氾濫を挟むことなく堆積しており、全体として当該層段階では有機物堆積が極めて安定して進んでいたと考えられる。(中略)当該層は縄文時代後期後葉に位置づけられると判断した。	★縄文後期後葉。	
13	C424遺跡B地点	北海道		9~12	p141:16層段階頃から流れ始めた埋没河川Eは、河川沿いに15層・14層・13層を堆積させながら徐々に河幅を狭め、12層段階における大規模な氾濫と土砂の埋積によって完全に埋没してしまい、(中略)11~10層段階には8層段階と同じような落葉広葉樹林と陽地性の草地とが分布していたものと推測される。この短い安定期を経て、9層段階には埋没河川Dの沖積活動が活発化し、調査区内は水没と離水を繰り返す不安定な環境下におかれたものと思われる。p144:(9~12層の時期は)おおよそ縄文時代後期の前葉頃に位置づけられるものと推察される。	★縄文後期前葉。	
14	K514遺跡	北海道	基本層序	4	p22:(4層段階になると)5層段階の静的な河川の様子は一変し、大規模な氾濫を繰り返す動的な河川の状況へと変貌したことがうかがえる。p20(第1表):(5e層~7層は縄文時代、4a層~5d層は擦文時代、3層は中世に属する。)	★擦文。△中世。	
15	K515遺跡	北海道		7d~7e	p37:7e~7d層の形成に伴い、自然堤防部に生えていたと考えられる、河道方向に直行する倒木が軒並み検出された。これらの倒木は、先に述べたユニットの形成が自然堤防を大きく浸食して粗砂を堆積するほど非常に急速であったこと、すなわち大規模な洪水によって形成されたと推測することを可能としている。[(株)古環境研究所「K515遺跡の放射性炭素年代測定」pp72-72]p71:(いずれも2σで、7d層の種実は1425~1625AD、7e層の種実は1435~1635ADのもの。)	○1425年~1635年。	
16	K445遺跡	北海道		6	p84:6層は、にぶい黄褐色細砂層である。当遺跡の基本層中、もっとも厚い堆積で、おおよそ80~90cmであるが、厳密には砂粒径の差やシルト層が含まれることから多数回に及ぶ堆積が繰り返された不安定な環境と推測され、当該層中に遺構、遺物が発見されなかったことと矛盾しない。(中略)当該層は、5層群が擦文時代中期前半に帰属することや、それに接する土層で大きな時間差は存在しないものと考え、擦文時代前期から中期に位置づけられると判断した。	★擦文前期~中期。△擦文中期前半。	
17	K135遺跡第4次	北海道	扇状地性の氾濫原堆積物	7	p18:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)7層は鈍い褐色細砂を主とする。7a~d層に細分される。逆級化構造を持つ洪水堆積物である。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p160:6層から得られたAMS法による放射性炭素年代は6件である。2σの暦年代は、①115~330AD、②100BC~75AD、③85~260AD、④45~230AD、⑤115~330AD、⑥245~425ADで、(中略)遺物から想定される年代観と比較的良く一致する。(中略)(8層から得られたAMS法による放射性炭素年代は)130~350ADである。この年代値は、6層の放射性炭素諸年代値と重複する。(中略)6層と8層の間隙は10 ² オーダーの可能性もあるが、10 ¹ あるいは10 ⁻¹ オーダーの間隙しかないことも想定される。	▼130~450AD。△100BC~425AD。	

遺跡一覧表B-2

18	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	8	p18:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)8層は明褐色細砂である。逆級化構造を持つ洪水堆積物の単層である。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p160:(8層から得られたAMS法による放射性炭素年代は)130~350ADである。この年代値は、6層の放射性炭素諸年代値と重複する。(中略)6層と8層の間隙は10 ² オーダーの可能性もあるが、10 ¹ あるいは10 ⁻¹ オーダーの間隙しかないことも想定される。p161:(9a層から得られたAMS年代は)30BC~135AD, 30~225ADであった。)6~8層の絶対年代とは重複する部分が、やや古めにでており、層序と絶対年代の矛盾はない。	▼30BC~ 225AD。△ 100BC~ 425AD。	
19	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	10	p18:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)10層は褐色細砂である。逆級化構造を持ち、洪水堆積物と考えられる。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p161:(9a層から得られたAMS年代は)30BC~135AD, 30~225ADであった。)6~8層の絶対年代とは重複する部分が、やや古めにでており、層序と絶対年代の矛盾はない。	▼395~ 200BC(15 層)。△30BC ~225AD(9a 層)。	
20	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	12	p18:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)12層は褐色シルトである。逆級化構造を持つ洪水堆積物である。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p161:(9a層から得られたAMS年代は)30BC~135AD, 30~225ADであった。)6~8層の絶対年代とは重複する部分が、やや古めにでており、層序と絶対年代の矛盾はない。	▼395~ 200BC(15 層)。△30BC ~225AD(9a 層)。	
21	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	14	p19:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)14層は褐色細砂である。級化構造の明瞭な洪水堆積物である。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p162:(15層から得られたAMS年代は)2σの暦年代で395~200BCで層序と矛盾はないとみなすことができる。	▼395~ 200BC(15 層)。△30BC ~225AD(9a 層)。	
22	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	16	p19:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)16層は褐色シルトである。上方粗粒化構造を持つため洪水堆積物と考えられる。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。p162:(15層から得られたAMS年代は)2σの暦年代で395~200BCで層序と矛盾はないとみなすことができる。	△395~ 200BC(15 層)。	
23	K135遺跡 第4次	北海道	扇状地 性の氾 濫原堆 積物	17	p19:扇状地性の氾濫原堆積物(3層~18層):(中略)17層は褐色シルトである。逆級化構造を持つことから洪水堆積物と考えられる。p19:(18~3層について)2m以上にわたって連続する上方粗粒化構造を持つ砂~粘土の互層は、礫層形成後に洪水による堆積物の供給が頻繁であったことを物語っている。	△395~ 200BC(15 層)。	
24	H519遺跡	北海道		5	p23:5層は、主体となる粗砂・細砂(5a・5c・5e層)と、その間に部分的に介在する粘土質シルトやシルトから構成される。第1区北半では層厚1m近くと厚く堆積するが、南西方向に向かって徐々に層厚を減じてゆき、最終的に第2区南半では堆積が認められなくなってしまう。したがって、5層段階には、前段階から活発化しつつあった河川の活動が本格化し、調査区の北側を流れていた河川から多量の土砂がもたらされ、その結果、第1区北半の河川沿いに自然堤防が形成されていたものと考えられる。(中略)5層段階における遺跡周辺の環境は、河川の大規模な氾濫が頻繁に発生する不安定なものであったと推測される。p24:4層は、シルト(4a・4c・4d・4e層)からなり、(中略)4e層の堆積過程で、5層段階に活発であった河川の氾濫が小康状態となり、遺跡周辺の地形が自然堤防を中心として漸移的に安定していったものと考えられる。(中略)4層では4e層上面、4c層、4d層、4a層から擦文時代の遺構・遺物が検出されている。	△擦文。	
25	H519遺跡	北海道		3	p24:3層は、細砂・砂質シルト・シルト・粘土質シルトの各細別層からなる。第2区では、攪乱が少なく3層が比較的良好に残存していたが、第1区では、近現代の耕作が深く入り込み、攪乱も広範囲にわたっていたため、3層の全体像については不明な点が多かった。3層段階には、前段階に比較的小康状態にあった河川の活動が、再度活発化したものと思われ、第1区内で確認した大きな埋没河川は、この段階になって調査区内に河道を移動したものと推測される。(中略)2層は、樽前降下軽石(Ta-a)相当の粗粒火山灰である2a層、その直下の黒ボク土である2b層、その下の粘土質シルトである2c層からなる。	▼擦文。△ 1739年(Ta- a)。	

26	K523遺跡	北海道		8層群	p19: (8層群について) 堆積状況及び出土遺物から擦文時代前期から中期頃に堆積したものと思われる。(9層群について) 微高地面において調査区全面で検出された灰色シルトを主体とする層。色調により2層に細分したが、埋没河川近くではさらに2枚の粘土質シルトを主体とするラミナ状に堆積する層が確認された。基本となる2層に黄褐色粗砂が部分的に含まれることから、時折河川の氾濫が発生したことが推察される。	△擦文前期～中期。	
27	K523遺跡	北海道		4層群	p19: 4層群は埋没河川内に確認され、35層に細分される。樽前a火山灰降下直前までの堆積層。遺物が主体的に混入するのが4m・4q層のみであることから、中洲形成以前から微高地面は河川に削られており、それだけの規模を持つ河川の氾濫が遺跡形成後に発生し、中洲が形成された可能性が高い。p25: 埋没河川の土層(4層群)からは大きく7回の変遷が想定される。河川は遅くとも18世紀前半には埋没。	△1739年(Ta-a)。	
28	K523遺跡	北海道		9層群	p19: 9層群は微高地において調査区全面で検出された灰色シルト主体の層である。埋没河川付近でさらに2枚の粘土質シルトを主体とするラミナ状の堆積層が確認された。基本となる2層に粗砂が部分的に含まれていることから、時折河川の氾濫が発生したことが推察される。p19: 8層群は擦文前期～中期に堆積。	△擦文前期～中期。	
29	K518遺跡 第1次	北海道		4層群、 5層群	p26: (前略) 遺跡が放棄された後、縄文時代後期から続縄文時代前期前半にかけて粘土及び粘土質シルトを主体とする堆積土が確認されることから、徐々に地盤が安定していったことや、河川微高地の発達が少ないまま比較的時間をかけて緩やかに堆積が進行していったことが伺える。この時期に数次にわたり遺跡が形成されているようで、最上位の7a層においては続縄文時代前期前半の土器が出土している。7a層の頃には、腐植物が土壌に含まれ黒色化しており、土壌の供給が少なくなり、安定した環境下にあったことが推測される。その後、土壌への腐植物の含有量が減少し、土壌は灰色から黄色に変化する。この時期に続縄文時代後期前半の遺跡が形成され、堅穴住居跡や焼土関連遺構が構築される。腐植物の供給が減少したのは寒冷化による自然環境の変化が推測されるが、その後、上位の4層群、5層群においては細砂や粗砂を主体とする堆積物に変化し、停滞していた土砂の供給が一気に進行する。運び込まれる土砂により、6層群や7層群が部分的に削り取られている箇所がみられている。土砂の堆積により埋没した後、腐植の発達する0層群から3層群が堆積する。時期的には擦文時代から近世ないしは近代に堆積したものと推測され、その間に樽前a火山灰が確認されている。	▼続縄文後期前半。△近世～近代。	
30	K528遺跡	北海道		5	p17: 本遺跡を構成する土壌は、主に河川堆積物であり、氾濫原に堆積する氾濫堆積物と埋没河川内の河道本体から河岸斜面に堆積する流路堆積物とに大別できる。本報告では、前者を基本層、後者を河川内堆積層と呼称し、それぞれ個別に分層・注記を行った。(中略)(基本層について) 第2区南側の6b層からは、埋没河川(6BR01)を検出しており、この河川が形成した小自然堤防上で続縄文時代後期の遺構・遺物を検出している(第7文化層、第11章)。5層は細砂・砂質シルト・シルトから構成されている氾濫堆積物が主体の層である。遺跡全体に比較的安定して分布していると考えられるが、4a層段階の「シノロ」川本流埋没部分である4BR02により、そこから北側は開析され、消失していると考えられる。6層段階から引き続き湿潤な環境下にあったものと思われるが、6層の泥炭形成が終了し、細砂・砂質シルト・シルトが運ばれていることから、遺跡周辺での河川の活動が活発化し、沖積作用が断続的に繰り返されていたものと推測される。4層は、全体的にしまりがある粘土質やシルト質から構成されている。(中略) 4a層から擦文時代前期の遺構・遺物を検出している(第6文化層、第10章)。	▼続縄文後期。△擦文前期。	
31	K518遺跡 第2次	北海道	A区の基本層序	2層群	p15: 2層群は、黄色～橙色の細砂～砂質シルトが主体的である。洪水に起因すると考えられる漸移的な土質の変化を1単位として分層しており、2d層は下位の褐灰色シルトから上位のにぶい橙色細砂、2f層は褐灰色シルトから黄褐色砂質シルト、2g層は灰黄色砂質シルトから褐灰色細砂への変化が全体的に認められた。p26: (0～2層群について) 当該層は、擦文時代後期に位置付けられる左岸3a層より上位で、埋没河川Aの覆土BR0f層では樽前a(Ta-a)火山灰が明瞭に認められることから、中世から近世を主体とした時代が考えられる。	★中世～近世。▼擦文後期。	

32	K518遺跡 第2次	北海道	B区の基本層序	4層群、 5層群	p165:3a層からは、擦文時代前期の遺構、遺物が発見されている。4層群は、粘土質シルトから細砂層である。調査区西側と東側で堆積の様相が異なる。調査区西側の埋没河川自然堤防頂部付近では4a層から4c層の各層が厚く、層界が明瞭だが、東側では全体として均質化し、砂質シルトに変わる。ただし、埋没河川Aに近い部分では小さな単位の起伏が激しく、その窪みに粘土質シルト、粘土が堆積している。pp165-166:5層は、粗砂から粘土質シルト層である。5a層は広範囲に安定した分布が認められる薄い粘土層であるが、5b層から5d層は側方への土質変化が顕著に認められた。具体的には、埋没河川B側では各細分層の土質の差、層界が明瞭であるが、調査区東側に向かって粗砂からシルトの細かい堆積単位に変化し、最終的には均一的な土質となる。4層、5層は全体的に砂質で層理の乱れが多く認められることから、洪水と乾燥が繰り返された環境と考えられる。p166:6層群は、褐灰色から灰白色粘土が主体的である。5層群との土質の差は明瞭で、B地区全体に安定した堆積が確認されている。6層群からは、縄文時代後半の遺構、遺物が発見されている。	▼縄文後半。△擦文前期。	
33	雨紛2遺跡	北海道		II	p7: II層はさらに細分されているが、その主体を成すものは、礫層、砂層、粘土層であり、酸化鉄の混じり具合、パミスの混じり具合によって、細かく分層されている。(後略)p69:本遺跡においては鉄砲水等の急激な水流によりII層が形成され、それが安定した後にI層が形成されたことはほぼ間違いないと考えられる。また、(中略)縄文時代晩期のある時期に鉄砲水等の急激な水流が発生し、本来の遺物包含層に含まれていた縄文時代晩期の遺物と後期の遺物が地形に沿って、発掘対象区に押し流された。その時期はII層にいわゆるタンネトウシ式の土器が存在することから考えると、縄文時代晩期後葉のことと考えられる。(後略)	★縄文晩期後葉(タンネトウシ)。	
34	K39遺跡 人文・社会科学総合教育研究棟 地点	北海道		5	p29:(前略)5層は、下位の層に対して不整合面を境に接している粗砂を主とした堆積物であり、調査区全域で厚く堆積している。この5層に対応すると考えられる粗砂層は、層厚に多少の差異はあれども北大構内各地で確認されており、比較的大規模な洪水によって運搬されてきた堆積物であることを示唆している。		
35	K39遺跡 人文・社会科学総合教育研究棟 地点	北海道	埋没河川B		p29:調査区北西隅には、最も新しい時期に形成された埋没河川Bが認められる。2層を切っていることから、擦文文化もしくはそれ以降の時期に形成されたと考えられる。急激な洪水によって短期間の間に削削・解析された谷に、淘汰の良い粗砂が堆積したものと考えられる。	★擦文以降。	
36	垂柳遺跡	青森県	基本層序	V	p10:(IV層について)従来の近隣区域の調査では、IVb層から田舎館式土器の破片が出土している。V層は、厚さ2~15cmの、灰白色~にぶい黄褐色土を帯びた二次堆積火山灰層を主とする粘土質層である。p11:(前略)(VI層について)近隣区域の発掘調査では、同様の厚さと性状をもつVI層の最上部層から、田舎館式土器に特徴づけられる大量の弥生時代の土・石器が出土し、またその上面からは、広く水田跡や関連する遺構・生活痕跡などが発見されている。p17:V区、VII区の水田跡は第V層に覆われている。第V層は二次堆積火山灰土が一過性の洪水によって上流から流されて堆積したものと考えられているため、第V層直下の面は共時性が高いものと考えられる。	▼弥生中期(田舎館期)。 △弥生中期(田舎館期)。	p18:「図5 垂柳遺跡発掘調査区」
37	上村遺跡	岩手県	B区北西部	V	p7:調査区は本来、丘陵部から緩く尾根部分であったことや、北側を流れる沢の氾濫や丘陵部からと思われる鉄砲水など、水流の影響を多大に受けており、一様な土層の堆積状況は見られなかった。一次調査では、B区北東部の5g~6jグリッド付近では、表土直下の層が中振、中振が起源と考えられる黄褐色の浮石粒が混じる黒褐色土で、基本層序中のIV層から上位の層は削平されている。この層から遺構が検出されている。さらにB区北西部の7d-9gグリッド付近では、中振を含む洪水によって押し流された土層が観察された。洪水の回数は中振の観察により、少なくとも4回以上と推定される。	○十和田中振テフラ(To-Cu: 5500BP)。 △十和田bテフラ(2000BP)。	
38	上村遺跡	岩手県	1号~4号 流路		p273:(旧沢跡に伴う流路について)旧沢跡に伴う流路としたものは、平成11年度調査において、多数検出された。その中で比較的明瞭に流路のプランを把握できた4条を図化した。現在、調査区外南西から調査区西に流れる沢(小河川)の旧流路跡と、それらが大雨時に増水して洪水的現象が発生した時分の痕跡と思われる。調査区内にある現道(農作業道で南西にある山に続く)沿いの土層を観察すると、八戸火山灰土などがブロック状で黒土に混じり複雑に堆積する部分があることから、水力の強い鉄砲水的な現象が起こったことが推定される。時期については、流路内に十和田a降下火山灰の堆積が見られないことから、同火山灰降下以降の自然現象と推定される。	▼10世紀初頭(To-a)。	

39	金館跡	岩手県			p19: (1号堀跡の埋土について)北側は黄褐色シルト、暗褐色シルトが堆積しているが、ほとんどが礫層、砂層からなる。埋土には赤褐色に変色している部分があり、水性堆積を示す。滝名川の氾濫によるものと推測される。(時期について)遺物がないため明確な時期は不明だが、館が機能していた時期のものと考えられる。p41: (前略)10世紀後半以降と考えられる遺物、遺構が、館の年代と結びつく可能性もあるが、調査の結果からは十分な資料が得られなかったため、推測の域を出るものではない。	▼10世紀後半以降?	
40	中半入遺跡・蝦夷塚古墳	岩手県		III	p9: (Ⅲ層は)自然堆積砂・粘土層(水成堆積層)。にぶい黄褐色・褐色粗砂～細砂・灰黄褐色粘土。Ⅳ層水田を覆い局部的に発達する(1B区中央・1E区北半・2区西半・4区中央)。p373: (Ⅳ層水田跡について)本水田跡は1区本調査区でA・B・C地点、2区本調査区でD地点、4区本調査区でE地点を精査し、範囲確認調査区では1区東寄りと南西部、2区西半、4区東半において田面が洪水堆積層に被覆されて残存していることを確認した。p374: 本水田跡の年代は耕作土のⅣ層、及び直上のⅢ層から平安時代遺物が出土していることからTo-a降下からさほど時期を置かない平安時代中葉に収まるものと判断したい。	▼10世紀初頭(To-a)(平安中期)。○平安。	
41	中半入遺跡・蝦夷塚古墳	岩手県		VIb	p10: (Ⅵb層は)自然堆積砂・粘土層(水成堆積層)。にぶい黄褐色・褐色粗砂～細砂・灰黄褐色粘土。p371-373: (Ⅶ層水田跡について)本水田の年代については直上の自然堆積層から遺物出土がなく下限をⅦ層の年代=10世紀初頭におかざるを得ないが、Ⅶ層出土の平安時代遺物が確認できないこと、1区T13Aでは7世紀後半代と思われる遺構埋土と同相でⅦ層が広がることから7世紀後半を中心とした年代を想定している。p373: 本水田跡は10世紀初頭、平安時代中葉の水田跡で、1区本調査区でA～H地点、2区本調査区でI・J地点を精査し、その他に範囲確認調査区では1区南東寄り、4区中央付近で田面がⅤ層To-aに被覆されて残存していることを確認した。	▼7世紀後半。△10世紀初頭。	
42	小松Ⅰ遺跡	岩手県	基本土層	II	p7: 旧表土。後背山地起源の崖錘礫を混入させ、大局的に見て黒色土が生成される時期に斜面変動を起こすような気候変動などがあつたと推測される。最大層厚は約470cm。(中略)3区では黒色土内で洪水堆積物が最大1mで堆積している。崖錘堆積物と洪水堆積物の堆積時期は関連性があると考えられる。(中略)Ⅱb層は縄文時代晩期末～弥生時代初頭頃の遺物包含層である。	○縄文晩期末～弥生初頭。	
43	小松Ⅰ遺跡	岩手県	基本土層	IV	p7: (Ⅳ層直上のⅢ層は)十和田一中撤火山灰(To-Cu)。(中略)噴出時期は約5500年前とされる。p14: (Ⅳ層は)河道跡など地山に明瞭な地形の凹凸を示す時期の堆積物で、土砂流堆積物・河川性堆積物など同時期に性格の異なる堆積物が堆積している。(中略)放射性年代はa2層で5540±100BPで、縄文時代前期前葉頃の包含層である。(中略)(直下のⅤ層について)放射性年代は6560±170BPで、縄文時代早期末葉(最終末)の遺物包含層である。	▼縄文早期最終末(6560±170BP)。○縄文前期前葉(5540±100BPごろ)。△約5500年前。	
44	島田Ⅱ遺跡第2次～第4次	岩手県		III	p11: Ⅲ層黒色土～黒褐色土は谷部に限られる層位で、崩落と水成の繰り直しによる堆積で、大きい谷ほど埋没して層序が多くなる。(中略)Ⅲc層上面には白頭山古小牧火山灰が部分的に認められ、土砂の堆積による水位や沢筋の変動などによる2次堆積と考えられる。遺物包含層はⅡ層が古代となるが、谷底部分では堆積状況のためかⅢ層上位に縄文土器と古代の遺物が混在する。Ⅲ層下位以下は基本的には無遺物層で、大きな谷部でのⅣ層及びⅤ層と基盤層のⅥ層の層厚は不明である。	○古代。10世紀初頭。△古代。	
45	本宮熊堂A遺跡第24次	岩手県	旧河道		p338: 本宮熊堂A遺跡から検出した旧河道は、東西方向にのび、調査区外へと続いている。川幅約10m、水深は検出面から1.6mを測る。(中略)旧河道は堆積土が大きく5層に分層できる。そして1・3層中には、水流を示すラミナの形成を数箇所にわたり確認した。これらのラミナが洪水レベルの水流によって形成されたのか、あるいは通常考えられる河川の水流によって形成されたものかは定かではないが、仮に洪水レベルであったとすれば、このラミナにみられる水流の形跡が志波城にも影響を及ぼしたと考えられている古代の水害と何らかの関係があるかもしれない。(中略)旧河道は縄文時代晩期後葉前後から存在し、徐々に川底を上昇させながら8世紀代までは機能し、そして10世紀前半頃には完全に埋没してしまったものと推定される。	★古代?	
46	河崎の柵擬定地	岩手県	C区SI5 竪穴住居	1	p95: (C区SI5竪穴住居について)ⅢF53・54に位置する。第5層上面、(第2検出面)で検出された。(中略)当初はいわゆる周溝状遺構とも考えられたが、この状況で遺物出土がなかったため性格不明遺構(SX12)としていた。(中略)SX12については周囲と同様な堆積をする中でこの部分のみが何らかの原因で陥没し、洪水堆積層である第1層がそこに流れ込んだものであると判断した。p98: (SI5について)床面直上出土の土師器類から8世紀末～9世紀初頭と考えられる。	▼8世紀末～9世紀初頭。	

47	河崎の柵擬定地	岩手県	C区SI6 竪穴住居		p98: (C区SI6竪穴住居について) III F28・29に位置する。第5層上面、(第2検出面)で検出された。本遺構もC区SI5と同様に暗褐色土層(第2層)の内部に黄色砂層が堆積するという状況で検出された。p100: (前略)(SI6の性格について)古代の竪穴住居である。廃絶した後壁面の崩落が始まった早い段階で洪水に見舞われたため、住居内が洪水堆積層でパッキングされて凹地状になっていたものと考えられる。(年代について)床面直上出土の土器器類から8世紀末～9世紀初頭と考えられる。	▼8世紀末～9世紀初頭。	
48	河崎の柵擬定地	岩手県	C区SD104溝		p110: (C区SD104溝について) II E99・100・II F10・20・29・30・39・48・49・58・67・76・77・86・95・IV E05・III F01に位置する。第1検出面でプランが確認された。(中略)(埋土について)埋土は地山との判別が難しい砂質の土で、人為堆積、自然堆積かの判断が難しいが、洪水による自然堆積の可能性が高い。(中略)(年代について)13～14世紀に構築、使用された溝と推測される。	▼13世紀～14世紀。	
49	河崎の柵擬定地	岩手県	D区SX20畝間状遺構		p140: (D区SX20畝間状遺構について) III F86～88・96～98・IV F05～08に位置する。(検出面について)第2検出面である。(形態について)D区SI1と同一面で検出し、洪水砂層内に東西13m、南北10mの長方形の範囲を確認した。(中略)(年代について)8世紀後半～9世紀初頭と推測される。	▼8世紀末～9世紀初頭。	
50	河崎の柵擬定地	岩手県	D区SX21畝間状遺構		p140: (D区SX21畝間状遺構について) III F75～77・85～89・96～98・IV F06～09・18～19に位置する。(検出面について)第2検出面である。(形態について)D区SI1と同一面で検出し、洪水砂層内に南西～北東方向12.8m、北西～南東方向22.2mのほぼ長方形の範囲を確認した。(中略)(年代について)8世紀後半～9世紀初頭と推測される。	▼8世紀末～9世紀初頭。	
51	河崎の柵擬定地	岩手県			p1: 第1図は調査によって明らかになった調査B区北端～北上川までの北～南方向の土層断面略図である。縄文時代後期前葉～晩期中葉までは新旧堤防間に流路が存在し、洪水による影響を受けやすい環境であったと考えられるが、以降、流路・小堤防は洪水によって埋まったが、やや急斜な縁部として9世紀頃まで存在する。この頃の河道縁部の標高は約18mで、縄文時代の縁部の標高より約1.5mほど上位で、河道縁部低位面とは約2mの比高をもつが、13世紀前葉頃までに再度大きな洪水によって縁部は砂に覆われ、緩斜面となった。	▼9世紀。△13世紀前葉。	p1: 第1図「B区土層断面模式図(e-c堤防)」
52	大西遺跡	岩手県	A区・B区	A-IV b, B-IV	p3: B区とC区の境界付近に露出していた断面では、東から西へ下って傾斜する縄文・弥生時代の黒褐色土・暗褐色土の上を洪水で堆積した黄褐色シルトが覆っている様子が観察される。B区からA区に向うにつれ、洪水堆積の黄褐色シルトが厚くなる。洪水堆積層の上には平安時代の遺構確認面が存在することから、弥生時代後期から平安時代までの間に北上川で発生した洪水が大量の土砂を供給し、大西遺跡周辺の原地形を一変させたことがうかがえる。	★弥生後期～平安。	
53	金附遺跡	岩手県	基本層序	III	p7: 砂層。洪水堆積層。層厚は最大1mに達する。無遺物層。ラミナ発達。(中略)洪水堆積層の時期はIII層が弥生時代前期以降、平安時代以前。IVb層が縄文時代後期中葉以降、晩期末以前。V層が縄文時代中期末以前、と想定される。p324: 弥生時代中期～奈良時代(8世紀前半)、本遺跡ではまったくの空白で、土器も出土していない。この時期のいつか、再び大洪水が起き、捨て場を含む斜面を覆った。(中略)(平安時代、10世紀初頭前後)奈良時代集落(8世紀中頃)との間の断絶は、志波城廃絶の原因と同じ理由が考えられる。すなわち、この間、洪水等にさらされ、近づきにくい場所であったのではない。(後略)	★弥生中期～奈良(8世紀前半)。	
54	金附遺跡	岩手県	基本層序	IVb	p7: 褐色土シルト質層、ないし砂層。洪水堆積層。層厚20cm程度。(中略)洪水堆積層の時期はIII層が弥生時代前期以降、平安時代以前。IVb層が縄文時代後期中葉以降、晩期末以前。V層が縄文時代中期末以前、と想定される。	★縄文後期中葉～晩期末。	
55	金附遺跡	岩手県	基本層序	V	p7: 砂層。洪水堆積層。(中略)洪水堆積層の時期はIII層が弥生時代前期以降、平安時代以前。IVb層が縄文時代後期中葉以降、晩期末以前。V層が縄文時代中期末以前、と想定される。	★縄文中期末以前。	
56	野里上遺跡	岩手県	基本土層	V	p5: (IV層は)十和田aテフラ。(V層は)シルト。粘性中・しまり中。礫・破砕礫(～5cm)少量混入。水成堆積による礫の多量混入地点があり。(中略)V層は褐色土主体で、上下のIII・VI層が黒色主体であることから一般的な自然堆積とは異なる要因が働き形成されたと捉えられる。同層は野里上・野中両遺跡に共通して認められることから、その要因は大規模であったことが窺われる。p19: (竪穴住居跡SI01について)検出層位はI層直下のV層中で、黒褐色土の広がりとして確認された。p20: (竪穴住居跡SI01について)床面出土遺物から7世紀後葉～8世紀前半と推定される。p20: (竪穴住居跡SI02について)検出層位はI層直下のV～VI層中で、黒褐色～暗褐色土の広がりとして確認された。p21: (竪穴住居跡SI02について)床面出土遺物から7世紀後葉～8世紀前半頃と推定される。	▼7世紀後葉～8世紀前半。△10世紀前葉。	報告書中の「一般的な自然堆積とは異なる要因」を土石流と解釈した。

57	押切遺跡	岩手県	基本層序	X II	p10:トレンチは地表から約5mの深さ(標高169m)まで掘り込んだ。層位は16層に分けられる。この中でⅢ層中からは近世の磁器片が出土し、X II層からは12世紀後半の手づくねかわらけ片が出土した。これはⅢ層が近世以降、X II層が12世紀後半以降の堆積であることを示している。	○12世紀後半。△近世。	
58	力持遺跡	岩手県	調査区中央部		p15:調査区中央部は、多数の遺構・遺物が検出された。また、人頭大以上の大きさの花崗岩や水成堆積による砂層が調査区内各所に見られることから、縄文時代前～中期において、自然災害と捉えられる土石流などによる土の移動行為が活発であったことが窺える。併せて、それら自然災害は、旧沢跡の土層観察などから、少なくとも3時期(3回)は発生した可能性がある。	★縄文前期～中期。	
59	境遺跡	岩手県	基本層序	III	p19:Ⅲ層 褐色土 洪水堆積層1 粒の粗い砂質土(10～50cm)。下位に酸化鉄層を形成しているところもある。p21:Ⅲ層以下の層はそれぞれに、次の遺物を包含していると判断した。Ⅲ・Ⅳ層 近世・中世? V層 古代(平安時代)。Ⅵ層 弥生時代。Ⅶ層 縄文時代。	○中世～近世?	
60	境遺跡	岩手県	基本層序	IV	p19:Ⅳ層 やや明るい褐色土 洪水堆積層2 粒の細かい砂質土(5～10cm)。柱穴状土坑や堀の埋土上位に堆積が確認できる。p21:Ⅲ層以下の層はそれぞれに、次の遺物を包含していると判断した。Ⅲ・Ⅳ層 近世・中世? V層 古代(平安時代)。Ⅵ層 弥生時代。Ⅶ層 縄文時代。p22:(検出した遺構面について)第1検出面 近世～中世 Ⅳ層下位。p192:第1次検出面は旧耕作土下砂層に埋もれているもので、時代は近世以降の近代に近い時期観が与えられる。	▼中世～近世? ○中世～近世? △中世～近世。	
61	境遺跡	岩手県	基本層序	IX	p19:Ⅸ層 灰褐色の砂 洪水堆積層3(非常に厚い)。X層との境に酸化鉄層を形成しているようである。p21:Ⅲ層以下の層はそれぞれに、次の遺物を包含していると判断した。Ⅲ・Ⅳ層 近世・中世? V層 古代(平安時代)。Ⅵ層 弥生時代。Ⅶ層 縄文時代。	△縄文。	
62	野沢Ⅰ遺跡	岩手県		II	pp16:第Ⅱ層は北上川の洪水の影響を受けた堆積層と思われ、砂質で炭化物などが混入する。野沢Ⅱ遺跡のⅡb層と類似する。第Ⅲa・Ⅲb層は野沢Ⅱ遺跡の第Ⅳ層に土質や混入物の様相が類似するものの、色調が異なる。第Ⅲa層上面で遺構を検出している。p24:(前略)本遺跡は野沢Ⅱ遺跡と同一の性格をもつ遺跡と考えられ、遺構群は野沢Ⅱ遺跡で見つかった古代集落に関連するものと思われる。p136:(野沢Ⅱ遺跡について)古代では9世紀後半の竪穴住居跡が7棟見つかっている。	▼9世紀後半。	
63	野沢Ⅱ遺跡	岩手県			p25:野沢Ⅱ遺跡の土層堆積で特徴的なのは、Ⅱ～Ⅴ層中に炭化物が多く混入する点である。(中略)人為による遺構が無い場所の堆積土から炭化物が多くみつかると理由は定かではない。北上川の洪水と何らかの関係があるのだろうか。		
64	山王遺跡	宮城県		Ⅲb	p17:(Ⅲ層は)奈良・平安時代の堆積層である。a層はSX1300・1400道路跡以北の調査区北半部に、またb～e層は、標高が低くなるSX3461道路跡以南の調査区南半部に分布している。(中略)(Ⅲb層は)白色凝灰岩粒を多く含む褐色シルト。灰白色火山灰降下後の自然堆積層で、SX3461道路跡からSD2000河川跡にかけてのほぼ全面に分布する。10～20cm程で厚さで、一様に下層を覆っている。洪水等の短期間に大量の土砂が供給されるような自然災害によって堆積したものと推測される。遺構はⅢb層上面および下層のⅣ層上面で検出されている。(Ⅲc層は)10世紀前葉に降下したとみられる灰白色火山灰層で、層厚は5cm前後である。	★奈良～平安。▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。	
65	山王遺跡	宮城県	道路跡SX3461以南	Ⅲd	p17:(Ⅲ層は)奈良・平安時代の堆積層である。(中略)(Ⅲc層は)10世紀前葉に降下したとみられる灰白色火山灰層で、層厚は5cm前後である。(Ⅲd層は)オリブ褐色細砂。SF3700B水田跡を覆うしまりのない水成堆積層で、SX3461道路跡以南に分布する。層厚は最大で10cm程である。(Ⅲe層は)未分解の植物遺体を多く含む黒色粘質シルト。SD2000河川跡以南の湿地に堆積したスクモ層で、層厚は10cm程である。	★奈良～平安。△10世紀前葉(灰白色火山灰)。	報告書の中には「水性堆積層」とあるのみで洪水かどうかは不明。
66	市川橋遺跡	宮城県	SX5222河岸跡		p140:(SX5230南北大路跡について)10世紀以降(灰白色火山灰降下後)～中世にかけてこの付近では西側にあるSX5222河岸からの氾濫によって路面の浸食があり、Ⅰ期大路の路上では、地山面上をこのときの砂層が基本的に覆っている。p152:(SX5222河岸跡は)G区の南北大路(SX5230)西側にある。南東側から北西側に大きく傾斜する落ち込みであるが、(中略)火山灰降下(10世紀前葉)後間もない頃にこのSX5222の河川は氾濫をおこし、(中略)その後再びSX5222の河川は氾濫し、(中略)この後流水はなくなり、中世期には徐々に湿地化して1層が堆積し埋没するという過程を経ている。	▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。△中世。	

67	柳生台畑遺跡	宮城県	1区・2区など	V下半	p20: 全調査区の基本層を概観すると、V層は1区検出の竪穴住居跡を除き、基本的に遺構の最終調査面となっている。下層調査でもわかるようにV層は上半は粘性のあるシルト質であるが、下半は砂質土、砂礫となることなどから洪水堆積層とみられ、付近一帯を厚く覆う層となっている。(中略)Ⅲ層はにぶい黄褐色の砂質土及び砂質シルトで、1・3・4区の一部と旧河道上のみ確認できる層である。一部では攪拌されているような箇所もみられるが、本来はⅢ層もまたある時期の洪水堆積層と考えられる。p99: (平安時代について)1区はV層上面検出のS12竪穴住居跡とSK122, 2区はSD21がこの時期のものと考えられる。S12は出土土器や堆積土中の灰白色火山灰からみて10世紀初め頃とみられるが、SD21との関連は不明である。p100: (平安時代～中世前半について)灰白色火山灰降下後に堆積したⅣ～Ⅱc層上面で検出された土坑がある。	△10世紀前葉(灰白色火山灰)。	
68	柳生台畑遺跡	宮城県	1区・2区など	Ⅲ	同上。	▼10世紀前葉(灰白色火山灰)。	
69	岩瀬遺跡	秋田県	河道A		p26: 河道Aは、MC57区南東杭の北側でX層を切り込む不整合面から、MC53区南東杭の北側とMC52区南東杭にかけて形成された不整合面(後述の河道C)までである。上端の幅は約20mで、この堆積層の上を河辺Bが覆う。堆積層は、厚い所が1.8mで礫層が岩盤直上を覆い、その上は概ね砂層とシルト層の互層である。この河道は、同岩盤の中央部を頂点に左右2つの弧状を呈することや礫層中の不整合面の観察から、いくつかの大きな洪水による河道も含んでいると解釈される。その流路は調査区北東から西へ、さらに同中央部で北西へと緩やかな方向をとる。堆積層上部の砂層より、早期撚糸文系土器が出土している。p443: 遺跡からは、縄文時代早期初頭頃より中期まで現河川側に移動している河道(河道A～I)の痕跡が確認できた。(中略)新しい河道ほど河床面が低くなるのに対してB河道のそれは高く、A～C河道の東西流路に対してD河道以降の流路が南北に変化する。これら早期の2つの河道の在り方は、他の河道形成とは異なる気候変動に対応するものかもしれない。	○縄文早期。	
70	横山遺跡	秋田県	A区	Ⅲ	p16: 水田跡の存在が認められなかったA区では深さ2m地点でも粘土層を確認することができなかった。第Ⅲ層とした腐植土層中に3枚の粘質土が堆積しているが、これは水田耕作が行われる古代以前のものとして推定され、その要因として洪水などの自然災害が想定される。[菊池晋「まとめ」pp121-128]p121: (A区の第Ⅲ層について)縄文時代前期から平安時代にかけて、水成あるいは河川氾濫により堆積したと考えられる。縄文海進により入り江状になっていた調査区北西側は、海退とともに低湿地と化し、少なくとも平安時代までこのような状態が続いていたと想定される。p126: (遺跡全般について)今回検出の水田跡においては、安定した水田経営が長く続かなかった可能性が高く、降灰時には耕作されていなかったという可能性もある。さらに出土遺物が10世紀初頭までに限られることから、降灰とその後の河川氾濫によって水田が完全に廃絶してしまったとも仮定される。(後略)	★古代以前。	
71	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県	谷(B区)	Ⅲ	p13: B区では大きく分けて2度の急激な砂礫堆積作用(Ⅲ, V層)の後、比較的穏やかな黒色シルトの堆積によって調査前の地形が形成されたことが分かった。(中略)Ⅱ層が縄文時代後期末葉～晩期, Ⅳ層が縄文時代後期前葉～後期末葉, Ⅵ層が縄文時代後期初頭の遺物包含層になる。	▼縄文後期前葉～末葉。 △縄文後期末葉～晩期。	報告書中の「急激な砂礫堆積作用」を土石流と解釈した。
72	柏子所Ⅱ遺跡	秋田県	谷(B区)	V	同上。	▼縄文後期初頭, △縄文後期前葉～末葉。	報告書中の「急激な砂礫堆積作用」を土石流と解釈した。
73	平右衛門田尻遺跡	秋田県	西側調査区	V	p13: V層はⅥ層堆積中に溜まった極めて粒子の細かいシルト質土で、薄層で凹凸の激しい層である。Ⅵ層は低位地においては普遍的な層で、特に基本土層3地点で厚く堆積する。(後略)p106: 平右衛門田尻遺跡の井戸跡に木枠は残存しなかったが、枠内の埋土は、黒褐色でややシルト気味の砂質土である。この土は、基本土層のⅥ層に相当するものである。基本土層で認められるⅥ層は土器器片が出土する層であり、古代の遺物包含層と考えられる。井戸の埋没時期については、Ⅵ層形成後になる。さらに、井戸枠を据えるための掘形の裏込め土から15世紀代の珠洲系陶器が出土していることから、井戸が構築された時期は、中世以降であったことがわかる。また、複数の井戸跡の出土遺物に接合関係があり、これらの井戸はほぼ同時に埋没したようである。井戸の具体的な新旧関係は不明であるが、低標高地にある井戸から高標高地にある井戸へと変遷したものと思われる。地下水位はどちらも同一であり、変遷の理由としては低標高地の井戸が河川の氾濫等の自然災害により使用できなくなったことが考えられる。	▼15世紀以降。	

74	高瀬山K遺跡第1次・第2次	山形県			p5: 南側畑地では表土下20~50cmで遺構検出面に至るがその間には、北側と同様な黒褐色土の遺物包含層が10~30cmほど堆積している。水田面は表土下20cmで厚さ20~40cmの暗青灰色粘質土の遺物包含層に至り、大小の礫と土器が多量に混入している。(後略)p88:(前略)(北側と南側の遺構分布について)前述したように両者の間約100mには掘立柱建物跡や溝、ピットなどが検出されるが竪穴住居跡は検出されない。これは南北の竪穴住居跡群が自然堤防上に位置しその間は低地で、大洪水などでは河道となった可能性が指摘される地区であることに起因していると考えられる。(後略)p89:集落の変遷は7世紀後半に始まり8世紀中、9世紀前後と発達し9世紀後半~10世紀前後にピークを迎え終焉を迎える。	○7世紀後半~10世紀。
75	助作遺跡第1次	山形県			p8: 微高地の形成は主に河川の氾濫による土砂の堆積により行われ、その形成途上に営まれた集落は廃絶されるまで幾度も水害を被ったと考えられ、(後略)。pp87-88:(前略)堆積土内の遺物の包含状態をも鑑み、本集落が営まれていた期間中に最低3回以上にわたり大量に土砂が堆積した時期があったものと思われる。(後略)p98:本集落の営まれた年代は、出土した須恵器等の検討により、MT15からMT85に併行するものとみられ、主体はTK10併行期と考えられる。	★MT15~MT85。
76	山形西高敷地内遺跡第5次	山形県			[阿子島功・吉田由美子「山形西高敷地内遺跡の立地環境」付編pp1-14]p12: 弥生時代の遺物・遺構は部分的にしか検出されていないが、その深度は古墳・奈良時代の生活面に近いと推定される。(中略)この後、平安時代までの間に、洪水性堆積層が挟まれる。(中略)洪水におそわれるとまもなく住居が復原された。この後も洪水堆積層である間層に覆われている。	★奈良~平安。
77	今塚遺跡	山形県	河川跡SG200		p44: SG200は、A~C調査区のほぼ中央部を東西方向に横断する。(中略)河川は2度の洪水を起こしたことが窺える、(中略)古墳時代前期以降の河道であると考えられ、埋没した時期を平安時代9世紀後半に求めることができる。	★古墳前期~9世紀後半。(2回)
78	土崎遺跡	山形県		Ⅲ	p8:(前略)土層は5層に分けられ他が各層の中でも2~3に細分できるものもあった。Ⅰ層は表土・耕作土の層である。Ⅱ層も耕作土で以前のほ場整備時の床土で動いている層である。遺跡中央部の高まり部分には見られない。Ⅲ層は泥炭質のシルト層である。河川の氾濫・洪水等によって湿地化した時期があったと思われる。Ⅳ層は灰色シルト層で遺構の掘り込みを確認した面である。平安時代と中世の遺構を検出したが、中世の生活面はⅢ層中位、平安時代の生活面はⅢ層~Ⅳ層上面にある。	▼平安。○中世。
79	北柳1遺跡	山形県			p9:(前略)旧河道の時期は、(中略)縄文時代晩期終末から弥生時代中期には流路として機能していたことが想定される。この河道跡は調査区の南に接する高瀬川の支流または流路の一つになっていたものであろう。調査区の西端では砂の互層が河道跡と同様の方向で認められた。流れの方向が一致していることは、この区域が旧河道の冠水にさらされていたことがうかがえる。	★縄文晩期終末~弥生中期。
80	平野山古窯跡群第12地点遺跡第2次	山形県		V	p8: V層は最上川の氾濫により運ばれてきた土砂の堆積土層で、礫混じりの粗砂と黒色泥質粘土が分厚い互層を成して両区と東区に広がる。(中略)縄文時代の遺構や遺物はこのV層上面にあたる。SG31が大氾濫した後、縄文時代のある時期には河底が露出し、川は細い流れになっていたようである。(後略)	★縄文。
81	宮ノ前遺跡第3次	山形県		Ⅳ-3	p10: 洪水層はⅣ-1・3・4(砂礫)層である。それらの谷床のレベル等から北から南へと流下堆積したと推定され、特にⅣ-3層は大規模な洪水層で、谷の凹部から溢れ出し、調査区全体を覆い、下位の遺構群を埋める様相が看取られた。p12:(Ⅳ-3層の出土遺物は)大洞C1式期と考えられる。	○縄文晩期(大洞C1)。 △縄文晩期中葉~後葉。
82	中台4遺跡	山形県	河川跡SG1		p6: SG1河川跡は(中略)北西辺ではST49およびST50などの竪穴住居跡を破壊している。(中略)(ST57・58について)住居廃絶後の埋没過程において、この河川の土砂をかぶっている可能性が指摘できる。p20:(河川跡SG1は土坑群ST58などと関連するが、)ST58からは縄文時代晩期の大洞A式期の土器片が出土しており、SG1の氾濫時期の査証となる。	▼縄文晩期(大洞A)。
83	山形西高敷地内遺跡第6次	山形県	河川跡SG9	F1~F3	p39: SG9河川跡は、幅約8m以上、最深度で約2.5mの規模である。覆土は上(F1~3)・中(F4)・下(F5)・最下層(F6)に大別され、下層は堆積状況等から更に細分できた。p40: 今調査の前述Ⅲ層下の奈良~平安時代の遺構面を一部形成するSG9河川跡上層(F1~3)砂礫層は、第3次調査Ⅳa~c層、第4次調査Ⅵa~c層の砂礫層と各々対応すると推測される。第4次調査南壁は河川縁辺部にあたり、Ⅵ層は洪水等の堆積層で西側で徐々に薄失する。古墳時代前期の土師器片が出土する同河川中層(F4)は、第3次調査V層・第4次調査Ⅶ層が共に古墳時代包含層となる事から本層に相当する。(後略)	(▼古墳前期初頭。△奈良。(第3次調査))

84	高瀬山遺跡HO地区	山形県			p351: (縄文時代)後期2号木組遺構は地表下1.7mで検出されたが、砂利層に覆われており、土砂の流入によって埋積されている。その後、泥炭層が形成される状況にあったが、流水と滞水の環境が繰り返し生起しており、縄文時代後期中葉～晩期前葉にかけては、土砂の堆積が急激に進行したことが想定される。	★縄文後期中葉～晩期前葉。	報告書中の「土砂の急激な堆積」を土石流またはこれに類するものと解釈した。
85	大在家遺跡第1次・第2次	山形県		F9など	p11: 下層の古代では、調査区北端部でSG1773とした幅約25mの河川跡が東から西方向に走行し、検出面から底面までは深さ約2.5mを測る。最下層からは縄文土器も出土し、河川の下限を示す。主体的な覆土は、下位から洪水層(F7・9)、砂・シルトの互層(F5・F6)、有機物層(F4)となり、徐々に河川が埋没する様子が分かる。p97: 古代では、調査区北端に東西方向に走行する幅約25m、確認面からの深さは約2.5mの河川跡が検出された。(中略)遺物が出土する当初の河川は、川幅約20m前後で、最下層(F9層)の縄文時代中期中葉頃に形成され、その後も洪水層を主体とし、下層(F7層)の飛鳥～奈良時代頃に徐々に河川が埋没する。(後略)	★縄文中期中葉など。	F9層以外にも洪水による堆積層があるが時代について明確な記載がない。
86	下叶水遺跡	山形県	基本層序	IV'	p100: (前略)SG1河川東側の調査区北東端には、幅約2m浅いSG2河川跡が検出され、遺跡東接の丘陵裾部を廻る沢跡と考えられた。北壁の層序などからは、安定した土層と、粗砂が混じる洪水層が互層で確認される。特に下位の厚さ約30cmの無遺物の砂～シルト層で洪水層と考えられるIV'層は、SG2河川跡の覆土と類似し同河川跡を埋めきった後、西側の下位遺構検出面(V層地山)上に溢れ出し、新たな遺構面を形成した事が推測された。(中略)新たな上位遺構面には、埋設土器群や遺物包含層IV層などが構築、堆積する。IV層の時期は遺物が散発的で不明だが、IV'層上位に構築の埋設土器からは瘤付土器Ⅲ期以前で、単一土層から短期間の堆積が推測された。これらのことから、同後期後葉の後半には、大規模な洪水が発生し、一部集落跡の埋没などを経て、埋設土器群の墓域が構築された可能性も考えられた。	★縄文後期後葉の後半。 ▼不明(地山)。△瘤付土器Ⅲ期。	
87	高木遺跡	福島県	8・12号住居跡	8・12号住居跡埋土	p57: (8号住居跡について)本住居跡は出土遺物から表杉ノ入式期のものである。同じく平安時代頃に営まれた12号住居跡は、(中略)住居跡内堆積土には同様な洪水砂が厚く堆積している。そのようなことから2件の堅穴住居跡は同一集落内に営まれ、ほぼ同時期に廃絶したものと推測する。p67: (12号住居跡について)本住居跡は廃絶後のある程度した段階で、洪水砂によって一気に埋まってしまったものと考えられる。p69: (12号住居跡は)9世紀初めごろのものである。	▼9世紀初頭。	
88	温井遺跡	群馬県			p226: 古墳時代の集落を営む土壌の形成は最下層に川原石、この川原石は下栗須地区の粘土採集跡、付近の井戸掘削時の最下面にも認められることができる。よって、鮎川を要とする扇状地一帯は鮎川の氾濫により流出した礫群と考えられる。礫群の上層は、いわゆる藤岡粘土層で現在も瓦等の素材として盛んに採集されている。粘土層は流出、水没、乾燥を何回か繰り返している。本遺跡では古墳時代後期の乾燥期に最初に集落がつくり始められている。本遺跡が営まれた後も3回の氾濫がうかがえる。第1回は温井第Ⅲ類期に、2回目は第Ⅵ類期に、3回目は浅間山爆裂B軽石降下以前の水没期である。第Ⅵ類期以降は集落は営まれない。現在の地形とほぼ同様になるのはB軽石降下期頃である。	★①温井第Ⅲ類期。温井第Ⅵ類期。②温井第Ⅴ類期。③1108年(As-B)の直前。/3回	[真下高幸「温井遺跡出土土器の推移」pp208-217] p217: (前略)第Ⅰ類は5世紀中葉、第Ⅱ類は5世紀後半、第Ⅲ類は6世紀初頭、第Ⅴ類は6世紀後半に、そして第Ⅵ類を7世紀初頭に位置づけた。
89	温井遺跡	群馬県			同上。	★①温井第Ⅲ類期。温井第Ⅵ類期。②温井第Ⅴ類期。③1108年(As-B)の直前。/3回	
90	温井遺跡	群馬県			同上。	★①温井第Ⅲ類期。温井第Ⅵ類期。②温井第Ⅴ類期。③1108年(As-B)の直前。/3回	
91	田端遺跡	群馬県			[外山政子「田端遺跡の変遷」(第5分冊)pp1107-1138]p1127: (前略)本遺跡では古墳時代後半から開始されている集落でありながら奈良時代へ継続し、伝統的な集落として生成しつつあったと考えられる。その後、一般的には集落が開始されることが多くなる時期に、かえって一時期空白期間が生じていることは、水田の洪水による壊滅とかかわりがあるといえよう。従って、水田の埋没時期は集落が空白となる8世紀後半の比較的新しい時期である。存続期間は8世紀初めから8世紀後半の、およそ70～80年間に限定される。(後略)	★8世紀後半の新しい時期。	

92	田端遺跡	群馬県			[外山政子「田端遺跡の変遷」(第5分冊)pp1107-1138]p1107: (田端遺跡を1~8期に時期区分。)p1136:(5期について)再び田 端遺跡にとって空白の期間である。平安時代初頭にあたる8世 紀の終末から9世紀中頃と考えた。空白の直接原因は洪水による 生産域の壊滅、台地の分断にあったと考えられる。B・C区の 居住域も放棄する。4期の集落が、田端廃寺と密接に結び付い た付属施設であるとするれば、集落と寺院の存亡とは軌を一にす ると見てよいだろう。3期から4期への変換のように再生・再開拓 がおこなわれなかったのは、災害の大きさもさることながら、多 胡郡建郡による地域の変質が指摘できよう。寺院を修復し、存 続させるだけの力が、地域にも、バックを失った寺院自身にも、 なかったということであろう。	★8世紀末葉 ~9世紀中 頃。	
93	飯土井二 本松遺跡	群馬県	基本土 層	VI	p11:古墳時代以後の遺構はⅡ層を除去した段階(Ⅶ層の上面) で確認している。Ⅶ層・Ⅷ層は河川の氾濫に由来する氾濫性堆 積物(砂壤土)である。Ⅶ層の上位部分より縄文中期後半の土 器が出土する。当初、この二層は一括して把握していたのだが、 A区・B区の調査が進むにつれ、Ⅶ層に相当する層序から縄文 前期後半と中期前半の遺構・遺物が確認され、また、氾濫性堆 積物(砂壤土)の堆積した時期が縄文早期以後(Ⅸ層)、中期後 半(Ⅶ層上面)以前に推定され、上記二点を根拠に堆積時期を 含め、間層の存在を認定した。	▼縄文中期 前半。△縄文 中期後半。	
94	飯土井二 本松遺跡	群馬県		VII	p11:古墳時代以後の遺構はⅡ層を除去した段階(Ⅶ層の上面) で確認している。Ⅶ層・Ⅷ層は河川の氾濫に由来する氾濫性堆 積物(砂壤土)である。Ⅶ層の上位部分より縄文中期後半の土 器が出土する。当初、この二層は一括して把握していたのだが、 A区・B区の調査が進むにつれ、Ⅶ層に相当する層序から縄文 前期後半と中期前半の遺構・遺物が確認され、また、氾濫性堆 積物(砂壤土)の堆積した時期が縄文早期以後(Ⅸ層)、中期後 半(Ⅶ層上面)以前に推定され、上記二点を根拠に堆積時期を 含め、間層の存在を認定した。	★縄文早期 ~中期。△縄 文中期前半。	
95	箱田古市 前Ⅰ遺跡	群馬県	2号住居 跡		p14・16:(2号住居跡について)遺構の確認は、Ⅴ層土の残存が わかったためにⅥ層上面まで下げて行った。充填土は浅いにも かわらず複雑に分層が可能であった。特に床面からわずかに の間層を置いてその上を覆っている褐灰色土は、河川等の氾濫 起源の土層の可能性が高い。p16:出土した遺物は、土師器杯・ 甕及び須恵器杯・蓋などの特徴から8世紀後半代のもと考えら れる。	▼8世紀後 半。	
96	下小鳥神 戸遺跡	群馬県			p132:水田跡は浅間As-B軽石層の直下から検出され、その耕 土はやや粘性のある暗褐色土である。耕土は榛名山二ツ岳噴 火を起源とする泥流層と考えられるが、その堆積は二ツ岳噴火 に伴う直接的なものは考えられない。耕土及び泥流層は少数 ながら平安期の土器を混じえる包含層となっている。土器の年 代観からすれば泥流発生からかなり時期を隔てたものであり、 井野川の氾濫による水成堆積と考えられる。	▼平安?△ 1108年(As- B)。	
97	下芝五反 田遺跡	群馬県	基本層 序	II	p7:調査区の東北部分ではⅡ層のなかに洪水堆積によると想定 される灰黄色砂層が確認される。(中略)遺構の確認面は、Ⅱ層 中の灰黄色砂層下より中世の水田を検出し、その下層のⅢ層 (As-B)下より平安時代後期の水田(As-B層下水田)を検出し た。	○As-B(1108 年)。△現 代。	
98	下芝五反 田遺跡	群馬県	基本層 序	VII	p7:遺跡地の基本土層の様相は(中略)(Ⅴ)榛名山二ツ岳Hr-FA・ Hr-FP噴火による泥流層、(Ⅵ)榛名山二ツ岳(Hr-FA)層、(Ⅶ)若 干の浅間C軽石(As-C)を含む黒色土層、(Ⅷ)若干の浅間C軽石 (As-C)を含む灰褐色砂質土層、(中略)調査区の東北部分では Ⅱ層のなかに洪水堆積によると想定される灰黄色砂層が確認さ れる。また、Ⅷ層のなかには、砂礫層が存在しておりⅧ層堆積中 に数回の洪水による氾濫が確認された。(中略)今回の報告であ る古墳時代の遺構面は、Ⅵ層下、Ⅶ層上面とⅦ層下、Ⅷ層上面 で検出した。	△古墳。	
99	下芝五反 田遺跡	群馬県	基本層 序	II a	p14:(Ⅱ層)の遺構の時期は、II a層下水田から出土した遺物が 全くないため年代を明らかにすることが難しいが、Ⅲ層上面で確 認した遺構が13世紀から14世紀に比定されることから、15世紀 代かそれ以降に起きた洪水で埋没したと考えられる。	★15世紀(以 降)。▼13世 紀~14世紀。	
100	東長岡戸 井口遺跡	群馬県		第4面 直上	pp21-22:第4面は地山面を露呈させた。しかし、当該面を覆う洪 水層は南北端の壁面の土層断面には、数次に互状態が看取さ れる。第3面のB軽石降下面の水路は当該洪水層を切り構築さ れている。(中略)北側土層断面からの所見で、洪水が最低3回 発生していることから、どの段階かの判断は出来かねるが、西 壁部の著しく西側に腐れる状況は洪水後の改修とも類推される が根拠に乏しい。	△As-B(1108 年)。	
101	上滝五反 畑遺跡	群馬県	基本層 序	V	pp7-8:Ⅳ層はAs-Aで東側で比較的厚く堆積していた。層厚は3 ~4cmほどである。Ⅲ層及びⅣ層直下を第1面として発掘調査を 行った。p8:Ⅴ層は黄褐色土で、中世の洪水層である。第1面の 農具の跡はこの層を削り込んであった。Ⅴ層中ではほとんど遺物 はなく、この層より上層で近世以降の遺物が出土する。さらに下 層から中世の遺物が出土することからⅤ層を中世と位置づけ た。Ⅶ層はAs-Bの混土である。	★中世。▼ As-B(1108 年)。△近 世。	

102	高浜向原遺跡第1次	群馬県		IXa~IXe	p11-12: As-Bを多く含んだVaより上層の堆積は、調p17: 中央部8号溝と東端部7号溝に挟まれたほぼ東半分の等高線だけの部分が、氾濫堆積層: IXa~eに覆われた黒色土面。次いで氾濫堆積層によって埋没後8号溝が出現し、それが礫によって短期間に埋没すると、砂礫を含む暗褐色~黒色土によって徐々に埋まるが、途中何度かの流水浸食を受ける。(中略)IXcの下層IXd~eで小破片ではあるが、5世紀に比定される土師器片がややまとまって出土し、円磨も顕著でないことから比較的近い周辺からの流入を思わせる。	▼5世紀。	
103	長久保大畑遺跡・新田入口遺跡	群馬県	G区の中世水田。		p432: (G区の中世水田について)本調査地点はこの水田域の西端と考えられ、地形に制約された中での水田造作の特徴が伺える。その後水田は度重なる氾濫により厚い堆積があり継続できなくなったものと考えられる。	▼中世。	
104	中里見中川遺跡	群馬県	1区のスク		p16: (1区の近世近代の遺構・遺物について)発見された「サク」は、25条で約400m ² である。(中略)サクの年代についてであるが、断面図からは、このサクが、洪水層により埋没し、以後復旧されていないこと。昭和時代のゴミ捨て場の層が、この洪水層より新しいことが読みとれる。しかし、断面図の位置が不明瞭である点、ゴミ捨て場を昭和と判断した根拠が記録としては残されていないことなどから、特定することが難しい。	▼近世~近代。△昭和?	
105	下阿内前田遺跡	群馬県			p117: (A区6号溝について)位置は、A-6~9調査区、21・23P~T・A~S-3・4グリッドで検出された。走行方向は、北から南への走行(N-0°)と想定され、A-9区の北側とA-6区の西側で、ともに調査区外へ延びていく。検出全長は116.0m、上幅1.70~2.50m、底幅0.50~2.35m、深さ0.04~0.56mである。(中略)埋設土は、As-B軽石を含む褐灰色砂壤土・灰色泥土で、溝の底部には氾濫により堆積した砂層が確認された。(中略)本遺構は、中世~近世の水田等に伴う水路と考えられる。	▼中世~近世。	
106	亀里平塚遺跡	群馬県	基本土層	II	p10: 西方450m付近を流下する利根川の流路及びその後の洪水層と考えられる。明黄褐色シルトまたは細砂の洪水砂が複数見られ、IIa・IIb・IIcなどの分層を行った。この層は、調査区により層厚が異なり、北の1区では0~15cmであるが、南の5区では40cm前後と層厚を増す。層厚の違いは、圃場整備またはそれ以前の耕作により攪拌を受け消失した可能性が考えられるが、洪水の範囲も層厚を表していると思われる。(中略)(直下の第III層は)本遺跡第1面の中世水田耕作土である。p12: (第1面は)(近~中世)近世墓坑及び溝。利根川変流直前(15世紀代)の水田。p17: 4区西調査区において(中略)洪水層を堆積後耕作が行われた可能性が考えられる。〔齋藤利昭「洪水層について」pp373-376〕p373: 利根川変流と考えられる洪水層は、基本土層II層である。この洪水層の分布は図1で示したように、前橋市萩原団地及び六供町付近より現在の流域兩岸の低位部に広がり、下流の玉村町まで広範囲に分布している。洪水層は、遺構の検出された間層を挟み、複数枚確認でき、As-A降灰直前の面まで断続的に洪水が繰り返された状況が見られた。	▼15世紀。△As-A(1783年)。	
107	横手宮田遺跡	群馬県	基本土層	II	p58: 利根川の流路変更に伴う洪水層と考えられ、明黄褐色シルトまたは細砂の洪水砂が複数枚見られ、IIa・IIb・IIcなど分層を行った。p62: (第2面は)亀里平塚遺跡で検出された第1面に相当する。15世紀代の利根川の洪水層に覆われた水田遺構を検出した面である。	▼15世紀。△As-A(1783年)。	
108	横手宮田遺跡	群馬県	基本土層	V	p58: As-B下水田耕作土である。(中略)洪水堆積により形成された粘土のようである。(中略)(直下の第VI層は)Hr-FP軽石を含む洪水層(泥流層?)であり、II区北端~III区にかけて溝内で検出した。下面を第4面とした。	▼6世紀初頭(Hr-FA)。△As-B(1108年)。	
109	横手宮田遺跡	群馬県	基本土層	VI	p58: Hr-FP軽石を含む洪水層(泥流層?)であり、II区北端~III区にかけて溝内で検出した。下面を第4面とした。p78: この洪水層の中にはHr-FPが含まれ、噴火に伴う泥流層またはそれ以降の洪水層と考えられる。	▼6世紀初頭(Hr-FA)。○Hr-FP(6世紀中葉)。	火山泥流に伴うものとみなした。
110	横手早稲田遺跡	群馬県	基本土層	Vb	p96: 第V層 黒褐色粘土層。As-B下水田耕作土である。(後略)p97: Vb層は、非常に粘性が強く細砂やシルト等の混入は見られず、洪水堆積により形成された粘土である。第VI層 明黄褐色シルト質土。Hr-FP軽石を含む洪水層(泥流層)である。	▼Hr-FA(6世紀中葉)。△As-B(1108年)。	
111	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	基本層序	II	p17: 洪水砂(近世以降)。天明3年以降の洪水砂。	▼As-A(1783年)。	
112	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	基本層序	V	p17: 洪水砂(中世~近世)。第2面上層。p64: 第2面の時期は、中世に位置づけられる第4面以降で、天明三年以後の第1面以前という時間幅で捉えられるが、近世に属する可能性もある。第2面は洪水によって埋没。	▼中世。△As-A(1783年)以降。	
113	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	基本層序	VI	p17: 洪水砂(中世~近世)。第3面上層。p68: 第3面は第4面(中世:14世紀以降)以降、第2面・第1面(1783年)以前に位置付けられる。水田は洪水砂により一気に埋没。	▼14世紀~As-A(1783年)。	

114	横手南川端遺跡・横手湯田遺跡	群馬県	基本層序	VII	p17: 洪水土。地点によって異なる層相を示す。利根川変流に関わる洪水土と想定される(中略)(VII-1層は)第4面屋敷跡を覆う洪水土を起源とする。p69:(第4面の時期は)中世(14世紀～)段階と考えられる。	▼14世紀。△14世紀～As-A(1783年)。	
115	横手南川端遺跡	群馬県	基本層序	VIII	p17: 洪水土。VIII層に類するがやや暗色。横手南川端遺跡A地区においてのみ第4面を挟んで分離される。p18:(VIII層直下の)IX層は第5面水田耕作土。p70: 第5面は(中略)As-B軽石降下(1108年)以降、第4面(中世、14世紀頃)以前という時間幅の中に位置付けられる。	▼As-B(1108年)～14世紀。△14世紀。	
116	横手南川端遺跡	群馬県	基本層序	X III	p18: 灰褐色シルト質土。(中略)「平安洪水土」と呼称。p18:(上方のX I層は)As-B層。(中略)(X II層は)第7面水田耕作土。p93: 第9面は、As-B水田耕作土下の遺構であり、主にX III層に類する土層に覆われた遺構である。(中略)X III層は、調査時「平安洪水土」と呼称した灰褐色シルト質土であり、前橋台地南部周辺に広域に分布している。第7面水田の基盤に関わる掘り込みや、第8面と時間的重複する遺構も想定されるが、全調査区にわたり検出されることからあえて1つの面を設定した。p94:(第9面のB区5号溝・D区2号溝は)9世紀後半代に位置付けられる。	▼9世紀後半? △As-B(1108年)。	
117	西田遺跡	群馬県	基本土層	IV	p5:(IV層は)「平安時代洪水層」起源と考えられる耕作土。〔宮崎重雄「As-B下水田について」pp702-704〕p703:(前略)西田遺跡においては9世紀後半以降にAs-B下水田がつくられたといえる。(中略)他の前橋台地南部の遺跡においても、ほぼ9世紀以降に条里地割の水田が開田されたと考えられる。(中略)具体的な年代を示す資料がないため、9～11世紀初頭と年代幅が大きくなっているが、堅穴住居住居廃絶後As-B下水田がつくられるまでに、条里水田に伴う水路が2度埋没しており、9世紀後半代に比較的近い時期に水田開発が行われたことが想定できる。	★平安。▼9世紀後半。△1108年(As-B)。	
118	西久保 I 遺跡	群馬県			p55:46区は、調査区の南側を中心に洪水層の堆積が見られる。この洪水層は縄文中期末の遺構面の上を覆っている。p56:46区からは縄文時代の住居跡5軒、礎石建物1軒、土坑14基、溝4条、ピット5基、を確認した。住居跡5軒のうち4軒が縄文中期末(加曾利E4式期)の敷石住居である。住居の床面直上には洪水層が厚く堆積しており、この時期の直後に洪水層の堆積で住居が断絶していることが判明した。	▼縄文中期末。	
119	宿横手三波川遺跡	群馬県	宿横手三波川遺跡・西横手遺跡群の基本土層	II(一部)	p12:(第II層(黄褐色土)について)東方200mに位置する利根川変流以降の洪水層を母材とする。洪水砂の間層にシルト質土の堆積が見られII a・II b・II c等に分層した。(後略)p15:As-Aの下層には中世に始まる利根川の変流とその後の氾濫洪水層が見られるが、利根川から離れたA区からC区にかけては利根川の氾濫層は薄く、洪水層直下のAs-B混土上面を第2面とし中世と判断した。しかし、D区・E区については洪水層の堆積が厚く、洪水層中に安定面を確認でき第2面として中世から近世までの間の遺構と判断した。(後略)	▼中世。	
120	宿横手三波川遺跡	群馬県			p15:(宿横手三波川遺跡について)As-B混土下には全調査区で確認できるかなり攪拌された1108年浅間山噴火火山灰(As-B)があり、この層下を古代面とした。全調査区でAs-B下より水田を検出した。このAs-B下水田耕作土はこの地域から利根川流域に見られる洪水堆積土である灰褐色粘質土を母材としている。この洪水層下には明黄褐色シルト質の洪水堆積層が間層を挟み2層確認でき、それぞれ6世紀代の榛名山噴火に伴う泥流層である。上の洪水層は6世紀中頃のHr-FP泥流層であり、下層は6世紀初頭とされるHr-FA泥流層である。(後略)	★平安。△1108年(As-B)。	
121	徳丸仲田遺跡	群馬県	溝群		p107: 古墳時代前期に属すると思われる溝群がH区北東部からI区南西部にかけて検出された。(中略)埋土は下層にシルトか砂層、上層に黒～暗褐色土が堆積する。土層断面のA-A'では、暗褐色土堆積後に再び浅い溝が形成され、下底部に砂質土が堆積する。これは、一度洪水等により埋没した後に再び溝として復旧したか、浅い溝が残っていたかを示すものだろう。埋土からは、弥生時代中期後半と多量の古墳時代前期の土器が出土している。前者は破片主体であるため、本溝に帰属するとは言い難い。	○古墳前期。	
122	徳丸仲田遺跡	群馬県			p132:(古代について)水田跡はAs-Bに覆われた古代II期水田と、その耕土下で検出される古代I期水田の2面が確認される。ただし、古代I期水田は、テフラや洪水層に覆われた田面でなく、水路群として認定した。p196:(前略)以上の溝群によって想定される水田区画は、F区新2号溝を主幹水路として、全体に北から南方向に流れる水路網によって灌漑を行っていたと考えられる。(中略)水田跡の上限時期は、6世紀初頭のHr-FA以後になり、E区5号群やF新2号溝・H5号溝から出土した杯等の年代観から、7世紀後半から8世紀前半には間違いなく営まれていたと考えられる。そして洪水起源と目される褐灰色シルトの一次堆積によって埋没したのではなく、その後も復旧によって営まれ続けたことがH区10号溝の存在によって推測される。また、H5号溝に堆積するシルト層中から9世紀はじめの杯が数点出土することから、この時期までは古代I期水田として継続した可能性を考えておきたい。	▼6世紀初頭(Hr-FA)。△1108年(As-B)。	

123	中内村前遺跡5~7区	群馬県			p88: (6-1-1号屋敷内所在土坑群について)6-1-1号屋敷では内郭部分で6-1-114~141・142a・142b・143~149号土坑の36基の土坑を調査した。(中略)これらの土坑のうち、114・115・116・125・126・149号土坑からは少量の土師器或いは須恵器片が出土したが時期特定には至らなかった。一方覆土からは148号土坑はAs-A降下後早い段階と推定されたのであるが、その他5基が黒褐色の洪水層土、2基が黒褐色土で被覆されている。その他6区1面に標識となる中近世の洪水層のうち132号土坑が上位のもので被覆されている以外の28基、即ち全体の76%が下位のもので被覆されていたのであるが、こうした下位洪水層被覆の土坑は1号屋敷の所見から15世紀後半以降の中世の所産であると判断される。	★中世～近世。▼15世紀後半以降。	
124	横壁中村遺跡	群馬県	基本土層	VIII	p12: (VIII層は)黄褐色粘質土。崩落したローム層の2次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考え。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。	★縄文早期後半。	
125	島悪途遺跡	群馬県			p101: 本遺跡が位置する合の川は、東遷事業によって利根川が現河道になった後も締め切られなかったため、洪水の際には濁流が流れ込んだものと思われる。(後略)p104: 本遺跡では、江戸時代を迎える前後の時期に畠が開かれ、以後数多くの洪水を受けながら、現在まで連続と耕作が続けられてきた。	★江戸。	
126	二反沢遺跡	群馬県	1号溝		p77: (1号溝について)本遺構は調査対象範囲の西南より、28地区92区D~F-1~4グリッドに位置する。(中略)(1号溝の)埋没状態は明確ではないが洪水等によって短期間に埋没したとみられる。遺物は裏込めの礫内より金属製品の釘、銭貨「祥符通宝」が出土している。本遺構の年代は出土した遺物や重複する遺構から近世初頭に比定される。	▼近世初頭。	
127	横壁中村遺跡	群馬県	基本土層	VIII	p381: (VIII層は)黄褐色粘質土。崩落したローム層の2次堆積土で、多量の礫・砂礫を含む部分が多い。本遺跡では20区の西半部でのみ確認されており、現在の山根地区集落はこの土層の高まりの上に立地していると考え。供給源は山根集落南側の沢上流部、つまり丸岩の北麓で、崩落時期は縄文時代早期後半頃と思われる。	★縄文早期後半。	
128	下原遺跡	群馬県	基本層序	VII	p12: (第VII層は)土砂崩れ堆積層であり、2層に細分され、下面は畑である。近世から中世にかけての時期か。(第VIII層は)灰褐色土。やや黄色味の強い灰質の土層で、排作土である。下位に1128(大治3)年に浅間山から噴出した浅間粕川テフラ(As-Kk)が部分的に層状で検出される。この火山灰は色調が青灰色で、分布範囲が浅間山からやや北東軸である。堆積時期は中世から古代末にかけての土層であり、上面が中世の確認面である。	★中世～近世?	
129	福島飯塚遺跡	群馬県	基本土層	2	p13: (2層は)暗褐色シルト質層。極めて軟弱な層で、河川の氾濫により堆積した洪水層。表土下のこの層上面で、第1面の遺構が検出される。(3層は)褐色シルト質層。軟弱な洪水層。この層上で第2面遺構群が検出されるが、1・2・3・6区では遺構の検出はなかった。p14: (第1面について)基本的に1783(天明3)年浅間山噴火による被災地(耕作地)の復旧のための火山灰埋設溝(復旧溝)が認められる。	▼1783年(As-A)。	
130	福島飯塚遺跡	群馬県	基本土層	3	p13: (2層は)暗褐色シルト質層。極めて軟弱な層で、河川の氾濫により堆積した洪水層。表土下のこの層上面で、第1面の遺構が検出される。(3層は)褐色シルト質層。軟弱な洪水層。この層上で第2面遺構群が検出されるが、1・2・3・6区では遺構の検出はなかった。(4層は)暗褐色土層。As-Bを混入するため、やや砂質。「B混」と通称される層。この層上で第3面の遺構面が検出される。p15: (第2面について)洪水による氾濫層に覆われた面で、時期は江戸時代であると考えられる。	▼1108年(As-B)。△江戸。	
131	福島飯玉遺跡	群馬県		第3面直上	p170: 第3面は洪水堆積層下の遺構検出面である。出土遺物がほとんどなく、この面の時期決定は極めて困難であるが、第5面の屋敷の継続時期が15世紀後半頃までと考えられることから、それ以降から江戸時代初頭の頃の面と考えられる。	▼室町(15世紀後半)～江戸初頭。	
132	荒砥前田II遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第1洪水層	p83: 3区の微高地から低地にかけて、表土下面で灰白色砂層を確認し、第1洪水層とした。		
133	荒砥前田II遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第2洪水層	p83: 第2洪水層下面では、6号溝を主要水路とする水田面が検出された。(後略)		
134	荒砥前田II遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第3洪水層	p83: 第3洪水層下面では、上位の第2洪水層下水田の主要水路(6号溝)に沿った形で検出された9号溝を水路とする水田面を検出した。		
135	荒砥前田II遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第4洪水層	p85: 第4洪水層は3区北西部のみで検出された。洪水層直下で、微高地縁辺には畠の畝のような小溝の連続が、低地内には平坦面とアゼ状の高まりが検出された。狭い範囲の調査であったが、水田であった可能性は高いと考えられる。		
136	荒砥前田II遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第5洪水層	p85: 第5洪水層下面は2区北西部の隅で検出された。(中略)水田化はされていなかったと考えられる。		

137	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	2・3区微高地部	第6洪水層	p6: (1区谷部の) 第2洪水層は(中略)赤城山南麓地域では818(弘仁九)年の地震に伴う山体崩壊とそれによって引き起こされた洪水堆積物が確認されている。第2洪水層はこの堆積物である可能性が高いと推定される。p85: 第6洪水層下面是2区北西隅と3区南西隅で、第5洪水層の下位で検出された。2区北西隅で検出された小砂礫層は、1区第2洪水層と酷似しており、同時期の洪水の可能性が高い。	★818年(地震)?	
138	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	2・3区低地部	第2洪水層	p233: 2・3区の西部、3-82-M~P-12~20G、3-92-J~M-2~8Gにわたって、第2洪水層に埋まった水田面が検出された。水田面を覆っていた第2洪水層は、2区では厚さ5~10cm、3区では15~25cmの灰黄色砂と褐灰色シルトである。上層に砂層、下層にシルトが堆積していた。(中略)洪水層の堆積時期は不明であるが、1108(天仁元)年に降下した浅間Bテフラより新しい。(中略)第2洪水層下水田は近世以降の水田面である可能性が高い。	▼1108年(As-B)。	
139	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	2・3区低地部	第3洪水層	p242: 2・3区の西部、3-82-M~P-12~20G、3-92-J~M-2~8Gにわたって、第3洪水層に埋まった水田面が検出された。(中略)水田面を覆っていた第3洪水層は、2区では厚さ5~7cmの褐灰色シルト、3区では4~20cmの灰黄褐色砂礫と褐灰色シルトである。上層に砂礫層、下層にシルトが堆積していた。(中略)(第3洪水層下水田の時期は)第2洪水層とあまり隔たらない時期で、浅間Bテフラ降下後、近世以前に開田されたものと考えられよう。	▼1108年(As-B)。△近世。	
140	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	4区	第2洪水層	p255: 4区低地部は荒砥川の後背湿地にあたる地形面である。(中略)3区で検出した第1洪水層および第4洪水層は確認できなかった。(中略)第2洪水層下面では、長方形に区切られた耕作遺構と、その内部を復旧した復旧溝を検出した。(後略)		
141	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	4区	第3洪水層	p255: 4区低地部は荒砥川の後背湿地にあたる地形面である。(中略)3区で検出した第1洪水層および第4洪水層は確認できなかった。(中略)第3洪水層下面では平坦面、段、農具痕跡、凹地を検出した。第3洪水層が確認できたのは、4区低地部の東部谷幅40m分ほどである。		
142	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	4区	第5洪水層	p255: 4区低地部は荒砥川の後背湿地にあたる地形面である。(中略)3区で検出した第1洪水層および第4洪水層は確認できなかった。(中略)第5洪水層は低地部全体で検出されたが、遺構が確認できたのは北東部の低地部西端で、等高線に平行して細長い水田区画を検出したにとどまった。		
143	荒砥前田Ⅱ遺跡	群馬県	4区	第6洪水層	p255: 4区低地部は荒砥川の後背湿地にあたる地形面である。(中略)3区で検出した第1洪水層および第4洪水層は確認できなかった。(中略)第6洪水層は、第5洪水層の下位で検出された。遺構は検出されなかったが、流木が出土した。その年代測定をおこなったところ、交点の暦年代は紀元前4520年との結果が出た。	○4520BC。	
144	鹿島浦遺跡	群馬県	9号溝		p48: (1~3区の溝跡は)この調査区の特徴でもあり、遺跡全体の特徴とも言える8・9号の二条の溝跡が3区より1・2・4・6・7を経て8区へと延長420mほど遺跡内を大きく縦断する。3区~2区にかけて、8号溝跡の大規模な氾濫・決壊跡が検出された。両溝跡は、渡良瀬川取水の古代用水路跡と考えられ、9号溝跡が河川氾濫の影響を受けて埋没後、復旧困難であった為か、隣接して同規模の8号溝跡を新設している。	▼古代。	
145	棟高遺跡群	群馬県			p5: 洪水堆積物は、北西方向から流入しており、とくに影響が顕著であったのは、当遺跡南西部から南部にかけての範囲であった。該当部では、6世紀末~7世紀代、安定して集落が営まれており、集落廃絶後しばらく経過した後、洪水層形成が始まっている。(中略)洪水は複数回にわたり、As-B形成時(12世紀初頭)では休止あるいは終息している。洪水の開始時期については、洪水層で直接埋没する以降が未確認のため判断としないが、上記調査所見から、現時点では8世紀代が上限とされる。	★8世紀~12世紀初頭(As-B)?	
146	高関高根遺跡	群馬県			p52: 本遺跡では、As-B下水田面が検出された。水田は、洪水堆積層であるVIb層上面に築かれている。(中略)水田面では、足跡や耕作痕跡などもほとんど確認されないことから、As-B降下直前は水田としての機能は停止していた可能性が高い。	△1108年(As-B)。	
147	滝前遺跡	群馬県			p223: (滝前遺跡について)遺跡内に20箇所設けた下層調査区坑によって判断されたことは、遺構基盤の粘質土下が厚さ2.0~2.5mの砂礫土によって構成され、しかも砂礫土に縄文土器(早~後期)が混在するという状況であった。これにより、縄文時代後期頃に鮎川の大規模な洪水が存在したことが推測される。しかし、滝前遺跡では縄文時代前期の住居址が1軒検出され、又本遺跡の南南東約130mの地点には市指定史跡の中大塚敷石住居(縄文時代中期末~後期初頭)が存在しており、洪水による直接被害は本遺跡においてのみ認められる。	★縄文後期。 ○縄文早期~後期。	

148	下橋遺跡	埼玉県		p8:下橋遺跡は、庄内古川の左岸約500mの所に位置する。調査区域の北側には旧河川の流路が確認され、遺跡はその河川に一部切られた形で存在する。この河川は渡良瀬川(現在の庄内古川)の支流であると考えられるが、本遺跡においては古墳時代後期の住居跡を破壊しており、江戸時代以後と考えられる溝が流路跡に重複している事や、17世紀中頃には利根川と渡良瀬川が現在の河道に変更され、庄内川は古川となった事実から、その流れた時期が推察出来る。	▼古墳後期。	
149	金井遺跡	埼玉県		p10:古墳時代後期の住居跡は、大半が調査区を二分するように東側から入り込んだ谷に面して立地している。(中略)古墳時代の集落が7世紀後半を中心に構成されていることや8世紀後半の住居跡がさらに南側の谷が埋まった中に構築されていることを考えると、約1世紀の間に谷は南側から徐々に埋まっていったものと考えられる。p12:東側にカマドをもつ住居の中には、袖の部分が北から南に流れており、北からの河川の氾濫を受けていたことが窺われる。	▼7世紀後半～8世紀後半。	
150	広面遺跡	埼玉県		[村田健二「結語」pp134-140]p138:(弥生時代終末～古墳時代初頭の方形周溝墓について)周溝の完全な埋没は、近接する稲荷前C遺跡の9世紀代の集落の埋没と一致する。つまりこの時期に越辺川等の氾濫により一気に墳丘を喪失し、埋没したものと考えられる。(後略)	★9世紀。	参考『稲荷前遺跡(B・C区)』(埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第
151	小敷田遺跡	埼玉県	河川跡	(第2分冊)p3:(河川跡の堆積土について)河床面上層には、まず弥生時代中期の包含層が堆積している。この堆積土は、灰褐色土層からなり植物残滓を少量含んでいる。(中略)本層を切る交互堆積層は、河川の氾濫による河道の開析、攪拌作用と考えられ各地区によって氾濫部分に偏りが見られるものの共通して認められる。また本層中及び上層の白色粘質土を含む層を挟んで古墳時代前期の遺物が出土している。この白色土層堆積前後に河川の流水は、ほぼ停止したと考えられこの上層に植物残滓を多量に含む泥炭質土壌が堆積し以降湿地化したと考えられる。また、この層中に榛名ニッ岳火山灰層(FA層)が帯状に堆積している。	○古墳前期。6世紀初頭(Hr-FA)。	
152	城北遺跡	埼玉県		p12:FA降下面と浅間山B軽石降下面の中間に水成の互相が存在し、6世紀以降、12世紀以前のある時期に、河川の水の影響を多分に受けていたことがわかる。[バリノーサーヴェイ(株)「テフラ・微化石の分析と古環境の復原」pp795-811]p809:Ⅷ層～Ⅵ層が堆積する頃になると好流水性種や流水不定性種が多産する。(中略)仮に本層が河川の氾濫によって短期間のうちに堆積したものであれば、当時の集落は廃絶を余儀なくされるほどに大被害を受けたことであろう。	▼6世紀。△1108年(As-B)。	
153	今井条里遺跡	埼玉県		p90:第2遺構面は、基本層序Ⅲ層をなす火山灰層を取り除くことによって検出した。(中略)(検出した遺構は)平安時代末(1108年)に埋没した坪型区画溝23筆、(中略)坪型区画跡内部の小区画水田跡671筆(洪水砂で埋没した平安時代前半の埋没水田跡9筆を含む)大規模用水路跡2条である。(中略)今回の調査では、もっとも新しい時期の浸漬以後と掘削当時の溝底を区別して調査した。大規模用水路の掘削は、用水の確保を果たしたと考えられるが、河川増水・氾濫の影響を直接水田域にもたらした。増水・氾濫時、多量に供給された砂層は、周辺水田を埋没させ、用水路の度重なる浸漬を必要としたようである。洪水砂はSD146周辺に主に堆積しており、この砂層に覆われた埋没水田9筆を検出した。覆土中から出土する土器から平安時代前半頃のものと思われる。	▼平安前半。△As-B(1108年)。	
154	菖蒲城跡	埼玉県		p7:中世の遺構・遺物検出面は、第6図トーンで示している第20層の直上である。第20層はシルトの洪水成層である。約15～20cmの堆積群を示す。当然のことながら全くの無遺物層である。(後略)p12:(前略)テフラ分析によると、第20層は1108年より新しく、1783年より古いということになる。	▼1108年(As-B)。△1783年(As-A)。	p11;第6図「菖蒲城跡断面図」
155	築道下遺跡	埼玉県	Ⅲ～Ⅵ	p21:遺跡は厚さ1m以上の氾濫土に覆われ、(中略)氾濫土は流水を物語る砂の薄層を何枚も挟んでいるので、洪水は幾度も起こっていたことがよく分かる。p21:Ⅲ～Ⅵ層はシルト状で、元荒川の氾濫土とみられる。(中略)氾濫土中に人々の足跡は認められない。天正十八年(1590)の忍城水攻めに際し、石田堤の決壊で洪水となったことは前章で触れたとおりである。(中略)水田として開発されるのは、遺物から見て17世紀中頃以降と思われる。	★15世紀初頭以降。△17世紀中頃。	

156	北島遺跡 第17・19・ 20地点	埼玉県	第17地点	13	p31: (A区水田跡は)第17地点東側で検出された。水田面の検出標高は21.8~22.2mの範囲であった。水田面検出の層位的状況は基本土層中の第15層及び第16層にあたる。基本土層第11層に古墳時代初頭乃至は中期以降に降灰したとされている、浅間C火山灰層が堆積していることから時期比定の鍵層になる。この層中及び下層にあたる第11・12層は、弥生時代後期から終末期の遺物包含層及び水田面となっている。さらに下層の第13層はシルト質細砂層でいわゆる洪水層である。よって検出された弥生中期後半の水田跡はこの洪水層によって覆われた状況であった。p53: (C区水田跡は)第17地点北西側で検出された。(中略)出された弥生中期後半の水田跡はこの洪水層によって覆われた状況であった。	▼弥生中期後半。△弥生後期~終末期。	
157	古宮遺跡	埼玉県			p415: (二面その二(縄文時代晩期))土器集中が検出された辺りは、今回の調査範囲内では、後世における河川の氾濫の影響を最も大きく受けた地点であるといえよう。この部分では、20~30cm程上位に時代中期後半、50cm程上位に古墳時代中期の住居跡が存在する。しかしこれ以降、中近世に至るまで人口の痕跡は認められない。この部分については、土層断面を観察しても、土層の性格・色調・包含物などの違いによる分層はほとんどできないほどに、土質は均質に近いものであった。これは河川(現在の星川と推定される)の増水と氾濫によって、土砂が堆積した結果と思われるが、小規模な氾濫が繰り返されたというよりも、大規模なものが急激に起こったための土壌堆積と推定される。そして、この氾濫に伴う集落の埋没後、古代に至って、星川沿いに集落が現れたとみなすことができる。	▼縄文晩期~古墳中期?△古代。	
158	北島遺跡 第17・19・ 21地点	埼玉県	第17地点の基本土層	10	p14: (第17地点について)調査区内の基本土層は20層からなる。(中略)8・9層では、榛名ニッ岳起源の火山灰が認められる。第11層は、洪水層で浅間C火山灰を含む。第10層では、古墳時代前期の遺物とともに弥生後期の土器破片が出土しているが、これは洪水でもたらされたものと考えられる。第11層が明確に調査区全域で確認されたわけではないが多くの遺構は、この層の下より検出された。	○4世紀初頭(As-C)。	
159	菅生遺跡	千葉県	北西・北東トレンチ	6	p11(第2表:上層確認トレンチ土層説明):上面に酸化鉄沈殿、小櫃川による洪水堆積層。(北西・北東トレンチにのみ存在。) p22:(弥生時代後期~古墳時代前期について)確認調査時の第7水田面および第8水田面がこの時代に比定される。(中略)小櫃川による洪水堆積層と考えられる6層にバックされた状態で遺存していたため、これ以降の水田耕作の影響をほとんど受けておらず、遺存状態は比較的良好である。p33:(6層上方の)古墳時代中期~奈良・平安時代に比定される遺構は、本調査範囲全面で検出された。[パリオ・サーヴェイ(株)「菅生遺跡の古環境変遷と稲作の消長」pp159-178]p159:(6層について)この洪水層は近接する芝野遺跡でも同様にみられることから、当時小櫃川流域で大規模な洪水がおこったのではないかという見解も示されている。	▼弥生後期~古墳前期。 △古墳中期~平安。	
160	芝野遺跡	千葉県	基本土層	Ⅲ	p6:Ⅲ層は、小櫃川の洪水により形成されたと考えられる砂質土で、遺物はほとんど含まない。(中略)Ⅲ層上面が古墳時代後期以降の遺構確認面であり、Ⅲ層中に古墳時代前期の溝(SD-45)が掘り込まれている。(中略)(直下の)Ⅳ層上面は、弥生時代後期の遺構確認面で、南側から北側にかけての傾斜面となっている。[「まとめ-芝野遺跡の景観変化について-」pp161-169]p162:芝野遺跡や菅生遺跡周辺をはじめとした小櫃川流域の微地形は、弥生時代後期の洪水により大きな変化を被っていることが判明したが、これと類似した状況は、君津市内を流れる小糸川流域の常代遺跡や泉遺跡でも確認できる。(中略)小糸川流域で確認できる、弥生時代中期から後期にかけての大きな微地形変化は、年代的な傾向が芝野遺跡・菅生遺跡での洪水の頻発を示唆している。そして、気候変動などとの関連性を想定できるのではなかろうか。	▼弥生後期。 △古墳前期。	参考[パリオ・サーヴェイ(株)「芝野遺跡の古環境変遷と稲作の消長」pp171-186]
161	常代遺跡 六反免地区	千葉県	SD71	S-71覆土	p21:S-71は2区、9F-21~11E-27グリッドで検出した弥生時代中期の旧河川である。(中略)S-71は君文セII SD683を経て君文セSD-220に続くものと判断され、北に隣接する小糸川にほぼ平行し、大きく東から西への流れが想定できる。(中略)覆土は、(中略)洪水により砂層が一気に堆積したものと想定できる。p26:(S-71からは)弥生時代中期の宮ノ台式土器が多数出土している。	▼弥生中期後半(宮ノ台)。	
162	姥田遺跡	千葉県	SD3	SD3覆土	p7:(第1遺構面のSD3は)調査区の東端部に存在する深い溝で、(中略)上面に数多くの土器を包含する粘性の強い砂質土が明瞭なコントラストをなして堆積していた。これは洪水などの要因で溝が埋没する一過程で、その窪地部分が土器類の捨て場として機能していたと考える。p24:第1面は、第II面の水田が馬登川の度重なる氾濫によって埋没し、水はけのよい砂質地盤に変化した後に変化した後に築いた遺構群である。(中略)遺物から古墳時代後期(6世紀前半)のものだと判断した。	▼6世紀前半。	

163	姥田遺跡	千葉県		II e	p16: 第2面の確認面は(中略)東側にのみ遺存するⅢa層は上位の氾濫に伴うと想定する川砂層(Ⅱe層)が厚く覆っているために遺存している。p25: 宮田の時期は3面(第2面~第4面)とも遺物の出土がなかったことなどで不明確であり、古墳時代を中心とする時期という、かなりおおまかな時期を与えたが、第1面のSD-3から弥生時代中期後半ほかの土器が出土していることから、とくに展開方向が異なる下位2面の水田はこの時期である可能性もある。	▼古墳? △6世紀前半。	
164	姥田遺跡	千葉県		III c	p20: 第3面は、Ⅲc層(灰色砂層)を隔てて存在する。p25: (前略)Ⅲc層を耕作面とする可能性もあるが、Ⅳaないしはb層の中に微妙な畦畔の痕跡をとらえ、Ⅲc層に巻き上げなどの耕作痕跡が存在しないことから水田上面に堆積したわずかな氾濫層と考えた。	▼弥生中期後半~古墳? △6世紀前半。	
165	常代遺跡	千葉県	SD610・684		p17: (前略)(SD684とつながる)SD160は、遺構内の土葬状況から大溝の洪水によって埋没したと解釈されているが、今回の調査ではSD684の土層状況は下層に粘質土、上層に砂が自然的なレンズ状堆積をしており、洪水によって埋没した様子は窺えない。仮にSD684が洪水で埋没したと考えた場合、底面幅が狭いことから、溝の下部は掘削後すぐに埋没してしまい、洪水は下部が埋没してから起こったとすべきであろう。p17: (SD684に先行する)SD680の遺物は6~7期墳(宮ノ台式新段階~後期段階)に比定できる。	▼弥生後期。	
166	西原遺跡	千葉県	2区旧河川 SD001・002	第I面 直上	p10: 各面の時期は、第I面(4a'~4a層)が、9世紀前半~中葉、第II面(4a層)が、9世紀前半と考えられる。p98: SD001の開削面は、4a・4a'層を被覆する砂層(3層)中である。この砂層は9世紀後半~10世紀代の土師器杯を出土した3区SD005に開削され、砂層直上には10世紀前半以降の可能性のある2層が堆積していることから、少なくとも9世紀後半代の短時間に洪水によって形成された砂層と推察する	★9世紀後半。▼9世紀前半~中葉。	確認調査。
167	多摩ニュータウン No.753遺跡	東京都		地滑り層	p4: 地滑り層は最大厚3mで、多くの部分で滑り落ちる前の層順を残してⅢ層上を覆う。地滑り層とⅢ層の境はロームにⅢ層が混ざった状態の部分が見られ、水の影響を受けたのか青灰色を呈する部分、鉄分の集積による赤褐色の縞模様を呈する部分、粘土化した部分も見られることから、地滑り発生時において豪雨などの影響が考慮される。Ⅲ2層は縄文前期後半の土器片を含むことなどから、縄文前期後半の土器が遺棄され、この上にⅢ1層が形成後、地滑りが発生したことが分かる。	▼縄文前期後半。	
168	後楽二丁目南遺跡	東京都			p29: 中世以降は、近世初頭の埋立造成とその後に造営された武家屋敷に伴う遺構・遺物が中心となり、5期に区分した。(4期: 近世(18世紀以降および時期不詳)、5期: 近代以降。)[小島正裕「後楽二丁目南遺跡における埋立造成について」pp.374-384] p377: (4期について)(前略)以上の事実から3つのことが推測できる。1つは、遺跡の中央に分布する緑色砂礫層の形成は、調査範囲西側の造成が一段落した後にはまで及んでいること。次に、緑色砂礫を堆積させた自然営力(おそらく洪水)が、竹柵を含む造成地の一部を破壊したこと。そして、その造成地は洪水が発生した川岸までを埋立範囲とし、その保全のために竹柵による護岸が施されていたことである。	★18世紀以降、および時期不詳。▼17世紀後半。△近代以降。	
169	柴又帝釈天遺跡	東京都	柴又7丁目10番地点	II	p48: (前略)(1号溝覆土上方の)Ⅱ層中には、他地域から将来された軽石が多く混入しており、洪水によって堆積した土砂と考えられよう。堆積時期は(中略)17世紀でもA(17世紀前半)よりも後の時期と判断される。	★17世紀。▼17世紀前半。	
170	立石遺跡	東京都	古墳周溝	古墳周溝覆土	p14: 調査区北側(D~Hライン)で古墳の周溝が確認されている。(中略)(周溝の)覆土中にみられる黄色砂は洪水によって調査区周辺に堆積したものと同質である。しかしながら黄色砂は一部流れ込んだ形でしか検出されておらず、洪水は本遺構が構築される以前に起こったものだと考えられる。この黄色砂は白灰色の砂が一様に酸化したものであるが、古墳の中央部では周囲に堆積しているものに比べて酸化しておらず、この砂が洪水によって堆積してから長い時間を置かず古墳が構築されたことが考えられる。p142: 立石古墳は、出土遺物より7世紀後半の構築と考えられている。	△7世紀後半。	
171	柴又帝釈天遺跡	東京都		II 下部	p15: Ⅱ層の下には部分的に5cm前後の黄灰褐色砂がみられるが、これは洪水によるものと思われる。Ⅲ層は上面が近世の遺構確認面、下面が中世の遺構確認面である。	▼近世。	
172	柴又帝釈天遺跡	東京都		III 下部	p125: 今回の調査では、中世に比定される遺構として溝14条、井戸7期、土坑31基、性格不明遺構2基、小穴62基が検出された。確認面はⅢ層下面にあたる。これらの遺構はひとくちに中世といっても、16世紀後半を主とする。13~16世紀前半の遺物も出土しているが、遺構の構築年代は16世紀前半以降と思われる。(中略)(2号性格不明遺構の)覆土は黄色砂である。本来は地形的に低くなっている部分に洪水によって流されてきた砂が堆積したとも考えられる。	▼16世紀後半。	

173	染地遺跡 第51地点	東京都		IVb	p12: (IVb層は)オリブ灰色シルト。IVa層とほぼ同質だが、粒子が細かくやや明るい色調。粘性があり、締まりはやや弱い。洪水堆積層と思われる層で、調査区の北半部にみられる。(中略)(直下の第V層)上面は平安時代の遺構面。p110:2枚の古代地表面のうち、旧地表面では8世紀初頭から9世紀初頭の廃絶と考えられる遺構群が、新地表面では9世紀中葉の廃絶と考えられる遺構群が検出されており、旧地表面と新地表面の時間的な幅は非常に短く、連続していると言っても差し支えない。そして旧地表面で確認された遺構の中に、第VI層ときわめてよく似ているもののみだらで不均質な土を覆土としているものがあることや、短時間でいっせいに埋没しているものがおおくあるといったような状況証拠から、旧地表面(第VI層)は人為的に整地されて新地表面が形成された可能性が高いものと判断された。そしてこの新地表面(第V層)は多量に遺物を含む「遺物包含層」であることから考えて、基本的に洪水による堆積土層を主体とする整地層であり、洪水後の復旧作業によって形成されたものであろうという結論に達した。	★中世～近世。▼9世紀中葉。
174	落川・一の宮遺跡	東京都	10-M区		p28: (前略)遺物が出土していないためⅡ・Ⅲ層は明確に判別できないが、酸化鉄の凝着層が入る褐灰色粘質層があって、厚さ90cmの古墳時代の版築層を覆っている。Ⅲ層はこの版築層からで、この版築層の下には、洪水による層厚12cm～20cm黄褐色粘質の自然堆積土層と考えられる水平に堆積した土層である。また、この堆積層の下層にはさらに古墳時代の版築層の一部、遺構が遺存しており、その底面からは古墳時代後期の遺構、遺物が出検される。	▼古墳後期。△古墳。
175	落川・一の宮遺跡	東京都	第14地点	落川IV層	参考[高野繁昭・増淵和夫「遺跡とその周辺の自然史」pp5-53] p25: 落川・一の宮遺跡周辺に分布する沖積層を落川層と呼ぶこととする。p27: (落川)IV層からは古墳時代中期及び後期の土器が出土する。これらの土器はⅢ層に含まれるものと同様河川によって運搬されたものであることから、IV層は古墳時代後期の堆積物と考えられる。p33: (第14地点では)古墳時代後期頃比較規模の大きい洪水が発生し、多摩川の側方浸食により落川1面が削剥された。(中略奈良時代に入り、埋積の終了と段丘化により、初めて住居が構えられるようになったと推定される。	★古墳後期。○古墳中期・後期。△奈良。
176	千葉地東遺跡	神奈川県		Ⅱ(第3・第2遺構面直上)	p11: 河川東側低地の第Ⅱ層は暗褐色砂質層で、泥岩粒や木炭を含む。厚さは60～70cm。河川氾濫による砂層や泥岩塊などの地層層などがあり、5層に細分される。Ⅱa・Ⅱb・Ⅱeは砂質土。Ⅱa・Ⅱbは部分的に薄い砂層をはさむことによって分けられる。p10・13: 河川東側の第Ⅱ層も暗褐色砂質で、4層に分けられ、Ⅱ層上面が第1遺構面、Ⅱc層上面が第2面、Ⅲ層上面が第3面となる。p18: 第1～第9面は平安末期～中世。p564: 遺構面の時期は第3面が14世紀第3四半期、第2面が14世紀第4四半期～15世紀第2四半期、第1面が15世紀第2四半期以降である。	▼14世紀第3四半期。△14世紀第4四半期～15世紀第2四半期。および▼14世紀第4四半期～15世紀第2四半期。△15世紀第2四半期。
177	下新町遺跡	新潟県		黄褐色粘質土	p150: 表土下には25～40cm(黄褐色粘質土)がある。広範・均一で水平に堆積し、下層の凹凸に強く影響されていることなどから、洪水による堆積層。形成年代は15世紀に上限とする。p182・188も参照。	★15世紀～16世紀。▼15世紀。
178	下新町遺跡	新潟県		暗褐色粘質土	pp150-151: 黄褐色粘質土の下には10～20cmの暗褐色粘質土がある。洪水により形成。形成年代はSD21Aを覆い、SD21Bに掘り込まれていることから、平安中頃のC期で分けた2小期前半と後半の間(10世紀後半)。	★10世紀後半。
179	子安遺跡	新潟県		黄茶色土	p182: 表土下には黄茶色土が10cm、どの部分にも見られる。まったく同じ層は下新町遺跡でも検出される。洪水堆積による。時期は15世紀～16世紀。p188: 河川跡は調査区南西にあり、最上層の黄茶色土は洪水堆積層と同一。SD4は河川跡が埋没したのち、掘られる。河川を完全に埋めた洪水は遅くとも16世紀に生じた。	★15世紀～16世紀。
180	馬見坂遺跡	新潟県			p22: 自然流路はⅡ区からⅠ区南端(10G区)にかけて検出した。覆土は青灰色シルトと粗砂に大別される。青灰色シルトが大部分を占め、流れの激しさを示すようにラミナが波状に入り組んでいる。粗砂はシルトに比べてやや低い位置に堆積し、縄文～平安の遺物や流木が含まれることなどから、上流の集落を押し流してきた土石流が遺跡内に堆積したものと推定される。洪水の発生時期は、上下の泥炭層の炭素年代から、9世紀半ば以降13～14世紀以前と推定される。	★9世紀半ば～14世紀。
181	大角地遺跡	新潟県	2区	SX101・102覆土	p15: (2区)のSX101・SX102の覆土は、大小の木片や粗砂、直径5～10mmほどの礫を多量に含むことが特徴的である。特に覆土下半には砂礫が厚く堆積しており、洪水によって短期間のうちに埋積したものと判断した。SX102・SX102からは、縄文時代と平安時代の遺物が出土した。一方、周辺の調査区で認められた中世・近世の遺物が認められず、平安時代に洪水に見舞われた可能性が高い。また、川底に堆積した洪水堆積物(砂礫層)からは、平安時代(9世紀)の須恵器が出土した。	★平安。○縄文、平安、9世紀。

182	野地遺跡	新潟県	基本層序	II	p232: (前略)野地遺跡では、後期中葉に遺跡の形成が始まるが、晩期初頭まではP2区とP3区においてのみ遺構・遺物が認められ、P1区で活動が確認されるようになるのは主に晩期前葉からとなる。(中略)厚さ約2mの洪水堆積層(II層)で遺物包含層が埋没していることや、III層およびそれを開削する自然流路から第V～VI期の遺物が出土していることなどを考慮すると、野地遺跡は、晩期中葉までの比較的短期間のうちに大規模な浸水で消滅した可能性が高い。	★縄文晩期中葉。○縄文晩期前葉～中葉。
183	萩原遺跡	新潟県			p15: 本遺跡は阿賀野川によって形成された河岸段丘上に立地している。段丘の形成過程については、基本層序として把握したV層以前の堆積層については、重機による掘削によって確認できた深度までは、阿賀野川本流によって供給された土砂によって形成されたと理解し得るものであった。その後、阿賀野川からの離水により比較的安定した状態が継続し、地表化が進む時期(IV層)を経て、人々が生活の痕跡を残す時期を迎える(III層)。しかし、この生活の跡は、遺跡の北を西流して阿賀野川に注ぐ支流で発生した土石流(III層)により短期間のうちに埋没したと考えられる。p39: 遺跡は縄文時代後期中葉以降に発生した土石流により、ごく短期間のうちに埋没したと考えられる。そのため、後世の攪乱を免れた状態で遺存していた。この土石流の堆積開始から終了までは比較的短期間であったと考えられる。	★縄文後期中葉以降。
184	田伏山崎遺跡	新潟県	沢地区の基本層序	II層上面	p14: 沢地区は南・北の調査区で若干の堆積の違いを示すものの、おおむね対比できるため層番号を統一した。基本土層はI～XI層に識別された。II層上面・V・IX層では砂礫層が堆積し、出水や土石流が繰り返されたことが確認される。VII層からは近世の遺物が出土しており、これより上位の層は近世以降の堆積層と考えられる。VIII層は沢地区南ではVIIa・VIIb層、北ではVIIa～e層に分けることができた。VIIa層は中世の遺物包含層で、沢地区南では下位からの出土が顕著である。沢地区北では遺物がほとんど出土しなかった。VIIb層は沢地区南では中世、北では古代～中世の遺物を包含する。VIIc～e層は沢地区北に堆積し、古代の遺物包含層である。遺物は主にVIIc層から出土し、VIId・VIIe層からの出土は少ない。IX層は沢地区南の中世と古墳を分ける層である。砂・礫混じりのシルト層で、土石流の可能性もある。X層は弥生時代後期～古墳時代後期の遺物を包含する。沢地区南ではXa・Xb・Xc層の3層に識別されたが、Xb・Xc層は部分的に堆積する傾向が認められた。Xa・Xb層は古墳時代後期、Xb・Xc層は弥生時代後期～古墳時代前期の遺物が主に出土した。	★近世以降。
185	田伏山崎遺跡	新潟県	沢地区の基本層序	V	同上。	★近世以降。
186	田伏山崎遺跡	新潟県	沢地区の基本層序	IX	同上。	▼古墳後期。 △中世。
187	家ノ内遺跡	新潟県			pp72-73: (前略)家ノ内遺跡の古環境と性格について出土遺物などから次のようにまとめることが出来る。①3世紀末葉以前: VI層堆積後、今泉川によって形成された自然堤防に接する(本調査区を含む)部分一端に自然流路(A区流路1, B区流路5)が形成される(形成の開始時期は不明)。度々氾濫を繰り返し、低湿な状態が続いた。②3世紀末葉～4世紀中葉(古墳時代前期)この時期になり、A区東側の標高のやや高い部分と低湿な部分を区切り、排水をも意図した溝18が掘られる。しかし構内の堆積土の大部分が砂であることから明らかなように、その機能は充分ではなかったようである。すぐに埋没してしまい復旧されることはなかった。③4世紀中葉～8世紀後葉: A区溝18の埋没後、新たな自然流路(A区流路2・3, B区流路4)の形成と氾濫とが繰り返され、また低湿な状態がしばらく続いたと考えられる。④8世紀後葉～10世紀初頭: 自然流路(A区流路1～3, B区流路4・5)の氾濫もようやく収束し、(後略)	★①3世紀末葉以前。②4世紀中葉～8世紀後葉。③近世。(断続的に繰り返される)
188	竹ノ内II遺跡	富山県	B1地区	古代下層・上層間	p101: 古代の遺構はB1地区のみで検出された。(中略)B1地区では上下2面の遺構面が検出され、それぞれ出土遺物から9世紀(下層)、9世紀末～10世紀代(上層)の集落跡と考えられる。(中略)上層の遺構は下層の集落とほぼ同位置に営まれるが、再び河川の氾濫等により廃絶したものとみられる。その後集落は北東側のC1・C2地区へ移動し中世集落へ移行したものと考えられる。(中略)(中世I期は12世紀中頃～13世紀初頭に相当。)	▼9世紀末～10世紀。△12世紀中頃～13世紀初頭。
189	四方荒屋遺跡	富山県			p45: 西地区では調査区南部に東西の畝方向を主体とする畑地として利用されていたが、中世以降、次第に井戸や掘立柱建物を伴う居住域に変化していることを確認できた。畑地はイネ・ソバの栽培・利用が分析の結果推測された。その土壌は洪水による流水の影響を受けた洪水層を母材とした耕作土である。(後略)	★中世以降。

190	桜町遺跡 舟岡地区	富山県	第2調査区	VI	p25:VI層は、厚さ約40cm以上の灰黄褐色礫の土石流である。V・VI層からは、縄文後・晩期の土器・石器が大量に出土している。この遺物は、第2調査区からさらに西側に続く第3調査区の縄文遺構が縄文時代末に起きた土石流によって流されたものである。V・VI層の時期は、遺物からは判断できないが、VI層出土木片の放射性炭素年代測定では、縄文時代晩期に相当する2310±40年前の測定値が得られている。	★縄文晩期。	
191	鹿首モリガ フチ遺跡	石川県	水田部 調査区		p51:(水田部調査区について)(前略)各期における埋没時の層堆積は、いずれも砂質土を主体とする複雑で極めて錯綜的なレンズ状の互層堆積をなし、特にI-B・II-B期では地点ごとに異なりをもつが、径約40～60cmの大木を含む多量の自然木を混じえたうねり状の堆積を示し、急激で短期的な埋没状況が想定され、またII-B期の4G区西側断面中では寸断された細かな草木と籾殻を混じえた厚い堆積があり、表層面をも洗う濁流によった過激な禍害も推測するに足る様相をもつものといえる。	▼弥生後期 前葉～中葉 (I-B期)。 古墳中期(II-B期)。(複数回)	p157「第5表 遺構等水位関係対応想定表」: (水田部調査区 I-A期は縄文晩期～弥生中期(下野式～小松式)、I-B期は弥生後期前葉～中葉、II-A期は弥生後期末葉～古墳前期、II-B期は古墳中期、III期は古墳時代後期以降。)
192	鹿首モリガ フチ遺跡	石川県	T18調査区	4, 6, 7	p97:(T18調査区について)(前略)上層包含層出土土器と下層包含層出土土器では、若干の形態差は看取されるものの、それはほぼ同一型式の枠内で把握されるものである。こうした事実、この間の層堆積が極めて短期間であったことを示している。予想される自然現象として、大洪水などによる土砂の一時期における大量堆積が想定される。(中略)無遺物層である第4層は下層生活層が完全に埋没した後、再度の洪水により堆積した層であろう。この層上面を生活面として、人々の営みが再開されるのは、さほど長い期間をおいてではなかったことは確かであろう。		
193	鹿首モリガ フチ遺跡	石川県			p158:(前略)古墳時代前期前葉頃～中葉頃(月影式～古府クルビ式)にかけての安定的盛期は、生産性面での安定あるいは増幅にも証引されているものと考えたい。しかしながら、この安定増幅期に到来したと考える台地上堅穴集団は、II-B期に至るや忽然とその姿を消している。このことは、台地及びII期L字状流路中の最新土器として示し得る小型丸底埴がそれぞれに伴いかつ、下限となる同時性が認められることを根拠とすれば、I-B期の急激的な沖積作用を彷彿させるII-B期L字状流路の過激な濁流を伴ったとみる完没を直接的な契機とし、流路の変動あるいは沖積部(生産基盤面)自体の変貌が、再生産への保全と意欲をはるかに汝駕した災害であったことを推測させると同時に、台地上の当該集落の廃業(移動)をよぎなくさせた要因の主体であったと考えられないだろうか。(後略)	★古墳中期。	p157「第5表 遺構等水位関係対応想定表」: (I-B期は弥生時代後期前半、II-A期は古墳時代前期、II-B期は古墳時代中期、III期は古墳時代後期以降に対応。)
194	寺家遺跡	石川県			p247:P1では、弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構面の上に奈良時代～中世に至る遺構面が継続して堆積しているが、Fig.56で示したように「ス」グリッドから東側では、SD01などを検出した弥生時代後期の遺構面の上には粗い砂の層が堆積しており、洪水によってシャコデ廃寺のある台地から粗い砂が流れて来たことを示している。(中略)洪水堆積の粗い砂の層はこの他に奈良から平安時代・中世から近世の層の間で面的な広がりを持って検出している。このことから、各時代の中で幾度となく洪水堆積を経験していることが推察できる。		
195	戸水C遺跡	石川県			p79:(律令時代の遺構として)掘立柱建物五棟と溝(溝1)および井戸1基が確認された。p85:(前略)これらの溝が最終的に埋まる時期は、砂礫におおわれた時であり、レンズ状態に順時堆積したのではなく、一時に洪水等の事情で埋まったものと観察できた。p87:溝1より出土した土器については、(中略)9世紀から10世紀初頭にかかることと推定される。	○9世紀～10世紀初頭。	
196	倉部出戸 遺跡	石川県	低地部 (SX-02, 50区以 東)	V	p6・8:V層は、弥生後期中頃～後半に、洪水などにより遺跡地が冠水したことを示すとみられる。また、噴砂は、同層の下面で検出されたことから、ほぼ同時期の可能性が高い。	★弥生後期 中葉～後葉。	
197	一塚イチノ ツカ遺跡	石川県			p66:今回の調査では東西約170mの調査区の中央部で、幅約52mの縄文時代の河川跡が検出され、河川跡の東西両岸沿いに縄文時代後期後葉の集落跡が存在していたことが判明した。p69:(前略)微高地上の縄文時代の遺構面・遺物包含層と弥生時代後期の遺構面間にも僅かながら間層を挟んでいることから、微高地上も覆う程度の洪水も発生したようであり、縄文遺跡の廃絶も洪水の発生と関係があるのかもしれない。	▼縄文後期 後葉。	

198	経念遺跡	石川県			p16:8区から10区にかけての状況を細かく見ると、8区で現われた落ち込みは9区まででも肩部が決して直線的でないことがわかり、少しずつ方向を変えているものと推定できる。10区では大きく方向が変わり、南側の調査区外へ伸びて行くものと推定できよう。2号落ち込みは規模、形状、層序から、自然河道としての性格が強いものと感じられ、おそらく日常の水流や周期的な洪水で運ばれた土砂で埋まり、その位置を幾度となく変えたものの一つであろう。水流の方向については、原則的に若山川と同じで、西から東と考えたい。そして、覆土から出土した遺物の時期が弥生後期を中心としていることから、その埋没に関しては弥生時代後期に、あまり時間をおかずに行われたものと思われる。	○弥生後期。	
199	能登部下仲町遺跡	石川県		12~15	p15:本調査では現水田面より約2m下位で黒色粘質土によって形成された水田跡を確認した。遺構面は礫・小礫を含む単一の砂層(第12~15層)によって覆われていた。砂層はその堆積状況からみて、自然災害によって堆積したものとみられる。(中略)現状から古代に発生した災害によって堆積した可能性が強いものと考えられる。(中略)本遺跡で発見された水田址は、古代初期に造成され、中世までの間に埋没したものと考えられる。	★古代。▼古代初期。	「自然災害」を洪水ととらえた。
200	能登部下仲町遺跡	石川県		5~9	p15:調査区西壁の土層観察の結果、砂層上層の第10・11層は耕土とその床土あるいは砂層面を造成する際の盛土とみられる。さらに上層には第16層上面同様にほぼ単質の砂層(第5~9層)が確認された。この砂層についても第12~15層同様に自然災害による堆積とみられる。		「自然災害」を洪水ととらえた。
201	能登部下仲町遺跡	石川県		16層より下位	p15:遺構面下層のトレンチ調査において、第16層下層にも砂層の堆積が確認され、さらに下層の試掘においては砂層下層に耕土とみられる黒色土が確認された。以上のことから本遺跡周辺の土地は古代から現在に至るまで、度重なる自然災害に遭いながらも、継続的に耕地として利用されていたと推定される。	★古代~現代。	「自然災害」を洪水ととらえた。
202	高島C遺跡	石川県		II	pp60-61:各層の解釈は、第II層は大規模な流水、おそらくは洪水によって供給された土砂であろう。(中略)第II層以下の堆積年代は、出土遺物から第II層が平安時代以前、第III層が古墳時代中期以前とわかる。p65:今回の調査では上層に平安時代以降の遺構面(第II層)と、下層に古墳時代以前の遺物包含層(第III層)を確認し、遺構にはあまり恵まれなかったものの、時期が異なる遺物が分層して得られた。(中略)下層出土遺物は、既に述べたように5世紀後半から6世紀前半の時期幅を持つ資料である。付近にこの時期の集落域が存在するものと思われるが、実態は把握できなかった。	★平安以前。 ▼古墳中期以前。	
203	松山C遺跡	石川県		平安時代遺構面直下	p8:9・10層は遺物包含層であり、その層の直下が平安時代(9世紀)の遺構面(36~40層)にあたる。平安時代の遺構面は、SD02とほぼ平行する流路覆土や動橋川の洪水堆積土によって形成されている。22・25・26・43~46層はSD02以前の流路覆土である。47・50・41はSD04、48・52は土坑で、ともに古墳時代後期(6世紀後半~7世紀初頭)の遺構である。古墳時代の遺構面は青灰色及び橙灰色の粘土によって構成されている。	▼6世紀後半~7世紀初頭。 △9世紀。	
204	三引遺跡	石川県	南調査区		p17:F層直上には黒灰色系の粘質土が薄く堆積しており、調査当初は奈良・平安期包含層と考えたが、中世の遺物も含むことが判明し、中世のある段階、東側丘陵部から流入した二次堆積土の可能性が高くなった。但し、これより上の流入土に比べ、層に厚みがなく土質もかなりしまっており、やや異質な印象を受けるため、中世遺物を上部からの混入と解すれば、一次堆積土の可能性も完全には否定できない(E層)。	★古代~中世。	
205	三引遺跡	石川県	南調査区		p17:E層より上はかなり細分が可能で、土質の特徴も一概ではないが、いずれも人頭大以上の大型礫を多く含み、出土遺物は複数の時期(古代~中世)にまたがるという特徴がある。これらは頻発する土石流の結果、二次的に堆積した流入土であったことが想定される。(中略)各層の最新の遺物は、14~15世紀前半頃におさまり、時期差を明確にするのは難しい。B層上面は近世前半の遺構面である。この土石流で形成された緩斜面を盛り土して、段状地形が形成される。即ち調査着手前の景観は、直接的には近世後半以後の所産である。この盛土より上をA層とする。	○14世紀~15世紀前半。	
206	三引遺跡	石川県	北調査区		p51:中世段階では南半部に礫が集中してみられ、それらを包括する形で6~10m幅の砂の堆積は帯状に観察された。礫間から遺物の出土をみたことから、土石流の痕跡と理解された。山側に大型礫が多いことから、北西方向から南東方向へ土石流が流れたと判断され、杉の堂の水源のある谷筋から押し寄せてきたことが想像される。この土石流による堆積土の下より中世前期の遺構とみられる幅20~30cmの溝を1条検出していることから、土石流はそれ以降の発生といえよう。この溝以外には上層段階での遺構は皆無である。(後略)	★中世。	

207	藤江C遺跡	石川県		I b	p8:黄褐色シルト。灰白色土中に縞状のシルト乃至は微砂質土が水平に堆積する土層。その状況から水成堆積であることがうかがわれる。p8:(上方の)I a層については、縄文時代晩期末から弥生時代前期以前に堆積が終了し、その後地盤として安定しつつあった頃も縄文時代晩期末から弥生時代前期に当たるものとして理解することができる。p127:I層は遺跡内でaからgまで分層が可能であり、(中略)全体で1mにも達する厚さで堆積しているため、数回にわたって大規模な土砂の供給が何らかの原因によりおこなわれたものであろう。	△縄文晩期末～弥生前期。	参考:p63(第7図)・p64(第8図)。
208	藤江C遺跡	石川県		I d	p8:浅黄色シルト。地点によっては浅黄色微砂が縞状に水平堆積する状態が観察される。本層も明らかに水成堆積であろう。p8:(上方の)I a層については、縄文時代晩期末から弥生時代前期以前に堆積が終了し、その後地盤として安定しつつあった頃も縄文時代晩期末から弥生時代前期に当たるものとして理解することができる。p127:I層は遺跡内でaからgまで分層が可能であり、(中略)全体で1mにも達する厚さで堆積しているため、数回にわたって大規模な土砂の供給が何らかの原因によりおこなわれたものであろう。	△縄文晩期末～弥生前期。	参考:p63(第7図)・p64(第8図)。
209	藤江C遺跡	石川県		III	p8:緑灰色粘質土。縄文時代遺物包含層であるIV層を覆う土層。(中略)突発的な事態により急激に堆積した可能性が指摘できよう。(中略)(IV層は)縄文時代後期中葉から晩期前葉にかけての生活面であったとも理解できる。p127:TP37では(中略)洪水などの突発的な事態で堆積した可能性が高いと思われる。	▼縄文後期中葉～晩期前葉?△縄文晩期末～弥生前期。	
210	梅田B遺跡	石川県	II A東部・D区	黄灰色系の砂	p22:(前略)II A東部・D区の遺構覆土には灰褐色系粘質土に覆われるかたちで、洪水に起因すると考えられる黄灰色系の砂の堆積が認められた。主な遺構としてはII D区のSD20で検出された水口状遺構があげられる。用水路と思われるSD14との合流点付近に逆「フ」の字形に6枚の板を並べたもので、SD20に引水するための施設と推定される。洪水砂の堆積状況から近隣の東部環状道路関連の調査区で検出された小区画水田とほぼ同時期の可能性が高い。p69:(弥生時代2期について)(弥生時代)後期後半から終末にかけての時期を想定している。今回の調査でも恐らくII d区の水口状遺構の設けられたSD20や、SD14・19が「中層」とほぼ同時期に属すると思われる。	▼弥生後期後半～終末。	
211	三引遺跡	石川県	8区		p8:8・9区の地山直上に堆積する縄文時代早期末～前期初頭の遺物包含層については、この第3層と以下の第4層である可能性もあるが、土石流による二次堆積資料が多いことから分離は困難である。p72:(土石流跡は)8区で検出された。土石流は背後の丘陵が崩壊し、発生したものであり、本来、遺構とすべきではないかもしれないが、本調査区の特徴として特記したい。既に8区より山側に位置する7区や、南調査区、東調査区において大小の山石を含む土石流層が確認されており、それぞれ縄文時代中期以降期(7区)、古代～中世期(南・東調査区)、中世以降期(7区)のあることが分かっていたが、8区では、わずかだが丘陵裾が併別して検出された。土石流の発生時期については、8区では縄文時代早期末～前期初頭の土器が少量、同前期末～中期が少量、同後期・晩期が多量に出土しているが、その検出層序と土石流内には前期初頭以降の土器がないことから、いずれも前期初頭～前期末間に発生したものと考えられる。	★縄文前期初頭～末葉。	
212	三引遺跡	石川県	7区		同上。	★縄文中期以降。	
213	三引遺跡	石川県	南・東調査区		同上。	★古代～中世。	
214	三引遺跡	石川県	7区		同上。	★中世以降。	
215	徳丸遺跡	石川県			[横山誠「まとめ」pp73-74]p73:(前略)縄文中期中葉前を1期前、縄文後期から晩期を1期後、弥生中期後葉前を2期前として記載した。(中略)(2期について)B～D区の検出面I-2面、B～D区II面、A～DIII面、A区IV面とE区のII面で弥生時代中期後葉の明確な遺構を確認した。掘立柱建物跡を2棟、竪穴建物跡を2基、その他土坑、溝、小穴などを多数検出した。遺跡では、壁のセクションなどで多数の生活面が確認できるが、その多くはこの時期に集中している。洪水などによる災害時期と人々の生活時期が繰り返し続いてきた様相が伺える。	★弥生中期後葉。	
216	八日市地方遺跡	石川県		ix 1S・viii 1S	p200:集落II期は、集落東部地域の最も東側の環境が掘られたと推定される時期を指標とする。(中略)ix 1S層が厚く、26地区では集落域を覆うような堆積状況であることから、このときに大規模な洪水に見舞われたと推定される。(中略)集落II期では、更に上位の層準で大規模な洪水の痕跡が認められる。これは26地区埋積浅谷の鍵層になっているviii 1S層であり、これも集落域を覆う堆積状況を呈する。	▼弥生中期中葉(畿内III)。	p18(表):(集落II期の時期は弥生中期中葉;畿内III様式。)
217	御経塚遺跡	石川県	第4年次調査区/溝状落ち込み		p16:国道8号線と御経塚町集落のほぼ中央で、幅約30mにわたる溝状落ち込みが検出され、(中略)古墳時代初頭以降における大洪水によって形成された大溝であることは確実である。p348:南北方向をなす低地は、古墳時代後期頃に起きた大洪水で、現富樫用水の祖型にあたる本流から分かれ、遺跡内東よりを遺跡内の微地形的变化に沿って、南北に貫流した旧河道跡であることが判明し、(後略)。	★古墳後期。	

218	真脇遺跡	石川県		4b	p6:第3層は黒褐色から黒色を呈し弱粘質で、直径約5~10cmの礫を含む。Iライン西側のエリアでは骨片や炭化物が多くみられる。後期前葉から後期初頭の土器が出土している。(中略)第4層は暗灰色を呈し弱粘質層である。遺物は少なく中期末から中期前葉にかけての土器が出土する。土器は磨耗したものが多くみられる。第4層は弱粘質であり、砂の含まれている状況から2倍に分けることができ、砂の多いほうを第4b層としている。C3グリッドからL1グリッドにかけて北側が第4a層、南側に第4b層が広がっている。珪藻分析の結果から、第4b層は一時的に川が氾濫し、しばらくの間、沼の状態であったと推定されている。	○縄文中期前葉~末。△縄文後期初頭~前葉。	
219	林・藤島遺跡泉田地区	福井県	標準土層	V	p12:(標準土層について)Ⅴ層は黄褐色砂質で、洪水砂の堆積層である。遺物はほとんど含まない。一部を除き20~60cmの堆積が認められ、上面は中世の遺構確認面である。Ⅵ層は、シルト質の灰黄色の土に黒色土が微量混入する水田面を希う土で、当時の耕作土の名残と考えられ、遺物はほとんど含まない。 p155:古墳時代後期と考えられる遺構には、溝と水田がある。遺物がほとんど出土していないので、正確な時期を決めることは難しいが、水田面から僅かに出土した須恵器と土師器から6世紀~7世紀前半頃に営まれていたと考えた。水田は洪水砂で覆われており、下層の黒色土の上面に位置していたことから検出を比較的容易にしたと言える。(後略)	★古代。▼6世紀~7世紀前半。△中世。	
220	大島田遺跡	福井県		Ⅲ	p6:Ⅲ層は旧河道を埋没させた洪水層で、遺跡の形成された頃(縄文晩期後半頃)の地層である。(後略)	★縄文晩期後半。	遺構の時期は記載なし。
221	下長崎遺跡	山梨県			p7:表土下の地層は不整合であるため標準層序は決められないが、地表の耕作土が約20cmで、その下層が小礫を含む黒褐色腐食土層の遺構包含層(50cm~120cm)があり、その下層が大小の礫を包む砂層の氾濫層となり、この地表からの深さは60cm~130cmである。おおよそ氾濫層は下方になるにしたがって深くなる。氾濫層(土石流)の状況は第1Gで深掘りしたトレンチの地層図(第6図)のとおりである。その直上に古墳時代から平安時代までの遺構包含層があるから、氾濫層は古墳時代直前に形成されたものと考えられる。	★古墳時代の直前。△6世紀第4四半期。	
222	東河原遺跡	山梨県	A区	第Ⅱ面の 上	p9:(A区第2面について)(水田の使用時期は)近世以降。畝の形状や規模などがA区第Ⅰ面に類似していることからA区第Ⅰ面とⅡ面には大きな時間差はないと推測できる。(中略)第Ⅱ面の終焉については、覆土が完全な砂礫層であるから、自然災害(荒川の氾濫などを想定)により消滅したと考えられる。その後直ちに再構築され、ここにA区第Ⅰ面との連続的相関性が発生すると考えられる。	★近世以降。	
223	油田遺跡	山梨県	基本層 序	Ⅱ	p7:(Ⅱ層は)泥流ないし氾濫堆積物とみられる。その上面は土壌化しており、平安時代の遺構面となっている。[パリオ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp20-52]p41:(Ⅱ・Ⅰ期について)Ⅱ層とⅠ層の堆積期が相当する。Ⅲ期以後も扇状地は発達し、表層は泥流や流水性の堆積物が覆ったと見られる。これらの堆積後の安定期には稲作がおこなわれていたことが推定される。	△平安。	
224	油田遺跡	山梨県	基本層 序	Ⅲ	p7:(Ⅲ層は)調査区ほぼ全域を覆う土石流(泥流)堆積物。Ⅰ区で最も厚く、淘汰の悪い砂礫からなる。この土石流の堆積により、調査区すべてが扇状地上に立地することになる。[パリオ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp20-52]p41:(Ⅲ期について)Ⅲ層の堆積期が相当する。Ⅲ層はⅠ区北側に形成された土石流堆積物である。その規模は大きく、調査区北側の前時期に発生した土石流面をも覆っており、Ⅰ・Ⅱ区ではⅥ・Ⅴ層を浸食しながら流下したことが推定される。発生時期は、遺物の出土状況から古墳時代以降、平安時代までのある時期と推定される。(後略)	★古墳~平安。	
225	油田遺跡	山梨県	基本層 序	Ⅳ	p7:(Ⅳ層は)砂礫・砂・シルトからなる土石流(泥流)堆積物。古墳時代の遺物包含層である。[パリオ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp20-52]p40:本遺跡のⅠ区からⅣ区にかけての古地理および古環境は、古い時期よりⅦ~Ⅰ期に区分できる。(中略)(Ⅳ期について)Ⅳ層の堆積期が相当する。本時期には、調査区北側で御勅使川扇状地の扇端堆積物をみるようになる。土石流の発生時期は、遺物の出土状況から、古墳時代後期頃と推定される。(後略)	★古墳後期。 ○古墳。	
226	油田遺跡	山梨県	基本層 序	Ⅴ	p7:(Ⅴ層は)淘汰の悪い砂礫からなる。泥流堆積物。[パリオ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp20-52]p40:本遺跡のⅠ区からⅣ区にかけての古地理および古環境は、古い時期よりⅦ~Ⅰ期に区分できる。(中略)p41:(Ⅴ期について)Ⅰ区南部に形成された流路埋積物であるⅤ層の堆積期が相当する。流路の形成はⅥ期後半に相当する。流路周辺は乾いた場所であったことが推定される。		
227	油田遺跡	山梨県	基本層 序	Ⅶ	p7:(Ⅶ層は)最下位の砂礫層である。弥生時代以前の段階で発生した泥流堆積物である。[パリオ・サーヴェイ(株)「自然科学分析」pp20-52]p40:本遺跡のⅠ区からⅣ区にかけての古地理および古環境は、古い時期よりⅦ~Ⅰ期に区分できる。(中略)(Ⅶ期について)Ⅶ層の砂礫層の堆積期が相当する。堆積年代は、遺物の出土状況から弥生時代前期以前と推定される。(中略)大規模な河川の氾濫堆積の可能性がある。(後略)	★弥生前期以前。	

228	大師東丹保遺跡Ⅰ区	山梨県	Ⅰ区	⑥(第2面直上)	p7: 第一面を形成する安定した土壌は20~30cmの厚さであるが、漸移的に堅く締まったシルト質の非常に細かな砂層(⑤)となっていき、さらに再び砂礫層(⑥)となる。この砂利層も80cmから1mと厚いものである。この層を除去すると、(中略)水田の畦畔とみられる高まりや水路が確認できた。これを第二面とした(⑦)。p29:(第2面の畦畔は)洪水で破壊されている面も多い。p30: 第二面の時期は弥生時代後期後半に位置付けられ、この時期の水田がこの一帯に広がっていたことが確認されたことになる。	▼弥生後期後半。	参考[新津健「遺構遺物の検討 第2節 弥生時代」pp76-77]
229	大師東丹保遺跡Ⅱ区・Ⅲ区	山梨県	Ⅱ区・Ⅲ区基本層序	第1面・第2面間	p3: Ⅱ区では厚さ50cm~1mほど、Ⅲ区で60cm前後堆積しており、これを除去すると部分的に青灰色の砂層(22層)があり、さらに良好な黒褐色粘土層(5層)・黒色粘土層(23層)に至る。この面が鎌倉時代の第一面であり、(中略)第1面はⅡ区の南側でシルト層(27層)に変わっていき、再び砂礫層となり、薄い砂層・粘土層と互層となり約1.2mと厚く堆積する(6・7・11~15・24・28~32層)。これらを除去するとⅡ区の南側では青色砂層(33層)となり、やや青味がかかった黒褐色粘土層(16層)となる。これが弥生時代後期の第二面であるが、厚さは10cmほどで薄く不安定な土壌であり、Ⅱ・Ⅲ区それぞれ北側では洪水により削られたとみられ残っていなかった。(後略)	▼弥生後期。△鎌倉。	
230	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	Ⅳ区基本層序	2~9	p6: 表土を剥がすと調査区ほぼ全域を覆う土石流(泥流)堆積物(2~9層)が現れ、Ⅳ区では厚さ1.3m前後堆積している。この土石流の堆積により、調査区すべて扇状地上に立地することになる。	▼鎌倉(第1遺構面)。	
231	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	Ⅳ区基本層序	10~12	p6: 砂層(10層)、砂礫層(11層)、暗灰色シルト層(12層)からなる土石流(泥流)堆積物。(13層)は黒褐色粘質土層からなり、古墳・鎌倉時代の遺構・遺物が検出される(第1遺構面)。	▼鎌倉。	
232	大師東丹保遺跡Ⅳ区	山梨県	Ⅳ区基本層序	27	p6: 淘汰の悪い砂礫からなり、調査区全域に比較的厚く堆積する。調査区南東部では本層の上位に古墳が構築されている。(中略)(28層)は黒色粘土~シルトからなり、腐植が集積しており、弥生時代後期の遺物を包含する(第3調査面)。p45:(古墳の時期は古墳時代前期末葉から中期初頭。)	▼弥生後期。△古墳前期末葉~中期初頭。	
233	宮沢中村遺跡	山梨県		第5面直上	p26:(第5面の時期は)隣接する大師東丹保遺跡と同様鎌倉期の可能性が高い。(中略)(第5面の)杭は殆どが南西側に傾いていることから北東方向からの水流を受けたものとみられ、さらに杭の頭がげば立っているものもあることから、何度となく洪水を被り、砂利により埋没していったものと考えられる。	▼鎌倉? △16世紀末~17世紀初頭(第4面)。	
234	二本柳遺跡	山梨県	2区		p36:(前略)下層水田が埋没し、あまり時間をおかずに上層水田が復旧され、(後略)。p36:(上層水田は)室町時代前半の14世紀~15世紀のものと判断された。p40:(下層水田は)平安時代後半~鎌倉時代(10世紀~13世紀)の時期のものと判断された。	▼10世紀~13世紀。△14世紀~15世紀。	
235	塩瀬下原遺跡	山梨県	基本層序	Ⅱ~Ⅳ	p6:B地点では、縄文時代後期の堀之内・加曾利B式期に位置づけられるⅡ・Ⅲ層、縄文時代中期後半の曾利式期を主体とするⅣ層の2面の文化層が確認されている。しかし、これらの層の堆積状況は安定しておらず角礫の混入が各所でみられる。これは段丘上面方向からの遺構をも押し流す土砂の流れ込みであり、遺跡地が大規模な土石流に覆われたと想定できる。	○縄文中期後半~後期。	
236	藤田池遺跡	山梨県	3区;3-5号区画		p13:(3-5号区画は)B-12~13およびC-12~13グリッドに認められた水田区画である。東西7m、南北8mで、東側の一部が調査区の外に続く。この水田区画は黄褐色の洪水砂に埋めつくされていた。東側の畔もかなり流失している。区画内の床面には、足跡と稲株の痕跡が明瞭に残る。中央やや南側には東西方向に細い溝が設けられていた。p24:(水田遺構は)全般的に明治期にはいると思われる直接的な遺物は見られず、江戸時代後半の年代が考えられるものである。	▼江戸後半?	
237	百々遺跡	山梨県	基本層序	Ⅵ	p16: 泥流堆積物である黄褐色粘質土層となる。(中略)厚さは最大2mにも及ぶ。縄文時代晩期の約3000年前に形成されたものとされるが、この層の上面から下約50cm程で弥生時代中期の土器の出土があり、数回の泥流堆積によっているものと思われる。	★縄文晩期(3000年前)。○弥生中期。	
238	足原田遺跡	山梨県	谷跡		p8:(谷跡について)谷の黒色土層が形成された一定期間の後、その谷に土師器や石が廃棄された時代が続き、やがて洪水砂により覆われたことが想定される。この洪水砂は硬く粒子が締まっていることから、洪水砂でも最も岸に近い部分に形成される上であり、粘質土も含むためにこのような硬さを持っている可能性がある。(中略)谷跡出土の遺物は、おおそ古墳時代前期に属する土師器が主体を占める。	▼古墳前期。	

239	平田宮第2遺跡	山梨県	基本層序	Ⅲ	p9(第2表):第Ⅲ層は灰白色砂層で、細砂層・粗砂層が互層状に堆積し、シルトのラミナを含む。(第Ⅱ層は旧水田面。第Ⅴ層直上は第Ⅰ面(平安後半～鎌倉)。)p25:第Ⅰ面の水田跡は(中略)平安時代後半～鎌倉時代の年代幅で捉えられる。(中略)水田面が廃絶した要因は、河川の氾濫により水田層の埋没が原因となり、使用されなくなったことが想定される。(中略)上窪遺跡第2次調査において第Ⅰ面と対応する第1水田面の60cm上に室町時代の遺構面が確認されていることから、14世紀後半頃には完全に機能を失ったと推定できる。水田が埋まった時期についてであるが、水田面の上において株痕の他に植物遺体の痕跡がないことから、収穫を終えてから田植えが行われる間に廃絶されたことが分かる。	▼平安後半～鎌倉。△室町。
240	延命寺遺跡	山梨県	基本層序	V～Ⅷ	p9:Ⅳ層は部分的に細砂を塊状に含み、河川堆積土層と考えられる。Ⅴ層は複数回におよぶ河川の侵食、堆積などを受けて、部分的には変異があるが、基本的には河川堆積層である。Ⅵ層・Ⅶ層・Ⅷ層は、葉理構造(粗砂以下の洪水堆積層の中にみられる薄い綺状[通常10mm以下]の堆積構造)が顕著な河川堆積層である。(中略)(Ⅵ層について)この層の形成は古墳時代前期と判断した。厳密には、古墳時代前期の遺物包含層を、後世の河川活動により再堆積している状況が想定され古墳時代前期以降ということとなるが、今のところ古墳時代前期以降の遺物が確認できないので、古墳時代前期と考える。Ⅸ層は部分的で明確でないが、Ⅵ層・Ⅶ層・Ⅷ層の河川堆積層が形成されたときの地山と考えられる。	★古墳前期?
241	小井川遺跡	山梨県	基本層序	Ⅱ	p5:平成18年度に調査を実施した小井川遺跡の土層は、Ⅰ層:耕作土、Ⅱ層:釜無川の洪水や旧流路による砂礫層、Ⅲ層:調査区東壁沿いに堆積するシルト層に大別することができる。p7:(Ⅱ面について)(1号住居跡の年代は)平安時代(9世紀後半)。(中略)(2-3号住居跡の年代は)平安時代(9世紀後半)か。p9:本遺跡の大半は砂礫が堆積し、Ⅰ面において確認された近世・近代の各遺構は、いずれもこの砂礫上に構築されていた。この砂礫は釜無川の旧流路もしくは一時的な洪水によって堆積したもので、本遺跡から釜無川にかけて広く堆積していることが推測される。(後略)p10:本遺跡では、現地表下約2.5mの地点(Ⅱ面)において平安時代の竪穴住居跡を3軒発見した。	▼9世紀後半?△近世。
242	チクヤ遺跡	山梨県			p22:当調査区は集落として9世紀後半に出現し、10世紀前半から中頃にかけて最盛期をむかえたものと考えられる。そして10世紀後半に火災、さらに洪水と自然災害により集落としての存続が不可能になり、消滅したのではないだろうか。	▼10世紀。
243	チクヤ遺跡	山梨県			p20:近世から現代にかけては、1.5m以上の土砂の厚い堆積が確認されている。元禄7年(1694)には、代官桜井孫兵衛により、堤防を築き濁川の流を笛吹川に合流させる大規模治水事業が行われた。さらに、昭和40年代にも河川流路の改修が行われている。近年の台風でも調査区北側が冠水するなど、太古から現在に至るまで水害に悩まされた地域である。	★近世～現代。
244	塩部遺跡	山梨県	1号溝跡		p8:(1号溝跡について)検出されたのは、溝全体のごく一部分と考えられるが、F-5グリッド付近で湾曲し、調査区外へ延びている。(中略)(1号溝跡は)最終的に小礫を含む粗粒砂層である6層に全面覆われていたことから洪水によって埋没したと考えられる。(中略)最下層から51・52のS字罫D類が出土していることから、1号溝の開削時期は概ねこの時期と考えられ、廃絶は古墳時代後期以降の洪水によるものと考えられる。	★古墳後期以降。
245	塩部遺跡	山梨県	基本層序	粗粒砂層	p4:粗粒砂層は今回の調査区全体で確認されており、堆積状況からある時期の洪水層と考えられる。粗粒砂直下は、再び黒色粘質土が30cm前後堆積していたが、中から弥生時代後期から古墳時代初頭の遺物が多数出土し、同時に遺構も黒色土層上で確認できるものが存在した。	○弥生後期～古墳初頭。
246	石橋条里制遺跡北砂吐地区	山梨県	SI1		p22:(竪穴住居跡SI1について)F・G-6・7グリッドで確認。試掘調査時に住居跡の一部を削平しているが、方形と思われる住居跡のほぼ1/4を確認しただけで、大半は砂礫が堆積していることから、狐川の氾濫で流失したものと思われる。床面はほぼ平坦で、やや硬く締まっていた。住居跡隅において礫の周りに高杯の脚部だけが逆位になった状態で見つかったことから、初期カマドかと思われたが、焼土などが見つからずカマドとは判断できなかった。時期は、この高杯から古墳時代中期後半と思われる。	▼古墳中期後半。
247	御社宮司遺跡	長野県	A～C地区	AV	p15:(AV層は)畦畔状遺構AⅠ群以外の遺構を埋める砂層・砂礫層で2分される。AVa層は各遺構の上面を薄く覆う砂層・細砂層である。AVb層は各遺構を埋める砂礫層で人頭大の大きな礫も含まれるが、層中に一時的な滞水状態を示す薄い細砂層・砂質土層が何層も見られる。p51:AV層には近世陶器・鉄器・中世土器・黒曜石などが少量混入しており、諸遺構は近世の洪水によって一挙に埋没したのであろう。(後略)	★近世。

248	地之目遺跡・一丁田遺跡	長野県			p264: 中世には、微高地を取り囲むように大きくL字状に溝が巡らされている。内部に井戸は見られるが、掘立柱建物をはじめとした建物の検出はなく、居住域とはいいがたい。規模からみて居館とは考えられず、有力一般農民の「屋敷」の可能性がある。井戸の出土遺物は、13世紀代から16世紀代まで幅が見られ、溝も同じ位置でのつくりかえと考えることができ、洪水に見舞われたのちも、同じ地に継続して集落が営まれていたと思われる。	○13世紀～16世紀。
249	飯田古屋敷遺跡	長野県			p20: (前略)B・C・E面の水田は洪水砂によってパックされたものである。(中略)B面以下は大正以前の水田であり、E面より下層から17世紀頃の溝が検出されたことから、E面の水田も江戸時代をさかのぼるものではないことがわかる。このことはわずかに出土した遺物の時期とも矛盾しない。	▼17世紀。△大正。
250	常田居屋敷遺跡群	長野県			p113: 本遺跡で検出された遺構は近世以降と思われる水田遺構で、砂質層を除去することで容易に畦畔と水田面を検出できた。数条の畦畔により区画されたおおよそ5区画分の水田を検出した。水田面は、ややきめの粗い洪水砂に覆われた状態で確認された。本遺跡の東約400mを流れる濁川の氾濫によりもたらされたものと考えられ、濁川から離れるほど砂の量が減るため西側調査区では水田面を確認することができなかった。(後略)	▼近世。
251	浅川扇状地遺跡群	長野県			[上田真「成果と課題」pp240-245]p241: 弥生時代中期前半以前にはW13・14区辺を通っていた浅川は、弥生時代中期後半にはW8A・B区、弥生時代後期にはW8A・B区、古墳寺代前期にはW7A区と南下し、古墳時代中期にはW10A・B区に戻り、中世以降E区の水田を埋めるような氾濫があつて現在の位置に移つたと考えられる。但し、100年単位程度でしか集落の時期区分を行つておらず、もう少し細かな変動はあつたかもしれない。	★中世以降など。
252	北之脇遺跡	長野県	基本土層	15	p188: (15層は)褐色砂層。低地14層下に分布。洪水砂層とみられる。p190: 16層上面が2面の古墳時代前期土器検出層。(後略)。p191: (前略)古墳時代～中世の間に山土の堆積土が増加し、低地よりも明らかに高い地形となったようだ。この山土の堆積土増加傾向は中世以後も継続したと見られ、1面以上でも厚い堆積土が認められる。(中略)巨礫が転石として発生するような大規模な崩落が中世以後にあつたことを示すと思われる。	▼古墳前期。
253	春山・春山B遺跡	長野県	基本土層	6, 7	pp10-11: 6・7層は明瞭な砂層堆積は認められなかったものの、砂質シルトあるいは砂が多量に混入した状況となる調査域があつた。6層内からは明瞭な遺構と出土遺物はなく、7層上に安定的な被覆となっていることから、洪水性の自然堆積層が基調となつて耕作地もしくは荒地であつたと推測される。7層は検出遺構等から古墳時代前期初頭の時期が下限となるので、6層は古墳時代前期中葉から中期の時期が与えられ、人為的な土地利用はなされなかったと判断される。	▼古墳前期初頭。△古墳前期中葉～中期。
254	春山・春山B遺跡	長野県	基本土層(B地点)	8d	p10: 8層は灰色シルトを基調とした弥生後期の遺構が検出され、低地では4層に細分された。(中略)低地・低地境では8層下部(8d層)が細砂で、洪水性の堆積層と捉えられる。この砂層は水田址を覆い、竪穴住居跡住居の埋土にも同質の砂層が認められることから9層内に構築された数棟の住居は水田埋没とほぼ同時期とみなされる。p12: 弥生後期の集落は移行の重複関係から2ないし3時期あると考えられるが、出土土器の型式差は微妙である。(中略)後期中葉段階は水田址が確認され、居住空間と合わせた景観が具体的に姿を現した。水田は洪水性の砂層により埋没し、数軒の竪穴住居の埋土からも同一の砂層堆積が認められ、本地域一帯に大洪水があり、一時的な断絶があつた状況が確認された。後期後葉段階に低地では遺物廃棄場あるいは井戸が複数検出され、住居は北東寄りに展開する。(後略)	▼弥生後期中葉。△弥生後期後葉。
255	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	更埴条里遺跡	IX～XI	[寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194]p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, VII; 縄文時代晩期, IX～XI; 縄文時代後期(たびたび)で発生。)	★縄文後期。縄文晩期。9世紀後半。
256	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	更埴条里遺跡	VII	[寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194]p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, VII; 縄文時代晩期, IX～XI; 縄文時代後期(たびたび)で発生。)	★縄文後期。縄文晩期。9世紀後半。
257	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	屋代遺跡群	XIV, XV	[寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194]p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, IV; 7世紀後半(水路氾濫・蛇行), VI上面; 古墳後期, VII; 縄文時代晩期, IX～XI; 縄文時代後期(たびたび), XII～XIII; 縄文中期中葉～後葉, XIV・XV; 縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉～後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。

258	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	屋代遺跡群	X II, X III	〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, IV; 7世紀後半(水路氾濫・蛇行), VI上面; 古墳後期, VII; 縄文時代晩期, IX~X I; 縄文時代後期(たびたび), X II~X III; 縄文中期中葉~後葉, XIV・X V; 縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。
259	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	屋代遺跡群	IX~X I	〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, IV; 7世紀後半(水路氾濫・蛇行), VI上面; 古墳後期, VII; 縄文時代晩期, IX~X I; 縄文時代後期(たびたび), X II~X III; 縄文中期中葉~後葉, XIV・X V; 縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。
260	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	屋代遺跡群	VII	〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, IV; 7世紀後半(水路氾濫・蛇行), VI上面; 古墳後期, VII; 縄文時代晩期, IX~X I; 縄文時代後期(たびたび), X II~X III; 縄文中期中葉~後葉, XIV・X V; 縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。
261	更埴条里遺跡・屋代遺跡群	長野県	屋代遺跡群	VI上面	〔寺内隆夫「自然災害痕跡」pp191-194〕p191(表17「災害痕跡一覧」): (洪水は基本層位Ⅲ-2; 9世紀後半, IV; 7世紀後半(水路氾濫・蛇行), VI上面; 古墳後期, VII; 縄文時代晩期, IX~X I; 縄文時代後期(たびたび), X II~X III; 縄文中期中葉~後葉, XIV・X V; 縄文中期前葉で発生。)	★縄文中期前葉。縄文中期中葉~後葉。縄文後期。縄文晩期。古墳後期。7世紀後半。9世紀後半。
262	石川条里遺跡	長野県	昭和62年度調査		p8: (昭和62年度調査について)調査地の土層堆積状態は、中世段階から現代に至るまでの水田耕作土下部に、千曲川氾濫層と思われる砂層が存在し、それに覆われる形で平安時代の埋没水田層が埋没している。砂層の堆積は西側の地区ほど薄くなり、良好な状態で水田面を確認できたのは1号及び2号トレンチの東側においてのみであり、その他の地区では、氾濫による水田の廃絶後比較的早い時期に水田が復興したらしく、上部からの耕作により砂層が消滅したかの様相を見せている。同層より下には、有機質を多量に含む水田層が厚い堆積をみせ、木製遺物の包含も確認された。	▼平安。
263	石川条里遺跡	長野県	平成2年度調査のIV-1区		p37: (平成2年度調査のIV-1区について)設定した試掘坑においては、例外なく聖川氾濫に由来すると考えられた砂礫層の断続的な堆積が認められ、聖川に接近するほどその規模と重層性を増す傾向がうかがわれた。現況の水田耕作土直下に厚い砂礫層を認める場合が多く、氾濫のピークは近世に設定されるものと思われる。この時期、当該地の水田耕作は、大きく衰退したことを土層の観察から窺い知ることができる。(後略)	★近世など。
264	石川条里遺跡	長野県	平成2年度調査のIV-2区		p37: (平成2年度調査のIV-2区について)北・西側が山地に接するこの地域は、かなりの傾斜地に位置することから、棚田に近い水田地帯となっている。水田土壌下に、角礫を中心とした砂礫混入層を検出する場合が多く、標高を上げるほどに耕作土層の堆積は薄くなる。極端な場合、現況の耕作土20cmを別として以下砂礫混合層が連続している例もあり、山手からの土石押し出しにより形成された崖錐地形に近い立地と判断することができる。	
265	石川条里遺跡	長野県	平成2年度調査のIV-3区		p37: (平成2年度調査のIV-3区について)前年度のⅢ-3調査区に隣接した聖川沿岸部にあたる。同河川の氾濫の影響から堆積活動が活発なため、埋没する平安時代水田遺構までの深さが2m近くに達することが予想されてきた。試掘坑による調査所見では、地表下1mまでの間で、近世の水田層とそれを被覆する複数の氾濫層の存在を確認したものの、上流域のIV-1調査区と比較すると、氾濫層中に大礫の混入が少なく、堆積のあり方に差異が指摘される。	▼近世など。
266	今宿遺跡	岐阜県	基本層序	VII	p12: (Ⅶ層は)緑灰色細砂~灰色微砂。層厚6cm~75cm。複数に及ぶ洪水砂層。(第2分冊)p88: 今宿遺跡では、弥生時代後期に後背湿地を利用した水田耕作が始められたが、幾多の洪水を経験しながら古墳時代前期の5世紀頃まで、断続的に水田経営は行われた。しかし、5世紀後半から12世紀には、この地で人が活動した痕跡を認められなかった。	▼古墳前期。

267	今宿遺跡	岐阜県	基本層序	IX	p12: (IX層は)暗青灰色砂。層厚10cm~105cm。西側では7.5GY4/1~5BG4/1暗緑灰色シルト~暗青灰色粘質シルトとなる。洪水砂層。一部Ⅷ層の洪水砂層により浸食を受ける。調査区西部にまで及んでいない。調査区の西部を中心に摩滅した弥生時代後期から古墳時代前期の遺物が出土した。	○弥生後期~古墳前期。	
268	堂ノ前遺跡	岐阜県		3	p10: 洪水堆積層。黄褐色を呈する砂層で、宮川本流の氾濫による河川堆積物と判断される。p11: (前略)第3層形成の起因となった河川氾濫の発生年代を、(縄文時代)前期後半~中期中葉初頭の時期に限定することができよう。このような洪水の痕跡は、当遺跡より近い家ノ下遺跡地内の調査では検出できなかった。この洪水の発生原因は、遺跡付近の河川を斜めに横切る活断層の運動にあると思われる。おそらくは断層の運動により、遺跡近くの川底が一時的に上がったことが、洪水を発生せしめた直接的原因となったのだろう。	★縄文前期後半~中期中葉初頭。	活断層の運動に起因?
269	宮下遺跡	静岡県	基本層序	II	p23: II層中には、長尾川の氾濫によると思われる砂礫が、1区・3区・4区で間層として堆積している部分がある。特に3区・4区ではI層との間に約25cmの厚さを測り、この砂礫層の直下から水田遺構とこれに伴う土坑群が検出されている。p27: (前略) (上層の土坑について)2区・3区のものが近代以降、4区のものが江戸時代末頃と2時期に大別されるが、いずれも覆土が砂礫である点で共通している。これら土坑は、長尾川の氾濫によって埋没した水田の修復に際して、田面を被覆した砂礫の処理と、修復水田の耕土用客土としての粘土採掘を目的として掘削されたものと考えている。	▼江戸末期。近代以降。(2回)	
270	川合遺跡	静岡県	6区・7区	II (第1遺構面)	p30: II層は灰褐色粘土層で、1~2cm大の礫を多く混入する部分を間層として上下2層に分層し(IIa層, IIb層)、それぞれの上面において水田跡を検出した[第1遺構面]。(中略)旧水田の部分ではII層水田に掘削された土坑群と洪水の際の氾濫流路などを検出している。p37: (各遺構の年代は第1遺構面;6・7区II層, 8区II層, 12区II層が江戸時代末期。第2遺構面;6・7区III層, 8区III層, 10・11区III層が江戸時代前期。)	▼江戸前期。△江戸末期。	
271	川合遺跡	静岡県	6区・7区	IV	p30: IV層からX層までは砂層とシルトの互層状態が続いており、V層, VII層, IX層の各層の上面で砂層に被覆された水田跡を検出した。V層は青灰色シルト層で、上面において畦畔と多数の足跡および自然流路(SR6401)を検出した。(中略)V層を被覆する砂層(IV層)はこの自然流路によって運ばれたものであり、調査区の東半部では顕著であるが、西半部では部分的に認められるに過ぎない。p37: (各遺構の年代は第2遺構面;6・7区III層, 8区III層, 10・11区III層が江戸時代前期。第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。)	△江戸前期。	
272	川合遺跡	静岡県	6区・7区	VI	p30: IV層からX層までは砂層とシルトの互層状態が続いており、V層, VII層, IX層の各層の上面で砂層に被覆された水田跡を検出した。(中略)V層もV層と同様のシルト層である。VI層の砂を除去して水田跡を検出した。p37: (各遺構の年代は第2遺構面;6・7区III層, 8区III層, 10・11区III層が江戸時代前期。第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。第4遺構面;10・11区VII層, 12・13区VII層が古墳時代後期。)	△江戸前期。	
273	川合遺跡	静岡県	6区・7区	VIII	p30: IV層からX層までは砂層とシルトの互層状態が続いており、V層, VII層, IX層の各層の上面で砂層に被覆された水田跡を検出した。(中略)(IX層の)水田跡を被覆するVIII層は砂礫層であり、斜面に沿ってきたから南へと流れた氾濫流路の主流部にあたっている。p37: (各遺構の年代は第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。第4遺構面;10・11区VII層, 12・13区VII層が古墳時代後期。第5遺構面;10・11区VIII層, 12・13区VIII層が古墳時代中期後半。第6遺構面;6・7区IX層上面, 8区X層上面が古墳時代中期前半。)	▼古墳中期前半。	
274	川合遺跡	静岡県	10区・11区	IV	p34: (第3遺構面の)水田は河川の氾濫で押し出された砂礫層(IV層)に被覆されており、(中略)水田を被覆する砂礫層には、弥生時代中期から古墳時代後期にかけての遺物が少量ながら含まれていた。p37: (各遺構の年代は第1遺構面;第2遺構面;6・7区III層, 8区III層, 10・11区III層が江戸時代前期。第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。)	▼古墳後期。△江戸前期。	
275	川合遺跡	静岡県	10区・11区	VI	p34: VII層の暗黒褐色粘土上面でもV層水田と同様の河川氾濫によって埋没した水田跡を検出した。水田は青色砂(VI層)で被覆されており、田面には多数の足跡が残存している。p37: (各遺構の年代は第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。第4遺構面;10・11区VII層, 12・13区VII層が古墳時代後期。)	▼古墳後期。△古墳後期。	
276	川合遺跡	静岡県	12区・13区	IV	p35: V層水田, VII層水田とも河川氾濫の砂に被覆されているため、保存状態は良好である。p37: (各遺構の年代は第2遺構面;6・7区III層, 8区III層, 10・11区III層が江戸時代前期。第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。)	▼古墳後期。	
277	川合遺跡	静岡県	12区・13区	VI	p35: V層水田, VII層水田とも河川氾濫の砂に被覆されているため、保存状態は良好である。p37: (各遺構の年代は第3遺構面;8区VII層, 10・11区V層, 12・13区V層が古墳時代後期。第4遺構面;10・11区VII層, 12・13区VII層が古墳時代後期。)	▼古墳後期。△古墳後期。	

278	長崎遺跡	静岡県	基本層序	A層群	p18:A層群は、緩やかな河川氾濫がもたらした粘土層からなる。(古代～近現代)。	★古代～現代。
279	長崎遺跡	静岡県	基本層序	B層群・C層群	p9:B・C層群はいずれも洪水の堆積物であり、B層群は砂の粒子が大きいためC層群よりも勢いの強い水流による堆積物と考えられる。p17:(活発な河川氾濫が粘土層・砂層を堆積させ氾濫常襲地帯となる[C・B層群]…古墳中期～古代。)p146:5世紀には本遺跡の周辺は湿地化し、水田は廃絶され、本遺跡そのものも鎌倉時代まで断絶が認められる。	★古墳中期～古代。
280	長崎遺跡	静岡県	基本層序	DⅡ-2上部	p15:(弥生中期河道について)これらの河道を被覆する腐植土層と微高地の黒色粘土層の直上を、洪水堆積物である厚さ2～3cmの灰白色粘土層(一部では灰褐色粘土層)が遺跡全域で堆積している。この灰白色粘土層と黒色粘土層が攪拌されて暗灰色粘土層(DⅢ層)もしくはDⅣ層(上部)あるいはDⅡ-2層が形成されている。(中略)この灰白色粘土の堆積は弥生中期後半に埋積のほぼ完了した河道群が再び流路となり、氾濫堆積物を黒色粘土またはDⅢ層・DⅣ層(下部)直上に堆積させたものと考えられる。p16:DⅡ-1層・DⅡ-2層からは弥生後期後半の飯田式から古墳前期の古式土師器までの土器片が多く出土している。	▼弥生中期後半。△弥生後期後半～古墳前期。
281	長崎遺跡	静岡県	基本層序	DⅡ-1上部	p17:(前略)古墳前期河道の堆積覆土の厚さは浸食深さの半分ほどであり、(中略)埋積河道跡の凹地と周辺の洪水堆積物の薄い層に覆われたDⅡ-1層水田域の両方を覆ってDⅠ層が調査区全域から検出されている。	○古墳前期。
282	池ヶ谷遺跡	静岡県		B	p26:(B層は)砂礫で構成されるそうである。p38:SD610・611・612は、(中略)B層を形成した洪水時にその上面がかなり削られたものと思われる。p41:(流水浸食痕(SR601)について)調査区の南東側、面積でいうと調査区の1/3程度の部分に流水による浸食痕が検出された。B層を形成した洪水流による浸食であると思われる。(後略)。p103:(A層について)表土直下の粘土層に近世の水田遺構。	▼近世以降。 △近世。
283	池ヶ谷遺跡	静岡県		C	p26:(C層は)河川の氾濫等によって堆積した砕屑物によって生成されたと考えられるラミナの発達した灰色～暗オリーブ灰色の色調で、(中略)。1/2区～7区の調査区全域に広がっている。層厚64～96cmで、平均80cmを測る。(後略)p38:C層下のDⅢ層水田が平安時代に比定され、砂礫層(B層)上面のAⅡ層の水田が近世以降のものと考えられているので、C層の遺構の時期はその間の中世のものと思われるが、年代観を示す資料が少ないため、今後の検討を要する。	★中世?
284	瀬名遺跡	静岡県	1区	28層水田直上	p32:28層水田は、暗褐色砂層によって被覆されており、洪水・氾濫による廃絶が窺える。遺物は、田面より、長床式土器併行と思われる壺が出土しており、水田経営の時期は弥生時代中期後葉と考えられ、5区14層水田と近い時期と推測される。	▼弥生中期後葉。
285	瀬名遺跡	静岡県	1区	19層水田直上	p45:(19層)水田直上は、3mm程度の礫を少量含む青砂層によって被覆されており、洪水による水田の廃絶が窺える。p63:(19層水田の時期は平安時代前期。)	▼平安前期。 △平安後期(17b層水田)。
286	瀬名遺跡	静岡県	1区	17b層水田直上	p50:(17b層水田は)平安後期と考えられる水田跡である。(中略)(17b層)は19層水田と連続している地域もある。上層は、青砂層で、流路SR-01の洪水・氾濫による廃絶が窺える。	▼平安後期。
287	瀬名遺跡	静岡県	1区	13層水田直上	p54:13層水田もやはり、流路SR-01の洪水・氾濫による水田の廃絶が窺える。	▼平安後期(17b層水田)。
288	瀬名遺跡	静岡県	1区		p56:(10層水田の)廃絶も流路SR-01の洪水によると考えられ、青灰色砂層および茶褐色砂層で被覆されている。(中略)時期的には近世の水田と推定できる。	▼近世。
289	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	17～19	p68(第19表):(16a層の時期は弥生中期後葉。20層の時期は弥生中期。)p78:厚い砂礫層(17～19層)を堆積させた大洪水の後、10cmから40cm程の厚さで16層粘土層が堆積している。	▼弥生中期。 △弥生中期後葉。
290	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	15	p68(第19表):(14層の時期は弥生後期。16a層の時期は弥生中期後葉。)p78:16層上では、下層の17～19層の堆積の高まりによって調査区西側は微高地になっている。水田跡は調査区東半部、微高地から低くなっている部分に広がっている。全面、15層の砂層によって被覆されており、畦畔、水田面とも良好な形で検出された。p82:14層は下層の15層砂層、上層の13層砂層とに挟まれる形で存在し、度重なる洪水と洪水の間の一時期であることがわかる。	▼弥生中期後葉。△弥生後期。
291	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	13(14層水田直上)	p68(第19表):(12層の時期は弥生末～古墳前期。14層の時期は弥生後期。)p82:14層は下層の15層砂層、上層の13層砂層とに挟まれる形で存在し、度重なる洪水と洪水の間の一時期であることがわかる。	▼弥生後期。 △弥生末～古墳前期。
292	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	7	p68(第19表):(6層の時期は平安後期。8層の時期は古墳後期～奈良。)p101:8層上には数本の洪水流の浸食痕跡があり、全て北から南北方向に走ったものである。	▼古墳後期～奈良。△平安後期。
293	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	4～6	p106:6層水田以後、大規模な洪水等による砂礫の堆積がなかったようで、(中略)正確には3層と4層の間には部分的に薄く砂層が存在する。	▼平安後期。 △近世～近代。

294	瀬名遺跡	静岡県	2/3区	2	p68(第19表):(3層の時期は近世~近代。)p106:3層水田は大規模な洪水により埋没、放棄されたのであろう。全面厚さ約1~1.5mの砂礫によって被覆されている。p107:3層水田廃絶後、厚い2層砂礫層の上には再び粘土層(1層)が堆積している。現地表面では、その上に更に1m近い厚さで客土されており、宅地となっていた。	▼近世~近代。
295	瀬名遺跡	静岡県	5区	14上面	p125:(前略)14層水田はこの粘土層との土層対比からも、弥生中期後葉と考えることができる。(14層水田は)厚さ約30cmの洪水砂によって埋没し、廃絶されている。p128:調査区東側で検出された14層水田が洪水によって廃絶された時、調査区西側では、その洪水による砂の影響は受けず、14層の直上には粘土層が堆積する。	▼弥生中期後葉。△弥生後期(12層水田)。
296	瀬名遺跡	静岡県	5区	11	p140:12層水田は上面を厚い砂礫層によって覆われているが、(後略)。p140:(調査区中央部の水田区画の)東半は、南北方向の流路あるいは大規模な洪水流の痕跡(SR51201)によって水田面が大きく破壊されており、(後略)。p141:(前略)12層水田の営まれた時期も弥生時代後期と考えられる。	▼弥生後期。△弥生後期末葉~古墳前期(10層水田)。
297	瀬名遺跡	静岡県	5区	9	p144:10層水田も12層水田と同様に厚い砂礫層(9層)によって被覆されており、遺構の検出は容易であった。p146:(10層水田は)弥生末から古墳前期にかけて瀬名遺跡全体に広がる「杭列水田」の一部だと推定される。(中略)10層水田は廃絶後しばらく湿地帯になり、そこを大きな洪水にみまわれたようだ。	▼弥生後期末葉~古墳前期(10層水田)。
298	瀬名遺跡	静岡県	5区	7	p153:(8層水田の)水田面上部は洪水による砂礫層によって被覆されており、田面もこの砂礫層を取り除くことで姿を現した。p154:水田の時期決定には、畦畔内部より出土した10世紀後半の灰釉陶器をあてて考えている。	▼10世紀後半。
299	瀬名遺跡	静岡県	5区	4	p156:調査区東側に水田土壌に相当すると思われるグライ化した淡青色粘土層が存在し、南北方向の2本の畦畔が検出された。流路の氾濫・洪水による砂層(4層)によって被覆されていた。(中略)(水田の時期は)ほぼ11世紀以降ではあると考えている。	▼11世紀以降。
300	瀬名遺跡	静岡県	5区	2	p158:(3層水田の)西側は洪水流の浸食によって遺構面が削られている。(中略)明確に水田面に伴うという遺物はないが、下層からは龍泉窯系とみられる型押し蓮弁文の青磁碗、13世紀と考えられる瓷器系陶器が出土している。	▼13世紀。
301	瀬名遺跡	静岡県	6区	15	p179:16層水田は全域を15層(砂礫)に被覆される。この6区15層は杭列水田を被覆廃絶させた砂礫層(2区~6区に広がる。確認範囲約300m)の一部である。(後略)p183:完形に近い土器として調査区南西部の畦畔交点から小型の埴が検出されたことにより、弥生時代後期後半~古墳時代初頭くらいとした。p189:(14層水田の)基盤層は精査面全域において砂礫層(15層)である。(中略)(6区15層は)5区9層、2/3区10層に約300mの範囲にわたって対応する。	▼弥生後期後半~古墳初頭(16層水田)。
302	瀬名遺跡	静岡県	6区	12	p192:13層水田は自然堆積の細砂(12層:粒径0.1mm以下)によって被覆される。(中略)13層北東部の浸食痕跡は11層水田を廃絶した水田によるものであり、水田遺構東部は被覆層が薄かったため畦畔の検出は困難であった。p209(第50表)(6区13層水田の時期は古墳時代中期以降平安時代末以前。)	▼古墳中期~平安末期(13層水田)。
303	瀬名遺跡	静岡県	6区	9, 10	p194:(11層水田の)被覆層は砂礫(9, 10層)である。p209(第50表)(6区11層水田の時期は平安時代後期~中世。)	▼平安後期~中世(11層水田)。
304	瀬名遺跡	静岡県	6区	4	p198:5層水田を最初に被覆したのは厚さ約30cmの粗砂(4層)である。(中略)5層水田は4層と共に別の洪水流によってさらに浸食されている。この洪水流による堆積(3層)に含まれる礫は最大粒径10cm程度。(中略)3層の上面は6区東端で標高10.7mに至り、その上に近現代の水田が営まれていた。p209(第50表)(6区5層水田の時期は近世。)	▼近世(5層水田)。
305	瀬名遺跡	静岡県	7区	13	p216:13層の被覆土は洪水堆積である。この洪水堆積は8区の19・20層に対応し、砂礫と砂層の互層である。(中略)(13層について)12層の方形周溝墓群に伴う土器が弥生時代中期中葉を示していることから、それ以前の年代が与えられようか。	▼弥生中期中葉(12層方形周溝墓)。
306	瀬名遺跡	静岡県	7区	6	p257:7層水田の土壌は暗青灰粘土で、厚さ150cmに及ぶ砂礫(6層)に被覆されており、分層が明確にでき、検出は容易であった。(中略)7層の時期を平安時代の幅の中で考えたい。	▼平安(7層)。
307	瀬名遺跡	静岡県	8区	19, 20	p273:黒色腐植混じり砂質粘土である21層上には、洪水堆積である20層が堆積している。(中略)(21層からは)弥生時代中期初頭段階とされる丸子式土器と思われる条痕文系の土器の破片5点が出されている。p277:20・19層の大規模な洪水堆積は、後述する方形周溝墓の基盤層をなしているもので、厚さ約1mに及んでいる。(中略)19, 20層は同一の洪水堆積で、基本的には砂礫の互層である。(後略)p281:(1号方形周溝墓に伴う土器は)弥生時代中期から後期に至る時間幅を持っている。	▼弥生中期初頭(21層)。△弥生中期~後期(1号方形周溝墓)。
308	瀬名遺跡	静岡県	8区	10a・b間	p302:10b層水田は(中略)青灰色の細砂によって被覆されていた。同水田経営時に、弱い洪水によって田面に砂が覆ったものと考えられる。p316(第67表)(8区10b層水田の時期は平安時代。)	▼平安。

309	瀬名遺跡	静岡県	8区	9	p304:10a層水田は(中略)シルトを主体とする9層によって被覆されていた。(中略)(10a層水田の年代は)平安時代中期以降と考えられる。p305:10a層水田は耕作中のある時期に洪水に襲われ、2本の浸食痕跡を残している。	▼平安中期以降。
310	瀬名遺跡	静岡県	9区	42上	p324:(前略)(自然流路に伴う)砂の堆積の上には多量の礫がレンズ状につまっていたことから、後にこの流路に沿って洪水流が走ったことがわかる。	
311	瀬名遺跡	静岡県	9区	37b	p341:(38層上のSD93801について)この水路は一時的なものではないだろうか。小規模区画水田面を切って流れた洪水流の痕跡の底を掘り直し、堤をつくって利用したものとも考えられる。調査区西側でSK93804、SK93803を切っている洪水流の痕跡SR93801とほぼ同じ方向で、北から流れてきたのだろう。(中略)38層上の水田は弥生時代末から古墳時代初頭までのいずれかの時期ではないかとみられる。p346:38層上面の西端部を深く抉った洪水流(SR93801)は、調査区西半に青灰色砂質粘土の堆積を残した(37b層)。	▼弥生末期 ～古墳初頭。
312	瀬名遺跡	静岡県	9区	30, 31	p352:33a層は灰褐色の粘土層で、上面を数本の流路によって浸食されており、(後略)。p353:流路から出土した土器から、33a層上の水田が営まれた時期も古墳時代後期から奈良時代にかけてのいずれかの時期と思われる。p354:33a層上を流れた流路SR93302とSR93303は、調査区の西半に厚い砂と礫の堆積をもたらした(31層, 30層)。	▼古墳後期 ～奈良。
313	瀬名遺跡	静岡県	9区	22a	p359:(22層の)調査区の中央から西北部にかけて上層の3本の流路によって深く下刻され、(後略)。p359:22b層上面の年代を推定するならば11世紀代以降、中世の初め頃を含んでいるといえようか。	▼11世紀～ 中世初頭。△ 中世(20層上 面水田)。
314	瀬名遺跡	静岡県	9区	16～19	p362:20層の水田は、時期を異にして北から南へと流れた最低4本の流路によって、埋没し、深く水田面を浸食された。p363:20層上面の水田の時期は中世あたりであろうか。p367:20層上を浸食して流れた流路群は、厚い砂礫やシルトの堆積層(19～16層)を形成していった。	▼中世。
315	瀬名遺跡	静岡県	9区		p367:13層上面の水田遺構では、水田区画の規模や形状は明確にならなかった。水田面に洪水流によると思われる浸食が多いことと、東西方向の畦畔に比べ、南北方向の畦畔の残存状態が悪かったためである。	
316	瀬名遺跡	静岡県	10区	38	p388:10区において確認された最も古い時期の遺構(39層)は、弥生時代中期後葉段階と考えられる水田跡である。(中略)(SD103901について)後の37層の段階で、この水路に沿って洪水流が流れたようで、南側の堤の一部が決壊している。	▼弥生中期 後葉。△弥生 後期～古墳 初頭(35層水 田)。
317	瀬名遺跡	静岡県	10区	34	p396:34層の砂の堆積をもたらした洪水流は、もとより地形の低かった調査区西側を激しく侵食したのであろう。(後略)p436(第95表)(10区35層水田の時期は弥生時代後期～古墳時代初頭。)	▼弥生後期 ～古墳初頭。 △弥生末期 ～古墳初頭 (33層水田)。
318	瀬名遺跡	静岡県	10区	32	p401:33層の水田は(中略)南西方向からの洪水流で一部の水田面と畦畔が浸食され、砂礫で大半が覆われたこと(32層)で、耕作の続行を断念したものと思われる。p437(第96表)(10区33層水田の時期は弥生時代末～古墳時代初頭。)	▼弥生末期 ～古墳初頭。 △古墳中期 ～平安(26層 水田)。
319	瀬名遺跡	静岡県	10区	24, 25	p411:(26層水田について)グリッドE81から、グリッドG79にかけて、洪水流が田面を浸食した痕跡がある。p413:26層の水田は、25層や24層の粘質砂を運んできた洪水流に浸食され、放棄されたのであろう。p441(第100表)(10区26層水田の時期は古墳時代中期～平安時代。)	▼古墳中期 ～平安。
320	瀬名遺跡	静岡県	10区	21, 22	p413:23層上の水田面は洪水流の運んできた砂礫(22層, 21層)の厚い被覆の下、非常に良好な状態で保たれていた。p442(第101表)(10区23層水田の時期は古墳時代後期～平安時代。)	▼古墳後期 ～平安。
321	瀬名遺跡	静岡県	10区	17, 18	p419:(19層水田について)16層の段階以前の洪水による砂の堆積(18, 17層)が厚い調査区の西端と東南端でのみ平面を検出できた。p443(第102表)(10区19層水田の時期は平安時代。)	▼平安。△平 安(16層水 田)。
322	瀬名遺跡	静岡県	10区	15	p420:16層の水田は、洪水により全面に粘質砂が堆積(15層)したことによって放棄されたのであろう。p444(第103表)(10区16層水田の時期は平安時代。)	▼平安。△平 安(14b層水 田)。
323	瀬名遺跡	静岡県	10区	14a, b 間	p423:14層の水田土壌は、部分的に砂を挟んで上層(14a層)と下層(14b層)に分層できた。p445(第104表)(10区14b層水田の時期は平安時代。)	▼平安。△平 安後半(14a 層水田)。
324	瀬名遺跡	静岡県	10区	13	p423:14層の水田土壌は、部分的に砂を挟んで上層(14a層)と下層(14b層)に分層できた。p423:上層の水田面は、洪水流による厚い砂礫(13層)に覆われ、全面的に遺構を確認できた。(中略)14a層水田が放棄されたのもこの洪水によってである。水田面全体に厚さ1mもの砂礫層(13層)が堆積している。p446(第105表)(10区14a層水田の時期は平安時代後半。)	▼平安後半 (14a層水 田)。

325	瀬名遺跡	静岡県	10区	5	p427:6層は、現表土から約1mの深さにあり、客土層(1~4層)の下、洪水流による砂層(5層)を挟んで最初の遺構面である。区画整理前、最後に放棄された近世の水田面だと考えられる。	▼近世。	
326	長崎遺跡	静岡県	7区	20~22	p5:奈良・平安時代集落面とD I層との間の洪水堆積物で、20~22はシルト・砂層でC層群上部に、23~33は(中略)C層群下部に相当すると考えられる。p8:23層の青灰色粘土層は6世紀前葉以前から8世紀後半より前にかけて時間をかけて堆積したと考えられる。その後、青灰色粘土層上面を洪水が襲ったようで、一部に砂が堆積する。そして主に調査区北半で、上層と色調の類似する20層の橙褐色シルト層が堆積し、奈良・平安集落面地山のものになったと考えられる。	▼6世紀前葉以前~8世紀後半。△奈良・平安。	(参考:『長崎遺跡 I』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991年)
327	長崎遺跡	静岡県	7区	23~33	p5:奈良・平安時代集落面とD I層との間の洪水堆積物で、20~22はシルト・砂層でC層群上部に、23~33は(中略)C層群下部に相当すると考えられる。p8:23層の青灰色粘土層は6世紀前葉以前から8世紀後半より前にかけて時間をかけて堆積したと考えられる。その後、青灰色粘土層上面を洪水が襲ったようで、一部に砂が堆積する。そして主に調査区北半で、上層と色調の類似する20層の橙褐色シルト層が堆積し、奈良・平安集落面地山のものになったと考えられる。	▼6世紀前葉以前~8世紀後半。△奈良・平安。	(参考:『長崎遺跡 I』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991年)
328	長崎遺跡	静岡県	7区	40など	p8:SR777~779埋積後の低湿地には、洪水堆積物である40層の灰色粘土層が一面に堆積する。そしてある程度乾燥した時点で、水田耕作が始まったと考えられる。(中略)SK775・776を伴う水田があり、それが洪水等で使用不能となり、方位の異なるSK771~774を伴うD II-2層水田を造営したと思われる。(中略)やがてその水田は河川の洪水・氾濫によって廃絶し、沼沢地となって泥炭が形成され、古墳時代前期に34層のD I層(暗茶褐色泥炭層)に被覆される。	△古墳前期。	(参考:『長崎遺跡 I』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991年)
329	長崎遺跡	静岡県	7区	4~12	p4:(第4~12層は)旧巴川の堆積土層である。p23:(前略)(8世紀後半以前からの)集落は旧巴川の氾濫に襲われ、廃絶したと考えられ、その時期は集落面・覆土出土土器のうち最も新しいものの年代が10世紀前半であることから、それ以後と推定される。(中略)その後、旧巴川は奈良・平安時代集落面を下刻し、多量の洪水堆積物をもたらした。まず12層の青灰色粘土と砂の互層が堆積した後、10層の礫層が大洪水によって急激に堆積し、厚さ1.3~1.7mに及んだ。	★10世紀前半以降。	(参考:『長崎遺跡 I』(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 1991年)
330	川合遺跡 八反田地区	静岡県	基本層序	3	p13:1層は旧水田(第1遺構面)の耕作土で調査区全体に分布する。(中略)(4層)上面で水田を検出している(第2遺構面)(中略)3層は灰褐色細~中粒砂層である。長尾川の洪水堆積物であり、4・5層水田を被覆している。p16(第3表):第1遺構面の時代は江戸時代後半~現代。第2遺構面の時代は江戸時代前半。	▼江戸前半。 △江戸後半~現代。	
331	川合遺跡 八反田地区	静岡県	基本層序	7	p13:7層は砂礫層である。長尾川による堆積層で自然堤防状の微高地を形成している。上面は古墳時代末~平安時代の集落域となっている(第4遺構面)。(中略)B工区南半部では7層を除去した8層上面で水田を検出した(第5遺構面)。p16(第3表):第5遺構面の時代は古墳時代後期。	▼古墳後期。 △古墳末期~平安。	
332	川合遺跡 八反田地区	静岡県	基本層序	13	p16:13層は砂礫層及び緑灰色中~細粒砂層である。長尾川の洪水堆積層でB工区南半部に微高地を形成している。上面で溝状遺構や流路を検出した(第7遺構面)。p16(第3表):第6・7遺構面の時代は弥生時代中期~古墳時代前期。	△弥生中期~古墳前期。	
333	曲金北遺跡	静岡県	基本層序	V	p9:黒色粘土と灰白色粘土の混じった層である。洪水によって、下層のVI層を攪拌しつつ、そのVI層上に堆積した層である。p80:(前略)洪水の痕跡が検出されたSK18の西側、SK19北側のブロック-VI層水田で示したSブロックは、V層水田が耕作された様子はなく、VI層水田が明確に検出されている。これは、VI層水田の最終時期、洪水によって上層がV・IV層で覆われてしまい、そのまま水田を放棄してしまったことを意味している。調査区以南は一時的にV層水田が耕作されていた痕跡があるものの、輪カンジキ型田下駄の出土で明らかのように、絶えずIV層が供給されるような軟弱な地域であったことが予想される。それが北側ほど、顕著であったと推測される。最終的にはV層水田も放棄されるが、恐らくは大規模な洪水により、一面がIV層の土砂で覆われてしまったことが原因であると考えられる。静岡平野の各遺跡の発掘調査結果などにより、このIV層を供給したのは古墳時代中期頃の安倍川の氾濫であると推測されている。	△古墳中期。	
334	曲金北遺跡	静岡県	基本層序	III	p9:下部に粒の細かい締まった白い炭酸鉄をブロック状に含む青灰色粘土層である。(中略)堆積の厚い第4調査区及び第3調査区の北側部分では、このIII層中に砂の間層が何層か認められ、第4調査区ではそのように砂を被った形の水田面を含め、全部で3面の水田遺構を部分的ではあるが検出することができた。p75:(III層段階(p64:古墳時代後期)の水田について)VI層の段階に比較して、頻りに洪水を受けていたようである。洪水によって砂をかぶった段階で放棄され、またある程度落ちついた段階で再び耕作が開始されている。(後略)	★古墳後期。	

335	川合遺跡 志保田地区	静岡県	基本層序	5	p10: 砂礫層を主体とする洪水性堆積物層で層厚は約2mを測る。基本的に無遺物層だが、流木を交える。層の主体は礫で、10cmを超える大型の礫も見られ流下力の大きさを物語る。(中略)形成時期ははっきりしないが、古墳時代後期(第5面水田の時期)以降奈良時代(8世紀前半)までの範囲で、それ程長期間にわたって形成されたものとは考えにくい。p115: 調査第5面と6面は、上下を厚さ1.1m~1.8mを測る洪水堆積の砂礫に挟まれている。5面は水田、6面は方形周溝墓からなり、弥生時代中期から古墳時代中期の間は、大きな洪水に遭うことなく、低地ではあるが比較的安定した環境が類推される。	▼古墳後期。 △8世紀前半。	
336	元島遺跡	静岡県	基本層序	Ⅲ-a	p7: (Ⅲ層)は室町時代中期から江戸時代初頭にかけての遺物包含層である。(中略)砂質がかった褐色土がⅢ-a層で、I面遺物包含層である。平均30cmほどであるが、流路・洪水等によって削平された箇所も多い。9区東北角から3区東南角を結ぶラインから東を流れる近世流路によって、4~7区全域にわたって削平を受けている。	★近世。○室町中期~江戸初頭。△近代。	
337	元島遺跡	静岡県	基本層序	Ⅳ-c	p9: (Ⅳ層)は鎌倉時代から室町中頃にかけての遺物包含層である。(中略)Ⅳ-c層が、Ⅳ面遺物包含層で調査区北西角部のみに確認されており、他の区域は、洪水・流路によってほとんど削平されている。	○鎌倉~室町中期。	
338	元島遺跡	静岡県	1・2・3・6・8・9区	第Ⅱ遺構面直上	p146: (15世紀代の第Ⅱ遺構面について)第Ⅰ遺構面との時期差は、ほとんどないと考えられるが、溝の配置等、16世紀代まで亥影響を与えるもの、まったく機能を停止し埋没してしまうものがある。おそらく、15世紀の末頃に大きな洪水の影響を受けている可能性が高い。この集落は、明応の大地震によって壊滅的打撃を受けた集落と考えられ、集落そのものが自然災害によってかなり削平を受けており、柱穴の掘り方も非常に浅い状況で検出されている。	★15世紀末。 ▼15世紀。	明応大地震と関連している可能性もある。
339	元島遺跡	静岡県		第Ⅲ・Ⅳ遺構面間	p193: 第Ⅲ遺構面を、13世紀代の遺構として捉えた。出土遺物が少なく、また上層の大規模な洪水層によってかなり破壊を受けており、建物が検出できたのは、1区・9区・8区の一部で約500m ² 程でしかない。(中略)第Ⅲ遺構面と第Ⅳ遺構面のレベル差は、約20~30cm程であるが、出土遺物の年代にまったく変化は見られない。おそらく、13世紀の中で、洪水等の自然災害によって集落の再構築があったためと推定される。p279: 元島遺跡の中世面の基盤層は、洪水によって堆積した砂礫層が大部分を占めている。(中略)これら12世紀代の遺物と13世紀代の遺物は共に、基盤となる堆積層の遺物である。従って、13世紀中頃に巨大津波もしくは大洪水によって堆積された層の可能性が高い。(中略)元島遺跡の大洪水の痕跡と土遺跡の断層から、13世紀中頃の東海地震の想定が可能である。	★13世紀。▼13世紀。△13世紀。	津波の可能性もある。
340	恒武西宮遺跡	静岡県	SR43		p14: SR43は南側をSR42によってほとんど挟まれて、不明な点も多い。(中略)SR45埋没後にSR43が洪水により形成されたものと考え、SR45南西部出土時の多くはSR43に伴うものと考えたほうが良いであろう。SR43出土土器には時間幅があり、比較的長期間存在した可能性がある。SR45が6世紀前半には埋没し、それ以降7世紀中葉頃まで流れた可能性が高い。	△7世紀中葉。	
341	恒武西宮遺跡	静岡県	SR30・46	埋積土	p14: 北区南側には、比較的規模の大きい旧河道(SR30・46)が存在する。SR46はN-70°-Eで、埋積土は砂質でラミナが発達している。洪水などにより比較的短期間で埋没している可能性がある。最下層からは、7世紀後半のローリングを受けた土器が細片の状態が多く出土した。(中略)SR30もN-70°-Eで、埋積土もSR46に類似している。出土遺物には7世紀末葉~9世紀前半の土器があるが、それほど長期間流れていたとは考え難く、二次的廃棄も含めて考えた方が良いかもしれない。	○7世紀後半~9世紀前半	
342	矢崎遺跡	静岡県		XⅢ・XⅣ	p66: 第3面の遺構群は砂礫層であるXⅢ層やXⅣ層によって全面を被覆されていた。(中略)(第3面の時期は)や弥生時代後期から古墳時代前期に位置付けるのが適当と思われる。p72: (前略)SK855よりも北側ではこのような耕作痕が全く検出されず、XⅣ層とXⅤ層の層界も明瞭であった。これに対し、SA853より南側ではXⅤ層の上位に若干砂が混入する(XⅣ層の砂か)状況が見られた。このことから、当時洪水により水田全域に砂が被覆した後、SK855よりも北側は耕作地としては放棄し、SA853よりも南側のみを耕地として利用しようとしたのではないかと考えられる。	▼弥生後期~古墳前期。	
343	恒武東覚遺跡	静岡県	自然流路SR202		p33: (前略)下層の埋土は砂が目立ち、ラミナの発達も認められる。19層上面では奈良時代の土器が多く出土し、洪水で一気に流されてきた状況である。p34: 恒武西浦遺跡のSR30の延長の可能性が高い。p66(表2): (SR202の時期は)8世紀~10世紀前半。	★8世紀~10世紀前半。	
344	本郷坪遺跡	静岡県	(基本層序)	Ⅵ~Ⅷ	p12: Ⅵ~Ⅷ層は古墳時代後期の安部川の洪水堆積層であり、これら3層の層厚の合計は最大で2.5mに達する。p75: (前略)Ⅳ層から成る畦畔を律令期~中世の条里畦畔と仮定したが、推定されるⅣ層の堆積・利用時期から上限は7世紀(古墳時代後期)、同下限は12世紀(平安時代後期=古代末期または中世初期)に比定することができる。	★古墳後期。 △7世紀~12世紀。	

345	長沼遺跡 第2次	静岡県		6	p9:(6層は)粘土・シルトの互層。層厚は厚いところで15cm程度を測るが、(後略)。p11:(前略)6~9層が古墳時代(中~後期)(中略)に比定できる。(中略)古墳時代中~後期にみられる砂礫の流入(河川氾濫)の影響により、長沼遺跡の地形・傾斜等は大きく変化し、盛土造成等がなされる前段階までの基盤層となっている。	★古墳中期 ~後期。	
346	長沼遺跡 第2次	静岡県		7	p9:(7層は)灰色粘土。層厚約50cmで、細砂層を境として3枚に分層できる(7a~7c)。p11:(前略)6~9層が古墳時代(中~後期)(中略)に比定できる。(中略)古墳時代中~後期にみられる砂礫の流入(河川氾濫)の影響により、長沼遺跡の地形・傾斜等は大きく変化し、盛土造成等がなされる前段階までの基盤層となっている。	★古墳中期 ~後期。	
347	長沼遺跡 第2次	静岡県		8	p9:(8層は)灰色砂・シルト。ラミナの発達する自然堆積層。p11:(前略)6~9層が古墳時代(中~後期)(中略)に比定できる。(中略)古墳時代中~後期にみられる砂礫の流入(河川氾濫)の影響により、長沼遺跡の地形・傾斜等は大きく変化し、盛土造成等がなされる前段階までの基盤層となっている。	★古墳中期 ~後期。	
348	長沼遺跡 第2次	静岡県		9	p9:(9層は)灰色粘土・シルト。ラミナ発達。p11:(前略)6~9層が古墳時代(中~後期)(中略)に比定できる。(中略)古墳時代中~後期にみられる砂礫の流入(河川氾濫)の影響により、長沼遺跡の地形・傾斜等は大きく変化し、盛土造成等がなされる前段階までの基盤層となっている。	★古墳中期 ~後期。	
349	西畑屋遺跡	静岡県	西区土器集積 1・2・5		p16:土器集積1・2は西調査区南西端で検出された2列の堆積である。上部は砂で薄く覆われ、集積後に河川の氾濫があったと思われる。土器集積5の北には炭化物集積遺構があり、洪水等に起因すると考えられる。p42:土器集積1・2は7世紀前半の遺物を伴わず、遺跡内では時期的に新しい。隣接する礫集積は7世紀前半~8世紀後半に利用される。	△7世紀前半?	
350	梶子遺跡	静岡県			p44:弥生時代後期後半、欠山様式の段階になると状況は一変する。伊場・城山・梶子遺跡周辺は旧砂丘部を除き一面、伊場遺跡での調査でC層と呼んだ灰青色の粘土層に覆われる。この現象はこの地域が海進に伴う湿潤化の結果と度重なる洪水のため、居住には不適当な環境になったことを示している。p45:C層の堆積は、2世紀後半~4世紀にわたっていたと考えられる。	★2世紀後半 (弥生後期後半(欠山))~ 4世紀。	
351	城山遺跡	静岡県		4~7	p6:4~7層は伊場C層(3~5世紀)と呼ばれる。4層はシルト、5~7層は粘土層である。5層からは弥生後期の土器と土師器が検出された。3層は6~7世紀の生活面である。8層は伊場D層(1~3世紀)に対応する。	★3世紀~5 世紀。	
352	伊場遺跡	静岡県		C	p12:(C層は)弥生時代の集落の全域を覆う青灰色粘土層。環濠内では、青黒い上半部をC1層とし、青白い下半部をC2層とした。環濠内C1層内では弥生後期後半の遺物を包含していた。大溝の縁で、C層に覆われたD層内から弥生後期後半の土器が出土している。環濠の外では原則的に無遺物層である。伊場集落を廃絶させた洪水による堆積物と考えられる。古墳中期・後期と律令時代の遺構はC層を切り刻んでいる。	▼弥生後期 後半。○弥生 後期後半。△ 古墳中期~ 律令時代。	
353	御殿・二之宮遺跡第6次	静岡県		河道覆土	p12:6世紀末葉より平安時代まで河道は一定している。(中略)覆土の最上層は洪水を成因とする灰白色粘土層や流木が認められ、川を埋めてしまっており、川は消滅している。川の消滅した時期は灰白色粘土層中より山茶碗などが出土していることから平安時代末葉から中世初頭と考えられる。	★平安末葉 ~中世初頭。	
354	清洲城下町遺跡	愛知県	南地区	4	p6:第4層は遺物をほとんど含まない砂層であり、河川の氾濫による堆積と見られる。62J区、62K区では、第4層と第5層の間には黄褐色シルト層に砂が混入した層があり、この上面で平安時代後期の遺構が検出された。(中略)北地区から62K区までに広がる自然堤防上に古墳時代後期から平安時代前期の遺構が展開し、その後は河川の氾濫などがあり、不安定な状況であったと考えられる。この中でも平安時代後期の遺構群は部分的に存在するが、鎌倉・室町時代に自然堤防が安定するまで大規模な遺構群は展開しない。	▼平安後期。 △鎌倉・室 町。	
355	清洲城下町遺跡	愛知県			p113:(A期(p6:A期は古墳時代後期~平安時代初期の遺構群))について遺構の埋没状況から見て、たびたび氾濫によって浸水することがあり、そのたびに居住域を変えた可能性も想定できる。	★古墳後期 ~平安初期 (断続的に複 数回)。	
356	山中遺跡	愛知県	A区		p11:弥生時代前期の遺構はA区のほぼ全域で検出できたが、大半の遺構の埋土は、褐色中粒砂の単一土層であり、洪水等の影響により一気に廃絶した様相を呈していた。p86:(前略)(弥生時代前期について)これらの遺構群の多くは、その埋土は洪水性の堆積層である褐色中粒砂に覆われており、ある時期、一気に洪水の影響を受け、遺跡自体は衰退する方向に進んでいくことになる。	★弥生前期。 ▼弥生前期。	

357	大毛池田遺跡	愛知県	基本層序	3	pp8-9:水田耕地は放棄された後6世紀後半にいたるまで明確な遺構はみられない。(中略)(3層は)褐色～黄褐色を呈する砂を主体とするシルト～極細粒砂からなる。(中略)本層はその層相と下位層を削剥した痕跡がみられることから、洪水により短期間で埋積したものである。p10:(古墳Ⅱ期は)第4層水田が構築される期間。廻間Ⅲ式末葉～松河戸Ⅰ式の時期が相当する。(古墳Ⅲ期は)第4層水田の埋没時期である。第4層を2～10cmの厚さのシルト・砂層が覆う。この直下で検出した土器群はほぼ完形に近く、洪水によって短期間に埋没したと思われる。洪水直前の時期を示す資料である。p21:基本層序第4・5層で検出した古墳時代の水田面を埋没させた洪水性の厚い砂質の堆積層に覆われ、ここに断絶が認められる。数次の洪水がもたらしたと思われるシルトと砂層の堆積は、厚いところで50cm、少ない地点においても30cmを測り、この間には明確な生活面は認められない。極めて不安定な時期であったことが推測される。	▼3世紀～4世紀後半(松河戸Ⅰ式以降)。△6世紀後半。 松河戸Ⅰ式土器について、赤塚次郎、1994「松河戸様式の設定」『松河戸遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書49、pp84-103によると、畿内の中で盛行する特徴的なヨコミガキ調整が欠落し始めるこの段階がおおよそ松河戸Ⅰ式前半期と基本的に併行する」。ただし、松河戸式は廻間式の基本的に後続であるから、本稿では松河戸式の上限を廻間式の下限とした。松河戸式の下限については赤塚次郎・早野浩二、2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』2 pp.13-32から、420年とした。
358	門間沼遺跡	愛知県			〔石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198、「古代の様相」pp199-211、「中世の様相」pp212-219〕p219(表5-1「門間沼遺跡の変遷」):(古代Ⅱ・Ⅲ期/1-17号窯-K-14号窯間。洪水。)	▼1-17号窯。△K-14号窯。 ①齊藤孝正、1991「愛知」『古墳時代の研究』6 pp174-181によると、岩崎17号(1-17号)窯期は中村編年の陶色Ⅱ型式6段階～Ⅲ型式3段階(田辺編年ではTK217～MT21初め型式期:620年代～700年代前半)に対比される。 ②山下峰司(1995)「灰釉陶器・山茶碗」(中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 pp.279-297のp.280によるとK14窯式は9世紀前半、K90窯式は9世紀後半が有力とされる。

359	門間沼遺跡	愛知県			[石黒立人「古墳時代の様相」pp194-198, 「古代の様相」pp199-211, 「中世の様相」pp212-219]p219(表5・1「門間沼遺跡の変遷」): (古代Ⅲ期・中世Ⅰ期/K-14号窯(K-90号窯)・藤澤第4型式間。洪水。)	▼K-14号(K-90号)窯。 △藤澤4型式。	①山下峰司(1995)「灰釉陶器・山茶碗」(中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 pp.279-297のp.280によるとK14窯式は9世紀前半, K90窯式は9世紀後半が有力とされる。②藤澤良祐(1995)「古瀬戸」(中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 pp.367-382のp.378によるとⅣ期は13世紀後半ごろとされる。
360	下津北山遺跡	愛知県	調査区北西部		p12: 谷地形は、微高地の遺構検出面付近に相当する高さまでは、シルト～粘土からなる細粒な滞水性の堆積で、それより上位は粗粒砂で一気に埋没している。粗粒砂についてはバラス層直下からすでにみられることから、それらの多くが比較的近年の洪水性氾濫によってもたらされたことは明らかである。p101: 15世紀末以降、河川活動は活発化、遺跡周辺一帯は洪水に見舞われることになり、下津北山遺跡も終焉する。	★15世紀末以降。	
361	猫島遺跡	愛知県	NR01付近		p21: (溝99E-SD04について) 99E区で外環濠SD02から北東方向に分岐し、すぐに屈曲して東西方向にまっすぐ走る大溝である。調査時にSD02との関係を精査したが、切り合い関係は認められず、SD02から枝分かれした濠と認定した。総延長は約30m、幅約1.7m、断面は逆台形を呈し、深さは50cm強を測る。遺物としては尾張編年Ⅲ期に比定される土器を出土する。外環濠99E-SD02は、一部を北東から流れ込む粗粒砂層に埋め尽くされ、環濠壁の一部を破壊されており、弥生時代中期前葉に洪水で被害を受けたと推定されている。このため環濠の再掘削・補強が実施されており、99E-SD04はその際に増設された濠であろう。この濠によって低湿地と区画された北側に00Ac区の猫島Ⅲ期(尾張編年Ⅲ期-1・2期)の竪穴住居群が営まれたと推定される。	★弥生中期前葉以前。	
362	猫島遺跡	愛知県	99E-SD04		同上。	★弥生中期前葉。○尾張編年Ⅲ期。	
363	水入遺跡	愛知県	基本土層	青灰色シルト・粗粒砂層	(第1分冊)p14: 青灰色シルトおよび粗粒砂層 黒褐色土層の上に厚く堆積するのが近世～近代の洪水による堆積砂層である。耕作土たる表土はこのごく表層である。砂層は遺跡南部にゆくほど厚くなり98B2区では地表面から約3mも堆積する。99C区などでの観察によると粗粒砂層と青灰色シルト層の互層になっており、洪水による前者堆積ののちに田畑として復旧した後者の層の繰り返しになっているとみられ、十数回以上の繰り返しを観察できる箇所もあるという。洪水回数はともかく、これだけの厚さの堆積が観察できたのは付近一帯の発掘調査の中でも水入遺跡だけで、遺跡南側に堤防を設けて遊水池にしていたこととも関係するとみられる。	★近世～近代。	
364	志賀公園遺跡	愛知県			p8: (前回の調査で)NR07下部から宇田Ⅰ式期の堆積層が検出されたが、今回検出した上層水田が宇田Ⅰ式期であること、さらに上層水田の上部を洪水層が覆っていることから見て、年代はそこまで遡らないだろう。古くても7世紀前半代と考える。	▼古墳後期(宇田Ⅰ)。	
365	伝法寺本郷遺跡	愛知県	A区・B区(NR01)		p104: (遺跡では)古代以降、河川活動が活発化し、堆積環境が不安定化する。(中略)河川活動が活発化する時期については、(中略)7～12世紀であったことが確かめられる。p105: (中世以降について)A・B区の河川は、上層が粗粒砂によって埋積することから、大規模な氾濫によって短期間に埋没したとみられる。その一方、周囲には相対的に新しい自然堤防が形成され、13世紀以降、A区と中心として中世遺構が展開する。(中略)一方、1221年の下津川(青木川)大洪水の記述からも、12～13世紀までは堆積環境が不安定な状態が継続し、それ以降は地形が徐々に安定化したとみられる。	★7世紀～13世紀。	

366	中之郷北遺跡	愛知県		Ⅲ	p110:Ⅲ層は遺跡の広範を被覆する洪水性堆積で、A区とBa区で検出された河川も、同様の堆積物によって埋積する。Ⅲ層中に包含される遺物は少ないが、A区の河川からは、7世紀の遺物が大量に出土していることから、堆積が進行した時期もその前後と考えられる。p111:(Ⅲ層上位で検出された遺構の時期は中代(8世紀)。(中略)Ⅳ層を被覆するⅢ層の堆積は、7世紀を中心としながらも、5世紀後半以降の複数時期の洪水に起因することが判明している。(後略)	★5世紀後半～7世紀。○7世紀。△8世紀。	
367	伝法寺野田遺跡	愛知県	基本層序	Ⅳ	p11:(基本層序について)Ⅰ・Ⅱ層は中世以降の堆積層、Ⅲ・Ⅳ層が古墳時代前期の遺物包含層、Ⅳ層以下が水田を形成および上面を覆っていた堆積層であり、Ⅷ層以下では遺物の出土はみられなかった。p24:Ⅳ層(灰黄色細粒砂層)Ⅴ層上面を被覆する洪水性の堆積で、層厚は最大で約40cmを測る。粒径によって細かくは3層に区分できる。比較的起伏に富む地形は、この洪水砂によって、きわめて短期間でかなり平坦になったとみられる。Ⅳ層には極少量の廻間Ⅰ式期に相当する土器が包含されていた。	○廻間Ⅰ式。 △古墳前期。	
368	上品野蟹川遺跡	愛知県	基本層序	Ⅱ	p67:河川流路(NR01)今回の調査区の大部分を覆う河川性の堆積層(Ⅱ層)の範囲である。中世以降に堆積が進み、01B区では複数の砂層を含む層厚1m強の堆積を確認している。流量の大きい時期があり、01A区微高地もこの時点で削平を受けたと考えられる。上品野蟹川遺跡では急激な堆積環境の変化が、中世初頭に確認でき、この原因には主要な河川流路の大幅な変更があったことが考えられる。	★中世初め。	「急激な河川流路の変更」を洪水とみなした。
369	惣作・鐘場遺跡Ⅱ	愛知県	SD212		p16:(溝SD212について)溝は弥生時代後期に掘られ、その後、土石流などの一時的な流水によって大きく形状を変えられたものと考えられる。p290:(弥生時代の遺構について)北部地区の02B区に集中し、後期の竪穴住居2棟、溝1条が検出された。(中略)溝は後期の時期に属し、最下層からこの時期の土器が検出されている。惣作川の谷筋にあり、谷に沿って流れ下った土石流によって一時埋没したあと、再掘削されており、最終的に古墳時代前半に放棄された。	★弥生後期。 ▼弥生後期。	
370	朝日遺跡	愛知県		朝日T-SA層	p28:高蔵式末葉期に勃発した洪水性の堆積層は、朝日遺跡谷Aを中心にして多大な影響をあたえたものと想定できる。特に重要な点は北区画の南側に存在する環濠帯とその南岸に設置されていた逆茂木や乱杭帯を埋め尽くしている点は留意したい。また谷Bには基本的に朝日T-SA層に相当する地層が確認できないようであり、谷Bの整備がこの時期以降に開始された可能性が高いこととなる。また高蔵式末葉期の洪水は他の遺跡でも確認できるようであり、広域的な自然災害という評価も想定しておきたい。	★高倉式末葉。	
371	須ヶ谷遺跡	愛知県	05C区	砂層	p27:05C区では上述のように砂層が挟まれ、洪水の影響を受けた可能性の高いことが判明した。p105:(弥生時代中期中葉1(貝田町式1期について)05C区北半部の砂層は中期前葉からこの時期にかけて堆積したもので、大きく上下の2層に分かれる。SB3060は上下を砂層に挟まれ、SB001は上部の砂層を切って床面が構築されている。SB3001は砂層を切り上部に灰白色シルトが堆積しているが、「外周溝」として対応すると考えたSD16は砂層に覆われており、層的に不整合を生じている。外周溝ではあっても、SB3001には対応しないのかもしれない。	★弥生中期中葉(貝田町式1期)。	
372	志賀公園遺跡第2次	愛知県		黄灰色砂利層など	p2:茶褐色土層からは、13～14世紀の山茶碗や小皿等が主に出土し、(中略)(その下方の)黄灰色砂利層及び黄褐色砂層には、主に6～8世紀代の須恵器等が含まれていた。p7:土層の堆積状況の観察から、黄灰色砂利層等は、調査区中央で砂利層が盛り上がる箇所があり、6世紀～9世紀頃の須恵器等が含まれることから、この時期に河川氾濫によって形成されたと推定された。砂利層の上は、淡灰白色シルト層及び茶褐色砂シルト層で、(中略)(淡灰白色シルト層は)9世紀頃以降に形成されたと推定される。	○6世紀～9世紀。△9世紀以降。	
373	郷上遺跡	愛知県	C3など	基本層序Ⅰ・Ⅲに対応	p60:洪水堆積。pp76-79:戦国時代～近世(15世紀後半～18世紀前半)この時期の特徴としては、調査区の東部一帯に広く見られる洪水堆積層が挙げられる。(中略)県埋文の調査においても国道248号線を挟んだ北側の調査区(98C)で洪水堆積層が確認されている。p81:洪水の痕跡が広く確認されたことは、江戸時代後半に遺跡数が激減する傾向にあることから、矢作川の洪水被害による集落の移動・衰退を示唆した県埋文の調査成果を裏付ける結果となった。	★15世紀後半～18世紀前半。	
374	森山東遺跡	三重県	基本層序	Ⅲ下部	p59:Ⅲ層の下には灰白色細砂が40～60cmの幅で厚く堆積しており、Ⅳ～Ⅷ層は確認されなかった。おそらく、この層は、灰白色細砂土内出土の遺物から判断して室町時代の一時期におこった激しい氾濫によって形成されたものと思われる。	★室町。	

375	森山東遺跡	三重県	基本層序	X	p59・61: 弥生時代の水田遺構は、冒頭でも触れたように2層にわたって検出された。p61: D地区南部からE地区にかけては、下層水田の基盤層であるX I層の上面でX層、Ⅸ層の堆積が認められた。この2層は南に向かって堆積層としての厚みを増す傾向にあるが、北に向かっては徐々に薄くなり、D地区北部から北では、全く見られない。(中略)第1期の下層水田は、地形の傾斜が非常に緩やかな南部の低湿地帯に求められた。ここには、地下水位の比較的高い泥炭土があり、初期の稲作栽培には、最も適していたためであろう。しかしある時期水田全面が河川の氾濫と思われる緑灰色細砂(X層)に覆われ、一旦下層水田は埋没し、さらにその後の滞水で第Ⅸ層が形成された。p97: (下層水田の時期は) 弥生時代中期以前の可能性が高いが、遺物が伴っていないので明確な時期は不明である。	▼弥生中期以前?
376	筋違遺跡	三重県	13工区基本層序	Ⅲb-1	p9(第1表): (中世洪水層。Ⅲa層は13世紀初頭。) p10(第3表)・p11(第3表)・p12(第5表): (調査区西壁・北壁・東壁では9世紀～13世紀初頭に堆積。)	★9世紀～13世紀初頭。
377	筋違遺跡	三重県	13工区基本層序	Ⅳ中部b-1	p9(第1表): (弥生中期遺構面を覆う洪水層。堆積時期: 弥生中期後葉。) p17: Ⅳ層中部b-1層は、SD41をほぼ踏襲して掘削され弥生中期後葉の遺物を含むSD8から流れ出した洪水砂層であり、粒度はSD8付近の粗砂～シルトへと南北に細かく変化する。	★弥生中期後葉。▼弥生中期。
378	筋違遺跡	三重県	13工区基本層序	Ⅳ下部b-1・b-2	p9(第1表): (上層遺構面を覆う洪水層。堆積時期: 弥生前期前半。) p17: (前略)Ⅳ層下部b-1層下部とⅣ層下部b-2層下部のⅤ層上面には平面的連続する水田面が広がっており、全く変化なく検出できたことから両者は極めて近い時期の洪水砂層である可能性が高い。	★弥生前期前半。
379	筋違遺跡	三重県	13工区基本層序	V上層b	p9(第1表): (弥生前期下層畝間内堆積。堆積時期: 弥生前期前半。河成堆積。) p18: V上層b-1層とV上層b-2層はV下層でみられなかった土壌が堆積しており、その土壌はSD41との位置関係で変化する。	★弥生前期前半。
380	舞出北遺跡	三重県	弥生時代終末から古墳時代前期の水田跡を挟む堆積層		[パリオ・サーヴェイ株式会社「古環境分析」pp.153-162] p159: (前略) 弥生時代終末から古墳時代前期の水田では、基盤をなす自然堤防を覆って累重したより泥質な洪水堆積物を母材として作土が形成されたと推定される。水田域では、耕作放棄後、極浅い滞水域ないし湿地へと変化したことが層相から推測される。植物珪酸体分析でも水田跡検出面の上位の層準で、湿潤な環境に生育するヨシ属が多産しており、層相観察結果と調和的傾向であることが認識される。このことから、地表面付近の環境が湿性化していくような、相対的な水位の上昇過柱にある自然堤防斜面において水田が造成されたことがうかがえる。現地および軟X線写真による層相観察から、本調査区において弥生時代終末から古墳時代前期に水田が形成された局地的要因としては、調査区における地下水位の上昇が指摘される。	★弥生後期～古墳前期。
381	赤部遺跡	三重県			[青木哲哉「赤部遺跡の地形環境」pp.180-189] p189: (古墳時代前期について) 調査地区では、この時期洪水のほとんど起こらない安定した時期が訪れ、当時の表土である黒灰～黒褐色のシルト上では、人間活動がみられた。(中略)(古墳時代中期～9世紀について) この時期には、C地区とD地区北部の後背湿地を中心に洪水が2～3度発生し、シルト質砂や砂質シルトが堆積した。(中略)(10世紀～13世紀について) 10世紀頃から続く比較的安定した環境下で、東から西へ延びる流路がA地区北東部からB地区に形成された。(中略)(14世紀以降について) 13世紀における流路の埋積から15世紀にかけて、A地区からC地区を中心に洪水が1～2度発生した。さらに15世紀以降にも、A地区からD地区中央付近に洪水が数度およんだ。	★13世紀以降など。
382	里井B遺跡	滋賀県	(とくに第4調査区)		p59: (第4調査区)の遺構面は第2調査区などでも観察された洪水砂と考えられる粗砂に10cm程度から20cm程度の厚さで覆われていた。(中略) pp63-64: (洪水砂直下の水田について) 時期的には13世紀後半頃のものであり、出土した状況より畦畔の構築時期を示すものと考えたいが、調査区全体を覆った洪水砂は第2調査区や第3調査区のものと同じのものであるため、16世紀前半以降のものとして推定される。出土した黒色土器が畦畔構築時に人為的に埋められたとすると、300年ちかく畦畔を使用し続けたことになり、すぐ近くを流れる日野川の沖積作用を考えると、300年近くも土砂の堆積がなかったとは考えにくい。(中略)(これについては) 今後の検討課題である。	▼13世紀か16世紀?

383	弘前遺跡	滋賀県		<p>p95: 弘前遺跡2期(弥生時代中期前半(紀元前2~3世紀) 継続して墓域が営まれる。G区において1期同様の正四辺形を意識した方形周溝墓SX03~07が築かれ、E区では土坑SK05・07がつくられる。SX04・06・07は同中期後半~後期に造営されたと推定される。(中略)SX07はSX06と重層関係にあり、SX07はSX06が洪水等で一旦埋まった後に造られたものである。p99:(前略)SX07はSX06を大きく削平しており、SX07はSX06が洪水によって運ばれたと思われる土砂によって埋まった上に新たに墓を築いている。このような土砂の堆積は随所に認められ、方形周溝墓SX02の周溝においてもみられる。(中略)洪水による影響は甚大で、居住域や墓域の移動を余儀なくされたとと思われる。特に弥生時代後期初頭における遺構の埋没、遺跡の終息や空白期が認められる遺跡は県下のみならず県外でも認められ、県内では、高島市針江川北遺跡、近江八幡市浅小井過跡、同蛇塚遺跡、彦根市馬場遺跡、米原市法勝寺遺跡、県外では愛知県朝日遺跡などでも確認されており、全てが同じ要因とは限らないが、同時期に広範囲におよぶ自然災害による環境変化が示唆される。</p>	<p>▼弥生中期後半~後期。 △弥生中期後半~後期。</p>	<p>p99の記載だけではSX06が「弥生時代後期初頭」に洪水で埋没したと解釈できない。</p>
384	長島遺跡・夕ヶ丘北遺跡	滋賀県		<p>p10: 遺構検出面の上層には厚い洪水砂層が確認できた。この洪水砂層は光善寺川の氾濫に起因する自然堤防と思われ、鎌倉時代以降の堆積層である。遺構検出面は洪水砂の影響を受けていなかった。遺構の埋土中にも砂層が入り込んでいる様子は認められなかった。これは洪水砂層と遺構検出面の間には遺物を包含する暗灰褐色粘土層が広がっていたためであると考えられる。自然堤防の形成の時期は不明だが、少なくとも溝0104・0105・0106や小穴0201が機能していた平安時代末~鎌倉時代には、光善寺川は自然堤防を形成するほどの浸食・運搬・堆積の作用がなかったと考えられる。現在、光善寺川は天井川化しているが、中世前期には天井川化がさほど進行していなかったであろう。</p>	<p>★鎌倉以降。</p>	
385	関津遺跡	滋賀県	T12~T27, T53~T55, T56~T61調査区(小山川による堆積層)	<p>(第2分冊)p72: 本遺跡の調査では、丘陵裾部に位置するT12~T27調査区、T53~T55調査区、T56~T61調査区、T70~T73調査区、丘陵中央域に位置するT87・T91調査区、T109調査区、T96調査区、T104調査区、T80調査区、T111調査区、T113・T114調査区などで、耕作土直下付近から遺構面直上に形成された遺物包含層直上付近において、数cm~1m前後の厚みをもつ砂を主体とする水成堆積層を検出した。この水成堆積層は、調査地の地形から推測すると、T12~T27調査区、T53~T55調査区、T56~T61調査区は小山川、T70~T73調査区は瀬田川、T87・T91調査区、T109調査区、T96調査区、T104調査区、T80調査区、T111調査区、T113・T114調査区は森川を原因として形成された可能性が高く、形成時期は、堆積層直下で出土した遺物から、小山川による堆積層が13世紀後半以降、瀬田川による堆積層が15世紀後半以降、森川による堆積層が16世紀後半以降と考えられる。この水成堆積層は、河川の堆積作用あるいは氾濫に伴うものであり、その形成時期や影響範囲は、関津における土地利用の変遷や集落移動の原因を考えるうえで示唆的であり、堆積物の供給源は田上山であることから、田上山の荒廃過程を窺うことができる資料の一つと考えられる。</p>	<p>★13世紀後半以降。</p>	
386	関津遺跡	滋賀県	T70~T73調査区(瀬田川による堆積層)	<p>同上。</p>	<p>★15世紀後半以降。</p>	
387	関津遺跡	滋賀県	T87・T91, T109, T96, T104, T80, T111, T113・T114調査区(嶽川による堆積層)	<p>同上。</p>	<p>★16世紀後半以降。</p>	

388	棕ノ木遺跡 第5次	京都府	基本層 序	第1洪水層	p92・95: (床土の) 下位に25.7mまでの約1m余りは、黄灰色～淡褐色の粗砂を主体とする洪水起源の堆積物が認められる。その中に、少なくとも3層の突発的な洪水層が間層となる。上位より、第1～第3洪水層と名付けた。特に、第2洪水砂とした層は標高26.5m付近で検出され、灰褐色の粗砂を主体として構成されたもので、調査区全域を被覆している。また、第2洪水砂と第3洪水砂の間には植物が未分解のまま滞積した層があり、上位の堆積速度にさほど時間を措かなかつたことが推測された。p143: (前略) 15世紀以降、当地は不安定な氾濫原へと変化し、遺跡全体が冠水して機能を失うようになる。この洪水が、堆積物から見る限り、突発的な洪水ではなかつたようだ。近世になると、花崗岩のパイラン砂が厚く堆積するようになる。この中には、3回の洪水によって生成された砂層を観察することができる。	★近世。	
389	棕ノ木遺跡 第5次	京都府	基本層 序	第2洪水層	同上。	★近世。	
390	棕ノ木遺跡 第5次	京都府	基本層 序	第3洪水層	同上。	★近世。	
391	魚田遺跡 第6次・西村遺跡・門田遺跡	京都府	東半部		p141: 今回の調査において魚田・西村・門田遺跡でいずれも、広範に堆積する洪水堆積層を認めた。調査地周辺は頻繁に洪水の影響下におかれており、(中略)この層は周辺の京田辺市教育委員会による調査において確認されている「明治29年の洪水砂層」に同定しうるものと考えられる。(後略)	★1896年。	試掘調査。
392	長岡京右京第825次 (京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	A地区など	茶灰色砂礫	p64: (中世の遺物を含む層の) 下層から茶灰色砂礫をベースとする遺構が検出された。茶灰色砂礫は厚さ20～60cm、(中略)中世初頭段階の土石流に似た小泉川の氾濫によるものと考えられるに至った。	★中世初頭。	
393	長岡京右京第825次 (京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	E地区など		p76: (E地区の) 各トレンチの層序は地表下約0.5mまで、黒色粘土、淡灰色粘土、黄灰色粘質土が数枚の互層を為し、水田、畑地の痕跡である。時期は中世～近世である。なお、この互層の間には、厚さ5cm前後の砂礫層、砂層が堆積し、複数回の氾濫跡が確認できた。	★中世～近世。(複数回)	試掘。
394	長岡京右京第825次 (京都第二外環状道路関係遺跡友岡・調子地区)	京都府	E地区 13・14ト レンチ	暗茶褐色砂礫・褐色砂礫	p76: (E地区の) 13・14トレンチでは、中近世の耕作土の互層以下、厚さ10cmの褐色砂質土があり、中世および平安時代後期の遺物が含まれる。さらに暗茶褐色砂礫、褐色砂礫は厚さ0.3～0.6m堆積し、須恵器、土師器などが出土し、瓦器など中世の遺物を含まない。10～11世紀頃の旧小泉川の氾濫によって堆積したものと考えられる。	★10世紀～11世紀。△中世。	試掘・拡張。
395	魚田遺跡 第7次	京都府		[1]	[増田富士雄・伊藤有加・坂本隆彦・佐藤智之「京都府京田辺市魚田遺跡付近の地形と洪水破堤堆積物」p99-104]p102: ここで確認できた破堤堆積物の堆積年代は現在のところ決めることができない。破堤堆積物の堆積年代を木津川の洪水記録から推定してみよう。最も新しい[1]層は、ビニール製品が含まれる黒色層の上位にあることから、昭和34年9月(伊勢湾台風)の破堤洪水による可能性が高い。この地点で最も粗粒な[2]層は(中略)1896年の堤防決壊に伴う可能性が高い。(中略)[5]層は(中略)1860年のいわゆる“大住ギレ”に由来すると考えている。	★1959年。	試掘調査。
396	魚田遺跡 第7次	京都府		[2]	同上。	★1896年。	試掘調査。
397	魚田遺跡 第7次	京都府		[3]	同上。	★1860年。	試掘調査。
398	志高遺跡	京都府	舟戸南地区	15	pp37-38(第21図): 古墳時代前期洪水層。	★古墳前期。 △古墳後期 (6世紀前半以降)	p440: (古墳時代は須恵器の出現をもって前期・後期に区分。)
399	志高遺跡	京都府	舟戸南地区	19	pp37-38(第21図): 弥生時代中期洪水層。p116: 弥生時代中期の集落は、本来現由良川の上に大きく張り出していたと推定され、由良川によって遺跡の大半が流失したと思われる。	★弥生中期。	
400	志高遺跡	京都府	舟戸南地区		p115: 弥生時代中期から現代に至る包含層は、平安時代の洪水層を挟みはするが、比較的連続し、洪水等による一時的流失と堆積による断絶はあるが、自然堤防上に集落が継続的に営まれていた様相が窺える。	★平安。	
401	志高遺跡	京都府	舟戸北地区		p330: (前略)(粘土層の上には)、厚さ80cmから数mにわたって弥生時代中期末から古墳時代前期にいたる洪水層(砂層)が堆積している。	★弥生中期末～古墳前期。	
402	志高遺跡	京都府	舟戸北地区	8	p332: 奈良時代の包含層の上には平安時代前期の洪水層(第8層)が堆積している。p443: (9世紀第1四半期頃の建物群について)9世紀第2四半期に起こった大洪水によってこれらの建物群は消失する。	★平安前期 (9世紀第2四半期)。	
403	志高遺跡	京都府	岡安地区		p415: 舟戸地区で見られたような中世の包含層及び平安時代の洪水層は存在しなかつた。		

404	志高遺跡	京都府	岡安地区		p415: (前略)褐色粘土層の下には弥生時代後期の洪水層と考えられる淡黄灰色砂質土が堆積していた。	★弥生後期。
405	下植野南遺跡	京都府	B地区 (1990年度調査)		p18: 現在の水田床土直下に堆積した砂利層を削り込んで遺構検出をしたところ、小泉川水系の流路跡と考えられる自然流路2条と、平安時代の大型の須恵器壺片の集積、上流から押し流されたと考えられる洪水堆積層を検出した。砂礫層の中からは6世紀後半の遺物が多く出土しているが、上層を中心に9世紀から13世紀までの土器が出土している。平安時代以降の遺構面と考えられる。	○9世紀～13世紀。
406	下植野南遺跡	京都府	B地区 (1992年度調査)		p26: 調査地東半部の基本的な層位は、灰白色砂礫(大石を含む:平安時代洪水堆積層)ー褐色砂層(平安時代包含層)ー黒褐色砂礫土層(古墳時代後期包含層)ー黄褐色土(地山)である。	★平安。
407	内里八丁遺跡A地区・B地区	京都府	A地区	第3遺構面直上	p9: (第3遺構面)直上を20～30cmの厚さの洪水砂(淡黄灰色細砂)が覆っていた。p54: (今回の調査で)弥生時代後期末～古墳時代初頭の水田跡を検出することができた。水田跡は、20～30cmの洪水砂層をはさみ、上下2面の水田跡が存在した。p62: (A地区)の下層の水田跡が庄内期でも古相の時期に埋没したものであり、上層の水田跡は庄内期でも新相の時期から布留式期初頭頃のものと同判断される。	▼弥生後期末葉～古墳前期初頭(庄内(新)～布留(初))。
408	市田齊当坊遺跡	京都府	C調査区など	6	p13: 第5層と第8層の間には、黄灰色細砂を多量に含む淡青灰色シルト(第6層)が幅約5～10cmの厚さで堆積しており、洪水砂層と判断される。第5層からは、染付などの陶磁器片が出土しており、近世後期と推定される。また第6層は、広範囲に確認できる層位であり、D調査区第3・4層に対応するとみられる。この第6層およびそれ以降の堆積層には、C調査区北東部で検出されたいわゆる慶長地震(1596年)に由来するとみられる地震噴砂の立ち上がりは達しておらず、第8層中位で留まっている。	▼1596年。△近世後期。
409	吉田近衛遺跡	京都府	I区	5	p9: 第5層は調査区全域に堆積する。厚さはほぼ40cmで一定している。(中略)本層はその黄色砂(京都大学構内の遺跡における弥生時代中期初頭頃の黄色砂)に対応してくるものと考えられる。	★弥生中期初頭。
410	平安京右京六条四坊九町・五条大路	京都府	溝7	溝7埋土	p99: 平安時代の最後、つまり最も新しい溝は溝7である。この溝は、出土遺物が少ないため時期の特定は難しいが、周囲の堆積や切り合い関係から、平安時代後半のものと考えられる。存続期間は、溝の壁が比較的切り立って規格的である点や、洪水性の堆積物で埋まっていることからすると、短かったと考えられる。	▼平安後期。
411	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	京都府	河川	河川埋土13～25	p33: 調査区内の北東部を蛇行しながら、北西から南東方向に延びる河川である。(中略)(埋土の基本層序うち)1～8層は洪水以後7世紀前半までの堆積層、9～12層は砂礫を主体とした6世紀前半の洪水による堆積層、13～25層は布留期から洪水までの堆積層である。p98: (古墳時代のうち)4期(p96: (3・4期は布留期の土器を伴う。))と5期(p96: (MT15～TK10型式の須恵器を伴う。))の間にも時間的空白が存在する。5期の竪穴住居は4棟と激減する。この時期に洪水がおこったと思われる。流路に沿って砂礫流がいききに流れ込んで、流路を大きく削り込んでいる。	★布留期以降。△6世紀前半(MT15～TK10)。
412	水垂遺跡・長岡京左京六・七条三坊	京都府			p113: (平安時代の)畦や溝は平安時代中期の遺物を含む砂礫層によって埋没しており、この時期に大規模な洪水によって一時的に埋没したことがうかがえる。	★平安中期。
413	平安京右京三条二坊十四町跡	京都府	川跡2	中層	p25: 野寺小路にあたる位置において、野寺小路川(川跡45と川跡2)を検出した。川跡45は、全く新たに形成されたものであるが、野寺小路東側溝を踏襲して流路化したものか断定できないが、その埋没は11世紀頃と考える。そして川跡45埋没後に川跡2が形成され、13世紀末から14世紀前半頃の間には埋没したと考える。(中略)野寺小路川は、川跡45と川跡2の洪水層(川跡2中層)を含む3時期をあわせた、4時期にわたって平安時代中期から機能し、鎌倉時代から室町時代初頭頃までには廃絶したと考えられる。	▼11世紀。△13世紀末～14世紀前半。
414	平安京右京三条三坊三町跡		基本層序	1～4-3	p42: 1層から4-3層はすべて耕作土である。イネのプラントオパールや花粉を多量に含むという分析結果から主に水田として利用されていたことが判明した。小礫を含んでいたり、氾濫堆積物を挟在する状況が明瞭に観察できる土層があることから、氾濫堆積物を母材にしていることがわかる。いずれの土層も西側が厚く、また、西側から東側に向けて傾斜していることから、調査地西側を流れていた紙屋川が氾濫したときに供給された堆積物に基づくことは明らかである。20世紀前葉に付け替えられる前の紙屋川は天井川となっていたが、1層・2層に含まれる礫は3層・4層よりも大きいことから、時代が下がるにともない洪水の規模が激しくなったことが推定できる。しかし、度重なる洪水にもかかわらず、室町時代以降、工場が建設される近代に至るまで、耕作地としての利用が続けられた。	★室町～近代。

415	長岡京右京二条三坊一八町、上里遺跡	京都府	Ⅱ区		p15:Ⅱ区では現代耕作土(厚さ0.2m)、現代以前の耕作土(厚さ0.2~0.4m)、以下は小畑川あるいは善峰川による氾濫堆積(砂礫中心)となっている。段丘崖を形成した氾濫堆積の時期は不明であるが、長岡京期以降と考えられ、それ以前の遺構は削り取られて遺存していない。p21:(長岡京期以降の河川氾濫堆積について)Ⅱ区中央部の東西断割断面の観察により、大きく下面を削り込む洪水とそれに伴う砂礫の堆積が少なくとも2度確認され、1度目の洪水によりⅠ・Ⅱ区間の段丘崖が形成されたと考えられ、2度目の洪水までに溝481が作られ、その埋没後に2度目の洪水があったとみられる。その後は耕作地として利用されていることがわかる。	★長岡京期以降。	
416	広野遺跡	京都府			p10:中近世の土砂堆積層は大きく2層に分けられ、3・4層は河川氾濫により直接的に堆積。p12:中近世堆積層は中世後期~近世初期に堆積か。このような堆積層は、城陽市北部でも確認できるという。上流域における比較的規模の大きい開発を想定することが可能ではないかと考えている。	★中世後期~近世初頭。	
417	宇治川太閤堤跡	京都府	河川堆積層	A	p16:A0701トレンチでは、上から30cmほどのところに厚さ10cmほどの細粒砂が挟まれる。砂は北側ほど明瞭であるが、南側では欠如することもある。これは昭和28年9月水害による氾濫砂と推定される。	★昭和28年9月。	
418	宇治川太閤堤跡	京都府	河川堆積層	E	p16:宇治川の洪水により、河岸の微高地の形成された堆積物である。(中略)この層の上から50cmほどのところには、文化年間の瓦が含まれる。(中略)A0701トレンチでは15枚の氾濫堆積層が確認できる。p17:(直下のF層)下位の河床礫との間に厚さ20~30cmの元禄から正徳期の瓦の層が挟まれる。	▼元禄~正徳。○文化。	
419	長岡京左京第258次	京都府		4	p185:(第4層は)暗灰色系礫質~砂礫層。上半が土壌化したやや細粒の扇状地性堆積層である。層厚は約0.35mを測る。第4層下面は波状をなし、堆積時に顕著に下層・第5層を掘り込んだ状況がみられる。p222:遺跡形成のプロセスについては弥生時代前期遺構面の基盤・第7層からなる扇状地性もしくは河川堆積物が、西南西方位から東北東方位へ供給された後、泥質の堆積し始める環境下において、当該期の生活面の形成もしくは遺物の放棄される状況下となったものと考えられる。しかしその後、古墳時代前期までに少なくとも2回の洪水氾濫堆積(第5層・第6層上半、層厚0.8m以上)によって弥生時代前期遺構面は完全に埋め立てられてしまったとみられる。古墳時代前期頃には再び扇状地の形成(第4層による第5層上面の掘り込み・不整合面の形成)がなされ、その堆積面(第4層上面)において布留式新段階以降古墳時代後期にかけての遺構面が成立した。	▼弥生前期。△古墳前期(布留(新))。	
420	長岡京左京第258次	京都府		5, 6	p188:(第5層は)灰色系シルト。比較的均質な細粒土壌である。層厚0.38~0.50m以上。(中略)(第6層は)黒灰色炭混じり細砂質シルト層。暗色を呈する細粒土である。層厚0.3mを測る。(中略)弥生時代前期の遺物包含層である。p222:遺跡形勢のプロセスについては弥生時代前期遺構面の基盤・第7層からなる扇状地性もしくは河川堆積物が、西南西方位から東北東方位へ供給された後、泥質の堆積し始める環境下において、当該期の生活面の形成もしくは遺物の放棄される状況下となったものと考えられる。しかしその後、古墳時代前期までに少なくとも2回の洪水氾濫堆積(第5層・第6層上半、層厚0.8m以上)によって弥生時代前期遺構面は完全に埋め立てられてしまったとみられる。古墳時代前期頃には再び扇状地の形成(第4層による第5層上面の掘り込み・不整合面の形成)がなされ、その堆積面(第4層上面)において布留式新段階以降古墳時代後期にかけての遺構面が成立した。	▼弥生前期。△古墳前期。	
421	長岡京左京第258次	京都府	SD25816	4上面(SD25816埋土)	p194:(長岡京期の)溝SD25816はトレンチ南半部を東西に貫く大形の東西溝である。(中略)溝埋土は大きくみて次の3層で構成される。即ち、溝下層:洪水起源とみられる粗粒な堆積物、下層に挟まれた中層・泥土:灰色シルト、下層を人為的に埋め立てたとみられる上層:暗赤褐色礫質土である。下層はその下部が砂礫層もしくは砂礫・砂の互層、上部が砂・シルトの互層になっており、急速に洪水堆積物が溝SD25816内に流れ込み、埋め立てた状況を認めうる。p223:(前略)少なくとも2回にわたって側溝内の下半を埋めるような粗粒な洪水堆積物を確認し得たことは、長岡京期の自然災害の実態を検討するための好例となった。(中略)(第3層上面検出の素掘り溝群)の下限時期は13世紀。))	▼長岡京期。△13世紀。	
422	長岡京左京第310次	京都府	基本層序	5	p131:(第5層は)流路堆積物である。層相から3層に区分できる。(中略)上層上面で長岡京期の遺構を検出した。標高は14.6~14.65m。中層は奈良時代の遺物を包含する流路堆積物である。下層は弥生時代中期~古墳時代後期の遺物を包含する流路堆積物である。	▼弥生中期~古墳後期。△長岡京期。	
423	長岡宮跡第422次	京都府			p140:(古代(長岡京期~平安時代前期か)には)落差5mある段丘崖の裾に向けて、南流する古小畑川が東方に流路を移していく。強い水の流れは多量の土砂を動かす共に、崖の付け根の地層をえぐり、崩壊させる。洪水の度にえぐり取られた地層は、一抱えもある大きな粘土塊(偽礫)となって川底を押し流していく。河床水位の高い状態が継続する。(後略)	★長岡京期~平安前期。	

424	修理式遺跡第12次	京都府	基本層序	5	pp155-159: (第5層は)紫灰色粘質土～黒紫色粘土で弥生～古墳時代の氾濫堆積物である。〔辻本裕也「自然科学分析の成果」pp183-210〕pp186: (第5a層の)形成時期は、布留式土器が出土することから古墳時代前期頃と推定される。p187: (第5c層の)形成時期は、庄内式期の遺物が出土することから、弥生時代後期末から古墳時代初頭と推定される。p203: 弥生時代終末～古墳時代初頭および古墳時代前期の遺物が出土する第5層形成期になると、堆積環境が変化する。(中略)弥生時代終末期から古墳時代にかけて、調査区は再び河川の氾濫の影響を受ける氾濫原に変化したことが推定される。	★弥生後期末葉～古墳前期(庄内～布留)。	
425	長岡宮第452次	京都府	基本層序	4b	p57: (第4層は)池SG45201機能時の堆積土である。4層に区分される。第4a層は灰色粘土で、地底の泥土層に相当する。同層中より茶褐色のガラス瓶の破片が出土した。第4b層は泥土内を楔形に入り込む灰色砂礫で、氾濫堆積物に似た層相を呈する。池内部に入り込んだ氾濫性の土砂と推測される。池の北岸付近に分布し、池中央側へ終息していくことから、土砂の流入後には底涸いが行われたとみられる。第4a層はその後の堆積である。p65: 今回の調査により、池の北及び西側の岸辺を確認することができた。池底に堆積した泥土は大きくみて3層に区分される。最下層からは近世の陶磁器、瓦類が出土しており、池の造営が近世にまで遡る可能性を示唆する。(中略)池の廃絶については、明らかではない。地元住民からの聞き取りによれば、昭和34年頃には竹藪になっていたらしい。	▼近世。△昭和34年ごろ。	
426	長岡京跡左京第512次・第518次	京都府	基本層序	3d	p147: (第3層について)大きくみて4層に区分される。第3a層はオリブ褐色シルトで平均層厚0.2～0.3m。この上面は第1遺構面となり、標高は23.40～23.50m付近にあたる。第3b層は褐オリブ色シルトで、平均層厚0.4～0.5m。この上面が第2遺構面となる。その標高は23.20m付近にあたる。第3c層は褐灰色シルトを基調とし、灰色砂のラミナが幾筋もうすく介在する。平均層厚0.5m。第3d層は灰黄色砂、シルトで氾濫性の溢流堆積物である。平均層厚0.5m。p156: 江戸時代の生活面は、第1遺構面を除けば、氾濫の影響を受けて消失したり、氾濫後に利用可能な土地に復旧するための人力による改変が加えられるなどして、より下位層での遺存状態は良くなかった。このことは、江戸時代において当該箇所が小畑川の氾濫の影響を強く受ける地域であり、このような状況と向き合った江戸時代の人びとの生活の在り方を窺わせる。	★江戸。	
427	門田遺跡	京都府			p4・6: 基本的な層位は、水田の耕作土直下に明治29年(1896)と考えられている洪水による砂もしくは砂礫が堆積し、その下は青灰色系の粘性細砂～粘土が厚く、東部ではその下がかつての木津川の河原とみられる茶褐色粗砂となる。	★1896年。	
428	京都大学構内遺跡(白河北殿第1次・第2次)	京都府	第2次調査区	E10・F7	p10: 調査区西南部ではそこに営まれた多数の井戸や小河川SX07が、後の氾濫による砂礫(E10・F7層)に埋もれる。(中略)E9層は、第1次調査区ではA3層など広くみられた層位に類似し、年代も対応するとみてよい。E11層は、調査区の西南部のごく一部に限られる土層であるが、これが第1次調査区で多量の遺物を出土したA5層に相当する。p9: (第1次調査区)のA3層は、おもに、中世京都Ⅱ期ごろの土師器を出土し、A5層は平安京Ⅳ期から中世京都Ⅰ期ごろにかけての土師器が出土した。	▼12世紀～13世紀。△14世紀。	p27(表2): (平安京Ⅳ期は12世紀頃、中世京都Ⅰ期は13世紀頃、中世京都Ⅱ期は14世紀頃に対応する。)
429	京都大学構内遺跡(白河北殿第1次・第2次)	京都府	第2次調査区	SX06	pp21-22: (SX06は)第2次調査区西部で検出した埋積河道である。この河道の東岸は45°前後の傾斜で東へ上がる。この斜面に厚さ5～10cm程度の青灰色粘土を南北約20m以上にわたって貼り付けている。(中略)粘土帯の西側では、東側と不連続な砂礫が、やや東下りの傾斜をもって堆積しており、粘土帯の西裾付近からは、平安京Ⅱ期の土師器が出土した。両側の砂礫層とも、その礫種組成は高野川系の流路ないし氾濫を物語る。(後略)	○10世紀頃。	p27(表2): (平安京Ⅱ期は10世紀頃に対応する。)
430	北白川追分町遺跡	京都府		14～28	p34: 14～28層は、泥炭質土と砂層の互層であり、低湿地がしばしば滞水域となったことを示す。縄文晩期の土器を伴う。参考／石田志郎・竹村恵二「北白川追分町遺跡の堆積環境の変遷」pp189-192: 縄文晩期の泥炭層西方に小規模河川があり、その河川からオーバーフローしたり、クレバススプレー型の堆積をしたものと考えられる。	★縄文晩期。	
431	京都大学北部構内遺跡BA28区	京都府		5	p54: 第11層(黄色砂)は弥生前期末～中期初頭の土石流による堆積である。厚さは2m。	★弥生前期末～中期初頭。	
432	京都大学本部構内遺跡AU30区・AV30区	京都府		5	p6: 第5層の黄色砂は粒子の細かい砂層で、無遺物。弥生前期末～中期初頭の土石流堆積物に相当する。	★弥生前期末～中期初頭。	
433	京都大学北部構内遺跡BB28区	京都府		12	p42: 第12層は砂礫で、弥生前期末～中期初頭の土石流の跡。	★弥生前期末～中期初頭。	

434	京都大学 本部構内 遺跡AW25 区	京都府		5	p54:第5層(黄色砂)は弥生前期末～中期初頭の土石流による堆積である。	★弥生前期末～中期初頭。	
435	京都大学 北部構内 遺跡BF34 区	京都府	BF34区	9	p5:(9層の)黄色砂は、弥生前期末～中期初頭の土石流にともなう堆積物であることが従来の調査で明らかになっており、吉田山北麓から西麓にかけて広く分布する鍵層である。本調査区では、層厚0.2～0.3mほどで堆積のみとめられない部分もある。	★弥生前期末～中期初頭。	
436	京都大学 北部構内 遺跡BF30 区	京都府	BF30区	6	p40:黄色砂(第6層)は、厚さ約0.6m、弥生前期末～中期初頭の土石流にともなう堆積物で、吉田キャンパス東半一帯にかけて広く分布する。	★弥生前期末～中期初頭。	
437	京都大学 総合人間 学部構内 遺跡AO22 区	京都府	AO22区	5	p5:第5層の黄色砂は、弥生時代前期末～中期初頭の間の一時期に比定される土石流堆積層で、(中略)厚さ1～1.5mを測り、無遺物であるため機械力で除去した。	★弥生前期末～中期初頭。	
438	京都大学 総合人間 学部構内 遺跡AO22 区	京都府	AO22区	10	p8:第10層は、白色の粗砂層で、中央微高地の形成要因となっているSR10の埋積層であるほか、第11層の上面や内部の随所にブロック状に存在する。層内には磨滅した土器の細片が散見される。縄文時代後期ごろの白川系の流路にともなう洪水堆積層とみなされる。(中略)(第11層について)調査区東辺では、層内から縄文時代後期中葉の残りのよい土器を得ており、この層の堆積時期を示すものとみられる。	★縄文後期。 ▼縄文後期中葉。	
439	京都大学 本部構内 遺跡 AX25・ AX26区	京都府	AX25・ 26区	5	p44:(第5層の)黄色砂は弥生前期末から中期初頭の洪水層で、これまでの周辺地域の調査で京都大学吉田キャンパスの一帯に広く堆積していることが明らかになっている。	★弥生前期末～中期初頭。	
440	京都大学 北部構内 遺跡BA30 区	京都府		1	p98:機械により除去した第1層の黄色砂は、弥生前期末～中期初頭の一時期に生じた土石流による堆積で、京都大学構内一帯で広く検出される鍵層である。	★弥生前期末～中期初頭。	
441	京都大学 病院構内 遺跡AG20 区・AF20 区	京都府	AG20区		p83:調査区西辺では、この黄灰色シルトを切り込んで形成された自然流路SR7を検出した。淡褐色砂質土は、このSR7の肩部から黄灰色シルトを覆って堆積しており、SR7の溢流堆積物と理解できる。SR7および淡褐色砂質土からは、縄文後期の遺物が出土した。p92:淡褐色砂質土およびSR7から出土した縄文土器はいずれも縄文後期前葉に属し、II9が縁帯文成立期であるほかは北白川上層式2期に比定できるものが主体を占める。	▼縄文後期前葉。○縄文後期前葉。	
442	京都大学 医学部構 内遺跡 AN20区	京都府	AN20区	7	p133:西域では黒褐色粘質土(第5層・同B層)、白色細砂(第6層)、黄灰色砂礫(第7層・同D層)、東域では赤褐色細砂(第8層)、黄灰色細砂(第9層)などを介して、赤褐色砂礫(第10層・同I層)が厚く堆積している。黒褐色粘質土の埋積する沢状の流路なSR1とする。これらは、旧白川の氾濫によって形成された堆積物と推定される。(中略)流路SR1の段階以前から、ここに浅い沢状の凹部があり、そこへ様々な堆積物が流れ込んで沢を埋めていったとみられる。その下には厚い赤褐色砂礫(I層)が堆積しており、大規模な洪水を物語っている。青灰色シルトからは縄文前期の土器、黄灰色シルトからは縄文中期の土器が出土しており、その下に堆積する黒褐色粘質土は、縄文前期以前に堆積したものとみられる。		
443	京都大学 本部構内 遺跡AW26 区	京都府	AW26区	5	p82:第4層の暗褐色土は調査区内では層厚20～30cmをはかり、縄文時代から7世紀までの遺物を包含していた。この堆積物は、東に隣接する立合調査区では、黄色砂(第5層)をはさんで上下に分離でき(4a層と4b・c層)、下層はさらに比較的均質な4b層と小礫・粗砂のまじる4c層に区分できた。(中略)黄色砂はその特徴から、京都大学吉田キャンパス一帯に広く堆積した、弥生前期末～中期初頭ごろの洪水層である。	★弥生前期末～中期初頭。	
444	京都大学 本部構内 遺跡AX22 区(立合 い)	京都府	AX22区	3	p115:272地点Bトレンチの断面に、黄色砂(第3層)からその下位の黄褐色粘土(第6層)までを削る黄褐色糊砂(第2層)を確認した。黄色砂には葉理がほとんどまったく確認できないのに対し黄褐色糊砂には明瞭な葉理が認められたので、この粗砂層は水成堆積である。この攻撃によって削られた第4・5層のブロックも散在する。堆積年代については、京都大学構内で弥生時代前期末の鍵層とされる黄色砂を削っているのものでそれ以後と言えるが、上部が攪乱を受けているために下限は不明である。	▼弥生前期末葉。	立合調査。
445	京都大学 吉田南構 内遺跡 AN22区	京都府	AN22区		p6:(前略)第5層の黄色砂は、吉田キャンパス一帯で広く見られる弥生前期末の洪水性堆積である。上部が粗砂、下部が細砂からなる。	★弥生前期末～中期初頭。	

446	京都大学 北部構内 遺跡BC28 区	京都府	BC28区		p139:縄文晩期・弥生前期の遺物包含層(東壁の第8層・西壁の第13層)の上で、小区画水田および周辺の微地形を良好な状態で検出した。黄色砂が、弥生前期末～中期初頭の一時期の土石流堆積層であり、今回も含めてこれより下層で弥生中期に下る遺物はまったく出土していないことから、弥生前期末段階の地表面がほぼそのまま遺存しているとみてよい。	★弥生前期末～中期初頭。
447	京都大学 北部構内 遺跡BC28 区	京都府	BC28区 のSX5・6		p176: SX5・SX6は、SR1北肩の黄色シルト層上面～上部にかけて、弥生中期後葉(畿内IV期)の土器Ⅱ286・Ⅱ287の破片がまともだったもの。(中略)これらは、流路SR1が形成されて後の比較的早い段階の遺構とみられるので、流路を形成する洪水の発生は、弥生中期後葉までの間であったことがわかる。p207: 弥生前期末～中期初頭の鍵層として評価されてきた黄色砂を切って流れる大規模な洪水による流路SR1・SR3の存在と、その後の長期にわたる地形環境の変遷を明瞭に把握できたことも、今回の大きな調査成果である。(中略)土石流により黄色砂が2mあまり埋積して前期の水田が廃絶し、それほど時を経ずに洪水による谷地形の形成があった後、中期のうちにすみやかに低地を利用した水稲耕作が再開されていたことが十分に予想される。今後は、このような弥生中期以降の遺跡についても、生産領域などの認定を視野に入れた調査にのぞみ、活動空間の変遷を具体的に復元することが課題となろう。	▼弥生前期末～中期初頭。 △弥生中期後葉(畿内IV)。
448	京都大学 本部構内 遺跡AT21 区	京都府	AT21区	5	p4: 第5層の黄色砂は、吉田キャンパス一帯で広くみられる弥生前期末の洪水性堆積物。30～60cm前後の層厚をもつ粗砂(5a層)と10～15cm前後の層厚のある細砂(5b層)に分離できる。	★弥生前期末。
449	京都大学 吉田南構 内遺跡 AR24区	京都府	AR24区	5	p98: 基本層序は全域でほぼ共通する。ただし第5層黄色砂は、Y=2205付近から西方に向かい厚みを増し、西端で1.7mをはかる。この黄色砂は、弥生前期末～中期初頭の一時期に生じた土石流堆積で、京大構内遺跡一帯の鍵層としてひろく確認されているものである。	★弥生前期末～中期初頭。
450	京都大学 病院構内 遺跡AE19 区	京都府	AE19区	4	p7: 調査区東半には、表土・攪乱層を除去すると黄褐色シルト層(第5層)が広がり、中世や近世の遺物を包含する遺構の埋土は、この第5層に切り込んでいる状態で確認した。これらの遺構埋土は褐色を呈する場合が多く、土質では時期を推定できなかった。出土遺物から大別時期を判定せざるを得なかった。第5層を削っている地層には、このほかに第4層の灰白色粗砂がある。泥炭質土の介在を局所的に見るが、総じて一様の粗砂層が、東北から南辺中央にかけて、攪乱に分断されつつも、二筋の河道が合流するように分布する。ラミナが確認でき、包含遺物は縄文時代後期の北白川上層式までにおさまる。比較的短期間の白川系流路による水成堆積層と判断する。p108: 先史時代の高野川の左岸の浸食と思われる堆積状況はこれまでも、吉田キャンパス各地で確認されてきた(北から、56・229・261・154・141地点など)。それらが全て同一の時期の所産なのかはわからないが、今回の調査によって、少なくとも北白川上層式2期に一度はそうした大規模な氾濫があったことがわかり、220地点で営まれた弥生前期の水田の成立につながる土地条件が整う過程がうかがえた。	★縄文後期(北白川上層2)。
451	京都大学 本部構内 遺跡AU25 区	京都府	AU25区		p126: 弥生前期末の土石流堆積層で鍵層となる黄色砂は、西方ほど厚く、C地点付近で薄くなって消失する。ただし、E地点付近など時計台北側の東半部でも、表土直下で薄い膜状に検出される地点がある。	★弥生前期末。
452	京都大学 北部構内 遺跡BD28 区	京都府	BD28区	6	p203: 第6層の黄色砂は、厚さ1.5m以上におよぶ弥生時代前期末～中期初頭の土石流堆積で、水成堆積を示唆するラミナは基本的にみられない。(後略)	★弥生前期末～中期初頭。

453	京都大学 北部構内 遺跡BD28 区	京都府	BD28区	14	p212: (縄文晩期の地表面について)この地表面の南縁には、西流する自然河道が確認されている。第15層上面の旧地表面が分解しなかったのは、直上が洪水性堆積砂(第14層)に瞬時に覆われたからであるが、この細砂もその直上の粗砂(第12層)も、この河道から横溢して堆積したものである。また、地表面の東北辺では、およそ南北方向に、直上の第14層の細砂が幅1cmほどの地割れ状に深さ10cm以上入りこむ間隙を多数確認しており、第15層掘削後にも残っていたものは、図135に示した。第14層が水成堆積でありながら褶曲した状況を呈している点と、第12層が北辺では砂粒の大きさは均質でありながらその並びが不明瞭で水成堆積構造を呈していない点、その上位の第11層が噴砂をとまなわない不透水性のシルト層である点をあわせて考えるならば、第14層を洪水が襲った後あまり時間を経ずに地震が起きた可能性を指摘できる。p254: (前略)泥炭質土Ⅰの南方を西流していたこの白川系流路は、増水・氾濫し泥炭質土Ⅰを厚い細砂層(第14層)と粗砂層(第12層)で、完全に覆ってしまう。以後、この辺りは泥炭質土が分布するような湿潤状態になることはないが、それはこの透水性のある細砂層が厚く堆積したことによって周囲よりも比高が高くなったためであろう。とはいえ、それによって晩期後半にすぐにこの辺りが安定したわけではなく、弥生前期の安定した土壌化層の形成に至るまでには、しばしば粗砂を網状に分布させる北東からの白川系の水流がおよぶような(第10・8層)、シルト基調の植生の発達しない地表状態だったと思われる。	▼縄文晩期前半。△縄文晩期末。
454	京都大学 北部構内 遺跡BD28 区	京都府	BD28区	31	pp209-210: 第29層の下位には、調査区中央より南辺では淡灰色細砂層(第30層)が堆積しており、その下に堆積するチャートの目立つ褐色礫層(第31層)との層理面に近い堆積底面付近から、ほとんど摩滅していない元住吉山式の無文土器片が50点ほど出土した。また、発掘後の深部掘削立合調査で、北壁中央(Y=2450付近)のさらに下層の堆積を観察した。Y=2447付近でも認められた第31層相当の褐色礫層は1.5m前後の厚い堆積で、その上には東に向かって厚みを増す第30層があり、この褐色礫層の下には、層厚2cmほどの黄灰色粘土(第32層)がある。第32層のさらに下位には、10cmほどの厚みで、硬質の茶褐色粘質土(第33層)が見られる。第32・33層は調査区ほぼ四周で確認できた。そしてその下には、10cmほどの層厚の明灰色シルト(第34層)が、さらにその下位には黄灰色シルト(第35層)が、それぞれ堆積していた。p253: 元住吉山式よりは古い時期の高野川の横溢によってできた厚さ1.5m前後の礫堤(第31層)の下位には、硬質の土壌化層(第33層)が調査区一帯に広がっていた。そして、この土壌化層の直上には、もともとの堆積厚は不明だが、第31層たる礫堤をもたらした水流によって上部を削られた粘土層が薄く残存している(第32層)。したがって、元住吉山式以前のいつの時代かはわからないが、安定した第33層の地表面が、洪水ないし土石流などに襲われた可能性がある。	△縄文後期後半(元住吉山)。
455	京都大学 北部構内 遺跡BF32 区	京都府	BF32区	8	p55: (前略)表土除去後に第8層の洪水砂層に達して、この第8層上面に様々な埋土の遺構が確認される状況となっている。洪水砂層は、南半では、シルト質のためか、土壌化している部分が目立つ。そして、東辺と西辺中央ではかなり厚いが、北辺中央付近や西北辺には調査区南半と同様に、暗黒褐色砂質土や黄色がかかった粘質土が残存する。南壁際では、この洪水砂層を切るようにそれよりも新しい堆積の黄褐色や黄白色の砂層が堆積している。弥生前期末の土石流堆積である黄色砂の可能性はある。	★弥生前期末?
456	京都大学 北部構内 遺跡BF32 区	京都府	BF32区	暗黒褐色土	p96: (前略)本調査区では、上記のように、暗黒褐色砂質土Ⅱの直下にも、それより下位の黄白色粘土層の直下にも、土石流ないし氾濫性の堆積が認められ、また、暗黒褐色砂質土ⅠもⅡも、それぞれラミナを確認できない砂に覆われており、これも氾濫起源の可能性はある。白川の上流域は花崗岩地盤なので、土砂移動は頻繁に起こりやすく、北白川廃寺下層での氾濫堆積と、本調査区のそうした堆積物との年代を対比させることは躊躇されるが、暗黒褐色砂質土Ⅰ・Ⅱは縄文早期頃の地層と考えておきたい。暗黒褐色砂質土Ⅱは、調査区東南部を中心に氾濫に見舞われ、その堆積によって西下がりの傾斜が多少きつくなつてから、再び安定化して暗黒褐色砂質土Ⅰが形成される。そしてここでもまた、今度は比較的広く氾濫に見舞われる。ここまでは縄文前期以前のことである。	★縄文早期。
457	京都大学 北部構内 遺跡BC30 区	京都府	BC30区	6	p6: 第6層の黄色砂は、中砂～粗砂が基調となる6a層、粗砂が主体で礫の礫が混じる6b層、幅1mをこえる巨礫を包含する6c層に細分できる。弥生前期末に発生した洪水性堆積物である。	★弥生前期末。

458	京都大学 北部構内 遺跡BC30 区	京都府	BC30区	10, 11a	p6:灰白色砂礫(第11a層)は、径10cm前後の礫から構成される。扇状地上を流れた網状流路を埋積した氾濫性の堆積物。灰白色砂(11b層)はその川底堆積物である。淡褐色砂質シルト(第9層)、灰黄褐色シルト(第10層)は、第11層の溢流堆積物である。上下の堆積物の年代から判断して、縄文後期後半から晩期前半におさまらる。p13:(前略)第11層のような氾濫性堆積物もみとめられた。この氾濫の時期は、上下の堆積物の年代から縄文後期後半から晩期前半までのある時期と考えているが、南西へ50m離れた297地点では、縄文後期後半(元住吉山式期)に白川系流路の氾濫があったことが明らかになっている。これらは、一連のものである可能性もある。	★縄文後期 後半～晩期 前半。
459	萱振遺跡 第1次	大阪府	基本層 序	10	[広瀬雅信「中河内における弥生時代小集落の様相—いわゆる分村の消長—」pp313-319]p314:(弥生時代中期の)水田面の上には砂とシルトの互層(第10層)が厚く堆積しており、(中略)この堆積状況は中期の水田面が幾度も出水と滞水の繰り返しで埋没していったことを示す。(中略)第10層の中には遺構面や水田面が形成されていないことから、中期のある時期から後期前半の集落が営めるような地盤が形成されるまでは、毎年のように繰り返される洪水のために、人々の生活はこの地域から遠のいていたのであろう。	▼弥生中期。 △弥生後期。
460	志紀遺跡 第6次	大阪府		第5遺 構面直 上	p24:(前略)第4遺構面は弥生時代後期末から古墳時代初頭に位置付けられる。p25:(第5遺構面では)自然流路をはさんで調査区の西側の水田群の上面はおよそ10cm程度の微砂層に覆われていた。流路の氾濫に起因すると考えられる。p26:(前略)第5遺構面の存続年代を弥生時代前期から中期にかけてと考えた。p31:第5遺構面、第6遺構面である弥生時代前期から中期の遺構は大畦畔が等高線に平行して営まれ、それを切るように自然流路が氾濫していた。自然流路は幾筋にも分かれ、流れがひいたあと、それぞれ埋め戻されるまで、長きにわたって遺構面が存続していたことが伺える。	▼弥生前期 ～中期。△弥 生後期末～ 古墳初頭。
461	志紀遺跡 第7次	大阪府		(12)	pp11-12:(第3a層(13)は)オリーブ黒砂混じりシルト。上面が第1遺構面のベースとなる。調査区東側からおびただしく検出された。鎌倉時代前期に相当する。この遺構面上層には、黄褐色の砂レキ層(12)が調査区全体を覆っている。この洪水層は、既往の調査区でも確認されている。p12:(第3b層は)第2遺構面のベースとなる。平安時代末期の水田遺構。	▼平安末期。 △鎌倉前期。
462	志紀遺跡 第7次	大阪府		4	p12:(第3b層は)第2遺構面のベースとなる。平安時代末期の水田遺構。(中略)(第4層(15)は)暗オリーブ灰シルトで、粗砂、細砂、ラミナを構成する洪水層である。既往の調査区でも確認されているが、従来のように分厚い洪水堆積ではなく、緩やかな流れの水性堆積層である。(第5a層は)オリーブ黒粘質土、灰オリーブ砂層シルト。飛鳥時代の水田遺構で、第3遺構面に相当する。p21:(第3遺構面について)第2遺構面の基盤を取り除くと、暗オリーブ灰シルト、灰オリーブ砂質シルトなどの細砂が相互にラミナ状体に堆積していた。志紀遺跡全域でみられるような洪水層であるが、厚さ約30～40cmを測るもので、従来みられる1mを越えるような堆積ではない。この洪水層に飛鳥時代、奈良時代末頃に相当する遺物が含まれていた。	○飛鳥・奈良 末。△平安末 期。
463	志紀遺跡 第7次	大阪府		5b	p12:(第5b層(18～19)は)灰オリーブ・暗オリーブ砂質土等の薄い水性堆積層で、洪水層(18a)の下層に幾重ものラミナを形成する。しかしながら著しく踏み込んだ跡がみられることから、数面の遺構面が存在しては、水没したものと思われる。	
464	志紀遺跡 第7次	大阪府		6	p12-15:(第6層は)調査区全体にみられるややスミを含む分厚い植物遺体層、およびシルト質砂層、古墳時代前期頃の洪水層と思われる。	★古墳前期。
465	西大井遺 跡	大阪府	基本層 序	34	p9:(第34層は)オリーブ黒色砂混じり粘土層が河川の運搬で堆積した土砂である。(下方が第3遺構面。)p10:(第2面について)遺構の年代は、遺物から中世と考えられる。p16:(第3面は)第12・31層等をベースにした水田、畦畔遺構が調査区全域から検出できた。(中略)調査区東側の水田は、洪水の粗砂層によって埋没するが、西側の水田は洪水の被害を受けていない。p17:(第3遺構面について)遺構の時期は、11世紀頃の平安時代後半と考えられる。	▼11世紀。
466	西大井遺 跡	大阪府	基本層 序	12, 22, 31, 35, 43	p9:(第12・22・31・35・43層は)暗青灰色粘質シルト層、オリーブ黒色シルト層、暗オリーブ灰色粗粒砂混じり粘土層、灰オリーブ灰色粘土層等がベースになる。河川堆積でできた土砂が大半である。p16:(第3面は)第12・31層等をベースにした水田、畦畔遺構が調査区全域から検出できた。(中略)調査区東側の水田は、洪水の粗砂層によって埋没するが、西側の水田は洪水の被害を受けていない。p17:(第3遺構面について)遺構の時期は、11世紀頃の平安時代後半と考えられる。	▼11世紀。

467	七ノ坪遺跡	大阪府		5a	p3: (第5a層は) 灰白色～灰色～灰白色～褐灰色粘土～微砂質粘土。上部水田面を覆う土層。層厚2～7cm。A区西端では15cm。p16: (前略) 水田は2時期あるいは3時期を経て、砂層で埋没する。約20～30cm程の堆積があるが、土器はほとんど出ない。さきふれたように時期はわからないが、堆積砂層自身が単一の堆積というより、色調・土性に違いがあることから、一度の堆積というよりは、幾時期かの回数を経て堆積し、相応の層序を形成したと考えられる。その上位の層は、中世包含層であり、アゼの推定する古墳時代からかなりの年数であることから、当然過去に削平された土層も勘案すべきであるが、水田埋没の直接的契機となる洪水砂が、水田経営を放棄させる方向へ導いたと考えられる。(後略)	▼古墳。△中世。	
468	跡部遺跡	大阪府	基本層序	4	p5: 第1～3層は耕作土層である。出土物の所属時期から判断して、当該地は中世には開発され、近世を通して耕作地として活用されていたと考えられる。(中略) 第4層 黄灰色粗砂～シルト。A-2・B-4区以南で確認した。厚さ10～20cm。河川氾濫に起因する堆積層と考えられる。遺物の出土はみられない。(中略) 第7層上面が第1遺構面である。第1遺構面では、中世に帰属する溝が検出されており、当時の生活の痕跡等の一部が存在した。	▼中世(第7層上面: 第1遺構面)。△中世～近世。	
469	跡部遺跡	大阪府	基本層序	7	p5: 第7層 灰色～灰白色細砂～シルト。厚さ10～30cm。最下部に厚さ5cm前後の灰色シルトの帯状の層が観察された。河川の氾濫に起因する堆積層と考えられる。上部は第5・第6層からの攪拌により耕作土化する。標高T.P.+7.3m前後を測る。第7層上面が第1遺構面である。第1遺構面では、中世に帰属する溝が検出されており、当時の生活の痕跡等の一部が存在した。第8層 黄灰色粘土。厚さ20～30cm。上部はマンガンの沈着により変色する。下部に部分的にシルトの薄い堆積がみられた。上面は溝1・2が検出された第2遺構面に当たる。溝2は平安時代に比定され、本層はそれ以前に形成された土層と考えられる。	▼平安。△中世。	
470	跡部遺跡	大阪府	基本層序	16	p7: 第13層 灰黒色粘土。厚さ約10cm。弥生時代中期～布留式に属する甕の体部片、桃核が出土。(中略) 第16層 灰白色～黄灰色粗砂～シルト。厚さ5～30cm。調査区中央部で薄くなる。河川の氾濫に起因する堆積層と考えられる。上面が第3遺構面である。上面の方向はT.P.+5.7m前後を測る。第17層 灰色粘土。厚さ10～20cm。部分的に植物遺体が層を成して堆積。弥生時代中期に属する甕の体部片が出土。	▼弥生後期(第19・20層上面: 第4遺構面)。△弥生中期～布留。	
471	跡部遺跡	大阪府	基本層序	18	p7: 第17層 灰色粘土。厚さ10～20cm。部分的に植物遺体が層を成して堆積。弥生時代中期に属する甕の体部片が出土。p12: 当該地区一帯に弥生時代から古墳時代にかけて、時折安定した時期もあるが、概ね継続的に砂やシルトが流入し続けていることが確認されたのである。第18層 オリーブ灰色細砂と同色のシルトの互層をなす。厚さ5～10cm。A-3・B-3区以南で確認した。河川の氾濫に起因する堆積層と考えられる。第19層 黒灰色粘土。調査区南部にみられる。厚さ約30cm。上部に植物遺体が層をなして堆積している。上面は溝4・5・6が検出された第4遺構面に相当する。p9: 第4遺構面に相当する第19・20層上面では、弥生時代後期に比定される3条の自然流路を検出した。	▼弥生後期(第19・20層上面: 第4遺構面)。	
472	萱振遺跡 第2次	大阪府	基本層序	3	p4: (第3層は) 黒～褐色の砂層や粘土層を主体とする土層であり、上面の水準高はおおよそT.P.+4.2mである。本来は弥生時代後期の流路の氾濫によりあふれ出た土砂の堆積土層である。	★弥生後期。	
473	亀井遺跡・ 城山遺跡	大阪府	NR3001		pp232-233: (自然流路NR3001について) 検出面は包含層第Ⅱa層上面である。この川は調査区東半部の弥生時代中・後期集落の一部を押し流しており、このことと、出土土器からすれば、SD3041と同様、弥生時代後期終末ごろの流路と考えられる。p445: (弥生時代後期について) (前略) 特に、後期でも後半になると、自然の流路NR3001が当発掘地域内を流下し、(中略) 水田開発に伴い自然破壊が進行したことが推定される。(古墳時代前期について) NR3001は近接地に流路を変え、その跡は後背湿地化した。発掘地域は常時、溢流などによっておおわれている。つまり、人々が住むのに適当な土地とは言いがたく、遺構や遺物は検出されていない。(古墳時代中期について) 再び環境的にも安定しはじめ、(中略) 一時的に洪水の影響を受け、それに対処した結果と思われる堆積層(第Ⅵ層: 「偽隣層」)が検出された。	★弥生終末～古墳前期。 ▼弥生後期。 △古墳中期。	

474	瓜生堂遺跡	大阪府	B地区など		p12: 弥生時代中期包含層のすぐ上層には、20～50cmの暗灰色粘土層が堆積しているところが多い。これは、河川の流路の移動が起こり、ムラが水没をきたした結果であろうと考えられる。粘土層の上には、暗灰色～灰色の粗砂や砂の堆積が見られ、粘土層と合わせると後期の間で約1m程も堆積が進行している。その間、A～C地区では遺構も検出され、またA・B・F・G地区等では足跡のついた面もあることから、人々の生活は近隣で続いていたと考えられる。p421: (B地区の)1mもの砂層が堆積する自然環境の変化は、畿内第Ⅱ様式と第Ⅲ様式の間起こったことを明らかにした。p424: (弥生時代) 中期末に起こった自然環境の激変により、洪水で沼沢化した当該地を放棄した人々は、後期の時期には生活をしていなかったと理解されていた。ところが、(中略)(p425:) 後期初頭の人々も、低湿地を放棄することなく、新たな生産の場を切り拓いて生活していたのであろう。	★弥生中期末葉。▼弥生中期。△弥生後期。	
475	瓜生堂遺跡	大阪府	C地区以南		p12: C地区以南では、古墳時代中期も沖積作用の非常に激しかった時期であったと見られ、布留式土器の細片を含む砂・シルトの互層が0.6～1m以上に渡って堆積している。	★古墳中期。	
476	巨摩廃寺遺跡	大阪府	J地区		p8: (V(Ⅱ)面の)ベース面は砂層の所もあれば粘土の所もあって複雑である。自然河川が多く、J地区では弥生時代後期初頭の方形周溝墓周溝内に入り込んで周溝を破壊している。J地区の東西に走る自然河川内には、木棺の側板が埋まっていた。河川が氾濫し、村を襲い、家や墓を破壊したのだろう。(中略)洪水に追われながらも、人々は住みついていたらしい。なお、V(Ⅰ)面には庄内式期と考えられる土器片も出土しており、弥生時代後期から古墳時代への移行期であろう。	▼弥生後期。△庄内。	参考: 安田喜憲「瓜生堂・巨摩廃寺遺跡の泥土の花粉分析」pp321-360
477	亀井遺跡	大阪府	基本層序(KM-H)	VII	p17: 自然河川NR-3001(SD-11)の氾濫土層である。とくに弥生時代後期遺構の凹みで厚く堆積する。層厚0.3～0.5m。上面にて古墳時代前期の自然流路SD-01を確認している。p20: (古墳時代について)(前略)弥生時代の氾濫土である青灰色シルト(第Ⅶ層)が堆積し、その凹みには布留期の土器を検出した自然流路SD-01が流れている。p22: H5地区においては基本土層の第Ⅶ層上部にて弥生時代後期終末に位置づけられる多量の土器群をえた落ち込み3を、第Ⅶ層の下の青灰色粘土中に弥生時代後期初頭に所属する数百個の土器等をえたSX-03を検出している。	▼弥生後期初頭。△弥生後期終末～古墳前期(布留)。	
478	亀井遺跡	大阪府	基本層序(KM-H)	V 上面	p123: 基本層序第Ⅳ層を除去すると第Ⅴ層上面にて径10～15cm程の小穴を多数確認した。(中略)小穴の所属時期は層準からして奈良時代以前のものであった。また、小穴を充填する砂・シルトはH5地区に検出した奈良時代の河川の氾濫土であり下限を奈良時代におさえることが出来る。	△奈良。	
479	亀井遺跡	大阪府	基本層序	V	p8: 茶褐色細砂～粗砂層。自然流路NR6001の覆土及びその同時異層で、Aトレンチ北端からCトレンチ20ライン付近にわたって広く認められる。(中略)Bトレンチ08ライン付近からCトレンチ20ライン付近にかけてはNR6001のオーバーフローと考えられ、層厚は0.2～0.4mになる。上面のレベルはT.P.+7.4～8.0mで、Aトレンチでは近世の奈良街道SF9001、Bトレンチでは鎌倉、室町時代の土坑や溝、Cトレンチでは平安時代の井戸SE7001が検出された。層中からは弥生時代から平安時代に至る多量の遺物が出土した。pp138-139: NR6001の覆土からは弥生時代か平安時代に至る各種の土器が出土した。弥生土器は周辺の弥生時代遺物包含層に由来するものである。5～7世紀代の土師器、須恵器は著しく摩滅したものが多く、8世紀から9世紀初頭の土師器はほとんど摩滅していない。	○弥生～9世紀初頭。△平安。	
480	若江北遺跡	大阪府			p14: (第Ⅱ遺構面の)水田は、弥生時代中期前葉に洪水によって廃絶する。この時期以降、調査区内は、しばしば洪水に襲われ、あるいは、自然流路が流れるため、厚い流水堆積層が形成される。(中略)弥生時代中期後葉には、流水堆積層の形成は、いったん終了し、調査区内は比較的安定した時期をむかえる。(中略)弥生時代後期から、古墳時代前期にかけて、調査区の南半部は再び、北西に流れる大きな流路となり、流水堆積層が形成される。北半部では、依然として水田が存続していたものと考えられる。(中略)北部の水田は、古墳時代中期までに洪水によって砂層に覆われ廃絶してしまう。その後調査区内は、小規模な洪水による砂層が部分的に見られる他は、粘土層の水平堆積が旧地表面まで続く。	★弥生中期前葉。	
481	若江北遺跡	大阪府			同上。	★弥生後期～古墳中期。	
482	西岩田遺跡	大阪府	基本層序	VI	p29: (Ⅴ層は)古墳後期に属する層で、ほぼ全体に分布する。(中略)(Ⅵ層は)布留期に属する層で全体期には分布せず、Bトレンチのみに認められるが面としては不明瞭なもの。褐色、赤褐色の砂礫の層で、河川の影響が考えられるもの。	★布留。△古墳後期。	
483	西岩田遺跡	大阪府	基本層序	VII	p30: 弥生後期に属している。流水堆積砂層と呼称している。Aトレンチは層厚が全体の中でも厚く、ほぼ1.2m程度であり、特に15・16Aトレンチは1.6m近くに達する。(中略)Dトレンチ南端では流水堆積が消える。	★弥生後期。	

484	山賀遺跡	大阪府	A, Bトレンチ		pp9-10: 弥生時代中期の堆積層は、A, BトレンチとC, Dトレンチで大きく変化する。A, Bトレンチでは、TP約0.5m~1.5mに砂層が厚く不規則に堆積している。この砂層中に遺物が含まれていなかった為、時期は判別し難いが、少なくともその堆積状況から、一時的・急激な堆積と推定される。この1mに及ぶ砂の堆積上面には弥生時代後期中頃の遺構面が検出されたところから、砂層は弥生時代中期末~後期初頭にかけて堆積し、中期の遺構面はこの時に押し流されたとも考えられる。(後略)	★弥生中期末~後期初頭。	
485	山賀遺跡	大阪府	基本土層	6	pp15-16(表1): 淡灰色砂。厚さ; 50~110cm。分布範囲; 全域。時期; 弥生後期後葉。性格; 自然堆積層。下半部は洪水による自然堆積層。	★弥生後期後葉。	
486	山賀遺跡	大阪府	基本土層	12	pp15-16(表1): 淡黄褐色粗砂。厚さ; 60cm。分布範囲; STA.87+60以北。時期; 不明(第11層は弥生後期前葉/第15層は弥生中期後葉)。性格; 一時的な洪水による自然堆積層, 調査区北側に微高地を形成。	▼弥生中期後葉。△弥生後期前葉。	
487	山賀遺跡	大阪府	基本土層	14	pp15-16(表1): 淡灰色砂。厚さ; 最大110cm。分布範囲; STA.87+80以南。時期; 不明(第11層は弥生後期前葉/第15層は弥生中期後葉)。性格; 一時的な洪水による自然堆積層, 調査区南側に微高地を形成。	▼弥生中期後葉。△弥生後期前葉。	
488	山賀遺跡	大阪府	基本土層	17	pp17-18(表2): 淡青灰色砂。厚さ; 50~60cm。分布範囲; 全域。時期; 弥生中期前葉~後葉。性格; 洪水による自然堆積層, 調査区北側に微高地を形成。	★弥生中期前葉~後葉。	
489	山賀遺跡	大阪府			p21: 灰色細砂~暗灰色粘土層; 弥生時代第Ⅲ~Ⅳ様式遺構面ベースとなる。南部は粘土質で北半は第Ⅲ様式河川等の影響により細砂質になっている。(中略)地形的に安定する時期である。(直下は第Ⅱ様式遺構面ベースとなる。)	▼畿内Ⅱ。△畿内Ⅲ~Ⅳ。	
490	山賀遺跡	大阪府	基本層序	VIII上面	p16: (VIII層) 青灰色粘土。調査区全域に約40cmの厚さで堆積。(中略)本層上面より長大な自然河川が切り込み、その埋土の砂中より古墳時代後期に編年される遺物が出土している。また、この自然河川のオーバーフローによって堆積した本層上面の薄い砂層を除去すると、全域で人間や動物の足跡が検出された。	○古墳後期。	
491	山賀遺跡	大阪府	基本層序	X	p19: (X層) 砂もしくはシルト層。調査区南部では40cm内外の厚さで堆積。(中略)本層は流水堆積により形成されたものであり、いくつもの小さな流れごとにラミナを見せて砂やシルトが堆積している。p60: (弥生時代後期Ⅰの遺構面について)本遺構は、第XⅡ層の上に形成された厚さ15~30cmの黒灰色粘土の上面に構築されたものであるが、(中略)遺構面の上には2~3cmの薄いシルト層が乗り、更にその上には50cm近い流水堆積による砂またはシルトの層が堆積していた。ここでも弥生時代中期Ⅰの遺構面と同様流水に伴う土砂によって急速に埋没した状況が読みとれる。	▼弥生後期(弥生後期Ⅰ遺構面)。	
492	山賀遺跡	大阪府	基本層序	XⅡ	p19: (XⅡ層) 砂もしくはシルト層。本層は調査区全域に60~100cmの厚さで堆積。第X層と同様、小さな流水堆積が集積して形成された土層であるため。(後略)。p59: (弥生時代中期Ⅱについて)この上部は第XⅡ層が覆い、一時の大量の水と土砂の流入によって埋没したと考えられる。	▼弥生中期(弥生中期Ⅱ遺構面)。△弥生後期(弥生後期Ⅰ遺構面)。	
493	山賀遺跡	大阪府	基本層序	XⅤ	p20: (XⅤ層) 暗青灰色粘土。調査区南部に20~40cmの厚さで堆積、南へ漸次薄くなる。若干シルト質ではあるが、全体に均質で水成堆積と考えられる。北部では、本層と併行して弥生時代前期の自然河川を埋める砂層が存在している。	○弥生前期。△弥生中期(弥生中期Ⅰ遺構面)。	
494	山賀遺跡	大阪府	基本層序	XⅣ上面	p47: 調査区北部、約2500m ² の面積に弥生時代中期Ⅰの水田跡を検出した。レベルが1.1m~1.4mの第XⅣ層(淡黒灰色粘土)の上部を耕作土(暗灰色粘土)として使用し、(中略)本遺構面全域には厚さ2~3cmの淡青灰色シルトが堆積し、さらにその上部は流水堆積による砂もしくはシルト層に覆われていた。この層は、砂粒の混ざり方、色調の変化の観察によると、一時に急速に堆積したのものと考えられ、遺構面は一揆的に流入した水とそれに運ばれた砂とシルトによって瞬時に埋没し、その機能を失ったと考えられる。(後略)p142: (中期遺構面Ⅰについて)当該遺構面と前期新段階遺構面の間は、間層を挟むことなく密接しており、その後の中期遺構面上層(中期遺構面Ⅱ)との間には、砂及びシルトの間層が厚く堆積していることから、瓜生堂遺跡と同様、中期初頭(畿内第Ⅱ様式)までには前期に開始された集落が存続し、中期中葉直前に自然環境の激変があったことを再確認した。	★弥生中期中葉の直前。 ▼弥生中期(弥生中期遺構面Ⅰ)。△弥生中期(弥生中期遺構面Ⅱ)。	
495	山賀遺跡	大阪府			p111: 弥生時代中期になると、前期まで続いてきた大小の河川がほとんど埋没し、(中略)その後遺跡の南半は広く流路が通り、流水砂層に覆われる。この砂層上の微高地は中期中葉以降居住域となったようであるが、北半では変わらず水田が営まれている。	★弥生中期。 ▼弥生前期。△弥生中期中葉。	

496	亀井遺跡	大阪府	基本層序 (KM-H)	VII	p10: 自然河川NR3001(SD-11)の氾濫土層である。とくに弥生時代後期の凹みで厚く堆積する。層厚0.3~0.5m。上面にて古墳初頭の落ち込み3、古墳時代前期の自然流路を検出している。 p146: 落ち込みに伴う土器は畿内V様式末~庄内。p360: (各遺構の時期は) 第X期; SD-09・11。(中略) 第X期は第V様式後半。	★畿内V後半。▼弥生後期。△古墳前期。	
497	佐堂遺跡	大阪府		3, 4	p5: 第3・第4層は耕土・床土で、酸化鉄斑・マンガン斑を含み中世後半~近世に属するもので、部分的はあるが洪水で被ったものであろうそれぞれ上面に薄い砂の堆積が認められ、人・牛の足跡、鋤跡、小畦畔溝が検出されている。層厚10~15cmを測る。地点によっては、類似した数層の厚い堆積も認められる。	★中世後半~近世。	
498	佐堂遺跡	大阪府		6, 7	p5: (前略) 第6層上面は13世紀代~14世紀の遺構面、第7層上面は10~12世紀の遺構面と考えられる。また両層ともに、NR302(奈良~平安時代河川)付近では砂礫を含むようになる。	○10世紀~12世紀。△13世紀~14世紀。	報告書には「砂礫」とあるのみで洪水かどうかは不明。
499	佐堂遺跡	大阪府		11	p6: 第11層は奈良~平安時代の河川による堆積砂層で、褐色系粗砂中に鉄分が沈着した赤褐色を呈する薄い粗砂層、粘土を含んだ粗砂層等が部分的にみられる。p30: 飛鳥時代以降平安時代にかけて、当調査区は幾度も洪水に見舞われた不安定な土地であったようで特にNR301・NR302の河川を除いて7・8世紀代には明確な遺構は検出されなかった。	★奈良~平安。	
500	佐堂遺跡	大阪府		12	p6: 第12層は飛鳥時代の河川による堆積層で、粗砂、細砂の堆積がみられる。	★飛鳥。	報告書には「河川による」堆積等とあるのみで洪水かどうかは不明。
501	佐堂遺跡	大阪府		14	p6: 第13・第15層は古墳時代の水田耕作土で北半部は河川によって分断されているが、調査区全域にひろがって検出されている。また、調査区中央部では第13層と第15層に挟まれて第14層のシルト層が堆積している。第13層は6世紀末~7世紀代、第15層は5世紀末~6世紀代頃と考えられ、(後略)。	▼5世紀末~6世紀。△6世紀末~7世紀。	報告書には「河川による」堆積等とあるのみで洪水かどうかは不明。
502	佐堂遺跡	大阪府		20, 21	p6: 第19層は調査区中央に広がるシルト層で、南北両端部は部分的に自然流路によって削られており、河川の堆積層である第20・21層が認められる。この砂層及びシルト層には弥生時代前期~中期の遺物が含まれている。	○弥生前期~中期。△弥生前期~中期。	報告書には「河川による」堆積等とあるのみで洪水かどうかは不明。
503	佐堂遺跡	大阪府	基本層序	2	p11: 第2層の黄灰色~灰色礫混じり粗砂は旧長瀬川によって運ばれた堆積である。堆積層の厚さは0.7m~4.0mである。(中略) この粗砂層は10世紀後半以後の堆積である。すなわち、長瀬川がこの位置を流れはじめたのが10世紀後半頃であり、河流が最も深くそれまでの堆積層を浸食したのが場所によっては12~13世紀頃と考えられる。(後略) 参	★10世紀後半。	報告書には「河川による」堆積等とあるのみで洪水かどうかは不明。同報告書内では参考として、阪田育功「河内平野の形成と河川の変遷」pp146-157, がある。
504	新家遺跡	大阪府	基本層序	VIII	p115: (鎌倉、室町時代について) この時代はVIII層に相当し、(中略) (VIII層は) 何らかの理由で水成堆積層が形成され湿地化したものを田として使用したのではないかと考えられる。湿地を再開して田としたのが12世紀前後ではないかと考えられる。	★鎌倉~室町。	
505	太平寺遺跡	大阪府	第II調査区	第2遺構面直下	p668: (古墳時代中期; 5世紀後半の) 包含層は厚さ0.2~0.4mほどの砂質のやや強い茶黒色粘質土であり、間に薄い青褐色シルト層を不連続に挟む。このシルト層は(中略)一時期の洪水等によって部分的に堆積したものと考えられる。この時期(5世紀後半)の遺構の大半は本来、このシルト層の上面を遺構面として持つものと考えられる。(中略) 石津川の前身と思われる埋没河川の左岸部が調査区東端部のE4, F4地区付近で検出されているが、(中略) 包含層である茶黒色粘質土が5世紀後半に限定されるように急速に堆積が進展したのも、この川の流路がこの地域に移動してきたことが大きな要因としてあげられるであろう。	★5世紀後半。○5世紀後半。	
506	太平寺遺跡	大阪府	埋没河川SDN2	遺構埋土	p677: SDN2である旧石津川は、6世紀末、須恵器編年というII型式の終わり頃に埋没してしまうが、この流路を変えるほどの洪水の発生が、須恵器生産に伴う燃料用の薪の大量切出しによる森林破壊によってもたらされたとも考えられるが、これも断定はできない。とにかく、この流路を変えるほどの洪水は、この地域にも相当な被害をもたらしたことは想像に難くない。	★6世紀末葉。	
507	太平寺遺跡	大阪府			p683: 青灰色砂礫を主体としたこの洪水堆積層は、(中略) 氾濫原全域で見られるもので、少なくとも100m以上の幅を持っている。(中略) (層中の) もっとも新しい遺物は室町時代に下る。このことから室町時代に発生した大洪水によって上流の河岸部が大規模に崩壊し、多くのものが流水中に投げられたものと思われる。	★室町。	

508	太平寺遺跡	大阪府			p691: 氾濫原は室町時代の洪水堆積層である青灰色砂礫によって一面に埋め尽くされた後、石津川は流路を第Ⅱ調査区西端のH8、18、9地区に移動させる。この移動の後、流路は再び洪水堆積層である砂礫によって埋没してしまうが、この埋没の時期は既に江戸時代に入っている。	★江戸。	
509	友井東遺跡(南側)	大阪府		Ⅱ	p18: (第Ⅱ層は)第1次遺構面のベースとなる土で、(中略)灰色系の砂質土によって構成されている。(中略)これらの砂層は、突発的な洪水氾濫によって堆積したものと判断できる。そこでこのような洪水氾濫がもたらされた時期であるが、大和川はつけ替え以後、大規模な洪水がなかったことから、第2次面を大和川のつけ替えの18世紀初葉以前と考えたい。	△1704年?	
510	友井東遺跡(南側)	大阪府		VII	p22: (Ⅶ層は)第7次面を覆う厚さ約1~1.2m程度の砂・微砂・粘土などによって形成された土層である。p23: (前略)(弥生時代)前期から中期前半にかけて堆積したものと推定しておく。p24: (前略)弥生時代中期中葉までは、自然河川の流路が不安定で、多量の土砂を運搬していた自然史の過程が窺える。弥生時代前期面から中期中葉までの約300年間に約1.5~2.0m堆積したのに対して、弥生時代中期後半から現代に至る約1900年間に約1~1.5m堆積があったのみであることは非常に対照的である。このように弥生時代中期後半以降の地理的基盤の安定化と共に人々の活動が活発化してくる。(後略)	★弥生前期~中期前半。	
511	友井東遺跡(北側)	大阪府	基本層序	7	p11: 黄色砂。古墳時代後期の遺構面を全面にわたって覆っている。Aトレンチ北東端で検出した自然河川を埋めた砂及びオーバーフローした砂。p28: (古墳時代後期)水田面を全域にわたって覆っている黄色砂は本河川のオーバーフローした砂であり、一時的に埋没した様である。河川に近くなる程砂の堆積が厚くなっていることから、洪水の規模が窺われる。(中略)本河川の埋没時期は山賀遺跡(その4)の成果から6世紀後半代~7世紀初頭と考えられる。	★6世紀後半~7世紀初頭。▼古墳後期。	
512	友井東遺跡(北側)	大阪府	基本層序	10	p11: 灰色砂。弥生時代後期の自然河川埋土及びオーバーフローした流水堆積砂。AトレンチSTA.94+61付近以北では本層は途切れ、第9層下に第11層がある。p11: (第9層は)庄内~布留式土器を含み、(後略)。	▼弥生後期。△弥生後期末葉~古墳初頭(庄内~布留)。	
513	友井東遺跡(北側)	大阪府	基本層序	13	p12: 灰白色砂。弥生時代中期面を覆っている砂で、自然河川の埋土及びオーバーフロー下流水堆積。調査区全域を覆っている。山賀遺跡(その4)の弥生時代中期Ⅰ面を覆っている砂と同様で、時期的にも近いと考えられる。p21: (弥生時代中期について)本期は第14層、灰黒色粘土をベースとし、自然河川が4条流れていた。次期の後期面との間には灰色砂が厚く堆積しており、本地域一帯に及んでいる。また、この状況は山賀遺跡(その4)でも観察され、弥生時代中期中頃に一時的に埋めつくされたものであろう。	★弥生中期中頃。▼弥生中期。	
514	美園遺跡	大阪府	A地区	Ⅳ、Ⅴ	pp13-14: (第Ⅳ層は)砂層に近いシルトである。流水堆積により形成されたもので、厚さ0.4m前後でA地区のほぼ全域にわたって堆積する。p14: (中略)(第Ⅴ層は)茶灰色砂質土である。上層第Ⅳ層とほぼ同一時の流水堆積と思われる。第Ⅳ・第Ⅴ層が堆積した原因としては、A地区北側のANR202、さらには北接する友井東遺跡検出の弥生時代中期の自然河川の氾濫によるものと思われる。堆積した時期は遺物が出土していないので明確ではないが、上・下層や上記の自然河川の関係より弥生時代中期前半に形成された堆積層と考えられる。	★弥生中期前半。	
515	美園遺跡	大阪府	A地区	Ⅵ	pp14-15: 暗青灰色粘土で一部に淡黄褐色の砂がブロック状にはいる。比較的均質で水成堆積と思われる。厚さ0.4m前後で北側にゆるやかに傾斜していく。この層の上面は、弥生時代中期Ⅰ遺構面のベース層を成すが、上記第Ⅴ層のところで述べた自然河川の氾濫により、この遺構面は消滅したものである。p15: A地区の土層堆積時期をまとめてみると、(中略)第Ⅵ・Ⅶ層→弥生時代前期後半~弥生時代中期前半、(後略)。	★弥生前期後半~中期前半。△弥生中期中前半。	
516	美園遺跡	大阪府	A地区	Ⅷ	p15: 弥生時代前期Ⅰ遺構面のベースを成す砂質土、もしくは、シルトである。この層は弥生時代前期以前の洪水等による堆積層と考えられ、厚さ0.5mと厚く微高地形を形成している層である。(中略)(第Ⅸ層は)縄文時代晩期の層と考えられるが、明らかに自然堆積層と思われる。(中略)A地区の土層堆積時期をまとめてみると、(中略)第Ⅷ・Ⅸ層→縄文時代晩期~弥生時代前期後半、(後略)。	★縄文晩期~弥生前期後半。▼縄文晩期。△弥生前期。	
517	美園遺跡	大阪府	B地区	Vg-Vh間	p18: Vh・Vi層はそれぞれ淡灰色粘質土及び茶灰色粘質土である。同層はともに弥生時代中期Ⅲ遺構面のベースを形成しているが、明らかに自然堆積層と考えられ、遺構としても同地区北端と中央部において自然河川のみしか検出されなかった。また、これら自然河川のオーバーフローと思われる砂の堆積がVgとVhの間に認められる部分があり、わずかではあるが、その中より弥生時代中期(畿内第Ⅲ様式)の土器片が出土する。	○畿内Ⅲ。	

518	美園遺跡	大阪府	B地区	IXb	p18: IXb層は黄色砂である。弥生時代前期遺構面のベースを形成する。厚さ0.7m前後の堆積層でほぼ全域に観察されるが、同地区南端よりC地区側では全く認められなくなる。この砂層は縄文時代晩期の河川跡、または、その氾濫によってもたらされた砂の堆積と思われ、(後略)。p19: (前略)B地区の土層堆積時期をまとめてみると、(中略)第IX・X層→縄文時代晩期～弥生時代中期初頭、(後略)。	★縄文晩期～弥生中期初頭。	
519	美園遺跡	大阪府	B地区	X	pp18-19: 第2黒色粘土である。(中略)山賀遺跡等の関係より縄文時代晩期の有機質を多く含んだ水成堆積と思われる。p19: (前略)第IX・X層→縄文時代晩期～弥生時代中期初頭、(後略)。	★縄文晩期～弥生中期初頭。	
520	美園遺跡	大阪府	C地区	庄内式一布留式面間	pp21-22: T.P.+4.1～4.8mにかけて、暗黄褐色細砂層および暗黄灰色シルト層で構成される布留式の遺構面を検出した。この面は、調査区中央部北側にかけて古墳時代中期の遺構面と重なる部分をもつが、時期的に安定した面を形成している。庄内式遺構面との間は主に粘土とシルトの堆積を見るが、庄内式時間幅の中でCSD301, 303, 304, 305が埋没する際に砂を被る。	▼庄内。△布留。	
521	美園遺跡	大阪府			p685: (弥生時代中期について)A, B, C, Eの各地区より幅の広い自然河川が合計5本検出されている。これらは同時に厚い砂を堆積させていた。この時期の堆積量が各時代を通して最も多かった。B地区で前時代に営まれていた集落は、A地区を流れる自然河川の氾濫によっておそらく北側の水田が埋没し、それに伴って集落が廃絶すると考えられる。その時期は畿内第Ⅱ様式前半以降であろう。畿内第Ⅱ様式後半の遺構、遺物は、調査区全体でほとんど検出されなかった。再び本遺跡に集落が営まれるのは畿内第Ⅲ様式に入ってからである。	★弥生中期(畿内Ⅱ前半以降)。△畿内Ⅲ。	
522	亀井遺跡	大阪府	D地区	9	p15: 黄色粗砂層。層厚0.8～1.7m。T.P.4.5～6.4m。古墳時代河川の流路堆積物である。弥生時代の遺物のほかに5世紀後葉から同末葉の埴輪などを包含する。p19: 第9層は5世紀後葉から同末葉にかけての古墳をおそらく破壊したようで、そのことから推測すると、5世紀末葉もしくは6世紀初頭から、6世紀中葉までの流路とみなしうる。	★5世紀末葉～6世紀中葉。▼5世紀後葉～末葉。	
523	亀井北遺跡	大阪府	基本層序	IV	p7: 調査区全域に認められ、T.P.+6.2～6.4m付近で第IV層とした青灰色シルト層あるいは紫灰色シルト層に至る。この層は流水堆積層と考えられ、南に向かうについて粗砂化し、層厚も増す。p8: 層厚は30cm～60cmを測る。遺物はほとんど包含されない。上面では、井戸、鋤溝等、古代から中世までの遺構が混在して検出された。(中略)奈良・平安時代の遺構は、第V面上面においてのみ、第IV層上面の遺構群より分離して検出される。p210: (奈良・平安時代について)この時期は、地形的に安定していた様であり、(後略)。	▼奈良・平安。△古代～中世。	
524	亀井北遺跡	大阪府	基本層序	V	p8: B地区中央付近の自然堤防上のみ存在する暗茶灰色シルトを第V層とした。(中略)(第VI層は)古墳時代後期に当たるものと考えられる。p185: 第VI層上面において、古墳時代後期の水田面を検出した。第6遺構面とする。第VI層、第VII層、第VIII層の層序は、調査区周辺に普遍的に存在しており、第VI層上面には厚さ40～50cmに亘って砂層の堆積が認められる。本調査区では、古代ないし中世の遺構面のベースとなる第IV層、第V層のシルト及び砂層が第VI遺構面を覆っている。第6遺構面における遺物の出土は、皆無であり、時期の確定は困難であるが、(その2)・(その3)調査区では、本調査区で第VI層とした暗茶灰色粘土層を覆う砂層より6世紀後半の須恵器が出土しており、第6遺構面は古墳時代後期に位置づけられるものと考えられる。	▼6世紀後半。△古代～中世。	『亀井北(その2)』を参照。
525	亀井北遺跡	大阪府	基本層序	X I	p9: (第X I層は)T.P.+4.7～5.6m付近に存在する。灰色シルト、淡黄灰色砂、緑灰色微砂といった一連の流水堆積層を第X I層とする。層厚は30～40cmを測り、基本的に上半がシルト質、下層に至るにつれて砂質化する。(後略)p30: 古墳時代前期I遺構面(第8f遺構面)は第X I層の灰色シルト層、淡黄灰色砂層上面をベース面とする(後略)。	▼弥生後期。△古墳前期。	
526	亀井北遺跡	大阪府	基本層序	X V	p9: (第X V層について)B地区中央付近以北ではX I層直下、以南ではX IV層直下に当たり、弥生時代後期I遺構面を覆う流水堆積層が存在する。これを第X V層とする。北半では層厚約50cmを測る。(後略)p22: 弥生時代後期の遺構面は4面を検出した。下層より第12遺構面(後期I)、第11遺構面(後期II)、第10以降面(後期III)、第9遺構面(後期IV)としたが、(後略)。	▼弥生後期。△弥生後期。	
527	亀井北遺跡	大阪府	基本層序	VII	p8: (VII層について)この層は、D・E地区全面で検出され、古墳時代後期の水田面である古墳時代第4遺構面全面を厚さ約0.5m～1.0mで被る黄灰色を呈する砂層であり、古墳時代後期の遺物を包含している。p38: 第X層の上面に有機質土層が堆積し、一時人間の足跡が標されない時期があるが、6世紀に入って再び水田が形成される。この水田も6世紀後半の洪水によりVII層の砂が1m近く堆積してしまう、間もなくこの砂上面に溝状遺構が掘削されるが、すぐ7世紀初頭には埋没してしまい、やがて歴史時代へと時代は進む。	★6世紀後半。○古墳後期。△7世紀初頭。	

528	亀井北遺跡	大阪府	NR3601	NR3601 覆土	p5: 弥生時代第6遺構面は、淡青灰色粘土、トレンチでは、淡青灰色シルトをベースとする。層厚は、10~30cmである。弥生時代後期の水田と、亀井遺跡Aトレンチにおける弥生後期大溝群と関係があると思われる大溝を検出した。この遺構面の土層には、NR3601のオーバーフローによる砂層が、約40cm堆積している。	▼弥生後期。	
529	亀井北遺跡	大阪府			p6: 古墳時代第4遺構面は、暗灰色粘土をベースとしている。古墳時代後期の水田面である。層厚は、5~30cmである。また、トレンチ中央部では、この面から約20mの川幅を持つNR4401が検出された。この遺構面の土層には、NR4401のオーバーフローである古墳時代砂層が約1.0m堆積し、遺構面全体を覆っている。	★古墳。▼古墳後期。	『亀井北(その2)』を参照。
530	亀井北遺跡	大阪府		奈良時代第2遺構面直上	p6: (奈良時代第2遺構面からは) 亀井遺跡で検出されたNR6001(亀井北遺跡その3調査区ではNR6201)の北側肩を検出した。p48: (NR6201は) 奈良時代後期における平野川と思われる大河川である。p86: (奈良時代第2遺構面について) この川の流入の為、本調査区トレンチ付近は、川の氾濫やその他の理由で、人々の居住の場としては適さなくなり、生産の場へと変化していったのではなかろうか。(中略) (NR6201からもっとも多量に出土した奈良時代後半の土器は) 他の時代の土器と比べて、ほとんどローリングを受けていない。この為、この川の流入していた時期を、この時期周辺に置くことは可能であると思う。(中略) 奈良時代第1遺構面と(p85: (8世紀中頃。))と奈良時代第2遺構面(p86: (8世紀末~9世紀初頭))は、わずかな時間差しかなく、本調査区における奈良時代第1遺構面は非常に短期間の間に、廃絶してしまったことがうかがえる。これについても、NR6201が大きな原因のひとつであったと思われる。	★8世紀末~9世紀初頭(奈良時代第2遺構面)。	
531	亀井北遺跡	大阪府		奈良時代第1・第2遺構面間	同上。	▼8世紀中頃(奈良時代第1遺構面)。△8世紀末~9世紀初頭(奈良時代第2遺構面)。	
532	久宝寺遺跡南地区	大阪府	基本層序	第5遺構面	p7: (第5遺構面は) 主に弥生時代後期の河川堆積層によって構成される面である。p613: 第6遺構面では、まず、特筆されるのはトレンチの第6遺構面下のシガラミ群であり、弥生時代中期のこの全般的な継続性のある河川の維持、管理の跡は、南側の居住域としての亀井遺跡との関連性に興味深いものがある。そして、その河道の維持は、古墳時代後期にまで確実に継続し得る寿命の長い点でも、他の河内平野沖積地内の河道の中でもとりわけ注目される。p614: 第5遺構面においては、(中略) 本調査区の全体の地形を一通、いっぺんさせるような河川堆積がある。これは、縄文時代後半期のこの地点を水面上に浮かび上がらせた堆積以来の大きなものであったと考えられる。こうした堆積作用のまっただ中においても、人間の生活の痕跡はうかがえるのである。それ以降、本調査区の自然堆積以上に人為的な活動による地形の改変の方が上まわるようである。ちなみに次の段階で全域に薄いながらも砂層が被るのは飛鳥時代頃である。	★弥生後期。	報告書には「砂層」などあるのみで、洪水とは明記されていない。
533	久宝寺遺跡南地区	大阪府			同上。	★飛鳥。	報告書には「砂層」などあるのみで、洪水とは明記されていない。
534	城山遺跡	大阪府			p152: 当調査区においては、弥生時代中期、古墳時代中期から後期までの遺構、遺物の豊富さに比べ、飛鳥時代から平安時代にかけては粘土層及び微砂層の厚い堆積がみられ、わずかに遺構、遺物は検出されているが、不毛の時期であったといえる。p189: 古墳時代から存在していた調査区北端部及び南半部の自然河道の氾濫のために、調査区の全般にわたって古墳時代後期初頭以降はオーバーフローした砂及びシルト質の土層の堆積がみられ、調査区付近は河川の氾濫、滞水が繰り返され、不毛の地となっていた事がうかがわれた。(中略) 土層からみても平安時代後期から中世にかけては比較的安定した時期であったといえ、(中略) しかし、14世紀後半頃から流れ出した東除川が、度々氾濫を繰り返し、オーバーフローした砂層の堆積が多く認められた。(中略) このような状態は近世にいたっても続き、安定するのは1704年に大和川が現在のように付け替えられ、それによって東除川が埋没した後になる。	★飛鳥~平安。	
535	城山遺跡	大阪府			同上。	★14世紀~1704年。	
536	城山遺跡	大阪府			p234: 奈良時代の後半に水田面を覆う砂の堆積があり、その後0.8~1.0mの厚さで粘土が堆積している。(中略) (鎌倉時代以後は) 東除川の氾濫によると考えられる砂の堆積が絶えず生産の妨げとなっていたにも拘らず、水田や島が営まれていたようである。江戸時代に大和川の付け替え工事終了後、それもなくなくなり、生産域としてずっと続いていたようである。	★奈良後半。	

537	城山遺跡	大阪府		4	p8: (4層は)灰白色の粗砂～微砂の薄層で、分布はI区以南に限定される。p16: (第7水田は)4層の砂で覆われた水田である。(中略)氾濫の砂層が薄く、また後世の削平を受け失われた部分も多いので残りはよくない。廃絶時期の上限13世紀後半頃で、下限は室町時代後頃。	★13世紀後半～室町後半。	
538	城山遺跡	大阪府		6	p8: (6層は)G区だけにある黄白色の砂層で、最大10cmの厚みがある。p16: (第6水田について)G区において砂を除去した時点で、無数の足跡を検出した。p17: (第6水田の)廃絶の上限を平安後期頃とすることができる。	▼平安後期。	報告書には「砂層」とあるのみで、洪水か否かは不明。
539	城山遺跡	大阪府			p102: (平安時代について)かつての段丘部では、7～8世紀の流路は自然堤防状の高みとして痕跡を残している。(中略)また、長原東南部から八尾南にかけては、7～8世紀代の氾濫の影響は少なく、継続して水田であった可能性がある。p103: この川(低地部の新たな川)は大和川本流筋から10世紀頃に流れ出したものと考えられる。	★10世紀。	河道変更を洪水と解釈。
540	城山遺跡	大阪府	G区～I区中央部	11	p9: (11層は)G区からI区中央部にかけてある褐灰色の小礫まじりの粗砂層で、最大90cmの厚みがある。p18: (第4水田は)11層の砂で覆われた水田である。G区中央部からI区北半にかけて約120mの間にある。p19: 水田土壌中には6～7世紀の土師器・須恵器が含まれていたが、上を覆う砂層(11層)の上位からは8世紀末葉を下限とする遺物が多く出土した。水田の廃絶時期は8世紀代に下る可能性もある。	▼6世紀～8世紀。○8世紀末葉。	報告書には「粗砂層」とあるのみで、洪水か否かは不明。
541	城山遺跡	大阪府		13	p9: (13層は)12層の下位にある灰色・褐色粗砂層である。分布の北限は明らかだが、南限は明らかでない。時期のわかる遺物は出土していない。p19: (第3水田は)13層の砂で覆われた水田である。I区中央付近のわずかの範囲でしか確認されていない。	▼7世紀末葉(第2水田)。○8世紀末葉(11層の上位)。	報告書には「粗砂層」とあるのみで、洪水か否かは不明。
542	城山遺跡	大阪府		15	p9: (15層は)I区中央部以南に広く存在する灰青色の小礫まじりの粗砂層で、20～50cmの厚みがある。p20: (第2水田は)16層を水田土壌とした水田である。調査範囲のほぼ全てで確認できた。(中略)水田33・34より南では最大厚60cmの砂礫層(15層)によって覆われている。砂礫層の最下部は薄い微砂層になっており、多くの場所でこれが水田面を直接覆っている。(中略)水田土壌からは7世紀末葉を下限とする遺物が出土している。	▼7世紀末葉。○8世紀末葉(11層の上位)。	報告書には「粗砂層」とあるのみで、洪水か否かは不明。
543	小阪遺跡	大阪府	河川7		p214: 河川7は、F地区の15Fトレンチで検出されている。(中略)検出面は、他のF地区内の古墳時代河川と同様に、基本層序の第IV層である。しかし、やや微視的に見ると、河川7は河川5の形成時期におこった大規模な洪水によって、あるいは河川5によってもたらされ、数次にわたる小規模な堆積作用を繰り返した粗砂～シルト層の上面から検出されており、付近では最新の流路であることがわかる。遺物は、堆積層の最下部で6世紀代の須恵器が出土しており、河川7の形成時期は古墳時代後期にあたる。	★古墳後期。	
544	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	基本層序	3	p8: (古墳時代前期の)3層は第1面ベース層の褐灰色の細砂・シルトを呈する古墳時代前期の遺構を埋没させた河川流水堆積層である。4I・16A・11C・13Cトレンチで検出されており、層厚は0.1～0.6mを測る。3層中および除去面で、第2面が検出されるが、トレンチにより遺構面は1～4面存在する。いずれの面も洪水による堆積の中で水田耕作が繰り返されており、13Cトレンチ北半まで拡がる。	▼古墳前期。	
545	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	基本層序	7	p10: (弥生時代中期中頃の)7層は第5面のベースとなる細砂からシルトの層である。河川の流水堆積層であり、トレンチによっては約1.6mの堆積がみられる。	★弥生中期中頃。	報告書には「河川の流水堆積層」とあるのみで、洪水か否かは不明。
546	巨摩・若江北遺跡第5次	大阪府	基本層序	9	p10: (弥生時代中期前半の)9層は流水堆積物の粗砂であり、層厚は0.5～1.1mを測る。p119: (弥生時代)中期では初頭から前半にかけては全域において水田や溝などが検出されることから、生産領域として利用されたようである。また、初頭段階では厚い洪水砂に覆われる地区があり、数々の議論を醸し出した瓜生堂遺跡を覆う洪水砂と一連の堆積層がこの地区にも及んでいることを追認することができた。	★弥生中期初頭。	
547	野々井遺跡	大阪府		6A I	p11: (第6A層は)水成層および作土層の2層からなる。6A I層は淡灰色砂礫層で、その1・2調査区の西部に分布する水成層である。流路A3が供給した土砂である。流路A3を最終的に埋めつくし、さらに溢流して周辺にも土砂の堆積をもたらす。6A II層は灰白色シルトないし粘土の作土層で、(中略)流路A2は、西寄り位置に、幅が約6mの縮小した流路A3として残り、この水流を利用して東側の低地部で小規模の水田が営まれている。時期は弥生時代中期から後期である。このあと洪水で水田は埋没し、その2調査区のほぼ全域に溢流堆積をもたらす。この時、堅穴住居などの中期の遺構はすでに埋没していたと推測される。(中略)この流路が最終的に洪水による6A II層の土砂で埋まるのも弥生時代後期の間であろうと思われる。	▼弥生後期(第6A II層)。△TK23～TK47(第5B IV層)。	

548	野々井遺跡	大阪府		6A II	p11: (前略) 流路A2は、西寄りの位置に、幅が約6mの縮小した流路A3として残り、この水流を利用して東側の低地部で小規模の水田が営まれている。時期は弥生時代中期から後期である。このあと洪水で水田は埋没し、その2調査区のほぼ全域に溢流堆積をもたらす。この時、竪穴住居などの中期の遺構はすでに埋没していたと推測される。(中略) この流路が最終的に洪水による6A II層の土砂で埋まるのも弥生時代後期の間であろうと思われる。	★弥生後期。
549	野々井遺跡	大阪府		6B	p11: (第6B層は) 灰色ないし黄灰色砂礫の水成層である。その1・2調査区の西部に分布する。流路A3に由来する堆積層で、弥生第IV～V様式の土器が出土している。この堆積後、流路A3の東側に砂を主体とする土砂により堤が築かれている。	○畿内IV～V様式。△弥生後期(第6A II層)。
550	野々井遺跡	大阪府		7B	p11: (第7B層は) 弥生時代中期の遺構の埋土として残る黒色シルト、中期の流路A2・bの埋土である黄灰色細砂または砂礫である。その1・2調査区の流路A2では多くの流木が見られ、流路Bからは多くの土器が出土した。p12・15: (前略) (遺跡では) 低地部を避けて弥生時代中期に住居などの遺構が形成され、流失から免れたカシなどの古木を利用した木製農具の製作が行われたものと思われる。この前後、低地部には幅約18mにわたる流路A2が流れ、流路の肩口には立ち木の根が落ち込み、下部では流木が多数出土した。弥生時代中期ごろに土砂で埋まっているが、この時の土砂も低地を埋め尽くすには至っていない。流路A2は、西寄りの位置に、幅が約6mの縮小した流路A3として残り、この水流を利用して東側の低地部で小規模の水田が営まれている。時期は弥生時代中期から後期である。このあと洪水で水田は埋没し、その2調査区のほぼ全域に溢流堆積をもたらす。この時、竪穴住居などの中期の遺構はすでに埋没していたと推測される。	▼弥生中期～後期。△畿内IV～V様式(第6B層)。
551	野々井遺跡	大阪府		8B	p11: (第8A層からは) 縄文時代晩期船橋式や弥生時代第I様式の土器細片が少量出土した。(第8B層は) 黄灰色または灰白色砂礫で、流路A1を埋める水成層である。(中略) (第9層からは) 北白川上層式の土器片が出土した。	▼北白川上層式。△船橋式・畿内I様式。
552	尺度遺跡	大阪府	基本層序	2	p11: (2層は) 本来、層厚5cm前後の層の重なりだが、上下の質の差がほとんどないため、大まかにまとめて分層した。一つの層の厚さから、洪水になどによる土砂の供給があるたびに、それを耕土に利用し、耕作深度が変わらない事から順次水田下土壌として残されていったものと思われる。p12: 西側が層厚も厚く、(中略) 近世頃に形成された層のようである。	★近世。
553	尺度遺跡	大阪府	基本層序	3	p12: (3層は) (黄褐～黄灰) 砂質土。シルト～細砂主体、粗砂あり、Fe・Mn粒あり。2層よりやや暗色で粘質が高い層である。上下に粗砂層が薄く残存する事が部分的にあり、この層の形成前後に洪水があった事を示している。(中略) 遺物的には瓦器の破片を含み、中世頃のものと思われる。	★中世。
554	尺度遺跡	大阪府	基本層序	5	p13: (第5層は) (にぶい黄～灰) 粘質土。シルト～粘土主体、粗砂あり、Fe・Mn粒あり。色も質も場所によってかなり異なるが、基本的には止水堆積の黄褐色系粘質土である。(中略) 2～3層に分別できる部分もあるが、かなり層厚のある止水堆積で、有機分は少ない事から溢流的な洪水の堆積物と思われるが、その供給源は確定できない。	△中世。
555	大和川今池遺跡	大阪府	その3調査区基本層序	1	p14: (第1層は) オリーブ砂質土の粗砂～中砂層で、近現代の耕作土層である。大和川の洪水砂が土壌化した土層である。10～20cmの厚さを測る。(中略) この層を掘削した面が第1面で、現大和川に直交する耕作溝跡を検出した。p18: (第1面は) 江戸期(1704年)の大和川付け替え以降の耕作面であると思われる。	▼近世(1704年以降)。△近代以降。
556	大和川今池遺跡	大阪府	その3調査区基本層序	2	p14: (第2層は) 灰オリーブ色砂質土の中砂～細砂層で、近世の洪水砂の流水堆積層である。東側は第1層によって削平されている。約10cmの厚さを測る。下層にラミナがみられる。この層は単一時期の堆積ではなく、幾度かの流水(洪水)と細砂の堆積を繰り返した結果、形成されたものと考えられる。この層を掘削した面が第2面で、正方位にのった南北方向の耕作溝跡を検出した。p20: (第2面の流路1の遺物は) 16世紀～17世紀前半頃に相当するものである。p21: (第2層包含層の遺物は) 15世紀～17世紀代の様相を示す。	★近世。▼15世紀～17世紀。
557	大和川今池遺跡	大阪府	その3調査区基本層序	4	p14: (第4層は) にぶい黄褐色粘質シルトが主を成す。(中略) 一時的に湿地状況であったと考えられる。p28: (第4層直下の第4面の畦畔5～7は) 洪水などの流水作用によって埋没したものと思われる。p32: (第4層・第4面の出土遺物は) 7世紀～10世紀代の様相を示す。	▼7世紀～10世紀。△12世紀～15世紀。

558	大和川今池遺跡	大阪府	その3調査区基本層序	5	p16: 第5面のベース層では層境においては踏み込みが顕著にみられ、下層にはシルトが堆積している。シルト層には炭化物や有機物が含まれる。水成堆積によるものと考えられ、一時的に湿地状況であったことがうかがえる。p32: (第5層直下の第5面では)水田区画内で流路跡や不定形土坑などが多くみられることから、洪水などにより耕作地が湿地化し、一時期後背湿地の状況であったと考えられる。(中略)古墳時代前期頃の耕作面が後に湿地化した状況であると考えられる。p50: 出土した遺物から、第5層の上層(5-1, 2層)は、古墳時代後期から平安時代頃の様相を示す。第5層下層(5-4層)は、主に古墳時代中期から後期を中心とする時期の様相を示す。第6層は古墳時代中期以前の様相を示すものである。	▼古墳中期以前。△古墳後期～平安。
559	大和川今池遺跡	大阪府	その4調査区	2	p87: (第2層は)暗黄灰色細砂に代表されるラミナが顕著に観察される砂層で形成される。pp87-88: 西地区では、洪水砂の間にも耕作面をはさむ箇所もあることから、単一の時期に堆積した層ではなく、幾度かの川の増水に際し、砂が上流より運ばれることを繰り返した結果、形成されたと考えられる。層の厚みは10cm～80cmを測る。p88(表4): (第2層は近世末以降に相当。)	★近世末以降。
560	吹田操車場遺跡	大阪府	A地区・B地区基本層序	2下	p18: 1A地区の中央南辺およびB地区の北西隅には、2層の下に薄い灰白色の粗粒砂の堆積が認められた。これは、近世におこった洪水砂の流入によるものであると思われる。	★近世。
561	吹田操車場遺跡	大阪府	A地区・B地区基本層序	5-1	p18: (第5層は)谷状地跡に堆積した層で、(中略)最上位5-1層は、洪水によって流入した砂で構成される層である。p19: 洪水は古墳時代前期から中期にかけておこったと推測される。p57: (A地区の古墳時代前期について)開発は古墳時代後期以前におこった大規模な洪水によって一時廃絶し、遺構面は厚い洪水砂のなかに埋没した。p61: (B地区の古墳時代遺構面について)部分的に、厚さ2～3cm程度の洪水砂で覆われている。この洪水砂は、A地区第5-1層と対応すると考えられる。	★古墳前期～中期。
562	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	基本層序	4	p7: (第4層は)T.P.+5.7～6.7mの間に堆積する厚い洪水層で、中央部に南北方向の微高地を形成する。(中略)古墳時代初頭から中期前半の洪水層と考えられる。	★古墳初頭～中期前半。
563	讀良郡条里遺跡	大阪府	第4遺構面: 溝27	溝27の下層	p6: 奈良時代中期から平安時代初頭の溝27・28などが成立する第4遺構面のベース層(⑤層)は、淡青灰色泥砂や淡黄灰色泥砂などの混成層で、表面に砂質分が拡がる層厚の薄い堆積層である。(後略)p9: 溝27の堆積土は、黒褐色10YR2/3系の砂泥・泥砂・シルト、灰白色5Y7/1系の微砂・細砂・粗砂などを主体とし、上層では比較的安定した水平堆積に近い状態であるが、下層では激しく攪拌された状態である。洪水などにより短期間に埋没した状況が推測される。p61: 奈良時代中期から平安時代初頭の溝27は、遺構規模や多量に祭祀遺物が出土する事からみて、当時、この地域の幹線水路であった可能性が高いと考えられる。仮に幹線水路であるならば、平安時代初頭に埋没すると同時に、他の場所に付け替えられたものと想定されるが、以後、調査区内においては耕作地として一変し、その経過が辿れない。(後略)	★奈良中期～平安初頭。
564	讀良郡条里遺跡03-3区	大阪府	基本層序	1b	p12: 4区のb層は、淘汰が非常に悪くやや上方に粗粒化する土石流と考えられるものと、ラミナを明瞭にもつ破堤・氾濫堆積物に分けられる。3区では土石流が第1a層より上位に存在し、破堤・氾濫堆積物は第1b層や第2層中に存在することが多い。(中略)9区の第1b層は全体としてやや上方に粗粒化する氾濫堆積物で、3区の北東部を除きすべての畦畔を完全に覆い、さらに畦畔の上に約0.4～0.5m堆積する。(中略)第1層の時期は江戸時代中期以降と推定する。p44・48: (1区・3区・9区)の第1b層は全体として上方に粗粒化する氾濫堆積物である。この層は南西部では約0.8mの厚さで堆積し、第1面を平坦化させた。	★江戸中期以降。
565	讀良郡条里遺跡03-3区	大阪府	基本層序	1a上	p12: 3区では土石流が第1a層より上位に存在し、破堤・氾濫堆積物は第1b層や第2層中に存在することが多い。(中略)第1層の時期は江戸時代中期以降と推定する。	▼江戸中期以降。
566	讀良郡条里遺跡03-3区	大阪府	基本層序	2	p14: 第2層中にも破堤・氾濫堆積物が広域に堆積しており、また島島の芯として残っている場合がある。第2層は4層に細分した。p15: 第2層の時期は室町時代から江戸時代前期と考えられる。	★室町～江戸前期。
567	讀良郡条里遺跡03-3区	大阪府	基本層序	3-2b	p32: (4区の第2面は)第3-2b層に覆われていた遺構面である。第3-2b層は灰黄褐色粗砂を主体とする砂層で、4区南部では厚さ約0.1mあり、北側では徐々に薄くなりながら、X--138,490付近まで広がる。5区では相当する砂層を認めていない。楠根川が氾濫したときに堆積したものと考えられる。(中略)(4区の第2面の)耕作地の時期は鎌倉時代から室町時代前半と推定できる。	▼鎌倉～室町前半。△室町～江戸前期(2層)。
568	上私部遺跡03-1区	大阪府	溝21	1	p153: (溝21は)1・2・5区で検出した東西方向の谷状遺構の一部である。(中略)堆積層を大きく4層に区分した。第1層は、灰白色～灰色を呈する砂層で、粗砂・小礫～大礫が多量に混在する。河川として機能していた状況下での堆積とは認められず、洪水あるいは土石流などで一気に流れ込んだものとみられる。(中略)第1層からは21点の土器片が出土している。土師器の小皿410・大皿411、瓦器の椀412は、14世紀中頃に位置するものと考えられる。	○14世紀中頃。

569	有池遺跡	大阪府	03-1-1 調査区	1	p65:0層より下では最終遺構面までの間に中世後半から近世までの時期の遺物を含む、耕土・床土・整地層の累積層を認めた(1層)。これは2層とは土質が異なり、中～粗砂の含有率が高いため粘性は低いが、全体に攪拌は進んでいる。整地層や耕起痕の下部で、部分的にフミナが認められることから、何度か水田面に洪水砂層の被覆を受けたことが考えられる。しかしその都度、砂層を踏み込んで土壌化し、あるいは部分的に積み上げる作業を繰り返す過程で、徐々に水田面が高くなるとともに、層が形成されていったと考える。	○中世後半～近世。
570	有池遺跡	大阪府	03-1-3 調査区	3	p68:現代耕土を除去した段階で、洪水砂層を検出した(1層)。これは10cm弱の厚さで、調査区のほぼ全域で認められた。(中略)1層を除去すると3～4枚からなる近世以降の耕土層を認めた(2層)。その下の洪水砂層(3層)からは中世土器のみが出土している。出土遺物はいずれも摩滅した細片で、帰属時期を判断することは難しいが、この層の堆積した時期と、再度その場所が水田として利用される時期との間に時間差が存在することは確かである。3調査区の中央部ではほぼ東西方向の帯状に、3層の洪水砂が4層を削り取っている状況がみとれた。このことから洪水砂に覆われた水田が、直後に復旧されることなくしばらく放置されたことが予想される。換言すればこの洪水砂層は、中世集落の廃絶時期と相前後する時期に堆積したといえるのかもしれない。	○中世。△近世以降。
571	私部南遺跡06-1	大阪府	1区・2区 基本層序	8	p13:(第8層は)標高27.4m、層厚0.1～0.2mで堆積しており、流路及びその氾濫堆積物などの自然堆積層とその上部に形成された土壌化層である。この層からは縄文時代晩期から弥生時代前期新段階にかけての土器が層位的に出土した。(後略)	○縄文晩期～弥生前期新段階。△弥生前期新段階～中期前葉。
572	私部南遺跡06-1	大阪府	1区・2区 基本層序	9	p13:(第9層は)標高26.3～27.2m、層厚0.1～0.3mで堆積しており、第9層は北西に流れる流路の氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなる。(後略)	△縄文晩期～弥生前期新段階。
573	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	1b	p14:(第1層は)標高29.3m、層厚0.2mで堆積しており、氾濫堆積物と考えられる砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなり、調査区の全域で水平に堆積していた。(中略)第1b層は砂礫を主体とするが、3・5区を中心に細砂～極細砂となる。	
574	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	3b	p14:(第3層は)標高28.4～28.7m、層厚0.3～0.4mで堆積し、流路・氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層で、2～3層に細分される。調査区の全域で水平に堆積している状況が確認された。第3a層は全体に灰色を帯びており、砂礫を多く含む。黒色土器・瓦器・土師器など、平安時代中期～中世前半にかけての遺物が出土した。第3b層は灰白色砂礫で、6区で検出された流路を中心に堆積しておりフミナが顕著である。この流路からは古墳時代後期～奈良時代を中心とした遺物が出土した。	○古墳後期～奈良。
575	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	6-1-1b、 6-1-2b	p15:(第6層は)標高27.6～28.6m、層厚0.3～0.5mで堆積しており、氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなる。(中略)第6-1-1・2層は砂礫を主体としており、その上部に形成された第6-1-1・2a層は黒～オリーブ黒色砂礫混シルトで、調査区全域で北西に緩やかに傾斜をもって堆積する。第6-1-1・2b層は灰色砂礫である。第6-1-1a層からは古墳時代後期の土器、第6-1-2b層からは6区で初期須恵器の鈴付土器が出土した。	○古墳中期(初期須恵器)。△古墳後期。
576	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	6-2-1b、 6-2-2b	p15:(第6層は)標高27.6～28.6m、層厚0.3～0.5mで堆積しており、氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなる。(中略)第6-2-1・2層は砂礫を主体としており、その上部に形成された第6-2-1・2a層は黒色砂礫混シルトで、調査区全域で北西に緩やかに傾斜をもって堆積する。第6-2-1・2b層は砂礫でフミナが顕著である。第6-2-1a層からは第6-2-2b層にかけて遺物は出土していないが、層位的な関係から古墳時代前期初頭以前の堆積と考える。	★古墳前期初頭以前。△古墳中期(初期須恵器)。
577	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	7-1b、 7-2b	p15:(第7層は)標高27.6～28.5m、層厚0.3mで堆積しており、流路及び氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層である。土壌化層は4・6区でのみ確認しており、他の調査区では認められなかった。2層に細分することができ、第7-1-2a層は青灰色砂礫混シルトを主体とする。第7-1-2b層は灰色砂礫で、第8-1a面で検出された流との堆積物と考えられる。第7-1a層からは弥生土器片が出土した。	△弥生(第7-1a層)。
578	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	8	p15:(第8層は)標高27.1～27.9m、層厚0.3～0.4mで堆積しており、流路及び氾濫堆積物である細砂～砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなる。(後略)	△弥生(第7-1a層)。
579	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	9	p16:(第9層は)標高27.0～27.7m、層厚0.3～0.4mで第8-3-1・2a層と同じく全体的には北西に向けて低く傾斜して堆積しており、氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層からなる。(後略)	△弥生(第7-1a層)。
580	私部南遺跡06-1	大阪府	3区～6区 基本層序	10	p16:(第10層は)標高27.4～27.5m、層厚1.3mで、3・4区で確認された氾濫堆積物である砂礫層とその上部に形成された土壌化層である。(後略)	△弥生(第7-1a層)。

581	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	8b	p30:(第8層は)砂質の黒色シルトを主とする土壌化層とやや粗い砂の多い基盤層からなり、T.P.+3.8~4.5mにおいて確認した。場所により1.0m近くの土砂(第8層)が堆積するような洪水が縄文時代後期後半に発生し、終息した後の縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて土壌化(第8a層)したものである。	★縄文後期後半。
582	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	6-2b	p25(表7):(第6-2層は弥生時代後期に相当。)p138:第7面において水田域の広がる低地部では、第6-2層の基盤層である第6-2b層が一樣に検出され、地形的に低い場所ほど厚く堆積する傾向が認められる。特に低地部では堆積物の粒径が中礫程度に達する場合もあり、激しい流速を伴う氾濫が発生したことを物語っている。	★弥生後期。
583	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	3-2b	p25(表7):(第3層は古代に相当。)p33:(第3層は)灰白色の中粗砂を主体とする自然堆積層とその土壌化層であり、T.P.+6.4m前後において検出した。p519:(第3遺構面について)本遺構面を形成する第3層は、場所によって異なる段階の基盤層となる氾濫堆積物を検出し、これらを間層として最大3つの細分が可能な土壌化層によって構成される。(中略)第3-2b層と第3-1b層については、調査区内の局所に検出されたのみであり、上記の層のような氾濫堆積物の供給源も確認できなかった。各段階においては、本調査区内は安定した環境にあったことがわかっており、調査区外で発生した氾濫の影響を受けたものと推測する。p556:下面の第3面では、古墳時代後期頃に発生した氾濫を契機として形成された本調査区における古代の様相が明らかとなった。(p622:第3面以上は中世以降に相当。)	★古墳後期。
584	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	3-1b	同上。	★古代。
585	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	2b	p25(表7):(第2層は中世に相当。)p556:下面の第3面では、古墳時代後期頃に発生した氾濫を契機として形成された本調査区における古代の様相が明らかとなった。(中略)(第2層について)同層は、土壌化の弱い表土層と、その下部にて部分的に検出する氾濫堆積物によって構成される。(中略)第2b層は低位な地形にのみ流入したものと考えられ、その標高はT.P.+6.15~6.25mを測る。	★中世。
586	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	02-1調査区基本層序	1	p25(表7):(第1層は近世に相当。)p34:(第1層は)T.P.+6.5m以上において検出し、灰オリーブ色の中細砂混シルトを主体とする耕作土層である。下層と同様、平坦面では自然堆積層がほとんど残存しないものの、調査区西側の島島内部では部分的に耕作土と異なる砂層を検知できることから、当地に土砂が流入したことは間違いないと思われる。p573:(第1層について)同層は、4つに分層が可能な耕土層と、部分的に残存するわずかな氾濫堆積物によって構成される。	★近世。
587	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	01-3調査区	7	p36:(第7層は)弥生時代前期末頃と推測する洪水砂層である。下刻作用が殆どみられないことから、氾濫の縁辺部の堆積と考えられる。	★弥生前期末。
588	久宝寺遺跡竜華地区	大阪府	01-3調査区	4	p36:(第4層は)弥生後期以降に堆積した洪水砂層である。最初に流入した洪水砂を第4-4層とし、止水性堆積に至るまでを第4-3層、第4-2層、第4-1層と区分した。(第3層は)古墳時代の土壌化層である。	★弥生後期以降。△古墳。
589	池島福万寺遺跡I期地区(総括)	大阪府	池島I期地区基本層序	2b	pp20-21:第2層は、近世を中心とする耕作土層であるが、近年では下部の一部は中世にかかる可能性が高いと考えられる。基本的に第2-1a層・2-2a層・2-3a層・2-4a層の4層に分別される場合が多い。(後略)p21:人為的攪拌層であるa層の連続する第2層各層最下部には、三十・三十一・三十三・三十四ノ坪を中心に小規模な氾濫堆積物である2b層が見られる部分がある。第2b層は、粗粒の氾濫堆積物層で中砂~小礫を主体とする。	★中世~近世。
590	池島福万寺遺跡I期地区(総括)	大阪府	池島I期地区基本層序	3b	p21:第3層は、中世後期の耕作土を中心とした層である。基本的に第3-1層・3-2層・3-3層に分割される。しかし、実際の調査にあたって、各調査区により第3-1-1層・3-1-2層・3-1-3層・3-2-1層・3-2-2層・3-3層と5層に細分されている場合もある。各層は活発な氾濫堆積物の供給を受けて各a層間に細粒堆積物が多く、いずれの層も攪拌度も弱いことから、比較的短期間に罹災を繰り返していた可能性が高い。(中略)こうしたb層は、池島I期地区全域でみられるが、地区南西部に供給が多く、この部分では島島が非常に発達する。なかでも、第3-3b層は調査区全域に比較的厚く供給されている。なお、97-3調査区の第3-2-1面を覆う氾濫堆積物中から「文明十三年(1481年)」の墨書のある卒塔婆が出土しており、第3層のある段階について、15世紀後葉以降に時期を定めることができる。	★中世。▼古代~中世前期(第4層~第9層)。

591	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	5b	p21:第4層～第9層は、中世前期から古代にかけての耕作土を中心とした層である。細粒の粘土～シルトが土壌化した層で、層間に氾濫堆積物などのb層をほとんど挟まない。ただし、池島Ⅰ期地区北西部の三十一・三十二ノ坪では、第5～6層段階に水路からの氾濫堆積による粗粒堆積物が見られ、この箇所の島島の初現とも絡んで注目される。p22:第5層は、細砂～粗砂の混じる粘土～シルトの耕作土層である。上層による攪拌のため基本的には遺存状況が悪い。調査区北部の三十・三十一ノ坪では、5層中の氾濫堆積物が見られ、部分的に第5層が第5-1層・5-2層に細分される。	★古代～中世前期。	
592	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	6b	p21:第4層～第9層は、中世前期から古代にかけての耕作土を中心とした層である。細粒の粘土～シルトが土壌化した層で、層間に氾濫堆積物などのb層をほとんど挟まない。ただし、池島Ⅰ期地区北西部の三十一・三十二ノ坪では、第5～6層段階に水路からの氾濫堆積による粗粒堆積物が見られ、この箇所の島島の初現とも絡んで注目される。p22:第6層は、中砂～極粗砂の混じる粘土～シルトの耕作土層である。上層による攪拌のため、遺存状況の悪い層である。基本的には、第5層同様に部分的な氾濫堆積物が層中に見られ、三十・三十一ノ坪では第6-1層・6-2層に細分される。	★古代～中世前期。	
593	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	10-1b	p22:第10層は、古墳時代の土壌化層である。基本的に第10-1層・10-2層に細分されるものと考えられる。(中略)第10-1b層・10-2b層は、小規模な氾濫による堆積と考えられる細粒氾濫堆積物で、細砂を中心に粗砂中砂～粗砂の混じる堆積物である。p23:ただし、第10-1層・10-2層間及び第10-2層下部には複数の細粒氾濫堆積物が見られ、これが池島Ⅰ期地区内の第10層の層位的連続性の認識を困難にしている。(後略)	★古墳。	
594	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	10-2b	同上。	★古墳。	
595	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	11b	p23:第11層は、弥生時後期の耕作土及びその下部の自然堆積層である。(中略)第11b層は、上部が粘土～シルト、中断が砂礫層、下部が粘土～シルトによって構成されている場合が多い。この氾濫堆積物は非常に多く、第11面以降長く残る微高地はこの中段の氾濫堆積物が厚く堆積したものである。(後略)	★弥生後期。	
596	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	13b	p24:第13層は、弥生時代前期末～中期初頭の耕作土を中心とする層である。(中略)第13b層は細砂～小礫の堆積物で構成された層である。このb層最上部では、地震による液状化の現象による地割れが多数検出され、南海大地震の可能性が指摘されている。また、この層の上面から13b層最下部にかけては地震による変形構造が見られる場合もある。	★弥生前期末～中期初頭。	
597	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	14-2b	p24:第14層は、弥生前期～縄文時代晩期の層である。第14-1層・14-2層に分けられる。(中略)第14-2b層は、上部に細砂～粗砂の多く混じる粘土～シルト、中には中砂～小礫、下部には粘土～シルトの氾濫堆積物が主体を占める自然堆積層である。中段階の粗粒な氾濫堆積物によって大きく地形が変形し、第14面の景観を決定している。	★縄文晩期～弥生前期。	
598	池島福万寺遺跡Ⅰ期地区(総括)	大阪府	池島Ⅰ期地区基本層序	15b	p24:第15層は、縄文時代後期の層である。(中略)第15b層は、上部が中砂～粗砂の粗粒堆積物で、下部が粘土～シルトの細粒堆積物である。大量のアシの茎が横位に含まれるシルト～粘土層で、縄文時代中期末の土器片が出土している。	★縄文後期。○縄文中期末。	
599	讀良郡条里遺跡03-2・05-1区	大阪府	基本層序	5b	p10:(5b層は)5a層の母材となる自然堆積層である。(中略)縄文時代晩期頃の層準と考えられる。p48:(第4-2面について)この面の地形は、大きく東から西へ傾斜する地形に、南東から北西方向へ延びる微高地が入り込む様子が読み取れる。(中略)この微高地を形成している堆積層は、縄文時代晩期と考えられる氾濫堆積層であり、2つの等高線のピークをつないだ先に、この氾濫堆積物を吐き出した流路の存在が想定できる。	★縄文晩期。	
600	讀良郡条里遺跡03-2・05-1区	大阪府	基本層序	7b	p10:(8a層について)上面を、1区において、部分的に調査を行った。7a層との間に、氾濫堆積物が認められる。7a層と同じく、周辺の調査結果から縄文時代後期に相当すると思われる。	★縄文後期。	
601	山賀遺跡03-1・05-1区	大阪府	03-1-1区	2	p11:(第2層は)砂層。第3面14溝を境に、東へ粗粒化シラミナが発達する。西側では植物遺体やマンガンを含む層が堆積する。p21:(03-1-1区第3面は)第2層の洪水砂層を除去した、自然堆積シルト層の上面である。p654:(第3面は)弥生時代後期～古墳時代後期相当。)第3面は、第2層の洪水砂層の下面にあたる自然堆積シルト層上面である。(中略)(第2面は)古墳時代後期に相当。)	▼弥生後期～古墳後期。△古墳後期。	

602	新上小阪遺跡	大阪府	基本層序	6	p14:6層は細砂～細礫を主体とする洪水堆積層である。(中略)調査地西半は第7面が高く、その結果、6層は西半が層厚0.6m前後、東半が1.0m前後と東側が高い。洪水砂は途中で粗礫を含むレンズ状の堆積や、ラミナの不整合がみられ、3回ほどの堆積の単位が確認できる。どれほどの時間的経過を示すかは不明であるが、一連の洪水堆積層と考えられる。層内からの遺物の出土は少なく、ローリングを受けた縄紋時代後期～弥生時代中期の遺物が出土しているが、いずれの遺物も時期を直接示すものではない。p159:第6面は非常に安定した面であり、検出した遺構は弥生時代中期末～古墳時代後期と長期間に及ぶ。p169:(第7面には)弥生時代中期後半の時期を与えたい。p292:(前略)第7面が弥生時代中期後半と考えられること、第6面の古相の遺構が弥生時代中期末～後期初頭と考えられることから6層の洪水堆積層は弥生時代中期後半の時期をあてはめることができる。その後、大量の土砂供給が一段落し、安定した微高地を形成していたものと考えられる。	★弥生中期後半。▼弥生中期後半。△弥生中期末～後期初頭。
603	新上小阪遺跡	大阪府	基本層序	7-2b	p14:7a層は弥生時代中期の水田作土層である。この7a層の母材となるのは調査地西半では洪水堆積層(7-2b層)であり、東半では第8面が西半に比して高かったため、洪水堆積層はみられず、緑灰～暗緑灰色の粘性のあるシルト層である(7-1b層)。p183:(第9面の水田は)弥生時代中期前葉(河内Ⅱ様式)と考えられる。	▼弥生中期前葉(河内Ⅱ様式)。△弥生中期。
604	新上小阪遺跡	大阪府	基本層序	9b	p15:(9層は)母材となる洪水堆積層9b層の土壌化層である。(中略)9b層は調査区全体にみられ、1調査区東半では層厚約0.6m、西半では0.3m、2調査区では0.8～1.0mを測り、調査地東側が厚い。9b層はラミナの状況から3回ほどの堆積の単位をみる事ができる。どれほどの時間的経過を示すかは不明であるが、一連の洪水堆積層と考えられる。p188:(第10面・10層の土器には)弥生時代中期前葉(河内Ⅱ様式)の時期が与えられる。	▼弥生中期前葉(河内Ⅱ様式)。△弥生中期前葉(河内Ⅱ様式)(第9面の水田)。
605	八尾南遺跡	大阪府	基本層序	3	(第1分冊)p24・33:(3層は)弥生時代後期に相次いで形成された流路を埋積する洪水流によってもたらされた堆積物で、2層を除去して検出される本層の上面を第2面として認識した。粘土質シルトから中砂といった比較的細粒の堆積物を主体とし、最下部には第3面を覆う灰オリーブもしくは明オリーブ色のシルトからシルト質極細砂層が堆積している。(後略)p63:(第2面について)それぞれの遺構は、出土遺物の年代から、①古代、②古墳時代中期から後期、③弥生時代末～古墳時代初頭に位置づけられることが明らかとなった。p174:(第3面について)本面に伴う土器は、すべて弥生時代後期中葉に位置づけられる。	★弥生後期。▼弥生後期中葉。△弥生末～古墳初頭。
606	讃良郡条里遺跡03-1区	大阪府	基本層序	3b	p13:2区・3区における第3a層は、黄灰色粗砂～細礫質極細砂～シルトで、母材となる氾濫堆積物(粗砂～細礫/細砂～中砂、第3b層)とセットで依存する部分もあった。(後略)p17(表1):(第3a層は03-2区の第3-2a層に相当?)p41:第3b層は奈良時代後半～平安時代初め頃に堆積した氾濫堆積物であると考えられる。	★奈良後半～平安初め。
607	讃良郡条里遺跡03-1区	大阪府	基本層序	4-3b, 4-4a, 4-4b	p18:第4-3層の下には、流路充填堆積物および氾濫堆積物が堆積していた。この層準は、流路充填堆積物の切り合い関係から、大きく2つの堆積ユニットに細分される。(中略)(下位の)第4-4a層の時期は縄文時代晩期前半に年代の1点を有すると考えられる。	★縄文晩期前半。
608	讃良郡条里遺跡03-1区	大阪府	基本層序	6b	p19:(第6b層は)流路充填堆積物の部分と氾濫堆積物の部分からなる。	▼縄文早期後半～前期末。△縄文晩期前半。
609	讃良郡条里遺跡03-1区	大阪府	基本層序	7-1～7-4	p19:(第6b層は)流路充填堆積物の部分と氾濫堆積物の部分からなる。また、その下位では、流路充填堆積物ないし上方粗粒化した氾濫堆積物と、それを母材とする古土壌(暗色帯)のセットが4つ確認された。それらを第7-1層～第7-4層とし、それぞれa層・b層に細別した。(後略)p20:第7-4a層～第7-1a層の時期は縄文時代早期後半～前期末と考えられる。	▼縄文草創期～早期初め(第9層)。△縄文早期後半～前期末。
610	讃良郡条里遺跡03-1区	大阪府	基本層序	9	p20:(第9層について)第8層の下には、腐植を多く含んだ古土壌(暗色帯)とその母材となる氾濫堆積物のセットが、多くの地点において4つ確認された。これらについては第9-1層～第9-4層と呼称し、それぞれa層・b層に細分した。(後略)p21:第9層の時期は縄文時代草創期～早期初め頃と考えられる。	★縄文草創期～早期初め。
611	茄子作遺跡	大阪府	第1調査区1-4区低地部基本層序	2	p24:第2層は、灰色砂まじりシルトまたは、シルトまじり細砂を主体とする。基本的に耕作土であるが、粗砂や細砂の流入があることから、頻りに洪水等に見まわられていた状況が推測される。この層からは、17世紀までの遺物が出土した。	○17世紀。
612	茄子作遺跡	大阪府	第1調査区1-5区低地部基本層序	3	p26:第3層は、灰色砂まじりシルトと黄灰色砂から成る。黄灰色砂には、ラミナが認められることから、洪水砂の流入があったことをうかがわせる。層厚は、0.2～0.3mを測る。この層からは、14世紀までの遺物が出土した。	▼13世紀。○14世紀。△17世紀。

613	茄子作遺跡	大阪府	第1調査区:井戸2	埋土	pp63-64:井戸2は、調査区東半部中央において検出した井戸である。(中略)掘り方の埋土は、粘土ブロックを含む黒色～灰色シルト、またはシルト質細砂を主体とする。井桁内部には、黒色粘土ブロックを含む褐色粗砂や、灰白色シルトまじり細砂があり、少量ではあるが、植物遺体の残存が認められた。また、両者とも上層には、灰白色～灰色を呈する洪水砂が厚く堆積していた。この洪水砂には、削平されたと見られる木組みの破片が含まれていた。井桁の内部からは、須恵器壺片(5世紀)、土師器杯片(7世紀)が出土した。	▼7世紀。	
614	茄子作遺跡	大阪府	第1調査区:溝9	埋土	p74:溝9は、1-3区・1-4区・1-6区の北東部において検出した遺構である。(中略)埋土には斜め方向に大きくうねるラミナが形成されていることから、激しい水流によって埋没したことがわかる。(中略)埋土から、弥生土器、須恵器、土師器(庄内～布留式・11～14世紀)、黒色土器(11世紀)、瓦器(12～13世紀)、陶器(14世紀)、瓦質土器が出土した。	▼14世紀。	
615	津田遺跡	大阪府	1区	4	p9:第4層は土石流により堆積する粗砂。この粗砂は、1区で検出された13世紀の堤防遺構を覆っている。(後略)	▼13世紀。	
616	讃良郡条里遺跡03-6区	大阪府	基本層序	13	p10:(第12層は)弥生時代後期から古墳時代にかけて堆積したものと想定される。(中略)(第13層は)灰白色ないしは灰オリーブ色の細砂から粗砂で構成される自然堆積層。洪水によりもたらされたと考えられ、2区の西側半分では、下層の第14・15層を侵食している。西側での堆積は厚く、2区では80cmの厚みがある。上部はやや黒色化しており、古土壌となっているが、顕著な遺構は確認できなかった。層中には厚さ約5cmのシルト層をはさむ。そのシルト層上面では人の足跡がいくつも検出された。洪水の合間に人が移動していたのだろう。(中略)(第14層からは)弥生時代後期の土器が数片出土している。	▼弥生後期。 △弥生後期～古墳。	
617	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		2	p12:(第2層は)中粒砂～極粗粒砂を多く含む礫・粘土質砂の作土層と、洪水堆積物の砂質礫層である。第2層は池島Ⅰ期地区では調査区によって把握される土壌化層の枚数が異なるが、概ね5層に細分している。(中略)本調査区の位置する二十二坪は、西側の二十七坪や北側の二十一坪(池島Ⅰ期地区)に比べ、地形的に高い場所であるため、洪水堆積物の分布が顕著ではない。	△1802年(第1b層)。	
618	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		3	p13:(第3層は)極粗粒砂を主体とするシルト質砂の作土層と、シルト・砂質礫の洪水堆積層からなる。(中略)本調査区においても、3面分の遺構面を確認したが、水田部分は攪拌されていたため、全面的に調査したのは第3-1面、第3-2面の2面である。	△1802年(第1b層)。	
619	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		10-2b	p19:(第10-2b層は)シルト質砂層の洪水堆積物と、第11層の流路内に堆積した粘土・砂質礫の流路内埋土からなる。(第11層は)弥生時代後期の土壌化層と自然堆積層である。	▼弥生後期。	
620	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		11b	p19:(第11b層は)シルト質砂。弥生時代中期後半～後期にかけての洪水堆積物である。(中略)当調査区では、氾濫堆積物の停止面は明瞭ではないが、下層と中層・上層では層中の礫の比率が異なるため、池島Ⅰ期地区と同様に停止面が存在する。	★弥生中期後半～後期。	
621	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		13b	p20:(第13層は)弥生時代前期から弥生時代中期後半に比定される。(中略)(第13b層は)わずかに礫質粘土質砂の氾濫堆積層と、極粗粒砂～粗粒砂を主体とする粘土質礫層の流路堆積物からなる。	★弥生前期～中期後半。	
622	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		14-1	p20:第14層は、2枚の土壌化層と、洪水堆積層で構成される。(第14-1層は)弥生時代前期に比定される、極細粒砂からシルトを主体とする砂質泥層である。上部が土壌化していることから、一時的に砂の供給がおさまリ、安定した状態にあったと考えられる。	★弥生前期。	
623	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区05-2調査区	大阪府		14-2b	p20:第14層は、2枚の土壌化層と、洪水堆積層で構成される。(中略)(第14-2b層は)氾濫堆積物によって構成されたシルト・砂質礫層である。層厚は1.2mを測り、大きく3層に分けられる。下層は植物遺体を多く含むシルト質礫層。中層はシルト・砂質礫層で、細砂の薄層を挟ませる層理面が部分的に確認できる。上層は砂質礫層で、上方に向かって細粒化する。	★弥生前期。	
624	讃良郡条里遺跡03-4調査区	大阪府		8b-2～8b-10	p14-16:(第8b-2～8b-10層(縄文時代後期～晩期)について)(前略)各層は、色調のほかに層厚も類似しており、一定期間の乾湿を繰り返しながら緩やかな堆積サイクルが進行していたことが窺われ、比較的安定した沼沢地としての環境が想定できるが、上流の氾濫によるものか、しばしば粗粒の堆積物が供給されている。(後略)	★縄文後期～晩期。	
625	讃良郡条里遺跡03-4調査区	大阪府		8b-1	pp16-17:第8b-1層については、出土遺物から弥生時代前期末の氾濫堆積物と考えられ、極粗砂～細砂が主体である。調査地西側の1・2・4区にて部分的に厚い供給が見られ、南東から北西方向まで幅を狭めながら伸びる微高地を形成する。(後略)	★弥生前期末。	

626	讃良郡条里遺跡03-4調査区	大阪府		7b	p17: (第7b層(弥生時代後期～古墳時代初頭)について)砂礫と粘土が互層を成す氾濫堆積物である。微高地1の東西で供給状態が大きく異なり、層序・層相も大きく異なる。中でも砂礫の供給は局所的で、調査地内に部分的な起伏を形成する。相対的高位となって乾燥した砂礫上には、古墳時代以降の集落や畠地などが立地する。	★弥生後期～古墳初頭。 △古墳。
627	讃良郡条里遺跡03-4調査区	大阪府		4b	p18: (第4b層(室町時代?)について)三十ノ坪, 三十一ノ坪に局所的に供給された氾濫堆積物で、調査地内に部分的な起伏を形成する。部分的に2層以上に分層でき、下層の第5a面直上には粘土～シルトの細粒の堆積物が見られる。細粒の堆積物には層序の逆転が確認され、氾濫当初の溢流堆積と考えられよう。その直上に砂礫が乗るが、これは破堤堆積と理解できる。氾濫後の耕地面の復旧の際には寄せ集めた同層上面が島島として利用され、第3a面の開発まで踏襲される。	★室町。
628	讃良郡条里遺跡03-4調査区	大阪府		2b	p18: (第2b層(近世)について)第3a層上面を被覆する粘土～シルト層と、その上の砂礫層からなる氾濫堆積物。広い範囲に供給されているが、1区の南西側だけは確認されず、第1a層と第2a層が連続した古土壌として確認される。6区の北東端付近では第2b層による浸食が見られ、3・6区では特に厚い堆積が見られることから、調査地北東側付近で讃良川が破堤したことを物語る。	★近世。
629	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	6	p24: 三宅西6層(第6層)は、黄褐色砂混じりシルト～砂からなる作土層および氾濫原堆積層である。層厚は35cm以下で、分布はMY(2)区では連続するが、MY(3)区では断続的である。飛鳥時代から平安時代の遺物を含む。p27: (三宅西5層(第5層)の年代は中世。三宅西6層(第6層)の年代は飛鳥時代～平安時代。三宅西7a層(第7a層)の年代は古墳時代～飛鳥時代。)	★飛鳥～平安。 ▼古墳～飛鳥。△中世。
630	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	7b	p24: 三宅西7層(第7層)は、後背湿地層、古土壌および河川氾濫堆積層からなる。遺跡のほぼ全域に分布し、MY(2)区では三宅西7a層～7e層に細分され、MY(3)区では1層に修練する。(中略)三宅西7b層(第7b層)は、灰黄色シルト質砂～砂・礫からなる河道内堆積層および河道からの氾濫堆積層である。層厚は30cm以下で、河道部では70cm以上ある。主として遺跡中央部に分布する。p27: (三宅西7a層(第7a層)の年代は古墳時代～飛鳥時代。三宅西7b層(第7b層)の年代は古墳時代。三宅西7c層(第7c層)の年代は弥生時代後期末～庄内式期。)	★古墳。▼弥生後期末～庄内。△古墳～飛鳥。
631	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	7d	p24: 三宅西7層(第7層)は、後背湿地層、古土壌および河川氾濫堆積層からなる。遺跡のほぼ全域に分布し、MY(2)区では三宅西7a層～7e層に細分され、MY(3)区では1層に修練する。(中略)三宅西7c層(第7c層)についてMY(3)7区では上面で庄内式期の掘立柱建物や井戸・溝などを検出している。三宅西7d層(第7d層)は、褐灰色ないし黄灰色粘土質シルト～砂・礫からなる河道および河道からの氾濫堆積層である。層厚は概ね30cm以下であるが、河道部では約200cmある。主としてMY(2)区に分布し、MY(3)5・6区以西では上位層と収斂する。なお、MY(3)8区の河道からは、畿内第V様式の土器が多数出土している。p27: (三宅西7c層(第7c層)の年代は弥生時代後期末～庄内式期。三宅西7d層(第7d層)の年代は弥生時代中期末～後期。三宅西7e層(第7e層)の年代は弥生時代前期～中期。)	★弥生中期末～後期。▼弥生前期～中期。△弥生後期末～庄内。
632	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	8	p24: (三宅西7e層(第7e層)について)MY(2)10・11・19区では、弥生時代前期～中期の竪穴住居や掘立柱建物が多数検出されている。三宅西8層(第8層)は、上部は黄灰色ないし灰黄褐色砂・礫からなり、下部が黄灰色ないし褐色粘土質シルト～砂質シルトからなる河川の氾濫堆積層である。層厚はMY(3)区で100cm以下、MY(2)区では10～50cmで、遺跡の全域に分布する。MY(3)・15～17区の河道より、縄文土器(滋賀里I～III)が出土している。p27: (三宅西7e層(第7e層)の年代は弥生時代前期～中期。三宅西8層(第8層)の年代は縄文時代晩期。三宅西9a層(第9a層)の年代は縄文時代後期。)	★縄文晩期。 ▼縄文後期。 △弥生前期～中期。
633	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	9b	p24: 三宅西9層(第9層)は、古土壌および河川氾濫堆積層からなる。遺跡の全域に分布する。(中略)三宅西9b層(第9b層)は、上部が黄褐色ないし黄灰色砂・礫からなり、下部がオリーブ灰色ないし灰色粘土質シルトからなる河川の氾濫堆積層である。層厚は60cm以下である。p27: (三宅西9a層(第9a層)の年代は縄文時代後期。三宅西10層(第10層)の年代は縄文時代中期。)	▼縄文中期。 △縄文後期。
634	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	10	p24・26: 三宅西10層(第10層)は、灰色砂・礫～黄灰色粘土質シルトからなる河道内堆積層および河道からの氾濫堆積層である。遺跡の全域に分布し、層厚は10～50cm、河道部では約260cmである。MY(3)5・6区では河道から縄文土器(船元Ⅲ?)が見つかっている。p27: (三宅西9a層(第9a層)の年代は縄文時代後期。三宅西10層(第10層)の年代は縄文時代中期。三宅西11c層(第11c層)の年代は縄文時代早期(後半)～前期。)	★縄文中期。 ▼縄文早期後半～前期。 △縄文後期。

635	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	11b	p26:三宅西11層(第11層)は、暗色帯構成層および河成層で、遺跡の全域に分布する。MY(3)区では収斂しているが、MY(3)区東端部からMY(2)区にかけては三宅西11a層～三宅西11d層に区分される。(中略)三宅西11b層(第11b層)は、上部は褐灰色ないし黄褐色砂・礫からなり、下部は灰黄色ないし暗オリーブ色シルトからなる河川の氾濫堆積層である。層厚はMY(2)区で約50cm以下、MY(3)区では約15cm以上である。(中略)(三宅西11c層(第11c層)について)MY(2)11ES区では、中位に暗灰褐色の横大路火山灰層(鬼界アカホヤ火山灰:K-Ah)が挟まれる。p27:(三宅西10層(第10層)の年代は縄文時代中期。三宅西11c層(第11c層)の年代は縄文時代早期(後半)～前期。)	▼縄文早期後半～前期。 △縄文中期。
636	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	11d	p26:三宅西11層(第11層)は、暗色帯構成層および河成層で、遺跡の全域に分布する。MY(3)区では収斂しているが、MY(3)区東端部からMY(2)区にかけては三宅西11a層～三宅西11d層に区分される。(中略)(三宅西11c層(第11c層)について)MY(2)11ES区では、中位に暗灰褐色の横大路火山灰層(鬼界アカホヤ火山灰:K-Ah)が挟まれる。三宅西11d層(第11d層)は、上部がオリーブ灰色シルト～砂、下部がオリーブ灰色粘土質シルトからなる河川の氾濫堆積層である。p27:(三宅西11c層(第11c層)の年代は縄文時代早期(後半)～前期。三宅西12層(第12層)の年代は後期旧石器時代後半～縄文時代草創期。)	▼後期旧石器後半～縄文草創期。 △縄文早期後半～前期。
637	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	12b	p26:三宅西12層(第12層)は、沼沢湿地性堆積層、古土壌および河川の氾濫堆積層で、MY(3)2区において三宅西12a層および三宅西12b層に細分される。層厚は50cm以下である。三宅西12a層(第12a層)は、褐灰色ないし黄灰色シルトからなる沼沢湿地性堆積層および古土壌で、三宅西12b層(第12b層)は、灰黄褐色粘土質シルト～シルトからなる河川の氾濫堆積層である。p27:(三宅西11c層(第11c層)の年代は縄文時代早期(後半)～前期。三宅西12層(第12層)の年代は後期旧石器時代後半～縄文時代草創期。三宅西13層(第13層)の年代は後期旧石器時代。)	★後期旧石器～縄文草創期。 ▼後期旧石器。 △縄文早期後半～前期。
638	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	14	p26:三宅西14層(第14層)は、下半部が緑灰色砂礫からなる河川の氾濫堆積層で、上方細粒化して緑灰色粘土質シルトへ移行する。層厚は160cm以上で、広域に分布する。p27:(三宅西14層(第14層)の年代は中期旧石器時代。)	★中期旧石器。
639	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	15	p26:三宅西15層(第15層)は、上半部が暗緑灰色シルト薄層と砂薄層からなる河成層で、層厚は約80cmである。下半部は暗青灰色砂混じりシルトからなり硬質である。p27:(三宅西15層(第15層)の年代は中期旧石器時代。)	★中期旧石器。
640	三宅西遺跡	大阪府	基本層序	16	p26:三宅西16層(第16層)は、緑灰色砂質シルトからなる河成層で、層厚は約80cm以上である。p27:(三宅西16層(第16層)の年代は中期旧石器時代。)	★中期旧石器。
641	大和川今池遺跡07-1区	大阪府	基本層序	4	p14・16:(第4層について)5Y6/1～6/3灰～オリーブ黄色、シルト、微小なMn粒・管状Fe若干あり。(中略)後発のコンポリュートラミナで乱れるが、級化構造があり、止水堆積層である。花粉密度が低く、珪藻化石が検出されない事から、洪水で短期間に堆積したものと考えられる。層厚は残りの良いところで最大10cm程度。第6面で検出される第5層を埋土とした木根痕の中心付近に落ち込んでいる例が多いので、第5層を形成した森林状態を廃絶させるような洪水で堆積した可能性が高い。p16:(前略)出土遺物からは古墳時代後期頃までに堆積したとしか言えない。	★古墳後期以前?
642	山賀遺跡08-1・2区	大阪府	08-1-1・2区基本層序	6	p12:(第6層は)灰色から暗オリーブ灰色を呈する粘土から細礫の氾濫堆積物であり、第5層の基盤層となる。調査区の大半は層厚が20cm前後で粘土からシルトを主体とするが、08-1-3区の北半は層厚が50cm以上の礫層であり、第7層が削平されていることから、土砂流入の中心であった可能性が高い。第5層を除去した本層の上端では、遺構がまったく検出されなかったため、遺構面の設定を行っていない。僅かな出土遺物から、弥生時代中期～後期頃の堆積と推測する。	★弥生中期～後期。
643	山賀遺跡08-1・2区	大阪府	08-1-1・2区基本層序	8	p12:(第8層は)灰オリーブを呈する細砂から細礫の氾濫堆積物である。08-1-3区の中央から08-1-2区の西端をかすめ、08-1-1区の製版を北流する河川(流路)から溢流したものと考えられ、中心部の層厚は1.5mを超える。流路の出土遺物から、Ⅲ様式からⅣ様式頃の氾濫によるものとする。	★畿内Ⅲ～Ⅳ。

644	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		2-1b	pp12-13: 第2層は5層に細分した。近世の耕作土層である。第2-1層は暗青灰色細砂から礫混じり砂質シルトで、島島の部分も含めると層厚0.08-0.4mである。起源となる第2-1b層は島島の芯として残存していたが、三ノ坪東側では非常に粗く、西側で細かい。この傾向は第2層のそれぞれの層でも見られる。p13: 第2-2層は青灰色細砂から礫混じり砂質シルトで、島島の部分も含めると層厚0.16~0.3mである。起源となる第2-2b層は粗粒の堆積層で東部の島島で見られた。第2-3層は暗青灰色中砂から礫混じり砂質シルトで、層厚は0.16mである。起源となる第2-3b層は四ノ坪島島の芯として遺存しており、非常に粗い砂礫からなる。層厚は0.36m。第2-4層は三ノ坪東部の島島周辺にのみ遺存しており、オリーブ灰色細砂から極粗砂混じり砂質シルトで、層厚0.2mである。起源の第2-4b層は非常に粗い砂礫で、層厚0.25mである。第2-5層も三ノ坪東部の島島周辺にのみ遺存しており、灰色細砂から粗砂混じり砂質シルトで、層厚0.2mである。第3層は4層に細分した。中世後期の耕作土層である。この段階は土砂の供給が活発な時期にあたり、短期間に島島が増加、拡張し、それぞれの土壌の攪乱度は弱い。	★近世。△1802年。	
645	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		2-2b	同上。	★近世。△1802年。	
646	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		2-3b	同上。	★近世。△1802年。	
647	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		3-1b	p13: 第3層は4層に細分した。中世後期の耕作土層である。この段階は土砂の供給が活発な時期にあたり、短期間に島島が増加、拡張し、それぞれの土壌の攪乱度は弱い。第3-1層は青灰色砂質シルトで、層厚0.12mである。起源となる第3-1b層は三ノ坪東部0.16m、四ノ坪0.36mで見られた。シルトから細砂の水成堆積層で、最下部はシルトで上方粗粒化する。第3-2層は整理段階で存在しないと判断し、欠番とした。第3-3層はオリーブ黒色細砂から粗砂混じり砂質シルトで、層厚0.12mである。起源となる第3-3b層は島島の芯、肩に遺存しており、シルトから礫の水成堆積層で、最下部がシルトで上方粗粒化する。第3-4層は灰色細砂から中砂混じり砂質シルトで攪乱の度合いが特に弱い。層厚は0.15mである。起源となる第3-4b層は島島の芯、肩に遺存しており、灰白色シルトから極粗砂の水成堆積層で、最下部はシルトで上方粗粒化する。第3-5層は灰オリーブ色細砂から礫混じり砂質シルトで、層厚は0.16mである。起源となる第3-5b層は島島の芯に遺存しており、シルトから礫の水成堆積層で、上方粗粒化することにおいて他の第3層の水成堆積層とは異なっている。この層の堆積を契機として06-1-02-5調査区で島島の構築が始まる。第4層は2層に細分した。中世後期の耕作土層である。	★中世後期。	
648	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		3-3b	同上。	★中世後期。	
649	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		3-4b	同上。	★中世後期。	
650	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		3-5b	同上。	★中世後期。	
651	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		4-1b	p13: 第4層は2層に細分した。中世後期の耕作土層である。第4-1層は灰褐色細砂から礫混じり砂質シルトで、層厚は0.12mである。起源となる第4-1層は東西方向の坪境水路を埋積する水成堆積物として遺存している。下部はシルトで上部は中砂から礫の粗粒の堆積物である。厚さは0.3mである。第4-2層は暗褐色中砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.6mである。起源となる第4-2b層は坪境水路を埋積する粗粒の堆積物として遺存している。調査時では標準層序第5層は存在しないと考え、欠番としていたが、周辺調査区との比較のなかで第4-2層がこれに対応するようである。第6層は2層に細分した。中世の耕作土層である。	★中世後期。	
652	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		4-2b	同上。	★中世後期。	

653	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	6-2b	p13: 第6層は2層に細分した。中世の耕作土層である。第6-1層は暗褐色中砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.16mである。第6-2層は黒褐色中砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.12mである。起源となる第6-2b層は南北水路を埋積する堆積物として遺存している。第6-2層とは指交し、土砂が供給されながら第6-2層が形成されたと考えられる。シルトから礫の水生堆積層で、粗粒の堆積物は下部に見られる。第6-1・6-2層とも砂礫を多く含む層である。三ノ坪の東西南北の水路から堆積物が供給された結果、三ノ坪の標高が四ノ坪の標高に比して高くなる。この高低差は後にも踏襲されることになる。第7層は2層に細分した。中世前期の耕作土層である。	★中世。△中世後期。
654	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	7-2b	p13: 第7層は2層に細分した。中世前期の耕作土層である。第7-1層は黄灰色中砂から硬混じり砂質シルトでこれも砂礫を多く含み、層厚は0.16mである。第7-2層は四ノ坪西部にしか分布しない、オリブ黒色粗砂から礫混じり砂質シルトで、層厚0.16mである。起源となる第7-2b層は細砂から礫の水生堆積層である。第8層は中世前期の耕作土層である。暗青灰色細砂混じり砂質シルトで、層厚0.16mである。	★中世前期。△中世。
655	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	10b	p18: 第10層は層は古代から古墳時代の地層である。青灰色砂質シルトで、層厚0.12mである。起源の第10b層は調査区内を流れる弥生時代後期の流路から供給された厚い水生堆積層で、270流路内は非常に粗い堆積物からなり高まりを形成する。流路内では10mもの厚さで堆積している。他の部分では側方変化してシルトから細砂が堆積する。この層の堆積によりこれまでの地表面の高低差が解消に向かうこととなる。第11層は4層に細分した。弥生時代後期の耕作土層、古土壌で場所により特徴が異なる。	★古墳～古代。
656	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	11-1b	p18: 第11層は4層に細分した。弥生時代後期の耕作土層、古土壌で場所により特徴が異なる。(中略)(第11-1・2・3層について)それぞれの起源となる第11-1b・11-2b層は流路を埋積する堆積物として遺存し、流路中心・蛇行部外側は非常に粗粒の堆積物、蛇行部分内側は泥質で植物遺体に富むシルトからなる。第11-3層は流路西岸と調査区東側の一部のみ遺存していた。灰色細砂から中砂混じり砂質シルトで層厚は0.12mである。第11-3b層は破堤堆積物(クレバスプレー)と考えられ、淘汰の進まない黄褐色粗砂から礫の粗い堆積物からなり部分的にシルトの薄層も見られる。流路東岸に微高地を作り出す。第12層は2層に細分した。弥生時代中期後葉の耕作土・古土壌である。	★弥生後期。
657	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	11-2b	同上。	★弥生後期。
658	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	11-3b	同上。	★弥生後期。
659	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	12-2b	p18: 第12層は2層に細分した。弥生時代中期後葉の耕作土・古土壌である。暗色化した泥質の層である。第12-1層はいわゆる第2黒色泥層(2黒)に相当する・青灰色極細砂混じり粘土質シルトで、層厚は0.04mである。第12-2層は暗緑灰色極細砂混じり粘土質シルトで、層厚は0.08mである。古土壌であると考えられる。起源となる第12-2b層は調査区中央部にのみ分布し、植物遺体のラミナが見られる青灰色シルトで、層厚は0.16～0.24mである。第13層は2層に細分した。弥生時代前期後半から中期前葉の古土壌である。	★弥生中期。 ▼弥生前期後半～中期前葉。
660	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	13-2b	p18: 第13層は2層に細分した。弥生時代前期後半から中期前葉の古土壌である。第13-1層はいわゆる第3黒色泥層(3黒)に相当する。植物遺体に富む暗色化した緑黒色粘土質シルトで、多くの場所では上層に削平され存在せず、相対的に低い場所のみ遺存している。層厚は0.05mである。第13-2層は起源となる第13-2b層が弱く損乱を受けたもので標高の高い場所では砂質となる。緑灰色砂質シルトで、層厚は0.12mである。起源となる第13-2b層は調査区内を流れる流路から供給された厚い堆積物で、層厚は0.8～1.6mである。流路中は未分解の落葉・木片などを含む植物遺体を大量に含み細砂から礫の粗い堆積物により埋積され、最終的に高まりを作る。自然堤防や後背湿地は側方変化して植物遺体の薄層を含むシルトからなる。層中から土器が出土しており、人が活動できる期間をはさみながら堆積したようである。第14層は2層に細分した。縄文時代晩期から弥生時代前期前半の古土壌である。	★弥生前期後半～中期前葉。 ▼縄文晩期～弥生前期前半。
661	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府	14-2b	pp18-19: 第14層は2層に細分した。縄文時代晩期から弥生時代前期前半の古土壌である。第14-1層は当調査区の掘削深度であるT.P.0.9mにおいてその上面が一部露出する。p19:(前略)第14-2b層は暗オリブ灰色シルト質粘土である。第15層は縄文時代後期の古土壌である。	★縄文晩期～弥生前期前半。

662	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区06-1調査区	大阪府		15b	p19:第15層は縄文時代後期の古土壌である。いわゆる第5黒色泥層(5黒)に相当する。強く暗色化した黒色細砂混じり粘土質シルトで、層厚は0.14mである。起源となる第15b層は暗オリーブ灰色極細砂混じりシルトである。	★縄文後期。	
663	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1・06-2調査区	大阪府	06-2調査区の基本層序	1b	p10:【第1層】近・現代の作土層で、下部の第1b層を攪拌したオリーブ褐色2.5Y4/3の粗砂を含む砂質シルトのa層と、色調が部分により異なる橙色5YR6/8～黄褐色10YR7/8の極細砂～極粗砂からなるb層である。遺跡全域で確認されるが、部分により層厚は異なり、厚いところではb層が50cmを超える。	★近代～現代。	
664	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1・06-2調査区	大阪府	06-2調査区の基本層序	2-3b	p10:【第2層】色調は部分により相違しているが、極細砂～中砂を多く含む近世から中世末にかけての砂質系の土壌化層である。およそ4層に分層が可能で、第2-1層:黄灰色2.5Y4/1・第2-2層:灰色5Y5/1・第2-3層:灰色7.5Y5/1・第2-4層:灰オリーブ色7.5Y5/2の部分により極細砂から中砂を多く含む層であり、遺存状況は地域により異なっている。大きく第2-1・2-2層と第2-3・2-4層に分けることが可能である。また、非常に部分的ではあるが第2-3b層を検出した部分がある。また、第2-4b層は、わずかにしか見られない部分もあるが、下部に相性の強い粘土～シルト、上部に極細砂からなっている。	★中世末～近世。	
665	池島・福万寺遺跡Ⅱ期地区02-1・06-2調査区	大阪府	06-2調査区の基本層序	2-4b	同上。	★中世末～近世。	
666	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内3層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 p348:池内3層は中世(～近世)の作土層および河川の氾濫堆積層で、遺跡のほぼ全域に分布する。層厚は西部で約120cm、東部で約10cmで、西部のIK(2)区では3a～3d層に細分できる。(後略)	★中世～近世。	
667	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内7b層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 pp349-350:池内7層は主としてIK(2)区側に分布する後背湿地堆積層、古土壌および河川の氾濫堆積層、作土層からなる。IK(2)区での層厚は20～40cmで、池内7層および池内7a層～7c層に細分できる。IK(1)区では遺構内の埋土にのみ分布する。弥生時代前期中段階の土器を含む。p350:池内7a層～7c層は黒褐色のシルト～シルト質砂からなる暗色帯構成層で、にぶい黄褐色ないし暗褐色の砂質シルト～砂礫からなる河川の氾濫堆積層である池内7b層を挟む。	▼縄文後期(池内9c層)。 △弥生前期中段階。	
668	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内8層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 p350:池内8層は粘土質シルト～砂礫からなる氾濫原堆積層で、遺跡の全域に分布する。IK(1)区では約80cmと厚く堆積し西側に層厚が薄くなり、IK(2)区西端では上位の池内7層に収斂して区別できない。	▼縄文後期(池内9c層)。 △弥生前期中段階。	
669	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内9b層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 p350:池内9層は後背湿地の細粒堆積層、古土壌および河川の氾濫堆積層からなり、遺跡全域に分布する。層厚は東部で約60cm、西部で約40cmである。IK(1)区東部およびIK(2)区中央部で9a層～9c層に細分される。(中略)池内9b層は灰黄褐色ないし灰色シルト～砂からなる河川の氾濫堆積層である。池内9c層は灰黄褐色粘土質シルト～シルト質砂からなる古土壌および後背湿地の堆積層である。上面では乾痕が観察される。IK(1)6-1区で下限付近から縄文時代後期に多い基部に挟りのある凹基式石鏃が出土している。p351:(池内9c層は縄文時代後期に相当する。)	▼縄文後期。	
670	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内9c層	同上。	★縄文後期。 ○縄文後期。	
671	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内10層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 p350:池内10層は上部が灰褐色ないし緑灰色の砂・礫からなる河川の氾濫堆積層、下部が緑灰色シルト～粘土からなる湿地の堆積層である。遺跡の全域に分布し、層厚は東部で約80cm、西部で約70cmである。		

672	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内11a層	〔(財)大阪市文化財協会(趙哲済ほか)「大和川下流域における遺跡形成過程の総合調査(池内遺跡)」(第1分冊)pp345-386〕 p350:池内11層は、後背湿地の細粒堆積層、古土壌および河川の氾濫堆積層からなり、遺跡の全域に分布する。層厚は東部で約70cm、西部で約40cmである。IK(2)3区東部では上面で縄文土器(船元Ⅲ式?)やサヌカイト剥片が出土している。IK(2)区およびIK(1)区の西部では収蔵しているが、IK(1)区東部では池内11a層～11c層に細分できる。池内11a層は黒灰色粘土質シルトからなる暗色帯構成層である。池内11b層は灰色砂・礫、および緑灰色シルト～粘土からなる河川の氾濫堆積層である。池内11c層は黒褐色砂質シルトからなる古土壌および沼沢湿地の堆積層である。上面で乾痕が観察される。横大路火山灰層(鬼界アカホヤ火山灰:K-Ah)の降灰層準である。池内11d層は上部が褐灰色砂・礫からなる河川の氾濫堆積層、下部が灰色ないし緑灰色からなるシルト質砂～砂質シルトからなる湿地の堆積層である。下部層の上面に乾痕が観察された。p351:(池内11a層・11b層は縄文時代中期、池内11c層は縄文時代早期(後半)～中期、池内11d層は(縄文時代草創期～早期)に相当する。)	★縄文中期。	
673	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内11b層	同上。	★縄文中期。 ▼K-Ah。	
674	池内遺跡	大阪府	基本層序	池内11d層	同上。	★縄文草創期～早期? △K-Ah。	
675	橋本遺跡	大阪府		砂礫層	p8:今回の調査区での土層堆積状況は、大きく4層に分かれる。上から順に近世水田耕土・床土・中世水田耕土・床土・砂礫層・黄色粘土層となる。(中略)砂礫層は、その厚さを認めたトレンチにおいて砂礫層と一括したが、細礫から巨礫までその構成するものは変化に富んでいる。p14:(前略)土石流的堆積が、上面の土器が示す13世紀をあまり遡らない時期に起こったものと考えられよう。	★13世紀をあまり遡らない時期。	
676	上津島遺跡第5次	大阪府	基本層序	5	p12:(第5層は)調査区のほぼ中央部、南北約13mの範囲にのみ見られる厚さ約15cmの粗砂層である。典型的な洪水堆積層であり、この粗砂層の堆積によりわずかながらみ微高地が形成されている。この粗砂層による微高地の範囲と中世遺構の集中範囲とはほとんど重なり合うことから、第5層の堆積によって形成された微高地が、集落の選地に際し、大きな影響を与えたことが推察される。p80:(第5層上方の)中世集落の形成が遅くとも11世紀末葉～12世紀前半に開始されていた可能性が高い。	△11世紀末葉～12世紀前半。	
677	南郷目代今西氏屋敷	大阪府	今西氏屋敷居宅部周辺基本層序	V	pp17-18:(第V層は)褐灰色粘土層、あるいは褐灰色腐植土・灰色中粒砂の交互層である。第IV層と同じく、細分層上面には、耕作時の攪拌が顕著に認められ、各時期に水田耕作が繰り返行われていたことがわかる。その一方で、灰色中粒砂などの間層が存在することは、小規模な洪水による冠水が頻繁に起きたことを示す。(後略)p18:(第V層には)13世紀後半から16世紀代にかけての遺物が混在するなど、基本層の堆積時期を示すものとは言いにくい、中世後期に堆積したことだけは明確である。	★中世後期。 ○13世紀後半～16世紀。 △15世紀。	
678	蔵人遺跡第17次	大阪府	基本層序	3	p5・12:第2層:黒褐色10YR3/1細粒砂質シルト層。2～3mm大の小礫を含む。近世後期以降の旧耕土である。総ての調査区において、ほぼ均質に見られる。第3層:にぶい黄褐色10YR6/3細粒砂質シルト層。上下2層に大別でき、下部は互層あるいは漸移的な級下層理で、洪水に起因する水成層である。(後略)p15:(第4-c層をベースとする第1面について)～D区において、主に南北方向と一部東西方向の畝の畝溝、ピット、木杭、C区で東西方向と南北方向に交差する鋤溝と思われる小溝列と、足跡などを検出した。当遺構面は、黄色砂層に覆われる状態で検出された。この砂層は断面観察により、斜交葉理が観察されたことから、洪水により埋没したものと考えられる。p17:(第1面の)各遺構出土遺物の下限年代は、室町時代末～安土桃山時代(16世紀後半)である。	▼室町末～安土桃山(16世紀後半)以降。 △近世後期以降。	
679	蔵人遺跡第17次	大阪府	基本層序	4-c	p12:第4層:灰色10YR6/1中粒砂質シルト(緑灰色7.5GY6/1シルトブロック)層。A区は暗灰色粘土(黄色中粒砂の互層で平行葉理)がかかる。C区では層が厚く上下3層に区分できる。(中略)4-c層:灰色シルト質粘土(細粒砂と3mm大以下の小礫を含む)。D区では、西半部は黄褐色中粒砂(淡黄色～灰白色粘土ブロックを含む、膜状酸化鉄斑が入る)で東半部が灰色中粒砂質シルトへと水平方向に対して漸移的に変化する。洪水に起因する河川砂礫層である。第1面ベース層である。	△室町末～安土桃山(16世紀後半)(第1面)。	

680	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	2	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p8: (長原2層は) 灰褐色ないし黄褐色を呈する細礫混じりシルト質砂ないし砂質シルトからなる作土層で、層厚は6~24cmである。本層上面および下面には畝間や犁痕、溝などの耕作に係わる遺構が検出されている。肥前系の磁器や唐津・美濃・備前などの国産陶器が包含される。本層は遺跡東南地区を模式地とし、遺跡のほぼ全域に分布して、細分が可能である。ことに遺跡西部を南北に延びる通称「馬池谷」の周辺では河成の砂層等を挟んで厚くなり、複数の不連続な単層群に細分される。p23: 現代の作土層の直下にある長原2層は、肥前系の磁器や唐津焼・美濃焼・備前焼などの国産陶器を包含する。遺物の下限は17世紀以後にある。	○17世紀以後。△現代。
681	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	3	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p8: (長原3層は) 細礫混じり淡黄褐色ないし灰色砂・粘土質シルトからなる作土層で、層厚は12~20cmである。河成の砂礫層と偽礫からなる盛土層・客土層を挟むことがある。本層下面には畝間や溝、島畠などの耕作に係わる遺構が検出されている。瓦質土器や瓦器(IV期の碗)、輸入陶磁器が包含される。本層は遺跡南地区を模式地として断続的に分布し、北・東・東北地区の平野部では作土層と河川の氾濫堆積物として広く分布する。p23: (前略) 本層は14世紀後半か、それ以降に形成されたと考えられる。	★14世紀後半(~17世紀)。
682	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	8A	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p13: (長原8A層は) 青灰色から黄灰色を呈する砂礫からなる河道・氾濫堆積層であり、上方に細粒化する。層厚は5~70cmである。また、側方では上部の灰黄ないし明黄褐色細礫~細粒砂層と、これと漸移関係にある下部は微細な炭化物のラミナ(厚さ0.1~0.3cm)を2層挟む明黄褐色~暗灰黄色シルト質粘土層に移行し、基底部に中粒~粗粒砂層を伴うことがある。層厚は上部が40~50cm、下部が15~20cmほどである。遺跡東南地区を模式地とし、東・東北地区にも分布するが、ここでは薄く細粒となる。p25: 長原7B iii層からは東北地区で布留式土器・庄内式土器・畿内第V様式の弥生土器などが出土している。そのなかで最新のものは布留IV期の土器であり、5世紀前半の年代が与えられる。また、本層より下位では出土しない畿内第V様式の土器は、その編年観から1世紀~3世紀前半の年代が与えられる。長原8B層上面に構築された方形周溝墓は、共伴した畿内第III~IV様式土器の編年観から、弥生時代中期後半、紀元前2世紀~前1世紀の年代が与えられる。	▼畿内III~IV。△畿内V~布留IV。
683	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	8C i	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p14: (長原8C i層は) 河道および河道から氾濫したにぶい黄褐色極粗粒砂~中粒砂層であり、上方および側方へ細粒化する。斜行葉理が発達する。平均層厚は約25cmであり、下位層の窪地上では礫を含んで粗粒物質が卓越し、下方侵食する。最大層厚は90cmに達する。遺跡東南地区を模式地とし、東・東北地区にも分布するが、薄く細粒となる。本層の基底付近からは、直下の下位層に由来する畿内第II様式の弥生土器や木葉形石鏃などが出土してくる。p25: 長原8B層上面に構築された方形周溝墓は、共伴した畿内第III~IV様式土器の編年観から、弥生時代中期後半、紀元前2世紀~前1世紀の年代が与えられる。長原8C i層は氾濫性堆積層であるので、本層に包含される遺物は下位層に由来するものと考えられる。8C i層直下の作土層である8C ii層の上面付近からは、畿内第II様式古段階の弥生土器が出土している。	▼畿内II古。△畿内III~IV。
684	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	8C ii	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p14: (長原8C ii層は) 黄褐色シルト質粘土からなる氾濫原堆積層であり、微細な炭化物からなる平行葉理がある。遺跡東南地区を模式地とし、層厚は15cm以下である。本層上面にはヒトや偶蹄目の足跡が分布し、足跡の窪み直下のラミナは荷重により変形している。側方で粗粒となり、上位層と区別し難くなることもある。p25: 8C i層直下の作土層である8C ii層の上面付近からは、畿内第II様式古段階の弥生土器が出土している。長原9A層に包含される遺物の中で、もっとも新しく編年される土器は畿内第I様式新段階の弥生土器であり、紀元前4世紀後半と推定されている。また、長原9B iv~9A層に包含される長原式土器は、晩期船橋式に後出する縄文土器であり、9B iv層以上で畿内第I様式の弥生土器と共存する。	▼畿内I新。△畿内II古。
685	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	9B i	〔趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28〕p15: 長原9B層は遺跡東南地区を模式地として、9B i~v層に細分される。東北地区に厚く分布する。(長原9B i層は) 灰オリーブないし黒褐色砂礫からなる氾濫原堆積層であり、シルト質細粒砂層を挟み、上方細粒化する。層厚は最大90cmである。p25: 長原9A層に包含される遺物の中で、もっとも新しく編年される土器は畿内第I様式新段階の弥生土器であり、紀元前4世紀後半と推定されている。また、長原9B iv~9A層に包含される長原式土器は、晩期船橋式に後出する縄文土器であり、9B iv層以上で畿内第I様式の弥生土器と共存する。長原9B ii層に包含される貼付け突帯をもつ壺は、畿内第I様式中段階に型式分類される弥生土器であり、上述のように紀元前4世紀後半の年代が与えられる。	▼畿内I中。△畿内I新。

686	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	9B iii	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p15:長原9B層は遺跡東南地区を模式地として、9B i ~ v 層に細分される。東北地区に厚く分布する。(中略)(長原9B iii 層は)灰オリーブ色シルト質粘土からなる氾濫性堆積層であり、層厚は3~14cmである。下位層上面の流路上では砂礫薄層・細粒~粗粒砂薄層を挟んで厚くなる。層厚の厚い東北地区では微細な炭化物ラミナを複数挟んでいる。pp25-26:長原9B ii 層に包含される貼付け突帯をもつ壺は、畿内第 I 様式中段階に型式分類される弥生土器であり、上述のように紀元前4世紀後半の年代が与えられる。長原9C i 層上面からは、縄文時代晩期前半の滋賀里IV式土器が出土しており、その編年観から、3.0~2.4千年前の前半の年代が推定される。	▼縄文晩期前半(志賀里IV)。△畿内I中。	
687	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	9B v	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p15:長原9B層は遺跡東南地区を模式地として、9B i ~ v 層に細分される。東北地区に厚く分布する。(中略)(長原9B v 層は)青味の強い灰オリーブ色シルトからなる氾濫原堆積層である。層厚は10~14cmであり、下半部が砂礫に移化して厚くなり、最大層厚35cmとなる。また、東北地区では基底付近に後背湿地性の黒色シルト質粘土薄層を伴うことがある。	▼縄文後期前半(北白川上層II~III)。△縄文晩期前半(志賀里IV)。	
688	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	9C ii	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p15:長原9C層は遺跡東南地区を模式地として広域に分布する。9C i ~ iii 層下部に細分される。(中略)(長原9C ii 層は)2層の微細な炭化物ラミナを挟む氾濫性の灰色シルト質粘土層であり、砂礫に側方変化する。層厚は2~10cmで、模式地付近および東北地区で分布が確認された。pp25-26:長原9B ii 層に包含される貼付け突帯をもつ壺は、畿内第 I 様式中段階に型式分類される弥生土器であり、上述のように紀元前4世紀後半の年代が与えられる。長原9C i 層上面からは、縄文時代晩期前半の滋賀里IV式土器が出土しており、その編年観から、3.0~2.4千年前の前半の年代が推定される。	▼縄文後期前半(北白川上層II~III)。△縄文晩期前半(志賀里IV)。	
689	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	10	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p16:(長原10層は)緑灰色からオリーブ灰色を呈する河成礫質砂層であり、上方および側方へ細粒砂からシルトに移化する。斜行葉理が発達し、下位層の窪地では著しく下方侵食する。木片および微細な炭化物を含有する。模式地は遺跡東南地区にあって、最大層厚は80cm以上あり、遺跡の平野部に広く分布する。本層に対比される東北地区の砂礫層からは、縄文後期前半の北白川上層II~III式土器が見つかる。東南地区では本層中のラミナ面に上限がある乾痕が観察されている。p26:(前略)10層の堆積年代が4~3千年前の前半か中ごろのある時期であったと考えられる。	★縄文後期前半(北白川上層II~III)。	
690	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	11	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p16:(長原11層は)暗緑色をわずかに帯びる灰色シルト質粘土からなる氾濫原堆積層で、層厚は16cm以下である。平行した数枚の炭化物のラミナが観察される。模式地は遺跡東南地区にある。上位層に伴って広く分布し、側方へ粗粒砂層に移化するため、上位層とは識別し難いことが多い。そのばあい、10・11層と一括して呼んでいる。本層以下は上位層より固く締まっている。p26:(前略)10層の堆積年代が4~3千年前の前半か中ごろのある時期であったと考えられる。長原12A層上面付近から出土した北白川C式土器は、縄文時代中期末に比定されており、縄文土器の年代観からは、5~4千年前の後半の年代が与えられる。	▼縄文中期末(北白川C)。△縄文後期前半(北白川上層II~III)。	
691	長原遺跡	大阪府	長原遺跡標準層序	12B ii	[趙哲済「長原遺跡の地層」pp7-28]p16:長原12層は、(中略)模式地を東北地区に改める。12A~12D層に細分される。p17:(長原12B ii 層は)灰色粗粒砂層で、上方および側方へ粘土質シルトに移化する。模式地での層厚は45cm以下で、中に層厚10cm以下の粘土質シルトを挟むことがある。東南地区では層厚約10cmの氾濫性の暗黄灰色シルト質砂層になり、下位の長原13層を下方侵食する。下半部に火山灰の二次堆積層が認められることがある。本層と下位の12B iii 層とにまたがって、縄文時代中期前半に属する船元II式土器が見つかる。p26:長原12B ii ~ iii 層から出土した船元II式土器は縄文時代中期前半に比定され、5~4千年前の前半の年代が与えられる。	○縄文中期前半(船元II)。△縄文中期末(北白川C)。	
692	加美遺跡	大阪府	基本層序	5B	p22:(加美5B層は)灰色ないし黄灰色を呈する粗粒~細粒砂層で、下底付近に暗灰色を呈する極細粒砂~シルト層を伴い、トラフ型斜交ラミナや上方細粒化、一部上方粗粒化が見られる河川の氾濫堆積層である。河道から離れた南部から亀井北遺跡では粘土質シルト~シルト質粘土になり、微細な炭化物ラミナを挟む。層厚は30~70cmである。本層は遺跡北部を模式地とし、南部まで広く分布する。古墳時代前期の方形周溝墓群を埋立てた地層である。	▼古墳前期。	参考:趙哲済2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)

693	加美遺跡	大阪府	基本層序	6B	p22-23: (加美6B層は) 上半部は灰色ないし褐灰色を呈する粘土・シルトを主体とし、植物遺体のラミナを挟み、葉理の発達する氾濫堆積層である。下半部は灰色ないし明緑灰色の細粒ないし粗粒砂、砂礫からなる河道・氾濫堆積層で、一部下位層を削削している。中位層準でスランプ構造や偽礫の密集帯が見られることがある。上半部、下半部とも側方変化が激しい。層厚は20~100cmで、下半部の砂礫が厚くなるところでは180cmを越える。遺跡南部を模式地とし、北部まで広く厚く分布する。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、(中略)、加美7A iii ~ 6A i 層の暗色帯は長原7B iii 層にそれぞれ対比されると考えられる。	▼弥生後期前半。△弥生後期後半。	参考: 趙哲済 2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)
694	加美遺跡	大阪府	基本層序	7B	p23: (加美7B層は) 灰色ないし淡灰色中粒~粗粒砂と褐灰色粘土質シルトの互層からなる氾濫堆積層で、側方変化が激しい。中位層準に植物遺体のラミナを挟み、下底付近に灰色シルトを伴うことかがある。層厚は30~90cmで、遺跡南部から北部へ層厚を減ずる。遺跡南部を模式地とし、北・中部へも広く分布する。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、(中略)、加美8A i・iii 層が弥生時代中期、加美7A i・iii 層が弥生時代後期前半、(後略)。	▼弥生中期。△弥生後期前半。	参考: 趙哲済 2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)
695	加美遺跡	大阪府	基本層序	8A ii	p23: (加美8A ii 層は) 暗褐灰色ないし暗緑灰色を呈するシルトないしシルト質粘土からなる河成層である。下底部に緑灰色ないし暗緑灰色シルトを伴うことがある。最大層厚25cmで、遺跡の南部を模式地とし、中部まで分布する。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、(中略)9A層が弥生時代中期初頭以前でこれより大きく遡らない時期、加美8A i・iii 層が弥生時代中期、(後略)。	▼弥生中期。△弥生中期。	参考: 趙哲済 2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)
696	加美遺跡	大阪府	基本層序	8B	pp23-24: (加美8B層は) 暗灰色ないし暗緑灰色を呈する粘土質シルト・砂質シルトを主体とする河川の氾濫堆積層で、上半部で砂・砂礫層を伴う。層厚変化が著しく、模式地である遺跡南部では10~60(以上)cmである。遺跡南部から北部へ層厚を減じ、上位の加美8A層と下位の加美9A層と収斂する。畿内第I~II様式の弥生土器が包含される。p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、(中略)9A層が弥生時代中期初頭以前でこれより大きく遡らない時期、加美8A i・iii 層が弥生時代中期、(後略)。	▼弥生中期初頭以前。○畿内I~II。△弥生中期。	参考: 趙哲済 2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)
697	加美遺跡	大阪府	基本層序	9B	p24: (加美9B層は) 暗褐灰色ないし暗緑灰色の粘土・シルト・砂・砂礫からなる河川の氾濫堆積層である。層厚は15~75cmあり、遺跡南部を模式地として広く分布する。(後略)p25: 本稿における加美遺跡の暗色帯の層準と年代は、加美9A層の直上の8B層から畿内第I~II様式の弥生土器が出土していることにより、9A層が弥生時代中期初頭以前でこれより大きく遡らない時期、(後略)。	★弥生中期初頭以前。△畿内I~II。	参考: 趙哲済 2001「長原遺跡の地層」(『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会)
698	宰相山遺跡02-3次	大阪府		7b下	p9: (第7b層について) 下部はシルトを含む褐灰色ないし灰白色の中礫~細粒砂からなる砂礫層で、河川の氾濫堆積層である。(後略)p8(表1): (第7層は縄文晩期終末~弥生前期に相当。)	★縄文晩期終末~弥生後期。△縄文前期末~中期初頭。	
699	宰相山遺跡02-3次	大阪府		8b i	p9: (第8b i 層について) シルト偽礫を含む灰色ないし黄褐色・灰白色の中礫~中粒砂からなる砂礫層で、河川の氾濫堆積層である。層厚は30~50cmである。(後略)p8(表1): (第8層~第12c層は縄文前期に相当。)	★縄文前期。▼縄文前期。△縄文前期。	
700	宰相山遺跡02-3次	大阪府		8b ii	pp9-10: (第8b ii 層について) 灰色ないし黄褐色・灰白色の中礫~中粒砂からなる河成の砂礫層で、河道の堆積層である。層厚は10~40cmである。(後略)p8(表1): (第8層~第12c層は縄文前期に相当。)	★縄文前期。▼縄文前期。△縄文前期。	
701	宰相山遺跡02-3次	大阪府		9b i	p10: (第9b i 層は) シルトと中礫を含む灰色の細粒砂~細礫からなる砂礫層で、河川の氾濫堆積層である。層厚は15~20cmである。(後略)p8(表1): (第8層~第12c層は縄文前期に相当。)	★縄文前期。▼縄文前期。△縄文前期。	
702	宰相山遺跡02-3次	大阪府		9b ii	p10: (第9b ii 層は) 上部は細礫~粗粒砂を含む灰色のシルト混じり細~中粒砂、下部は灰色の中礫~中粒砂からなる砂礫層で、河川の氾濫堆積層である。層厚は平均45cmである。(後略)p8(表1): (第8層~第12c層は縄文前期に相当。)	★縄文前期。▼縄文前期。△縄文前期。	
703	宰相山遺跡02-3次	大阪府		10c	p13: (第10c層は) ややシルトの混ざる灰色の細~中礫混じり極粗~中粒砂からなる河川の氾濫堆積層である。層厚は15cm以下で、東壁では観察されず、調査区西側にのみ局所的な分布を示していた。(後略)p8(表1): (第8層~第12c層は縄文前期に相当。)	★縄文前期。▼縄文前期。△縄文前期。	
704	宰相山遺跡02-3次	大阪府		12e ii	p16: (第12e ii 層は) 褐灰色の中礫~中粒砂からなる砂礫層で、河川の氾濫堆積層である。層厚は50cm以下である。p8(表1): (第12c層~第12f層は縄文早期に相当。)	★縄文早期。	
705	宰相山遺跡02-3次	大阪府		12f i	p16: (第12f i 層は) 地すべり末端部の崩積土に相当する地すべり堆積物である。(後略)p8(表1): (第12c層~第12f層は縄文早期、第13層は中期旧石器時代に相当。)	★縄文早期。	

706	大坂城下町跡	大阪府	基本層序	8	p24: (第8層は) 中世後半から大坂本願寺期の堆積層で、14～16世紀代の遺物を含む地層である。洪水による水成砂層や、人の活動によって擾乱を受けた遺物包含層である。	★中世後半～大坂城本願寺期。○14世紀～16世紀。	
707	瓜破遺跡00-8次	大阪府	東北地区00-8次	9b	p9: (第9b層は) シルトと粗粒砂の互層からなる氾濫堆積層である。(中略) 河内V様式に属する弥生時代後期の土器や、サヌカイト製石鏃・動物遺体などが出土した。(後略)p13(表1): (NG7B iii～8B層に相当。)	○河内V。	趙哲済(2001)『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会: NG7B iii層出土の最新の遺物は布留IV式(5世紀前半)のもの、NG8B層上面の方形周溝墓は畿内Ⅲ～Ⅳの土器を伴う。
708	瓜破遺跡07-1次	大阪府	西地区07-1次	7b ii	p13: (第7層は) 主としてシルト質粘土～細粒砂質シルトからなる湿地の堆積層である。7a～7d層に区分し、7b層および7c層はさらにそれぞれ7b i・7b ii層、7c i・7c ii層に細分した。p15: (第7b ii層は) オリーブ黒色ないし黒色の粘土質シルト～極細粒砂質シルトからなり、一部で中粒砂～細礫を含む暗灰黄色の細粒砂質シルトからなる湿地堆積層および氾濫堆積層で、層厚は10～35cmである。植物遺体を含み、暗色化する。上部で乾痕が観察された。下位層との境界には明瞭な層理面が見られたが、両区西側ではやや不明瞭となる。(後略)pp15-16: (第7c ii層は) 上部は黒色の粘土質シルト～シルト質粘土ないし、黒褐色の極細粒～細粒砂質シルトからなる湿地堆積層で、暗色化する。下部は暗灰黄色の中粒砂～中礫からなる氾濫堆積層である。上・下部を合わせた層厚は10～60cmである。下部にはトラフ型斜交ラミナが発達し、下部から上部にかけておおむね上方細粒化していた。(後略)	★弥生前期末～中期初頭。△弥生後期～古墳前期。	年代は小倉pp83-84を参照。
709	瓜破遺跡07-1次	大阪府	西地区07-1次	7c ii	同上。	★弥生前期末～中期初頭。△弥生後期～古墳前期。	年代は小倉pp83-84を参照。
710	瓜破遺跡07-1次	大阪府	西地区07-1次	8	p17: (第8層は) 上部は暗灰黄色ないし黒褐色の極細粒砂質シルト～シルト質細粒砂からなる氾濫堆積層である。下部は上半部と下半部にさらに細分でき、上半部はオリーブ黒色ないし暗灰黄色の細粒砂質シルト～シルト質、細粒砂からなる氾濫堆積層、下半部は暗灰黄色ないしオリーブ黒色の中粒砂～中礫からなる西谷を埋積した河道の堆積層である。上・下部を合わせた層厚は80～100cmである。(後略)	▼縄文早期末(Kh)。○船元Ⅲ。△縄文中期～後期。	年代は小倉pp83-84を参照。
711	瓜破遺跡07-1次	大阪府	西地区07-1次	9	p19: (第9層は) 氾濫堆積層と河道の堆積層からなり、9a・9b層に区分した。(第9a層は) 9a層上部は暗灰黄色ないし黒色のシルト質細粒砂～細粒砂からなる氾濫堆積層で、下部は灰色ないし暗灰黄色の中粒砂～中礫からなり、後述する西谷底部の流路(チャンネル)を埋積する河道堆積層である。(中略) 流路(チャンネル)内の側壁付近からは縄文時代早期末～前期初頭頃に属すると考えられる縄文土器が出土した。(第9b層について) 上部は黒色ないしオリーブ黒色のシルト質細粒砂～極細粒砂質シルトからなる湿地堆積層で、暗色堆積層である。下部はシルトを含むオリーブ異色ないし灰色、灰オリーブ色の中粒砂～中礫からなる氾濫堆積層である。上部の層厚は約20cm、下部の層厚は50～70cmである。(後略)	○縄文早期末(Kh)。	年代は小倉pp83-84を参照。
712	瓜破北遺跡04-1・2・3次	大阪府		5C	p13: (第5C層は) 灰色のシルト～粗粒砂からなる氾濫堆積物で、上方へ細粒化する。この層準の堆積が完了した時点で、調査区内の谷地形は完全に埋没し、また瓜破北遺跡全体も微高地状の地形となって完全に離水する。(p13(表3): 5C層は厚さ30cm以下で、長原8A層に対応?)	▼畿内Ⅲ～Ⅳ。△畿内Ⅴ～布留Ⅳ。	趙哲済(2001)『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』: NG8A層の上限は畿内Ⅲ～Ⅳ、下限は畿内Ⅴ～布留Ⅳ。
713	瓜破北遺跡04-1・2・3次	大阪府		7	p13: (第7層は) 黒褐色中～粗粒砂からなる氾濫堆積物である。p14: 層厚は中央区で20cm以下、東区で20cmであった。p13(表3): (長原9A層に対応する。)	○畿内Ⅰ。	趙哲済(2001)『長原・瓜破遺跡発掘調査報告XVI』(財)大阪市文化財協会: 長原9A層の、最新土器は、畿内第Ⅰ様式新段階。

714	瓜破北遺跡07-2次	大阪府		8	p16:(第8層は)灰色砂・礫層(粗粒砂が主体で氾濫堆積物である。層厚は20~60cmであった。上位・下位層との層界は明瞭である。(中略)本層の第8層は平安時代から鎌倉時代にかけての時期であるとみられる。	★平安~鎌倉。○古墳~中世前半。
715	若江北遺跡	大阪府	基本層序	8	p7:第8層灰色細砂層及淡褐色中~粗砂層は、調査区全体に続いていた第9層以下の各層を大幅に浸食し堆積した自然流路形成層で、自然流路内では、約1m下部に続いていた第14~15層まで浸食して、庄内期直前の洪水あるいは流水による浸食のすさまじさを示している。	★弥生後期後葉(庄内期の直前)。△庄内期。
716	若江北遺跡	大阪府	基本層序	10	p8:第10層は、上下粗・中砂層に分かれ、共に洪水時の堆積層と考えられるが、上層の淡茶褐色粗砂層中から弥生後期の甕を検出している。(中略)(第11層の時期は)弥生時代後期前半期と考えられる。	▼弥生後期前半。○弥生後期。△弥生後期後葉。
717	吉田遺跡第1次	大阪府		5	p6:(第5層は)黄灰色細砂から中粒砂(上部砂層)。A・B地区で厚さ32~88cm。C・D地区では28cm~100cmである。第7・12・15トレンチでは存在しない。(中略)土師器の細片と13世紀前半から中葉に属す瓦器碗出土。A・B地区とC・D地区の砂層とも出土遺物などからみて相似た時期に洪水によって堆積したものと考えられる。p8:各層の所属時期は(中略)第5層鎌倉時代(13世紀前半~中葉)。(後略)。	★13世紀前半~中葉。
718	吉田遺跡第1次	大阪府		9	p8:(第9層は)暗黄灰色細砂から中粒砂。厚さ28~80cm。すべてのトレンチに存在するが、(中略)層厚は、C・D地区で厚く、砂の粒子も粗い。これは、東から西に向かって砂が堆積したことを示しており、玉串川の前身の河川の氾濫によって堆積したと考えられる。土師器・須恵器の細片が出土した。須恵器は、7世紀前半に属するものがある。(中略)各層の所属時期は(中略)第9層古墳時代後期末(7世紀前半)。(後略)。	★7世紀前半。
719	若江遺跡第38次	大阪府		9	p7・11:(第9層は)黄灰色細砂から中粒層。最大厚40cm。下層の盛り上がり認められるB地区東半部を除いて存在する。遺物は含まない。上面は、ほぼ平坦である。弥生時代後期の洪水に起因して堆積した層と考えられる。2箇所でのこの層が、地震に伴う噴砂となり、吹き上げているのが確認された。	★弥生後期。
720	北島遺跡第1次	大阪府			[パリオ・サーヴェイ(株)「珪藻化石・植物化石・樹種による古環境復元」pp71-130]p84:(古墳時代前半から後半について)この間の時期には古墳時代前半砂層にみられるように洪水の影響を受けることもあり、短期間にせよ当時の稲作に影響を与えたものと思われる。古墳時代前半砂層は鬼虎川遺跡でも確認されており、広域に起こった変化である可能性がある。先に述べた降水量の増加などに起因するとも考えられる。	★古墳前半。
721	瓜生堂遺跡第42次	大阪府		8	p29:第8層は砂層で、河川の破堤などが原因で、弥生中期中頃~後半に堆積。	★弥生中期中頃~後半。
722	水走遺跡第3次・鬼虎川遺跡第21次	大阪府	No.2ピット	22	p31:第21~24層は弥生時代中期の層である。(中略)第22層も上下2層に分かれ、上層下部に黒褐色粘土層を挟んで2層のオリブ灰色粘土層があり、2度の洪水等による沈澱層と考えられる。	★弥生中期。
723	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	基本層序	4~8	p98:Fピットでは旧耕土面が周辺よりやや低い位置にあるが、近世の洪水期の堆積層に相当する下部の4~8層が非常に薄く、その分第11・12層のハス田層はやや厚く、上面はやや起伏のある盛り上がりを見せていた。p102:(Gピットでは)近世の洪水期のやや厚い中粒砂及びシルト質粘土と細砂層との互層が続いている(第6~9層)。この下には厚み60cmほどの第11・12層のハス田層が続き、この下にも中世の洪水期に堆積した細砂やシルト質粘土・中粒砂層(14~16層)が続き、幾度からの堆積と侵食が見られた。p114:Kピットでは、地表下1.6mの盛土層の下には、旧耕土層ならびに近世洪水期の堆積層である厚い第4層淡褐色~黄色粗砂層及び暗緑灰色系統のシルト層と粘土層の互層である第7~9層が続いている。	★近世。

724	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	基本層序	14~16	p51: (Cピットでは)洪水期の堆積層である第16層の細かな砂層～シルト層の下に続く暗青灰色粘土層の第17層上面で、人の足跡を混じえ牛など動物の足跡多数を検出した。p95: (Eピットについて)第13層までの状況は、これまで報告した各ピットと状況はあまり変わらない。しかし、その下部には暗灰色粘質シルトと砂層が互層に堆積し、場所によっては洪水等の流水で侵食を受けた流路部分に両層が混じった複雑な凹凸のある堆積状況が見られると共に、粗砂のつまった浅い河川状の部分の存在も見られ(第14層系)、上層で瓦器碗片が出土した。p98: (Fピットでは)中世の洪水期の砂やシルトの堆積層である第14~16層も、東方のA~Dピットの状況とは変化して次第に厚みを増して、(後略)。p102: (Gピットでは)近世の洪水期のやや厚い中粒砂及びシルト質粘土と細砂層との互層が続いている(第6~9層)。この下には厚み60cmほどの第11・12層のハス田層が続き、この下にも中世の洪水期に堆積した細砂やシルト質粘土・中粒砂層(14~16層)が続き、幾度からの堆積と侵食が見られた。p103: (Hピットについて)第13層の下には、中世の洪水期の堆積層である暗緑灰色系の第14層や暗オリーブはいいと中粒砂の第16層からなる厚い砂層が約1mの厚みで堆積している。p114: (Kピット第11・12層も)中世の洪水期の堆積層の第14層細砂層あるいは16層の粗砂層に重なっている。	★中世。
725	水走遺跡第8次・鬼虎川遺跡第27次	大阪府	基本層序	20~24	p50: Cピットでは、凹地がほぼ埋没し、上部に弥生時代後期の遺物包含層である第19層の薄い黒色粘土層が堆積する以前に、大規模な短時間の洪水の発生により凹地内に沿う形で、南東から北西に続く河川の流路と厚い砂層の堆積層の存在が確認されている。p102: (Gピットにおける)弥生時代の地層は、中期末～後期前半の洪水期の堆積である第20~24層の白色系の粘土層と、その下部に堆積する中期以前の第25~27層の黒色系粘土層は、いずれもそれぞれ薄く水平堆積しており、弥生時代の遺構や遺物等は全く検出できなかった。	★弥生中期末～後期前半。▼弥生中期以前。△弥生後期。
726	鬼虎川遺跡第40次	大阪府	No.1地区	1	p4: 第1層は上部を攪乱されており、層厚24cmが遺存していた。製塩土器、古墳時代の土師器、弥生土器、縄文土器を少量含む。氾濫性の堆積層と思われ、溝1の埋土となっていた。p5: (溝1は古墳時代後期のもの。)	▼古墳後期。 ○縄文・弥生・古墳。
727	鬼虎川遺跡第40次	大阪府	No.2地区	溝7・9埋土	p47: (No.2地区では)縄文時代晩期以前に南東から北西方向に流れていた自然流路が北西側に存在していたことを示す。大溝はこの自然流路を利用して、まず溝9がその流れにほぼ平行して掘削された。しかし、洪水などにより短期間のうちに埋没したため、再度溝9にほぼ平行する形で、溝7が掘削されたと考えられる。この溝7の活用時期もそれほど長くなく、(弥生時代)中期前葉には埋没している。中期以降の遺構・遺物は少なくなり、集落の中心はNo.1地区方向の西および北へへ移行していったと思われる。	★弥生前期中期前葉(2回)。
728	北島遺跡第2次	大阪府		(8)、(9)	p70: ((8)は)(7)にはさまれ、土石流堆積物と考えられる弥生時代中期の砂礫質シルト質粘土層。((9)は)(8)の下位にみとめられ、掃流堆積物と考えられる弥生時代中期の砂礫層。p83: (8)層と(9)層は調査区北端部のT.P.0m付近に分布する。	★弥生中期。
729	上六万寺遺跡第4次	大阪府	Aブロック		p106: (平安～鎌倉時代について)土石流は、出土した遺物と堆積環境から大きく次の2回起こったことがわかる。上位は主に13・14世紀の遺物が中心の土石流(以下中世土石流)であり、下位は主に12世紀以前の遺物が出土する土石流(以下平安・鎌倉土石流)である。p107: (平安・鎌倉土石流)の全幅は南北方向に120mに及ぶ規模が想定できる。	★平安～鎌倉。○12世紀以前。△13世紀～14世紀。
730	上六万寺遺跡第4次	大阪府	Aブロック		同上。	★中世。○13世紀～14世紀。
731	宮ノ下遺跡第10次	大阪府			p16: (遺跡では)奈良時代以降たびたび洪水氾濫や排水不良に見舞われながらも、洪水氾濫で流路から供給された土砂や排水不良で溜まった泥を用いて鎌倉時代末期～室町時代中頃と江戸時代末期～明治時代初頭には畑地の作土層が作られたことや、周辺の水位を下げるために奈良時代～平安時代および室町時代中頃には溝が、江戸時代末期～明治時代初頭には灌漑用の水路が設けられていたことが明らかになった。	★奈良以降。
732	鬼虎川遺跡第43次	大阪府		16	p6(図7): (11~17は室町時代、17以下は鎌倉～室町時代に相当。)pp8-9: (泥層(15)の下位には、泥のブロックを多く含む、層厚10cmのわずかにシルト質の礫質砂層がみられる。その下面にも部分的に踏み込みの凹凸がみられる。このような砂礫は扇状地斜面あるいはより上流の山地斜面を集水域とする河川によって、集中豪雨の際に運搬され、調査地周辺に布状に堆積したと考えられる。(後略)	★室町。
733	鬼虎川遺跡第43次	大阪府		18	同上。	★鎌倉～室町。

734	意岐部遺跡第5次	大阪府		IV	p5:(V層上部では)古墳時代前期の土器を伴うピットや土坑などの遺構を確認できた(古墳時代前期第II遺構面)。IV層は緑灰色を呈するシルト～極細粒砂と極細粒砂～細粒砂の層理ないしは葉理の互層、(中略)洪水氾濫によって形成されたと推測される。場所によっては上部にもう1面の古墳時代前期の遺構面を確認できた(古墳時代前期第I遺構面)。	▼庄内期。△古墳前期。	日本測地系。古墳時代には庄内期も含む。
735	水走遺跡第15次	大阪府		III	p21:(第III層直上の第II層の)上部は削平され、13世紀後半頃に埋没する土坑501や溝502等が構築されていることから、(第II層の堤防は)13世紀中頃に築造されたとされる。(第III層は)堤防補強に伴う盛土層と吉田川の堆積層。調査区西部の自然堆積層は吉田川の急激な堆積(氾濫)によるものと考えられ、堤防の補強や削平が繰り返される。	△13世紀中頃。	
736	鬼虎川遺跡第57次	大阪府	57-2区	(5)～(8)	p5:(5)は灰オリーブ色を呈する塊状の細粒～シルトからなる。後述するDC3から溢れた泥質砂で、(11)上面の第IV遺構面を布状に覆う。(中略)(6)～(7)にかけて上方粗粒化のサクセションをなす。植物遺体を多く含み、僅かに弥生土器の破片が出土した。p6:(9)はオリーブ黒色を呈する無層理の粘土質シルトからなる。盛土をなし、DC3の谷壁に相当する(11)の北側斜面に沿って、(11)から崩落した偽礫や砂礫がみられる。(10)と指交する。畿内第II様式後半～同III様式前半の弥生土器が多数出土した。(後略)	○弥生中期前葉(畿内II後半～III前半)。	
737	鬼虎川遺跡第57次	大阪府	57-3区	(5)	p17:(5)は灰色～オリーブ灰色を呈する無層理の粘土質シルトである。盛土上部付近では細粒砂～極細粒砂の葉層が挟まり、葉層は南に向かって薄層化・せん滅する。57-2層は鬼虎川遺跡の弥生時代中期の居住域とされる外環状線(国道170号線)より西側に広く分布し、畿内第IV様式期の堆積層や遺構を覆っていることから(例えば第7次調査地点の第10～11層、第47次調査地点の第V層など)、この洪水氾濫を契機に集落の移動を余儀なくされたのではないかと考えられる。	▼弥生中期後葉(畿内IV)。	
738	服部遺跡第5次	大阪府		7上面	p20:上層遺構面の下部には、黄橙色や灰橙色系の砂(第5・6層)が40～50cmの厚さで堆積している。このあたりの土層は一見単純な水平堆積にも見えるが、よく観察すると粒度や色調など意外に層相変化があり、洪水層的な砂層もみられることから、古墳時代の終わりから奈良時代頃にかけてあまり安定的な土地利用はされていなかったのかもしれない。	★古墳終末～奈良。	
739	上板井遺跡	兵庫県	旧河道	②	p19:旧河道は調査区北部を東西に走っている。p22:旧河道内の堆積物は層相の違いから数枚に細分される。①層は、旧河道最上部を被覆する。シルトを主体とする。②層は、砂・礫を主体とした堆積物で、旧河道第III・IV区付近では堆積が厚くなる。②層の上面付近は砂質であり、一部で砂礫層となっている。pp22-23:(前略)②層中の土器は、弥生時代後期の範疇で捉えられる土器が大多数を占めている。p90:旧河道は、その土層の堆積状況から三時期に大別される。(中略)数回にわたって弱い洪水が起り、凹地内は平坦化していく。平坦化していく時期は、弥生時代後期末から古墳時代初頭と考えられる。	○弥生後期。△弥生後期末～古墳初頭。	
740	上ノ島遺跡	兵庫県			p53:弥生時代前期II-b段階をもってこの村は、突然廃絶してしまうのである。おそらく武庫川の洪水がその原因と考えられ、人々は伊丹段丘上の武庫庄遺跡等へ移動したのであろう。	★弥生前期。	
741	玉津田中遺跡辻ヶ内地区	兵庫県	河道		p19:辻ヶ内地区では7区と8区においてこの河道を検出している。河道は洪水堆積物である砂・シルトによって埋没しており、弥生時代中期に堆積した砂礫によってその規模を著しく減じている。(中略)河道はその後、古墳時代後期に大きな洪水があったらしく、それ以前に堆積したシルト層を削り込んで、幅の狭い流路が形成されている。	★古墳後期。	
742	玉津田中遺跡竹添地区	兵庫県	SR46002付近		p12:(前略)西微高地がII様式以降、III様式のある段階までに北東方向に拡大したといえる。(中略)微高地の拡大とともに、調査区北半を中心として以降面が複数存在するため、この時期には、河川上流側における微高地上への土砂の堆積も多かったと推測される。IV-1様式にはSR46002が大規模な氾濫を起こす。この氾濫によってSR46002自体も埋没してしまい、西微高地全面が洪水砂で覆われる。(後略)	★畿内IV-1。	
743	下内膳遺跡	兵庫県		土石流1	[山田清朝「地形環境の変化と土地利用の変遷」pp352-356] p356(第121表):(遺跡では、弥生時代中期に土石流1、弥生時代後期に土石流2・3、古墳時代末期～奈良時代に土石流4が堆積し、平安～鎌倉時代に南・西側が段丘化した。)	★弥生中期。	
744	下内膳遺跡	兵庫県		土石流2・3	同上。	★弥生後期。	
745	下内膳遺跡	兵庫県		土石流4	同上。	★古墳末期～奈良。	
746	楠・荒田町遺跡	兵庫県	1992年度調査		p17:第1面では、大別して3群の遺構群が検出された。第1群は、等間隔に並んだ南北方向に延びる溝5条と、これと同方位を示す小規模な溝群である。遺構は調査区東半分に位置し、いずれも洪水砂によって同時に埋没している。洪水砂中より、18世紀後半以降の磁器碗類破片が出土している。	○18世紀後半以降。	

747	佃遺跡	兵庫県			p38:(前略)縄文時代後期には2度、大きな洪水があったようで、そのときの洪水砂によって、この崖面は段階的に埋没している。なお、この2度の洪水砂間に元住吉山式期(佃4~5期)の遺物包含層が堆積し、当該期のごみ捨て場としての機能を有していたようである。(中略)弥生時代になって再び洪水が起こり、砂層によってこの崖面は消滅し、現在に至る。	★縄文後期。	
748	佃遺跡	兵庫県			同上。	★弥生。	
749	亀田遺跡	兵庫県	II 調査地点 流路1		p52:(流路1は)東側の谷から、西側に向かって流れる自然流路である。(中略)(埋土は)中・下層の埋土には礫を含む部分が多く、幾度か洪水を繰り返していたことがわかる。上層の埋土は細砂~極細砂の部分が多く、流路としての機能を失ったのち、徐々に埋没していったようである。中・下層には弥生~奈良時代の土器が大量に含まれている。上層には平安後期までの須恵器・土師器・陶磁器などが含まれている。	▼弥生。△平安後期。	断続的に複数回洪水があったとみられる。
750	亀田遺跡	兵庫県	II 調査地点 SD50, 51		p54:(SD50は)北東~南西に向かって流れる溝である。(中略)(埋土について)下段の溝内には細砂~極細砂が堆積し、その上には洪水による中砂に覆われている。弥生土器の破片が出土している。(SD51は)流路1の北側に沿って流れる溝である。(中略)(埋土について)礫が多く堆積し、洪水によって埋まったことがうかがわれる。奈良時代の須恵器の破片が出土している。	○奈良。	
751	長坂遺跡	兵庫県	B区	第1面 直上	p8:B区は長坂川による扇状地地形の末端部から、伊川による沖積地にかけて位置しており、一部に長坂川の氾濫による洪水砂の堆積が認められた。この砂層に覆われて数本の畦畔で区画された水田跡が検出された。p10:(前略)B区に居住していた人々は洪水等の何らかの理由で、集落をより高い位置へと移動し、この地区の土地利用形態を水田へと変えたものと考えれば、この水田は5世紀後半から6世紀初頭頃のものとするのが最も妥当ではなかろうか。	▼5世紀後半~6世紀初頭。	
752	北口町遺跡	兵庫県			p7:盛土下の層位は近世~近代の水田土壌層、中世の洪水砂、黄褐色砂質シルト層となっており、この黄褐色砂質シルト層上面で弥生時代~中世の遺構を検出した。(中略)中世の洪水砂は細かくみると3~4面に分けられ、この時期に洪水による被害が頻発したことが知られる。しかしその洪水砂も土壌化を受けており、居住地ではなくなった後も水田もしくは畑地として利用されていたものと考えられる。	★中世。	
753	北口町遺跡	兵庫県			p35:調査区の西端に溝SD006が南北に通っており、集落の西限を区画している。(中略)SD006より西側は微高地面に比べて数10cm低くなっており、シルト質の土壌層も発達しており、水田域が広がっていたものと考えられる。水田面は洪水砂に覆われており、南西400mで調査された高松町遺跡の弥生時代後期の水田面につながる可能性もある。	▼弥生後期?	
754	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川2区B地点		pp12-13:現地表面下の堆積は、調査前に営まれていた水田の耕作土に続いて、円礫を含む砂質が堆積を重なる。局部的に褐色シルトの薄い堆積を挟みながら、80cm近くの厚みを持っていた。褐色シルトはいずれも水田堆積層と考えられ、上層の砂質土は洪水砂がもたらされたことによって廃絶したのであろう。これらの水田土壌層は広範な面を持って検出されず、形成された時期などについては、明らかにしがたい。	△現代。	
755	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川2区B地点 シガラミ101		p15:(シガラミ101は)調査区の南西部で検出された。(中略)板材が接地する面は溝底から0.15mほど上で、最下層の淡褐色礫混じり粗砂が堆積した段階で設けられている。また最下層内からも板材の残欠が確認されており、洪水等の急激な出水による破壊・埋没の後、新たに造りなおした状況が見てとれる。(中略)近世の所産であろう。	★近世。	
756	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川2区B地点 シガラミ203		p18:(シガラミ203は)調査区の西壁近くに位置する。p19:シガラミ201・202と同じく、SD201内に設けられた施設ではあるが、前者とは異なり、河道が大きく埋没しない段階で設置されたと見られる。両者とのレベル差は0.6~0.8mmで、シガラミ203の上部が洪水によって消失したと考えるが、遺存する下部の構造から、上流からの流れを受け止め水位を上昇させる性格がうかがえる。(中略)SD201の所産から古墳時代の遺構であろう。溝底付近で出土した遺物に須恵器を含まないことから、古墳時代前期に設けられたと考えられる。	▼古墳前期。	
757	入佐川遺跡	兵庫県	入佐川2区F地点 SD102		p28:(SD102は)調査区の西部を蛇行気味に、北東から南西へのびる。(中略)総じて安定した流れであったが、一時的な急流によって一気に堆積した時期のあったことを示している。p29:中世の遺構と考えられる。	▼中世。	
758	上脇遺跡	兵庫県			p12:第2層群を除去した状態で検出される遺構面を第2遺構面とした。この第2層群直下の暗茶褐色の土層群は、堆積状況が一様でなく、(中略)伊川の沖積作用による本流性堆積物により形成されたものと判断される。p13:調査区周辺では弥生時代以前から10世紀に至るまでの間に最低4回の伊川本流による大量の土砂供給により、丘陵裾部から連続するなだらかな傾斜面が形成された後、再び浸食を受け氾濫原側が削平された結果、南西から北東方向に走行する崖面が形成されたことが明らかにされた。	★弥生~10世紀。(4回)	

759	上脇遺跡	兵庫県		第4層群	p14: (第3遺構面は)平安時代を中心とする古代の遺構面と判断される。(中略)(第3遺構面下方の)B地区下段では、侵食性の崖面の形成直後に堆積したと見られる暗灰黄色のやや粘質を帯びた細砂や極細砂が層厚約0.1m~0.2mで堆積している。このやや粘質を帯びた細砂や極細砂は、極めて遺物の包含量が希薄で、短期間の一時期滞水状態にあったことを窺わせる泥土状の堆積層である。(後略)	★古代。△平安。
760	七日市遺跡	兵庫県	F地区のSR01など		p17: 各微高地境界を南北方向に流れる旧河道群は調査の結果、西側の旧河道は弥生時代中期段階の遺構を切っており、少なくとも奈良時代までには埋没している。中央部の旧河道は弥生時代中期~終末期にかけて存続しており、比較的短期間に埋没している。東側の旧河道は弥生時代中期~終末期に段階的に洪水(砂礫層)がおり、古墳時代中期~後期にかけては緩やかな堆積(シルト層)があった状況が看取できる。そして飛鳥時代には埋没している。p173: 七日市遺跡の欠落時期に、遺跡の南約2kmに国領遺跡が営まれていることを考えると、七日市遺跡の居住者たちはその土地を離れ、大きく居住域を移動したと考えるのが妥当であろう。F地区SR01埋没状況を見ると、IV期末の土器を包含した砂礫層が厚く堆積しており、中期末に大規模な洪水があり、七日市遺跡の反映に何らかのダメージを与えたことが推察されるが、後期初頭まで集落自身は継続しているため、他の社会的な要因と相まって集落が放棄されたのであろう。	★弥生中期末。○弥生中期末。
761	御船遺跡	兵庫県			p47: (弥生時代後期~庄内期の水田について)この水田は、比較的短期間の内に洪水砂層によって埋没しており、各調査地点で洪水性の堆積物から出土している土器からも、弥生時代後期後半~古墳時代初頭にかけて、周辺が水害によってかなりの被害が生じたことがうかがえる。長田神社境内遺跡や長田南遺跡の後期集落が衰退するのと同じような水害が一因となっているのかもしれない。	★弥生後期後半~古墳初頭。
762	岩屋遺跡	兵庫県	C・D地区水田面	水田面直上	p28: (上層遺構面の水田面は)調査区南東部でのみ検出された。(中略)広い範囲で黄褐色の砂層に被覆されていることから、洪水による埋没があったものと推定される。p29: この水田面を被覆する洪水砂中からは、17世紀代~18世紀代の陶磁器類が出土しており、水田面は近世初頭以降、18世紀末ないし19世紀初頭まで機能していたものと推定される。	▼近世初頭~18世紀末ないし19世紀初頭。○17世紀~18世紀。
763	岩屋遺跡	兵庫県	C・D地区SD08	水田面直上	p32: (下層遺構面のSD08は)C地区調査地点において、独立した溝と判断して調査を実施したが、D地区の成果から判断するならば、SD12(旧河道)の外縁部に相当するか、もしくはその洪水砂による浸食部とすべきであろう。	△近世初頭~18世紀末ないし19世紀初頭。
764	一品野田遺跡	兵庫県		洪水砂礫層I	p497: 調査区の層序は上層から、表土、床土、洪水砂礫層I、その下から第1面を構成する暗灰黄色礫混じり細砂が出現する。第2面は第1面との間に洪水砂礫層IIを挟む。第2面より下層からは礫層が出現する。(中略)第1面は13世紀代と考えられる時期の遺構面である。p511: (遺跡の)段丘化の時期は11~12世紀以降と考えられ、13世紀に至って調査地点は安定し、集落として利用されるようになったものと考えられる。	▼13世紀(第1面)。
765	一品野田遺跡	兵庫県		第2面下の礫層	p497: 調査区の層序は上層から、表土、床土、洪水砂礫層I、その下から第1面を構成する暗灰黄色礫混じり細砂が出現する。第2面は第1面との間に洪水砂礫層IIを挟む。第2面より下層からは礫層が出現する。(中略)第1面は13世紀代と考えられる時期の遺構面である。p506: (第2面について)検出した水田遺構の時期は、第2面よりも下層の旧河道を埋める洪水砂の中から奈良時代の須恵器が出土している他、第2面の水田耕土からは10世紀代と考えられる土師器皿片が出土していること、第1面の時期が13世紀と考えられることから11世紀~12世紀にかけてと考えられる。	○奈良。△11世紀~12世紀(第2面)。
766	加都遺跡	兵庫県	新水北地区西半部の基本層序	⑥	p42: (前略)西半部では江戸時代後期以前の堆積が良好に残っている。局地的に残存するものも含めた概略は以下の通りである。①近現代の水田土壌。②江戸時代後期の洪水砂。③江戸時代水田土壌。④江戸時代初期の洪水砂。⑤中世後期~中世末期(16世紀末)前後の水田土壌。⑥中世前期の洪水砂。⑦中世前期の水田土壌。⑧6世紀前半~9世紀の水田土壌。⑨5世紀後半の水田土壌及びその母層である洪水砂。⑩5世紀前半を中心とする水田土壌。	★中世前期。▼中世前期。△中世後期~末期(16世紀末)。
767	柴遺跡	兵庫県	基本層序	II b	p13: II層はIII層の上を被覆する褐色土である。B地区では、大半がIII層上を被覆した洪水砂(II b層)を攪乱して水田として使用する層である。(中略)II-1層からは10世紀~11世紀にかけての遺物が出土している。[青木哲哉「柴遺跡における地形環境」pp47-52]p52: 8世紀から11世紀まで洪水のたびに水田をつくりかえながら稲作が営まれた。	★8世紀~11世紀。

768	坂元遺跡	兵庫県			[青木哲哉「坂元遺跡における地形環境」p99~114]pp113-114: (前略)段丘上の遺跡西部には、9世紀初頭以降に遺跡南側の開析谷から洪水が及ぶようになり、人間は13世紀に遺跡東部の埋没旧中州上で居住した程度であった。p114:現氾濫原は、白ヶ池川流域で扇状地、別府川沿いで旧河道が埋没する過程で生産域に利用された。これらの埋没がなされていた8世紀の現氾濫原は、洪水が多発する低湿な環境であった。そのため、洪水に伴うシルトを土壌に水田稲作が営まれた。(中略)その後も洪水は繰り返され、白ヶ池川流域では中世後期までと江戸時代にも砂やシルト質砂が堆積した。	★9世紀初頭以降。△13世紀。
769	戎町遺跡	兵庫県		7~9	p8:7層上面が弥生時代前期後半の遺構面(第3遺構面である)(中略)7・8・9層は水田址を覆う無遺物の淡黄色細砂層で、11層を基盤として、10層を耕土とする水田址(第4遺構面)が河道によって切られた形で遺存する。p12:(第4遺構面について)第3遺構面から水田址までは細かく分層すると3~4層に分けられる約50cmを測る洪水による細砂の堆積層が認められることから、(中略)弥生時代前期前半に遡り得る可能性が高いと考えている。	▼弥生前期前半?△弥生前期後半。
770	戎町遺跡	兵庫県		第3遺構面直上	p8:5層上面が弥生時代中期の遺構面(第2遺構面)で、4層は弥生時代中期の遺物包含層である。5層は無遺物の砂層である。6層は弥生時代前期後半の遺物包含層で、7層上面が弥生時代前期後半の遺構面(第3遺構面)である。p17:(第3遺構面の)円形杭列遺構は、厚さ1.2mを測る洪水などの土砂による堆積と考えられる青灰色シルト質細砂層を中心とする埋没土(河道上層)によって徐々に覆われていったものと考えられる。	▼弥生前期後半。△弥生中期。
771	垂水・日向遺跡第1次	兵庫県	自然流路		p14:(自然流路は)A地区東端で確認され、その堆積土の一部は奈良~鎌倉時代の遺物包含層と遺構面を削っている。(中略)遺物の下限時期である室町時代に河川の氾濫によって堆積したのと考えられる。またB地区東端の一部では、当時期に堆積したとみられる同様の洪水砂層が確認できた。	★室町。
772	魚崎中町遺跡	兵庫県		III	p11:遺構面は(中略)攪乱層下の近世あるいは近代の水田層(I・II層)、および平安時代から中世にかけての層厚80cm程度の洪水砂(III層)によって予想以上に保存されていた。遺構面は、表土下50cm程度に平安時代前期頃の第1遺構面(V層)、(中略)、が検出された。	★平安~中世。▼平安前期。△近代。
773	魚崎中町遺跡	兵庫県		IV	p12(第5図):(IV-1層はシルト質細砂、IV-2・3層はシルト質中砂。)p16:(第2遺構面の)水田耕作土中には古墳時代初めから奈良時代前半の土師器・須恵器が散見されること、奈良~平安時代を中心とした遺物を含むIV層の洪水によって削割を受けていることなどから、古墳時代末から奈良時代前半の水田経営が想定されるが、決め手はない。	▼古墳末~奈良?○奈良~平安。
774	白水遺跡第6次	兵庫県	北端地区I区	第3・4遺構面間	p101:現代耕土の下に、(中略)淡灰黄色極細砂(第3遺構面ベース層)となり、部分的に洪水砂等の間層を含むものの淡灰黄色極細砂の下層上面が第4遺構面となる。p103:(第4遺構面では)古墳時代後期~奈良時代後期の遺構、弥生時代後期~奈良時代後期の遺物が確認された。p104:(第1遺構面では)平安時代前期~中世の遺構、奈良時代後期~中世の遺物が確認された。	▼古墳後期~奈良後期。△平安前期~中世(第1遺構面)。
775	玉津田中遺跡第10次	兵庫県	A区基本層序	⑤・⑥	p40:⑤黄褐色~灰色砂礫(弥生時代中期末の洪水砂:中央部に分布)。⑥黄灰褐色細砂~極細砂(弥生時代中期末の洪水砂:南半部~中央部に分布)。	★弥生中期末葉。▼弥生中期。
776	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-N区	⑦	p64:(A-N区は)全長40mの調査区で、調査の結果、弥生時代中期~後期の水田遺構(第1水田層)、前期~中期の水田遺構(第2水田層)が確認された。(中略)④褐灰色粘質土(中世耕作土)。⑤暗灰褐色粘質土(弥生時代後期の土器含む)。⑥黄灰褐色粘質土。⑦灰色シルト~砂礫(洪水堆積層)。⑧灰色砂礫~茶灰色シルト質極細砂(洪水堆積層:南半部に堆積)。⑨暗灰色シルト(洪水堆積層:北半部~中央部に堆積)。⑩青灰色シルト質細砂~極細砂(弥生時代後期の洪水砂)。⑪暗灰色シルト(第1水田層)。⑫青灰色粗砂~極細砂(洪水堆積層)。⑬暗灰色シルト(第2水田層)。	▼弥生後期(⑩)。△弥生後期?
777	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-N区	⑧	同上。	▼弥生後期(⑩)。△弥生後期?
778	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-N区	⑨	同上。	▼弥生後期(⑩)。△弥生後期?
779	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-N区	⑩	同上。	★弥生後期。▼弥生中期~後期(第1水田層)。
780	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-N区	⑫	同上。	▼弥生前期~中期(第2水田層)。△弥生中期~後期(第1水田層)。

781	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑦	p64: (A-S区は)全長60mの調査区で、調査の結果、圃場整備前の溝、中世(鎌倉時代)の溝、弥生時代中期～後期の水田遺構(第1水田層)、弥生時代前期～中期の水田遺構(第2水田層)が確認された。(中略)⑤黄白色粘質土(中世遺構面)。⑥淡褐色粘質土。⑦淡灰黄色～褐灰色シルト質極細砂(洪水堆積層)。⑧灰色砂礫～茶灰色シルト質極細砂(洪水堆積層)。⑨灰色～青灰色砂礫・細砂(洪水堆積層)。⑩黄灰褐色極細砂～粗砂(洪水堆積層)。⑪暗灰色砂混じりシルト(洪水堆積層)。⑫暗灰色シルト(第1水田面)。⑬灰色粗砂～シルト質極細砂(洪水堆積層)。⑭暗灰色シルト(第2水田層)。	△鎌倉(⑤)。	
782	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑧	同上。	△鎌倉(⑤)。	
783	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑨	同上。	△鎌倉(⑤)。	
784	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑩	同上。	▼弥生中期～後期(第1水田層)。△鎌倉(⑤)。	
785	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑪	同上。	▼弥生中期～後期(第1水田層)。	
786	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	A-S区	⑬	同上。	▼弥生前中期～中期(第2水田層)。△弥生中期～後期(第1水田層)。	
787	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	B区	⑤	p65: (B区は)全長約50mの調査区で調査の結果、弥生時代中期～後期の水田遺構(第1水田層)、弥生時代前期～中期の水田遺構(第2水田層)が確認された。(中略)③褐灰色粘質土(中世耕作土)。④黄白色粘質。⑤暗灰色～黄褐色シルト(洪水堆積層)。⑥灰黄色シルト質極細砂(洪水堆積層)。⑦褐色シルト(第1水田層)。⑧黄褐色シルト。⑨青灰色粗砂～極細砂(洪水堆積層:安定していない)。⑩暗灰色シルト(第2水田面)。		
788	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	B区	⑥	同上。	▼弥生中期～後期(第1水田層)。	
789	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	B区	⑨	同上。	▼弥生前中期～中期(第2水田層)。△弥生中期～後期(第1水田層)。	
790	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	C区	⑥	p65: (C区は)全長約40mの調査区で、調査の結果、弥生時代前期～中期の水田遺構(第2水田層)が確認されたが、(中略)⑤褐色シルト(第1水田層)。⑥淡灰黄色～黄褐色シルト質極細砂(洪水堆積層)。⑦青灰色砂礫～粗砂(洪水堆積層:安定していない)。⑧青灰色極細砂(洪水堆積層)。⑨暗灰色シルト(第2水田層)。	△弥生中期～後期(第1水田層)。	
791	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	C区	⑦	同上。	△弥生中期～後期(第1水田層)。	
792	玉津田中遺跡第13次	兵庫県	C区	⑧	同上。	▼弥生前中期～中期(第2水田層)。△弥生中期～後期(第1水田層)。	
793	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	A・B区	⑥	p95: ⑤淡茶色極細砂(第1遺構面ベース)。⑥淡茶灰色細～中砂他(洪水砂層)。⑦濃灰茶色シルト(第1水田層)。⑧濃灰茶色細砂混じりシルト他(洪水砂層)。⑨濃褐色シルト(第2水田層)。p97: (第2遺構面は)弥生時代後期後半～古墳時代前期(布留期)を中心とする遺構面で、15-C区以北でのみ遺構が検出された。p98: (第3遺構面(第1水田面)の時期は)弥生時代中期～後期としか比定できない。(中略)(第4遺構面(第2水田面)の時期は)弥生時代中期。)。	△弥生中期～後期(第1水田面)。	
794	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	A・B区	⑧	同上。	▼弥生中期(第2水田面)。△弥生中期～後期(第1水田面)。	

795	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	C・D区	⑥	p96: ⑤-a黄灰色粘質土(第2遺構面ベース)。⑥淡茶灰色細～中砂他(洪水砂層)。⑦濃灰茶色シルト(第1水田層)。⑧濃灰茶色細砂混じりシルト他(洪水砂層)。⑨濃褐色シルト(第2水田層)。p97:(第2遺構面)は弥生時代後期後半～古墳時代前期(布留期)を中心とする遺構面で、15-C区以北でのみ遺構が検出された。p98:(第3遺構面(第1水田面)の時期)は弥生時代中期～後期としか比定できない。(中略)(第4遺構面(第2水田面)の時期は弥生時代中期。)	△弥生中期～後期(第1水田面)。
796	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	C・D区	⑧	同上。	▼弥生中期(第2水田面)。△弥生中期～後期(第1水田面)。
797	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	E区	⑥	p97: ⑤-a黄灰色粘質土(第2遺構面ベース)。⑥淡茶灰色シルト混じり細～中砂他(洪水砂層)。⑦濃灰茶色シルト(第1水田層、この地区ではほとんど存在しない)。⑧淡青灰色シルト混じり極細～細砂他(洪水砂層)。⑨濃褐色シルト(第2水田層、この地区ではかなり不明瞭)。p97:(第2遺構面)は弥生時代後期後半～古墳時代前期(布留期)を中心とする遺構面で、15-C区以北でのみ遺構が検出された。p98:(第3遺構面(第1水田面)の時期)は弥生時代中期～後期としか比定できない。(中略)(第4遺構面(第2水田面)の時期は弥生時代中期。)	△弥生中期～後期(第1水田面)。
798	玉津田中遺跡第15次	兵庫県	E区	⑧	同上。	▼弥生中期(第2水田面)。△弥生中期～後期(第1水田面)。
799	若松町遺跡	兵庫県	基本層序	3	p15:(第3層)は基本的には調査区全域で認められた。洪水により堆積した層を水田土壌化したもので、極細砂～粗砂からなる。(中略)当土壌層は12世紀以降に形成されたものと考えられる。この洪水砂上面から1の小型丸底壺が出土している。p45: 畠5の東側に部分的に第4層が認められない箇所がある。この部分でわずかに第4層の下層にあたる洪水砂の堆積(第13図第5層上面)が認められ、この洪水砂上面から弥生時代後期末～古墳時代初頭にかけたの土器が出土している。[山田清朝「地形環境の変化と土地利用」pp49-50]p49(第5表):(弥生時代後期に2度、弥生時代末～古墳時代初頭の直前(第2面直上)に1度、洪水に伴う後背湿地の埋没が起こる。)	★弥生後期。(2回)
800	住吉宮町遺跡第20次	兵庫県	基本層序	6	p60: 第6層は、調査区のほぼ全面を覆う粗粒砂を主体とする黄灰色系の砂質土層である。遺構の切り合いの状況から6世紀末～7世紀初を下限とする。p68:(古墳時代中期～後期の第3遺構面について)調査区全体を覆う洪水堆積層(第6層)を人力にて除去した段階で旧河道1-b・旧河道2と杭列3を検出した。	★6世紀末～7世紀初頭以前。▼古墳中期～後期。
801	今池尻遺跡第2次	兵庫県	流路202		p73:(第2遺構面)の流路202は流路201の最終段階の流れで、幅約6m、深さ約1.5mを測る。その埋土は大きく分けて下層の灰色砂礫層と上層の暗灰色シルト層～極細砂層に分かれ、当初は水流があったが、最終的には緩やかな流れとなったものと考えられる。この流路から溢れた流れが、流路201の黄褐色砂礫層を覆う青灰色極細砂層を堆積させており、この層から出土した遺物より、7世紀半ばにはほぼ埋まったものと考えられる。	△7世紀半ば。
802	新方遺跡平松地点第3次	兵庫県	I区基本層序	23	p187: 中世の遺構面である第10層を取り除くと、調査区の南半分では、その下位に室町時代の耕作土層とさらに下位に洪水砂層(第23層)が堆積していた。その層中には、平安時代の土器片が混じっている。(後略)p193: 本調査区では、厳密に時代を特定できる遺物を得ることができなかったが、調査区の南に隣接する新方遺跡第44次調査地点Ⅲ区では、水田は平安時代中期とされ、本調査区の河川跡からは平安時代後期の遺物が出土している。以上の点から、平安時代中期から営まれていた水田が、後期に入り洪水で埋没した可能性が高い。	★平安後期。▼平安中期～後期。○平安。△室町。
803	新方遺跡第44次	兵庫県			p197:(Ⅲ区では弥生時代前期～古墳時代前期の第4遺構面の下層に)無遺物の暗乳灰色シルト質極細砂～細砂層の土壌化層、淡乳灰色の洪水砂層を挟み、弥生時代前期の遺物を包含する黒灰色シルト層が堆積する。	▼弥生前期。△弥生前期～古墳前期。
804	新方遺跡第44次	兵庫県			p229: 古墳時代後期では流路が確認されたのみで、集落域を直接物語る遺構には恵まれなかった。流路SR202が機能していたのは、今池尻遺跡第3次調査SR101とほぼ同時期と考えられ、伊川が大きく氾濫した時期と考えられる。(後略)	★古墳後期。
805	新方遺跡野手西方地点	兵庫県			p13: 弥生時代中期前半以前は、微高地より1m程度低い湿地状の地形であったが、弥生時代中期前半には砂質層を基本とした堆積層により埋没している。p185: 野手・西方地区は、弥生時代前期末から中期前半初頭と中期後半に大規模な洪水に見舞われているが、前期末以前では洪水の痕跡は確認できない。(後略)	★弥生前期末～中期前半。

806	新方遺跡 野手西方 地点	兵庫県			p13: 弥生時代中期前半以前は、微高地より1m程度低い湿地状の地形であったが、弥生時代中期前半には砂質層を基本とした堆積層により埋没している。p185: 野手・西方地区は、弥生時代前期末から中期前半初頭と中期後半に大規模な洪水に見舞われているが、前期末以前では洪水の痕跡は確認できない。(後略)	★弥生中期後半。
807	二宮遺跡 第2次	兵庫県			p34: 今回の調査区では、7世紀の溝があった以外に、その後の人間活動を物語るようなものは何も見つからなかった。(中略) 川の上流にあたる今回の調査区より北西側のごく近い場所に13～14世紀のムラがあったが、ある日川ができるきっかけになった鉄砲水に襲われ、いっきに押し流されたのではないかと考えられる。	▼13世紀～14世紀。
808	二葉町遺跡 第14次 ～第21次	兵庫県	久保町5 丁目		p10: 褐色系の砂質土が遺構面となっている場所では、その層から縄文時代晩期の土器片が出土しており、同時期の洪水砂が堆積しているものと考えられる。	★縄文晩期。 ○縄文晩期。
809	寺田遺跡 第95地点	兵庫県	基本層 序	10	p6: 第10層は細砂～粗砂からなる白黄色砂層で土石流堆積層、または洪水砂層である。遺物の包含は確認していない。第10層を削ってSR02と谷が形成される。(中略)第11層は畿内IV様式の土器を少量包含している。(中略)当調査区では、最深部の遺構面である第5面(弥生時代中期初頭)から、第3面(古墳時代前期)までに少なくとも3回の土石流または洪水(第8・10・12層)があったことが確認された。	▼弥生中期後半(畿内IV)。△弥生後期末葉～古墳前期初頭(庄内～布留古)。
810	寺田遺跡 第95地点	兵庫県	基本層 序	12	p6: 第12層は白黄色砂層で細砂～粗砂で構成されている。層厚は1.4～2.8mに達し、部分的に直径50cm程度の礫を含む土石流堆積物層あるいは洪水砂層である。当面に覆われた面が第5面である。第5面は畿内II様式に相当する面で、この土石流は当時の生活に壊滅的な被害をもたらしたことが想像できる。当調査区では、その後、中期後葉(畿内IV様式)になるまで遺構・遺物は確認されていない。(中略)当調査区では、最深部の遺構面である第5面(弥生時代中期初頭)から、第3面(古墳時代前期)までに少なくとも3回の土石流または洪水(第8・10・12層)があったことが確認された。	▼弥生中期前葉(畿内II)。△畿内IV(第11層)。
811	若宮遺跡 第3地点	兵庫県	第3地点	3	p25: (第3層は)調査区全面を0.1～0.4の厚さで覆っている。にぶい黄色粗粒砂で、径0.2～1.0cmの極粗粒砂～細礫混入、しまりがよく、全体に酸化して褐色を帯びる。斜行層理が観察できる。上流域での河川氾濫に伴うものか、一時期荒廃したことが窺われる。p26: (第1遺構面として)第3層上面で調査区に並行する略東西方向の耕作痕を検出した。(中略)(第2遺構面として)1D・E区では第4b層上面で2D・E区では第5a層上面で耕作痕を検出した。p51: 検出遺構面は4面で、各々の想定時期は、第1面が近代、第2面が近世(中略)となる。	▼近世。△近代。
812	若宮遺跡 第4地点	兵庫県	第4地点	5, 6	p59: 第5層と第6層は第1遺構面を覆っている。第5層は細砂からなっており、径1cm程度の粘土ブロックを含んでいる。粘土ブロックを含んでいることから、宮川などから運ばれた洪水砂と粘質土を混ぜ合わせて耕作土をつくる方法で、洪水災害にあった耕作地を復旧していたことが推測される。p63: (前略)(第1遺構面は)15世紀以降の耕作面であることがわかる。	▼15世紀以降。
813	若宮遺跡 第4地点	兵庫県	第4地点	⑫	p70: 第3遺構面は第12層をベース層としており、自然流路SR01からオーバーフローした粗砂である第⑫層に覆われる落ち込み以外は第2遺構面と同一面である。p71: (前略)当遺構面の時期は滋賀里IV式(新相)期であることがわかる。p72: (前略)(SR01は)縄文時代晩期後半(滋賀里IV式(新相))に流れていたということが出来る。	★縄文晩期後半(滋賀里IV新)。
814	寺田遺跡 第130地点	兵庫県	第130地 点	第3遺 構面 ベース	p111: 第3遺構面と基盤となる暗黄色粗砂層は、弥生時代中期初頭の土器を含む洪水堆積層で、調査区全体に厚く堆積している。この洪水砂は下面で検出した谷地形を覆って堆積しており、最大で1.5mの厚さを測る。(第3遺構面)で検出した遺構は弥生時代中期後半の溝3条、土坑、ピット等計32基である。	○弥生中期初頭。△弥生中期後半。
815	寺田遺跡 第128地点	兵庫県	第1調査 区基本 層序	6-c	p22: (6層は)中世の耕作土および氾濫堆積物。a～c層の3層に分層される。(中略)6-c層は灰白色中粒砂を主体とし、黒褐色のシルト質砂からなり葉理が挟在する。本層は、調査区南西部付近のみに分布する。各堆積層の層相から、6-a層は畑地耕作土、6-b層は整地層ないし盛土、6-c層は氾濫堆積物であると推定される。(中略)5・6-a層に含まれる考古遺物は、中世の時期に該当するものの出現頻度はきわめて低く、大半が庄内併行期～古代の遺物で占められる傾向にある。(中略)(7層は)古代に形成された人為的攪乱を受けたと推定される堆積層。	▼古代。△庄内～古代。
816	寺田遺跡 第128地点	兵庫県	第1調査 区基本 層序	9a	p22: (9層は)弥生時代後期～庄内併行期に形成された氾濫堆積物。(中略)9層は、a層およびb層に細分される。9-a層は、弱い水平葉理をなす極粗粒砂～細粒の細礫。層相から氾濫堆積物と推定される。調査区南半部のみ分布する。	★弥生後期～庄内。

817	寺田遺跡 第128地点	兵庫県	第1調査 区基本 層序	11c	p23:(11層は)弥生時代中期の河道堆積物。a~c層の3層に分層される。(中略)11-c層は灰黄色を呈し、トラフ型斜交葉理ないし不明瞭な水平葉理をなす極粗粒砂~中礫で構成される。各堆積層で観察される層相から、11-a層は流路充填堆積物、11-b層は河岸ないし流路縁の堆積物、11-c層は氾濫堆積物と推定される。11-c層内からは、弥生時代中期の土器片が1点検出された。	★弥生中期。 ○弥生中期。	
818	前田遺跡 第20地点	兵庫県		3	p24:第2層は近代の耕作土層である。(第3層は)厚さ約6cm、オリーブ褐色砂質土層である。第3層は比較的薄い氾濫堆積層である。	△近代。	
819	前田遺跡 第20地点	兵庫県		5	p24:(第5層は)厚さ約17cm、オリーブ褐色砂質土層である。第5層は厚みのある氾濫堆積層である。p26:(第6b層は)中世の遺物包含層である。	▼中世。	
820	前田遺跡 第20地点	兵庫県		7	p26:(第6c層は)古代の遺物包含層である。(第7層は)厚さ約9cm、茶褐色極細砂層の洪水層である。その上面を第2遺構面とした。(中略)第8層は芦屋川右岸域における扇状地に共通に見られる黒色土層であり、縄文時代晩期~弥生時代前期に形成された堆積層である。(中略)この前後ををさんで特に前の時期については層位からも窺い知れるように頻繁な氾濫堆積が行われ芦屋川右岸域における扇状地形成を垣間見ることができる。	▼縄文晩期 ~弥生前期。 △古代。	
821	前田遺跡 第20地点	兵庫県		9a	p24(第2表):(第9a層は)弥生時代前期の氾濫堆積層。)p26:(第9a層は)厚さ約7.5cm、暗灰黄色微砂層。	★弥生前期。	
822	前田遺跡 第20地点	兵庫県		9b	p24(第2表):(第9b層は)氾濫堆積層。)p26:(第9b層は)厚さ約11cm、灰黄色砂層。	△弥生前期。	
823	前田遺跡 第20地点	兵庫県		10以下	p26:第10層以下は自然流路及び氾濫堆積の層位である。	△弥生前期。	
824	寺田遺跡 第151地点	兵庫県	第4遺構 面SR401		p19:SR401の埋土は、砂層と粘質土、シルト層の相互堆積であり、洪水等による埋没と滞水が繰り返されながら埋没していった状況が推定される。遺物包含層である黒灰色粘質土下の淡灰色極細砂には径20cm程の流木が混入しており、比較的規模の大きな洪水であったものと考えられる。尚、この流木について加速器質量分析法による放射性炭素年代測定を実施した結果、別稿のとおりBC415~385の時期の可能性が高い事が示された。p30:(SR401について)南肩を中心に弥生時代前期後半から中期初頭の遺物が多数出土している。出土遺物は過渡期の様相を示しており、河道からの出土ではあるが、一括性が高いもので注目される。	▼弥生前期 後半~中期 初頭。○415 ~385BC。	
825	寺田遺跡 第151地点	兵庫県	第3遺構 面SR301		p26:(第3遺構面では)北東から南西方向の河道(SR301)の南側の肩は検出されたが、(中略)砂層を中心とする堆積層で、土層の観察からある程度埋没後、流路状に存在した部分に洪水砂が押し寄せて埋没したものと推定され、最終埋没であるSR301の最終堆積層とSR301-東は壁面が抉られ、分岐点には流木が流入する等、洪水が激しいものであったことが窺われる。河道内からは弥生土器片が出土した。(後略)	○弥生。	
826	寺田遺跡 第159地点	兵庫県		第3・4 遺構面 間	p67:第3遺構面からは弥生時代中期頃のものと考えられる遺構が検出された。この第3遺構面は最大1mの厚さで堆積する洪水砂層である。第4遺構面は、この厚く堆積する洪水砂層の下層の黒灰色混礫シルト層の上面に検出される。弥生時代中期頃と考えられる遺構が検出されている。	▼弥生中期。 △弥生中期。	
827	寺田遺跡 第159地点	兵庫県		第1・2 遺構面 間	p70:第2遺構面は、当初東側は第1遺構面下層の土石流上面に存在するものと予測され、(中略)第2遺構面からは弥生時代後期頃と考えられる竪穴住居1棟、北東から南西方向の流路及び北西から南東方向の溝を検出した。p71:第1遺構面では高密度で遺構が検出され、古墳時代から中世にかけての掘立柱建物2棟、溝2条、土坑3基、ピット110基余を検出した。	▼弥生後期。 △古墳~中 世。	
828	月若遺跡 第96地点	兵庫県	基本土 層	8	p16:7層は、黒褐色粘質土であるが、砂や細礫等が多い部分や土壌化の強弱が認められ、全体的にみると雰囲気は一樣ではない。おそらく、長い時間をかけて徐々に堆積していったものと推測される。これは、土石流による堆積(8層)の後、その上面に土壌が形成されていく過程を示している可能性が高い。弥生時代後期後半~古墳時代前期の土器を含んでいるが、本調査地西方の既往調査地点と比べて土器の包含量は少ない。弥生時代後期~古墳時代前期の土壌層と考えられる。8層は、にぶい黄褐色砂質土である。当層は、第3遺構面を覆っている。中粒砂を主体とし、粗粒砂・小礫が極わずかに混じる。部分的に暗褐色ブロック土が混入するなど、極めて不均質である。(中略)第4遺構面を覆っている。SR02断割1では、当層に対応すると考えられる黒褐色砂質土から縄文時代早期の山形押型文土器が1点出土したが、表面が摩滅しており、後世に混入した可能性が高い。他に遺物はまったく出土しておらず、当層の堆積時期は不明である。	△弥生後期 ~古墳前期。	
829	思い出遺 跡第14区	兵庫県	溝6		p30:(溝6は)調査区東端に位置する。(中略)この溝の堆積土は灰砂礫層を中心とし、黒褐色粘質土層が帯状に包含する。この灰砂礫層は遺構として掘削された部分だけでなく、広い範囲に広がり、一時的な大水等の氾濫による堆積であることをうかがわせる。p30・33:(前略)8世紀後半頃まで、この溝が機能していたものと推測される。	▼8世紀後 半。	

830	岩屋北町遺跡	兵庫県	基本層序	IV上	p10:IV層は河道成立前の土層で遺物の包含はなく、地山とみてよい。(中略)調査区南東部ではIV層上部を切り込む洪水層らしき砂層が広い範囲で広がっていた。p13:河道内下層は極めて複雑な土層で、土石流に起因する礫層や砂層・シルト層など、黄色系・灰色系の土層が錯綜した堆積状況を示す。しかしながら、河道横断面の土層を詳細に検討すると大きく三つに分けることで、(中略)流路Aは、調査区北半では河道内西部を流れ、南半ではくの字に折れて東側へ流れを変え、径10~30cm程度の花崗岩礫を多量に含む土石流(Ⅲ-6層)で埋まっていた。間に灰色シルトを挟む部分があるため土石流の前後二回にわたるようであるが、幅3~4m、検出面からの深さ1.8~2.0mをはかり、少量ではあるが、出土した遺物から7世紀に形成された流路と思われる。(後略)	△7世紀。	
831	多遺跡第10次	奈良県	基本層序	VI	p231:Ⅶ層は水田耕土、Ⅵ層はこれを覆う氾濫時の洪水砂層と解釈するが、Ⅶ層は同様の土質をもちながらもやや明るいⅦa層とやや暗いⅦb層に二分することができ、Ⅶa層に顕著な鉄とマンガンの縦縞状斑をもつ水田耕土なのであろう。p236:水田はⅦa層およびⅦb層を耕土とし、(中略)水田の経営時期は、河道埋没が全く完了する10世紀後半~11世紀初頭を上限と考える事が合理的であり、その土砂による埋没時期は後述するようにⅥ層砂層に包含される瓦器等々から13世紀前半と考えられるのである。	★13世紀前半。	試掘調査
832	平城京右京六条三坊三坪	奈良県		IVb	p5:Ⅶb層としたものは、奈良盆地の各所で検出があいついでいるⅦ層洪水砂(13世紀中頃)ではなく、広陵町箸尾遺跡第7次調査で確認したⅦa層水田耕土下の洪水砂に対応するものと考えられ、その洪水年代は12世紀後半段階と考えられている土層である。	★12世紀後半。	
833	日之出東本町遺跡	奈良県		VI	p5:Ⅶ層とした暗灰色粘質土は、土中に傘管状の褐色を呈した鉄・マンガン溶解斑がみとめられ、水田耕土と考えられるが、この土層は従来の大和平野での水田跡調査の経験からすれば、田原本町多遺跡の13世紀前半(~中頃)埋没水田土壌、あるいは広陵町箸尾遺跡でも同様の、Ⅶ層水田埋没後に形成され13世紀前半(~中頃)に埋没した水田土壌(Ⅶ層)にきわめて類似している。従って、[Ⅶ]層上に堆積した[Ⅵ]灰褐色砂層は13世紀前半~中頃の洪水砂と考えて大過あるまい。	★13世紀前葉~中葉。	試掘。
834	城島遺跡	奈良県	流路3・5		p2:トレンチは自然流路のなかに位置し、流路の肩は検出されなかった。西壁断面を観察すると、流れの方向は基本的に東西方向で、大別すると7期に区分される。(後略)p3:今回検出した自然流路は古墳時代前期の洪水で、南から北に河道をふったことが確認された。	★古墳前期。	
835	下田味原遺跡第1次	奈良県			p10:(SD1-aの)中層では弥生時代後期の土器片が微量出土する。pp11-12:調査区では、溝を4条検出した。なかでもSD1は、掘り直し前後の2時期にわたって存在した。当初のSD1-aは、最大で幅7.0m・深さ1.1mと規模の大きいものである。人工溝と捉えられるが、溝内部の下層に流木などの植物遺体が堆積することから、自然流の可能性も考えられる。遺物は下層から出土し、上層ほど含まれていない。土層の堆積状況は常時は流量が少なく、天災によって運ばれた土砂で一気に埋没したと考えられる。その後のSD1-bは、最大幅4.5m・深さ0.55mとSD1-aより規模が小さい。この溝が屈曲部をもち蛇行しているにも関わらず、埋没したSD1-aの流路域内に収まっていることは、当時の人々が湿地状のSD1-a跡を流路として認識できる間に掘りなおしたことを示していると思われる。	○弥生後期。	遺構の時期記載なし。
836	鴨都波遺跡第17次	奈良県	1712区		p8:検出されたのは地山を雛壇状に削り出したものであり、人工的な河岸の南岸であると考えられる。現状で4段確認できるが、比高差は1mである。構築時期は不明であるが、古墳時代中期頃に洪水砂によって埋没している事が確認できる。	★古墳中期。	試掘。1713区にも古墳時代の洪水砂。
837	本郷遺跡群2001	奈良県	第3トレンチ		p6:(前略)(第3トレンチの青灰色シルトは(本郷川が古墳~奈良時代頃に氾濫した時分の、土石流に伴う堆積層であると考えられる。p9:(調査地全般について)第3トレンチを除けば、水田耕作土より下の堆積は本郷川の旧本流及び洪水に伴う氾濫による堆積であり、ほとんどの地点で安定面を検出することはできていない。出土遺物の時期からすると、弥生時代以降、数回の大きな氾濫があったものと考えられる。	★古墳~奈良。	遺構の時期記載なし。
838	茗荷櫻谷遺跡	奈良県	(基本層序)	V・VI	p80:(古墳時代前期について)遺構のベースとなる砂層からもその時期の土器が出土した。砂層は、調査区のある谷の堆積土層であり、この時期に出水などによる砂層の堆積があった中で、遺構も形成されるという不安定な環境であったことがわかる。	★古墳前期。	

839	櫛羅遺跡 2002-1次 調査	奈良県	2002-1 次調査 区	X	p100:2つの調査区の土層観察結果から、この地点における土地環境の推移は次のように復元できる。1.洪水によって砂・シルト・粘土が堆積し、その後には長期間の安定面が形成される。出土した土器から縄文時代後期以前と考えられる。(X層)2.大規模な洪水による浸食作用によって、第1トレンチ部分に段丘崖が形成される。洪水の時期は奈良盆地内の状況等を勘案すると、B.P.3000年頃のものと考えられる。(IX層)3.洪水が繰り返されるが、洪水と洪水の間には、一定期間の安定面が形成されている。(VIII層)4.大規模洪水が起きる。(VII層)5.畑作が繰り返し行われる。中世と推測される。(VI層)6.小規模の洪水が繰り返された後、再び畑作が行われる。(V層)7.大規模洪水が起きる。近世のものとして推測される。(IV層)8.復旧後に畑作が再開される。(III層)	★縄文後期以前。	
840	櫛羅遺跡 2002-1次 調査	奈良県	2002-1 次調査 区	VIII	同上。	▼3000BP。 △中世。	
841	櫛羅遺跡 2002-1次 調査	奈良県	2002-1 次調査 区	VII	同上。	△中世。	
842	櫛羅遺跡 2002-1次 調査	奈良県	2002-1 次調査 区	IV	同上。	★近世。	
843	本郷遺跡 群2002年 度	奈良県	各トレン チ		p246:各トレンチの耕作土・造成土層の下では、河川堆積層・段丘上砂礫層・岩盤層を確認したのみであり、(中略)11世紀後半頃の洪水・氾濫が最も大きかったと推測され、(後略)。	★11世紀後半。	試掘。遺構なし。
844	飛鳥京跡 第150次	奈良県	基本層 序	IV	p317:Ⅲ層は古代末から中世にかけて幾層にもわたる堆積である。厚さ約0.6m。Ⅳ層は東の丘陵から一気に流れ込んだと思われる土石流の砂層堆積である。Ⅳ層は飛鳥時代から存続する溝SD0201の中にも大量に流れ込んでいる。また、SD0201の西壁を越えてさらに西にある性格不明な遺構SX0202の埋土の上層にも堆積している。この土層の下面が飛鳥時代の遺構面となる。p321:SD0201に大量に流入したⅣ層からは、平安時代の灰釉陶器段皿、緑釉陶器皿、土師器皿・椀、黒色土器A椀が出土した。9世紀後半以降に位置づけられる土器であろう。SD0201が土石流で埋まった時期が、ほぼこの時期にあたるであろう。[林部均・南部裕樹「第150次調査地点における土地環境の変遷」pp323-324]p324:平安時代には、大規模洪水の時期を挟んで、数々の洪水に見舞われたようである。	★9世紀後半以降。▼飛鳥以降。○9世紀後半以降。△古代末～中世。	
845	平城京右 京三条三 坊六坪	奈良県			p195:近世の耕作面とそれに伴う南北方向の畦畔を検出した。断面で上下2面の耕作土を確認しており、上下の耕作土の間に洪水砂と考えられる粗砂層が入ることから、下層耕作面が洪水で埋没した後、新たに耕作面が築かれたと考えられる。畦畔は上幅約1.4m、下幅約2m、高さ50cmを測る。細砂で築かれており、下層での畦畔に対する掘り込みと、洪水後の畦畔の再構築という少なくとも2回の補修痕跡が認められる。	▼近世。△近世。	
846	萩之本遺 跡	奈良県	基本層 序	IV	p131:(8区におけるⅣ層直下の水田について)水田を覆うⅣ層には弥生時代前期までの遺物が含まれることを勘案すると、水田の時期を新しく見積もるべき要素は少ない。そのため、調査中の所見では弥生時代前期に形成された水田である可能性がもっとも高いと考えておく。水田が洪水砂によって覆われ放棄されたのちに、弥生時代後期に溝4が形成される。	▼弥生前期。 △弥生後期。	
847	一町Ⅲ区・ Ⅳ区	奈良県	Ⅳ区		p176:自然流路1はおおよそ南北方向に流れる自然河道で、調査区北端で北東にふれる。(中略)(自然流路1は)弥生時代後期後半から古墳時代中期の遺構と考えられる。p179:水田はその大半を自然河道1の洪水砂によって覆われており、その洪水砂を掘削すると畦畔及び耕作面と思われる平坦面が確認でき、多数の足跡を検出した。水田耕土層からは遺物は出土しなかったが、自然河道1と方位を同じくすることから、水田はいずれも自然河道1とほぼ同時期の遺構であると考えておきたい。	▼弥生後期 後半～古墳 中期。	
848	飛鳥京跡 第160次	奈良県			p359:飛鳥京跡内郭推定地域の西辺の西南から北方にかけての調査であったが、飛鳥時代の遺構は確認できなかった。また、内郭西辺が大規模に飛鳥川の氾濫で削られている時期に関しても、内郭造営以前か以後かの判断はできなかった。内郭西南隅では、古墳時代後期の土器を含む河川堆積層が確認されたが、大規模且つ一時の河川氾濫に伴うものと考えれば、比較的良好な土器を採取したとはいえ、この河川堆積の起こった時期をこれらの土器で代表できるかどうかは大いに疑問である。(中略)河川堆積の形成の上限を出土した須恵器のTK209型式頃と考えるのが妥当と思われる。	▼TK209。	
849	能峠中島 遺跡	奈良県	竪穴住 居跡SI- 01	SI-01の 上	p17:(竪穴住居跡SI-01について)微丘陵地の上位部中央に位置する古墳時代前期の竪穴住居跡である。pp17-18:覆土は暗褐色土・暗褐色砂質土を基本とし、上層には10～50cm大の礫を多量に含んでいる。p30:(前略)(調査地では)布留式(布留2式)になり再び集落が営まれる(SI-01)が、洪水により集落は放棄され、弥生時代後期に再掘削されたSD-01も埋もれてしまう。その後、6世紀前半まで徐々に埋積が進行し(Ⅱ層)、6世紀前半の洪水(Ⅰ層)によりSD-01は完全に埋没する。	▼布留2。△6 世紀前半。	

850	曲川遺跡	奈良県	北調査区 の SX0024		p13:調査区の大部分を占める旧河道SX0024は、縄文時代後・晩期までに埋没が始まり、弥生時代中期までには調査地周辺は陸化している。しかし、その後も氾濫が繰り返し起こるような不安定な状況が続いたとみられ、古墳時代前期にいたっても土地利用は低調であったようである。	★縄文後期 ～古墳前期。	断続的に複数 回洪水が起きた とみられる。
851	曲川遺跡	奈良県	北調査区 の SD0015		p18:(SD0009は)調査区中央、SD0015の上部に位置する。幅0.41m、深さは最大で0.07mを残すが、浅い窪みとして検出されたのみである。埋土は単層で、砂層が堆積する。出土遺物はわずかで、土師器、サヌカイト剥片があるが、いずれも細片である。古墳時代前期の氾濫の痕跡と考えられる。	★古墳前期。	
852	曲川遺跡	奈良県	北調査区 の SD0017		p20:(SD0017は)調査区南西に位置する溝で、南東から北西へ直線的に流下する。幅4.50m、深さは最大で1.36mを測り、断面形は立ち上がり緩やかなU字形である。流路の右岸にはオーバーフローした粗砂が堆積する。(後略)p21:出土遺物から弥生時代中期の流路と考えられ、集落もしくは水田への導水を目的としたと考えられる。	★弥生中期。	
853	曲川遺跡	奈良県	北調査区 の SD0024	弥生中 期の埋 土	p30:(SX0024は)調査区西側で左岸を検出した河道で、南から北方向へ流下する。(中略)縄文時代晩期の埋土が弥生時代中期の埋土に大きく削られていることから、河道の埋没が進行し、ほぼそれが完了した時点で大きな出水があったものと考えられる。さらにSD0017等がこの河道の埋土に切り込まれることから、急速に再埋没が進んだものと考えられる。	★弥生中期。 ▼縄文晩期。	
854	下永東方 遺跡	奈良県			p22:(自然流路SX03は)調査区東半の、12世紀代の耕作痕跡と考えられる素掘りの小溝の下層で検出した。(中略)埋土は灰白色～灰色の砂とオリーブ黒色の粘土が互層状に堆積していた。砂及び粘土には弥生時代前期～中期初頭の土器の小片が僅かに認められた。なお、下層の遺構は、すべてこのSX03の氾濫に関わると推定される砂層をベースにして検出されている。	★弥生前期 ～中期初頭。	
855	下永東城 遺跡	奈良県	基本土 層	16	p30:(第16層は)青灰色砂質地土。(後略)p143:(第1号遺物集中地点について)この遺構の覆土は、奈良・平安時代以降に起こった氾濫に伴う河川堆積土である基本土層16層である。	★平安以降。	
856	下永東方 遺跡	奈良県	第5次調 査区		p43:上層遺構の基盤層である砂層(厚さ30cm程)は、弥生時代前期～中期前葉の土器を含んでおり、その間の洪水で堆積したものと考えられる。この砂層を除去すると、黒褐色粘土層(下層遺構面)となり、下層遺構面の南端では大和川旧河道を検出している。	★弥生前期 ～中期前葉。 ○弥生前期 ～中期前葉。	
857	唐古・鍵遺 跡	奈良県	東環濠 第91次 調査区		[藤田三郎「唐古・鍵遺跡の集落構造と変遷」pp195-206]p197:(弥生時代中期第2段階について)中期第2段階は、大和Ⅲ・Ⅳ様式の時期にあたり、大環濠集落の成立と内的発展期にあたる。唐古・鍵の集落は、大和Ⅱ-3-b様式乃至Ⅲ-1様式に前期段階の3つの地区を取り囲むように内濠(以下、大環濠とする)を掘削し、統合された大規模集落へと変貌を遂げることになる。この段階で北地区に存在した前期の河跡(流路)は、ほぼ埋没したと考えられる。ただし、この部分は低地部には変わりなく突発的な洪水(砂層堆積)にみまわれ、特にⅣ様式を前後する時期の北方砂層やその起点となる遺跡東南部の状況から、環濠集落内部を貫流するような低地部を有していた可能性がある。このことは唐古・鍵集落にとって、洪水対策をいかにするか、排水が有効に機能するのかが集落維持の要件であったと思われる。	★弥生中期 (大和Ⅲ～ Ⅳ)。	確認調査。
858	唐古・鍵遺 跡	奈良県	東環濠 第91次 調査区		[藤田三郎「唐古・鍵遺跡の集落構造と変遷」pp195-206]p202:弥生時代後期初頭～前半は、大和Ⅴ・Ⅵ-1・2様式に相当する。この段階は、環濠の埋没と再掘削による集落の維持・拡大期にあたる。中期段階に成立した各環濠も埋没による再掘削や溝浚えをおこなっているが、大和Ⅳ-2様式段階の埋没は、第19次調査等で確認されているように大規模な洪水砂層による埋没であってかなり状況の異なるものである。ただし、第61次調査において確認した砂層は、大和Ⅲ様式後半まで遡る可能性もあり、この段階から度々洪水による埋没を経験していた可能性がある。中期段階と後期初頭段階の違いは、環濠がほぼ埋没した後に縮小した形で再掘削することである。中期の大環濠(内濠)の規模はなく、環濠の条数を増やすことで環濠集落を維持することになる。(後略)	★弥生後期 初頭～前半 (大和Ⅴ～Ⅵ -2)。	確認調査。
859	曲川遺跡	奈良県	Loc.1	6	[辻本裕也「自然科学的分析の結果」pp97-112]p105:6層は、上方細粒化する細粒～極細粒砂～シルトからなる。(中略)層相からは、氾濫堆積物の可能性がある。(後略)	△弥生前期。 (4層)	
860	曲川遺跡	奈良県	Loc.1	5	[辻本裕也「自然科学的分析の結果」pp97-112]p105:5層は見かけ上塊状をなす極細粒砂質シルトからなり、土壌構造が発達する。氾濫原ないし後背湿地の堆積環境で形成された氾濫堆積物であり、本層直上からの土壌形成があったことが示唆される。(後略)	△弥生前期。 (4層)	
861	曲川遺跡	奈良県	Loc.1	4	[辻本裕也「自然科学的分析の結果」pp97-112]p109:4層は上方粗粒化するシルトから極細粒砂質シルトへ上方粗粒化する、逆級化層からなる。(中略)4層は氾濫原ないし後背湿地の堆積環境で形成された氾濫堆積物と判断できる。(中略)年代は、遺物・遺構の検出状況から弥生時代前期と推定される。その後、4層を浸食する流路が形成される。(後略)	★弥生前期。	

862	曲川遺跡	奈良県	Loc.1	3	[辻本裕也「自然科学的分析の結果」pp97-112]p109:(4層の)年代は、遺物・遺構の検出状況から弥生時代前期と推定される。その後、4層を浸食する流路が形成される。3層は、この流路充填堆積物と、側方変化する河岸に堆積した氾濫堆積物からなる。河岸に位置する1地点では土壌構造が発達することから、堆積時・後に土壌が発達する時期を挟んでいたことが推定される。本層上面では、弥生時代中期の遺構が確認されており、堆積環境とも同調的である。	▼弥生前期。 △弥生中期。
863	布留遺跡	奈良県			[金原正明「第6章 考察・研究 1 布留遺跡周辺の地形分類」pp385-386]p386:三島(里中)地区では、古墳時代中期の薄い白色砂層がほぼ全面に分布し、この時期にも洪水があったことを示す。以後の時期では、別所(三反田)地区では下刻した谷地形が中世の砂礫で埋積し、近世には水田化されている。以上からみて、布留川扇状地は縄文時代には形成されており、以後、何度からの比較的規模の大きい洪水や埋積は、縄文時代後期前半、縄文時代晩期、古墳時代中期、奈良時代後半から平安時代前半、中世の5時期がある。これらは湿潤化や温暖化の気候の変化に関係すると考えられる。	★縄文後期前半。
864	布留遺跡	奈良県			同上	★縄文晩期。
865	布留遺跡	奈良県			同上	★奈良後半 ～平安前半。
866	布留遺跡	奈良県			同上	★中世。
867	野田・藤並地区遺跡	和歌山県	野田地区遺跡		p22:(弥生時代後期末～古墳時代前期について)この時期の堆積状況は、段丘より流れ込んで堆積した層、有田川の氾濫によると考えられる層、この二種類の層共、他の時代の堆積層に比べて、より多く堆積する。(中略)(平安時代前～中期(9～10世紀代)について)この時期は、前代に比べて沖積層の、堆積が顕著でない。溝群は、標高11m前後に集中する。有田川の氾濫による堆積土も少ない。	★弥生後期末葉～古墳前期。
868	田屋遺跡	和歌山県			[田屋集落の変遷]pp176-187]p181:SD01の堆積土の分析により、田屋の集落は、気候の激変による氾濫原の動向に大きく左右されたことが読み取れる。IVb期以降に見られる放棄水路堆積物の植物遺体や有機質に富む層準は、水位の低下や堆積環境が静穏化する時期を示していると考えられる。寒冷気候の下では、稲の生育にとっては良い条件とはいえないのであるが、逆に安定した気候が氾濫原における集住をもたらしたものと考えられるのである。しかし、VIa期にやや温暖化へと転じ、氾濫原の洪水を誘発させ、集落は不安定化し堅穴住居を激減させていった。さらにVIa期末には廃村へと追い込まれている。この大きな要因は、現地表面に残る旧河道の形成による氾濫原の荒廃にあったものと考えられ、気候の温暖・湿潤化による低地集落の居住地が沼沢化したことがあったものと推測される。p184(第19表): (田屋集落では、弥生時代後期(2世紀前半)に大氾濫がありSD01・16・22が形成され、6世紀後半にも氾濫、飛鳥奈良時代(7世紀後半)に大氾濫で現旧河道が形成された。)	★弥生後期(2世紀前半)。
869	太田・黒田遺跡第1次	和歌山県	遺構182		p26:B区の遺構182は洪水痕跡の可能性はある。遺構からは陶器片などがわずかながら出土し、江戸時代以降に形成された遺構と考えられる。しかし詳細な時期を示す資料は出土していない。	★江戸以降。
870	太田・黒田遺跡第1次	和歌山県		3-2・3-3	p29:3層はシルト質の3-1層と砂礫層の3-2層・3-3層に細分でき、後者は洪水堆積の可能性はある。3-1層は調査区全域に厚く堆積しているが、3-2層・3-3層は全体には広がらず、流路や溝の埋土として堆積している場合もある。調査中は3-2層上面遺構としていたが、土層断面などを検討した結果、3-2層上面を切り込む遺構はほとんどなく、3-2層で埋まっている遺構が多いため、3-2層下面遺構と呼称する。(中略)これらの遺構からは須恵器や土師器など飛鳥～奈良時代の遺物が多く出土している。一部古墳時代後期に遡る可能性がある。	▼飛鳥～奈良。
871	西飯降II遺跡	和歌山県	西飯降II遺跡06-1区の基本層序	間層	p11:第4-3層 2.5Y黄灰色系細砂で風化礫を含み、1-2層に細分される。西飯降II遺跡(06-1区)南西(1-2区)では東側に落ちていく谷地形を呈し、第4-4層の上層に第4-3層が堆積する。古墳時代の堅穴建物や自然流路の埋土となる。間層 暗色傾向を示す堆積土で砂礫を多く含む洪水砂層である。第4-3層下面での大半の遺構の埋土となり、1-3層に細分される。第4-4層 10YR黒褐色系シルト。弥生時代中期の土器を包含する。弥生時代中期と古墳時代前期の遺構の埋土となっている。p22-25:(西飯降II遺跡06-1区)について)上層遺構面では、第4-2層下面で古墳時代後期の堅穴建物3棟をはじめとして、古墳時代後期から中世までの焼成土坑、溝、自然流路を検出している。pp43-49:(古墳時代前期の遺構は布留2式・布留前半期のものが多い。)p255:古墳時代後期の遺構は西飯降II遺跡(06-1区)に集中し、竈をもつ堅穴建物3棟、自然流路、溝、焼成土坑3基、鑄造炉を検出している。遺構の時期は6世紀(TK10～TK43型式)である。	▼古墳前期(布留2・布留前半)。 △古墳後期(6世紀:TK10～TK43)。

872	西飯降Ⅱ遺跡	和歌山県	西飯降Ⅱ遺跡06-2区、丁ノ町・妙寺遺跡の基本層序	間層	p12: 第4-2層 10YR10YR褐色系~2.5Y共灰色系シルト。遺物は土師器、須恵器を含み、古代(9世紀後半)以降に堆積する。西飯降Ⅱ遺跡2-3区、2-4区、丁ノ町・妙寺遺跡1-1区・1-2区下面では古代の水田を検出している。地点によってはさらに細分できる。また、丁ノ町・妙寺遺跡の西半では、第4-2層直下で第4-4層が堆積する。間層 2.5Y黄灰色~灰白色系シルト、遺物の包含量は少ない。調査地の中央埋没谷には、洪水砂層である粗砂礫主体の堆積層である1-3層が認められる。第4-4層 10YR黒褐色~5Yオリーブ黒色系シルトに、5Y灰オリーブ色系風化礫を多量に含む。弥生土器・土師器を包含する。第4-4層下面では、弥生時代中期から古墳時代前期の遺構面を形成する。丁ノ町・妙寺遺跡では、地形は西に高く上り、第4-2層の直下に堆積する。(後略)	▼古墳前期。 △9世紀後半(第4-2層)。
873	西飯降Ⅱ遺跡	和歌山県	西飯降Ⅱ遺跡06-2区の水田		p95: 上層遺構面である第4-2層下面では、遺構は希薄であるが、古代から中世までの掘立柱建物、土坑、自然流路を検出している。調査区西半から丁ノ町・妙寺遺跡の調査区東半にかけては鎌倉時代以降の水田の下面で洪水層と考えられる間層を検出し、この洪水層にバックされる形で平安時代の水田を検出した。(後略)p97: 大半の水田跡は出土遺物が少ないため、時代の判定は困難であるが、今回、わずかながら溝1号や水田耕作土内から平安時代前期(9世紀後半)の土器が出土した。また、耕作土は洪水層にバックされていることから攪乱を受けていないと判断できる。遺構の時期は、平安時代前期(9世紀後半)と考えられる。	▼9世紀後半。 △鎌倉以降。
874	鳴神Ⅴ遺跡	和歌山県	Ⅲ区南東部の河道氾濫原		p19: (江戸時代の遺構: 河川氾濫原について) Ⅲ区南東部に位置し、Ⅲ区の面積の約7割をしめる。埋土は暗灰褐色砂質土で底は鉄分により褐色に変色している。高低差などから北東から南西の方向に河が流れていたと考えられる。氾濫の時期は埋土中に肥前陶磁の染付が含まれていることから江戸時代と考えられる。	★江戸。
875	岡村遺跡第2次	和歌山県		5a~5c	p17: 第5a層(5Y3/2(オリーブ黒)粗砂)は10cm、第5b層は(2.5Y5/3(オリーブ褐)粗砂(小礫を含む))は約10cm、第5c層(2.5Y4/3(オリーブ褐)粗砂)は約10cmの厚みで堆積しているが、これらは堆積状況の観察の結果、河道の氾濫によるものであり、古墳時代後期のものと考えられる。	★古墳後期。
876	岡村遺跡第2次	和歌山県		5c	p17: 大溝(SD01)がほぼ埋没した上面において弥生時代後期の水田遺構を検出した。しかし、この水田遺構は古墳時代前期に河道の氾濫を受けて大部分を削平されている。p18: (前略)調査区北東側において、古墳時代前期の河川氾濫に伴い形成されたとみられる落ち込み状の堆積(第5c層)を検出した。これは、河川氾濫に伴う一時期の流路であるとみられ、調査区内において水田遺構の大部分を削平するものである。検出規模は、幅約5m、長さ約6.5m以上、最深部で約20cmを測る。埋土内から庄内式~布留式併行期とみられる遺物が出土した。	★古墳前期。
877	岡村遺跡第2次	和歌山県	SX-3		p18: 弥生時代中期の遺構のうち中期中葉とみられるものは、SK-3~5、SX-3、中期後葉のものは、SD-1・2、SK-1・2、SX-1・2である。p18: (SX-3は)調査区西側において検出した遺構であるが、河川氾濫に伴う堆積とみられる。東西2m以上、南北6m以上、深さ10~30cmの規模を測る。埋土からは中期中葉の壺などが出土した。	★弥生中期中葉。
878	岡村遺跡第2次	和歌山県	SX-1		p18: 弥生時代中期の遺構のうち中期中葉とみられるものは、SK-3~5、SX-3、中期後葉のものは、SD-1・2、SK-1・2、SX-1・2である。p19: (SX-1は)調査区西側において検出した不定形の遺構であるが、河川氾濫に伴う堆積とみられる。東西3.7m以上、南北5.5m以上、深さ10~20cmを測る。	★弥生中期中葉。
879	岡村遺跡第2次	和歌山県	SX-2		同上。	★弥生中期中葉。
880	妻木法大神遺跡	鳥取県	2区		p95: 1区側と同様に弥生時代後期から古墳時代後期にかけて流れたとみられる小規模な河道を検出している。埋土が比較的細かな礫と砂質土で構成されるため、周辺の河川から溢出した水が一時的に流れた流量変化の激しい河道であったと推測される。河道堆積物中の少数の遺物からは時期の特定は困難であるが、この時期の気候変動が小河道の形成に係る可能性は考えられる。	★弥生後期~古墳後期。
881	茶畑六反田遺跡0区	鳥取県		Ⅱ	p13: (Ⅰ層では)近世後期の国産陶磁器が主体的に出土する。(Ⅱ層は)灰色砂質土。(中略)溝7から溢れ出た洪水砂層と考えられる。遺物は貿易陶磁器が多く、15世紀代を主体とする。この下面で1区から続く耕作痕を検出している。p40・44: (Ⅲ層上面の)遺構面は厚く灰色砂質土(Ⅱ層)に覆われており、同層から出土した陶磁器類からみて、これらの遺構は15世紀代のものといえよう。	▼15世紀。△近世後期。

882	青谷上寺地遺跡第2次～第7次	鳥取県	南西区		[水村直人「遺跡中心部周辺の古環境」pp146-157]p150: 弥生時代における遺跡南西区の景観を端的に述べるならば、中期と後期の間に当該エリアを縦断する河川の消滅という地形環境変化が生じ、その周辺には氾濫堆積により形成された自然堤防と、その背後の後背湿地の存在を挙げることができる。p155: 北区では、年代測定の結果から、縄文時代後期頃に生じた洪水イベントにより生成された河成堆積層を各所で確認することが出来る。(中略)この洪水砂は、青谷上寺地遺跡の中心域形成史を考える上で、重要な役割を果たしている。つまり、本格的な遺跡中心域形成が始まる弥生時代前期末までには、既にこの土砂堆積が成立しており、周辺域に比して高まりを形成していたのである。この高まりが、中心域を指し示す「微高地」を作り上げた一端となる可能性がある。	★縄文後期。
883	青谷上寺地遺跡第2次～第7次	鳥取県	南西区		[水村直人「遺跡の範囲と景観」pp195-199]p197: (弥生時代後期/遺跡中心域周辺について) 弥生時代後期になると、中期末段階まで南西区域を流れていた河川は埋没し、後背湿地化する。これにより、一帯はさらに後背湿地の占有する割合が高くなり、埋没した旧河川の右岸であった地域に至るまで、本格的に水田開発の手が進出する様子が窺われる。(後略)p199: (前略)第7次調査区や複数のボーリングコアにおいても、弥生時代後期以降に生成された破堤堆積を確認しており、この一帯に複数の河川が存在した可能性が高い。(後略)	★弥生後期以降。
884	青谷上寺地遺跡第4・6次	鳥取県	中心域(第4・6次調査区(C調査区))		p49: この調査区の堆積の特徴として、第3層から第7層上面までの各層の間に所々で黄褐色シルトまたはにぶい赤褐色シルトの薄い層が見られることがあげられる。この堆積はその下に細砂の薄層が伴うことが多い。第4次調査段階ではこれを人工的に持ち込まれて敷いたものと判断していたが、広範囲での確認を行った結果、洪水などで水に浸った後に溜まった泥層(溢流堆積層)であると判断した。このことから、調査地周辺が度々浸水した状況が想定され、包含層の時期から弥生時代中期後葉から古墳時代前期初頭にそうした状況だったことになる。	★弥生中期後葉～古墳前期初頭。
885	青谷上寺地遺跡第7次	鳥取県	南西区(第7次調査)		p130: (前略)律令期に至るまでに、度重なる河川の氾濫などの土壌の埋積作用により、凹凸のある微地形が解消され、全面的に平坦な地形となる。この段階に至ってはじめて水田が一帯一面に広がるような景観が出現したと考えられ、以降現代に至るまで連続と水田経営が行われていたと考えられる。	★奈良以前。
886	青谷上寺地遺跡第8次	鳥取県	中心域(第8次基本層序)	9	p17: 第9層は、灰褐色を呈するシルト層を基本とするが、色調を基本として、第9-1層(灰黄褐色シルト)および第9-2層(灰褐色シルト)に区分することができる。第9-1層になると、第8層とは色調等にも差異が認められ、また遺物出土量も激減した。下層の第9-2層は、灰褐色に捉えられる特徴的な色調を帯びる泥層で、泥を多く含む洪水の作用によって堆積した土層と考えられる。この層は、調査区全面に拡がりを確認できることから、鍵層として当該調査区の土層把握に大きく寄与することとなった。 p83: (第10層上面の)水田面が形成された時期は、引き続き弥生時代中期後葉と考えられる。p173: 水田層は、泥流堆積物である第9-2層にバックされていることから、水田として利用されている際に、自然災害により廃絶したことをうかがわせる。(後略)	★弥生中期後葉。
887	目久美遺跡第5次	鳥取県		9-2	p14: SD-04を埋める第9-2層はほぼ一回の堆積と思われる。 p35: (SD-04について)遺構内は、微細粒から中粒の砂のみが堆積しており、一時期に埋没したことが窺われる。遺物が堆積中に弥生時代前期から後期に至る土器が混在していた。このことから当該遺構は後期中葉、遅くとも後期後葉には完全に埋没していたと思われる。	○弥生前期～後期。
888	目久美遺跡第5次	鳥取県		10-4～6	p14: 第10層は弥生時代中期を主体とする堆積で、第10-1～3層は粘性の強い堆積で水田利用の可能性を窺わせる。また、第10-4～6層は洪水堆積であろう。第11～16層は弥生時代前期の堆積層で、下層になるにつれ基盤と同質の礫が多く含まれる傾向になった。	★弥生中期。 ▼弥生前期。 △弥生中期。
889	目久美遺跡第6次	鳥取県		9	p73: 第6次調査第9層は弥生時代中期以降の洪水堆積で、第5次調査においては第7層がこれに対応する。p83: 第9層とした洪水堆積層を掘り下げた結果、第12層・灰色粘土層上面で、第4遺構面を検出した。この面では、第9層と第11層とした粗砂層が堆積していたことから部分的に水田跡を検出することができた。(中略)(第4遺構面の)水田1は、粗砂に覆われていることから、洪水によって埋没したと考えられる。p83・91: 第4遺構面埋没以後は、頻りに洪水にみまわれており、第9層は、シルトと粗砂が互層状に厚く堆積している。	★弥生中期以降。

890	目久美遺跡第6次	鳥取県	SD-04		p91: SD-04はA-1~B-10区にかけて、調査区内を北東-南西に横切るように位置する。規模は幅約5m、深さ約2mを測り、今回の調査では、約40mを検出した。(中略)埋土は全て粗砂で、この粗砂を分層することはできなかった。おそらく、大規模な洪水災害により、一時にして埋没したものと考えられる。粗砂中には多量の遺物が含まれており、弥生時代前期~後期中葉までの土器が混在する状況で出土している。(中略)本遺構を埋める粗砂は、法勝寺川の砂礫構成と一致する。このことから、弥生時代後期に、法勝寺川の大規模な氾濫があったものと考えられる。また、第3遺構面下層、上層(第9層・洪水堆積)中の粗砂も、法勝寺川の砂で、弥生時代中期~後期にかけて、度重なる法勝寺川の氾濫があったことが窺われる。この弥生時代中期~後期の土器を含む法勝寺川の砂は、現米子市街地に広く分布している。	★弥生後期。
891	目久美遺跡第8次	鳥取県		5	p10: (5層は)灰色系のシルト、砂、粘土がラミナ状に堆積するもので、洪水による堆積層と見られる。色調からグライ化の傾向を示すものとみられ、この層までは地下水の影響を受ける環境にあったことがわかる。p10: (5層は)洪水堆積。地下水の影響もある。4層は平安後期以降に堆積。p73: (4-1層の下層の)水田面での遺物が中期末から後期初頭と見られる。水田の上層には、ラミナ状に厚く堆積したシルト層があり、これらは洪水による堆積層と見られる。なお、第6次調査でもこの洪水層を検出し、堆積時期を弥生時代中期前半から後期までと推定したが、今回の調査で、この層の洪水堆積が弥生時代後期以前には遡らないことが判明した。(中略)(水田は)水路1を被覆する砂層の年代が後期初頭頃とみられることから、弥生中期末から後期初頭の段階に埋没したものと考えられる。	★弥生後期。 ▼弥生中期末葉~後期初頭。
892	目久美遺跡第10次	鳥取県	第1工区	4	p42: 第2層、第3層は中世から現代に至る層で、(中略)第4層は洪水の堆積層で、短い周期で何度も洪水が起こったことを示す細かい堆積状況となっている。第5層から第10層は弥生時代中期の堆積層と考えられる層で、(後略)。	▼弥生中期。 △中世以降。
893	目久美遺跡第10次	鳥取県	第1工区	6	p42: 第2層、第3層は中世から現代に至る層で、(中略)第4層は洪水の堆積層で、短い周期で何度も洪水が起こったことを示す細かい堆積状況となっている。第5層から第10層は弥生時代中期の堆積層と考えられる層で、比較的安定した堆積状況を示しているが、第7層との間にある若干の洪水堆積層(第6層)がみられることから、少なからず洪水の影響を受けていたことが窺われる。第11層から第15層までは弥生時代前期の堆積層と考えられる。	★弥生中期。
894	目久美遺跡第10次	鳥取県	第1工区	16・18	p42: 第11層から第15層までは弥生時代前期の堆積層と考えられる。p42・45: 第16層から第26層は縄文時代後期から晩期の堆積層である。縄文時代晩期には粘土層の間に、砂の堆積(第16、18層)が見られる。特に第18層の砂の堆積は深さ1m近くあり、大規模な洪水が頻発したことによる堆積層と考えられる。	★縄文晩期。
895	目久美遺跡第10次	鳥取県	第2工区	14	p100: (第14層は)白茶色粗砂(洪水堆積層)。p102: 1ラインにおいて、白茶色粗砂層(14層)の断面を観察し、堆積状態を記録した。(中略)この洪水層の堆積した時期は、この層中から縄文後期に相当する土器1が出土したことや、上層の黒灰色粘土層から突帯文土器が出土したことから、縄文時代後期頃に相当するものと考えられる。	★縄文後期。 ○縄文後期。 △縄文晩期。
896	目久美遺跡第12次	鳥取県	西区	2	p11: (西区2層は)弥生時代中期末から後期初頭に堆積した砂層である。洪水によるものと考えられる粗砂や細砂がラミナ状に堆積している状況が明瞭に観察できる。過去に実施した調査でも確認されており、目久美遺跡一帯に広く分布している。	★弥生中期末~後期初頭。
897	目久美遺跡第12次	鳥取県	東区	4-1	p13: (東区4-1層は)粗砂と細砂のラミナが発達した洪水堆積層である。弥生時代後期のものと推定されている。	★弥生後期。
898	目久美遺跡第15次	鳥取県	弥生中期水田		p26: 弥生時代後期の水路1は(中略)総延長は600mを超える規模となり、弥生時代後期の水路遺構としては、全国的に見ても例のない大規模なものとなる。この水路の構築は、弥生時代中期の水田が洪水により埋没した後に掘削されており、災害によって被災した生活域を復活される意図があったものと考えられるが、(中略)水路の堆積土は粗砂1層のみであり、掘削後、短期間に埋没したものと考えられることから、水路の掘削後に余時間をあけずに、再び洪水砂以外にあったものと推測される。なお、水路1が掘削された年代については、弥生時代後期初頭頃と想定している。	▼弥生中期。
899	坪田遺跡	鳥取県	SX12	第7面	p9: 第7面は灰黄褐色シルト上面である。所属遺構はSX11とSX12である。(中略)(第7面の)SX12は、直径30cm以上の大型礫を多量に含む河道跡である。調査区南西隅で検出され、旧東谷川の氾濫に伴って形成されたものと思われる。(中略)出土遺物から、SX11とSX12は、古墳時代中期から後期と考えられる。SX11から出土した炭化物をAMS分析にかけた結果、5世紀~6世紀頃のものというデータを得た。	★古墳中期~後期。

900	坪田遺跡	鳥取県		第8面	p9: (第8面の)SX13は洪水の際に生じた河道跡と考えられる。覆土が灰色砂で、下層から小形の土師器壺片が出土している。SX14は灰黄褐色シルトを主体とし、花崗岩と砂粒を少量含む浅い落ち込みである。底面に根痕と思われる8基の小穴を伴っており、洪水もしくは土石流によって倒れた植物痕と思われる。(中略)(第8面の時期は)古墳時代以降と考えられる。	★古墳以降。 ○弥生中期。 △古墳中期～後期。
901	坪田遺跡	鳥取県		第9面	p9: (第9面について)調査地内で基盤層と想定していた南側の灰黄褐色シルト層と北側の黒褐色シルト礫層はいずれも洪水等で堆積した層であり本来の地山ではない。p10: 出土遺物から判断して、この黒褐色の粘土質シルト・礫層は縄文時代後期以降に堆積したと考えられる。	★縄文後期以降。
902	奈免羅・西の前遺跡1区	鳥取県	1区のSD1005		p22: (SD1005について)1区北西側にTr.4を設定し土層堆積状況を確認したところ、溝の断面と思われる落ち込みを確認した。第3面の確認面となっていたにぶい黄褐色粘土粒混じりの黒褐色砂質シルト層は、河川氾濫等による洪水性の堆積層であり、同時に弥生～古墳時代遺物包含層であった。SD1005はこの層の直下で検出され、またSD1005の東側には楕円形の落ち込みSK1009が並存する。(中略)溝である。出土遺物と検出面から弥生時代終末期以降と推測する。	▼弥生終末期以降。
903	奈免羅・西の前遺跡2区	鳥取県	2区の基本層序	9	p36: 2-9層(第9層) オリーブ褐色中粒砂～極細粒砂を主体とする堆積層および土壌層である。2-8層直下に堆積しており、2-8層最下層とは地質的に一連の土壌単位と解釈される。調査では遺構検出面設定の都合上から2-8層とは区別して取り扱った。基本的に2-8層と同じく、高地部では礫質過多、低地部で細粒砂～極細粒砂が主体となる。この低地部の層中には普遍的に細礫が含まれている。これは八東川の氾濫に起因する堆積があったことを示しており、氾濫堆積物の供給と表層の土壌化を繰り返しながら層のかさ上げが進んだと考えられる。当層からは現時点では遺物は全く出土しておらず、その形成時期は不明である。	
904	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	3区の基本層序	3	p111: 3-2層 旧耕作土…圃場整備以前の水田耕作土の残骸、近世・近代。3-3層 暗褐色砂層…弥生時代遺物包含層、洪水性二次堆積層、耕作攪乱を受ける。3-4層 黄灰色砂層…上面が第2面、耕作攪乱を受ける。p112: 第2面はSB3001～SB3007の掘立柱建物跡とSI3001～SI3012の竪穴住居跡がプラン上で検出される面である。耕3001～耕3003を除去し、暗褐色砂層(3-3層)を除去した段階で検出された確認面は黒褐色砂質シルト層(3-7層)上面から黄灰色砂層(3-4層)上面である。遺構の所属時期は弥生時代中期が主体で、中でも竪穴住居跡12棟、掘立柱建物跡3棟、土器が集中する土坑等で弥生時代中期後葉の土器が出土している。中期以外の土器はほとんどみられない。木棺墓4基は出土遺物が水晶製小玉のみで年代は確定的ではないが、弥生時代後期以降と推測している。	▼弥生後期(第2面の木棺墓)。
905	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	3区の基本層序	8	p111: 3-8層 黒色土層…無遺物層、上面が第3面、地点によりシルト・粘土質シルト・砂質シルトに主体土が変わる。3区北側ではシルト層であるが、南側では湿水性堆積層の砂質シルトとなる。南側の黒色砂質シルトは、有機物由来の黒色土と河川氾濫の砂が混合した層である。p112: 第3面はSI3013～SI3014の竪穴住居跡の検出される面である。確認面は3-8層の黒色土上面である。直上に堆積していた黒褐色砂質シルト層を除去した面である。第4面は、黒色土層を除去した下位面である。時代は弥生時代中期以前である。基盤層相当とした黄褐色砂層・砂礫層(3-10層)には遺物は全く含まれない。第2面・第3面で検出された15棟の竪穴住居跡はいずれも弥生時代中期後葉前後に比定される。(後略)	△弥生中期後葉。
906	奈免羅・西の前遺跡3区	鳥取県	3区	第1面直上	p112: 第1面は耕作溝群・ピット列で形成される面である。耕3001～耕3003の耕作溝群が多数検出される。時代は古代以降である。近世以降の耕作土3-2層を除去した段階で検出された。(中略)(第1面について)洪水砂堆積層の暗褐色砂層を除去し、黄灰色砂層・黒褐色砂質シルト層の上面で検出された遺構群である。	▼古代以降。
907	富田川河床遺跡第7次	島根県		第1遺構面の 上	[西尾克己「小結」pp98-99]p98: 今次の調査では第1遺構面から第5遺構面までの遺構を確認した。第1遺構面では廃棄された最終の町並み調査区の全域で検出した。それは幹線道路沿いに並ぶ町谷とその背後にある空地および小路である。町並みの埋没は以前より言われていたように飯梨川(旧名富田川)の氾濫が原因であり、その時期は出土品に照らしてみると古文書が伝える寛文6年(1666)とも矛盾しない。(中略)(第1遺構面の時期は17世紀中葉。)	★1666年。▼ 17世紀中葉。
908	富田川河床遺跡第7次	島根県		第2遺構面の 上	p60: 第2遺構面は調査区の上流部のIP区において確認されたに過ぎない。(中略)遺構面の標高は18.2mで、第1遺構面との比高差は80cmとなる。この面の埋没時期は、調査区の東側に存在した砂層直下より寛永21年(1644)の文字が記された木札が出土していることより、この年から第1遺構面が埋没した寛文6年(1666)までの間である。p98: (第1遺構面の時期は17世紀中葉。第2遺構面の時期は17世紀前葉。)	★1644年。▼ 17世紀前葉。 △17世紀中葉。

909	富田川河床遺跡第7次	島根県		第4遺構面の 上	p84: (第4遺構面は)調査区北側のFT区を中心に、南北30mの範囲に存在する。(中略)調査区の西側には第1遺構面と同様に砂層があり、遺構面は既に消失していた。〔西尾克己「小結」pp98-99〕p98: (第3遺構面の時期は16世紀後葉。第4遺構面の時期は16世紀後葉。)	▼16世紀後葉。△16世紀後葉。	報告書には「砂層」とあるのみで洪水かどうか断定できない。
910	富田川河床遺跡第7次	島根県		第5遺構面の 上	p94: 第5遺構面はGS区からFT区の砂層中に存在する。(中略)遺構は総て川砂に覆われており、江戸時代に入る前後の一時期、飯梨川(富田川)の河床に位置していたことも知られた。〔西尾克己「小結」pp98-99〕p98: (第4遺構面の時期は16世紀後葉。第5遺構面の時期は16世紀中葉。洪水で埋没。)	▼16世紀中葉。△16世紀後葉。	
911	西川津遺跡Ⅱ～Ⅳ区	島根県	Ⅱ区左岸		p40: 河道跡は北東から南西の方向に認められるが、B調査区は東南の低丘陵から延びる尾根の先にあたり、標高20cm以下に玄武岩の岩盤が現れた。この岩に堰き止められた形で、弥生時代前期から中期の砂礫層が厚く堆積していた。その層は厚く、洪水時の強い水流で運搬され、堆積したものとみられる。	★弥生前期～中期。	
912	西川津遺跡Ⅱ～Ⅳ区	島根県	Ⅲ区左岸		p111: 弥生時代の河道跡とこれを削り込んでいる古墳時代の河道跡を検出した。河道跡は北東から南西の方向に認められるが、弥生時代前期から中期の砂礫層が厚く堆積していた。その層は厚く、洪水時の強い水流で運搬され、堆積していた。河川堆積層は最下層を除いて西に傾斜しており、河川は東から西に移動したとみられる。(後略)	★弥生前期～中期。	
913	三田谷Ⅰ遺跡	島根県		Ⅱ	p9: (Ⅰ層について)堆積時期は不明である。神戸川下流部のボーリングでアカホヤ火山灰層の上位に認められる火山灰層と類似することから、対応される可能性が高い。(Ⅱ層は)砂礫層。極粗粒砂～細礫からなる。数cm大の軽石礫をよく含む。粘土分はあまり含まれない。砂粒は主に安山岩片と同質の軽石からなる。Ⅰ層の堆積直後に短期間で堆積したと考えられる。火山活動による山地の荒廃、火砕碎屑物の供給による洪水の頻発が予想される。	▼K-Ah。	
914	古志本郷遺跡	島根県	水田跡		p17: (前略)Cに相当する洪水堆積土は神戸川の洪水によって突発的に堆積するもので、Bの耕作土を覆うように認められる。(中略)水田跡での土層は、基本的にA(p17:水田床土)が最下層にあり、その上にBとCが交互に堆積している。このことから、神戸川の氾濫により幾度かの水田が土砂に覆われ、その上にあらためて水田面を作り直したことがうかがえる。これらの水田が機能した時期はそれほど古くなく、現地表面の直下が近年までの水田面、現地表面下150cmの最下層水田面が18世紀後半以降のものである。	▼18世紀後半以降。	
915	中野清水遺跡	島根県		1	p6: 大津町北遺跡と中野清水遺跡Ⅵ区に1層がないのは、一辺約9m四方の矢板を組んだからである。1層は近世以降～現代までで、水田耕作土の下は幾層かの流砂層がみられた。流砂層は1層にしかみられず、斐伊川の洪水砂と考えられる。それぞれの流砂層の下層には水田跡があり、近世以降に水田が幾度か繰り返し返されたことが推定された。	★近世以降。	
916	中野美保遺跡	島根県	基本層序	1	p7: 1層は現代の整地土や耕作面を除く洪水堆積層である。ただし、2層の中世水田面が復旧された二次水田面の堆積もこの層に含める。p11: (中世～近世について)調査区全面に涉って水田遺構が広がっていた。出土遺物の様相から、最下層の水田遺構は中世後期以降を中心に営まれたものと考えられる。水田面には、人・牛の足跡が無数に検出されている。斐伊川の洪水により最低1～2回の水田復旧が行われていることが、畦畔の土層観察やプラント・オパール分析で判明している。	★中世～近世。	
917	青木遺跡	島根県	ⅠA区～ⅠC区		pp31-32: ⅠA区～ⅠC区では3a・3b層掘削後に、大小の礫を大量に含む5a・5b・7層を検出した。これらの礫層を掘削すると青灰色粘質土(6・8層)の面で溝状のプランが検出された。このようなプランは調査区内で5か所確認し、土層断面でのみ認識できる浅い窪みを含めるとさらに多数存在したと考えられる。このうちⅠB区で検出した溝は河道1とし、形状や床面の傾斜から遺跡北側の谷間から南に向かって自然流路と判断した。調査の結果、遺構内からは弥生時代から平安時代前半の遺物が出土した。河道1の時期は床面と東側岸部分で9世紀頃の須恵器・土師器が出土したので、平安時代前半頃までと考えられ、この流路が氾濫して北山から大小の礫が運ばれた時期はそれ以降と推測される。	▼平安前半(9世紀)。	

918	北原本郷遺跡	島根県	1区～3区基本層序	上層黄色砂	p11:1～3区の基本層序は大きく見て上から順に、水田耕作土・造成土-灰褐色～暗灰褐色砂質土-上層黒色土-上層黄色砂-黒色砂1-黄色砂1-黒色砂2-黄色砂2-黒色砂3-黄色砂3-黒色砂4-黄色砂4・礫層に分けられる。(中略)灰褐色砂質土からは陶磁器片や鉄滓などが出土しており、中世以降の遺物包含層か、もしくは古い段階の水田造成土の可能性がある。上層黒色土は土師器・須恵器片や中世土器片、鉄滓などが出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。上層黄色砂及び黄色砂1～4は斐伊川の氾濫に伴う砂層で、その間にはさまれた黒色砂1～4が遺物包含層である。黒色砂1では主に縄文時代晩期～古墳時代初頭の遺物が出土する。黒色砂2は縄文時代後期中葉～後葉の土器を若干含む。なお、下層の黄色砂2には三瓶太平山降下火山灰が部分的に入り込んでいる。黒色砂3では旧河道を中心に縄文時代後期前葉の遺物がまとまって出土した。黒色砂4からは縄文土器片がわずかに出土しているが、その時期は判然としない。	▼縄文晩期～古墳初頭(黒色砂1)。
919	北原本郷遺跡	島根県	1区～3区基本層序	黄色砂1	同上。	▼縄文後期中葉～後葉(黒色砂2)。△縄文晩期～古墳初頭(黒色砂1)。
920	北原本郷遺跡	島根県	1区～3区基本層序	黄色砂2	同上。	▼縄文後期前葉(黒色砂3)。△縄文後期中葉～後葉(黒色砂2)。
921	北原本郷遺跡	島根県	1区～3区基本層序	黄色砂3	同上。	▼縄文(黒色砂4)。△縄文後期前葉(黒色砂3)。
922	北原本郷遺跡	島根県	1区～3区基本層序	黄色砂4	同上。	△縄文(黒色砂4)。
923	青木遺跡	島根県			p27:現地地表直下は水田耕作土・洪水砂など複数回にわたる堆積土で、その下に中近世の遺構面が残る。この遺構面の基盤層が、山系の谷筋から襲った土石流堆積物で、大小の礫を中心とした土層である。これをIV区では4層としている。4層の堆積上下には構成物の粒度がそろった横位堆積があり、ゆるやかな水流が認められる部分もある。しかしながら4層の大半は1単位で構成されており、1度の大規模な土石流によって一気に堆積が進んだことが見て取れる。この土石流が起こった時期は限定できないが、IV区ではこれに被覆されている遺構が10世紀頃とみられるため、10～13世紀の間と推定される。	★10世紀～13世紀。▼10世紀。△中世～近世。
924	浜寄・地方遺跡	島根県	地方側(1区)基本層序	2	p12:(基本2層は)主に灰白色系の粘質土。約20～30cmほど堆積している。キメの細かい砂を含んでおり、過去の洪水に由来すると考えられる層である。奈良・平安～近世にかけての遺物が出土しているが、中世前半までの遺物の割合が高く、そうした時期の層と判断される。	★中世前半。 ○奈良～近世。
925	浜寄・地方遺跡	島根県	地方側(1区)基本層序	4	p12:(基本4層は)主に灰色系の砂。約10～20cmほど堆積している。この層も過去の洪水に由来する層と考えられる。なお、10区・10D区ではこの層の存在が確認できない場所も存在した。基本的に4層からは遺物が出土していない。p174:基本3層は、弥生時代中期後半代の遺物を一定量含むことから、そうした時期から形成され始めた層と判断できる層である。ただ、遺物の多数を占めるのは古墳時代であることから、3層の中心となるのは古墳時代のことと考えられる。p175:(前略)基本5層は弥生時代中期以前と考えることが可能であろう。	▼弥生中期以前。△弥生中期後半。
926	浜寄・地方遺跡	島根県	浜寄側(2区)基本層序	4	p13:(基本4層は)主に灰色系の砂質土、礫、砂。約50～60cmほど堆積している。過去の洪水に由来する層と考えられる層で、礫と砂から構成される。場所によっては約1m堆積しているところもあった。主に古墳時代～平安時代にかけての遺物が出土している。	○古墳～平安。
927	山持遺跡II・III区	島根県	II区・III区基本層位	VI	p15(第9図):(II区VI層はIII区VI層に相当。)p16:V層は茶褐色粘質土でIII層と同じく水田耕作土である。出土遺物が僅少なため正確な年代は不明であるが、上下の層位関係から16～17世紀前半を中心とする時期と考えられる。VI層は灰褐色系の砂礫・粗砂を主体として構成される層で、各調査区で確認できる。その構成物から伊努谷から排出された土石流層と考えられる。年代は出土遺物から12～13世紀を主体とした中世前半期のものであるが、II～3区では土石流層の上層に15世紀代の遺物も含まれており、北山山系からの複数回の土石流によって形成されたものと理解される。(中略)III区調査の結果、現在の西林木町の扇状地の形成年代はかなり新しく、その大半は北山山系からの土石流が多発した中世以後の形成である可能性が高いものと考えられた。	○12世紀～13世紀。△15世紀。

928	夫手遺跡	島根県			p11:遺跡全体としては青灰色砂礫層以上の土層は古墳時代中期以降の土層堆積であると考えられ、青灰色砂礫は、古墳時代に周辺の遺構を巻き込んだ土石流のような状態で長海平野の形成時に堆積したものと考えられる。p100:古墳時代後期以降になると長海平野の遺跡数は激減し、南西の本庄町に遺跡分布の集中が見られるようになる。(中略)その原因としては、夫手遺跡を形成するほどの大きな自然災害にみまわれたことも一因かもしれないが、後に島根郡家が設置される本庄町において遺跡数が急増していることから、時代の大きな流れの中で長海平野を拠点としていた豪族が新たな支配体制に組み込まれていったと考える方が自然であろう。	★古墳(中期以降)。	
929	築山遺跡	島根県			p90: I 区基盤層とした砂層は、II 区の調査結果から弥生初頭前後に大規模な洪水等で厚く堆積したものであることが判明。さらに下層には縄文の包含層が存在するようである。p110: II 区⑥層は弥生初頭前後までに堆積した火山灰質の砂層で、大規模な洪水により堆積。p154: 縄文晩期～弥生前期には厚い砂層の堆積がみられ、大規模な洪水による地形の変化があった。	★縄文晩期～弥生前期。	
930	小山遺跡 第3地点第 5次	島根県	II 区		p17: 遺構は全て黄褐色砂質土上面で検出しているが、溝状遺構であるSD02の底面は黄褐色砂質土の下面にあたる灰白色粗砂層にまで達していることが注意される。この灰白色粗砂層は、縄文時代後期頃に斐伊川の氾濫によって出雲平野一帯に厚く堆積するものと考えられている。	★縄文後期。	
931	出雲大社 境内遺跡	島根県	地下祭 礼準備 室建設 に伴う調 査	2	p78: 出雲大社境内地の背後の北山山系からは、急傾斜の谷筋を素鷲川と吉野川が流れ、扇状地を形成している。特に古墳時代後期～平安時代には大規模な土石流により境内に土砂が厚く堆積している。その後も度重なる土石流により土砂が堆積、または遺構面が削平されている時期もある。	★古墳後期～平安。	
932	島根大学 構内遺跡 橋縄手地 区	島根県	基本層 序	6	p24: (第6層)は松江層玄武岩に由来するオリブ黒色粗砂が斜行堆積する。河川による洪水層で、比較的、短期間のうちに埋積したものと考えられる。(中略)各層位の堆積年代は、アカホヤ火山灰層上位の第6層が縄文前期初頭、第5層が縄文前期初頭～前半、(後略)。	★縄文前期初頭。▼K-Ah。△縄文前期初頭～中期初頭。	
933	島根大学 構内遺跡 京田地区・ 諸田地区	島根県	第5次調 査基本 層序	2aの下 位砂礫 層	p21: (第2a層下位砂層)にぶい黄褐色粗砂(河川性)。北東から南西方向に傾斜した成層構造がみられる。古墳後期の須置器片や炭化した板材を包含する。p22: 縄文早期から晩期前半頃まで古穴道湾ないし古穴道湖最奥部の泥底水位域内であった調査区は、海成層(第4層)堆積と相対水面低下・砂洲の伸張等が関与して、縄文晩期頃には湿地化(第3層)する。古墳後期に到ると、河川洪水によって(第2a層下位砂層)が堆積する等を経て、第1層下面が古墳後期・奈良時代～中近世の生活面をなす。遺構は残されていないし、出土遺物も散在的であることから集落外の空間であったのだろう。	★古墳後期。	
934	島根大学 構内遺跡 京田地区	島根県	基本層 序	2中砂 層	p25: 第2層中砂層(第5次調査区第2a層下位砂層)は、第2層中に挟在する、淘汰の悪い黄褐色粗砂による河川堆積層。p28: 水成層の堆積や海面低下の影響で、島大構内の推進が浅くなり、縄文晩期ごろには湿地化する(第3層)。古墳後期になると、河川洪水によって砂礫層(第2層中砂層)が堆積するなどして、第1層下面が古墳後期～近世の生活面をなす。	★古墳後期。	
935	百間川原 尾島遺跡	岡山県	左岸用 水調査 区D-10		p43: (D-10は)4区中央付近から検出されたもので、前述のD-4から東へ約9mの所に位置する。北東から南西に向かって流走すると思われるが、調査区中央でやや東へ蛇行する。p47: (D-10は)百・後・II以後開溝され、同IVには洪水によって埋没したものと考えられる。	★弥生後期末。	
936	百間川原 尾島遺跡	岡山県	左岸用 水調査 区6区・7 区	三	p147: 左岸用水調査区の北東端の6区と7区には微高地の北斜面が確認できた。(中略)第三層は、黄灰色砂で、おそらく近代の洪水による堆積層であろう。	★近代。	
937	百間川原 尾島遺跡	岡山県	左岸用 水調査 区6区・7 区	六	p147: 左岸用水調査区の北東端の6区と7区には微高地の北斜面が確認できた。(中略)第六層と第七層は完全に不整合の状態を示している。洪水によって堆積する層と、削平される層があるが、第七層は削平を受け、第六層は堆積したものであろう。第六層は、中世の遺物を少し含む。(中略)第七層は、茶褐色粘質土で、百間川後期 I から古墳時代後半までの遺物を包含している。	▼弥生後期～古墳後半。 ○中世。	
938	百間川沢 田遺跡	岡山県	第1調査 区	第2面	p39: 当調査区の暗灰色粘土層の下からは微高地および微高地に類似した「鳥状高まり」遺構と、洪水により一度に埋没したとみられる40～50cmの黄褐色砂に覆われた、暗灰色粘土の水田層が検出された。p42: 当調査区では11条の溝状遺構が検出された。各溝は規模・方向・埋土状況・底のレベル等において、時期ごとに共通性がみられ、D-1・D-2・D-3(百・中・Ⅲ)とD-5・D-6(百・後・Ⅳ)とD-7・D-8・D-9・D-10(百・古・Ⅰ)の三期に大別できる。pp42-43: (前略)D-5・D-6は規模および溝の断面が「V」字に近い形状を示し、底近くに段を持つ等形態が似ており、両者は同一の溝の可能性が高い。この溝が、洪水砂で埋没していることは、水田と同時期に機能していたことを示し、調査区内には施設等の遺構は検出されなかったものの、用水路として充分考えることのできるものである。	▼弥生後期以降。△古墳。	p18(表1「編年対比表」): (百間川後期IVは弥生時代後期末葉に相当する。)(以下、これに準ずる。)

939	百間川沢田遺跡	岡山県	第3調査区	第2面	p48: 第2面からは、微高地中央部と西端部に洪水層に埋没した水田址を検出した。p53: この水田遺構は、調査区の東側に「水田遺構-I」「水田遺構-II」の2ヶ所を検出した。「水田遺構-I」は、微高地から低湿地に移る位置に、「水田遺構-II」は、微高地上に、それぞれ形成されたものである。この水田遺構は、いずれも古墳時代の包含層の下層に検出したもので、水田は、洪水によって堆積したと考えられる砂層で埋まっていた。p54: 微高地に近いC層からは、弥生時代後期に比定される木炭細片を伴う製塩土器片が出土しており、水田の形成時期の上限を示している。	▼弥生後期以降。△古墳。	
940	百間川兼基遺跡	岡山県	東苗代調査区		p151: (五反田樋門について)4層は、灰茶色砂で、厚さ37cmもある。この層は、百間川遺跡全体をおおう百・後・IVの時期の洪水砂層と考えられる。p152: (五反田樋門導入水路について)6層は、淡黄灰褐色砂で百・後・IVの時期の洪水砂層であろう。p153: (低水路について)8層は、淡黄褐色砂層で、百・後・IVの時期の洪水砂層である。溝-41はこの砂で埋没している。	★弥生後期末。▼弥生後期。	
941	百間川原尾島遺跡	岡山県	丸田調査区の基本層序	7, 8	p209: (微高地の西側について)(前略)7・8層は弥生時代後期末ごろの洪水による厚い堆積砂、9層は洪水で埋没する直前の水田層、10層以下16層までは弥生時代前期以降の堆積状況を示す。	★弥生後期末。▼弥生後期。	
942	百間川原尾島遺跡	岡山県	川内調査区の基本層序	5, 6	p540: (前略)5・6層は弥生時代後期末の洪水によって堆積したものと考えられる砂層である。7層はこの洪水砂によって埋没した水田層である。この水田層の時期は弥生時代後期と考えられる。	★弥生後期末。▼弥生後期。	
943	百間川沢田遺跡	岡山県	横田調査区		p13: (前略)弥生時代後期には、低位部にも水田が広がり、(中略)これらの水田は、一時の洪水により、多量の砂で埋没し、その水田は放棄された。古墳時代には、初期の竪穴式住居、井戸などが多く検出され、居住区域として変容する。	▼弥生後期。△古墳。	
944	百間川沢田遺跡	岡山県	高縄手A調査区の干物樋門導入水路・低水路地区	10, 11	p120: (前略)海拔280cm前後に古墳時代の包含層が認められる。その下は微高地・「島状高まり」遺構および弥生時代後期の水田を一気に覆った洪水砂(10・11)層である。弥生時代後期の水田層は、海拔210cm前後に認められる。	▼弥生後期。△古墳。	
945	百間川沢田遺跡	岡山県	高縄手B調査区	7	p262: 低位部では第8層に人工的な掘削痕である水田層が広範囲に広がり、この埋積土である第7層の洪水砂層が水田層上面を覆っている。低位部では洪水砂埋土水田層以下に、下層の水田層が一部に認められる。p263: 弥生後期埋没水田以後の遺構は、希薄でわずかに古墳時代初頭の井戸や古墳時代の水田層が確認されたのみである。	▼弥生後期。△古墳。	
946	百間川沢田遺跡	岡山県	堅石調査区	1	p361: (調査区では)堆積層が多いため、百間川遺跡全体を被うと考えられている洪水層を1層として以下番号を付した。(後略)p361: 洪水層。百間川全体を覆う洪水層と同一。pp374-375: 484・485水田間の水口が開いていたことは、当地区に用水を流した水田を水溜めにする場合には排水路の一部に堰を設置しなければならないことから、想定された洪水直前の水田状況は、休耕されていたか稲収穫前の水落としが終了した時期と考えられる。	★弥生後期末葉。	
947	百間川沢田遺跡	岡山県	開山下調査区	22	p376: (前略)20~21は古墳時代~古代の堆積層で、22が弥生時代後期の洪水砂層である。24は弥生時代後期水田層、25~48は低位部堆積層、49~54は微高地形成層である。	★弥生後期。▼弥生後期。△古墳~古代。	
948	桑瀬遺跡ほかC散布地	岡山県	トレンチ3, 4		p35: (トレンチ3について)約160cmの掘り下げを行った。図の5層は昭和56年の三倉川の洪水によって堆積したものである。7層は、洪水以前の水田耕土で、溝もほぼ同時期のものであろう。(中略)(トレンチ4について)最深部で約220cmの掘り下げを行った。図の6層は昭和56年の三倉川の洪水によって堆積したもので、8層は洪水以前の水田耕土である。	★1981年。	トレンチ断面図はp37の第19図を参照。近世以前の遺構なし。
949	樋本遺跡	岡山県	A・B調査区の包含層D-D'トレンチ	20	p20: (A・B調査区の包含層について)(D-D'トレンチの)第20層は灰色を基調とする砂質であるが、その中に砂利を比較的多く含んでおり、弥生時代後期後半に近い時期の洪水を物語っている。	★弥生後期後半。	
950	樋本遺跡	岡山県	C調査区		p34: C調査区は、ここより約1km西を南流する高梁川の氾濫・堆積作用によって形成された地形高所と考えられる。その地形を形づくる砂利層中に摩滅した土器片が混入している事実は、氾濫時に水圧により北方向に所在した弥生時代の生活場所の破壊が考えられ、その時点で移動してきた土器の可能性が高い。弥生時代後期後半の洪水および堆積作用によって形成された微高地が、その後の時代の生活の場所として利用されていたようである。	★弥生後期後半。	

951	菅生小学校裏山遺跡	岡山県	溝-1		p145:(溝-1に伴う)遺物は、5世紀前半期のものが大半であった。p146:(溝-1について)下層の灰褐色砂は、20cm前後の堆積で、洪水等により一気に埋まったものと考えられ、上層はその後の淀み状の堆積の状況を示している。p178:(落ち込み-1は)調査区南東部(12区)の低位部に位置する。(中略)この落ち込みは、いずれにしても周辺の状況からみて、人工的な遺構とは考えられず、上流の低湿地部、各々の谷から流れこんだ自然の落ち込みと考えられる。また同時期と考えられる溝-1にも溝肩部の崩れもあり、下層に砂層が堆積していることなどから、一時期洪水にみまわれたことが考えられ、その時期にも符合する可能性も考えられる。	▼5世紀前半。
952	窪木薬師遺跡	岡山県	竪穴住居11・12、水田2		p64:(竪穴住居-11は)Ⅱ区南西部に位置する。(中略)住居は、洪水砂で埋没しており、検出面から床面までの65~70cmは粘性の差はあるものの全て砂という状況である。(中略)(竪穴住居-11の)時期は、5世紀前半に比定されよう。p65:(竪穴住居-12は)Ⅳ区南西部にあつて微地形の変換部に位置する。住居周辺は微高地上面にあつても浅い窪地状になっており、竪穴住居-11の埋積砂と同じ洪水砂で約20~30cmの深さで埋没していた。(中略)この住居は竪穴住居-11と同時共存していた可能性が高いといえる。pp64-65:竪穴住居11・12を埋没させる洪水砂が確認される。竪穴住居11の時期は5世紀前半で、同12とともに同時共存していた可能性が高い。p79:Ⅴ区北東部からⅥ区中央部にかけて洪水堆積土砂の部分的な遺存が見られた。水田-2としたものは、この下層(海拔6.85m)において堆積土砂除去後に検出された。(中略)(水田-2の時期は)状況から古墳時代前半期の範疇に属するものと推測される。p84:古墳時代でも前半期とした川入遺跡大溝上層段階になると、竪穴住居・水田等は大規模な洪水による災害を被ったようで、いずれも厚い洪水砂で埋没していた。(後略)	▼5世紀前半?
953	三手遺跡	岡山県	向原Ⅰ調査区		p19:本調査区では、弥生時代の遺構は検出できなかった。しかし、弥生~古墳時代初頭の遺物が相当量出土した。これらの遺物は、微高地上および北側の斜面の基盤層である礫層中に多く含まれていた。(中略)この礫層から出土した土器は、弥生中期末~古墳時代初頭のもので、古墳時代初頭以降の洪水により礫とともに上流から運ばれ、微高地形成時に混入したものである。古墳時代の遺構としては、微高地上に竪穴住居、溝などが検出された。また、微高地から旧河道への落ち際にも約10m幅の、溝が存在しており、この微高地は5世紀後半頃から居住域として占められていたものと考えられる。	★古墳初頭以降。▼弥生中期末~古墳初頭。△5世紀後半。
954	三手遺跡	岡山県	向原Ⅱ調査区		p51:(前略)鎌倉時代~室町時代にかけては一部で水田が残り、微高地部分は居住域として活用された地区である。それ以後は幾度かの洪水によって砂の堆積がありながらも全体を水田として利用している。それが現代まで続いているものである。	▼鎌倉~室町。△現代。
955	足守川矢部南向遺跡	岡山県	微高地北斜面	3, 4	pp653-654:堆積層は3つに大別された。微高地基盤上に堆積する第9~11層を抉り取るように、洪水砂と思われる第5~7層が堆積していた。これら砂層からの遺物の出土はなかったが、基盤斜面に流れ込む第8層からは水漉粘土で作られた高杯片がみられ、弥生時代後期後半以降に埋没したものと考えられる。また、上層の第3・4層においては堆積状況は下層に比べ緩く北へ傾斜していたが、下層と同様洪水の影響を受けたと推察される層で、第4層から7世紀後半と考えられる須恵器高杯の脚柱部片が出土しており、古代以降に堆積したもの判断される。	★古代以降。○7世紀後半。
956	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田1	水田1直上	p19:(水田1は)後述する水田2Aの下層で、薄い間層(洪水砂)を挟んで検出されたものである。p20:(水田1の時期は)弥生時代前期中頃から後半と考えられる。(中略)(水田2Aは)水田1の上層で検出されたもので、水田1との間に数cmの薄い洪水砂が残存していた。上面は後に微高地の基盤となる厚い洪水砂で覆われており、微高地上の遺構調査が終了した後、初めて検出される。(中略)(水田2Aの)時期は出土土器から弥生時代前期後葉と考えられる。	▼弥生前期中頃~後葉。△弥生前期後葉。
957	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田2A・2B	水田2A・2B直上	p18:遺跡は大きく見れば、西端部に弥生時代前期末の沖積作用(洪水砂)によって形成された微高地上の遺構群のほかは、すべて微高地の下とその東側に展開する水田、関連する水路である。大半を占める水田は、時期的には弥生時代前期中頃にはほぼ全面に形成された後、洪水による埋没を繰り返しながら現在に至るまで継続しており、この間に地表は約1.5~2m上昇している。p20:(水田2Aは)水田1の上層で検出されたもので、水田1との間に数cmの薄い洪水砂が残存していた。上面は後に微高地の基盤となる厚い洪水砂で覆われており、微高地上の遺構調査が終了した後、初めて検出される。(中略)(水田2Aの)時期は出土土器から弥生時代前期後葉と考えられる。p20:(水田2Bは)大畦の東側に展開する水田で、水田2bと同時期の洪水砂で埋没したことが明らかとなっている。(後略)	★弥生前期末。▼弥生前期後葉。

958	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田3	水田3直上	p22:(水田3は)水田1・2の東側で検出された最も古い時期のもので、やはり基盤となる黒色土上に形成されていたものである。pp22-23:水田は洪水砂で覆われているが、水田2よりは薄いものであり、これと確実に同時期の洪水砂かどうか確証は得られていない。水田層中から弥生時代前期の土器が出土しており、土層関係とも矛盾していないことから、概ね水田1・2と同時期のものといえよう。	▼弥生前期。	
959	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田6・7	水田6・7直上	p24:水田4・5はその後数枚の水田層を形成した後、弥生時代前期末の洪水砂で埋没したことが判明している。この埋没時の状況が水田6・7として図示したもので、洪水時の攪乱を受けていることが明らかである。	★弥生前期末。	参考:p25;第16図「北方横田遺跡2区西半水田6・7、溝7～11」
960	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田11	水田11直上	p32:(水田11は)水田10の上層で検出されたもので、薄い洪水砂に覆われていたものである。(中略)同時期に埋没した水路(溝12・13)から弥生時代中期中葉の土器が出土しており、水田の機能していた時期を示していることになろう。	▼弥生中期中葉。	
961	北方下沼遺跡・北方横田遺跡	岡山県	水田14	水田14直上	p32:(水田14は)北方横田遺跡の2区で検出された。洪水砂で埋没した水田であるが、大部分は溝30の掘削によって失っているため、畦畔は調査区の南東部でのみ検出できた。p34:遺物の出土はみられないが、土層関係から弥生時代後期の水田と考えられる。	▼弥生後期。	
962	北方中溝遺跡	岡山県			p90:弥生時代後期後半の水田遺構は、洪水砂に覆われた明瞭な畦畔痕跡を残し、1・2区のほぼ全面でその存在が確かめられた。p100:(水田10・11は)1区の西寄り検出された畦畔である。洪水砂によって埋没した水田遺構で、水田12や水田13とはほぼ同時期に存在したと考えられる。後期後半に比定される。水田10はやや小区画である。	▼弥生後期後半。	
963	北方地蔵遺跡	岡山県	溝82		p193:(溝82について)この溝は、1区の溝81の南側に検出された。溝は、やや蛇行しながら東西方向に延びており、溝内に砂が堆積しており、洪水等によって埋没したと考えられる。規模は、幅が約80cm、深さは約9cmを測り、断面形は皿形を呈している。出土遺物は土師器の椀、小皿、鍋などで鎌倉時代前半期の特徴を示している。	▼鎌倉前半。	
964	加茂政所遺跡	岡山県	溝8	溝8覆土	p400:(溝8は)N21区の南東部、橋脚8調査区に位置する。微高地に沿ってつくられている溝である。幅60～100cm、深さは5cm前後残存していたのみであった。洪水層と考えられる灰色微砂で埋まっていた。南につくられている水田3の用・排水路ではないかと考えている。時期は明確ではないが、弥生時代後期ではなかろうか。	▼弥生後期。	
965	加茂政所遺跡	岡山県	水田3		p416:(水田3について)水田層の上層には洪水砂と考えている微砂が堆積している。(中略)弥生時代後期に開田され、古墳時代前期に廃絶されたと推測している。	★古墳前期。 ▼弥生後期。	
966	加茂政所遺跡	岡山県	溝104	2	p769:(近世の溝104は)N22区とN23区の境界付近で検出された。(中略)埋土は3層で、しだいに埋まっていったとみられるが、第2層は粗砂層で洪水による一時の埋没が考えられる。	▼近世。	
967	田益田中(国岡岡山病院)遺跡	岡山県	河道10など		p21:(縄文時代後期・晩期の)河道はいずれも蛇行が著しく、主に微砂・細砂・粗砂で埋没していたが、底近くで比較的多くの縄文土器片と葉や小枝などの有機質、ドングリ・トチなどの種子、そして部分的に流木も認められている。とくに流木は、根がついたままの太さ50cmを越えるものもあり、当時からかなり大規模な洪水が近辺で起こったことを推定させる。	★縄文後期～晩期。	
968	津寺一軒家遺跡	岡山県	3区	15	p142:(前略)第12・13層中にも弥生時代後期の土器片、第14～16層中にも弥生時代中期末の土器片を含む。第15層は暗茶褐色砂の洪水層と考えられ、層中に弥生時代中期末の土器片を比較的多く含んでいる。	○弥生中期末。 △弥生中期末。	
969	津島遺跡	岡山県	C-D土層断面	11	p5:C-D土層断面をみると、A-B土層断面とは大きく異なる。第5層まで中・近世遺構の堆積層である点と同じだが、第8～10層の古墳時代後期の堆積層の下位に洪水砂と判断される第11層の微砂層の堆積がみられる。この洪水砂は調査区の東半部では全体にみられるが、西半ではほとんど確認できないことから、もともと東側は低位部であったと想像される。p7:(弥生時代後期後半について)遺構が最も多い時期だが、溝4を境に東西であり方は異なる。溝4より東側では洪水によって地形が平らになった後に遺構が築かれるようになるため、西側の方がやや古い時期の様相を示す。p11:(弥生時代)後期になると前半代の遺構・遺物は希少で調査区外かまったく違う地点に集落が存在するものと推察される。しかしながら、中葉から後半頃の洪水で地形が平らになって以後は、遺構・遺物ともに爆発的に増加する。	★弥生後期中葉～後半。 △弥生後期後半。	
970	北方地蔵遺跡・北方藪ノ内遺跡	岡山県	調査区北壁	24～26	p9:北方地蔵遺跡の第2層と北方藪ノ内遺跡2・3区の第24～26層は中世の洪水砂で、厚さが80cm以上に達する箇所もある。p14:北方地蔵遺跡で検出された中世の遺構は、その検出面の遠いから3時期に分けることができる。もともと上方にあったのは溝6で、第7図第17層の洪水堆積の砂層上面で検出された。中世末期から近世にかけての溝とみられる。つぎに、洪水砂層を除去して検出された遺構群で、第13図の柱穴群があり、建物が2棟確認できた。中世後期の室町時代のものと考えられる。(後略)	★中世。▼室町。△中世末期～近世初頭。	参考)p11:第7図「北方地蔵遺跡北壁土層断面図」

971	北方地蔵遺跡・北方数ノ内遺跡	岡山県	溝6		p16: (北方地蔵遺跡の溝6は)調査区西半を南北に走る大溝である。溝の幅は3~3.5m、深さは1.8mを測った。(中略)溝の埋土は7層に分けられたが、(中略)上層からは遺物の出土がほとんどなく、上層の埋没が短期間であったと思われる。土質からみれば、再び洪水が襲ったものであろうか。人為的な埋没とは考えられない。(中略)遺物の年代は16世紀後半とみられ、溝が機能していたのは中世末期から近世初頭頃と考えられる。	▼中世末期~近世初頭。 ○16世紀後半。	
972	百間川原尾島遺跡	岡山県	井戸16~18		p174: (井戸16は)微高地の中央、19C区で検出された井戸である。(中略)埋土は洪水によると思われる砂層が認められる。井戸17・18同様、井戸の廃棄後、洪水に見舞われ埋没していると思われる。埋土中から、二重口縁の壺883や広口壺884、壺885が出土している。出土遺物などから、遺構の時期は百・古・Iと考えられる。p175: (井戸17について)井戸の廃棄後、複数回の洪水に見舞われ埋没していると思われる。(中略)遺構の時期は百・古・Iと考えられる。(中略)(井戸18について)井戸の廃棄後、洪水で埋没していると思われる。(中略)遺構の時期は百・古・Iと考えられる。[柴田英樹「遺構・遺物の概要」pp275-280] p278: 井戸3基については埋土の一部に洪水によると思われる砂が認められ、弥生時代の井戸より検出頻度が高く思われる。弥生時代の洪水砂の再堆積である可能性もあるが、洪水発生頻度あるいは集落傾向を示すとも考えられる。	▼百間川古墳時代I(古墳前期前葉)。	凡例(編年対比表): (百間川古墳時代Iは古墳時代前期前葉に相当。)
973	郷ノ溝遺跡	岡山県			p63: 1~3区の低位部において中世水田を検出した。(中略)畦畔の西側の水田層下にはさらに2~3層の下層水田層がみられる。水田覆土にはぶい黄色微砂~砂質土で、厚さ27cm前後を測る。鉄分の沈着が4~6層みられ、近世水田層の可能性もある。中世水田が洪水で埋没した後再び水田化したものと思われる。p65: (中世水田について)出土遺物の特徴から、水田の時期は室町時代と考えられる。	★中世。▼室町。	
974	久田原遺跡	岡山県		12~15	p17: (前略)弥生時代中期の集落はその上面で検出しており、竪穴住居や土坑、火処がみられた。しかし、再び起こった洪水によって(12~15層)微高地の東は大きく削り込まれており、集落は放棄されたと思われるが、後期段階では再び、水田層(10層)と水路群(17層など)が確認できる。	▼弥生中期。 △弥生後期。	
975	久田原遺跡	岡山県		21	p17: 縄文の谷(縄文河道2)の最下層(26・27層)は後期から晩期の土器を多く含み、その上面の22~25層にかけての灰色と暗灰色の互層(晩期前葉)からは貯蔵穴と考えられる袋状土坑群が掘り込まれていた。この谷も幾度かの流水があり(21層: 晩期の洪水砂)、その上部の19層(19c・b層は晩期後葉~末葉、19a層は晩期から弥生を含む)によってほぼ埋没している。	★縄文晩期。 ▼縄文後期~晩期。△縄文晩期後葉。	
976	久田原遺跡	岡山県	窪地3		p262: (窪地3は)3601~3801Ce~Dg区の調査区西部で、大きく西側に下がる状況で検出した。(中略)窪地は古墳時代前期前半頃に形成され、小規模な氾濫が続いたものの、6世紀末頃には安定した地区になったと考えられる。	▼古墳前期前半。△6世紀末。	
977	久田原遺跡	岡山県			(第2分冊)p415: (中世について)落ち込み、中世の段階で谷水などによって遺構面の砂層が削られている。特に遺跡東側部においては、谷から流れ出た水によって大きく削り取られている。河道、遺跡北半では顕著でなかったが、南半においては北西から南東に流れる幅50~60m前後の河道がみられる。洪水等によって吉井川の本流から分かれたと考えられるもので、中世の段階においても周辺より一段低くなっていたものと思われる。	★中世。	
978	伊福定国前遺跡	岡山県			p15: (前略)標高約80~90cmに位置する117層付近では、河川氾濫を受ける氾濫原あるいは後背湿地のような堆積環境へと変化している。この117層・118層では放射性炭素年代測定から2940±40、2760±60BPという年代を得ており、この時期が当地における堆積環境のひとつの画期であるといえる。この年代は、津島遺跡の弥生時代前期の水田層の堆積物から得られた年代に近く、この両層は弥生時代前期の堆積土である可能性が高い。その後、標高1.5m付近までは不安定な後背湿地や氾濫原であったが、遺構の基盤層となっている標高140cm付近の100層以降になって当地が本格的に離水することになる。	★弥生前期。	
979	夏栗遺跡	岡山県			pp17-18: 南接する久田原遺跡では厚さ2mにも及ぶ洪水砂が堆積していた。出土遺物から弥生時代末~古墳時代初頭に比定できる大洪水がもたらした結果と考えられている。夏栗遺跡は久田原遺跡より2m高みに位置しているため、大洪水の影響をほとんど受けていない。弥生時代後期前葉の竪穴住居や弥生時代中期後葉~後期前葉の溝が埋没する段階で、その上層を埋める程度の洪水砂層が確認できた。しかし、夏栗遺跡で確認された洪水砂と久田原遺跡で確認されたそれとを同時期のもの特定することは出来なかった。p120: (前略)(溝1に伴う)砂層は、洪水などにより溝1の上部が一気に埋没したことを示唆している。(後略)p124: (溝1について)時期は弥生時代中期末~後期前葉に比定できる。	▼弥生中期末~後期前葉。	

980	宮南遺跡	岡山県			p485・487:畝状遺構3は2区の中央部西側で検出された。検出面での長さ8~9m,幅60~70cm,深さ20~30cmを測る溝が東西あるいは南北方向に接するように密集している。溝内部には一様にぶい黄褐色を呈するサラサラの粗砂が堆積していた。この堆積はおそらく、洪水後に耕地に堆積した洪水砂の下から耕作土を掘り出すとともに、洪水砂を埋め戻して片付けた跡と推定できる。砂の中から僅だが陶磁器類が出土した。それらの中で最も新しい年代を示すのは備前焼播鉢667で、17世紀後半と考えられることから、洪水の時期は、それ以降と推定される。	★17世紀後半以降。○17世紀後半。	
981	三手(庄内幼稚園)遺跡	岡山県		C	p20:C層は、層中間に間断ない酸化鉄の水平集積面を二十数枚も識別でき、中世の中頃以降にこの付近一帯が居住地区から水田になって以来、現在に至るまでの数百年間に及び連続した水田(乾田)形成層である。酸化鉄の水平集積面の平行した上積堆積状態は、乾田耕作層の上昇、つまり洪水堆積による耕作土層の上積み現象を物語るものである。p109:D2層の上部に集積する旧水田層中には明瞭に酸化鉄の水平凝結痕が互層をなしており、洪水堆積による水田面の上昇を如実に物語っている。従って、発掘地における生活空間としての遺跡の形成は、室町時代の早い時期をもって終了したものと判断される。	★室町初期以前。	
982	三手(庄内幼稚園)遺跡	岡山県		G	p108:(前略)(遺跡では)E1層削平後に一定の間層(水田層)の堆積を来たした後、G層とした洪水による一括的な厚い砂層の堆積層を基盤層にして、所謂早鳥式土器を伴う生活(包含)層が形成されているものである。p109:(前略)言い換えれば、G層の形成直後からD2層を堆積させた生活が営まれたことである。従って、D2層の年代観から、この地一帯が鎌倉時代初期に大洪水に見舞われてG層の形成を見たと推定される。	★鎌倉初期。	
983	南方(国立病院)遺跡	岡山県		Z5	p28:(Z5層)は灰黄茶色微砂・細砂・粘土層・洪水氾濫堆積層。(中略)Z5層、各区壁面において、洪水奔流状態を示すブロック的な細砂・中砂の一括堆積が確認でき、1892年(明治25)の岡山大洪水時の堆積層と判断される。	★1892年。	
984	西祖橋本(御休幼稚園)遺跡	岡山県		D4	p48:D4層は洪水砂層である。全体に薄く途切れ途切れにあり、厚い所では粗砂、薄い所では微砂質となる。(中略)水田はA層~H層で検出した。p56:(D4層からは)備前焼壺・すり鉢、肥前系陶磁器、瓦、須恵器壺などが出土している。18世紀と思われる。	○18世紀。	
985	岡山城跡本丸下の段	岡山県	基本層序	D	p24:D層は、16世紀末から17世紀初頭までの瓦ほかを多く含む、花崗岩パイラン土~暗褐色微砂の造成土で、一部はその間に起きた旭川の洪水による堆積砂を含んでいる。場所によって厚さや内容がずいぶん異なるが、下面のほか、層中にも複数の遺構面・生活面が確認できる場合が多い。(後略)	★16世紀末~17世紀初頭。○16世紀末~17世紀初頭。	
986	吉備津奥田遺跡	岡山県		II-②	p71:II、III層は中世から現代の水田層と見られる土層である。造成直前まで耕作されていた耕作土(II-①)、その下の洪水砂層(II-②)より下は、溶脱の進んだ砂質シルトで、鋤床跡とみられる酸化鉄の強く沈着する面が何枚も見られる。また、壁面東側にはSK01の埋土がかかる。このIII層の下面を遺構面Iとしている。検出遺構は耕作痕とみられる極めて細く浅い溝が大半であった。IV層は黒褐色の砂質シルトで土器片、焼土粒、木炭粒を多く含む包含層である。下面(遺構III)の状況から畑地耕作土である可能性が高い。IV層の下面を遺構面IIとしている。遺構面IIは標高25m前後の遺構面で、IV層の黒褐色土が落ち込む形で埋土が形成されている遺構東西あるいは南北方向の溝状遺構で、特に調査区東半部では切り合い、重なり合いながら何条も検出されている。これらは畑地の畝跡など耕作に関係する溝群とみられる。出土遺物はまとまったものがないが、9世紀頃の遺構群であろう。	★中世~現代。▼9世紀。	
987	吉備津奥田遺跡	岡山県		VI	p71:VI層は遺構面IIの基盤となっている砂層である。厚さ40cm程度の、鉄分を含みにぶい黄褐色を呈する砂層で、シルト質がやや強いが洪水砂層とみられる。この洪水砂の下面を遺構面IIIとした。(中略)遺構面IIIは標高23m程度で、下層の褐色シルト層(VII層)はVI層に埋没した水田層とみられる。(中略)遺構面IIIは)弥生時代中期後半から後期初頭の遺構面と考えられる。	▼弥生中期後半~後期初頭。△9世紀(遺構面II)。	
988	吉備津奥田遺跡	岡山県		IX	p71:IX層はVIII層と微高地基盤層であるX I層の間の層で、褐灰~黄灰色の粘質の強い土層である。VIII層のように土壌化が進んでいないことから、洪水砂の末端に近い堆積物であろうか。このIX層の下面はIX層~微高地基盤層となっており、遺構面IVとしている。遺構面IVは標高1.8m前後と微高地としてはやや低く、X I層も粘質が強く微高地の縁辺部と思われる。検出遺構は、細い溝状遺構(SD281)とSP280、SP282など小ピットのみで集落周辺部の状況とみられる。出土物は少ないが、包含層出土の土器やSP280出土土器から弥生時代前期から中期中葉の遺構面とみられる。	▼弥生前期~中期中葉。△弥生中期後半~後期初頭(遺構面III)。	

989	熊山田遺跡	岡山県	2区の溝9～13, 3区の溝16	溝覆土	p12: (2区について) 弥生時代の溝は、いずれも当時の灌漑用水路として利用されたと考えられ、大規模なものは幅が600～700cmにも及ぶものも存在した。南北方向に流走する溝はいずれも規模が大きく、数回の改修や掘り直しが行われていた。溝内には砂が厚く堆積し、洪水によって埋没したと考えられる。p43: (溝9について) (前略) 洪水砂で埋没している。出土遺物はほとんど認められないものの、検出状況などからみて溝10とさほど時期差はないものと考えられる。(中略) (溝10の出土遺物は) (弥生時代) 後期中葉の特徴を示している。(中略) (溝11について) 溝内は、溝9・10と同様に洪水砂が認められる。出土遺物は、確認できなかったが、状況からみて溝10と相前後する時期であろうか。(中略) (溝12について) 溝内は、上下2層に堆積しており、他の溝と同様に洪水砂で埋まっている。出土遺物はないものの、溝10・11と同時期ぐらいであろうか。(中略) (溝13について) 溝内は、堆積層の大半が砂層であるため、洪水で埋まっては溝を掘り直していたものと考えられる。出土遺物は、完形品も含めて、中期～後期の多量の土器が検出された。p44: (溝13は) 後期中葉の時期を中心に機能していたと考えられる。p48: (溝16について) (前略) レンズ状に砂層が厚く堆積しており、洪水により埋没したものと考えられる。出土遺物は、ほとんど認められなかったが、溝15とさほど時期差はないと思われ、弥生中期の前半期と考えられる。	▼弥生中期～後期。	複数回。
990	備前原遺跡	岡山県		4	p22: 第4層は第2遺構面から検出した水田の基盤層である。p23: 第4層は上層が細砂、下層が粘土で鉄分の沈着が見られることから、河道跡に湿地の様な状態で滞水していたところを、洪水砂が一気に覆った状況が伺える。p50: (弥生時代中期前葉について) 第4遺構面の時代である。河道は第4層下層の粘土層を形成するほど穏やかであったであらうが、その後、第4層上層の細砂層を形成する洪水が発生している。	▼弥生中期前葉。	第1遺構面の年代は記載なし。
991	備前原遺跡	岡山県		6	p36: 第6層は旧河道の堆積土の3層目である。厚い所で0.4m程度の細砂層である。(中略) 第6層も、第2層下層、第4層上層と同様に洪水によって形成されたものであろう。p50: (弥生時代前期について) 第6遺構面の年代である。第6層の細砂層を形成する洪水が発生している。	★弥生前期。	第1遺構面の年代は記載なし。
992	津島岡大遺跡第3次	岡山県		8	p21: (弥生時代後期～古墳時代初頭…8層について) 谷部分がほぼ完全に埋没する。砂質の強い層(8層)が下部水田層(9層)を覆っており、その性状から洪水砂的性格が考えられる。微高地部分ではこの層は確認されていないが、古代層(7層)が弥生時代後期水田層(9層)直上にまで及んでいるため、その有無については不明確である。	▼弥生後期～古墳初頭。	
993	津島岡大遺跡第3次	岡山県		11	p16: (11層は) 12層を覆う直上の砂層である。微高地の高い部分で一部認められないが、ほとんど全域に堆積する層である。層厚は微高地部で2～5cm、少し厚いところで5～10cm、谷部で5～10cmである。(中略) 下層を巻き込んだ様な層であることから、洪水砂的性格が考えられる。(中略) (弥生時代) 前期の時期を考えたい。(12層は) 調査区南～東半部の微高地を形成する水田層である。p17: (12層について) 本層は形成期は突帯文期、つまり、縄文晩期末葉まで遡り、最終段階が弥生前期と考えられる。	★弥生前期。 ▼縄文晩期～弥生前期。	
994	津島岡大遺跡第3次	岡山県		14～16	p20: (縄文時代後期前半…16層～14層について) 前段階との地形的変化は大きくないが、初めて人為的痕跡が検出される。(中略) 微高地の部分の堆積土は非常に均質な砂質土で、分層間の差が非常に小さいことから、比較的短期間に一気に堆積した可能性が認められる。(後略)	★縄文後期前半。	洪水によるものとは記されていない。
995	津島岡大遺跡第5次	岡山県		14	p15: (14層は) 谷部のみに堆積し、南北の微高地上には認められない。13層が埋積する流路の南側ではa層(灰褐色砂混粘質土～灰褐色混粘質土)が堆積し、下半では粘性を強める。上面は2.2～2.3mにある。流路の北側に堆積するb層は砂の包含率が高く、暗灰褐色～青灰褐色粘(質)土と青灰色砂が互層に堆積する。13層が埋積する流路からの砂の流出が広がったものと考えられる。上面は1.9～2.1mにある。全体にマンガンの沈着が認められる。弥生前期に属する。	★弥生前期。	洪水によるものとは記されていない。
996	津島岡大遺跡第5次	岡山県		16	p15: (16層は) 14層と同様に谷部分にのみ堆積する。(中略) 15層の南側では灰褐色粘質土(a層)であるが、北側では砂の包含率が高く、青灰色砂混粘土層(b層)を成す。14層と同様に流路内埋土(15層)からの砂の流出の影響が考えられる。a層からは弥生前期の遺物が出土している。	○弥生前期。	洪水によるものとは記されていない。
997	津島岡大遺跡第6次	岡山県		6	p17: (6層は) 洪水砂層である。微高地最上部にまでは広がらない。7層と5層の間層を成す。標高3.5m前後に、約4cm程度の厚さが認められる。主に細砂で形成され、鉄分、マンガンの沈着が著しい。大半の出土遺物は中世後半に属するが、僅かに陶磁器類の破片が含まれる。中世末を中心とする時期だろうが、近世初頭にかかるかもしれない。	○中世末期～近世初頭。	

998	津島岡大遺跡第6次	岡山県	8	p17: (8層)は灰褐色～淡灰色砂質土で鉄分・マンガンの沈着が顕著である。細砂を多く含む。上面の高さは3.2～3.3mで南に下がる傾向が認められるが、全体としてはほぼ平坦と言える。しかし、層厚は10～40cmと幅がある。下層の大溝への流入部あるいは周辺部では厚く、部分的に鉄分やマンガンの沈着の差が認められる。洪水砂としての性格が考えられる。上面では東西方向の大溝を検出した。これは条里復元ラインに一致する。遺物は少なく細かい時期決定はしがたいが、遺構の状況からみて、古代の範囲に考えておきたい。p18: (9層について)遺物は比較的多く、土器が目立つ。古代(平安時代)に属するものが中心で、本層の時期を示すと考えられる。p72: SD14は8層上面が検出面にあたる。(中略)(SD14の)所屬時期はいずれも古代、平安時代後半が考えられる。	★古代。▼平安。△平安後半。	
999	津島岡大遺跡第6次	岡山県	16	p19: (16層)は谷部の底付近に堆積している層である。(中略)上層は淡灰褐色砂質土、下層は黒褐色砂質土で砂質が極めて強い。上面で谷底を走る溝を検出した。標高2.0mである。遺物は土器片が比較的多く出土した。突帯文土器が多いが弥生時代前期後半～末のものも少量含まれ、本層の時期を示す。p22: 16層は砂質が強いことから、おそらく本流から砂層が溢れてきたものと判断される。	★弥生前期後半～中期初頭。○縄文晩期(突帯文)～弥生前期末。	
1000	津島岡大遺跡第13次	岡山県	8	p11: (7層)は13世紀後半から14世紀頃の土器を含んでおり、本層の帰属時期を示すと考えられる。(8層)は砂質に富んだ土層で、鉄分の沈着が認められる。9層直上を覆う砂層で、洪水砂の可能性が考えられる。ただし、堆積状況が不安定であり、調査区の東半部では堆積が確認できなかった。(中略)(9層に伴う)遺物には、10世紀後半の黒色土器碗や13世紀代の土器があり、本層の帰属時期も二つの可能性が考えられる。	▼10世紀後半または13世紀。△13世紀後半～14世紀。	
1001	津島岡大遺跡第10次	岡山県	5	p17: 5層は近世、6層は中世後半から近世に形成された堆積土層と考える。5層は淡黄灰色の微～細砂層、6層は黄褐色砂質土を呈する。土層の時期は、6層は出土遺物の状況から判断したが、5層に関しては直接時期を示す遺物はなく、6層上面の遺構を覆った洪水砂という性格を考えて、同層の最終段階である近世の時期を想定した。両層とも調査区東半部のみ確認され、西半部では3・4層によって削平される。(後略)	★近世。▼中世後半～近世。	
1002	津島岡大遺跡第12次	岡山県	7	p177: (6層からは)14世紀代の遺物が出土している。(7層)は古代層と考えられる。粗砂・細砂を含んだ淡黄灰色砂質土で洪水砂と考えられる。上面は2.5～2.6mである。7層の堆積は調査区の南端までは及んでいない。10世紀代の遺物が出土している。	★古代。○10世紀。△14世紀。	
1003	津島岡大遺跡第12次	岡山県	10	p177・179: (9層)は古墳時代の包含層と考えられる。(中略)(10層)は古墳時代層と考えられる灰色砂質土で、洪水砂と判断される。上面は北区で2.2m、南区で2.5mである。調査区の北側に厚く、南に向かうにつれやや薄くなり、南東隅では認められない。10層上面では溝12条・土坑1基を検出した。いずれも出土遺物から弥生時代末～古墳時代後期に形成されたと考えられる。	★古墳。△弥生末～古墳後期。	
1004	津島岡大遺跡第12次	岡山県	11a	p179: (11層)は弥生時代の包含層である。洪水砂層である。10層と同様調査区北側に厚く堆積し、堆積の厚い北側では上下に二分できる。南側では11a層が南東隅以外に堆積し、11b層は部分的に認められた。上層の11a層は灰黄褐色細砂で、鉄分・マンガンを少し含む。下層の11b層は明灰黄褐色細砂で、同じく鉄分・マンガンを少し含む。上面は北で2.15m、南で2.4mである。出土遺物から11a層は弥生時代中期～後期に、11b層は弥生時代前期～中期に形成されたと考えられる。(後略)	★弥生中期～後期。▼弥生前期～中期(11b層)。	
1005	津島岡大遺跡第12次	岡山県	11b	同上	★弥生前期～中期。	
1006	津島岡大遺跡第27次	岡山県	4～10	p45: 中世の遺構は、10～4層の上面において検出した。中世の包含層は0.5～0.6mの厚さで堆積しており、この時期の洪水にともなって近隣河川から多くの土砂が運ばれてきたと考えられる。また、中世の土層は基本的に水田層であると思われるので、洪水のたびに土地を造成し直し水田として利用していた状況がうかがわれる。	○中世。	
1007	津島岡大遺跡第15次	岡山県	2	p15: (2層)は上面は標高3.3～3.6mにあり、層厚は全体で10cm程度である。灰色系の砂質土～粘質土で、砂質の強いa～c層と粘性を示すd層に大別される。p16: (前略)(2層)は古代に属する耕作土と判断される。また、地形のやや低い北西部では、c・d層の上面には、それぞれ洪水砂と判断される1～5cmの灰白色系粗砂を主体とした薄い層が堆積しており、d層の堆積以降、a～c層に関しては、洪水の影響を頻りに被っていた状況が想定される。	★古代。	
1008	津島岡大遺跡第15次	岡山県	3	p16: (前略)(3層について)本土層は弥生時代後期～古墳時代初頭の耕作関連土層と判断される。また、2層と同様に、北西部のより低い北部分において、上面には2～5cmの厚さ薄い白色微砂あるいは灰褐色細砂を多量に含む層が部分的に認められる。水流にともなう堆積が窺われる。	★弥生後期～古墳初頭。	報告書には「水流にともなう堆積」とあるだけで洪水かどうかは不明。

1009	津島岡大遺跡第15次	岡山県		6a	p16・19: (6層について) 上面の高さは標高2.43~3mである。a-b層に細分されるが、主体は10~20cmの層厚を有するa層である。(中略)a層は弥生時代早~前期に属する8層上面を覆っており、前期に属する洪水砂としての性格が想定される。	★弥生前期。 ▼弥生早期~前期。
1010	津島岡大遺跡第15次	岡山県		18~20	p20: (18~20層: 広域に広がる河道内堆積土層)(中略)(19層について) 上面の高さは標高1.05~1.55m、層厚は5~25cmである。かなり広範囲の堆積が予想される灰色系の砂層である。(後略)pp20~21(縄文時代後期について) 河道部と微高地部の比高差は1.9~2.4mを測り、両者の違いが明瞭となる。河道幅は51m以上を測り、北東から南東方向の流路が数回にわたって重複しつつ形成される。全体的に、砂の包含が顕著であるのと同時に、大形の流木を含む木質層が形成されるなど、多くの包含層を堆積させている。また、下層に形成される貯蔵穴の上半を大きくえぐり取るような状況も確認されることから、水量が非常に多い洪水的な流れが、頻繁に起きていたことが予想される。その結果、微高地部は急速に形成され、河道部との斜面は急峻な立ち上がりを見せる。	★縄文後期。
1011	津島岡大遺跡第23次・第24次	岡山県	河道3	河道3埋土	p19: 河道3は縄文時代の河道流路をほぼ踏襲している。(中略)河道3は弥生時代前期後半から中期前半の間に埋没している。河道3を埋没させた埋土は粗砂層で、これは津島岡大遺跡周辺の他の調査地点で検出された河道内部の堆積構造と類似し、洪水によって埋没した可能性が高い。	★弥生前期後半~中期前半。
1012	西東子遺跡	広島県	西区のSX5		p51: (SX5は)長さ約20m、幅約5m、深さ約0.7m前後の窪みで、SX3と同様に人為的な遺構とは考えにくい。用水路の氾濫や西側の谷からの浸食痕ないしSX6から流れ出た水により浸食された痕跡と考えるのが自然であろう。p76: 近世の文献資料によると、本遺跡南側を東から西に流れる黒瀬川は、大雨や台風により幾度となく氾濫や増水を繰り返していた、十数年までまでその流路は大きく蛇行していた。氾濫時に西東子遺跡の所在する高さまで水位が上昇してきたかどうかはわからないが、水田層の下層に粘土層や砂礫層の薄い堆積が部分的に認められ、堆積や開析が繰り返したのもと思われ、それは、洪水などの自然災害と水田を保持しようとする人々の営みとの繰り返しを示しているように思う。	
1013	御領遺跡第99-1次	広島県		3	p17: 調査区の層序は、表土・旧耕作土の下層に明黄褐色砂(第3層)が約40cmの厚さで堆積するが、この層は、1673(延宝元)年に国分僧寺の西を流れる堂々川が氾濫したときの洪水層である。	★1673年。
1014	上東遺跡	山口県	SD5009	SD5009埋土	p22: (SD5009・5010は) 東区と南区の交点、拡張部に位置し、両者はほぼ直交するが、SD5010がSD5009に先行する。(中略)SD5009は、SD5010にほぼ直交し、北北東-南南西を向くが、土層断面の観察からは、埋積土は黒褐色砂の単一堆積に近く、洪水のような状態で一気に堆積したものと考えられる。出土遺物は少ないが、土師器の皿が出土しており、中世(室町時代?)の所産と考えられる。	★室町。
1015	延行条里遺跡ほか	山口県	基本層序	Ⅲc	p27: Ⅲ層にはまったくといってよいほど腐植土層をはさまず、かつ斑鉄の集積が顕著である。Ⅲ層は単一の時期の堆積物ではなく、かつ旧耕土層もはさまないことから、氾濫堆積物である。Ⅲc層およびⅢd層の一部を除いては、水田基盤の再整備のため、人工的搬土・造成土とみられる。氾濫堆積層(砂質土)もまた、ただちに平坦に造成されて水田基盤となっている。Ⅲb層から上では近世陶磁が含まれ、また、Ⅲb層上面で畦畔遺構の一部の移動・拡大がみられることから、Ⅲb層が中世と近世とを画しているともみてよい。Ⅲc層の氾濫堆積は14世紀ないし15世紀ごろで特定ができない。あるいは、この氾濫堆積層はかなり長期にわたる堆積物の集合なのかもしれない。Ⅲd層は灰青色の粘質土で12世紀代の土器を含む。Ⅲc層の氾濫まで安定した水田基盤であつたらしい。Ⅲ層の年代は12世紀から18世紀におよぶが、その時間幅にたいして堆積の厚さはない。また、各亜層(a層~d層)ともに全域で平均的な厚さをもって分布している。これらのことから、Ⅲ層の時代には、すでに表面水がよく管理され自然堆積層を形成する要因は、河川の氾濫を別にすれば、ほとんど除かれていたとみられる。あわせて、人工的造成による基盤整備がいく度となく反復されていたことを知ることができる。	★14世紀~15世紀。
1016	延行条里遺跡ほか	山口県	基本層序	IVb	p27: IVa層は12世紀代の人工造成層である。(中略)IVb層は大きく2つに分けられる。1つは北側の台地の谷筋から流積した、砂礫混じりの灰褐色ないし灰鼠色の粘質土である。その流積によって、SⅠ・SⅡの谷LZ001もほとんど埋没してしまった。いま1つは南側の低地に分布する砂質土または粗細砂で、河川氾濫によるものである。	▼平安中期~後期(V層)。△12世紀(Ⅲd層)。

1017	延行条里遺跡ほか	山口県	基本層序	Va	p28: V層は平安時代中期から後期にかけての自然堆積層である。Va層は暗灰褐色ないし暗灰紫色の腐植土で、ほとんどすべての地点で微砂質の小さなブロックを含んでいる。おそらくVI層やVII層の二次的な流積によって形成されたものであろう。Vb層は帯紫暗灰鼠色ないし帯紫褐色の粘土である。VIIb層、IXa・b層やXa層に近い。寒冷期の気候土壌である。Vb層の年代は10世紀後半代を下限としている。Vb層、Va層ともにほぼ全域に分布する。現況土壌断面によると下流側の低い地点ではV層はグライ層となっている。	★平安中期～後期。▼10世紀後半(Vb層)。△12世紀(III d層)。	
1018	吉田馬場遺跡	山口県	基本層序	VII	p8: VII層は灰紫色の微砂質土～粘質土で、谷底低地の堆積作用が停滞した時期の自然堆積層。冷涼な気候に原因する土壌かもしれない。土壌化遺跡の結果では、交錯に利用された可能性が指摘されている。p9(表2): (VIc層は平安時代後期(11世紀)、VIIc層は平安時代中期?に相当。)	★平安中期。▼奈良～平安前期。△11世紀。	
1019	吉田馬場遺跡	山口県	基本層序	VIII	p8: VIII層は奈良時代から平安時代前期の間の砂礫堆積物。地点によっては1mを超える厚さがある。堆積の中断期をはさむ。この氾濫堆積は、駒辻川の東側では、IX層～XIII層を覆い、標高14m～17mの緩やかな傾斜面を形成した。遺跡および遺跡周辺の地形は大きく変わり、また下位の遺構面は徹底的に破壊され、または厚く覆われた。なお、上部は微細砂で土壌化している。p9(表2): (VIII層は奈良時代後期～平安時代前期に相当。)	★奈良(後期)～平安前期。	
1020	吉田馬場遺跡	山口県	基本層序	X	p8: X層は山麓斜面を開析・運搬した砂礫層。古墳時代後期の短期間の氾濫堆積物らしい。	★古墳後期。	
1021	周防国府跡第107次	山口県		包含層II	p20: 包含層が堆積するのは、地山がしだいに低く不安定になってゆく調査区南西部である。包含層Iは中央の南北溝群を覆う形で堆積するが、包含層II・IIIは南北溝より西のみに堆積し、包含層IIはこれらの溝のうちSD7044・7045の氾濫による堆積土と考えている。(中略)包含層Iは13世紀代を下限とする遺物を含む。包含層IIは10世紀前半代まで、包含層IIIは8世紀～9世紀前半、包含層IVは8世紀前半を主体とする遺物を含む。p21: (10世紀前半の遺構について)浅い南北溝3条(SD7044～7046)がある。(中略)これらの溝は多量の遺物を含み、主体は8～9世紀の須恵器であるが、10世紀前半の完形に近い土師器や黒色土器を満遍なく含んでおり、埋まった時期を10世紀前半に推定できる。	★10世紀前半。▼8世紀～9世紀前半。○10世紀前半以前。△13世紀前半。	
1022	庄・蔵本遺跡第10次	徳島県		3～5	p92・94: 調査地における地形的変化の概要を推定してみると次のようになる。約2200年前の弥生時代前期前葉には地表面が海拔2.2m前後であった。以後、数度の洪水をうけた結果、最終的には80cm程度の堆積層に覆われることとなり、江戸時代の地表面は海拔3m程度までに上昇した。ただし、いつの時代にも洪水が頻発したわけではなく、本地点の場合、洪水の影響をまともに受けた時期は、弥生時代前期後葉のごく限定される期間であったと推定される。3層・4層・5層はいずれも洪水によって押し流されてきた砂礫層、および洪水後の滞留水が引くまでの間に沈殿したものと推定される砂層およびシルト層である。このうちもっとも古い5層は比較的大規模な洪水によるものであったと思われる。一方、3層が堆積した以後は大規模な洪水に見舞われる頻度が大幅に低下したものと考えられる。先の洪水砂が幾重にも厚く堆積した結果、調査区周辺の一帯は微高地となり、洪水からは免れる地形となったのであろう。この間に鮎喰川本流の流路変更が生じた可能性もあろう。	★弥生前期後葉。	
1023	庄遺跡	徳島県	基本層序	5, 6	p17: (前略)第5・6層の上面が第2遺構面である。弥生時代中期後葉(IV期)から13世紀の遺構を検出する。この第5・6層が黄褐色砂質シルト層で、弥生時代前期後葉から中期初頭の土器を包含している。この層下部から、次の第7層上面において、弥生時代前期後葉・中期初頭の遺構・土器だまりを検出している。これが第3遺構面である。この黄褐色シルト質砂層は、鮎喰川下流域に広く堆積しており、いずれも弥生時代前期の遺物を包含している。部分的には相当の深さがあり、土器の時期も限定しえることから、洪水などの要因によって短期間に堆積したものと推測することができる。	▼弥生前期後葉～中期初頭。○弥生前期後葉～中期初頭。△弥生中期後葉～13世紀。	
1024	下川津遺跡	香川県	第1低地帯のセクション1	II	p6: (第1低地帯のセクション1について)II層は灰褐色ないしは黄灰色の均質な細砂からなる層群で下層に比べ堆積物の粒径は大きい。後述するように第4低地帯流路1等に起因する洪水堆積物と考えられ第1低地帯北部全域に分布する。層厚は約0.6mで本層上面で、微高地面との比高は1m内外にまで減じている。本層上部で黒色土器片を検出していることから、ほぼ平安時代末までには堆積を完了していたと推定できる。p10: 第2低地帯流路2は、先に見た第1低地帯北部とも共通する平安時代の洪水砂層堆積時期に突発的に合流部に形成された深い凹地で、他の流路とは異なる。恐らく洪水時の強い水流によって合流部の川底の若干の段差部分が局地的に深く抉られ滝壺状を呈したものと考えている。	★平安。△平安末。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]

1025	下川津遺跡	香川県	第1低地帯・第2低地帯合流部の流路2、セクション3・4	II	p11: (第1低地帯・第2低地帯合流部のセクション3について) (Ⅲ層は) 第1低地帯・第2低地帯に共通して堆積する黄灰色細砂層。いわゆる洪水砂層。層厚1m、上面での比高は僅かに0.1mに過ぎない。合流部南側で第2微高地が半島状に突出した本層上面に平安末以降の遺構が形成されている。p17: (セクション4のⅡ層は) 平安時代の洪水堆積層で第2低地帯流路2とした落ち込みは本層途中で切り込まれ、完了時には完全に埋没している。(中略) 本層堆積開始は奈良時代末ないし平安時代初頭に遡る可能性がある。	★奈良末～平安。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1026	下川津遺跡	香川県	第1低地帯・第3低地帯合流部	II	p20: (セクション5のⅡ層は) 青灰色ないしは黄灰色の粘土層で合流部全域に堆積する。これ以北の地点では平安期の洪水砂層が堆積する層準に相当するが、明確にそれとは異なる。層厚0.6m程度で、本層堆積完了時には微高地面との比高はほぼ解消されている。(中略) (セクション7のⅡ層は) 平安期洪水砂層に対応する時期の堆積層で、セクション4・5Ⅱ層と同一層。(中略) (セクション8のⅡ層は) 褐色粘質土層で以北に分布するいわゆる洪水砂層に対応する層位である。	★平安。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1027	下川津遺跡	香川県	第1低地帯・第3低地帯合流部	II	p20: (セクション5のⅡ層は) 青灰色ないしは黄灰色の粘土層で合流部全域に堆積する。これ以北の地点では平安期の洪水砂層が堆積する層準に相当するが、明確にそれとは異なる。層厚0.6m程度で、本層堆積完了時には微高地面との比高はほぼ解消されている。(中略) (セクション7のⅡ層は) 平安期洪水砂層に対応する時期の堆積層で、セクション4・5Ⅱ層と同一層。	★平安。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1028	下川津遺跡	香川県	第2低地帯	II	p34: (セクション10のⅡ層は) 平安時代洪水砂層。灰茶色ないしは黄灰色の細砂層からなり、層厚最大0.4m程度を測る。上面の標高3.8mで微高地面との飛行は僅かに0.3mを残すだけである。この砂層は第4低地帯の流路1などから供給されて本低地帯を越えて第1低地帯北部におよぶ。第2低地帯流路2は本層中位から切り込まれ、堆積完了時までには完全に埋没している。	★平安。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1029	下川津遺跡	香川県	第3低地帯	II	p40: (セクション11のⅡ層は) 淡灰色砂層。第4低地帯流路1から供給された平安時代洪水砂層。この部分をはじめ本低地帯西部では層厚最大0.8mにまで達し微高地縁辺部の一部を覆っている。東端、第1低地帯との合流部にまでは及んでいない。上面の標高4.9mを測る。	★平安。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1030	下川津遺跡	香川県	第4低地帯	II	p42: (セクション14のⅡ層は) 淡灰色・淡黄色細砂層。水田3を被覆する砂層。流路1に係わる「洪水砂層」と同一と考えられる。p53: (セクション15のⅡ層は) 灰褐色系統細砂層。流路1堆積層上層。いわゆる洪水砂層。層厚最大1mを測り、上面ではほぼ微高地面との比高を解消しており、平安時代末以降の遺構面となる。	★平安。△平安末。	参考[大久保徹也「下川津遺跡における地形的変遷」(第2分冊)pp298-301]
1031	東山崎・水田遺跡	香川県	C地区		p390: 本遺跡の中世から近世初頭の集落が立地する微高地から少し下がった場所には集落は見られないことから、江戸時代中葉頃になって屋敷は現代集落が立地する旧長尾街道沿いやB地区の位置する自然堤防沿いに移っていったものと考えられる。おそらく、本遺跡で検出された集落はこのような原因から廃絶したものと考えられる。		
1032	川津一ノ又遺跡	香川県	1①調査区		p203: 川跡の最終埋没土(6・7層)から、古墳時代後期から奈良時代までの土器が多量に出土している。この後川跡は水田として使用された。したがって水田の上限年代は奈良時代である。p272: 川跡部分は、弥生時代終末期に埋没を開始したものの、7世紀以前に一時期水流が存在したようで、川底部分から7世紀頃の遺物が出土する。しかしながら奈良時代には川跡はほぼ埋没し、水田化されていたようである。水田耕作土及びそれを覆う洪水砂層からは平安時代以降の遺物は出土していない。また、3②調査区では奈良時代の水田畦畔とともに畦道状の大畦畔を検出している。	▼奈良以降。 ○奈良。	
1033	小山・南谷遺跡	香川県	SD701		p28: SD701は、V-3区及びVI区で検出した溝である。p30: 堆積埋土は基本的には砂層で、弱グライ化した灰色～青灰色気味の極細砂層と褐色～赤褐色の細砂～粗砂層が上層部では交互に薄い堆積をし、下層では後者が主体をしめる堆積をしている。この堆積をみると丘陵部からの洪水砂によって、かなり短期間に堆積したことが解る。この堆積層には数回、おそらく2～3回の堆積時期が読み取れる。p34: (前略) SD701の掘削時期は、最下層出土遺物や上～下層の出土遺物に8世紀の遺物がかなり含まれていることから、上限は8世紀に遡る可能性が指摘でき、下限(最終埋没)は、12世紀後半頃に求められる。	▼8世紀～12世紀後半(埋没年代)。	

1034	川津一ノ又遺跡	香川県	SR01		p51:(SR01は)調査域南端部に位置する。pp52-53:土層はシルトや微細砂が中心で、粗砂も多く含むワミナ状の堆積状況を示す。図版9で示したように、下部には径40cm以上もあるような大木が含まれている。また焼け木も多く含まれ、泥炭層も一部存在した。p53:(前略)以上の状況から、Ⅲ期前半のあるとき、豪雨等によって、大木を流れ去るような大水が発生し、低地部が侵食され、SR01となり、短期間で埋没したことが推測される。p372:(弥生時代中期中葉について)中期中葉の消滅については、なんら根拠がないとはいえ、SR01から可能性の一つを読みとってみたい。即ちSR01において認められた大木をも押し流すような激流を引き起こした集中豪雨により、集落自体が大損害を受けたと同時に、集落の生活を支えていた耕地や自然を破壊した結果、他の土地への移住を余儀なくされたのではなかろうか。	★弥生中期中葉(畿内Ⅲ前半)。▼弥生中期。	
1035	川津一ノ又遺跡	香川県	SD051など		p254:(SD051は)C25/26に位置する。N03° Eを向く。北はSX12の下に潜り込んで消える。(中略)出土土器から、8世紀の溝と考える。(中略)SD075が分岐する地点はSD040/060が角をなして曲がる地点でもあることから、そこで水が曲がりきれずに溢れることもあったであろう。pp255-256:(SD074は)調査域中央を北西-南東に貫く溝群の最も南よりに位置する。p256:出土土器は7世紀後半~8世紀前半のものである。SD051の項で述べたようにSX12があふれた水の層で、Tトレンチ断面で見たようにSD074を覆っているのであれば、SD074もこの水を集め、そこから南東に流すのが役割であったと考えられる。	★8世紀。○7世紀後半~8世紀前半。	「人為的要因」による洪水、または流路と判断した。
1036	中間西井坪遺跡	香川県	谷7		p77:(谷7は)10~11区を南北に貫流する。検出面での上面幅は20~30m、深さは1.8~2.2mである。p387:(弥生時代後期~古墳時代前期について)谷7出土の土器群は、一部弥生時代中期に遡るものもみられるが、後述するように主体となるのは弥生時代終末期から古墳時代前期初頭頃の僅か3~4型式分の土器群である。おそらく谷東部の微高地上に展開した集落の経営期間も、土器内容からみる限り、谷出土の土器群と大きな時期差を認めない。したがって、谷周辺部に集落が経営された期間内に、急速に谷部への土砂供給が活発化し、谷内部の平準化が進行したものと考えられる。その背景として、当該時期に集落等で消費する森林資源の無秩序な開発によって、谷上流域の山林が伐採され、雨水等による地表面の浸食が促進し、谷部への土砂供給量の一次的な急増へと繋がり、谷部の埋没が進行した可能性が高い。(後略)	★弥生後期~古墳前期。	
1037	川津川西遺跡	香川県	I区	1b	pp32-33:(前略)1b面の所属時期については、遺構出土の遺物が僅少であり、一定量の9世紀代前後に遡る遺物の中に、本来1a面の遺構に帰属したであろう遺物も混在し、明確な時期を特定することができなかった。限られた遺構出土の遺物から、13世紀代に位置づけられるものと想定していたが、それよりは遡る可能性も高い。1b面包含層も、1a面包含層同様にIe区及びId区南半部では、大きく削平され検出されなかった。包含層は、均質なシルト土層で、層厚0.1~0.2m程度で緩やかに北に傾斜して堆積しており、旧大東川の洪水堆積の可能性が高い。(後略)	★13世紀以前。	
1038	川津川西遺跡	香川県	I区	包含層IVなど	pp33-34:(前略)2面のベース層となる灰黄褐色系粘質シルト~粘質土は、調査区南部を中心に広く堆積する。本層からは、若干量の縄文時代後期から晩期を中心とした遺物の出土がみられた。(中略)本層を以下、包含層IVと呼称する。本層下位には、灰色系のシルト~細砂~粗砂層が、上位にいくにつれて粒径を小さくしながら漸的に概ね北に傾斜して堆積する。堆積状況から、旧大東川の洪水堆積に起因する堆積層と考えられ、包含層IVを含め比較的短期間に堆積した可能性が高い。本層群は、後述するⅡ・Ⅲ区にも共通して堆積しており、Ⅱb区での観察で層厚3.5m以上を有しており、段丘I面の基盤層を形成するものと考えられる。(後略)	○縄文後期~晩期。	
1039	鴨部・川田遺跡	香川県		4, 5上	p11:遺構確認面(第4層ないし第5層上面)の上には鴨部川の厚い洪水堆積層がみられ、現地表下から1.2~1.6mで弥生時代の遺構を確認した。(中略)(第4層は)標高7.0~7.3mに位置する。粘土・粗砂混じり粘土層である。弥生時代前期から中期の遺物包含層である。(中略)古墳時代前期土器とナスビ形膝柄又鍬が出土した4区の落ち込みSX1056は第4層上面で形成されている。	○弥生前期~中期。△古墳前期以降。	
1040	原間遺跡	香川県	第Ⅲ調査区		p60:(前略)遺構は現地表から遺構面まで35cmと浅いことや検出した遺構の深さが約10~20cmと浅いことからかなり削平を受けていることが解り、洪水砂層の堆積から古川がかなりの頻度で氾濫し、洪水砂層がこの微高地を含め、この全域を覆ったものと考えられる。p182:(弥生時代について)出土遺物を時期的にみるとこれらの遺構は全て弥生時代後期後半の時期に比定できる。	▼弥生後期後半。	
1041	原間遺跡	香川県	第Ⅳ調査区	第2面直上	p281:(前略)弥生時代において東丘陵裾部を中心に集落が形成されたが、度重なる古川の氾濫を受けていたようである。この調査区が安定する時期はその氾濫による洪水砂が約1m堆積した7世紀になってからで、この時期を中心に集落が形成される。第1面で検出した遺構には7世紀(古代Ⅰ・Ⅱ期)以外に平安時代の遺構も検出されているが、その量は僅かで7世紀以降の集落は形成を見ない。	▼弥生。△7世紀中葉(前半)(古代Ⅰ期)。	

1042	原間遺跡	香川県	第V調査区		p393: 第V調査区で検出した遺構を遺構の切り合い、遺構の埋土の土色・質及び出土遺物で分類すると、弥生時代の遺構、8世紀を中心とする遺構、12世紀を中心とする遺構、忠清から近世にかけての遺構の4つの時期に分けられる。p394: (弥生時代について)それぞれの単位集団の時期は出土遺物から下川津Ⅱ式併行期と考えられ、第Ⅲ調査区での遺構の変遷でみると遺構Ⅱ期からⅢ期にかけての時期に相当する。この時期は第Ⅲ調査区において遺構数が徐々に増加する時期で、この時期においてのみ第V調査区において集落が形成され、以後消滅する。これ以後集落が継続しないのは旧古川の氾濫で、第V調査区が不安定になったものと考え、これは遺構面全体で確認された洪水砂によることから解る。	▼弥生(下川津Ⅱ式)。△8世紀。
1043	池の奥遺跡	香川県	自然河川跡		p160: (弥生時代中期後半の中頃: 土器編年Ⅳ-2期について)当該時期以降は弥生時代終末期頃(V-4期)にSH25が突然に出現した以外は無住の状態になるが、その原因としてSH20の内部から大型の岩石が検出されたように、河川の氾濫あるいは山崩れによる土砂と岩石によって集落が押し潰されたことが考えられる。	▼弥生中期後半の中頃。
1044	善門池西遺跡	香川県			p73: 善門池西遺跡を最も特徴付けるのは、中世である。(中略)出土した遺物の大部分を占めるのは、年代観が与えられている遺物より、12世紀後半から15世紀前半であり、集落の存続もおよそその中で考えることができる。p74: (前略)この地での居住の放棄は、別の要因を考えるべきであろう。V~Ⅷ区で多数認められた土石流の痕跡はそのひとつの回答である。	▼12世紀後半~15世紀前半。
1045	成重遺跡	香川県	Ⅱ区の谷2	中層	p193: (谷2は)Ⅱ区北半部で検出した谷地形である。最大幅16m。第1検出面からの深度1m程を測り、Ⅱ区微高地の中央部からやや蛇行しながら北東方向へ延びる。層位区分は大別して最下層・下層・中層・上層の区分が可能である。(中略)断面2の部分では、中層を切り込むように溝状を呈する部分が見受けられるが、局所的なものであり、面的には広がりを見せない。この部分の埋没土は粗砂層を主体としていることから見て、中層堆積後の局所的な窪地に洪水砂が堆積したものと見られる。出土遺物は少数であるが、下層とほぼ同時期の古墳時代前期の土師器を少量含む。(中略)(上層の)出土遺物には8c代の須恵器類と12c代の土師質土器皿や黒色土器椀が含まれる。これら出土遺物から、中世前半には完全に埋没していたものと考えられる。	▼古墳前期。 ○古墳前期。 △8世紀~12世紀。
1046	原間遺跡	香川県	Ⅱ区西壁土層		p5: 遺構の希薄な箇所、古川に最も近づく箇所である。土層断面では南端から5m付近までは耕作土の下部で古川の氾濫原が認められた。氾濫原の埋土は肩付近が褐色・明褐色・茶褐色砂質土で、その他が上部から茶褐色・灰褐色砂(粘土混)、暗灰色・暗灰褐色粘土、茶褐色砂であった。埋土中からは備前焼楕鉢が出土しており、古くても近世以降の堆積物である。さらに5m北側まではさらに古い古川の氾濫原が認められた。埋土は上部は明褐色・赤茶褐色・明黄褐色砂・粗砂などで、下部肩付近は明灰褐色・青灰白色・オリープ灰白色粘土・砂混粘土などであった。(後略)	
1047	成重遺跡	香川県	V区(旧G1区)		p211: 旧G1区では旧G4・5区の近世遺構面を形成する洪水砂礫層である厚く堆積した褐色・明黄褐色砂層の直下に明黄褐色粘質土層の上面の標高12.3mの所在で、古墳時代~中世の遺構面を検出している。	▼古墳~中世。
1048	成重遺跡	香川県	V区(旧G1区)		p211: (前略)弥生時代中期の遺構面は、後期の遺構面の上昇部分で自然河川あるいは大規模な洪水により壊されているため途切れるが、本来は後期の面とともに上昇して中期と後期が同一面になる可能性が高い。	▼弥生中期。
1049	成重遺跡	香川県	V区(旧G5・6・8区)		p211: 調査区の南北方向であるが調査区西端の旧G5・6・8区の土層図を検討すると、近世の遺構面から下は基本的に洪水砂礫層が厚く堆積している。この部分は古墳時代~中世の遺構は検出されておらず、旧G5区の北側では弥生時代中期・後期の遺構面と同じになる可能性を考えたが、同調査区の北西隅には大規模な洪水による攪乱があり、耕作土下130cmほどは洪水砂が厚く堆積している。この洪水砂層の下部の標高12.4mの部分に安定しほぼ水平に堆積する暗黄茶色粘質土層があり、この面が弥生時代後期の遺構面となる。	▼弥生後期。 △近世。
1050	竹元遺跡	香川県	第Ⅱ調査区	第1遺構面上	p24: それぞれの遺構面を形成する基盤層は土質が粘質土・シルトからなり、かなり安定していたと考えられるが、第1遺構面上に堆積した土層は粗砂層、シルト層と洪水等による堆積層と考えられ、安定した土層ではない。p32: 竹元遺跡では第1・2遺構面以外に遺構面はなく、第1遺構面上位に堆積する土層の粗砂層・砂層・シルト層と洪水等によって一気に堆積した土層で、立地的には安定した場所ではなかったものと考えられる。p35: 検出した遺構から第1遺構面は弥生時代後期中葉、第2遺構面は縄文時代晩期~弥生時代前期と考えられる。	▼弥生後期中葉。

1051	鹿伏・中所遺跡	香川県		第1遺構面上	p14: 第1遺構面上は、T.P.平均23.0mを測り、古墳時代前期前半以降の遺構が展開している。(中略) I・Ⅲ区に広がる低湿地部の第1遺構面上には、洪水砂と考えられる約0.5mの淡褐色の粗砂が堆積している。ラミナ状の堆積も確認できることより、短期間に堆積したことは間違いなく、この粗砂により低湿地部は現地盤の高さ近くまで埋まっている。そのため、低湿地部を埋める大きな洪水が、この遺跡に及んだことは確かであろう。p183: 低湿地部の第1・2遺構面上には、洪水砂と考えられる約0.5mの淡褐色の粗砂が堆積している。(中略) 時期については問題を残すが、少なくとも古墳時代前期後半以降である事だけは確かだろう。古墳時代前期後半以降に集落が廃絶するのも、こういった自然環境の変化によることも要因の一つと考えられる。	▼古墳前期後半以降。	
1052	鹿伏・中所遺跡	香川県		I区第2遺構面のSDa33など	p91: (SDa33・37は) I区の第2遺構面上で検出した。(中略) SDa33—検出長58.0m以上、幅1.0~2.3m、深さ約0.7mを測る。断面の形態は地点により差があるが、全体的には不整形なU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれるが、堆積状況から比較的短期に堆積した洪水砂が主となる。なお、この洪水砂はSDa34・35との分岐付近では、かなり広範囲に堆積している。層厚もかなりあり、当時の流れの強さを物語っている。SDa37—検出長2.5m以上、幅約0.6m、深さ約0.25mを測る。断面の形態は不整形なU字状を呈する。埋土は2層以上に分かれるが、堆積状況から比較的短期間に堆積した洪水砂が主となる。この溝の時期については、堆積している洪水砂の状況や検出状況を考慮すれば、古墳時代前期後半以降の時期が考えられる。(後略)	▼古墳前期後半以降。	
1053	奥白方中落遺跡	香川県		SR04	p80: (SR04は) 1区北東から2区中央部を西に流下し、3区南側を介して調査区外へ至る河川跡である。幅2.5~4mで5~15cm大の円礫により埋没する。(中略) 古代末ごろ土石流によって一度に埋没した遺構と考えられる。	★古代末。	
1054	本郷遺跡	香川県		SR101, 201	p86: (SR101は) 8区西壁際から7区北西隅にかけて検出した自然河川跡である。幅6m以上、深さ1.1mを測る。(中略) (SR201は) 1~4区にかけて、著しく蛇行して走行する自然河川跡である。(中略) 埋土は上層に黒色・褐色系の粘土層が堆積し、下層に灰褐色系の粗砂層が0.25mの厚さで堆積する。粗砂層は洪水等により一度に堆積したものと推定できる。(中略) SR101と同様に、弥生時代後期を中心とした存続時期が想定できる。(中略) SR101と同一の河川跡であった可能性が高い。(後略)	▼弥生後期。	参考) pp89-89; 第82図「SR101平・断面図、出土遺物」
1055	さこ・松ノ木遺跡	香川県		11	p30: (第11層は) SR04の河川最深部に厚く堆積する洪水砂層である。灰オリーブ色中~細砂であり、ラミナー状堆積を呈し、最も厚い部分で60cmを測る。砂粒の大きさの違いにより2つに分けられる。弥生時代後期の土器、櫛状木製品を含む植物遺体が多量に出土した。	○弥生後期。	
1056	さこ・松ノ木遺跡	香川県		15	p30: (第15層は) 調査区東端のSX01に堆積する洪水砂層である。褐色を呈し、3層に分けられる。弥生時代前期前半に比定される土器が出土した。p101: (弥生時代前期新段階以前について) 本遺跡で明確な遺構が最初に確認できるのがこの時期である。調査区東端で確認したSX01は微高地上の凹みに形成されたもので、南西からの流れと、南からの流れが調査区内で合流し、北東方向に向かって、流れていくものと考えられる。(中略) SX01が機能を失うのは、SX01を埋め尽くす数度の洪水砂層中に含まれる土器より、前期新段階であると考えられ、SR04東岸の微高地はこの時点でほぼ平坦になる。	★弥生前期新段階。	
1057	居石遺跡	香川県		SR02	p49: (SR02は) 第3区、ほぼ全域において確認した南西から北東に流路をもつ自然河川である。規模は幅20~22m、深さ1.20mであるが、概して西岸のほうが深く、東岸は浅い。[山元敏裕「第4章 調査のまとめ 第1節 遺構について」pp135-137] p136: 古代~中世にかけての遺構は第2, 3, 4微高地から多くの溝が確認されているが、(中略) SR01がこの時期においても、ある程度の供給があったものと考えられる。このことはSR02において土層観察により2時期の流路が確認され、新しい時期の流路は出土遺物より11世紀中頃の時期が与えられることに共通し、古代末から中世初頭段階においても香東川の氾濫による水の供給があったことを立証する資料として重要である。	★古代末期~中世初頭。	
1058	弘福寺領山田郡田園比定地ほか	香川県	田園南地区比定地B調査区西區画の北辺側溝	7	p57: 層序は上位から、第1層現耕作土、第2, 3層現代の堆積層、第4層近現代溝状遺構、第5, 6層須恵器(6世紀後半)包含層、第7層洪水砂礫層、第8層弥生後期包含層となっている。(中略) 第7層は西區画のほぼ北西半を被覆する砂礫層で、北東流した洪水による堆積と考えられる。セクション部部分では約20cmの層厚を測り、遺物の包含は見られなかったが、(中略) 弥生時代末から古墳時代後期の間の堆積と考えられる。	★弥生後期末葉~古墳後期。	

1059	川南・西遺跡	香川県	噴砂検出区	Ⅲ以下	p11:Ⅲ以下の層はその時期以前に存在した河道を埋積し、近世後期まで一時期安定していた面であろう。レンズ状の細礫層を挟む洪水砂層で、東に傾斜する層が重なっており、旧河道断面にあたる。p15:Ⅴ,Ⅶ(及びⅦ')層は、旧河道を埋積しながら北東へ落ち込む洪水砂層であるが、Ⅷ及びⅦ層は同様な傾きをみせながら西側へ向かっては水平な堆積を示して、同じ旧河道を埋積しながらも時期と性格が異なるらしい。旧河道を埋め、その河幅を減少させたⅧ層が一定の安定期間を経過したのち、旧河道の残された流路が洪水によるⅤ,Ⅶ(及びⅦ')層の埋積で全て埋没したものではなかろうか。	△近世後期。	
1060	上西原遺跡	香川県	第3遺構面の水田	第3遺構の面水田の上	p23:(第3遺構面について)1B区の東端において南北方向の大畦畔を2本、2区全域において不定形小區画水田を検出した。これら水田遺構は、オリブ褐色細礫層に覆われており、おそらく洪水といった自然災害で一度に埋まったと考えられる。(中略)この大畦畔の埋没時期は、弥生時代前期と推測される。p25:(前略)不定形小區画水田に伴出する遺物は、水田面上下の土層とも出土していないが、同じ土壌層および洪水細礫による被覆層をもつ大畦畔と同時期と考えられる。[川畑聰「第4章 まとめ 第1節 遺構の変遷」pp44-52]p50:高松平野では、旧河道A流域を中心に、弥生時代前期後葉に大規模な洪水が起き、これにより水田が埋没し、弥生人の生産基盤が一気に失われたと推測できる。また、洪水が直接集落や人間にも被害をもたらした可能性もある。この変化は、集落の盛衰にも現れる。p51:前期後葉の洪水が弥生人の生産基盤を奪ったために、集落の減少をもたらしたと考えられる。	★弥生前期後葉。	
1061	凹原遺跡	香川県	SD18埋土		p14:(SD18は)Ⅲ区北部、地形で言えば小谷底で検出した溝である。幅3~4m、深さ約50cmを測る。溝西半分は、弥生時代後期末~古墳時代前期初頭に属するSD03と重複しており、SD03により上部を削られている。埋土は粗砂礫層のみが厚く堆積していることから、おそらく洪水により一気に溝が埋没してしまったものと考えられる。埋土から弥生土器壺・甕・鉢や石器が出土しており、弥生時代前期末~中期初頭と考えられる。	★弥生前期末~中期初頭。	
1062	中の池遺跡第11次	香川県	基本土層	明褐色粘質土	p8:旧耕土直下には明褐色粘質土が存在する。この層は比較的均質で、層厚の厚い部分では部分的に級化や葉理が見られることから、近世以降現代以前の洪水砂を母材とした層であると考えられる。第4調査区SD410はこの明褐色粘質土を埋土としている。第9次調査ではこの層より、18世紀後半頃の染付碗が出土している。p25:(第4調査区のSD405は)調査区北側を東北方向から南西方向へ走る溝である。p26:埋土は基本的に葉理を形成する黄灰色細砂で、浸漬などの痕跡は一切見られず、洪水等による短期間の埋没を窺わせる。(中略)この溝の埋土は中の池遺跡全域に広がる旧水田床土となっている黄灰色シルトと類似し、第9次調査ではこの層から18世紀の染付碗が出土していることを考えると、SD405の埋没の契機となった洪水が、付近全域を覆ったものであった可能性がある。	★近世~現代。	
1063	中の池遺跡第11次	香川県	第4調査区B・C地区のSX401		p29:(第4調査区第1遺構面のSX401は)調査区北東隅に位置する浅い落ち込み状の遺構である。深さ18cm前後を測り、断面は浅い「U」字状を呈する。底部は起伏に富み、底部レベルも一定しない。埋土は黄灰色シルトを主体とし、葉理を形成するなど水流に伴って埋没したことがわかる。埋土はA区SD405と類似し、位置的にSD405延長付近に位置することから、SD405廃絶の契機となった洪水によって廃絶した遺構と考えられる。埋土内から石器、古墳時代の須恵器壺などが出土したが、遺構の年代を決定するものではない。	○古墳など。	
1064	中の池遺跡第11次	香川県	第4調査区B・C地区の水田	9	p29:(第4調査区第2遺構面の水田は)調査区東側で検出した。Fig.37断面土層図中の12層を母材とした10層を作土とし、初生の堆積構造を残す堆積土と考えられる9層で被覆される。9層は暗灰褐色粘土であり、部分的に葉理を形成する。攪乱により堆積構造は明確ではない。10層は暗黄褐色粘土であり、9層に比して葉理は見られず、粒形は均質である。9層はSD426と一体のものであることから、水田の灌漑用水路であったから、水田の灌漑用水路であったSD426を中心として洪水堆積物が運ばれたと考えられる。しかし、洪水は急激なものではなかったと考えられ、9層・10層の違いはわずかであった。p30:水田の時期についてであるが、水口付近SD426埋没段階の土層から弥生時代終末期~古墳時代初頭の土器が出土していることから、おおむねその時期に該当するものと思われる。	▼弥生終末~古墳初頭。	参考)p33; Fig.37「第4調査区壁面土層断面図」
1065	中の池遺跡第11次	香川県	第4調査区B・C地区	19	p32:(第4調査区第3遺構面の水田は)調査区東側で検出した。調査区下層に存在する河川の最終堆積時に生じた浅谷を利用して形成されている。断面土層図中の50層を母材とした22層を作土とし、初生の堆積構造を残した氾濫堆積物と考えられる19層で被覆される。19層は暗灰色細砂であり、部分的に葉理を形成する。(後略)p35:水田の時期については覆土からの遺物の出土がなく、下限は上層水田の年代をあてざるを得ないが、上限については下層のSD428から弥生時代前期中葉の土器が出土していることや第9次調査の成果を合わせて考えると水田の時期は弥生時代前期中葉を前後する時期と考えられる。	▼弥生前期中葉。	

1066	福角遺跡	愛媛県	基本層序	6	p24:6層は遺物包含層である。(中略)包含層の土壌化は未熟で、頻繁な大水による表土層(A0層)の流失が予想される。(中略)第6層の仮面で検出された遺構は(中略)すべての遺構は14世紀の遺物を主とする包含層に被覆されている。したがってこれらの遺構は14世紀を前後する時期の構築であると考えられる。	▼14世紀。○14世紀。	
1067	阿方遺跡	愛媛県	基本層序	IV	p11-15:(I~III層について)洪水などを示すような砂層が見られないことから、中世以降継続的に現代まで安定して水田耕作が営まれたことが知られる。(中略)IV層は無遺物層で、白から淡黄白色の砂層である。下面が5層を浸食して凹凸の激しい面となることや、ほぼ粒径がそろって有機質を含まない砂であることから、台風などの洪水などの際に形成された堆積層であると考えられる。(後略)p15:V層は灰色を呈する古代の水田耕作土層である。(後略)	▼古代(V層)。△中世以降。	
1068	阿方遺跡	愛媛県	基本層序	V	p15:V層は灰色を呈する古代の水田耕作土層である。(中略)V層中にもごく薄い白色砂のラミナ状の堆積が見られる箇所があり、度々小規模な洪水にあつて、その都度、水田を再生したものと考えられるが、IV層に覆われた時点で完全に放棄されたものと考えられる。牛の足跡が看取できるケースがある。層厚は16~88cmを測る。	★古代。	
1069	矢田八反坪遺跡	愛媛県	基本層序	IV	p271:(I~III層について)洪水などを示すような砂層が見られないことから、中世以降継続的に現代まで安定して水田耕作が営まれたことが知られる。(中略)IV層は無遺物層で、白から淡黄白色の砂層である。5層を浸食して凹凸が激しいことや、ほぼ粒径がそろって有機質を全く含まない砂であることから、台風などの洪水で運ばれた堆積層であると考えられる。IV層は尾根が張り出して微高地状に高まるY27区からY30区では見られない。層厚は6~24cmを測る。	▼古代。△中世以降。	
1070	矢田八反坪遺跡	愛媛県	基本層序	V	p271:V層は灰色を呈する古代の水田耕作土層である。(中略)V層中にもきわめて薄い白色砂のラミナ状の堆積が見られる箇所があり、IV層以外にも度々小規模な洪水痕跡が認められ、その都度、水田を再生したものと考えられ、IV層に覆われた時点で完全に水田を放棄したものと考えられる。	★古代。	
1071	森松遺跡	愛媛県			p34:(前略)水田耕作土の所属時期について簡単に触れておく。(中略)本来の水田跡を被覆する堆積土は、水田に伴う堤防が施された自然堤防に埋没した灰色系の砂質土である。この砂質土は洪水によって運搬されたものと思われるが、この砂質土に覆われた自然流路内に含まれていた遺物が土師器の小形壺である。この土師器は5世紀段階に位置づけられる「古照Ⅲ式」に比定できるもので、水田の埋没時期についての下限は、この遺物をもって行っている。p88:(前略)古墳時代水田は洪水によって埋没されるが、クマザサ属の増加を考え合わせれば、やや寒冷で湿潤な環境であったと思われる、現在見られるような地形環境が形成されていたと考えられる。	○5世紀前半(古照Ⅲ式)。	
1072	土居窪遺跡第2次	愛媛県	基本層序	VIII	p12:VIII層は弥生時代中期前半の遺物を多量に混入するが、層全体が攪乱されていて、地滑りや土石流などによって運ばれた包含層(VIII層)の二次堆積土と考えられる。3a区と3b区で確認した。VIII層の上面は削平を受けているが、弥生時代終末の遺構検出面となる。p17:VIII層中には磨耗していない弥生時代中期前半の遺物が多量に含まれ、(中略)ある程度堆積の単位を読みとることも可能である。こうした堆積状況はおそらく地滑りや小規模な土石流の繰り返しの結果であり、包含される遺物は3a区北東にあった遺跡から土砂とともに運ばれてきたものと考えられる。	○弥生中期前半。△弥生終末。	
1073	猿川西ノ森遺跡	愛媛県	3区など	IX	p10:(3区)IX層が黄褐色から褐色の大礫が混じる粗砂・細砂層で遺物包含層である。IXa~IXg層に細分でき、IXa・IXc・IXg層が大半を占める。南からの土石流などにより形成されたものと考えられるが、時期は出土遺物から縄文時代早期であると判断した。(後略)	★縄文早期。	
1074	此花町遺跡	愛媛県			p7:1~3区ではIV層上面にて、9区ではIV層下面にて中世の遺構を検出した。以下は石手川によって運搬された堆積層である。V層は1~3区で認められる暗褐色を呈するシルト層で、土壌化している。V層堆積後に水田開発が行なわれたと考えられる。VI層は1~4、8・9区で認められる細砂またはシルト層で、人頭大の円礫や半角礫を多く含む。1~3区ではVI層上面にて古代末から中世にかけての自然流路を検出した。VI層中からは多くの遺物が出土している。(後略)[兵頭勲・福山裕章「石手川右岸の土地開発について」pp54-56]p55:土層の堆積状況からは、中世には洪水による氾濫と耕作地の再生を繰り返し、近世になって石手川の河道が固定されて以降は安定した水田経営が行なわれていたことが読み取れる。	★中世。	
1075	大淵遺跡第3次	愛媛県	基本層位	VI1	p8:(第V層)灰(白)色シルト。中世水田床土。堆積厚8~36cm。(第VI1層)洪水(土石流)堆積層である。暗灰色粗砂。堆積厚2~40cm。(第VI2層)洪水(土石流)堆積層である。さらに大きく2層に分層可能で、上層が暗灰色粗砂=第VI2a層、下層は黒色粘質土(褐色混)=第VI2b層。堆積厚2~30cmを測る。(第VII層)褐色粘土~暗褐色粘質粗砂。	△中世。	

1076	大淵遺跡第3次	愛媛県	自然流路SR6		p104: (SR6は)調査区の北西部においてSR5の東側にほとんど並行する状態で検出した。他の流路と同様に南側から北北東方向に流れていたと考えられる。(中略)SR6は14~15世紀以降、中世後期に発生した土石流であると考えられる。	★14世紀~15世紀以降の中世。
1077	柳田遺跡	高知県	I区		p19: 下層の堆積は砂利層と粘土層の互層を呈しており、出土遺物からみて弥生時代末から古墳時代に洪水的な運搬力の高い状況の後に、河道変更が生じたものと考えられる。	★弥生末~古墳。
1078	柳田遺跡	高知県	IV区		p189: (前略)IV区セクションをみてきたが、南部のは弥生時代前期末から中期初頭の段階には比較的安定した高まりが形成されているものと思われる。この段階では、河道はSR401から北にかけてあったものと考えられ、古墳時代前半の洪水堆積層により、SR401部分が埋没し、当遺跡内を流れる河道は廃棄されたものと考えられる。	★古墳前半。
1079	具同中山遺跡群II-2	高知県	基本層序	VIIa (24)	p19: (VIIa層について)第24層が相当すると考えられる。(中略)(第24層について)分析によると短期間に速い速度で堆積した層であると考えられ、河川の氾濫の影響を度々受けていた時代の堆積層であるとみられる。p56: 古墳時代の遺物は第24層から出土した。pp56-57: (第24層の)祭祀関連遺構出土の須恵器の蓋杯は、後川・中筋川I編年ではII~III期、陶色編年ではI型式4~5段階、5世紀末~6世紀初頭にかけたものと考えられる。	○5世紀末~6世紀初頭。
1080	具同中山遺跡群II-2	高知県	基本層序	IXa (25)	pp19-20: (IXa層について)第25層が相当すると考えられる。(中略)(第25層について)弥生時代末期の遺物が多く出土する遺物包含層である。資料番号2の土壌サンプルを採取しており、分析によると第24層同様短期間に速い速度で堆積した層であると考えられ、河川の氾濫の影響を度々受けていた時代の堆積層であるとみられる。	○弥生末期。
1081	具同中山遺跡群II-2	高知県	基本層序	X Ia (31)	p20: (X Ia層について)第31層が相当すると考えられる。Dトレンチで確認された。(第31層は)2.5GY6/1オリブ灰色粘土層。N6/0灰色粘土と炭化物を含む。資料番号3の土壌サンプルを採取しており、分析によると短期間に速い速度で堆積した層であると考えられ、河川の氾濫の影響を度々受けていた時代の堆積層であるとみられる。	△弥生末期 (IXa層)。
1082	具同中山遺跡群II-2	高知県	基本層序	X VIa (41)	p21: (X VIa層について)第41層が相当すると考えられる。A・Dトレンチで確認されているが、色調、土質、含有物などから同一層と判断される。(第41層は)10YR2/2黒褐色粘土層。2.5GY6/1オリブ灰色粘土を層状に含み、腐食した草木類の堆積が認められる。資料番号6の土壌サンプルを採取しており、分析によると河川の氾濫による堆積層であると考えられるが、周辺では流水の影響が弱まり、湿地帯が形成されていたと考えられ、湿地に生育することが多いチゴササ属の植物珪酸体が検出されている。腐食含量は多い。	△弥生末期 (IXa層)。
1083	具同中山遺跡群II-2	高知県	基本層序	X VIIa (43)	p21: (X VIIa層について)第43層が相当すると考えられる。Dトレンチで確認された。(第43層は)10YR4/2褐色灰色粘土層。10YR6/2灰黄色粘土を薄層状に含み、腐食した草木類が堆積する。資料番号7の土壌サンプルを採取しており、分析によると河川の氾濫による堆積層であると考えられるが、周辺では流水の影響が弱まり、湿地帯が形成されていたと考えられる。腐食含量は資料の中では最も多い。	△弥生末期 (IXa層)。
1084	田村遺跡群C2区	高知県	C2区		p91: 本調査区の遺構埋土には全体的に灰黄褐色~にぶい黄褐色の砂質シルト層がみられるのは一つの特徴である。これは遺構の埋土上層・下層などに認められ、洪水によって氾濫した土砂が遺構内に堆積したものと考えられる。p92: (C2-1表): (C2ST201の時期は弥生I-2。)p92: (C2ST201は)調査区南端に位置し、C2ST204に切られる。(中略)住居埋土上層には洪水砂とみられる、にぶい黄褐色砂質シルト層が認められる。p93: 土層の堆積及び遺物の出土状態から、C2ST201は住居廃棄後しばらく経ってから、洪水に遭ったと考えられる。p100: (C2SK202について)(時期は)弥生I-3。(中略)埋土中層には灰黄褐色砂質シルト層が認められ、これは洪水による土砂の堆積の可能性が考えられる。p101: (C2SK204について)(時期は)弥生I-2~3。(中略)土坑の埋土上層には洪水砂とみられるにぶい黄褐色砂質シルト層が認められる。p102: (C2SK206について)(時期は)弥生I-2~3。(中略)土層観察により土坑の下層から基底面にはにぶい黄褐色砂質シルト層が、その上面には炭化物の堆積が認められた。上層には灰黄褐色砂が堆積している。これらの砂を含む層は洪水砂の可能性が考えられる。また、基底面東側では完形の甕が横に倒れて潰れた状態で出土しており、洪水により貯蔵穴内の遺物がそのまま埋没したとみられる。p105: (C2SK212について)(時期は)弥生I-2~3。p106: (前略)埋土層に灰黄褐色砂質シルト層が、下層に黒褐色砂質シルト層の堆積が認められた。土坑廃棄後しばらく時間が経ってから、洪水砂が堆積したものとみられる。p106: (C2SK213について)(時期は)弥生I-2~3。p107: 埋土上~中層に洪水砂とみられる砂質シルトの堆積がみられる。p109: (C2SK229について)(時期は)弥生V。p109: 埋土の色調から洪水砂の可能性もあるが、不明である。	▼弥生I-2~3。(一部は弥生V。)

1085	下林西田遺跡	福岡県	SR1		p91: (旧河川SR1は)調査区東半の遺構密集地の東端にある。(中略)この一帯には弥生中期前半までの段階で土坑等の遺構が存在していたが、中期中葉に近い頃になって洪水等で大きく削られてしまった。(中略)最低でも3回は洪水があったと思われる。p183: 旧河川としたSR1から東方にも本来は遺構が存在したであろうが、下部のみ遺存していたSK81と貝層中の土器を参照すれば、中期前半期の後半代に起きた大きな洪水のごときもので遺構の大半が失われた可能性がある。	★弥生中期前半の後半。	
1086	貝元遺跡	福岡県	河跡		p101: (河跡について)遺跡西端にて検出した南から北へ流れた河跡で、最大幅時で上端幅18~10m、下端幅15~6.5m、最深部で1.8m。75m分調査したが、南側の筑紫野市教委調査範囲では西南方向へ湾曲しており、旧尾根裾に沿ったものであることが判かる。粗砂層とシルト質層が基本的に互層をなしており、洪水の度に濁流が走った様相がみられる。遺物は両岸際に大量に出土し、弥生中期前葉代には既に最大の河幅で存在しており、6C段階で埋没がかなり進み、7C後葉には完全に埋没しきって掘立柱建物群が配置されている。	△7世紀後葉。	
1087	貝元遺跡	福岡県	1号溝		p200: (1号溝は)河跡1の東岸で蛇行して北流する南北溝。幅40~100cm。断面U字から逆台形をなし深さ20~40cm。白い粗砂が埋土で、洪水で一度に埋没した感じ。すべての遺構を切り、河跡1から水を引いた導水路的な事から、6C~7C前半代か。	▼6世紀~7世紀前半。	
1088	中町裏遺跡	福岡県	谷部		[高橋章「志波の支流谷について」pp161-162]p161: (前略)谷は現在でも存続しているわけであるが、大きな変化は中世(13世紀頃)に訪れる。土層の観察状況からかなり大きな洪水もしくは増水量の動きがある。(後略)p162: (前略)中世中期に当志波地域において集中豪雨・増水・洪水等の自然災害があったものと推知する。(後略)	★中世。	参考)p104;第84図「B地区谷部土層断面図実測図」
1089	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	畠田地区の環濠		p16: (環濠は)畠田調査区の西南端から、東方向に弧状に延びて大溝に合流した現状となっている。(中略)環濠は、現状は最大幅1.5~1.7m、深さ0.8m、長さ14mを発掘した。(中略)埋没した土層は、上層に黒色粘土と砂質土、中層に褐色砂、下層に黒褐色粘土が堆積しており、砂層が多いところから洪水などで急激に埋没したことが考えられる。p17: 遺物は、上層で(弥生時代)前期後半を含む土器、中層で前期土器が多く、サヌカイト製石鏃も出土。(後略)	○弥生前期。	
1090	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	長通地区の環濠		p65: (環濠(M7)について)溝7(M7)は、大溝の西側に近接して造られているために、大溝の氾濫によって両端を破壊されていて、全長21.7mが調査できたにすぎない。(中略)時期は、若干の出土した土器細片によると弥生前期であり、畠田M5と一連であることに矛盾しない。	▼弥生前期。	
1091	辻垣畠田・長通遺跡	福岡県	長通地区の溝1		p83: 溝1は、4区南側で分岐することから、(中略)全体に灰黒色の砂質土で埋没している。3区で部分的に溝底面にU字形鋤先痕が多数残存しているところがあった。(中略)鋤先痕が検出できたのは埋土が砂質であったからで、これは掘削後にすぐに洪水で埋没した証拠ともなるものである。溝1東からは、0区~2区の下層で多量の土師器が出土している。土師器は、古式土師器と5世紀前半代のものが混在しているところが多いが、下層ほど古式土師器が多くなる傾向にある。	▼5世紀前半。	
1092	鷹取五反田遺跡	福岡県	基本層序	9	p11: 7-8層は弥生時代の29号竪穴住居跡上部の埋土で、7層は黒褐色を呈し、8層はより暗く、河原石が多い。9層は住宅跡下部の埋土であり、暗紫褐色を呈し多量の河原石が充つる。21・25・28号竪穴住居跡の埋土も同様であり、美津留川の氾濫によるものと考えられる。(中略)弥生時代中期後半から後期前半の竪穴住居跡が47軒検出された。(後略)	▼弥生中期後半~後期前半。△弥生中期後半~後期前半。	
1093	船越高原A遺跡	福岡県	13a号溝		p158: (13a号溝は)調査区の中央付近に位置し、暗茶褐色土層上面(第2遺構面)で検出した溝である。(中略)この溝の埋土は、東から流れ込んでおり、多くの礫が混入している。おそらく、川の氾濫によって盛土が崩壊したものであろう。また、本溝埋土の上位と同じ土層が溝の対岸にも見られるので、この氾濫の影響が集落まで及んでいたと考えられる。p210: (前略)住居A群の廃絶後であろうか。その後、弥生時代後期後半に13a号溝として掘り直しが行われ、その時、土を溝の両側に盛土として積み上げている。この溝は徐々に埋没していったものの、最終的には古墳時代後期以降まで溝(10号溝)としての機能を失わず、使用されていたものと考えられる。	▼弥生後期後半。	
1094	大的遺跡	福岡県	水田跡		p45: (水田跡は)調査区西半部、標高約15.2mの、谷状湿地に位置する。p46: 水田跡を覆うのは淡黄灰緑色粘質土である。(中略)砂層は全く認められない。(中略)これらの状況から、洪水によって一気に埋まったのではなく、何らかの理由で水田跡が廃棄された後、自然に埋没したのではないかと考えている。あるいは、洪水の被害を受けた範囲の縁辺付近に当たり、砂でなく泥土が堆積し水が引くのには時間がかかったのかもしれない。いづれにせよ、埋没に比較的長い時間がかかったと見ている。p52: 水田跡は古墳時代前期のうちに耕作が中止され、中期には埋没が始まっていたと思われる。	▼古墳前期。	

1095	堂畑遺跡	福岡県	5区の47号溝		p373: (47号溝は)調査区の北東端部で検出した溝状遺構である。(中略)埋土はシルト質土を縞状に含む均質な砂質土が大半を占めており、度重なる洪水等によって徐々に埋没していったものであろう。特に、最上層である7層は溝の埋土となるばかりでなく、遺構面の上部に厚く堆積していた。これは、本溝がおおかた埋没してわずかに窪み状になって残っていた段階に、大規模な洪水が起きて遺構面もろとも地中深く埋没してしまったものと考えられ、この溝の埋没過程を象徴するような土層である。土器はほとんど出土しなかったが、第1区10号溝の調査成果から7世紀初頭前後と考えられ、これは土層とも矛盾しない。	▼7世紀初頭。	
1096	那珂君休遺跡第2次	福岡県		IV	p9・11: (試掘調査において)IV層は、暗灰色の砂礫層および砂層で構成され、チャートと石英の細礫を混入する。砂礫層の厚い堆積域は南西から南東部にみられ、北部では細粒砂層(一部ではシルト層)に漸移することから、同層は南西から南東方向に供給源をもつ旧氾濫堆積物の可能性が高い。同層の堆積状況から洪水の頻度を明らかにすることは困難であるが、それは発掘地点の全域を埋積するほどに広範なものであったと思われる。p42: (IV層堆積期について)古墳時代前期およびそれ以降になると、当遺跡の地理的位置が、その構成層に大きく影響を及ぼすようになる。(後略)	★古墳前期以降。	
1097	那珂久平遺跡	福岡県	上層水田	上層水田直上	p8: (上層水田址について)現地表面下40cm前後である。現地表に営まれている水田の床土を剥くと、砂の堆積があらわれる。おそらく御笠川の氾濫で押し流されてきたのであろう砂層に覆われて、上層水田址が存在する。p10: (上層水田址の時期は)13世紀後半以降15世紀以前と考えて大過あるまい。	▼13世紀後半～15世紀。	
1098	那珂久平遺跡	福岡県	下層水田	下層水田直上	p32: (下層水田址について)畦畔は、河岸に近付くと中断してしまい確認できなくなる。また、河岸付近では水田面のレベルも一定せず、凹凸が著しい。これは、旧河岸の氾濫で畦畔や水田土壌が押し流された為、と考えるのが妥当であろう。(後略)p50: (前略)那珂君休遺跡では、V層水田址の下に4世紀後半と考えられる水利遺構が存在し、それらによりV層水田の時期は5世紀前後と比定された。下層水田址がV層水田址にあたることは、水田区画の上からも明瞭である。よって、下層水田址の年代を5世紀前後と考えることとする。p52: 想像をたくましくすれば、春をむかえ、これから水を張るために水田の畦畔補修などを行っていた頃に洪水にあって埋没したものであると思われる。なお、那珂君休遺跡では、水田の水口が開いた状態で砂層に覆われている点から、水が落ちた秋～春に埋没した可能性を考えている。	▼5世紀。	
1099	那珂君休遺跡第3次(那珂久平遺跡)	福岡県			[力武卓治・大庭康時「総括」pp184-188]p186: (古墳時代(5世紀前後について)(前略)水田の拡がりは、那珂君休遺跡第2次調査でも検出されており、8000平方メートル以上に及ぶことは間違いない。こうして大規模に営まれた水田も、ある年の春、田植えを前にして畦ぬりに余念がなかった頃におきた河川の氾濫によって、砂におおわれてしまうのである。その後、中世にいたるため水田の営みは、少なくとも明らかな遺構としてはみとめられない。	▼5世紀。△中世。	
1100	那珂君休遺跡第3次(那珂久平遺跡)	福岡県			[力武卓治・大庭康時「総括」pp184-188]p187: 13世紀後半から15世紀頃、再び水田が営まれる。この水田は、本次調査区のほぼ全域に拡がっている。p188: (前略)この水田も、ついには砂におおわれる。かつての河川はすでになく、おそらくはより東を流れている御笠川の氾濫であろうか、それによって中世の水田は完全に埋没する。その後、程なく開発され水田化されたと思われるが、その時期を判定することはできない。	▼13世紀後半～15世紀。	
1101	那珂君休遺跡第4次	福岡県		⑩黒色の粘土層	p10: (基本層序について)(前略)⑩黒色粘土層(10cm)、⑪青灰色粘土層(八女粘土)(217cm)。この八女粘土層上には、3次4層、4次台地上で認められるように黒色の粘土層がある。これは基盤の粘土が有機化したもので、夜臼・板付I式土器を含む。同様な層は、板付周辺の沖積地の調査でも検出されている。これを被覆する層は、砂、粘土、シルトとその状態はまちまちで、河川の氾濫や運搬堆積作用による沖積作用である。	▼夜臼。板付I。	
1102	那珂君休遺跡第4次	福岡県		③	p11: (前略)中世に至って完全に陸地化し、調査区のほぼ全面が水田として利用されるようになった。この中世水田は、河川の氾濫で運ばれてきた砂層(③層)に覆われており、すべての調査区とも現代まで同じ堆積状態を示している。p17: (前略)(中世水田について)その開始は12世紀後半で、14世紀中頃には埋没したと思われる。p86: (前略)この一帯に大規模な水田が営まれ始めるのは、12世紀後半から13世紀にかけてである。(中略)これらの水田は旧諸岡川の大規模な氾濫によって、14世紀の後半には再び埋もれてしまったようである。	★14世紀後半。▼12世紀後半～14世紀中頃。	

1103	岩本遺跡	福岡県		第3層群(5~6層)	p7: 堆積層は5層群に区分される。(中略)第2層群(3~4層)は谷部の上部埋土である。規模の大きい洪水砂とみられ、下半部は未風化のままである。上部は土壌化し、黒褐色を呈する。層厚は30~50cmである。本層群が第2面の水田を覆う。また、上面は第1面である。p32: 岩本遺跡では二面の水田遺構を検出した。その立地は沖積微高地間の細長い低地であり、東から西に下がる主流部と調査区中央から枝状に分かれ、南西に向かう支流部からなり、俯瞰では略T字形の水田域を形成している。pp32-33: 二面の水田の時期は出土遺物が少なく明確ではないが、二面は中間に洪水砂を介して畦畔の位置が重複し、水路や水口の位置が共通するものが多い。また、水田を覆う埋土中に弥生時代中期後半から後期初頭に比定される土器片が認められることから、両者の時期幅は少なく、連続した水田経営が予測される。第2面の最終的な埋没時期は弥生時代後期初頭と考えられる。p33: (前略)二面の水田の形態と水利の変化は、洪水砂である第3層群を介して現れており、第3面水田が洪水砂に覆われた後の復旧の過程で生じたものと考えられる。特に水利の変化は第3面において、北側の最も低い水田部分に厚い洪水砂が堆積したためであり、それ以前の谷地形との変化に対応した処置であったと見られる。洪水砂は最も厚いところで約30cm並存しており、再掘削による水田の復旧を困難にしたものと見られる。	▼弥生中期末葉~後期初頭。△弥生中期後葉~後期初頭。
1104	比恵遺跡群第41次	福岡県	SD41	SD41埋土	p26: (SD41は)調査区Ⅰ区西側からⅡ区にかけて検出した主軸を磁北からやや西に振る溝である。この溝の西側は東岸より30cm程低くなり、水田面となる。溝の確認規模は25m、幅は4~5mを測る。深さは1.1~1.5mで軟弱な白色粘土層迄達している。溝の断面形は幅広のU字形である。溝の湧水はひどく、たえず排水をしないとすぐ水がたまる状況であった。溝は堆積状況から大きく2時期の洪水による埋没が見てとれる。埋土は各期とも粗砂、シルト砂の互層状態を示し、粘土堆積層は若干上面と下層に含むだけである。(後略)p44: (前略)(SD41は) (弥生時代)後期前半ごろが主要な時期であろうか。この溝はたび重なる洪水で後期の末には埋没してしまったであろう。	★弥生後期以前。▼弥生後期前半~末。
1105	吉武遺跡群第2次V・VI区	福岡県	V・VI区 のSD- 10・11・ 12	SD-10埋土の第Ⅶ層など	p93: (弥生時代中期の以降について)五条の溝と掘立柱建物一棟を検出した。溝は台地を北西から南東に切断するSD-10にSD-11・12が流れ込む状態で検出された。(後略)p97: SD-10は南東から北西に一直線に伸びた大溝である。主軸をN-65°-Wにとり、幅3m、深さ1.5m、現長42mを測る。(中略)(第Ⅶ層は)黒灰色シルト層で、この層と下層のⅦ層に弥生式土器が大量に含まれ、特に祭祀土器が主流である。(第Ⅶ層は)第Ⅶ層の下層部にある小石を多く含む砂礫層である。この砂礫層はSD-11・12でも認められ、弥生式土器を大量に含む層である。砂礫層が全面を覆っていることから大きな氾濫があったことが窺われる。しかしながら土器自体はローリングは受けておらず、流されてきたものではない。氾濫により破棄した可能性が高い。	○弥生。
1106	吉武遺跡群第2次Ⅲ区	福岡県	Ⅲ区のSD-01	SD-01埋土	p115: SD-01は、第一次調査第Ⅲ区で検出された大溝(SD-01)と同一のものである。第Ⅲ区での調査結果は、幅12~20mで両岸に杭列が検出され、人工的に工作し使用した旧河川であり、時期は底面出土の土器から弥生時代中期初頭と考えられる。Ⅲ区のSD-01と方向的に同一であり、このSD-01の南側の一部がⅢ区で検出されたものと考えられる。このSD-01は南西側でも検出された。しかしながらⅢ区の西側延長上を調査した吉武遺跡群第五次調査での北側から急激に方向を西にかえていく。これは旧日向川の支流もしくは氾濫により生じた大溝と考えられ、西を流れる日向川が方向をかえ室見川氾濫原に流れていたものと考えられる。	▼弥生中期初頭。
1107	那珂君休遺跡第7次	福岡県		③	p7: ③層は暗褐色粗砂(粒子は大きくしまりに欠け、吸水性は非常に良い。)で、洪水砂にあたる。部分的に灰褐色粘質土を含み、④⑤層と区別しにくい。(中略)⑤層は灰褐色粘質土で、鉄分が沈着している。近世水田面に相当する。p10: 水田を覆う粗砂層から出土した遺物の中に18世紀前半ごろの肥前系の陶磁器が含まれており、この頃以降の洪水により水田が埋没したようである。	★18世紀後半以降。○18世紀前半。
1108	那珂君休遺跡第7次	福岡県		⑧	p7: (⑦層は)近世水田面に相当する。調査区南側では切れている。⑧層は黄灰色粗砂で、青灰色粘質土の間層をはさむ。洪水による堆積である。⑨層は灰色粘質土で、鉄分が沈着している。洪水土砂で覆われた水田面である。第2次調査で検出されたV層水田面と同一の面であり、第2次調査の所見から時期は5世紀前半とみられる。⑧層の粗砂に覆われていない部分では、⑧層と区別しにくい。	▼5世紀前半。△近世。
1109	那珂君休遺跡第8次	福岡県		10	p85: 下層水田面である11層上には、粗砂の単層ではなく粘質土との混合層(10層)が堆積し、また細砂と粗砂が交互に堆積している状況からも数回にわたる洪水が周辺を埋没させたことが伺える。p86: (前略)5世紀に属する水田遺構とすることができよう。	▼5世紀。

1110	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	北壁	5	p19: 第4層は厚さ10cm前後の淡茶褐色混砂土層である。径1mmの砂粒を多く含んでいる。第5層は厚さ5~10cmの粗砂層、洪水層と思われる。板付I式土器の小片が含まれている。第6層は厚さ10~20cmの暗黒褐色有機質土層。第5層との接点、つまり第6層の表面には無数の凹みがあるが、これは、そのほとんどが人の足跡である。	▼弥生前期初頭(板付I)。○弥生前期初頭(板付I)。	
1111	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	北壁	6・7層間	p19・21: 第7層は第6層よりやや黒っぽい暗黒灰色有機質土層。厚さ20cm前後。この層の表面も第6層同様に人の足跡が無数につき凹凸が著しい。この部分には見られないが、調査区の大部分には第6層と第7層の間に洪水砂である粗砂層が介在している。第6・7層の下位には小破片となった板付I式土器が若干出土している。共に板付I式土器期の水田耕作土である。p57:(G-7c区)第12層。黒灰色粘土層、厚さ15~20cm、G-7a区の板付I式土器期の下層水田の水田耕作と対応する層と考えられるが、G-7a区でみられた粗砂層の存在はない。粗砂層の存在から洪水の規模を推測すると、(中略)大きな洪水ではなかったとみられる。	▼弥生前期初頭(板付I)。○弥生前期初頭(板付I)。	
1112	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	北壁	8	p21: 第6・7層の下位には小破片となった板付I式土器が若干出土している。共に板付I式土器期の水田耕作土である。第8層は厚さ10~15cm前後の暗灰黒色砂質土層であるが、やや粘性が強い。この層の表面にも人の足跡が部分的に認められるが、洪水による攪乱が随所に存在する。刻目突帯文土器期の水田耕作土の可能性が強いが、面的は把握できなかった。第9層は厚さ20~25cm前後。暗灰黒色砂質土層である。上層に比較し、砂質で粘性はない。部分的に偽層が認められ、洪水による堆積とみられる。	★突帯文期。 △弥生前期初頭(板付I)。	
1113	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	北壁	9	p21: 第8層は厚さ10~15cm前後の暗灰黒色砂質土層であるが、やや粘性が強い。この層の表面にも人の足跡が部分的に認められるが、洪水による攪乱が随所に存在する。刻目突帯文土器期の水田耕作土の可能性が強いが、面的は把握できなかった。第9層は厚さ20~25cm前後。暗灰黒色砂質土層である。上層に比較し、砂質で粘性はない。部分的に偽層が認められ、洪水による堆積とみられる。第10層は厚さ10cm前後の黒灰色粘質土層。この層の表面も凹凸があり、人の足跡が残っているが、凹みは浅く、明瞭な足跡は検出できない。刻目突帯文土器期の水田耕作土である。	▼突帯文期。 △突帯文期。	
1114	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	南壁	6~10	p22:(前略)基準点より12~14mの所に弥生時代中期の溝が南北に掘削され、その周辺はかなり層が乱れている。6層から10層にかけてが中期層で、いずれも洪水による砂の堆積である。6層は小範囲の層で、厚さ4cmの微砂層。第7層は中期溝が右岸に約8m広がる茶褐色粗砂を混入した土層で、厚さ10cm前後。第8層は中期溝の両側に堆積した粗砂層。右岸では約6mの範囲に、左岸では調査区外に伸びている。厚さ10cm前後。第9・10層も粗砂層、色の違いで分層できる。溝内のみには堆積する。溝の東側の土手には薄く微砂層(第11層)が堆積し、その下は幅約60cmで畦畔状の高まりを見せる。	★弥生中期。	
1115	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	南壁	12	p22:(前略)溝の東側の土手には薄く微砂層(第11層)が堆積し、その下は幅約60cmで畦畔状の高まりを見せる。第12層は厚さ10cm前後の暗灰色粘土層。畦畔状の高まりと区別できないが、中期の水田耕作土とみられる。東側に約5m広がるが、それ以东は洪水によって流失した可能性がある。東側の基準点から1~2mの所にも浅い溝状の断面が観察できるが、これは断面部分に局所的にみられる。洪水によってえぐられた可能性が強い。第13層は微砂層の薄い堆積。	▼弥生前期初頭(板付I)(第16層)。△弥生中期(第6層~第10層)。	
1116	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	南壁	17	p22: 第16層は中期溝の西側に堆積した厚さ10cm前後の灰色の粘土塊を少量混じえた細砂層。第17層は基準点より3~9m、17m以西に堆積した粗砂層で10~30cmの厚さを有する。Fig.7の第5層に対応する洪水層で、調査区内ではほぼ全面にわたって板付I式土器期の土層水田耕作土を覆っている。水田面の足跡も、この粗砂によって埋まっている。第17層の下位には部分的に鉄分の沈着した粗砂層が薄く堆積する(第18・19層)。	▼弥生前期初頭(板付I)。	参考)p22; Fig.7「G-7a区 土層断面図I」
1117	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	南壁	22	p22: 第20層は厚さ10~20cmの若干粗砂を混入した淡黒灰色粘質土層。板付I式土器期の土層水田耕作土である。(中略)第22層は厚さ15cm前後、暗灰色砂質土層で土層の水田耕作土より粘性が弱い。基準点より12m前後の位置、すなわち中期溝のすぐ東側に幅60cm、高さ10cmの畦畔がある。北側ではこの東側に矢板列が打ち込まれている。この畦畔より西は耕作土が東より10cm低くなり、水平に広がっているが、西端部では洪水のため流されて耕作土は存在しない。第23~26層は自然堤防状になった部分を形成する層で、板付I式土器期の幹線水路と水田を限る畦畔の役目を果たしている。	▼弥生前期初頭(板付I)。△弥生前期初頭(板付I)。	

1118	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県		中層水田の上	p10: 東比恵遺跡の各水田面を覆う粗砂層は御笠川の氾濫によって堆積したもので、(中略)上層水田床土直下には中層水田を覆う褐色粗砂が堆積するが、部分的にこの粗砂層は検出されず、上層水田床土と分離困難な箇所もある。p18・21: 上層水田56・73は中層水田11一枚を中央部分で畦畔によって2分割したものである。これらの状況から、中層水田面が洪水によって埋没した後、あまり間隔を置かずに復旧作業が行われ、上層水田面が造り出されたことが伺えよう。p22: (中層水田について)大畦畔上は通路として使用されたものと考えられ部分的に硬化する。組み込まれた木材の中からは破損して廃棄された三又鎌などの木器が出土する。これら木器群からは弥生時代中期末から後期初頭の時期が考えられる。	▼弥生中期末～後期初頭。	
1119	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県		下層水田の上	p10: 東比恵遺跡の各水田面を覆う粗砂層は御笠川の氾濫によって堆積したもので、(中略)(中層水田について)この層の下には下層水田面を覆う青灰色細砂層が堆積する。部分的にはこの青灰色細砂層上に粗砂が堆積する。この粗砂層は一区では厚さ15cm前後で堆積する部分もあるが、二区・三区では検出できない部分の方が多く、中層水田面と下層水田面の分離は土質のわずかな差異を目安に行わざるを得なかった。p24: (前略)下層・最下層面は中期中頃以前に拓かれたものと考えることができよう。	▼弥生中期中頃以前。△弥生中期末～後期初頭(中層水田)。	
1120	東比恵三丁目遺跡第1次	福岡県		最下層水田の上	p24: (最下層水田について)三区の調査において下層水田面以下の堆積状況を観察するために、中央部に長さ50mのトレンチを設定して掘り下げを行ったところ、標高2.00m前後で検出される暗褐色砂質土層面で溝状の遺構を確認した。(中略)遺構検出の結果、ほぼ並行する二条の溝のみが検出され、その他の遺構は検出されなかった。(中略)下層・最下層面は中期中頃以前に拓かれたものと考えることができよう。	▼弥生中期中頃以前。	
1121	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	基本土層(Fig.7-1)	5	p15: 第4層は厚さ10cm前後の淡茶褐色混砂土層、径1mmの砂粒を多く含んでいる。第5層は厚さ5~10cmの粗砂層、洪水層と考えられる。板付I式土器の小片が包含されている。第6層は厚さ10~20cmの暗黒灰色有機質土層、この層の下位には径1cm前後の板付I式土器の小片がわずかにみられる。	○弥生前期初頭(板付I)。	参考)p16; Fig.7-1「G-7a調査区基本層序」
1122	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	基本土層(Fig.7-1)	6・7層間	p15: 第6層は厚さ10~20cmの暗黒灰色有機質土層、この層の下位には径1cm前後の板付I式土器の小片がわずかにみられる。(中略)調査区の大部分には第6層と第7層の間に第5層同様の洪水砂である粗砂層が介在している。第6・7層は表面の足跡や土質からみて板付I式期の水田耕作土である。	▼刻目突帯文土器単純期(第8層)。△弥生前期初頭(板付I)。	参考)p16; Fig.7-1「G-7a調査区基本層序」
1123	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	基本土層(Fig.7-1)	8	p15: 第8層は厚さ10~15cm前後の暗灰色砂質土層であるがやや粘性が強い。この層の表面にも部分的に人の足跡が認められるが、洪水による攪乱が随所に存在している。刻目突帯文土器単純期の水田耕作土の可能性が強いが、面的には把握できなかった。	★刻目突帯文土器単純期。▼刻目突帯文土器単純期。△弥生前期初頭(板付I)。	参考)p16; Fig.7-1「G-7a調査区基本層序」
1124	板付周辺遺跡G-7a区	福岡県	基本土層(Fig.7-1)	9	p15: 第9層は厚さ20~25cm前後、暗灰黒色砂質土層である。上層に比較し粘性が小さく砂質である。部分的に水成による偽層が認められ、洪水による堆積とみられる。第10層は(中略)刻目突帯文土器単純期の水田耕作土である。	▼刻目突帯文土器単純期。△刻目突帯文土器単純期。	参考)p16; Fig.7-1「G-7a調査区基本層序」
1125	板付周辺遺跡G-7c区	福岡県	基本層序	10	p21: 第10層、黒灰色粗砂層、厚さ20~30cm。トレンチの全域にわたって厚く堆積している。G-7a区の板付I式土器期の水田を覆う粗砂層と同一の層と考えられる。(中略)(第10層にあたる)上層の粗砂層はG-7a区や本トレンチの全域におよんであり、また、水路際の立木が倒壊していることから、かなり大きな洪水であったと考えられる。水田の遺棄は洪水の規模に左右されていたことがわかる。	▼弥生前期初頭(板付I)。	
1126	井相田D遺跡第1次	福岡県		第1水田面直上	p8: 旧水田耕土から約40cm下の黄褐色細砂などの洪水によって運ばれた土砂の下層で第1水田面を確認することができる。調査区の東側では水田上面の粗砂の堆積が薄く、畦畔を確認することができなかった。第1水田面下層の灰褐色土層には酸化鉄やマンガンが沈着している。その下層には洪水砂の白色砂・灰褐色砂の互層がひろがり、第2水田面を覆っている。畦畔の残存は良好でなく、その高まりはいずれも低い。p10: (第1面の)水田造営の時期は12世紀後半から13世紀前半にかけてと考えられる。	▼12世紀後半～13世紀前半。	

1127	元岡・桑原遺跡群第2次	福岡県	2区		pp11-12:調査区中央には南北に粗砂層が走り、旧河川の氾濫部分と考えられる。これの埋没後、中央に南北に浅い溝があり(SD2003)糸切り土師器を出土している。また河川跡の礫層中から土師器の坏(へら切り)が出土している。水田を侵食した河川の氾濫の時期の上限と下限を示す。p13:(前略)水田の年代であるが、下層に奈良時代の遺物を含むことから、これより以後に水田が形成され、水田を覆う砂層からへら切り底の土師器坏が出土するが、法量・形態的に11~12世紀前半までのものであり、水田の埋没時期を知ることができる。p88:(前略)8~9世紀には周辺に遺構がみられる。製鉄遺跡群が周囲に展開される時期である。その後、2区東半や3区の礫混じり包含層の状況から洪水や土石流があった可能性があり、その堆積後に狭小な谷水田が形成された模様である。	▼11世紀~12世紀前半。	
1128	雀居遺跡第13次	福岡県		13~15	p8:10~12世紀には鉄やマンガンが草根状に入り込んでおり、中世以降の水田耕作土と推測した。13~15層は砂層で20cm以上の厚さに堆積している。ちょうど中程に粒子の細かな砂層が入っており、後述する曲げ物などの木製品がこの砂層から出土している。洪水が時間を置いて数回に及んでいたことを示すものであろう。この砂層を取り除くと水田跡が現れ、ここを第1面の遺構面とした。	○10世紀~12世紀。	
1129	雀居遺跡第13次	福岡県	第2号自然流路SL02		p49:(第Ⅲ面の第2号自然流路SL02について)グリッドH列より東側では黒色粘質土の掘り下げで砂層が薄く堆積していた。面的に広げるとF・G31・32グリッドを中心にして砂層中に小枝が散乱したような状況で出土した。(中略)小枝の状況からすると洪水で滞水した状態と考えるべきで、自然流路という遺構名は適当でないが、一時的にも洪水などで水が流れ込んだという意味から自然流路SL02の遺構名を付けた。(後略)p50:(前略)この砂層の堆積時期を決定できる遺物は出土していないが、砂層下の出土遺物から大まかに弥生時代中期前後と考える。	★弥生中期?	
1130	笠拔遺跡第1次・第2次	福岡県	C区の貯水遺構		p22:(貯水遺構について)(前略)遺構が掘削整備されたのは弥生時代中期末から後期初頭で、そのあと後期中頃から古墳時代前期にわたる氾濫によって埋没したと推定される。粗砂粒やシルトからなる埋土が、数回の氾濫を物語っているようだ。	★弥生後期中頃~古墳前期。	
1131	金山遺跡Ⅱ区	福岡県	Ⅱ区aの1号井堰		p23:1号井堰も調査区の中央よりやや東側の所から検出しており、C-49・50区に位置している。(中略)中央部は洪水で押し流されたようで残りが悪かった。矢板は幅15~20cm・長さ50~24cmの板材を用いている。(後略)p72:旧河道と3号溝、1号~3号井堰は一連の遺構である。旧河道と3号井堰は弥生時代前期の時期を考えている。1号井堰と3号溝は遺物が出土していないが、旧河道と関係した土層から同時期である。	▼弥生前期。	
1132	金山遺跡Ⅱ区	福岡県	Ⅱ区aの2号井堰		p24:2号井堰は調査区の北側D-46区、旧河道が北に流れをかえてすぐの所から検出している。旧河道を掘り下げる中で発見しており、砂質土を取り除くと北向に倒れた矢板列が粗砂層の上から出土した。洪水で倒れたまま埋没したと見られ、矢板列と杭・横木がわずかに残っていた。p72:旧河道と3号溝、1号~3号井堰は一連の遺構である。旧河道と3号井堰は弥生時代前期の時期を考えている。1号井堰と3号溝は遺物が出土していないが、旧河道と関係した土層から同時期である。	▼弥生前期。	
1133	カキ遺跡	福岡県	1・3号井堰		p123:Ⅵ区の南側低地において検出された3基の井堰は、小河川の流域に構築された遺構であり、3号井堰→2号井堰→1号井堰の順で構築されたと推定される。(中略)これらの井堰は第106図に示した土層断面図に基づけば、砂礫層である14層上面を基盤として構築されており、井堰構築後に下から13・12層が順次堆積している。ただし、底面の中央に12層は認められておらず、水流によって流されたが、溝浚を幾度か行って、水路の管理を行った結果と考えられる。その上に11層が埋積した段階で井堰はその機能を終え、古墳時代初頭頃には南側低地は平坦地となっている。p131:(3号井堰について)この遺構には水を塞ぎ止めるための縦杭が伴わず、その骨組みだけの構造となっており、大規模な氾濫で縦杭が流されたか、縦杭を打ち込む以前に氾濫によって埋没したものであろう。	△古墳初頭。	参考)p133:第106図「Ⅴ区東側微高地土層実測図」
1134	金山遺跡0区	福岡県	0区の3号土坑		p27:(3号土坑について)本土坑は北側調査区の南西側に位置し、4層除去後に検出された。(中略)現状における南北方向の長さ682cm、中央における深さ約58cmを測る。また、内部の土層は第23図に示した如く5層に分かれ、その最上層は氾濫によるものか砂混ざりの堆積であるが、それより下位は自然堆積状態である。内部から土師器の椀を僅かに出土したが、小片のため図示は行っていない。この椀は高台の特徴から12世紀前半と考えられる。	▼12世紀前半。	
1135	金山遺跡0区	福岡県	0区	7b	p30:(前略)6層には僅かながら弥生時代後期の可能性のある口縁部と縄文時代晩期と推定した底部片が各1点出土している。その直下の層は河川の小規模氾濫を窺わせる砂礫層(7b層)とそれ以前に堆積した緑灰色砂層(7a層)他の7層併行層であり、ほぼ同一レベル上にあると考えられる。この7層併行層までは縄文時代晩期後半を中心とする遺物の含有が認められ、無遺物層となる黒褐色有機質土(8層)の上面が縄文時代の土坑の基盤となっている。(後略)	○縄文晩期。△縄文晩期後半。	

1136	長野フンデ遺跡	福岡県	流路2, 4		p29:4層は灰褐色粘質土で、弥生時代中期後半頃の土器や8世紀後半の須恵器などが出土した。p126:(前略)弥生時代の長野川河川域は陸地部分の東端から現在の長野川東岸まで、約90mほどの川幅をもっていたと考えられる。この長野川河川域の調査では、河川が幅を狭め陸地化していく様子を把握することができた。その結果、陸地化は4層ころから始まっており、その年代はおおよそ8世紀後半頃と推定される。しかし、長野川が氾濫し4層上面を覆うことも多かったようで、流路2や流路4がその様相を示しているものと思われる。このように、4層段階では陸地化してきたにもかかわらず、大きく不安定な要素を抱えていたことが窺える。しかし、2層が堆積した頃にはかなりの範囲で安定した陸地化が進んでいたと思われ、河川の氾濫による流路などはみられなかった。	▼8世紀後半。	
1137	長野小西田遺跡	福岡県	A-2区 自然流路M7		p114:(自然流路7(M7)は)M6の下位で検出した。p115:M7出土土器は、弥生時代前期末のものがめだっているが、(中略)前期末や中期後半の遺物はいずれも洪水などで埋没時に流れ込んだものと解釈せざるを得ない。堆積土層中の粗砂層は度重なる洪水を物語るものであり、上流の西側丘陵部に存在した該期の遺構や包含層はこの洪水で何度も削られ流失したのであろう。	○弥生前期末～中期後半。	
1138	長野小西田遺跡	福岡県	A-2区の水さらし場状遺構		p119:縄文時代の堅果類の水さらし遺構と類似する遺構を検出した。(中略)遺構はほぼ南から北に流れる小河川内に築かれており、兩岸の基盤層は青灰色粘土層である。遺構は3期の洪水(流水の変化による小河川の移動)により大きく壊されており、何度かの修復が認められる。洪水の箇所は導水部、1～4号大形木枠部、9号大形木枠部において顕著に認められる。p228:(前略)水さらし場遺構は、前期後半頃に築かれ、中期に盛行し、後期前半に衰退したことが考えられる。	▼弥生前期後半～後期前半。	
1139	長野尾登遺跡第2地点E～H区	福岡県	2・4号溝		p29:(溝(自然流路)について)E区で5条、F区で3条の合計8条を検出した。E区では土石流跡と考えられる自然流路が3条並んで見つかった。特に2号溝は弥生時代の土石流跡で規模も大きく、南西から北東に向かってE区を貫くように流れている。流路内からは、前期末から後期にかけての土器や石器が多量に出土した。他の土石流跡の時期は室町時代に比定される。(中略)(2号溝について)E区で検出した大規模な自然流路で、1号溝と同じく土石流の痕跡と考えられる。(中略)(中略)流路の底には粗砂が堆積し、特に上流側では0.5～1m大の大石が岩が密集状態で検出された。土石流の甚大さを物語るといえよう。(中略)雨水や土砂が中期～後期の間に数度にわたって大量に流れ下った結果と考えられる。p32:(4号溝について)(前略)溝内からは弥生土器の細片が出土しており、遺構時期も弥生時代と推定される。(後略)	★弥生。○弥生前期末～後期。	
1140	長野尾登遺跡第2地点E～H区	福岡県	6～8号溝		p29:(溝(自然流路)について)E区で5条、F区で3条の合計8条を検出した。E区では土石流跡と考えられる自然流路が3条並んで見つかった。p34:(6号溝について)(前略)溝自体の時期は近世と考えられる。(中略)(7号溝について)6号溝から南に約6mはなれた場所で検出した。(中略)6号溝同様、近世に比定される。p35:(8号溝について)F区の北部で検出した。(中略)覆土は灰色砂質土で、遺物は出土しなかった。溝の時期は覆土から近世と推定される。	★近世。	
1141	長野角屋敷遺跡4(第7地点)	福岡県	7-2区	3下層	pp23-24:3下層の上面は凹凸が激しく、絶え間ない氾濫にさらされる環境にあったものと思われる。p24:各層の堆積時期としては、7-1区との関連や出土遺物から、1層が11～12世紀代、2層が弥生～奈良時代、3層が弥生前期末～中期後半頃までと思われる。	★弥生前期末～中期後半。	
1142	長野尾登遺跡第2地点	福岡県	L4区 住居跡	住居跡の上	p43:住居跡は(弥生時代)前期末に属し、自然流路は前期末から洪水により形成され最終的には中世期に埋まったもの。自然流路に堆積した土砂を切って箱式石棺が築かれている。	★弥生前期末。	
1143	長野尾登遺跡第2地点(A・B地点)	福岡県	5号溝		p92:1号・2号・5号溝は自然流路である。1号・2号は5号溝が埋まってから流れている。5号溝は弥生時代前期後半頃からいく度となく土石流となって流れていたようで、大きな礫が大量に見られた。弥生時代中期末から後期初め頃には埋まってしまうようである。(中略)5号溝はA区の小な谷地から土砂が流れ出し、大きな岩や礫などが堆積していた。弥生時代前期後半以前には溝が流れており、中期の終わりから後期の初めにはほぼ埋まってしまうようである。最終的に溝が埋まってしまうのは中世頃であろう。	★弥生前期～中世。	

1144	能行遺跡 第3地点	福岡県		2~4	pp85-86: 段丘の北側裾部沿いには、洪水による氾濫によって形成されたと考えられる帯状の低地が検出されている。低地は、2区~4区の間を縫うようにして検出されており、この中でも特に2区では低地を埋める三層(2~4層)からなる遺物包含層から多くの土器とともに石製品が出土している。低地の3層は、弥生時代中期の土器が、4層は、弥生時代前期を中心として僅かに中期前半の土器が含まれている。4層の弥生土器の中で最も古期に位置付けられるのは、板付Ib期に併行するか、これよりやや降り板付IIa期に位置づけられる高坏である。資料的に乏しく断定は出来ないが、能行遺跡の弥生集落の始まりが板付II期を僅かに前後する時期であることを示している。p86: 低地上を覆う堆積層末期の時期について、出土した中国輸入青磁碗から、1a層は15世紀、その下に堆積した1b層は12世紀中頃~後半と考えられる。また、低地の堆積層で最も新しい2層の末期は、少量出土した土師器や黒色土器の碗などから、11世紀前後と推察される。	○弥生前期~11世紀。△12世紀。	
1145	小郡川原 田遺跡	福岡県	CTレン チ	下層	p6: 全体的な層位を把握するため、トレンチA~トレンチUのトレンチ21本を設定した。その結果、自然流路は河川の氾濫による堆積の過程で形成されたものであり、この自然流路もまた河川の氾濫によって埋まっている事がわかった。p37: CTレンチの下層より弥生時代中期前半に比定される甕口縁片が見られることから、この時期に河川の氾濫による堆積がこの調査地点まで及び始めたことが分かる。(中略)CTレンチの上層からは、後期後半の土器が少なからず認められる。土層観察から層位間に大きな時間の隔たりが認められないことから、この堆積は後期後半まで何度も繰り返されているようである。(後略)	○弥生中期前半。	
1146	三沢南崎 遺跡	福岡県	1号流路 など		p45: 運搬堆積によって埋没した1号流路(第1段階)は、同時に自身の水流で新たな流れを作り出していく。(中略)1号流路(第2段階)が機能していたのは、運搬堆積による埋土内から出土した土器と、洪水層から出土した土器の時期から、弥生時代前期中葉であり、洪水による埋没は前期中葉であると考えられる。(後略)	★弥生前期中葉。	
1147	三沢南崎 遺跡	福岡県			p45-47: 今回の調査で確認した土層からは、その後しばらく流路の存在は認められない。1号流路(第2段階)の洪水による埋没後は、再び洪水層の堆積が認められるため、これによって流路の埋土が削平されている可能性が高い。この2度目の洪水層の堆積ののち、本遺跡の調査の契機となった水田耕作土の堆積が認められる。水田痕跡は確認出来なかったものの、プラント・オパール及び花粉分析からは、水田の存在を示唆する結果が出ている。水田耕作土の堆積は極めて狭い範囲にとどまるが、古代の条里施行以前の水田は小規模区画のものがほとんどであり、過去の調査事例を踏まえると安当な範囲とも言える。但し、水田経営時の流路の状況は定かではない。層位によって確認される次の段階の流路(第3段階)は水田耕作土を切る状況で川岸を検出しており、またこの流路が姿を現す時期を明瞭に判断出来る資料は出土していないためである。第1-2段階のように大幅に進路を変更していなかった可能性もあるが、推測にとどまる。この水田については、耕作土上面に薄く灰~青灰色砂質土の堆積が認められることから、流路と同様に洪水層の堆積を受けて廃絶したと考えられる。(中略)(水田の時期は)弥生時代中期以降、1号流路(第3段階)の埋没する古墳時代後期以前、と広い時期を提示するととどめ、今後の周辺調査の成果を待ちたい。	★弥生中期~古墳前期末。	
1148	大宰府条 坊跡第234 次	福岡県	流路 234SX00 3	流路 234SX0 03埋土	p11: (流路234SX003について)本址は調査区南側から北側にかけて、発掘区ではD~G1~7区に位置する。(中略)本址は御笠川の氾濫時に出現した流路であるものと考えられる。埋没土は3層に分層され、各土層からは多量の遺物が出土している。出土遺物のよう層は磁器区分A期の遺物の若干出土しているが、磁器区分C期(太宰府編年V~IX期、11世紀後半~12世紀前半)を主体としており、当該期の中で埋没したものと推定される。p31: 本流路は御笠川の氾濫時に一過的に出現し、短時間のうちに埋没したものと考えられる。	○11世紀後半~12世紀前半。	
1149	筑前国分 寺跡第26 次	福岡県	26SD00 1		p23: (河川26SD001は)おおむね中世後期に収まるものと考えられ、度重なる洪水層の堆積というよりは、一時期の洪水層を検出したものと考えられることができる。	★中世後期。	
1150	天田遺跡	福岡県		4	p16: 層序は上から近代の客土、近世~近代の水田耕作土、中世の水田耕作土、洪水砂+第1水田面、洪水砂+第2水田面、洪水砂となる。p58: 第1水田面では大畦畔および小畦畔によって区画された水田遺構を検出した。畦畔上に倒立した須恵器の杯が2ヶ所で確認され、いずれも8世紀前半~中頃のものである。これらは洪水によって偶然流れ着いたものではなく、水田祭祀に伴う埋納土器と解釈される。第1水田面の上限は8世紀前半を遡らないといえる。	▼8世紀前半以降(第1水田面)。△中世。	

1151	天田遺跡	福岡県		7	p16:層序は上から近代の客土、近世～近代の水田耕作土、中世の水田耕作土、洪水砂+第1水田面、洪水砂+第2水田面、洪水砂となる。p58:(第2水田面について)水田面出土の土器中、刻目突帯文土器が高い比率を占めるが、13号土坑は洪水砂のみで埋没しており、その砂層から出土しているのは弥生時代後期後半のものだけなので、第2水田面の使用年代は弥生時代後期後半以前と考えられる。	▼弥生後期後半以前。○弥生後期後半。△8世紀前半以降(第1水田面)。	
1152	大坪遺跡	福岡県		4	pp7-8:4層はいわゆる洪水砂で、15～30cmほど堆積する。酸化の度合い、砂礫がシルトかによりa～cに細分した。p17:洪水砂中より、わずかであるが、中期～後期初頭の弥生土器、黒曜石片が出土する。水田が使用された時期については、(中略)大坪遺跡では、土器の中に残存状態のよいものが含まれるため、土器の時期は本水田遺構が洪水により埋没し、廃棄された時期を表していると考えられる。このことは周辺の水田遺構の時期とも矛盾がない。	★弥生中期～後期初頭。	
1153	潤・杏丁田遺跡	福岡県			p7:第1区では、調査区東側で、遺構面である黒灰色粘質土層の下に灰白色砂質土層が全体的に薄く堆積し、その下には再び黒灰色粘質土層が続く。この層序は一時的な水害によるものと考えられる。p8:第1区西側では⑫層が黒灰色粘土で、⑬層が布留期の水田跡である可能性。p14:第3区では、遺構面である黒灰色粘質土の上層には砂礫層が全般的に堆積していることから、一時的な洪水があったと思われる。砂礫層からは布留式土器が出土することから第1区とほぼ同時期と考えられる。	▼古墳前期(布留)。○古墳前期(布留)。	
1154	半田新田遺跡	佐賀県	SX67上部		p8:(前略)青灰色粘質土層は古代の水田跡であったことが推測される層であるが、今回の調査では成し遂げられなかった。この青灰色粘質土層の先端に当たる箇所よりSX-67の土器溜状の遺構を検出し、さらにこの先端は茶褐色砂礫層であった。(中略)遺物がほぼ完形に近い状態で出土していることから、この遺構が形成されて間もないころに洪水等で一気に埋まったものと考えたい。p45:(前略)(SX-67について)この土器溜状遺構から古墳時代初頭のいわゆる古式土師器が出土していることからこの遺物群が帰属する時期かもしくはそれ以前の時期に相当するものと考えられる。	▼古墳前期初頭以前。○古式土師器。	
1155	半田新田遺跡	佐賀県	Eh～Hgグリッド		p8:Eh～Hgグリッドにかけては砂礫層が厚く堆積していた。(中略)洪水や冠水など繰り返し見まれ、環境変化が目まぐるしく起こった箇所であることが理解され、粗砂層と細かい砂層が交互に堆積している。(中略)Eh～Hgグリッドでは氾濫層である砂礫層中より縄文時代晩期の遺物群を検出した。	○縄文晩期。	
1156	中原遺跡第6次	佐賀県		V	[辻康男・辻本裕也・田中義文・伊藤良永・松元美由紀・馬場健司「中原遺跡の自然科学分析」pp32-65]p62:調査区最下部に累重するV層は、細礫をわずかに含む泥混じりの中粒砂～粗粒砂からシルト質細粒砂へと上方細粒化を示す砂層で、縄文時代後期に形成された洪水堆積物と考えられた。	★縄文後期。遺構なし。	
1157	蔵上遺跡	佐賀県	北側東部分		p88:調査対象地区は西側を流れる安良川の氾濫により度重なる氾濫を経験したと考えられており、遺構検出面には氾濫により運ばれたと考えられる人頭大の川原石が大量に堆積していた。埋土中にも同様の石が混入しており、氾濫により埋没し廃棄された住居の存在も考えられる。遺構から出土する遺物は6世紀後半代から8世紀前半代にかけてであり、集落の開始時期についてはそれを遡ることはないと考えている。ただし、7世紀後半代から8世紀初頭にかけての遺物の出土は少なく、遺構の立地も異なることから連続して集落が営まれていたのではなく、この時期隔絶があったと推測される。	▼6世紀後半～8世紀前半。	
1158	蔵上遺跡	佐賀県	北側部分		p150:調査区一帯は、縄文時代後期後半～晩期初頭の時期に集落が営まれて以降、古墳時代後期に集落が展開するまでの約1000年もの期間、全く生活の痕跡が認められない。僅か200m程北に位置する養父遺跡では、弥生時代中期初頭および後期後半～古墳時代初頭の集落が存在することからも不可解な状況におもえるが、これは、安良川の大規模な氾濫により大小の礫が多量に流されてきたため、集落の立地としては適しなかったためとおもわれる。遺跡の状況から、この安良川氾濫の時期は縄文時代晩期初頭頃と考えられる。	★縄文晩期初頭。	
1159	稗田原遺跡	長崎県		V, VI	p7:Ⅶ層は六ツ木火砕流の流土が水成堆積したもので、上面はマンガン・鉄が沈着し硬化面を形成する。これを河道状に切るように堆積するのがV・VI層である。古代を主として縄文、中世の遺物を含んだ土石流堆積層である。上面には中世の整地層があり、火砕流及び土石流による不整合面を調整している。p36:(前略)少なくとも平安時代のいずれかの時期に土石流が発生したと考えられる。	★平安。	六ツ木火砕流は4000年前。
1160	車出遺跡	長崎県	Bトレンチ2・3区		p5:2・3区の青銅製品は鏡2面、銅鏃3本、貨泉1枚が出土しているが、いずれも保存状態は良好である。時期的には須玖Ⅱの段階から～後期終末が主流で、そのあとに河川の氾濫の影響を受けたと思われる礫が浅く堆積し、古墳時代の須恵器などが散乱する。p14:(調査区では)土師器と須恵器が全域にわたって出土する。時期的には6世紀から7世紀が主体である。	▼須玖Ⅱ式期～弥生後期末葉。○古墳(6世紀～7世紀)。	

1161	梅ノ木遺跡	熊本県		I b	p64: I b層は昭和28年の6月26日の白川大水害の名残りともみられる灰色砂層である。(中略) I a層はこの6.26水害の以前の水田土であり, I c層はこの大水害後から現在に至る水田土である。	★1953年6月26日。	
1162	七地水田遺跡	熊本県		IV	p12: 調査の結果, 4・5トレンチの2ヶ所について, 現水田層の下層から近世墓坑を初めとし, 洪水層(推定)に覆われた埋没水田や縄文時代の包含層が検出された。p13: (前略)(4・5トレンチの洪水層について)この層を切り込む12基の土坑が検出され, 4基からは近世陶器と腐食の進んだ鉄釘の一部が検出された。中世遺物のみを出土した土坑もあったが, 土坑の形状や埋土色から, これらのものは同一時代と推定される, 江戸時代の墓坑であろう。(中略)1~3トレンチからは, 一部, 洪水層のみが確認され, 遺構は検出されなかった。p155: 4・5トレンチからは, 近世墓坑をはじめ, 洪水層に覆われた埋没水田を検出した。洪水層と埋没水田からは多量の中世遺物が出土している。(中略)(墓坑は)江戸時代の中期以降のものであろう。p156: (前略)埋没水田の年代は15世紀初頭から16世紀中葉頃と推察される。	▼15世紀初頭~16世紀中葉。△江戸中期。	
1163	上片町水田遺跡	熊本県		3	p11: 発掘調査の結果, 条里遺跡とは無関係に近世(18世紀頃)の洪水層の下から, 同一時代の埋没水田址を検出した。〔菖蒲和弘「総括」pp84-85〕p84: 埋没水田と現水田の畦畔は, 同一方位のN50° Wを示し, 今回検出された15本の長軸畦畔の内, 5本までが現畦畔とほぼ重なり合い, 残りについても, 1本を除いて, 南北間のズレが大体0.5~1.5m前後に留まった。現水田の造りは, 埋没水田のものを踏襲している事が明らかで, 賑給水田の間に時間的な差異は考えられない。洪水時に東方の山腹より流れ出した土砂が, 調査区一帯(現在も, 周辺地よりやや低地である)を埋め尽くしたため廃田状態となり, 結果として, 後日の復旧工事により水田の嵩上げが行われたのであろう。p85: (前略)正徳二年の洪水によって埋没水田が形成された可能性は極めて高い。	★1712年(旧暦7月8日)?	正徳二年は1712年。
1164	古麓能寺遺跡	熊本県		Ⅲなど	p59: Ⅲ層の水無川氾濫による砂礫堆積は低地では厚く, 高所になるほど薄くなり, 山際では砂礫混入が及ばなかったことが判明した。この傾向はIV層堆積以前の水無川氾濫による砂礫堆積であるV・VI層でも同じことが云え, 山地形から平地にかけての緩斜面地形に即して, 低地では水無川氾濫の影響を受けていたことが判明した。p371: 遺跡はIV層の古代(6世紀後半~10世紀前半)とⅡ層の中世(12世紀後半~16世紀後半)の2時期に大きく分かれる。また, Ⅱ層とIV層の間には水無川氾濫によって流入した砂礫層(Ⅲ層)が入っている。Ⅲ層は砂層と礫層の交互層からなり, 細かく分層すると7層以上に分けることができる。このことから, IV層からの遺物が消える10世紀前半からⅡ層に遺物が出現し始める12世紀後半までの期間に7回以上の水無川の氾濫を受けて砂礫に覆われ, その間は荒地であったものと考えられる。	★10世紀前半~12世紀後半。▼6世紀後半~10世紀前半。△12世紀後半。	
1165	柳町遺跡第4次~第6次	熊本県	調査区全体	IV	p19: IV層であるが, 水田部と微高地を一概にはまとめられない。調査Ⅶ区, Ⅷ区の水田部分ではIV層が場所によって大きく異なる部分があり, それを一概にまとめることは厳しい。調査時には, まとめてIVa層, IVb層とし, 砂層と砂質粘土層に分けた。(後略)p492: 中世の遺構は部分的に観察できるものの, 調査した範囲では非常に少なくなる。この中世のいずれかの時期に大規模な洪水が, この調査地を襲っているようである。	★中世。	
1166	山王遺跡第1次	熊本県	流路1・3・5		〔岩谷史記「総括」pp258-262〕p258: 確認した遺構は, 中世を主体とする生産遺構(主に畑・水田を伴う溝), 古墳時代の集落, 弥生時代の墓地である。p260: (弥生時代について)後期の遺構はⅢSX-1やⅢSP-5等が該当する可能性がある。その後, 流路1・3・5が後期段階に本調査区を覆い, 堆積したと考える。流路4・9もこの段階に堆積した可能性がある。(古墳時代について)古墳時代前期の遺構は確認していないが, 中期の遺構にはⅧSE-1・2およびXSE-1・2の井戸, ⅧSOP-5・6およびXⅢSP-2等の小穴がある。古墳時代中期の集落形成の一端を示すものとする。その後, 流路6・7・8が中期段階に本調査区を覆い, 堆積したと考える。後期以降, 遺構が認められなくなることから, 流路の堆積により, 集落は廃絶された可能性を考える。	★弥生後期。 ▼弥生後期。	
1167	キリシタン寺院跡	熊本県	自然流路		p370: 第2区と第3区の間には八代幹線水路が西から東へ流れているが, 全体的にみれば池尻遺跡の北部から北あるいは北西に向かって低くなっていく傾向にあり, キリシタン寺院跡もその低い場所にあたる。平安期以後も自然流路や礫・砂礫が層を成していることを考えれば, 小さな流路が多く見られる湿った土地(湿原)であり, 堆積土などからさらに幾つかの大規模な河川の氾濫があったであろうと想定される。また, 最終の遺物包含層より下層は砂層になるのが確認された。出土遺物から見れば時期的には8~10世紀が主体となる。	○8世紀~10世紀。	遺構の年代は不明。

1168	宮地池尻遺跡	熊本県			p372:第2面は層の幅が広く、4・5層から11層あたりまでを含むが、これらの層を時期的に捉えると約8世紀から11・12世紀までの400～500年間である。層幅は1m前後であろう。土質は大きめに捉えれば粘土質ではなくシルト質である。400～500年間で1mほどの堆積があるのは時間的に早いほうであると思われる。この期間に幾つかの大きな洪水災害が起こり、大量の土砂を運んできたと考えられるのではないだろうか。第1面は全調査区で砂礫・ジャリが多量に混入しており、第2面直上層には礫層や大量・多量に礫が集中して出土する面が認められたが、これなどは河川の氾濫があったことを物語っている。	★8世紀～12世紀。	
1169	宮地年神遺跡	熊本県	A区		p54:(前略)A区では傾斜面は確認できなかったが、何度も河川の氾濫により削り取られ、旧地形は消失したと考えられる。(中略)第4面～第2面はすべての調査区に存在し、自然流路が検出されたが、出土遺物より近代の面である。自然流路からの出土遺物の中には古代の遺物も出土している。自然流路に堆積した水性堆積物や礫を包含する堆積層は、何度も河川が氾濫し自然流路が錯綜し、堆積物が溢れ出て一帯に広がったことを示すものである。第1面は全調査区において自然流路が確認されている。出土遺物や近代耕作土の直下より確認されていることから、近代から現代に河川・水路等の氾濫によって形成された面であると考えられる。調査区の南側には球磨川および水無川から引き込まれた水路が存在し、自然流路の流れる方向からこの水路が氾濫し流路となったことが想定される。		各時代に断続的に複数回洪水があったとみられる。
1170	宮地池尻遺跡	熊本県		4, 5	p10:第2面は6層上面が遺構確認面であり、4・5層から遺物の出土が見られた。(中略)4層は更に2層に細分される。調査区全面にオリープ褐色粘質土が層厚20～40cmで堆積していたが、部分的に褐色砂質土の堆積が見られた。これらは河川の氾濫によるものと考えられる。5層は更に3層に細分されるが、調査区南側では河川が氾濫した際の自然堆積層になっている。p22:(第2面について)調査区の北部・南部で確認された自然流路では氾濫が幾度か起こり、その度に多量の土砂や砂礫が流れ込んでいた。(中略)第2面の包含層は4・5層であるが、ともに遺物出土は多く、特に5層からの遺物出土が群を抜いて多かった。時代は古代で、特に8世紀代の遺物出土が顕著であった。	○8世紀(5層)。	
1171	日田条里遺跡群	大分県	溝状遺構		p11:遺構については古墳時代前期の堅穴住居跡1軒、土坑2基、柱穴群、溝状遺構9条を確認した。溝状遺構については河川の氾濫に伴う自然流路と考えられる。	★古墳前期。	
1172	三和教田遺跡C地点	大分県	7区		p5:7区においては、花月川の旧河道が確認され堆積した土壌で確認することができるほか、ある一定の時期に洪水などの強い水流で遺物が一度に流された面を検出することができた。このことから、縄文時代後期～晩期初頭にかけたの土器、石器、土偶、木製品などの一括資料を得たことと、出土状況によれば旧河道の左岸台地上に同時期の集落があったことが想定できるものである。	○縄文後期～晩期初頭。	
1173	龍頭遺跡	大分県	B区・C区	5, 6	pp9-10:本地区の層序は12層に分層でき、(中略)4層は散発的ではあるが、中近世の遺物を含む。当該時期の水田層である可能性が考えられる。5層(暗灰色シルト質粘土)・6層(明灰色シルト質砂)は土壌分析の結果から一連の堆積物であることが判明しており、泥流などの一過性の要因で形成された土層である。6層には8世紀代を主体とした古代の遺物が一定量包含されていた。	○8世紀(6層)。△中世～近世。	
1174	龍頭遺跡	大分県	B区・C区	9, 10	pp9-10:本地区の層序は12層に分層でき、(中略)9層(暗灰色シルト質細粒砂)・10層(暗褐色砂質シルト)も土壌分析の結果から洪水・泥流など一過性の堆積が地表面下することで、土壌化が進行したものである。9層からは縄文時代後期の遺物が出土している。p58:龍頭遺跡は縄文時代後期初頭から前期前後(福田KⅡ式・コーゴー松式段階～縁帯文土器段階)にかけてトングリ・ピットが造営されていたが、後期前葉前後(縁帯文土器段階)に発生した洪水ないし泥流によって、土坑内に貯蔵されていた内容物ごと放棄された遺跡であると解釈できる。	★縄文後期前葉。	
1175	毛井遺跡A地区	大分県			p17:本調査区周辺は大野川左岸の氾濫原にあたり、大野川の活発な河川活動等により形成された微高地などの微起伏がみられる。大野川の大規模な洪水は、堤防が整備される戦前まではしばしば発生したようで、氾濫原では微地形の変化が絶えずみられていたことが想定される。	★昭和戦前以前。	
1176	井ノ久保遺跡	大分県		④・⑥～⑧	p15:土層図の基本的な層序は、第0層が現在の盛土、第1層が近。現代の水田層、第④・⑥～⑧層が氾濫による砂礫層、第3～6層は通常的な自然堆積土、第7層が9世紀前半代の遺構確認面、第8層は8世紀末～9世紀初頭の遺構確認面、第9～11層が自然堆積土で無遺物層となっている。調査区南面壁では、標高約16.8～16.3mで水田耕作層を西から東にかけて計3段分を検出している。水田層下から遺構確認面の間で計6カ所礫層を確認し、数回の流路の変更か氾濫の状況が認められた。(中略)第8層の下面には2層の時期差を伴う砂礫層(⑦・⑧層)を確認した。遺構面形成前にも数回の流路変更が洪水があったものと思われる。	▼9世紀前半。△近代。	参考)p16;Fig.8「A区基本層序模式図」

1177	賀来西遺跡	大分県	第1次調査区の第1・2号水田		p16:それぞれの水田の所属時期についてだが、(中略)第3～7号水田の全てが13～14世紀以前の中世段階に造成・耕作されたと推測される。第1・2号水田については、第3号水田の上層で近世水田のV・VI層の下面なので、13～14世紀以降近世以前としか言えない。p47:第1・2号ないし第3号水田を覆うように、最深部のA・B-12・13グリッド辺りでは砂層が見られ、既述のように第6号水田のA・B-4・5グリッドでは牛や人の足跡が検出されており、これらの砂層は、賀来川が氾濫した際の洪水砂層を起源とすると考えられる。	▼13世紀～近世。	
1178	賀来西遺跡	大分県	第1次調査区の第3号水田		同上。	▼13世紀～14世紀。	
1179	玉沢地区条里跡第3次	大分県	2区の水田2	水田2の上	p46:(S115(水田2)について)水田1の基盤層である洪水層に覆われている水田2(S115)を検出している。(中略)水田層の時期であるが、遺物は僅少であるが、時期の比定が可能な遺物として白磁V類4aが出土しており、12世紀中頃には水田化していると考えられる。	▼12世紀中頃。	
1180	玉沢地区条里跡第3次	大分県	2区	洪水層S131	p46:(洪水層(S131)について)標高は、東側で約15.30m、中央で約15.20m、西側で約15.50mを測る。p50:この洪水層に覆われたS133を検出したところ、SX134・135の硬化面を確認している。その間にSD137流路が検出された。(後略)		
1181	玉沢地区条里跡第3次	大分県	2区	洪水層S139	p51:(S139(洪水層)について)S138水田層の基盤層となる洪水層である。標高は、約14.70mである。埋土は淡黄色砂質土層である。層の掘り下げ時に8世紀後半～末に比定される土師器坪が出土するもの、下層の水田層とも関連するSD136用水路が10世紀後半に比定されるため当該時期とは考えにくい。	▼10世紀後半。○8世紀後半～末。	
1182	玉沢地区条里跡第3次	大分県			[佐藤孝則「まとめと問題点」pp233-236]p235:(中世について)調査地内において12世紀～16世紀代にかけての遺物が出土する水田層を確認している。(中略)また土壌に関しては、灰褐色を呈し粘性ではあるもの手触りはバサバサしており、土壌の老朽化現象が窺える。これにより、中世段階では河川からの肥沃な土壌供給がそれほど頻繁ではなく、同一の水田層を長期間使用していたと考えられる。よって中世段階で確認される洪水層は比較的大規模な自然災害によると考えられる。このように、中世段階の堆積には純粋な洪水層が確認されないことから、洪水堆積層が流入した場合も速やかに再開発が行なわれていたと読み取れる。	★中世。	
1183	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	1b	p16:1bは褐褐色土層を基調とする。1aはこの洪水層を母材にして水田層を形成している。	▼17世紀前半(水田3)。	
1184	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	3b	p16:3aは褐黄色土層を基調とする。水田3(S001)とする。出土遺物は17世紀前半に比定される。第1面として調査を行っている。3bは淡褐黄色土層を基調とする。3aの母材の洪水層である。	▼15世紀(水田5)。△17世紀前半(水田3)。	
1185	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	4b	p16:4aは淡褐黄色粘質土層を基調とする。水田4(S002)とする。時期は不明である。4bは黄褐色シルト質土層を基調とする。4aの母材の洪水層である。本調査地内でもっとも砂質が多く含まれている。5aは褐褐色粘質土層を基調とする。水田5(S003)とする。出土遺物は15世紀代に比定される。第2面として調査を行っている。	▼15世紀(水田5)。△17世紀前半(水田3)。	
1186	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	6b	p16:6aは褐灰茶色粘質土層を基調とする。水田6(S028)とする。出土遺物は12世紀代に比定される。第3面として調査を行っている。6bは淡灰茶色粘質土層を基調とする。水田6を母材の洪水層(S004)である。出土遺物は古墳時代に比定される。第4面として調査を行っている。	○古墳。△12世紀(水田6)。	
1187	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	7b	p16:7aは灰色粘質土層を基調とする。水田7(S005)とする。時期は不明である。7bは明茶灰色粘質土層を基調とする。水田7の母材の洪水層である。	△古墳(6b層)。	
1188	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	8b	p16:8aは暗褐茶色粘質土層を基調とする。水田8(S006)とする。時期は不明である。8bは淡灰茶色粘質土層を基調とする。水田8の母材の洪水層である。	△古墳(6b層)。	
1189	玉沢地区条里跡第8次	大分県	基本土層	9b	p16:9aは暗灰褐色粘質土層を基調とする。土壌化は確実に確認される。炭化物も少量含まれている。水田の可能性が考えられる層である。(S007)9bは灰褐色粘質土層を基調とする。9aの母材の洪水層である。	△古墳(6b層)。	

1190	下郡遺跡群第25次	大分県		Ⅲ	p144:第25次調査地点は大分県教育委員会が調査を実施した下郡桑苗遺跡に近接する。遺物出土状況も類似し、連続する遺跡と考えて大過ないであろう。土層堆積状況は下郡桑苗遺跡に比べ、時期幅は短く、弥生時代についてみても前期末を中心とするものだけであり、下郡桑苗遺跡のように中期初頭、あるいは中期前半に比定される土層は認められない。第Ⅲ層直上には古墳時代の包含層が存在し、堆積土層に差異が認められる。第25次調査地点の弥生時代に比定される土層には第Ⅲ層、第Ⅳ層が相当する。第Ⅳ層は非常に強い粘性を有しており、滞水状況での堆積環境が想定され、部分的にⅣc層とした砂質土を含むラミナ状堆積物を含んでおり、一時的に洪水等の自然営力による環境変化が想定される。これに対し、遺物出土量が最も多い第Ⅲ層は、第Ⅲc層としてラミナ状堆積土層が随所に認められる他、第Ⅲa層、第Ⅲb層ともに土層内には大粒のブロック土を含んでおり、激しい環境での堆積状況が想定される。したがって、第Ⅲ層は極めて短期間に堆積したものと判断されよう。(中略)第25次調査地点は、当該時期集落西端の水際に相当し、前期末の段階に複数回におよぶ洪水等の大規模な災害に見舞われた状況を示していると考えられる。	★弥生前期末。△古墳。	
1191	宮苑井ノ口遺跡第2次・第3次	大分県	第3号水田	第3号水田直上	p166:(第3号水田について牛の足跡が)耕作土の下面から、特にA~C-1・2グリッドで第3~5号畦畔を跨いで顕著に看取された。第3号水田耕作土に洪水起源と推定される砂粒が多く混入していることが、足跡が顕著に残った理由だと推察される。〔佐藤孝則・荻幸二「第Ⅰ調査区の古地形と土地利用」pp181-191〕 p182:本遺跡では、砂礫層で形成された幾つかの微高地、遺跡北辺を中心とする黒色土層で形成された湿地、そして遺跡南辺を中心とする砂層なども確認されている。これらの地形を形成した要因として、やはり河川の氾濫によって生じた旧河道の存在が挙げられる。p189:(第3号水田について)本水田の所属時期も出土遺物からすると9世紀代である。	▼9世紀。	
1192	玉沢地区条里跡第17次	大分県	第Ⅱ調査区	Ⅳ層水田／Ⅴ・Ⅵ層水田の下	p19:今回の調査では、近世下面の水田として第Ⅰ調査区ではⅣ層調査区ではⅣ層水田の1枚、第Ⅱ調査区ではⅣ層・Ⅴ層・Ⅵ層水田の3枚、第Ⅲ調査区ではⅣ層水田の1枚が検出された。そのうち、各調査区のⅣ層水田は、いずれも中世後半期=15~16世紀代の所産と考えられ、同時期に共存したものと推定される。第Ⅱ調査区のⅤ・Ⅵ層水田は、Ⅳ層水田より旧いが、出土遺物から中世半ば~後半が想定され、それほど時間的に変わらないものと考えられる。(中略)調査区南西隅の標高が、Ⅴ・Ⅵ層水田形成時とⅣ層水田形成時では周囲と比べて逆転しているが、これは七瀬川の氾濫による洪水堆積によるものではないかと推察された。	△15世紀~16世紀。	
1193	玉沢地区条里跡第9次	大分県		3, 4	p14:第1面は大規模な東西方向の畦畔(SF100)をはじめとする良好に畦畔を伴う明確な水田面であり、A区からF区の全てにおいて検出された。(中略)6層(第2水田面)との層境に層厚最大5cm程度認められる洪水によると見られる堆積土層である。(中略)第1水田面を覆う土層(3層, 4層)は、土色により分層したが、土質は類似しており、一連の土層である可能性がある。畦畔によく残存していることから、3層, 4層も洪水による堆積物と推定でき、これらが一連の洪水によって一挙に堆積して本水田面をパッキングした可能性が考えられる。(中略)(第1面について)本水田面および畦畔は、8世紀~9世紀代の古代に遡る可能性が高いと考えられる。	▼8世紀~9世紀。	
1194	玉沢地区条里跡第9次	大分県		第1・2面間	同上。	△8世紀~9世紀。	
1195	大道遺跡群	大分県			p10:(前略)第15次SX037は地形の落ちにあたる。遺物包含層からは縄文時代から近世にかけての広い範囲で遺物が出土しており、とくに縄文前期~中期に比定される船元式土器が出土している点は興味深い。微高地を形成する層に縄文土器が混入していることから、微高地の形成時期は縄文時代前期まで遡ると考えられる。出土している縄文土器は比較的良好な状態であることから、河川の影響を受けておらず、突発的に起きた洪水によって、縄文時代の遺構が展開されていた小微高地ごと破壊堆積物にのみ込まれ、検出面である微高地を形成したと推測される。同様の状況は調査区南側に接する第10次および第14次・17次・18次調査区においても確認されており、第15次調査区周辺において当該期の遺構が形成、あるいは展開する可能性を示すものといえる。	▼縄文前期。	

1196	大肥遺跡 A-1区	大分県	基本層 序	12, 13, 14	p17: (前略)9~12層の水田層には中世の白磁碗などの遺物が含まれていたことから、中世以降にこの一帯に水田開発が及んでいた可能性が考えられる。さらにその下層には12, 13, 14層の堆積が見られ、これらは砂性が高いことから大肥川の氾濫に伴う遺物包含層であると考えられるもの、拳大の礫などが多く含まれることから、氾濫に伴うと断言することが出来ず、あるいは水田構築時の盛り土の可能性も考えられる。p34: (第1面の)1号堅穴状遺構から出土した土師器の杯身は8世紀後半の特徴を有しており、(中略)中世時期まではこの第1面は継続していたものと考えられる。p35: その後、この上面には堆積層が形成され、水田が形成される。この堆積層には8世紀後半~12世紀までの遺物が見られ、また水田層からは11世紀後半から12世紀前半の白磁が出土していることから、堆積層は第1面の時期と大きく異ならない極めて短期間のうちに形成されたと考えられ、その後水田が構築されるのである。	△11世紀後半~12世紀前半。	
1197	大肥遺跡 A-1区	大分県	基本層 序	15, 16	p17: 15層上面に遺構の掘り込みが認められ、この面を第1面として遺構の検出を行っている。また、第1面下層には15, 16層が堆積し、これらには主に弥生から古代の遺物の包含が認められた。この層も主に砂質が高いことから、河川氾濫に伴う堆積と考えられる。17層上面には遺構の掘り込みが認められ、この面を第2面として遺構の検出を行っている。p34: (調査区全体について)この一帯はもともと大肥川の氾濫原あるいは旧河道にあたり、その氾濫により安定した砂質の層が堆積したものと考えられる。その後、第2面で確認されたように、この一帯に大肥川より流れ出る水が溢れ、流路(溝)が形成される。第2面にて5条確認されたこれらの溝は、このようにして形成された流路で、出土した遺物は、その特徴から古墳時代初頭のものと考えられ、外来系の土器の特徴を有している。(中略)(土器は)布留式土器古段階、古墳時代初頭の時期に該当するものと考えられる。(中略)その後、大肥川は氾濫を繰り返し、第2面上層には堆積層が形成される。弥生時代全般の遺物に混じって古墳時代の遺物や7~8世紀代の須恵器や土師器が包含されていたことから、この堆積は奈良時代までの期間に該当すると考えられる。こうした形成された堆積層の上面に第1面が形成され、再び生活の痕跡が認められるようになる。	★奈良以前。 ▼古墳初頭。 ○弥生~古墳。	
1198	大肥遺跡 A-1区	大分県	第2面の 溝		p34: (調査区全体について)この一帯はもともと大肥川の氾濫原あるいは旧河道にあたり、その氾濫により安定した砂質の層が堆積したものと考えられる。その後、第2面で確認されたように、この一帯に大肥川より流れ出る水が溢れ、流路(溝)が形成される。第2面にて5条確認されたこれらの溝は、このようにして形成された流路で、出土した遺物は、その特徴から古墳時代初頭のものと考えられ、外来系の土器の特徴を有している。(中略)(土器は)布留式土器古段階、古墳時代初頭の時期に該当するものと考えられる。(後略)	▼古墳初頭 (布留古段階)	
1199	平田迫遺跡	宮崎県	Ⅱ区	V	p26: 第V層は黒褐色の礫層で大小の礫が密集している。第VI層である畠跡上部に短期間のうちに周辺の丘陵地から流れ込んだものと考えられる。p27: 畝状遺構は第VI層上面で検出したことになり、調査区の約6割を占める範囲で検出でき、遺存状況は良好である。土石流等によって、山の斜面の礫が一斉に流れ込んだことにより、畠が短期間のうちに埋まったために、このような状況が生じたものと考えられる。pp66-67: 畠の経営時期は古代後半から中世にかけての一時期、おそらく数年間の短い期間と考えられる。	▼古代後半 ~中世。	
1200	町屋敷遺跡	宮崎県	堰跡1		p22: 堰跡1(SO1)は、B区のSE1とSE2の合流部で検出された。杭がすべて西から東に向かって倒れていることから洪水等によって倒壊したと思われる。p23: 遺物と14C年代測定の結果から見てSO1は、弥生時代後期後半から古墳時代前期あたりのものと考えられる。	▼弥生後期 後半~古墳 前期。	SE: 溝状遺構。
1201	町屋敷遺跡	宮崎県			p142: 古代の水田と考えられるものはD区で検出された。B区で検出された堰が押し流された状態であったことから、これらの水田は、洪水等によって先の時代とは異なる地形上に作られたと思われる。	▼古代。	SE: 溝状遺構。
1202	嫁坂遺跡	宮崎県	低位水 田面	6	p123: 6層は橙色細砂粒を多く含むにぶい黄褐色のシルト質土である。(中略)南側調査区のみ確認された土層であり、隣接して検出された旧河道からの氾濫層と考えられる。堆積は20cmほどである。	▼1471年(桜 島文明軽石) (13層)。	
1203	嫁坂遺跡	宮崎県	低位水 田面	7	p123: 7層は褐灰色の細砂粒層で、橙色細砂粒を多く含む。(中略)最大層厚は20cmを測る。旧河道の氾濫により堆積した層と思われる。	▼1471年(桜 島文明軽石) (13層)。	
1204	嫁坂遺跡	宮崎県	低位水 田面	9	p123: 9層はにぶい黄褐色を呈する細砂粒層で、白色軽石をわずかに含む。層厚は5~15cmである。南側調査区のみ堆積しており、旧河道の氾濫層と思われる。(中略)(13層は)1471年(文明3年)桜島噴出の桜島文明軽石層で、(中略)最大層厚は20cmである。	▼1471年(桜 島文明軽石) (13層)。	

1205	嫁坂遺跡	宮崎県	低位水田面	16	p124:15層は南側調査区中央から南側にかけてのみ確認された水成堆積土層である。橙色、にぶい橙色、褐灰色細砂粒土層がラミナー状に堆積する。混入物はなく、締まりは弱い。20cmほど堆積している。16層は15層と同範囲で堆積している。下層の褐灰色シルト質土層と15層が攪拌された状態であり、旧河道の氾濫によるものと思われる。15～20cmの層厚である。	△1471年(桜島文明軽石)。
1206	山口遺跡第2地点	宮崎県			p89:本遺跡造営以前、少なくとも弥生時代以前には調査区は細見川の一部だったことが窺える。その後、河川の氾濫等自然の営力により土砂が堆積する。河の流れが微妙に変化するとともに、弥生時代終末から集落が営まれることになる。集落は、古墳時代中期をピークに、平安時代まで続くと考えられる。河川を目前に控えた集落だけに、数多くの被災の痕跡を留めているが、平安時代以降にそれまでには類を見ない災害に見舞われることになる。おそらく、調査区すべてが水没し沼地と化したのだろう。結果、集落は調査区東側などの段丘裾部に移動したと考えられる。	▼弥生終末期～平安。
1207	旭2丁目遺跡	宮崎県			p41:本遺跡検出の自然流路は、弥生時代中期以前はさらに流域が広く、周辺域も常に洪水の影響を受けた不安定な土地であったと推測される。その後、中期になってようやく安定して流れ始めたほことで、前代までの洪水等がもたらした肥沃な土地である流路の左岸地帯一帯に生活圏が求められるようになったと考える。(中略)後期前半期以降には、この集落は継続しないのであるが、その理由として、自然流路3期を埋没させるほどの洪水が想定でき、集落の機能もそこで途絶えたと考える。	▼弥生中期。△弥生後期前半。
1208	古屋敷遺跡	宮崎県	I区	IIIb	p46:Ⅲ層は、3つに分層でき、a:暗茶褐色土(主として15～16世紀)、b:黒灰色土(主として12～13世紀だが、9～10世紀の遺物も多く含み、一時期土石流となる)、c:茶褐色微砂質土(主として5～6世紀で、縄文後期から10世紀の遺物も多く含む)で、(後略)。p49:重機による土土除去の際、Ⅲ層を剥いでみたところ、調査区中央で、幅12～20mで西から東へ横断する礫層がみられ、土石流と思われる。Ⅳa層からは縄文土器が出土した。	▼縄文後期～10世紀。○9世紀～13世紀。△15世紀～16世紀。
1209	江内谷遺跡	宮崎県	基本層序	VII～X III	pp7-8(表1):(Ⅵ層は桜島文明軽石(1471年)。Ⅶ層は河成堆積物(中世水田耕作土)。Ⅷ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。Ⅷ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。Ⅸ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。Ⅹ層は河成堆積物(古代水田耕作土)。Ⅺ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。ⅩⅠ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。ⅩⅡ層は河成堆積物(プラント・オパール検出)。ⅩⅢ層は河床堆積物(土石流堆積物)。)p102:(前略)調査区の東側部分では、旧谷地形が埋没して平坦化した後、古代から近世にかけて、稲作が行われていたようである。古代から中世にかけては、幾度となく洪水砂以外に見舞われていたと思われ、その痕跡が各層にみられる河成堆積物及び河床堆積物(土石流堆積物)であり、大量の遺物が水田耕作土中から出土している事からも、その様子を窺い知ることができる。近世になると、大規模な水田開発が行なわれたようで、調査区内においてもかなりの部分が開発による削平を受けていた。	★古代～中世。
1210	坂元A遺跡	宮崎県	溝状遺構		p23:(突帯土器期の遺構について)西ブロックの水田区画が確認された範囲において、蛇行する溝状遺構を数条検出した。(中略)これらはいずれも9c層を切っており、成層シラス台地側から供給されたとみられる軽石まじりの砂によって埋積されている。断面を観察すると、溝を埋めた砂層がカマボコ状に盛り上がっている状況が看取される。これらは水田が機能していた時期または水田廃絶後におきた洪水によって形成された自然流路と考えられ、砂層の状況から判断すると、扇状地形面上を放射状に流下する洪水の堆積様式に類似する。SD1・2・4内の砂層からは縄文時代晩期後半(突帯土器期)のローリングを受け磨耗した土器片が出土している。このうち、SD2とSD4から出土した土器片は接合している。また、SD5からは弥生時代前期に位置付けられる土器片が出土している。	▼縄文晩期後半(突帯文期)。○縄文晩期後半～弥生前期。
1211	坂元A遺跡	宮崎県	K-3区、L-3区	軽石粒混じりの砂(5c下)	p33:(5c層(平安時代)の遺構について)J-5区では、後述する5b層を耕作土とする段階の疑似畦畔Bの下位において、ほぼ完形の土師器杯が口縁部を逆さにして伏せた状態で見つかったが、その疑似畦畔との関係は不明である。この土師器の年代は9世紀後半と考えられることから、5c層の形成年代を平安時代とした。(中略)K-3区とL-3区では、洪水によって運ばれたとみられる軽石粒混じりの砂で覆われた5d層(灰色粘質土)の確認を行う際に、5c層を耕作土とする段階の水田区画らしい痕跡をとらえることができた。(中略)溝状遺構SD13は東ブロックの北東部を東西方向に蛇行するもので、幅約70cm、深さ約20cmである。白色軽石粒を含む灰白色の砂で埋積されており、クロスミナが認められる。この溝状遺構は5d層以下を掘り込んでおり、5c層の直下にある洪水時にできた自然流路と考えられる。	△平安(5c層)。9世紀後半(5b層の下)。

1212	宮田遺跡 第1次	宮崎県		9, 10a, 10b	p31: 6層は黄灰色～灰色粘質シルト土。古墳時代前期の水田層である。(中略)8層は灰黄色～浅黄色砂。一連の洪水堆積物と考えられる。次の9層とともに、新段階の河道を埋積した堆積物である。9層は灰色～浅黄色砂。場所によっては砂層と礫層がクロスミナをなしている。洪水堆積物である。10a層は灰黄色～浅黄色砂質シルト土(部分的に粘質)。10b層は黄灰色粘質土。10a層と10b層は縞状にみえる部分があり、一連の洪水堆積物と考えられる。(中略)11a層から弥生時代の土器片(弥生時代中期?)が出土しており、放射性炭素年代測定の結果、2690±40年BP(BC850～810年)という数値が得られている。植物珪酸体分析の結果、イネが検出されていることから、弥生時代前半期の水田層と考えられる。	▼弥生中期。 △古墳前期。
1213	早馬遺跡	宮崎県	西区の SD04		p19: (中世のSD04は)D-16・17区で検出した南北方向に延びる溝状遺構で、SD05を切る。断面形態はほぼ逆台形状を呈するが、一部底面付近がオーバーハングする。埋土はおおまかにみると下層から砂粒・黄褐色パミスを多く含む層、粘性の極めて強い黒色土、黄褐色パミスを含む黒褐色土が堆積する。埋土のほぼ中央から再度この順番で堆積が見られることから、水量や水の流れの速さが一定でなく、時には洪水のような形で砂粒が運ばれてきたものと推測できる。	★中世。
1214	早馬遺跡	宮崎県	西区の SD12		p20: (中世のSD12は)西区西端で検出した南東-北西方向にほぼ直線的に延びる溝状遺構で、両端ともに調査区外に延びる。p24: (前略)埋土の堆積状況から推察すると、基本土層のVIb層(あるいはVIa層)が崩れて溝がある程度埋没した後、洪水など水の流れにより御池軽石・細砂粒などが運ばれて堆積したものと考えられる。(中略)底面付近の埋土が砂層であったり、砂粒を多く含む粘質土であることから、溝の掘削当初より水の流れがあつたか頻りに洪水の影響を受けていたものと考えられる。	★中世。
1215	早馬遺跡	宮崎県	東区 SD18		p53: (中世のSD18は)G-30区で検出された。南-北東方向へ湾曲しながら延びている。プランは細長い形状を呈し、遺構自体の残存状況も悪い。断面形は浅いU字状を呈する。溝幅0.15～0.35(m)で、深さは0.08mと極めて浅い。埋土には砂層が堆積していたのみである。このことから、溝としての機能のほかに、洪水や多雨時に形成された自然流路のように偶発的に形成された可能性も想定される。遺物は検出されていない。	★中世。
1216	平田遺跡C 地点	宮崎県	C地点の 基本層 序	V	p2: V層…黒色粘質シルト土(黄褐色・白色パミス・砂を含む。洪水堆積層か。)(中略)IV層は中世の水田層である。陶磁器や土師器が若干出土している。遺物の時期は11世紀後半から14世紀前半に帰属するものである。V層は調査区全体に堆積しているものではなく、調査区中央を中心に遺存しており、東側には存在しない。SD4の埋土最上層となる層であるが、SD4の掘り形上部を削るように堆積していることから、洪水による堆積層である可能性が考えられる。	▼11世紀後半～14世紀前半。
1217	本御内遺跡	鹿児島県		II b, II c	p11: (II層は)堆積状態で3層に分層した。(中略)II b層は、1～10mmの小礫を多量に含んだ明茶褐色小礫層である。土石流堆積物と思われる。II c層は、明茶褐色粗砂とシルト層がクロスミナ状に堆積している層である。この層も、II b層同様に土石流堆積物と思われる。p41: II層については、舞鶴城大手前の五間道路が掘り込まれていることから、それ以前の層であると判断できる。(中略)舞鶴城直前の時期の遺物として12世紀後半から16世紀前半の青磁や白磁が出土していることから、II層はこれらの本来の包含層である可能性が高い。	○12世紀後半～16世紀前半。
1218	京田遺跡	鹿児島県		V	p20: (V層は)最大層厚50cm、平均層厚30cm程の河川の氾濫堆積層で、上部のVa層と下部のVb層に細分できる。調査区全域に堆積しているが、自然流路1・2の旧河道部分では残りが悪い。Va層は粘性の強い灰白色粘土で、Vb層は浅黄色細砂からなるラミナ層によって形成されている。堆積した時期は弥生時代中期後半頃と考えられる。	★弥生中期後半。
1219	京田遺跡	鹿児島県		VI	p20: VI層はA・B-1区とA・B-13～16区で自然流路1・2を検出する際に確認した。第6図で自然流路1・2の壁面の上部はVI層上面にあたる。V層同様河川の氾濫堆積層で、調査区全域に堆積していると考えられる。厚さは80cm以上で、上部・下部・最下部に細分でき、上部は緑灰色を呈する細砂、下部は黄白色砂土と青灰色細砂、最下部は緑灰色粘土と細砂からなる。各層ともラミナがよく発達している。VI層の堆積時期は縄文時代後晩期と考えられ、その上面で縄文時代晩期から弥生時代中期の遺構を検出した。	★縄文後期～晩期。
1220	京田遺跡	鹿児島県		VII	p20: VII層は、A-13区下層確認トレンチで把握できたVI層以下の自然堆積層である。(中略)流水と停滞を繰り返す環境下で堆積している。(中略)VII層は縄文時代前期から後晩期にかけて堆積したと考えられる。(後略)	★縄文前期～晩期。

1221	上水流遺跡	鹿児島県		Va	p12:本遺跡で見られる地層は、河川堆積物及びそれらの上に堆積する腐食土である。砂質の土壌については、「砂質土」と「砂」に分類した。河川による氾濫堆積物などを含んでいるので、遺跡内において必ずしも安定している状況ではなかった。例えば、Va層では同一包含層の中で黄褐色砂質土層と灰白色砂層が何層にもわたって互いに堆積している様子が観察される地点もあった。(中略)(Va層は)黄褐色砂質土。縄文時代中期前半。(灰～灰色砂との互層となる地点多し。)	★縄文中期前半。	
1222	上水流遺跡	鹿児島県		Va	(第1分冊)p2:本遺跡の地層は、河川堆積物及びそれらの上に堆積する腐植土である。砂質の土壌については、「砂質土」と「砂」に分類した。河川による氾濫堆積層などを含んでいるので、遺跡内において必ずしも安定している状況ではなかった。例えば、Va層では同一包含層の中で黄褐色砂質土層(粘質土)と灰白色砂層とが何層にもわたって互いに堆積している様子が観察される地点もみられた。(中略)Va層 黄褐色砂質土 縄文時代中期前半(粘質土～灰色砂との互層となる地点あり)	★縄文中期前半(Va層)など。	
1223	中島ノ下遺跡	鹿児島県		3b	p38:(第3層bは)暗青灰色シルト粘質土層、鉄分斑がみられるが、第3層aより少ない。砂が挟まれており、over-flow(河川の氾濫)によるものと考えられ、付近に河川の存在が予想される。p53:第3層aは青磁片が出土していることより、中世の水田層と考えられる。第3層bは、レンズ状に部分的に堆積している。これは平安時代から鎌倉・室町時代にかけて河川の氾濫が起きたことを示す。砂層を除去し、畦や小畦等の遺構を探索したが、確認できなかった。第3層cは宋代の白磁片が検出されたことより、平安時代から鎌倉・室町時代の水田層であろう。	★平安～室町。▼平安～室町。	
1224	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島県		10	p5:(10層は)灰褐色少し粘質。砂混じりシルト。パミス含む。p33:10層は砂層で、河川氾濫による堆積物である可能性が高いことを考慮すると、11層の水田跡が河川氾濫による砂で埋没後、9層以上で再び水田による稲作が連続的に営まれたと推定することができる。p35:(前略)(13層上面の)SD6と3b号溝は、若干SD6が小規模ながらほぼ平行しており、SD6の代わりに3b号溝が造られ、3b号溝から南側へ水を引いていたのがSD4であったと推定できる。(中略)3b号溝では古代の土師器がある程度まとまっており、SD6も近い時期であろうと考えられる。溝状遺構5・SD7・8については、検出面直上の13層に古墳時代(おそらく、笹貫式)の遺物が最新の遺物として含まれていることから、古墳時代後半期を下限と推定できよう。本調査区付近では河川跡が確認されており、本調査区はその氾濫原と考えられる砂層に少なくとも2回覆われている(10層・14層)。しかし、それぞれの上下の層で稲作の痕跡が認められることから、ある程度連続的に水田が営まれたことがわかる。	▼古墳後半(笹貫式)。△古代。	笹貫式は『日本土器事典』p599を参照:6世紀末ごろとされる。
1225	鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-9区	鹿児島県		14	p8:(14a層は)明黄褐色砂層。軽石を含む。(14b層は)にぶい黄褐色砂。p35:(前略)(13層上面の)SD6と3b号溝は、若干SD6が小規模ながらほぼ平行しており、SD6の代わりに3b号溝が造られ、3b号溝から南側へ水を引いていたのがSD4であったと推定できる。(中略)3b号溝では古代の土師器がある程度まとまっており、SD6も近い時期であろうと考えられる。溝状遺構5・SD7・8については、検出面直上の13層に古墳時代(おそらく、笹貫式)の遺物が最新の遺物として含まれていることから、古墳時代後半期を下限と推定できよう。本調査区付近では河川跡が確認されており、本調査区はその氾濫原と考えられる砂層に少なくとも2回覆われている(10層・14層)。しかし、それぞれの上下の層で稲作の痕跡が認められることから、ある程度連続的に水田が営まれたことがわかる。	△古墳後半(笹貫式)。	笹貫式は『日本土器事典』p599を参照:6世紀末ごろとされる。

遺跡集計表

—その 1—

山形県

群馬県

新潟県

山梨県

長野県

静岡県

愛知県

遺跡集計表

—その2—

京都府
大阪府
兵庫県
奈良県
岡山県
福岡県
全国合計

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
176	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	4.9	0.0	0.2	7.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	6.5	0.0	0.0	2.0	1.1	2.1	24.5
177	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3	5.0	0.0	0.3	7.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	6.5	0.0	0.0	2.0	1.2	2.1	24.7
178	0.5	0.0	0.0	0.0	0.3	5.1	0.0	0.3	7.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	6.5	0.0	0.0	2.0	1.3	2.1	24.9
179	0.6	0.0	0.0	0.0	0.3	5.2	0.0	0.3	7.6	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	6.6	0.0	0.0	2.0	1.4	2.1	25.1
180	0.6	0.0	0.0	0.0	0.3	5.3	0.0	0.3	7.6	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	6.6	0.0	0.0	2.0	1.5	2.1	25.4
181	0.7	0.0	0.0	0.0	0.3	5.3	0.0	0.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	6.7	0.0	0.0	2.0	1.6	2.2	25.6
182	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	5.4	0.0	0.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.7	0.0	0.0	2.0	1.7	2.2	25.8
183	0.7	0.0	0.0	0.0	0.4	5.5	0.0	0.4	7.7	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.7	0.0	0.0	2.0	1.8	2.2	26.0
184	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	5.6	0.0	0.4	7.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.8	0.0	0.0	2.0	1.9	2.2	26.2
185	0.8	0.0	0.0	0.0	0.4	5.6	0.0	0.4	7.8	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.8	0.0	0.0	2.0	2.0	2.3	26.4
186	0.9	0.0	0.0	0.0	0.4	5.7	0.0	0.4	7.9	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	6.9	0.0	0.0	2.0	2.1	2.3	26.6
187	0.9	0.0	0.0	0.0	0.5	5.8	0.0	0.5	7.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	6.9	0.0	0.0	2.0	2.2	2.3	26.9
188	0.9	0.0	0.0	0.0	0.5	5.9	0.0	0.5	7.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	6.9	0.0	0.0	2.0	2.4	2.4	27.1
189	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.0	0.0	0.5	8.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.0	0.0	0.0	2.0	2.5	2.4	27.3
190	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.0	0.0	0.5	8.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.0	0.0	0.0	2.0	2.6	2.5	27.5
191	1.1	0.0	0.0	0.0	0.5	6.1	0.0	0.5	8.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.1	0.0	0.0	2.0	2.7	2.5	27.7
192	1.1	0.0	0.0	0.0	0.5	6.2	0.0	0.5	8.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.1	0.0	0.0	2.0	2.8	2.5	27.9
193	1.1	0.0	0.0	0.0	0.6	6.3	0.0	0.6	8.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.1	0.0	0.0	2.0	2.9	2.6	28.2
194	1.2	0.0	0.0	0.0	0.6	6.4	0.0	0.6	8.2	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.2	0.0	0.0	2.0	3.1	2.6	28.4
195	1.2	0.0	0.0	0.0	0.6	6.4	0.0	0.6	8.2	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.2	0.0	0.0	2.0	3.2	2.6	28.6
196	1.3	0.0	0.0	0.0	0.6	6.5	0.0	0.6	8.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.3	0.0	0.0	2.0	3.3	2.7	28.8
197	1.3	0.0	0.0	0.0	0.6	6.6	0.0	0.6	8.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.3	0.0	0.0	2.0	3.4	2.7	29.0
198	1.3	0.0	0.0	0.0	0.7	6.7	0.0	0.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.3	0.0	0.0	2.0	3.5	2.8	29.2
199	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7	6.7	0.0	0.7	8.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.4	0.0	0.0	2.0	3.6	2.8	29.5
200	1.4	0.0	0.0	0.0	0.7	6.8	0.0	0.7	8.4	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.4	0.0	0.0	2.0	3.8	2.8	29.7
201	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	6.9	0.0	0.7	8.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.5	0.0	0.0	2.0	3.9	2.9	29.9
202	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	6.9	0.0	0.7	8.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	7.5	0.0	0.0	2.0	4.0	2.9	30.1
203	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	7.0	0.0	0.8	8.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.5	0.0	0.0	2.0	4.1	3.0	30.3
204	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	7.1	0.0	0.8	8.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.6	0.0	0.0	2.0	4.2	3.0	30.5
205	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	7.1	0.0	0.8	8.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.6	0.0	0.0	2.0	4.2	3.1	30.6
206	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	7.2	0.0	0.8	8.6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.6	0.0	0.0	2.0	4.2	3.1	30.8
207	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	7.2	0.0	0.8	8.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.7	0.0	0.0	2.0	4.2	3.2	31.0
208	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	7.3	0.0	0.9	8.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.7	0.0	0.0	2.0	4.2	3.2	31.2
209	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	7.4	0.0	0.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.8	0.0	0.0	2.0	4.2	3.3	31.4
210	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	7.4	0.0	0.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.8	0.0	0.0	2.0	4.2	3.4	31.6
211	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	7.5	0.0	0.9	8.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.8	0.0	0.0	2.0	4.2	3.4	31.8
212	1.5	0.0	0.0	0.0	0.9	7.5	0.0	0.9	8.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.9	0.0	0.0	2.0	4.2	3.5	32.0
213	1.5	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	8.9	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	7.9	0.0	0.0	2.0	4.2	3.5	32.2
214	1.5	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.2	3.6	32.4
215	1.5	0.0	0.0	0.0	1.0	7.7	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.2	3.6	32.6
216	1.5	0.0	0.0	0.0	1.0	7.7	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.2	3.7	32.6
217	1.5	0.0	0.0	0.0	1.0	7.7	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.1	3.7	32.6
218	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	4.0	3.8	32.6
219	1.4	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.9	3.8	32.6
220	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.8	3.9	32.6
221	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.7	4.0	32.6
222	1.3	0.0	0.0	0.0	1.0	7.6	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.6	4.0	32.6
223	1.2	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.5	4.1	32.5
224	1.2	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.5	4.1	32.5
225	1.1	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.4	4.2	32.5
226	1.1	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.3	4.3	32.5
227	1.1	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.3	4.3	32.5
228	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.5	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.2	4.3	32.5
229	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	7.4	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.2	4.4	32.4
230	0.9	0.0	0.0	0.0	1.0	7.4	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.2	4.4	32.4
231	0.9	0.0	0.0	0.0	1.0	7.4	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.1	4.5	32.4
232	0.9	0.0	0.0	0.0	1.0	7.4	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.1	4.5	32.4
233	0.8	0.0	0.0	0.0	1.0	7.4	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.0	4.5	32.4
234	0.8	0.0	0.0	0.0	1.0	7.3	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.0	4.6	32.3
235	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	7.3	0.0	1.0	9.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	3.0	4.7	32.4
236	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	7.3	0.0	1.1	9.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	2.9	4.7	32.4
237	0.7	0.0	0.1	0.0	1.0	7.3	0.0	1.1	9.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	8.0	0.0	0.0	2.0	2.8	4.8	32.4
238	0.6	0.0	0.1	0.0	1.0	7.3	0.0	1.2	9.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	8.0	0.0	0.0	2.0	2.8	4.9	32.4
239	0.6	0.0	0.1	0.0	1.0	7.3	0.0	1.2	9.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	8.0	0.0	0.0	2.0	2.7	5.0	32.4
240	0.5	0.0	0.1	0.0	1.0	7.3	0.0	1.2	9.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	8.0	0.0	0.0	2.0	2.6	5.1	32.5
241	0.5	0.0	0.1	0.0	1.0	7.3	0.0	1.3	8.9	0.0	0.0	0.0	0.3	0.1	7.9	0.0	0.0	2.0	2.6	5.1	32.2

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
251	0.1	0.0	0.3	0.0	0.8	6.9	0.0	1.5	7.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	6.9	0.0	0.0	2.0	2.0	5.4	30.0
252	0.1	0.0	0.4	0.0	0.8	6.9	0.0	1.5	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	6.8	0.0	0.0	2.0	1.9	5.4	29.8
253	0.0	0.0	0.4	0.0	0.7	6.9	0.0	1.5	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	6.7	0.0	0.0	2.0	1.9	5.4	29.6
254	0.0	0.0	0.4	0.0	0.7	6.8	0.0	1.5	7.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	6.6	0.0	0.0	2.0	1.8	5.4	29.4
255	0.0	0.0	0.4	0.0	0.7	6.8	0.0	1.5	7.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	6.5	0.0	0.0	2.0	1.8	5.5	29.2
256	0.0	0.0	0.4	0.0	0.7	6.8	0.0	1.5	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	6.4	0.0	0.0	2.0	1.8	5.5	29.0
257	0.0	0.0	0.5	0.0	0.7	6.8	0.0	1.6	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.3	0.0	0.0	2.0	1.9	5.5	28.8
258	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	6.8	0.0	1.6	7.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.2	0.0	0.0	2.0	1.9	5.5	28.6
259	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	6.7	0.0	1.6	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.1	0.0	0.0	2.0	2.0	5.5	28.4
260	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	6.7	0.0	1.6	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.0	0.0	0.0	2.0	2.1	5.5	28.2
261	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	6.7	0.0	1.6	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	5.9	0.0	0.0	2.0	2.1	5.5	28.0
262	0.0	0.0	0.5	0.0	0.6	6.7	0.0	1.7	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	5.8	0.0	0.0	2.0	2.2	5.5	27.8
263	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	6.7	0.0	1.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.7	0.0	0.0	2.0	2.2	5.5	27.6
264	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	6.6	0.0	1.7	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.6	0.0	0.0	2.0	2.3	5.5	27.5
265	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	6.6	0.0	1.7	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.5	0.0	0.0	2.0	2.4	5.5	27.3
266	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	6.6	0.0	1.7	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.5	0.0	0.0	2.0	2.4	5.5	27.1
267	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	6.6	0.0	1.8	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	5.4	0.0	0.0	2.0	2.5	5.5	26.9
268	0.0	0.0	0.7	0.0	0.5	6.6	0.0	1.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	5.3	0.0	0.0	2.0	2.5	5.5	26.7
269	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4	6.5	0.0	1.8	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	5.2	0.0	0.0	2.0	2.6	5.5	26.5
270	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4	6.5	0.0	1.8	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	5.1	0.0	0.0	2.0	2.6	5.5	26.3
271	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4	6.5	0.0	1.8	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	5.0	0.0	0.0	2.0	2.7	5.5	26.1
272	0.0	0.0	0.7	0.0	0.4	6.5	0.0	1.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	4.9	0.0	0.0	2.0	2.8	5.5	25.9
273	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	6.5	0.0	1.9	5.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	4.8	0.0	0.0	2.0	2.8	5.5	25.7
274	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	6.5	0.0	1.9	5.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	4.7	0.0	0.0	2.0	2.9	5.5	25.5
275	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	6.4	0.0	1.9	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	4.6	0.0	0.0	2.0	2.9	5.5	25.3
276	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	6.4	0.0	2.0	5.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	4.5	0.0	0.0	2.0	2.9	5.6	25.3
277	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	6.4	0.0	2.0	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.4	0.0	0.0	2.0	2.9	5.8	25.2
278	0.0	0.0	0.9	0.0	0.3	6.4	0.0	2.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	4.3	0.0	0.0	2.0	2.8	5.9	25.2
279	0.0	0.0	0.9	0.0	0.2	6.4	0.0	2.1	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	4.2	0.0	0.0	2.0	2.8	6.0	25.1
280	0.0	0.0	0.9	0.0	0.2	6.3	0.0	2.1	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	4.1	0.0	0.0	2.0	2.7	6.1	25.0
281	0.0	0.0	0.9	0.0	0.2	6.3	0.0	2.2	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	4.0	0.0	0.0	2.0	2.6	6.2	25.0
282	0.0	0.0	0.9	0.0	0.2	6.3	0.0	2.2	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	3.9	0.0	0.0	2.0	2.6	6.4	24.9
283	0.0	0.0	1.0	0.0	0.2	6.3	0.0	2.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.8	0.0	0.0	2.0	2.5	6.5	24.9
284	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	6.3	0.0	2.3	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.7	0.0	0.0	2.0	2.5	6.6	24.8
285	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	6.2	0.0	2.3	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	3.6	0.0	0.0	2.0	2.4	6.7	24.7
286	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	6.2	0.0	2.3	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.5	0.0	0.0	2.0	2.4	6.8	24.6
287	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	6.2	0.0	2.3	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	3.4	0.0	0.0	2.0	2.3	6.8	24.5
288	0.0	0.0	1.0	0.0	0.1	6.1	0.0	2.3	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	3.3	0.0	0.0	2.0	2.2	6.9	24.5
289	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	3.2	0.0	0.0	2.0	2.2	6.9	24.4
290	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.3	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	3.1	0.0	0.0	2.0	2.1	7.0	24.3
291	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0	2.0	2.1	7.1	24.2
292	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	3.0	0.0	0.0	2.0	2.0	7.2	24.3
293	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	3.0	0.0	0.0	2.0	1.9	7.3	24.5
294	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	3.0	0.0	0.0	2.0	1.9	7.4	24.6
295	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	3.0	0.0	0.0	2.0	1.8	7.5	24.8
296	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	3.0	0.0	0.0	2.0	1.8	7.5	25.0
297	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	3.1	0.0	0.0	2.0	1.7	7.5	25.2
298	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	3.1	0.0	0.0	2.0	1.6	7.6	25.4
299	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.1	0.0	0.0	2.0	1.6	7.7	25.5
300	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.1	0.0	0.0	2.0	1.5	7.7	25.7
301	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	3.1	0.0	0.0	2.0	1.5	7.8	25.9
302	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.3	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	3.2	0.0	0.0	2.0	1.4	7.8	26.1
303	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	3.2	0.0	0.0	2.0	1.4	7.9	26.2
304	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	3.2	0.0	0.0	2.0	1.3	8.0	26.4
305	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	3.2	0.0	0.0	2.0	1.2	8.0	26.6
306	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.2	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	3.2	0.0	0.0	2.0	1.2	8.1	26.5
307	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.2	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	3.1	0.0	0.0	1.9	1.1	8.1	26.3
308	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.2	0.0	2.1	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	3.1	0.0	0.0	1.9	1.1	8.2	26.2
309	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.1	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.1	0.0	0.0	1.8	1.0	8.3	26.0
310	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.1	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	1.8	0.9	8.3	25.9
311	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.1	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	3.0	0.0	0.0	1.8	0.9	8.4	25.8
312	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.1	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.9	0.0	0.0	1.7	0.8	8.4	25.6
313	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.1	0.0	2.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	2.9	0.0	0.0	1.7	0.8	8.5	25.5
314	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.9	0.0	0.0	1.6	0.7	8.5	25.4
315	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	2.8	0.0	0.0	1.6	0.6	8.6	25.2
316	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	2.8	0.0	0.0	1.6	0.6	8.7	25.1

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
326	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.7	0.0	1.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	0.0	0.0	1.2	0.0	9.3	23.6
327	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.7	0.0	1.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	0.0	0.0	1.1	0.0	9.3	23.3
328	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.6	0.0	1.7	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.3	0.0	0.0	1.1	0.1	9.3	22.9
329	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.5	0.0	1.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.3	0.0	0.0	1.1	0.1	9.3	22.6
330	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.4	0.0	1.6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.2	0.0	0.0	1.0	0.1	9.3	22.3
331	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.4	0.0	1.6	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.2	0.0	0.0	1.0	0.1	9.3	21.9
332	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.3	0.0	1.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.2	0.0	0.0	0.9	0.1	9.3	21.6
333	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.2	0.0	1.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.1	0.0	0.0	0.9	0.2	9.3	21.3
334	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.1	0.0	1.5	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.1	0.0	0.0	0.9	0.2	9.3	20.9
335	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.0	0.0	0.0	0.8	0.2	9.3	20.6
336	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.0	0.0	0.0	0.8	0.2	9.3	20.3
337	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.9	0.0	1.4	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	2.0	0.0	0.0	0.7	0.2	9.3	19.9
338	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.8	0.0	1.3	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.9	0.0	0.0	0.7	0.3	9.3	19.6
339	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.7	0.0	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.9	0.0	0.0	0.7	0.3	9.3	19.3
340	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.6	0.0	1.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	0.6	0.3	9.3	18.9
341	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.6	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	0.6	0.3	9.3	18.6
342	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.5	0.0	1.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.8	0.0	0.0	0.5	0.3	9.3	18.3
343	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.4	0.0	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.7	0.0	0.0	0.5	0.4	9.3	17.9
344	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.3	0.0	1.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.7	0.0	0.0	0.5	0.4	9.3	17.6
345	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.3	0.0	1.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.4	0.4	9.3	17.5
346	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.2	0.0	1.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	3.6	1.6	0.0	0.0	0.4	0.4	9.3	17.4
347	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.2	0.0	1.0	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	3.6	1.5	0.0	0.0	0.4	0.5	9.5	17.3
348	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.1	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	0.2	0.0	3.6	1.5	0.0	0.0	0.3	0.5	9.6	17.2
349	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.1	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	3.6	1.4	0.0	0.0	0.3	0.5	9.7	17.1
350	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	0.2	0.0	3.6	1.4	0.0	0.0	0.2	0.6	9.8	16.9
351	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.9	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	3.6	1.3	0.0	0.0	0.2	0.6	9.9	16.8
352	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.9	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.3	0.0	3.6	1.2	0.0	0.0	0.2	0.7	10.0	16.7
353	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.8	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	3.6	1.2	0.0	0.0	0.1	0.7	10.2	16.6
354	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.8	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.4	0.0	3.6	1.1	0.0	0.0	0.1	0.7	10.3	16.5
355	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.7	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	3.6	1.1	0.0	0.0	0.0	0.8	10.4	16.4
356	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.5	0.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.8	10.5	16.2
357	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.5	0.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.9	10.6	16.4
358	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.5	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.9	10.7	16.6
359	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.9	10.9	16.8
360	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	11.0	17.0
361	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.3	0.0	0.0	0.7	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	11.1	17.2
362	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	11.2	17.4
363	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.7	0.0	3.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	11.3	17.6
364	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.8	0.0	3.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.1	11.5	17.8
365	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.8	0.0	3.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.2	11.6	18.0
366	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.9	0.0	3.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.2	11.6	18.2
367	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.3	11.6	18.4
368	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.0	3.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.3	11.7	18.6
369	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.3	11.7	18.8
370	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.4	11.8	19.0
371	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	1.1	0.0	3.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.4	11.8	19.2
372	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	1.1	0.0	3.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5	11.8	19.4
373	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.1	0.0	3.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5	11.9	19.6
374	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	3.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.5	11.9	19.8
375	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.2	0.0	3.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.9	20.0
376	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	1.0	0.6	0.0	0.0	1.3	0.0	3.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.9	20.2
377	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.9	0.7	0.0	0.0	1.3	0.0	3.3	1.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.9	20.5
378	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.9	0.7	0.0	0.0	1.3	0.0	3.2	1.0	0.0	0.0	0.0	1.6	11.9	20.8
379	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	1.4	0.0	3.2	1.0	0.0	0.0	0.0	1.7	11.9	21.1
380	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	1.4	0.0	3.1	1.0	0.0	0.0	0.0	1.7	11.9	21.4
381	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.9	0.8	0.0	0.0	1.5	0.0	3.1	1.0	0.0	0.0	0.0	1.7	11.8	21.7
382	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.8	0.9	0.0	0.0	1.5	0.0	3.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.7	11.8	22.0
383	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.5	0.0	0.8	0.9	0.0	0.0	1.5	0.0	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0	1.7	11.8	22.3
384	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	1.6	0.0	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0	1.8	11.8	22.6
385	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	1.6	0.0	2.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.8	11.8	22.9
386	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.8	1.0	0.0	0.0	1.6	0.0	2.8	1.0	0.0	0.0	0.0	1.8	11.7	23.2
387	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.7	1.1	0.0	0.0	1.7	0.0	2.7	1.0	0.0	0.0	0.0	1.8	11.7	23.5
388	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.7	0.0	0.7	1.1	0.0	0.0	1.7	0.0	2.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.8	11.7	23.7
389	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.7	1.2	0.0	0.0	1.8	0.0	2.6	1.0	0.0	0.0	0.0	1.9	11.7	24.0
390	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.7	1.2	0.0	0.0	1.8	0.0	2.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.9	11.7	24.3
391	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.7	1.2	0.0	0.0	1.8	0.0	2.5	1.0	0.0	0.0</				

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
551	0.2	0.9	0.0	1.6	2.0	0.8	0.3	1.5	2.1	1.0	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	8.4	7.8
552	0.2	0.9	0.0	1.6	2.1	0.8	0.4	1.4	2.1	0.9	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	8.4	7.7
553	0.2	1.0	0.0	1.6	2.1	0.8	0.4	1.3	2.1	0.9	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	8.3	7.5
554	0.1	1.0	0.0	1.6	2.2	0.8	0.4	1.3	2.0	0.9	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	8.3	7.4
555	0.1	1.0	0.0	1.6	2.2	0.8	0.4	1.2	2.0	0.8	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	8.2	7.4
556	0.1	1.0	0.0	1.6	2.2	0.8	0.4	1.1	2.0	0.8	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	8.1	7.3
557	0.1	1.0	0.0	1.6	2.2	0.9	0.5	1.1	2.1	0.8	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	8.1	7.4
558	0.1	1.0	0.0	1.6	2.3	0.9	0.5	1.1	2.1	0.8	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	8.1	7.6
559	0.1	1.0	0.0	1.7	2.3	0.9	0.5	1.0	2.1	0.8	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	8.0	7.7
560	0.1	1.0	0.0	1.7	2.3	1.0	0.6	1.0	2.1	0.7	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	8.0	7.9
561	0.1	1.0	0.0	1.7	2.3	1.0	0.6	1.0	2.1	0.7	1.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	8.0	8.1
562	0.2	1.0	0.0	1.7	2.3	1.1	0.7	1.0	2.2	0.7	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.2	8.0	8.2
563	0.2	1.0	0.0	1.7	2.4	1.1	0.7	1.0	2.2	0.7	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	8.0	8.4
564	0.2	1.0	0.0	1.8	2.4	1.1	0.7	1.0	2.2	0.7	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4	8.0	8.5
565	0.2	1.0	0.0	1.8	2.4	1.2	0.8	1.0	2.2	0.6	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	8.0	8.7
566	0.2	1.0	0.0	1.8	2.4	1.2	0.8	1.0	2.2	0.6	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	8.0	8.8
567	0.3	1.0	0.0	1.8	2.4	1.3	0.9	1.0	2.3	0.6	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.6	8.0	9.0
568	0.3	1.0	0.0	1.8	2.5	1.3	0.9	1.0	2.3	0.6	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	8.0	9.2
569	0.3	1.0	0.0	1.9	2.5	1.3	0.9	1.0	2.3	0.6	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	8.0	9.3
570	0.3	1.0	0.0	1.9	2.5	1.4	1.0	1.0	2.3	0.5	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	8.0	9.5
571	0.3	1.0	0.0	1.9	2.5	1.4	1.0	1.0	2.3	0.5	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	8.0	9.6
572	0.4	1.0	0.0	1.9	2.5	1.5	1.1	1.0	2.4	0.5	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.0	8.0	9.8
573	0.4	1.0	0.0	1.9	2.5	1.5	1.1	1.0	2.4	0.5	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	8.0	9.9
574	0.4	1.0	0.0	2.0	2.6	1.5	1.1	1.0	2.4	0.5	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	8.0	10.1
575	0.4	1.0	0.0	2.0	2.6	1.6	1.2	1.0	2.4	0.5	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	8.0	10.3
576	0.4	1.0	0.0	2.0	2.7	1.6	1.2	1.0	2.4	0.4	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	8.0	10.4
577	0.5	1.0	0.0	2.0	2.7	1.6	1.2	1.0	2.5	0.4	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	8.1	10.5
578	0.5	0.9	0.0	2.0	2.8	1.6	1.3	1.0	2.5	0.4	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.3	8.1	10.6
579	0.5	0.9	0.0	2.0	2.8	1.7	1.3	1.0	2.5	0.4	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.3	8.1	10.7
580	0.5	0.9	0.0	2.0	2.9	1.7	1.3	1.0	2.5	0.4	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.4	8.1	10.8
581	0.5	0.9	0.0	2.0	3.0	1.7	1.3	1.0	2.5	0.4	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.4	8.1	10.9
582	0.5	0.9	0.0	2.0	3.0	1.7	1.3	1.0	2.5	0.4	0.9	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	7.4	8.2	11.0
583	0.6	0.8	0.0	2.0	3.1	1.7	1.4	1.0	2.6	0.4	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.4	8.2	11.1
584	0.6	0.8	0.0	2.0	3.1	1.8	1.4	1.0	2.6	0.4	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.4	8.2	11.2
585	0.6	0.8	0.0	2.0	3.2	1.8	1.4	1.0	2.6	0.4	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.5	8.2	11.3
586	0.6	0.8	0.0	2.0	3.3	1.8	1.4	1.0	2.6	0.4	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.5	8.2	11.4
587	0.6	0.8	0.0	2.0	3.3	1.8	1.4	1.0	2.6	0.4	0.8	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.5	8.3	11.5
588	0.7	0.7	0.0	2.0	3.4	1.8	1.5	1.0	2.7	0.4	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.5	8.3	11.6
589	0.7	0.7	0.0	2.0	3.4	1.9	1.5	1.0	2.7	0.4	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.5	8.3	11.7
590	0.7	0.7	0.0	2.0	3.5	1.9	1.5	1.0	2.7	0.4	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.5	8.3	11.8
591	0.7	0.7	0.0	2.0	3.5	1.9	1.5	1.0	2.7	0.4	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.6	8.3	11.8
592	0.7	0.7	0.0	2.0	3.6	1.9	1.5	1.0	2.7	0.4	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	7.6	8.4	11.9
593	0.8	0.6	0.0	2.0	3.7	1.9	1.5	1.0	2.8	0.4	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	7.6	8.4	12.0
594	0.8	0.6	0.0	2.0	3.7	2.0	1.6	1.0	2.8	0.4	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	7.6	8.4	12.1
595	0.8	0.6	0.0	2.0	3.8	2.0	1.6	1.0	2.8	0.4	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	7.6	8.4	12.2
596	0.8	0.6	0.0	2.0	3.8	2.0	1.6	1.0	2.8	0.4	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	7.6	8.4	12.2
597	0.8	0.6	0.0	2.0	3.8	2.0	1.5	1.0	2.8	0.4	0.6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	7.6	8.4	12.3
598	0.8	0.5	0.0	2.0	3.9	2.0	1.5	1.0	2.9	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.5	8.4	12.3
599	0.8	0.5	0.0	2.0	3.9	2.0	1.5	1.0	2.9	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.5	8.4	12.3
600	0.8	0.5	0.0	2.0	3.9	2.0	1.4	1.0	2.9	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.5	8.4	12.3
601	0.8	0.5	0.0	2.0	3.9	2.0	1.4	1.0	2.9	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.4	8.4	12.3
602	0.8	0.5	0.0	2.0	3.9	2.0	1.4	1.0	2.9	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.4	8.4	12.4
603	0.8	0.5	0.0	1.9	4.0	2.0	1.3	1.0	3.0	0.4	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	7.3	8.4	12.4
604	0.8	0.4	0.0	1.9	4.0	2.0	1.3	1.0	3.0	0.4	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.2	8.4	12.4
605	0.8	0.4	0.0	1.9	4.0	2.0	1.2	1.0	3.0	0.4	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.2	8.4	12.4
606	0.8	0.4	0.0	1.9	4.0	2.0	1.2	1.0	3.0	0.4	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	7.0	8.4	12.4
607	0.8	0.4	0.0	1.9	4.0	2.0	1.2	1.0	3.0	0.4	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	6.9	8.4	12.4
608	0.7	0.4	0.0	1.8	4.1	2.0	1.1	1.0	2.9	0.4	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	6.7	8.4	12.4
609	0.7	0.3	0.0	1.8	4.1	2.0	1.1	1.0	2.9	0.3	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	6.5	8.4	12.4
610	0.7	0.3	0.0	1.8	4.1	2.0	1.0	1.0	2.9	0.3	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	6.4	8.4	12.3
611	0.7	0.3	0.0	1.8	4.1	2.0	1.0	1.0	2.9	0.3	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	6.2	8.4	12.3
612	0.7	0.3	0.0	1.8	4.1	2.0	1.0	1.0	2.9	0.3	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	6.1	8.4	12.3
613	0.6	0.3	0.0	1.7	4.2	2.0	0.9	1.0	2.8	0.3	0.3	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	5.9	8.4	12.3
614	0.6	0.2	0.0	1.7	4.2	2.0	0.9	1.0	2.8	0.2	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	5.8	8.4	12.3
615	0.6	0.2	0.0	1.7	4.2	2.0	0.8	1.0	2.8	0.2	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	5.6	8.4	12.2
616	0.6	0.2	0.0	1.7	4.2	2.0	0.8	1.0	2.8	0.2	0.2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	5.5	8.4	12.2
617	0.6	0.2																			

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
776	0.0	0.4	1.3	0.6	3.0	0.0	2.6	1.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	7.6	10.0	18.3
777	0.0	0.4	1.3	0.6	3.0	0.0	2.5	1.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.1	1.9	7.6	10.1	18.2
778	0.1	0.4	1.3	0.6	2.9	0.1	2.5	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.1	1.9	7.6	10.2	18.2
779	0.1	0.4	1.3	0.6	2.9	0.1	2.5	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	1.8	7.6	10.3	18.1
780	0.1	0.4	1.3	0.6	2.9	0.1	2.4	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	1.8	7.5	10.4	18.0
781	0.1	0.5	1.3	0.6	2.9	0.1	2.4	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.2	1.8	7.5	10.5	18.0
782	0.1	0.5	1.3	0.6	2.9	0.1	2.3	1.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.3	1.7	7.5	10.6	17.9
783	0.2	0.5	1.3	0.6	2.8	0.2	2.3	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.3	1.7	7.5	10.7	17.9
784	0.2	0.5	1.3	0.6	2.8	0.2	2.3	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	1.6	7.5	10.8	17.8
785	0.2	0.5	1.3	0.6	2.8	0.2	2.2	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	1.6	7.5	10.9	17.7
786	0.2	0.5	1.3	0.6	2.8	0.2	2.2	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	1.6	7.4	11.0	17.7
787	0.2	0.6	1.3	0.6	2.8	0.2	2.1	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.5	1.5	7.4	11.1	17.6
788	0.3	0.6	1.3	0.6	2.7	0.3	2.1	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5	1.5	7.4	11.2	17.6
789	0.3	0.6	1.3	0.6	2.7	0.3	2.1	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.5	1.5	7.4	11.3	17.5
790	0.3	0.6	1.3	0.6	2.7	0.3	2.0	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	1.4	7.4	11.4	17.5
791	0.3	0.6	1.3	0.6	2.7	0.3	2.0	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.6	1.4	7.3	11.5	17.4
792	0.3	0.7	1.3	0.6	2.7	0.3	1.9	1.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.3	7.3	11.6	17.3
793	0.4	0.7	1.3	0.6	2.6	0.4	1.9	1.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.7	1.3	7.3	11.7	17.3
794	0.4	0.7	1.3	0.6	2.6	0.4	1.9	1.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.7	1.3	7.3	11.8	17.2
795	0.4	0.7	1.3	0.6	2.6	0.4	1.8	1.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.8	1.2	7.3	11.9	17.2
796	0.4	0.7	1.3	0.6	2.6	0.4	1.8	1.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.8	1.2	7.2	12.0	17.1
797	0.4	0.8	1.3	0.6	2.6	0.4	1.7	1.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.9	1.1	7.2	12.1	17.0
798	0.5	0.8	1.3	0.5	2.5	0.5	1.7	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.9	1.1	7.2	12.1	17.0
799	0.5	0.8	1.3	0.5	2.5	0.5	1.7	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.9	1.1	7.2	12.2	16.9
800	0.5	0.8	1.3	0.5	2.5	0.5	1.6	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	1.0	7.2	12.3	16.9
801	0.5	0.8	1.3	0.5	2.5	0.5	1.6	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.0	1.0	7.1	12.4	16.8
802	0.5	0.9	1.3	0.5	2.5	0.5	1.5	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1	0.9	7.1	12.5	16.7
803	0.5	0.9	1.3	0.5	2.5	0.5	1.5	1.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1	0.9	7.1	12.5	16.7
804	0.6	0.9	1.3	0.4	2.4	0.6	1.5	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.1	0.9	7.1	12.6	16.6
805	0.6	0.9	1.3	0.4	2.4	0.6	1.4	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	0.8	7.1	12.7	16.6
806	0.6	0.9	1.3	0.4	2.4	0.6	1.4	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.2	0.8	7.1	12.7	16.5
807	0.6	1.0	1.3	0.4	2.3	0.6	1.4	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.3	0.7	7.2	12.8	16.5
808	0.6	1.0	1.3	0.4	2.2	0.6	1.4	1.0	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	1.3	0.7	7.3	12.8	16.4
809	0.7	1.0	1.3	0.3	2.2	0.7	1.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.3	0.7	7.4	12.8	16.3
810	0.7	1.0	1.3	0.3	2.1	0.7	1.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.4	0.6	7.4	12.9	16.3
811	0.7	1.0	1.3	0.3	2.1	0.7	1.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.4	0.6	7.5	12.9	16.2
812	0.7	1.0	1.3	0.3	2.0	0.7	1.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.5	0.5	7.6	12.9	16.1
813	0.7	1.0	1.3	0.3	1.9	0.7	1.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	1.5	0.5	7.7	12.9	16.0
814	0.8	1.0	1.2	0.2	1.9	0.8	1.2	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.5	0.5	7.7	12.9	15.9
815	0.8	1.0	1.2	0.2	1.8	0.8	1.2	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.6	0.4	7.8	13.0	15.8
816	0.8	1.0	1.2	0.2	1.8	0.8	1.2	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.6	0.4	7.9	13.0	15.7
817	0.8	1.0	1.2	0.2	1.7	0.8	1.2	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.6	0.4	8.0	13.0	15.6
818	0.8	1.0	1.2	0.2	1.6	0.8	1.2	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.7	0.3	8.1	13.0	15.5
819	0.9	1.0	1.1	0.1	1.6	0.9	1.1	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.7	0.3	8.2	13.0	15.4
820	0.9	1.0	1.1	0.1	1.5	0.9	1.1	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.8	0.2	8.2	13.1	15.3
821	0.9	1.0	1.1	0.1	1.5	0.9	1.1	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.8	0.2	8.3	13.1	15.2
822	0.9	1.0	1.1	0.1	1.4	0.9	1.1	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.8	0.2	8.3	13.1	15.1
823	0.9	1.0	1.1	0.1	1.4	0.9	1.1	1.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.9	0.1	8.4	13.1	15.0
824	1.0	1.0	1.0	0.0	1.3	1.0	1.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.1	8.5	13.1	14.9
825	1.0	1.0	1.0	0.0	1.2	1.0	1.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.5	13.2	14.8
826	1.0	1.0	1.0	0.0	1.2	1.0	1.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.6	13.2	14.7
827	1.0	1.0	1.0	0.0	1.1	1.0	1.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.8	13.2	14.7
828	0.9	0.9	1.0	0.0	1.1	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.9	13.2	14.7
829	0.9	0.9	1.0	0.0	1.1	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.1	13.1	14.7
830	0.9	0.9	1.0	0.0	1.0	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.3	13.1	14.7
831	0.9	0.9	1.0	0.0	1.0	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.4	13.1	14.6
832	0.9	0.9	1.0	0.0	0.9	1.0	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.6	13.1	14.6
833	0.8	0.8	1.0	0.0	0.9	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.7	13.1	14.6
834	0.8	0.8	1.0	0.0	0.9	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	9.9	13.0	14.6
835	0.8	0.8	1.0	0.0	0.8	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.1	13.0	14.6
836	0.8	0.8	1.0	0.0	0.8	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.2	13.0	14.5
837	0.8	0.8	1.0	0.0	0.7	1.0	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.4	13.0	14.5
838	0.7	0.7	1.0	0.0	0.7	1.0	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.5	13.0	14.5
839	0.7	0.7	1.0	0.0	0.7	1.0	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.7	12.9	14.5
840	0.7	0.7	1.0	0.0	0.6	1.0	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	10.9	12.9	14.5
841	0.7	0.7	1.0	0.0	0.6	1.0	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0</								

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計			
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200
1001	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	2.0	0.0	0.5	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	2.3	8.0	7.0
1002	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	2.0	0.0	0.5	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	2.2	7.9	7.1
1003	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	2.0	0.0	0.5	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	2.1	7.9	7.1
1004	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.0	0.0	0.4	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.1	7.9	7.1
1005	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.0	0.0	0.4	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.0	7.8	7.2
1006	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.0	0.0	0.4	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	2.0	7.7	7.2
1007	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.0	0.0	0.4	0.4	0.0	1.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.9	7.6	7.3
1008	0.0	0.0	0.6	0.0	0.6	2.0	0.0	0.4	0.4	0.0	0.9	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.8	7.5	7.3
1009	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.9	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.8	7.4	7.3
1010	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.9	0.0	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.7	7.2	7.4
1011	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.9	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.7	7.1	7.4
1012	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.9	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.6	7.0	7.5
1013	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	2.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.8	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	1.5	6.9	7.5
1014	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.5	6.8	7.5
1015	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4	6.6	7.6
1016	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4	6.5	7.6
1017	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.4	6.4	7.6
1018	0.0	0.0	0.8	0.0	0.8	2.0	0.0	0.2	0.2	0.0	0.7	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.3	6.3	7.7
1019	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	2.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.3	6.2	7.7
1020	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	2.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.2	6.1	7.8
1021	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	2.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.2	5.9	7.8
1022	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	2.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.7	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.2	5.8	7.8
1023	0.0	0.0	0.9	0.0	0.9	2.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	1.1	5.7	7.9
1024	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.1	5.6	7.9
1025	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	5.5	8.0
1026	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.1	5.3	8.1
1027	0.0	0.0	1.1	0.1	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	2.7	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	1.1	5.2	8.1
1028	0.0	0.0	1.1	0.1	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.6	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	1.2	5.1	8.2
1029	0.0	0.0	1.1	0.2	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.5	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	1.2	5.0	8.2
1030	0.0	0.0	1.1	0.2	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.4	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	1.3	4.8	8.2
1031	0.0	0.0	1.1	0.2	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.4	0.1	0.0	0.0	0.0	1.0	1.4	4.7	8.3
1032	0.0	0.0	1.2	0.3	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.3	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.4	4.6	8.3
1033	0.0	0.0	1.2	0.3	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	2.2	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.5	4.5	8.4
1034	0.0	0.0	1.2	0.4	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	2.1	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.5	4.4	8.4
1035	0.0	0.0	1.2	0.4	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.6	4.3	8.4
1036	0.0	0.0	1.2	0.4	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.6	4.1	8.5
1037	0.0	0.0	1.3	0.5	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.9	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	1.7	4.0	8.5
1038	0.0	0.0	1.3	0.5	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	1.8	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	1.8	3.9	8.5
1039	0.0	0.0	1.3	0.5	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.7	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	1.8	3.8	8.6
1040	0.0	0.0	1.3	0.6	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.6	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	1.9	3.7	8.6
1041	0.0	0.0	1.3	0.6	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.6	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	1.9	3.5	8.7
1042	0.0	0.0	1.4	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.5	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0	3.4	8.7
1043	0.0	0.0	1.4	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	1.4	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	2.1	3.3	8.7
1044	0.0	0.0	1.4	0.7	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.3	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	2.1	3.2	8.8
1045	0.0	0.0	1.4	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.3	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	2.2	3.1	8.8
1046	0.0	0.0	1.4	0.8	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.2	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	2.3	3.0	8.9
1047	0.0	0.0	1.5	0.9	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.1	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.3	2.9	8.9
1048	0.0	0.0	1.5	1.0	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.4	2.8	9.0
1049	0.0	0.0	1.5	1.0	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.5	2.7	9.1
1050	0.0	0.0	1.5	1.1	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.6	2.6	9.1
1051	0.0	0.0	1.5	1.1	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.8	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.6	2.5	9.2
1052	0.0	0.0	1.5	1.2	1.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	2.7	2.4	9.2
1053	0.0	0.0	1.6	1.3	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	2.8	2.3	9.3
1054	0.0	0.0	1.6	1.3	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	2.9	2.2	9.4
1055	0.0	0.0	1.6	1.4	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	2.1	9.4
1056	0.0	0.0	1.6	1.4	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	2.0	9.5
1057	0.0	0.0	1.6	1.5	1.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	3.1	2.0	9.5
1058	0.0	0.0	1.7	1.5	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.2	2.0	9.6
1059	0.0	0.0	1.7	1.6	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.3	1.9	9.6
1060	0.0	0.0	1.7	1.7	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.4	1.9	9.7
1061	0.0	0.0	1.7	1.7	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.4	1.9	9.8
1062	0.0	0.0	1.7	1.8	1.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	0.0	0.0	1.0	3.5	1.9	9.8
1063	0.0	0.0	1.8	1.8	1.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.0	0.0	0.0	1.0	3.6	1.9	9.9
1064	0.0	0.0	1.8	1.9																		

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
1151	0.0	0.0	2.0	0.5	1.2	2.5	1.0	2.0	2.0	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.9	0.9	4.4	8.2	14.9
1152	0.0	0.0	2.0	0.5	1.2	2.5	1.0	2.0	2.0	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.9	0.9	4.3	8.3	14.9
1153	0.0	0.0	2.0	0.5	1.2	2.5	1.0	2.0	2.0	1.3	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.9	0.8	4.3	8.3	15.0
1154	0.0	0.0	2.0	0.4	1.2	2.6	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.8	4.3	8.4	15.0
1155	0.0	0.0	2.0	0.4	1.2	2.6	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.8	4.2	8.4	15.1
1156	0.0	0.0	2.0	0.4	1.2	2.7	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.8	4.2	8.5	15.3
1157	0.0	0.0	2.0	0.4	1.2	2.7	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	1.0	0.8	4.1	8.5	15.5
1158	0.0	0.0	2.0	0.4	1.3	2.8	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	1.0	0.7	4.1	8.6	15.6
1159	0.0	0.0	2.0	0.3	1.3	2.9	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	1.0	0.7	4.0	8.6	15.8
1160	0.0	0.0	2.0	0.3	1.3	2.9	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	1.0	0.7	3.9	8.7	15.9
1161	0.0	0.0	2.0	0.3	1.3	3.0	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	1.0	0.7	3.9	8.8	16.1
1162	0.0	0.0	2.0	0.3	1.3	3.0	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	1.0	0.7	3.8	8.8	16.2
1163	0.0	0.0	2.0	0.3	1.4	3.1	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	1.0	0.6	3.8	8.9	16.4
1164	0.0	0.0	2.0	0.2	1.4	3.2	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	1.0	0.6	3.7	8.9	16.5
1165	0.0	0.0	2.0	0.2	1.4	3.2	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	1.0	0.6	3.6	9.0	16.7
1166	0.0	0.0	2.0	0.2	1.4	3.3	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.2	0.0	0.2	1.0	0.0	1.0	0.6	3.6	9.1	16.9
1167	0.0	0.0	2.0	0.2	1.4	3.3	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.6	3.5	9.1	17.0
1168	0.0	0.0	2.0	0.2	1.5	3.4	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.5	3.5	9.2	17.2
1169	0.0	0.0	2.0	0.1	1.5	3.5	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.5	3.4	9.2	17.3
1170	0.0	0.0	2.0	0.1	1.5	3.5	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.5	3.4	9.3	17.5
1171	0.0	0.0	2.0	0.1	1.5	3.6	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.3	0.0	0.3	1.0	0.0	1.0	0.5	3.3	9.4	17.6
1172	0.0	0.0	2.0	0.1	1.5	3.6	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.4	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	0.5	3.2	9.4	17.8
1173	0.0	0.0	2.0	0.1	1.5	3.7	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.4	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	0.5	3.2	9.5	18.0
1174	0.0	0.0	2.0	0.0	1.6	3.7	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.4	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	0.4	3.1	9.5	18.1
1175	0.0	0.0	2.0	0.0	1.6	3.8	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.4	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	0.4	3.1	9.6	18.3
1176	0.0	0.0	2.0	0.0	1.6	3.8	1.0	2.0	2.0	1.4	1.0	0.4	0.0	0.4	1.0	0.0	1.0	0.4	3.1	9.6	18.3
1177	0.0	0.0	1.9	0.0	1.7	3.9	1.0	2.0	2.0	1.3	1.0	0.5	0.0	0.5	1.0	0.0	1.0	0.4	3.1	9.6	18.4
1178	0.1	0.0	1.9	0.1	1.7	3.9	1.0	1.9	2.0	1.3	1.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.1	0.9	0.4	3.2	9.6	18.4
1179	0.1	0.0	1.8	0.1	1.7	3.9	1.0	1.9	2.0	1.3	1.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.1	0.9	0.4	3.2	9.6	18.5
1180	0.1	0.0	1.8	0.1	1.8	3.9	1.0	1.9	2.0	1.2	1.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.1	0.9	0.4	3.3	9.6	18.5
1181	0.1	0.0	1.8	0.1	1.8	3.9	1.0	1.9	2.0	1.2	1.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.1	0.9	0.4	3.4	9.6	18.5
1182	0.1	0.0	1.7	0.1	1.9	4.0	1.0	1.9	2.0	1.1	1.0	0.5	0.0	0.5	0.9	0.1	0.9	0.4	3.4	9.6	18.6
1183	0.2	0.0	1.7	0.2	1.9	4.0	1.0	1.8	2.0	1.1	1.0	0.6	0.0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.4	3.5	9.6	18.6
1184	0.2	0.0	1.6	0.2	1.9	4.0	1.0	1.8	2.0	1.1	1.0	0.6	0.0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.4	3.5	9.6	18.6
1185	0.2	0.0	1.6	0.2	2.0	4.0	1.0	1.8	2.0	1.0	1.0	0.6	0.0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.4	3.6	9.6	18.7
1186	0.2	0.0	1.6	0.2	2.0	4.0	1.0	1.8	2.0	1.0	1.0	0.6	0.0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.4	3.6	9.6	18.7
1187	0.2	0.0	1.5	0.2	2.1	4.1	1.0	1.8	2.0	0.9	1.0	0.6	0.0	0.6	0.8	0.2	0.8	0.4	3.7	9.6	18.8
1188	0.3	0.0	1.5	0.3	2.1	4.1	1.0	1.7	2.0	0.9	1.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.3	0.7	0.4	3.8	9.6	18.8
1189	0.3	0.0	1.5	0.3	2.1	4.1	1.0	1.7	2.0	0.9	1.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.3	0.7	0.4	3.8	9.6	18.8
1190	0.3	0.0	1.4	0.3	2.2	4.1	1.0	1.7	2.0	0.8	1.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.3	0.7	0.4	3.9	9.6	18.9
1191	0.3	0.0	1.4	0.3	2.2	4.1	1.0	1.7	2.0	0.8	1.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.3	0.7	0.4	3.9	9.6	18.9
1192	0.3	0.0	1.3	0.3	2.3	4.2	1.0	1.7	2.0	0.7	1.0	0.7	0.0	0.7	0.7	0.3	0.7	0.4	4.0	9.6	19.0
1193	0.4	0.0	1.3	0.4	2.3	4.2	1.0	1.6	2.0	0.7	1.0	0.8	0.0	0.8	0.6	0.4	0.6	0.4	4.1	9.6	19.0
1194	0.4	0.0	1.3	0.4	2.3	4.2	1.0	1.6	2.0	0.7	1.0	0.8	0.0	0.8	0.6	0.4	0.6	0.4	4.1	9.6	19.0
1195	0.4	0.0	1.2	0.4	2.4	4.2	1.0	1.6	2.0	0.6	1.0	0.8	0.0	0.8	0.6	0.4	0.6	0.4	4.2	9.6	19.1
1196	0.4	0.0	1.2	0.4	2.4	4.2	1.0	1.6	2.0	0.6	1.0	0.8	0.0	0.8	0.6	0.4	0.6	0.4	4.2	9.6	19.1
1197	0.4	0.0	1.1	0.4	2.4	4.3	1.0	1.6	2.0	0.6	1.0	0.8	0.0	0.8	0.6	0.4	0.6	0.4	4.3	9.5	19.2
1198	0.5	0.0	1.1	0.5	2.5	4.3	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	0.9	0.0	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	4.4	9.5	19.2
1199	0.5	0.0	1.1	0.5	2.5	4.3	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	0.9	0.0	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	4.4	9.5	19.3
1200	0.5	0.0	1.0	0.5	2.5	4.3	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	0.9	0.0	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	4.5	9.4	19.4
1201	0.5	0.0	1.0	0.5	2.5	4.3	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	0.9	0.0	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	4.5	9.4	19.4
1202	0.5	0.0	0.9	0.5	2.5	4.4	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	0.9	0.0	0.9	0.5	0.5	0.5	0.5	4.6	9.4	19.5
1203	0.5	0.0	0.9	0.5	2.5	4.4	1.0	1.5	2.0	0.5	1.0	1.0	0.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	4.6	9.3	19.5
1204	0.6	0.0	0.9	0.6	2.6	4.4	1.0	1.4	2.0	0.4	1.0	1.0	0.0	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	4.7	9.3	19.6
1205	0.6	0.0	0.8	0.6	2.6	4.4	1.0	1.4	2.0	0.4	1.0	1.0	0.0	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	4.8	9.2	19.6
1206	0.6	0.0	0.8	0.6	2.6	4.4	1.0	1.4	2.0	0.4	1.0	1.0	0.0	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	4.9	9.2	19.6
1207	0.6	0.0	0.7	0.7	2.6	4.4	1.0	1.4	2.0	0.4	1.0	1.0	0.0	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	5.0	9.1	19.5
1208	0.6	0.0	0.7	0.7	2.6	4.4	1.0	1.4	2.0	0.4	1.0	1.0	0.1	1.0	0.4	0.6	0.4	0.6	5.1	9.1	19.5
1209	0.7	0.0	0.7	0.7	2.7	4.4	1.0	1.3	2.0	0.4	1.0	1.0	0.1	1.0	0.3	0.6	0.3	0.7	5.2	9.0	19.4
1210	0.7	0.0	0.6	0.8	2.7	4.4	1.0	1.3	2.0	0.4	1.0	1.0	0.1	1.0	0.3	0.6	0.3	0.7	5.4	8.9	19.4
1211	0.7	0.0	0.6	0.8	2.7	4.4	1.0	1.3	2.0	0.4	1.0	1.0	0.1	1.0	0.3	0.6	0.3	0.7	5.5	8.9	19.3
1212	0.7	0.0	0.5	0.9	2.7	4.4	1.0	1.3	2.0	0.4	1.0	1.0	0.1	1.0	0.3	0.6	0.3	0.7	5.6	8.8	19.2
1213	0.7	0.0	0.5	0.9	2.7	4.4	1.0	1.3	2.0	0.4	1.0	1.0	0.2	1.0	0.3	0.6	0.3	0.7	5.7	8.8	19.2
1214	0.8	0.0	0.5	0.9	2.8	4.4	1.0	1.2	2.0	0.4	1.0	1.0	0.2	1.0	0.2	0.6	0.2	0.8	5.8	8.7	19.1
1215	0.8	0.0	0.4	1.0	2.8	4.4	1.0	1.2	2.0	0.4	1.0	1.0	0.2	1.0	0.2	0.6	0.2	0.8	5.9	8.6	19.1
1216	0.8	0.0	0.4	1.0	2.8	4.4	1.0	1.2	2.0	0.4	1.0	1.0	0.2	1.							

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
1226	1.0	0.0	0.0	1.4	3.0	4.4	1.0	1.0	2.0	0.4	1.0	1.0	0.4	1.0	0.0	0.6	0.0	1.0	7.2	8.0	18.6
1227	1.0	0.0	0.0	1.4	3.1	4.4	1.0	1.0	2.0	0.4	1.0	1.0	0.4	1.0	0.0	0.6	0.0	1.0	7.2	8.1	18.6
1228	0.9	0.0	0.0	1.5	3.1	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.1	18.6
1229	0.9	0.0	0.0	1.5	3.2	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.2	18.6
1230	0.9	0.0	0.0	1.5	3.2	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.2	18.6
1231	0.9	0.0	0.0	1.5	3.2	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.2	18.6
1232	0.9	0.0	0.0	1.5	3.3	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.3	18.6
1233	0.8	0.0	0.0	1.5	3.3	4.5	1.0	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	1.0	0.0	0.5	0.0	1.0	7.2	8.3	18.6
1234	0.8	0.0	0.0	1.6	3.4	4.6	1.0	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	1.0	0.0	0.4	0.0	1.0	7.2	8.4	18.6
1235	0.8	0.0	0.0	1.6	3.4	4.6	1.0	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	1.0	0.0	0.4	0.0	1.0	7.2	8.4	18.6
1236	0.8	0.0	0.0	1.6	3.4	4.6	1.0	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	1.0	0.0	0.4	0.0	1.0	7.2	8.4	18.6
1237	0.8	0.0	0.0	1.6	3.5	4.6	1.0	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	1.0	0.0	0.4	0.0	1.0	7.2	8.4	18.6
1238	0.7	0.0	0.0	1.6	3.5	4.6	1.0	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.9	0.0	0.4	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1239	0.7	0.0	0.0	1.7	3.5	4.7	1.0	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1240	0.7	0.0	0.0	1.7	3.6	4.7	1.0	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1241	0.7	0.0	0.0	1.7	3.6	4.7	1.0	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1242	0.7	0.0	0.0	1.7	3.7	4.7	1.0	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1243	0.6	0.0	0.0	1.7	3.7	4.7	1.0	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.8	0.0	0.3	0.0	1.0	7.2	8.5	18.6
1244	0.6	0.0	0.0	1.8	3.7	4.8	1.0	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.0	0.2	0.0	1.0	7.2	8.6	18.6
1245	0.6	0.0	0.0	1.8	3.8	4.8	1.0	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.0	0.2	0.0	1.0	7.2	8.6	18.6
1246	0.6	0.0	0.0	1.8	3.8	4.8	1.0	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.0	0.2	0.0	1.0	7.1	8.7	18.6
1247	0.6	0.0	0.0	1.8	3.9	4.8	1.0	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.8	0.0	0.2	0.0	1.0	7.0	8.8	18.6
1248	0.5	0.0	0.0	1.8	4.0	4.8	0.9	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.0	0.2	0.0	1.0	6.9	8.8	18.6
1249	0.5	0.0	0.0	1.8	4.0	4.9	0.9	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.0	0.1	0.0	1.0	6.8	8.9	18.6
1250	0.5	0.0	0.0	1.8	4.1	4.9	0.9	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.0	0.1	0.0	1.0	6.7	9.0	18.6
1251	0.5	0.0	0.0	1.8	4.1	4.9	0.9	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.0	0.1	0.0	1.0	6.6	9.1	18.6
1252	0.5	0.0	0.0	1.8	4.2	4.9	0.9	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.7	0.0	0.1	0.0	1.0	6.5	9.2	18.6
1253	0.5	0.0	0.0	1.8	4.3	4.9	0.8	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.6	0.0	0.1	0.0	1.0	6.4	9.2	18.6
1254	0.4	0.0	0.0	1.8	4.3	5.0	0.8	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	6.3	9.3	18.6
1255	0.4	0.0	0.0	1.8	4.4	5.0	0.8	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	6.2	9.4	18.6
1256	0.4	0.0	0.0	1.8	4.4	5.0	0.8	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	6.1	9.5	18.6
1257	0.4	0.0	0.0	1.8	4.5	5.0	0.8	1.0	2.0	0.8	1.0	1.0	0.8	0.6	0.0	0.0	0.0	1.0	5.9	9.5	18.6
1258	0.4	0.0	0.0	1.7	4.5	5.0	0.7	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.8	9.6	18.6
1259	0.3	0.0	0.0	1.7	4.6	5.0	0.7	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.6	9.7	18.5
1260	0.3	0.0	0.0	1.7	4.7	5.0	0.7	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.5	9.8	18.5
1261	0.3	0.0	0.0	1.7	4.7	5.0	0.7	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.3	9.9	18.5
1262	0.3	0.0	0.0	1.7	4.8	5.0	0.7	1.0	2.0	0.7	1.0	1.0	0.7	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.2	9.9	18.5
1263	0.3	0.0	0.0	1.6	4.8	5.0	0.6	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	5.0	10.0	18.5
1264	0.2	0.0	0.0	1.6	4.9	5.0	0.6	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	4.8	10.1	18.5
1265	0.2	0.0	0.0	1.6	5.0	5.0	0.6	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	4.7	10.2	18.4
1266	0.2	0.0	0.0	1.6	5.0	5.0	0.6	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	4.5	10.3	18.4
1267	0.2	0.0	0.0	1.6	5.1	5.0	0.6	1.0	2.0	0.6	1.0	1.0	0.6	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	4.4	10.3	18.4
1268	0.2	0.0	0.0	1.5	5.1	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.4	0.0	0.0	0.0	1.0	4.2	10.4	18.3
1269	0.1	0.0	0.0	1.5	5.2	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	4.1	10.5	18.3
1270	0.1	0.0	0.0	1.5	5.3	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	3.9	10.6	18.2
1271	0.1	0.0	0.0	1.5	5.3	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	3.7	10.6	18.2
1272	0.1	0.0	0.0	1.5	5.4	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	3.6	10.7	18.2
1273	0.1	0.0	0.0	1.5	5.4	5.0	0.5	1.0	2.0	0.5	1.0	1.0	0.5	0.3	0.0	0.0	0.0	1.0	3.4	10.8	18.1
1274	0.0	0.0	0.0	1.4	5.5	5.0	0.4	1.0	2.0	0.4	1.0	1.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	3.3	10.9	18.1
1275	0.0	0.0	0.0	1.4	5.5	5.0	0.4	1.0	2.0	0.4	1.0	1.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	3.1	11.0	18.0
1276	0.0	0.0	0.0	1.4	5.6	5.0	0.4	1.0	2.0	0.4	1.0	1.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	11.0	17.9
1277	0.0	0.0	0.0	1.5	5.5	4.9	0.4	1.0	1.9	0.4	1.0	1.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	3.0	11.1	17.8
1278	0.1	0.0	0.0	1.5	5.5	4.9	0.4	0.9	1.9	0.4	0.9	1.0	0.4	0.2	0.0	0.1	0.1	1.0	3.0	11.1	17.7
1279	0.1	0.0	0.0	1.5	5.5	4.8	0.3	0.9	1.8	0.3	0.9	1.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	1.0	3.0	11.2	17.6
1280	0.1	0.0	0.0	1.5	5.5	4.8	0.3	0.9	1.8	0.3	0.9	1.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	1.0	3.0	11.2	17.5
1281	0.1	0.0	0.0	1.5	5.5	4.8	0.3	0.9	1.8	0.3	0.9	1.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	1.0	2.9	11.2	17.4
1282	0.1	0.0	0.0	1.5	5.5	4.7	0.3	0.9	1.7	0.3	0.9	1.0	0.3	0.1	0.0	0.1	0.1	1.0	2.9	11.3	17.3
1283	0.2	0.0	0.0	1.6	5.4	4.7	0.3	0.8	1.7	0.3	0.8	1.0	0.3	0.1	0.0	0.2	0.2	1.0	2.9	11.3	17.2
1284	0.2	0.0	0.0	1.6	5.4	4.6	0.2	0.8	1.6	0.2	0.8	1.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	1.0	2.9	11.4	17.1
1285	0.2	0.0	0.0	1.6	5.4	4.6	0.2	0.8	1.6	0.2	0.8	1.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	1.0	2.9	11.4	17.0
1286	0.2	0.0	0.0	1.6	5.4	4.6	0.2	0.8	1.6	0.2	0.8	1.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	1.0	2.8	11.4	16.9
1287	0.2	0.0	0.0	1.6	5.4	4.5	0.2	0.8	1.5	0.2	0.8	1.0	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2	1.0	2.8	11.5	16.8
1288	0.3	0.0	0.0	1.7	5.3	4.5	0.2	0.7	1.5	0.2	0.7	1.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	2.8	11.5	16.7
1289	0.3	0.0	0.0	1.7	5.3	4.5	0.1	0.7	1.5	0.1	0.7	1.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	2.8	11.6	16.6
1290	0.3	0.0	0.0	1.7	5.3	4.4	0.1	0.7	1.4	0.1	0.7	1.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.3	1.0	2.8	11.7	16.5
1291	0.3	0.0	0.0	1.7	5.3	4.4	0.1	0.7	1.4	0.1											

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
1301	0.5	0.0	0.0	2.0	5.0	4.0	0.0	0.5	1.0	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	3.0	12.0	15.5
1302	0.5	0.0	0.0	2.1	4.9	3.9	0.0	0.5	0.9	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	3.1	12.0	15.4
1303	0.5	0.0	0.0	2.1	4.9	3.9	0.0	0.5	0.9	0.0	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	3.2	12.0	15.3
1304	0.6	0.0	0.0	2.1	4.9	3.9	0.0	0.4	0.9	0.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	3.3	12.0	15.2
1305	0.6	0.0	0.0	2.2	4.8	3.8	0.0	0.4	0.8	0.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	3.4	12.0	15.1
1306	0.6	0.0	0.0	2.2	4.8	3.8	0.0	0.4	0.8	0.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	3.4	12.0	15.0
1307	0.6	0.0	0.0	2.2	4.8	3.7	0.0	0.4	0.7	0.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.0	3.5	12.0	14.9
1308	0.6	0.0	0.0	2.2	4.8	3.7	0.0	0.4	0.7	0.0	0.4	1.0	0.0	0.0	0.1	0.6	0.6	1.0	3.5	12.0	14.8
1309	0.7	0.0	0.0	2.2	4.7	3.7	0.0	0.3	0.7	0.0	0.3	1.0	0.0	0.0	0.1	0.7	0.7	1.0	3.6	12.0	14.7
1310	0.7	0.0	0.0	2.2	4.7	3.6	0.0	0.3	0.6	0.0	0.3	1.0	0.0	0.0	0.1	0.7	0.7	1.0	3.6	12.0	14.7
1311	0.7	0.0	0.0	2.2	4.7	3.6	0.0	0.3	0.6	0.0	0.3	1.0	0.0	0.0	0.1	0.7	0.7	1.0	3.7	12.0	14.6
1312	0.7	0.0	0.0	2.2	4.7	3.5	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3	1.0	0.0	0.0	0.1	0.7	0.7	1.0	3.8	12.0	14.5
1313	0.7	0.0	0.0	2.2	4.7	3.5	0.0	0.3	0.5	0.0	0.3	1.0	0.0	0.0	0.2	0.7	0.7	1.0	3.8	12.0	14.4
1314	0.8	0.0	0.0	2.2	4.6	3.5	0.0	0.2	0.5	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.2	0.8	0.8	1.0	3.9	12.0	14.4
1315	0.8	0.0	0.0	2.2	4.6	3.4	0.0	0.2	0.4	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.2	0.8	0.8	1.0	3.9	12.0	14.3
1316	0.8	0.0	0.0	2.2	4.6	3.4	0.0	0.2	0.4	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.2	0.8	0.8	1.0	4.0	12.0	14.2
1317	0.8	0.0	0.0	2.2	4.6	3.4	0.0	0.2	0.4	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.2	0.8	0.8	1.0	4.1	12.0	14.1
1318	0.8	0.0	0.0	2.2	4.6	3.3	0.0	0.2	0.3	0.0	0.2	1.0	0.0	0.0	0.3	0.8	0.8	1.0	4.1	12.0	14.0
1319	0.9	0.0	0.0	2.2	4.5	3.3	0.0	0.1	0.3	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3	0.9	0.9	1.0	4.2	12.0	14.0
1320	0.9	0.0	0.0	2.2	4.5	3.2	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3	0.9	0.9	1.0	4.2	12.0	13.9
1321	0.9	0.0	0.0	2.2	4.5	3.2	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3	0.9	0.9	1.0	4.3	12.0	13.8
1322	0.9	0.0	0.0	2.2	4.5	3.2	0.0	0.1	0.2	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.3	0.9	0.9	1.0	4.4	12.0	13.7
1323	0.9	0.0	0.0	2.2	4.5	3.1	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.4	0.9	0.9	1.0	4.4	12.0	13.6
1324	1.0	0.0	0.0	2.2	4.5	3.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4	1.0	1.0	1.0	4.5	12.0	13.6
1325	1.0	0.0	0.0	2.2	4.4	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4	1.0	1.0	1.0	4.5	12.0	13.5
1326	1.0	0.0	0.0	2.2	4.4	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4	1.0	1.0	1.0	4.5	11.9	13.3
1327	1.0	0.0	0.0	2.1	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.4	1.0	1.0	1.0	4.5	11.8	13.1
1328	0.9	0.0	0.0	2.0	4.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	1.0	4.4	11.7	13.0
1329	0.9	0.0	0.0	2.0	4.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	1.0	4.4	11.6	12.8
1330	0.9	0.0	0.0	1.9	4.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	1.0	4.3	11.5	12.7
1331	0.9	0.0	0.0	1.9	4.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	1.0	4.3	11.4	12.6
1332	0.9	0.0	0.0	1.8	4.1	2.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.9	0.0	0.0	0.5	0.9	1.0	1.0	4.2	11.3	12.4
1333	0.8	0.0	0.0	1.7	4.1	2.7	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.5	0.8	1.0	1.0	4.1	11.2	12.3
1334	0.8	0.0	0.0	1.7	4.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.8	1.0	1.0	4.1	11.1	12.2
1335	0.8	0.0	0.0	1.6	4.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.8	1.0	1.0	4.0	11.0	12.0
1336	0.8	0.0	0.0	1.6	4.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.8	1.0	1.0	4.0	10.9	11.9
1337	0.8	0.0	0.0	1.5	3.9	2.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.8	0.0	0.0	0.6	0.8	1.0	1.0	3.9	10.8	11.7
1338	0.7	0.0	0.0	1.5	3.9	2.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.6	0.7	1.0	1.0	3.8	10.7	11.6
1339	0.7	0.0	0.0	1.4	3.8	2.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	1.0	1.0	3.8	10.6	11.5
1340	0.7	0.0	0.0	1.3	3.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	1.0	1.0	3.7	10.5	11.3
1341	0.7	0.0	0.0	1.3	3.8	2.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	1.0	1.0	3.7	10.4	11.2
1342	0.7	0.0	0.0	1.2	3.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	1.0	1.0	3.6	10.3	11.1
1343	0.6	0.0	0.0	1.2	3.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.7	0.6	1.0	1.0	3.5	10.2	10.9
1344	0.6	0.0	0.0	1.1	3.6	2.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.8	0.6	1.0	1.0	3.5	10.1	10.8
1345	0.6	0.0	0.0	1.0	3.6	2.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.8	0.6	1.0	1.0	3.4	10.0	10.6
1346	0.6	0.0	0.0	1.0	3.6	2.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.8	0.6	1.0	1.0	3.4	9.9	10.5
1347	0.6	0.0	0.0	0.9	3.5	2.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.6	0.0	0.0	0.8	0.6	1.0	1.0	3.3	9.8	10.4
1348	0.5	0.0	0.0	0.9	3.5	2.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.8	0.5	1.0	1.0	3.3	9.7	10.3
1349	0.5	0.0	0.0	0.8	3.5	2.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.5	1.0	1.0	3.2	9.6	10.2
1350	0.5	0.0	0.0	0.7	3.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.5	1.0	1.0	3.1	9.5	10.1
1351	0.5	0.0	0.0	0.7	3.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.5	1.0	1.0	3.1	9.5	9.9
1352	0.5	0.0	0.0	0.6	3.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.5	1.0	1.0	3.0	9.4	9.8
1353	0.5	0.0	0.0	0.6	3.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	0.5	1.0	1.0	3.0	9.3	9.7
1354	0.4	0.0	0.0	0.5	3.3	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.4	1.0	1.0	2.9	9.2	9.6
1355	0.4	0.0	0.0	0.5	3.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.4	1.0	1.0	2.8	9.1	9.5
1356	0.4	0.0	0.0	0.4	3.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.4	1.0	1.0	2.8	9.0	9.4
1357	0.4	0.0	0.0	0.4	3.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.4	1.0	1.0	2.7	8.9	9.2
1358	0.4	0.0	0.0	0.4	3.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.4	0.0	0.0	1.0	0.4	1.0	1.0	2.7	8.8	9.1
1359	0.3	0.0	0.0	0.3	3.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0	1.0	2.7	8.7	8.9
1360	0.3	0.0	0.0	0.3	2.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0	1.0	2.6	8.6	8.8
1361	0.3	0.0	0.0	0.3	2.9	1.6	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0	1.0	2.6	8.5	8.7
1362	0.3	0.0	0.0	0.3	2.8	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0	1.0	2.5	8.4	8.5
1363	0.3	0.0	0.0	0.3	2.8	1.5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	1.0	0.3	1.0	1.0	2.5	8.3	8.4
1364	0.2	0.0	0.0	0.2	2.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	1.0	0.2	1.0	1.0	2.5	8.2	8.3
1365	0.2	0.0	0.0	0.2	2.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	1.0	0.2	1.0	1.0	2.4	8.1	8.1
1366	0.2	0.0	0.0	0.2	2.6	1.4	0.0	0.0	0.0	0.8											

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
1676	0.4	2.0	1.0	0.0	1.0	3.4	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	2.0	1.0	0.0	1.0	0.0	1.4	7.4	22.3
1677	0.4	2.0	1.0	0.0	1.0	3.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.9	1.0	0.0	1.0	0.0	1.4	7.3	22.2
1678	0.4	1.9	0.9	0.0	1.0	3.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.9	1.0	1.9	1.0	0.0	0.9	0.0	1.4	7.2	22.0
1679	0.3	1.9	0.9	0.0	1.0	3.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.9	1.0	1.8	1.0	0.0	0.9	0.0	1.3	7.2	21.9
1680	0.3	1.9	0.9	0.0	1.0	3.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.9	0.9	1.8	1.0	0.0	0.9	0.0	1.2	7.1	21.8
1681	0.3	1.9	0.9	0.0	1.0	3.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.9	0.9	1.8	1.0	0.0	0.9	0.0	1.2	7.1	21.6
1682	0.3	1.9	0.9	0.0	1.0	3.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.9	0.9	1.7	1.0	0.0	0.9	0.0	1.2	7.0	21.5
1683	0.3	1.8	0.8	0.0	1.0	3.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.7	1.0	0.0	0.8	0.0	1.1	6.9	21.3
1684	0.2	1.8	0.8	0.0	1.0	3.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	1.0	0.0	0.8	0.0	1.1	6.9	21.2
1685	0.2	1.8	0.8	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	1.0	0.0	0.8	0.0	1.0	6.8	21.0
1686	0.2	1.8	0.8	0.0	1.0	3.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.6	1.0	0.0	0.8	0.0	1.0	6.8	20.9
1687	0.2	1.8	0.8	0.0	1.0	2.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.8	0.8	1.5	1.0	0.0	0.8	0.0	1.0	6.7	20.7
1688	0.2	1.7	0.7	0.0	1.0	2.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.5	1.0	0.0	0.7	0.0	1.0	6.6	20.5
1689	0.1	1.7	0.7	0.0	1.0	2.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.5	1.0	0.0	0.7	0.0	0.9	6.6	20.4
1690	0.1	1.7	0.7	0.0	1.0	2.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.4	1.0	0.0	0.7	0.0	0.9	6.5	20.2
1691	0.1	1.7	0.7	0.0	1.0	2.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.4	1.0	0.0	0.7	0.0	0.8	6.5	20.1
1692	0.1	1.7	0.7	0.0	1.0	2.7	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.7	0.7	1.3	1.0	0.0	0.7	0.0	0.8	6.5	19.9
1693	0.1	1.7	0.6	0.0	1.0	2.7	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.3	1.0	0.0	0.6	0.0	0.8	6.4	19.8
1694	0.0	1.7	0.6	0.0	1.0	2.7	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.3	1.0	0.0	0.6	0.0	0.7	6.4	19.6
1695	0.0	1.7	0.6	0.0	1.0	2.6	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.6	0.6	1.2	1.0	0.0	0.6	0.0	0.7	6.3	19.5
1696	0.0	1.7	0.6	0.0	1.0	2.6	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	0.6	1.2	1.0	0.0	0.6	0.0	0.7	6.3	19.4
1697	0.0	1.7	0.6	0.0	1.0	2.6	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	0.6	1.1	1.1	0.0	0.6	0.1	0.6	6.3	19.3
1698	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.5	0.5	1.1	1.1	0.0	0.5	0.1	0.6	6.3	19.3
1699	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.5	0.5	1.1	1.1	0.0	0.5	0.1	0.6	6.2	19.2
1700	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.1	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	1.1	0.0	0.5	0.1	0.6	6.2	19.1
1701	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	0.5	1.0	1.1	0.0	0.5	0.1	0.6	6.2	19.0
1702	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	0.5	0.9	1.2	0.0	0.5	0.2	0.5	6.2	18.9
1703	0.0	1.7	0.5	0.0	1.0	2.5	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	0.5	0.9	1.2	0.0	0.5	0.2	0.5	6.2	18.9
1704	0.0	1.7	0.4	0.0	1.0	2.4	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.4	0.4	0.9	1.2	0.0	0.4	0.2	0.5	6.1	18.8
1705	0.0	1.7	0.4	0.0	1.0	2.4	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.4	0.4	0.8	1.2	0.0	0.4	0.2	0.5	6.1	18.7
1706	0.0	1.7	0.4	0.0	1.0	2.4	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	0.4	0.8	1.2	0.0	0.4	0.2	0.5	6.1	18.6
1707	0.0	1.7	0.4	0.0	1.0	2.4	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	0.4	0.7	1.3	0.0	0.4	0.3	0.5	6.1	18.5
1708	0.0	1.8	0.4	0.0	0.9	2.4	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	0.4	0.7	1.3	0.0	0.4	0.3	0.5	6.1	18.5
1709	0.0	1.8	0.3	0.0	0.9	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.3	0.3	0.7	1.3	0.0	0.3	0.3	0.5	6.0	18.4
1710	0.0	1.8	0.3	0.0	0.9	2.3	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.3	0.3	0.6	1.3	0.0	0.3	0.3	0.5	6.0	18.3
1711	0.0	1.8	0.3	0.0	0.9	2.3	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	0.3	0.6	1.3	0.0	0.3	0.3	0.5	6.0	18.2
1712	0.0	1.8	0.3	0.0	0.9	2.3	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	1.4	0.0	0.3	0.4	0.5	6.0	18.2
1713	0.0	1.9	0.3	0.0	0.8	2.3	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	0.3	0.5	1.4	0.0	0.3	0.4	0.5	6.0	18.1
1714	0.0	1.9	0.2	0.0	0.8	2.2	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.5	1.4	0.0	0.2	0.4	0.5	5.9	18.0
1715	0.0	1.9	0.2	0.0	0.8	2.2	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	0.2	0.2	0.4	1.4	0.0	0.2	0.4	0.5	5.9	17.9
1716	0.0	1.9	0.2	0.0	0.8	2.2	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.2	0.2	0.4	1.4	0.0	0.2	0.4	0.5	5.9	17.8
1717	0.0	1.9	0.2	0.0	0.8	2.2	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.2	0.2	0.4	1.5	0.0	0.2	0.5	0.6	5.9	17.6
1718	0.0	2.0	0.2	0.0	0.7	2.2	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.2	0.2	0.3	1.5	0.0	0.2	0.5	0.6	5.9	17.5
1719	0.0	2.0	0.1	0.0	0.7	2.1	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	1.5	0.0	0.1	0.5	0.6	5.8	17.4
1720	0.0	2.0	0.1	0.0	0.7	2.1	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	1.5	0.0	0.1	0.5	0.6	5.8	17.3
1721	0.0	2.0	0.1	0.0	0.7	2.1	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	1.5	0.0	0.1	0.5	0.6	5.8	17.2
1722	0.0	2.0	0.1	0.0	0.7	2.1	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	1.5	0.0	0.1	0.5	0.6	5.8	17.1
1723	0.0	2.1	0.1	0.0	0.6	2.1	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1	1.6	0.0	0.1	0.6	0.6	5.8	16.9
1724	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	2.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	1.6	0.0	0.0	0.6	0.6	5.7	16.8
1725	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	2.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.6	0.6	5.7	16.7
1726	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	2.0	0.1	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.6	0.7	5.7	16.5
1727	0.0	2.1	0.0	0.0	0.6	1.9	0.1	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.6	0.8	5.7	16.4
1728	0.0	2.1	0.0	0.0	0.5	1.9	0.1	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.7	0.8	5.7	16.3
1729	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.8	0.1	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.7	0.9	5.8	16.2
1730	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.8	0.1	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.7	1.0	5.8	16.2
1731	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.8	0.2	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.7	1.1	5.8	16.1
1732	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.7	0.2	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.7	1.1	5.8	16.0
1733	0.0	2.2	0.0	0.0	0.5	1.7	0.2	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	1.2	5.8	15.9
1734	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	1.6	0.2	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	1.3	5.9	15.9
1735	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	1.6	0.2	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	1.4	5.9	15.8
1736	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	1.6	0.3	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	1.5	5.9	15.7
1737	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	1.5	0.3	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.8	1.5	5.9	15.7
1738	0.0	2.3	0.0	0.0	0.4	1.5	0.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.9	1.6	5.9	15.6
1739	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	1.5	0.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.9	1.6	6.0	15.6
1740	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	1.4	0.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.9	1.7	6.0	15.5
1741	0.0	2.4	0.0	0.0	0.3	1.4	0.3	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0							

遺跡集計表 その2

府県	京都府			大阪府			兵庫県			奈良県			岡山県			福岡県			全国合計		
	AD	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100	200	50	100
1826	0.0	2.1	1.0	0.1	1.0	3.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.0	9.7	13.1
1827	0.0	2.1	1.0	0.1	1.0	3.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.1	9.6	13.2
1828	0.0	2.0	1.0	0.1	1.0	3.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.1	9.6	13.2
1829	0.0	2.0	1.0	0.1	1.0	3.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.1	9.6	13.2
1830	0.0	2.0	1.0	0.1	1.0	3.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.2	9.6	13.3
1831	0.0	2.0	1.0	0.1	1.0	3.0	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.3	9.6	13.3
1832	0.0	2.0	1.0	0.1	1.0	3.0	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.4	9.6	13.4
1833	0.0	2.0	1.0	0.2	1.0	3.0	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.5	9.6	13.4
1834	0.0	2.0	1.0	0.2	1.0	3.0	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.5	9.6	13.4
1835	0.0	2.0	1.0	0.2	1.0	3.0	0.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.6	9.7	13.7
1836	0.0	2.0	1.0	0.2	1.0	3.1	0.1	2.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	2.6	9.9	13.9
1837	0.0	2.0	1.0	0.2	1.1	3.1	0.1	2.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.1	1.0	0.0	0.0	1.1	2.7	10.1	14.1
1838	0.0	2.0	1.0	0.3	1.1	3.2	0.1	2.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.1	1.0	0.0	0.0	1.1	2.8	10.2	14.4
1839	0.0	2.0	1.0	0.3	1.1	3.2	0.1	2.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.1	1.0	0.0	0.0	1.1	2.8	10.4	14.6
1840	0.0	2.0	1.0	0.3	1.1	3.2	0.1	2.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.1	1.0	0.0	0.0	1.1	2.9	10.5	14.8
1841	0.0	2.0	1.0	0.3	1.1	3.3	0.1	2.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.1	1.0	0.0	0.0	1.1	3.0	10.7	15.1
1842	0.0	2.0	1.0	0.4	1.2	3.3	0.1	2.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.2	1.0	0.0	0.0	1.2	3.1	10.8	15.3
1843	0.0	2.0	1.0	0.4	1.2	3.4	0.1	2.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	1.0	0.0	0.0	1.2	3.2	11.0	15.6
1844	0.0	2.0	1.0	0.4	1.2	3.4	0.1	2.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	1.0	0.0	0.0	1.2	3.3	11.2	15.8
1845	0.0	2.0	1.0	0.5	1.2	3.4	0.1	2.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	1.1	0.0	0.0	1.2	3.4	11.3	16.1
1846	0.0	2.0	1.0	0.5	1.2	3.5	0.1	2.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.2	1.1	0.0	0.0	1.2	3.5	11.4	16.3
1847	0.0	1.9	1.0	0.5	1.2	3.5	0.1	2.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6	0.3	1.1	0.0	0.0	1.2	3.6	11.4	16.4
1848	0.0	1.9	1.0	0.6	1.2	3.5	0.1	2.5	1.9	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	1.1	0.0	0.0	1.2	3.7	11.5	16.6
1849	0.0	1.8	1.0	0.6	1.2	3.6	0.1	2.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	1.1	0.0	0.0	1.2	3.8	11.5	16.8
1850	0.0	1.8	1.0	0.7	1.2	3.6	0.1	2.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	1.2	0.0	0.0	1.2	3.9	11.5	17.0
1851	0.0	1.8	1.0	0.7	1.2	3.7	0.1	2.5	1.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.3	1.2	0.0	0.0	1.2	4.0	11.6	17.1
1852	0.0	1.7	1.0	0.7	1.2	3.7	0.1	2.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	1.2	0.0	0.0	1.2	4.0	11.6	17.3
1853	0.0	1.7	1.0	0.8	1.2	3.7	0.1	2.6	1.7	0.0	0.0	0.0	0.5	0.4	1.2	0.0	0.0	1.2	4.1	11.6	17.5
1854	0.0	1.6	1.0	0.8	1.2	3.8	0.1	2.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	1.2	0.0	0.0	1.2	4.2	11.7	17.7
1855	0.0	1.6	1.0	0.9	1.2	3.8	0.1	2.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	1.2	4.2	11.7	17.8
1856	0.0	1.6	1.0	0.9	1.2	3.9	0.1	2.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	1.2	4.3	11.8	18.0
1857	0.0	1.5	1.0	0.9	1.2	3.9	0.1	2.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.5	1.3	0.0	0.0	1.2	4.4	11.8	18.2
1858	0.0	1.5	1.0	1.0	1.2	3.9	0.1	2.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.5	1.3	0.0	0.0	1.2	4.5	11.8	18.4
1859	0.0	1.5	1.0	1.0	1.2	4.0	0.1	2.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.3	0.0	0.0	1.2	4.5	11.9	18.5
1860	0.0	1.4	1.0	1.1	1.2	4.0	0.1	2.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.4	0.0	0.0	1.2	4.6	11.9	18.7
1861	0.0	1.4	1.0	1.1	1.2	4.1	0.1	2.7	1.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.4	0.0	0.0	1.2	4.6	12.0	18.9
1862	0.0	1.3	1.0	1.1	1.2	4.1	0.1	2.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.5	1.4	0.0	0.0	1.2	4.7	12.0	19.1
1863	0.0	1.3	1.0	1.2	1.2	4.1	0.1	2.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.3	0.6	1.4	0.0	0.0	1.2	4.7	12.0	19.3
1864	0.0	1.3	1.0	1.2	1.2	4.2	0.1	2.8	1.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.4	0.0	0.0	1.2	4.8	12.1	19.4
1865	0.0	1.2	1.0	1.3	1.2	4.2	0.1	2.8	1.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.5	0.0	0.0	1.2	4.9	12.1	19.6
1866	0.0	1.2	1.0	1.3	1.2	4.3	0.1	2.8	1.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.5	0.0	0.0	1.2	4.9	12.2	19.8
1867	0.0	1.1	1.0	1.3	1.2	4.3	0.1	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.6	1.5	0.0	0.0	1.2	5.1	12.2	20.0
1868	0.0	1.1	1.0	1.3	1.2	4.3	0.1	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	1.5	0.0	0.0	1.2	5.2	12.2	20.1
1869	0.0	1.1	1.0	1.3	1.2	4.4	0.1	2.9	1.1	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	1.5	0.0	0.0	1.2	5.3	12.3	20.3
1870	0.0	1.0	1.0	1.4	1.2	4.4	0.1	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	1.5	0.0	0.0	1.2	5.4	12.3	20.5
1871	0.0	1.0	1.0	1.4	1.2	4.5	0.1	2.9	1.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	1.6	0.0	0.0	1.2	5.5	12.4	20.7
1872	0.0	0.9	1.0	1.4	1.2	4.5	0.1	3.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.7	1.6	0.0	0.0	1.2	5.5	12.4	20.8
1873	0.0	0.9	1.0	1.4	1.2	4.5	0.1	3.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.8	1.6	0.0	0.0	1.2	5.6	12.4	21.0
1874	0.0	0.9	1.0	1.4	1.2	4.6	0.1	3.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.8	1.6	0.0	0.0	1.2	5.7	12.5	21.2
1875	0.0	0.8	1.0	1.5	1.2	4.6	0.1	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.8	1.6	0.0	0.0	1.2	5.8	12.5	21.3
1876	0.0	0.8	1.0	1.5	1.2	4.6	0.1	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.8	1.7	0.0	0.0	1.2	5.9	12.5	21.5
1877	0.0	0.7	1.0	1.5	1.2	4.7	0.1	3.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.8	1.7	0.0	0.0	1.2	5.9	12.5	21.6
1878	0.0	0.7	1.0	1.4	1.2	4.7	0.1	3.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	1.7	0.0	0.0	1.2	5.9	12.5	21.7
1879	0.0	0.7	1.0	1.4	1.2	4.8	0.1	3.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	1.7	0.0	0.0	1.2	5.8	12.5	21.8
1880	0.0	0.6	1.0	1.4	1.2	4.8	0.1	3.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	1.7	0.0	0.0	1.2	5.8	12.5	21.9
1881	0.0	0.6	1.0	1.4	1.2	4.8	0.1	3.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	1.8	0.0	0.0	1.2	5.8	12.5	22.0
1882	0.0	0.5	1.0	1.4	1.2	4.9	0.1	3.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.9	1.8	0.0	0.0	1.2	5.8	12.5	22.2
1883	0.0	0.5	1.0	1.3	1.2	4.9	0.0	3.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.8	0.0	0.0	1.2	5.7	12.5	22.3
1884	0.0	0.5	1.0	1.3	1.2	5.0	0.0	3.2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.8	0.0	0.0	1.2	5.7	12.5	22.4
1885	0.0	0.4	1.0	1.3	1.2	5.0	0.0	3.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.8	0.0	0.0	1.2	5.7	12.6	22.5
1886	0.0	0.4	1.0	1.3	1.2	5.0	0.0	3.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.9	0.0	0.0	1.2	5.6	12.4	22.4
1887	0.0	0.4	1.0	1.3	1.2	5.0	0.0	3.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.9	0.0	0.0	1.2	5.6	12.3	22.4
1888	0.0	0.3	1.0	1.2	1.2	5.0	0.0	3.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.9	0.0	0.0	1.2	5.5	12.2	22.3
1889	0.0	0.3	1.0	1.2	1.1	5.0	0.0	3.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.9	0.0	0.0	1.1	5.5	12.0	22.2
1890	0.0	0.2	1.0	1.2	1.1	5.0	0.0	3.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	1.9	0.0	0.0	1.1	5.4	11.9	22.1
1891	0.0	0.2	1.0	1.2	1.1	5.0	0.0														

